

新潟医療福祉大学

年 報

2024（令和6）年度

Annual Report 2024

Niigata University of Health and Welfare

はじめに

学長 西澤 正豊

2024年度の年報が完成しました。作成にご尽力をいただきました関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

年報は、新潟医療福祉大学がこの1年間の活動を振り返り、さまざまな課題を整理し、大学の取組みに対して客観的な評価を加え、対応策を立案・実行して、諸課題の解決を目指すというサイクルを回す上で、極めて重要な基礎資料となります。学内の皆様は、本年報を大学ホームページからダウンロードし、ぜひ有効に活用してください。

新潟医療福祉大学は、2030年に向けて持続可能な発展を遂げるために、2021年度から新たな10年間の長期目標・計画、その前半5年間の中期目標・計画、さらにその前半3年間と後半2年間のアクションプランを策定し、実行してきました。2025年度末をもって前半の中期計画が終了しますので、前半の中期計画とアクションプランの評価を行います。その上で、2026年度から始まる将来計画の後半5年間の中期目標・計画を改めて立案し、その前半3年間のアクションプランを策定して、実行しなければなりません。

わが国の少子化はさらに進行し、2024年の出生数は70万人を下回りました。18年後に大学に進学する世代は、大学進学率が増加するとしても、現在の大学の総収容定員数を大幅に下回ることになります。本学の卒業生の多くがQOLサポーターとして従事することになる医療・福祉・スポーツの分野の将来展望も、顕著な人口減少を反映して、明るいものとはなりません。

こうした厳しい将来見通しの下で、大学の本来の設置目的である「教育研究の成果を社会に広く提供することにより、社会の発展に寄与する」を維持しつつ、保健・医療・福祉・スポーツに特化した総合大学として、新潟医療福祉大学は2040年にも生き残らねばなりません。したがって、2025年度中に策定する将来目標・計画は極めて重要な意味を持つことになります。2025年度を本学の「将来ビジョンを考える年」として、全教職員・学生・院生・卒業生が一体となって本学の将来像を考え、将来目標・計画を策定しましょう。

目 次

はじめに

1. 大学の基本理念	
1) 基本理念	1
2) 教育内容の特色等	2
3) 「優れたQOLサポーターの育成」を達成するための「5つの要件」	2
2. 沿革	3
3. 組織	
1) 組織図	10
2) 役職者	11
3) 教員数	13
4. 学年暦	14
5. 管理運営	
1) 総務会	38
2) 大学院委員会	43
3) 合同教授会	45
4) 研究科委員会	47
5) 各種委員会	48
(1) 学長直轄委員会	48
ア 内部質保証推進委員会	48
イ 将来計画機構	49
ウ 危機管理委員会	50
エ 教員選考委員会	50
オ 人権委員会	50
カ 個人情報保護委員会	51
キ 安全衛生委員会	52
ク 自己点検・評価委員会	53
ケ 外部評価準備委員会	53
コ PCR検査センター運営委員会	53
サ 研究施設企画委員会	53
① 事業戦略推進部	54
ア 入試委員会	54
イ 広報委員会	55
ウ 大学院入試広報委員会	55
エ IR戦略委員会	55
② 国際交流推進部	56

オ 国際交流センター運営委員会	56
(2) 教育・学生支援機構運営委員会	59
① 学生支援推進部	60
ア 健康管理センター運営委員会	60
イ 図書館・学修支援委員会	61
ウ 就職センター運営委員会	62
エ 学生委員会	63
オ 交通安全委員会	64
カ 国家試験・資格試験対策委員会	64
② 教育開発推進部	65
ア 教務委員会	65
イ FD・SD推進委員会	67
ウ 新潟連携教育研究センター運営委員会	68
エ 教職支援センター運営委員会	69
オ 高等教育推進センター運営委員会	70
カ 中央教育センター運営委員会	72
(3) 研究・産官学連携推進機構運営委員会	73
① 研究・産学官連携推進部	73
ア 科研費対策委員会	73
イ プロジェクト研究センター運営委員会	74
② 研究・産学官連携支援部	74
ア 学術委員会	74
イ 倫理審査委員会	75
ウ 遺伝子組換え実験安全委員会	75
エ 動物実験委員会	75
オ 化学物質管理委員会	76
カ 利益相反マネジメント委員会	77
キ 知的財産委員会	77
ク URA推進委員会	77
③ 大学院教育研究支援部	78
ア 大学院教務委員会	78
イ 大学院教育研究環境委員会	78
(4) 社会連携・同窓会推進機構委員会	79
① 社会連携推進部	79
ア 社会連携推進センター運営委員会	79
イ ボランティアセンター運営委員会	80

② 同窓会・生涯学修推進部	80
ア 同窓会・生涯学修連携推進委員会	80
(5) アスレティックデパートメント推進機構運営委員会	81
① 強化指定クラブ運営部	82
ア 強化指定クラブ運営委員会	82
② アスレティックデパートメント推進部	82
ア アスレティックデパートメント推進委員会	82
6. 大学情報の公開と広報	
1) 公開講座等	84
2) 広報活動	84
7. 研究活動	
1) 学長	86
2) リハビリテーション学部	87
(1) 理学療法学科	87
(2) 作業療法学科	171
(3) 言語聴覚学科	186
(4) 義肢装具自立支援学科	198
(5) 鍼灸健康学科	218
3) 医療技術学部	231
(1) 臨床技術学科	231
(2) 視機能科学科	251
(3) 救急救命学科	259
(4) 診療放射線学科	267
4) 健康科学部	278
(1) 健康栄養学科	278
(2) 健康スポーツ学科	288
5) 看護学部	347
(1) 看護学科	347
6) 心理・福祉学部	371
(1) 社会福祉学科	371
(2) 心理健康学科	389
7) 医療経営管理学部	400
(1) 医療情報管理学科	400
8) 教育・学生支援機構	410
9) 社会連携・同窓会推進機構	414
10) 新設学科（健康データサイエンス）	419

11) プロジェクト研究センター	420
(1) 言語発達支援センター	420
(2) 医療経済・QOL研究センター	421
(3) ロコモティブ症候群予防研究センター	423
(4) シティズンシップ教育実践研究センター	427
(5) スポーツカウンスリング研究センター	432
(6) アスリートサポート研究センター	434
(7) 身体教育研究センター	449
(8) 栄養科学研究センター	454
(9) 脳卒中リハビリテーション研究センター	456
(10) 次世代デジタルリハビリテーション研究センター	457
(11) 3D技術研究開発センター	459
(12) 生物医科学分析研究センター	461
(13) 看護実践研究センター	463
12) 運動機能医科学研究所	466
13) 自然人類学研究所	497
14) 学内における研究助成金の採択状況	502
(1) 研究奨励金 採択一覧表	502
(2) 学長裁量研究費 採択一覧表	504
(3) 研究科長裁量研究費 採択一覧表	504
(4) 外部資金獲得奨励金 採択一覧表	505
15) 外部資金の獲得状況	509
(1) 文部科学省及び日本学術振興会科学研究費助成事業 採択一覧表	509
(2) 厚生労働省科学研究費補助金 採択一覧表	516
(3) 新潟県内国公立大学の科学研究費配分額一覧	517
16) 新潟医療福祉学会	518
8. 図書館	
1) 蔵書数	519
2) 年間受入数	519
3) 利用状況	519
4) データ推移	519
9. 学生関係	
1) 収容定員	520
2) 入試広報活動	521
3) 入学者選抜方法	522
4) 入学者選抜試験結果	523

5) 在籍学生数	524
6) 異動学生数	525
7) 学生生活	527
(1) 学生生活に関する指導	527
(2) オリエンテーション	527
(3) 健康診断	527
(4) 心理相談	527
(5) 奨学金制度	527
(6) 学生寮	528
(7) 学友会	528
(8) 大学祭	529
(9) クラブ活動	529
(10) 学生表彰	531
(11) 海外研修	540
(12) 学修支援センター	549
8) 強化指定クラブ成績	550
9) 国家試験・資格試験結果	553
10) 就職状況	553
10. その他	
1) 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園	555
2) 新潟医療福祉大学附属PCR検査センター	555
3) 新潟医療福祉大学附属鍼灸センター	556

1. 大学の基本理念

1) 基本理念

開設時の学則で示された建学の精神は「本学は、教育基本法および学校教育法に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献することを目的とする」である（2001年）。

この学則に基づき、大学の基本理念を次の3項目とする。なお2005年に健康スポーツ学科が開設されたので、以下の文章では「保健医療福祉スポーツ」と表記する。

(1) 優れたQOLサポーターを育成する大学

- ①保健医療福祉スポーツ分野の高度専門職者を育成する。
- ②保健医療福祉スポーツ分野の諸専門領域を横断的、融合的に理解する人材を育成する。
- ③対象者を全人的に理解し、支援する人材を育成する。

本学では全学科における人材育成の教育理念・目標の核心を、「対象者のQOL向上を考え、QOL向上のため支援を実践する人材育成」と設定し、上記①～③を実践する。教育課程の最初には専門分化でなく、保健医療福祉スポーツの分野を広く統合して考えられる人材育成を基本的目標とし、その上で高度に分化した専門職育成を行う。以上をまとめて、“優れたQOLサポーターの育成”としている。

(2) 地域社会のニーズに応える大学

- ①大学の教育研究情報の積極的公開・提供
- ②地域の関連専門職団体や関係機関と連携して行う研究会の開催、研究会への協力
- ③情報通信ネットワークによる保健医療福祉スポーツ施設、在宅介護支援機関等への支援
- ④社会人等特別入学試験、科目等履修生制、聴講生制度
- ⑤公開講座（エクステンションプログラム）開講
 - ア. 保健医療福祉スポーツ専門職・小中高教員向けのセミナー・研究会の開催
 - イ. 高校生など対象の夏季特別プログラムの実施
 - ウ. 市民公開講座、市民参加交流講座の開催

⑥社会的貢献－教職員・学生のボランティア活動の積極的推進

保健医療福祉スポーツサービスは、行政機関や各種施設の職員、家族・親族、ボランティア団体、住民など多様な人々によって担われる。保健医療福祉スポーツ分野の大学である本学が、専門的学術情報を中心として地域の連携拠点として機能することにより、多様な活動を有機的に結び付け、より一層地域全体としてサービス水準の向上を図れるものと考えている。

また、本学学生のみならず、広く社会人に対して門戸を開き、更に地域の保健医療福祉スポーツ水準向上のため、関係機関や行政と密接に連携をとりつつ可能な限り地域住民の保健医療福祉スポーツ活動に寄与するよう努める。

(3) 国際社会に貢献する大学

- ①人的交流－教員の交流・留学生の受入れや学生の派遣
- ②日本周辺諸国との保健医療福祉スポーツ分野における交流のシンポジウム・ワークショップなどの開催

保健医療福祉スポーツ分野でも「発信」型の国際交流が望まれる。中国、韓国、台湾、東南アジア諸国では、程度の差はあれ、工業化、都市化、核家族化、長寿化、伝統的な家族意識の崩壊などの諸要因によって、一人暮らしや老夫婦だけの高齢者世帯が増え、健康問題、保健医療問題、介護問題などの生活問題を抱えはじめている。このような変化はまさしく我が国が辿った過程であり、その先には保健医療福祉制度の見直しや、高度専門職者育成など諸課題が生じることが予測される。

我が国が周辺諸国から期待されている役割を果たす意味からも、これらの課題に取り組み、我々の高齢社会に於ける経験に基づく有用な情報を積極的に発信し、国際的に貢献するよう努める。

2) 教育内容の特色等

本学は教育理念と教育目標を基本理念とは別に定めているのが特徴であるが、基本理念（1）の具体概念と考えられる（再出）。教育理念（目的）は「医療福祉分野に対する社会的要請に応えるべく、豊かな人間性と高潔な倫理性に立脚し、高度な専門性に加えて他の専門領域をも横断的・融合的に理解し、研究し、実践し、教育する人材を養成する」、教育目標は「保健医療福祉スポーツの4分野を統合的に考え、他のスタッフと協力しながらQOL（＝いかによく生きるか）を総合的に考え、豊かなコミュニケーションで対象者のQOLを支える「優れたQOLサポーター」を育成する」である。

上記の目的・目標を達成するため、それぞれの学科におけるカリキュラムは、その名称が示す内容の国家資格等の受験資格を取得することができるように設定し、育成する“人材像”は次の通りである。

- ①対象者のQOL（生活の質、生きる質、健康の質）を自ら考え、その向上を実践する人材
- ②多様な価値観に寛容であり、対話ができる人材
- ③保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種の人たちとチームアプローチができる人材
- ④教養的知識と専門的知識・技能をバランス良く身につけている人材
- ⑤保健医療福祉スポーツおよび一般社会における情報化に対応できる人材
- ⑥異文化理解・コミュニケーションの手段として外国語を使い、自ら発信できる人材

3) 「優れたQOLサポーターの育成」を達成するための「5つの要件」

「優れたQOLサポーター」とは、保健医療福祉スポーツ分野を総合的に捉え、他分野のスタッフと協力しながら、対象者のQOL（＝いかによく生きるか）をいつも考え、その人を全人的に支える人材を意味する（再出）。

本学では「優れた」を満たす要件として、次の5項目を設定した（2010年）。

- ①科学的知識と技能を学び続ける力（Science & Art）
- ②チームワークとリーダーシップを発揮する力（Teamwork & Leadership）
- ③対象者を支援する力（Empowerment）
- ④問題を解決する力（Problem-solving）
- ⑤自己実現を達成する力（Self-realization）

「5つの要件」を表す英語の頭文字を取ってSTEPSとまとめている。なお保健医療福祉スポーツ分野でエンパワメント（Empowerment）は、「対象者自身が自分らしく生きる力（自己決断力）および権利（自己決定権）」を意味するので、上記③を厳密に表現すれば「対象者のエンパワメントを支援する力」となることを付記する。

2. 沿革

年	月	事 項
1996年 (平成8年)	4月	大学設立構想検討開始
1997年 (平成9年)	1月	大学設置準備室設置
1999年 (平成11年)	6月	財団法人新潟医療福祉大学設立準備財団設立許可（文部省）
2000年 (平成12年)	12月 12月 12月 12月 12月	新潟医療福祉大学 設置認可（文部省） 学校法人新潟総合学園 設立認可（文部省） 理学療法学科 理学療法士学校の指定 作業療法学科 作業療法士学校の指定 言語聴覚学科 言語聴覚士学校の指定
2001年 (平成13年)	2月 3月 4月 4月 4月	校地・校舎 竣工 健康栄養学科 管理栄養士養成施設・栄養士養成施設の指定 新潟医療福祉大学開学（2学部5学科設置） ・医療技術学部 理学療法学科（入学定員40名）、作業療法学科（入学定員40名）、 言語聴覚学科（入学定員40名）、健康栄養学科（入学定員40名） ・社会福祉学部 社会福祉学科（入学定員100名） 新潟医療福祉大学竣工・開学式典 新潟医療福祉大学 第1回入学式
2002年 (平成14年)	4月 9月	新潟医療福祉大学 第2回入学式 第2厚生棟 竣工
2003年 (平成15年)	4月	新潟医療福祉大学 第3回入学式
2004年 (平成16年)	4月 11月	新潟医療福祉大学 第4回入学式 新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科（修士課程：保健学専攻・社会福祉学専攻）の設置認可
2005年 (平成17年)	1月 3月 3月 4月 4月 4月 4月 4月 4月 4月 9月	第3研究棟、体育棟、第2実験実習棟 竣工 新潟医療福祉大学 第1回卒業式 健康栄養学科（栄養教諭一種免許）教員免許課程の認定 健康スポーツ学科（中・高教諭一種免許（保健体育））教員免許課程の認定 大学院医療福祉学研究科設置 保健学専攻、社会福祉学専攻開設（入学定員40名） 医療技術学部健康スポーツ学科開設（入学定員60名） 医療技術学部理学療法学科入学定員増（入学定員80名） 新潟医療福祉大学 第5回入学式 新潟医療福祉大学大学院 第1回入学式 ハルビン医科大学第一臨床医学院（中国）との学術交流協定の締結 看護学科 保健師学校・助産師学校・看護師学校の指定

2006年 (平成18年)	2月	サザンクイーンズランド大学（オーストラリア）との研究協力についての覚書の締結
	3月	新潟医療福祉大学 第2回卒業式
	3月	看護学科（養護教諭一種免許）教員免許課程の認定
	3月	社会福祉学部社会福祉学科 介護福祉士学校の指定
	3月	第4研究棟 竣工
	4月	医療技術学部看護学科開設（入学定員80名）
	4月	社会福祉学部社会福祉学科介護福祉コース開設 入学定員増（入学定員120名）
	4月	新潟医療福祉大学 第6回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第2回入学式
	6月	ハッサン大学（アメリカ）との学術交流協定の締結
	9月	義肢装具自立支援学科 義肢装具士学校の指定
	9月	ハバロフスク極東総合医科大学（ロシア）との学術交流協定の締結
2007年 (平成19年)	3月	新潟医療福祉大学 第3回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第1回修了式（学位記授与式）
	3月	第5研究棟 竣工
	3月	財団法人日本高等教育評価機構から大学評価基準適合認定を受ける ※認定期間 平成18年4月1日～平成24年3月31日
	4月	第3厚生棟 竣工
	4月	大学院医療福祉学専攻（博士後期課程）開設（入学定員3名）
	4月	大学院健康科学専攻（修士課程）開設（入学定員10名） ※入学定員の変更 保健学専攻20名，社会福祉学専攻10名
	4月	2学部より3学部（医療技術学部・健康科学部・社会福祉学部）へ改組
	4月	健康科学部健康栄養学科（入学定員40名），健康スポーツ学科（入学定員100名）， 看護学科（入学定員80名）開設 ※医療技術学部健康栄養学科，健康スポーツ学科，看護学科 募集停止
	4月	医療技術学部義肢装具自立支援学科（入学定員40名）開設
	4月	東京キャンパス（東京都千代田区丸の内）の開設
	4月	新潟医療福祉大学 第7回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第3回入学式
	5月	カリフォルニア州立大学フレズノ校（アメリカ）との学術交流協定の締結 大学院健康科学専攻健康スポーツ学分野（中・高教諭専修免許（保健体育））
	12月	教員免許課程の認定
2008年 (平成20年)	3月	新潟医療福祉大学 第4回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第2回修了式（学位記授与式）
	4月	新潟医療福祉大学 第8回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第4回入学式
2009年 (平成21年)	3月	新潟医療福祉大学 第5回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第3回修了式（学位記授与式）
	4月	新潟医療福祉大学 第9回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第5回入学式
	5月	第3体育館棟 竣工
	7月	「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発の実践」が，文部科学省平成21年度戦略的大学連携支援事業として採択

	7月	国立シリントン・リハビリテーションセンター（タイ）との学術交流協定の締結（義肢装具自立支援学科）
	9月	キングストン大学（イギリス）およびロンドン大学セントジョージ校（イギリス）の健康社会福祉科学学部との国際交流協定の締結
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施 フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島・マーシャル諸島共和国の4カ国から8名の参加
2010年 （平成22年）	3月	新潟医療福祉大学 第6回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第4回修了式（学位記授与式）
	3月	第3厚生棟改修 竣工
	3月	新潟市北区との包括連携協定の締結
	4月	医療経営管理学部医療情報管理学科（入学定員80名）開設
	4月	新潟医療福祉大学 第10回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第6回入学式
	8月	弘光科技大学（台湾）との学術交流協定の締結
	8月	アンヘレス大学財団（フィリピン）との学術交流協定の締結
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施 フィジー諸島共和国・ソロモン諸島・マーシャル諸島共和国・トンガ王国の4カ国から5名の参加
	11月	運動機能医科学研究所 開設
2011年 （平成23年）	3月	新潟医療福祉大学 第7回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第5回修了式（学位記授与式）
	3月	第6研究・実習棟 竣工
	4月	医療技術学部臨床技術学科（入学定員80名）開設
	4月	新潟医療福祉大学 第11回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第7回入学式
	8月	ハワイ大学マノア校ジョンAバーンズ医学部臨床技術学科（アメリカ）との学術交流協定の締結（臨床技術学科）
	10月	サント・トーマス大学（フィリピン）との学術交流協定の締結
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施 フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島・マーシャル諸島共和国・トンガ王国の5カ国から10名の参加
	10月	『新潟医療福祉大学』開学10周年記念式典開催
	12月	イーストアングリア大学看護・助産学校（イギリス）との学術交流協定の締結
2012年 （平成24年）	3月	新潟医療福祉大学 第8回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第6回修了式（学位記授与式）
	4月	新潟医療福祉大学 第12回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第8回入学式
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施 フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・マーシャル諸島共和国・キリバス共和国・ツバル・パラオ共和国の6カ国から7名の参加
2013年 （平成25年）	3月	新潟医療福祉大学 第9回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第7回修了式（学位記授与式）
	3月	第7研究・実習棟 竣工
	3月	硬式野球グラウンド 竣工
	3月	五泉市との包括連携協定の締結

	4月	健康科学部健康スポーツ学科 入学定員増（入学定員160名）
	4月	新潟医療福祉大学 第13回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第9回入学式
	5月	陸上競技グラウンド，テニスコート 竣工
	8月	台北榮民總醫院（台湾）との学術交流締結
	9月	視機能科学科 視能訓練士学校の指定
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修の実施 フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島の3カ国から11名の参加
2014年 （平成26年）	1月	2013年度私立大学等改革総合支援事業タイプ2に選定
	3月	新潟医療福祉大学 第10回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第8回修了式（学位記授与式）
	3月	第8研究・実習棟 竣工
	3月	屋内走路，屋内野球練習場 竣工
	3月	公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において適合認定を受ける ※認定期間 平成25年4月1日～平成32年3月31日
	4月	医療技術学部視機能科学科（入学定員50名）開設
	4月	大学院修士課程医療情報・経営管理学専攻（入学定員4名）開設 ※入学定員の変更 保健学専攻18名，社会福祉学専攻8名
	4月	新潟医療福祉大学 第14回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第10回入学式
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防に関する研修【フェーズⅡ】の実施 フィジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島の3カ国から11名の参加
2015年 （平成27年）	1月	クラブハウス 竣工
	1月	2014年度私立大学等改革総合支援事業タイプ2に選定
	2月	マヒドン大学（タイ）との学術交流協定の締結
	3月	新潟医療福祉大学 第11回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第9回修了式（学位記授与式）
	3月	新潟県社会福祉協議会との包括連携協定の締結
	4月	健康科学部健康スポーツ学科 入学定員増（入学定員200名）
	4月	新潟医療福祉大学 第15回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第11回入学式
	4月	クイーンズ大学（カナダ）との学術交流協定の締結（作業療法学科）
	10月	JICAの要請による生活習慣病予防コース研修の実施 タイから14名の参加
	10月	新潟市社会福祉協議会との包括連携協定の締結
2016年 （平成28年）	3月	新潟医療福祉大学 第12回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第10回修了式（学位記授与式）
	3月	第2講義棟，第4体育館棟 竣工
	4月	医療技術学部理学療法学科 入学定員増（入学定員120名）
	4月	大学院博士後期課程医療福祉学専攻 入学定員増（入学定員8名）
	4月	新潟医療福祉大学 第16回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第12回入学式
2017年 （平成29年）	3月	新潟医療福祉大学 第13回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第11回修了式（学位記授与式）
	4月	第9研究・実習棟 竣工

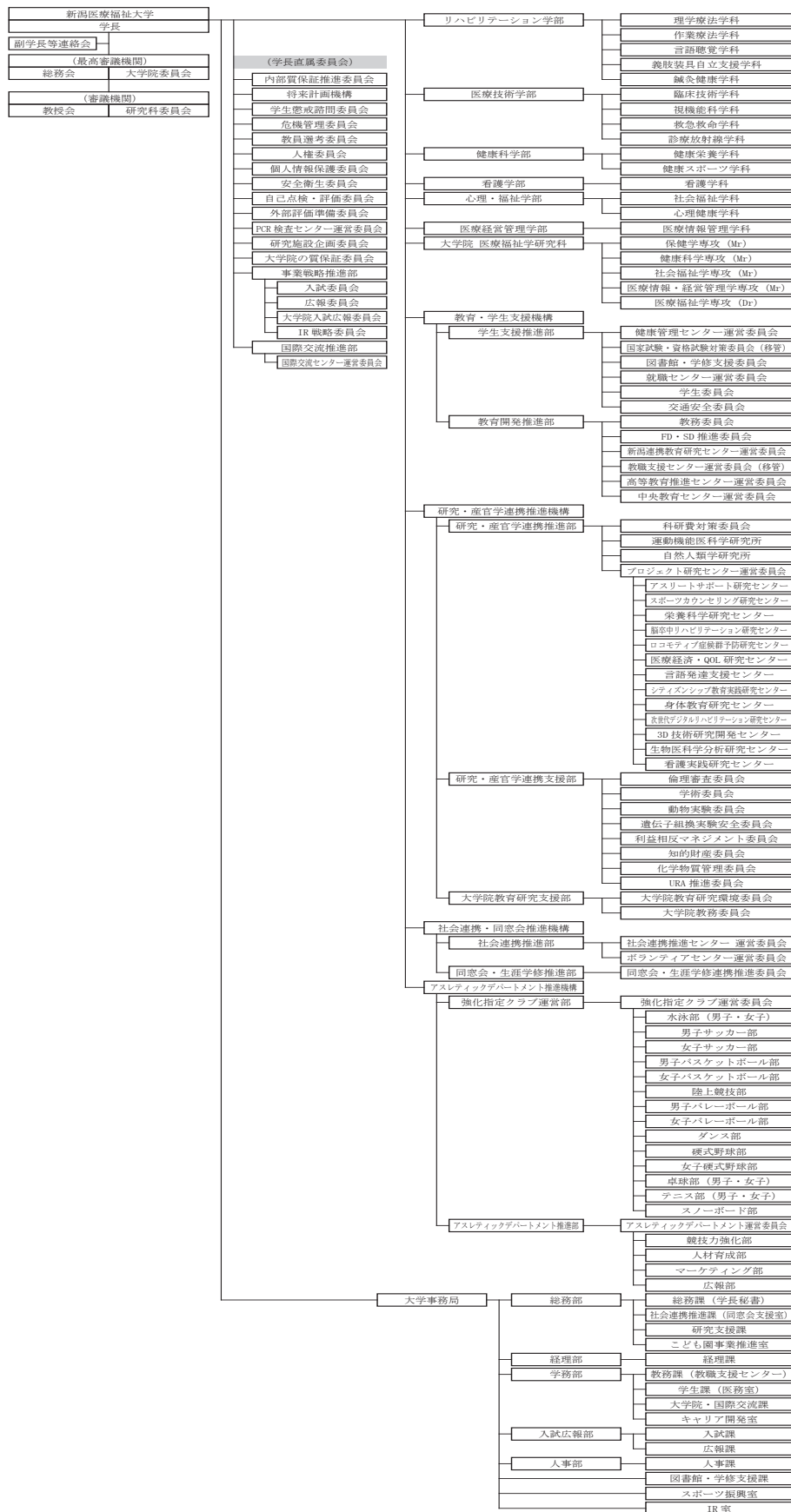
	4月 4月 4月 11月	医療技術学部救急救命学科（入学定員55名）開設 新潟医療福祉大学 第17回入学式 新潟医療福祉大学大学院 第13回入学式 「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点－Sports & Health for All in Niigata－」が文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業として採択
2018年 （平成30年）	3月 3月 3月 3月 3月 4月 4月 4月 4月 4月 4月 4月 4月 4月 6月	新潟医療福祉大学 第14回卒業式 新潟医療福祉大学大学院 第12回修了式（学位記授与式） 第4研究・実習棟増築改修 竣工 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園 竣工 学生寮「N-Village 伍桃」第1期工事（13棟311室，共用棟）竣工 リハビリテーション学部理学療法学科（入学定員120名）開設 リハビリテーション学部作業療法学科（入学定員 50名）開設 リハビリテーション学部言語聴覚学科（入学定員 40名）開設 リハビリテーション学部義肢装具自立支援学科（入学定員 40名）開設 医療技術学部臨床技術学科 入学定員増（入学定員100名） 医療技術学部診療放射線学科（入学定員90名）開設 看護学部看護学科（入学定員107名）開設 大学院博士後期課程医療福祉学専攻 入学定員増（入学定員10名） 新潟医療福祉大学 第18回入学式 新潟医療福祉大学大学院 第14回入学式 スポーツ庁「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業」に採択
2019年 （平成31年）	3月 3月 3月 3月 4月 4月	学生寮「N-Village 伍桃」第2期工事（13棟295室）竣工 新潟医療福祉大学 第15回卒業式 新潟医療福祉大学大学院 第13回修了式（学位記授与式） 2019年度スポーツ庁大学スポーツ振興推進事業に採択 新潟医療福祉大学 第19回入学式 新潟医療福祉大学大学院 第15回入学式
2020年 （令和2年）	3月 3月 3月 4月 4月 5月	新潟医療福祉大学 第16回卒業式（コロナウイルス感染拡大により学位記授与のみ） 新潟医療福祉大学大学院 第14回修了式（同上） 2020年度スポーツ庁大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業に採択 新潟医療福祉大学 第20回入学式（オンライン） 新潟医療福祉大学大学院 第16回入学式（オンライン） 2020年度スポーツ庁女性アスリートの育成・支援プロジェクト事業に採択
2021年 （令和3年）	3月 3月 3月 4月 4月 4月 5月 10月 10月	新潟医療福祉大学 第17回卒業式 新潟医療福祉大学大学院 第15回修了式（学位記授与式） 福井県鯖江市との包括連携協定の締結 健康科学部健康スポーツ学科入学定員増（入学定員250名） 新潟医療福祉大学 第21回入学式（オンライン） 新潟医療福祉大学大学院 第17回入学式（オンライン） 2021年度スポーツ庁女性アスリートの育成・支援プロジェクト事業に採択 北側トレーニングセンター 竣工 屋内投てき場 竣工

2022年 (令和4年)	1月	自然人類学研究所 開設
	3月	新潟医療福祉大学 第18回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第16回修了式(学位記授与式)
	4月	新潟医療福祉大学 第22回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第18回入学式
	8月	令和4年度スポーツ庁委託事業「女性アスリートの課題解決実践型プログラム」採択
2023年 (令和5年)	3月	文部科学省 令和4年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ2「特色ある高度な研究の展開」、タイプ3「地域社会への貢献(地域連携型)」選定
	3月	新潟医療福祉大学 第19回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第17回修了式(学位記授与式)
	3月	第11研究・実習棟 竣工(附属鍼灸センター配置)
	4月	リハビリテーション学部鍼灸健康学科(入学定員40名) 開設
	4月	大学院修士課程 入学定員増(入学定員55名) (保健学専攻自然人類学分野, 保健学専攻リハビリテーション栄養コース, 健康科学専攻にスポーツ栄養学コースを新たに設置し, 医療福祉学研究科5専攻15分野)
	4月	大学院博士後期課程医療福祉学専攻 入学定員増(入学定員20名)
	4月	新潟医療福祉大学 第23回入学式 新潟医療福祉大学大学院 第19回入学式
2024年 (令和6年)	3月	文部科学省 令和5年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ2「特色ある高度な研究の展開」、タイプ3「地域社会の発展への貢献(地域連携型)」選定
	3月	UNIVAS AWARDS 2023-2024にてMS&AD賞(安全確保に関する優秀取組賞)受賞 主催:一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)
	3月	学生寮「N-Village 伍桃 NEXT-I」(1棟83室) 竣工
	3月	新潟医療福祉大学 第20回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第18回修了式(学位記授与式)
	3月	高大医連携事業:新潟県厚生農業協同組合連合会(JA新潟厚生連)および日本赤十字社長岡赤十字病院とパートナーシップ協定締結
	3月	高大医連携事業:医療専攻を有する新潟県内県立高校3校を含む県内外の5校を対象に, 高大連携協定の締結(新潟県立小出高等学校, 新潟県立三条東高等学校, 新潟県立新潟西高等学校, 新潟県立新潟東高等学校, 藤村女子高等学校)
	4月	心理・福祉学部心理健康学科(入学定員80名) 開設
	4月	サッカーグラウンド, 第2クラブハウス(サッカー部), 野球サブグラウンド, 野球本部棟 竣工
	4月	新潟医療福祉大学 第24回入学式
	4月	新潟医療福祉大学大学院 第20回入学式
	5月	高大医連携事業 新津高等学校と高大連携協定の締結
	6月	新潟市北区ラグーナスクエア内 NUHWまちなかキャンパスオープン
	7月	高大医連携事業 NSGグループ5病院とのパートナーシップ協定締結 (新潟リハビリテーション病院, 新発田リハビリテーション病院, 新潟脳外科病院, 県立吉田病院, 中条中央病院)
	7月	高大医連携事業 須賀川高校, 万代高校, 小千谷高校, 高志中等教育学校と高大連携協定の締結
	9月	高大医連携事業 開志学園高校, 開志国際高校と高大連携協定の締結

2025年 (令和7年)	2月	文部科学省 令和6年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ2「特色ある高度な研究の展開」, タイプ3「地域社会への貢献」選定
	3月	UNIVAS AWARDS 2024-2025にて安全安心環境構築部門にてアスリートサポートセンターが最優秀賞(2年連続)
	3月	新潟医療福祉大学 第21回卒業式
	3月	新潟医療福祉大学大学院 第19回修了式

3. 組織

1) 組織図



2) 役職者

(1) 新潟医療福祉大学

学 長	西澤正豊
副学長	大山峰生
副学長	大西秀明
副学長	西原康行
リハビリテーション学部長	大石如香
医療技術学部長	笠原敏文
健康科学部長	西原康行
看護学部長	宇田優子
心理・福祉学部長	山本裕二
医療経営管理学部長	稲葉 晋
リハビリテーション学部	
理学療法学科長	椿 淳裕
作業療法学科長	能村友紀
言語聴覚学科長	大石如香
義肢装具自立支援学科長	佐藤成登志
鍼灸健康学科長	粕谷大智
医療技術学部	
臨床技術学科長	渡邊博昭
視機能科学科長	前田史篤
救急救命学科長	竹井 豊
臨床放射線学科	児玉直樹
健康科学部	
健康栄養学科長	永井 徹
健康スポーツ学科長	佐藤敏郎
看護学部	
看護学科長	宇田優子
心理・福祉学部	
社会福祉学科長	佐藤 洋
心理健康学科	山本裕二
医療経営管理学部	
医療情報管理学科長	木下直彦
教育・学生支援機構長	大山峰生
研究・産官学連携推進機構長	大西秀明
社会連携・同窓会推進機構長	西原康行
アスレティックデパートメント推進機構長	西原康行
学生部長	相馬俊雄
図書館長	竹井 豊
大学事務局長	森 常不

(2) 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科

研究科長	佐藤大輔
修士課程	
保健学専攻長	久保雅義
健康科学専攻長	佐藤大輔
社会福祉学専攻長	寺田貴美代
医療情報・経営管理学専攻長	木下直彦
保健学専攻	
理学療法学分野長	久保雅義
作業療法学分野長	能村友紀
言語聴覚学分野長	吉岡 豊
義肢装具自立支援学分野長	阿部 薫
医療技術安全管理学分野長	藤井 豊
視覚科学分野長	増田 修
救急救命学分野	竹井 豊
放射線情報学分野	笠井 聡
自然人類学分野	奈良貴史
健康科学専攻	
健康栄養学分野長	稲葉洋美
健康スポーツ学分野長	山代幸哉
看護学分野長	杉本 洋
社会福祉学専攻	
保健医療福祉政策・計画・運営分野長	寺田貴美代
保健医療福祉マネジメント学分野長	松本京介
医療情報・経営管理学専攻	
医療情報・経営管理学分野長	木下直彦
博士後期課程	
医療福祉学専攻長	児玉直樹

3) 教員数 (2024年5月1日現在)

(1) 教員数

学部専任教員数 305名

(注1) 学長・副学長を含む。

(注2) 兼担大学院担当者 (○合, 合) 修士課程137名 博士後期課程64名含む

(2) 学部別教員数

学部等	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
リハビリテーション学部	(1)	29	10	27	15	3	84
医療技術学部		22	8	15	11	6	62
健康科学部		17	12	18	15	1	63
看護学部		8	4	8	11	7	38
心理福祉学部		11	3	9	8	3	34
医療経営管理学部		9	2	3	4	1	19
教育・学生支援機構		1	1	1	0	0	3
社会連携・同窓会推進機構		1	1	0	0	0	2
合 計	(1)	98	41	81	64	21	305

(3) 学科別教員数 (注3)

学科	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
理学療法学科	(1)	12	1	13	10	2	38
作業療法学科		4	2	3	3	0	12
言語聴覚学科		5	4	3	1	1	14
義肢装具自立支援学科		4	1	6	0	0	11
鍼灸健康学科		4	2	2	1	0	9
臨床技術学科		9	4	5	3	4	25
視機能科学科		5	1	0	3	1	10
救急救命学科		3	1	4	3	0	11
診療放射線学科		5	2	6	2	1	16
健康栄養学科		6	2	3	5	1	17
健康スポーツ学科		11	10	15	10	0	46
看護学科		8	4	8	11	7	38
社会福祉学科		6	1	8	4	2	21
心理健康学科		5	2	1	4	1	13
医療情報管理学科		9	2	3	4	1	19
教育・学生支援機構		1	1	1	0	0	3
社会連携・同窓会推進機構		1	1	0	0	0	2
計	(1)	98	41	81	64	21	305

(注3) リハビリテーション学部：理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 義肢装具自立支援学科
鍼灸健康学科

医療技術学部：臨床技術学科 視機能科学科 救急救命学科 診療放射線学科

健康科学部：健康栄養学科 健康スポーツ学科

看護学部：看護学科

心理・福祉学部：社会福祉学科 心理健康学科

医療経営管理学部：医療情報管理学科

4. 学年暦

- 4月 1日（月） ・学生寮入寮オリエンテーション実施（オンデマンド）
・新任教員辞令交付式実施
対 象／新任教員36名，昇任教員24名，管理職教員18名
・新任教職員対象 事務局オリエンテーション実施（オンライン）
内 容／大学概要説明，各種事務手続き説明，学会入会案内 等
参加者／64名
- 2日（火）～4日（木）
・新生入生オリエンテーション実施（オンデマンド・対面）
対 象／全新生入生および3年次編入学生
内 容／日程ごとにオンデマンド型・対面型で実施
2日（火）：WEB型全体・・・修学・学生生活等に関する動画視聴
3日（水）：対面型全体・・・健康診断・学友会等説明，書類回収
※スタートダッシュセミナー「大学での勉強の仕方」を同時開催
4日（木）：対面型学科別・・・学科別にカリキュラム等を説明
- 4日（水）～9日（火）
・履修登録期間（前期・後期）
- 5日（金） ・2024年度入学式挙行
会 場／朱鷺メッセ（LIVE配信・アーカイブ配信も併用）
入学者／学部1,237名，大学院86名 計1,323名
来場者／2,727名
・2024年度第1回後援会総会開催
会 場／朱鷺メッセ
内 容／2023年度決算，2024年度予算および2024年度役員の審議
- 6日（土） ・新生入生歓迎会「桃迎会」開催
内 容／学友会主催にてクラブ・サークル活動を紹介
参加者／新生入生約407名
- 7日（日） ・新入寮生歓迎会開催
内 容／自己紹介，レクリエーション，懇親会
参加者／新入寮生131名
- 10日（水） ・前期授業開始
原則対面での実施とし，教育効果に応じてオンラインを積極活用
- 15日（水）～19日（日）
・全日本学生テニス選手権（インカレ）北信越地区予選出場
結 果／9名（男子4名，女子5名）がインカレ出場決定 ※過去最多
- 17日（水） ・水泳部 水沼 尚輝 選手（本学職員）パリ五輪壮行会実施
会 場／新潟医療福祉大学
報 道／新聞・TV等メディア15社により取材
- 17日（水）～5月17日（金）
・マヒドン大学（タイ）交換留学プログラム実施
参加者／マヒドン大学放射線技術学科 学生5名
内 容／本学診療放射線学科の授業参加・学生交流・新潟観光 等
- 18日（木） ・新任職員SD研修会実施
テーマ／学長挨拶，研修～NUHW職員になるとは～，部署見学 等

- 参加者／新事務局職員19名
- 19日（金）・水泳部 水沼 尚輝 選手（本学職員）パリ五輪出場に係る表敬訪問
訪問先／新潟市 中原 八一 市長
報 道／新聞・TV等メディア3社により取材
- 20日（土）・医療機関業界・職種研究会開催
参加者／臨床技術学科 4年生88名，3年生39名
診療放射線学科 4年生82名合計209名
講 師／新潟大学医歯学総合病院，新潟県立新発田病院
魚沼基幹病院，新潟市民病院の人事担当者 計6名
施 設／新潟県厚生農業協同組合連合会 他計6施設
・第7回女子硬式野球新潟大会出場（初の公式戦）
部 員／14名でスタート
結 果／本学 0 - 3 福井工大福井高校
- 25日（木）・北側スポーツ施設竣工式挙行
施 設／サッカーコート，クラブハウス，野球サブグラウンド
- 29日（月・祝）・授業実施日
・令和6年春の叙勲にて本学教員が受章
受章者／看護学部 看護学科 杉田 洋子 教授
勲 章／瑞宝双光章
- 30日（火）・新潟県国際交流推進基金事業補助金採択
概 要／グローバル人材育成に係る優れた取り組みを補助
事業名／保健・医療・福祉の人材育成を通じた新潟県の拠点性向上
内 容／海外招聘学生に対する講義・実習・病院見学等の実施
補助額／3,140千円（1年間）
- 5月 1日（月）～5日（日）
・ゴールデンウィーク期間
- 3日（金）～26日（日）
・5月WEBオープンキャンパス開催
参加者／開催中（前年412名）
- 5日（日）・第104回全日本サッカー選手権大会（天皇杯）新潟県代表決定戦出場
結 果／決勝 新潟医療福祉大学 1 - 2 JAPANサッカーカレッジ
- 6日（月・祝）・授業実施日
- 8日（水）・本学卒業生（男子バスケ部）が日本代表サポートスタッフに選出
大 会／FIBA 3×3バスケットボール オリンピック予選（ハンガリー）
チー ム／女子日本代表チーム
卒業生／守屋 健次郎（健康スポーツ学科卒業／男子バスケ部OB）
※ 現B1秋田ノーザンハピネッツビデオコーディネーター
- 10日（金）・文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」申請
概 要／数理・データサイエンス・AIに関する優れた教育プログラム（正規課程）を
認定する制度
申 請／リテラシーレベル（基礎的能力の育成）
結 果／9月頃決定
- 10日（金）～12日（日）
・第93回全日本大学総合卓球選手権大会（インカレ団体）北信越予選出場
結 果／女子団体（1部リーグ）3位

創部初のインカレ団体への出場権獲得

- 11日（土） ・ 北側サッカーグラウンド竣工イベント開催
内 容／小・中学生を対象としたサッカー教室
参加者／北区の小・中学生 66名
- 15日（水） ・ 学友会主催ビンゴ大会
内 容／1年生の交流，学友会活動紹介を目的にビンゴ大会を開催
参加者／学生約 250名
- 16日（木） ・ 大学IR活用セミナー開催（オンライン）
テーマ／教学IR・研究基盤IRの取組と課題
内 容／3大学によるIR活用事例の報告
主 催／①新潟医療福祉大学 ②東北工業大学
③北海道大学技術支援・設備共用コアステーション
参加者／151名（大学教員，大学IR担当者，システム会社等）
・ 第1回高校教諭等対象オープンキャンパス（来場型）
内 容／入試概要，大学説明，在学生座談会，授業・研究見学等
参加者／22校 23名
- 16日（木）～19日（日）
・ 第10回全日本大学女子硬式野球選手権大会（インカレ）出場
出場校／全 15大学 ※地区予選等はなく連盟加盟の大学であれば出場可能
結 果／初戦敗退（新潟医療福祉大学 0－8 大阪体育大学）
- 17日（金） ・ 2024年度春の職員会開催
内 容／学長挨拶，2024年度目標，心理健康学科紹介 など
対 象／全事務局職員
- 17日（金）～6月14日（金）
・ 第1回高校教諭対象WEBオープンキャンパス（オンデマンド）
内 容／入試説明，入試対策（志望理由書，面接）等
参加者／開催中
- 19日（日） ・ 心理健康学科主催 市民公開講座「アゴラ・さいころじい」開催
会 場／朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 3階中会議室
テーマ／日頃の困りごとを「心理学」で解決！
講 師／心理健康学科 山本 裕二 教授（学部長・学科長）
同 坂田 省吾 教授，山崎 由美子 教授，野村 照幸 教授
参加者／115名（社会人，高校生，高校生の保護者等）
・ アスリートサポートの魅力紹介セミナー・体験会開催
会 場／朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 2階メインホール
内 容／スポーツリハビリ・スポーツ栄養に関するセミナー・体験
主 催／理学療法学科，健康栄養学科
参加者／31名（高校生 18名，既卒 3名，保護者等 10名）
- 22日（水） ・ 令和6年度新潟県魅力向上支援事業補助金交付決定通知
内 容／医療・福祉系資格・職業理解を深める高大連携事業
補助金／500,000円（申請額全額）
- 25日（土） ・ 同窓会本部会・総会開催（オンライン）
内 容／2024年度事業計画，役員人事，規程改定の審議など
・ 福祉施設求人説明会（対面）
参加者／社会福祉学科 68名

- 施設／新潟県内各福祉会，福祉事業協会 他 計20施設
- 26日（日）・5月来場型オープンキャンパス開催
参加者／491名（内受験対象学年394名）※前年未開催
- 28日（火）・大学院広報イベント「第1回教えて大学院」開催
内 容／視覚科学分野の紹介，個別相談など
参加者／45名（学部4年生6名，修士2年生2名，その他39名）
- 29日（水）・令和6年度東南アジアからの留学生獲得支援事業補助金交付決定
概 要／新潟県国際課による留学生獲得支援事業に採択
内 容／日本学生支援機構主催 日本留学フェア（ベトナム）への出展
- 30日（木）・新潟県立新津高等学校との高大連携協定締結式開催
内 容／医療福祉分野希望者への探究学習（職業理解等）支援を目的とした高大連携協定の締結
- 30日（木）～6月13日（木）
・各種県人会開催
参加者／（5/30）群馬県人会 30名，（6/3）山形県人会 17名
（6/5）宮城県人会 12名，（6/10）秋田県人会 25名
（6/11）沖縄県人会 7名，（6/11）新潟県佐渡支部 15名
（6/12）北陸圏人会 6名，（6/12）長野県人会 35名
（6/13）福島県人会 29名
- 31日（金）・令和6年度科学研究費助成事業の配分額公表
内 容／文部科学省より機関別の採択数・配分額等が公表
（本学）採択件数149件，配分額292,760千円
※6/28に挑戦的研究の結果が発表され萌芽3件の採択が追加
結 果／採択件数152件，配分額301,080千円
その他／スポーツ科学，体育，健康科学およびその関連分野の新規採択件数（5年累計）で，東京大学を抜いて全国3位。
- 6月 1日（土）・新潟市北区ラグーナスクエア内 NUHW まちなかキャンパスオープン
概 要／新潟市北区との連携事業の一環として本学の地域連携活動等の拠点とする交流スペースの運用を開始。
- 8日（土）・義肢装具関連企業説明会開催
参加者／義肢装具自立支援学科72名
企 業／計44社（県内企業等2社，県外企業等42社）
- 9日（日）・島見浜海岸清掃ボランティア活動実施
概 要／学生寮×新潟北ライオンズクラブによる共同開催
参加者／学生28名，ライオンズクラブ12名，教職員4名
- 10日（月）・はあとふるあたと愛広会 学内就職説明会開催
参加者／社会福祉学科6名
- 14日（金）～16日（日）
・2024日本学生陸上競技個人選手権大会出場
結 果／男子円盤投げ 北原博企（健康スポーツ学科4年）優勝
男子砲丸投げ 渡辺豹牙（健康スポーツ学科2年）3位
女子ハンマー投げ エパサカテレサ（大学院修士2年）2位
- 16日（日）・来場型オープンキャンパス開催
参加者／426名（内受験対象学年345名，前年595名）
- 17日（月）・創立記念日

- ・防災避難訓練実施
内 容／シェイクアウト訓練, 避難訓練, 安否確認回答訓練 など
参加者／学生・教職員 947 名 (前年 509 名)
- 19 日 (水) ～ 26 日 (水)
 - ・夢を語る会 (1 年生) 開催
内 容／将来の夢や 1 年次の目標等について発表し共有
- 20 日 (金)
 - ・2023 年度在学生表彰式開催
内 容／優秀な成績や活動実績を収めた学生を表彰
対 象／課外活動 14 名および 2 団体, 社会貢献活動 10 名, 学術研究活動 4 名および 1 団体
 - ・首都圏高校対象 大学説明会開催
参 加／6 校 7 名
高 校／(東京) 豊南高校, (千葉) 千葉黎明高校, 西武台千葉高校, 中央学院高校, 日本体育大学柏高校, (神奈川) 向上高校
- 22 日 (土)
 - ・業界・仕事研究会 (一般企業志望者) 開催
参加者／3 年生 115 名
企 業／計 4 社 (NSG ホールディングス, 大光銀行, (株) コロナ, BSN アイネット)
- 23 日 (日)
 - ・NUHW まちなかキャンパス「公開講座」開催
テーマ／体力のお話と運動 ～体力測定と柔らかさを伸ばす運動～
参加者／親子 14 組
- 24 日 (月)
 - ・名誉教授称号授与式
内 容／名誉教授の称号授与が決定した 7 名に称号記を授与
- 25 日 (火)
 - ・大学院広報イベント「第 2 回 教えて大学院」開催 (オンライン)
内 容／健康栄養学分野, 保健医療福祉マネジメント学分野の紹介
参加者／18 名 (昨年 17 名)
- 26 日 (水)
 - ・令和 6 年度大学・高専機能強化支援事業内定通知受理
概 要／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長による「学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援」に採択
事 業／本学のデータサイエンス系学部の新設構想
補助額／321,470 千円 (対象期間: 3 年間)
- 27 日 (木)
 - ・令和 6 年度スポーツ庁委託事業 感動する大学スポーツ総合支援事業採択
概 要／一般社団法人大学スポーツ協会による「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業 (タイプ B)」に採択
事 業／スポーツ教室やスポーツ遊びイベントを開催し, 幅広い世代における運動・スポーツ習慣の確立を目指す
補助額／4,000 千円 (対象期間: 2025 年 1 月 31 日まで)
- 27 日 (木) ～ 30 日 (日)
 - ・第 108 回日本陸上競技選手権大会出場 (パリ五輪代表選考競技会)
結 果／男子円盤投げ 北原博企 (健康スポーツ学科 4 年) 4 位
男子砲丸投げ 渡辺豹牙 (健康スポーツ学科 2 年) 8 位
女子ハンマー投げ エバサカテレサ (大学院修士 2 年) 5 位
男子走り高跳び 長谷川直人 (アルビ RC / 本学 OB) 4 位
※同窓会主催「長谷川選手応援ツアー」を実施し 40 名が観戦
 - ・第 40 回 U20 日本陸上競技選手権大会出場
結 果／女子ハンマー投げ 松尾菜那 (健康スポーツ学科 1 年) 10 位

7月 1日（月）～31日（水）

- ・第2回高校教諭等対象WEBオープンキャンパス開催（オンデマンド）
内 容／入試説明，入試対策，高大医連携プロジェクト紹介 等
参加者／開催中（昨年55校64名）

2日（火）～5日（金）

- ・マヒドン大学（タイ）学生の短期留学受入
内 容／義肢装具自立支援学科との短期交換留学プログラムとして，マヒドン大学義肢装具学科の学生2名を受入。

3日（水） ・大学院特別研究奨学金・修学援助奨学金選考面接実施

- 対 象／特別研究奨学金4名（修士3名，博士後期1名）
修学援助奨学金4名（修士2名，博士後期2名）

4日（木） ・第93回全日本大学総合卓球選手権大会（女子団体）出場 ※初出場

- 結 果／第1ステージ敗退（本学0－3専修大学，本学2－3福岡大学）

5日（金） ・NSGグループ5病院とのパートナーシップ協定式開催

- 協定先／医療法人愛広会 新潟リハビリテーション病院
新発田リハビリテーション病院
県立吉田病院
医療法人泰庸会 新潟脳外科病院
医療法人社団共生会 中条中央病院

6日（土） ・全日本大学駅伝2024北信越予選出場

- 結 果／男子 5位，女子 優勝 ※
※女子は全日本大学女子駅伝出場決定（13年連続13回目）

7日（日） ・来場型オープンキャンパス開催

- 参加者／619名（内受験対象学年438名，前年668名）
※本年度は7月OCを2日程で開催．次回は7/20開催
- ・第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会決勝
結 果／優勝（6大会連続） 本学 4－0 松本大学
※9月開催の総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに北信越代表として
出場

8日（月） ・福島県立須賀川創英館高等学校との高大連携協定締結式開催

9日（火） ・新潟市立万代高等学校との高大連携協定締結式開催

11日（木） ・第12研究・実習棟地鎮祭新築工事地鎮祭実施

13日（土）～14日（日）

- ・【陸上】第78回新潟県陸上競技選手権大会出場
結 果／9種目で優勝（以下，主な成績）
男子砲丸投げ 渡辺 豹冴（健康スポーツ学科2年）優勝
※大会新記録・北信越学生新記録
男子円盤投げ 北原 博企（健康スポーツ学科4年）優勝
女子ハンマー投げ エパサカ テレサ（大学院2年）優勝
※大会新記録・北信越学生新記録

15日（月・祝）・授業実施日

17日（水） ・薬物乱行防止講演会（1年生）開催

- 演題1／薬物乱用のない社会を目指して
（講師）新潟県警察本部 国際・薬物銃器対策課 小林文之 様
演題2／SNSを利用するための注意事項

(講師) 新潟県警察本部 生活安全部少年課

新潟少年サポートセンター 富田俊輔 様

参加者／1年生1,203名

・こころとからだの健康チェック(1年生)実施

内 容／UPI(大学精神保健調査)およびPHQ9

回答者／1年生(1,168名)

・令和7年度科学研究費説明会開催

参加者／188名(本学154名／事業7名／食農7名／開志10名)

※7/18よりサポート教員18名による申請サポートデスクを設置

19日(金)

・新潟県立小千谷高等学校との高大連携協定式開催

・新潟市立高志中等教育学校との高大連携協定締結式開催※2校合同開催

・第2回高校教諭等対象オープンキャンパス開催(来場型)

内 容／大学・入試説明, 連携教育説明, 在学生座談会, 授業見学等

参加者／6校6名, 累計:29校30名(前年27校29名)

20日(土)

・高校生対象「第1回夏の学校(模擬講義イベント)」開催

参加者／214名(内受験対象学年201名, 前年実施なし)

21日(日)

・【バスケットボール】令和6年度天皇杯・皇后杯新潟県予選会出場

結 果／男子バスケットボール部 優勝

(決勝) 本学83 - 68新潟経営大学

女子バスケットボール部 優勝

(決勝) 本学75 - 65新潟青陵大学

※全日本バスケットボール選手権出場決定

22日(月)～26日(金)

・学食×同窓会×健康栄養学科コラボ企画実施(MoMoCafe)

内 容／健康栄養学科卒業生が考えた美味しく栄養の整ったメニューを同窓会補助により1日50食限定で300円にて提供

27日(土)

・PT・OT・ST対共催「医療福祉求人説明会」開催(オンライン)

施 設／47施設(総合病院, リハビリテーション系病院など)

参加者／165名(理学91名, 作業43名, 言語31名)

28日(日)

・大学院夏のオープンキャンパス開催(オンライン)

参加者／43名(内受験対象学年34名, 前年28名)

29日(月)～8月2日(金)

・前期定期試験(学部・大学院)

31日(水)

・令和6年度科学研究費「研究活動スタート支援」採否通知

結 果／採択4件, 申請13件(前年採択4件, 申請10件)

(令和6年度累計)

採択数:156件(前年137件)

採択額:307,450千円(前年279,500千円)

・CHIBI UNITYとのパートナーシップ協定締結式開催

内 容／2024年4月創部の「エンターテイメントダンス部」の指導・コーディネートを務める, ダンスグループ「CHIBI UNITY」とのパートナーシップ協定を締結.

8月 2日(金)

・強化指定クラブ1年生対象セミナー開催

内 容／強化指定クラブの一員としての帰属意識向上を目的として, 相互の目標・課題についてグループワークを通じて共有

参加者／強化指定クラブ1年生195名

2日（金）～4日（日）

・【水泳】水沼 尚輝 選手 パリ 2024オリンピック出場

結 果／男子100m バタフライ 決勝 8位

男子400mメドレーリレー（第3泳）14位（予選敗退）

3日（土）・新潟医療福祉大学主催「第1回レシピコンテスト」最終審査会開催

内 容／高校生を対象に「大切な人へのランチ」をテーマに“医療・福祉”“学校・行政”“アスリート”の3分野でレシピを公募

後 援／新潟県教育委員会，新潟県福祉保健部健康づくり支援課，新潟市食と花の推進課，新潟日報社

応募者／22組31名（内高3生9組13名）

結 果／最優秀賞1名，分野別最優秀賞各1名，審査員特別賞1名，イタリア軒賞1名，新潟食料農業大学賞1名

3日（土）～4日（日）

・来場型オープンキャンパス開催

参加者／1,775名（内受験対象学年789名，前年895名）

※本年度は8月OCを2期間で開催。次回は8/24開催。

3日（土）～18日（日）

・WEBオープンキャンパス開催

参加者／465名（内受験対象学年291名，前年518名）

5日（月）・大学休業日

6日（火）・高大医連携プロジェクト「チーム医療体験会」開催

内 容／具体的な症例を基に，高校ならびに目指す専門職が異なる生徒による混成グループを結成し，多職種連携による支援策についてディスカッションし検討結果を発表する。

参加者／7校133名，高校教員12名

7日（水）・管理職者対象メンタルヘルス講習開催（オンライン）

内 容／大人の発達障がいの理解と関わり～部下や同僚への対応～

講 師／北海道医療大学 金澤潤一郎 准教授

対象者／学長，副学長，学部長，学科長等の教育職員管理職および事務局管理職者

7日（水）～9日（金）

・【ダンス】第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル出場

結 果／特別賞（クロスカルチャーへの新しい挑戦）受賞

・個別大学見学会・入試相談会（ウィークI）開催

内 容／希望に応じて個別相談，入試対策，施設見学等を実施

参加者／10名（内受験対象学年4名，前年実施なし）

8日（木）～18日（日）

・【テニス】2024年全日本学生テニス選手大会出場

結 果／男子シングルス4名，女子シングルス3名 初戦敗退

男子ダブルス1組，女子ダブルス2組 初戦敗退

9日（金）・男子サッカー部員Jリーグ入団内定記者会見開催

氏 名／松本 天夢（健康スポーツ学科4年）

内定先／Vファーレン長崎（J2）

・豊栄公民会主催「サタデイキッズ～夏休み特別編」開催

会 場／新潟医療福祉大学

内 容／地域の小学生を対象に栄養・スポーツに関する体験を実施
参加者／小学生（４年生～６年生）34名、引率3名

10日（土）～18日（日）

・夏季休暇期間

12日（月）～14日（水）

・【陸上】第46回北日本学生陸上競技対抗選手権大会出場

結 果／男子総合優勝（トラック2位、フィールド優勝）

女子総合優勝（トラック優勝、フィールド優勝）

18日（日）～9月1日（日）

・県外出張個別相談会開催

内 容／新潟県外の9都県14都市のホテル等での個別相談会

参加者／35名（内受験対象学年30名、前年実施なし）

19日（月）～21日（水）

・前期定期試験 追・再試験期間（学部・大学院）

19日（月）～31日（土）

・個別大学見学会・入試相談会（ウィークⅡ）開催

内 容／希望に応じて個別相談、入試対策、施設見学等を実施

参加者／30名（内受験対象学年25名、前年実施なし）

19日（月）～9月20日（金）

・夏季集中講義期間

20日（火）・高大医連携プロジェクト「病院見学・体験会」開催

内 容／医療職を目指す連携協定校生徒を対象に病院見学を実施

参加者／小千谷高等学校 3年生5名

見学先／JA新潟厚生連 小千谷総合病院

20日（火）～25日（日）

・【女子野球】第14回全日本大学女子硬式野球選手権大会出場

結 果／予選リーグBグループ 1勝2敗（予選敗退）

※予選4グループの各上位2チームが決勝リーグ進出

21日（水）・ハラスメント相談員対象研修開催

内 容／ハラスメント相談時の対応や注意事項の具体的な説明

参加者／32名（ハラスメント相談員および人権委員）

21日（水）～23日（金）

・視機能科学科主催「夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学」開催

内 容／手作りカメラを作ってみよう、望遠鏡を作ってみよう など

参加者／児童生徒79名、保護者等49名

21日（水）～27（火）

・【テニス】令和6年度北信越学生テニス選手権大会（予選）出場

予選突破／（男子）シングルス8名、ダブルス3組

（女子）シングルス2名、ダブルス2組

※9/2-9/7開催の本戦出場

23日（金）・【水泳】水沼 尚輝 選手 パリ 2024オリンピック出場報告会開催

出席者／水沼 尚輝（本学職員）100mバタフライ8位入賞

松浦 由生子（健康スポーツ学科講師）代表トレーナー

下山 好充（健康スポーツ学科教授）本学水泳部監督

報 道／8社（新潟日報、日刊スポーツ、スポニチ、NHK、UX、TeNY、NST、BSN）

- ・大学院広報イベント「教えて大学院」追加開催（オンライン）
内 容／インターネット出願、学費サポートに関する説明
参加者／13名（内受験対象学年12名、前年15名）
- ・第1回教員交流セミナー開催
内 容／入職3年以内の教員を対象とした交流会
参加者／40名（教授6名、准教授3名、講師11名、助教・助手20名）
- ・教職員納涼会開催（ホテルイタリア軒）
- 24日（土）・高校生対象「第2回夏の学校&入試説明会」開催
参加者／284名（内受験対象学年279名、前年実施なし）
- ・新潟医療福祉大学男子サッカー部「第2回サッカー教室」開催
内 容／幼児・小学生・中学生を対象に年代別に3カテゴリーに分かれて、本学男子サッカー部員、監督、コーチ陣が指導
参加者／約100名
- 26日（月）・男子サッカー部員Jリーグ入団内定記者会見開催
氏 名／秋元 琉星（健康スポーツ学科4年）
内定先／ザスパ群馬（J2）
- 26日（月）～30日（金）
 - ・連携総合ゼミ（4年生選択科目）開講
内 容／他学科・他大学の学生が混成チームを編成し、8つの仮想症例に基づき、多職種間連携による支援策を検討・発表。
受講者／合計76名
本学（学部・大学院）57名、新潟薬科大学3名、新潟リハビリテーション大学9名、日本歯科大学新潟短期大学2名、中山医学大学（台湾）4名、セブ医科大学（フィリピン）1名
- 27日（火）・令和6年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定
概 要／各大学等が取り組む数理・データサイエンス・AIに関する教育プログラム（正規の課程）の中で優れたプログラムを政府が認定する制度に申請し認定された。
認定区分／リテラシーレベル（学生の関心を高め基礎的な能力を育成）
※応用基礎レベル（課題を解決するための実践的な能力を育成）もあり
- ・JSC「ハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク機関」指定
概 要／地域のスポーツ医・科学、情報サポートの推進を目的に、（独）日本スポーツ振興センター（JSC）のハイパフォーマンススポーツセンターが大学等と連携する“HPSCネットワーク”に連携機関として申請し採択された。
採択区分／アスリート支援（FAAB）※
※JSC又は競技団体等からの依頼に基づき、指定された基準・方法により、アスリートに対して姿勢チェック（FAAB）を実施する機関。
- 28日（水）・新潟医療福祉大学 健康栄養学科収容定員に係る学則変更認可
年 度／2025年4月
定 員／入学定員： 40名 から 80名に増員
収容定員：160名 から320名に増員
- 28日（水）～30日（金）
 - ・【卓球】第70回夏季北信越学生卓球選手権大会出場
（兼 全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）北信越地区予選）
結 果／男子団体4位、女子団体3位

男子ダブルス ベスト16 3組

女子シングルス ベスト16 1名

30日(金) ・大学院広報イベント「第3回教えて大学院」開催(オンライン)

内 容／作業療法学分野, 健康スポーツ学分野の紹介

参加者／8名(内受験対象学年4名, 前年5名)

・文部科学省 高等教育の修学支援新制度の対象機関公表

内 容／令和6年度の審査結果が公表され, 引き続き本学が対象大学となることが文科省ホームページに掲載.

31日(土)～9月16日(日)

・WEBオープンキャンパス開催

参加者／開催中

9月 2日(月) ・大学休業日

2日(月)～6日(金)

・新潟県国際交流推進基金助成事業に基づく短期留学生の受入

内 容／海外の学生を招聘し, 保健・医療・福祉に関する講義および病院・福祉施設の
見学, 日本文化体験等の実施

参加者／サント・トマス大学(フィリピン) 3名+引率1名

ハイズオン医療技術大学(ベトナム) 3名+引率1名

ハサスディン大学(インドネシア) 3名+引率1名

2日(月)～7日(土)

・【テニス】令和6年度北信越学生テニス選手権大会(本戦)出場

結 果／(男子)シングルス優勝, ダブルス優勝

(女子)シングルス準優勝, ダブルス優勝

3日(火) ・交通安全無事故の誓い開催

内 容／過去の交通事故を教訓に全学で無事故を誓う

出席者／学長, 副学長, 交通安全委員長他, 学生・教職員 約40名

4日(水)～15日(日)

・【男子サッカー】第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場

結 果／出場中(3回戦突破し9/12準決勝, 9/15決勝)

5日(木) ・9月卒業判定会議(大学院の9月修了者はなし)

対象者／14名(作業7名, 言語2名, スポーツ4名, 医情1名)

結 果／14名全員の9月卒業を承認

5日(木)～8日(日)

・【水泳】第100回日本学生選手権水泳競技大会(全日本インカレ)出場

結 果／男子1500m自由形 本山 空(健康スポーツ学科4年) 3位

女子50m自由形 篠塚 聖妃(健康スポーツ学科3年) 5位

女子4×100mフリーリレー(上垣・篠塚・原田・永尾) 7位

6日(金) ・9月卒業者発表

9日(月) ・アスリート×企業交流イベント開催

主 催／新潟スポーツ医・科学コンソーシアム, 本学アスレチックデパートメント推進
機構

対 象／指定強化クラブ女子部員

企 業／ヨネックス株式会社, 株式会社ワコールホールディングス, オンヨネ株式会社,
田村義肢製作所

内 容／企業プレゼン・展示ブースを通じて障害予防やパフォーマンス向上, キャリア

支援に繋げる

- 9日（月）～13日（金）
- ・連携基礎ゼミ（2年生）
- 12日（木）
- ・強化クラブ部員対象 就職活動スタートダッシュセミナー開催
講 師／株式会社スポーツフィールド
対 象／強化クラブ所属の3年生
- 14日（日）～16日（火）
- ・【テニス】令和6年度北信越大学対抗テニス王座決定試合出場
結 果／男子団体 優勝（2年連続）
女子団体 優勝（初優勝）
※男女ともに全日本大学対抗テニス王座決定試合出場権獲得
- 15日（月）
- ・【男子サッカー】第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 決勝出場
結 果／準優勝（本学 1 - 2 阪南大学）
※冬のインカレ出場権獲得
- 16日（火）
- ・【女子サッカー】皇后杯第46回全日本女子サッカー大会 決勝出場
結 果／優勝（本学 5 - 0 FC越後妻有）
※4年振りとなる皇后杯全日本女子サッカー選手権出場権獲得
- 18日（水）
- ・9月卒業式挙行
卒業生／15名（作業療法学科7名，言語聴覚学科2名，健康スポーツ学科4名，医療情報管理学科1名）
※大学院の9月修了生はなし
 - ・令和7年度科学研究費助成事業申請
申請数／180件（前年164件）
 - ・NUHW・NAFU共催 研修支援SD開催（オンライン）
テーマ／URAの仕組みづくりと研究マネジメント人材育成
講 師／関西大学 本部URA 舘 正一氏（上級リサーチコーディネーター）
参加者／78名（学内関係者63名，学外関係者15名）
- 19日（木）
- ・秋の職員会（SD研修）実施
テーマ／生成AIの活用法および業務効率化
講 師／日本マイクロソフト株式会社 技術統括室 千葉 慎二氏
参加者／全職員
- 19日（木）～22日（日）
- ・【陸上】天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会出場
結 果／3種目で優勝 ※複数種目の優勝は創部初
（主な成績）

男子砲丸投げ	渡辺 豹牙（健康スポーツ学科2年）優勝
男子円盤投げ	北原 博企（健康スポーツ学科4年）優勝
男子十種競技	田中 廉治郎（大学院1年）優勝
男子走り高跳び	元平 優仁（健康スポーツ学科2年）5位
男子円盤投げ	中町 真澄（大学院1年）5位
女子ハンマー投げ	松尾 葉那（健康スポーツ学科1年）5位
- 20日（金）
- ・大学休業日
- 23日（月・祝）
- ・後期授業開始
- 24日（火）
- ・開志学園高等学校・開志国際高等学校との高大連携協定締結式開催
 - ・大学院広報イベント「第4回教えて大学院」開催（オンライン）

- 内 容／医療技術安全管理学分野，救急救命学分野の紹介
参加者／8名（内受験対象学年1名，前年11名）
- 25日（水） ・【男子サッカー】第48総理大臣杯準優勝 報告会実施
出席者／男子サッカー部 学生23名
佐熊 裕和（監督）
井手口 純（コーチ），佐々木 篤司（GKコーチ）
報 道／4社来場（新潟日報・日刊スポーツ・スポニチ・NST）
- 25日（水）～11月8日（水）
・連携基礎ゼミ「実践行動学Part. II」（2年次必修科目）開講
- 28日（土） ・総合型選抜A方式（主体性重視型）1次試験 志願者数567名
・総合型選抜B方式（基礎教養重視型）1次試験 志願者数536名
志願者合計（実数）567名（前年実績487名）
- 28日（土）～29日（日）
・【水泳】第100回日本選手権水泳競技大会OWS競技出場
結 果／女子10km 永尾 美友（健康スポーツ学科4年）6位
- 10月 2日（水） ・新潟市北区との包括連携協定に基づく包括連携協議会開催
内 容／大学連携「未来のまちづくり事業」事業計画について
- 5日（土） ・大学院修士課程 入学者選抜試験（1次募集） 志願者数51名（前年実績50名）
- 5日（土）～6日（日）
・第1回新潟スポーツケアナース認定講座開催
内 容／所定の講座受講後に実施される試験合格者に認定書を授与
共 催／本学，新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，新潟リハビリテーション病院
会 場／新潟医療福祉大学
参加者／看護師，准看護師等33名
- 5日（土）～14日（月・祝）
・WEBオープンキャンパス開催
参加者／132名（内受験対象学年115名，前年363名）
- 6日（日） ・来場型オープンキャンパス開催
参加者／499名（内受験対象学年245名，前年254名）
- 7日（月） ・【男子野球】関甲信秋季リーグ戦（1部リーグ）最終節
結 果／リーグ戦3位（6勝3敗）
※創部初の関東地区大会（明治神宮大会の関東地区予選）の出場権獲得
- 8日（火） ・大学院広報イベント「第5回教えて大学院」開催（オンライン）
内 容／言語聴覚学分野，自然人類学分野の紹介
参加者／8名（内受験対象学年2名，前年5名）
- 10日（木） ・関東信越厚生局 介護福祉学校指導調査（実地調査）実施
対 象／社会福祉学科
- 12日（土）～13日（日）
・第24回大学祭「伍桃祭」開催
テーマ／黎明 ～ 改革の夜明け ～
来場者／約2,700名（前年3,149名）
- 12日（土） ・QOLサポーターと学生の集い（キャリア支援イベント）開催
内 容／卒業生によるパネルディスカッション
参加者／138名（今年度初開催）
・伍桃祭×同窓会イベント開催

- 内 容／子ども向けプログラム（迷路、塗り絵など）の実施
参加者／261名 ※イベント来場者数
- 13日（日）・新潟県国際交流協会委託事業「国際理解セミナー～アジアから世界を知る～」開催
テーマ／留学生が語る！各国の魅力と文化の違い（タイ・ベトナム・スリランカ）
参加者／21名
- 14日（月・祝）・授業実施日
- 19日（土）・総合型選抜A方式（主体性重視型）2次試験 受験者数496名（前年実績428名）
・3年次編入学選抜（看護） 志願者数1名（前年実績0名）
- 20日（日）・新潟医療福祉大学スポーツフェスタ（スポーツ庁委託事業）開催
※令和6年度スポーツ庁委託事業「感動する大学スポーツ総合支援事業」として実施
内 容／スポーツ遊び体験・運動能力測定を実施
参加者／幼児・小学生および保護者308名
- 23日（水）・図書館イベント「水沼選手と語る会」開催（来場＋オンライン）
内 容／パリ五輪100mバタフライ決勝8位の水沼選手（本学職員）の読書体験（愛読書など）に関する講演
参加者／対面16名＋オンライン15名
・東京出入国在留管理局 教育機関選定結果の通知
結 果／適正校（クラスⅠ）に選定
- 24日（木）～25日（金）
・高大連携勉強会 in 長野（長野市・松本市）開催
内 容／高大医連携の取り組み紹介、連携に向けた個別相談
参加校／（長野会場）8校、（松本会場）2校
- 26日（土）・第24回新潟医療福祉学会学術集会開催
テーマ／認知症を支える産官学連携と地域連携
参加者／167名（演題登録87件）
- 26日（土）～11月3日（日）
・【男子バレー】秋季北信越大学バレーボール選手権大会出場
結 果／決勝トーナメント1回戦敗退
・【女子バレー】秋季北信越大学バレーボール選手権大会出場
結 果／2位（2勝1敗） ※全日本インカレ出場権獲得
- 26日（土）～11月6日（水）
・WEB保護者会開催（オンデマンド型）開催
内 容／大学運営報告、学科別活動報告（実習・国試・就職など）
視聴者／動画再生回数 6,047件（前年5,301回）
- 26日（土）～11月17日（日）
・WEBオープンキャンパス開催
- 27日（日）・【陸上】第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場
結 果／23位（25チーム出場）
- 30日（水）・JASSO「海外留学支援制度（協定受入）」追加採択
内 容／サント・トーマス大学（フィリピン）学生対象の短期留学プログラムの実施
助成額／480,000円
- 30日（水）～11月3日（日）
・【テニス】全日本大学対抗テニス王座決定試合（インカレ団体）出場
結 果／男子団体 2回戦（本学 0 - 9 近畿大学）※2回戦より出場
女子団体 1回戦（本学 3 - 2 北海道大学）

2回戦（本学 0 - 5 早稲田大学）

- 11月 1日（金）・リハビリテーション教育評価機構 教育評価認定審査（実施調査）実施
対 象／作業療法学科，言語聴覚学科（※11/14に理学療法学科）
- 2日（土）・保護者会（来場型）開催
内 容／学長挨拶，上期運営報告，学科別説明会，個別相談 等
参加者／194名（前年未実施）
- ・2024年度 第1回後援会役員会
内 容／上期大学運営報告，同窓会活動報告，意見交換など
参加者／後援会長ほか役員6名
- ・第1回NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催（全6回予定）
※令和6年度スポーツ庁委託事業「感動する大学スポーツ総合支援事業」として実施
内 容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種 目／サッカー（男子サッカー部）
参加者／80名
- ・新潟医療福祉大学 自然人類学研究所 一般開放イベント開催
参加者／119名
- 3日（日）・入試対策講座・個別相談会開催
参加者／70名（内受験対象学年64名，前年開催なし）
- 4日（月・祝）・授業実施日
- ・【男子野球】横浜市長杯争奪第20回関東地区大学野球選手権大会出場
結 果／1回戦敗退（本学 2 - 6 中央学院大学）
- 4日（月・祝）～8日（金）
- ・秋季集中講義期間
- 9日（土）・学内企業等説明会
企 業／NSGホールディングス，愛宕福祉会，はあとふるあたご，リビングギャラ
リー，大光銀行，長岡赤十字病院など39社
参加者／182名（内2名は開志専門職大学学生）
- ・第2回NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催（全6回予定）
内 容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種 目／バスケットボール（男女バスケット部）
参加者／40名
- 9日（土）～10日（日）
- ・女性アスリートセミナー開催
主 催／（一財）新潟陸上競技協会，本学アスレティックデパートメント機構
内 容／競技力向上，男性指導者の理解を深めるための研修
講 師／鍼灸健康学科 高野 道代 講師（スポーツ鍼灸について）
健康スポーツ学科 五十嵐 小雪 助教（月経について）
参加者／約100名（高校生・指導者60名，強化クラブ生40名）
- 10日（日）・【男子サッカー】アスリートエージェントサポーツ北信越大会大学サッカー新人戦 決勝
出場
結 果／優勝（本学 2 - 1 金沢学院大学）
※新人戦全国大会への出場権獲得
- 14日（木）・リハビリテーション教育評価機構 教育評価認定審査（実施調査）実施
対 象／理学療法学科（※11/1に作業療法学科，言語聴覚学科）
- 16日（土）・大学院 秋のオープンキャンパス開催（オンライン）

- ・同窓会連携研修会および同窓会20周年記念パーティー開催
内 容／特別講演会（ゲスト：小藪 千豊 氏），他業種交流 等
会 場／新潟東映ホテル
- ・JSCハイパフォーマンススポーツセンター連携機関「FAAB」指定証書授与式開催
内 容／ハイパフォーマンススポーツセンター連携機関として本学がアスリートの姿勢
チェック機関（FAAB）に採択されたことを受け，指定証書を授与。
会 場／朱鷺メッセ
- ・第3回NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催（全6回予定）
内 容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種 目／陸上競技（陸上競技部）

18日（月）～21日（木）

- ・公務員試験対策講座開講
講 師／新潟公務員専門学校
受講者／8名（救急2名，スポーツ3名，看護1名，福祉2名）

19日（火）

- ・五泉市消防本部 感謝状授与式（五泉市役所市長室）
概 要／8月下旬にJR五泉駅構内で倒れた女性に対し，本学学生1名含む5名が連携・
協力して応急処置を実施。
受章者／臨床技術学科2年生 1名

23日（土）

- ・総合型選抜C方式（スポーツ重視型）前期 志願者数155名
- ・学校推薦型選抜（指定校制） 志願者数321名
志願者合計（実数）476名（前年実績413名）
- ・【女子サッカー】皇后杯JFA第46回全日本女子サッカー選手権大会出場
結 果／1回戦敗退（本学 0 - 4 伊賀FCくノ一三重）

26日（火）～12月1日（日）

- ・【女子バレー】第71回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会出場
結 果／1回戦勝利（本学 3 - 0 四国大学）
2回戦敗退（本学 1 - 3 日本大学）

27日（水）

- ・サルタ大学（アルゼンチン）との国際交流プログラム実施（オンライン）
主 幹／国際交流センター運営委員会
概 要／地域医療を担う人材育成に関するシンポジウムの実施
ゲスト／Silvia Correa教授ほかサルタ大学教員・学生

27日（水）～1月5日（日）

- ・交通安全講習会開催（オンデマンド）
内 容／事故防止および改定道路交通法に関する講習
講 師／新潟北警察署 小酒井交通課長
対 象／全学生

29日（金）

- ・JICA公募事業「草の根技術協力（支援型）」申請
概 要／開発途上国への支援事業を公募し，採択団体にはその活動費を最長3年，1,000
万円を上限にJICAが支援
申請内容／超音波検査による視覚刺激を用いたミクロネシア連邦における生活習慣病対
策の構築
申請額／1,000万円（2025年4月～2028年3月）
- ・公益財団法人古泉財団研究費助成金申請
概 要／新潟県内の大学等に所属する研究者（学部4年生／院生含む）等を対象に，食
に関わる優れた研究を助成

助 成／社会科学系10名程度（1名あたり年額300千円）
自然科学系10名程度（1名あたり年額500千円）
申 請／社会科学系 3名（教員1名，院生2名）
自然科学系 6名（教員1名，学部4年生4名，院生1名）

29日（金）～12月1日（日）

- ・【水泳部】 ジャパンオープン2024（50m）出場
結 果／女子50m背泳ぎ 山崎 光（職員）7位
女子50mバタフライ 秋山 葉名（健康スポーツ学科3年）6位

29日（金）～12月4日（水）

- ・【女子バスケ】 第76回全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）出場
結 果／決勝トーナメント 1回戦敗退（本学65－111桐蔭横浜大学）

30日（土） ・ 総合型選抜D方式（基礎学力重視型） 志願者数147名
・ 学校推薦型選抜（公募制） 志願者数123名
志願者合計（実数）172名（前年実績206名）

30日（土）～12月15日（日）

- ・ WEBオープンキャンパス
参加者／129名（内受験対象学年118名，前年311名）

12月 3日（火） ・ 【女子バレー】 小川真央選手 アランマーレ山形 加入内定発表
選 手／小川真央（健康スポーツ学科4年／オポジット）
内定先／アランマーレ山形（SVリーグ）

4日（水） ・ 【男子野球】 佐藤圭選手 オイシックス新潟アルビレックスBC加入内定発表
選 手／佐藤圭（健康スポーツ学科4年／内野手）
内定先／オイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ

5日（木） ・ 実験動物慰霊祭举行

7日（土） ・ 大学院修士課程 入学者選抜試験（2次募集） 志願者数8名
・ 大学院博士後期課程 入学者選抜試験（1次募集） 志願者数18名
志願者合計（実数）26名（前年実績26名）

- ・ 第4回NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催（全6回）
内 容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種 目／バレーボール（男女バレーボール部）
参加者／36名

- ・ 第5回NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催（全6回）
内 容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種 目／卓球（卓球部）
参加者／28名

7日（土）～8日（日）

- ・ 【ダンス部】 第43回あきた全国舞踏祭モダンダンスコンクール出場
結 果／群舞部門 最優秀群舞賞 受賞

9日（月）～13日（金）

- ・ 中山医学大学（台湾・交流協定校）との国際交流プログラム実施
主 幹／健康栄養学科
概 要／学生・教員を招聘し，授業参加，学生間交流，共同研究等に関する打ち合わせ
を実施
参加者／中山医学大学 栄養学科の学生5名・教員2名

9日（月）～14日（土）

- ・高校生対象個別相談WEEK（大学来場型&出張型）
参加者／10名（内受験対象学年8名，前年実績なし）
- 9日（月）～15日（日）
 - ・【テニス】全日本学生室内テニス選手権大会（インカレ室内）出場
結果／男子シングルス 初戦（予選）敗退
女子シングルス 初戦（予選）敗退
男子ダブルス 初戦（予選）敗退
- 9日（月）～20日（金）
 - ・各種県人会開催
参加者／宮城県人会（16名），群馬県人会（5名），佐渡支部会（17名），
長野県人会（13名），福島県人会（22名），北陸圏人会（13名），
山形県人会（25名），秋田県人会（28名），沖縄県人会（8名）
- 10日（火）
 - ・新潟市江南消防署 消防協力者表彰にて本学学生が感謝状を授与
概要／3月20日の新潟ハーフマラソン中に発生した救急事案にて本学学生が一次救命処置を行い，医師・救急隊へ引継いだ。
受賞者／救急救命学科5名（3年生1名，4年生4名）
贈呈式／新潟市江南消防署
- 11日（水）
 - ・2024年度挨拶・マナー活動優秀作品授賞式開催
主催／学生委員会
受賞作／挨拶促進部門優秀賞 「あいさつは人と人との 架け橋に」
マナー向上部門優秀賞「忘れずに 互いを想う 心がけ」
交通安全部門優秀賞 「1 限目 急ぐ心が 事故の元」
- 13日（金）～15日（日）
 - ・【テニス】令和6年度北信越学生室内テニス選手権大会出場
結果／女子シングルス 成海 世季（心理健康学科1年）優勝
- 14日（土）
 - ・第6回NUHWアカデミー（スポーツ庁委託事業）開催（全6回）
内容／北区中学生を対象とした本学強化部員によるスポーツ教室
種目／ダンス（ダンス部）
参加者／9名
 - ・南浜地区青少年育成協議会クリスマスの集いin新潟医療福祉大学開催
内容／本学を会場に地域の子供達とのクリスマス会を実施
参加者／小学生56名・保護者74名，学生スタッフ10名
- 16日（月）
 - ・南浜小学校3年生・4年生校外学習の受入
内容／施設見学，レクリエーション，学食体験など
参加者／22名（3年生6名，4年生16名），学生スタッフ7名
- 18日（水）
 - ・【女子サッカー】なでしこリーグ2025シーズン加入内定記者会見開催
大原和夏（健康スポーツ学科4年／MF） ASハリマアルビオン
木村華恋（健康スポーツ学科4年／FW） バニーズ群馬FC ホワイトスター
森口莉子（健康スポーツ学科4年／DF） 朝日インテック・ラブブリッジ名古屋
 - ・人権委員会主催 ハラスメント防止セミナー実施（オンライン）
テーマ／教職員会のハラスメント防止
講師／名川・岡村法律事務所
参加者／273名（未参加者175名はオンデマンド対応）
 - ・教職員忘年会開催（ホテルイタリア軒）
- 19日（木）
 - ・学友会主催クリスマスビンゴ大会開催

- 参加者／学生 398 名
- 21 日（土） ・ 総合型選抜 C 方式（スポーツ重視型）後期 志願者数 13 名
 ・ 総合型選抜 E 方式（キャリアビジョン重視型） 志願者数 24 名
 志願者合計（実数） 37 名（前年実績 18 名）
 ・ 3 年次編入学選抜（スポーツ／福祉／医療情報） 志願者数 5 名（前年実績 1 名）
- 24 日（火） ・ 大学院広報イベント「第 6 回教えて大学院」開催（オンライン）
 内 容／理学療法学分野の紹介
 参加者／10 名（内受験対象学年 6 名，前年 5 名）
 ・ 【女子バレー】 坂本悠綺選手 カノアラウレアーズ福岡 加入内定発表
 選 手／坂本悠綺（健康スポーツ学科 4 年／アウトサイドヒッター）
 内定先／カノアラウレアーズ福岡（Vリーグ）
- 24 日（火）・26 日（木）
 ・ 【女子サッカー】 第 33 回全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）出場
 結 果／1 回戦勝利（本学 3 - 2 仙台大学）
 2 回戦敗退（本学 0 - 3 東洋大学）
- 25 日（水） ・ 令和 6 年度科学研究費配分状況（文科省公表）
 採択数／156 件（前年 137 件）
 配分額／307,450 千円（前年 279,500 千円）
 備 考／採択数 私大 37 位（前年 46 位），配分額 同 37 位（前年 52 位）
 スポーツ科学，体育，健康科学およびその関連分野※全国 3 位（前年 4 位）
 ※過去 5 年間の新規採択の累計数
 ※1 位筑波大学，2 位順天堂大額，3 位本学，4 位東京大，5 位京都大学
- 27 日（金） ・ 年内授業最終日
- 28 日（土） ・ 【男子サッカー】 第 73 回全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）決勝出場
 結 果／準優勝（本学 0 - 1 東洋大学）
- 28 日（土）～1 月 5 日（日）
 ・ 冬季休暇期間
- 1 月 1 日（水）～19 日（日）
 ・ WEB オープンキャンパス（開催中）
- 11 日（土） ・ 2025 年度入学予定者対象スクーリング開催
 対 象／年内入試合格者
 内 容／全体会：入学前学習の重要性や大学生活の過ごし方等
 学科別：教員，在校生とのコミュニケーションの場
 参加者／982 名（前年 924 名）
- 17 日（金） ・ 大学封鎖日（大学入学共通テスト準備日）
- 18 日（土）～19 日（日）
 ・ 大学入学共通テスト（試験会場）実施
- 21 日（火） ・ 大学休業日
- 22 日（水） ・ 教職員対象交通安全講習会開催（オンライン）
 講 師／新潟北警察署 交通課係長
 対 象／全教職員
- 23 日（木）～29 日（水）
 ・ 後期定期試験実施（学部・大学院）
- 24 日（金）～26 日（日）
 ・ 【水泳】 KOSUKE KITAJIMA CUP2025 出場

- 結 果／50m バタフライ 水沼尚輝（職員） 4 位
100m バタフライ 水沼尚輝（職員） 3 位
- 25 日（土） ・ 大学院冬のオープンキャンパス開催（オンライン）
参加者／10 名（内受験対象学年 5 名）， 前年実績 13 名
・ アルビレックス新潟トレーナーとの鍼灸トークセッション開催
内 容／スポーツ領域における鍼灸師の認知拡大を目的に， アルビレックス新潟トップ
チームトレーナー 4 名と本学鍼灸健康学科粕谷学科長等による情報交換会を開催
- 26 日（日） ・ 介護福祉士国家試験受験（社会福祉学科）
- 27 日（月） ・ FD・SD セミナー開催（オンライン）
テーマ／北区連携事業「心も体も健幸プロジェクト」の紹介
参加者／27 名（教員 23 名， 職員 4 名）
- 2 月 1 日（土） ・ 精神保健福祉士国家試験受験（社会福祉学科）
1 日（土）～16 日（日）
・ WEB オープンキャンパス開催
参加者／44 名（内受験対象学年 38 名）， 前年 99 名
- 2 日（日） ・ 社会福祉士国家試験受験（社会福祉学科）
- 3 日（月） ・ UNIVAS AWARDS 2024・2025 入賞者発表
※ 3/3 表彰式にて最優秀賞が発表
優秀賞／コーチ・オブ・ザ・イヤー：男子サッカー部 佐熊 裕和 監督
安全安心環境構築優秀取組賞：アスリートサポート研究センター
大学スポーツ組織運営優秀取組賞：事務局スポーツ振興室
入 賞／マン・オブ・ザ・イヤー：田中廉治郎（陸上競技部/修士 1 年）
ウーマン・オブ・ザ・イヤー：エバサカテレサ（陸上競技部/修士 2 年）
ルーキー・オブ・ザ・イヤー：小川舞（女子硬式野球部/健康スポーツ学科 1 年）
サポーティング・スタッフ・オブ・ザ・イヤー：古山夏帆（ダンス部/修士 1 年）
デュアルキャリア形成支援優秀取組賞：AD 人材育成部
大学スポーツプロモート優秀取組賞：男子サッカー部
- 4 日（火）～5 日（水）
・ 一般選抜試験（前期日程） 志願者数 655 名
・ 大学入学共通テスト利用選抜（前期日程） 志願者数 780 名
志願者合計（実数） 1,022 名（前年実績 1,103 名）
- 6 日（木） ・ 強化指定クラブ学生対象セミナー開催
内 容／① コンプライアンス研修（2 年生） 参加者 194 名
② キャリアセミナー（3 年生） 参加者 125 名
③ リーダーシップ能力開発研修（幹部学生） 参加者 56 名
- 6 日（木）～10 日（月）
・ 後期定期試験 追・再試験期間（学部・大学院）
- 7 日（金） ・ 第 3 回 燕三条医工連携デザインコンペティション決勝大会出場
概 要／医療福祉現場で使用されている様々なモノの課題を解決することをテーマに優れたデザインを表彰する学生コンペ
出場者／新潟医療福祉大学と開志専門職大学の合同チーム
義肢装具自立支援学科 村山講師ゼミ学生（3 年生 2 名）
開志専門職大学情報学部 小野山教授ゼミ生（3 名）
結 果／グランプリ受賞

- テーマ／膝関節に不安定性を呈する脳卒中患者の治療デバイスの開発
- ・ 2024年新潟市スポーツ協会スポーツグランプリ表彰式
受賞者／水沼 尚輝 選手（職員）スポーツグランプリ受賞
 - ・ 2025年度古泉財団研究助成金審査結果通知
採 択／自然科学系1名（院生1名）※前年1名
社会科学系2名（教員1名，院生1名）※前年3名
- 8日（土） ・ 大学院修士課程 入学者選抜試験（3次募集） 志願者数10名
志願者合計（実数）10名（前年実績6名）
- 12日（水） ・ 文部科学省 令和6年度私立大学等改革総合支援事業選定結果発表
結 果／タイプ2（特色ある高度な研究の展開）
42点にて選定／特別補助として約20,000千円交付予定
（申請120大学中45大学が選定/選定率38%/選定点40点）
タイプ3（地域社会の発展への貢献）
45点にて選定／特別補助として約600千円交付予定
（申請208大学中46大学が選定/選定率22%/選定点41点）
- 13日（木） ・ 助産師国家試験受験（看護学科）
- 14日（金） ・ 保健師国家試験受験（看護学科）
・ 新潟市北区との意見交換会開催
内 容／北区内各地域コミュニティとの交流を深め，地域課題の共有や解決策の検討を
行うことを目的として，大学の地域活動や学生の取り組み等について紹介し，
意見交換を実施
出席者／（北 区）副区長，北区内全コミュニティ協議会など24名
（本 学）副学長，社会連携推進部長，学生部長など
・ 【スノーボード】第37回全日本学生スノーボード選手権大会出場
結 果／男子スノーボードクロス 室 竜矢（健スポ1年）2位 ※開志国際高校出身
- 15日（土） ・ 言語聴覚士国家試験受験（言語聴覚学科）
- 16日（日） ・ 看護師国家試験受験（看護学科）
- 17日（月） ・ 大学休業日
- 18日（火） ・ 学部卒業判定会議開催
結 果／卒業対象者 1,091名のうち1,085名の卒業を認定
内 訳／理学療法学科 115名 作業療法学科 41名，
言語聴覚学科 33名 義肢装具自立支援学科 32名，
臨床技術学科 100名 視機能科学科 41名，
救急救命学科 53名 診療放射線学科 84名，
健康栄養学科 38名 健康スポーツ学科 244名，
看護学科 104名 社会福祉学科 108名，
医療情報管理学科 92名
- 19日（水） ・ 臨床検査技師国家試験受験（臨床技術学科）
・ 2025年度転部転科選考試験合否判定実施
結 果／合格者12名（志願者12名）
- 20日（木） ・ 診療放射線技師国家試験受験（診療放射線学科）
・ 視能訓練士国家試験受験（視機能科学科）
・ 学部卒業発表
・ 大学院修了判定会議開催
結 果／修士課程 対象者55名のうち53名の修了を認定

博士後期課程 対象者13名のうち13名の修了を認定

- 21日（金） ・義肢装具士国家試験受験（義肢装具自立支援学科）
- 22日（土） ・令和6年度新潟市北区スポーツ協会 優秀競技者等表彰式
受賞者／優秀指導者賞1名（陸上競技部：小林志郎監督）
特別賞1名（水泳部：水沼尚輝）
最優秀競技者賞5名
優秀競技者賞4名・8団体
- 22日（土）～3月2日（日）
・WEBオープンキャンパス開催（新3年生向け）
参加者／23名（内新3年生20名，前年73名）
- 24日（月） ・理学療法士国家試験受験（理学療法学科）
・作業療法士国家試験受験（作業療法学科）
- 25日（火） ・新4年生対象 学科別オリエンテーション実施（オンデマンド）
- 25日（火）～3月1日（日）
・高校生対象個別相談WEEK開催
参加者／1名（内受験対象学年1名），前年未開催
- 26日（水） ・大学院修了者発表
- 27日（木） ・高大連携協定校情報交換会開催
内 容／各連携校での取り組み内容の共有と課題の吸い上げによる高大連携の充実化を
目的に，各校での取り組み内容を紹介するとともに，今後の取り組み等につい
て高校教員と本学教職員による意見交換会を初開催
参加校／会場参加4校（高志中等，新潟西，新津，三条東）
オンライン参加4校（万代，新潟東，開志学園，山形学院）
・学内個別企業説明会
企 業／デンカ㈱五泉工場，東日本旅客鉄道㈱，丸文通商㈱ など
参加者／13名（3年13名）
- 28日（金） ・令和7年度科学研究費助成事業（科研費）新規採択結果通知
申 請／164件（今回発表分）
採 択／54件，採択率32.9%（前年最終55件，採択率31.4%）
受入額／約330,000千円（見込）（前年最終307,450千円）
※未発表分（挑戦的研究等）については7月中旬頃発表予定
- 3月 1日（土） ・出張型ミニオープンキャンパス開催（新3年生対象）
会 場／新潟市，長岡市，上越市
参加者／15名（内新3年生14名），前年未開催
- 2日（日） ・臨床工学技士国家試験受験（臨床技術学科）
・管理栄養士国家試験受験（健康栄養学科）
- 3日（月） ・UNIVAS AWARDS 2024-2025 表彰式（最優秀賞発表）
結 果／安全安心環境構築部門にて最優秀賞受賞（2年連続2回目）
受賞者／アスリートサポート研究センター
- 3日（月）～5日（水）
・仕事・学科体験イベント開催（新3年生対象）
内 容／リハビリ・検査・心理・福祉・情報分野の体験，連携総合ゼミの授業見学，強
化指定クラブ見学，個別相談など
参加者／32名（内新3年生24名），前年未開催
- 3日（月）～7日（金）

- ・連携総合ゼミ開講（3年生）
履修者／124名（前年89名）
- 3日（月）～4月8日（火）
 - ・学修支援センター「新入生対象スタートアップセミナー」開催
内 容／高校の理数系科目の動画，修学アドバイス動画等を公開
- 4日（火）
 - ・一般選抜試験（後期日程） 志願者数44名
 - ・大学入学共通テスト利用選抜（後期日程） 志願者数69名
 - 志願者合計（実数）95名（前年実績67名）
- 6日（木）
 - ・健康データサイエンス学科（仮称）設置認可申請書を文部科学省に提出
設置年度／2026年4月（2025年8月認可予定）
入学定員／45名（収容定員180名）
学 位／学士（健康データサイエンス学）
- 8日（土）
 - ・大学院修士課程 入学者選抜試験（4次募集） 志願者数4名
 - ・大学院博士後期課程 入学者選抜試験（追加募集） 志願者数4名
 - 2024年度出願総数94名（前年実績87名）
- 9日（日）
 - ・救急救命士国家試験受験（救急救命学科）
- 10日（月）
 - ・大学休業日
- 10日（月）～11日（火）
 - ・第28回学生トレーナーの集い開催（本学主管校）
内 容／シンポジウムやグループワーク等による交流・情報交換
参加者／全国の大学・専門学校から31団体230名
- 14日（金）
 - ・総合型選別 面接重視型（追加実施） 志願者数10名
 - 志願者合計（実数）10名（前年実績1名）
 - 2024年度出願総数2,379名（前年実績2,291名）
 - ・【男子サッカー】Jリーグ入団内定発表
 - ①細井 響（健康スポーツ学科3年）／横浜FC（J1）
 - ②吉田 晃盛（同3年）／ギラヴァンツ北九州（J3）
- 18日（火）
 - ・健康栄養学科定員増に係る実地調査実施（関東信越厚生局）
対 象／専用教室（G棟3階，Q棟3階，V棟2階・3階）
共用講義室（D棟/IA棟/Q棟/U棟/V棟）
- 19日（水）
 - ・2024年度卒業式・大学院修了式举行
会 場／朱鷺メッセ
卒業生／学部生1,085名，修士課程53名，博士後期課程13名
来場者／2,316名（卒業生・保護者・来賓・教職員）
- 20日（木・祝）
 - ・高大連携イベント「チーム医療体験会」開催
対 象／高大連携校の生徒
内 容／モデル症例に対する支援方法について，自身が希望する専門職の立場でグループワークを通じてチーム医療を体験
参加者／117名（新3年生89名，新2年生28名），前年24名
 - ・第2回後援会役員会開催
報 告／2024年度事業報告
審 議／2024年度後援会収支決算書（案），2025年度後援会収支予算書（案），2025年度後援会役員（案）
出席者／後援会長，副会長，監査ほか役員計5名
- 20日（木・祝）～23日（日）

- ・【水泳】第100回日本選手権水泳競技大会出場（兼 国際大会代表選考会）
 結 果／男子100m バタフライ 水沼 尚輝（職員） 2 位
 ▶ 世界選手権2025（シンガポール）日本代表に内定
 女子50m バタフライ 秋山 栞名（健康スポーツ学科3年） 5 位

21 日（金）～23 日（日）

- ・【陸上競技】2025世界室内陸上競技選手権大会出場
 結 果／男子走高跳び 長谷川 直人（本学職員／アルビRC） 7 位

24 日（月） ・新3年生オリエンテーション実施

25 日（火） ・新2年生オリエンテーション実施

30 日（日） ・春の来場型オープンキャンパス開催

- ・大学院春の来場型オープンキャンパス開催

5. 管理運営

1) 総務会

総務会構成員

西澤正豊学長，大山峰生教育担当副学長，大西秀明研究・産官学連携担当副学長，西原康行社会連携担当副学長兼同窓会・生涯学修担当副学長兼健康科学部長，佐藤大輔医療福祉学研究科長，大石如香リハビリテーション学部長兼言語聴覚学科長，笠原敏文医療技術学部長，宇田優子看護学部長兼看護学科長，山本裕二心理・福祉学部長兼心理健康学科長，稲葉晋医療経営管理學部長，児玉直樹医療福祉学専攻長兼診療放射線学科長，椿淳裕理学療法学科長，能村友紀作業療法学科長，佐藤成登志義肢装具自立支援学科長，粕谷大智鍼灸健康学科長，渡邊博昭臨床技術学科長，前田史篤視機能科学科長，竹井豊救急救命学科長，永井徹健康栄養学科長，佐藤敏郎健康スポーツ学科長，佐藤洋社会福祉学科長，木下直彦医療情報管理学科長，小野哲之法人常務理事兼法人事務局長，森常不法人事務局次長兼大学事務局長

(事務局) 矢田広視法人企画部長兼法人総務部長，斎藤佳昭法人経理部長，本間智之法人人事部長，片岡昇総務部長，石黒拓行経理部長，船山諭人事部長，木原亨学務部長兼大学院・国際交流課長，笹川克己入試広報部長兼広報課長兼IR室長，渋谷友之総務部総務課長，大竹宏総務部社会連携推進課長兼研究支援課長，栗田司総務部こども園事業推進室長，本間香織経理部経理課長，前田華子人事部人事課長，吉田俊雄学務部教務課長，風間篤史学務部学生課長，中田香織学務部キャリア開発室長，山口和朗入試広報部入試課長，船山澄子図書館・学修支援課長，南俊之スポーツ振興室長

主な審議事項および決定事項等

(1) 方針・計画について

- ・将来計画中期目標・中期計画（2021-2025年度）アクションプラン（2024-2025年度）の承認
- ・内部質保証方針の改正について
- ・内部質保証推進委員会の設置について
- ・バイオセーフティ管理に関する安全衛生委員会答申について
- ・毒物・劇物管理委員会名から化学物質管理委員会への委員会名変更について
- ・2024年度新潟医療福祉大学各種委員会体制の更新について
- ・2024年度新潟医療福祉大学組織図の更新について
- ・STEPSのS2の英語表記変更の承認
- ・STEPSの日本語・英語表記変更の承認
- ・新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科定員増の認可について
- ・JIHEE評価基準に基づく内部質保証チェックリストおよび対応，工程表の承認
- ・STEPSの日本語表記変更の承認
- ・【4年制】アセスメントプランの承認
- ・【4年制】アセスメントプランに基づく内部質保証の承認
- ・【4年制】アセスメントプランの運用計画の承認
- ・【4年制】教育にかかわる内部質保証の承認
- ・自己点検・評価に関する基本方針の承認
- ・自己点検・評価の公表および未達成アクションプランに対する対応について
- ・中期計画・アクションプランの目標設定について
- ・健康データサイエンス学科（仮称）設置の承認
- ・機構英語表記の承認
- ・教育研究組織編成方針の承認
- ・教育研究組織図の承認
- ・意思決定に関する組織図の承認
- ・FD・SDに関する基本方針の承認

- ・知的財産ポリシー，利益相反ポリシー制定の報告
 - ・NSGグループ5病院とパートナーシップ協定締結について
 - ・中教審大学分科会審議状況「情報公表に関する制度改正について（学校教育法施行規則改正）」について
- (2) 学則・規程について
- ・大学院の質保証委員会規程制定の承認
 - ・動物実験関連規程改定の承認
 - ・URA推進委員会規程制定の承認
 - ・学術委員会規程改定の承認
 - ・内部質保証推進委員会規程制定の承認
 - ・副学長連絡会規程制定の承認
 - ・名誉教授規程および名誉教授の選考基準に関する内規改定の承認
 - ・「学習」の表記変更に係る規定改正の承認
 - ・自己点検・評価委員会規程改定の承認
 - ・高等教育推進センター規程改定の承認
 - ・大学院の質保証委員会規程改定の承認
 - ・知的財産関連規程改定の承認
 - ・教育・学生支援機構規程改定の承認
 - ・学生表彰規程改定の承認
 - ・事務組織規程改正の承認
 - ・化学物質管理委員会名称変更に伴う毒物・劇物関連規程改定の承認
 - ・入試委員会内部質保証体制および入試委員会規程改定の承認
 - ・特待生規程改定の承認
 - ・介護福祉士養成課程規程改定の承認
 - ・就職センター名称変更および規程の改定について
 - ・就職センター運営委員会名称変更および規程改定の承認
 - ・高大連携に関する科目履修生規程制定の承認
 - ・大学院教育研究環境委員会規程改定の承認
 - ・2026年度健康データサイエンス学科設置に伴う学則変更の承認
 - ・大学学則変更の承認
 - ・総務会規程改定の承認
 - ・教授会規程改定の承認
 - ・大学院委員会規程改定の承認
 - ・研究科委員会規程改定の承認
 - ・内部質保証推進委員会規程改定の承認
 - ・広報委員会規程改定の承認
 - ・学生委員会規程改定の承認
 - ・学位規程改定の承認
 - ・卒業認定に関する規程制定の承認
 - ・9月卒業規程改定の承認
 - ・授業科目の履修認定，試験及び成績評価に関する細則改定の承認
 - ・児童厚生1級指導員資格養成課程規程制定の承認
 - ・研究倫理規程制定の承認
 - ・動物実験実施規程改定の承認
 - ・学生懲戒諮問委員会諸規程等の改廃の承認
 - ・人を対象とする研究倫理規程制定の承認

- ・ 倫理審査委員会規程改定の承認
 - ・ 安全保障輸出管理規程制定の承認
 - ・ 学生の課外活動支援に関する規程制定の承認
 - ・ 安全衛生委員会規程改定の承認
 - ・ 大学院入試広報委員会規程制定の承認
 - ・ 大学院教務委員会規程について
 - ・ 利益相反マネジメント規程改定の承認
- (3) 制度・組織・人事・業績・評価について
- ・ リサーチ・アシスタントの採用の承認
 - ・ 教員選考委員会設置の承認
 - ・ 教員選考委員会審査結果の承認
 - ・ 教職員海外出張報告
 - ・ 業績評価スケジュールについて
 - ・ 臨床教授等候補者選考委員会設置の承認
 - ・ 客員教授の称号付与の承認
 - ・ 外国人客員研究員受入の承認
 - ・ 臨床教授等の称号付与審査結果の承認
 - ・ 名誉教授称号付与の承認
 - ・ 2024年度教員短期留学の公募の承認
 - ・ 2024年度教員短期留学の承認について
 - ・ 名誉教授授与式について
 - ・ 教職員納涼会について
 - ・ 教職員忘年会について
 - ・ 2024年度再任審査委員会報告の承認
 - ・ 2024年度再任審査の承認
 - ・ 2025年度TA・ATA公募の承認
 - ・ 2025年度年間予定表について
 - ・ 2025年度 新潟医療福祉大学及び大学院 辞令交付式について
 - ・ 教職員メンタルヘルス支援窓口の開設について
 - ・ 2025年度新潟医療福祉大学教育職員役職者について
 - ・ 2025年度新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教育職員役職者について
 - ・ 2025年度新潟医療福祉大学大学事務局管理職者について
 - ・ 2025年度新潟医療福祉大学総務会構成員について
 - ・ 2025年度新潟医療福祉大学大学院委員会構成員について
 - ・ 2025年度新潟医療福祉大学各種委員会体制および委員長指名について
 - ・ 2025年度新潟医療福祉大学組織図について
 - ・ 看護学科杉田洋子教授「瑞宝双光章」受賞について
 - ・ 2025年度新潟総合学園大学事務局および法人事務局管理職者の異動について
 - ・ 加療を要する授業中の事件・事故対応フローについて
 - ・ 健康診断受診状況と受診率向上について
 - ・ 新任教職員事務局オリエンテーションについて
 - ・ 後援会役員会開催報告
 - ・ 2024年度防災訓練について
 - ・ 2023年度年報の発刊について
 - ・ 火元責任者の更新について

- ・夏期休暇中の学生指導について
- ・夏期休暇中の連絡体制について
- ・太陽光設備設置工事について
- ・年末年始の学内施設使用について
- ・2025年度年間スケジュールについて
- ・インターナショナルこども園運営状況報告
- ・毎月の出勤表提出について
- ・MOMOキッチンでの朝食提供についての紹介

(4) 教育について

- ・2024年度の課題と展望
- ・2024年度の課題と展望に対する「中間まとめ」
- ・教育・学生支援機構運営委員会報告
- ・2024年度ティーチングアシスタント採用の承認
- ・ティーチングアシスタント審査結果の承認
- ・2024年度卒業判定会議開催日程について
- ・9月卒業判定会議について
- ・2025年度 言語聴覚学科のカリキュラム変更の承認
- ・2025年度 診療放射線学科のカリキュラム変更の承認
- ・健康データサイエンス学科（仮称）のカリキュラムの承認
- ・就職活動状況報告
- ・リハビリテーション教育評価機構の受審について

(5) 学生について

- ・2024年度入学式について
- ・2024年度卒業式・修了式について
- ・2025年度入学式について
- ・2025年度入学式・卒業式の日程について
- ・9月卒業式・修了式について
- ・2024年度3月卒業判定会議について
- ・2025年度学事暦について
- ・新入生アンケート実施について
- ・2023年度卒業時アンケート結果について
- ・2024年度授業方針について
- ・新入生オリエンテーションについて
- ・伍桃祭および同日開催の各種イベント
- ・新潟医療福祉学会学術集会について
- ・学籍異動状況報告
- ・調査・諮問委員会設置の承認
- ・調査・諮問委員会の審議結果について
- ・学生懲戒諮問委員会設置の承認
- ・学費未納者の対応の承認
- ・2024年度決算について
- ・標的型攻撃メール訓練の結果を踏まえた注意喚起について
- ・令和6年能登半島地震における被災者入学検定料免除措置について
- ・本学が求める学修成果の承認
- ・授業中のけがの防止と安全管理について

- ・次年度学生健康診断の変更点について
 - ・災害時等における休講措置について
 - ・2024年度学生表彰について
 - ・保護者会について
- (6) 研究・産官学連携について
- ・研究・産官学連携機構運営委員会報告
 - ・研究奨励金・学長裁量研究費応募要項の承認
 - ・学長裁量研究費について
 - ・研究不正に関する啓発について
 - ・研究費の不正使用・研究の不正行為の啓発について
 - ・研究費の概要の承認
 - ・研究科長裁量研究費応募要項の承認
 - ・共同研究・共同利用募集要項の承認
 - ・プロジェクト研究センター設置の承認
 - ・Sports & Health先端科学研究費応募要項の承認
 - ・Sports & Health先端科学研究費及び共同研究・共同利用研究費の結果の承認
 - ・外部資金獲得奨励金募集の承認
 - ・科研費「研究活動スタート支援」申請状況について
 - ・科研費学内説明会の実施について
 - ・2024年度研究奨励金等の審査結果の承認
 - ・2024年度外部資金獲得奨励金配分結果の承認
 - ・2024年度科研費採択結果について
 - ・2025年度科研費申請状況について
 - ・研究インテグリティに関する説明会について
 - ・研究インテグリティの対応状況について
 - ・科研費の内部監査について
 - ・令和6年度科研費内部監査報告
 - ・化学物質管理者と保護具着用管理者の任命について
 - ・各学科における博士教員率の目標設定について
 - ・研究活動方針の承認
 - ・研究整備に関する方針の承認
 - ・研究データポリシーの承認
 - ・有害事象に関する手続き関連の承認
- (7) 入学選考試験について
- ・2024年度高校教員対象イベントについて
 - ・2024年度（2025年度入試）第2次合否判定会議開催日程について
 - ・2025年度入学者選抜入学者目標数の承認
 - ・2025年度入学者選抜試験概要改案の承認
 - ・2025年度入学者選抜試験出願結果報告
 - ・2025年度入学者選抜試験における旧課程履修者の経過措置の承認
 - ・2025年度11月入試状況分析報告
 - ・2025年度転部転科選考試験の承認
 - ・2025年度選抜区分別入学者獲得目標について
 - ・2025年度出願状況報告（総合型A方式・B方式/看護学科3年時編入学）
 - ・2025年度入学者選抜試験結果報告（総合型A方式・B方式/3年次編入学選抜）

- ・ 12月入試・年明け入試出願催促施策概要
- ・ 鍼灸健康学科2025年度3年次編入学選抜試験概要案の承認
- ・ 3月追加入試の実施
- (8) 国際交流について
 - ・ マーサ大学（マレーシア）国際交流締結の承認
 - ・ セブ医科大学（フィリピン）国際交流締結の承認
 - ・ 嘉泉大学校（韓国）国際交流締結の承認
- (9) 社会連携・同窓会連携推進について
 - ・ 社会連携・同窓会推進機構運営委員会報告
 - ・ 長岡赤十字病院とのパートナーシップ協定締結について
 - ・ ボランティアセンター運営委員会報告について
- (10) 強化スポーツについて
 - ・ アスレティックデパートメント推進機構運営委員会報告
 - ・ 新潟医療福祉大学強化指定クラブ規約改定の承認
- (11) 事業戦略について
 - ・ 事業戦略推進部報告
 - ・ オープンキャンパス実施概要
 - ・ オープンキャンパス動員報告
 - ・ WEBオープンキャンパス実施概要
 - ・ 2024年度OC目標について
 - ・ 2024年度オープンキャンパス評価および2025年度オープンキャンパス計画
 - ・ 3月イベント・オープンキャンパス実施概要
 - ・ 2025年度オープンキャンパス年間スケジュール
 - ・ 2024年度上期学生募集活動効果検証報告
 - ・ 8月実施広報イベントについて
 - ・ 2024年7月20日夏休み特別企画「夏の学校」実施概要
 - ・ パブリシティ掲載報告
 - ・ IRセミナー開催案内について
 - ・ IRデータ（国家試験・資格試験結果および模試結果）提供のお願い
 - ・ 高大医連携進捗報告
 - ・ 高大連携協定の締結について
 - ・ 新潟高等学校との高大連携協定の締結について
 - ・ APとCP・DPとの関連性について
 - ・ 国家試験資格試験予測結果について
 - ・ チーム医療体験会実施概要報告

2) 大学院委員会

大学院委員会構成員

西澤正豊学長，佐藤大輔研究科長兼健康科学専攻長（議長），大山峰生教育担当副学長，大西秀明研究・産官学連携担当副学長，西原康行社会連携担当副学長兼同窓会・生涯学習担当副学長，児玉直樹医療福祉学専攻長，久保雅義保健学専攻長兼理学療法学分野長，寺田貴美代社会福祉学専攻長兼保健医療福祉政策・計画・運営分野長，木下直彦医療情報・経営管理学専攻長兼医療情報・経営管理学分野長，能村友紀作業療法学分野長，吉岡豊言語聴覚学分野長，阿部薫義肢装具自立支援学分野長，藤井豊医療技術安全管理学分野長，増田修視覚科学分野長，竹井豊救急救命学分野長，笠井聡放射線情報学分野長，奈良貴史自然人類学分野長，稲葉洋美健康栄養学分野長，山代幸哉健康スポーツ学分野長，杉本洋看護学分野長，松

本京介保健医療福祉マネジメント学分野長，小野哲之法人常務理事兼法人事務局長，森事務局長
主な審議事項および報告事項等

(1) 方針，計画等について

- ・ 2024 年度大学院医療福祉学研究科の展望について
- ・ 2024 年度生成 AI 利用に関する本学の方針と留意事項について
- ・ 災害時における休講措置について
- ・ STEPS の日本語・英語表記の変更について
- ・ 2024 年度新潟医療福祉大学各種委員会構成の更新について
- ・ 2024 年度新潟医療福祉大学組織図の更新について
- ・ 研究活動に関する基本方針について
- ・ 研究環境整備に関する方針について
- ・ 研究データポリシーについて
- ・ 内部質保証方針の再改正について
- ・ 2025 年度大学院学事歴について
- ・ 2024 年度大学院医療福祉学研究科の総括について

(2) 学則，規程，内規等の改廃および制定について

- ・ 新潟医療福祉大学大学院学則の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院学位規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院委員会規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学研究科委員会規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院の質保証委員会規程の制定および改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院教育研究環境委員会規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院教務委員会規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院入試広報委員会規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 9 月期修了規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院修士課程の在学期間の短縮に関する規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院博士後期課程の在学期間の短縮に関する規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科学位論文および課題研究論文の審査ならびに最終試験の方法に関する内規の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学学生の懲戒手続に関する規程の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学学生の懲戒に関する基準の改定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験の方法に関する内規の廃止について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修士及び博士の学位論文の提出に関する申し合わせの廃止について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士後期課程の学位論文の審査に関する申し合わせの廃止について
- ・ 新潟医療福祉大学学生懲戒諮問委員会規程の廃止について
- ・ 新潟医療福祉大学における次世代研究者挑戦的研究プログラム実施に関する規程の制定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院成績評価および GPA に関する細則の制定について
- ・ 新潟医療福祉大学大学院修了認定に関する規程の制定について
- ・ 複数の筆頭著者による学位論文等の取扱いに関する申し合わせの制定について
- ・ 新潟医療福祉大学研究倫理規程の制定について

(3) 組織・人事等について

- ・ 大学院担当教員資格審査委員会設置について

- ・大学院担当教員資格審査結果について
- ・臨床教授等候補者選考委員会設置について
- ・臨床教授等の称号付与審査結果について
- ・2025年度新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教育職員役職者について
- ・2025年度大学事務局および法人事務局管理職者の異動について
- ・教育研究組織の編成方針について
- ・教育研究組織図について
- ・意思決定に関する組織図について
- (4) 研究について
 - ・大学院生の研究活動による個人研究費の使用について
 - ・研究科長裁量研究費，研究奨励金，学長裁量研究費の募集と採択結果の承認について
 - ・外部資金獲得奨励金の募集と採択結果の承認について
 - ・共同・共同利用研究費の募集と採択結果の承認について
 - ・Sports&Health先端科学研究費の募集と採択結果の承認について
 - ・科研費申請件数，採択件数，獲得状況について
 - ・研究費の不正使用・研究の不正行為の啓発について
 - ・研究インテグリティに関する説明会について
- (5) 国際交流，留学生について
 - ・私費外国人留学生授業料減免申請について
 - ・国費外国人留学生（研究留学生）の推薦と採用結果報告について
- (6) 学生について
 - ・大学院学生表彰者の選出について
 - ・学籍異動報告について
 - ・ティーチング・アシスタントの募集と採用について
 - ・アドバンスト・ティーチング・アシスタントの募集と採用について
 - ・リサーチ・アシスタントの募集と採用について
 - ・2023年度学籍異動急増の要因と対策について
 - ・次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING-NQSAP）募集と選抜について
- (7) カリキュラム・論文審査・教育について
 - ・本学大学院が求める学修成果について
 - ・論文審査スケジュールの確認について
- (8) 学生募集，入学者選抜試験について
 - ・令和6年能登半島地震における被災者入学検定料免除措置について
 - ・2025年度医療福祉学研究科入学者選抜試験について
 - ・「大学院オープンキャンパス」および「教えて！大学院」の開催，実施報告について
 - ・2025年度博士後期課程・修士課程出願状況および入学選抜試験の結果について
- (9) その他
 - ・2024年度防災訓練について
 - ・2024年度名誉教授称号授与式について
 - ・2024年度修了式，2025年度入学式について
 - ・新潟医療福祉学会学術集会の開催について

3) 合同教授会

合同教授会構成員

学長，副学長，学部長，学科長，教授，准教授，講師，その他陪席：助教，助手，事務局

主な審議事項および報告事項等

- ・学長直轄委員会報告
- ・教育・学生支援機構内委員会報告
- ・研究・産官学連携推進機構内委員会報告
- ・社会連携・同窓会生涯学習推進機構内委員会報告
- ・アスレティックデパートメント推進機構報告
- ・学籍異動状況報告
- ・国家試験対策事例報告
- ・強化指定クラブ戦績等報告
- ・後期入学研究生志願者について
- ・後期入学聴講生志願者について
- ・学生の除籍について
- ・学生表彰について
- ・転部転科選考試験について
- ・教育研究組織の編成方針（案）について
- ・教育研究組織図（案）について
- ・意思決定に関する組織図（案）について
- ・教授会規程の改定について
- ・課題と展望 中間まとめ
- ・新入生オリエンテーションについて
- ・2025年度言語聴覚学科のカリキュラム変更について
- ・2025年度診療放射線学科のカリキュラム変更について
- ・2025年度学事暦について
- ・学位規程の改定について
- ・卒業認定に関する規程の制定について
- ・学生の懲戒
- ・卒業判定会議について
- ・入学者確定報告
- ・9月期卒業規程の改定について
- ・新潟医療福祉大学各種委員会体制の更新について
- ・新潟医療福祉大学組織図の更新について
- ・STEPSのS2の英語表記の変更について
- ・内部質保証方針の再改正について
- ・生成AI利用に関する本学の方針と留意事項について
- ・授業科目の履修認定、試験および成績評価に関する細則の改定について
- ・オープンキャンパスDMの誤発送について
- ・看護学科 杉田洋子教授 瑞宝双光章 受章報告
- ・入学式報告
- ・卒業式・修了式報告
- ・名誉教授称号授与式
- ・在学生表彰について
- ・第24回新潟医療福祉学会学術集会について
- ・最終講義について
- ・教職員納涼会
- ・教職員忘年会

- ・新入生アンケート
- ・防災・避難訓練結果報告
- ・研究不正防止について
- ・科研費監査報告
- ・外部資金獲得奨励金配分結果
- ・2025年度年間スケジュールについて
- ・年末年始の施設使用
- ・加療を要する授業中の事件・事故対応フロー
- ・授業中のけがの防止と安全管理について
- ・太陽光設備設置工事について
- ・全棟停電作業の実施
- ・就業規則および関連諸規程の改正または新設
- ・協賛および後援依頼の対応について

4) 研究科委員会

研究科委員会構成員

西澤正豊学長，佐藤大輔研究科長，森常不事務局長，大学院担当専任教員，その他陪席：事務局
主な審議事項および報告事項等

- ・大学院医療福祉学研究科の2024年度の展望について
- ・内部質保証推進委員会報告について
- ・危機管理対策委員会報告について
- ・学部生向け大学院説明会「教えて！大学院」について
- ・大学院のオープンキャンパス（夏・秋・冬・春）について
- ・STPESの英語および日本語表記の変更について
- ・2024年度私立大学改革総合支援事業タイプⅡについて
- ・第24回新潟医療福祉学会学術集会について
- ・加療を要する授業中の事件・事故対応フローについて
- ・学生の除籍について
- ・学修・学生生活調査の結果報告について
- ・新潟医療福祉大学大学院研究生入学志願について
- ・学籍異動申請および月次報告について
- ・長期履修申請について
- ・入学時長期履修者申請について
- ・在学期間短縮申請について
- ・長期履修期間短縮申請について
- ・修士・博士後期課程学位論文審査委員会の設置について
- ・大学院学生表彰審査会設置および学生表彰スケジュールについて
- ・博士後期課程の審査体制について
- ・複数の筆頭著者による学位論文等の取り扱いについて
- ・新潟医療福祉大学大学院 研究科委員会規程の改定について
- ・新潟医療福祉大学学位規程の改定について
- ・教育研究組織の編成方針，組織図，意思決定に関する組織図について
- ・内部質保証方針の再改正について
- ・成績評価について
- ・大学院成績評価およびGPAに関する細則について

- ・新潟医療福祉大学大学院修了認定について
- ・新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科9月修了について
- ・2024年度生成AI利用に関する本学の方針と留意事項について
- ・2024年度防災・避難訓練について
- ・2024年度名誉教授称号授与式について
- ・2024年度9月修了論文対象者について
- ・2024年度研究報告会について
- ・2024年度3月修了判定会議について
- ・2024年度新潟医療福祉大学各種委員会体制の更新について
- ・2024年度新潟医療福祉大学組織図の更新について
- ・2024年度卒業式・修了式について
- ・2025年度SPRING-NQSAP募集・選抜について
- ・2025年度大学院カリキュラム改訂（科目変更等）について
- ・2025年度大学院入試出願状況・選抜試験の結果について
- ・2025年度入学式について
- ・2025年度新入生オリエンテーションについて
- ・2025年度学事歴について

5) 各種委員会

(1) 学長直轄委員会

ア 内部質保証推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西澤正豊（学長，委員長），佐藤大輔（研究科長，副委員長），寺田貴美代（SW，副委員長），森 常不（事務局，副委員長），大山峰生（副学長），大西秀明（副学長），西原康行（副学長），大石如香（ST），吉田重和（HS），児玉直樹（RT），渋谷友之（事務局）

②会議開催回数 7回

③審議事項および決定事項等

- 1) 内部質保証推進委員会規程第6条3項に基づき，副委員長の指名を承認した。
- 2) 内部質保証方針の改定について審議し，承認した。
- 3) 内部質保証方針の再改定について審議し，承認した。
- 4) 全学の取り組みにかかわる内部質保証の手続き，教育にかかわる内部質保証の手続きについて審議し，承認した。
- 5) 内部質保証システム体系・組織図について審議し，承認した。
- 6) 内部質保証推進委員会規程について審議し，承認した。
- 7) 内部質保証推進委員会規程の改定について審議し，承認した。
- 8) 内部質保証に係る学則変更について審議し，承認した。
- 9) 教育研究組織の編成方針について審議し，承認した。
- 10) 教育研究組織図について審議し，承認した。
- 11) 【4年制】意思決定に関する組織図について審議し，承認した。
- 12) 【4年制】アセスメントプランについて審議し，承認した。
- 13) 【4年制】アセスメントプランに基づく内部質保証について審議し，承認した。
- 14) 【4年制】アセスメントプランに基づく内部質保証の修正について審議し，承認した。
- 15) 【4年制】アセスメントプランの運用計画について審議し，承認した。
- 16) 【4年制】教育にかかわる内部質保証について審議し，承認した。
- 17) 【4年制】内部質保証システム体系・組織図の修正について審議し，承認した。

- 18) 【大学院】意思決定に関する組織図について審議し、承認した。
- 19) 【大学院】アセスメントプランに基づく内部質保証について審議し、承認した。
- 20) 【大学院】アセスメントプランに基づく内部質保証の修正について審議し、承認した。
- 21) 【大学院】アセスメントプランの運用計画について審議し、承認した。
- 22) 【大学院】教育にかかわる内部質保証について審議し、承認した。
- 23) 【大学院】内部質保証システム体系・組織図の修正について審議し、承認した。
- 24) 自己点検・評価委員会規程改定について審議し、承認した。
- 25) 高等教育推進センター規程改定について審議し、承認した。
- 26) 大学院の質保証委員会規程改定について審議し、承認した。
- 27) JIHEE評価基準に基づく内部質保証チェックリスト、対応策および工程表について審議し、承認した。
- 28) 大学全体の3ポリシーの適切性や整合性を点検・評価する部署について審議し、承認した。
- 29) 全学の質保証体制に関わる事項について審議し、承認した。
- 30) 自己点検・評価に関する基本方針について審議し、承認した。
- 31) 2024年度自己点検・評価報告について審議し、承認した。

④特記事項

- 1) 10月2日内部質保証に関する説明会を開催した。
日時 10月2日
対象 内部質保証や教育関連機構長、委員長等
内容 内部質保証推進の経緯や意義について、質保証体制構築工程表のポイントについて、アセスメントプラン関連資料について
- 2) 11月20日内部質保証に関する説明会を開催した。
日時 11月20日
対象 学部長、学科長、学位プログラムリーダー等
内容 内部質保証の全体像について、教育にかかわる内部質保証について
- 3) 副学長等連絡会規程の策定について確認した。
- 4) 【4年制】内部質保証システム体系・組織図の修正について確認した。
- 5) 【大学院】内部質保証システム体系・組織図の修正について確認した。
- 6) JIHEE 令和7年度大学機関別認証評価「受審のてびき」の基準項目2-3「内部質保証の機能性」で指定されているエビデンス資料について確認した。
- 7) JIHEE 認証評価関連情報について確認した。
- 8) アセスメントプラン策定状況について確認した。
- 9) 新潟食料農業大学外部認証評価実地調査の状況について報告した。
- 10) 質保証チェックリストと対応策の「確認シート」について確認した。
- 11) 内部質保証に係る学則変更について確認した。
- 12) 高等教育推進センター規程改定について確認した。
- 13) 大学院の質保証委員会規程改定について確認した。
- 14) 大学全体の3ポリシーの適切性や整合性を点検・評価する部署について確認した。
- 15) 2024年度自己点検・評価について確認した。
- 16) 【4年制】質保証体制構築の工程表の進捗状況を確認した。
- 17) 【大学院】質保証体制構築の工程表の進捗状況を確認した。
- 18) 内部質保証推進に関するQ & A資料を確認した。

イ 将来計画機構

- ①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大西秀明（副学長，委員長，機構長），西澤正豊（学長），大山峰生（副学長），西原康行（副学長），佐藤大輔（研究科長），宇田優子（NR），山本裕二（PS），稲葉 晋・木下直彦（HI），佐藤 洋（SW），椿 淳裕（PT），能村友紀（OT），大石如香（ST），佐藤成登志（AT），粕谷大智（AP），渡邊博昭（CT），前田史篤（CO），竹井 豊（EM），笠原敏文・児玉直樹（RT），永井 徹（HN），佐藤敏郎（HS），森 常不（事務局長），片岡 昇（事務局）

②会議開催回数 1回【専門委員会〔第293回総務会（2024/4/3）〕において審議】

③特記事項

- 1）将来計画中期目標・中期計画（2021-2025年度）アクションプラン（2024-2025年度）を決定した。

ウ 危機管理委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西澤正豊（学長，委員長），大山峰生（副学長），大西秀明（副学長），西原康行（副学長），佐藤大輔（研究科長），相馬俊雄（PT），塙 晴雄（HS），山崎貴子（HN），森 常不（大学事務局）

②会議開催回数 なし

エ 教員選考委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大山峰生（OT，副学長，委員長），稲葉 晋（HI，学部長），椿 淳裕（PT），能村友紀（OT），大石如香（ST），佐藤成登志（AT），粕谷大智（AP），渡邊博昭（CT），前田史篤（CO），竹井 豊（EM），児玉直樹（RT），永井 徹（HN），佐藤敏郎（HS），宇田優子（NR），佐藤 洋（SW），山本裕二（PS），木下直彦（HI），船山 諭（事務局）

②会議開催回数 73回（採用49回，昇任24回）

③審議事項および決定事項

- 1）各学科長の内申のつと総務会にて教員選考委員会の設置を決定した。
- 2）教員選考委員会は，委員長に加え，当該学科長ならびに他学科の学科長の3名で構成した。新設予定の健康データサイエンス学科（仮称）においては当該学科が所属する学部長ならびに他学科の学科長の3名で構成した。
- 3）教員選考委員に人事部長がオブザーバーとして加わり教員選考委員会を開催した。
- 4）教員選考委員会では履歴書，教育研究業績書，抱負を記載した書類をもとに審査した。
- 5）審査にあたっては学科における面接結果や模擬授業ならびに法人による面接結果を参考にした。
- 6）審査にあたっては教育面の意欲と教育・研究実績を特に参照した。
- 7）委員会出席者全員の合意により審査結果を決定し，報告書を作成，総務会に報告した。

④特記事項

- ・助教以上の職位の採用ならびに昇任については，法人職員同席のもとで学科における模擬授業（ミニレクチャー）を課し，助手についてはプレゼンテーションを課した。
- ・新設予定の健康データサイエンス学科（仮称）の審査を実施した。

オ 人権委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

河野聖夫（SW，委員長），奈良貴史（PT，副委員長），丸野 透（CT，副委員長），澤田純明（PT），安中裕紀（OT），佐藤克郎（ST），田中惣治（AT），久保亜抄子（AP），多々良俊哉（CO），大松健太郎（EM），橋本 薫（RT），川上心也（HN），上田純平（HS），越中敬一（HS），外間直樹（NR），小出 直（SW），廣瀬清人（PS），寺島和浩（HI），渋谷友之（総務課），波間早苗（医務室），伊藤 求（キャリア），船山 諭（人事課，事務担当），中村 泉（人事課，事

務担当)

ハラスメント調査委員会委員候補者：犬飼康人 (PT), 能村友紀 (OT), 石本 豪 (ST), 佐藤成登志 (AT), 粕谷大智 (AP), 深澤友雄 (CT), 生方北斗 (CO), 安達哲浩 (EM), 関本道治 (RT), 中村純子 (HN), 池田恵子 (HS), 下山博子 (NR), 渡辺 恵 (SW), 山本裕二 (PS), 井上弘樹 (HI), 菅原直実 (事務局)

②会議開催 委員会13回 (定例12回, 臨時1回), 案件対応会議3回, ハラスメント調査委員会1件

③審議事項および決定事項等

1) 教職員のためのハラスメント相談対応マニュアル等の作成・点検と周知

ハラスメント相談対応マニュアルの改訂版を作成し, 学内周知した。また, これに伴い「ハラスメントの防止および対策等に関する規則」, 「ハラスメントの防止および対策等に関するガイドライン」の修正要否の検討をおこなった。

2) ハラスメント相談員研修の実施

対象：人権委員ならびにハラスメント相談員および教職員 (希望者)

日時：2024年8月21日

内容：在学生に対する相談・支援におけるハラスメント相談員の対応と留意点

講師：河野聖夫 (新潟医療福祉大学 人権委員会委員長, 社会福祉学科教授)

3) ハラスメント防止のための意識向上FDセミナーの実施

対象：全教職員

日程：2024年12月18日

テーマ：教職員間のハラスメント防止

講師：名川・岡村法律事務所

弁護士 新居裕登 先生, 弁護士 松村拓実 先生

4) 1年生に対するDate DV防止セミナーを対面で実施

対象：全学科1年生

日程：2024年6月11日, 19日 (2回), 7月3日, 19日 計5回

テーマおよび内容：デートDV防止セミナー

講師：新潟市市民生活部男女共同参画課, NPO法人「女のスペース・にいがた」

5) ハラスメント防止に向けた対策の点検と強化

学生向けアンケート (悩み事アンケート) を9月18日から10月11日の期間で実施し, 相談窓口の周知, 学科等の課題把握と改善に向けた取り組みを進めた。

6) ハラスメント等相談案件13件に対応した。

7) 次年度の人権委員会体制の見直し

構成員を学部ごとの選出とし委員の数を削減

人権委員が兼務していたハラスメント相談員を各学科からの2名以上選出とし人権委員会より任命

毎月の定期開催を偶数月のみ開催

カ 個人情報保護委員会

①委員名簿 (敬称略, 所属, 委員会役職)

鈴木一恵 (HN, 委員長), 寺島和浩 (HI, 副委員長), 佐伯史子 (PT), 高橋里奈 (OT), 佐藤克郎 (ST), 田中惣治 (AT), 江川雅人 (AP), 丸野 透 (CT), 多々良俊哉 (CO), 大松健太郎 (EM), 橋本 薫 (RT), 川上心也 (HN), 上田純平 (HS), 外間直樹 (NR), 板垣直子 (SW), 小林なぎさ (PS), 野口正信 (事務局), 船山 諭 (事務局)

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 新入生に対して、個人情報保護取扱文書の回収を行った。
- 2) 以下4事業の計画に従いワーキング・グループ(WG)を設けて実施した。
 - ・個人情報保護監査の実施と是正の対応
 - ・教育プログラムの立案と実施
 - ・情報セキュリティ対策のためのFD
 - ・規程改定に伴う運用の検討
- 3) 外部監査を含む個人情報保護監査3カ年計画を策定し、1年目の個人情報保護監査を実施した。
- 4) 前年度に引き続きe-Campus版個人情報保護教育プログラムを行った。設問方法や問題等の検討を行い2024年度版として実施した。
- 5) 情報セキュリティ・コンサルティング会社に依頼し、標的型攻撃メール訓練およびこの訓練を踏まえたアーカイブ形式のFDを実施した。
- 6) 事務局内で発生したインシデントを含む情報漏洩事故(5件)を踏まえた再発防止策を作成し事務局へ依頼した。

キ 安全衛生委員会

①委員名簿(敬称略, 所属, 委員会役職)

下山博子(NR, 委員長), 江部克也(EM, 産業医), 馬場広子(HN, 産業医), 萩原康雄(PT), 村上 元(OT), 石本 豪(ST), 真柄 彰(AT), 金子聡一郎(AP), 中山憲司(CT, 化学物質管理者), 塙 晴雄・森田邦恵(CT), 戸田春男(CO), 花村健次(RT), 大森 豪・菅原大志(HS), 原口彩子(SW), 千葉陽子(PS), 井上弘樹(HI, 衛生管理者), 本間智之(事務局, 衛生管理者), 前田華子(事務局), 片岡 昇(事務局), 波間早苗(事務局), 内山朱李(事務局), 松沼知世(事務局), 藤岡まさみ(事務局), 南雲優美(事務局)

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 推進体制が異議なく合意された。
- 2) 心の健康づくり推進計画(案)が承認された。
- 3) 心の健康問題に係る研修会を管理職対象1回と全教職員対象1回の計2回開催することが承認された。
- 4) 相談窓口・相談体制について、昨年度に引き続き私学事業団健康相談ダイヤルを活用することとし、学内教職員への案内・情報提供を行うことが確認された。
- 5) 「学校法人新潟総合学園 2024年度ストレスチェック実施計画」(案)が承認された。

④特記事項

- 1) 教職員メンタルヘルス支援室が設置され、産業医による相談体制が整備された。
- 2) 全教職員に私学事業団健康相談ダイヤルの案内を行った。
- 3) 実施計画に基づき、9月～3月にストレスチェックならびに面接指導が実施された。
- 4) ストレスチェックの実施に伴う確認ならびに課題の共有を適宜に実施した。
- 5) 管理職研修会を実施した。

日程：2024年8月7日(ライブ配信)

2024年8月7日～2024年8月16日(オンデマンド)

テーマ：「成人の発達障害の理解と関わり」

講師：北海道医療大学 准教授 金澤 潤一郎 先生

参加者数：41名

アンケート回収：41名分(100%が研修内容について「非常に参考になった」「参考になった」と回答)

- 6) 教職員研修会を実施した。

日程：2024年10月30日（ライブ配信）

2024年10月31日～2024年11月15日（オンデマンド）

テーマ：「ストレスフルな状況をストレスにしないためには」

講師：「カウンセリングルームさくら」代表理事 小林 奈穂美 先生

参加者数：241名

アンケート回収：166名分（95%が研修内容について「非常に参考になった」「参考になった」と回答）

- 7) 学内の個別巡視と合わせて、安全衛生委員による学内一斉巡視が2024年9月に実施された。巡視の結果内容は、事務局（総務課）へ提出の上でさらなる安全確保を要請し、安全確認の実施および改善ならびに検討がなされた旨が報告された。

ク 自己点検・評価委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大石如香（ST，委員長），寺田貴美代（SW，副委員長），吉田重和（HS），片岡 昇（法人総務部），
渋谷友之（事務局），真藤高明（事務局），駒沢 猛（事務局）

②会議開催回数 4回

③特記事項

- 1) 自己点検・評価委員会規程の改定に伴い，新たな委員構成のもとで委員会運営を実施した。
- 2) 本学の自己点検・評価方針について審議を行い，方針を決定した。
- 3) 将来計画アクションプラン（2024年度）の評価担当者について審議し，決定した。
- 4) 未達成アクションプランに対する状況報告および改善方策の提出を求める対応を決定した。
- 5) 将来計画アクションプラン（2024年度）の自己点検・評価を実施し，その結果を学内外に公表した。

ケ 外部評価準備委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大山峰生（委員長），大西秀明・相馬俊雄（PT），大石如香（ST），森 常不（大学事務局），
片岡 昇（事務局）

②会議開催回数 なし

コ PCR検査センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

高野 操（CT，委員長），川村宏樹（CT，副委員長），埴 晴雄（HS），芳賀千紗（CT），片岡 昇（事務局），
渋谷友之（事務局），野口正信（事務局）

②会議開催回数 3回（メール審議を含む）

③審議事項および決定事項等

- 1) 附属PCR検査センター利用ガイドラインについて協議し，承認した。
- 2) 検査受け入れ可能日程について協議した。

④特記事項

- 1) 年度内検査結果は下記の通りであった。
検査数：32件
陰性数：31件
陽性数：1件（陽性率 3.23%）

サ 研究施設企画委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大西秀明（PT，委員長），佐藤大輔（HS），椿 淳裕（PT），児玉直樹（RT），江玉睦明（PT），
田口 徹（PT），矢田広視（事務局），大竹 宏（事務局），大森由理（事務局）

②会議開催回数無し

③審議事項および決定事項等
無し

① 事業戦略推進部

ア 入試委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

椿 淳裕（PT，委員長），笠井 聡（RT，副委員長），江玉睦明・太田大樹（PT），村上 元・
安中裕紀（OT），大石如香・田村俊暁（ST），阿部 薫・前田 雄（AT），粕谷大智・福田晋平（AP），
川村宏樹・仙波妙子（CT），戸田春男・志賀木綿子（CO），川上一岳・大松健太郎（EM），
甲斐千遥（RT），澁谷顕一・増田紘之（HN），下門洋文・馬場康博（HS），下山博子・丸山幸恵（NR），
河野聖夫・國兼明嗣（SW），山本裕二・溝江 唯（PS），柴山純一・井上弘樹（HI），山口和朗・
二見ミラノ・近藤 道・田中 優（事務局）

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等

- 1) 入試委員会副委員長を選出し，承認した。
- 2) 入試委員会年間計画を審議し，決定した。
- 3) 2025年度選抜区分別入学者目標数について審議し，決定した。
- 4) 入試問題作問部会・入試問題検討部会の担当者を決定した。
- 5) 各学科における指定高等学校について審議し，承認した。
- 6) 入学者選抜における県外試験会場の外部委託について審議し，決定した。
- 7) 入学者選抜に必要な学科教員の必要見込教員数について決定した。
- 8) 学生募集要項および出願書類の書式等について審議し，決定した。
- 9) 2024年度総合型・学校推薦型選抜等と学力の3要素の整合性について審議し，決定した。
- 10) 総合型・学校推薦型・社会人等特別および3年次編入学選抜の可否判定配点について審議し，決定した。
- 11) 可否判定資料の見直しについて審議し，決定した。
- 12) 総合型・学校推薦型・社会人等特別および3年次編入学選抜の実施概要について審議し，決定した。
- 13) 試験問題印刷工程・採点業務立会担当者の選出について審議し，決定した。
- 14) 大学入学共通テスト新潟医療福祉大学試験場の実施概要について審議し，決定した。
- 15) 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜の可否判定における優先科目設定を審議し，決定した。
- 16) 一般選抜の実施概要について審議し，決定した。
- 17) 総合型選抜A方式・B方式に対する委員会総括を行い，入試問題作問部会総括会議へ意見・要望等を提案した。
- 18) 入試委員会における内部質保証体制について審議し，決定した。
- 19) 2026年度入学者選抜試験日程について審議し，決定した。
- 20) 2026年度入試概要について審議し，決定した。（その後，総務会承認を以って最終決定した。）

④特記事項

- 1) 高校教員対象イベントの開催について審議し，決定した。
- 2) 新設学科の追加に伴い特待生規程の改正について審議し，決定した。
- 3) 総合型選抜追加実施における入試概要について審議し，決定した。

- 4) 2026年度入学者選抜における新制度の導入等について審議し、決定した。
- 5) 能登半島地震発生に伴う被災者入学検定料免除措置について審議し、決定した。
- 6) 入試委員会における内部質保証体制について審議し、決定した。

イ 広報委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

稲葉洋美（HN，委員長），犬飼康人（PT，副委員長）

石垣智恒（PT），圓純一郎・伊関浩克（OT），吉岡 豊・大湊 麗（ST），佐藤未希・郷 貴博（AT），
江川雅人・金子聡一郎（AP），佐々木一真・涌井杏奈（CT），金子 弘・生方北斗（CO），安達哲浩・
尾崎あかね（EM），前島 偉・佐々木啓（RT），星野美美（HN），塩沢浩太（HN），藤本知臣（HS），
佐藤皓也（HS），桶谷涼子・佐藤郁美（NR），荒川大靖（SW），矢尾板美佳（SW），木下直彦・
眞田悠希（HI）

笹川克己・鈴木亜弥・齋藤大将・石津汐梨・小山巧海・伊藤悠也（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 稲葉委員長より，理学療法学科の犬飼康人教授が副委員長に指名され，決定した。
- 2) 各月の来場型およびWEBオープンキャンパスの内容について審議し，決定した。
- 3) 夏休み特別イベントの実施について審議され，模擬講義や個別相談を行うことが決定した。
- 4) 2026年度キャンパスガイド制作スケジュールについて審議し，決定した。
- 5) 2025年度オープンキャンパス日程について審議し，決定した。

ウ 大学院入試広報委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

前田史篤（CO，委員長），木下直彦（HI，副委員長），八坂敏一（PT），圓純一郎（OT），吉岡 豊
（ST），阿部 薫（AT），森田邦恵（CT），安達哲浩（EM），前島 偉（RT），澤田純明（PA），
稲葉洋美（HN），藤本知臣（HS），山口典子（NR），國兼明嗣（SW），伊藤 求・阿部塊地・
田中伶奈（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 大学院入試広報委員会副委員長を選出し，承認した。
- 2) 大学院入試広報委員会年間計画を審議し，決定した。
- 3) 2025年度大学院入学者選抜試験に係る変更案について審議し，決定した。
- 4) 2025年度大学院入学者選抜試験実施概要案を審議し，決定した。

④特記事項

- 1) 学部生向け大学院説明会「教えて！大学院」を計6回開催した。
- 2) 大学院オープンキャンパスを計4回開催した。
- 3) 大学院入試インターネット出願および採点システムを構築し，運用を行った。
- 4) 大学院入試事前採点説明会，入試における面接試験をオンライン型で実施した。
- 5) 新入生を対象に大学院入試・広報活動に関するアンケート調査を実施した。
- 6) 本学3分野の院生紹介動画を制作し，SNSに公開した。

エ IR戦略委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

佐藤大輔（HS，委員長），高橋良光（CT），村田憲章（CO），森清友亮（HS），平井克之（HI），
笹川克己・真藤高明・村山萌子・岡村祐子（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 国家試験・資格試験不合格予測結果について教育・学生支援機構に共有した。
- 2) 学籍異動予測結果について教育・学生支援機構に共有した。
- 3) 2024年5月に、本学、東北工業大学、北海道大学技術支援・設備共用コアステーションとの共催でIRセミナーを開催した。
- 4) APとCP・DPとの関連性についての検証を実施した。
- 5) 各委員会にアセスメントに必要なデータの確認依頼を実施した。
- 6) アセスメントに用いるデータを各委員会に提供した。
- 7) 各種セミナーへの参加報告を実施した。

② 国際交流推進部

オ 国際交流センター運営委員会

＜国際交流専門委員会＞

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

久保雅義（PT，委員長），増田 修（CO，副委員長），菊元孝則（PT），圓純一郎（OT），谷 麻美（ST），神田 賢（AT），津田篤太郎（AP），涌井杏奈（CT），高橋 司（EM），大野 健（RT），塩沢浩太（HN），佐藤晶子（HS），秋山隆之（HS），小林房代（NR），佐藤真由美（NR），板垣直子（SW），野村照幸（PS），高野晃輔（HI），石上和男（HI;オブザーバー），今井理恵（教育・学生支援機構；オブザーバー），嵐田浩吉・桑島己都子（事務局）

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等

1) 国際交流提携

すべての学科が何らかの形で海外の大学や機関と提携することを目標に掲げ，2024年度においては11カ国・地域の22大学3機関と交流協定を締結している。

番号	提携先	国・地域名	都市	開始年	終了年
1	国立極東医科大学	ロシア	ハバロフスク市	2006	2026
2	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ	フレズノ市	2007	2024
3	アンヘレス大学財団	フィリピン	アンヘレス市	2010	2025
4	ハワイ大学マノア校ジョン・A.バーンズ医学部臨床技術学科	アメリカ	ホノルル市	2011	2026
5	サント・トーマス大学＜教育＞	フィリピン	マニラ市	2011	2027
	サント・トーマス大学＜研究＞	フィリピン	マニラ市	2017	2027
6	イーストアングリア大学看護・助産学校	イギリス	ノーリッジ市	2011	2029
7	マヒドン大学（義肢）	タイ	バンコク	2015	2025
	マヒドン大学（放射線）	タイ	バンコク	2018	2027
8	京畿大学校	韓国	水原市	2015	2026
9	ホンバン国際大学	ベトナム	ホーチミン市	2016	2030
10	国立陽明交通大学	台湾	台北市	2016	2026
11	ハイズオン医療技術大学	ベトナム	ハイズオン市	2017	2028
12	中山医学大学	台湾	台中市	2017	2027
13	太平洋国立大学	ロシア	ハバロフスク市	2019	2024
14	弘光科技大学	台湾	台中市	2019	2029
15	輔英科技大学	台湾	高雄市	2019	2024
16	ペラデニア大学	スリランカ	キャンディ市	2021	2026
17	ハサスディン大学（看護）	インドネシア	マカッサル市	2022	2027
	ハサスディン大学（運動機能医科学）	インドネシア	マカッサル市	2023	2028
18	仁済大学校	韓国	金海市	2023	2028
19	ケベック大学トロワ・リヴィエール校	カナダ	トロワ・リヴィエール市	2023	2028
20	ジェンバー大学	インドネシア	ジェンバー市	2024	2029
	ジェンバー大学専門職大学院（理学）	インドネシア	ジェンバー市	2024	2029
21	嘉泉大学校	韓国	城南市	2025	2030

番号	提携先	国・地域名	都市	開始年	終了年
22	セブ医科大学	フィリピン	マンドラウエ市	2025	2030
23	国立シリントン・リハビリテーションセンター	タイ	バンコク	2012	2025
24	台北榮民総医院	台湾	台北市	2013	2028
25	フィリピン脳性麻痺のための法人（PCPI）	フィリピン	マカティ市	2018	2025

2) 部会活動

・国際交流活動部会（増田，谷，高橋，大野，小林）

国際交流事業として16件の事業を実施した。年間予算6,000,000円に対し，計4,654,613円を執行した。

番号	学科	国・大学等	期間	人数	執行額	事業形態
1	臨床技術学科	台湾・中山医学大学	5/24-5/31	教員1・学生4 (招聘)	400,000	学術交流協定事業・一学科単独事業
2	国際交流センター	マレーシア・国立脳卒中協会等	8/17-8/24	教員1 (渡航)	200,000	国際交流事業・国際交流センター
3	看護学科	インドネシア・ジェンパー大学	8/19-8/25	教員2 (渡航)	400,000	学術交流協定締結事業・一学科単独事業
4	健康栄養学科	台湾・弘光技科大学	8/26-8/30	教員1・学生12 (招聘)	398,840	学術交流協定事業・一学科単独事業
5	義肢装具学科	台湾・弘光技科大学	8/26-8/30	教員3 (渡航)	360,000	学術交流協定事業・一学科単独事業
6	作業療法学科	フィリピン・セブ医科大学	9/1-9/7	教員3 (渡航)	400,000	学術交流協定事業・一学科単独事業
7	国際交流センター	ベトナム・ホンバン国際大学	9/4-9/9	教員1 (渡航)	125,986	学術交流協定締結事業・国際交流センター
8	国際交流センター	インドネシア・ジェンパー大学	9/19-9/29	教員2 (渡航)	231,431	国際交流事業・国際交流センター
9	看護学科	アルゼンチン・サルタ大学	11/25-11/29	教員1 (招聘)	220,000	国際交流事業・一学科単独事業
10	健康栄養学科	台湾・中山医学大学	12/9-12/13	教員2・学生3 (招聘)	336,705	学術交流協定事業・一学科単独事業
11	作業療法学科	韓国・仁済大学校	12/10-12/12	教員2 (招聘)	262,441	学術交流協定事業・一学科単独事業
12	国際交流センター	国内・冬の英語キャンプ	2/17-2/19	教員1・学生6	137,720	国際交流事業・国際交流センター
13	国際交流センター	マレーシア・国立脳卒中協会	2/22-2/29	教員1 (渡航)	191,490	国際交流事業・国際交流センター
14	国際交流センター	東南アジア・JICA任地	3/8-3/16	教員1 (渡航)	240,000	国際交流事業・国際交流センター
15	看護学科	ミクロネシア・ミクロネシア短期大学	3/19-3/29	教員1 (渡航)	350,000	国際交流事業・一学科単独事業
16	国際交流センター	フィリピン・サントトマス大学等	通年	学生25名 (招聘)	400,000	国際交流事業・国際交流センター

・海外研修および留学支援部会（菊元，久保，塩沢，秋山，高野，津田）

英語等短期研修助成制度に対し24件の申請があり，制度にもとづき，74名の学生に助成を行った。予算8,000,000円に対し，計4,740,000円を助成金として執行した。

番号	対象	国・地域名	期間	参加学生数（+引率／教員）
1	義肢装具自立支援学科	台湾	8/16-9/14	1（+引率2）
2	義肢装具自立支援学科	オーストラリア	8/16-9/16	1（+引率1）
3	全学科	マレーシア	8/17-8/31	1（+引率1）
4	理学療法学科	フィリピン	8/19-9/2	2（+引率2）
5	義肢装具自立支援学科	台湾	8/24-8/30	3（+引率1）
6	臨床技術学科	アメリカ	9/8-9/20	2（+引率2）
7	全学科	インドネシア	9/15-9/28	1（+引率2）

番号	対象	国・地域名	期間	参加学生数（+引率／教員）
8	全学科	韓国	2/8-2/22	5（+引率1）
9	作業療法学科	フィリピン	2/22-3/9	6（+引率2）
10	全学科	フィリピン	2/15-3/16	1（+引率1）
11	理学療法学科	イギリス	3/1-3/10	1（+引率1）
12	健康栄養学科	台湾	2/17-2/21	5（+引率2）
13	全学科	マレーシア	2/22-3/15	4（+引率1）
14	看護学科	インドネシア	2/25-3/5	8（+引率2）
15	診療放射線学科	タイ	2/26-3/13	2（+引率1）
16	看護学科	イギリス	2/28-3/11	2（+引率1）
17	臨床技術学科	台湾	3/7-3/16	4（+引率2）
18	全学科	東チモール	3/6-3/17	5（+引率1）
19	作業療法学科	韓国	3/9-3/15	6（+引率2）
20	義肢装具自立支援学科	タイ	3/14-3/22	3（+引率1）
21	理学療法学科	アメリカ	3/9-3/18	3（+引率2）
22	看護学科	アメリカ	3/22-4/1	2（+引率1）
23	救急救命学科	韓国	3/25-3/28	2（+引率2）
24	社会福祉学科	韓国	3/25-3/29	4（+引率2）

・オンライン企画部会（神田，涌井，高橋，佐藤晶）

2020年より開催しているオンライン企画「グローバルキャリア支援Meeting」を，本年度も実施した．本企画は海外で就業あるいは修学の経験を有する専門職の方を講師に招いて，学生とオンラインでミーティングを行っていただくことで，学生のグローバル意識の向上を目指したものである．当初はコロナ禍で実施できなかった海外研修の代替企画であったが，好評のため，今年度は昨年度よりも4回多い11回開催した．一部対面形式を取り入れたことにより，参加者は566名を数えた．なお，講師料については英語等短期研修助成制度を利用し，合計120,000円を執行した．

回	実施日	講師（敬称略）	参加者数	講師料
1	8月19日（月）	鮫島総史（アメリカ・ワシントン大学助教授）	42	—
2	9月27日（金）	宮田祐介（タイ・マヒドン大学講師）	30	15,000
3	10月9日（水）	中尾善隆（木村眼科内科病院検査課長）	69	15,000
4	10月11日（金）	松田健汰（Manager, International Business Department, Albirex Singapore PTE LTD）	50	15,000
5	11月1日（金）	富田江里子（フィリピンにて長年，助産師として活動）	216	15,000
6	12月2日（月）	ジダーパー・パソップボンスットジャリット（本学大学院修士課程言語聴覚学分野）	11	15,000
7	12月18日（水）	三登将平（国際医療福祉大学成田病院放射線技術部）	29	15,000
8	12月18日（水）	梁寧愛（韓国・仁済大学校作業療法学科教授）	67	—
9	12月18日（水）	姜辰根（韓国・仁済大学校日本語・日本文学科講師）	20	—
10	12月27日（金）	木村諒子（JICA東京）	23	15,000
11	1月20日（月）	小玉響平（日本体育大学大学院研究員）	9	15,000

・国際貢献部会（久保，神田，塩沢，佐藤真）

「さくらサイエンス招へいプログラム」（国立研究開発法人科学技術振興機構）に「身体運動解析のための技術研修」をテーマに申請を行ったが，残念ながら採択にいたらなかった．

・広報部会（圓，津田，板垣，野村）

英語版ホームページの改修作業を行い，SNSを活用した広報活動の検討を行った．

・国際交流締結部会（久保，増田，菊元）

既存の学術交流協定締結校との締結内容を点検し，協定の更新を行った．また，新たに韓国・嘉泉大学校とフィリピン・セブ医科大学との交流協定を締結した．

3) その他の活動

- ・新潟県国際交流推進基金事業補助金に「保健・医療・福祉の人材育成を通じた新潟県の拠点性向上」というプログラムを申請し、採択された。採択の結果、サント・トーマス大学（フィリピン）、ハイズオン医療技術大学（ベトナム）、ハサヌディン大学（インドネシア）からそれぞれ学生3名と教員1名を招待し、9月1日から7日の1週間にわたり、プログラムを実施した。
- ・JASSO海外留学支援制度（協定派遣）に1件、採択された。
- ・JASSO海外留学支援制度（協定受入）に1件、採択された。採択の結果、2月から3月の約1か月間サント・トーマス大学から受入れた学生6名に対し、奨学金を支給できた。
- ・英語FD: Presentationの部およびSmall Talkの部を実施した。

＜留学生専門委員会＞

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

久保雅義（PT，委員長），増田 修（CO，副委員長），圓純一郎（OT），神田 賢（AT），大野 健（RT），塩沢浩太（HN），佐藤真由美（NR），高野晃輔（HI），嵐田浩吉・桑島己都子（事務局）

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等（活動内容を含む）

- ・留学生募集のための活動と調査

アクセス日本留学フェア渋谷ヒカリエ（東京，6月）への参加，アクセス日本留学フェア外国人学生のための進学説明会（東京，9月・11月）への参加，JASSO外国人学生のための進学説明会（東京，6月）への参加，在日ベトナム学生青年協会大学合同説明会への参加（オンライン，7月），東京を中心とした日本語学校訪問（6月・11月・2月），Japan Study Support（JPSS）における大学紹介ページの公開，アクセス日本留学BOOKへの掲載，日本留学指南への掲載，留学生募集リーフレットの作成，進研アドによる留学生募集の個別セミナー受講，等を行った。

- ・新潟県東南アジアからの留学生獲得支援事業

上記の事業に申請し，採択された。採択の結果，10月に実施されたJASSO日本留学フェア（ベトナム）に参加した。

- ・留学生募集および受入れのための海外提携校との連携等

2025年度大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）として，協定校のベトナム・ハイズオン医療技術大学から1名，インドネシア・ジェンバー大学から1名を文部科学省に推薦した。また，大使館推薦による国費外国人留学生（研究留学生）として，ザンビア人の学生を受入れることが決定した。

- ・留学生の受入れ体制の整備と留学生支援

外国人留学生サポーター制度を運用し，また留学生のための日本語講座を実施した。

- ・新潟県国際交流協会からの委託事業

上記協会から国際理解セミナー「アジアから世界を知る！」事業を委託され，留学生が講師となり，「留学生が語る！ 母国の魅力とその文化」という講座を10月に実施した。

- ・留学生のためのイベント開催

4月に留学生新入生履修登録説明会と留学生親睦会を開催した。さらに，6月には新潟市内のバスツアーを，3月には月岡温泉への1泊旅行を実施し，留学生の本学に対する満足度向上を図った。

- ・日本人学生との交流

留学生が講師となり，学修支援センターで日本人学生に英会話等を指導している。また，外国からの留学生受入れにあたっては，留学生と日本人学生が協力しながら，対応に当たっている。

（2）教育・学生支援機構運営委員会

①委員名簿

大山峰生（OT，機構長），相馬俊雄（PT），吉田重和（HS），木原 亨（事務局），吉田俊雄（事務局），

風間篤史（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 2025年度版カリキュラム改定に関わる指針について審議し、承認した。
- 2) 教育・学生支援機構の規程の改定について審議し、承認した。
- 3) 習熟度試験を取り巻く状況の整理について審議し、承認した。
- 4) 医療情報管理学科・健康スポーツ学科の重点資格について審議し、承認した。
- 5) STEPSの英語・日本語表記について審議し、承認した。
- 6) 2025年度 診療放射線学科のカリキュラム変更について審議し、承認した。
- 7) 企業等の意見を踏まえた学修成果について審議し、承認した。
- 8) 高等教育推進センター運営委員会の規程の改定について審議し、承認した。
- 9) 「学修」と「学習」の表記について審議し、承認した。
- 10) 図書館・学習支援センターの名称変更について審議し、承認した。
- 11) 学生表彰の規程の改定について審議し、承認した。
- 12) 2025年度 言語聴覚学科のカリキュラム変更について審議し、承認した。
- 13) GPA対象科目について審議し、承認した。
- 14) 教育に関わる内部質保証の今後の計画について審議し、承認した。
- 15) 共通科目の運営組織体制に関する細則の改定について審議し、承認した。
- 16) 著作物の利用に関する指針の改定について審議し、承認した。
- 17) 就職センターの名称変更について審議し、承認した。
- 18) 卒業時アンケートの名称変更について審議し、承認した。
- 19) 健康データサイエンス学科（仮）のカリキュラムについて審議し、承認した。
- 20) 学位規程の改定について審議し、承認した。
- 21) 卒業認定に関する規程の改定について審議し、承認した。
- 22) 高大連携に関する科目等履修生規程の制定について審議し、承認した。
- 23) 介護福祉士養成課程の規程の改定について審議し、承認した。
- 24) 就職センター運営委員会の名称変更および規程の改定について審議し、承認した。
- 25) 学生委員会の規程の改定について審議し、承認した。
- 26) 学部学則の変更について審議し、承認した。
- 27) 児童厚生1級指導員資格養成課程履修規程の制定について審議し、承認した。
- 28) 授業科目の履修の認定、試験および成績評価に関する細則の改定について審議し、承認した。
- 29) 教員海外派遣研修の参加者について審議し、承認した。
- 30) 学部・大学院FDの実施方法等について審議し、承認した。
- 31) 学生表彰の審査について審議し、承認した。
- 32) 2025年度学事暦について審議し、承認した。
- 33) グッドプラクティス表彰の規程や内規の制定について審議し、承認した。
- 34) 追試験基準の改定について審議し、承認した。
- 35) FD・SDに関する基本方針の制定について審議し、承認した。
- 36) 大学設置基準等に即した対応について審議し、承認した。
- 37) 学生の課外活動支援に関する規程の制定について審議し、承認した。

① 学生支援推進部

ア 健康管理センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

埴 晴雄（CT，委員長），江部克也（EM，副委員長），萩原康雄（PT），村上 元（OT），石本 豪

(ST), 真柄 彰 (AT), (CT), 森田邦恵 (CT), 戸田春男 (CO), 花村健次 (RT), 大森 豪 (HS), 菅原大志 (HS), 近藤芽生 (HN), 岩野千尋 (NR), 原口彩子 (SW), 井上弘樹 (HI), 金子聡一郎 (AP), 小林なぎさ (PS), 波間早苗 (医務室)・内山朱李 (医務室), 中山あかね (事務局), 馬場誠也 (事務局)・石山ゆかり (事務局)

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 新生生の健康状況の把握については、個人情報保護に留意し、学生記録票の身体状況記入欄を用いて各学科および体育教員、メンタルヘルス支援室と情報共有を行った。場合によっては健康状況の詳細を把握する必要があるため、学生記録票に病歴の記載がある場合には、中学・高校の学生生活管理指導表の写しなどの提出を求めた。
- 2) インフルエンザ流行防止のための予防喚起と、ワクチン予防接種を行い、発生状況の把握を行った。接種人数は学生、教職員で559名だった。臨床実習でワクチン接種が必要な学科は、直接新潟ハビテーション病院と日程調整することになり昨年度より接種者数は少なかった。今期の感染は学生教職員合わせて192名だった。
- 3) インフルエンザ感染後の文部科学省による登校基準改訂により「発熱後5日間は自宅で休養、安静」から「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで」であることを再度周知した。
- 4) 熱中症の予防について学生へ呼びかけ、各棟にポスター掲示を行った。対策として医務室に経口補水液を準備した。
- 5) 学生委員会と共催で薬物乱用防止講演会を開催した。
- 6) 学生心理相談は臨床心理士と精神科医で行っている。相談者の希望に合わせ、対面相談の他遠隔相談（電話相談やZoomでの相談）を実施した。学生相談室は月曜日から金曜日の開室とした。予約システムを導入した。
- 7) 健康診断担当者の選出を各学科長あてに依頼し、担当者に業務内容を周知した。次年度の健康診断予約は個人申込み形式に変更することを決定した。
- 8) 医療技術学部救急救命学科と共催の心肺蘇生講習プログラムの開催時期の変更を決定した。
- 9) メンタルヘルス支援室が新生生を対象にUPI・PHQ-9検査を実施した。
- 10) 学内AED・非常用車椅子の配置場所の掲示を実施した。

イ 図書館・学修支援委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

竹井 豊 (EM, 委員長, 図書館長), 田村典子 (HN, 副委員長), 小島 翔・高林知也 (PT), 本間健太 (OT), 大湊 麗 (ST), 神田 賢 (AT), 木村啓作 (AP), 大山富三 (CT), 小林昭子・辻 拓海 (CO), 長谷川晃・鷺見和幸 (RT), 三瀬貴生・並木伸賢 (HS), 中澤紀代子 (NR), 渡辺 恵 (SW), 橋本照男 (PS), 皆川璃子 (HI), 船山澄子・中村委代・佐藤真由子・遠藤有紀・齋藤寛子 (事務局)

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 「学習」に代えて、学内活動では「学修」を用いることを審議・承認した。
- 2) APAPscyArticles, iThenticate, SPORTSDiscus・CINAHLに関する講習会を実施した。
- 3) Elsevier二次文献データベース「今日の臨床サポート」について審議し導入を決定した。
- 4) 重複本271冊，退任教員の不明本219冊，科研費移管図書284冊，保存期間超過図書1,153冊の除籍を審議し，承認した。
- 5) 次年度の雑誌契約について審議し，以下のとおり承認した。パッケージ系電子ジャーナル7種，データベース13種，洋雑誌35誌，和雑誌275誌をそれぞれ継続する。

- 6) 機関リポジトリの名称変更に伴い、「新潟医療福祉大学オープンアクセス方針」等の関連方針類について改訂案を策定した。
- 7) 若手教員を対象に、統計の基礎やExcel・SPSS・JMP・EZR・JASPなどの統計ソフトの活用方法を扱う統計支援セミナーを夏季休講中に実施した。参加者アンケートでは、「わかりやすい」「参考になった」「学生指導にも活用できる」などの好意的な声が寄せられた。
- 8) 日本学術振興会が提供するe-learning教材「eL CoRE（院生用）」の学部生への視聴推奨を目的に、学科別の現状を把握するためのアンケートを行い、その結果に基づき、「強く推奨」「推奨」「不要」の3区分に視聴方針を整理した。
- 9) 退任教員による研究費購入図書の未回収を防ぐため、蔵書点検の実施を審議した。対象資料や手順は決定したが、不明資料の取扱いについての審議が不十分であったため、実施を見送った。
- 10) 基礎ゼミで館内を職員が案内する館内ツアーを実施し、1年生の利用は入館165%、貸出冊数105%と前年を上回り、基礎ゼミの図書館ガイダンス・ツアー参加者は173%と増加し、実施の効果が確認された。
- 11) 水沼尚樹選手を迎え、「スポーツと読書」をテーマにトークイベントを開催し、学生31名、教職員6名が参加した。
- 12) 学修支援センターHPにオープン教育リソースのページを新設し、全学にコンテンツの提供を呼びかけ、36本の動画を公開した。
- 13) 2024年度入学生を対象に「スタートダッシュセミナー」と称し、学修動画公開および対面オリエンテーション時に「大学での勉強のしかた」セミナーを実施した。
- 14) 国家試験対策およびSPI対策として春期講習会を実施し、93名が利用した。
- 15) 7学科を対象に学修支援センター利用推奨制度を実施した。
- 16) 大学院生講師の勉強会を実施し、指導時の悩みや不安を共有した。個別指導受講後にアンケートを実施し、受講生からの評価が高い講師を表彰する制度を開始した。
- 17) 各学科教員および学生にピアサポーター活動を理解し活用を促進するために、ハンドブックと各種申請書・報告書を作成した。
- 18) 学修支援ピアサポーターの募集と研修を実施し、14学科から82名を任命した。学科独自の活用は5学科で11件、全学科1年生を対象とした活動を4件実施した。
- 19) 2024年度新入生を対象に履修登録サポートデスクを実施した。在学生83名がボランティアスタッフとして参加し、新入生362名が利用した。
- 20) ボランティアマッチングサイトを通じて学生ボランティア7名を採用し、図書館案内動画6本とオススメ本紹介記事4本を作成し、公式Instagramで公開した。
- 21) 図書館・学修支援センターについて、在学生を対象に認知度アンケートを実施した。

ウ 就職センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

永井 徹（HN，委員長），高橋英明（PT，副委員長），藤目智博（OT），佐藤卓也（ST），前田 雄（AT），高野道代（AP），齋藤大造（CT），小林昭子（CO），安達哲浩（EM），石風呂実（RT），小林志郎・山本悦史（HS），佐藤真由美（NR），青木 茂（SW），千葉陽子（PS），市川明弘（HI），中田香織（事務局）長谷川陽一（事務局）

②会議開催回数

就職センター運営委員会会議12回，キャリア教育部会会議6回

③審議事項および決定事項等

- 1) 副委員長の選出。
- 2) 就職対策年間スケジュール（各学科と全体）の確定。
- 3) 将来計画・アクションプラン（2024年度）の振り返り。

- 4) 実践行動学パート3の企画, 実施.
- 5) 医療機関業界・職種研究会(4月20日)の企画・対面形式による準備・実施.
(臨床技術学科, 診療放射線学科が担当) 医療関連10施設, 学生209名の参加.
- 6) 業界・職種研究会(6月22日)の企画, 実施方法検討, 対面形式による準備・実施
(医療情報管理学科を主幹に健康スポーツ学科が担当, 義肢装具自立支援学科・社会福祉学科任意参加).
企業4社, 学生116名の参加.
- 7) 医療福祉施設求人説明会(7月27日)の案内先および実施方法検討, オンラインライブ形式での実施.
(作業療法学科を主幹に理学療法学科, 言語聴覚学科が担当).
医療関連46施設, 学生165名の参加.
- 8) QOLサポーターと学生の集い(10月12日)の企画・対面形式による準備・実施.
(卒業生22名, 学生136名の参加)
- 9) 保護者会(11月2日)における就職関係資料の準備・提供.
- 10) 学内企業等説明会(11月9日)の案内先および実施方法検討, 対面形式による準備・実施
(健康スポーツ学科, 医療情報管理学科を主とし, 他学科も任意参加可能).
企業39社, 学生182名の参加.
- 11) 教育基盤の確立と学生支援体制の強化のもと, 学生のモチベーション維持・向上のため国家試験前の就職内定を重視, 国試前後については時期に応じた未内定学生への支援を実施.
- 12) 各学科会議における就職指導状況の月次評価を共有, 効果的な就職対策の検討・協議.
- 13) 学生スタッフ組織(キャリアサポートスタッフ)12名, 3回のイベントにて活動.

④特記事項

- ・過年度まで実施してきた「卒業生の定着度調査」については, STEPSの見直しに伴い, 調査の目的および質問項目の見直しを実施. 調査の目的を「大学キャリア支援に対する就職先の認識を確認すること」とし, 調査名称を「卒業生状況調査」に改称. 調査の分析結果については, 各学科と共有するとともに, 総務会および合同教授会にて報告.
- ・キャリアカリキュラムMAPを作成, 各学科におけるキャリア教育を可視化.

エ 学生委員会

①委員名簿(敬称略, 所属, 委員会役職)

相馬俊雄(PT, 委員長), 岩森 大(HN, 副委員長), 関根千恵(PT), 伊関浩克(OT), 今井信行(ST), 村山 稔(AT), 阿部拓也・佐々木一真(CT), 福田晋平(AP), 生方北斗(CO), 田中耕一・五十嵐淳一(EM), 櫻井典子(RT), 重藤誠市郎・松浦由生子(HS), 栗原弥生(NR), 渡辺洋子・青木 茂(SW), 廣瀬清人・木村能成(PS), 熊倉真穂(HI), 風間篤史・倉部崇史・中山あかね・竹石莉奈(事務局)

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等

- 1) 学生委員による構内の巡視を兼ね美化運動を実施した. さらに学内外での事件・事故および地域からの苦情等については, 全学生への注意喚起および該当学生に対する個別指導等を行い再発防止に努めた.
- 2) 日本学生支援機構奨学金の利用者数について情報共有を行った.
- 3) 保護者会についてWEB形式に加え, 希望者を対象に対面形式にて企画・運営を実施した.
- 4) 薬物乱用防止に関する学生への指導として, 講演会等を実施した.
- 5) 学生生活アンケートを実施し, 集計結果を関係各署に情報共有することで学生生活の向上に努めた.

- 6) 学生の挨拶、マナー向上の啓発を目的に、挨拶促進・マナー向上標語の公募を行い、優秀作品3作品に対し、表彰を実施した。
- 7) 学長表彰、学生表彰に係る学生委員会の推薦候補者について審議した。
- 8) 学友会の学生と共同でクラブ・サークル紹介(冊子)の作成、全県人会の開催促進に取り組んだ。桃迎会(クラブ・サークルの勧誘会)や伍桃祭(大学祭)など学友会活動の継続と活性化に取り組んだ。

オ 交通安全委員会

①委員名簿(敬称略, 所属, 委員会役職)

青木 茂(SW, 委員長), 岩森 大(HN, 副委員長), 関根千恵(PT), 伊関浩克(OT), 今井信行(ST), 村山 稔(AT), 福田晋平(AP), 阿部拓也・佐々木一真(CT), 生方北斗(CO), 田中耕一・五十嵐淳一(EM), 櫻井典子(RT), 松浦由生子・重藤誠市郎(HS), 栗原弥生(NR), 渡辺洋子(SW), 廣瀬清人・木村能成(PS), 熊倉真穂(HI), 風間篤史・吉田千晃・馬場誠也(事務局)・駒沢 猛(事務局)

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等

- 1) 事故発生状況や防止に向けての対策, 2024年11月から改定された道路交通法について, 全学生を対象に交通安全講習会を実施した。
- 2) 教職員対象の交通安全講習会の企画と実施運営を行い, 教職員全員で事故防止に対する意識を持つことを目的とし, 地域の交通事故の実態, 交通法規の確認を行った。
- 3) 学生の車両登録を促進することで, 学内駐車場の安全管理に努めた。
- 4) 学内周辺の危険運転, 事故多発地域を調査, 確認し, 検討および改善に努めた。
- 5) 「交通安全無事故の誓い」を運営し, 過去に本学の学生が尊い命を落とした痛ましい交通事故の記憶を風化させない事を再確認し意識付けに努めた。

カ 国家試験・資格試験対策委員会

①委員名簿(敬称略, 所属, 委員会役職)

山口典子(NR, 委員長), 村田憲章(CO, 副委員長), 相馬俊雄・玉越敬悟(PT), 藤目智博(OT), 佐藤卓也・田村俊暁・千葉寛之(ST), 須田裕紀(AT), 福田晋平・村越祐介(AP), 川村宏樹・増子弘明(CT), 多々良俊哉(CO), 大松健太郎・外山 元(EM), 吉田宜清(RT), 岩森 大・宮本真菜(HN), 片山直幸(HN・9月まで), 佐藤晶子・西 博史(HS), 早川貴紀(NR), 原口彩子(SW), 領家梨恵(PS), 坂井さなえ・塚本徹雄(HI), 吉田俊雄・長谷川直人(事務局), 滝沢美希(事務局・7月まで)

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 国家試験・資格試験対策委員会規程および内規について審議し, 決定した。
- 2) 国家試験・資格試験対策委員会副委員長を選出し, 承認した。
- 3) 前年度の分析と課題の抽出および今年度の対策立案について, 確認した。
- 4) 試験対策費予算案について審議し, 決定した。
- 5) 9月卒業生の新卒・既卒の取り扱いについて, 確認した。
- 6) 前年度卒業生アンケート結果と改善について, 確認した。
- 7) 各学科の国試対策教室の配置について審議し, 決定した。
- 8) 各学科の模擬試験実施予定を取り纏め, 実施教室について検討・調整し, 決定した。
- 9) 既卒生のサポートについて取り纏め, 確認した。
- 10) 保護者会用に配信する国家試験・資格試験対策概要(WEB版)の作成について審議し, 決定した。

た。

- 11) 卒業時実態調査について審議し、決定した。
- 12) 大学閉鎖期間（年末年始）の対策予定について、確認した。
- 13) 毎月の指導状況および強化メンバー対策状況について、確認した。
- 14) 毎月の国家試験・資格試験同等基準の模試の結果について、確認した。
- 15) 国家試験・資格試験の結果について取り纏め、確認した。

④特記事項

- 1) 新たに強化メンバー確認シートを活用し、対象となる学生の抽出と指導内容について、確認した。
- 2) 前年度、合格率が向上した2学科の指導事例（視機能科学科・救急救命学科）の共有を、実施した。
- 3) 低学年からの指導・正課科目の見直し・実習期間中の対策等の取り組み推進について、確認した。
- 4) 6つの国家試験（理学療法士・視能訓練士・保健師・助産師・精神保健福祉士・介護福祉士）において、合格率100%を達成した。
- 5) 3つの国家試験・資格試験（臨床検査技師・診療放射線技師・診療情報管理士）において、過去最高合格率を達成した。またダブルライセンス（臨床検査技師・臨床工学技士）合格率においても、過去最高合格率を達成した。

② 教育開発推進部

ア 教務委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山崎貴子（HN，委員長），増田 修（CO，副委員長），齊藤 慧・北谷亮輔・小宮 諒（PT），高橋里奈・間宮靖幸（OT），佐藤卓也・内山 信・千葉寛之（ST），村山 稔・神田 賢（AT），高野道代・木村啓作（AP），高橋良光・阿部拓也（CT），志賀木綿子（CO），高橋 司・尾崎あかね（EM），吉田皓文・関本道治（RT），竹内瑞希・川上心也（HN），針谷美智子・奈良梨央・柴田篤志（HS），杉田洋子・渡邊千春（NR），福田敏秀・渡辺 恵・小出 直（SW），橋本照男・松本京介（PS），谷賢太郎・高野晃輔（HI），豊田典子（中央教育センター・オブザーバー），石井雅子（社会連携・同窓会推進機構・オブザーバー），駒形高広・渡辺珠希・和平勝明（事務局）

②会議開催回数 13回（うち1回メール審議）

③審議事項および決定事項等

- 1) 委員会規程第6条第3項に基づき，副委員長の指名を承認した。
- 2) 委員会規程第9条に基づき，教育の質マネジメント・学内授業推進専門部会，単位認定・編入学・転部転科等専門部会，学外実習専門部会を置き，部会員の選任および部会長の委嘱を承認した。
- 3) 3つのワーキンググループ（成績評価の妥当性検証WG・シラバス検討WG・定期試験要綱検討WG）を置き，WG長および各構成員を承認した。
- 4) 履修登録願に関する申請・審議手順について審議し，承認した。
- 5) 履修登録願の申請に基づく履修登録について審議し，承認した。
- 6) 非常勤講師の新規任用について審議し，承認した。
- 7) 転部転科者の既修得単位認定について審議し，承認した。
- 8) 第1年次入学者の既修得単位認定について審議し，承認した。
- 9) 2024年度入学者の出欠状況確認指標科目を学科ごとに決定した。
- 10) 定期試験実施要綱とその付録資料について審議し，承認した。
- 11) 追試験基準の改定について審議し，承認した。
- 12) 言語聴覚学科の2025年度カリキュラム変更について審議し，承認した。
- 13) 診療放射線学科の2025年度カリキュラム変更について審議し，承認した。

- 14) 健康データサイエンス学科（仮称）のカリキュラムについて審議し、承認した。
- 15) 後援会学外実習援助金分配方法の中退者等への扱いについて審議し、承認した。
- 16) 著作物利用に関する本学指針を作成し、指針について審議し、承認した。
- 17) 卒業認定に関する規程について審議し、承認した。
- 18) 9月期卒業認定に関する規程について審議し、承認した。
- 19) 「介護福祉士 養成課程」規程について審議し、承認した。
- 20) 「高大連携に関する科目等履修生」規程について審議し、承認した。
- 21) 学則 第42条「卒業および学位」の改定について審議し、承認した。
- 22) 「新潟医療福祉大学授業科目の履修の認定、試験及び成績評価に関する細則」の改訂について審議し、承認した。
- 23) 「児童厚生1級指導員資格養成課程」規程について審議し、承認した。
- 24) 短期語学研修に関する単位認定申請書の改訂について審議し、承認した。
- 25) DPに基づく卒業判定について審議し、承認した。
- 26) 学位審査基準の作成フォーマットについて審議し、承認した。
- 27) 卒業研究の評価基準の作成フォーマットについて審議し、承認した。
- 28) 学位規程の改定について審議し、承認した。
- 29) 「本学が求める学修成果」についてメール審議し、承認した。
- 30) 保健医療福祉教養科目群の2025年度開講計画（クラスサイズ等）について審議し、承認した。
- 31) 2025年度シラバス作成マニュアルについて審議し、承認した。
- 32) 臨床技術学科の科目開講時期変更について審議し、承認した。
- 34) 学外実習に係る後援会援助金の分配案について審議し、承認した。
- 35) 2025年度研究生・科目等履修生・聴講生募集概要について審議し、承認した。
- 36) アクションプラン達成度の自己点検・自己評価結果について審議し、承認した。

④特記事項

- 1) 2023年度卒業時アンケート結果について確認した。
- 2) 保健医療福祉教養科目群の抽選の結果について確認した。
- 3) 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群単位の学生の履修・修得状況について確認した。
- 4) 9月卒業申請者について確認した。
- 5) カリキュラム改定に関わる指針に基づき、各学科のカリキュラム改定予定を調査した。
- 6) 文部科学省への実習施設変更承認申請について対応した。
- 7) 一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）からの依頼に基づく授業目的公衆送信の利用報告について対応した（医療経営管理学部）。
- 8) 修学支援新制度に係る「実務経験のある教員等による授業科目」を確認した。
- 9) 定期試験実施本部体制を構築し、不正行為等発生時の対応を確認した。
- 10) 定期試験要綱の付録3「よくある質問と回答」の追記内容を確認した。
- 11) 要支援対象者基準を確認し、要支援対象者を抽出した。
- 12) 成績不合格者、成績未確定科目について確認した。
- 13) 成績評価に対する異議申立に関する対応について確認した。
- 14) 「スマホ出席」のトライアルを継続した。
- 15) 「スマホ出席」に関するアンケート調査を行い、結果を確認した。
- 16) シラバステンプレートを作成した。
- 17) シラバスの組織的点検、責任体制について整理し、確認した。
- 18) 次年度シラバスを点検した。
- 19) 次年度カリキュラム表を作成した。

- 20) 次年度カリキュラムにおけるメディア授業単位数を管理した。
- 21) 次年度授業時間割を作成した。
- 22) 非常勤講師の次年度担当内諾確認作業を実施した。
- 23) 次年度学事暦案を確認した。
- 24) 教科書販売に係る対応をした。
- 25) 授業用 Teams の利用を希望する授業を調査し、チームの作成対応をした。
- 26) 卒業判定会議に委員（各学科 1 名）を派遣した。
- 27) 卒業見込判定結果および卒業判定結果について確認した。
- 28) 学業成績優秀による学生表彰候補者を推薦した。
- 29) 2024 年度卒業時実態調査の実施要綱を確認し、回答収集に協力した。
- 30) 学外実習中の事故報告について共有した。
- 31) 学外実習費の当年度決算見込および次年度予算案を作成した。
- 32) 学外実習に係る後援会援助金の使途報告を作成した。
- 33) 研究プロジェクト演習（UROP）を運営した。
- 34) 研究プロジェクト演習（UROP）担当学科の役割を明文化した。
- 35) 研究プロジェクト演習（UROP）シラバスについて確認した。
- 36) 成績評価の妥当性検証へ向けたアンケート調査を行なった。
- 37) 「主要授業科目」の取りまとめを行なった。
- 38) 学外実習科目の GPA 算出に関する見解について、確認した。
- 39) 共通科目の運営組織体制に関する細則について、確認した。
- 40) 文科省の全国学生調査について確認した。
- 41) 内部質保証に関わるタスクについて整理し、確認した。
- 42) 履修登録単位数の上限の適切な設定について、確認した。
- 43) アセスメントプランに基づく内部質保証の運用について、確認した。
- 44) 大学設置基準に則した授業、単位授与、卒業要件について確認した。
- 45) 英語Ⅰ・Ⅱのオンデマンドクラスの運用について確認した。
- 46) 2024・2025 年度アクションプランの進捗について確認した。
- 47) 2024 年度の教務委員会について総括した。

イ FD・SD推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

杉崎弘周（HS，委員長），和田直子（NR，副委員長），平林 怜（PT），能登真一（OT），栗原 桂（ST），村山 稔（AT），金子聡一郎（AP），深澤友雄（CT），戸田春男（CO），外山 元（EM），吉田皓文（RT），増田紘之（HN），熊崎 昌（HS），松元 圭（SW），千葉陽子（PS），塚本徹雄（HI），阿部つばさ・木原 亨・船山澄子・中村 泉・中山あかね・遠藤有紀・萩原圭祐・近藤 道・青木薫彦・中川達貴・野澤桂一郎・谷原英朗（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項及び決定事項等

- 1) FD・SD推進委員会副委員長を選出し、承認した。
- 2) FD・SD推進委員会部会構成および部会担当者を決定した。
- 3) FD・SD推進委員会年間計画を審議し、決定した。
- 4) 学生による授業評価要綱について審議し、承認した。
- 5) 「新潟医療福祉大学FD・SDに関する基本方針」について審議し、承認した。
- 6) 「学部・大学院FDの実施」について審議し、承認した。
- 7) FD・SD推進委員会規程の改定について審議し、承認した。

④特記事項

- 1) 新任教員セミナーを実施した。
- 2) 新任職員SD研修会を実施した。
- 3) 春の職員会を実施した。
- 4) 研究費学内説明会を実施した。
- 5) 教員交流セミナーを実施した。
- 6) 秋の職員会を実施した。
- 7) 社会連携推進センターとの共催で、ランチョンセミナー「社会連携活動と学生の学び」を実施した。
- 8) 化学物質管理委員会との共催で、ランチョンセミナー「私立大学における自律的な化学物質管理について」を実施した。
- 9) 安全衛生委員会との共催で、教職員メンタルヘルス講習会を実施した。
- 10) ランチョンセミナー「学会発表の心の準備術：ストレスセルフマネジメントのすすめ」を実施した。
- 11) 社会連携推進センターとの共催で、ランチョンセミナー「心も体も健幸プロジェクト」を実施した。
- 12) 大学院との共催で、ランチョンセミナー「生成AIと高等教育」を実施した。
- 13) ランチョンセミナー「コーチングの心理学」を実施した。
- 14) 中央教育センター、メンタルヘルス支援室、図書館・学習支援委員会との共催でランチョンセミナー「シェアかふえ」を計7回実施した。
- 15) 各種セミナーはアーカイブコンテンツとしてFD・SD推進委員会Webサイトで公開した。
- 16) 前期前半、前期、後期前半、後期の学生による授業評価アンケートの実施計画を確認した。
- 17) 前期前半、前期、後期前半、後期の学生による授業評価アンケートを実施した。
- 18) 前期前半、前期、後期前半、後期の学生による授業評価アンケートの結果を集計、公開した。
- 19) 前期前半、前期、後期前半、後期の学生による授業評価アンケートに対する教員フィードバックコメントを集約、公開した。
- 20) FD・SDセミナー年間予定表を作成し、共有した。

ウ 新潟連携教育研究センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

藤井 豊（CT，委員長），村田憲章（CO，副委員長），井上達朗・田宮 創（PT），間宮靖幸（OT），
栗原 桂・千葉寛之（ST），東江由紀夫（AT），江川雅人・高野道代（AP），森田邦恵（CT），
小林昭子（CO），田中耕一（EM），甲斐千遥・佐々木啓（RT），中村純子（HN），若月弘久・
池田恵子（HS），山田真衣・小栗妙子（NR），福田敏秀・大屋未輝（SW），木村能成（PS），
谷賢太郎・鎌田 剛（HI），渡辺珠希・大塚 拓（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 連携総合ゼミ実行部会，連携基礎ゼミ実行部会，連携科目対応部会，連携教育研究部会の部員を選出し，承認した。
- 2) 連携総合ゼミを対面で実施することについて審議し，承認した。
- 3) 連携総合ゼミの他大学学生・海外学生の受入について審議し，承認した。
- 4) 連携総合ゼミの企画・準備スケジュールおよび各担当の割り振りについて審議し，決定した。
- 5) 連携総合ゼミの連携教育協力教員の募集を行った。
- 6) 連携総合ゼミの学生ガイド・教員ガイドの内容について審議し，承認した。
- 7) 連携総合ゼミの各事例への学生・教員配置について審議し，承認した。

- 8) 連携総合ゼミの開会式、発表会、修了式の内容について審議し、承認した。
- 9) 連携総合ゼミ期間中の開会式、発表会、修了式等の運営（オンライン含む）を行った。
- 10) 連携総合ゼミの学生アンケート・教員アンケートを実施し、結果の集計と考察を行った。
- 11) 連携総合ゼミの実施報告書を作成した。
- 12) 連携総合ゼミの次年度の日程について審議し、決定した。
- 13) 連携基礎ゼミを対面で実施することについて審議し、承認した。
- 14) 連携基礎ゼミの学生ガイド・教員ガイドの内容について審議し、承認した。
- 15) 連携基礎ゼミのゼミ分けについて審議し、承認した。
- 16) 連携基礎ゼミオリエンテーション、最終発表会の実施方法についてとりまとめを行った。
- 17) 連携基礎ゼミグループワークテーマについてとりまとめを行った。
- 18) 連携基礎ゼミの発表スライドデータを収集した。
- 19) 連携基礎ゼミの学生アンケート・教員アンケートについて審議し、承認した。
- 20) 連携科目の授業計画について審議し、承認した。
- 21) 保健医療福祉連携学をオンデマンドで実施した。
- 22) チームアプローチ入門をオンデマンドで実施した。
- 23) 地域連携学を対面で実施した。
- 24) 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会を含む、連携教育に関連する勉強会やシンポジウムなどについて情報発信を行った。
- 25) 新3年生・新4年生オリエンテーションで次年度連携総合ゼミの周知活動を行った。

④特記事項

- 1) 連携総合ゼミの海外学生の参加同意書について審議し、承認した。
- 2) 連携総合ゼミの前期履修登録期間について審議し、承認した。
- 3) 連携基礎ゼミにおける実践行動学 part II の取扱い及び成績評価ルーブリックについて審議し、承認した。
- 4) 連携基礎ゼミで使用するメーリングリストを作成した。
- 5) 連携基礎ゼミに関する FAQ を作成した。
- 6) 保健医療福祉連携学の運用マニュアルを策定し、承認した。

エ 教職支援センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

脇野哲郎（HS，委員長，センター長），丸山幸恵（NR，副委員長），片山直幸（HN），若月弘久・久保 晃・佐藤裕紀・柿原 豪（10月～）・針谷美智子・高田大輔・上田純平（HS），小林房代（NR），菅原直実・阿部つばさ（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 教職支援センター運営委員会副委員長を選出し、承認した。
- 2) 教職支援センター運営委員会年間計画を審議し、決定した。
- 3) 教職支援センター指導体制について審議し、承認した。
- 4) 2023年度卒業時アンケート結果について検討した。
- 5) 教員採用試験合格者目標値を設定し、決定した。
- 6) 学内教員による教員採用試験対策学内講座について審議し、決定した。
- 7) 外部業者による教員採用試験対策学内講座について審議し、決定した。
- 8) 外部業者による教員採用試験対策学内模試について審議し、決定した。
- 9) 教職支援センター利用ガイドラインについて確認した。
- 10) 教員採用試験人物評価試験対策について審議し、決定した。

- 11) 次年度予算案を審議し、決定した。
- 12) 教職課程自己点検・自己評価作業を実施し、「教職課程自己点検・評価報告書」を刊行した。
- 13) 新潟医療福祉大学将来計画について、教職支援センター運営委員会が関与する中期目標・中期計画およびアクションプランの実施状況について確認した。

④特記事項

- 1) 2023年度教職支援センター年報第8号を刊行した。また、新潟医療福祉大学・事業創造大学院大学機関リポジトリに登録した。
- 2) 教職支援センターニューズレター第13号・第14号を刊行した。
- 3) 教員採用試験対策オリエンテーションを実施した。
- 4) 教員採用試験「合格者の声を聴く会」を実施した。
- 5) 「現職教員の声を聴く会」を実施した。
- 6) 「新潟県・新潟市教員採用選考検査説明会」ならびに「教員採用試験結団式」を実施した。
- 7) 新潟県教育委員会・新潟県内私立大学との「教員養成連絡協議会」を実施した。（参加機関：新潟県教育委員会・敬和学園大学・新潟青陵大学・新潟薬科大学・新潟工科大学・新潟医療福祉大学）
- 8) 「学習ボランティア体験を語る会」を実施した。
- 9) 3学科連携「教職実践演習」を実施した。
- 10) 教員採用試験出願書類作成指導会を実施した。

オ 高等教育推進センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

吉田重和（HS，委員長），東江由起夫（AT，副委員長），八坂敏一・宮口翔太・長坂和明（PT），今西里佳・間宮靖幸（OT），内山 信（ST），江川雅人（AP），仙波妙子（CT），戸田春男（CO），高橋 司・外山 元（EM），関本道治（RT），鈴木一恵（HN），佐藤裕紀・亀岡雅紀（HS），石塚敏子・山田真衣（NR），國兼明嗣・荒川大靖（SW），坂田省吾・溝江 唯（PS），寺島和浩・木下直彦（HI），石浦章一（HI，アドバイザー），馬場広子（HN，アドバイザー），五十嵐紀子（中央教育センター，オブザーバー），吉田俊雄・駒形高広・村山萌子（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 委員会体制を決定した。（教育システム改革部会，共通科目部会，ICT教育推進部会，初年次教育推進部会）
- 2) DP到達度評価体制（学修ポートフォリオ活用体制）の運用を進め，改善点等を検討した。（教育システム改革部会）
- 3) DP到達度面談の実施体制を集約し，確立に向けた改善点等を検討した。（教育システム改革部会）
- 4) アセスメントプランの策定を進め，アセスメント対象と指標（アセスメントチェックリスト）について審議し，承認した。（教育システム改革部会）
- 5) 翌年度からアセスメント部会を設置することを決定した。（教育システム改革部会）
- 6) 「教育にかかわる内部質保証」について審議し，承認した。（教育システム改革部会）
- 7) 「新潟医療福祉大学教員としてのミニマム・リクワイアメント」の内容を更新した。（教育システム改革部会）
- 8) 習熟度試験の実施状況を調査し，改善点等を検討した。（教育システム改革部会）
- 9) 「新潟医療福祉大学の習熟度試験および特別指導に関する細則」を再規定した。（教育システム改革部会）
- 10) 少人数教育の実施状況を調査し，改善点等を検討した。（教育システム改革部会）

- 11) 卒業時アンケートの結果に対する各学科の対応シート作成を依頼した。(教育システム改革部会)
- 12) 科目ナンバリングの策定について検討した。(教育システム改革部会)
- 13) カリキュラムツリーの様式や作成手順等について検討した。(教育システム改革部会)
- 14) 「共通科目の運営組織体制に関する細則」の施行上の課題等を検討した。(共通科目部会)
- 15) 共通科目の科目群の定義や構成について検討した。(共通科目部会)
- 16) 語学科目の「DPとの関連性」の見直しについて働きかけを行った。(共通科目部会)
- 17) 保健医療福祉教養科目群のオンデマンド授業率を調査し、向上が必要であることを確認した。(共通科目部会)
- 18) 生成AIに関する情報を収集し、総括資料を作成した。(ICT教育推進部会)
- 19) メディア授業の質保証に関する情報を収集し、「メディア授業の質保証チェックリスト」および「遠隔教育の実施に関する質保証について」を作成した。(ICT教育推進部会)
- 20) 基礎ゼミの欠席管理と要支援学生の対応について検討した。(初年次教育推進部会)
- 21) 実践行動学Ⅰの実施状況を確認し、改善点等を検討した。(初年次教育推進部会)
- 22) 「私の夢」作文、「夢を語る会」の実施状況を確認し、改善点等を検討した。(初年次教育推進部会)
- 23) 「私の夢」作文に個人的な情報が含まれないよう、学生向け案内文を改訂することを決定した。(初年次教育推進部会)
- 24) プレテストの結果を収集・分析し、結果の活用について検討した。(初年次教育推進部会)
- 25) 入学前課題「学問サキドリプログラム」、「BASIC.StudyCamp」、「スタディサプリ」の実施結果を確認し、有効性等を検討した。(初年次教育推進部会)
- 26) 新入生アンケート結果を確認し、結果の活用について検討した。(初年次教育推進部会)
- 27) 基礎ゼミ授業アンケートを実施し、結果の活用について検討した。(初年次教育推進部会)
- 28) 基礎ゼミをGPA計算に含むかどうか検討し、GPA計算に含めないまま維持することを決定した。(初年次教育推進部会)
- 29) 基礎ゼミ再履修時の実践行動学Ⅰの取り扱いについて審議し、実践行動学Ⅰも含めた再履修とすることを承認した。(初年次教育推進部会)
- 30) 基礎ゼミの成績評価分布を調査し、基礎ゼミ成績評価ルーブリックを改定することを決定した。(初年次教育推進部会)
- 31) 基礎ゼミの授業目的について統一の文章を作成し、シラバスに反映することを決定した。(初年次教育推進部会)
- 32) 基礎ゼミのシラバスについて検討し、「DPとの関連性」を修正することを決定した。(初年次教育推進部会)
- 33) 新入生スクーリングの開催形式・内容を決定した。(初年次教育推進部会)
- 34) 入学前課題の希望調査を実施し、各学科の課題を決定した。(初年次教育推進部会)
- 35) 「入学後の補習教育とプレテストについて」の入学案内掲載文について審議し、承認した。(初年次教育推進部会)
- 36) 新入生スクーリングの参加後アンケートを実施し、改善点等を検討した。(初年次教育推進部会)
- 37) プレテストの実施科目を決定した。(初年次教育推進部会)
- 38) 入学前教育・初年次教育のフィードバックシートを作成し、効果検証について検討した。(初年次教育推進部会)
- 39) 新入生調査の実施要綱について審議し、承認した。(初年次教育推進部会)
- 40) 高等教育推進センター規程の改正について審議し、承認した(8月・12月)。
- 41) IR戦略委員会に要望するアセスメント用データについて審議し、承認した。
- 42) アクションプランの達成状況を確認した。

④特記事項

- 1) 「新潟医療福祉大学教員としてのミニマム・リクワイアメント」について新任教員セミナーで講

- 話した。(教育システム改革部会)
- 2) 「【4年制】教育にかかわる内部質保証」に関するQ&Aを作成した。(教育システム改革部会)
 - 3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)に申請し、認定を得た。(共通科目部会データサイエンス教育ワーキンググループ)
 - 4) 補習教育「Remedial Courses」の活用を推奨した。(初年次教育推進部会)
 - 5) 新入生スクーリングを開催し、出席率の算出方法を変更した。(初年次教育推進部会)
 - 6) 実践行動学(Part1～3)の担当者とりまとめおよびファシリテーター講習会を開催した。(初年次教育推進部会)
 - 7) STEPSの日本語・英語表記の変更に伴い、カリキュラムマップと学修ポートフォリオ上の表示を修正した。
 - 8) カリキュラム変更に伴う3つのポリシーおよびカリキュラムマップの変更要望を受け付けた。
 - 9) カリキュラムマップとシラバス間で「DPとの関連性」の不整合を修正した。

カ 中央教育センター運営委員会

①委員名簿(敬称略, 所属, 委員会役職)

五十嵐紀子(中央教育センター, 委員長), 吉田重和(HS, 副委員長), 八坂敏一(PT), 内山 信(ST), 亀岡雅紀(HS), 坂田省吾(PS), 豊田典子・今井理恵(中央教育センター), 吉田俊雄・村山萌子(事務局)

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等

- 1) 健康栄養学科定員増に伴う英語時間割を検討し、決定した。
- 2) 英語Ⅰ・Ⅱの一部クラスのオンデマンド化について検討し、対象者や実施計画を承認した。
- 3) 学科からのヒアリングを経て、第二外国語等の語学教育の在り方について検討を進めた。
- 4) 学科からのヒアリングを経て、強化指定クラブ所属学生の履修や出欠管理について検討を進めた。
- 5) スペイン語Ⅱ, 中国語Ⅰの一部クラス, アカデミック英語Ⅱの一部クラスの閉講について審議し、承認した。
- 6) アカデミック英語Ⅰ～Ⅲおよび第二外国語科目の「DPとの関連性」の統一化について審議し、承認した。
- 7) 英語プレイスメントテストはCASECのオンラインテストを継続採用することを決定した。
- 8) 語学研修による単位認定について検討し、教務委員会に審議を依頼した。
- 9) 教員海外派遣研修(フィリピン・セブ島)の開催方法, 対象者等を決定した。
- 10) 教員海外派遣研修参加者の成果還元方法として連携総合ゼミの担当となることについて審議し、承認した。
- 11) 留学生の文化的・宗教的背景への配慮について検討した。
- 12) 「やさしい日本語」の科目新設について検討した。
- 13) アカデミック英語Ⅰ～Ⅲの配当年次を1年次からとすることについて検討した。
- 14) 中央教育センターの今後の在り方について検討した。
- 15) 「多様性を受け入れるグローバル社会における優れたQOLサポーターの育成」を中央教育センターの活動の軸とすることを決定した。
- 16) 仁済大学校(韓国)からの短期研修受け入れについて検討した。

④特記事項

- 1) 「シェアかふえ～学生からのヘルプサインを見つけるためのヒント」をFD・SD推進委員会, メンタルヘルス支援室, 図書館・学修支援委員会と共催した。
- 2) 「Small Talk」を国際交流センター運営委員会と共催した。
- 3) 「Chit Chat Club」を6回開催した。

- 4) TOEIC IPテストを5回実施した。
- 5) 新入生オリエンテーションで語学学修や国際交流に関してガイダンスを行った。
- 6) 学生の必修英語の出欠状況を学科および事務局と共有した。
- 7) 「医療におけるやさしい日本語」のオンデマンドコンテンツを1学科に提供した。
- 8) 初めての定期試験を迎える1年生を対象とした相談会を2回開催した。
- 9) 連携総合ゼミで海外大学からの参加者を受け入れる2事例を担当した。
- 10) 海外研修9件の事前指導に協力した。
- 11) 新津高校との高大連携事業に協力した。
- 12) 作業療法学科のプロモーションアニメ制作に開志専門職大学とともに協力した。
- 13) 語学研修などの情報ポータルWebサイトを作成した。
- 14) 全学対象の英語研修（フィリピン・セブ島）を開催した。
- 15) 全学対象の韓国語研修（韓国・釜山）を開催した。
- 16) 英語プレイスメントテスト未受験者に代替テストを課した。
- 17) 英語Ⅰ・Ⅱの再履修者に履修案内を行った。
- 18) 非常勤講師の授業視察を行い、教育の質保証を進めた。

(3) 研究・産官学連携推進機構運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大西秀明（PT，委員長），佐藤大輔（HS），椿 淳裕（PT），児玉直樹（RT），江玉睦明（PT），
大竹 宏（事務局），大森由理（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 私立大学等総合改革支援事業タイプ2継続選定に向けた取り組みを実施した。
- 2) 「研究活動に関する基本方針」の策定した。
- 3) 「研究環境整備に関する方針」の策定した。
- 4) 「研究倫理規程」の策定した。
- 5) 「人を対象とする研究倫理規程」の策定した。
- 6) URA推進委員会の設置に伴う規程の整備について検討した。
- 7) 研究インテグリティの確保について検討した。
- 8) 動物実験委員会規程改定について検討した。
- 9) 知的財産に関連する規程等の見直しについて実施した。
- 10) 学術委員会規程改定について検討した。
- 11) 利益相反マネジメント規程の改訂について検討した。
- 12) 研究奨励金等合議審査を実施した。
- 13) 教育研究機関化学物質管理ネットワーク加入について検討した。
- 14) 科学研究費獲得における目標設定について検討した。
- 15) 次世代研究者挑戦的研究プログラムについて検討した。
- 16) 内部質保証について検討した。
- 17) 新規プロジェクトセンターの設置について検討した。
- 18) 2024年度アクションプラン自己点検評価について検討した。
- 19) 2025・2026年度アクションプランについて検討した。

① 研究・産学官連携推進部

ア 科研費対策委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

大鶴直史 (PT, 委員長), 能登真一 (OT), 田村俊暁 (ST), 須田裕紀 (AT), 木村啓作 (AP), 高橋良光 (CT), 村田憲章 (CO), 稲葉英夫 (EM), 大野 健 (RT), 増田紘之 (HN), 越中敬一 (HS), 和田直子 (NR), 松本京介 (SW), 平井克之 (HI)

事務局 大竹 宏, 大森由理

②会議開催回数 3回

③審議事項および決定事項等

- 1) 2024年度科研費対策の結果と評価を実施した。
- 2) 2025年度科研費申請率および採択率の目標設定を実施した。
- 3) 2024年度研究奨励金申請状況について報告をした。
- 4) 科研費サポートデスクについて検討した。
- 5) 科研費学内説明会の実施について検討した。

イ プロジェクト研究センター運営委員会

①委員名簿 (敬称略, 所属, 委員会役職)

椿 淳裕 (PT, 委員長), 吉岡 豊 (ST), 能登真一 (OT), 佐藤成登志 (PT), 西原康行 (HS), 山崎史恵 (HS), 大森 豪 (HS), 犬飼康人 (PT), 稲葉洋美 (HN), 大鶴直史 (PT), 東江由起夫 (AT), 中山憲司 (CT), 宇田優子 (NR), 大竹 宏 (事務局), 大森由理 (事務局)

②会議開催回数 1回

③審議事項および決定事項等

- 1) プロジェクト研究センターの定期活動について報告をした。
- 2) 新規プロジェクトセンター設置について報告をした。
- 3) ホームページの更新を行った。

② 研究・産学官連携支援部

ア 学術委員会

①委員名簿 (敬称略, 所属, 委員会役職)

委員長: 竹井委員長 (EM, 委員長), 佐宗委員 (PT), 田中委員 (AT), 津田委員 (AP), 吉田委員 (RT) 増田委員 (HN), 天賀谷委員 (NR), 能登委員 (OT) 渡辺委員 (SW), 今村委員 (ST), 瀧口委員 (HI), 越中委員 (HS), 松本委員 (PS), 齋藤委員 (CT), 野澤 (事務局)

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 新潟医療福祉学会誌編集内規について, 留意事項の説明を実施。
- 2) 2023年度対象者の学会賞表彰式についての実施報告。
- 3) 第24回新潟医療福祉学会学術集会進捗報告がされた
ポスター作成とHP作成, 演題募集は7月16日(火)~9月10日(火)を予定。
- 4) 第24回総会の議案書(案)ならびに役割分担確定者について承認された。
- 5) 第24回新潟医療福祉学会総会について, 当日の進行表に従い, 各担当と進行の確認がなされた。
- 6) 第24回新潟医療福祉学会学術集会の報告がなされた。(総数167名)
- 7) 第25回新潟医療福祉学会学術集会開催日程について, 2025年10月25日(土)で承認された。
- 8) 2024年度学会賞選考リストについて, 事務局より学会賞の選考スケジュールの説明と各委員へ論文選考の依頼がなされた。
- 9) 2024年度学会賞候補者の選定について(会頭賞・奨励賞) 5~6月中に会頭の承認を得て決定することが報告された。
- 10) 学術委員会規程の見直し案についての審議がなされた。

イ 倫理審査委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山崎史恵（HS，委員長），芝田純也（PT），笠井 聡（RT），渡辺洋子（SW），後藤千恵（NR），高野義隆（新潟リハビリテーション病院），立石 学（新潟県立吉田病院），渋谷友之，南雲優美，松沼知世（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 2024年度の申請件数は275件（受付番号19256～19530）だった。
- 2) 2024年度の学外学識経験者について，新潟リハビリテーション病院の高野義隆先生，新潟県立吉田病院の立石学先生を倫理審査委員に委嘱した。
- 3) 「新潟医療福祉大学 倫理審査委員会規程」（改定），及び「新潟医療福祉大学 人を対象とした研究倫理規程」（新設）について，委員会案が承認された。規定改定に伴い「有害事象・重篤な有害事象に関する手順書」についても新たに作成された。

ウ 遺伝子組換え実験安全委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

齋藤 憲（CT，委員長），久保亜抄子（AP，副委員長），田口 徹・小曾根海知（PT），田村典子（HN），大森由理（事務局）

②会議開催回数 5回（メール審議を含む）

③審議事項および決定事項等

- 1) 5件の遺伝子組換え実験計画書について審議し，5件を承認した。
- 2) 1件の遺伝子組換え実験室設置について審議し，1件を承認した。
- 3) 学内オートクレープの年次自主点検を実施した。
- 4) 実験計画書の提出締切日について審議し，承認した。

エ 動物実験委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

田口 徹（PT，委員長），久保亜抄子（AP，副委員長），徳永亮太（PT），太田大樹（PT），阿部拓也（CT），増田紘之（HN），越智元太（HS），坂田省吾（PS），山崎由美子（PS），平井克之（HI），大森由理（事務局）

②会議開催回数 13回（メール審議を含む）

③審議事項および決定事項等

- 1) 実験終了予定を過ぎた15件の動物実験計画について終了報告実施を通知し，適切な実験計画の管理を行った。
- 2) 33件の動物実験計画書について審議・再審議し，33件を承認した。
- 3) 2024年度は動物実験実施者による自己点検・評価を50件，実験動物管理者による自己点検・評価を3件実施し，委員会にて自己点検・評価報告書を作成した。
- 4) 微生物モニタリングについて実験実習棟（G棟）飼養保管施設（マウス・ラット）の4回，第11研究・実習棟（U棟）飼養保管施設（マーモセット・デグー）の1回を実施し，結果が全て陰性であったことを報告した。
- 5) 動物実験に関する情報公開を大学ホームページに掲載した。
- 6) 動物実験計画書の申請について動物実験実施者からの提出締切日を設定することを審議し，承認した。
- 7) 動物実験実施者（教員，大学院生および学生）102名を対象に，2024年度動物実験教育訓練について検討し，実施した。

- 8) 教育訓練の受講頻度について見直しを行い、2025年度以降は年1度の受講を必須とすることを審議し、承認した。
- 9) 公私立大学実験動物施設協議会主催2024年度（令和6年）教育・研修委員会主催研修会「実験動物管理者の教育訓練」（岩手県盛岡市）へ田口委員長と山崎委員が参加した。
- 10) 公益社団法人日本実験動物学会による「外部検証へ向けた事前個別相談」を2024年12月19日に実施した。
- 11) 2025年1月31日に日本実験動物学会主催の「動物実験の外部検証の実施準備に向けた事前説明会・個別相談会」へ田口委員長、山崎委員、事務局がオンラインにて参加した。
- 12) 動物実験実施規程、動物実験委員会規程、各飼養保管施設マニュアル等の見直しと改訂を行った。
- 13) 公私協働支援担当者の指導のもと、不足している申請様式について新規策定を行った。
- 14) 動物実験にかかわる施設等（飼養保管施設・実験室）について、動物実験実施者の申請に基づき、飼養保管施設6か所、動物実験室11箇所について設置承認を実施した。
- 15) 動物実験の組織体制図に沿って、管理者を2名、実験動物管理者3名配置した。
- 16) 飼養保管施設ごとに、管理者ならびに実験動物管理者を設置することについて審議し、承認した。
- 17) 2024年度（第14回）実験動物慰霊祭について検討し、2024年12月5日（木）に執り行った。動物実験に関わる教職員、大学院生および学生68名が参加した。

④特記事項

- 1) 令和7年度に公益社団法人日本実験動物学会の「動物実験の外部検証」を受検予定である。

オ 化学物質管理委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

中山憲司（CT，委員長）花村健次（RT，副委員長），齋藤大造（CT），山崎貴子（HN），越中敬一（HS），田口 徹（RT），久保亜抄子（AP），前田 雄（AT），瀬戸川純一（事務局）

②会議開催回数 13回

③審議事項および決定事項等

- 1) 委員会名称を「化学物質管理委員会」に改名した。
- 2) 化学物質管理規程を全面改訂した。
- 3) 化学物質管理委員会規程を改定した。
- 4) 化学物質管理者，保護具着用管理責任者を配置した。
- 5) 化学物質を使用している学内実習についてリスクアセスメント評価を行い，評価結果について学長に報告した。
- 6) 化学物質管理強調月間に併せて学内巡視を実施し，巡視結果を学長に報告した。
- 7) FD・SD推進委員会との共催で，「私立大学における自律的な化学物質管理について」（演者：早稲田大学環境保全センター 山崎淳司センター長・服部貴澄事務局長）の特別講演を開催した。
- 8) 消防法に基づく危険物の貯蔵量調査を実施した。
- 9) 高圧ガス保安法に基づく高圧ボンベの貯蔵量調査を実施した。
- 10) 高圧ボンベ管理を開始した。
- 11) 化学物質を使用する実習室・実験室の作業環境測定を実施した。
- 12) 排気装置の無い実習室・実験室においては，基本的に特定化学物質，第一種及び第二種有機溶剤の使用を禁止した。
- 13) 排水検査を実施した。
- 14) 教員と学生を対象とした「化学物質取扱講習会」を開催し，理解度確認テストを実施した。
- 15) 教職員及び学生を対象とした特殊健康診断を実施した。
- 16) 入職時化学物質管理情報の収集を開始した。
- 17) 環境省環境再生・資源循環局からの「水銀使用製品発見事例」に関する調査に対応した。

- 18) 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）の追跡調査に対応した。
- 19) 新潟市からの「水質汚濁防止法に基づく特定施設における有害物質の使用状況調査」に対応した。
- 20) 安全衛生委員会と健康管理センター運営委員会への参画を開始した。
- 21) 学部生を対象とした「化学物質のリスクと管理に関する講習会」を試行した。
- 22) 私立大学環境保全協議会夏期研修研究会に出席した。
- 23) NPO法人 教育研究機関化学物質管理ネットワーク（ACSES）に入会した。
- 24) オープンキャンパス時に化学物質を取り扱う場合は、参加する高校生等への保護メガネ着用を義務付けた。
- 25) 化学物質の納品・搬入検収を開始した。
- 26) 化学物質に関する納品管理の一元化に向けた検討を開始した。
- 27) 「分かり易い学内統一廃棄マニュアル」の作成を開始した。
- 28) 学内実習で使用した化学物質に由来する廃液は、廃液専用容器に集約のうえ、産業廃棄物処理業者へ適正に引き渡すこととした。
- 29) G棟のリノベーションについて専門的支援を実施した。
- 30) L棟の作業環境改善について専門的支援を実施した。

カ 利益相反マネジメント委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

児玉直樹（RT，委員長），大西秀明（PT），大鶴直史（PT），越智元太（HS），大竹 宏（事務局）

②会議開催回数 0回

③審議事項および決定事項等

- 1) 利益相反自己申告書の提出を求めた。

キ 知的財産委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

児玉直樹（RT，委員長），大西秀明（PT），大鶴直史（PT），越智元太（HS），瀬戸川純一（事務局）

②会議開催回数 4回

③審議事項および決定事項等

- 1) 「新潟医療福祉大学職務発明取扱規程」，「新潟医療福祉大学職務発明補償金規程」，「新潟医療福祉大学知的財産委員会規程」を新潟総合学園知的財産ポリシーに合わせ，改訂を行った。
- 2) 提出された職務発明届3件に関して1件を新潟医療福祉大学で権利を承継，2件を権利を承継しないことを決定した。

ク URA推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

江玉睦明（PT，委員長），平井克之（HI），藤井 豊（CT），山代幸哉（HS），佐藤郁美（NR），大竹 宏（事務局），大森由理（事務局）

②会議開催回数 10回

③審議事項および決定事項等

- 1) 令和7年度科研費申請者の分析を行った。
- 2) 科研費対策座談会の実施をした。
- 3) ケン活Caféの実施（年6回）。
- 4) ケン活サイト，ケン活Caféの発展版として新潟医療福祉学会にURA推進委員会として企画の出展を審議した。

③ 大学院教育研究支援部

ア 大学院教務委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

犬飼康人（PT，委員長），木下直彦（HI，副委員長），北谷亮輔（PT），今西里佳（OT），今村 徹（ST），阿部 薫（AT），高橋良光（CT），増田 修（CO），高橋 司（EM），関本道治（RT），萩原康雄（PA），澁谷顕一（HN），下門洋文（HS），山口久美子（NR），大屋未貴（SW），伊藤 求・阿部塊地・五十嵐香（事務局）

②会議開催回数 12回（うち1回メール審議）

③審議事項および決定事項等

- 1) 9月修了および3月修了者の論文審査スケジュールについて審議し，承認した。
- 2) 9月修了および3月修了者の論文審査会の開催方法について審議し，承認した。
- 3) 研究報告会および論文中間発表会の開催要領について審議し，承認した。
- 4) 学位論文およびDPループリックの回答システムについて審議し，承認した。
- 5) 大学院進学ガイドラインおよび論文作成マニュアルの改訂について審議し，承認した。
- 6) カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーの改訂について審議し，承認した。
- 7) カリキュラム変更申請書の改訂について審議し，承認した。
- 8) 2025年度修士課程共通科目および分野専門科目のカリキュラム変更について審議し，承認した。
- 9) 2025年度博士後期課程のNQSAP関連科目の新設について審議し，承認した。
- 10) 多職種連携特論の履修登録期間外の科目追加について審議し，承認した。
- 11) 大学院成績評価基準およびGPA規程化案を審議し，承認した。
- 12) 大学院修了認定に関する規程化案を審議し，承認した。
- 13) 複数の筆頭著者により学位論文の取扱いに関する規程化案を審議し，承認した。
- 14) 大学院学則および学位規程の改定案を審議し，承認した。
- 15) 学位論文等審査ならびに最終試験に関する規程等の改定等を審議し，承認した。
- 16) 9月期修了規程の改定案を審議し，承認した。
- 17) 在学期間短縮規程の改定案を審議し，承認した。
- 18) 大学院教務委員会規程の改定案を審議し，承認した。
- 19) 研究指導教員決定届の申請方法について審議し，承認した。

④特記事項

- 1) iThenticate オンライン説明会の実施を周知し，参加促進を図った。

イ 大学院教育研究環境委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

山代幸哉（HS，委員長），寺田貴美代（SW，副委員長），江玉睦明（PT），阿部 薫（AT），杉本 洋（NR），平井克之（HI），阿部塊地・田中伶奈・風間篤史（事務局）

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等

- 1) 大学院教育研究環境委員会副委員長を選出し，承認した。
- 2) 新たな教育課程の可能性について議論した。
- 3) ネットワーク型支援拡張について審議した。
- 4) 学籍異動対策について審議した。
- 5) FAQの改訂について審議した。
- 6) TA/ATAおよびメディアFDの実施時期について審議し，承認した。
- 7) 内部室保証について審議し，承認した。

- 8) 大学院教育研究環境委員会規程（改定案）と新旧対照表について審議し，承認した。
- 9) 新潟医療福祉大学FD・SDに大学院FDを併記することについて審議し，承認した。
- 10) ポートフォリオについて，kintoneのシステムを利用することについて審議し，承認した。
- 11) 在学生・修了生アンケート，大学院での学びに関するアンケートの実施について審議し，承認した。
- 12) キャリア支援科目の選定について審議し，承認した。
- 13) 博士後期課程のキャリア支援科目について審議し，承認した。

④特記事項

- 1) ティーチング・アシスタント研修は前年度のオンデマンド動画を継続要することを確認した。
- 2) TA・ATAハンドブックを更新した。
- 3) 大学院FDを実施した。
- 4) 新入生アンケート，学修・学生生活調査，修了生・在学生アンケートを実施した。

(4) 社会連携・同窓会推進機構委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西原康行（HS），佐藤成登志（PT），佐々木俊太郎（事務局），オブザーバー 深井美年（事務局），大竹 宏（事務局），瀬戸川純一（事務局），事務 比企美穂（事務局），山際美優（事務局）

②会議開催回数 11回

③審議事項および決定事項等

- 1) 社会連携推進センター運営委員会の統括管理について報告を行った。
- 2) ボランティアセンター運営委員会の統括管理について報告を行った。
- 3) 同窓会支援センター運営委員会の統括管理について報告を行った。
- 4) 私立大学改革総合支援事業タイプ3維持のための評価について報告を行った。
- 5) 島見自治会と本学の連携に関する検討を実施した。
- 6) 新潟市北区との連携強化に向けた実務者会議の定期実施を行った。
- 7) ラグーナスクエアの管理運営について報告をした。
- 8) 社会連携オンラインセミナーの管理運営について報告をした。
- 9) 2025年度向け北区連携事業企画について報告をした。
- 10) 同窓会のあり方について検討をした。
- 11) 北区地域情報交換会の実施について報告をした。
- 12) 社会連携推進センター規程の改訂について検討をした。
- 13) ボランティアセンター規程の改訂について検討をした。
- 14) その他 自治体及び地域との連携についての対応について検討をした。

① 社会連携推進部

ア 社会連携推進センター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

佐藤成登志（AT，社会連携推進部長），石井雅子（社会連携・同窓会推進機構，委員長），井上達朗（PT），能登真一（OT），栞原 桂（ST），村越祐介（AP），横山 貴（CT），辻 拓海（CO），田中耕一（EM），石風呂実（RT），中村純子（HN），熊崎 昌（HS），井澤玲奈（NR），渡邊恵司（SW），鎌田 剛（HI），松本京介（PS），佐々木俊太郎（事務局），比企美穂（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項等

- 1) 「社会連携実践演習Ⅰ・Ⅱ」科目の履修体制整備と学生支援

単位認定に向けた制度運用が進み，ボランティアネットワーク活用や支援体制の充実が図られ

た。

2) 活動報告の対象明確化と入力徹底

学会等の研究活動除外など対象範囲が整理され、報告精度と集約管理の向上が進められた。

3) オンラインセミナーの刷新と情報発信強化

講座動画の見直し、地域・学内への教育・広報効果を高めた。

4) 「健康長寿学」講座の継続と計画策定

地域住民との交流を重視し、健康・福祉分野の学びの場として継続実施された。

5) FD・SD企画による学生の学びの共有

学生の社会連携活動をテーマにFD・SDセミナーを実施し、社会連携活動が学生教育に与える影響に関して、事例を通じて教職員間で共通理解を深める機会となった。

6) 公開講座「同行援護従業者養成講座」の実施

視覚障害者支援の担い手育成を目的とし、学生・卒業生・地域住民の学びと交流の場となった。

④特記事項

1) 社会連携活動の認定とボランティアネットワークとの連携強化

学生の活動認定基準を整理し、教職員・学生双方に対してボランティアネットワークの積極的な活用を促進した。

2) 北区連携事業「未来のまちづくり事業」～心も体も健幸プロジェクト～の開始

北区民の生活の質と健康意識の向上を目的に、全6講座・25回にわたる連続プログラムを開講し、地域との協働を推進した。

3) 五泉市および鯖江市との連携事業の展開

複数の学科から学生が参画し、地域課題に対応する実践的な活動を展開した。

イ ボランティアセンター運営委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

佐近慎平（社会連携・同窓会推進機構，委員長），東江由起夫（AT，副委員長），渡邊恵司（SW），佐々木俊太郎（社会連携支援コーディネーター，事務局），比企美穂（事務局），山際美優（事務局）

②会議開催回数 13回

③審議事項および決定事項

- 1) ボランティアセンター運営委員会副委員長を選出して、承認した
- 2) ボランティアセンター運営委員会の構成メンバーを選出して、承認した
- 3) ボランティアネットワークの活用について審議され、承認された
- 4) ボランティアセンターの機能強化について審議され、承認された
- 5) ボランティアネットワークの運用に伴い、システムの改修・改善を開発業者と適宜行った
- 6) ボランティアセンター室を設置して、学生や依頼団体の相談対応を行った
- 7) ボランティアセンター規程の改訂について審議され、承認された
- 8) ボランティアセンター年次報告書の作成様式について審議され、承認された
- 9) 学生表彰候補者（社会貢献活動）について検討して、推薦した

② 同窓会・生涯学修推進部

ア 同窓会・生涯学修連携推進委員会

①委員名簿（敬称略，所属，委員会役職）

西原康行（HS，委員長），横田裕丈（PT），本間健太（OT），大湊 麗（ST），郷 貴博（AT），津田篤太郎（AP），阿部拓也（CT），辻 拓海（CO），安達哲浩（EM），櫻井典子（RT），星野美美（HN），鵜瀬亮一（HS），荒木恵子（NR），荒川大靖（SW），橋本照男（PS），高野晃輔（HI），佐々木俊太郎・山際美優（事務局）

②会議開催回数 12回

③審議事項および決定事項

- 1) 同窓会・生涯学修の推進に関する使命（ミッション）および同窓会ネットワークを構築するための具体的方策について検討した。
- 2) 同窓会委員およびサポーター協力のもと、同窓会員を対象としたメールマガジンを作成し、配信した。
- 3) 同窓会本部の活動および事業について情報共有を行った。
- 4) 大学と同窓会員のネットワークをより強化するために、新たな会員連携システムへ移行した。
- 5) 同窓会公式LINEを開設し、より気軽に情報を提供できる体制を整えた。
- 6) 新システムへの移行および公式LINEの開設に伴い、卒業時の生涯メールアドレス付与を終了すること、在学時に付与されたメールアドレスは1年間利用されなかった場合にのみ削除する方針へ変更した。
- 7) 在学生支援事業として、健康栄養学科同窓会と連携を取り、栄養価の高いメニュー「つなでちゃんランチ」を考案し、安価で提供した。
- 8) 連携総合ゼミへ同窓生を派遣し、各テーマに即したアドバイスをを行うことで在学生支援に努めた。
- 9) 同窓会委員によって、今年度卒業生の中から同窓会新役員を選出し、決定した。

④特記事項

- 1) 第1回同窓会本部会（オンライン開催）にて、同窓会役員とのコミュニケーションを図ることを目的とし、同窓会委員およびサポーター10名が出席した。
- 2) 6月30日（日）本学同窓生の長谷川直人選手（新潟アルビレックスRC所属）応援ツアーを開催した。
- 3) 11月16日（土）新潟東映ホテルにて、同窓会設立20周年記念パーティーを開催した。
- 4) 学科同窓会のみならず、クラブ・サークルやゼミ等の団体における交流事業を活発化させるため、新潟医療福祉大学同窓会親和交流事業助成金運用規程の改定について審議し、決定した。

(5) アスレティックデパートメント推進機構運営委員会

①委員名簿（敬称略、所属、委員会役職）

西原康行（副学長、機構長）、佐藤敏郎（HS学科長）、伊藤篤司（HS、アスレティックデパートメント推進部長）、南 俊之・梨本理沙・中川達貴・西海幸頼・漆原大夢（スポーツ振興室）

②会議開催回数 12回

③審議事項及び承認事項等

- 1) 強化指定クラブスカウティング目標値について審議し、承認した。
- 2) 2024年度強化指定クラブの体制について審議し、承認した。
- 3) アスレティックデパートメントの理念について審議し、承認した。
- 4) オリンピック競泳競技のパブリックビューイング開催について審議し、承認した。
- 5) MARUKO ASSEとのスポンサー契約について審議し、承認した。
- 6) UNIVAS AWARDS 2024-2025に10部門で応募することについて審議し、承認した。
- 7) 強化指定クラブのキャリア研修・コンプライアンス研修・リーダーズミーティングの内容について審議し、承認した。
- 8) NUHWアカデミーの実施内容について審議し、承認した。
- 9) 女性アスリートセミナーの実施内容について審議し、承認した。
- 10) 2025年度の強化指定クラブ体制について審議し、承認した。
- 11) 全日本大学女子駅伝応援ツアーについて審議し、承認した。
- 12) スポーツ特待生の確定について審議し、承認した。
- 13) 次年度のAD体制について審議し、承認した。

④特記事項

- 1) 10月20日(日)にスポーツイベント「NUHWスポーツフェスタ」を実施し、保護者・子ども約300名が参加したことを報告した。
- 2) 11月・12月に「NUHWアカデミースキルアップキャンプ」を実施し、中学生約230名が参加したことを報告した。
- 3) UNIVAS AWARDS 2024・2025において、3部門で優秀賞を受賞し、うち1部門で最優秀賞を受賞したことを報告した。

① 強化指定クラブ運営部

ア 強化指定クラブ運営委員会

①委員名簿(敬称略, 所属, 委員会役職)

西原康行(HS学科長, 委員長), 下山好充(HS, 水泳部監督), 小林志郎(HS, 陸上競技部監督), 佐熊裕和(HS, 男子サッカー部監督), 小池紳介(女子サッカー部監督), 若月弘久(HS, 男子バスケットボール部監督), 小林真里奈(HS, 女子バスケットボール部監督), 西 博史(HS, 女子バレーボール部監督), 鵜瀬亮一(HS, 硬式野球部監督), 池田恵子(HS, ダンス部監督), 中野茂和(卓球部監督), 久保 晃(HS, 男子バレーボール部監督), 西海幸頼(スポーツ振興室, テニス部監督), 後藤桂太(HS, 女子硬式野球部監督), 山崎 聡(スノーボード部監督), 南 俊之・梨本梨沙・中川達貴・漆原大夢(スポーツ振興室)

②会議開催回数 4回

③審議事項及び決定事項等

- 1) 強化指定クラブの新体制について説明した。
- 2) 2023年度強化指定クラブ所属学生の就職状況について報告した。
- 3) 2023年度総括・2024年度目標, 各部の取組等について共有した。
- 4) 2023年度監査に係る部費の提出書類について確認を行い, 共有した。
- 5) 各強化指定クラブの学生募集(スカウティング)の目標について共有した。
- 6) 学生の個人情報の取り扱いについて注意事項を共有した。
- 7) 10月20日(日)の「NUHWスポーツフェスタ」に向け, 各クラブから参加学生の募集を依頼した。
- 8) ボランティア・ネットワークの活用方法について説明した。

② アスレティックデパートメント推進部

ア アスレティックデパートメント推進委員会

①委員名簿(敬称略, 所属, 委員会役職)

伊藤篤司(HS, 委員長), 奈良梨央(HS, 人材育成部長), 山本悦史(HS, マーケティング部長), 南 俊之(スポーツ振興室, 競技力強化部長), 梨本理沙(スポーツ振興室, 広報部長), 西海幸頼・中川達貴・漆原大夢(スポーツ振興室)

②会議開催回数 12回

③審議事項及び決定事項等

- 1) 競技力強化部においてスカウティング方針の変更したことを報告した。
- 2) 競技力強化部において2025年4月にエンターテイメントダンス部を新たな強化指定クラブとして設置することを報告した。
- 3) 競技力強化部において強化指定クラブ学生を対象とした附属鍼灸センター利用サービスを実施した。
- 4) 競技力強化部においてトレーナー学生を対象としたトレーニング講習会を実施した。
- 5) 競技力強化部においてマルコ株式会社とのタイアップ企画として足形測定会を実施した。

- 6) 競技力強化部においてアスリートサポート研究センターとの協働による企業交流イベントを実施した。
- 7) 人材育成部において UNIVAS AWARDS2024 - 2025 に推薦する学内候補者選考を実施した。
- 8) 人材育成部において強化指定クラブ1年生対象のセミナーを実施した。
- 9) 人材育成部において就職活動スタートダッシュセミナーを実施した。
- 10) マーケティング部において NUHW スポーツフェスタを実施した。
- 11) マーケティング部においてスポンサー獲得戦略を検討した。
- 12) マーケティング部においてラグーナスクエアでクリスマスイベントを実施した。
- 13) 広報部においてアスレティックデパートメントの Instagram アカウントを開設したことを報告した。

6. 大学情報の公開と広報

1) 公開講座等

(1) 同行援護従業者養成講座を9月3日～7日の5日間の日程で実施

(2) オンラインセミナー講座一覧

講座名	講師名
講座1 認知症は予防できるか	学長 西澤 正豊
講座2 なぜチーム名にJリーグは『地域』が入り、プロ野球は『企業』が入るのか？	健康スポーツ学科 教授 西原 康行
講座3 足部とランニング障害の関係性について	理学療法学科 講師 高林 知也
講座4 ケガをしたときや具合の悪い時の初期対応	救急救命学科 講師 安達 哲浩
講座5 見えにくい方への支援 ～ロービジョンを考える～	社会連携・同窓会推進機構 教授 石井 雅子
講座6 アスリートやコーチの暗黙のわざとは	健康スポーツ学科 教授 西原 康行
講座7 こころ（心）の健康について	看護学科 講師 外間 直樹
講座8 あなたが受けてる健康診断！”ここ”を見えています！	臨床技術学科 助教 阿部 拓也
講座9「がん」との共生	教育・学生支援機構 教授 五十嵐 紀子
講座10 英会話と脳	教育・学生支援機構 准教授 豊田 典子
講座11 成長期に必要な栄養	健康栄養学科 講師 中村 純子
講座12 腰痛とうまく付き合おう	義肢装具自立支援学科 教授 佐藤 成登志
講座13 健美教室	鍼灸健康学科 講師 高野 道代
講座14 肩こり、腰痛の自分で治すセルフケア	鍼灸健康学科 教授 粕谷 大智
講座15 健康維持は足作りから ―膝の痛みのつぼ治療―	鍼灸健康学科 教授 江川 雅人
講座16 肩こり解消エクササイズ！	義肢装具自立支援学科 講師 神田 賢
講座17 子どもの眼の健康 ―眼育（めいく）―	社会連携・同窓会推進機構 教授 石井 雅子
講座18 食中毒のお話	健康栄養学科 教授 田村 典子

2) 広報活動

(1) オープンキャンパス・個別相談会の実施

・来場型オープンキャンパス 6回開催

(2) 各種広報物の作成

- ・大学案内パンフレット
- ・入試関連（入試ガイド、入試問題集、入試リーフレット等）
- ・職業&資格ガイドBOOK
- ・高大医連携プログラム冊子
- ・強化指定クラブ冊子
- ・キャンパスライフ冊子
- ・大学広報誌（QOLサポーター新潟）

(3) ホームページ・SNSの管理・運営

- ・学部学科情報、強化指定クラブ情報、オープンキャンパス等の大学情報の発信
- ・アドミッションポリシー、入学者選抜試験概要等の入試情報の発信
- ・教育研究上の目的、授業科目等の教育情報公開に係る情報発信
- ・大学トピックス&ニュース掲載
- ・公式SNS（Instagram, Facebook, X, TikTok, YouTube, LINE）による情報発信
- ・ブログ（学科・強化指定クラブ）による情報発信
- ・WEB広告出稿（Google, Yahoo, Instagram, Facebook, TikTok, YouTube, LINE）

(4) メディア広報

・パブリシティー掲載（TV，新聞等） 4,582件掲載

（5）進路相談会等への参加

・会場ガイダンス	121件
・高校内ガイダンス	293件
・高校出張講義	71件
・大学見学	27件

（6）高校教諭対象説明会の実施

・来場型	2回開催，参加29校30名
・WEB型	2回開催，参加65校75名

（7）その他

- ・高校訪問活動
- ・コンソーシアム新潟への参加

7. 研究活動

1) 学長

氏名：西澤 正豊

1 研究題目 神経難病・認知症の地域包括支援

2 論文

1. Nakajima A, Yanagimura F, Saji E, Shimizu H, Toyoshima Y, Yanagawa K, Arakawa M, Hokari M, Yokoseki A, Wakasugi T, Okamoto K, Takebayashi H, Fujii C, Itoh K, Takei Y, Ohara S, Yamada M, Takahashi H, Nishizawa M, Igarashi H, Kakita A, Onodera O, Kawachi I: Stage-dependent immunity orchestrates AQP4 antibody-guided NMOSD pathology: a role for netting neutrophils with resident memory T cells in situ. Acta Neuropathol 2024 Apr24; 147(1): 76. Doi: 10.1007/s00401-024-02725-x. PMID: 38658413 (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 西澤正豊. 「認知症を社会で支える」. 第24回新潟医療福祉学会特別講演（新潟市），2024.10.26.
2. 西澤正豊. 「次世代医療人の育成～新潟医療福祉大学の取組み～」. 第62回全国自治体病院学会総会特別講演，2024.11.1.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本神経学会（名誉会員，専門医，指導医），内科学会（名誉会員，認定内科医，指導医），神経免疫学会（名誉会員），小脳学会（名誉会員），認知症学会（代議員，指導医），神経化学学会（功労会員），神経感染症学会（功労会員），日本難病ネットワーク学会（顧問），日本難病センター研究会（会長），新潟医療福祉学会（会頭），American Academy of Neurology（Active Corresponding Member）

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 2024年度新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー，「認知症は予防できるか」，新潟医療福祉大学主催，新潟市北区民，新潟医療福祉大学オンライン，2024.11.25・

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業（プログラム・オフィサー），新潟市難病対策地域協議会（会長），新潟県難病医療連絡協議会（会長），加茂市「認知症とともに生きる笑顔あふれるまち加茂基本条例」制定委員会（会長）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

NPO法人新潟難病医療ネットワーク（理事長），日本多発性硬化症協会（顧問），日本脊髄小脳変性症・多系統萎縮症友の会（顧問）

6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部，医学入門2024「新潟水俣病の59年」，2024.11.7.

7 学内委員会活動 総務会（議長），大学院委員会，合同教授会，大学院研究科委員会，危機管理対策委員会（委員長），内部質保証推進委員会（委員長）

2) リハビリテーション学部

(1) 理学療法学科

氏名：大西 秀明

1 研究題目 知覚学習・運動学習に関する研究

2 論文

1. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Onishi H. Somatosensory training: a systematic review and meta-analysis with methodological considerations and clinical insights. *J Neuroeng Rehabil*. 2025 Mar 3; 22(1): 43. doi: 10.1186/s12984-025-01579-y. (査読あり)
2. Suzuki T, Nagasaka K, Otsuki T, Otsuru N, Onishi H. Tonic Electrical Stimulation of the Locus Coeruleus Enhances Cortical Sensory-Evoked Responses via Noradrenaline $\alpha 1$ and δ Receptors. *Eur J Neurosci*. 2025 Feb; 61(3): e70020. doi: 10.1111/ejn.70020. (査読あり)
3. Hori M, Kojima S, Onishi H. Cross-Modal Transfer Effects of the Go/No-Go Training With Visual Stimuli. *Brain Behav*. 2025 Feb; 15(2): e70309. doi: 10.1002/brb3.70309. (査読あり)
4. Ikarashi H, Otsuru N, Takahashi S, Nagasaka K, Hara M, Onishi H. Influence of alexithymia severity in the healthy population on the susceptibility to false interoceptive feedback. *Front Psychol*. 2025 Jan 8; 15: 1442138. doi: 10.3389/fpsyg.2024.1442138. (査読あり)
5. Shibata S, Onishi H, Mima T. TMS-EEG signatures of the effects of transcranial static magnetic field stimulation (tSMS) on cortical excitability. *Sci Rep*. 2024 Sep 27; 14(1): 22394. doi: 10.1038/s41598-024-72875-1. (査読あり)
6. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Otsuru N, Shirozu H, Onishi H. Resting-state functional connectivity involved in tactile orientation processing. *Neuroimage*. 2024 Oct 1; 299: 120834. doi: 10.1016/j.neuroimage.2024.120834. (査読あり)
7. Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, Kamii Y, Takahashi H, Miyaguchi S, Otsuru N, Onishi H. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. *Behav Brain Res*. 2024 Oct 18; 475: 115209. doi: 10.1016/j.bbr.2024.115209. (査読あり)
8. Yamamoto S, Miyaguchi S, Ogawa T, Inukai Y, Otsuru N, Onishi H. Effects of transcranial alternating current stimulation to the supplementary motor area on motor learning. *Front Behav Neurosci*. 2024 Apr 29; 18: 1378059. doi: 10.3389/fnbeh.2024.1378059. (査読あり)
9. Kitatani R, Furuyama T, Otsuru N, Onishi H. Region-specific Effects of Transcranial Direct Current Stimulation Over Posterior Parietal Cortex and Cerebellum on Standing Postural Displacement After Prism Adaptation. *Neuroscience*. 2024 Jul 23; 551: 229-236. doi: 10.1016/j.neuroscience.2024.05.043. (査読あり)
10. Kitatani R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influence of postural control difficulty on changes in spatial orienting of attention after leftward prism adaptation. *Exp Brain Res*. 2024 Jul; 242(7): 1533-1541. doi: 10.1007/s00221-024-06843-6. (査読あり)
11. Ohno G, Kuwamizu R, Yamashiro K, Fujimoto T, Ikarashi K, Kodama N, Onishi H, Sato D. Exercising with virtual reality is potentially better for the working memory and positive mood than cycling alone. *Mental Health and Physical Activity*. 2024, 27, 100641. doi.org/10.1016/j.mhpa.2024.100641. (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 大西秀明. 体性感覚機能の可視化と機能向上に向けたアプローチ. 第61日本リハビリテーション医学会学術集会. 東京. 2024.6.13-6.16.
2. 大西秀明. ロボット, BCI, 非侵襲的脳刺激はリハの三種の神器になるのか?! (「非侵襲的脳刺激」担当). 第37回全国リハ学校協会教育研究大会. 広島. 2024.8.30-8.31.

3. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 石井大典, 大鶴直史, 大西秀明. Improving in vivo autofluorescence imaging in rat brain with skull transparency. Neuro2024. 福岡市. 2024.7.24-7.27.
4. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 大鶴直史, 大西秀明. Voltage-sensitive dye imaging of rat frontal neuronal activity evoked by stimulation of the retrosplenial cortex. Neuro2024. 福岡市. 2024.7.24-7.27.
5. 長坂和明, 兵頭道大, 坂東大豪, 鈴木孝昇, 大西秀明, 肥後範行, 梶原利一, 高島一郎. In-vivo and ex-vivo optical imaging of somatosensory cortical activity in rat model of central pain following thalamus lesion. Neuro2024. 福岡市. 2024.7.24-7.27.
6. Shibata S, Onishi H, Mima T. Exploring the effects of transcranial static magnetic field stimulation on the brain oscillatory dynamics in human: A TMS-EEG study. NEURO2024. 福岡市. 2024.7.24-7.27.
7. Kitatani R, Hoshi H, Sorimachi R, Numata R, Hirano S, Otsuru N, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation targeting corticoreticular pathway increases common neural drives to thigh muscles during gait. XXIV Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology. Japan. 2024.6.26-6.29.
8. Shibata S, Onishi H, Mima T. Evaluation of the neuromodulatory effects of transcranial static magnetic field stimulation (tSMS) using TMS-evoked potentials (TEPs). The Federation of European Neuroscience Societies 2024. Vienna. 2024.6.25-6.29.
9. Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. Triple transcranial static magnetic field stimulation system can suppress the neural activity in the lumbar spinal cord. The Federation of European Neuroscience Societies 2024. Vienna. 2024.6.25-6.29.
10. Otsuru N, Kojima S, Ikarashi H, Inoue S, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Excitatory-Inhibitory Balance Assessed by Aperiodic Component and Its Correlation with Paired-Pulse Inhibition in the Primary Somatosensory Cortex: An MEG study. The Federation of European Neuroscience Societies 2024. Vienna. 2024.6.25-6.29.
11. Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. The spatial distribution of the magnetic field generated by tSMS over the lumbar spinal cord influences the neuromodulatory effects on the spinal cord. 6th International Brain Stimulation Conference. 神戸. 2025.2.23-2.26.
12. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation over primary and secondary motor cortex selectively increases common neural drives to distal and proximal lower limb muscles during gait. 6th International Brain Stimulation Conference. 神戸. 2025.2.23-2.26.
13. Ikarashi H, Otsuru N, Nagasaka K, Inoue S, Iimuro K, Onishi H. Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Left DLPFC Does Not Affect Conditioned Pain Modulation. 6th International Brain Stimulation Conference. 神戸. 2025.2.23-2.26.
14. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Nagasaka K, Iimuro K, Onishi H. Modulation of pain perception variability through tDCS stimulation of the left DLPFC. 6th International Brain Stimulation Conference. 神戸. 2025.2.23-2.26.
15. Iimuro K, Otsuru N, Hirata A, Ikarashi H, Inoue S, Kakuta S, Nagasaka K, Shirozu H, Iimuro K, Onishi H. Modulation of cortical oscillations by transcranial temporal interference stimulation (tTIS) targeting the primary somatosensory cortex. 6th International Brain Stimulation Conference. 神戸. 2025.2.23-2.26.
16. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関与する皮質律動活動の検討 (話題提供). 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム, 奈良. 2024.8.24-8.25.

17. 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期ストレスと成人期における安静時脳活動の関連 (話題提供). 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム. 奈良. 2024.8.24-8.25.
18. 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化 (話題提供). 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム. 奈良. 2024.8.24-8.25.
19. 星春輝, 芝田純也, 美馬達哉, 大西秀明. 脊髄に対する深部刺激用の静磁場刺激 (シン磁場) がH反射に及ぼす効果の検証 (話題提供). 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム. 奈良. 2024.8.24-8.25.
20. 北谷亮輔, 平野志織, 反町瑠菜, 沼田莉奈, 星春輝, 大鶴直史, 芝田純也, 大西秀明. 歩行中の一次運動野に対する律動経頭蓋直流電気刺激による筋内・筋間コヒーレンスの変化. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
21. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症のメカニズム解明. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
22. 長尾彩音, 長坂和明, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質と前頭葉における機能解剖の解明-膜電位感受性色素を用いた光イメージングによる検証-. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
23. 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 鈴木孝昇, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の一過性の興奮によって生じる一次体性感覚野神経活動の光イメージング. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
24. 鈴木孝昇, 長坂和明, 大槻智史, 長尾彩音, 大鶴直史, 大西秀明. 青斑核への持続的な電気刺激によって生じる体性感覚活動の上昇にはノルアドレナリン受容体が必須である. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
25. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関与する心理特性. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
26. 反町瑠菜, 北谷亮輔, 沼田莉奈, 平野志織, 星春輝, 芝田純也, 大西秀明. 歩行難易度と二重課題が歩行中の下肢筋への神経入力に与える影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
27. 黒崎純暉, 芝田純也, 大西秀明, 星春輝, 美馬達哉. 嚥下と発声を意味する動作語の理解が発声反応に及ぼす影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
28. 犬飼康人, 宮口翔太, 仲村萌, 高橋ひろな, 小野優翔, 大鶴直史, 大西秀明. 小脳に対する経頭蓋直流電流刺激が片脚立位バランスとバランストレーニング効果に与える影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
29. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における片脚立位バランスの左右差と小脳の灰白質容積との関連-Voxel-based morphometry (VBM) を用いた全脳解析による検討-. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
30. 小島翔, 長坂和明, 齊藤慧, 近藤優樹, 田邊かこ, 櫻井典子, 児玉直樹, 大西秀明. 手指を用いた両手交互運動の課題成績と灰白質容積との関連-脳構造画像解析手法を用いた検討-. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
31. 近藤優樹, 小島翔, 田邊かこ, 齊藤慧, 大西秀明. 一般大学生とアスリートにおける手指運動機能および触覚感度の関連. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
32. 佐々木亮樹, 小島翔, 齊藤慧, 大西秀明. メタ解析による知覚学習効果の検証. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
33. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖条件付けによる皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
34. 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期のストレスと成

- 人期における安静時皮質活動の関連. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
35. 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
36. 杵淵佑花, 大鶴直史, 原正之, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. バーチャルリアリティにおける手の色が痛み閾値に及ぼす影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
37. 佐久美貴江, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛み知覚の揺らぎと痛みに対する心理特性の関係. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
38. 谷黒葉菜, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. Interoceptive sensibilityと関連する皮質活動の検討. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
39. 竹内さくら, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛みに対する破局的思考と関連する皮質活動の検討. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
40. 星春輝, 芝田純也, 美馬達哉, 大西秀明. 脊髄に対する経皮的静磁場刺激はH反射を選択的に抑制するが体性感覚誘発電位(SEP)は変化させない. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
41. 武田真桜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 足底への連続的反復電気刺激が片脚立位時のバランス制御に与える効果. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
42. 小野優翔, 犬飼康人, 高橋ひろな, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野および小脳に対する経頭蓋ランダムノイズ刺激がバランス機能に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
43. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における閉眼片脚立位時間と灰白質容積との関連-Voxel-based morphometry (VBM)を用いた全脳解析による検討-. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
44. 石井瞳, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 小趾球部への高頻度反復感覚刺激が片脚立位バランスに与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
45. 小杉航大, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への陽極経頭蓋直流電流刺激がバランストレーニング効果に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
46. 菊地太陽, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 足趾への高頻度反復感覚刺激が姿勢制御に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
47. 佐々木亮樹, 小島翔, 齊藤慧, 大鶴直史, 白水洋史, 大西秀明. 触覚方位弁別に対する大脳ネットワークの役割. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会. 札幌. 2024.10.24-10.26.
48. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 脳構造画像解析に基づく脳領域への経頭蓋直流電流刺激が閉眼片脚立位バランスに与える影響. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (NQSAP Cafe). 新潟. 2024.10.26.
49. 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 齊藤慧, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. スラックラインを用いたバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証. 第24回新潟医療福祉学会学術集会. 新潟. 2024.10.26.
50. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 広視野脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症メカニズムの解明. 第24回新潟医療福祉学会学術集会. 新潟. 2024.10.26.
51. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質とラット後肢刺

激によって生じる前頭葉活動の解明—膜電位感受性色素を用いたイメージング—. 第24回新潟医療福祉学会学術集会. 新潟. 2024.10.26.

52. 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 齊藤慧, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一側下肢のバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証. 第30回新潟県理学療法学術大会. 新潟. 2024.10.26-10.27.
53. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性信号イメージングによる脳卒中後疼痛モデル動物の脳活動変化. 第46回日本疼痛学会. 東京. 2024.11.16-11.17.
54. 長坂和明, 吉田佳笑, 小川有生人, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への皮質内微小電気刺激による内因性神経応答の空間的特徴 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
55. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 膜電位イメージングによる脳梁膨大後部皮質と前頭前野領域の機能的結合の解明 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
56. 渡辺佳音, 長坂和明, 安達航希, 長尾彩音, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 扁桃体の事前損傷が視床出血後の疼痛行動に与える影響 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
57. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性イメージングによる脳卒中後疼痛発症後の脳活動変化の解明 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
58. 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 小川有生人, 鈴木孝昇, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の賦活化が体性感覚刺激誘発性の一次体性感覚野応答に及ぼす影響 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
59. 石山寛大, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 視床出血による体性感覚障害モデルラットの確立 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
60. 星春輝, 芝田純也, 美馬達哉, 大西秀明. 永久磁石を利用した新しい経皮的脊髄刺激がH反射および体性感覚誘発電位 (SEP) に与える影響 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
61. 中島雄太, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳卒中後疼痛ラットにおける島皮質のフラビン蛍光イメージング (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.
62. 黒崎純暉, 芝田純也, 大西秀明, 星春輝, 美馬達哉. 嚥下・発声に関連する動作語理解と発声反応時間の変化 (話題提供). 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.

4 学会活動

- 1) 所属学会 全国大学理学療法学会 (理事長), 日本基礎理学療法学会 (副理事長), 日本生体磁気学会 (評議員), 日本臨床神経生理学学会 (代議員), 日本理学療法士協会, 日本リハビリテーション医学会, 日本体力医学会, 新潟医療福祉学会, 日本末梢磁気刺激研究会 (理事), 新潟県理学療法士会, 新潟スポーツ傷害フォーラム (幹事)
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本基礎理学療法学会 (協力学術団体). 理学療法と非侵襲的脳刺激に関する委員会・委員 (活動期間: 2022.4.1-2023.3.31)
 2. 「理学療法学会教育」査読員 (活動期間: 2023.4.1-2024.3.31)

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度日本理学療法士教員協議会, 主催 (企画・運営, 報告書作成). Web開催. 2025.2.15. (活動期間: 2024.9-2025.3.31)

2. 日本理学療法士協会 4 年制大学化推進部会 シンポジウム・講師「日本の理学療法教育の現状と課題」
2025.1.26. (オンライン開催)

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024 年度, 科研費・基盤研究 (B), 運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イノベーション－ (分担), 代表: 佐藤大輔
2. 2024 年度, 科研費・基盤研究 (B), 低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明 (分担), 代表: 椿淳裕
3. 2024 年度, 科研費・基盤研究 (B), 非侵襲ヒト静磁場刺激の創生 (分担), 代表: 芝田純也
4. 2024 年度, 科研費・基盤研究 (C), 皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証 (分担), 代表: 北谷亮輔
5. 2023 年度, 科研費・基盤研究 (B), 脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活動バイオマーカーの確立と新たな治療戦略の創出 (分担), 代表: 長坂和明
6. 2023 年度, 科研費・基盤研究 (C), 知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出 (分担), 代表: 齊藤慧
7. 2023 年度, 科研費・基盤研究 (C), 動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発 (分担), 代表: 犬飼康人
8. 2023 年度, 厚生労働行政推進調査事業費 (障害者政策総合研究事業)「支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に資する研究」(分担), 代表: 亀山仁彦
9. 2022 年度, 科研費・基盤研究 (B), 慢性疼痛における治療非反応性の神経基盤解明による治療効果向上戦略 (分担), 代表: 大鶴直史
10. 2022 年度, 科研費・基盤研究 (C), 脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発 (分担), 代表: 平林怜
11. 2022 年度, 科研費・基盤研究 (C), 触圧覚刺激による一次運動野興奮性変動の神経基盤の解明 (分担), 代表: 山本智章
12. 2021 年度, 科研費・基盤研究 (B), 触圧覚刺激に対する皮質応答および個人差の解明と脳卒中リハビリテーションへの展開 (分担), 代表: 小島翔

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

日本理学療法士協会賞 (2024.6)

- 7 学内委員会活動 研究・産官学連携推進機構 (機構長), 将来計画機構 (機構長), 内部質保証推進委員会 (委員), 外部評価準備委員会 (委員), 利益相反マネジメント委員会 (委員), 知的財産委員会 (委員), 危機管理対策委員会 (委員), 研究施設企画委員会 (委員), 運動機能医科学研究所 (所員, 運営委員)

氏名: 椿 淳裕

- 1 研究題目 運動時の脳活動と循環反応に関する研究, 大脳皮質の微小循環の非侵襲的測定, 急性期のリスク管理
- 2 著書
 1. 椿淳裕; 市橋則明編. 図解理学療法技術ガイド. 第2章運動療法 6 有酸素運動トレーニング. 第5版. 東京: 文光堂; 2024: 204-210
 2. 椿淳裕, 田宮創, 森下慎一郎, 小島将. 循環器疾患および運動による脳の変化と計測デバイスとしての近赤外線分光法. 心臓リハビリテーション. 30 巻2号: ; 2024: 233-236
 3. 椿淳裕, 小島将. 近赤外線分光法のリハビリテーションへの応用—脳機能計測のツールとして. 腎と透析. 98 巻2号: 東京医学社; 2025: 215-219
 4. 小島将, 臼井直人, 椿淳裕. 慢性腎臓病に対するリハビリテーション. 心臓リハビリテーション. 30 巻2号: ; 2024: 222-228

3 論文

1. Washizawa L, Iwata K, Takimoto R, Inagaki Y, Maekawa Y, Sato D, Ikuta T, Takahashi T, Sasaki, Kitai T, Kohara N, [Tsubaki A](#). Changes in cerebral oxygenation in the prefrontal cortex during cardiopulmonary exercise testing in patients after cardiovascular surgery. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2024; 1463: 323-327 (review)
2. Maekawa Y, Iwata K, Inagaki Y, Takahashi T, Yamada K, Kohara N, [Tsubaki A](#). Effects of head elevation on cerebral oxygenation in acute cerebral infarction. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2024; 1463: 79-83 (review)
3. Imai R, Abe T, Yamaguchi S, Kimura S, [Tsubaki A](#). Relationship Between Regional Cerebral Oxygen Saturation and Percutaneous Oxygen Saturation at Initial Mobilization in Patients with Acute Heart Failure. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2024; 1463: 185-189 (review)
4. Takahashi T, Iwata K, Yamada K, Maekawa Y, Inagaki Y, Takahara N, Kitai T, Kohara N, [Tsubaki A](#). Prefrontal Cortex Oxygenation During Walking in an Acute Ischemic Stroke Patient with Severe Internal Carotid Artery Stenosis: A Case Report. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2024; 1463: 179-184 (review)
5. Kubota M, Konnai T, Takami Y, Matsuo H, [Tsubaki A](#), Nagamune K. Differences in brain activity during real and virtual reality motor tasks in normal healthy individuals. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2024; 1463: 73-77 (review)
6. Hashimoto N, Takada Y, Kubota M, [Tsubaki A](#). Changes in Clinical Findings and Cerebral Oxygen Dynamics in a Patient after a Subdural Hematoma Removal Surgery. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2024; 1463: 45-49 (review)
7. W Qin, Kojima S, Morishita S, D Qu, L Huang, [Tsubaki A](#). Relationship of Cognitive Function with Oxygenated Haemoglobin Concentration Difference Between the Left and Right Prefrontal Cortex During 40-Min Moderate-Intensity Exercise. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2024; 1463: 119-125 (review)
8. Kojima S, Usui N, Uehata A, Inatsu A, [Tsubaki A](#). Associations between bioelectrical impedance analysis-derived phase angle, protein-energy wasting and all-cause mortality in older patients undergoing haemodialysis. *Nephrology*. 2024; 29: 655-662 (review)
9. Usui N, Nakata J, Uehata A, Kojima S, Hisadome H, Inatsu A, [Tsubaki A](#), Saitoh M, Ando S, Kitayama T, Maikusa K, Nishiyama Y, Suzuki Y. Determinants of Longitudinal Changes in Exercise Capacity in Patients With Independent Functioning on Hemodialysis. *Physical Therapy*. 2025; 105: 147 (review)
10. Tamiya H, Hotta K, Hoshiai M, Kurosawa Y, Hamaoka T, [Tsubaki A](#). Leg fidgeting alleviates reduced oxygen extraction in the gastrocnemius muscle caused by prolonged sitting: a randomized crossover trial. *European Journal of Applied Physiology*. 2025; 125: 469-481 (review)
11. Takada Y, Hashimoto N, Kubota M, [Tsubaki A](#). Cerebral Hemodynamics Measured by Wearable Near-Infrared Spectroscopy During Bedside Mobilization in a Patient With Chronic Heart Failure Hospitalized for Acute Exacerbation. *Cureus*. 2025; 17: e78489 (review)
12. Imai R, Abe T, Iwata K, Yamaguchi S, Kitai T, [Tsubaki A](#). Regional cerebral oxygen saturation during initial mobilization of critically ill patients is associated with clinical outcomes: a prospective observational study. *Intensive Care Medicine Experimental*. 2025; 13: 13 (review)
13. [Tsubaki A](#), Kojima H, Tamiya H, Hayao K, Sato T, Imai R, Samejima S, Iwata K, Morishita S. Thigh cuff release-induced repeated acute hypotension and cerebral oxygenation recovery. *SPIE proceeding*. 2025. doi: 10.1117/12.3040455
14. Kojima S, Usui N, Uehata A, Inatsu A, Chiba Y, Hisadome H, Suzuki Y, Nakata J, [Tsubaki A](#). Acute

Effect of Moderate-Intensity Interval Intradialytic Exercise on Cerebral Oxygenation in Hemodialysis Patients; A Randomized Crossover Trial. Journal of the American Society of Nephrology. 2025 (in press) (review)

15. Takeda T, Tsubakoshi D, Tsubaki A, Yamamoto S. Occupational therapy for patients with cardiovascular disease – a systematic review. Circulation Reports. 2025; 7: 395-402 (review)

4 報告書

1. 椿淳裕. 科研費基盤研究B, 酸素ダイナミクスに基づく大脳皮質微小循環の評価法の開発と検証, 令和2～5年度, 研究代表者
2. 椿淳裕. 株式会社ベネクス, 共同研究, 遠赤外線素材 (DPV576) を含有する繊維製衣類の使用における安静時組織血流量, 血圧および体温変化に関する研究, 2022～2023年度, 研究代表

5 学会等研究発表

1. 椿淳裕. 急性期リハビリテーションにおけるNIRSの臨床応用の可能性. 第63回日本生体医工学会大会 (鹿児島市), 2024.5.23-5.25. 【シンポジウム】
2. 椿淳裕. 内部障害理学療法の基礎. 第59回日本理学療法学術研修大会 (東京都), 2024.6.29-6.30. 【教育講演】
3. 椿淳裕. 理学療法士レジデント制度と大学院との連携. 全国リハビリテーション学校協会第37回教育研究大会・教員研修会 (広島市), 2024.8.31. 【教育講演】
4. 椿淳裕. スライド作成のetc. 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会 (新潟市), 2024.9.7-9.8. 【教育講演】
5. 椿淳裕. マクロ, ミクロの循環から考える循環器理学療法学. 第8回日本循環器理学療法学会学術大会 (仙台市), 2024.11.23-11.24. 【シンポジウム】
6. 椿淳裕. 急性期リハビリテーションにおけるNIRSの臨床応用の可能性. 第18回運動循環器病学研究会 (オンライン), 2025.2.15. 【教育講演】
7. 椿淳裕. 重複障害における理学療法. 第2回 (呼吸) 第5回 (循環) 領域別研修会合同研修会 (新潟市), 2025.2.16. 【シンポジウム】
8. Tsubaki A, Kojima H, Tamiya H, Saito S, Shioya T, Morishita S. Thigh Cuff Release-Induced Repeated Acute Hypotension and Cerebral Oxygenation Recovery. Asia PRevent 2024 (Japan), 2024.7.13-7.14.
9. Tsubaki A, Kojima S, Tamiya H, Morishita S, Samejima S, Iwata K. Unexpected orthostatic hypotension and multi-channel cerebral hemodynamic changes in young male participant; a case report. ISOTT 2024 (Socorro), 2024.6.8-6.13.
10. Tsubaki A, Kojima H, Tamiya H, Hayao K, Sato T, Imai R, Samejima S, Iwata K, Morishita S. Thigh cuff release-induced repeated acute hypotension and cerebral oxygenation recovery. SPIE West 2025 (San Francisco), 2025.1.25-1.31.
11. Sato T, Sagawa S, Kataoka D, Igarashi M, Ishibashi R, Endo Y, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Characteristics of Oxygenation Changes in Non-active Muscle During Incremental Exercise in Healthy Adults. ISOTT 2024 (Socorro), 2024.6.8-6.13.
12. Endo Y, Kataoka D, Sagawa S, Igarashi M, Ishibashi R, Sato T, Tsubaki A, Tamiya H, Morishita S. Characteristics of muscle oxygenation of the upper and lower limb during moderate-intensity upper limb crank exercise: near-infrared spectroscopy study. ISOTT 2024 (Socorro), 2024.6.8-6.13.
13. Imai R, Tsubaki A, Abe T, Yamaguchi S. Patients admitted to the ICU who cannot be mobilized for the first time within 72 hours have low regional cerebral oxygen saturation. ISOTT 2024 (Socorro), 2024.6.8-6.13.
14. Takahashi T, Iwata K, Yamada K, Maekawa Y, Inagaki Y, Sasaki Y, Takahara N, Hirai T, Kohara N, Tsubaki A. Oxygenation Dynamics in Prefrontal Cortex during Walking in Acute Stroke Patients: A Near-Infrared Spectroscopy Study. ISOTT 2024 (Socorro), 2024.6.8-6.13.

15. Tokuda S, Kojima H, Tamiya H, Baba H, Tsubaki A. Changes in the time to nadir of mean arterial pressure and oxygenated hemoglobin in the prefrontal cortex due to repeated rapid hypotension. ISOTT 2024 (Socorro), 2024.6.8-6.13.
16. 大森恵利華, 高橋朋弥, 高原夏葵, 小林壮太, 岩田健太郎, 田宮創, 早尾啓志, 椿淳裕. 健常高齢者を対象とした, 歩行課題, 認知課題, 二重課題中の前頭前野の脳酸素化動態の比較. 第26日本光脳機能イメージング学会学術集会 (東京都), 2025.3.1.
17. 橋本明日翔, 塩谷拓馬, 斎藤真太郎, 今野溪, 椿淳裕, 田宮創, 早尾啓志. 急性の血圧低下に対する左右前頭前野の酸素化ヘモグロビン変動に中強度サイクリング運動が与える影響. 第26日本光脳機能イメージング学会学術集会 (東京都), 2025.3.1.
18. 今野溪, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 橋本明日翔, 大森恵利華, 田宮創, 早尾啓志, 椿淳裕. 中強度サイクリング運動が急性の血圧低下に対する酸素化ヘモグロビン変動に与える影響. 第26日本光脳機能イメージング学会学術集会 (東京都), 2025.3.1.
19. 岩田健太郎, 前川侑宏, 高橋朋弥, 今井遼太, 北井豪, 幸原伸夫, 椿淳裕. ICUリハビリを変革するNIRS: 脳循環の“見える化”が拓く新たな早期離床戦略. 第52回日本集中治療医学会学術集会 (福岡市), 2025.3.14-3.16. 【シンポジウム】
20. 今井遼太, 椿淳裕, 岩田健太郎, 山口征吾. ICUにおける急性心不全の離床におけるNIRSの利用. 第52回日本集中治療医学会学術集会 (福岡市), 2025.3.14-3.16. 【シンポジウム】
21. 前川侑宏, 岩田健太郎, 山田莞爾, 稲垣優太, 高橋朋弥, 幸原伸夫, 椿淳裕. 脳梗塞患者の早期リハビリテーションにおける近赤外線分光法の利用. 第52回日本集中治療医学会学術集会 (福岡市), 2025.3.14-3.16. 【シンポジウム】
22. 川尻陽菜, 田宮創, 吉野琢朗, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 椿淳裕. ベルト型骨格筋電気刺激が全身及び下肢導管動脈の血行動態に与える即時効果. 第8回日本循環器理学療法学会学術大会 (仙台市), 2024.11.23-11.24.
23. 長澤朋枝, 齋藤優花, 田宮創, 椿淳裕. スタティクストレッチングにおける伸張時間と反復回数の違いが膝窩動脈の血行動態に与える即時効果. 第11回日本予防理学療法学会学術大会 (宮城県柴田郡), 2024.11.9-11.10.
24. 船山結衣, 井上達朗, 堀田一樹, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 窪田杏奈, 宮田裕章. 高齢者の視力低下は歩行速度低下と関連する. 第11回日本予防理学療法学会学術大会 (宮城県柴田郡), 2024.11.9-11.10.
25. 古澤芽依, 井上達朗, 堀田一樹, 児玉直樹, 櫻井典子, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 宮田裕章. 母指球筋に着目した骨格筋量ガイド指標の実装～MRIによる基礎的事項の検討と地域在住中高齢者での検証～. 第11回日本予防理学療法学会学術大会 (宮城県柴田郡), 2024.11.9-11.10.
26. 北野侑, 池上諒, 椿淳裕, 中村雅俊, 藤本知臣. レジスタンストレーニング後の温熱またはアイシング処置が筋力・筋厚に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀市), 2024.9.2-9.4.
27. 西野光貴, 井上達朗, 堀田一樹, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 窪田杏奈, 宮田裕章. 超音波画像診断装置を用いて測定した大腿前面筋厚をBMIで補正した指標は転倒と関連する. 第3回日本老年療法学会学術集会 (札幌市), 2024.8.3-8.4.
28. 笠井紅里, 井上達朗, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 田宮創, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数を低下させる. 第3回日本老年療法学会学術集会 (札幌市), 2024.8.3-8.4.
29. 増田隆之介, 大山由廉, 小澤哲也, 平田萌々花, 小川拓真, 霜田直史, 井上達朗, 椿淳裕, 平田康英, 野寄浩司. 急性期病院に入院した大腿骨近位部骨折患者の大腿前面の筋厚が退院時ADLへ与える影響. 第3回日本老年療法学会学術集会 (札幌市), 2024.8.3-8.4.
30. 橋本直之, 高田勇, 久保田雅史, 吉田信也, 櫻井吾郎, 椿淳裕. 性期脳梗塞患者におけるベッドサイド離床時の脳血流動態の評価について. 第22回日本神経理学療法学会学術大会 (福岡市), 2024.9.28-9.29.

31. 高橋朋弥, 岩田健太郎, 山田莞爾, 前川侑宏, 稲垣優太, 高原夏葵, 平井智樹, 佐々木勇人, 椿淳裕. 急性期脳卒中患者における二重課題歩行中の前頭前野の活動. 第22回日本神経理学療法学会学術大会 (福岡市), 2024.9.28-9.29.
32. 小川拓真, 小澤祐治, 新山祐貴, 小澤哲也, 平田萌々花, 佐藤隆一, 霜田直史, 井上達朗, 椿淳裕, 鈴木良介. 急性期脳卒中患者の入院時の上腕二頭筋の筋厚が退院時のADLに及ぼす影響. 第22回日本神経理学療法学会学術大会 (福岡市), 2024.9.28-9.29.
33. 小島将, 椿淳裕, 臼井直人, 上畑昭美. 血液透析患者の脳の微小循環と運動の影響. 第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 (横浜市), 2025.3.14-3.15. 【シンポジウム】
34. 小島日向, 徳田紗弥, 馬場啓貴, 田宮創, 井上達朗, 岩田健太郎, 古川裕, 椿淳裕. 急性の血圧低下を繰り返すことが平均血圧と前頭葉の酸素化ヘモグロビンに及ぼす影響. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (神戸市), 2024.7.13-7.14.
35. 佐々木勇人, 岩田健太郎, 山田莞爾, 前川侑宏, 稲垣優太, 高橋朋弥, 幸原伸夫, 古川裕, 村井亮介, 椿淳裕. 高齢心臓血管外科手術患者における入院関連機能低下を予測する術前因子の検討. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (神戸市), 2024.7.13-7.14.
36. 田宮創, 齋藤優花, 岡田明寿美, 長澤朋枝, 堀田一樹, 星合愛, 椿淳裕. 長時間の座位は腓腹筋の酸素抽出を障害するが, 下腿運動を行うことで防ぐことができる. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (神戸市), 2024.7.13-7.14.
37. 今井遼太, 阿部貴文, 山口征吾, 木村新平, 若杉嵩幸, 佐藤聡磨, 椿淳裕. 急性期心不全患者における初回離床時の酸素化動態の重症度での比較. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (神戸市), 2024.7.13-7.14.
38. 川尻陽菜, 田宮創, 吉野琢朗, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 椿淳裕. ベルト式神経筋電気刺激が健常若年男性における微小血管機能に与える影響. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (神戸市), 2024.7.13-7.14.
39. 佐藤大地, 椿淳裕, 岩田健太郎, 寺澤知哲, 諏訪和彦. 三次急性期病院における理学療法レジデント制度での2年間の経験と2024年度現在の取り組み. 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会 (新潟市), 2024.9.7-9.8.

6 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本腎臓リハビリテーション学会, 日本体力医学会, 日本糖尿病学会, 日本光脳機能イメージング学会 (評議員), 日本基礎理学療法学会 (評議員), 日本呼吸理学療法学会 (評議員), 日本循環器理学療法学会 (評議員), 日本糖尿病理学療法学会, 日本生理学会, 日本運動生理学会, 日本臨床神経生理学学会, 日本臨床生理学学会, 日本心不全学会, 日本高血圧学会, 日本睡眠学会, 日本抗加齢医学会, 日本微小循環学会, 新潟医療福祉学会, The European College of Sport Science, International Society on Oxygen Transport to Tissue, International Society of Physical Medicine and Rehabilitation, International Society for Cerebral Blood Flow and Metabolism, European Respiratory Society, European Association for the Study of Diabetes, European Association of Preventive Cardiology, The Physiological Society, American Physiological Society, American Heart Association
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本呼吸理学療法学会, 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会, 準備委員長, 新潟市, 2024.9.7-9.8.
 2. 日本集中治療医学会, 第52回日本集中治療医学会学術集会, プログラム委員, 福岡市, 2025.3.14-3.16.
 3. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会第6回合同研究会, 大会長, 新潟市, 2024.9.29-2025.3.31.
 4. 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会, 大会長, 新潟市, 2025.3.1-3.31.
- 3) 学会等でのその他の活動

1. 理学療法学, 査読委員
 2. Physical Therapy Research, 査読委員
 3. Frontier in Human Neuroscience, Review board
 4. Frontier in Physiology, Review board
 5. International Journal of Environmental Research and Public Health, Topic Editor
 6. Philippine Journal of Allied Health Sciences, International reviewer
 7. 日本光脳機能イメージング学会, 評議員
 8. 日本基礎理学療法学会, 評議員
 9. 日本循環器理学療法学会, 評議員
 10. 日本呼吸理学療法学会, 評議員
 11. 医用近赤外線分光法研究会, 世話人
 12. 日本循環器理学療法学会, 機関誌編集委員会委員
 13. 日本循環器理学療法学会, 教育委員会委員
 14. 日本循環器理学療法学会誌, 査読員
- 7 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024-2027年度, 基盤研究B：低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明, 研究代表者
 2. 2024-2027年度, 基盤研究B：血液がんサバイバーのサルコペニアを改善し免疫を活性する運動と栄養プログラムの開発, 研究分担者
 - 2) 受賞, 学位取得, 資格取得

Award of Excellence, JACR Asia Prevent 2024 (2024.7.14)
- 8 学内委員会活動 入試委員会（委員長）, 研究・産官学連携推進機構, 研究・産官学連携推進部（部長）, プロジェクト研究センター運営委員会（委員長）, 運動機能医科学研究所, 脳卒中リハビリテーション研究センター

氏名：奈良 貴史

- 1 研究題目 人類進化学, 骨考古学
- 2 著書
 1. 辰巳晃司, 佐伯史子, 奈良貴史, 群馬県東吾妻町厚田橋詰遺跡から出土した人骨の人類学的報告. 厚田橋詰遺跡. 群馬県埋蔵文化財調査事業団; 2024: 47-50.
 2. 佐伯史子, 辰巳晃司, 吉田皓文, 奈良貴史, 群馬県西上之宮遺跡出土人骨の人類学的報告. 西上之宮遺跡(1) - 中世墓編 -. 群馬県埋蔵文化財調査事業団; 2025: 164-187.
 3. 奈良貴史, 佐伯史子, 辰巳晃司, 解良美雪. 宮城県仙台市羽黒前遺跡出土人骨の人類学的報告. 羽黒前遺跡第1次発掘調査-土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書-仙台市文化財調査報告書第519集. 仙台市教育委員会; 2025: 184-189.
 4. 永野汐音, 萩原康雄, 波多野悠夏, 佐伯史子, 佐宗亜衣子, 澤田純明, 辰巳晃司, 平慶子, 奈良貴史. 長谷小路周辺遺跡から出土した古代幼小児人骨. 長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書-由比ガ浜三丁目199番地37, 42地点-. 齋藤建設; 2024: 35-47.
 5. 佐伯史子, 奈良貴史. 天竜遺跡出土人骨について. 天竜遺跡 上信自動車道吾妻バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書. 群馬県上信自動車道建設事務所・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団; 2025: 316-317.
- 3 論文
 1. 形質人類学的研究 1. 考古学研究会70周年記念誌「考古学の輪郭」. 2025.
- 4 学会活動

- 1) 所属学会 日本人類学会（広報理事），日本解剖学会，日本考古学協会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本人類学会広報理事
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」①人類誕生の謎に迫る，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.9.20.
 2. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」②どうしてヒトは難産なのか，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.9.27.
 3. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」③ネアンデルタール人類の消滅と現生人類の拡散，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.10.4.
 4. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」④日本列島の人類史奈良貴史，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.10.11.
 5. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」⑤長岡藩牧野家の貴族的形質，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.10.11.
 6. 自然人類学研究所 一般公開，自然人類学研究所主催，対象者：一般市民，新潟医療福祉大学，2024.11.2.
 - 2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
 1. 新聞，新潟日報，長岡・和島の市文化財「人頭骨」再鑑定 「風間信昭説」に追い風，2024.5.29.
 2. 新聞，新潟日報，村上和賀野で発掘「焼人骨」 きょう新潟医福大で公開，2024.11.2.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 受託研究 新潟県埋蔵文化財調査事業団 上野遺跡出土人骨分析
 2. 受託研究 群馬県埋蔵文化財調査事業団 東上ノ宮遺跡出土人骨分析
 3. 受託研究 鎌倉市長谷小路周辺遺跡出土骨の分析
 4. 受託研究 上越市蓮花寺五輪塔群・立場遺跡遺跡出土骨の分析
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 日本歯科大学 自然人類学 15回
 2. 警察学校 骨学 1回
 3. 新潟大学 法医学 1回
- 7 学内委員会活動 人権委員会（副委員長）・自然人類学研究所（所長）

氏名：八坂 敏一

- 1 研究題目 痛み・痒みに関わる脊髄後角局所神経回路に関する研究
- 2 論文
 1. Hashimoto A*, Yasaka T* (*these authors contributed equally to this work), Suematsu R, Yoshida H, Miyake Y, Takeshita S, Oba Y, Fujii Y, Mawatari M, Sonohata M. Serum IL-27 as a potential biomarker for pain in late-stage hip osteoarthritis. Pain Research. 2024; 39: 76-80. (review)
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本生理学会（評議員），日本神経科学会，日本疼痛学会（代議員），日本運動器疼痛学会，日本薬理学会，Society for Neuroscience，International Association for the Study of Pain，新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. Scientific Reports (Nature姉妹紙) Editorial Board Member
 2. Frontiers in Neuroanatomy Editorial Board Member

3. Frontiers in Pain Research / Pain Research Methods Editorial Board Member

4 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，科研費基盤研究（C），痛みと痒みのラベルライン神経回路における脊髄後角モジュールの同定，研究代表者
2. 2023年度，科研費基盤研究（C），慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果，研究分担者
3. 2024年度，科研費基盤研究（C），自閉スペクトラム症モデル動物の口腔感覚異常は，栄養，発育，行動異常に影響するか？
4. 2024年度，科研費基盤研究（C），IBS発症トリガーとしての交感神経系SIP syncytium機能の解明
5. 2024年度，科研費基盤研究（B），筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明

5 学内委員会活動 大学院入試広報委員会，高等教育推進センター運営委員会，中央教育センター運営委員会，運動機能医科学研究所

氏名：相馬 俊雄

1 研究題目 身体運動およびバランス機能に関するバイオメカニクス研究，中枢神経疾患の下肢装具歩行に関する研究

2 論文

1. Uchida T, Soma T, Kanda M, Kawakami F, Kawahara S, Ikeda N, Matsushita I. : Changes in rotator movement during early gait acquisition in after total hip arthroplasty. Clin Biomech. 2024 ; 119 : 106333. (査読あり)
2. 手塚悠人, 相馬俊雄. : ドロップジャンプにおける下肢関節パワーの伝達の検討. 一健康成人とバレーボール選手の比較一. 理学療法科学. 2024. 39 (3). 157-162. (査読あり)

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会，日本基礎理学療法学会，日本運動器理学療法学会，日本神経理学療法学会，日本支援工理学療法学会，日本バイオメカニズム学会，日本義肢装具学会，日本臨床神経生理学学会，日本生体磁気学会，日本体力医学会，日本生理人類学会，日本リハビリテーション工学会，日本運動療法学会，臨床歩行分析研究会，日本肘関節研究会，新潟県理学療法士会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第29回日本基礎理学療法学会，演題査読委員
2. 基礎理学療法学会誌，論文査読委員
3. 日本生理人類学会誌（英文誌），論文査読委員
4. 日本生理人類学会誌（邦文誌），論文査読委員
5. 第38回日本リハビリテーションカンファレンス，演題査読委員
6. 日本リハビリテーション・エンジニアリング雑誌（邦文誌），論文査読委員
7. 第12回日本運動器理学療法学会学術大会，演題査読委員
8. 第13回日本支援工理学療法学会学術大会，演題査読委員
9. 新潟医療福祉学会誌（英文誌），論文査読委員
10. 新潟医療福祉学会誌（邦文誌），論文査読委員

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. （一社）新潟県鍼灸マッサージ師会研修会，運動連鎖によるバランストレーニング，演者，新潟県鍼灸マッサージ師会主催，新潟県鍼灸マッサージ師，新潟市，2024.11.17.
2. （公社）全国病院理学療法協会新潟県支部研修会，バランストレーニングの実際，演者，全国病院理学療法協会新潟県支部主催，全国病院柔道整復師・鍼灸マッサージ師，新潟市，2024.11.17.

3. 北区市民大学・ご近所だんぎプラス講演会：転倒予防が必要なワケ，演者，豊栄地区公民館，北地区市民，豊栄市，2024.9.12.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 北地区協議会：北地区長・市役所行政役員との情報交換会，学生部長，北地区公民館，2025.1.24.
 2. 北地区情報交換会：北地区長・市役所行政役員との情報交換会，学生部長，本学，2025.2.14.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2023年度，科研費基盤研究（C），脳卒中片麻痺者における歩行支援ロボットの立脚支持と遊脚誘導機構の解明，研究代表者
 2. 2023年度，科研費基盤研究（B），乳児に行う新たな胸骨圧迫－その効果と実践性の解明－，研究分担者
 3. 2024年度，科研費基盤研究（C），関節支持筋の効果的な筋再教育法の開発，研究分担者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 国際メディカル専門学校，リハビリテーション医学，2024.4.1-2025.3.31.
 2. 国際メディカル専門学校，運動学，2024.4.1-2025.3.31.
- 6 学内委員会活動 学生部長，学生委員会（委員長），学生支援推進部（部長），懲戒諮問委員会（委員長），教育・学生支援機構，国家試験・資格試験対策委員会（委員），自己点検・評価委員会（委員）

氏名：澤田 純明

- 1 研究題目 東アジアの狩猟採集集団および初期農耕集団に関する人類学的研究，東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応を解明する人類学および動物考古学的研究，日本列島の土器出現期人類集団に関する人類学的研究，日本列島の更新世洞窟遺跡から出土した動物化石の動物考古学的研究，考古遺跡から出土した微細骨片の骨組織形態学的研究
- 2 論文
 1. Kaifu Y, Kurniawan I, Mizushima S, Sawada J, Lague M, Setiawan R, Sutisna I, Wibowo UP, Suwa G, Kono RT, Sasaki T, Brumm A, van den Bergh GD. Early evolution of small body size in Homo floresiensis. *Nature Communications*. 2024; 15: 6381 (doi.org/10.1038/s41467-024-50649-7) (review)
 2. 宮宗秀伸，高篠智，星野敬吾，五十嵐由里子，小島龍平，児玉淳，澤田純明，鳥海拓，奈良貴史，三島弘幸，三浦真弘，矢野航，久保晃祐，TRUONG HUY CONG, MYAGMARDORJ YANJINKHAM, WONGSO MICHAEL, 影山幾男. 第34回全国学術集会における人類形態科学研究会初のワークショップ開催の試み. *形態科学*. 2024; 27: 37-40.
 3. 水嶋崇一郎・澤田純明. 伊川津貝塚遺跡 2008-2013年度出土人骨報告. 渥美半島貝塚群I（田原市教育医委員会）. 2024; 78-88.
- 3 学会等研究発表
 1. 福井淳一・澤田純明・宮田佳樹・小畑弘己. 遺跡調査における動物資源利用評価の実践. 日本動物考古学会第11回大会（山形市），2024.7.6-7.7.
 2. 納屋内高史・澤田純明・米田穰・渋谷孝雄. 山形県高島町日向洞穴出土動物遺存体の帰属時期の再検討（予報）. 日本動物考古学会第11回大会（山形市），2024.7.6-7.7.
 3. 澤田純明. これからの野尻湖発掘の研究手法への提言・第23次発掘でふり調査をふまえて-. 野尻湖シンポジウム2024（長野市），2024.9.21. 【シンポジウム】
 4. 澤田純明. 河姆渡・田螺山遺跡人骨群の古病理学. 第78回日本人類学会大会（大阪市），2024.10.12-10.14. 【シンポジウム】
 5. 澤田純明・萩原康雄. 良渚古城から出土した人骨加工品の形態学的・古病理学的特徴. 第78回日本人類学会大会（大阪市），2024.10.12-10.14. 【シンポジウム】
 6. 海部陽介・Iwan Kurniawan・水嶋崇一郎・澤田純明・Michael Lague・Ruly Setiawan・Indra

Sutisna・Unggul P. Wibowo・諏訪元・河野礼子・佐々木智彦・Adam Brumm・Gerrit D. van den Bergh. ソア盆地マタメンゲにて発見されたフローレス原人の化石について. 第78回日本人類学会大会(大阪市), 2024.10.12-10.14.

7. 逢坂暖・米田穰・奈良貴史・澤田純明・植月学・高塚尚和. 遺跡出土骨の微細構造における侵食に関する組織学的研究. 第78回日本人類学会大会(大阪市), 2024.10.12-10.14.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本人類学会(理事, 代議員), 日本解剖学会, 日本動物考古学会, 東南アジア考古学会(運営委員), 人類形態科学研究会, 新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本人類学会機関誌「Anthropological Science (Japanese Series)」編集委員長
2. 日本動物考古学会学術雑誌「動物考古学」編集委員
3. 日本考古学協会新潟大会実行委員

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第10回新潟医療福祉大学夏期骨学セミナー, 事務局長, 医療関係者・考古学関係者・警察関係者・他, 新潟医療福祉大学, 2024.8.19-8.23.
2. 第10回新潟医療福祉大学夏期骨学セミナー, 脊柱と胸郭, 講師, 自然人類学研究所, 医療関係者・考古学関係者・警察関係者・他, 新潟医療福祉大学, 2024.8.21.
3. 第10回新潟医療福祉大学夏期骨学セミナー, 人骨と動物骨, 講師, 自然人類学研究所, 医療関係者・考古学関係者・警察関係者・他, 新潟医療福祉大学, 2024.8.22.
4. 特別陳列「東南アジアの洞窟遺跡」研究講座(市民公開講座), ベトナムにおける更新世人類の洞窟利用について, 講師, 奈良県立橿原考古学研究所, 一般市民, 奈良県立橿原考古学研究所, 2025.3.30.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 新聞(WEB掲載), JIJI.COM(時事ドットコムニュース)/時事通信ニュース, 「70万年前の上腕骨化石 人類最小, フローレス原人ーインドネシアで発見・国際チーム」, 2024.8.7.
2. 新聞(全国紙, 全国版, 囲み記事), 日本経済新聞, 「最小の原人化石, 東京大学など発見 推定身長100センチ」, 2024.8.7.
3. 新聞, 新潟日報, 「人類化石で最小!「フロレス原人」の上腕骨と確認 インドネシアの70万年前の地層から発見, 新潟医療福祉大参加のチームが発表」, 2024.8.7.
4. WEBニュース, 官庁通信デジタル, 「最小サイズの人類化石をインドネシアで発見 東大・聖マリアンナ医大・新潟医療福祉大」, 2024.8.7.
5. WEBニュース, マイナビニュース, 「東大など, 成人で1mほどの人類史上最小の「フローレス原人」の新化石を発見」, 2024.8.8.

3) 社会活動への参加協力

1. 丸善出版, 出版企画『人類学の百科事典』編集委員, 2024.4.1-2025.3.31.
2. 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 遺跡出土骨の鑑定, 新潟, 2024.5.1-7.15.
3. 北海道松前町教育委員会, 上川遺跡出土人骨調査指導, 松前町, 2024.5.18.
4. 東京大学総合研究博物館, 特別展示「都市・アーケオロジー」, 展示協力, 東京大学総合研究博物館, 2024.5.31-8.30.
5. 群馬県立歴史博物館, 第111回企画展「弥生人は二度死ぬ・再埋葬ってなに?」, 展示協力, 群馬県立歴史博物館, 2024.10.5-11.24.
6. 宮城県松島町教育委員会, 国史跡西の浜貝塚出土人骨調査指導, 松島町, 2024.12.8.
7. 大阪府警察本部, 捜査協力(法医鑑定), 2024.12.12.
8. 新潟県警察本部, 捜査協力(法医鑑定), 2024.12.24.
9. 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館, 特別陳列「東南アジアの洞窟遺跡」, 展示協力, 奈良県立橿原

考古学研究所附属博物館, 2024.12.14-2025.3.16.

10. 大阪府警察本部, 捜査協力 (法医鑑定), 2025.1.29.

11. 北海道ノ国町教育委員会, 町史編纂事業協力, 上ノ国町, 2025.2.22-2.24.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2024年度, 科研費基盤研究 (B), 山形県日向洞窟から出土した後期更新世・完新世初頭人骨群の考古学的研究, 研究代表者
2. 2023年度, 科研費挑戦的研究 (萌芽), 縄文時代人は何歳まで生きたのか? 高分解能CTを用いた骨組織学的年齢推定法の開拓, 研究代表者
3. 2020年度, 科研費国際共同研究加速基金, 東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明, 研究代表者
4. 2024年度, 科研費基盤研究 (B), 薄層ローム堆積における旧石器編年研究の精緻化, 研究分担者
5. 2022年度, 科研費基盤研究 (B), 受傷人骨の骨科学分析による縄文終末期の埋葬原理と社会変容の解明, 研究分担者
6. 2021年度, 科研費基盤研究 (B), 日本列島に棲息したオオヤマネコに関する学際的調査・研究, 研究分担者
7. 2020年度, 科研費学術変革領域研究 (A), 同位体比分析から見たヒトとモノの動態復元, 研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 慶應義塾大学文学部 (非常勤講師), 民族学考古学特殊講義, 2024.4.1-2025.3.31.

7 学内委員会活動 人権委員会 (部会長), 大学院入試広報委員会, 自然人類学研究所 (副所長)

氏名: 田口 徹

- 1 研究題目 遅発性筋痛の神経・分子機構解明, 線維筋痛症の病態機構解明, 筋・筋膜性疼痛の病態機構解明, 痛覚変調性疼痛の病態機構解明, 触覚の神経生理学的研究, 痛みと免疫に関する研究, 筋痛・筋損傷に対する理学療法効果の実証, 気圧変動による慢性痛増悪機構解明
- 2 著書
 1. 田口徹, 遅発性筋痛 (いわゆる運動後の筋肉痛) はどこまでわかったか. 医学のあゆみ. 東京: 医歯薬出版株式会社; 2024年6月8日発刊: 289巻10号: 740-745頁
- 3 論文
 1. Taketa Y, Tamakoshi K, Hotta K, Maki S, Taguchi T, Takahashi H. Lymphatic capillarization in different fiber-types of rat skeletal muscles with growth and age. Microcirculation (JCR). 2024; 31(7): e12879. (査読あり)
 2. Uta D, Tsuboshima K, Nishijo H, Mizumura K, Taguchi T. Amitriptyline and duloxetine attenuate activities of superficial dorsal horn neurons in a rat reserpine-induced fibromyalgia model. Journal of Pharmacological Sciences (JCR). 2024; 156(3): 180-187. (査読あり)
 3. Hoheisel U, Treede R-D, Mense S, Taguchi T. Central projections of nociceptive input originating from the low back and limb muscle in rats. Scientific Reports (JCR) 2025; 15: 2552. (査読あり)
 4. Yamamoto R, Wakatsuki K, Ota H, Mizumura K, Taguchi T. Spinal nociceptive hypersensitivity induced by intramuscular capsaicin in rats subjected to multiple continuous stress. Neuroscience Research (JCR) 2025; 213: 51-59. (査読あり)
 5. 田口徹, 基盤研究 (B), ストレス誘発性疼痛の中核機構解明と理学療法効果の実証, 研究成果報告書, 2022-2024 研究代表者 (査読なし)
 6. 田口徹, 挑戦的研究 (萌芽), 筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用, 研究成果報告書, 2024-2025 研究代表者 (査読なし)

7. 田口徹, 基盤研究 (B), 筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明, 研究成果報告書, 2024-2026 研究分担者 (査読なし)

4 報告書

1. 田口徹, 基盤研究 (A), 知覚学習イノベーションー次世代感覚運動学習法の創出を目指してー, 研究成果報告書, 2019-2023, 研究分担者
2. 田口徹, ファイザー製薬グラント報告書, 慢性運動器疼痛の理学療法のための教育モデルおよび教育拠点の構築, 2019-2023, 研究代表者 (査読なし)
3. 田口徹, 小林製薬共同研究報告書, 電気生理学的手法を用いた筋痙攣モデルの作製と漢方薬の評価, 2023, 研究代表者 (査読なし)

5 学会等研究発表

1. Ota H, Katanosaka K, Taguchi T. Transcriptional profile of the crural fascia in a rat exercise-induced muscle pain model. 47th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Fukuoka) 2024.7.24-7.27.
2. Taguchi T, Uta D, Tsuboshima K, Nishijo H. Suppressive effects of antidepressants on sensitized spinal dorsal horn neurons in a rat model of fibromyalgia. 47th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Fukuoka) 2024.7.24-7.27.
3. Taguchi T, Ota H. Neuromuscular blockade attenuates cramp-like muscle contraction induced by an infusion of hypertonic saline in rats. Joint Conference of The 22nd Annual Meeting of Asian and Oceanian Myology Center and The 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society (AOMC-JMS 2024). (Nara) 2024.9.12-9.15. 【国際学会】
4. Ota H, Katanosaka K, Taguchi T. Differentially expressed genes detected in the rat crural fascia after lengthening contractions using RNA-sequence analysis. Joint Conference of The 22nd Annual Meeting of Asian and Oceanian Myology Center and The 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society (AOMC-JMS 2024). (Nara) 2024.9.12-9.15. 【国際学会】
5. 武田賢和, 玉越敬悟, 堀田一樹, 真木柊太郎, 田口徹, 高橋英明. 成長と加齢に伴うラット骨格筋内の毛細リンパ管形成の特徴的变化. 第12回日本運動器理学療法学会 (横浜) 2024.9.14-9.15.
6. 田口徹, 歌大介, 坪島功幸, 西条寿夫. 線維筋痛症モデルラットにおける感作された脊髄後角ニューロンに対するセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬の抑制効果. 第29回日本基礎理学療法学会 (東京) 2024.10.12-10.13.
7. 太田大樹, 片野坂公明, 田口徹. 遅発性筋痛の筋膜において新たに検出された遺伝子とその機能. 第29回日本基礎理学療法学会 (東京) 2024.10.12-10.13.
8. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. 複合持続ストレス誘発性疼痛モデルラットにおける筋痛覚過敏の脊髄機構. 第29回日本基礎理学療法学会 (東京) 2024.10.12-10.13.
9. 二神真紘, 太田大樹, 田口徹. 遅発性筋痛モデルラットの下腿筋膜における神経成長因子の発現定量. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟) 2024.10.26.
10. 太田大樹, 田口徹. 伸張性収縮を負荷したラットの下腿筋膜では Ankrd1 mRNA の発現が増大する. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟) 2024.10.26.
11. 太田大樹, 田口徹. 伸張性収縮後の筋内における遺伝子発現パターンの部位差. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟) 2024.10.26.
12. 太田大樹, 田口徹. 筋および筋膜で発現する遺伝子の違い: 網羅的遺伝子解析による比較. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟) 2024.10.26.
13. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. しかめっ面スケールを用いたストレス誘発性疼痛モデルラットにおける筋痛覚過敏の定量化. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟) 2024.10.26.
14. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. 複合持続ストレス誘発性筋痛覚過敏: 免疫組織化学を用いた実証. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟) 2024.10.26.

15. 田口徹, 太田大樹. 高張食塩水投与により惹起される局所誘発筋電図の容量依存性. 第24回新潟医療福祉学会(新潟) 2024.10.26.
16. 田口徹, 太田大樹. 局所痙攣様筋収縮に対するニコチン性アセチルコリン受容体拮抗薬の抑制効果. 第24回新潟医療福祉学会(新潟) 2024.10.26.
17. 田口徹, 太田大樹. カプサイシン投与による誘発筋電図の電気生理学的記録. 第24回新潟医療福祉学会(新潟) 2024.10.26.
18. 田口徹, 歌大介, 坪島功幸, 西条寿夫. 線維筋痛症モデルにおける脊髄後角ニューロンの感受性増大に対するSNRIの抑制効果. 第24回新潟医療福祉学会(新潟) 2024.10.26.
19. 田口徹, 歌大介, 坪島功幸, 西条寿夫. 線維筋痛症モデルラットの脊髄後角表層ニューロンに対するプレガバリンの作用. 第24回新潟医療福祉学会(新潟) 2024.10.26.
20. 田口徹, 明博瑛, 野原菜々子, 野村成美, 太田大樹. ヒト鼓膜への定量的圧刺激により生じる感覚の特徴とその性差. 第46回日本疼痛学会(東京) 2024.11.16-11.17.
21. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. ストレス誘発性疼痛モデルにおける筋侵害刺激による脊髄後角ニューロンの興奮性増大. 第46回日本疼痛学会(東京) 2024.11.16-11.17.
22. 太田大樹, 植田愛美, 赤木淳二, 田口徹. 高張食塩水の筋内投与による筋痙攣モデルラット作製の試み. 第46回日本疼痛学会(東京) 2024.11.16-11.17.
23. Taguchi T, Yamamoto R, Ota H. Muscular hyperalgesia in rats exposed to multiple continuous stress. 第102回日本生理学会 (APPW2025) (千葉) 2025.3.17-3.19.
24. Ota H, Taguchi T. Hypertonic saline-induced cramp-like muscle contractions are mediated via acetylcholine receptors at the neuromuscular junction in rats. 第102回日本生理学会 (APPW2025) (千葉) 2025.3.17-3.19.
25. Sakamoto K, Edama M, Taguchi T, Ota H, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Komiya R, Sato N. Innervation of the human crural fascia in Thiel embalmed cadavers. 第130回日本解剖学会 (APPW2025) (千葉) 2025.3.17-3.19.

6 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会(会員), 日本生理学会(評議員), 日本疼痛学会(代議員), 日本基礎理学療法学会(評議員), 日本神経科学学会(会員), 日本線維筋痛症学会(会員), 日本筋学会(会員), 日本体力医学会(会員), 若手による骨格筋細胞研究会(会員), 日本理学療法士協会(会員), 新潟県理学療法士会(会員), 日本運動器疼痛学会(会員), 国際疼痛学会(会員)
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. European Journal of Pharmacology (EJP-70***), 査読, 2024.4.13.
 2. Biomolecules (biomolecules-2971***), 査読, 2024.4.13.
 3. The Open Pain Journal (BMS-TOPAINJ-20**24-*), 査読, 2024.4.21.
 4. Journal of Pain Research (465***), 査読, 2024.4.25.
 5. Physiology International (Acta Physiologica Hungarica) (APH-***/2024), 査読, 2024.6.6.
 6. Pain (PAIN-D-24-00***), 査読, 2024.6.10.
 7. Healthcare (healthcare-3058***), 査読, 2024.6.17.
 8. Eur J Pharmacol (EJP-71***), 査読, 2024.6.27.
 9. Journal of Pain Research (4753**), 査読, 2024.7.22.
 10. Journal of Pain Research (4766**), 査読, 2024.8.3.
 11. Pain Research (PAIN-RES-D-24-00***), 査読, 2024.8.6.
 12. Journal of Pain Research (4769**), 査読, 2024.8.20.
 13. Applied Sciences (appls-ci-3174***), 査読, 2024.8.27.
 14. IBRO Neuroscience Reports (IBNEUR-D-24-00***), 査読, 2024.9.14.
 15. Journal of Inflammation Research (481***), 査読, 2024.9.18.

16. Neuroscience Letters (NSL-24***), 査読, 2024.9.28.
17. Nature Cell and Science (NCS-2024-00***), 査読, 2024.10.2.
18. PeerJ (106***), 査読, 2024.10.9.
19. Journal of Pain Research (487***), 査読, 2024.10.12.
20. Neurology International (neuroint-3290***), 査読, 2024.10.23.
21. Neuroscience (NSC-24-1***), 査読, 2024.10.24.
22. Healthcare (healthcare-3285***), 査読, 2024.10.30.
23. Neuroscience Letters (NSL-241***), 査読, 2024.10.31.
24. Pain Research (PAIN-RES-D-24-00***R1) Technical Reports, 査読, 2024.11.27.
25. Brain Research (BRAINRES-D-25-001**), 査読, 2025.1.31.
26. Journal of Inflammation Research (ID: 505433), 査読, 2025.2.6.
27. Brain Research (BRAINRES-D-25-004**), 査読, 2025.2.24.
28. Brain Research (BRAINRES-D-25-002**), 査読, 2025.2.27.
29. Neurochemical Research (b5be58**-d9***-4e***-9c**-ff353e25****), 査読, 2025.3.6.
30. Frontiers in Pain Research, Review Editor, 2024.4.1-2025.3.31.
31. 第29回日本基礎理学療法学会, 演題査読委員, 2024.10.12-10.13.
32. 第46回日本疼痛学会, 座長, 2024.11.17.
33. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会 (APPW2025), 座長, 2025.3.18.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022, 基盤研究（B）, ストレス誘発性疼痛の中枢機構解明と理学療法効果の実証, 研究代表者
2. 2022, 挑戦的研究（萌芽）, 筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確立と新たな運動療法の開発, 研究分担者
3. 2023, 理学療法にかかわる研究助成, 遅発性筋痛の発症強度と予後予測を可能にするバイオマーカー脂質の同定, 研究代表者
4. 2024, 基盤研究（B）, 筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明, 研究分担者
5. 2024, 挑戦的研究（萌芽）, 筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用, 研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 小林製薬株式会社, 研究コンサルティング, 2024.1.1-12.31.

8 学内委員会活動 動物実験委員会（委員長）, 遺伝子組換え実験安全委員会（委員）, 毒劇物管理委員会（委員）, 研究施設企画委員会（委員）, 運動機能医科学研究所（研究員）, 生物医科学分析研究センター（研究員）

氏名：芝田 純也

- 1 研究題目 非侵襲的脳刺激, 経頭蓋静磁場刺激, 経頭蓋磁気刺激, 経頭蓋電気刺激, 脳可塑性, 脳卒中リハビリテーション
- 2 論文
 1. Shibata S, Onishi H, Mima T. TMS-EEG signatures of the effects of transcranial static magnetic field stimulation (tSMS) on cortical excitability. Scientific Reports. 2024; 14: 1-10 (査読あり)
 2. Kitatani R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influence of postural control difficulty on changes in spatial orienting of attention after leftward prism adaptation. Experimental Brain Research. 2024; 242: 1533-1541 (査読あり)
- 3 学会等研究発表
 1. Shibata S, Onishi H, Mima T. Evaluation of the neuromodulatory effects of transcranial static

- magnetic field stimulation (tSMS) using TMS-evoked potentials (TEPs). FENS · FENS Forum 2024 (Vienna · Austria), 2024.1.25-1.29.
2. Shibata S, Hideaki Onishi, Tatsuya Mima. Exploring the effects of transcranial static magnetic field stimulation on the brain oscillatory dynamics in human: A TMS-EEG study. 日本神経科学学会 · NEURO2024 (博多), 2024.7.24-7.27.
 3. 芝田純也. リハビリテーションへの臨床応用が期待される経頭蓋静磁場刺激 (tSMS). 日本臨床神経生理学会 · 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌). 2024.10.24-10.26. 【シンポジウム】
 4. 芝田純也. 経頭蓋静磁場刺激 (tSMS) が拓くシン・リハビリテーション. 日本物理療法学会 · 日本物理療法合同学術大会 2025 (名古屋). 2025.2.1-2.2. 【シンポジウム】
- 4 学会活動
- 1) 所属学会 日本脳神経外科学会, 日本脳神経外科コンgres, 日本脳卒中学会, 日本臨床神経生理学会, 日本神経科学学会, 日本基礎理学療法学会, 日本脳神経血管内治療学会, Motor Control 研究会, 日本リハビリテーション医学会, 新潟医療福祉学会
- 5 社会活動
- 1) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員
京都大学臨床研究審査委員会技術専門員
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2022年度, 基盤B, 静磁場刺激を在宅ニューロリハに応用するために必要な基礎データの構築, 分担研究者
 2. 2023年度, 基盤A, クローズドループ刺激による非侵襲的Deep Brain リハビリテーションの創生, 分担研究者
 3. 2024年度, 基盤B, 非侵襲ヒト静磁場刺激の創生, 研究代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 愛媛大学, 脳神経外科学, 2024.5.28.
- 7 学内委員会活動 倫理審査委員会 (委員), 運動機能医科学研究所 (所員), 次世代デジタルリハビリテーション研究センター (副センター長)

氏名 : 江玉 睦明

- 1 研究題目 機能解剖学に関する研究 (機能解剖学), スポーツ傷害に関する研究 (スポーツ科学)
- 2 著書
 1. 江玉睦明 (分担). 「理学療法技術ガイド第5版」文光堂「アキレス腱断裂」760-764. 2024.
- 3 論文
 1. Edama M, Tanaka Y, Shirai T, Takano Y, Sakamoto k, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Ishigaki H, Akuzawa H, Sekine C, Sato N. Dynamics of the suprapatellar bursa during knee joint extension movement. Surg Radiol Anat (JCR). 2024 Sep; 46(9): 1387-1392. doi: 10.1007/s00276-024-03390-1. (査読あり)
 2. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between first tarsometatarsal ligament morphology and its continuity with the fibularis longus and first tarsometatarsal joint degeneration. Clin Anat (JCR). 2024 Nov; 37(8): 930-937. doi: 10.1002/ca.24167. (査読あり)
 3. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between joint structure of the first tarsometatarsal joint and its degeneration. Sci Rep (JCR). 2024 Jun 12; 14(1): 13547. doi: 10.1038/s41598-024-64064-x. (査読あり)
 4. Sakamoto K, Edama M, Hirai T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Toriumi T,

- Kageyama I. Relationship between insertions of the tibialis anterior and peroneus longus and first tarsometatarsal joint degeneration. BMC Musculoskelet Disord (JCR). 2025 23; 26(1): 82. doi: 10.1186/s12891-025-08319-2. (査読あり)
5. Ishigaki T, Furuto I, Sato R, Kurisuga Y, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Yokota H, Hirabayashi R, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Examining the changes in strength and mechanical property of dynamic stabilizers of the medial elbow joint through repetitive pitching. J Shoulder Elbow Surg (JCR). 2025 Mar; 34(3): 672-679. doi: 10.1016/j.jse.2024.07.005. Epub 2024 Aug 21. (査読あり)
 6. Ikarashi K, Sato D, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Yamashiro K. Fluctuation of fine motor skills throughout the menstrual cycle in women. Sci Rep (JCR). 2024 Jul 2; 14(1): 15079. doi: 10.1038/s41598-024-65823-6. (査読あり)
 7. Okouchi T, Hirabayashi R, Nakashima S, Abe A, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Edama M. Visual kinesthetic illusion alters spinal excitability. Healthcare (JCR) 2024, 12(17), 1696; <https://doi.org/10.3390/healthcare12171696> (査読あり)
 8. Kono K, Yamaguchi S, Kimura S, Mikami Y, Kitsukawa K, Matsumoto K, Edama M, Shiko Y, Horii M, Sasho T, Ohtori S. Anterior talofibular ligament footprint dimension measured using three-dimensional magnetic resonance imaging. Skeletal Radiol (JCR). 2024 Sep 7. doi: 10.1007/s00256-024-04778-1. Online ahead of print. PMID: 39243297 (査読あり)
 9. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. Orthop J Sports Med (JCR). 2024 Nov 18; 12(11): 23259671241291861. doi: 10.1177/23259671241291861. eCollection 2024 Nov. (査読あり)
 10. Okouchi T, Hirabayashi R, Sugai N, Yokota H, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Impact of Visual Kinesthetic Illusions on Reciprocal Inhibition and Motor Function. Appl. Sci (JCR). 2024, 14(24), 11725; <https://doi.org/10.3390/app142411725> (査読あり)
 11. Ishigaki T, Kurisuga Y, Sato R, Furuto I, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Hirabayashi R, Yokota H, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Changes in glenohumeral range of motion by repetitive pitching and their relationship with arm speed during pitching. Sports Biomech (JCR). 2025 19: 1-13. doi: 10.1080/14763141.2025.2452329. (査読あり)
 12. Nishino A, Yamamoto N, Okamura N, Sekine H, Tanaka Y, Nishizawa T, Tanaka M, Edama E, Omori G. Pitching Kinematics and Kinetics Related to Elbow Joint Load in Young Female Baseball Players: Comparison Study with Young Male Baseball Players. OJSM (JCR). 2025. (in press) (査読あり)
 13. 江玉睦明, 大森豪. スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」2024年度研究成果報告書.
- 4 報告書
1. 江玉睦明. 挑戦的研究 (萌芽), 筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確立と新たな運動療法の開発, 研究成果報告書, 2023-2024, 研究代表者.
 2. 江玉睦明. 基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 研究成果報告書, 2023-2024, 研究代表者.
 3. 江玉睦明. 国際共同研究加速基金 (海外連携研究), 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究成果報告書, 2023-2024, 研究代表者.
- 5 学会等研究発表
1. 江玉睦明. アキレス腱の不思議～形態学的・力学的特性～. 第2回日本スポーツ整形外科学会. 【教育研修講演】. 2024.11.15-11.16.

2. 江玉睦明, 大森豪, 山本智章, 成田一衛, 西原康行. 日本臨床スポーツ医学会合同シンポジウム「地域における多職種連携」. 新潟県のスポーツ医・科学支援における他職種連携. 日本スポーツ栄養学会第10回大会. 【シンポジウム】. 2024.9.21-9.22.
3. 江玉睦明. 理学療法士の超音波画像診断装置使用に関する取り組みについて (第2報). 第35回日本整形外科超音波学会. 【シンポジウム】. 2024.10.19-10.20.
4. 江玉睦明, 高林知也, 坂本航大. 女性アスリートの足の諸問題. 第49回日本足の外科学会. 【パネルディスカッション】. 2024.11.7-11.8.
5. 江玉睦明, 大森豪, 山本智章, 成田一衛, 西原康行. 新潟県におけるスポーツ医・科学支援体制構築の取り組み. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 【シンポジウム】. 2024.11.15-11.16.
6. 江玉睦明, 大森豪, 山本智章, 成田一衛, 西原康行. 新潟県におけるスポーツ医・科学支援体制構築の取り組み～新潟スポーツ医・科学コンソーシアムの形成～. 第11回日本スポーツ理学療法学会. 【パネルディスカッション】. 2025.1.25-1.26.
7. 江玉睦明. 肉眼解剖・機能解剖学からひも解く運動器疾患の評価と治療. 第38回鹿児島県理学療法士学会. 【特別講演】. 2025.2.9.
8. 江玉睦明, 関井優叶, 坂本航大, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 小宮諒, 佐藤昇. 前距腓靭帯上部線維束と下部線維束の足関節制動機能の違い～解剖学的研究～. 第35回日本整形外科超音波学会. 2024.10.19-10.20.
9. 江玉睦明, 高野倅, 坂本航大, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 大河内偉琉, 大森豪. 月経周期における主観的な浮腫と体水分量との関係. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
10. 江玉睦明, 高林知也, 坂本航大. 前距腓靭帯上部線維束と下部線維束の足関節制動機能の違い～解剖学的研究～. 第49回日本足の外科学会. 2024.11.7-11.8.
11. 関井優叶, 江玉睦明, 石垣智恒, 坂本航大, 加藤雄樹, 佐藤来夢, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 小宮諒, 佐藤昇. 前距腓靭帯上部線維束と下部線維束の距腿関節制動機能の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
12. 高林知也, 江玉睦明, 渡部貴也, 渡邊貴博, 稲井卓真, 久保雅義. 慢性足関節不安定症者とcoperにおける動作時の下肢・体幹キネマティクスの評価. 第5回足の構造と機能研究会 (札幌). 【シンポジウム】. 2024.6.1-6.2.
13. 松浦由生子, 熊澤将大, 藤本知臣, 奈良梨央, 馬場康博, 下山好充, 江玉睦明. ウェアラブルデバイスを用いた睡眠管理により女子水泳選手の自己評価による睡眠の質と月経随伴症状が改善する. 第13回日本アスレティックトレーニング学会 (愛知). 2024.9.14-9.15.
14. 穴澤沙也可, 山代幸哉, 巻渕泰輝, 萩野由大, 江玉睦明, 五十嵐小雪, 藤本知臣, 越智元太, 佐藤大輔. 月経周期を考慮した性差が後期活動および反応時間に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
15. 五十嵐小雪, 佐藤大輔, 江玉睦明, 越智元太, 藤本知臣, 山代幸哉. 月経周期における微細運動技能の変化と月経関連症状との関連性. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
16. 溝田丈士, 越野裕太, 高林知也, 阿久澤弘, 小林匠, 工藤慎太郎, 岡村和典, 江玉睦明. 足関節果部骨折術後症例における荷重位背屈可動域に関連する因子について. 第35回日本足の外科学会 (東京). 2024.11.7-11.8.
17. 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 山本峻平, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 関節運動の視覚的運動錯覚が脊髄相反性抑制に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
18. 落合優花, 平林怜, 大河内偉琉, 須貝菜央, 宗村李実, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 末梢性疲労後の局所振動刺激介入が疲労回復を促進させた. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
19. 宗村李実, 平林怜, 大河内偉琉, 須貝菜央, 落合優花, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 振動錯覚と運動イメージが脊髄機能に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-

9.4.

20. 高林知也, 江玉睦明. シミュレーション解析による足関節角度と足関節モーメントの変化がランニング中のアキレス腱張力に及ぼす影響. 第35回日本足の外科学会 (東京). 2024.11.7-11.8.
21. 坂本航大, 長南晴樹, 高林知也, 江玉睦明. 前脛骨筋腱・長腓骨筋腱の付着部形態および第一足根中足関節の関節面の形態と関節軟骨変性の関係. 第35回日本足の外科学会 (東京). 2024.11.7-11.8.
22. 安達大輔, 清野秀, 帆苅野, 塙晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 江玉睦明, 渡邊博昭. 女子アスリートの鉄欠乏・貧血に関する血中および尿中ヘプシジンの検討. 第97回新潟県臨床検査学会 (新潟). 2024.9.29.
23. 石垣智恒, 阿久澤弘, 関根千恵, 横田裕丈, 平林怜, 坂本航大, 小宮諒, 江玉睦明, 大森豪. 反復投球による肘関節動的安定化機構の発揮筋力および力学的特性の変化. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
24. 石垣智恒, 井野拓実, 石田知也, 奥貫拓実, 横山寛子, 江玉睦明. 異なる筋間での筋発揮率の関連性および腱力学的特性が筋発揮率におよぼす影響. 第29回日本基礎理学療法学会 (東京). 2024.10.12-10.13.
25. 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 反復他動運動の視覚的運動錯覚は脊髄相反性抑制と運動機能を向上させた. 第29回日本基礎理学療法学会 (東京). 2024.10.12-10.13.
26. 坂本航大, 江玉睦明, 長南晴樹, 鳥海拓, 影山幾男. タイトル: 第一足根中足関節の関節面および靭帯形態と関節軟骨変性との関係. 第5回足の構造と機能研究会 (札幌). 2024.6.1-6.2.
27. 小宮諒, 江玉睦明, 前田慶明, 田村佑樹, 石田礼乃, 平林怜, 横田裕丈, 石垣智恒, 阿久澤弘, 浦辺幸夫, 大森豪. 片側慢性足関節不安定症 (CAI) 者のCAI側と非CAI側での足部・足関節周囲筋形態と弾性の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
28. 高林知也, 江玉睦明, 大森豪, 久保雅義. 性別と内側広筋の筋出力低下がランニング時の膝蓋大腿関節ストレスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
29. 関根千恵, 江玉睦明, 中野祐太, 松永直人, 平林怜, 横田裕丈, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 大森豪. 腰痛既往の有無によるバッティング動作継続時の筋シナジーの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
30. 三瀬貴生, 栗田剛寧, 鎌苅翔平, 松浦由生子, 熊崎昌, 江玉睦明, 大森豪. Scapular Dyskinesisを有する成長期競泳選手の肩関節障害発生状況. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
31. 木村啓作, 村越祐介, 江玉睦明, 大森豪. アスリートに対する鍼灸治療効果の前向き調査研究—3か月間の縦断的研究—. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
32. 村越祐介, 木村啓作, 江玉睦明, 大森豪. 大学強化指定クラブ所属選手に対する鍼灸治療サポート—開始から3か月間の外傷・障害特性に着目して—. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
33. 佐藤亜美, 横田裕丈, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 大学陸上競技選手における足部形態評価とその特徴の検討. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
34. 横田裕丈, 小川ほのか, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 坂本航大, 平林怜, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 江玉睦明, 大森豪. アスリートとノンアスリートにおける音楽ビデオゲーム中の集中状態と自律神経活動との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
35. 佐藤亜美, 横田裕丈, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激 (taVNS) が上肢リーチ動作の反応時間に及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
36. 平林怜, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 坂本航大, 大河内偉琉, 須貝菜央, 江玉睦明. 咬合が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
37. 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 異なる収縮強度での等尺性収縮がIb抑制に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-

- 11.16.
38. 須貝菜央, 平林怜, 大河内偉琉, 横田祐丈, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 咬合力が左右均衡なほど咬合による全身反応が向上した. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
39. 坂本航大, 江玉睦明, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 小宮諒, 大河内偉流, 須貝菜央, 鳥海拓, 影山幾男. Kager's fat pad長母趾屈筋パートの形態学的特徴. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
40. 渡邊貴博, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 主観的な足関節不安定感とランニング時の母趾外転筋活動の関連性. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
41. 森岡未紗, 高林知也, 西口ほのか, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 扁平足者に対するインソールの使用の有無がランニング中の足底腱膜張力に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
42. 西口ほのか, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンの違いは膝蓋腱張力の累積負荷に影響を与える. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
43. 角田彪瑠, 高林知也, 平塚栞, 西口ほのか, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 小半径の曲線路ランニングにおける左右下肢関節モーメントの違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
44. 緒方嵩人, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 水面および陸上ストリームライン姿勢時における脊柱角度の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
45. 木村玲奈, 石垣智恒, 高橋由弥, 伊藤雄, 松本尚, 菊元孝則, 松浦由生子, 横田裕丈, 江玉睦明. 様々なオーバーヘッド競技における無症状選手と有症状選手間でのKJOCスコアの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
46. 星野美美, 稲葉洋美, 江玉睦明, 大森豪. 高校生女子サッカー選手における睡眠状況と食生活状況の実態調査. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
47. 丸山拓也, 渡部莉那, 佐藤俊光, 江玉睦明, 山本智章, 大森豪, 前田圭祐. スポーツ選手におけるACL再建術後のACL-RSIと膝関節機能との関連. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
48. 西沢岳之, 岡邨直人, 田中康雄, 関根裕之, 西野勝敏, 江玉睦明, 大森豪, 山本智章. ストライドと胸部・骨盤動作に着目した成長期女子野球選手における投球動作. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
49. 小林凜, 山本智章, 西野勝敏, 江玉睦明, 岡邨直人, 関根裕之, 田中康雄, 西沢岳之, 大野健太, 足立航洋, 樫出侑弥, 瀧野一太. 三次元動作解析装置とウェアラブルセンサーで測定した肘関節最大外反トルクの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
50. 田中康雄, 岡邨直人, 関根裕之, 西沢岳之, 西野勝敏, 山本智章, 大森豪, 江玉睦明. 女子野球選手における肘関節モーメントの年代別特徴. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
51. 足立航洋, 岡邨直人, 関根裕之, 田中康雄, 西沢岳之, 小林凜, 江玉睦明, 大森豪, 山本智章. 新潟県高校野球選手における投球数と登板数, 投球障害の実態調査-1・2年生に着目して-第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
52. 関根裕之, 岡邨直人, 田中康雄, 西沢岳之, 足立航洋, 山本智章, 大森豪, 江玉睦明. 女子野球選手における股関節および肩関節筋力の検討. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
53. 島谷美海花, 菊元孝則, 高林知也, 江玉睦明, 久保雅義. 膝前十字靱帯再建術後における膝伸展最大筋力と中間広筋の筋輝度との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.15-11.16.
54. 平林怜, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 大河内偉琉, 須貝菜央, 阿部花映, 日向芽吹, 吉村太一, 江玉睦明. 咬合不均衡は青斑核と脊髄機能の活性を不均衡にさせた. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
55. 須貝菜央, 平林怜, 大河内偉琉, 日向芽吹, 阿部花映, 吉村太一, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬

合の不均衡が単純反応時間と選択反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.

56. 阿部花映, 平林怜, 須貝菜央, 大河内偉琉, 吉村太一, 日向芽吹, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合は軌道予測能力を向上させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
57. 日向芽吹, 平林怜, 吉村太一, 阿部花映, 大河内偉琉, 須貝菜央, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 左右の咬合不均衡が反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
58. 吉村太一, 平林怜, 日向芽吹, 阿部花映, 須貝菜央, 大河内偉琉, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合バランスの補正は反応時間を短縮させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
59. 坂本航大, 江玉睦明, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 小宮諒, 鳥海拓, 影山幾男. Kager's fat padの形態学的特徴. 第11回日本スポーツ理学療法学会. 2024.11.15-11.16.
60. 高林知也, 江玉睦明, 稲井卓真, 久保雅義. シミュレーションを用いた足部アライメントの違いがランニング時のアキレス腱張力に与える影響. 第11回日本スポーツ理学療法学会. 2024.11.15-11.16.
61. 横田裕丈, 阿久澤弘, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 江玉睦明. 胸鎖乳突筋に対する軟部組織モビライゼーションが自律神経活動に及ぼす影響. 第29回日本徒手理学療法学会学術大会(東京). 2025.3.1.
62. 横田裕丈, 杉本柚華, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激(taVNS)が月経周期に伴う自律神経活動変化に及ぼす影響と不安状態との関連. 第10回 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会(東京). 2024.10.19-10.20.
63. 坂本航大, 江玉睦明, 田口徹, 太田大樹, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 小宮諒, 佐藤昇. ヒトThiel固定遺体における下腿筋膜の神経分布. 第130回日本解剖学会総会・全国学術集会. 2025.3.17-3.19.

6 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会(会員), 日本スポーツ理学療法学会(評議員), 日本基礎理学療法学会(評議員), 日本臨床スポーツ医学会(正会員), 日本膝関節学会(会員), 日本スポーツ整形外科学会(会員), 日本足の外科学会(会員), 日本解剖学会(会員), 新潟スポーツ傷害フォーラム(理事), 新潟スポーツ理学療法研究会(副代表), 足の構造と機能研究会(会長), 体表解剖学研究会(講師), 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム(副会長)
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 運営・プログラム委員会 委員長, 新潟市, 2024.11.16-11.17.
 2. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会, 学術委員, 札幌市, 2024.6.1-6.2.
 3. 「令和6年度 Sports in Life推進プロジェクト総合事業における調査研究事業」連携協力団体(担当)
 4. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会(札幌), 特別講演Ⅰ 座長, 札幌市, 2024.6.1-6.2.
 5. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会(札幌), 特別講演Ⅱ 座長, 札幌市, 2024.6.1-6.2.
 6. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会(札幌), 一般演題 座長, 札幌市, 2024.6.1-6.2.
 7. 第29回日本基礎理学療法学会 シンポジウム4「運動器エコーの新時代～SAVE THE MENISCUS～」, 座長, 東京, 2024.10.12-10.13.
 8. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術大会, シンポジウム16「足部・足関節の不安定性に迫る」, 座長, 新潟市, 2024.11.16-11.17.
 9. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術大会, 「スポーツ医学に興味のある学生・研修医・医療従事者向け特別企画」, 座長, 新潟市, 2024.11.16-11.17.

10. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会【一般演題査読】
11. 第35回日本臨床スポーツ医学会【一般演題査読】
12. PTR-journal E10295-A【査読】
13. ANSI-D-24-00126【査読】
14. Clinical Anatomy CA-24-0300【査読】
15. ANSI-D-24-00242【査読】
16. ANSI-D-24-00294【査読】
17. ANSI-D-25-00061【査読】
18. Journal of clinical medicine Topic Editor

7 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 運動と医学の出版社研修会「臨床に生かす機能解剖学～肉眼解剖から足部・足関節の可動性と安定性を紐解く～」, 講師, 理学療法士, WEB開催, 2024.4.14.
2. セラピストフォーライフ研修会「膝関節の屈曲制限に対する機能解剖学①」, 講師, 理学療法士, WEB開催, 2024.4.21.
3. セラピストフォーライフ研修会「膝関節の屈曲制限に対する機能解剖学②」, 講師, 理学療法士, WEB開催, 2024.4.28.
4. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー新潟市中体連部活動指導者研修会, 新潟市中学校保健体育・部活動指導者, 新潟市, 2024.5.31.
5. Essence of sports medicine「下肢」, 講師, 医師, 理学療法士, 新潟県, 2024.6.22.
6. 副島整形外科・副島整形外科クリニック 病院勉強会「足関節背屈可動域制限」, 講師, 理学療法士, WEB開催, 2024.8.21.
7. アスリート×企業交流イベント, 学生, 企業, 企画・運営, 新潟医療福祉大学, 2024.9.9.
8. セラピストフォーライフ研修会「肘関節の可動域制限に対する機能解剖学」, 講師, 理学療法士, WEB開催, 2024.9.15.
9. 第1回スポーツケアナース認定講習会, 看護師, 企画・開催, 新潟医療福祉大学, 2024.10.5-10.6.
10. 第12回新潟スポーツ傷害フォーラム-新潟県スポーツドクター協会研修会-, 医師, 理学療法士, 企画・開催, 新潟市, 2024.10.12.
11. 高千・外海府地区青少年全育成協議会 教育講演会「親子で学ぶ けがをしない体づくり」, 講師, 小学生, 中学生, 保護者, 地域住民, 佐渡島, 2024.10.16.
12. 第35回日本臨床スポーツ医学会市民公開講座「新潟のスポーツを輝かせる指導者からのメッセージ」, 一般市民, 企画・運営, 朱鷺メッセ, 2024.11.17.
13. 第35回日本臨床スポーツ医学会共催シンポジウム「だからスポーツ医学は面白い」, 学生, 研修医, 医療従事者, 企画・運営, 朱鷺メッセ, 2024.11.17.
14. 第12回青少年野球フェスタ2024, 野球選手, マネージャー, 指導者, ハードオフエコスタジアム, 企画・運営, 2024.12.15.
15. 公益社団法人日本プロサッカーリーグ Jリーグトレーナー研修会「下肢機能解剖学から考える評価と治療法～股関節から膝関節まで～」, Jリーグトレーナー, JFAハウス, 2024.12.15.
16. スポーツ指導者研修会(新潟市スポーツ協会主催), 新潟市在住, 在学, 在勤の方, 企画・運営, 新潟市陸上競技場, 2024.1.14, 1.28, 2.25, 3.5, 3.19.
17. 令和6年度アスレティックトレーナー連絡会議北 信越ブロック研修会「講演IV「肉眼解剖・機能解剖学的視点から紐解く足関節可動域制限の評価と運動療法～拘縮要因の理解を中心に～」」, 講師, アスレティックトレーナー, WEB開催, 2025.2.24.
18. セラピストのためのセミナー企画部主催セミナー「足関節背屈制限に迫る:～教科書で学んできた事を“再考”する～」, 講師, 理学療法士, WEB開催, 2025.3.5.

19. 体表解剖学研究会, 第25回運動器系体表解剖セミナーAコース, 理学療法士, 作業療法士, 東京, 講師, 2024.10.26-10.27.
20. 体表解剖学研究会, 第25回運動器系体表解剖セミナーBコース, 理学療法士, 作業療法士, 東京, 講師, 2025.1.25.
21. 体表解剖学研究会, 第25回運動器系体表解剖セミナーBコース, 理学療法士, 作業療法士, 東京, 講師, 2025.3.15-3.16.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 日本経済新聞 (WEBサイト), 【新潟医療福祉大学】UNIVAS AWARDS 2024-25 アスリートサポート研究センターが「安全安心環境構築優秀取組賞」2年連続の最優秀賞受賞! [NSGグループ], 2025.3.5.

3) 社会活動への参加協力

1. 令和6年度第55回春季北信越大学女子バレーボール選手権大会, メディカルサポート 2024.5.18-5.19.
2. 令和6年度第55回春季北信越大学男子バレーボール選手権大会, メディカルサポート 2024.5.18-5.19.
3. 令和6年度第55回秋季北信越大学女子バレーボール選手権大会, メディカルサポート 2024.11.2-11.3.
4. 令和6年度第55回秋季北信越大学男子バレーボール選手権大会, メディカルサポート 2024.11.2-11.3.

4) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員

スポーツ庁 健康スポーツ課技術審査委員会 (技術審査専門員), 日本スポーツ振興センター 女性アスリート支援ネットワーク有識者委員会 (委員), 新潟県庁 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センターのあり方検討委員会 (委員)

5) 職能団体 (協会, 学会等) の委員

(公社) 日本理学療法士協会 運動器分野問題作成部会 (部員), (一社) 日本理学療法学会連合 編集委員会 (査読委員), (公社) 日本理学療法士協会「令和5年度 Sports in Life推進プロジェクト総合事業における調査研究事業」連携協力団体 (担当委員), (一社) 日本理学療法学会連合 理学療法にかかわる研究助成 (審査委員), (一社) 日本スポーツ理学療法学会 (評議員), (一社) 日本スポーツ理学療法学会 機関紙調整委員会 (委員), (一社) 日本基礎理学療法学会 (評議員), (一社) 日本基礎理学療法学会「理学療法士の超音波画像診断装置使用に関する検討委員会」(委員長), (一社) 日本基礎理学療法学会・(一社) 日本スポーツ理学療法学会・(一社) 日本運動器理学療法学会・(一社) 日本物理療法学会「理学療法士の超音波画像診断装置の使用についての合同委員会」(委員長), (一社) 日本基礎理学療法学会 人体解剖学実習検討委員会 (委員), (一社) 日本基礎理学療法学会学術誌「基礎理学療法」(機関紙 査読委員), (一社) 体表解剖学研究会 (講師), (一社) 新潟県サッカー協会 (医学委員会 委員), 足の構造と機能研究会 (会長), 新潟スポーツ理学療法研究会 (副会長), 新潟スポーツ障害フォーラム (理事), 新潟リハビリテーション病院スポーツ医学総合診療センター拡大運営委員会 (委員), 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム (副会長), 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム (チーフアドミニストレーター), 特定非営利活動法人日本臨床運動療法学会 (評議員)

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2024年度, スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」, 研究代表者.
2. 2024年度, 科学研究費 挑戦的研究 (萌芽), 筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確立と新たな運動療法の開発, 研究代表者.
3. 2024年度, 科学研究費, 基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 研究代表者.

4. 2024年度, 科学研究費, 国際共同研究加速基金(海外連携研究), 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究代表者.
5. 2024年度, 共同研究, 株式会社ワコール, 研究代表者.
- 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
 1. UNIVAS AWARDS 2024-25「安全安心環境構築優秀取組賞」最優秀賞(共同)
 2. 第130回日本解剖学会全国学術集会肉眼解剖学トラベルアワード(献体協会賞) 受賞(共同)
- 3) 学外兼務講師等
 1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター非常勤勤務(スポーツ外来), 2024.4-2025.3.
 2. 日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第一講座 聴講生, 2024.4-2025.3.
 3. 新潟大学医学部解剖学第一講座 客員研究員, 2024.4-2025.3.
- 9 学内委員会活動 研究・産官学連携推進機構(運営委員), URA推進(室長), 研究施設企画委員会(委員), 大学院研究環境委員会(委員), 入試委員会(委員), 小論文策本部会(部員), 科研費対策委員会(サポートディスク担当), アスリートサポート研究センター(副センター長), 運動機能医科学研究所(所員), アルビレックス新潟・アルビレックス新潟レディース・新潟リハビリテーション病院連携協定事業(メンバー)

氏名：大鶴 直史

- 1 研究題目 痛み, 内受容感覚の脳内情報処理に関する研究
- 2 論文
 1. Ikarashi H, Otsuru N, Takahashi S, Nagasaka K, Hara M, Onishi H. Influence of alexithymia severity in the healthy population on the susceptibility to false interoceptive feedback. *Front Psychol(JCR)*. 2024;15:1442138. (査読あり)
 2. Kitatani R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influence of postural control difficulty on changes in spatial orienting of attention after leftward prism adaptation. *Exp Brain Res(JCR)*. 2024; 242(7): 1533-1541. (査読あり)
 3. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Otsuru N, Shirozu H, Onishi H. Resting-state functional connectivity involved in tactile orientation processing. *Neuroimage(JCR)*. 2024; 299(120834): 120834. (査読あり)
 4. Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, Kamii Y, Takahashi H, Miyaguchi S, Otsuru N, Onishi H. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. *Behav Brain Res(JCR)*. 2024; (115209): 115209. (査読あり)
 5. Yoshino A, Maekawa T, Kato M, Chan HL, Otsuru N, Yamawaki S. Changes in resting-state brain activity after cognitive behavioral therapy for chronic pain: A magnetoencephalography study. *J Pain(JCR)*. 2024; 25(8): 104523. (査読あり)
 6. Hirata A, Akazawa Y, Kodera S, Otsuru N, Laakso I. Electric field envelope focality in superficial brain areas with linear alignment montage in temporal interference stimulation. *Comput Biol Med(JCR)*. 2024; 178(108697): 108697. (査読あり)
 7. Kitatani R, Furuyama T, Otsuru N, Onishi H. Region-specific effects of transcranial direct current stimulation over posterior parietal cortex and cerebellum on standing postural displacement after prism adaptation. *Neuroscience(JCR)*. 2024; 551: 229-236. (査読あり)
 8. Suzuki T, Nagasaka K, Otsuki T, Otsuru N, Onishi H. Tonic electrical stimulation of the locus coeruleus enhances cortical sensory-evoked responses via noradrenaline α 1 and β receptors. *Eur J Neurosci(JCR)*. 2025; 61(3): e70020. (査読あり)
 9. Yoshino A, Maekawa T, Kato M, Chan HL, Otsuru N, Yamawaki S. Changes in Resting-State Brain Activity after Cognitive Behavioral Therapy for Chronic Pain: A Magnetoencephalography Study. *J Pain(JCR)*. Published online April 4, 2024: 104523. (査読あり)
 10. Yamamoto S, Miyaguchi S, Ogawa T, Inukai Y, Otsuru N, Onishi H. Effects of transcranial

alternating current stimulation to the supplementary motor area on motor learning. Front Behav Neurosci(JCR). 2024;18. doi:10.3389/fnbeh.2024.1378059 (査読あり)

11. Takeo Y, Hara M, Otsuru N, Taihei T, Kawasoe R, Sugata H. Modulation of thermal perception by VR-based visual stimulation to the embodied virtual body. Behav Brain Res. Published online December 11, 2024: 115395. (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 石井大典, 大鶴直史, 大西秀明. Improving in vivo autofluorescence imaging in rat brain with skull transparency. Neuro2024 (福岡市), 2024.7.24-7.27.
2. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 大鶴直史, 大西秀明. Voltage-sensitive dye imaging of rat frontal neuronal activity evoked by stimulation of the retrosplenial cortex. Neuro2024 (福岡市), 2024.7.24-7.27.
3. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に關与する皮質律動活動の検討. 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム (奈良), 2024.8.24-8.25.
4. 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期ストレスと成人期における安静時脳活動の關連. 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム (奈良), 2024.8.24-8.25.
5. 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化. 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム (奈良), 2024.8.24-8.25.
6. 北谷亮輔, 平野志織, 反町瑠菜, 沼田莉奈, 星春輝, 大鶴直史, 芝田純也, 大西秀明. 歩行中の一次運動野に対する律動経頭蓋直流電気刺激による筋内・筋間コヒーレンスの変化. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
7. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸美, 大鶴直史, 大西秀明. 脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症のメカニズム解明. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
8. 長尾彩音, 長坂和明, 五十嵐眸美, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質と前頭葉における機能解剖の解明－膜電位感受性色素を用いた光イメージングによる検証－. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
9. 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 鈴木孝昇, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の一過性の興奮によって生じる一次体性感覚野神経活動の光イメージング. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
10. 鈴木孝昇, 長坂和明, 大槻智史, 長尾彩音, 大鶴直史, 大西秀明. 青斑核への持続的な電気刺激によって生じる体性感覚活動の上昇にはノルアドレナリン受容体が必須である. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
11. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に關与する心理特性. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
12. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖条件付けによる皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
13. 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期のストレスと成人期における安静時皮質活動の關連. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
14. 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
15. 杵淵佑花, 大鶴直史, 原正之, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. バーチャルリアリティにおける手の色が痛み閾値に及ぼす影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
16. 佐久美貴江, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛み知覚の揺らぎと痛

- みに対する心理特性の関係. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
17. 谷黒栞菜, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. Interoceptive sensibility と関連する皮質活動の検討. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 18. 竹内さくら, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛みに対する破局的思考と関連する皮質活動の検討. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 19. 犬飼康人, 宮口翔太, 仲村萌, 高橋ひろな, 小野優翔, 大鶴直史, 大西秀明. 小脳に対する経頭蓋直流電流刺激が片脚立位バランスとバランストレーニング効果に与える影響. (東京), 2024.10.12-10.13.
 20. 武田真桜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 足底への連続的反復電気刺激が片脚立位時のバランス制御に与える効果. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 21. 小野優翔, 犬飼康人, 高橋ひろな, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野および小脳に対する経頭蓋ランダムノイズ刺激がバランス機能に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 22. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における閉眼片脚立位時間と灰白質容積との関連-Voxel-based morphometry (VBM) を用いた全脳解析による検討-. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 23. 石井瞳, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 小趾球部への高頻度反復感覚刺激が片脚立位バランスに与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 24. 小杉航大, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への陽極経頭蓋直流電流刺激がバランストレーニング効果に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 25. 菊地太陽, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 足趾への高頻度反復感覚刺激が姿勢制御に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
 26. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における片脚立位バランスの左右差と小脳の灰白質容積との関連-Voxel-based morphometry (VBM) を用いた全脳解析による検討-. 第29回基礎理学療法学会 (東京), 2024.10.12-10.13.
 27. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 脳構造画像解析に基づく脳領域への経頭蓋直流電流刺激が閉眼片脚立位バランスに与える影響. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟), 2024.10.26.
 28. 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 齊藤慧, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. スラックラインを用いたバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟), 2024.10.26.
 29. 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 齊藤慧, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一側下肢のバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証. 第30回新潟県理学療法学会学術大会 (新潟), 2024.10.26-10.27.
 30. 長坂和明, 吉田佳笑, 小川有生人, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への皮質内微小電気刺激による内因性神経応答の空間的特徴. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 (千葉), 2024.11.30.
 31. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 膜電位イメージングによる脳梁膨大後部皮質と前頭前野領域の機能的結合の解明. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 (千葉), 2024.11.30.
 32. 渡辺佳音, 長坂和明, 安達航希, 長尾彩音, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 扁桃体の事前損傷が視床出血後の疼痛行動に与える影響. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 (千

葉), 2024.11.30.

33. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性イメージングによる脳卒中後疼痛発症後の脳活動変化の解明. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 (千葉), 2024.11.30.
34. 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 小川有生人, 鈴木孝昇, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の賦活化が体性感覚刺激誘発性の一次体性感覚野応答に及ぼす影響. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 (千葉), 2024.11.30.
35. 石山寛大, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 視床出血による体性感覚障害モデルラットの確立. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 (千葉), 2024.11.30.
36. 中島雄太, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳卒中後疼痛ラットにおける島皮質のフラビン蛍光イメージング. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 (千葉), 2024.11.30.
37. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 広視野脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症メカニズムの解明. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟), 2024.10.26.
38. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質とラット後肢刺激によって生じる前頭葉活動の解明—膜電位感受性色素を用いたイメージング—. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟), 2024.10.26.
39. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性信号イメージングによる脳卒中後疼痛モデル動物の脳活動変化. 第46回日本疼痛学会 (東京), 2024.11.16-11.17.
40. 佐々木亮樹, 小島翔, 齊藤慧, 大鶴直史, 白水洋史, 大西秀明. 触覚方位弁別に対する大脳ネットワークの役割. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
41. Kitatani R, Hoshi H, Sorimachi R, Numata R, Hirano S, Otsuru N, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation targeting corticoreticular pathway increases common neural drives to thigh muscles during gait. XXIV Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology (Japan), 2024.6.26-6.29.
42. Otsuru N, Kojima S, Ikarashi H, Inoue S, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Excitatory-Inhibitory Balance Assessed by Aperiodic Component and Its Correlation with Paired-Pulse Inhibition in the Primary Somatosensory Cortex: An MEG study. The Federation of European Neuroscience Societies 2024 (Vienna), 2024.6.25-6.29.
43. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation over primary and secondary motor cortex selectively increases common neural drives to distal and proximal lower limb muscles during gait. 6th International Brain Stimulation Conference (Kobe), 2025.2.23-2.26.
44. Ikarashi H, Otsuru N, Nagasaka K, Inoue S, Iimuro K, Onishi H. Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Left DLPFC Does Not Affect Conditioned Pain Modulation. 6th International Brain Stimulation Conference (Kobe), 2025.2.23-2.26.
45. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Nagasaka K, Iimuro K, Onishi H. Modulation of pain perception variability through tDCS stimulation of the left DLPFC. 6th International Brain Stimulation Conference (Kobe), 2025.2.23-2.26.
46. Iimuro K, Otsuru N, Hirata A, Ikarashi H, Inoue S, Kakuta S, Nagasaka K, Shirozu H, Iimuro K, Onishi H. Modulation of cortical oscillations by transcranial temporal interference stimulation (tTIS) targeting the primary somatosensory cortex. 6th International Brain Stimulation Conference (Kobe), 2025.2.23-2.26.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 日本臨床神経生理学会, 日本運動器疼痛学会 (代議

員), 日本ペインリハビリテーション学会 (代議員), 日本生体磁気学会 (代議員)

2) 学術集会の主催

1. 第28回日本基礎理学療法学会学術大会, プログラム編成委員, 2024.12.12-12.13.

3) 学会等でのその他の活動

1. Frontiers in human neuroscience 誌, review editor
2. Frontiers in Physiology 誌, review editor
3. Frontiers in Pain Research 誌, review editor
4. 日本理学療法士協会, 「理学療法学」査読委員
5. 日本基礎理学療法学会雑誌, 査読委員
6. 日本生体磁気学会, 選挙制度委員会委員長
7. Journal of Affected Disorders, 査読
8. Brain stimulation, 査読
9. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 査読委員
10. 日本運動器疼痛学会誌, 査読
11. European Journal of Pain, 査読
12. Neuroscience, 査読
13. 理学療法学, 査読
14. Journal of Affected Disorders, 査読
15. Cerebral cortex, 査読
16. Communications Biology, 査読
17. 第28回ペインリハビリテーション学会, 座長
18. 第28回ペインリハビリテーション学会, 演題査読
19. 日本運動器疼痛学会, いきいきリハビリノート改訂第5版, 改訂委員

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第28回ペインリハビリテーション学会プレコンgresセミナー, 定性的に捉える痛みの情動・認知的側面 - 質問紙だけではみえない問題を探る -, 講師, 日本ペインリハビリテーション学会, PT, web, 2024.4.18.
2. 城東整形外科セミナー, 新たな知覚理論から難治性の痛みを考える, 講師, 城東整形外科, PT・医師, 秋田市, 2024.7.12.
3. 第16回日本運動器疼痛学会, いきいきリハビリノートスマホ版の活用法, 講師・司会, 日本運動器疼痛学会, 医師, PT, OT, NSなど, 東京, 2024.11.30.
4. 藤田医科大学 第97回保健学セミナー, 脳と痛みの関係を考える, 講師, 藤田医科大学, 医師, PT, OT, 大学院生など, 愛知, 2024.12.6.
5. 新潟県慢性疼痛診療システム均てん化等事業, 新潟県慢性疼痛診療研修会, 企画およびファシリテーター, 医師, PT, OT, 大学院生など, オンライン, 2025.1.19.
6. 新潟県慢性疼痛診療システム均てん化等事業, こころと痛みのカンファレンス, 企画, 医師, PT, OT, 大学院生など, オンライン, 2025.9.7.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟地方裁判所委員会, より参加しやすい裁判員裁判とするには, 委員, 新潟地方裁判所, 2024.9.19.
2. 新潟県慢性疼痛診療体制構築モデル事業キックオフミーティング, 委員, web, 2024.5.1.
3. 新潟地方裁判所委員会, 働きがいのある職場作りについて, 委員, 新潟地方裁判所, 2025.1.31.
4. 日本運動器疼痛学会, いきいきリハビリノートプロモーションビデオ撮影, 原稿執筆および出演, <https://www.jamp.so/rehabilitation/>

3) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，科学研究費補助金 基盤研究（B），慢性疼痛における治療非反応性の神経基盤解明による治療効果向上戦略，研究代表者
2. 2022年度，科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽），不安定状態の脳内ネットワーク操作による恐怖記憶消去への挑戦，研究代表者
3. 2022年度，科学研究費補助金 基盤研究（A），内受容感覚を利用した身体感覚の自然な“脱着”，研究分担者
4. 2022年度，科学研究費補助金 挑戦的研究（開拓），運動感覚変化による着身体・脱身体現象の誘発とリハビリ応用，研究分担者
5. 2022年度，科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽），慢性疼痛に対する簡易型オンライン集団CBTの開発ならびに治療同盟に関する検証，研究分担者
6. 2021年度，科学研究費補助金 基盤研究（B），情動触に影響する生理・神経科学的個人差の検討，研究分担者
7. 2021年度，科学研究費補助金 基盤研究（B），脳内ネットワークモジュールの相互作用を標的とした新たな神経リハビリテーション戦略，研究分担者
8. 2023年度，科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽），内受容感覚の操作により知覚力は高まるのか，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医歯学総合病院非常勤理学療法士

7 学内委員会活動 科研費対策委員会（委員長），利益相反マネジメント委員会，知的財産委員会，運動機能医科学研究所（副所長），次世代デジタルリハビリテーション研究センター（センター長）

氏名：犬飼 康人

1 研究題目 非侵襲的脳刺激法を用いたリハビリテーション介入手法の開発，脳卒中リハビリテーションに関する研究

2 著書

1. 犬飼康人；市橋則明編．図解 理学療法技術ガイド．第5版．東京；文光堂；2024：197-203

3 論文

1. Yamamoto S, Miyaguchi S, Ogawa T, Inukai Y, Otsuru N, Onishi H. Effects of transcranial alternating current stimulation to the supplementary motor area on motor learning. Front Behav Neurosci. 2024; 18: 1378059.
2. Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, et al. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. Behav Brain Res. 2024; 475: 115209.

4 学会等研究発表

1. 犬飼康人．ノイズ前庭電気刺激によるバランス機能の変調．第61回日本リハビリテーション医学会学術集会（東京），2024.6.13.【シンポジウム】
2. 犬飼康人，宮口翔太，仲村萌，高橋ひろな，小野優翔，大鶴直史，大西秀明．小脳に対する経頭蓋直流電流刺激が片脚立位バランスとバランストレーニング効果に与える影響．第29回日本基礎理学療法学会学術大会（東京），2024.10.24-10.26.
3. 犬飼康人．運動を発現する神経メカニズム．第22回日本神経理学療法学会学術大会（福岡）．2024.9.28-9.29.【教育講演】

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本臨床神経生理学会, 全国理学療法教育学会 (総務), 日本基礎理学療法学会, 日本神経理学療法学会 (代議員), 日本リハビリテーション医学会, 新潟県理学療法士会 (理事)
- 2) 学術集会の主催
 1. 第60回日本理学療法学術研修大会, 準備委員 (財務部長), 2025.5.31-6.1.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 座長, 東京, 2024.6.14.
 2. 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 座長, 福岡, 2024.9.28.
 3. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 座長, 東京, 2024.10.25.
 4. 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 査読, 福岡, 2024.9.28-9.29.
 5. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 査読, 東京, 2024.10.24-10.26.
 6. 日本神経理学療法学会, 神経理学療法学, 査読, 2024.4.28.
 7. 日本神経理学療法学会, 神経理学療法学, 査読, 2024.7.5.
 8. 日本神経理学療法学会, 神経理学療法学, 査読, 2025.1.14.
 9. 日本神経理学療法学会, 神経理学療法学, 査読, 2025.2.12.
 10. 日本神経理学療法学会, 神経理学療法学, 査読, 2025.2.20.
 11. 日本理学療法学会連合, 理学療法学, 査読, 2025.1.7.
 12. 第30回新潟県理学療法学術大会, 運営委員・会誌編集, 新潟, 2024.10.26-10.27.
- 6 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会, 脳卒中患者のバランス障害に対する理学療法, 講師, 医療従事者, 新潟・立川メディカルセンター, 2024.12.14.
 2. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会, 脳卒中患者の足部の治療, 講師, 医療従事者, 新潟・新発田リハビリテーション病院, 2025.3.12.
 - 2) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
 日本理学療法士協会 (「理学療法学」査読委員), 日本理学療法学会連合 (「Physical Therapy Research」査読委員), 全国理学療法教育学会 (事務局), 日本神経理学療法学会 (代議員), 日本神経理学療法学会 (「神経理学療法学」副編集委員長), 新潟県理学療法士会 (理事), 日本理学療法士協会 (「第60回日本理学療法学術研修大会」準備委員), 日本神経理学療法学会 (新潟地方会リーダー)
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023-2025年度, 科研費基盤 (C), 動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発 (研究代表者)
- 8 学内委員会活動 広報委員会, 大学院教務委員会, 大学院質保証委員会, 運動機能医科学研究所, 脳卒中リハビリテーション研究センター (センター長)

氏名 : 久保 雅義

- 1 研究題目 身体運動解析
- 2 論文

1. Nagashima M, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Relationship among upper, middle, and lower thoracic vertebrae and upper and lower lumbar vertebrae in dancers during arabesque. J Dance Med Sci. 2024; 04-Dec:
2. Le VT, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Kinematics and activation of hamstring muscles during the initial acceleration phase of sprinting in soccer players: A biomechanical investigation. Journal of Science in Sport and Exercise. 2024; 26-Jun:
3. Laigo A, Kikumoto T, Takabayashi T, Watanabe T, Kikuchi Y, Kubo M. Effects of Differing Platform

Orientations on Forefoot and Hindfoot Kinematics in Chronic Ankle Instability During Single Leg Landing. Phys Ther Sport. 2024; 01-Apr:

4. Hiratsuka S, Takabayashi T, Watanabe T, Kikumoto T, Kubo M. Classification of kinematic coupling patterns between lower limb joints during running. J Orthop Res. 2025; 18-Mar
5. Watanabe T, Takabayashi T, Kikumoto T, kikuchi Y, Kubo M. Intra-Foot Coordination and Its Variability During Walking in Males With and Without Chronic Ankle Instability. 2025; 29-Jan;
6. Helbert-Losier K, Fernandez MR, Athens J, Kubo M, O'Neill S. A randomised crossover trial on the effects of foot starting position on calf raise test outcomes: Position does matter. Foot. 2024; Sep

3 学会活動

- 1) 所属学会 バイオメカニズム学会, 日本臨床スポーツ医学会, グローバル人材育成教育学会, 日本保健医療福祉連携教育学会, 新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Physical Therapy in Spors 査読
2. Gait & Posture 査読
3. Journal of Biomechanics 査読

4 学内委員会活動 国際交流センター (委員長)

氏名：井上 達朗

1 研究題目 主に高齢者の栄養問題に関する臨床疫学研究

2 著書

1. 井上達朗. 高齢者の特徴(3) 栄養・口腔機能. 2025年. 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 高齢者理学療法学. 中山書店. P37-45
2. 井上達朗. こどものサルコペニアをどう評価するか. 2025年. 医療的ケア児の栄養療法サポートブック 食と栄養ですべての子どもと家族に“喜び”を. 診断と治療社. P250
3. 井上達朗. 栄養による予防. 2024年. 予防学. 医歯薬出版株式会社. P35-48
4. 井上達朗. フレイル. 2024年. 図解理学療法技術ガイド 第5版. 文光堂. P930-936
5. 井上達朗. フレイル. 2024年. 要介護高齢者の活動と運動のケア. 自立と生活機能を支える高齢者ケア超実践ガイド. 照林社. P249-254
6. 松居和寛, 井上達朗. ロボット技術とフレイル・ロコモ. 2024年. フレイル・ロコモのグランドデザイン. 日本医事新報社. P159-163
7. 井上達朗 (編者&執筆). 第3章 要介護高齢者に対する評価, 第5章 要介護高齢者に対するゴール設定・介入・モニタリング. 2024年. 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケア実践マニュアル. 医学書院. P20-29, P89-93
8. 井上達朗 (編者&執筆). 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドライン. 2024年. 医学書院. P97-103
9. 永井宏達, 牧野真弓, 加藤真由美, 平松知子, 油野規代, 井上達朗, 鈴木みずえ, 饗場郁子, 桂木聡子. 転倒予防実践ガイドー多職種連携のためのケースファイルー, 転倒予防学会

3 論文

1. Yagi T, Inoue T, Ogawa M. et al. Association of cachexia with quality of life in patients with chronic kidney disease undergoing hemodialysis. Ren Replace Ther. 2025. 査読あり
2. Hotta K, Fujii Y, Hitosugi N, Takamizawa R, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A. Effects of veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation on skeletal muscle function and interstitial PO2 in contracting muscle of normal rats. Microvasc Res. 2025. 査読あり
3. Ishida Y, Maeda K, Shimizu A, Ueshima J, Nagano A, Inoue T, Nonogaki T, Kawamura K, Sakaguchi T, Mori N. SARC-F questionnaire and its predictive value for mortality risk in hospitalized younger

- adults: A retrospective study. *Nutr Clin Pract*. 2025. 査読あり
4. Ogawa M, Okamura M, Yagi T, Maekawa K, Amakasu K, Inoue T, Satomi-Kobayashi S, Katayama M, Muraki Y, Akashi M. Oral Health and Cardiovascular Disease - A Scoping Review of Assessment Methods, Risk Factors, and Prognosis. *Circ Rep*. 2025. 査読あり
 5. Shimizu A, Maeda K, Ueshima J, et al. Association of GLIM-defined malnutrition with depressive mood in older adults undergoing rehabilitation. *Eur J Clin Nutr*. 2025. 査読あり
 6. Yoshimura Y, Matsumoto A, Inoue T, Okamura M, Kuzuya M. Protein supplementation alone or combined with exercise for sarcopenia and physical frailty: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. *Arch Gerontol Geriatr*. 2025. 査読あり
 7. Hirata M, Oyama Y, Shimoda N, Tsubaki A, Inoue T, Hirata Y, Noyori K. Preoperative Posterior Pelvic Tilt Angle is Associated with Decreased Gait Speed and Hip Function in Older Patients with Hip Osteoarthritis. *Prog Rehabil Med*. 2025. 査読あり
 8. Makizako H, Shiratsuchi D, Akaida S, Tateishi M, Maeda K, Iijima K, Shimada H, Inoue T, Yamada M, Momosaki R, Wakabayashi H, Yamamoto K, Arai H. Effects of digital-based interventions on the outcomes of the eligibility criteria for sarcopenia in healthy older adults: A systematic review and meta-analysis. *Ageing Res Rev*. 2025. 査読あり
 9. Suzuki M, Saino Y, Nagami S, Ueshima J, Inoue T, Nagano A, Kawase F, Kobayashi H, Murotani K, Maeda K. Dysphagia development in heart failure patients: A scoping review. *Arch Gerontol Geriatr*. 2025. 査読あり
 10. Ozawa T, Inoue T, Naruke T, Sato K, Izuoka Y, Sato R, Shimoda N, Yuge M. Coexistence of Non-Lower Body Mass Index and Exercise Habits Reduce Readmission in Older Patients With Heart Failure. *Ann Rehabil Med*. 2024. 査読あり
 11. Nozoe M, Inoue T, Yamamoto M, Ikeji R, Seike H, Ogawa M. Association between energy intake and activities of daily living in patients with acute stroke at hospital discharge: a retrospective cohort study. *Top Stroke Rehabil*. 2025. 査読あり
 12. Shimizu A, Maeda K, Ueshima J, Ishida Y, Inoue T, Murotani K, Nagano A, Mori N, Ohno T, Fujisima I. Effects of Sarcopenia on Changes in the Prevalence of Patients with Depressive Mood during Inpatient Geriatric Rehabilitation. *Ann Geriatr Med Res*. 2024. 査読あり
 13. Inoue T, Wakabayashi H, Kawase F, Kokura Y, Takamasu T, Fujiwara D, Maeda K. Diagnostic criteria, prevalence, and clinical outcomes of pediatric sarcopenia: A scoping review. *Clin Nutr*. 2024. 査読あり
 14. Takamizawa R, Hotta K, Fujii Y, Ikegami R, Hitosugi N, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A. Transcapillary PO₂ Gradients in Contracting Muscles of Type I Diabetic Rats. *Microcirculation*. 2024. 査読あり
 15. Nozoe M, Inoue T, Ogino T, Okuda K, Yamamoto K. The added value of frailty assessment as the premorbid stroke status on activities of daily living in patients with acute stroke, stratified by stroke severity. *J Nutr Health Aging*. 2024. 査読あり
 16. Suzuki M, Nagano A, Ueshima J, Saino Y, Kawase F, Kobayashi H, Murotani K, Inoue T, Nagami S, Maeda K. Prevalence of dysphagia in patients after orthopedic surgery. *Arch Gerontol Geriatr*. 2024. 査読あり
 17. 笠井紅里, 井上達朗, 小林壮太, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 甘粕康太, 齋藤新貴, 鎌田夏未, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数に影響する, 日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌, 2025. 査読あり
 18. 大館隼, 小林壮太, 甘粕康太, 前川健一郎, 鎌田夏未, 齋藤新貴, 井上達朗. 高齢者の食後低血圧, 日本老年療法学会誌, 2024. 査読あり

19. 平田萌々花, 小澤祐治, 新山祐貴, 小澤哲也, 佐藤隆一, 井上達朗, 霜田直史, 鈴木良介. Gait training using knee-ankle-foot orthosis on lateropulsion in lateral medullary lesions: A case study (延髄外側病変における長下肢装具を用いた歩行練習がlateropulsionに及ぼす影響: 症例報告), *Journal of Rehabilitation Neurosciences*, 2024. 査読あり
 20. 齋藤新貴, 井上達朗. 管理栄養士からみたGLIM基準と「リハ・栄養・口腔」の三位一体における理学療法士への期待, *日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌*, 2025
 21. 井上達朗. 理学療法士は「GLIM基準」と「リハビリテーション・栄養・口腔管理の三位一体」にどう関わるか, *日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌*, 2025
 22. 井上達朗. 自立支援・重度化予防に向けた対応, *日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌*, *理学療法ジャーナル*, 2025
 23. 井上達朗. サルコペニア・フレイルと転倒, *The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine*, 2025
 24. 井上達朗. 整形外科(骨折), *リハビリテーション栄養*, 2025
 25. 井上達朗. 科研費若手研究. 報告書. 代表
 26. 井上達朗. 厚労科研. 報告書. 分担
 27. 井上達朗. AMED. 報告書. 分担
- 4 学会等研究発表
1. Ogawa M, Okamura M, Yagi T, Maekawa K, Amakasu K, Inoue T, Satomi-Kobayashi S, Katayama M, Muraki Y, Akashi M. Oral frailty in cardiovascular disease : A scoping review to inform future approaches. The 16th International Conference of the Asian Academy of Preventive Dentistry. 2024.11.17. Vietnam
 2. Inoue T, Hotta K, Kodama N, Sakurai N, Izumi T, Kamiya K, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Potential of Skeletal Muscle Mass Indicator Focused on the Thenar Muscle: Validation Using 3T High-Resolution MRI, Aiming Practical Application in Dwelling Community. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. 2024.10.11. Thailand
 3. Amakasu K, Inoue T, Maekawa K, Kamada N, Saito A, Watanabe Y. Phase Angle-Def ined Sarcopenia Predicts Functional Status and Discharge Outcomes in Acute Stroke Patients. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. 2024.10.11. Thailand
 4. Maekawa K, Amakasu K, Kamada N, Saito A, Okiyama T, Inoue T. Association between physical activity and swallowing function in patients with hip fracture. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. 2024.10.11. Thailand
 5. Inoue T, Wakabayashi H, Kawase F, Kokura Y, Takamasu T, Fujiwara D, Maeda K. Diagnostic Criteria, Prevalence, and Clinical Outcomes of Pediatric Sarcopenia: A Scoping Review. European Society for Clinical Nutrition and Metabolism 2024. 2024.9.11-9.14. Italy
 6. 前川健一郎, 齋藤新貴, 井上達朗. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者におけるサルコペニア嚥下障害は退院時の日常生活動作を低下させる. 第40回日本栄養治療学会. 2025.2.15. 横浜
 7. 齋藤新貴, 井上達朗, 前川健一郎. 椎体骨折患者の入院時の低栄養は入院医療費を増加させる. 第40回日本栄養治療学会. 2025.2.15. 横浜
 8. 井上達朗. リハビリテーション中の高齢者における筋肉量の評価. 第40回日本栄養治療学会. 2025.2.15. 横浜【シンポジウム】
 9. 井上達朗. リアルワールドデータを活用した入院関連機能障害予防のための多面的栄養療プログラムの開発と効果検証に関する研究. 第40回日本栄養治療学会. 2025.2.16. 横浜【受賞者講演】
 10. 垣内優芳, 井上達朗, 小林光, 海老名葵, 中野元, 笈哲也, 田中利明, 西原賢在. 肺結核患者における入院時の全身炎症は嚥下機能を低下させる. 第8回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会. 2024.11.30. 大阪

11. 古澤芽依, 井上達朗, 堀田一樹, 児玉直樹, 櫻井典子, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 宮田裕章. 母指球筋に着目した骨格筋量ガイド指標の実装～MRIによる基礎的事項の検討と地域在住中高齢者での検証～. 第11回日本予防理学療法学会学術大会. 2024.11.9. 宮城
12. 船山結衣, 井上達朗, 堀田一樹, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 窪田杏奈, 宮田裕章. 高齢者の視力低下は歩行速度低下と関連する. 第11回日本予防理学療法学会学術大会. 2024.11.9. 宮城
13. 井上達朗. PT, OT, STで協働する嚥下リハビリテーション -PTの立場から-. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会. 2024.8.31. 福岡【シンポジウム】
14. 齋藤新貴, 井上達朗, 吉田英毅, 齊田葉子. 学会分類コード2-1以下の食種（つるん食）導入による経口移行への影響. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会. 2024.8.31. 福岡
15. 西野光貴, 井上達朗, 堀田一樹, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 窪田杏奈, 宮田裕章. 超音波画像診断装置を用いて測定した大腿前面筋厚をBMIで補正した指標は転倒と関連する. 第3回日本老年療学会学術集会. 2024.8.3. 札幌
16. 野添匡史, 井上達朗, 荻野智之, 奥田和希, 山本健太. 急性期脳卒中における病前状態評価としてのFrailty追加の影響は重症度によって異なる. 第3回日本老年療学会学術集会. 2024.8.3. 札幌
17. 増田隆之介, 大山由廉, 小澤哲也, 平田萌々花, 小川拓真, 霜田直史, 井上達朗, 椿淳裕, 平田康英, 野寄浩司. 急性期病院に入院した大腿骨近位部骨折患者の大腿前面の筋厚が退院時ADLへ与える影響. 第3回日本老年療学会学術集会. 2024.8.3. 札幌
18. 甘粕康太, 井上達朗, 前川健一郎, 鎌田夏未, 齋藤新貴, 丸山麻樹, 佐藤卓也, 土田望, 熊倉ひとみ, 渡部裕美子. 急性期高齢脳卒中患者におけるLow Phase Angleと嚥下障害の組み合わせが退院時の重度機能障害を予測する. 第3回日本老年療学会学術集会. 2024.8.3. 札幌
19. 笠井紅里, 井上達朗, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 田宮創, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数を低下させる. 第3回日本老年療学会学術集会. 2024.8.3. 札幌
20. 甘粕康太, 井上達朗, 大館隼, 前川健一郎, 長谷川靖, 宮村伸, 渡部裕美子, 有田匡孝, 林由香, 高山亜美, 今井俊介, 猪又孝元. 超高齢心不全患者における入院時の低身体機能が退院時のADLと転帰先に与える影響. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 2024.7.14. 兵庫
21. 石田優利亜, 前田圭介, 清水昭雄, 上島順子, 永野彩乃, 井上達朗, 川村皓生, 坂口達馬, 室谷健太, 森直治. 筋肉量減少として体格と浮腫を調整した下腿周囲長で評価したGLIM低栄養の妥当性検証. 第28回日本病態栄養学会年次学術集会. 2026.1.30-2.1. 京都
22. 増田隆之介, 大山由廉, 小澤哲也, 平田萌々花, 小川拓真, 井上達朗, 椿淳裕. 急性期病院に入院した大腿骨近位部骨折患者の大腿前面の皮下脂肪組織の厚さが退院時ADLへ与える影響. 日本物理療法合同学術大会. 2025, 2025.2.1-2.2. 愛知
23. 小川拓真, 小澤祐治, 新山祐貴, 小澤哲也, 平田萌々花, 佐藤隆一, 霜田直史, 井上達朗, 椿淳裕, 鈴木良介. 急性期脳卒中患者の入院時の上腕二頭筋の筋厚が退院時のADLに及ぼす影響. 第22回日本神経理学療法学会学術集会. 2024.9.28-9.29. 福岡

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本栄養・嚥下理学療法学会（副理事長）、日本老年療学会（理事、広報委員長）、日本栄養治療学会（学術評議員、関東甲信越ブロック世話人）、日本リハビリテーション栄養学会（理事、教育委員会委員、論文賞選考委員会委員、理学療法士部会役員）、日本骨粗鬆症学会（骨粗鬆症リハビリテーション委員会 委員）、日本転倒予防学会（学術委員）、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本サルコペニア・フレイル学会（代議員）、日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本臨床疫学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会 実行委員, 2024.4-
 2. 第1回日本理学療法学会連合学術総会 企画委員, 2024.4-
 3. 第12回日本予防理学療法学会・栄養嚥下理学療法学会学術大会 実行委員, 2024.4-

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本栄養・嚥下理学療法学会 副理事長
2. 日本栄養・嚥下理学療法学会誌 編集委員長
3. 日本老年療学会 理事, 広報委員長
4. 日本栄養治療学会 学術評議員, 関東甲信越ブロック世話人
5. 日本リハビリテーション栄養学会 理事, 教育委員, 論文賞選考委員, 理学療法士部会 役員
6. 日本骨粗鬆学会 骨粗鬆症リハビリテーション委員会 委員
7. 日本転倒予防学会, 学術委員, 転倒予防ガイドワーキンググループ委員
8. サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン ガイドライン作成委員
9. 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドライン ガイドライン作成委員
10. サルコペニア・フレイル栄養管理ガイドライン ガイドライン作成委員
11. リハビリテーション栄養ガイドライン2024 ガイドライン作成委員
12. 日本理学療法士協会 理学療法にかかわる研究助成 審査委員
13. 第10回日本栄養嚥下理学療法学会 シンポジウム座長, 教育講演座長
14. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 一般演題座長
15. 第11回 日本予防理学療法学会学術大会 シンポジウム座長
16. The Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle 査読
17. Progress in Rehabilitation Medicine 査読
18. Geriatrics & Gerontology International 査読
19. European Geriatric Medicine 査読
20. Clinical Nutrition 査読
21. Clinical Nutrition ESPEN 査読
22. Nutrition 査読
23. Archives of Gerontology and Geriatrics 査読
24. 学会誌JSPEN, 査読
25. リハビリテーション栄養, 査読
26. Frontiers in Nutrition Topic Editor
27. Frontiers in Nutrition 査読
28. BMC Geriatrics 査読
29. The Journal of Nutrition, Health and Aging 査読
30. Cureus 査読
31. JMA Journal 査読

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 井上達朗. がん患者の老年栄養研究について. 第1回がん・リンパ浮腫研究シンポジウム. 2024.12.1. オンライン
2. 井上達朗. 佐渡島におけるフレイル予防の取り組み. 新潟県フレイル対策二次予防事業等実施報告会. 2024.7.22. 新潟市
3. 井上達朗. リハ・栄養・口腔の三位一体. 株式会社クリニコ. 東京
4. 井上達朗. リハ・栄養・口腔の三位一体. 栄養とリハビリテーションの研修会. 2024.9.27. 山形
5. 井上達朗. 「喉と脚の筋トレで健康いきいきフレイル予防」～飲み込む力と下半身の筋力低下を防いで健康長寿～. 2024.6.10. 五泉市
6. 井上達朗. リハビリテーションと栄養. 奈良県立医大. 2024.8.20. 奈良市

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 井上達朗, 「リハ・栄養・口腔」の一体的取り組みの実践・リハビリテーションの視点から-, 株式会社クリニコ Youtube

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟県健康づくり財団, 慶応義塾大学, 北里大学, 新潟医療福祉大学, 東京大学, トキめき会 (地域住民の身体機能・認知機能の測定), 佐渡市総合体育館, 2024.6.28-6.29.
2. 新潟県健康づくり財団, 慶応義塾大学, 北里大学, 新潟医療福祉大学, 東京大学, トキめき会 (地域住民の身体機能・認知機能の測定), 佐渡市総合体育館, 2024.12.13-12.15.

4) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員

新潟市健康づくり推進委員会委員, 「新潟市健康づくり推進基本計画 (第4次) スマイル新潟ヘルスプラン〜みんなが主役! 生涯健康でいきいきと〜」を発刊しましたが, ここに記載で良いでしょうか. https://www.city.niigata.lg.jp/shisei/seisaku/seisaku/keikaku/hokeneisei/suishinkihon/kihonkeikaku_top.files/dai4jikeikaku.pdf, 魚沼市におけるデータを活用したフレイル予防モデル事業 ワーキンググループ委員, 新潟県フレイル克服プロジェクト 委員

5) 職能団体 (協会, 士会等) の委員

日本栄養・嚥下理学療法学会 (副理事長), 日本老年療法学会 (理事, 広報委員長), 日本栄養治療学会 (学術評議員, 関東甲信越ブロック世話人), 日本リハビリテーション栄養学会 (理事, 教育委員会委員, 論文賞選考委員会委員, 理学療法士部会役員), 日本骨粗鬆症学会 (骨粗鬆症リハビリテーション委員会 委員), 日本転倒予防学会 (学術委員), 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本サルコペニア・フレイル学会 (代議員), 日本老年医学会, 日本老年社会科学会, 日本臨床疫学会, 新潟高齢者の栄養と摂食を支える会 世話人

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2022年度, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究, 母指球筋を用いた新たな筋量指標の開発と疾患予後を予測する指標への応用, 研究代表者
2. 2023年度, 日本老年医学会 高齢者栄養研究助成, 筋と骨の同時測定によるオステオサルコペニアの革新的評価法の開発と栄養学的バイオマーカーの解明による予防・介入戦略の検討, 研究代表者
3. 2022年度, 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 令和4年度予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業ヘルスケア社会実装基盤整備事業, サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン開発研究, 研究分担者
4. 2024年度, 日本栄養治療学会, リアルワールドデータを活用した 入院関連機能障害予防のための多面的栄養 治療プログラムの開発と効果検証に関する研究, 研究代表者
5. 2024年度, 新潟市医師会 令和7年度新潟市医師会地域医療研究助成, AIとライフログデータを活用したフレイル早期検知と予防を支える包括的エコシステムの構築, 研究代表者

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

1. 石田優利亜, 前田圭介, 清水昭雄, 上島順子, 永野彩乃, 井上達朗, 川村皓生, 坂口達馬, 室谷健太, 森直治. 筋肉量減少として体格と浮腫を調整した下腿周囲長で評価したGLIM低栄養の妥当性検証. 若手研究奨励賞 (YIA) 第28回日本病態栄養学会年次学術集会.
2. 甘粕康太, 井上達朗, 前川健一郎, 鎌田夏未, 齋藤新貴, 丸山麻樹, 佐藤卓也, 土田望, 熊倉ひとみ, 渡部裕美子. 急性期高齢脳卒中患者におけるLow Phase Angleと嚥下障害の組み合わせが退院時の重度機能障害を予測する. 奨励賞, 第3回日本老年療法学会学術集会. 2024.8.3. 札幌
3. 笠井紅里, 井上達朗, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 田宮創, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数を低下させる. 若手優秀演題賞, 第3回日本老年療法学会学術集会. 2024.8.3. 札幌
4. Amakasu K, Inoue T, Watanabe Y. Low Phase Angle: A Predictor of Functional Status and

3) 学外兼務講師等

1. 新潟リハビリテーション病院 骨粗鬆リエゾン委員会 オブザーバー
2. 国立長寿医療研究センター 老年内科 外来研究員
3. 神戸大学大学院 保健学研究員

- 8 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員会（委員），社会連携推進センター運営委員会（委員），運動機能医科学研究所（研究員），互助会（委員）

氏名：菊元 孝則

- 1 研究題目 膝前十字靭帯損傷予防への科学的基礎，バスケットボール選手の運動機能に関する研究，慢性足関節不安定症が膝関節のバイオメカニクスに与える影響

2 論文

1. Anthony Laigo, Kikumoto T, Takabayashi T, Watanabe T, Kikuchi Y, Kubo M. Effects of differing platform orientations on forefoot and hindfoot kinematics in chronic ankle instability during single leg landing. Physical Therapy in Sports. (JCR). 2025; Volume73: 114-120.
2. Hiratsuka S, Takabayashi T, Watanabe T, Kikumoto T, Kubo M. Classification of Kinematic Coupling Patterns Between Lower Limb Joints During Running. Journal of Orthopaedic Research. (JCR). 2025; 43(6): 1171-1178.
3. Watanabe T, Takabayashi T, Kikumoto T, Kikuchi Y, Kubo M. Intra-Foot Coordination and Its Variability During Walking in Males With and Without Chronic Ankle Instability. Journal of the American Podiatric Medical Association. (JCR). 2025; Volume29: 1-31.
4. Nagashima M, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Relationship Among Upper, Middle, and Lower Thoracic Vertebrae and Upper and Lower Lumbar Vertebrae in Dancers During Arabesque. Journal of Dance Medicine & Science. (JCR). 2024; Dec 4:1089313X241301262.
5. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. Orthopaedic Journal of Sports Medicine. (JCR). 2024; 18; 12(11): 23259671241291861.
6. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. Journal of Athletic Training. (JCR). 2025; Mar 10.
7. Kikuchi Y, Takabayashi T, Kikumoto T, Watanabe T, Suzuki S, Hiratsuka S, Kubo M. Role of Hip Internal Rotation Range and Foot Progression Angle for Preventing Jones Fracture During Crossover Cutting. Journal of Applied Biomechanics. (JCR). 2024; Volume27; 41(1): 56-62.
8. Takahashi M, Takabayashi T, Kamijo H, Kikumoto T, Kubo M. Effect of Repetitive Loading from 5 km of Running on Plantar Pressure in Healthy Young Participants. Journal of the American Podiatric Medical Association. (JCR). 2025; Mar-Apr; 115(2): 23-113.

3 報告書

1. 菊元孝則，久保雅義，高林知也，大森豪. 科研費 研究基盤（C），大規模調査による慢性足関節不安定症のタイプ分類と再発リスク因子の解明，報告書，2022-2025，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 菊元孝則，鈴木駿佑，奥谷真央，高林知也，久保雅義. 慢性足関節不安定症の有症者への足関節前方引き

- 出しストレス時における距骨の逆説的な偏移の検証. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2025.1.25-1.26.
2. 菊元孝則, 佐藤明日香, 高林知也, 大森豪, 久保雅義. 片脚着地時における股関節回旋筋の筋活動比率が膝前十字靭帯損傷の危険因子に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟県), 2024.11.16-11.17.
 3. 菊元孝則, 鈴木駿佑, 奥谷真央, 高林知也, 久保雅義. 足関節前方引き出しストレス時における腓骨外果と距骨間距離の逆方向偏移. 第12回日本運動器理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2024.9.14-9.15.
 4. 遠間悠貴, 菊元孝則, 緒方嵩人, 高林知也, 久保雅義. 競泳スタートにおける上下部体幹・骨盤角度と入水角度の関連. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2025.1.25-1.26.
 5. 佐藤慎之助, 高林知也, 菊元孝則, 久保雅義. 捕手における捕球前のステップ動作の有無が捕球からボールリリースまでの動作時間に与える影響. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2025.1.25-1.26.
 6. 西口ほのか, 高林知也, 菊元孝則, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンが膝蓋大腿関節ストレスに与える影響. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2025.1.25-1.26.
 7. 緒方嵩人, 高林知也, 遠間悠貴, 菊元孝則, 久保雅義. 上肢挙上運動に伴う上部・中部・下部胸椎伸展角度の変化. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2025.1.25-1.26.
 8. 島谷美海花, 菊元孝則, 高林知也, 江玉睦明, 久保雅義. 膝前十字靭帯再建術後における膝伸展最大筋力と中間広筋の筋輝度との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟県), 2024.11.16-11.17.
 9. 鈴木駿佑, 菊元孝則, 奥谷真央, 高林知也, 岡田洋和, 久保雅義. 安静時の腓骨と距骨間の距離と離開率の関係性の検証. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟県), 2024.11.16-11.17.
 10. 緒方嵩人, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 水面および陸上ストリームライン姿勢時における脊柱角度の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟県), 2024.11.16-11.17.
 11. 西口ほのか, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンの違いは膝蓋腱張力の累積負荷に影響を与える. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟県), 2024.11.16-11.17.
 12. 緒方嵩人, 高林知也, 遠間悠貴, 菊元孝則, 久保雅義. クロール泳時における脊柱回旋角度の評価. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会, 2024.10.5-10.6.
 13. 鈴木駿佑, 菊元孝則, 奥谷真央, 高林知也, 岡田洋和, 久保雅義. 腓骨外果と距骨間の離開率が長腓骨筋筋活動へ与える影響. 第12回日本運動器理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2024.9.14-9.15.
 14. 奥谷真央, 菊元孝則, 鈴木駿佑, 高林知也, 久保雅義. 腓骨外果と距骨間の離開率は膝前十字靭帯損傷の危険因子と関連するか?. 第12回日本運動器理学療法学会学術大会 (神奈川県), 2024.9.14-9.15.
- 5 学会活動
- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本スポーツ理学療法学会 (国際委員会 国際資格検討部会 部会長), 日本体力医学会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本バスケットボール学会, 日本体育学会, 日本アスレティックトレーニング学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. PLOS ONE, 査読 (PONE-D-24-32118)
 2. Sports, 査読 (sports-2550942)
- 6 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー, 新潟市中体連部活動指導者研修会, 講師, 新潟市体育連盟, 中学生部活動指導者, 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター, 2024.6.2.
 2. 新潟市スポーツ協会指導者研修会, 講師, 公益財団法人新潟市スポーツ協会, スポーツ指導者, 新潟市陸上競技場, 2025.3.5.
 3. 新潟県バスケットボール協会セミナー, スポーツ医科学委員会オンライン研修会, 講師, 一般財団法人新潟県バスケットボール協会, バスケットボール指導者, オンライン開催, 2024.9.26.

2) 社会活動への参加協力

1. 日本スポーツ理学療法学会国際委員会 国際認定資格検討部会, 部会長, 新潟市など, 2024.4.1-2025.3.31.
2. 一般財団法人 新潟県バスケットボール協会 スポーツ医科学委員会, 副委員長, 新潟市など, 2024.4.1-2025.3.31.
3. 新潟県高等学校体育連盟, 高校総体バスケットボール大会メディカルサポート, 長岡市・長岡市体育館, 2024.6.1-6.2.
4. 新潟県高等学校体育連盟, 北信越総体バスケットボールメディカルサポート, 富山市・富山県総合体育センター, 2024.6.15-6.16.
5. 開志国際高等学校 男子バスケットボール部, 2024 高等学校総合体育大会総体バスケットボールメディカルサポート, 福岡・福岡市, 2024.8.3-8.9.
6. 開志国際高等学校 男子バスケットボール部, 第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会 SoftBank ウインターカップ2024, メディカルサポート, 東京体育館, 2024.12.23-12.29.
7. 新潟県バスケットボール協会, 第53回 BSN 杯新潟県高等学校バスケットボール大会メディカルサポート, 新潟市・新潟市東総合スポーツセンター, 新潟市鳥屋野体育館, 2025.1.25-1.27.
8. 新潟県バスケットボール協会, 第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会新潟県予選会メディカルサポート, 胎内市・胎内市総合体育館, 2024.11.2-11.3.
9. 一般財団法人 新潟県バスケットボール協会, 新潟県成年国体女子チーム メディカルサポート, 石川県・北陸大学, 2024.8.24-8.25.
10. 胎内市バスケットボール連盟, 第4回胎内カップバスケットボールフェスティバルメディカルサポート, 胎内市・ぶれすぽ胎内, 2024.10.5-10.6.

3) 職能団体（協会、士会等）の委員

一般財団法人 新潟県バスケットボール協会（スポーツ医科学委員会 副委員長）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度, 科研費 研究基盤 (C), 大規模調査による慢性足関節不安定症のタイプ分類と再発リスク因子の解明, 菊元孝則, 研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. 女子バスケットボール部, 全日本大学バスケットボール新人大会, バスケットボール, 北ガスアリーナ札幌, 2023.7.8-7.15. (メディカルサポート)
2. 女子バスケットボール部, 第75回 全日本大学バスケットボール選手権大会, バスケットボール, 代々木第二体育館, 2023.11.28-12.4. (メディカルサポート)

3) 学外兼務講師等

1. 新潟大学, 健康スポーツ科学講義, 毎週月曜日, 2023.10.9-2024.2.19.
2. 開志国際高等学校, 男子バスケットボール部メディカルサポート, 2023.4.1-2024.3.31.

8 学内委員会活動 国際交流センター運営委員会（海外研修および留学支援部会部会長）・アスリートサポート研究センター（研究員）

氏名：高橋 英明

- 1 研究題目 腱－骨移行部（Enthesis）に関する研究, 変性性膝関節症に関する研究, 骨格筋の微小循環に関する研究, 糖尿病の骨脆弱性に関する研究

2 論文

1. Taketa Y, Tamakoshi K, Hotta K, Maki S, Taguchi T, Takahashi H. Lymphatic Capillarization in Different Fiber Types of Rat Skeletal Muscles With Growth and Age. Microcirculation. 2024; 0: e12879. <https://doi.org/10.1111/micc.12879> (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 武田賢和, 玉越敬悟, 堀田一樹, 真木柊太郎, 田口徹, 高橋英明, 成長と加齢に伴うラット骨格筋内の毛細リンパ管形成の特徴的変化. 第12回運動器理学療法学会学術大会 (横浜市), 2024.9.14-9.15.
2. 河原祐実, 小林康陽, 高橋英明, Female Athlete Traidによる成長期骨粗鬆症モデル動物の開発に向けたパイロットスタディ. 第12回運動器理学療法学会学術大会 (横浜市), 2024.9.14-9.15.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 日本体力医学会, 日本骨代謝学会, 日本物理療学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 査読委員

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 臨床実習指導者講習会, 講師, 全国リハビリテーション学校協会・日本理学療法士協会・日本作業療法士協会, 理学療法士, 新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.8.22-8.23.

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2022年度, 科研費基盤研究 (C), Spring-8を利用したアキレス腱付着部の3次元構造変化とその力学的特性の解明
- 2) 学外兼務講師等
 1. 国際メディカル専門学校鍼灸学科 (昼間部), リハビリテーション医学, 2024.4.16-11.19.
 2. 国際メディカル専門学校鍼灸学科 (夜間部), リハビリテーション医学, 2024.4.16-11.19.

7 学内委員会活動 就職センター運営委員会 (副委員長), 運動機能医科学研究所

氏名: 横田 裕丈

- 1 研究題目 経皮的迷走神経刺激が自律神経活動, 痛み知覚, および運動機能に及ぼす影響の解明. 徒手療法の効果検証と背景因子の解明

2 論文

1. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between first tarsometatarsal ligament morphology and its continuity with the fibularis longus and first tarsometatarsal joint degeneration. Clin Anat. 2024. 37(8) 930-937 (review)
2. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between joint structure of the first tarsometatarsal joint and its degeneration. Scientific Report. 2024. 14 (review)
3. Ishigaki T, Furuto I, Sato R, Kurisuga Y, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Yokota H, Hirabayashi R, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Examining the changes in strength and mechanical property of dynamic stabilizers of the medial elbow joint through repetitive pitching. Examining the changes in strength and mechanical property of dynamic stabilizers of the medial elbow joint through repetitive pitching" to the Journal of Shoulder and Elbow Surgery. Journal of Shoulder and Elbow Surgery. 2024. 34(3) 672-679 (review)
4. Edama M, Tanaka Y, Shirai T, Takano Y, Sakamoto K, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Ishigaki T, Akuzawa H, Sekine C, Sato N. Dynamics of the suprapatellar bursa during knee joint extension. Surg Radiol Anat. 2024. 46(9) 1387-1392 (review)
5. Okouchi T, Hirabayashi R, Nakashima S, Abe A, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Edama M. Supraspinal Activation Induced by Visual Kinesthetic Illusion Modulates Spinal Excitability.

Healthcare. 2024. 26(12) 1696 (review)

6. Ishigaki T, Kurisuga Y, Sato R, Furuto I, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Hirabayashi R, Yokota H, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Changes in glenohumeral range of motion by repetitive pitching and their relationship with arm speed during pitching. Sports Biomechanics. 2025. 19(1) 1-13 (review)
7. Okouchi T, Hirabayashi R, Sugai N, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Impact of Visual Kinesthetic Illusions on Reciprocal Inhibition and Motor Function. Applied Sciences. 2024. 14(24) (review)
8. Sakamoto K, Edama M, Hirai T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between insertions of the tibialis anterior and peroneus longus and first tarsometatarsal joint degeneration. BMC Musculoskeletal Disorders. 2025. 23(26) (review)
9. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. Orthop J Sports Med. 2024 18(12) (review)
10. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. J Athl Train. 2025. 10 (review)
11. 横田裕丈. Close-up 物理療法と運動療法の併用 経皮的迷走神経刺激と運動療法の併用. 理学療法ジャーナル. 58 (7), 798-802, 2024.7.15.

3 学会等研究発表

1. 横田裕丈, 杉本柚華, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激 (taVNS) が月経周期に伴う自律神経活動変化に及ぼす影響と心理状態との関連. 第10回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会 (川崎). 2024.10.20.
2. 横田裕丈, 望月信吾, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 平林怜, 関根千恵, 阿久澤弘, 石垣智恒, 江玉睦明. 心肺運動負荷試験中の経皮的耳介迷走神経刺激 (taVNS) が全身持久力と自律神経活動に及ぼす影響. 第77回日本自律神経学会総会 (京都). 2024.10.25-10.26.
3. 横田裕丈, 阿久澤弘, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 江玉睦明. 胸鎖乳突筋に対する軟部組織モビライゼーションが自律神経活動に及ぼす影響. 第12回 日本筋骨格系徒手理学療法学会. 2024.11.23-11.24.
4. 久保幸大, 横田裕丈, 大屋りょう, 小川ほのか, 佐藤亜美, 中山侑也, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 江玉睦明. 圧刺激と関節運動の組み合わせが足関節可動域, および腓腹筋柔軟性に及ぼす影響. 第12回 日本筋骨格系徒手理学療法学会. 2024.11.23-11.24.
5. 横田裕丈, 小川ほのか, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明, 大森豪. アスリートとノンアスリートにおける音楽ビデオゲーム中の集中状態と自律神経活動との関係. 第32回日本臨床スポーツ医学会 (新潟), 2024.11.16-11.17.
6. 木村玲奈, 石垣智恒, 高橋由弥, 伊藤雄, 松本尚, 菊元孝則, 松浦由生子, 横田裕丈, 江玉睦明. 様々なオーバーヘッド競技における無症状選手と有症状選手間でのKJOCスコアの比較. 第32回日本臨床スポーツ医学会 (新潟), 2024.11.16-11.17.
7. 佐藤亜美, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激 (taVNS) が上肢リーチ動作の反応時間 (RT) に及ぼす影響. 第32回日本臨床スポーツ医学会 (新

渴), 2024.11.16-11.17.

8. 中山侑也, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 大学陸上競技選手における足部形態評価とその特徴の検討. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
9. 関井優叶, 江玉睦明, 石垣智恒, 坂本航大, 加藤雄樹, 佐藤来夢, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 小宮諒, 佐藤昇. 前距腓靭帯上部線維束と下部線維束の距腿関節制動機能の違い. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
10. 須貝菜央, 平林怜, 大河内偉琉, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 咬合力が左右均衡なほど咬合による全身反応が向上した. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
11. 平林怜, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 大河内偉琉, 須貝菜央, 大森豪, 江玉睦明. 咬合が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
12. 関根千恵, 江玉睦明, 中野祐太, 松永直人, 平林怜, 横田裕丈, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 大森豪. 腰痛既往の有無によるバッティング動作継続時の筋シナジーの比較. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
13. 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 異なる収縮強度での等尺性収縮がIb抑制に与える影響. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
14. 石垣智恒, 阿久澤弘, 関根千恵, 横田裕丈, 平林怜, 坂本航大, 小宮諒, 江玉睦明, 大森豪. 反復投球による内側肘関節動的安定化機構の発揮筋力および力学的特性の変化. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
15. 坂本航大, 江玉睦明, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林怜, 関根千恵, 小宮諒, 鳥海拓, 影山幾男. Kager's fat pad長母趾屈筋パートの形態学的特徴. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
16. 小宮諒, 前田慶明, 田村佑樹, 石田礼乃, 江玉睦明, 平林怜, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 阿久澤弘, 浦辺幸夫, 大森豪. 片側慢性足関節不安定症(CAI)者のCAI側と非CAI側での足部・足関節周囲筋形態と弾性の違い. 第32回日本臨床スポーツ医学会(新潟), 2024.11.16-11.17.
17. 山本峻平, 宮口翔太, 横田裕丈, 犬飼康人, 大鶴直史, 大西秀明. 経皮的迷走神経刺激が唾液 α アミラーゼと反応抑制機能に与える影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
18. 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 反復他動運動の視覚的運動錯覚は脊髄相反性抑制と運動機能を向上させた. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 新潟県理学療法士会, 日本基礎理学療法学会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本臨床神経生理学会, 日本運動器理学療法学会, 日本筋骨格系徒手理学療法研究会, 日本ウィメンズヘルス研究会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第29回 日本基礎理学療法学会学術大会 演題査読
 2. 第12回 日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会 演題査読
 3. Physiological Reports, Reviewer, January 27, 2025

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 市川式PNF講習会－基礎編－開催責任者, Physio8, 理学療法士, 新潟, 2024.12.14-12.15.
 2. 市川式PNF講習会－応用編－開催責任者, Physio8, 理学療法士, 新潟, 2024.12.21-12.22.
 3. Functional Manual Therapyを用いた徒手評価と臨床実践－理論編－, 講師, 日本アレルギーリハビリテーション協会, 理学療法士, オンライン, 2025.2.6.
 4. Functional Manual Therapyを用いた徒手評価と臨床実践－理論編－, 講師, 日本アレルギーリハビリ

リテーション協会, 理学療法士, 東京, 2025.2.16.

2) 社会活動への参加協力

1. NPO法人IPA JAPAN (副代表) 運営会議, 年次計画協議, 副代表, オンライン, 2024.12.3.
2. NPO法人IPA JAPAN (副代表) 運営会議, 年次計画協議, 副代表, オンライン, 2024.12.19.
3. NPO法人IPA JAPAN (副代表) 運営会議, 年次計画協議, 副代表, オンライン, 2025.1.8.

3) 職能団体(協会, 士会等)の委員

NPO法人IPA JAPAN (副代表)

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2022年度, 武田科学振興財団 医学系研究助成, 「経頭蓋直流電流刺激(tDCS)と経皮的迷走神経刺激(tVNS)の同時適用による革新的な慢性疼痛治療法の開発」, 横田裕丈.
2. 2023年度, 科研費若手研究, 「脳刺激と迷走神経刺激の融合による効果的な筋発揮効率の改善手法の開発」, 横田裕丈.

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

第10回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会(川崎) 優秀賞. 2024.10.20.

3) 学内部活動の実績

1. 陸上競技部, 2024日本学生陸上競技個人選手権大会, メディカルトレーナー, 神奈川, 2024.6.14-6.16.
2. 陸上競技部, 天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会, メディカルトレーナー, 神奈川, 2024.9.19-9.22.
3. 陸上競技部, 第108回日本陸上競技選手権大会, メディカルトレーナー, 新潟, 2024.6.27-6.30.

4) 学外兼務講師等

1. 特別養護老人ホーム, つきおかの里, 2018.4-
2. 国際メディカル専門学校, 非常勤講師, 運動学, 2020.4-
3. PhysioSquare Ginza, 2022.6-
4. 医療法人社団KOSMI こん整形外科, 2023.3-

7 学内委員会活動 同窓会委員会, 運動機能医科学研究所, アスリートサポート研究センター, SPRING-NQSAP

氏名: 齊藤 慧

1 研究題目 体性感覚機能に関する研究(神経生理学)

2 論文

1. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Otsuru N, Shirozu H, Onishi H. Resting-state functional connectivity involved in tactile orientation processing. *NeuroImage*. 2024; 299: 120834.
2. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Onishi H. Somatosensory training: A systematic review and meta-analysis with methodological considerations and clinical insights. *Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation*. 2025; 22(1): 43.

3 報告書

1. 齊藤慧. 基盤研究(C), 知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出, 研究実施状況報告書, 2023年~2025年, 研究代表者

4 学会等研究発表

1. 齊藤慧, 大鶴直史, 平賀大河, 関根悠介, 小島翔, 大西秀明. 触覚の知覚学習にトレーニング課題施行回数をもたらす影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
2. 時田優菜, 齊藤慧, 平賀大河, 関根悠介, 高橋琴美, 小島翔, 大西秀明. 右LOCへの経頭蓋ランダムノイズ刺激が右手指の触覚方位弁別能力にもたらす効果. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京),

2024.10.12-10.13.

3. 高橋琴美, 齊藤慧, 平賀大河, 関根悠介, 時田優菜, 小島翔, 大西秀明. 左LOCへの経頭蓋ランダムノイズ刺激が触覚方位弁別能力にもたらす効果 (東京), 2024.10.12-10.13.
4. 齊藤慧, 大鶴直史, 小島翔, 平賀大河, 関根悠介, 大西秀明. 示指と中指への同時末梢電気刺激が右示指の触覚方位弁別能力にもたらす影響. 日本物理療法合同学会大会 2025 (名古屋), 2025.2.1-2.2.
5. 平賀大河, 齊藤慧, 小島翔, 大西秀明. 手指への末梢電気刺激によって生じる触覚機能変化に関係する皮膚領域間の機能的結合の検討. 日本物理療法合同学会大会 2025 (名古屋), 2025.2.1-2.2.
6. 関根悠介, 齊藤慧, 平賀大河, 小島翔, 大西秀明. 低頻度末梢電気刺激が触覚方位弁別能力にもたらす効果. 日本物理療法合同学会大会 2025 (名古屋), 2025.2.1-2.2.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会, 日本臨床神経生理学会, 日本物理療法学会, 全国大学理学療法学教育学会, 日本神経科学学会, 日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション研究会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 全国大学理学療法学教育学会, 2024年度日本理学療法士教員協議会, 準備委員 (講師・司会者との連絡業務), 2024.2.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. European Journal of Neuroscience, 査読
 2. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 査読
 3. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 査読
 4. 日本物理療法合同学会大会 2025, 査読
 5. 日本物理療法合同学会大会 2025, シンポジウム4, 座長, 名古屋, 2025.2.1-2.2.

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 臨床実習指導者講習会, 教育原論・人間関係論, 講師, 人間関係論・ハラスメントの防止について・臨床実習の到達目標と修了基準・臨床実習における学生評価・臨床実習施設における臨床実習プログラムの立案・臨床実習指導者およびプログラムの評価, ファシリテーター, 日本理学療法士協会, 理学療法士・作業療法士, 新潟医療福祉大学, 2024.8.22-8.23.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 全国大学理学療法学教育学会, 令和5年度第1回理事会, 学会事務局担当 (書記), WEB開催, 2024.9.3.
 2. 全国大学理学療法学教育学会, 令和5年度第2回理事会, 学会事務局担当 (書記), WEB開催, 2024.10.17.
 3. 全国大学理学療法学教育学会, 令和5年度定時総会, 総会運営・事業報告, WEB開催, 2024.11.26.
 4. 全国大学理学療法学教育学会, 令和5年度臨時理事会, 学会事務局担当 (書記), WEB開催, 2024.11.26.
 5. 全国大学理学療法学教育学会, 令和5年度第3回理事会, 学会事務局担当 (書記), WEB開催, 2024.11.26.
 6. 全国大学理学療法学教育学会, 令和5年度第4回理事会, 学会事務局担当 (書記), WEB開催, 2025.2.10.
- 3) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
全国大学理学療法学教育学会 (事務局員, 庶務)

7 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023年度, 科研費基盤研究 (C), 知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出, 研究代表者

8 学内委員会活動 運動機能医科学研究所, SHAIN プロジェクト, 教務委員会

氏名：萩原 康雄

- 1 研究題目 先史時代集団の生活様式に関する研究, 遺跡出土人骨の古病理学的研究, 東北地方弥生時代人骨の探求
- 2 論文
 1. Hagihara Y, Murayama T, Nara T. Severe kyphoscoliosis observed in a human skeleton from the Edo period. Anthropological Science. 2025. in press. doi.org/10.1537/ase.250227
 2. 萩原康雄, 古澤安史, 澤田純明, 奈良貴史. 2024年度岩手県小松洞穴遺跡発掘調査概要報告. 新潟医療福祉学会誌 2025; (24): 1-10.
- 3 学会等研究発表
 1. 萩原康雄. 縄文時代人四肢骨形態の時期差と地理的環境の影響. 第78回日本人類学会大会(大阪), 2025.10.12-10.14.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本理学療法士協会, 日本人類学会, 日本解剖学会, 新潟医療福祉学会
- 5 社会活動
 - 1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 住田テレビ, すみたホットライン, 小松洞穴遺跡発掘調査・説明会, 2024.5.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 講演会・夏季骨学セミナー, 下肢骨, 講師, 新潟, 2024.8.19-8.23.
 2. 講演会・夏季骨学セミナー, 上肢骨, 講師, 新潟, 2024.8.19-8.23.
 3. 講演会・夏季骨学セミナー, 事務局, 新潟, 2024.8.19-8.23.
 4. 講演会・自然人類学研究所一般公開, 研究所一般公開, 運営・事務局, 新潟, 2024.11.2.
 5. 博物館特別展・東京大学総合研究博物館: 都市アーケオロジ, 特別展示, 展示制作, 東京, 2024.5.31-8.30.
 - 3) 職能団体(協会, 士会等)の委員
日本人類学会代議員
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2022, 若手研究, 骨形態から読み解く狩猟採集から農耕への生業転換に伴う日本列島集団の行動様式の変化, 萩原康雄, 代表
 2. 2020, 学術変革領域研究(A), 同位体比分析から見たヒトとモノの動態復元, 萩原康雄, 米田穰, 分担
 3. 2023, 基盤C, 相同モデルを活用した欠損部人骨復元への挑戦, 波田野悠夏, 分担
- 7 学内委員会活動 健康管理センター運営委員会・安全衛生委員会・大学院教務委員会・自然人類学研究所

氏名：玉越 敬悟

- 1 研究題目 脳卒中後の運動療法による運動機能の回復機序および脳内改善メカニズムに関する研究
- 2 論文
 1. Taketa Y, Tamakoshi K, Hotta K, Maki S, Taguchi T, Takahashi H. Lymphatic Capillarization in Different Fiber Types of Rat Skeletal Muscles With Growth and Age, Microcirculation, 2024; 31(4): e12879
- 3 学会等研究発表
 1. 保科真, 林亮太, 平山徹, 真木柊太郎, 佐藤良祐, 玉越敬悟: 脳出血モデルラットにおけるレパリキシン投与が運動機能障害に与える影響, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 東京, 2024.10.12-10.13.

2. 保科真, 林亮太, 平山徹, 真木柊太郎, 佐藤良祐, 玉越敬悟: 脳出血モデルラットにおけるレパリキシン投与が運動機能障害に与える影響, 第8回基礎理学療法学会若手研究者ネットワークシンポジウム, 奈良, 2024.8.24-8.25.
3. 林亮太, 長井健汰, 保科真, 玉越敬悟: 脳血管性認知症モデルラットにおける自発運動が認知機能障害および海馬に与える影響, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 東京, 2024.10.12-10.13.
4. 林亮太, 長井健汰, 保科真, 玉越敬悟: 脳血管性認知症モデルラットにおける自発運動が認知機能障害および海馬に与える影響, 第8回基礎理学療法学会若手研究者ネットワークシンポジウム, 奈良, 2024.8.24-8.25.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 日本基礎理学療法学会(学術局教育部部員), 日本神経科学学会, 日本神経化学学会, 日本生理学会, 日本脳循環代謝学会, Society for neuroscience
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第5回基礎理学療法ワークショップ(日本基礎理学療法学会主催), 運営委員, 2024.10.1.
 2. 第6回基礎理学療法ワークショップ(日本基礎理学療法学会主催), 運営委員, 2024.11.13.
 3. 第7回基礎理学療法ワークショップ(日本基礎理学療法学会主催), 運営委員, 2025.2.4.
 4. 第8回基礎理学療法学会若手研究者ネットワークシンポジウム(日本基礎理学療法学会主催), 奈良, 2024.8.24-8.25, 座長
 5. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 東京, 2024.10.12-10.13, 座長
 6. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 日本理学療法士協会・臨床実習指導者講習会, 講師, 新潟・新潟医療福祉大学, 2024.8.22-8.23.
- 2) 職能団体(協会, 士会等)の委員

一般社団法人日本基礎理学療法学会・教育部会(部会員)

6 学内委員会活動 運動機能医科学研究所(研究員), SHAINプロジェクト(神経・筋・骨組織研究メンバー)

氏名: 徳永 亮太

- 1 研究題目 慢性疼痛の脳内神経機序の解明, 侵害刺激時の脳血流・神経活動変化, 体性感覚刺激時の脳内セロトニン放出変化
- 2 学会等研究発表
 1. 徳永亮太, 慢性疼痛における扁桃体神経可塑的变化, 第77回日本自律神経学会総会(京都), 2024.10.26. 【シンポジウム】
 2. 徳永亮太, 柴田秀史, 黒澤美枝子, 神経結紮モデル動物における皮膚刺激時の扁桃体中心核セロトニン放出反応の変化, 第102回日本生理学会大会(幕張), 2025.3.18.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本生理学会, 日本神経科学学会, 日本自律神経学会, 日本理学療法士協会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. The Journal of Physiological Sciences, 査読
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2023, 基盤研究C, 慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果, 研究代表者
 2. 2024, 中富健康科学振興財団研究助成, 皮質-扁桃体神経回路の疼痛調節機構とそのニューロモジュレーション効果, 研究代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. ケベック大学トロワリビエール校 兼任教授, 2022.9-2026.8.

5 学内委員会活動 動物実験委員会, 運動機能医科学研究所

氏名: 小島 翔

1 研究題目 触圧覚刺激による脳活動および刺激介入効果に関する研究, 脳卒中患者に対する脳刺激介入の個人差に関する研究

2 論文

1. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Otsuru N, Shirozu H, Onishi H. Resting-state functional connectivity involved in tactile orientation processing. *NeuroImage (JCR)*. 2024. (査読あり)
2. Hori M, Kojima S, Onishi H. Cross-modal transfer effects of the Go/No-go training with visual stimuli. *Brain and behavior (JCR)*. 2024. (査読あり)
3. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Onishi H. Somatosensory training: A systematic review and meta-analysis with methodological considerations and clinical insights. *Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation (JCR)*. 2025. (査読あり)
4. 小島翔. 体性感覚情報処理に基づく脳活動を利用した理学療法の可能性. 理学療法学 (協力学術研究団体). 2024; 51巻4号: 140-144. (査読なし)

3 学会等研究発表

1. 渡邊拓, 井上大聖, 小島翔, 松尾英明, 松村真裕美, 佐藤友理, 井川正道, 有島英孝, 久保田雅史. 急性期脳卒中症例における体性感覚誘発電位と体性感覚機能の相関～N20/P25成分とP45成分の違いに着目して～. 第22回日本神経理学療法学会学術大会 (福岡), 2024.9.28-9.29.
2. 酒井彩希, 紙谷貴裕, 井亦聖, 小島翔. 立脚練習中の筋電図評価に基づいた治療介入により歩様が改善した慢性期脳卒中片麻痺例. 第22回日本神経理学療法学会学術大会 (福岡), 2024.9.28-9.29.
3. 紙谷貴裕, 濱谷俊輔, 小島翔. 病棟歩行自立に至った被殻出血後重度片麻痺2症例の退院時歩行能力の違い～体幹機能と非麻痺片脚立位保持に着目して～. 第22回日本神経理学療法学会学術大会 (福岡), 2024.9.28-9.29.
4. 小島翔, 長坂和明, 齊藤慧, 近藤優樹, 田邊かこ, 櫻井典子, 児玉直樹, 大西秀明. 手指を用いた両手交互運動の課題成績と灰白質容積との関連-脳構造画像解析手法を用いた検討-. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
5. 近藤優樹, 小島翔, 田邊かこ, 齊藤慧, 大西秀明. 一般大学生とアスリートにおける手指運動機能および触覚感度の関連. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
6. 佐々木亮樹, 小島翔, 齊藤慧, 大西秀明. メタ解析による知覚学習効果の検証. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
7. 時田優菜, 齊藤慧, 平賀大河, 関根悠介, 小島翔, 大西秀明. 右LOCへの経頭蓋ランダムノイズ刺激が触覚方位弁別能力にもたらす効果. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
8. 高橋琴美, 齊藤慧, 平賀大河, 関根悠介, 時田優菜, 小島翔, 大西秀明. 左LOCへの経頭蓋ランダムノイズ刺激が触覚方位弁別能力にもたらす効果. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
9. 齊藤慧, 大鶴直史, 平賀大河, 関根悠介, 小島翔, 大西秀明. 触覚の知覚学習に課題施行回数をもたらす影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
10. 田邊かこ, 小島翔, 齊藤慧, 大西秀明. 刺激周波数の異なる経皮的迷走神経刺激が手指の体性感覚機能に及ぼす影響. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟), 2024.10.26.
11. 平賀大河, 齊藤慧, 小島翔, 大西秀明. 末梢電気刺激が触覚方位弁別能力と α 帯域の安静時脳律動にもたらす効果. 第54回臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
12. 佐々木亮樹, 小島翔, 齊藤慧, 大鶴直史, 白水洋史, 大西秀明. 触覚方位弁別に対する大脳ネットワークの役割. 第54回臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
13. 齊藤慧, 大鶴直史, 小島翔, 平賀大河, 関根悠介, 大西秀明. 示指と中指への同時末梢電気刺激が右示指

の触覚方位弁別能力にもたらす影響. 日本物理療法合同学会大会 2025 (名古屋), 2025.2.1-2.2.

14. 平賀大河, 齊藤慧, 小島翔, 大西秀明. 手指への末梢電気刺激によって生じる触覚機能変化に関係する皮質領域間の機能的結合の検討. 日本物理療法合同学会大会 2025 (名古屋), 2025.2.1-2.2.

15. 関根悠介, 齊藤慧, 平賀大河, 小島翔, 大西秀明. 低頻度末梢電気刺激が触覚方位弁別能力にもたらす効果. 日本物理療法合同学会大会 2025 (名古屋), 2025.2.1-2.2.

4 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 日本基礎理学療法学会, 日本臨床神経生理学会, 日本生体磁気学会, 日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会, 全国大学理学療法学会

2) 学術集会の主催

1. 2024年度理学療法教員協議会, 運営, WEB開催, 2025.2.8.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本基礎理学療法学会, 第29回日本基礎理学療法学会学術集会, 演題査読, 東京都, 2024.10.12-10.13.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 臨床実習指導者講習会, 講師・ファシリテーター, 新潟医療福祉大学, 理学療法士・作業療法士, 新潟市, 2024.8.22-8.23.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2022年度, 科研費基盤研究(C), 脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発, 研究分担者
2. 2021年度, 科研費基盤研究(B), 触圧覚刺激に対する皮質応答および個人差の解明と脳卒中リハビリテーションへの展開, 研究代表者

7 学内委員会活動 図書館・学修支援委員会, 運動機能医科学研究所, 脳卒中リハビリテーション研究センター

氏名: 北谷 亮輔

1 研究題目 健常者や脳卒中患者を対象とした歩行の神経制御に関する研究, 注意機能や半側空間無視などの高次脳機能に関する研究

2 論文

1. Kitatani R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influence of postural control difficulty on changes in spatial orienting of attention after leftward prism adaptation. Experimental Brain Research (JCR). 2024; 242(7): 1533-1541 (review)
2. Kitatani R, Furuyama T, Otsuru N, Onishi H. Region-specific effects of transcranial direct current stimulation over posterior parietal cortex and cerebellum on standing postural displacement after prism adaptation. Neuroscience (JCR). 2024; 551: 229-236 (review)

3 報告書

1. 北谷亮輔. 若手研究, 視覚変位状態での姿勢制御時の分配性注意機能の解明と半側空間無視への介入手段の考案, 研究成果報告書, 2021-2023, 研究代表者

4 学会等研究発表

1. Kitatani R, Hoshi H, Sorimachi R, Numata R, Hirano S, Otsuru N, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation targeting corticoreticular pathway increases common neural drives to thigh muscles during gait. XXIV Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology (Japan), 2024.6.26-6.29.

2. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation over primary and secondary motor cortex selectively increases common neural drives to distal and proximal lower limb muscles during gait. 6th International Brain Stimulation Conference (Japan), 2025.2.23-2.26.
3. 北谷亮輔, 平野志織, 反町瑠菜, 沼田莉奈, 星春輝, 大鶴直史, 芝田純也, 大西秀明. 歩行中の一次運動野に対する律動経頭蓋直流電気刺激による筋内・筋間コヒーレンスの変化. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
4. 反町瑠菜, 北谷亮輔, 沼田莉奈, 平野志織, 星春輝, 芝田純也, 大西秀明. 歩行難易度と二重課題が歩行中の下肢筋への神経入力に与える影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 日本基礎理学療法学会, 日本神経理学療法学会, 日本支援工理学療法学会, 日本臨床神経生理学学会, 日本義肢装具学会, 全国大学理学療法学会教育学会, Motor Control研究会, International Society of Posture and Gait Research, International Society of Electrophysiology and Kinesiology
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 演題査読, 2024.5.30-6.14.
 2. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読, 2024.6.20-7.4.
 3. 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 一般演題・ポスター27・脳損傷・歩行6, 座長, 福岡, 2024.9.28-9.29. (9.29)
 4. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 一般演題・口述19・神経生理学6, 座長, 東京, 2024.10.12-10.13. (10.13)
 5. 日本神経理学療法学会, 学術誌編集委員会 (総務), 2022.12.1から
 6. 日本神経理学療法学会, 戦略的課題解決委員会・脳卒中歩行障害班, 2023.12.1から
 7. 全国大学理学療法学会教育学会, 庶務, 2023.12.1から
 8. Brain Injury, 査読, 2025.3.
- 6 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 正しい歩き方講座 (講習会), 講師, 福祉事業型専攻科KINGOカレッジ, KINGOカレッジの学生・支援職員, KINGOカレッジ (新潟市), 2024.5.10.
 2. 脳卒中患者のリハビリテーション指導 (研修会), 講師, 関西リハビリテーション病院, 理学療法士, 関西リハビリテーション病院 (豊中市), 2024.8.22-8.23. (8.22)
 3. 脳卒中患者のリハビリテーション指導 (研修会), 講師, 関西リハビリテーション病院, 理学療法士, 関西リハビリテーション病院 (豊中市), 2024.8.22-8.23. (8.23)
 4. 脳卒中患者の歩行リハビリテーション (講習会), 講師, 関西リハビリテーション病院, 理学療法士・義肢装具士, 関西リハビリテーション病院 (豊中市), 2025.2.26.
 5. 脳卒中患者のリハビリテーション指導 (研修会), 講師, 関西リハビリテーション病院, 理学療法士, 関西リハビリテーション病院 (豊中市), 2025.2.26.
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 科研費基盤研究 (C), 皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証, 研究代表者
- 8 学内委員会活動 教務委員会, 大学院教務委員会, 運動機能医科学研究所

氏名：平林 怜

1 研究題目 脊髄相反性抑制増強法の開発，咬合が運動機能に及ぼす影響に関する研究

2 論文

1. Okouchi T, Hirabayashi R (Corresponding author), Nakashima S, Abe A, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Edama M. Supraspinal Activation Induced by Visual Kinesthetic Illusion Modulates Spinal Excitability. Healthcare (Basel). 2024 Aug 26; 12(17): 1696.(JCR) (査読あり)
2. Okouchi T, Hirabayashi R (Corresponding author), Sugai N, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Impact of Visual Kinesthetic Illusions on Reciprocal Inhibition and Motor Function. Applied Sciences. 2024, 14(24), 11725.(JCR) (査読あり)
3. Sakamoto K, Edama M, Hirai T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between insertions of the tibialis anterior and peroneus longus and first tarsometatarsal joint degeneration. BMC Musculoskelet Disord. 2025 Jan 23; 26(1): 82.(JCR) (査読あり)
4. Edama M, Tanaka Y, Shirai T, Takano Y, Sakamoto K, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Ishigaki T, Akuzawa H, Sekine C, Sato N. Dynamics of the suprapatellar bursa during knee joint extension. Surg Radiol Anat. 2024 Sep; 46(9): 1387-1392.(JCR) (査読あり)
5. Sakamoto K, Edama M, Hirai T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between first tarsometatarsal ligament morphology and its continuity with the fibularis longus and first tarsometatarsal joint degeneration. Clin Anat. 2024 Nov; 37(8): 930-937. (JCR) (査読あり)
6. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between joint structure of the first tarsometatarsal joint and its degeneration. Sci Rep. 2024 Jun 12; 14(1): 13547.(JCR) (査読あり)
7. Ishigaki T, Furuto I, Sato R, Kurisuga Y, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Yokota H, Hirabayashi R, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Examining the changes in strength and mechanical property of dynamic stabilizers of the medial elbow joint through repetitive pitching" to the Journal of Shoulder and Elbow Surgery. J Shoulder Elbow Surg. 2025 Mar; 34(3): 672-679.(JCR) (査読あり)
8. Ishigaki T, Kurisuga Y, Sato R, Furuto I, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Hirabayashi R, Yokota H, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Changes in glenohumeral range of motion by repetitive pitching and their relationship with arm speed during pitching. Sports Biomech. 2025 Jan 19: 1-13.(JCR) (査読あり)
9. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Hirabayashi R, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. J Athl Train. 2025 Mar 10. (JCR) (査読あり)
10. 吉田結梨子, 山口久穂, 西野領, 平林怜, 岡田芳幸. 胸腔内圧の強度の違いがヒラメ筋H反射の遠隔促進に与える影響：予備的検討. スポーツ歯学 28 (2), 35-40, 2025. (協力学術研究団体) (査読あり)
11. 平林怜, 江玉睦明, 岡田芳幸, 大西秀明. 運動パフォーマンス向上となる最適な咬合の解明：脳機能と脊髄機能に着目. デサントスポーツ科学, 46, 12-20, 2025. (協力学術研究団体) (査読あり)

3 報告書

1. 平林怜. 基盤研究 (C), 脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発, 研究成果報告書, 2022-2024, 研究代表者

4 学会等研究発表

1. 平林怜, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 大河内偉琉, 須貝菜央, 阿部花映, 日向芽吹, 吉村太一, 江玉睦明. 咬合不均衡は青斑核と脊髄機能の活性を不均衡にさせた. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会 (大

- 阪). 2024.10.12-10.13.
2. 平林脩, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 大河内偉琉, 須貝菜央, 江玉睦明. 咬合が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
 3. 平林脩, 山田勇輝, 大河内偉琉, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 跳躍パフォーマンスは左右の咬合力に影響する. 第78回日本体力医学会大会(佐賀県). 2024.9.2-9.4.
 4. 須貝菜央, 平林脩, 大河内偉琉, 日向芽吹, 阿部花映, 吉村太一, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合の不均衡が単純反応時間と選択反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
 5. 阿部花映, 平林脩, 須貝菜央, 大河内偉琉, 吉村太一, 日向芽吹, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合は軌道予測能力を向上させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
 6. 吉村太一, 平林脩, 日向芽吹, 阿部花映, 須貝菜央, 大河内偉琉, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合バランスの補正は反応時間を短縮させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
 7. 日向芽吹, 平林脩, 吉村太一, 阿部花映, 大河内偉琉, 須貝菜央, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 左右の咬合不均衡が反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
 8. 大河内偉琉, 平林脩, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 反復他動運動の視覚的運動錯覚は脊髄相反性抑制と運動機能を向上させた. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京). 2024.10.12-10.13.
 9. 大河内偉琉, 平林脩, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 異なる収縮強度での等尺性収縮がIb抑制に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
 10. 須貝菜央, 平林脩, 大河内偉琉, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 咬合力が左右均衡なほど咬合による全身反応が向上した. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
 11. 大河内偉琉, 平林脩, 須貝菜央, 山本峻平, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 関節運動の視覚的運動錯覚が脊髄相反性抑制に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会(佐賀県). 2024.9.2-9.4.
 12. 落合優花, 平林脩, 大河内偉琉, 須貝菜央, 宗村李実, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 末梢性疲労後の局所振動刺激介入が疲労回復を促進させた. 第78回日本体力医学会大会(佐賀県). 2024.9.2-9.4.
 13. 宗村李実, 平林脩, 大河内偉琉, 須貝菜央, 落合優花, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 振動錯覚と運動イメージが脊髄機能に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会(佐賀県). 2024.9.2-9.4.
 14. 小宮諒, 前田慶明, 田村佑樹, 石田礼乃, 江玉睦明, 平林脩, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 阿久澤弘, 浦辺幸夫, 大森豪. 片側慢性足関節不安定症(CAI)者のCAI側と非CAI側での足部・足関節周囲筋形態と弾性の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
 15. 関根千恵, 江玉睦明, 中野祐太, 松永直人, 平林脩, 横田裕丈, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 大森豪. 腰痛既往の有無によるバッティング動作継続時の筋シナジーの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
 16. 横田裕丈, 小川ほのか, 平林脩, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明, 大森豪. アスリートとノンアスリートにおける音楽ビデオゲーム中の集中状態と自律神経活動との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
 17. 佐藤亜美, 横田裕丈, 平林脩, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激(taVNS)が上肢リーチ動作の反応時間(RT)に及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新

湯). 2024.11.16-11.17.

18. 中山侑也, 横田裕丈, 平林愴, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 大学陸上競技選手における足部形態評価とその特徴の検討. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
19. 関井優叶, 江玉睦明, 石垣智恒, 坂本航大, 加藤雄樹, 佐藤来夢, 横田裕丈, 平林愴, 関根千恵, 小宮諒, 佐藤昇. 前距腓靱帯上部線維束と下部線維束の距腿関節制動機能の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
20. 吉川悠人, 平林愴, 大河内偉琉, 須貝菜央, 岡田洋和, 江玉睦明. 咬合強度の変化がヘディング動作に及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
21. 石垣智恒, 阿久澤弘, 関根千恵, 横田裕丈, 平林愴, 坂本航大, 小宮諒, 江玉睦明, 大森豪. 反復投球による内側肘関節動的安定化機構の発揮筋力および力学的特性の変化. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
22. 坂本航大, 江玉睦明, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林愴, 関根千恵, 小宮諒, 鳥海拓, 影山幾男. Kager's fat pad長母趾屈筋パートの形態学的特徴. 第35回日本臨床スポーツ医学会(新潟). 2024.11.16-11.17.
23. 横田裕丈, 望月信吾, 平林愴, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 坂本航大, 大河内偉琉, 須貝菜央, 佐藤来夢, 江玉睦明. 心肺運動負荷試験中の経皮的耳介迷走神経刺激(taVNS)が全身持久力と自律神経活動に及ぼす影響. 日本自律神経学会(京都). 2024.10.25-10.26.
24. 山口久穂, 吉田結梨子, 西野領, 平林愴, 岡田芳幸. 噛みしめ強度と咬合領域の違いがヒラメ筋のH反射に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
25. 江玉睦明, 関井優叶, 坂本航大, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林愴, 関根千恵, 小宮諒, 佐藤昇. 前距腓靱帯上部線維束と下部線維束の足関節制動機能の違い 解剖学的研究. 日本整形外科超音波学会学術集会(東京). 2024.10.19-10.20.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会, 日本基礎理学療法学会, 日本スポーツ歯科医学会(編集委員), 日本スポーツ理学療法学会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本臨床神経生理学学会, 日本整形外科スポーツ医学会, 日本体力医学会, 日本物理療法学会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本スポーツ歯科医学会, 編集委員
 2. Frontiers in Physiology, 論文査読
 3. Experimental Physiology, 論文査読
 4. Sports Biomechanics, 論文査読
 5. Physiology International, 論文査読
 6. Experimental Physiology, 論文査読
 7. Motor Control, 論文査読
 8. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
 9. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 演題査読
 10. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 演題査読
 11. 日本物理療法合同学術大会2025, 演題査読
 12. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 座長
 13. 日本物理療法合同学術大会2025, 座長

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 教育講習会, 痙攣改善の介入法, 講師, 相澤病院, リハビリ職, 相澤病院, 2024.7.26.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 北信越大学サッカー連盟, メディカルサポート, 北信越大学サッカーリーグ1部, 新潟市, 2024.9.15.
 2. 公益財団法人日本サッカー協会, メディカルサポート, 総理大臣杯全日本サッカートーナメント 北

信越大会, 新潟市, 2024.7.7.

3) 職能団体（協会、士会等）の委員

日本スポーツ歯科医学会（編集委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022-2024年度, 基盤研究 (C), 脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発, 研究代表者
2. 2023-2024年度, デサントスポーツ助成, 運動パフォーマンス向上となる最適な咬合の解明: 脳機能と脊髄機能に着目, 研究代表者
3. 2024-2025年度, 日本物理療法学会研究助成, 緊張性振動反射介入による筋疲労改善効果の検証, 研究代表者
4. 2024-2025年度, 公益財団法人上原記念生命科学財団, 視覚的運動錯覚がもたらすニューロモデュレーション, 研究代表者

2) 学内部活動の実績

1. 第52回 北信越大学サッカーリーグ1部 優勝 (トレーナー)
2. 第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会 優勝 (トレーナー)
3. 2024年度第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 準優勝 (トレーナー)
4. 天皇杯JFA第143回全日本大学サッカー選手権大会 出場 (トレーナー)
5. 2024年度 第73回全日本大学サッカー選手権大会 準優勝 (トレーナー)

8 学内委員会活動 アスリートサポート研究センター, 運動機能医科学研究所, FD・SD推進委員会, 高大医連携推進委員会

氏名: 高林 知也

1 研究題目 ランニング障害に関する研究, 足部バイオメカニクスに関する研究, シミュレーションに関する研究

2 論文

1. Le Thiet V, Kikuchi Y, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Kinematics and Activation of Hamstring Muscles During the Initial Acceleration Phase of Sprinting in Soccer Players: A Biomechanical Investigation. *Journal of Science in Sport and Exercise (JCR)*. 2024; 1-9 (review)
2. Watanabe T, Takabayashi T, Kikumoto T, Kikuchi Y, Kubo M. Intra-foot coordination and its variability during walking in males with and without chronic ankle instability. *Journal of the American Podiatric Medical Association (JCR)*. 2025; 29: 1-31 (review)
3. Kikuchi Y, Takabayashi T, Kikumoto T, Watanabe T, Suzuki S, Hiratsuka S, Kubo M. Role of Hip Internal Rotation Range and Foot Progression Angle for Preventing Jones Fracture During Crossover Cutting. *Journal of Applied Biomechanics (JCR)*. 2024; 41 (1): 56-52 (review)
4. Nagashima M, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Relationship among upper, middle, and lower thoracic vertebrae and upper and lower lumbar vertebrae in dancers during arabesque. *Journal of Dance Medicine & Science (JCR)*. 2024; 4: 1-6 (review)
5. Hiratsuka S, Takabayashi T, Watanabe T, Kikumoto T, Kubo M. Classification of Kinematic Coupling Patterns Between Lower Limb Joints During Running. *Journal of Orthopaedic Research (JCR)*. 2025; 18: 1-8 (review)
6. Laigo A, Kikumoto T, Takabayashi T, Watanabe T, Kubo M. Effects of differing platform orientations on forefoot and hindfoot kinematics in chronic ankle instability during single leg landing. *Physical Therapy in Sport (JCR)*. 2025; 3 (73). 31-38 (review)
7. 平塚栞, 高林知也, 鈴木駿佑, 菊元孝則, 久保雅義. 扁平足のタイプと膝関節屈曲角度が静止立位時の下

肢アライメントに与える影響. スポーツ理学療法学 (日本学術会議協力学術研究団体). 2025; 3(1): 22-30 (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 高林知也, 江玉睦明, 渡部貴也, 渡邊貴博, 稲井卓真, 久保雅義. 慢性足関節不安定症者とcoperにおける動作時の下肢・体幹キネマティクスの評価. 第5回足の構造と機能研究会学術集会 (札幌). 2024.6.1-6.2. (シンポジウム)
2. 高林知也, 江玉睦明, 稲井卓真, 久保雅義. ランニングにおける足部内バイオメカニクス. 第12回日本運動器理学療法学会 (横浜). 2024.9.14-9.15. (シンポジウム)
3. 高林知也, 江玉睦明. シミュレーション解析による足関節角度と足関節モーメントの変化がランニング中のアキレス腱張力に及ぼす影響. 第49回日本足の外科学会 (東京). 2024.11.7-11.8.
4. 高林知也, 江玉睦明, 大森豪, 久保雅義. 性別と内側広筋の筋出力低下がランニング時の膝蓋大腿関節ストレスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
5. 高林知也, 江玉睦明, 稲井卓真, 久保雅義. 足部アライメントの違いがランニング時のアキレス腱張力に与える影響—シミュレーションを用いた研究—. 第11回スポーツ理学療法学会 (横浜). 2025.1.25-1.26.
6. 緒方嵩人, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 水面および陸上ストリームライン姿勢時における脊柱角度の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
7. 島谷美海花, 菊元孝則, 高林知也, 江玉睦明, 久保雅義. 膝前十字靭帯再建術後における膝伸展最大筋力と中間広筋の筋輝度との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
8. 西口ほのか, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンの違いは膝蓋腱張力の累積負荷に影響を与える. ランニング時の足部接地パターンの違いは膝蓋腱張力の累積負荷に影響を与える. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
9. 角田彪瑠, 高林知也, 平塚栞, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 小半径の曲線路ランニングにおける関節モーメントの左右差. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
10. 森岡未紗, 高林知也, 西口ほのか, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 扁平足者に対するインソールの使用の有無がランニング中の足底腱膜張力に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
11. 鈴木駿佑, 菊元孝則, 奥谷真央, 高林知也, 岡田洋和, 久保雅義. 腓骨外果と距骨間の離開率が片脚着地時の長腓骨筋筋活動へ与える影響. 第12回日本運動器理学療法学会 (横浜). 2024.9.14-9.15.
12. 奥谷真央, 菊元孝則, 鈴木駿佑, 高林知也, 久保雅義. 腓骨外果と距骨間の離開率は膝前十字靭帯損傷の危険因子と関連するか?. 腓骨外果と距骨間の離開率が片脚着地時の長腓骨筋筋活動へ与える影響. 第12回日本運動器理学療法学会 (横浜). 2024.9.14-9.15.
13. 平塚栞, 高林知也, 鈴木駿佑, 菊元孝則, 岡田洋和, 久保雅義. 扁平足のArch height flexibilityがランニング時の下肢筋活動に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
14. 渡邊貴博, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. ランニング時の母趾外転筋筋活動と主観的な足関節不安定感の関連性. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.16-11.17.
15. 遠間悠貴, 菊元孝則, 緒方嵩人, 高林知也, 久保雅義. 競泳スタートにおけるブロック段階の上下部体幹・骨盤角度とパフォーマンスとの関連. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会 (徳島). 2024.10.5-10.6.
16. 緒方嵩人, 高林知也, 遠間悠貴, 菊元孝則, 久保雅義. クロール泳時における脊柱回旋角度の評価. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会 (徳島). 2024.10.5-10.6.
17. 緒方嵩人, 高林知也, 遠間悠貴, 菊元孝則, 久保雅義. 上肢挙上運動に伴う上部・中部・下部胸椎伸展角度の変化. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (横浜). 2025.1.25-1.26.
18. 西口ほのか, 高林知也, 菊元孝則, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンが膝蓋大腿関節ストレスに与える影響. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (横浜). 2025.1.25-1.26.
19. 佐藤慎之助, 高林知也, 菊元孝則, 久保雅義. 捕手における捕球前のステップ動作の有無が捕球からボールリリースまでの動作時間に与える影響. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (横浜).

2025.1.25-1.26.

20. 遠間悠貴, 菊元孝則, 緒方嵩人, 高林知也, 久保雅義. 競泳スタートにおける上下部体幹・骨盤角度と入水角度の関連. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会(横浜). 2025.1.25-1.26.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 足の構造と機能研究会(理事), 日本スポーツ理学療法学会(機関紙編集委員), 日本スポーツ理学療法学会(スポーツ理学療法学編集部会), 日本スポーツ理学療法学会(学術庶務委員), 日本スポーツ理学療法学会(情報戦略・IR委員), 日本基礎理学療法学会(超音波画像診断装置使用に関する検討委員), 全国大学理学療法学会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本足の外科学会, 新潟スポーツ理学療法研究会, 新潟県理学療法士会

2) 学術集会の主催

1. 第5回足の構造と機能研究会学術集会, 学術委員, 札幌, 2024.6.1-6.2.
2. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 実行委員, 新潟, 2024.11.16-11.17.

3) 学会等でのその他の活動

1. Journal of Biomechanics (ID: BM-D-24-00204), 査読
2. Gait & Posture, 査読
3. Nature Communications Medicine, 査読
4. Foot, 査読
5. Journal of Biomechanics (ID: BM-D-24-00550), 査読
6. Journal of Biomechanics (ID: BM-D-24-00575), 査読
7. Knee, 査読
8. European Journal of Applied Physiology, 査読
9. Journal of Biomechanics (ID: BM-D-24-00998), 査読
10. Journal of Biomechanics (ID: BM-D-24-01197), 査読
11. Sensor, 査読
12. Scientific Reports, 査読
13. Physical Therapy in Sports, 査読
14. Advance Biomedical Engineering, 査読

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. スポラボセミナー, ランニング中の足部内バイオメカニクスーランニング障害UPDATEー, 講師, スポラボ, 理学療法士, Web, 2024.4.3.
2. 研修会, 足のバイメカニクス, 講師, AR-Ex尾山台整形外科, 理学療法士, 東京, 2024.10.18.
3. 新潟東ブロック研修会, 第2回症例検討会, 運営委員, 新潟県士会, PT, 新潟, 2024.7.21.
4. 新潟東ブロック研修会, 第2回症例検討会, 座長, 新潟県士会, PT, 新潟, 2024.7.21.
5. 動作分析実習セミナー中級編ー筋張力と筋パワーで解析する, 計測者・解析データ提供, テラバイト株式会社, PT, 新潟, 2024.11.18.
6. 新潟東ブロック研修会, 後期研修E領域別研修・症例・事例共有会, 運営委員, 新潟県士会, PT, 新潟, 2024.11.9.
7. 新潟東ブロック研修会, 後期研修E領域別研修・症例・事例共有会, 座長, 新潟県士会, PT, 新潟, 2024.11.9.
8. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 座長, 新潟, 2024.11.16-11.17.
9. 同窓会オンラインミーティング, 脳卒中患者の歩行, 司会, 新潟医療福祉大学同窓会, 理学療法士, Web, 2024.6.3.
10. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー, 講座講座3_足部とランニング障害の関係性について, 講師, 市民, 新潟市(オンライン), 2024.4.1-2025.3.31.

11. 新潟東ブロック研修会, 管理者・指導者研修会, 運営委員, 新潟, 2024.8.31.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 日本スポーツ療法学会, 2024年度情報戦略・IR調査報告書, 作成者, 2025.2.12.
- 3) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員
岡田整形外科倫理審査委員会(外部審査委員)
- 4) 職能団体(協会, 士会等)の委員
新潟県士会東ブロック(事務局委員), 全国大学理学療法学会(選挙管理委員会委員長)
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2023, 科研費基盤研究C, 情報を用いた筋骨格有限要素モデルによる扁平足のタイプ別での骨・軟部組織負荷, 研究代表者
 2. 2023, 科研費基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 研究分担者
 3. 2021, 科研費基盤研究C, 扁平足のタイプ別に基づく足部ランニング障害の発生機序と治療法の解明, 研究分担者
 4. 2022, 科研費基盤研究C, 大規模調査による慢性足関節不安定症のタイプ分類と再発リスク因子の解明, 研究分担者
 5. 2023, 科研費国際共同研究加速基金, 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究分担者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟リハビリテーション病院(非常勤勤務), 理学療法士, 2016.6-(現在)
 2. 二王子とっさか(非常勤勤務), 理学療法士, 2019.1-(現在)
- 7 学内委員会活動 図書館・学習支援センター運営委員会(部会長), 運動機能医科学研究所(所員)

氏名: 宮口 翔太

- 1 研究題目 経頭蓋電流刺激法が運動学習に与える効果に関する研究
- 2 論文
 1. Yamamoto S, Miyaguchi S, Ogawa T, Inukai Y, Otsuru N, Onishi H. Effects of transcranial alternating current stimulation to the supplementary motor area on motor learning. *Frontiers in behavioral neuroscience*. 2024. Vol.18. 1-9. (査読あり) (筆頭論文: 1人目, 二人目の著者が共に筆頭著者の論文です)
 2. Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, Kamii Y, Takahashi H, Miyaguchi S, Otsuru N, Onishi H. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. *Behavioural Brain Research*. 2024. Vol.475. 1-9. (査読あり)
- 3 報告書
 1. 宮口翔太. 基盤研究C, 補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトー脱却戦略, 研究成果報告書, 2024-2026, 研究代表者
- 4 学会等研究発表
 1. 山本峻平, 宮口翔太, 横田裕丈, 犬飼康人, 大鶴直史, 大西秀明. 経皮的迷走神経刺激がノルアドレナリン濃度と反応抑制機能に与える影響. (2024) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会.
 2. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 大野健, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における片脚立位バランスの左右差と小脳の灰白質容積との関連 Voxel based morphometry (VBM) を用いた全脳解析による検討. (2024) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会.
 3. 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一側下肢短期的バランストレーニング後の Cross-Education 効果. (2024) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会.
 4. 江尻絢音, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. ス

ラックラインを用いた一側下肢のバランストレーニングが対側下肢のバランス機能に与える影響。
(2024) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会。

5. 犬飼康人, 宮口翔太, 仲村萌, 高橋ひろな, 小野優翔, 大鶴直史, 大西秀明. 小脳に対する経頭蓋直流電流刺激が片脚立位バランスとバランストレーニング効果に与える影響。(2024) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会。
6. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 大野健, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における閉眼片脚立位時間と灰白質容積との関連Voxel-based morphometry (VBM) を用いた全脳解析による検討。(2024) 第54回日本臨床神経生理学会学術大会。
7. 石井瞳, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 小趾球部への高頻度反復感覚刺激が片脚立位バランスに与える影響。(2024) 第54回日本臨床神経生理学会学術大会。
8. 小杉航大, 犬飼康人, 小野優翔, 高橋ひろな, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への陽極経頭蓋直流電流刺激がバランストレーニング効果に与える影響。(2024) 第54回日本臨床神経生理学会学術大会。
9. 菊地太陽, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 母趾への高頻度反復感覚刺激が片脚立位バランスに与える影響。(2024) 第54回日本臨床神経生理学会学術大会。
10. 武田真桜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 足底への連続的反復電気刺激が片脚立位時のバランス制御に与える効果。(2024) 第54回日本臨床神経生理学会学術大会。
11. 川上紗輝, 犬飼康人, 五十嵐眸実, 渡邊拓, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 小脳に対する経頭蓋直流電流刺激と経頭蓋ランダムノイズ刺激は小脳と一次運動野の経路に異なる作用をもたらす。(2024) 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム。
12. 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一側下肢のバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証。(2024) 第30回新潟県理学療法学会学術大会。
13. 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. スラックラインを用いたバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証。(2024) 第24回新潟医療福祉学会学術集会。
14. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 脳構造画像解析に基づく脳領域への経頭蓋直流電流刺激が閉眼片脚立位バランスに与える影響。(2024) 第24回新潟医療福祉学会学術集会。
15. 川上紗輝, 犬飼康人, 五十嵐眸実, 神居寧, 高橋ひろな, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 小脳への経頭蓋ランダムノイズ刺激が小脳抑制・運動学習・瞳孔径に及ぼす影響。(2024) 第30回脳機能とリハビリテーション研究会。

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士学会, 日本基礎理学療法士学会, 日本臨床神経生理学会, 日本理学療法教育学会 (庶務)

6 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県理学療法士会, 前期研修A初期研修 (理学療法における情報管理), 講師, 新潟市, 2024.5.26.
2. 新潟県理学療法士会, 理学療法講習会第二回領域別研修会 (運動器), 運営委員 (会場係), 新潟市, 2024.10.12-10.13.

2) 職能団体 (協会, 士会等) の委員

新潟県理学療法士会 (学術部員), 日本理学療法士協会 認定・専門理学療法士制度委員会 (班員)

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度、基盤研究C、補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトール脱却戦略、研究代表者

8 学内委員会活動 高等教育推進センター運営委員会（部会長）、運動機能医科学研究所、SHAINプロジェクト（基礎的研究メンバー）

氏名：長坂 和明

1 研究題目 脳卒中後の可塑性に関するシステムの理解、モノアミンによる感覚と運動の修飾作用の解明

2 論文

1. Nagasaka K, Higo N. Brain activity changes after high/low frequency stimulation in a nonhuman primate model of central post-stroke pain. Scientific Reports. 2024; 16527. (review)
2. Ikarashi H, Otsuru N, Takahashi S, Nagasaka K, Hara M, Onishi H. Influence of Alexithymia Severity in the Healthy Population on the Susceptibility to False Interoceptive Feedback. Frontiers in Psychology. 2024; 15, 1442138. (review)
3. Suzuki T, Nagasaka K, Otsuki T, Otsuru N, Onishi H. Tonic electrical stimulation of the locus coeruleus enhances cortical sensory-evoked responses via noradrenaline $\alpha 1$ and β receptors. European Journal of Neuroscience. 2025; 61: e70020. (review)

3 学会等研究発表

1. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 石井大典, 大鶴直史, 大西秀明. Improving in vivo autofluorescence imaging in rat brain with skull transparency, Neuro2024（福岡）, 2024.7.24-7.27.
2. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 大鶴直史, 大西秀明. Voltage-sensitive dye imaging of rat frontal neuronal activity evoked by stimulation of the retrosplenial cortex, Neuro2024（福岡）, 2024.7.24-7.27.
3. 長坂和明, 兵頭道大, 坂東大豪, 鈴木孝昇, 大西秀明, 肥後範行, 梶原利一, 高島一郎. In-vivo and ex-vivo optical imaging of somatosensory cortical activity in rat model of central pain following thalamus lesion, Neuro2024（福岡）, 2024.7.24-7.27.
4. Nagasaka K, Higo N. Different somatosensory brain activity after high and low frequency rTMS in non-human primate model of central post-stroke pain, The Federation of European Neuroscience Societies 2024(Vienna), 2024.6.25-6.29.
5. Otsuru N, Kojima S, Ikarashi H, Inoue S, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Excitatory-Inhibitory Balance Assessed by Aperiodic Component and Its Correlation with Paired-Pulse Inhibition in the Primary Somatosensory Cortex: An MEG study, The Federation of European Neuroscience Societies 2024(Vienna), 2024.6.25-6.29.
6. 長坂和明, 吉田佳笑, 小川有生人, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への皮質内微小電気刺激による内因性神経応答の空間的特徴, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会（千葉）, 2024.11.30.
7. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 膜電位イメージングによる脳梁膨大後部皮質と前頭前野領域の機能的結合の解明, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会（千葉）, 2024.11.30.
8. 渡辺佳音, 長坂和明, 安達航希, 長尾彩音, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 扁桃体の事前損傷が視床出血後の疼痛行動に与える影響, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会（千葉）, 2024.11.30.
9. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性イメージングによる脳卒中後疼痛発症後の脳活動変化の解明, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会（千葉）,

2024.11.30.

10. 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 小川有生人, 鈴木孝昇, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の賦活化が体性感覚刺激誘発性の一次体性感覚野応答に及ぼす影響, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会(千葉), 2024.11.30.
11. 石山寛大, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 視床出血による体性感覚障害モデルラットの確立, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会(千葉), 2024.11.30.
12. 中島雄太, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳卒中後疼痛ラットにおける島皮質のフラビン蛍光イメージング, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会(千葉), 2024.11.30.
13. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 広視野脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症メカニズムの解明, 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟), 2024.10.26.
14. 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質とラット後肢刺激によって生じる前頭葉活動の解明—膜電位感受性色素を用いたイメージング—, 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟), 2024.10.26.
15. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性信号イメージングによる脳卒中後疼痛モデル動物の脳活動変化, 第46回日本疼痛学会(東京), 2024.11.16-11.17.
16. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Nagasaka K, Iimuro K, Onishi H. Modulation of pain perception variability through tDCS stimulation of the left DLPFC, 6th International Brain Stimulation Conference(兵庫), 2025.2.23-2.26.
17. Iimuro K, Otsuru N, Hirata A, Ikarashi H, Inoue S, Kakuta S, Nagasaka K, Shirozu H, Iimuro K, Onishi H. Modulation of cortical oscillations by transcranial temporal interference stimulation (tTIS) targeting the primary somatosensory cortex, 6th International Brain Stimulation Conference(兵庫), 2025.2.23-2.26.
18. 小島翔, 長坂和明, 齊藤慧, 近藤優樹, 田邊かこ, 櫻井典子, 児玉直樹, 大西秀明. 手指を用いた両手交互運動の課題成績と灰白質容積との関連-脳構造画像解析手法を用いた検討-, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
19. 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症のメカニズム解明, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
20. 長尾彩音, 長坂和明, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質と前頭葉における機能解剖の解明—膜電位感受性色素を用いた光イメージングによる検証—, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
21. 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 鈴木孝昇, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の一過性の興奮によって生じる一次体性感覚野神経活動の光イメージング, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
22. 鈴木孝昇, 長坂和明, 大槻智史, 長尾彩音, 大鶴直史, 大西秀明. 青斑核への持続的な電気刺激によって生じる体性感覚活動の上昇にはノルアドレナリン受容体が必須である, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
23. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関与する心理特性, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京), 2024.10.12-10.13.
24. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖条件付けによる皮質活動の変化, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.
25. 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期のストレスと成人期における安静時皮質活動の関連, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.
26. 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明.

一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.

27. 杵淵佑花, 大鶴直史, 原正之, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. バーチャルリアリティにおける手の色が痛み閾値に及ぼす影響, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.
28. 佐久美貴江, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛み知覚の揺らぎと痛みに対する心理特性の関係, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.
29. 谷黒葉菜, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. Interoceptive sensibilityと関連する皮質活動の検討, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.
30. 竹内さくら, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛みに対する破局的思考と関連する皮質活動の検討, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.
31. 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における閉眼片脚立位時間と灰白質容積との関連-Voxel-based morphometry (VBM)を用いた全脳解析による検討-, 第54回日本臨床神経生理学会学術大会(北海道), 2024.10.24-10.26.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会, 新潟県理学療法士会, 脳機能とリハビリテーション研究会(理事), 日本基礎理学療法学会, 日本疼痛学会, 日本生理学会, 日本神経科学学会, 全国大学理学療法教育学会(庶務)
- 2) 学術集会の主催
 1. 脳機能とリハビリテーション研究会, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 実行委員長, 千葉, 2024.11.30.
 2. 脳機能とリハビリテーション研究会, 第31回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 準備委員長, 千葉, 開催日 2025.12.6・2024.12.1-2025.3.31.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. 脳機能とリハビリテーション研究会, 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 演題査読
 2. 日本基礎理学療法学会, 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
 3. Clinical Interventions in Aging, 論文査読
 4. Physical Therapy Research, 論文査読
 5. Scientific Reports, 論文査読
 6. 日本神経理学療法学会, 戦略的課題解決委員会, 「中枢性疼痛」班員
 7. 理学療法学, 学術部査読委員
 8. 神経理学療法学, 査読委員
 9. Journal of Rehabilitation Neurosciences, Editor

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 第1259回臨床実習指導者講習会, 実行委員長(統括), 一般社団法人全国リハビリテーション学校協会, 公益社団法人日本理学療法士協会, 理学療法士および作業療法士, 新潟市, 2024.8.22-8.23.

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2023年度, 基盤研究B, 脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活動バイオマーカーの確立と新たな治療戦略の創出, 研究代表者
 2. 2024年度, 挑戦的研究萌芽, 異所性神経回路の理解と制御による脳卒中後疼痛メカニズム解明への挑戦, 研究代表者
 3. 2021年度, 触圧覚刺激に対する皮質応答および個人差の解明と脳卒中リハビリテーションへの展開, 研究分担者
 4. 2024年度, 運動記憶を忘却する神経基盤の解明-忘却が誘う運動学習イノベーション-, 研究分担者

5. 2024年度, 低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明, 研究分担者

7 学内委員会活動 高等教育推進センター委員会, 運動機能医科学研究所 (研究員)

氏名: 佐宗 亜衣子

- 1 研究題目 古人骨の口腔内古病理・健康指標にに関する研究, 遺跡出土人骨群の形態学的研究, 理化学分析と連携した人骨による墓制研究
- 2 著書
 1. 佐宗亜衣子, 久保大輔, 水嶋崇一郎, 諏訪元; 設楽博己編. 人骨と共伴遺物 第1項 大洞貝塚人骨の収集史と同定および記載の方法, 第2項 標本内容. 岩手県大船渡市大洞貝塚出土遺物の研究. 東京大学総合研究博物館研究報告 第50号; 2025: pp.201-211.
 2. 佐宗亜衣子. 遺物と埋葬の特徴 第5節 人骨と埋葬 第1項 人骨のまとめ, 第2項 抜歯について, 第3項 甕棺葬の人骨について. 岩手県大船渡市大洞貝塚出土遺物の研究. 東京大学総合研究博物館研究報告 第50号; 2025: 262-263.
 3. 米田穰, 尾寄大真, 大森貴之, 佐宗亜衣子. 人骨の炭素・窒素安定同位体比と放射線炭素年代. 岩手県大船渡市大洞貝塚出土遺物の研究. 東京大学総合研究博物館研究報告 第50号; 2025: 263-268.
- 3 論文
 1. 諏訪元, 佐宗亜衣子, 佐々木智彦, 中村凱, 遠藤秀紀, 松浦秀治. 「牛川人骨」の部位・動物種別の特定と学史略考. *Anthropological Science (Japanese Series)*. 2024; 132(2): 71-85. (査読あり)
 2. 永野沙音, 萩原康雄, 波多野悠夏, 佐伯史子, 佐宗亜衣子, 澤田純明, 辰巳晃司, 平慶子, 奈良貴史. 長谷小路周辺遺跡から出土した古代幼小児人骨. 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書ー由比ガ浜三丁目199番地37, 42地点ー. 神奈川, 齋藤建設. 2024; 35-47.
- 4 報告書
 1. 佐宗亜衣子, 米田穰, 水嶋崇一郎, 水野文月, 青野友哉. 基盤研究 (B), 縄文家族論の新展開: 廃屋墓出土人骨群の血縁関係と埋葬過程の解明, 研究成果報告書, 2020-2023, 研究代表者
- 5 学会等研究発表
 1. Saso A, Yoshida A, Nara T. Social class differences in the estimated stature and proportions of people in the Edo period. APPW2025 (Anatomy-Physiology-Pharmacology Week in 2025) (Chiba), 2025.3.17-3.19.
 2. 佐宗亜衣子. 三浦半島の毘沙門C・D洞穴人骨の埋葬状況. 第78回日本人類学会大会 (大阪市), 2024.10.12-10.14.
 3. 佐宗亜衣子, 水嶋崇一郎, 水野文月. 廃屋墓の多個性埋葬例から考える縄文時代の“家族”. 第78回日本人類学会大会 (大阪市), 2024.10.12-10.14. 【シンポジウム】
 4. 栗山佑基, 水野文月, 中伊津美, 澤浦亮平, 坂上和弘, 金澤英作, 米元史織, 舟橋京子, 瀬口典子, 片桐千亜紀, 佐宗亜衣子, 奈良貴史, 松下真実, 松下孝幸, 山田孝, 林美千子, 黒崎久仁彦, 植田信太郎, 大橋順. 歯石を用いた古代日本における歯周病関連菌の系統解析. 日本DNA多型学会 第33回学術集会 (横浜市), 2024.11.28-11.29.
 5. 栗山佑基, 水野文月, 中伊津美, 澤浦亮平, 坂上和弘, 金澤英作, 米元史織, 舟橋京子, 瀬口典子, 片桐千亜紀, 佐宗亜衣子, 奈良貴史, 松下真実, 松下孝幸, 山田孝, 林美千子, 黒崎久仁彦, 植田信太郎, 大橋順. 古代日本におけるヒト口腔内細菌叢の解析. 第78回日本人類学会大会 (大阪市), 2024.10.12-10.14.
 6. 加藤雅彦, 水野文月, 中伊津美, 谷口康浩, 近藤修, 松下真実, 松下孝幸, 佐宗亜衣子, 林美千子, 王瀝, 石谷孔司, 黒崎久仁彦, 植田信太郎, 大橋順. 縄文人の遺伝的多様性の検討. 第78回日本人類学会大会 (大阪市), 2024.10.12-10.14.
- 6 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会（理事，会計監査），日本人類学会（評議委員），American Association of Biological Anthropologists，日本解剖学会，日本考古学協会，日本古病理学研究会

2) 学術集会の主催

1. 日本考古学協会，新潟大会，大会事務局員，新潟市，2025.10.25-10.26・2024.3-

3) 学会等でのその他の活動

1. Niigata Journal of Health and Welfare，編集委員

2. Anatomical Science International，査読

3. Niigata Journal of Health and Welfare，査読

4. 総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター，三浦半島における先史時代人類の生業活動と古環境」プロジェクト，昆沙門洞穴人骨の調査，三浦市，2024.7-2025.3.

7 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 上野遺跡一般公開，運営，新潟県教育委員会・自然人類学研究所，一般市民・考古学関係者，新潟医療福祉大学，2024.6.2.

2. 骨学セミナー，運営，自然人類学研究所，一般市民，新潟医療福祉大学，2024.8.19-8.23.

3. 骨学セミナー，講師，性別判定と年齢推定，自然人類学研究所，一般市民，新潟医療福祉大学，2024.8.19-8.23.

4. 自然人類学研究所一般公開，運営，自然人類学研究所，一般市民，新潟医療福祉大学，2024.11.2.

5. 第8回Miuraサイエンスカフェ「三浦で暮らした先史・古代のヒトはどんな人？」，講師，三浦の海食洞穴に埋葬された人々ー人骨から何がわかるのか？ー，白石洞穴遺跡調査団・横須賀考古学会，一般市民，うらり（三浦市），2025.3.8.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. Web記事，毎日新聞，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

2. Web記事，DIME，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

3. Web記事，BEST TIMES，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

4. Web記事，STORY web，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

5. Web記事，イザ！，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

6. Web記事，暮しニスタ，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

7. Web記事，ジョルダンニュース，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

8. Web記事，30min，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

9. Web記事，BtoBプラットフォーム，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

10. Web記事，CLASSY，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

11. Web記事，eltha，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

12. Web記事，ORICONNEWS，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

13. Web記事，BIGLOBEニュース，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

14. Web記事，時事ドットコム，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

15. Web記事，とれまがニュース，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

16. Web記事，ニコニコニュース，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

17. Web記事，nifty，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.

18. Web記事，エキサイトニュース，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，

2024.12.1.

19. Web記事, mapion, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 20. Web記事, Number Web 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 21. Web記事, FNNプライムオンライン, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 22. Web記事, おたくま経済新聞, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 23. Web記事, Infoseekニュース, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 24. Web記事, ウレぴあ総研, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 25. Web記事, 花形文化通信, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 26. Web記事, livedoor ニュース, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 27. Web記事, めざましmedia, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 28. Web記事, 総務の森, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 29. Web記事, おたくま経済新聞, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 30. Web記事, 財経新聞, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 31. Web記事, 東洋経済education, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 32. Web記事, 産経ニュース, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 33. Web記事, TBS NEWS1G, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 34. Web記事, 現代ビジネス, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 35. Web記事, andGIRL, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 36. Web記事, mamagirl, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 37. Web記事, PRESIDENTOnline, 日本最古の「牛川人」はヒトではなかった可能性, 2024.12.1.
 38. Web記事, CREA, 日本最古の「牛川人」はヒトではなかった可能性, 2024.12.1.
 39. Web記事, 東洋経済オンライン, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 40. Web記事, JBpress, 日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論, 2024.12.1.
 41. Web記事, Forbes JAPAN, 日本最古の「牛川人」はヒトではなかった可能性, 2024.12.3.
 42. Web記事, 大学ジャーナルオンライン, 更新世化石の牛川人骨はクマの骨 新潟医療福祉大学など特定, 2024.12.4.
 43. 新聞, 朝日新聞, 日本最古の「牛川人」, 実はクマの骨だった 東大などの研究グループ, 2024.12.7. (全国版)
 44. Web記事, BuzzFeed Japan, 【牛川人】日本最古の「人骨」は人類ではなかった。その正体とは？ (研究結果), 2024.12.9.
 45. 新聞, 新潟日報, 一時は国内最古の化石人骨…「牛川人骨」はクマの骨だった！新潟医療福祉大の佐宗亜衣子助教らのグループが発表, 2024.12.29.
 46. 雑誌, 朝日新聞出版ジュニアエラ, 日本最古の「牛川人」, 実はクマの骨だった, 2月号
 47. 新聞, 朝日新聞, 幻の骨ひょっこり, 旧石器人探究に光？ 研究室の段ボールから「夜見ヶ浜人骨」鑑定へ, 2025.2.17. (全国版)
- 3) 社会活動への参加協力
1. 公益法人福島県文化振興財団, 川俣町前田遺跡人骨の整理作業に関する指導・助言, 福島市, 2024.4.1-2025.3.31

2. 奥松島縄文歴史資料館, 里浜貝塚出土人骨の現状調査, 東松島市, 2024.4.1-2025.3.31.
3. 神奈川県立歴史博物館, 三浦半島海蝕洞穴出土人骨の資料整理, 横浜市, 2024.4.1-2025.3.31.
4. 東京大学総合研究博物館, 人骨の整備および資料報告出版に関する助言, 文京区, 2024.4.1-2025.3.31.

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024, 基盤研究（A）, 骨考古学とDNA分析から読み解く「縄文村1000年間のファミリーツリー」, 佐宗亜衣子, 研究代表者
2. 2024, 挑戦的研究（萌芽）, 実証的研究で明らかにする江戸の歯科学, 佐宗亜衣子, 研究代表者
3. 2024, 学術変革（A）公募研究, 三浦半島海食洞穴出土人骨の骨考古学的研究から明らかにする関東弥生時代の社会構造, 佐宗亜衣子, 研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 慶應義塾大学通信教育学部, 人類学, 2024.10.6-2025.1.17.
2. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校看護学科, 解剖生理学I・II, 2024.4.1-9.30.
3. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校歯科衛生学科, 解剖・生理学, 2024.4.1-9.30.
4. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校歯科衛生学科, 国試対策（解剖生理学）, 2025.1.25.

9 学内委員会活動 学術委員会, 英文誌編集委員, 自然人類学研究所, ハラスメント委員

氏名：石垣 智恒

1 研究題目 腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響, 投球障害の予防とリハビリテーション

2 論文

1. Ishigaki T, Ishida T, Ino T, Okunuki T, Yokoyama H, Edama M. Relationship between compressive stiffness and tensile stiffness in the human Achilles tendon in vivo. *Journal of Bodywork and Movement Therapies*. 2025; 42: 1073-1078
2. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. *Journal of Athletic Training*. in press
3. Sakamoto K, Edama M, Hirai T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between insertions of the tibialis anterior and peroneus longus and first tarsometatarsal joint degeneration. *BMC Musculoskeletal Disorders*. 2025; 26(1)
4. Ishigaki T, Kurisuga Y, Sato R, Furuto I, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Hirabayashi R, Yokota H, Okochi T, Sakamoto K, Edama M. Changes in glenohumeral range of motion by repetitive pitching and their relationship with arm speed during pitching. *Sports Biomechanics*. 2025; 19: 1-13
5. Okouchi T, Hirabayashi R, Sugai N, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Impact of Visual Kinesthetic Illusions on Reciprocal Inhibition and Motor Function. *Applied Sciences*. 2024; 14(24)
6. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. *Orthopaedic Journal of Sports Medicine*. 2024; 12(11)
7. Okouchi T, Hirabayashi R, Nakashima S, Abe A, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Edama M. Supraspinal Activation Induced by Visual Kinesthetic Illusion Modulates Spinal Excitability.

Healthcare. 2024; 12(17)

8. Ishigaki T, Furuto I, Sato R, Kurisuga Y, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Yokota H, Hirabayashi R, Okochi T, Sakamoto K, Edama M. Examining the changes in strength and mechanical property of dynamic stabilizers of the medial elbow joint through repetitive pitching. Journal of Shoulder and Elbow Surgery. 2024; 34(3): 672-679
9. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between joint structure of the first tarsometatarsal joint and its degeneration. Scientific Reports. 2024; 14(1)
10. Edama M, Tanaka Y, Shirai T, Takano Y, Sakamoto K, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Ishigaki T, Akuzawa H, Sekine C, Sato N. Dynamics of the suprapatellar bursa during knee joint extension. Surgical and Radiologic Anatomy. 2024; 46(9): 1387-1392

3 学会等研究発表

1. 石垣智恒, 石田知也, 井野拓実, 奥貫拓実, 横山寛子, 江玉睦明. アキレス腱の compressive stiffness の部位差とその tensile stiffness との関係. 第5回足の構造と機能研究会学術集会 (北海道・日本), 2024.6.1-6.2.
2. 石垣智恒, 石田知也, 井野拓実, 奥貫拓実, 横山寛子, 江玉睦明. 異なる筋間での筋発揮率の関連性および腱力学的特性が筋発揮率におよぼす影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京都・日本), 2024.10.12-10.13.
3. 石垣智恒, 阿久澤弘, 関根千恵, 横田裕丈, 平林怜, 坂本航大, 小宮諒, 江玉睦明, 大森豪. 反復投球による内側肘関節動的安定化機構の発揮筋力および力学的特性の変化. 第34回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟・日本), 2024.11.16-11.17.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本理学療法士協会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本基礎理学療法学会, 日本スポーツ理学療法学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 準備委員, 演題企画部門, 札幌 (北海道) 2025.11.29-11.30・2024.12.1・現在
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. Journal of Athletic Training, 査読
 2. Journal of Bodywork and Movement Therapies, 査読
 3. Scandinavian Journal of Medicine and Science in Sports, 査読
 4. Qeios, 査読
 5. Sports Science for Health, 査読
 6. BMC Musculoskeletal Disorders, 査読
 7. BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation, 査読
 8. PM&R, 査読
 9. スポーツ理学療法学, 査読
 10. 学会投稿演題の査読 (第29回日本基礎理学療法学会学術大会)

5 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023年, 若手研究, 腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響, 研究代表者
 2. 2023年, 国際共同研究加速基金, 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究分担者
 3. 2023年, 基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 研究分担者

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

赤十字ベシックライフサポーター (2024.10.20), 赤十字救急法救急員 (2024.10.27)

3) 学外兼務講師等

1. 新潟柔整専門学校, リハビリテーション医学, 1年間

6 学内委員会活動 広報委員会, アスリートサポート研究センター, 運動機能医科学研究所

氏名 : 太田 大樹

1 研究題目 骨格筋新規侵害受容器の形態分布の解析, 遅発性筋痛における機械受容チャネルの関与

2 論文

1. Yamamoto Y, Wakatsuki K, Yasui M, Ota H, Mizumura K, Taguchi T. Spinal nociceptive hypersensitivity induced by intramuscular capsaicin in rats subjected to multiple continuous stress. Neuroscience Research. 2025; 213: 51-59. (review)

3 学会等研究発表

1. Ota H, Katanosaka K, Taguchi T. Transcriptional profiling in muscle and crural fascia of delayed onset muscle soreness. 第47回日本神経科学学会大会 (福岡), 2024.7.
2. Ota H, Katanosaka K, Taguchi T. Differentially expressed genes detected in the rat crural fascia after lengthening contractions using RNA-sequence analysis. 第22回アジアオセアニア筋学センター学術集会・第10回日本筋学会大会 合同学術大会 (AOMC-JMS 2024), 2024.9.
3. Taguchi T, Ota H. Neuromuscular blockade attenuates cramp-like muscle contraction induced by an infusion of hypertonic saline in rats. 第22回アジアオセアニア筋学センター学術集会・第10回日本筋学会大会 合同学術大会 (AOMC-JMS 2024), 2024.9.
4. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. 複合持続ストレス誘発性筋痛覚過敏: 免疫組織化学を用いた実証. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
5. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. しかめっ面スケールを用いたストレス誘発性疼痛モデルラットにおける筋痛覚過敏の定量化. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
6. 田口徹, 太田大樹. 高張食塩水投与により惹起される局所誘発筋電図の容量依存性. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
7. 田口徹, 太田大樹. 局所痙攣様筋収縮に対するニコチン性アセチルコリン受容体拮抗薬の抑制効果. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
8. 田口徹, 太田大樹. カブサイシン投与による誘発筋電図の電気生理学的記録. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
9. 二神真紘, 太田大樹, 田口徹. 遅発性筋痛モデルラットの下腿筋膜における神経成長因子の発現定量. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
10. 太田大樹, 田口徹. 伸張性収縮を負荷したラットの下腿筋膜ではAnkrd1 mRNAの発現が増大する. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
11. 太田大樹, 田口徹. 筋および筋膜で発現する遺伝子の違い: 網羅的遺伝子解析による比較. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
12. 太田大樹, 田口徹. 伸張性収縮後の筋内における遺伝子発現パターンの部位差. 第24回新潟医療福祉学会学術大会 (新潟), 2024.10.
13. 太田大樹, 片野坂公明, 田口徹. 伸張性収縮後の筋膜で新たに検出された遺伝子とその機能. 第29回日本基礎理学療法学術大会 (東京), 2024.10.
14. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. 複合持続ストレス誘発性疼痛モデルラットにおける筋痛覚過敏の脊髄機構. 第29回日本基礎理学療法学術大会 (東京), 2024.10.
15. 太田大樹, 植田愛美, 赤木淳二, 田口徹. 高張食塩水の筋内投与による筋痙攣モデルラット作製の試み. 第46回日本疼痛学会 (東京), 2024.11.

16. 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. ストレス誘発性疼痛モデルにおける筋侵害刺激による脊髄後角ニューロンの興奮性増大. 第46回日本疼痛学会(東京), 2024.11.
 17. 田口徹, 明博瑛, 野原菜々子, 野村成美, 太田大樹. ヒト鼓膜への定量的圧刺激により生じる感覚の特徴とその性差. 第46回日本疼痛学会(東京), 2024.11.
 18. Ota H, Taguchi T. Hypertonic saline-induced cramp-like muscle contractions are mediated via acetylcholine receptors at the neuromuscular junction in rats. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会(APPW2025)(千葉), 2025.3.
 19. Taguchi T, Yamamoto R, Ota H. Muscular hyperalgesia in rats exposed to multiple continuous stress. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会(APPW2025)(千葉), 2025.3.
 20. Sakamoto K, Edama M, Taguchi T, Ota H, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Komiya R, Sato N. Innervation of the human crural fascia in Thiel embalmed cadavers. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会(APPW2025)(千葉), 2025.3.
- 4 学会活動
- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本筋学会, 国際疼痛学会, 日本理学療法士協会, 日本疼痛学会, 日本神経科学会, 日本生理学会, 日本体力医学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第29回日本基礎理学療法学術大会, 演題査読, 2024.8.
- 5 社会活動
- 1) 職能団体(協会, 士会等)の委員
 - 全国大学理学療法学教育学会(経理課)
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 科研費基盤研究(C), 遅発性筋痛の筋膜における発現変動因子の同定と機械痛覚過敏への関与解明, 研究代表者
 2. 2024年度, 科研費基盤研究(B), 筋/筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明, 研究分担者
- 7 学内委員会活動 入試委員会, 動物実験委員会, 運動機能医科学研究所

氏名: 田宮 創

- 1 研究題目 糖尿病性腎症の重症化予防に益する研究, 座位行動の有害性を解明する基礎研究, ヒトの微小循環及び微小血管機能に関する基礎研究
- 2 著書
 1. 田宮創. Medical Science Digest. 第50巻13号. ニューサイエンス社. 2024: 38-39.
 2. 椿淳裕, 田宮創, 森下慎一郎, 小島将. 心臓リハビリテーション. 第30巻2号. 2024: 233-236.
 3. 田宮創. 日本腎臓リハビリテーション学会誌. 4(1). 2025: 56-65.
- 3 論文
 1. Takamizawa R, Hotta K, Fujii Y, Ikegami R, Hitosugi N, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A. Transcapillary PO₂ Gradients in Contracting Muscles of Type I Diabetic Rats. Microcirculation. 2024 Aug; 31(6): e12870. (review)
 2. Tamiya H, Kawashiri H, Miyamoto T, Tsubaki A. Acute Effects of Skeletal Muscle Electrical Stimulation on Central and Lower Extremity Hemodynamics. Cureus Journal of Medical Science. 2024 Jun 23; 16(6): e62988. (review)
 3. Furuya T, Kitahama S, Yamashiro D, Hinakura K, Tamiya H, Ogawa S, Tamura Y, Takahashi T, Yasu T, Suzuki H. Differences Between Brachial-Ankle Pulse Wave Velocity and Lower Leg Circumference

Ratio in Patients With and Without Type 2 Diabetes Mellitus. Cureus Journal of Medical Science. 2024 Aug 14; 16(8): e66902. (review)

4. Tamiya H, Hotta K, Hoshiai M, Kurosawa Y, Hamaoka T, Tsubaki A. Leg fidgeting alleviates reduced oxygen extraction in the gastrocnemius muscle caused by prolonged sitting: a randomized crossover trial. Eur J Appl Physiol. 2025 Feb; 125(2): 469-481. (review)
5. Tsubaki A, Kojima H, Tamiya H, Hayao K, Sato T, Imai R, Samejima S, Iwata K, Morishita S. Thigh cuff release-induced repeated acute hypotension and cerebral oxygenation recovery. Biophotonics in Exercise Science, Sports Medicine, Health Monitoring Technologies, and Wearables VI. 2025 Mar: 12. (review)

4 学会等研究発表

1. 田宮創, 齋藤優花, 岡田明寿美, 長澤朋枝, 堀田一樹, 星合愛, 椿淳裕: 長時間の座位は腓腹筋の酸素抽出を障害するが, 下腿運動を行うことで防ぐことができる, 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.7.15-7.16, 神戸
2. 川尻陽菜, 田宮創, 吉野琢朗, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 椿淳裕: ベルト式神経筋電気刺激が健常若年男性における微小血管機能に与える影響, 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.7.15-7.16, 神戸
3. 川尻陽菜, 田宮創, 吉野琢朗, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 椿淳裕: ベルト型骨格筋電気刺激が全身及び局所血管の血行動態に与える即時効果, 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 会期: 2024.11.23-11.24, 仙台
4. 長澤朋枝, 齋藤優花, 田宮創, 椿淳裕: スタティックストレッチングにおける伸張時間と反復回数の違いが膝窩動脈の血行動態に与える即時効果, 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 会期: 2024.11.23-11.24, 仙台
5. 田宮創: 骨格筋微小循環の特性と理学療法への応用～ヒトを対象とする基礎研究からの知見～, 第8回日本循環器理学療法学会学術集会, 2024.11.23-11.24, 仙台, 【シンポジウム】
6. 田宮創, 黒澤裕子, 浜岡隆文, 椿淳裕: 3時間座位中の下腿運動は腓腹筋の酸素取り込み量の低下を抑制する, 第30回医用近赤外線分光法研究会, 2024.9.28-9.29, 秋田
7. 川尻陽菜, 田宮創, 吉野琢朗, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 椿淳裕: ベルト型骨格筋電気刺激が腓腹筋の微小血管機能に与える即時効果, 第30回医用近赤外線分光法研究会, 2024.9.28-9.29, 秋田
8. 吉野琢朗, 田宮創, 川尻陽菜, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬: 下肢血流制限 下のインターバル運動が外側広筋の酸素取り込み勾配に与える即時効果, 第30回医用近赤外線研究会, 2024.9.28-9.29, 秋田
9. 塩谷拓馬, 斎藤真太郎, 吉野琢朗, 川尻陽菜, 田宮創, 椿淳裕: 中強度サイクリング運動が急性の血圧低下に対する前頭前野の脳酸素化動態に与える影響, 第30回医用近赤外線研究会, 2024.9.28-9.29, 秋田
10. 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 吉野琢朗, 川尻陽菜, 田宮創, 椿淳裕: 中強度サイクリング運動が急性の血圧低下に対する脳酸素化動態に与える影響, 第30回医用近赤外線研究会, 2024.9.28-9.29, 秋田

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本老年療法学会(評議員), 日本糖尿病理学療法学会(評議員), 新潟心臓リハビリテーション研究会(世話人), 日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会(世話人), 日本微小循環学会, 日本腎臓リハビリテーション学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本体力医学会, 新潟医療福祉学会, ISOTT
- 2) 学術集会の主催
 1. 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会, 学術大会の企画・運営, 準備委員, 新潟市, 開催日: 2024.9.7-9.8, 活動期間: 2022.4.1-2024.9.8.
 2. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第6回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会, 学術大会の企画・運営, 準備委員長, 新潟市, 開催日: 2025.9.27-9.28, 活動期間: 2024.10.1-現在まで.

3. 第12回日本糖尿病病理学療法学会学術大会，学術大会の企画・運営，副大会長，宇都宮，開催日：2026.10.3-10.4. 活動期間：2024.12.1-現在まで.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本糖尿病病理学療法学会，ガイドラインの作成及び学会の運営，ガイドライン作成委員，2022.4.1-現在まで.
2. 日本老年療学会，学会の運営・広報・ニュースレターの作成，広報委員，2022.4.1-現在まで.
3. 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会，学術大会の企画・運営，準備委員，新潟市，開催日：2024.9.7-9.8. 活動期間：2022.4.1-2024.9.8.
4. 新潟内部障害リサーチミーティング研究会，教育講演の企画，企画運営委員，2022.4.1-現在まで.
5. 腎臓病運動療法・身体活動ネットワーク研究会，研修会企画，研修会企画班班長，2022.4.1-現在まで.
6. 日本糖尿病病理学療法学会，査読委員，2021.4.1-現在まで.
7. Cureus Journal of Medical Science 誌，reviewer，2023.2.1-現在まで.
8. 新潟心臓リハビリテーション研究会，世話人・教育講義担当，2022.2.1-現在まで.
9. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第6回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会，学術大会の企画・運営，準備委員長，新潟市，開催日：2025.9.27-9.28. 活動期間：2024.10.1-現在まで.
10. 第12回日本糖尿病病理学療法学会学術大会，学術大会の企画・運営，副大会長，宇都宮，開催日：2026.10.3-10.4. 活動期間：2024.12.1-現在まで.
11. 日本糖尿病病理学療法学会，学術・研究活動の推進，研究推進委員会，2024.8.15-現在まで.
12. 日本糖尿病病理学療法学会，渉外活動，渉外部会委員会（足病変・腎臓病対策推進担当），2024.8.15-現在まで.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県心臓リハビリテーションクラウドファンディング事業，教育講演，「心臓リハビリテーション各論」，主催者：新潟大学新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学分野，対象者：医療従事者，Web開催，2024.6.11.
2. 慢性腎臓病患者に対する透析予防のための運動指導の取り組み，教育講演，「慢性腎臓病の透析予防指導管理における理学療法士の活躍推進に向けた動画コンテンツ」，主催者：公益社団法人日本理学療法士協会，対象者：理学療法士，オンデマンド配信，2024.5.29.
3. 日本糖尿病病理学療法学会 令和6年度研究支援セミナー「基礎編」，教育講演，「方法序論（サンプルサイズの設定，信頼性，妥当性，効果量）」，主催者：日本糖尿病病理学療法学会，対象者：理学療法士，Web開催，2025.1.12.

2) 社会活動への参加協力

1. 第10回日本糖尿病病理学療法学会学術大会，演題査読，2024.6.22.
2. Cureus Journal of Medical Science 誌，論文査読2件，2024.4.15，4.28.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本老年療学会（評議員・広報委員），日本糖尿病病理学療法学会（評議員・ガイドライン作成委員・研究推進委員・渉外部会委員），新潟県心臓リハビリテーション研究会（世話人），日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会（世話人），日本呼吸理学療法学会（第10回日本呼吸理学療法学会学術大会準備委員），腎臓病運動療法・身体活動ネットワーク研究会（研修会企画班班長），新潟内部障害リサーチミーティング研究会（企画運営委員），第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第6回合同研究会 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会（準備委員長），第12回日本糖尿病病理学療法学会学術集会（副大会長・準備委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度, 科研費若手研究, ベルト式骨格筋電気刺激を用いた革新的な毛細血管保護戦略の開発, 研究代表者
2. 2024年度, 基盤研究B, 低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明, 研究分担者
- 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
若手奨励賞, 第5回合同研究会 第30回医用近赤外線分光法研究会 第28回酸素ダイナミクス研究会 (2024.9.29)
- 8 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員, 運動機能医科学研究所, 連携基礎ゼミ実行部会員, 保健福祉連携科目実行部会員

氏名：小宮 諒

- 1 研究題目 足部構造と機能に関する研究, パラスポーツの障害予防とパフォーマンス向上に関する研究
- 2 著書
 1. 小宮諒. 理学療法ジャーナル. 58巻7号: 医学書院; 2024: 808-812.
 2. 浦辺幸夫, 小宮諒; 武藤芳照, 内尾祐司, 稲垣克記, 高橋敏明, 吉井智晴, 大工谷新一 編. 理学療法士のための学校における運動器疾患・障害予防教育マニュアル-認定スクールトレーナーの活動の手引き-. 南江堂; 2024: 208-212.
- 3 論文
 1. Kuroda S, Maeda N, Komiya M, Tashiro T, Yoshimi M, Mizuta R, Ishida A, Urabe Y. Acute effects of running 10km on the medial longitudinal arch height: dynamic evaluation using a three-dimensional motion capture system during gait. Eur J Hum Mov. 2024; 52. (査読あり)
 2. Ishihara H, Maeda N, Komiya M, Tashiro T, Tsutsumi S, Arima S, Kawai M, Tamura Y, Ikuta Y, Urabe Y. The vertical mobility of the first tarsometatarsal joint during demi-plié with forced turnout in ballet dancers. Sci Rep. 2024; 14: 15321. (査読あり)
 3. Kawai M, Maeda N, Gao F, Kobayashi T, Tsutsumi S, Ishihara H, Watanabe T, Komiya M, Tashiro T, Urabe Y. Effect of ball positions on trunk, hip, knee, and ankle joint kinematics and kinetics during a spike jump in volleyball. Gait and Posture. 2024; 113: 419-426. (査読あり)
 4. Tsutsumi S, Maeda N, Engebretsen, A.H., Kamatsuki Y, Nagano Y, Kuroda S, Ishida A, Tamura Y, Tashiro T, Kaneda K, Arima S, Yoshimi M, Komiya M, Urabe Y. The validity and reliability of a Japanese version of the web-based hamstring outcome score. Sci Rep. 2024; 14: 24001. (査読あり)
 5. Nagao T, Maeda N, Komiya M, Tashiro T, Arima S, Kaneda K, Oda S, Urabe Y. The acute effect of throwing training with virtual reality on bocchia competitive performance in healthy adults. J Phys Ther Sci. 2024; 36(1): 662-666. (査読あり)
 6. Kaneda K, Maeda N, Fukui K, Tashiro T, Komiya M, Urabe Y. Impact of the simultaneous distribution of e-learning and exercise videos on the health literacy and lifestyle of college students during the COVID-19 pandemic: A randomized controlled trial. J Phys Ther Sci. 2024; 36(1): 703-710. (査読あり)
 7. Kaneda K, Maeda N, Nagao T, Ishida A, Tashiro T, Komiya M, Urabe Y. Exploring the impact of sports participation on social capital and health-related factors in people with spinal cord injury: A cross-sectional study. Physical Therapy Research. 2024; 27(3): 128-135. (査読あり)
 8. Tamura Y, Maeda N, Komiya M, Iwamoto Y, Tashiro T, Arima S, Tsutsumi S, Mizuta R, Urabe Y. Muscle synergy of the periarticularis shoulder muscles during a wheelchair propulsion motion for wheelchair basketball. Appl Sci. 2024; 14(20): 9292. (査読あり)
 9. Onoue S, Maeda N, Ikuta Y, Tashiro T, Arima S, Ishihara H, Ishida A, Brand A, Nakasa T, Adachi N, Tsutsumi S, Komiya M, Yukio Urabe. Comparison of the distance between the talus and lateral

malleolus during the stance phase with and without chronic ankle instability. Sci Rep. 2024; 14: 27055. (査読あり)

10. Kaneda K, Maeda N, Nagao T, Ishida A, Tashiro T, Tsutsumi S, Arima S, Komiya M, Urabe Y. Health-related Outcomes of Different Levels of Physical Activity among Individuals with Spinal Cord Injuries: An Exploratory Cross-sectional Study. The Journal of Spinal Cord Medicine. 2025; 1-7. (査読あり)
11. Okouchi T, Hirabayashi R, Sugai N, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Impact of Visual Kinesthetic Illusions on Reciprocal Inhibition and Motor Function. Appl Sci. 2024; 14(24): 11725. (査読あり)
12. Komiya M, Maeda N, Ishihara H, Ishida A, Esaki H, Arima S, Nishikawa Y, Urabe Y. Association between changes in intrinsic foot muscle swelling and improvements in navicular drop height after toe flexor exercises. Isokinetics and Exercise Science. 2025. (査読あり)
13. Sakamoto K, Hirai T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Toriumi T, Kageyama I, Edama M. Relationship between insertions of the tibialis anterior and peroneus longus and first tarsometatarsal joint degeneration. BMC Musculoskeletal Disorders. 2025; 26(1). (査読あり)
14. Oda S, Maeda N, Tashiro T, Mizuta R, Komiya M, Arima S, Nagasawa T, Naito K, Urabe Y. Effect of sleep quality on the severity of perimenstrual symptoms in Japanese female students: A cross-sectional, online survey. BMJ Open. 2025; 15(2): e09319. (査読あり)
15. Abekura T, Maeda N, Arima S, Yoshimi M, Tsutsumi S, Tamura Y, Kaizuka R, Komiya M, Tashiro T, Urabe Y. Investigation of archery experience on shoulder girdle motion and acromioclavicular distance at full draw: A pilot study. The Journal of Back and Musculoskeletal Rehabilitation. 2025. (査読あり)
16. 水田良実, 前田慶明, 田城翼, 河井美樹, 小田さくら, 石田礼乃, 小宮諒, 浦辺幸夫. 月経周期ごとの遠位脛腓間距離と動的バランスの変動について: 縦断的観察研究. スポーツ理学療法学. 2025; 3(1): 41-47. (査読あり)
17. 高上凌弥, 前田慶明, 小宮諒, 田城翼, 有馬知志, 小田さくら, 長尾拓海, 吉荒瑠莉奈, 浦辺幸夫. 国内 electronic sports 選手の傷害に関する調査. スポーツ理学療法学. 2025; 3(1): 59-65. (査読あり)

4 学会等研究発表

1. 小宮諒, 前田慶明, 石原萌香, 石田礼乃, 江玉睦明, 横田裕丈, 浦辺幸夫. 足部形態の違いと足趾把持運動後に生じる足部内在筋の筋腫脹の関係. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (横浜), 2025.1.25-1.26.
2. 小宮諒, 前田慶明, 田村佑樹, 石田礼乃, 江玉睦明, 平林怜, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 阿久澤弘, 浦辺幸夫, 大森豪. 片側慢性足関節不安定症 (CAI) 者のCAI側と非CAI側での足部・足関節周囲筋形態と弾性の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟), 2024.11.16-11.17.
3. 竹下康文, 小宮諒, 松田翔太, 中井雄貴. 深層学習を用いた前足部内外転の判別における有用性の検討. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (横浜), 2025.1.25-1.26.
4. 石田礼乃, 前田慶明, 尾上仁志, 田城翼, 有馬知志, 小宮諒, 水田良実, 石原萌香, 浦辺幸夫. 前方片脚ドロップジャンプ着地動作時の距骨・外果間距離の動的評価. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (横浜), 2025.1.25-1.26.
5. 笹代純平, 清水怜有, 深見和矢, 小宮諒, 篠原博, 前田慶明, 浦辺幸夫, 中嶋耕平. 車いすバスケットボール選手に対するVRを用いた眼球運動評価. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟), 2024.11.16-11.17.
6. 佐藤来夢, 石垣智恒, 繰菅陽介, 古戸一星, 木村玲奈, 平林怜, 横田裕丈, 関根千恵, 小宮諒, 阿久澤弘, 大河内偉琉, 坂本航大, 江玉睦明. 反復投球動作が棘上筋腱および上腕二頭筋長頭腱の形態ならびに肩関節可動域におよぼす急性効果. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会 (横浜), 2025.1.25-1.26.
7. 佐藤亜美, 横田裕丈, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明, 大森豪. 大学陸上競技選手における足部形態評価とその特徴の検討. 第35回日本臨床スポー

ツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.

8. 横田裕丈，小川ほのか，山波克彰，木村玲奈，小林弘人，坂本航大，平林怜，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明，大森豪. アスリートとノンアスリートにおける音楽ビデオゲーム中の集中状態と自律神経活動との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.
9. 佐藤亜美，横田裕丈，山波克彰，木村玲奈，小林弘人，平林怜，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，坂本航大，江玉睦明，大森豪. 経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が上肢リーチ動作の反応時間に及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.
10. 平林怜，横田祐丈，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，坂本航大，大河内偉琉，須貝菜央，江玉睦明. 咬合が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.
11. 大河内偉琉，平林怜，須貝菜央，横田裕丈，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，坂本航大，江玉睦明. 異なる収縮強度での等尺性収縮がIb抑制に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.
12. 須貝菜央，平林怜，大河内偉琉，横田祐丈，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，坂本航大，江玉睦明. 咬合力が左右均衡なほど咬合による全身反応が向上した. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.
13. 石垣智恒，阿久澤弘，関根千恵，横田裕丈，平林怜，坂本航大，小宮諒，江玉睦明，大森豪. 反復投球による肘関節動的安定化機構の発揮筋力および力学的特性の変化. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.
14. 関根千恵，江玉睦明，中野祐太，松永直人，平林怜，横田裕丈，石垣智恒，小宮諒，阿久澤弘，大森豪. 腰痛既往の有無によるバッティング動作継続時の筋シナジーの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟），2024.11.16-11.17.
15. 大河内偉琉，平林怜，須貝菜央，山本峻平，横田裕丈，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明. 関節運動の視覚的運動錯覚が脊髄相反性抑制に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会（佐賀），2024.9.2-9.4.
16. 落合優花，平林怜，大河内偉琉，須貝菜央，宗村李実，横田裕丈，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明. 末梢性疲労後の局所振動刺激介入が疲労回復を促進させた. 第78回日本体力医学会大会（佐賀），2024.9.2-9.4.
17. 横田裕丈，杉本柚華，山波克彰，木村玲奈，小林弘人，佐藤来夢，須貝菜央，大河内偉琉，坂本航大，平林怜，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，阿久澤弘，江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激（taVNS）が月経周期に伴う自律神経活動変化に及ぼす影響と不安状態との関連. 第10回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会（神奈川），2024.10.19-10.20.
18. 横田裕丈，阿久澤弘，山波克彰，木村玲奈，小林弘人，平林怜，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，佐藤来夢，須貝菜央，大河内偉琉，坂本航大，江玉睦明. 第12回日本骨格系徒手理学療法研究会学術大会（神奈川），2024.11.23-11.24.
19. 宗村李実，平林怜，大河内偉琉，須貝菜央，落合優花，横田裕丈，関根千恵，石垣智恒，小宮諒，江玉睦明. 振動錯覚と運動イメージが脊髄機能に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会（佐賀），2024.9.2-9.4.
20. 石原萌香，前田慶明，小宮諒，田城翼，有馬知志，生田祥也，中佐智幸，安達伸生，浦辺幸夫. 足部内在筋の筋断面積測定および運動効果の検証における超音波画像診断装置の活用（パネルディスカッション）. 第49回日本足の外科学会学術集会（東京），2024.11.7-11.8.
21. Nagao T, Maeda N, Komiya M, Tsubasa T, Arima S, Kaneda K, Oda S, Urabe Y. Does boccia throwing training with virtual reality acutely enhance technical and psychological skills?. World Physiotherapy Asia Western Pacific region (Indonesia) 2024. 2024.9.26-9.28.

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本理学療法士協会，日本リハビリテーション医学会，日本スポーツ整形外科学会，日本膝関節学会，日本老年療学会，日本パラスポーツトレーナー学会，日本義肢装具学会，

国際義肢装具協会，日本アスレティックトレーニング学会，日本臨床スポーツ医学会，スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会

2) 学術集会の主催

1. 第35回日本臨床スポーツ医学会，実行委員，新潟，2024.11.16-11.17.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本理学療法学会連合 編集委員会 査読委員
2. 日本運動器理学療法学会「運動器理学療法学」査読委員
3. 日本スポーツ理学療法学会「スポーツ理学療法学」査読委員
4. 日本老年療法学会 学術大会委員
5. 日本義肢装具学会 認定制度委員
6. 日本スポーツ理学療法学会 総務委員
7. 日本スポーツ理学療法学会 情報戦略・IR委員
8. 理学療法学，査読，2024.4.
9. 理学療法学，査読，2024.8.
10. 理学療法学，査読，2025.3.
11. 日本老年療法学会誌，査読，2024.8.
12. 日本老年療法学会誌，査読，2025.3.
13. 運動器理学療法学，査読，2024.5.
14. 運動器理学療法学，査読，2025.3.
15. スポーツ理学療法学，査読，2025.3.
16. Physical Therapy Research，査読，2025.1.
17. International Journal of Sports Medicine，査読，2025.3.
18. Sport Health，査読，2024.9.

6 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 日本パラ陸上競技連盟 クラス分け委員会，2024年度 クラス分け委員 スキルアップセミナー，運営委員・事務局，web，2025.3.29.
2. 女子サッカー部，2024年度北信越女子サッカーリーグ，メディカルサポート，2024.10.5，10.6.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟（クラス分け委員会）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，若手研究，足関節捻挫の治療に足部内在筋のトレーニングは役立つか，研究代表者
2. 2024年度，石本記念デサントスポーツ科学振興財団，Deep Learningを用いた画像解析による足部セルフチェックシステムの開発，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

日本パラスポーツ協会公認パラスポーツトレーナー（認定日：2024.4.1）

3) 学外兼務講師等

1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター非常勤勤務（スポーツ外来），2024.7-2025.3.

8 学内委員会活動 アスリートサポート研究センター（研究員），運動機能医科学研究所（研究員），教務委員会

氏名：早尾 啓志

- 1 研究題目 ヒトの筋力トレーニング・筋損傷予防に関する研究，動物を対象とした筋損傷予防に関する研究，内部障害患者を対象とした臨床研究

2 学会等研究発表

1. 菊地潤美, 早尾啓志, 訪問リハビリテーションでの運動療法と身体活動のモニタリングにより腰部痛増悪予防並びに身体活動量改善がみられた一症例, 第8回日本予防理学療法学会 サテライト集会 (福島), 2024.6.1.
2. 高松怜美, 早尾啓志, 鈴木咲季, 佐藤圭祐, 折内英則, 武田彩. 悪性胸膜中皮腫の集学的治療において呼吸機能に着目し, セルフエクササイズを導入した症例, 第42回東北理学療法学会 (青森), 2024.9.7-9.8.
3. 高松怜美, 早尾啓志, 鈴木咲季, 佐藤圭祐, 武田彩. 肺高血圧症を合併した気腫合併肺線維症に対する重点的なADL練習で自立した生活の継続が可能となった症例, 第23回福島県理学療法士会学術集会 (福島), 2024.10.14.
4. Tsubaki A, Kojima H, Tamiya H, Hayao K, Sato T, Imai R, Samejima S, Iwata K, Morishita S. Thigh cuff release-induced repeated acute hypotension and cerebral oxygenation recovery, SPIE Photonics West 2025 (USA), 2025.1.20-1.22.
5. 大森恵利華, 高橋朋弥, 高原夏葵, 小林壮太, 岩田健太郎, 田宮創, 早尾啓志, 椿淳裕. 健常高齢者を対象とした, 歩行課題, 認知課題, 二重課題中の前頭前野の脳酸素化動態の比較, 第26回日本光脳機能イメージング学会学術集会 (東京), 2025.3.1.
6. 橋本明日翔, 塩谷拓馬, 斎藤真太郎, 今野溪, 大森恵利華, 田宮創, 早尾啓志, 椿淳裕. 急性の血圧低下に対する左右前頭前野の酸素化ヘモグロビン変動に中強度サイクリング運動が与える影響, 第26回日本光脳機能イメージング学会学術集会 (東京), 2025.3.1.
7. 今野溪, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 橋本明日翔, 大森恵利華, 田宮創, 早尾啓志, 椿淳裕. 中強度サイクリング運動が急性の血圧低下に対する酸素化ヘモグロビン変動に与える影響, 第26回日本光脳機能イメージング学会学術集会 (東京), 2025.3.1.

3 学会活動

- 1) 所属学会 European College of Sport Science, 日本基礎理学療法学会, 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会, 日本体力医学会, 新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 日本呼吸理学療法学会, 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会, 運営参加・講師対応, 新潟市, 2024.9.7-9.8.
2. 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第6回合同研究会, 第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会, 準備委員, 新潟市, 2024.9.30-現在

3) 学会等でのその他の活動

1. 「東北理学療法学 36巻, 2024」の査読
2. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 査読
3. 第42回東北理学療法学会学術大会, 査読

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 県委託事業 新潟県フレイル克服プロジェクト 佐渡トキめき会, 身体機能計測・健康運動指導, 佐渡市民, 佐渡市, 2024.6.29-6.30.
2. 総合南東北病院, 症例報告のすすめ方, 講師, 総合南東北病院 リハビリテーション科, 理学療法士・作業療法士, 郡山市, 2024.9.25.
3. 老年学・健康長寿研究ネットワーク, 後援: 村上市, 健康・体力調査, 村上市民, 村上市, 2024.10.26-10.27.
4. 県委託事業 新潟県フレイル克服プロジェクト 佐渡トキめき会, 身体機能計測・健康運動指導, 佐渡市民, 佐渡市, 2024.12.13-12.15.

2) 社会活動への参加協力

1. 第115回 新潟県理学療法士会研修会，研修会「がん理学療法の基礎と実際」，研修会の準備と運営，新潟市・看護リハビリ新潟保健医療専門学校，2024.6.9.
2. 新潟県理学療法士協会総会，定時総会，総会の準備と運営，新潟市・看護リハビリ新潟保健医療専門学校，2024.6.9.
- 3) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県理学療法士協会（学術委員），東北理学療法学会（編集委員），日本がん・リンパ浮腫理学療法学会（診療報酬エビデンス構築に資するワーキンググループメンバー）
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年，科研費，研究活動スタート支援，研究代表者
- 6 学内委員会活動 運動機能医科学研究所，広報委員会，高大医連携推進委員会

氏名：小曽根 海知

- 1 研究題目 関節リウマチモデルマウスにおける運動療法の効果検証，腱骨付着部症の発症機序解明
- 2 論文
 1. Minegishi Y, Ozone K, Oka Y, Kano T, Murata K, Kanemura N. Effect of repeated sciatic nerve crush on the conditioning lesion response: Generating an experimental animal model to prolong the denervation period while maintaining peripheral nerve continuity. *Neuroscience letters*. 2024; 836: 137879（査読あり）
 2. Ozone K, Kumagai T, Arakawa K, Sugasawa T, Wenchao Gu, Kawabata S, Shimada N, Takahashi H, Yoneno M, Minegishi Y, Oka Y, Kanemura N. Effectiveness of Low-intensity Exercise Intervention in Preventing Active Arthritis Exacerbation in an SKG Mouse Model of Rheumatoid Arthritis. *Journal of Orthopaedic Research*. 2025; 43(5): 949-961（査読あり）
- 3 報告書
 1. 小曽根海知. 科学研究費若手研究，関節リウマチに対する適切な運動療法の確立に向けた基礎研究，2024年度研究成果報告書，研究代表者
- 4 学会等研究発表
 1. 小曽根海知，熊谷竜徳，島田直宜，高橋花奈，米野萌恵，荒川航平，高畠啓，佐藤路晃，川端空，峯岸雄基，岡優一郎，金村尚彦. 活動期関節リウマチモデルマウスに対する低負荷運動療法の効果検証—巨視的变化に着目して—. 第12回日本運動器理学療法学会学術大会（横浜，日本），2024.9.14.
 2. 小曽根海知，熊谷竜徳，島田直宜，菅澤威仁，Wenchao Gu，高橋花奈，米野萌恵，荒川航平，高畠啓，佐藤路晃，川端空，峯岸雄基，岡優一郎，金村尚彦. 活動期関節リウマチモデルマウスに対する低強度運動介入は関節炎の増悪抑制効果を有する. 第11回JCRベーシックリサーチカンファレンス（秋葉原，日本），2024.11.15.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会（会員），日本理学療法士協会（会員），Orthopaedic Research Society（Tendon section member），日本運動器理学療法学会（専門会員A），日本基礎理学療法学会（専門会員A），日本筋学会（会員），日本スポーツ整形外科学会（会員），日本膝関節学会（会員），日本リウマチ学会（会員）
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2023年度，科学研究費若手研究，関節リウマチに対する適切な運動療法の確立に向けた基礎研究，研究代表者
 - 2) 受賞，学位取得，資格取得
第12回日本運動器理学療法学会学術大会優秀賞（受賞・2024.9.14）

3) 学外兼務講師等

1. 人間総合科学大学, 理学療法研究法, 2019.12-現在にかけて
2. 医療法人社団ibis こばり坂クリニック, 非常勤勤務, 2024.7-現在にかけて

7 学内委員会活動 遺伝子組換え実験安全委員会, 運動機能医科学研究所

氏名：小林 壮太

- 1 研究題目 リハビリテーションの評価に関する研究, 身体活動に関する研究, リアルワールドデータに関する研究, 老年学に関する研究

2 論文

1. 小林壮太, 金井崇, 金古美恵子. 栄養介入と中高強度レジスタンストレーニングを含む包括的な介入により身体機能, 嚥下機能の改善が認められた脳梗塞・誤嚥性肺炎語の一症例. リハビリテーション栄養. 2024; 8(1): 93-99. (査読あり)
2. Tamura S, Miyata K, Kobayashi S, Takeda R, Iwamoto H. Grading of Balance Function in Subacute Stroke Patients by Using the Berg Balance Scale Together with Latent Rank Theory. Physical Therapy Research (協力学術団体). 2024; 27(2): 76-83. (査読あり)
3. Kaizu Y, Tamura S, Iwamura T, Saito S, Kobayashi S, Takeda R, Iwamoto H, Miyata K. Development and validation of a clinical prediction rule for walking independence in hospitalized older adults with a vertebral compression fracture. Physiotherapy Research International(JCR). 2024; e2117. (review)
4. 小林壮太, 今井卓也, 海津陽一, 宮田一弘. 大腿骨転子部骨折患者における Mini-Balance Evaluation Systems Test of the Keyform を用いたバランス練習の試み：症例報告. 理学療法群馬. 2024; 35: 41-48. (査読あり)
5. 大舘隼, 小林壮太, 甘粕康太, 前川健一郎, 鎌田夏未, 齋藤新貴, 井上達朗. 高齢者の食後低血圧－見逃される低血圧－. 日本老年療学会誌 (協力学術団体). 2024; 3: 1-9. (査読あり)
6. Iwamura T, Iwamoto H, Saito S, Kaizu Y, Tamura S, Takeda R, Kobayashi S, Miyata K. Development of a Clinical Prediction Rule to Determine Walking Independence in Older Adults With Hip Fractures. Cureus Journal of Medical Science(JCR). 2024; 16(10): e72329. (review)
7. Kubo H, Miyata K, Tamura S, Kobayashi S, Nozoe M, Inamoto A, Taguchi A, Kajimoto K, Nishihara S, Yamamoto N, Asai T, Shimada S. External validation and update of minimal important change in the 6-minute walk test in hospitalized patients with subacute stroke. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation(JCR). 2025; 000: 1-7. (review)
8. 笠井紅里, 井上達朗, 小林壮太, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 甘粕康太, 齋藤新貴, 鎌田夏未, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数に影響する. 日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌. 2025; 2(1): 17-23. (査読あり)
9. 竹内睦雄, 木村鷹介, 金居督之, 清水夏生, 久保宏紀, 小林壮太, 吉田啓志, 甲斐匠, 鈴木佳樹, 諸永浩平, 山本晟矢, 久住治彦. 回復期脳卒中者における移動形態と強度別身体活動時間の関連：多施設共同研究. 運動疫学研究 (協力学術団体). 2025 (早期公開). (査読あり)
10. Tamura S, Kamo T, Kobayashi S, Saito H, Igarashi T, Kaizu Y, Miyata K, Kubo H, Ogihara H, Momosaki R. Impact of Post-hospitalization Dysphagia on Dependence in Activities of Daily Living at Discharge in Older Adults with Hip Fracture: A Nationwide Inpatient Database Study. Clinical Nutrition ESPEN(JCR). 2025; 67: 355-361. (review)
11. 小林壮太. 科研費研究活動スタート支援, 報告書, 研究代表者

3 学会等研究発表

1. 小林壮太, 松井静香, 今井卓也, 渡辺真樹. めまいを認めた小脳梗塞後の1症例に対する前庭リハビリテーションの効果：症例報告. 第3回日本前庭理学療法研究会学術集会 (福岡), 2024.6.2.
2. 小林壮太, 木村鷹介, 久保宏紀, 吉田啓志, 鈴木佳樹, 石垣智也, 清水夏生, 金居督之. 亜急性期脳卒中

者の加速度計の測定時間の差異が身体活動量に与える影響. 第22回日本神経理学療法学会学術大会(福岡), 2024.9.28-9.29.

3. 小林壮太, 田村俊太郎, 長谷川智, 宮田一弘, 塩浦宏祐, 臼田滋. 亜急性期脳卒中者における Activities-specific Balance Confidence scale の尺度特性. 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会(千葉), 2024.10.5-10.6.
4. 五十嵐達也, 加茂智彦, 宮田一弘, 田村俊太郎, 小林壮太, 海津陽一, 齋藤拓之, 久保宏紀, 百崎良. フレイルリスクは高齢水頭症患者の術後の日常生活活動に影響する: DPC データベースを用いた傾向スコア解析. 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会(千葉), 2024.10.5-10.6.
5. 田村俊太郎, 齋藤拓之, 小林壮太, 岩本紘樹, 長谷川智, 臼田滋. 亜急性期脳卒中患者における平地歩行獲得時期を予測するノモグラムモデル. 第22回日本神経理学療法学会学術大会(福岡), 2024.9.28-9.29.
6. 竹内睦雄, 木村鷹介, 金居督之, 久保宏紀, 小林壮太, 清水夏生, 吉田啓志, 鈴木佳樹, 山本晟也, 諸永浩平. 回復期脳卒中者における移動形態の違いと身体活動時間および強度の関連: 多施設共同研究. 第22回日本神経理学療法学会学術大会(福岡), 2024.9.28-9.29.
7. 木村鷹介, 甲斐匠, 小林壮太, 久保宏紀, 鈴木佳樹, 竹内睦雄, 田中周, 諸永浩平, 吉田啓志, 吉村友宏, 中村学, 清水夏生, 金居督之. 回復期脳卒中患者における座位boutと日常生活活動能力回復の関連性〜多施設共同前向き観察研究〜. 第26回日本運動疫学会(長野), 2024.6.29-6.30.
8. 今井卓也, 善養寺航耶, 榊原望, 小林壮太, 小林昭博. 亜急性期脳卒中患者における Simple Test for Evaluating Hand Function の最小可検変化量の検討. 第58回日本作業療法士学会(北海道), 2024.11.9-11.10.
9. Imai T, Zenyaji K, Sakakibara N, Kobayashi S, Kobayashi A. The minimal clinically important difference of the Simple Test for Evaluating Hand Function in patients with subacute stroke. The 8th Asia Pasific Occupational Therapy Congress 2024(Hokkaido), 2024.11.6-11.9.
10. 今井卓也, 小林壮太, 金古美恵子. 脳卒中後の上肢麻痺に対する手指外骨格型ロボット機器を用いたアプローチの試み. 第26回群馬県作業療法学会(群馬), 2024.9.1.
11. 松本和彦, 今井卓也, 金井崇, 小林壮太, 金古美恵子. 回復期リハビリテーション病棟における栄養回診の効果検証. 回復期リハビリテーション病棟協会第45会研究大会(北海道), 2025.2.21-2.22.
12. 高橋茂, 長谷川智, 山浦卓哉, 今井卓也, 小林壮太, 金古美恵子. 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の退棟時FIM運動項目点数の予測精度の検証とその傾向分析. 回復期リハビリテーション病棟協会第45会研究大会(北海道), 2025.2.21-2.22.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本物理療法学会, 日本神経理学療法学会, 日本予防理学療法士学会, 日本運動器理学療法学会, 日本リハビリテーション栄養学会, 日本栄養・嚥下理学療法学会, 日本老年療法学会, 日本サルコペニア・フレイル学会, 日本理学療法科学学会, 日本前庭理学療法研究会
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本呼吸理学療法学会, 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会, 運営スタッフ, 新潟市, 2024.9.7-9.8.
 2. 日本サルコペニア・フレイル学会, 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 広報委員, 熊本市, 2024.7- (現在)
 3. 日本光脳機能イメージング学会, 第31回医用近赤外線分光法研究会・第29回酸素ダイナミクス研究会 第6回合同研究会・第27回日本光脳機能イメージング学会学術集会, 新潟市, 2024.10- (現在)
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. BMC getiatrics, 査読, 2024.4.
 2. BMC Musculoskeletal Disorders, 査読, 2024.9.
 3. 地域理学療法学, 査読, 2024.10.
 4. BMC getiatrics, 査読, 2024.11.

5. 地域理学療法学, 査読, 2025.2.
 6. Physiotherapy Theory and Practice, 査読, 2025.1.
 7. Topics in Stroke Rehabilitation, 査読, 2025.3.
- 5 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
 1. むらかみ長寿大学特別健康講座, サルコペニア予防で健康長寿～栄養と運動の大切さ②～, 講師, 村上市教育委員会生涯学習課, 地域在住高齢者, 村上市マナボーテ村上, 2024.9.5.
 2. むらかみ長寿大学特別健康講座, サルコペニア予防で健康長寿～栄養と運動の大切さ①～, 講師, 村上市教育委員会生涯学習課, 地域在住高齢者, 村上市マナボーテ村上, 2025.3.10.
 - 2) 職能団体（協会, 士会等）の委員
公益社団法人日本理学療法士協会
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 科研費研究活動スタート支援, 入院患者に対する臨床評価尺度を用いた新たな身体活動量評価と介入指針の開発, 研究代表者
 2. 2024年度, 健康づくり研究助成「あさを賞」, 脳卒中者における利き手を考慮した上肢活動評価の開発と検証, 研究分担者
 - 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
第14回日本リハビリテーション栄養学会学術大会論文賞（筆頭著者, 2025.1.25）, 第26回日本運動疫学会優秀演題賞（共同演者, 2024.6.29-6.30）, 第22回日本神経理学療法学会学術大会優秀賞（共同演者, 2024.9.28-9.29）, 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会最優秀賞（共同演者, 2024.10.5-10.6）
 - 3) 学外兼務講師等
 1. 新潟リハビリテーション病院（非常勤勤務）, 理学療法士, 2024.6-（現在）
- 7 学内委員会活動 学生委員会（7-9月代理）, 交通安全委員会（7-9月代理）, 運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：星 春輝

- 1 研究題目 ヒトの随意運動と神経活動に関わる神経生理学研究, 非侵襲的刺激を用いた神経可塑性に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. Triple transcranial static magnetic field stimulation system can suppress the neural activity in the lumbar spinal cord. FENS Forum 2024 (Vienna). 2024.6.25-6.30.
 2. Hoshi H, Shibata S, Mima T, Onishi H. The spatial distribution of the magnetic field generated by tSMS over the lumbar spinal cord influences the neuromodulatory effects on the spinal cord. 6th International Brain Stimulation Conference (Kobe). 2025.2.23-2.26.
 3. 星春輝, 芝田純也, 美馬達哉, 大西秀明. 脊髄に対する深部刺激用の静磁場刺激（シン磁場）がH反射に及ぼす効果の検証. 日本基礎理学療法学会 第8回 基礎理学療法学 若手研究者ネットワークシンポジウム（奈良県）. 2024.8.24-8.25.
 4. 星春輝, 芝田純也, 美馬達哉, 大西秀明. 永久磁石を利用した新しい経皮的脊髄刺激がH反射および体性感覚誘発電位（SEP）に与える影響. 第30回 脳機能とリハビリテーション研究会（千葉県）. 2024.11.30.
 5. 星春輝, 芝田純也, 美馬達哉, 大西秀明. 脊髄に対する経皮的静磁場刺激はH反射を選択的に抑制するが体性感覚誘発電位（SEP）は変化させない. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会（北海道）. 2024.10.25-10.26.
 6. Kitatani R, Hoshi H, Sorimachi R, Numata R, Hirano S, Otsuru N, Onishi H. Oscillatory transcranial

direct current stimulation targeting corticoreticular pathway increases common neural drives to thigh muscles during gait. XXIV Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology. Japan. 2024.6.26-6.29.

7. Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation over primary and secondary motor cortex selectively increases common neural drives to distal and proximal lower limb muscles during gait. 6th International Brain Stimulation Conference. 神戸.
8. 北谷亮輔, 平野志織, 反町瑠菜, 沼田莉奈, 星春輝, 大鶴直史, 芝田純也, 大西秀明. 歩行中の一次運動野に対する律動経頭蓋直流電気刺激による筋内・筋間コヒーレンスの変化. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
9. 反町瑠菜, 北谷亮輔, 沼田莉奈, 平野志織, 星春輝, 芝田純也, 大西秀明. 歩行難易度と二重課題が歩行中の下肢筋への神経入力に与える影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
10. 黒崎純暉, 芝田純也, 大西秀明, 星春輝, 美馬達哉. 嚙下と発声を意味する動作語の理解が発声反応に及ぼす影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会. 東京. 2024.10.12-10.13.
11. 黒崎純暉, 芝田純也, 大西秀明, 星春輝, 美馬達哉. 嚙下・発声に関連する動作語理解と発声反応時間の変化. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉. 2024.11.30.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会, 日本臨床神経性理学会, 日本基礎理学療法学会, 日本神経理学療法学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本神経理学療法学会, 学術誌編集委員, 総務
 2. 日本神経理学療法学会学術大会, 査読
 3. 日本基礎理学療法学会学術大会, 査読

4 社会活動

- 1) 社会活動への参加協力
 1. 臨床実習指導者講習会, 講師・ファシリテーター, 新潟医療福祉大学, 理学療法士・作業療法士, 新潟市, 2024.8.22-8.23.

5 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 古川医療福祉設備振興財団助成金, 脊髄の神経活動を調節する非侵襲的刺激法の開発及び痙縮の改善を図る新規治療戦略の創出, 星春輝（代表）
- 2) 学内部活動の実績
 1. 運動機能医科学研究所（研究員）
- 3) 学外兼務講師等
 1. 新潟脳外科病院（非常勤勤務）, 理学療法士, 2022.9-（現在）

氏名：五十嵐 降実

- 1 研究題目 痛みの脳内情報処理に関する研究, 痛み緩和技術の開発
- 2 論文

1. Ikarashi H, Otsuru N, Takahashi S, Nagasaka K, Hara M, Onishi H. Influence of Alexithymia Severity in the Healthy Population on the Susceptibility to False Interoceptive Feedback. *Frontiers in Psychology*. 2024; Vol15 (1442138).
2. Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, Kamii Y, Takahashi H, Miyaguchi S, Otsuru N, Onishi H. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. *Behav Brain Res*. 2024; Vol18 (115209).

3 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関する皮質律動活動の検討. 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム (奈良), 2024.8.24-8.25.
2. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関する心理特性. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
3. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖条件付けによる皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
4. Ikarashi H, Otsuru N, Nagasaka K, Inoue S, Iimuro K, Onishi H. Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Left DLPFC Does Not Affect Conditioned Pain Modulation. 6th International Brain Stimulation Conference (Kobe), 2025.2.23-2.26.

4 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2023年度, 研究活動スタート支援, 脳磁場計測を用いたtACSによる鎮痛効果の事前予測技術の開発, 研究代表者

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

博士 (保健学) (2025.3.19), 学業成績優秀者優秀賞 (2025.3.19)

5 学内委員会活動 運動機能医科学研究所

(2) 作業療法学科

氏名：大山 峰生

- 1 研究題目 手外科のリハビリテーションに関する研究と開発（手外科学），手および手指筋群の機能解析（運動学）
- 2 学会等研究発表
 1. 藤目智博，大山峰生，岡野昭夫，野中信宏，小泉裕昭. Kapandji スコアにおける母指球筋活動の筋活動特性について. 第36回日本ハンドセラピー学会学術集会（奈良市），2024.4.27-4.28.
 2. 小田桐正博，大山峰生，松澤翔太，塩田紀之，土田尚美. 深指屈筋の機能解剖と臨床応用. 第36回日本ハンドセラピー学会学術集会（奈良市），2024.4.27-4.28.
 3. 塩田紀之，大山峰生，小田桐正博，小泉裕昭，森谷浩治. 筋再教育に対するエビデンス構築に向けた基礎研究. 第36回日本ハンドセラピー学会学術集会（奈良市），2024.4.27-4.28.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本ハンドセラピー学会（理事長）（将来計画委員会委員長），日本手外科学会，日本肘関節学会，日本体力医学会，日本生体磁気学会，日本臨床神経生理学学会，日本作業療法士協会，日本保健医療福祉連携教育学会，新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第36回日本ハンドセラピー学会学術集会，海外招待講演座長，奈良，2024.4.27.
 2. 日本ハンドセラピー学会，機関誌査読委員
 3. 日本ハンドセラピー学会，学会査読委員
 4. 日本作業療法士学会，学会査読委員
- 4 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 日本ハンドセラピー学会，応用実践研修会，講演，オンデイマンド，2024.11.6-11.19.
 2. 日本ハンドセラピー学会，応用実践研修会，事例検討講師，オンライン，2024.11.30.
 - 2) 職能団体（協会，士会等）の委員
日本ハンドセラピー学会（理事長），日本ハンドセラピー学会（将来計画委員会委員長），日本ハンドセラピー学会（認定資格審査委員）
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 学外兼務講師等
 1. 福島県立医科大学保健科学部，身体障害作業療法学演習Ⅰ，2023.11.22，11.29.
- 6 学内委員会活動 総務会，教育・学生支援機構（機構長）外部評価準備委員会（委員長），教員選考委員会（委員長），危機管理委員会，将来計画機構

氏名：能村 友紀

- 1 研究題目 認知機能低下抑制に関する研究，生活機能改善に向けた作業療法に関する研究
- 2 論文
 1. Annaka H, Nomura T, Moriyama H. Predictors of 2-Year Mortality in Patients Receiving Long-Term Oxygen Therapy: A Prospective Observational Study. *Journal of Palliative Medicine* 2024; 27(4):495-502. doi: 10.1089/jpm.2023.0505. (review)
 2. Le HT, Honma K, Annaka H, Sun S, Nomura T. Effectiveness of Problem-Solving Therapy in Improving Patient Mental Health, Function, Quality of Life, and Mortality Post-Stroke: A Systematic Review. *Behavioral Sciences*. 2024; 14(6): 446. <https://doi.org/10.3390/bs14060446>. (review)
 3. Annaka H, Nomura T, Hasegawa N. Factors influencing quality of life in extratemporal lobe epilepsy and mesial temporal lobe epilepsy: a cross-sectional study using medical records. *Frontiers in Neurology*. 15:1443903. doi: 10.3389/fneur.2024.1443903. (review)

4. Annaka H, Honma K, Nomura T. A Scoping Review of Factor-Related Cognitive Impairment in Interstitial Lung Disease. *Cureus Journal of medical science*. 2024; 16(8): e67791. doi:10.7759/cureus.67791 (review)
 5. Le HT, Honma K, Annaka H, Sun S, Murakami T, Hiraoka T, Nomura T. Effectiveness of Transcranial Magnetic Stimulation on Executive Function, Attention, and Memory in Stroke Patients: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Cureus Journal of medical science*. 2024; 16(12): e75194. doi:10.7759/cureus.75194. (review)
 6. Annaka H, Hiraoka T, Nomura T. Effects of a Virtual Reality Game With Leap Motion Controller on Brain Activity Related to Attentional Function in Healthy Adults - A Pilot EEG Study. *Cureus Journal of medical science*. 2024; 16(10): e71838. doi:10.7759/cureus.71838. (review)
 7. Sun S, Annaka H, Nomura T. Gamma-frequency transcranial alternating current stimulation over the left posterior parietal cortex enhances the long-term retention of associative memory. *Experimental Brain Research*. 2025; 243(3): 62. doi: 10.1007/s00221-025-07009-8. (review)
- 3 学会等研究発表
1. 安中裕紀, 本間健太, 能村友紀. 間質性肺疾患における認知機能障害の危険因子—スコopingレビュー—. 第9回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部学術集会. 2024.6.22. 長野.
 2. 安中裕紀, 平岡汰門, 能村友紀. Leap Motion Controllerを用いたVirtual Realityゲームが事象関連電位N1に与える影響・脳波計測を用いた予備的研究-. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 2024.10.26. 新潟.
 3. Annaka H, Nomura T, Hasegawa N. Factors related health related quality of life in extratemporal lobe epilepsy and mesial temporal lobe epilepsy. The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 2024.11.6. 札幌.
 4. 安中裕紀, 村上元, 長谷川直哉, 能村友紀. てんかん患者に対するコンピューターを用いた認知トレーニングの普及状況：スコopingレビュー. 第12回全国てんかんセンター協議会総会. 2025.3.22. 金沢.
 5. Shunxiang Sun, Annaka H, Nomura T. Gamma frequency transcranial alternating current stimulation enhances associative memory retention over the left posterior parietal cortex. 6th International Brain Stimulation Conference. Kobe, Japan, 23-26 February 2025.
 6. Ha T. Le, Honma K, Annaka H, Sun Shunxiang, Murakami T, Hiraoka T, Nomura T. Effectiveness of Transcranial Magnetic Stimulation on Executive Function, Attention, and Memory in Stroke Patients A Systematic Review and Meta-Analysis. 6th International Brain Stimulation Conference. Kobe, Japan, 23-26 February 2025.
 7. 第24回新潟医療福祉学会学術集会, シンポジウム「認知症を支える産官学連携と地域連携」, シンポジスト, 新潟市北区, 2024.10.26. 【シンポジウム】
- 4 学会活動
- 1) 所属学会 日本作業療法士協会, 新潟県作業療法士会, 日本公衆衛生学会, 日本認知症予防学会, 日本臨床神経生理学会, NPO法人日本コクランセンター, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第59回日本作業療法学会演題査読, 演題査読委員
- 5 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度新潟市運動普及推進委員研修会, 認知症予防に必要な知識と楽しい脳トレーニング, 講師, 運動普及推進委員, 新潟市東区プラザ, 2024.9.18.
 2. 令和6年度新潟市運動普及推進委員研修会, 認知症予防に必要な知識と楽しい脳トレーニング, 講師, 運動普及推進委員, 新潟市黒崎市民会館, 2024.9.25.
 3. 新潟市秋葉区運動普及推進委員対象講座, 頭も体も元気に！楽しく測定&実践講座, 講師, 運動普及

推進委員，新潟市秋葉区新津健康センター，2025.1.9.

4. 令和6年度 新潟市東区「運推・食推・自主グループ合同研修会」，認知機能低下を防ぐための工夫ー日常生活で脳を活性化しようー，運動普及推進委員・食生活改善推進委員・自主グループ，新潟市東区ホール，2025.3.12.
5. 公益社団法人新潟県作業療法士会研修会，実践報告の書き方セミナー（オンライン講座），2024.10.
6. 第3回新潟国際アニメーション映画祭，医療とアニメーションの世界，シンポジスト，メディアシッ
プ日報ホール，2025.3.15.
7. 新潟市北区社会福祉協議会，認知症カフェ「らく～なカフェ」，認知症に関する理解，講師，
2024.8.30.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞掲載，新潟日報，気らく～な場所に 北区初の認知症カフェ開催，2024.9.10・朝刊（地方版）
2. 新聞掲載，にいがた経済新聞，【作業療法士という仕事を知っていますか？】開志専門職大学の学生が
作業療法士のアニメ製作を開始，職業認知度の向上へ，2024.8.4.（地方版）
3. 新聞掲載，にいがた経済新聞，【作業療法士のアニメプロジェクトが進行中】アフレコで声優の卵たち
が熱演，新潟県の学生たちの力が結集，2024.11.16.（地方版）

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟市西区，老人憩の家指定管理者申請者評価会議，委員，新潟市西区役所，2024.7.29.
2. 新潟市西区，老人憩の家指定管理者申請者評価会議，委員，新潟市西区役所，2024.10.21.
3. 新潟市北区社会福祉協議会，認知症カフェ「らく～なカフェ」，住民に対する個別相談，新潟市北区・
ラゲーナスクエア，2024.8.30.
4. 新潟市北区社会福祉協議会，認知症カフェ「らく～なカフェ」，住民に対する個別相談，新潟市北区・
ラゲーナスクエア，2024.11.29.
5. 新潟市北区社会福祉協議会，認知症カフェ「らく～なカフェ」，住民に対する個別相談，新潟市北区・
ラゲーナスクエア，2025.2.28.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市西区老人憩の家指定管理者審議会（委員）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤（C），経頭蓋交流電気刺激による大脳皮質活動の変調が宣言的記憶学習の促
進に及ぼす影響，研究代表者

7 学内委員会活動 運動機能医科学研究所

氏名：能登 真一

1 研究題目 健康関連QOLの評価方法についての研究，高次脳機能障害についての研究，作業療法のアウトカ
ム研究

2 著書

1. 能登真一，高齢やりハビリテーションのQOL. 下妻晃二郎，鈴鴨よしみ編. QOL・PRO評価指南. ライ
フサイエンス出版. 88-95, 2024.

3 論文

1. Noto S, Sekiyama Y, Nagata R, Yamamoto G, Tamura T. Analysis of Speech Features in Alzheimer's
Disease with Machine Learning: A Case-Control Study. Healthcare. 2024; 12(21): 2194. (review)
2. Murota H, Nakahara T, Noto S, Matsukawa M, Takeda H, Toda R. Quality of Life in Adults with
Atopic Dermatitis in Relation to Disease Severity: Nationwide Data in Japan. Dermatol Ther. 2025;
15(2): 291-305. (review)
3. Nakahara T, Noto S, Matsukawa M, Takeda H, Zhang Y, Kondo T. Cost-Effectiveness Study of

- Difamilast 1% for the Treatment of Atopic Dermatitis in Adult Japanese Patients. *Dermatol Ther.* 2024; 14(11): 3113-3132. (review)
4. Hide M, Kishimoto M, Kotera I, Oh A, Inoue Y, Yamamoto BA, Noto S. Analysis of disease burden in patients with hereditary angioedema from Japan by patient-reported outcomes. *J Dermatol.* 2025; 52(2): 256-269. (review)
 5. Watanabe T, Noto S, Natsumeda M, Kimura S, Ikarashi F, Tabata S, Takano M, Tsukamoto Y, Oishi M. Improvements in activities of daily living among patients with brain tumors are associated with age, baseline physical function, duration of rehabilitation, and tumor recurrence but not type. *Int J Rehabil Res.* 2024; 47(4): 231-237. (review)
 6. Kanejima Y, Izawa P. K, Kitamura M, Ishihara K, Ogura A, Kubo I, Noto S, Nagashima H, Tawa H, Matsumoto D, Shimizu I. Correlation between health literacy and utility-based health-related quality of life scores in patients undergoing cardiac rehabilitation: a multicenter clinical study. *Discover Public Health.* 2024; 21, article number 67. (review)
 7. Noto S, Kieffer A, Arashiro T, Tadera C, Eymere S, Lemański T, Wang X. Cost-effectiveness and public health impact of universal prophylaxis with nirsevimab against respiratory syncytial virus (RSV) infections in all infants in Japan. *Infectious Diseases and Therapy* (in press) (review)
 8. Imagawa N, Izumi S, Shimazaki T, Yamauchi T, Ikeda S, Noto S, Kojima H, Suka M. Evaluating the cost-effectiveness of unilateral cochlear implants versus hearing aids in older adults in Japan. *Otology & Neurotology* (in press) (review)
 9. Watanabe T, Noto S, Natsumeda M, Kimura S, Ikarashi F, Tabata S, Takano M, Tsukamoto Y, Oishi M. Improved health-related quality of life after rehabilitation in patients with brain tumors is not affected by tumor type. *Eur J Phys Rehabil Med.* (in press) (review)
- 4 報告書
1. 能登真一. 科研費萌芽研究. AIソフトを用いた認知症予防のための遠隔リハビリテーション技術の開発. 2021-2023
 2. 能登真一. 令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 政策科学総合研究事業 分析ガイドラインの改定に向けた費用対効果評価における方法論およびツール等の開発に関する研究 分担研究報告書 介護者のQOLを費用対効果評価に含める際の諸問題に関する研究. 2024, 福田敬・能登真一.
- 5 学会等研究発表
1. Noto S, Shimoizuma K, Iwatani T, Suzukamo Y, Sakai M, Moriwaki K. Health state utility values in COVID-19: A vignette utility values in COVID-19. *ISPOR 2024, Atlanta.* 2024.5.7.
 2. Noto S, Onuki K, Kondo T, Yamato K. Effective Outcome Measures for Family Caregivers of Patients With Alzheimer's Disease in Japan: Conducting Factor Analysis Using ASCOT-Carer, ZBI, and EQ-5D-5L. *ISPOR Europe 2024, Barcelona, Spain.* 2024.11.
 3. Noto S, Takumoto Y, Ono F. Health-Related Quality-of-Life (HRQoL) Assessment for Japanese Cognitive Impairment Associated With Schizophrenia (CIAS). *ISPOR Europe 2024, Barcelona, Spain.* 2024.11.
 4. 能登真一, 関山佑一, 永田亮, 山本凱, 田村俊暁. 機械学習のためのアルツハイマー病の音声特徴の分析. 第58回日本作業療法学会. 札幌. 2024.11.9.
 5. 能登真一, 室田浩之, 中原剛士, 松川美幸, 武田裕枝, 戸田力也. アトピー性皮膚炎患者における重症度とQOL及び労働生産性との関連性に関する研究. 第123回日本皮膚科学会. 京都. 2024.5.
 6. 中原剛士, 室田浩之, 能登真一, 松川美幸, 武田裕枝, 戸田力也. アトピー性皮膚炎患者でのステロイド外用薬への不安尺度TOPICOPに関する研究. 第123回日本皮膚科学会. 京都. 2024.5.
 7. 品川俊一郎, 永田智行, 能登真一, 森直紀, 大貫慧介, 山戸健太郎. アルツハイマー型認知症患者の同居介護者に関する介護実態調査. 第43回日本認知症学会. 福島. 2024.11.

8. 品川俊一郎, 永田智行, 能登真一, 森直紀, 大貫慧介, 山戸健太郎. アルツハイマー型認知症患者の行動・心理症状 (BPSD) と介護者負担感・QOL との関連. 第43回日本認知症学会. 福島. 2024.11.
9. 相良空美, 後藤健一, 前田恵, 村田典子, 能登真一, 福田治久. EQ-5D-5Lを用いた主観的健康観と関連疾患の包括的分析 LIFE Study. 第83回日本公衆衛生学会. 札幌. 2024.10.
10. 刈屋喬, 能登真一. 回復期脳卒中患者のリハビリテーションに対する動機づけ自律性が与える影響. 第58回日本作業療法学会. 札幌. 2024.11.
11. 泉良太, 佐野哲也, 能登真一, 大庭健嗣, 宮川英乃. 回復期リハビリテーション病棟におけるナッジの使用状況とQOLとの関係について. 第58回日本作業療法学会. 札幌. 2024.11.
12. 能登真一. リハビリテーション治療のアウトカムとQOL評価. 第61回日本リハビリテーション医学会. 東京. 2024.6. 【教育講演】
13. 能登真一. 作業療法とQOL. 第23回東海北陸作業療法学会. 金沢. 2024.9. 【基調講演】

6 学会活動

- 1) 所属学会 国際医薬経済・アウトカム研究学会 (ISPOR) 日本部会 (前期会長), 日本作業療法士協会 (理事・学術部長), QOL-PRO研究会 (副理事長), 日本神経心理学会, 日本高次脳機能障害学会, 医療経済学会, 日本公衆衛生学会, 作業療法教育研究学会, 医療経済研究機構, 新潟県作業療法士会, 日本衛生学会, 日本医療情報学会, 高次神経障害作業療法研究会, International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research, International Society for Quality of Life Research, 日本生命倫理学会, 日本医療・病院管理学会, 日本脊髄障害医学会, 日本リハビリテーション医学会, 新潟医療福祉学会, 日本保健医療福祉連携教育学会
- 2) 学術集会の主催
 1. QOL-PRO研究会, 第12回QOL-PRO研究会学術集会, 事務局長, 京都, 2024.12.21・2か月
 2. QOL-PRO研究会, 第21回QOL-PRO研究会セミナー, 事務局長, オンライン, 2024.6.15・2か月
 3. QOL-PRO研究会, 第22回QOL-PRO研究会セミナー, 事務局長, 東京, 2024.3.11・2か月
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. ISPOR Health Preference Research Special Interest Group member
 2. ISPOR Patient Preferences Task Force, Reviewer
 3. ISPOR Asia Consortium member
 4. Healthcare, Guest Editor
 5. Value in Health, Reviewer
 6. Value in Health Regional Issue, Reviewer
 7. Quality of Life Research, Reviewer
 8. Journal of Patient-Reported Outcomes, Reviewer
 9. Journal of Affective Disorders, Reviewer
 10. Pharmacoeconomics, Reviewer
 11. BMC Public Health, Reviewer
 12. Asian Journal of Occupational Therapy, Reviewer
 13. Health Science Reports, Reviewer
 14. PLOS ONE, Reviewer
 15. ISPOR Europe 2024 Research Abstract Reviewer
 16. ISPOR 2025 Research Abstract Reviewer
 17. 日本作業療法士協会, 学術誌副編集長
 18. 第58回日本作業療法学会, 査読
 19. Niigata Journal of Health and Welfare, 編集委員
 20. Patient Preference and Adherence, Reviewer
 21. BMC Geriatrics, Reviewer

7 社会活動

1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 毎日新聞. 話し言葉の特性でアルツハイマー病の患者と健康な高齢者の違いが判明, 2025.1.7.

2) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員

厚生労働省・企画提案書審査委員会(委員), 中医協費用対効果評価部会公的分析班(班員)

3) 職能団体(協会, 学会等)の委員

日本作業療法士協会(理事, 学術部長, 研究倫理審査会委員長, 学術評議委員会設置検討委員会委員, 学術誌編集委員会委員, 学術委員会ICF小委員会委員, 学会企画委員会委員, 災害対策本部会議委員)

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2024年度, 科研費基盤研究(B), EQ-HWBのスコアリングアルゴリズムの開発と費用対効果評価への応用の検討, 研究代表者
2. 2022年度, 科研費基盤研究(C), リハビリテーション医療分野におけるナッジの解明; 使用状況と健康関連QOLについて, 研究分担者
3. 2024年度, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 政策科学総合研究事業 分析ガイドラインの改定に向けた費用対効果評価における方法論およびツール等の開発に関する研究, 研究分担者
4. 2024年度, クレコンメディカルアセスメント株式会社 研究寄付金, 研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 立命館大学 総合科学技術研究機構 客員教授

9 学内委員会活動 医療経済・QOL研究センター(センター長)

氏名: 今西 里佳

1 研究題目 要介護高齢者の排尿実態研究(泌尿器科学), 要介護高齢者の蓄尿障害に対する下部尿路リハビリテーション効果検証研究(泌尿器科学, リハビリテーション科学)

2 学会等研究発表

1. 上野愛範, 今西里佳. 在宅要介護高齢者における排尿日誌自己作成の実態(学会賞受賞演題). 第37回日本老年泌尿器科学会, 2025.5.18, 和歌山市
2. 今西里佳. 排便自立支援における作業療法士の役割. 第37回日本老年泌尿器科学会, 2025.5.18, 和歌山市【シンポジウム】
3. 今西里佳, 中島ともみ, 松本香好美. 地域在住高齢者の下部尿路症状に対する健康講話の影響. 第31回日本排尿機能学会, 2025.9.6, 郡山市
4. 今西里佳. JCSへの関わり・よりよい関わり方のための希望(セラピストの立場より). 第31回日本排尿機能学会, 2025.9.6, 郡山市【シンポジウム】
5. 松本香好美, 佐藤雄一郎, 高橋圭三, 今西里佳. シャント発言者はフレイル・サルコペニアと関係があるのか. 第13回新潟市医師会地域医療研究助成発表会, 2025.1.25. 新潟市

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本老年泌尿器科学会(理事), 日本老年泌尿器科学会(評議員), 日本老年泌尿器科学会(教育委員会委員), 日本排尿機能学会(ダイバーシティ推進委員会委員), 日本排尿機能学会(選挙委員会委員), 新潟医療福祉学会, International Continence Society, 日本睡眠学会, 日本作業療法士協会, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 日本転倒予防学会, 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本公衆衛生学会, 日本サルコペニア・フレイル学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第58回日本作業療学会演題査読, 演題査読委員
2. 日本ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会ガイドライン作成事業外部委員
3. 日本老年泌尿器科学会教育事業e-learning「転倒・転落予防を考慮した排泄動作支援とトイレ環境の

工夫～安全に排尿自立を促す～」作成委員

4. 日本老年泌尿器科学会誌，査読委員

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 日本コンチネンス協会主催第8回セラピストのための排泄リハビリテーションWEBセミナー，セラピストによる排泄リハビリテーションの目的，講師，理学療法士・作業療法士，2024.10.5.
2. 日本コンチネンス協会主催第8回セラピストのための排泄リハビリテーションWEBセミナー，下部尿路リハビリテーション，講師，理学療法士・作業療法士，2024.10.5.
3. 日本コンチネンス協会主催第8回セラピストのための排泄リハビリテーションWEBセミナー，排泄環境整備，排泄動作練習のポイント，講師，理学療法士・作業療法士，2024.10.6.
4. ウェルカルチャースクール骨盤底筋教室，適正水分量～生活習慣を見直しましょう～，講師，地域住民，WEB，2024.7.16.
5. ウェルカルチャースクール骨盤底筋教室，適正水分量～生活習慣を見直しましょう～，講師，地域住民，WEB，2024.10.1.
6. ウェルカルチャースクール骨盤底筋教室，適正水分量～生活習慣を見直しましょう～，講師，地域住民，WEB，2023.3.1.
7. 牟呂地域福祉センター自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，豊橋市，2024.4.26.
8. 牟呂地域福祉センター自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，豊橋市，2024.5.10.
9. あいトピア自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，豊橋市，2024.6.7.
10. 蒲郡市事業，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，蒲郡市，2024.6.26.
11. きらく会，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2024.8.9.
12. 健康講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2024.9.11.
13. 大清水地域福祉センター自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2024.9.15.
14. 牟呂地域福祉センター自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2024.10.6.
15. 牟呂地域福祉センター自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2024.11.15.
16. 蒲郡市自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，蒲郡市，2025.2.7.
17. きらく会，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2025.2.14.
18. 健康講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2025.3.12.
19. 大清水地域福祉センター自主事業特別講座，転倒予防のための健康講話～夜のトイレのお悩みこれで解消～，講師，地域住民，新潟市，2025.3.23.
20. 両川元気塾，はじめよう！快眠生活！，講師，地域住民，新潟市，2025.2.20.
21. 群馬県前橋市地域リハビリテーション広域支援事業，研修会『下部尿路症状の評価・アプローチ×転倒・転倒骨折予防』，講師，理学療法士・作業療法士，WEB，2024.10.11.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟市北区社会福祉協議会，認知症カフェ「らく～なカフェ」，実行委員，新潟市北区・ラグーナスクエア，2024.8.30.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本コンチネンス協会（理事），日本コンチネンス協会（教育事業部教育委員），日本コンチネンス協会（セラピストのための排泄リハビリテーションセミナー実行委員長）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度科研費基盤研究（C）地域在住高齢者の排泄改善プログラムの効果検証—介護予防・転倒予防を目指して—，研究代表者
2. 2025年度科研費基盤研究（C）シャント発声者に適したがんりハビリテーションプログラムの新たな構築，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

第37回日本老年泌尿器科学会学会賞受賞（大学院修士課程の修了生と共同受賞・2024.5.18），サルコペニア・フレイル指導士（2024.4.1），呼吸ケア指導士（2024.4.1），睡眠健康指導士初級（2024.8.10），認定排泄ケア専門員（コンチネンスアドバイザー）（2025.3.10）

3) 学外兼務講師等

1. 長野保健医療大学，日常生活活動学Ⅱ，2024.5.13.
2. 群馬大学医学部，作業療法治療学演習講義Ⅲ，2024.12.18.

6 学内委員会活動 高等教育推進センター運営委員会，大学院教務委員会

氏名：圓 純一郎

1 研究題目 ブルーリ潰瘍（*M.ulcerans*感染症）における無痛性病態メカニズムの解明，ハンセン病神経障害への電気刺激による神経筋再生治療と評価システムの開発

2 著書

1. 後藤正道，野上玲子，岡野美子，儀同政一，四津里英，北島信一，山口さやか，阿戸学，宮本友司，高橋健造，圓純一郎（日本ハンセン病学会・治療指針ワーキンググループ）「ハンセン病治療指針（第4版）」日本ハンセン病学会雑誌 2024年 Jpn J Lepr 93, 57-95（2024）分担執筆（第8章，9章担当）

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本ハンセン病学会（理事，事務局長），日本作業療法士協会，新潟県作業療法士会，新潟医療福祉大学学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本医学会：日本医学会分科会 日本ハンセン病学会（日本医学会連絡委員）

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. OT協会 現職者共通研修 実践のための作業療法研究，講師，新潟県作業療法士会，作業療法士，オンライン，8.25.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. WEBメディア，にいがた経済新聞，【作業療法士という仕事を知っていますか？】開志専門職大学の学生が作業療法士のアニメ製作を開始，職業認知度の向上へ，2024.8.4.

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），ハンセン病末梢神経障害の診断と神経筋再生治療法の開発に関する研究，研究代表者
2. 2019年度，科研費基盤研究（C），ブルーリ潰瘍（*M.ulcerans*感染症）における無痛性病態メカニズ

ムの解明, 研究分担者

- 6 学内委員会活動 広報委員会, 国際交流センター運営委員会 (広報部会長), 大学院広報委員会, 運動機能医科学研究所

氏名: 村上 元

- 1 研究題目 成人期自閉スペクトラム症者に対するオンラインによるマインドフルネスヨガの実行可能性の検討, 成人期自閉スペクトラム症者のメンタルヘルスの調査
- 2 著書
 1. 村上元;早坂友成編. ICFにおける身体機能. 最新作業療法学講座 精神障害作業療法学. 第1版. 東京: 医歯薬出版株式会社; 2025: 90-95.
- 3 論文
 1. 村上元, 森元隆文, 池田望, 北川信樹. 成人期自閉スペクトラム症者に対するSSTの予備的検討. 作業療法の実践と科学. 2024; 6(2): 38-45.
 2. Morimoto T, Murakami T, Sasaki T, Yokoyama K, Ishii T, Ikeda N. Relationship Between Social Networking Service Addiction and Occupational Dysfunction in Young Adults. OTJR-Occupational Therapy Journal of Research(JCR). 2024; 15394492241282790.
 3. 村上元, 大島郁葉, 森元隆文, 池田望. 成人期ASD者の被害妄想的観念に影響する要因. 認知行動療法研究 (協力学術団体). 2024; 50(3): 1-9.
 4. Le HT, Honma K, Annaka H, Shunxiang S, Murakami T, Hiraoka T, Nomura T. Effectiveness of Transcranial Magnetic Stimulation on Executive Function, Attention, and Memory in Stroke Patients: A Systematic Review and Meta-Analysis. Cureus(JCR). 2024; 16(12): e75194.
- 4 学会等研究発表
 1. 安中裕紀, 村上元, 長谷川直哉, 能村友紀. てんかん患者に対するコンピューターを用いた認知トレーニングの普及状況: スコーピングレビュー (金沢・日本). 2025.3.22.
 2. Le HT, Honma K, Annaka H, Shunxiang S, Murakami T, Hiraoka T, Nomura T. The effect of transcranial magnetic stimulation on executive function, attention and memory in patients with stroke: a systematic review and meta-analysis. 6th International Brain Stimulation Conference (神戸・日本). 2025.2.26.
 3. Morimoto T, Murakami T, Sasaki T, Yokoyama K, Ishii T, Ikeda N. Relationship between depression and social networking service addictions, and their effects on occupational dysfunction: A cross-sectional study of medical college students. The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (札幌・日本). 2024.11.6.
 4. 村上元, 大島郁葉, 森元隆文, 池田望. 成人期の自閉スペクトラム症における解離の検討. 日本認知・行動療法学会第50回記念大会 (横浜・日本). 2024.9.24.
 5. 村上元. 精神障害領域の作業療法士と共創. 第54回北海道作業療法学会学術大会 (札幌・日本) 2024.6.23. 【シンポジウム】
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 SST普及協会 (学術委員, 北海道支部副支部長), 公認心理師の会, 一般社団法人 日本臨床発達心理士会, 日本健康心理学会, International Society of Schema Therapy, 日本パーソナリティ心理学会, 日本認知・行動療法学会, 日本作業療法士協会, 新潟県作業療法士協会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第19回新潟県作業療法学会, 一般演題, 座長, 新潟, 2024.12.14.
 2. 第19回新潟県作業療法学会, 演題審査委員, 座長, 新潟, 2024.8.16-9.30.
 3. 作業療法ジャーナル, 査読, 2024.4.1-2025.3.31.
 4. Asian Journal of Occupational Therapy, 査読, 2024.4.1-2025.3.31.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. NPO法人ねこやなぎ 紋別市障害者基幹相談支援センター相談支援事業所つばさ主催研修会「もっと知ろうよ!! 病気のこと, 支援のこ」, 研修会講師, 紋別市, 2024.11.15-11.16.
2. 障がい者相談支援センター夢民 (札幌圏域), 総合相談支援センターHIROBA (後志圏域), 地域生活支援センターあ〜ち (空知圏域) 主催令和6年度 障害福祉サービス等初任者研修, 研修講師, オンデマンド, 2024.12.16-2025.1.31.
3. SST普及協会北海道支部主催誰でも参加できるSST, 講師, オンライン, 2024.9.9.
4. SST普及協会北海道支部主催誰でも参加できるSST, 講師, オンライン, 2024.10.21.
5. 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター, 国際認定スキーマ療法士取得資格ワークショップ, 研修講師, オンライン, 2025.3.1, 3.2, 3.8, 3.9.

2) 社会活動への参加協力

1. 株式会社ナスカコンピュータ, 研修講師, オンライン, 2024.4.1-2025.5.31. (月1回)
2. 作業療法学科主催認知症カフェ, 運営スタッフ, ラグーナカフェ, 2025.2.28.

3) 職能団体 (協会, 士会等) の委員

公認心理師の会 (障害福祉部部員, 行政検討委員), 日本作業療法士協会 (AsJOT編集委員), 北海道作業療法士会 (論文審査委員)

7 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 札幌学院大学大学院, 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践, 2024.8.10.
2. 札幌医科大学, 札幌医科大学 精神障害作業療法治療, 2025.1.9.

氏名: 藤目 智博

1 研究題目 母指球筋群の筋活動特性について

2 学会等研究発表

1. 藤目智博. Kapandji スコアにおける母指球筋群の筋活動特性について. 第36回日本ハンドセラピー学会 学術集会 (奈良) 2024.4.27.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本ハンドセラピー学会 (理事), 日本手外科学会, 日本肘関節外科学会, 日本作業療法研究学会, 新潟医療福祉学会

2) 学術集会の主催

1. 第36回日本ハンドセラピー学会学術集会, 座長, 奈良, 2024.4.27.
2. 第59回日本作業療法学会, 演題審査, 香川, 2025.11.7-11.9.

氏名: 間宮 靖幸

1 研究題目 レビー小体型認知症 (神経心理学), 認知症性疾患 (神経心理学), 視覚性注意 (行動神経学)

2 著書

1. 濱口豊太 編. 基礎作業学 第4版. 東京: 医学書院; 2024: 72-78.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本作業療法学会, 日本神経心理学会, 日本高次脳機能障害学会, 新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 臨床実習指導者講習会, 講師, 作業療法士, オンライン, 2024.9.14・9.15.
2. 模擬授業, 講師, 高校生, 日本文理高校, 2024.7.12.
3. そのき市民学級, 講師, 地域住民, 曽野木地区公民館, 2024.10.2.

2) 社会活動への参加協力

1. 茶の間，地域住民への相談・援助，2024.6，2024.11.
2. 認知症カフェ，地域住民への相談・援助，2024.8.30，2025.2.28.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益法人新潟県作業療法士会（理事）

- 5 学内委員会活動 教務委員会（委員），新潟連携教育研究センター運営委員会（委員），高等教育推進センター運営委員会（委員）

氏名：高橋 里奈

- 1 研究題目 肘関節術後患者の関節可動域を早期に改善する筋電図バイオフィードバック療法の開発

2 論文

1. Sano K, Suehara Y, Kubota D, Takahashi R, Ichikawa Y, Tobita M, Mizuno H. Subtotal Second Toe Transfer for Finger Reconstruction after Malignant Fibroblastic Tumor Resection. Journal of hand and microsurgery (JCR). 2024; 16(2): 100026(review)

3 学会等研究発表

1. 高橋里奈. 筋電図周波数解析による肘関節術後患者に対する筋電図 バイオフィードバック療法の上腕二頭筋収縮力の目標値. 第36回日本ハンドセラピー学会学術集会（奈良市），2024.4.27-4.28.
2. 高橋里奈. TFCC損傷に対するリハビリテーション. 第16回日本手関節外科ワークショップ（川崎市），2024.10.12.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本作業療法学会，日本ハンドセラピー学会，日本手外科学会，日本肩関節学会，日本肘関節学会，日本臨床神経生理学会，新潟県作業療法士会

2) 学術集会の主催

1. 日本ハンドセラピー学会，第37回日本ハンドセラピー学会学術集会，実行委員，横浜市，開催2025.4.11-4.12・活動期間：2024.4.29-2025.6.30.

3) 学会等でのその他の活動

1. 第36回日本ハンドセラピー学会学術集会，座長，奈良市，2024.4.28.
2. 第35回日本ハンドセラピー学会学術集会，当日運営委員，東京，2023.4.22.
3. 新潟作業療法士会，第19回新潟県作業療法学会 一般演題査読8月1件
4. 新潟作業療法士会，第19回新潟県作業療法学会 一般演題査読8月1件
5. 日本ハンドセラピー学会，論文査読9月1件
6. 日本ハンドセラピー学会，論文査読10月1件
7. 日本ハンドセラピー学会，論文査読11月1件
8. 日本ハンドセラピー学会，2025年学術集会演題査読11月1件（合計5題）
9. 日本ハンドセラピー学会，2025年学術集会演題査読11月1件（合計5題）
10. 日本ハンドセラピー学会，2025年学術集会演題査読11月1件（合計5題）
11. 日本ハンドセラピー学会，2025年学術集会演題査読11月1件（合計5題）
12. 日本ハンドセラピー学会，2025年学術集会演題査読11月1件（合計5題）
13. 2024年度第1期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2024.7.14.
14. 2024年度第1期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2024.7.21.
15. 2024年度第2期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2025.1.5.
16. 2024年度第2期SW-test講習会，運営委員，講師，オンライン，2024.1.16.
17. 日本作業療法士協会，2025年学術集会演題査読3月1件（合計6題）
18. 日本作業療法士協会，2025年学術集会演題査読3月1件（合計6題）
19. 日本作業療法士協会，2025年学術集会演題査読3月1件（合計6題）

20. 日本作業療法士協会, 2025年学術集会演題査読3月1件(合計6題)
21. 日本作業療法士協会, 2025年学術集会演題査読3月1件(合計6題)
22. 日本作業療法士協会, 2025年学術集会演題査読3月1件(合計6題)

5 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 北区社会福祉協議会・作業療法学科・第1回認知症カフェ, サポート(引率含む), ラグーナスクエア, 2024.8.30.
2. 北区社会福祉協議会・作業療法学科・第2回認知症カフェ, サポート(引率含む), ラグーナスクエア, 2024.11.29.
3. 北区社会福祉協議会・作業療法学科・第3回認知症カフェ, サポート(引率含む), ラグーナスクエア, 2025.2.28.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2021年度, 科研費若手研究, 肘関節術後患者の関節可動域を早期に改善する筋電図バイオフィードバック療法の開発, 研究代表者

7 学内委員会活動 教務委員会, 個人情報保護委員会, ハラスメント相談委員

氏名: 安中 裕紀

- 1 研究題目 てんかん患者の認知リハビリテーションの開発, 経皮的耳介迷走神経の効果検証, 生体反応に対する脳活動の変化の検討

2 論文

1. Ha Thi Le, Honma K, Annaka H, Shunxiang Sun, Nomura T. Effectiveness of Problem-Solving Therapy in Improving Patient Mental Health, Function, Quality of Life, and Mortality Post-Stroke: A Systematic Review. Behavioral Sciences (JCR). 2024; 14(6): 446.
2. Annaka H, Nomura T, Hasegawa N. Factors influencing quality of life in extratemporal lobe epilepsy and mesial temporal lobe epilepsy: a cross-sectional study using medical records. Frontiers in Neurology (JCR). 2024; 15.
3. Annaka H, Honma K, Nomura T. A Scoping Review of Factor-Related Cognitive Impairment in Interstitial Lung Disease. Cureus Journal of medical science (JCR). 2024; 16(8): e67791.
4. Annaka H, Hiraoka T, Nomura T. Effects of a Virtual Reality Game With Leap Motion Controller on Brain Activity Related to Attentional Function in Healthy Adults - A Pilot EEG Study. Cureus Journal of medical science (JCR). 2024; 16(10): e71838.
5. Ha T Le, Honma K, Annaka H, Sun Shunxiang, Murakami T, Hiraoka T, Nomura T. Effectiveness of Transcranial Magnetic Stimulation on Executive Function, Attention, and Memory in Stroke Patients: A Systematic Review and Meta-Analysis. Cureus Journal of medical science (JCR). 2024; 16(12): e75194.
6. Shunxiang Sun, Annaka H, Nomura T. Gamma-frequency transcranial alternating current stimulation over the left posterior parietal cortex enhances the long-term retention of associative memory. Experimental Brain Research (JCR). 2025; 243(62).

3 学会等研究発表

1. 安中裕紀, 本間健太, 能村友紀. 間質性肺疾患における認知機能障害の危険因子 - スコーピングレビュー -. 第9回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部学術集会(松本市). 2024.6.22.
2. 安中裕紀, 平岡汰門, 能村友紀. Leap Motion Controllerを用いたVirtual Realityゲームが事象関連電位N1に与える影響 - 脳波計測を用いた予備的研究 -. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市). 2024.10.26.

3. Annaka H, Nomura T, Hasegawa N. Factors related health related quality of life in extratemporal lobe epilepsy and mesial temporal lobe epilepsy. The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (Sapporo, Japan). 2024.11.6.
4. 安中裕紀, 山本莉子, 中山愛, 弭間桃理. 経皮的耳介迷走神経刺激が記憶の定着に及ぼす影響：一事例実験による検討. 第12回全国てんかんセンター協議会総会（金沢市）. 2025.3.22.
5. 安中裕紀, 村上元, 長谷川直哉, 能村友紀. てんかん患者に対するコンピューターを用いた認知トレーニングの普及状況：スコーピングレビュー. 第12回全国てんかんセンター協議会総会（金沢市）. 2025.3.22.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本呼吸ケアリハビリテーション学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本作業療法士会, 日本てんかん学会, 新潟医療福祉学会
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 作業療法学科認知症カフェ, 企画運営, 新潟医療福祉大学作業療法学科・新潟市北区社会福祉協議会, 地域住民, 新潟市, 通年開催.
 2. とよさか中高年教養大学「健康長寿学」12月講座, 「呼吸器の病気と認知機能」, 講師, 新潟医療福祉大学, 地域住民, 新潟市, 2024.12.12.
 3. 令和6年度新潟市北区地域福祉推進フォーラム, 認知症カフェについて, 講師, 新潟市北区社会福祉協議会, 地域住民, 新潟市, 2024.11.30.
 4. 新潟県作業療法士協会 生活行為向上マネジメント フォローアップ研修会, 臨床実習におけるMTDLPの活用, 講師, 新潟県作業療法士会, 作業療法士, 新潟市, 2024.10.27.
 5. 一般社団法人 Natural職員研修会, 発達性協調運動症と特異的学習障害, 講師, 一般社団法人 Natural, 医療福祉専門職, 村上市, 2024.12.13.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 新潟県作業療法士会, 地域の茶の間派遣事業, 参加者の生活相談, 新潟市, 2025.1.17.
 - 3) 職能団体（協会, 士会等）の委員
 PLOS ONE (Academic Editor), 日本作業療法士会（日本作業療法学会 演題審査者）, 学術誌作業療法（査読員）, 全国てんかんセンター協議会（リハビリテーション療法士部会 部会員）
- 6 学内委員会活動 入試委員会, 人権委員会

氏名：伊関 浩克

- 1 研究題目 効果的な筋再教育法の開発
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本手外科学会, 新潟県作業療法士会, 日本ハンドセラピー学会, 日本肩関節学会, 日本作業療法士協会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 新潟県作業療法学会, 実行委員, 新潟市, 2024.12.14.
- 3 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 新潟医療福祉大学作業療法学科・新潟市北区社会福祉協議会共催, 第1回らく～なカフェ, 教員によるお悩み相談, ラグーナスクエア, 2024.8.30.
 2. 新潟医療福祉大学作業療法学科・新潟市北区社会福祉協議会共催, 第2回らく～なカフェ, 教員によるお悩み相談, ラグーナスクエア, 2024.11.29.
 3. 新潟医療福祉大学作業療法学科・新潟市北区社会福祉協議会共催, 第3回らく～なカフェ, 教員によるお悩み相談, ラグーナスクエア, 2025.2.28.

4. 新潟県作業療法士会, 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 講師, 松浜こらば家, 2024.7.12.
5. 新潟県作業療法士会, 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 講師, 松浜こらば家, 2024.12.20.
- 2) 職能団体（協会, 士会等）の委員
新潟県作業療法士会（学会運営委員）
- 4 学内委員会活動 広報委員会, 学生委員会, 交通安全委員会

氏名：本間 健太

- 1 研究題目 脳卒中のリハビリテーション研究, 認知機能のリハビリテーション研究
- 2 論文
 1. Annaka H, Honma K, Nomura T (2024) A Scoping Review of Factor-Related Cognitive Impairment in Interstitial Lung Disease. Cureus 16(8): e67791. (査読あり)
 2. Le HT, Honma K, Annaka H, Sun S, Murakami T, Hiraoka T, Nomura T. Effectiveness of Transcranial Magnetic Stimulation on Executive Function, Attention, and Memory in Stroke Patients: A Systematic Review and Meta-Analysis. Cureus. 2024; 16(12): e75194. (査読あり)
 3. Le HT, Honma K, Annaka H, Sun S, Nomura T. Effectiveness of Problem-Solving Therapy in Improving Patient Mental Health, Function, Quality of Life, and Mortality Post-Stroke: A Systematic Review. Behavioral Sciences. 2024; 14(6): 446. (査読あり)
- 3 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 第3回新潟国際アニメーション映画祭, 医療とアニメーションの世界, パネルディスカッションの登壇, 新潟国際アニメーション映画祭実行委員会, 映画祭参加者, 新潟市, 2025.3.15.
 - 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 新聞, にいがた経済新聞, 【作業療法士のアニメプロジェクトが進行中】アフレコで声優の卵たちが熱演, 新潟県の学生たちの力が結集, 2024.11.16.
 - 3) 社会活動への参加協力
 1. 新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会, 助言者, 新潟市, 新潟市陸上競技場 第3会議室, 2024.5.21.
 2. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 地域の茶の間での個別相談等, 新潟市, 松浜こらば家, 2024.5.24.
 3. 認知症カフェ「らく～なカフェ」, 会場運営の補助, 新潟市, ラグーナスクエア, 2024.8.30.
 4. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 地域の茶の間での個別相談等, 新潟市, しもまち笑顔の家, 2024.7.16.
 5. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 地域の茶の間での個別相談等, 新潟市, しもまち笑顔の家, 2024.10.24.
 6. 認知症カフェ「らく～なカフェ」, 会場運営の補助, 新潟市, ラグーナスクエア, 2024.11.29.
 7. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 地域の茶の間での個別相談等, 新潟市, しもまち笑顔の家, 2024.12.6.
 8. 認知症カフェ「らく～なカフェ」, 会場運営の補助, 新潟市, ラグーナスクエア, 2025.2.8.
 9. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 地域の茶の間での個別相談等, 新潟市, しもまち笑顔の家, 2025.2.14.
 10. 新潟市地域包括ケア推進モデルハウスへの作業療法士派遣事業, 地域の茶の間での個別相談等, 新潟市, しもまち笑顔の家, 2025.3.15.
 - 4) 職能団体（協会, 士会等）の委員

新潟県作業療法士会（学会運営委員会，広報委員会）

4 学内委員会活動 図書館・学修支援委員会，同窓会・生涯学習連携推進委員

(3) 言語聴覚学科

氏名：大石 如香

- 1 研究題目 脳血管疾患による失語症および読み書き障害の研究、脳血管疾患や変性性認知症における視覚認知障害および質感認知障害に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 大石如香，今村徹，下村辰雄，菅歩実，内山信，佐藤卓也，鈴木匡子．アルツハイマー病患者における日常生活上の視覚認知障害に関する検討．第48回日本神経心理学会学術集会（京都），2024.9.6.
 2. 菅歩実，大石如香，武石香里，下村辰雄．漢字の書字能力が保たれていた伝導失語の一例．第48回日本神経心理学会学術集会（京都），2024.9.5.
 3. 佐藤卓也，崎村陽子，村山拓也，大橋知記，外川佑，大石如香．高次脳機能障害における自動車運転再開の神経心理学的評価の検討．第48回日本神経心理学会学術集会（京都），2024.9.5.
 4. 佐藤卓也，小池亮子，鈴木貴広，村山拓也，大石如香．盲は自動車運転再開の判断にどのような影響があるか—1事例からの考察—．第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2024.10.26.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本神経心理学会（評議員），日本高次脳機能障害学会（代議員），日本音声言語医学会，日本言語聴覚士協会，新潟神経心理懇話会（世話人），日本ディサースリア臨床研究会，日本認知神経心理学研究会，新潟医療福祉学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 第24回新潟医療福祉学会学術集会，大会長，新潟市．2024.10.26.
 2. 第24回新潟医療福祉学会学術集会，特別講演座長，新潟市．2024.10.26.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 第4回山形県言語聴覚士会学術集会，一般演題座長，東根市．2024.10.20.
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 2024年度一般社団法人山形県言語聴覚士会研修会 講師，2024.5.18.
 - 2) 職能団体（協会，士会等）の委員
日本高次脳機能障害学会代議員，日本神経心理学会評議員，新潟神経心理懇話会世話人，一般社団法人言語聴覚士協会 学術誌編集委員会査読委員
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度 文部科学省科学研究補助金 基盤研究（C），研究代表者
 2. 2024年度 文部科学省研究費補助金 新学術領域研究「深質感認識の科学的解明と革新的質感技術の創出」，信号変調に基づく視聴触覚の質感認識機構，研究協力者
- 6 学内委員会活動 自己点検・評価委員会（委員長），内部質保証推進委員会，将来計画機構，教員選考委員会，外部評価準備委員会，人権委員会調査委員

氏名：佐藤 克郎

- 1 研究題目 中耳における細菌感染症に関する基礎研究（耳鼻咽喉科学，細菌学，感染症学），頭頸部腫瘍に関する臨床研究（耳鼻咽喉科学，頭頸部外科学），音声言語障害に関する臨床研究（耳鼻咽喉科学，音声言語医学）
- 2 学会等研究発表
 1. 佐藤雄一郎，岩井玄樹，岡部隆一，佐藤克郎．医事問題報告から見た安全な医療の実践．第98回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会新潟県地方部会（新潟市），2024.12.14.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会（認定専門医・認定補聴器相談医・新潟県

地方部会評議員・新潟県地方部会医事問題委員), 日本気管食道科学会(認定専門医), 日本頭頸部癌学会, 日本頭頸部外科学会, 日本音声言語医学会, 日本喉頭科学会, 日本耳科学会, 日本聴覚医学会, 耳鼻咽喉科臨床学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会, 理事および評議員会, 新潟市, 2024.5.25.
2. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会医事問題委員会, 新潟市, 2024.6.1.
3. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会医事問題委員会, 新潟市, 2024.12.14.

4 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医としての患者対応, 新潟県立吉田病院(愛広会), 2024.4-2025.3.
2. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会医事問題委員としての医事問題対応, 新潟大学医学部, 2024.4-2025.3.

2) 職能団体(協会, 士会等)の委員

公益財団法人国際耳鼻咽喉科振興会賛助員(教授職)

5 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校看護学科非常勤講師, 病態学Ⅶ(講義計画会議中), 2025.1-2025.3.

6 学内委員会活動 人権委員会, 個人情報保護委員会

氏名: 吉岡 豊

1 研究題目 言語発達障害児における語彙力に関する研究

2 学会等研究発表

1. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語発達遅滞児の就学前支援. 第25回日本言語聴覚学会(神戸), 2024.6.21.
2. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語障害児の症状鑑別・確認手段としてのアセスメントの利用報告. 第131回日本小児精神神経学会(つくば), 2024.6.22.
3. Ominato R, Nakano H, Kodama Y, Kobayashi R, Sato M, Tani A, Ishimoto G, Kuwahara K, Yoshioka Y, Tomihara K, Ono K. Questionnaire surveys of resource room teachers at elementary school on cooperation with the external speech therapist in cleft speech. The 16th world congress of the international cleft lip and palate foundation (Tokyo), 2024.7.17-7.19.
4. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語発達支援のための有効な初回スクリーニング検査の検討. 第24回新潟医療福祉学会(新潟), 2024.10.26.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本音声言語医学会, 日本聴覚医学会, 日本コミュニケーション障害学会, 日本高次脳機能学会, 日本神経心理学会, 日本言語聴覚士協会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第24回新潟医療福祉学会学術集会, 実行委員長, 新潟市, 2024.10.26.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度子育て支援・発達支援従事者等研修会, 「子どもの言葉発達の理解と支援について」, 講師, 主催:阿賀町こども・健康推進課, 対象:保育士, 教諭, 保健師, 会場:阿賀町やまぶきの里, 開催日: 2025.3.10.

2) 社会活動への参加協力

1. 阿賀町役場, 言葉の相談会, 言語指導者, 阿賀町・やまぶきの里, 2024.4.1-2025.3.31. (年6回開催).

3) 職能団体(協会, 士会等)の委員

新潟県言語聴覚士会（監事）

- 5 学内委員会活動 広報委員会，大学院入試広報委員会（イベント部会長），言語発達支援センター（センター長），同窓会サポーター

氏名：内山 信

- 1 研究題目 レビー小体型認知症の錯視・幻視に関する研究，レビー小体型認知症の記憶障害に関する研究，パーキンソン病の認知機能障害に関する研究，認知症患者の難聴に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 内山信，言語聴覚士の立場からみた認知症を支える連携．第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.【シンポジウム】
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本神経心理学会（評議員），日本高次脳機能障害学会，新潟神経心理懇話会（役員）
 - 2) 学術集会の主催
 1. 新潟医療福祉学会，第24回新潟医療福祉学会学術集会，演題・抄録集担当，新潟市，2024.10.26.
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2020年度 基盤研究（c），難聴が認知症発症後の患者の臨床像に及ぼす影響の検討，研究代表者
- 5 学内委員会活動 教務委員会，高等教育推進センター運営委員会，中央教育センター運営委員会

氏名：佐藤 卓也

- 1 研究題目 高次脳機能障害の自動車運転再開支援，失語症者の自動車運転再開支援，自動車運転再開支援の連携
- 2 論文
 1. 鎌田日南，佐藤卓也，今村徹．アルツハイマー病の日常生活機能障害（functional impairment）に影響する要因 記憶障害の指標で重症度を統制した検討．精神医学．2024；66(8)：1091-1097.（査読あり）
- 3 学会等研究発表
 1. 紅谷茉摘，高橋茉鈴，大橋知記，佐藤卓也，小池亮子．左中大脳動脈閉塞によりブローカ失語を呈した一例．第11回新潟県言語聴覚士会学術大会（新潟市），2024.5.26.
 2. 田村和子，大橋知記，小股整，佐藤卓也．両側前頭葉損傷により社会的行動障害を呈した一例．第11回新潟県言語聴覚士会学術大会（新潟市），2024.5.26.
 3. 第25回日本言語聴覚学会協会企画，認定言語聴覚士（失語・高次脳機能障害領域）のつとめ，症例提示・ディスカッション，認定言語聴覚士（失語・高次脳機能障害領域）実行委員，認定言語聴覚士，神戸国際会議場，2024.6.21.
 4. 佐藤卓也，崎村陽子，村山拓也，大橋知記，外川佑，大石如香．高次脳機能障害における自動車運転再開の神経心理学的評価の検討．第48回日本神経心理学会学術集会（京都市），2024.9.5-9.6.
 5. 大石如香，今村徹，下村辰雄，菅歩実，内山信，佐藤卓也，鈴木匡子．アルツハイマー病患者における日常生活上の視覚認知障害に関する検討．第48回日本神経心理学会学術集会（京都市），2024.9.5-9.6.
 6. 田村和子，大橋知記，佐藤卓也，小股整．日本版前頭葉性行動質問紙（FBI）を利用し社会的行動障害に対する介入を試みた両側前頭葉損傷の一例．第48回日本神経心理学会学術集会（京都市），2024.9.5-9.6.
 7. 佐藤卓也，小池亮子，鈴木貴広，村山拓也，大石如香．盲は自動車運転再開の判断にどのような影響があるか－1事例からの考察－．第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.
 8. 佐藤卓也．日本老年療学会学術研修会，高次脳機能障害と自動車運転－OT・STの視点から－，日本老年療学会，講師，リハビリテーション関連職種，WEB，2024.11.17.
- 4 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本高次脳機能障害学会, 日本神経心理学会, 日本安全運転医療学会 (理事), 日本安全運転医療学会 (編集委員), 新潟神経心理懇話会 (世話人), 障害と自動車運転に関する研究会 (代表事務局), 障害と自動車運転に関する研究会 (世話人)

2) 学術集会の主催

1. 新潟県言語聴覚士会, 第11回学術大会, 実行委員, 新潟市, 2024.5.26.
2. 障害と自動車運転に関する研究会, 第22回障害と自動車運転に関する研究会, 代表事務局 (実行委員長), WEB, 2024.7.20.
3. 障害と自動車運転に関する研究会・日本交通心理学会共催, 第23回障害と自動車運転に関する研究会 (日本交通心理学会地域ワークショップin新潟), 代表事務局 (実行委員長), 新潟県運転免許センター, 2024.10.12.
4. 新潟医療福祉学会, 第11回学術集会, 実行委員, 新潟医療福祉大学, 2024.10.26.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本安全運転医療学会, 編集委員, 2023-
2. 日本安全運転医療学会, 理事評議員総会, 理事, WEB, 2024.4.13.
3. 新潟県言語聴覚士会, 第11回新潟県言語聴覚士会学術大会, シンポジウム座長, 新潟市, 2024.5.26.
4. 日本安全運転医療学会, 理事評議員総会, 理事, 東京都一橋講堂, 2024.12.15.
5. 日本安全運転医療学会, 第8回日本安全運転医療学会学術集会, シンポジウム2座長, 東京都一橋講堂, 2024.12.15.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. Study labo 動画配信, 高次脳機能障害の自動車運転再開支援, 講師, study labo, 言語聴覚士, WEB動画, 2024.10.30. (ライブおよび有料配信動画)

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会, 副委員長, 2022-
2. 新潟県自立支援協議会, 委員, 2023-
3. 日本言語聴覚士協会・日本リハビリテーション学校協会, 言語聴覚士臨床実習指導者講習会のファシリテータ養成講習会, 参加者, WEB, 2024.7.13-7.14.
4. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター, 令和6年度高次脳機能障害者当事者のつどい (新潟第1回目), 当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等, 助言者, 新潟県障害者リハビリテーションセンター, 2024.8.27.
5. 令和6年度第1回新潟県自立支援協議会, 会議, 委員, 新潟県自治会館, 2024.9.18.
6. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター, 令和6年度高次脳機能障害者当事者のつどい (長岡第1回目), 当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等, 助言者, 長岡地域振興局, 2024.11.12.
7. (一社)新潟県言語聴覚士会, 第2回新潟県言語聴覚士会県民フォーラム, 一般県民向け啓発, 企画・運営・大会挨拶・概要ガイダンス講演, 新潟市メディアシップ日報ホール, 2024.11.24.
8. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター, 令和6年度高次脳機能障害者当事者のつどい (新潟第2回目), 当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等, 助言者, 新潟県障害者リハビリテーションセンター, 2024.12.17.
9. 令和6年度新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会, 会議, 副委員長, 新潟市精神保健福祉センター, 2024.12.13.
10. 日本言語聴覚士協会・新潟県言語聴覚士会, 「言語聴覚の日」活動・新潟アルビレックスBB一日スポンサー冠試合, 一般向け啓発, 挨拶・ブース出展, 長岡市アオーレ長岡, 2024.12.28.
11. 日本言語聴覚士協会・日本リハビリテーション学校協会, 言語聴覚士臨床実習指導者講習会, 参加者, WEB, 2025.1.18-1.19.
12. 新潟県高次脳機能障害相談支援センター, 令和6年度高次脳機能障害者当事者のつどい (長岡第2回

- 目), 当事者の交流・質問回答・情報提供・助言等, 助言者, 長岡地域振興局, 2025.3.11.
13. 日本言語聴覚士協会・日本リハビリテーション学校協会, 言語聴覚士臨床実習指導者講習会, ファシリテータ, WEB, 2025.3.22-3.23.
14. 令和6年度第2回新潟県自立支援協議会, 会議, 委員, 新潟県自治会館, 2025.3.25.
- 3) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員
新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会(副委員長), 新潟県自立支援協議会(委員), 新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会(新潟県災害福祉支援チーム員)
- 4) 職能団体(協会, 士会等)の委員
一般社団法人新潟県言語聴覚士会(会長), 一般社団法人新潟県言語聴覚士会(代表理事・業務執行役員), 一般社団法人新潟県言語聴覚士会(士会協会連携体制連絡委員会委員長), 新潟県リハビリテーション専門職協議会(副会長), 新潟県地域包括ケア支援専門職協議会(委員)
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 受賞, 学位取得, 資格取得
修士(保健学)(2025.3.19)
- 7 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会(委員), 教務委員会(委員), 教育の質マネジメント委員会(委員), シラバス改定ワーキンググループ(責任者), 就職センター運営委員会(委員), 第24回新潟医療福祉学会学術大会(実行委員)

氏名: 石本 豪

- 1 研究題目 児童・青年に対する心理的支援に関する研究, 障害児の親に対する心理的支援に関する研究, 発達障害の大学生に対する就労支援に関する研究
- 2 学会等研究発表
1. Ominato R, Nakano H, Kodama Y, Kobayashi R, Sato M, Tani A, Chiba H, Ishimoto G, Kuwahara K, Yoshioka Y, Tomihara K, Ono K. Questionnaire surveys of resource room teachers at elementary school on cooperation with the external speech therapist in cleft speech. CLEFT TOKYO 2024 (東京・日本), 2024.7.17-7.19.
- 3 学会活動
- 1) 所属学会 日本心理臨床学会, 日本学生相談学会, 日本教育心理学会, 日本コミュニケーション障害学会, 新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
- 1) 社会活動への参加協力
1. 新潟市教育委員会スクールカウンセラー等活用事業, スクールカウンセラー, 新潟市内小・中学校, 2024.4.1-2025.3.31.
- 5 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
1. 2022年度, 科研費基盤研究C, 自閉スペクトラム症の大学生に対する就労支援に関する仮説理論モデルの生成, 研究代表者
- 6 学内委員会活動 安全衛生委員会, 健康管理センター運営委員会, メンタルヘルス支援室, 言語発達支援センター

氏名: 千葉 寛之

- 1 研究題目 次世代型聴性定常反応(ASSR)の有用性に関する研究
- 2 論文
1. 千葉寛之, 伊藤吏, 松井祐興, 新川智佳子, 天野彰子, 阿部希望, 欠畑誠治. 聴力正常成人における次世代ASSR検査機器の比較検討. Audiology Japan. 2024; 67 (4): 260-266.

2. Chiba H, Ito T, Kubota T, Matsui H, Shinkawa C, Kakehata S. Estimation of Hearing Thresholds with Auditory Steady-State Responses to Narrow-Band Chirps in Children. *Audiology and Neurotology*. 2025; 30(1): 89-99.
- 3 学会等研究発表
 1. 千葉寛之, 荒井晋一. 山形市における「山形市きこえくつきり事業」について～山形県言語聴覚士会の参画と実践～. 第25回日本言語聴覚学会 (神戸市), 2024.6.
 2. 阿部希望, 新川智佳子, 天野真太郎, 後藤崇成, 佐藤榛希, 千葉寛之, 天野彰子, 寺田小百合, 伊藤史. 次世代型ASSR検査機器による全身麻酔下ASSRの聴力評価の検討. 第70回日本聴覚医学会 (東京), 2024.10.
 3. 千葉寛之. 次世代型ASSR測定機器SENTIEROによる聴力評価. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟市), 2024.10.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本聴覚医学会 (代議員), 日本音声言語医学会
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 第13期山形県要約筆記者養成講座, 聴覚障害者に関する基礎知識, 講師, 山形県聴覚障がい者情報センター, 受講者, 山形市, 2024.4.21.
 2. 第6回新潟きこえの勉強会, 人工内耳の基本的なマッピング方法, 講師, 新潟きこえの勉強会, 参加者, 新潟市, 2024.9.22.
 3. 山形県言語聴覚士会第4回学術大会, 高齢期における聴覚障害～基礎から最近の知見まで～, 講師, 山形県言語聴覚士会, 参加者, 東根市, 2024.10.20.
 4. 夢ナビLive, 難聴児のコミュニケーションを支援する, 講師, オンライン, フロムページ, 参加者, オンライン, 2024.10.20.
 5. はつらつ元気教室, 高齢者難聴への対策, 講師, 山形西部地域包括支援センター, 参加者, 山形市, 2024.11.15.
 6. Study Labo 講座, 高齢者の難聴と早期発見に向けた社会支援, 講師, Study Labo, 受講者, オンライン, 2024.12.11.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 山形市, 聴こえくつきり事業, 助言者, 山形市, 2024.11.15.
 - 3) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
 日本言語聴覚士協会, 山形県言語聴覚士会 (難聴対策委員)
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2025年度, 科研費 (若手研究), 若年者における「隠れ難聴」の早期発見・早期予防を目指したスクリーニング方法の開発, 千葉寛之
 - 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
 第24回新潟医療福祉学会・奨励賞 (2024.10)

氏名：大湊 麗

- 1 研究題目 口唇口蓋裂の言語管理に関する研究
- 2 著書
 1. 石井雅子, 大湊麗. めいくさばえカードかるた&めあわせ. 新潟医療福祉大学とめがねのまちさばえ. 2024年
- 3 報告書
 1. 大湊麗. 若手研究, 二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討－長期言語成績による分析－,

研究成果報告書，2019-2023年，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 大湊麗，宮田昌幸，若槻華子，児玉泰光，市川佳弥，佐藤真由美，濃野要，齋藤功，小野和宏．鼻内手術の評価：ナゾメーターによる分析．第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会（名古屋市），2024.5.
2. 市川佳弥，丹原惇，寺田愛希，井村真美，宮田昌幸，若槻華子，大湊麗，児玉泰光，小林亮太，新美奏恵，小林正治，齋藤功．片側口唇口蓋裂患者の顎顔面形態に対する術前顎矯正治療の影響－5歳時における乳歯列形態－．第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会（名古屋市），2024.5.
3. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．言語発達遅滞児の就学前支援．第25回日本言語聴覚学会（神戸市），2024.6.
4. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．言語障害児の症状鑑別・確認手段としてのアセスメントの利用報告－より迅速な訓練プログラムの立案を目指して－．第131回日本小児精神神経学会（つくば市），2024.6.
5. Ominato R, Nakano H, Kodama Y, Kobayashi R, Sato M, Tani A, Ishimoto G, Kuwahara K, Yoshioka Y, Tomihara K, Ono K. Questionnaire surveys of resource room teachers at elementary school on cooperation with the external speech therapist in cleft speech. The 16th world congress of the international cleft lip and palate foundation (Tokyo), 2024.7.
6. 谷麻美，大湊麗，吉岡豊．言語発達支援のための有効な初回スクリーニング検査の検討．第24回新潟医療福祉学会（新潟市），2024.10.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本口蓋裂学会（認定師認定委員），日本音声言語医学会，日本特殊教育学会，日本小児口腔外科学会，新潟歯学会，新潟医療福祉学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 第24回新潟医療福祉学会，学術集会，司会進行，新潟市，2024.10.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. 日本口蓋裂学会，口唇裂・口蓋裂認定師（音声言語分野）認定委員会，認定師認定委員，2024.4-2025.3.

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟市通級指導教室担当者スキルアップ研修（言語），口蓋化構音のある児童への構音指導，講師，新潟市教育委員会，新潟市立学校教諭，新潟市教育相談センター，2024.7.
 2. 新潟県下越言難第2回研修会，未手術の口蓋裂児の指導，講師，新潟県下越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，新潟県下越地区学校教諭，新潟市立鏡淵小学校，2024.8.
 3. 新潟県中越言難夏季研修会，音声言語の評価と指導，講師，新潟県中越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，新潟県中越地区学校教諭，アトリウム長岡，2024.8.
 4. 新潟市通級初任者研修，粘膜下口蓋裂の指導，講師，新潟市特別支援教育サポートセンター，新潟市立学校教諭，新潟大学，2024.8.
 5. 新潟県中越地区通級初任者研修，構音障害の指導，講師，新潟県中越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，魚沼市立学校教諭，新潟県立精神医療センター，2024.9.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 言語通級指導検討会，講師，南魚沼市立六日町小学校，2024.4.
 2. 言語通級指導検討会，講師，南魚沼市立城内小学校，2024.6.
 3. 言語通級指導検討会，講師，新潟市立荻川小学校，2024.8.
 4. 言語通級指導検討会，講師，新潟市立鏡淵小学校，2024.10.
 5. 言語通級指導検討会，講師，長岡市立新町小学校，2024.12.
 6. 新潟市こども未来部こども家庭課，新潟市こども支援体制検討，新潟医療福祉大学，2025.3.
 7. 新潟市児童発達支援センターこころん，情報交換会，新潟医療福祉大学，2025.3.
 8. 新潟市教育委員会特別支援教育講座検討会，講師，新潟医療福祉大学，2025.3.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年, 科研費基盤研究C, 二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討: 鼻腔共鳴の定量評価の確立. 研究代表者
2. 2024年, 日本口蓋裂学会次世代育成事業, 2024年度若手研究者海外発表奨励金, Questionnaire surveys of resource room teachers at elementary school on cooperation with the external speech therapist in cleft speech. 研究代表者
3. 2024年, 外部資金獲得奨励金, 二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討: 鼻腔共鳴の定量評価の確立. 研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学歯学部, 「口腔外科学Ⅰ」「チームアプローチによる口唇口蓋裂治療Ⅰ」「摂食嚥下機能評価支援学特論」, 2024.4-2025.3.
2. 新潟大学医歯学総合病院, 2024.4-2025.3.
3. 新潟県立精神医療センター, 2024.4-2025.3.

8 学内委員会活動 言語発達支援センター, 子ども総合支援研究センター

氏名: 田村 俊暁

1 研究題目 神経筋疾患患者の発声発語障害に関する研究 (成人発声発語障害学), 神経筋疾患患者の摂食嚥下障害に関する研究 (嚥下障害学)

2 著書

1. 田村俊暁; 南都智紀編. 運動障害性構音障害の定義. Crosslink 構音障害学. 東京: メジカルビュー社; 2025: 174-176.
2. 田村俊暁; 南都智紀編. 症例集: 脳血管疾患症例①. Crosslink 構音障害学. 東京: メジカルビュー社; 2025: 273-277.
3. 田村俊暁; 南都智紀編. 原因疾患と運動障害. Crosslink 構音障害学. 東京: メジカルビュー社; 2025: 177-193.

3 論文

1. 椎名英貴, 織田千尋, 田村俊暁, 長谷川賢一, 深浦順一: Dysarthria に対する言語聴覚療法のエビデンス: システマティックレビューによる検討. 言語聴覚研究20周年記念増刊号 2025; 157-174
2. 阿志賀大和, 田村俊暁, 倉智雅子. 舌突出が発声時の呼気鼻漏出と鼻腔共鳴率に及ぼす影響. 日摂食嚥下リハ会誌. 2024; 28 (2): 83-89
3. Noto S, Sekiyama Y, Nagata R, Yamamoto G, Tamura T. Analysis of Speech Features in Alzheimer's Disease with Ma-2 chine Learning: A Case-Control Study. Healthcare (JCR). 2024; 12(21): 2194

4 学会等研究発表

1. 椎名英貴, 織田千尋, 田村俊暁, 谷合信一, 原由紀, 長谷川賢一, 深浦順一. わが国における dysarthria に対する言語聴覚療法のエビデンス: システマティックレビュー. 第25回日本言語聴覚学会 (神戸), 2024.6.21-6.22. 【シンポジウム】
2. 田中康博, 佐藤茉紀, 坪井崇, 平賀経太, 田村俊暁, 勝野雅央. パーキンソン病における Dysarthria 検出のための用語の検討-Reiwa Study-. 第25回日本言語聴覚学会 (神戸), 2024.6.21-6.22.
3. 田村俊暁, 丸山航輝, 渡辺慶大. 干渉波電気刺激を実施した痙攣性 dysarthria のある話者2名における発声状態の変化. 第25回日本言語聴覚学会 (神戸), 2024.6.21-6.22.
4. 田中康博, 矢野実郎, 南都智紀, 田村俊暁, Nicole Etter, 平賀経太, 坪井崇, 橋詰淳, 佐藤茉紀, Aaron Ziegler, 勝野雅央. 高齢者に対する声の自覚的評価法-Phase 1: 翻訳版の完成-. 第25回日本言語聴覚学会 (神戸), 2024.6.21-6.22.
5. 舘幸枝, 苅安誠, 田村俊暁, 佐藤剛史. 構音評価のための課題文の作成: その2 刺激文の作成と

dysarthria（発語運動障害）話者での検証. 第69回日本音声言語医学会（協力学術団体）（東京），2024.10.17-10.18.

6. 田村俊暁，荻安誠，丸山航輝，渡辺慶大. dysarthria話者での第2フォルマント移動の変動性と発話重症度との関連. 第69回日本音声言語医学会（協力学術団体）（東京），2024.10.17-10.18.
7. 田中康博，矢野実郎，南都智紀，田村俊暁，NicoleEtter，坪井崇，平賀経太，橋詰淳，佐藤茉莉，勝野雅央. 高齢者に対する声の自覚的評価法の開発・Phase 2：信頼性と妥当性の検証一. 第69回日本音声言語医学会（協力学術団体）（東京），2024.10.17-10.18.
8. 田村俊暁. クリニカル・クエスション（構音訓練の方法，話し方の指導）の解説. 第69回日本音声言語医学会（協力学術団体）（東京），2024.10.17-10.18. 【シンポジウム】
9. 坂巻拓実，田村俊暁，中山慧悟，宮崎裕大，福本裕，西田大輔，原貴敏. 原発性側索硬化症に伴う核上性両側軟口蓋麻痺に対する軟口蓋挙上装置装用の音響変化とその測定法の考案. 第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2024.10.26.
10. 田村俊暁，丸山航輝，渡辺慶大. 干渉波電流刺激直後の偽性球麻痺2例の発声状態の変化の検証. 第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2024.10.26.
11. 田村俊暁，荻安誠，丸山航輝，渡辺慶大. 後舌母音から前舌母音の移行時変動性とdysarthria話者の発話明瞭度の関係についての予備検討. 第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2024.10.26.
12. 石崎雅史，落合勇人，田村俊暁，渡辺慶大. 高齢誤嚥性肺炎患者における炭酸水嚥下時の動態解析：予備的研究. 第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2024.10.26.
13. 丸山航輝，田村俊暁. 脳卒中後のDysarthria話者における重症度測定に関連する音響指標の探索・予備的研究. 第25回新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2024.10.26.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本音声言語医学会，日本ディサースリア臨床研究会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本高次脳機能障害学会，新潟医療福祉学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 第25回新潟医療福祉学会学術集会，会計担当，新潟市，2024.10.26.
 2. 第11回新潟県言語聴覚士会学術集会，実行委員，燕市，2024.5.26.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. 第11回新潟県言語聴覚士会学術集会，一般演題【活動報告・音声障害】，座長，燕市，2024.5.26.

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 言語聴覚士のためのオンライン学習・講演会，顔面神経麻痺に対する言語聴覚臨床，講師，STudy lab，言語聴覚士，オンライン，2024.4.11.
 2. 2024年度第1回構音分科会勉強会，舌の機能とPraatを使ったフォルマントの測定，講師，大阪府言語聴覚士会 構音分科会，言語聴覚士，オンライン，2024.10.30.
 3. 言語聴覚士のためのオンライン学習・講演会，痙性/UUMN dysarthriaに対するアプローチ方法，講師，STudy lab，言語聴覚士，オンライン，2024.10.25.
 4. かがやき福祉会職員講習会，介護福祉施設における摂食嚥下障害について，講師，かがやき福祉会，医療介護職員，阿賀野市，2024.11.1.
 5. 言語聴覚士のためのオンライン学習・講演会，dysarthriaに関するQ&A Live配信，講師，STudy lab，言語聴覚士，オンライン，2024.12.21.
 6. リハノメ，やってみよう音響分析，講師，株式会社gene，リハビリテーション関連職，名古屋市，2025.2.8収録
 7. Voice Therapy Spectrum（VTS）認定講習会，運営スタッフ，言語聴覚士と言語聴覚士を目指す学生，名古屋市，2024.5.11-5.12.
 8. Manual Therapy（MT）認定講習会，運営スタッフ，言語聴覚士，名古屋市，2024.11.9-11.10.

9. 第1回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，派遣事業と意思疎通支援者の業務，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，長岡市，2024.8.31.
 10. 第2回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，身体介助方法，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，新潟市，2024.9.14.
 11. 第3回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，外出同行支援実習，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，長岡市，2024.9.28.
 12. 第4回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会，コミュニケーション支援実習Ⅰ，講師・運営，新潟県言語聴覚士会，新潟県民，新潟市，2024.10.5.
 13. 助言者育成研修，模擬地域ケア個別会議学習用ビデオ，言語聴覚士役，新潟県地域包括ケア支援専門職協議会，リハビリ専門職，新潟市，2024.5.24.
- 2) 社会活動への参加協力
1. 厚生労働省，失語症者向け意思疎通支援者養成事業，講師および県庁との連絡係，新潟市，2024.4.1-2025.3.31.
- 3) 職能団体（協会，士会等）の委員
- 一般社団法人日本言語聴覚士協会（わが国の言語聴覚療法のエビデンスWG委員）一般社団法人新潟県言語聴覚士会（理事），一般社団法人新潟県言語聴覚士会（事務局長），一般社団法人新潟県言語聴覚士会（失語症者向け意思疎通支援事業推進部長）
- 7 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度，若手研究，筋萎縮性側索硬化症に伴う球麻痺症候の音響音声学的バイオマーカーと類型システム，研究代表者
 - 2) 受賞，学位取得，資格取得

Voice Therapy Spectrum (VTS) 認定療法士 (2024.11.10)，Manual Therapy: Voice and Swallowing Disorders 認定療法士 (2024.5.12)，PT・OT・ST養成施設教員等講習会修了 (2024.9.11)，臨床実習指導者講習会修了 (2024.11.24)，Pre-Seminar Module for Foundations in Manual Therapy Seminars Voice and Swallowing Disorders 修了 (2024.11.8)
 - 3) 学外兼務講師等
 1. かみやま親子歯科クリニック，言語聴覚士，2024.4-2025.3.
 2. 国立精神・神経医療研究センター病院，医療研究員，2024.4-2025.3.
- 8 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会，入試委員会

氏名：落合 勇人

- 1 研究題目 唾液分泌低下及び油脂添加が種々の食品摂取時の咀嚼嚥下に与える影響，キレート剤処理を行った食品の摂食嚥下動態，通所介護施設高齢者の栄養状態及び口腔・嚥下・呼吸機能の運動学的特徴の解析.
- 2 論文
 1. Goto R, Ochiai Y, Takei E, Ita R, Ono K, Takei R, Washio H, Takahashi H, Tsujimura T, Magara J, Inoue M. (2024). Impact of salivary flow inhibition on masticatory behaviours in healthy individuals. Journal of Oral Rehabilitation (JCR). 2024 ; 9(51), 1759-1769. (review)
- 3 学会等研究発表
 1. 前川和也，坂井遥，笹杏奈，落合勇人，真柄仁，井上竜一，梅谷華奈，辻村恭憲，井上誠. キレート剤処理を行った食品の物性と摂食嚥下動態の評価. 日本嚥下医学会・第48回日本嚥下医学会学術口演会（神戸市），2025.2.21.
 2. 落合勇人，板離子，小貫和佳奈，前川和也，相澤知里，真柄仁，辻村恭憲，井上誠. 唾液分泌低下及び油脂添加がパンの咀嚼・嚥下動態と食塊物性に与える影響. 新潟歯学会・2024年度第2回例会（新潟市），2024.11.2.

3. 落合勇人, 板離子, 小貫和佳奈, 前川和也, 相澤知里, 真柄仁, 辻村恭憲, 井上誠. 唾液分泌及び油脂添加が固形食品の咀嚼・嚥下動態に与える影響. 第24回新潟医療福祉学会(新潟市), 2024.10.26.
 4. 石崎雅史, 落合勇人, 田村俊暁, 渡辺慶大. 高齢誤嚥性肺炎患者における炭酸水嚥下時の動態解析: 予備的研究. 第24回新潟医療福祉学会(新潟市), 2024.10.26.
 5. 落合勇人, 栗山裕太郎. 通所介護施設における口腔嚥下機能維持・向上に向けた多職種連携による取り組み—介護施設職員の勤務実態を考慮した介入方略の検討— 第19回新潟口腔ケア研究会(新潟市), 2024.9.7.
 6. 前川和也, 坂井遥, 笹杏奈, 落合勇人, 真柄仁, 井上竜一, 梅谷華奈, 辻村恭憲, 井上誠. キレート剤処理を行った食品の摂食嚥下動態評価. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会(福岡市), 2024.8.30-8.31.
 7. 落合勇人, 川田里美, 中嶋優太, 那古屋公太, 小貫和佳奈, 井上誠. 下咽頭癌部分切除および皮弁再建術後に嚥下障害を呈し, バルーン訓練手技獲得により経口摂取に至った一例. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会(福岡市), 2024.8.30-8.31.
 8. 落合勇人, 板離子, 小貫和佳奈, 相澤知里, 真柄仁, 辻村恭憲, 井上誠. 唾液分泌低下がパン咀嚼時の筋活動および食塊特性に与える影響—災害時における高齢者への安全な提供方法の検討—. 一般社団法人, 日本災害食学会2024年度学術大会 2024.8.25.
 9. 板離子, 真柄仁, 落合勇人, 辻村恭憲, 井上誠. 舌筋および舌骨上筋の等尺性収縮による舌圧発揮時の筋活動様式の検討. 新潟歯学会2024年度第1回例会(新潟市), 2024.7.13.
 10. 池浦一樹, 落合勇人, 笹杏奈, 真柄仁, 辻村恭憲, 井上誠. 唾液分泌低下がもたらす種々の食品咀嚼への影響. 新潟歯学会2024年度第1回例会(新潟市), 2024.7.13.
 11. 落合勇人. 小規模多機能型居宅介護事業所にて, 看介護職員主体の支援により改善が得られた交叉性失語の一例. 第25回日本言語聴覚学会(神戸市). 2024.6.21.
 12. 落合勇人. 切れ目なく, 効果のある摂食嚥下リハビリテーションを目指して. 第11回新潟県言語聴覚学会(三条市), 2024.5.26. 【シンポジウム】
- 4 学会活動
- 1) 所属学会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会(評議員), 日本嚥下医学会, 新潟医療福祉学会, 日本音声言語医学会, 日本顎口腔機能学会, 日本サルコペニアフレイル学会, 日本老年療学会, 新潟歯学会, 日本災害食学会, にいがた摂食嚥下サポート研究会, 食とコミュニケーション研究所
 - 2) 学術集会の主催
 1. 新潟県言語聴覚士協会, 第11回新潟県言語聴覚学会, 学術大会部副部長, 三条市, 2024.5.26.
 2. 新潟医療福祉学会, 第24回新潟医療福祉学会, 会場機材手配・外部業者対応・抄録作成, 新潟市, 2024.10.26.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 一般口演 臨床研究2, 座長, 福岡市, 2024.8.30.
 2. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 一般口演 ステージ(急性期)2, 座長, 福岡市, 2024.8.31.
- 5 社会活動
- 1) 社会活動への参加協力
 1. 令和6年度 新潟県言語聴覚士会第1回研修会, 研修会運営, 座長・研修会企画運営統括, 新潟市・ときめいと, 2024.6.30.
 2. 令和6年度 新潟県言語聴覚士会第2回研修会, 研修会運営, 座長・研修会企画運営統括, 長岡市・米100俵プレイス, 2024.9.29.
 3. 令和6年度 新潟県言語聴覚士会第3回研修会, 研修会運営, 座長・研修会企画運営統括, 新潟市・NINO3, 2024.11.16.
 4. 令和6年度 新潟県言語聴覚士会主催 第2回県民フォーラム, 運営・受付, 新潟市・新潟日報メディア

アシップ, 2024.11.24.

5. 令和6年度 言語聴覚の日イベント 新潟アルビレックスBB一日冠スポンサーデー, 準備・ブース運営, 長岡市・アオーレ長岡, 2024.12.28.

2) 職能団体(協会, 士会等)の委員

日本言語聴覚士協会(生涯学習部 部員), 日本言語聴覚士協会(厚生労働科学研究費24GC1016・障害者自立支援機器開発・利活用に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデルの普及促進に関する研究・言語聴覚士人材育成プログラム検討チーム構成員), 一般社団法人新潟県言語聴覚士会(理事, 学術局長, 教育研修部長, 学術大会副部長)

6 その他の教育研究活動

1) 受賞, 学位取得, 資格取得

博士(歯学)(2025.3.24), 新潟医療福祉学会 奨励賞(2024.10.26)

7 学内委員会活動 科研費対策委員会

氏名: 谷 麻美

1 研究題目 言語発達支援についての研究, 子どもの問題行動についての研究

2 学会等研究発表

1. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語発達支援のための有効な初回スクリーニング検査の検討. 新潟医療福祉学会・第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟), 2024.10.26.
2. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語障害児の症状鑑別・確認手段としてのアセスメントの利用報告ーより迅速な訓練プログラム立案をめざしてー. 日本小児精神神経学会・第131回日本小児精神神経学会(つくば), 2024.6.22.
3. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語発達遅滞児の就学前支援. 日本言語聴覚学会・第25回日本言語聴覚学会(神戸), 2024.6.21.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本言語聴覚学会, 日本小児精神神経学会, 日本コミュニケーション障害学会, 新潟医療福祉学会, 日本発達障害支援システム学会

4 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 言語発達支援センター, 発達支援, 研究員, 新潟医療福祉大学, 2022年から現在
2. 新潟県言語聴覚士会 学校教育・発達支援連携委員会, 派遣員, 言語発達評価および通級担当教員への助言, 2023年から現在
3. 胎内市こころとことばの相談室, 発達支援, 言語聴覚士, 胎内市健康づくり課, 2024年4月から現在

2) 職能団体(協会, 士会等)の委員

日本言語聴覚士協会, 新潟県言語聴覚士会, 子どもの発達支援を考えるSTの会

5 学内委員会活動 国際交流センター運営委員, 高大医連携推進委員, 言語発達支援センター

(4) 義肢装具自立支援学科

氏名：佐藤 成登志

- 1 研究題目 腰痛・肩こりの理学療法に関する研究, ロコモ・フレイル予防に関する研究, 慢性腰痛および脊柱変形のある対象者に対する研究, 痛み・しびれ・麻痺に対する徒手的治疗の研究, 通いの場の現状および介入プログラムに関する研究, 職業性腰痛に関する研究
- 2 論文
 1. Sato N, Konish I, Kanda M, et al. Classification and comparison of the Physical Characteristics and Functions of various age groups of Community-dwelling elderly individuals participating in the Kayoi-no-ba program. J Phy. Ther. Sci. 36: 313-318, 2024 (review)
 2. Kanda M, Suda H, Maeda Y, Sato M, Sato N. Effects of remote classes on the physical health of university students during the COVID-19 pandemic. J Phy. Ther. Sci. 36: 151-154, 2024 (review)
 3. 北村拓也, 佐藤成登志. 腰部脊柱管狭窄症患者の理学療法におけるフィジカルアセスメントのポイント. 理学療法. 42(1): 22-31, 2025
 4. Terai H, Takahashi S, Hoshino M, Taniwaki H, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T. Koshimagari Exercise” for Adult spinal deformity in older adults: Assessment of home based exercise outcomes in a multicenter study. Spine Surgery and Related Reserch. 2025; 19(3): 10.22603/ssrr.2024-0273
- 3 報告書
 1. 佐藤成登志, 神田賢, 北村拓也. 基盤研究 (C), 看護・介護従事者の職業性腰痛に対する包括的腰痛予防プログラムの効果検証, 研究成果報告書, 2024, 研究代表者
 2. 佐藤成登志, 神田賢, 北村拓也. 基盤研究 (C), 高齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築, 研究成果報告書, 2024, 研究代表者
 3. 神田賢, 佐藤成登志, 北村拓也. 基盤研究 (C), 看護・介護従事者の腰痛, 頸部痛, メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証, 研究成果報告書, 2024, 研究分担者
- 4 学会等研究発表
 1. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 成人脊柱変形患者に対する運動療法の考え方と展開・適応と限界を知る -. 第21回整形外科痛みを語る会 (新潟市), 2024.7.6. (シンポジウム)
 2. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 成人変形患者に対する運動療法は変形タイプによって異なる -後弯症と後側弯症の比較-. 第32回日本腰痛学会 (千葉県), 2024.10.25. (主題)
 3. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 高齢慢性腰痛患者に対する運動療法効果は性別により異なるか. 第16回日本運動器疼痛学会 (東京都), 2024.12.1.
 4. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 脊柱変形患者に対する理学療法の展開と適応. 第32回日本腰痛学会 (千葉県), 2024.10.26. (シンポジウム)
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本理学療法士学会, 新潟県理学療法士学会 (理事・会長), 日本腰痛学会, 日本運動器疼痛学会, 理学療法科学学会, 日本MTA学会 (理事), 新潟医療福祉学会, 日本介護予防・健康づくり学会, 日本義肢装具学会, ISPO学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 新潟県理学療法士会, 第30回新潟県理学療法士学会, 士会会長, 長岡市, 2024.10.26-10.27.
 2. 日本理学療法士協会 関東甲信越協議会, 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 協議会長, 千葉市, 2024.10.5-10.6.
- 6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 非特異的腰痛に対する理学療法の理論と実際，講師，新潟県理学療法士会，理学療法士，新潟市，2024.10.12-10.13.
2. 三重県理学療法士会研修会，職業性腰痛の特徴と教育・管理，講師，三重県理学療法士会，理学療法士，鈴鹿市，2024.7.28.
3. 十日町シルバー人材センター 運動機能測定会，測定者・講師，十日町シルバー人材センター 会員，十日町市，2024.10.18.
4. 北区大学連携 未来のまちづくり事業，自身の体を知り，健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう！身体測定会，講師，新潟市北区・新潟医療福祉大学，北区住民，ラゲーナスクエア（北区），2024.7.20.
5. 北区大学連携 未来のまちづくり事業，自身の体を知り，健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう！転倒予防，講師，新潟市北区・新潟医療福祉大学，北区住民，ラゲーナスクエア（北区），2024.8.20.
6. 北区大学連携 未来のまちづくり事業，自身の体を知り，健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう！腰痛予防，講師，新潟市北区・新潟医療福祉大学，北区住民，ラゲーナスクエア（北区），2024.10.15.
7. 北区大学連携 未来のまちづくり事業，自身の体を知り，健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう！膝痛予防，講師，新潟市北区・新潟医療福祉大学，北区住民，ラゲーナスクエア（北区），2024.11.9.
8. 北区大学連携 未来のまちづくり事業，自身の体を知り，健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう！全体会，講師，新潟市北区・新潟医療福祉大学，北区住民，ラゲーナスクエア（北区），2024.12.17.
9. 健康長寿学，転ばぬ先のコツコツ運動，講師，豊栄中高齢教養大学，新潟医療福祉大学，2024.9.12.
10. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践，講師，(株) F社，社員，聖籠町，2024.7.31.
11. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践，講師，(株) S社，社員，上越市，2024.10.7.
12. 労働災害（転倒・関節痛）について，講師，医師会，産業医，長岡市，2024.11.16.
13. 労働災害（転倒・腰痛）について，講師，医師会，産業医，新発田市，2024.12.14.
14. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践，講師，(株) M社，社員，上越市，2024.12.16.
15. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践，講師，J福祉施設，社員，新発田市，2024.12.23.
16. 就労支援事業：労働災害予防のためのセミナー，安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践，講師，M工場，社員，胎内市，2024.2.7.
17. 就労支援事業：労働災害予防のための相談・指導，I運輸，社員，新潟市，2024.2.7.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞掲載，新潟日報，北区健康・防災講座関連，2024.8.7.
2. 新聞掲載，新潟日報，就労支援関連，2024.9.5.
3. 新聞掲載，新潟日報，災害関連，2024.2.19.

3) 社会活動への参加協力

1. (公社) 日本理学療法士協会・組織運営委員会，組織運営，県代表，web，2024.4-2025.3.（2回）
2. (公社) 新潟県理学療法士会・総会，会長，新潟，2024.6.9.
3. (公社) 新潟県理学療法士会・理事会，会長，新潟，2024.4-2025.3.（6回）
4. (公社) 新潟県理学療法士会・関連会議，会長，新潟，2024.4-2025.3.（25回）

5. (公社)新潟県介護福祉士会・理事会, 外部理事, web, 2024-2025.3. (2回)
6. 関東甲信越ブロック協議会・士会長会議, 県代表, web, 2024.10-2025.2. (2回)
7. 新潟県リハビリテーション専門職協議会・代表者会議, 会長, 新潟, 2024.4-2025.3. (6回)
8. 新潟県地域包括ケア支援専門職協議会・関連会議, 会長, 新潟, 2024.4-2025.3. (6回)
- 4) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員
新潟県高齢者保健福祉推進協議会(委員), 新潟県循環器病対策推進協議会(委員), 新潟県産業保健総合支援センター(産業保健相談員)
- 5) 職能団体(協会, 士会等)の委員
(公社)新潟県理学療法士会(会長・理事), 新潟県リハビリテーション専門職協議会(副会長), 新潟県地域包括ケア支援専門職協議会(会長), 新潟県介護福祉士会(外部理事), 新潟県健康づくり財団(評議員), 日本マイチューニングアプローチ学会(理事・北陸支部長), 新潟県理学療法士会産保訪問支援事業(相談員)
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2020年度(継続), 基盤研究(C), 看護・介護従事者の職業性腰痛に対する包括的腰痛予防プログラムの効果検証, 佐藤成登志・神田賢, 北村拓也
 2. 2024年度(新規), 基盤研究(C), 高齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築, 佐藤成登志・神田賢, 北村拓也
 3. 2024年度(新規), 基盤研究(C), 看護・介護従事者の腰痛, 頸部痛, メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証, 神田賢・佐藤成登志, 北村拓也
 4. 2024年度(新規), 受託研究, 腰痛対策ベルトの装着における効果・性能の実証研究, 佐藤成登志・神田賢
- 8 学内委員会活動 ロコモティブ症候群予防研究センター(センター長), 社会連携推進部長

氏名: 東江 由起夫

- 1 研究題目 1) 3Dデジタル機器を活用した義肢装具士養成教育プログラムの構築および実用化に向けた研究, 2) 客観的機器を用いた義肢ソケット適合評価研究, 3) 3D Scanner/3D Printerを活用した脳卒中片麻痺者の短下肢装具ならびに下肢切断者の義足ソケットの実用化に向けた研究など.
- 2 著書
 1. 東江由起夫, 野坂利也. 「坐骨収納型ソケットの実技セミナー ライナー編 – 正確な知識と技術を習得するために –」 セミナーテキスト. 公益社団法人 日本義肢装具士協会研修委員会 南日本支部. 2024.9.14.
- 3 論文
 1. 東江由起夫, 佐藤未希, 谷川奈々. リハビリテーション医が知っておくべき最新義肢構成パーツ「9最新の差高調整エネルギー蓄積型足部」. CLINICAL REHABILITATION, 第34巻2号, 医歯薬出版株式会社; 2025.2: 113-118.
- 4 学会等研究発表
 1. 佐藤未希, 東江由起夫, 前田雄, 郷貴博, 井上捷太, 児玉義弘. OrtenSystem TrueDepth スキャンを用いた複製ソケットの有用性, 第30回日本義肢装具士協会学術大会(さいたま市), 2024.7.13.
 2. 古舘海人, 五十嵐優輝, 東江由起夫. バウンシング膝継手における断端への衝撃分析 – 坐骨結節部及びソケット末部の比較 –, 第40回日本義肢装具学会学術大会 SRS3-2, 2024.11.9-11.10.
 3. 田鍋希妃, 東江由起夫. SHB後方足継手部の規格化, 第24回新潟医療福祉学会, 2024.10.26.
 4. 田鍋希妃, 東江由起夫. シューホーン型短下肢装具の足継手後方部の規格化, 第40回日本義肢装具学会学術大会 SRS2-4, 2024.11.9-11.10.
 5. 佐山良太, 東江由起夫, 大塚博, 大西謙吾, 今信一郎, 花房昭彦, 高木基樹, 山本紳一郎. 機械学習による大腿切断端の内部組織抽出の自動化と断端モデルの検討, 第40回日本義肢装具学会学術大会(福岡市),

2024.11.9-11.10.

6. 岩村祥平, 東江由起夫, 大塚博, 大西謙吾, 今信一郎, 花房昭彦, 高木基樹, 山本紳一郎. 有限要素解析を用いた大腿義足ソケット装着シミュレーション, 第40回日本義肢装具学会学術大会(福岡市), 2024.11.9-11.10.
7. 塚越雄大, 山本紳一郎, 高木基樹, 花房昭彦, Shahrol Mohamaddan, 東江由起夫, 大塚博, 大西謙吾. “CADモデルを用いた大腿義足静止立位時のアライメント変化時の床反力のシミュレーション評価”, 第40回日本義肢装具学会学術大会, SRS3-4, 2024.11.9-11.10.
8. 師井聡一郎, 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀. トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.
9. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田進, 須田裕紀. 短下肢装具設計支援システムの開発-3Dプリンタを用いる短下肢装具の半自動製作システムの開発と評価, 第40回日本義肢装具学会学術大会, 2024.11.9-11.10.
10. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀. 短下肢装具製作のデジタル化を目指した設計支援システムの開発と試作3Dプリンタ製装具の評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.10-3.11.
11. 大塚真緒, 東江由起夫, 大塚博, 大西謙吾, 今信一郎, 花房昭彦, 高木基樹, 山本紳一郎. 3Dプリンタ製体幹装具の製作に向けた有限要素解析. ライフサポート学会第34回フロンティア講演会(東京電機大学), 2025.3.10-3.11.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本義肢装具学会(理事), 国際義肢装具協会, 日本フットケア・足病医学会, 日本靴医学会, 日本リハビリテーション工学協会, 臨床歩行分析研究会, 日本生活支援工学会, 臨床バイオメカニクス学会, 新潟医療福祉学会, 新潟県難病支援ネットワーク
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第3回日本フットケア・足病医学会 関東・甲信越地方大会, 教育講演3「トラブル回避に欠かせない装具の知識」, 座長, 2024.4.28.
 2. 第30回日本義肢装具士協会学術大会, 特別講演SL1「からだと活動性をつなぐ義肢装具とその業域展開への期待」, 座長, さいたま市, 2024.7.13.
 3. 第30回日本義肢装具士協会学術大会, 実技セミナー「大腿義足の採型-臨床に役立つ!ソケット適合を高める採型技術のポイント-」, 講師, さいたま市, 2024.7.13-14.
 4. 第30回日本義肢装具士協会学術大会, 30周年記念講演「義肢装具士協会の誕生までの道のり」, 座長, さいたま市, 2024.7.13.
 5. 第38回日本靴医学会学術集会, 特別講演5「靴医学(医療)における義肢装具士の役割(タスクシフトを含む)」, 講師, 新潟市, 2024.9.1.
 6. 第40回日本義肢装具学会学術大会, 大会長講演「社会を支える義肢・装具・支援機器」, 座長, 福岡市, 2024.11.9.
 7. 第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, シンポジウム3「義肢装具の標準化に向けて 下肢救済分野の教育環境 義肢装具士が下肢救済に参加していくための課題」, シンポジスト, 神戸市, 2024.11.29.
 8. 日本義肢装具学会 理事会, 理事, WEB 4回, 総会 1回
 9. 日本義肢装具学会 用語委員会, 担当理事, WEB 4回
 10. 日本義肢装具学会 学術大会委員会, 委員, WEB 4回
 11. 日本義肢装具学会・日本義肢協会・日本義肢装具士協会 三団体協議会, 委員, WEB 4回
 12. 日本義肢装具士協会 理事会 WEB 3回, 対面 1回(東京)
 13. 日本義肢装具士協会 常任理事会理事会 WEB 3回, 対面 1回(東京)

14. 日本義肢装具士協会 会長・副会長会議 WEB 12回

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度 南日本支部研修セミナー，坐骨収納型ソケットの実技セミナー ライナー編 ―正確な知識と技術を習得するために―，講師，公益社団法人 日本義肢装具士協会，義肢装具士，熊本総合医療リハビリテーション学院，2024.9.14-9.16.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

厚生労働省保険局医療用装具療養費検討専門委員会委員，公益財団法人テクノエイド協会（評議委員），新潟県更生相談所（判定アドバイザー）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人日本義肢装具士協会（会長），一般社団法人日本義肢協会（外部理事），チーム医療推進協議会，日本義肢装具教育者連絡協議会

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），3Dスキャナ・3Dプリンタを導入した脳卒中片麻痺者の短下肢装具の実用化研究，研究代表者
2. 2023年度，科研費基盤研究（C），女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析，研究分担者
3. 2023年度，科研費基盤研究（C），3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究，研究分担者
4. 2024年度，科研費基盤研究（C），下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立，研究分担者
5. 2024年度，ナプテスコ株式会社共同研究 大腿義足の電子制御膝継手における随意制御の違いが歩行に与える効果 研究分担者
6. 2024年度，ニッポー株式会社共同研究，3D技術を活用した義肢装具製作支援システムに関する研究，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学大学院 自然科学研究科「人間支援科学特別講義Ⅱ」，講師 2024.4-7.

8 学内委員会活動 3D技術研究開発センター（代表），ボランティアセンター運営委員会（副委員長）新潟連携教育研究推進センター運営委員会，連係基礎ゼミ実行部会，連係総合ゼミ実行部会，連携科目対応部会，高等教育推進センター運営委員会，初年次教育推進部会，教育システム改革部会，教育開発推進部会

氏名：阿部 薫

1 研究題目 靴医学を基礎とした一般靴の開発・改良に関する研究 ―特に女性用靴・健康増進用靴・高齢者用靴に注目して―

2 著書

1. 阿部薫，こどもの足を知る・診る・守る！，初版，東京，全日本病院出版会；2024：6-11.

3 論文

1. 岡部有純，阿部薫，蓮野敢，東海林藍，高齢女性における靴の重量感覚と購買行動に関する検討．靴の医学．2023；37(2)：31-34．（査読あり）
2. 岡部有純，阿部薫，東海林藍，前田雄．女子大学生における踵の後方突出形状に関する検討．日本整形靴技術協会雑誌．2024；9：1-4．（査読あり）
3. 谷承子，阿部薫，東海林藍，岡部有純，前田雄．野球のバッティング動作時における足圧の検討 ―ピーク値と足底部位の比較―．日本整形靴技術協会雑誌．2024；9：5-8．（査読あり）
4. 阿部薫，岡部有純，東海林藍，前田雄．座位時における足底面にかかる体重比荷重量の検討．日本整形靴

技術協会雑誌. 2024 ; 9 : 9-12. (査読あり)

5. 蓮野敢, 阿部薫, 吉田桂, 高澤恭介, 中林功一. 減圧効果を有する機能性靴下とインソールの併用によりリスフラン切断の足底胼胝に効果があった一症例. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024 ; 9 : 13-16. (査読あり)
6. 中尾優希, 阿部薫, 東海林藍, 岡部有純, 前田雄. 巻き爪予防を目的とした内側縦アーチサポート使用時の母趾部足圧と遠位爪幅狭小化率の変化. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024 ; 9 : 17-20. (査読あり)
7. 清水緑, 阿部薫, 東海林藍, 岡部有純, 前田雄. トリッシュム採型時の足部挿入方向の違いによる採型形状の差異. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024 ; 9 : 21-24. (査読あり)
8. 高野美空, 阿部薫, 東海林藍, 岡部有純, 前田雄. 異なる足底観察法における浮き趾評価の比較検討. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024 ; 9 : 29-32. (査読あり)
9. 阿部遥花, 阿部薫, 岡部有純, 東海林藍, 前田雄. 座位・両足立位・片足立位時における足部寸法の変化. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024 ; 9 : 33-36. (査読あり)
10. Nakao Y, Abe K, Syoji A, Okabe A, Tani S, Maeda Y. Relationship between awareness of pincer nails and distal narrowed nail width ratio in female university students. Journal of IVO Japan 9: 37-42, 2024. (査読あり)
11. 東海林藍, 阿部薫, 岡部有純. 介護福祉士養成課程における靴教育の必要性の検討. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024 ; 9 : 43-48. (査読あり)

4 学会等研究発表

1. 阿部薫. 胼胝から読み解く足のマイナートラブル — 靴とインソールによる対処法 —. 第3回日本フットケア足病医学会関東甲信越地方会学術集会 (埼玉県さいたま市), 2024.4.28. 【特別講演】
2. 阿部薫. 足部疾患別足底装具の基本設計. 第22回足部疾患・外傷セミナー (宮城県仙台市), 2024.7.20. 【特別講演】
3. 阿部薫, 吉田桂, 高澤恭介, 蓮野敢. 糖尿病性足病変に対する既製品装具を用いたアプローチ — 除圧用インソールと足関節固定装具を用いて —. 第38回日本靴医学会学術集会 (新潟県新潟市), 2024.8.31-9.1.
4. Abe K. Interpretation and analysis of plantar pressure measurements. International Foot & Footwear Scientific Conference 2024 (Taipei, Taiwan), 2024.12.15. 【特別講演】
5. Abe K. Plantar pressure measurement implementation. International Foot & Footwear Scientific Conference 2024 (Taipei, Taiwan), 2024.12.15. 【特別講演】
6. 阿部薫, 吉田桂. 糖尿病足病変に対するインソールの工夫 — 状態変化に応じた改造 —. 第20回日本整形靴技術協会学術集会 (大阪府大阪市), 2025.2.15-2.16.
7. 阿部薫. ヒールパンプスのバッド調整. 第20回日本整形靴技術協会学術集会 (大阪府大阪市), 2025.2.15-2.16. 【特別講演】
8. Abe K. Foot disorder conference. International Foot Conference 2024 (Taipei, Taiwan), 2025.2.25. 【特別講演】

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本整形靴技術協会 (会長) (理事) (学会誌編集委員長) (大会支援委員), 日本靴医学会 (理事) (評議員) (AWARD 選考委員) (靴医学普及教育員) (査読委員), 日本フットケア足病医学会 (教育・研修委員), 日本介護福祉学会 (評議員) (査読委員), 日本介護学会, バイオメカニズム学会, 臨床歩行分析研究会, 日本義肢装具学会, 日本義肢装具士協会, 日本足育協会, 臨床フットケア研究会 (幹事), International Society for Prosthetics and Orthotics, American Academy of Orthotists and Prosthetists, Footwear Biomechanics Group: a technical group of the International Society of Biomechanics.
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本靴医学会, 第38回日本靴医学会学術集会, 大会長, 新潟県新潟市, 2024.4.1-9.1.

2. 日本整形靴技術協会，第20回日本整形靴技術協会学術大会，準備委員，大阪府大阪市，2024.4.1-2025.2.16.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本フットケア足病医学会，第3回日本フットケア足病医学会関東甲信越地方会学術集会，教育講演座長，埼玉県さいたま市，2024.4.28.
2. 日本靴医学会，第38回日本靴医学会学術集会，教育講演座長，新潟県新潟市，2024.8.31-9.1.
3. 日本義肢装具学会，第40回日本義肢装具学会学術大会，一般演題座長，福岡県福岡市，2024.11.9-11.10.
4. 日本整形靴技術協会，第20回日本整形靴技術協会学術集会，大会長講演座長，大阪府大阪市，2025.2.15-2.16.
5. 日本整形靴技術協会，第20回日本整形靴技術協会学術集会，特別講演座長，大阪府大阪市，2025.2.15-2.16.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. シューフィッター補習講座，フィッティング実習のグループワーク，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，東京都墨田区，2024.6.25.
2. 上級シューフィッター養成講座，機能性靴パッド調整技術1，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，東京都墨田区，2024.7.24.
3. シューフィッター補習講座，歩行の理解～筋肉のはたらきと靴条件の違いによる影響～，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，大阪府大阪市，2024.9.17.
4. 上級シューフィッター養成講座，機能性靴パッド調整技術2，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，東京都墨田区，2024.11.15.
5. 上級シューフィッター養成講座，機能性靴パッド調整技術3，講師，足と靴と健康協議会，靴業界関係者，東京都墨田区，2025.3.13.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. WEB，（台湾）東森新聞放送，台北市で行われた国際学会で講演した内容について取材を受けた，2025.12.1.
2. WEB，新聞，（台湾）聯合報，台北市で行われた国際学会で講演した内容について取材を受けた，2025.12.1.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人 足と靴と健康協議会（理事），台湾足鞋健康協會（榮譽顧問）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），足のねじれ変形の法則性を考慮したハイヒール靴の基本設計に関する生活支援技術の確立，研究代表者
2. 2024年度，委託研究費（株式会社ワコール），機能性パンプスの開発，研究代表者

2) 受賞，学位取得，資格取得

表彰状，生涯学習活動単位最多取得賞，日本義肢装具士協会（2024.7.14），感謝状，学術貢献，第38回日本靴医学会学術集会（2024.8.31），感謝状，学術貢献，台湾・台北榮民總醫院（2024.12.15），Certificate of Appreciation, Taipei Veterans General Hospital（2024.12.5），感謝状，國際足鞋學術研討，臺灣義肢裝具學會（2024.12.5），厚生労働省医政局長通達による日本義肢装具士協会主催 タスクシフト／シェア研修会 ―フットケア・足病分野― 修了（2025.2.4），感謝状，学術貢献，第20回日本整形靴技術協会学術大会（2025.2.16）

8 学内委員会活動 大学院委員会，研究科委員会，入試委員会，大学院入試広報委員会，大学院教育研究環境委員会，大学院教務委員会

氏名：神田 賢

- 1 研究題目 腰痛・肩こりなど生活習慣病の予防に関する研究（予防医学），脊椎後弯変形のある対象者への体幹筋持久力評価として独自のテストの考案および評価法としての確立（予防医学），職業性腰痛・職業性頸肩腕愁訴など，職業関連疾患の予防に関する研究（産業医学）

2 論文

1. Sato N, Konish I, Kanda M, et al. Classification and comparison of the Physical Characteristics and Functions of various age groups of Community-dwelling elderly individuals participating in the Kayoi-no-ba program. J Phy. Ther. Sci. 2024; 36: 313-318 (review)
2. Kanda M, Suda H, Marda Y, Sato M, Sato N. Effects of remote classes on the physical health of university students during the COVID-19 pandemic. J Phy. Ther. Sci. 2024; 36: 151-154 (review)
3. Terai H, Takahashi S, Hoshino M, Taniwaki H, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T. “Koshimagari Exercise” for Adult spinal deformity in older adults: Assessment of home based exercise outcomes in a multicenter study. Spine Surgery and Related Reserch.2025; 19(3): 10.22603/ssrr.2024-0273
4. Taniwaki H, Takahashi S, Hoshino M, Tama K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T, Terai H. Who benefits from home-based exercise for adult spinal deformity? A prospective multicenter study on clinical and radiographic predictors. European Spine Journal.2025 ; <https://doi.org/10.1007/s00586-025-08853-6>

3 報告書

1. 神田賢，佐藤成登志，北村拓也．基盤研究（C），看護・介護従事者の職業性腰痛に対する包括的腰痛予防プログラムの効果検証，研究成果報告書，2024，研究代表者
2. 佐藤成登志，神田賢，北村拓也．基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，研究成果報告書，2024，研究分担者

4 学会等研究発表

1. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志，山本智章，渡邊慶．成人脊柱変形患者に対する運動療法の考え方と展開・適応と限界を知る－．第21回整形外科痛みを語る会（新潟市），2024.7.6.（シンポジウム）
2. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志，山本智章，渡邊慶．成人変形患者に対する運動療法のタイプによって異なる・後弯症と後側弯症の比較－．第32回日本腰痛学会（千葉県），2024.10.25.（主題）
3. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志，山本智章，渡邊慶．脊柱変形患者に対する理学療法の展開と適応．第32回日本腰痛学会（千葉県），2024.10.26.（シンポジウム）
4. 北村拓也，神田賢，佐藤成登志，山本智章，渡邊慶．高齢慢性腰痛患者に対する運動療法効果は性別により異なるか．第16回日本運動器疼痛学会（東京都），2024.12.1.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会，新潟県理学療法士学会，日本運動器疼痛学会，日本腰痛学会，日本マイオチューニングアプローチ学会，新潟医療福祉学会，APTA，CPTA，KEOMT

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県理学療法士会 2024年度 領域別講習会（運動器）応用編「非特異的腰痛に対する理学療法の理論と実際」，講師，新潟市北区，2024.10.12-10.13.

2. 十日町シルバー人材センター 運動機能測定会, 測定者・講師, 十日町シルバー人材センター 会員, 十日町市, 2024.10.18.
3. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行っていきましょう! 身体測定会, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア (北区), 2024.7.20.
4. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行っていきましょう! 転倒予防, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア (北区), 2024.8.20.
5. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行っていきましょう! 腰痛予防, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア (北区), 2024.10.15.
6. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行っていきましょう! 全体会, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア (北区), 2024.12.17.
7. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, (株) I社, 社員, 新潟市北区, 2024.10.17.
8. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, (株) I社, 社員, 新発田市, 2024.12.6.
9. 就労支援事業: 労働災害予防のための相談・指導, I運輸, 社員, 新潟市, 2024.2.7.
10. 標準徒手医学会アドバンスコース講演, 「徒手療法による頸椎病態へのアプローチ」, 講師, 東京, 立川市, 2025.3.1.
11. 聖籠町山大夫コミュニティセンター講話会「知って得する今日からできる腰痛・肩痛・膝痛予防」, 聖籠町山大夫, 2025.2.26.
12. 「今後の臨床実習指導のあり方について」, 講師, (株) P社, 社員, 岩手県花巻市, 2025.1.25.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業ワーキンググループ委員
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2024年度 (新規), 基盤研究 (C), 看護・介護従事者の腰痛, 頸部痛, メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証, 研究代表者
 2. 2024年度 (新規), 基盤研究 (C), 高齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築, 研究分担者
 3. 2024年度 (新規), 受託研究, 腰痛対策ベルトの装着における効果・性能の実証研究, 佐藤成登志・神田賢
- 8 学内委員会活動 教務委員会, 国際交流委員会, 学習支援委員会, メンタルサポート委員, ロコモ予防研究センター

氏名：前田 雄

- 1 研究題目 下腿義足ソケット後壁高さがソケット適合と歩行に与える効果. 3D Scan/Printerを用いた義肢装具製作支援システムの開発. 大腿義足の電子制御膝継手における随意制御の違いが歩行に与える効果 (ナブテスコ株式会社共同研究).
- 2 論文
 1. 岡部有純, 阿部薫, 東海林藍, 前田雄, 女子大学生における踵の後方突出形状に関する検討. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024; 9巻: 1-4. (査読あり)
 2. 阿部遥花, 阿部薫, 岡部有純, 東海林藍, 前田雄, 座位・両足立位・片足立位時における足部寸法の変化.

日本整形靴技術協会雑誌. 2024；9巻：33-36. (査読あり)

3. 高野美空, 阿部薫, 東海林藍, 岡部有純, 前田雄. 異なる足底観察法における浮き趾評価の比較検討. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024；9巻：29-32. (査読あり)
4. 清水緑, 阿部薫, 東海林藍, 岡部有純, 前田雄. トリッシャム採型時の足部挿入方向の違いによる採型形状の差異. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024；9巻：21-24. (査読あり)
5. 中尾優希, 阿部薫, 東海林藍, 岡部有純, 前田雄. 巻き爪予防を目的とした内側縦アーチサポート使用時の母趾部足圧と遠位爪幅狭小化率の変化. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024；9巻：17-20. (査読あり)
6. 阿部薫, 岡部有純, 東海林藍, 前田雄. 座位時における足底面に対する体重比荷重量の検討. 日本整形靴技術協会雑誌. 2024；9巻：9-12. (査読あり)

3 学会等研究発表

1. Suda H, Maeda Y, Ohnishi K, Nakamura T, Shibata Y. RELATIONSHIP BETWEEN THE HOOK RUBBER BANDS AND TRACTION FORCE OF BODY POWERED UPPER LIMB PROSTHESIS. The 8th Asian Prosthetic & Orthotic Scientific Meeting (Malaysia), 2024.8.21-8.23.
2. 佐藤未希, 東江由起夫, 前田雄, 郷貴博, 井上捷太, 児玉義弘. OrtenSystem TrueDepth スキャンを用いた複製ソケットの有用性. 日本義肢装具士協会学術大会. 2024.7.
3. 鎌田恭子, 前田雄, 早川康之, 星野元訓, 本田智裕. 新卒義肢装具士の就職活動における併願制導入後調査報告 (第1報). 日本義肢装具士協会学術大会. 2024.7.
4. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀. 短下肢装具設計支援システムの開発－3Dプリンタを用いる短下肢装具の半自動製作システムの開発と評価, 第40回日本義肢装具学会学術大会, 2024.11.
5. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀. 短下肢装具製作のデジタル化を目指した設計支援システムの開発と試作3Dプリンタ製装具の評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.
6. 師井聡一郎, 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀. トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会 (会員), 日本義肢装具士協会 (会員), 日本義肢装具学会 (会員), 臨床歩行分析研究会 (会員), 臨床バイオメカニクス学会 (会員), 日本シーティング・コンサルタント協会 (会員), バイオメカニズム学会 (会員), 日本整形靴医学会 (会員), 日本整形靴技術協会 (会員)

2) 学術集会の主催

1. 第30回日本義肢装具士協会学術大会 実行委員, 埼玉, 2024.7.13-7.14.
2. 第30回日本義肢装具士協会学術大会 プログラム編集委員, 埼玉, 2024.7.13-7.14.
3. 日本義肢装具学会, 第40回日本義肢装具学会学術大会, プログラム委員, 福岡, 2024.11.9-11.10.
4. 第41回臨床歩行分析研究会定例会, 準備委員, 2025.3.15-3.16.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本義肢装具士協会 (学術編集委員), 2024
2. 日本義肢装具士協会 (シーティングWG委員), 2024
3. 日本義肢装具士協会 (義肢装具士業務指針改定WG委員), 2024
4. 日本義肢装具学会 (シーティング普及促進委員), 2024
5. 日本義肢装具学会 (用語委員長), 2024

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 弘光科技大學セミナー, 短下肢装具学/実習, セミナー講師, 弘光科技大學, 学生12名・社会人2名, 教員1名, 弘光科技大學 (台湾), 2024.8.26-8.29.

2. 義肢装具企業「大腿義足製作研修会」, 前田雄, PO-LINKS, 義肢装具士 2 名, 新潟県新潟市, 2024.8.8.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 空飛ぶ車いすプロジェクト, 空飛ぶ車いすサークル, 顧問, 2018.4.1-2025.3.31.
 2. 新潟医療福祉機器展, 義肢装具紹介, 2024.6.1.
- 3) 公的機関（官公庁等）の審議会, 委員会等の委員
国家検定義肢装具技能検定実技試験（検定委員）
- 4) 職能団体（協会, 士会等）の委員
日本義肢装具教育者連絡者協議会（就職活動検討委員長）, 2022-2024.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. R6 年度 公益信託今井記念海外協力基金 研究代表
 2. 2024 年度, ナブテスコ株式会社共同研究 大腿義足の電子制御膝継手における随意制御の違いが歩行に与える効果 研究分担者
 3. 2024 年度, 科研費基盤研究（C）, 3D プリントへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究, 研究代表者
 4. 2024 年度, 厚生労働行政推進調査事業（障害者政策総合研究事業）, 技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究, 研究協力者
 - 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
保護具着用管理責任者（2025.2.17）
 - 3) 学外兼務講師等
 1. 有限会社須田義肢製作所 顧問 2024.
- 7 学内委員会活動 入試委員会, 就職センター運営委員会, 化学物質管理委員会

氏名：須田 裕紀

- 1 研究題目 下腿義足ソケットのアライメントとソケット内圧力の関係, 能動義手のコントロールケーブルシステムの分析, 3D Scan/Printer を用いた義肢装具製作に関する研究
- 2 著書
 1. 日本義肢装具学会監修. 能動義手適合検査マニュアル. 東京：医歯薬出版；2025：144-161.
- 3 論文
 1. 須田裕紀, 丸山貴之, 中村隆, 厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）, 技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究, 3D 技術の運用に関する機器精度の検証, 令和 6 年度 総括・分担研究報告書, 研究分担者
 2. 浅見豊子, 大西謙吾, 大庭潤平, 須田裕紀ほか. 「能動義手適合検査表 日本版」完成報告. 日本義肢装具学会誌. 2024；40 卷(4)：303-317.
- 4 学会等研究発表
 1. 須田裕紀, 丸山貴之, 中村隆, 浅見豊子. 技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究 -3D 技術の導入と運用に関する実態調査-. 第 40 回日本義肢装具学会学術大会（福岡）, 2024.11.9-11.10.
 2. 丸山貴之, 須田裕紀, 中村隆, 浅見豊子. 技術革新を視野に入れた補装具費支給 制度のあり方のための研究 -基本工作法の運用に関する実態調査-. 第 40 回日本義肢装具学会学術大会（福岡）, 2024.11.9-11.10.
 3. 浅見豊子, 柴田八衣子, 中村隆, 須田裕紀ほか. 能動義手の適合検査. 第 40 回日本義肢装具学会学術大会（福岡）, 2024.11.9-11.10. 【ハンズオン】
 4. Suda H, Maeda Y, Ohnishi K, Nakamura T, Shibata Y. RELATIONSHIP BETWEEN THE HOOK

RUBBER BANDS AND TRACTTION FORCE OF BODY POWERED UPPER LIMB PROSTHESIS.
The 8th Asian Prosthetic & Orthotic Scientific Meeting (Malaysia), 2024.8.21-8.23.

5. 師井聡一郎, 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀, トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.
6. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀, 短下肢装具製作のデジタル化を目指した設計支援システムの開発と試作3Dプリンタ製装具の評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.
7. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田進, 須田裕紀, 短下肢装具設計支援システムの開発－3Dプリンタを用いる短下肢装具の半自動製作システムの開発と評価, 第40回日本義肢装具学会学術大会, 2024.11.

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会 (会員), 日本義肢装具士協会 (副編集委員長), 日本義肢装具学会 (会員), 臨床歩行分析研究会 (会員), 日本リハビリテーション工学協会 (会員), 国際義肢装具協会 ISPO (会員)
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本義肢装具学会, 第40回日本義肢装具学会学術大会, プログラム委員, 福岡, 2024.11.9-11.10.
 2. 第30回日本義肢装具士協会学術大会 実行委員, 埼玉, 2024.7.13-7.14.

6 社会活動

- 1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. UX新潟テレビ21, 義肢装具士の個人認証試験, 2024.3.14.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 空飛ぶ車いすプロジェクト, 空飛ぶ車いすサークル, 顧問, 2018.4.1-2023.3.31.
- 3) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員
国家検定義肢装具技能検定実技試験 (検定委員)
- 4) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
日本義肢装具士協会 (副編集委員長), 日本義肢装具学会 (義手適合判定検討委員), 国際義肢装具学会 日本支部 (事務局長)

7 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 厚生労働行政推進調査事業 (障害者政策総合研究事業), 技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究, 研究分担者
 2. 2024年度, 科研費基盤研究 (C), 3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究, 研究分担者
 3. R6年度 県民助け合い基金 研究分担者
 4. 2024年度, ナブテスコ株式会社共同研究 大腿義足の電子制御膝継手における随意制御の違いが歩行に与える効果 研究分担者
 5. 2024年度, 科研費基盤研究 (C), 下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立, 研究分担者
- 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
日本義肢装具学会飯田賞 (奨励賞・2024.11.9)

8 学内委員会活動 3D技術研究開発センター (副センター長)

氏名: 村山 稔

- 1 研究題目 脳卒中歩行障害に対する練習機器の研究開発
- 2 論文

1. Sato S, Ishikawa K, Yajima K, Nagumo H, Murayama M. Verification of the usefulness of shape acquisition using plastic casts during fabrication of a metal strut ankle-foot orthosis. The Society of Physical Therapy Science. 2024; 36(8): 430-434.
 2. Murayama M. Comparison of gait between stroke patients and healthy volunteers using knee-ankle-foot orthoses with adjustable knee flexion. The Society of Physical Therapy Science. 2024; 37(3): 107-111.
- 3 学会等研究発表
1. 村山稔. 膝屈曲可動範囲の調整可能な長下肢装具用膝継手の開発および歩行評価. 日本リハビリテーション医学会・第61回 日本リハビリテーション医学会学術集会（東京），2024.6.14.
 2. 村山稔. 膝関節の屈曲可動範囲が調整可能な長下肢装具を用いた歩行の脳卒中患者と健常者の比較. 日本義肢装具学会. 第40回 日本義肢装具学会学術大会（福岡），2024.11.9.
 3. 星歩夢, 村山稔. 軟性プラスチック材を使用した短下肢装具用Tストラップの試作と適合評価. 日本義肢装具学会. 第40回 日本義肢装具学会学術大会（福岡），2024.11.9.
 4. 佐藤心乃助, 石川広太郎, 矢嶋宏亮, 南雲悠, 村山稔. 金属支柱付き短下肢装具におけるプラスチックキャストを使用した形状取得の有用性の検証. 日本義肢装具学会. 第40回 日本義肢装具学会学術大会（福岡），2024.11.9.
- 4 学会活動
- 1) 所属学会 日本義肢装具士協会（組織率向上委員），日本義肢装具学会（編集委員），日本リハビリテーション医学会（正会員），新潟医療福祉学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. プログラム委員（第40回 日本義肢装具学会学術大会 福岡，2024.11.9-11.10）
- 5 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
 1. 講習会，脳卒中の歩行再建，講師，B.T.G研修会，医師・理学療法士・義肢装具士，on-line，2024.6.1.
 2. 講習会，脳卒中歩行障害に対する装具療法，講師，山形済生病院・船橋市立リハビリテーション病院・みどり病院・桑名病院，医師・理学療法士，オンライン，2024.6.6.
 3. 講習会，「脳卒中歩行障害に対する装具療法」第61回日本リハビリテーション医学会学術大会ブース内プレゼンテーション，講師，アライブワーク株式会社，医師・理学療法士・義肢装具士，横浜，2024.6.15.
 4. 講習会，脳卒中の歩行再建・臨床研究について，講師，B.T.G研修会，医師・理学療法士・義肢装具士，on-line，2024.7.20.
 5. 講習会，膝伸展補助具スロットルストラップの使用法，講師，西宮共立リハビリテーション病院，医師・理学療法士，兵庫，2024.10.26.
 6. 講習会，福祉用具に必要な工学的基礎，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2024.11.28.
 7. 講習会，ゼミ間研究発表会「脳卒中装具療法」，講師，大阪保健医療大学，医師・理学療法士，大阪，2024.11.30.
 8. 講習会，福祉用具に必要な材料と材料力学，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2024.12.5.
 9. 講習会，福祉用具に必要な人間工学的設計と図学の基礎，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2024.12.12.
 10. 講習会，福祉用具に必要な構造部品と機構学，講師，国際医療福祉大学，理学療法士，オンライン，2024.12.19.
 11. 講習会，理学療法士に伝えたい短下肢装具，講師，新潟県理学療法士協会，理学療法士，on-line，

2025.3.11.

12. 講習会，理学療法士に伝えたい長下肢装具，講師，新潟県理学療法士協会，理学療法士，on-line，
2025.3.13.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本義肢装具士協会（組織率向上委員），日本義肢装具学会（編集委員）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，若手研究，脳卒中片麻痺患者の歩行練習に使用する膝関節伸展補助具の効果 - 多施設研究 -，村山稔

2) 受賞，学位取得，資格取得

第3回燕三条医工連携デザインコンペティション グランプリ受賞 ※受賞学生への研究指導（2025.2.7）

7 学内委員会活動 FD・SD委員会（部会長），教務委員会（委員），学生委員会（委員），交通安全委員会（委員）

氏名：田中 惣治

1 研究題目 脳卒中者に対する短下肢装具選定基準の構築，下腿義足のアライメント調整が歩行に及ぼす影響

2 著書

1. 田中惣治 他. 一般プログラム e-learning 研究基礎コース テキスト 16-1 研究実践準備編：研究計画と実践. 第1版（電子書籍）. 東京：日本義肢装具士協会；2024：1-20

3 論文

1. 田中惣治. 筋電計によるデータ収集と解釈の進め方，理学療法. 2024; 41(11): 1040-1047

4 学会等研究発表

1. Tanaka S. Evaluating and orthotic effectiveness with a focus on muscle activity. International society for prosthetics and orthotics meeting (India +Online), 2024.9.20. 【Special lecture】
2. 田中惣治. 動作解析・筋電図. 第13回日本支援工学理学療法学術大会（東京），2024.12.7-12.8. 【特別講演】
3. 齊藤麻衣，岩田侑莉，丸山紗世，田中惣治. 継手付き短下肢装具の制動力の比較. 第40回日本義肢装具学会学術大会（福岡），2024.11.9-11.10.
4. 佐藤悠香，田中惣治，郷貴博，須田裕紀. 下腿切断者1名に対するソケット前額面アライメントの変化が歩行時の骨盤・体幹傾斜角度に及ぼす影響. 新潟医療福祉学会学術集会（新潟），2024.10.26.
5. 佐藤悠香，田中惣治，郷貴博，須田裕紀. 下腿切断者1名に対するソケット前額面アライメントの変化が歩行時の運動学・運動力学的パラメータに及ぼす影響. 第40回日本義肢装具学会学術大会（福岡），2024.11.9-11.10.
6. 山崎健治，樋口拓哉，筒井伸哉，田中惣治. 理学療法士に対する「装具療法」に関わる卒後教育への挑戦 第1報. 第30回日本義肢装具士協会学術大会（埼玉），2024.7.13-7.14.
7. 山崎健治，樋口拓哉，筒井伸哉，田中惣治. 理学療法士に対する「装具療法」に関わる卒後教育への挑戦 第2報. 第30回日本義肢装具士協会学術大会（埼玉），2024.7.13-7.14.
8. 山崎健治，樋口拓哉，筒井伸哉，田中惣治. 理学療法士に対する「装具療法」に関わる卒後教育への挑戦. 第40回日本義肢装具学会学術大会（福岡），2024.11.9-11.10.
9. 田中惣治. 筋電図. 第45回臨床歩行分析研究会定例会ワークショップ（東京），2025.3.15-3.16. 【特別講演】

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本理学療法士協会（正会員），日本義肢装具学会（正会員），International Prosthetic and Orthotics（正会員）
- 2) 学術集会の主催

1. 第45回臨床歩行分析研究会定例会, 広報委員, 東京, 2025.3.15-3.16.
 2. 第45回臨床歩行分析研究会定例会, ワークショップ担当幹事, 東京, 2025.3.15-3.16.
- 3) 学会等でのその他の活動
1. 第41回 日本義肢装具学会 特別セミナー, 研修委員 (セミナー主催補佐), 東京, 2024.8.24.
 2. 第13回 日本支援工学大会, セレクション口述 座長, 東京, 2024.12.7-12.8.
 3. 第40回 日本義肢装具学会学術大会, 一般口演8「教育・システム」座長, 福岡, 2024.11.9-11.10.
 4. 日本理学療法士協会, 専門理学療法士 口頭試問, 試験官, 東京, 2024.12.15.
 5. 第41回 日本義肢装具学会 研修セミナー 下肢切断の基本, 研修委員 (セミナー主催補佐), 岡山, 2025.3.22-3.23.
 6. 日本義肢装具学会 研修委員長, 2024.8.24, 2025.3.23日委員会開催
 7. 第50回日本臨床歩行分析研究会定例会 一般演題口述2 座長, 東京, 2025.3.16.
 8. Prosthetics and Orthotics International, POI-D-24-00049 Reviewer, 2024.4.10.
 9. Journal of Physical Therapy Science, JPTS-2024-072 Reviewer, 2024.6.10.
 10. Prosthetics and Orthotics International, POI-D-24-00102 Reviewer, 2024.8.6.
 11. Prosthetics and Orthotics International, POI-D-23-00163 Reviewer, 2024.9.23.
 12. Prosthetics and Orthotics International, POI-D-24-00159 Reviewer, 2024.12.10.
 13. Assistive Technology, UATY-2024-2218 Reviewer, 2025.3.6.
- 6 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
1. 装具療法キーマン育成プロジェクト, OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.4.8.
 2. 装具療法キーマン育成プロジェクト, OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.4.22.
 3. 三之町病院勉強会, 短下肢装具のバイオメカニクス, 講師, 田村義肢製作所, PT, 三之町病院, 2024.5.8.
 4. 装具療法キーマン育成プロジェクト, OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.6.3.
 5. 認定理学療法士(補装具)認定カリキュラム, 短下肢装具と長下肢装具の適応と実際, 講師, 済生会東神奈川リハビリテーション病院, PT, オンライン, 2024.6.10.
 6. 認定理学療法士(補装具)認定カリキュラム, 装具チェックポイントとバイオメカニクス, 講師, 済生会東神奈川リハビリテーション病院, PT, オンライン, 2024.6.10.
 7. 認定理学療法士(補装具)認定カリキュラム, 装具療法の実際と最新のエビデンス, 講師, 済生会東神奈川リハビリテーション病院, PT, オンライン, 2024.6.10.
 8. BTG研修会脳卒中者の「歩容」再建, 回復期から始める歩容再建 短下肢装具の活用, 講師, BTG研修会, PT・PO, オンライン, 2024.6.27.
 9. 鶴見リハビリテーション病院勉強会, 短下肢装具の基礎知識・装具選定に必要な知識, 講師, 鶴見リハビリテーション病院, PT, 鶴見リハビリテーション病院, 2024.6.28.
 10. 装具療法キーマン育成プロジェクト, OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.7.1.
 11. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.7.4.
 12. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.7.18.
 13. 基礎バイオメカニクスセミナー初級編, COP, 講師, インターリハ株式会社, PT・OT・Dr・POなど, オンライン, 2024.7.27.
 14. 基礎バイオメカニクスセミナー初級編, 関節モーメントとパワー, 講師, インターリハ株式会社, PT・OT・Dr・POなど, オンライン, 2024.7.28.

15. 装具療法キーマン育成プロジェクト, OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.7.29.
16. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.8.7.
17. 基礎バイオメカニクスセミナー中級編, 歩行のバイオメカニクス③観察による歩行分析, 講師, インターリハ株式会社, PT・OT・Dr・POなど, オンライン, 2024.8.17.
18. 一般プログラム e-learning 研究基礎コース 16-1 研究実践準備編: 研究計画と実践, 講師, 日本義肢装具士協会, オンライン, 2024.8.20.
19. 装具療法キーマン育成プロジェクト, OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.8.26.
20. 今さら聞けない装具療法2024, 装具療法で知っておきたいこと, 講師, パシフィックサプライ株式会社, PT・PO・Dr, オンライン, 2024.9.1.
21. 鶴岡共立リハビリテーション病院勉強会, 短下肢装具のバイオメカニクス, 講師, 鶴岡共立リハビリテーション病院, PT・OT・Dr., 鶴岡共立リハビリテーション病院, 2024.9.4.
22. 鶴岡共立リハビリテーション病院勉強会, 脳卒中者に対する短下肢装具の調整と実際, 講師, 鶴岡共立リハビリテーション病院, PT, 鶴岡共立リハビリテーション病院, 2024.9.4.
23. 座間リハビリテーション病院勉強会, バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の短下肢装具 基礎編, 講師, 座間リハビリテーション病院, PT・OT, 座間リハビリテーション病院, 2024.9.6.
24. 座間リハビリテーション病院勉強会, バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の短下肢装具 臨床応用編, 講師, 座間リハビリテーション病院, PT, 座間リハビリテーション病院, 2024.9.6.
25. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.9.12.
26. 装具療法キーマン育成プロジェクト, 実技: OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.9.23.
27. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.9.26.
28. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法①, バイオメカニクスの基礎と健常歩行, 講師, BTG 研修会, PT・PO, オンライン, 2024.10.3.
29. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.10.10.
30. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法②, 短下肢装具の基礎, 講師, BTG 研修会, PT・PO, オンライン, 2024.10.17.
31. もっとと話そう装具療法①踵接地の作り方, 踵接地と踵ロッカーを再建するために装具でできること, 講師, パシフィックサプライ株式会社, PT・PO・Dr, オンライン, 2024.10.19.
32. 装具療法キーマン育成プロジェクト, OJT・装具検討会, 講師, タムスグループ, PT, タムス浦安病院, 2024.10.21.
33. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.10.24.
34. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法③, 短下肢装具のバイオメカニクス, 講師, BTG 研修会, PT・PO, オンライン, 2024.10.31.
35. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.11.7.
36. 認定理学療法士(脳卒中)臨床認定カリキュラム, 疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編5)装具療法の実践, 講師, 宝塚リハビリテーション病院, PT, オンライン, 2023.11.2.
37. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法④ 短下肢装具の調整, 講師, BTG 研修会, PT・PO, オンライン, 2024.11.14.
38. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.11.21.
39. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑤, 長下肢装具のバイオメカニクス, 講師, BTG 研修会, PT・PO, オンライン, 2024.11.28.
40. 三之町病院勉強会, OJT研修+実技指導, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2024.12.10.
41. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑥, カットダウン, 講師, BTG 研修会,

PT・PO, オンライン, 2024.12.12.

42. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑦, 脳卒中者に対する装具療法の実際
前編, 講師, BTG研修会, PT・PO, オンライン, 2024.12.26.

43. TS-MYO Webnar, 表面筋電図を使用した脳卒中者の歩行評価, トランクソリューション株式会社,
PT・OT・PO, オンライン 2025.1.7.

44. バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の歩行と装具療法⑧, 脳卒中者に対する装具療法の実際
後編, 講師, BTG研修会, PT・PO, オンライン, 2025.1.9.

45. 船橋市立リハビリテーション病院勉強会, バイオメカニクスの観点からみた脳卒中者の長下肢装具,
講師, 船橋市立リハビリテーション病院, PT, 鶴岡共立リハビリテーション病院, 2025.1.16.

46. 長崎県理学療法士協会主催, 脳卒中片麻痺者の歩行再建のための理学療法 第1部, 講師, 長崎県理
学療法士協会, PT, オンライン, 2025.1.21.

47. 長崎県理学療法士協会主催, 脳卒中片麻痺者の歩行再建のための理学療法 第2部, 講師, 長崎県理
学療法士協会, PT, オンライン, 2025.1.28.

48. 三之町病院勉強会, 症例検討会, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2025.2.10.

49. 三之町病院勉強会, 症例検討会, 講師, 三之町病院, PT, 三之町病院, 2025.3.13.

2) 職能団体(協会, 士会等)の委員

日本義肢装具学会 研修員(委員長)

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2024, 科学研究費 基盤C, 脳卒中者に対する短下肢装具選定基準の構築, 田中惣治, 山本澄子, 須
田裕紀

8 学内委員会活動 個人情報委員会, 人権委員会, 学会誌編集委員会・学術委員会

氏名: 佐藤 未希

1 研究題目 義足使用者の性差における断端周径変化の研究, スポーツ義足のソケット評価に関する研究, 大
腿義足膝継手が歩行に及ぼす影響に関する研究

2 論文

1. 東江由起夫, 佐藤未希, 谷川奈々. リハビリテーション科医が知っておくべき最新の義肢構成パーツ 最
新の差高調整エネルギー蓄積型足部. Journal of Clinical Rehabilitation. 2025; 34巻(2号): 113-
118.

3 報告書

1. 佐藤未希. 研究基盤(C), 女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析, 研究
成果報告書, 2023-2025(研究代表者)

4 学会等研究発表

1. 郷貴博, 佐藤南, 平井萌那, 佐藤未希. 下肢切断者のQOLと心理的側面の関係性について. 第30回日本
義肢装具士協会学術大会(さいたま市), 2024.7.13-7.14.
2. 佐藤未希, 東江由起夫, 前田雄, 郷貴博, 井上捷太, 児玉義弘. OrtenSystem TrueDepthスキャンを用
いた複製ソケットの有用性. 第30回日本義肢装具士協会学術大会(さいたま市), 2024.7.13-7.14.

5 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 国際義肢装具協会, 日本義肢装具士協会, 日本義肢装具学会, 理学療法科
学学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本義肢装具学会, 学会運営, 学術大会委員, オンライン開催, 2023.12-2025.3.
2. NPO法人ハイヒール・フラミング, コミュニティ運営, 理事, オンライン開催, 2022.3-現在に至る.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度障害者職業生活相談員資格認定講習，医学的リハビリの立場から見た障害特性，講師，独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構，障害者職業生活相談員，新潟市・新潟テルサ，2024.10.17.
2. 新潟大学大学院，人間支援科学特別講義Ⅱ，講師，自然科学研究科修士学生，新潟大学大学院，2024.6.5.
3. 令和6年度パラスポーツ出前講座，講師，新発田市，新発田市東小学校4・5年生，新発田市東小学校，2023.9.12.
4. 五泉市中学校人権講演会，「障がい」って何ですか？～義肢装具を知ることで偏見をなくそう～，講師，五泉市中学生（5校），五泉市中学校各会場，五泉市・各中学校，2024.7.4.
5. 新潟市キャリア啓発授業，「人の未来をつくる～手となり足となる無限の可能性をカタチにする義肢装具士の仕事とは？～」，新潟市ニュービジネス協議会，新潟市立下山中学校1年生（111名），新潟市立下山中学校，2024.7.3.
6. 新潟市キャリア啓発授業，「人の未来をつくる～手となり足となる無限の可能性をカタチにする義肢装具士の仕事とは？～」，新潟市ニュービジネス協議会，新潟市立大形中学校3年生（148名），新潟市立大形中学校，2024.7.10.
7. 新潟市キャリア啓発授業，「人の未来をつくる～手となり足となる無限の可能性をカタチにする義肢装具士の仕事とは？～」，新潟市ニュービジネス協議会，新潟精神女子中学校3年生（54名），新潟精神女子中学校，2024.9.21.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学障がい者陸上教室，スポーツ用義足の調整，指導，新潟医療福祉大学，2017.9-現在
2. 株式会社ナプテスコ，膝継手開発フィールドテスト，被験者，新潟医療福祉大学，2016.12-現在
3. NPO法人ギソクの図書館，走行義足用足部のレンタルサービス，ギソクの図書館 認定義肢装具士，新潟医療福祉大学，2022.1-現在
4. NPO法人ハイヒール・フラミング，女性切断者コミュニティ，理事，オンライン開催，2022.4-現在
5. NHKエデュケーショナル，アイラブミー，NHK教育アニメの義足部門製作監修，オンライン開催，2024.6-10.
6. 新潟県人権・同和センター，「いのち・愛・人権」新潟パネル展，PTA講演会講師での講義内容の掲載，新潟市北区文化会館，2025.2.6-2.12.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

株式会社新潟テレビ21（放送番組審議委員），新潟ニュービジネス協議会（起業家支援委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本義肢装具学（学術大会委員），NPO法人ハイヒール・フラミング（理事）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年，研究基盤（C），女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析，研究代表者・佐藤未希.

2) 受賞，学位取得，資格取得

新潟医療福祉学会賞会頭賞（2024.6.13）

3) 学内部活動の実績

1. 障害者陸上教室 ParaTFC，第25回新潟県障害者スポーツ大会，陸上競技，8位，新潟市・新潟市陸上競技場，2024.5.4.（選手権参加者補助）

8 学内委員会活動 広報委員会，3D技術研究開発センター

氏名：郷 貴博

- 1 研究題目 大腿義足歩行に関する研究, 3D機器を用いた下腿義足ソケット設計・評価に関する研究, 3D機器を用いた短下肢装具開発に関する研究
- 2 論文
 1. 郷貴博. スポーツ義足の普及を遮る3つの壁. 生活環境・企画設計工房レター通信. 2025; 36巻: 2-4.
 2. 東江由起夫, 前田雄, 郷貴博. ニッポー株式会社共同研究, 3D技術を活用した義肢装具製作支援システムに関する研究, 2024年度 ニッポー株式会社 新潟医療福祉大学 共同研究成果報告書, 2024.4.1-2025.3.31, 研究分担者
- 3 学会等研究発表
 1. 郷貴博, 佐藤南, 平井萌那, 佐藤未希. 下肢切断者のQOLと心理的側面の関係性について. 第30回日本義肢装具士協会学術大会(さいたま市), 2024.7.13-7.14.
 2. 佐藤未希, 東江由起夫, 前田雄, 郷貴博, 井上捷太, 児玉義弘. OrtenSystem TrueDepthスキャンを用いた複製ソケットの有用性. 下肢切断者のQOLと心理的側面の関係性について. 第30回日本義肢装具士協会学術大会(さいたま市), 2024.7.13-7.14.
 3. 佐藤悠香, 郷貴博, 須田裕紀, 田中惣治. 下腿切断者1名に対するソケット前額面アライメントの変化が歩行時の運動力学的パラメータに及ぼす影響. 第40回日本義肢装具学会学術大会(福岡市), 2024.11.9-11.10.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会(会員), 日本義肢装具士協会(会員), 日本義肢装具学会(会員), 臨床歩行分析研究会(会員), 国際義肢装具協会(会員)
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本義肢装具士協会, 第30回日本義肢装具士協会学術大会一般演題, 座長, さいたま市, 2024.7.13-7.14.
 2. 日本義肢装具士協会生涯学習委員会, 委員, WEB会議, 2024.4.1-2025.3.31. (WEB 3回)
 3. 義肢装具関連3団体連絡協議会3Dデジタル技術WG, 副委員長, WEB会議, 2024.4.1-2025.3.31. (WEB 4回)
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. NPO法人ギソクの図書館, 走行義足用足部のレンタルサービス, ギソクの図書館 認定義肢装具士, 新潟医療福祉大学, 2022.1-現在
 2. 高志中等教育学校土曜活用講座, 福祉用具を活用して健康長寿を目指そう!, 講師, 新潟市立高志中等教育学校, 中学・高校生, 新潟市, 2024.6.29.
 3. 障がい者陸上教室, 講師, 新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科, 下肢切断者および一般, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.4.27, 6.30, 7.21, 10.27, 2025.2.23.
 4. 障がい者陸上教室, 講師, 新潟医療福祉大学義肢装具自立支援学科, 下肢切断者および一般, 万代島多目的広場, 2024.12.8.
 5. 新発田市小学校パラスポーツ出前講座, 講師, 新発田市, 小学生, 新発田市立二葉小学校, 2024.9.10.
 6. 新発田市小学校パラスポーツ出前講座, 講師, 新発田市, 小学生, 新発田市立七葉小学校, 2024.9.13.
 7. 新発田市小学校パラスポーツ出前講座, 講師, 新発田市, 小学生, 新発田市立東豊小学校, 2024.9.13.
 8. 広島国際大学義肢装具学専攻症例報告会, 義肢実習Ⅲプレゼンテーション, オブザーバー, 広島国際大学, 義肢装具学専攻3年生, 広島市, 2025.1.31.
 - 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. WEB新聞, 新潟日報, 車いすバスケットを体験!新潟県新発田市の児童たち, 2024.10.1.
 - 3) 社会活動への参加協力
 1. NPO法人ギソクの図書館, 走行義足用足部のレンタルサービス, ギソクの図書館 認定義肢装具士,

新潟医療福祉大学, 2022.1-現在

2. Sport in Life, 障がい者スポーツの普及, 団体員, 新潟医療福祉大学, 2021.7-現在
3. 佐渡トキマラソン2024, 障がい者スポーツ体験ブースの出展, おんてこドーム, 2024.4.20.
4. 義足製作支援, 義肢装具士, 株式会社加藤義肢, 2024.7.5.
5. NUHWスポーツフェスタ, 障がい者スポーツ体験ブースの出展, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.10.20.
6. 福祉フェス2024, 障がい者スポーツ体験ブースの出展, 万代島多目的広場, 2024.12.7-12.8.

4) 職能団体（協会, 士会等）の委員

日本義肢装具士協会生涯学習委員会（委員）, 日本義肢装具士協会生涯学習委員会カリキュラムWG（委員）,
日本義肢装具教育者連絡協議会（国家試験過去問題集編集担当）, 生活環境・企画設計工房レター通信編集
委員会（委員）, 義肢装具関連3団体連絡協議会3Dデジタル技術WG（副委員長）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, 下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立, 研究代表者
2. 2024年度, ニッポー株式会社共同研究費, 研究分担者

2) 学内部活動の実績

1. 障害者陸上教室 ParaTFC, 第25回新潟県障害者スポーツ大会, 100m走第3組, 4位入賞, 新潟市・新潟市陸上競技場, 2024.5.12.（選手権参加者補助）

7 学内委員会活動 広報委員会, 同窓会・生涯学習連携推進委員会, 3D技術研究開発センター

氏名：谷川 奈々

報告事項なし

(5) 鍼灸健康学科

氏名：粕谷 大智

1 研究題目 顔面神経麻痺に対する鍼灸の効果, 下肢痛に対する鍼灸の効果と効果機序

2 著書

1. 粕谷分担筆執. 図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ. 第二版. 東京: 文光堂; 2024年: 279-284, 843-853, 135-144.
2. 粕谷分担筆執. 図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ. 第二版. 東京: 文光堂; 2024年: 803-822.

3 論文

1. Fujiwara T, Hato N, Kasahara T, Kasuya D, et al. Japanese clinical practice guidelines for Bell's palsy (idiopathic facial palsy) - 2023 update edited by the Japan Society of Facial Nerve Research. Auris Nasus Larynx. 2024; 51(5): 840-845. (査読有)
2. 粕谷大智. 顔面神経麻痺診療-すべては笑顔のために-〜他科の先生・コメディカルの方に訊きたいこと, お願いしたいこと〜 末梢性顔面神経麻痺に対する鍼灸治療の役割. Facial Nerve Research. 2024; 43巻: 37-39. (査読有)
3. 粕谷大智. 頸肩部の痛み・こりに対する鍼灸治療 (その2) 鍼灸 (師)こそ可能なアプローチ・医療連携を見据えて 斜角筋 (呼吸補助筋)からの肩甲背神経刺激 刺鍼部位と刺入深度. 理療. 2024; 53巻4号: 16-19. (査読無)
4. 粕谷大智. 東洋医学基礎講座 鍼灸治療と多職種連携 頸肩部の痛み・こりに対する鍼灸治療 (その1) 鍼灸 (師)こそ可能なアプローチ・医療連携を見据えて後頭下筋群に対する鍼灸治療のアプローチ 刺鍼部位と刺入深度. 理療. 2024; 53巻3号: 19-23. (査読無)
5. 粕谷大智. 【リハビリテーション医療で活用できる東洋医学】リハビリテーション医療に役立つ鍼灸治療総論. Journal of Clinical Rehabilitation. 2024; 33巻1号: 34-40. (査読有)
6. 粕谷大智. 腰部脊柱管狭窄症の手術後に残存する症状に対する鍼灸治療 多職種の中における鍼灸の役割. 理療. 2024; 53巻2号: 59-62. (査読無)

4 学会等研究発表

1. 粕谷大智. 顔面神経麻痺の回復・後遺症の軽減を目的とした鍼灸治療. 第74回日本東洋医学会学術集会. 6.1. 【シンポジウム】
2. 高田光俊, 粕谷大智. プレゼンティーズムに対する鍼灸治療 (その1) モニタリング調査からみた鍼灸の可能性. 第73回全日本鍼灸学会学術集会. 5.26.
3. 林健太郎, 小糸康治, 粕谷大智. 肩こりに対する鍼灸治療の影響 触診と超音波エラストグラフィを指標として. 第73回全日本鍼灸学会学術集会. 5.25.
4. 粕谷大智. 顔面神経麻痺の2023年版診療ガイドラインからみた鍼灸の役割と可能性 顔面神経麻痺に対する鍼灸治療のエビデンスとその役割. 第49回日本東洋医学系物理療法学会. 3.2. 【パネルディスカッション】
5. 粕谷大智, 金子聡一郎. 3Dスキャナーを用いた後遺症の評価と鍼灸治療による顔面部の形状的变化. 第47回日本顔面神経学会. 7.6.
6. 金子聡一郎, 林健太郎, 堀部豪, 粕谷大智. 顔面神経麻痺の診療専門医を対象とした鍼灸に関する意識調査. 第47回日本顔面神経学会. 7.5.
7. 堀部豪, 金子聡一郎, 林健太郎, 粕谷大智. 鍼灸師を対象とした顔面神経麻痺患者に対する鍼灸治療の実態調査研究. 第47回日本顔面神経学会. 7.5.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本東洋医学会 (評議員), 日本心身健康科学会 (理事), 日本顔面神経学会 (認定委員, 編集委員, 広報委員), 現代医療臨床鍼灸研究会 (副会長)
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本顔面神経学会, 認定委員, 7月, 9月

2. 日本顔面神経学会, 編集委員, 6月
3. 日本顔面神経学会, 広報委員, 12月

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 公開講座, 医療連携 鍼灸の役割について, 講師, 函館鍼灸連絡協議会, 医療従事者, 1.27, 函館
2. 新潟就職フェア, 鍼灸の可能性, 朱鷺メッセ, 講師, 鍼灸学生, 7.21, 新潟
3. 講演会, 腰痛セミナー, 静岡県鍼灸師会, 講師, 鍼灸師, 清水市, 1.25.
4. 講演会, 脳卒中に対する鍼灸, Setsuna塾主催, 講師, 鍼灸師, web, 2.12.
5. 講演会, 眼科領域に対する鍼灸, 愛知県鍼灸マッサージ師会, 鍼灸師, web, 2.25.
6. 講演会, 腰痛・肩こりに対する鍼灸, SVM主催, 講師, 鍼灸師, Web, 1.12.
7. 講演会, 関節リウマチに対する鍼灸, Setsuna塾主催, 講師, 鍼灸師, web, 4.15.
8. 研修会, 難聴・耳鳴りに対する鍼灸, 国際鍼灸専門学校, 講師, 鍼灸師, 東京, 4.21.
9. 講演会, 顔面神経麻痺に対する鍼灸, 東日本良導絡学会主催, 講師, 医師・鍼灸師, 東京, 6.23.
10. 講演会, 糖尿病に対する鍼灸, Setsuna塾主催講師, 鍼灸師, web, 6.11.
11. 講演会, メカノレセプターのお灸, 予防鍼灸研究会, 講師, 鍼灸師, web, 6.30.
12. 講演会, 腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸, 栃木県鍼灸マッサージ師会主催, 講師, 鍼灸師, 宇都宮市, 9.1.
13. 研修会, 腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸, セイリン主催, 講師, 鍼灸師, 東京, 9.8.
14. 講演会, 電子温灸器の使用法, 村田製作所主催, 東京, 9.13.
15. 講演会, 疼痛・疲労感の治療, 頭部・顔面部の鍼灸, 広島県鍼灸マッサージ師会主催, 講師, 鍼灸師, 広島市, 10.6.
16. 研修会, 腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸, 静岡県鍼灸マッサージ師会, 講師, 鍼灸師, 静岡市, 10.27.
17. 講演会, 緩和ケアに対する鍼灸, Setsuna塾主催, 講師, 鍼灸師, web, 9.25.
18. 講演会, 腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸, 愛知県鍼灸マッサージ師会, 講師, 鍼灸師, 愛媛市, 12.1.
19. 講演会, 疼痛・疲労感の治療, 頭部・顔面部の鍼灸, 福島県鍼灸師会主催, 講師, 鍼灸師, 郡山市, 12.22.
20. 座談会, 睡眠障害と鍼灸, 日本点字図書, 講師, 鍼灸師, 東京, 12.14.
21. 研修会, 腰痛に対する鍼灸, 医療鍼灸協会主催, 講師, 講師, 医療従事者, 東京, 1.14.
22. 研修会, 腰痛に対する鍼灸, 医療鍼灸協会主催, 講師, 医療従事者, 東京, 1.14.
23. 研修会, 胃腸障害に対する鍼灸, 医療鍼灸協会主催, 講師, 医療従事者, 東京, 2.10.
24. 研修会, 頸腕症候群に対する鍼灸, 医療鍼灸協会主催, 講師, 医療従事者, 東京, 5.12.
25. 研修会, 腰下肢痛に対する鍼灸, 医療鍼灸協会主催, 講師, 医療従事者, 東京, 6.9.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. TV出演 日本テレビ カズレーザーと学ぶ 疲れないカラダを手に入れる 「ツボで本当に疲れは取れる? 脳内麻薬オピオイドの効能」 2.6.
2. TV出演 NHK ワールドJAPAN 『Medical Frontiers』生活の質を向上させるための鍼灸治療 6.17.
3. 晋遊舎ムック, ひざ痛を治す 痛みを緩和させるツボ刺激, 5.1.
4. 晋遊舎ムック, 体と脳と心の作り方, 8.1.
5. 新潟日報, にいがた人の本棚, 2.11.
6. 週刊現代 東洋医学の名医30 掲載124-133

3) 社会活動への参加協力

1. 国際鍼灸専門学校 外部評価委員会, 委員長として学校評価を行う, 東京青砥, 10.12.
2. 鍼灸学系大学協議会, 理事活動, 神戸, 神戸国際会議場, 5.26.
3. 全日本鍼灸学会学術集会, ランチョンセミナー座長, 仙台, 5.25.

4. 全日本鍼灸学会学術集会. 教育講演座長. 仙台. 5.26.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 受託研究. 東洋医学的セルフケアメソッドの開発. 愛宕福祉会介護・福祉施設

2) 学外兼務講師等

1. 日本理療専門学校, 卒後教育講座, 関節リウマチに対する鍼灸, 7.13.
2. 東京医療福祉専門学校, 東洋医学臨床論, 7.29.

氏名：江川 雅人

- 1 研究題目 高齢者の健康維持・向上のための鍼灸医学に関する研究, 高齢者疾患や虚弱化に対する鍼灸の臨床効果に関する研究

2 著書

1. Egawa M; Yamada H, Naito Y. Traditional Chinese Medicine, Alternative Medicine, and Antiaging: Acupuncture and Moxibustion and Antiaging. In Anti-Aging Medicine Basics and Clinical Practice. Singapore: Springer; 2024: 527-529.

3 論文

1. 江川雅人. フレイルと鍼灸治療－フレイルおよびガットフレイルに対する鍼灸治療の方法と位置づけ－. Tehamo. 2024; 5 (1): 31-38.

4 学会等研究発表

1. 江川雅人. 高齢者におけるフレイルと漢方医学的病態の関連について－気血津液弁証での検討－. 第11回日本サルコペニア・フレイル学会学術総会（東京）. 2024.11.2-11.3.
2. 江川雅人. 実技セミナー アトピー性皮膚炎に対する鍼灸治療. 第73回全日本鍼灸学会（仙台市）. 2024.5.25-5.26. 【教育講演】
3. 江川雅人. パーキンソン病と鍼灸. 全日本鍼灸学会東北支部認定指定AB講座（岩手県盛岡市）. 2024.9.26. 【教育講演】
4. 江川雅人. 鍼灸特別セミナー 診療ガイドラインと鍼灸治療 認知症と鍼灸治療. 第74回日本東洋医学会学術総会（大阪市）. 2024.6.1-6.2. 【教育講演】
5. 江川雅人. 鍼灸特別講義 アトピー性皮膚炎に対する鍼灸治療－中医学的弁証論治を中心に－. 経絡治療学会新潟部会2024年度特別講義（新潟市）. 2024.12.8. 【教育講演】
6. 江川雅人. 認知症に対する鍼灸治療の効果と可能性. 第24回新潟医療福祉学会（新潟市）. 2024.10.26. 【シンポジウム】
7. 江川雅人. シンポジウム 神経疾患に対する東洋医学診療の現状と今後の展望特に漢方と鍼灸の有効性と科学的根拠「パーキンソン病など神経難病に対する鍼灸治療」. 第42回日本神経治療学会（千葉市）. 2024.11.7-11.9. 【シンポジウム】
8. 江川雅人. シンポジウム 東西医療からフレイルを読み解く「認知症に対する鍼灸治療－治療の実際と可能性－」. 第24回日本早期認知症学会学術大会予防鍼灸研究会合同大会（千葉市）. 2024.11.8. 【シンポジウム】
9. 村越祐介, 江川雅人, 高野道代, 金子聡一郎, 福田晋平, 木村啓作, 久保亜抄子, 津田篤太郎, 粕谷大智. 鍼灸健康学科に所属する学生の学術大会参加に関する意識調査－全日本鍼灸学会宮城大会に参加して－. 第24回新潟医療福祉学会（新潟市）. 2024.10.26.

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 全日本鍼灸学会, 日本抗加齢医学会, 日本サルコペニア・フレイル学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第73回全日本鍼灸学会宮城大会, 一般演題「免疫・アレルギー」, 座長, 仙台市, 2024.5.24-5.26.
2. 予防鍼灸研究会第20回定例会, 講演 東洋医学と西洋医学をつなぐ気とエネルギー, 座長, 新潟市

(WEB配信), 2024.1.26.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 明治国際医療大学同窓会たには会東海支部, 令和6年度講演会「認知症や高齢者うつに対する鍼灸治療」, 講演講師, 名古屋市・名鉄グランドホテル, 2024.7.28.
2. 静岡県鍼灸師会中部支部学術講習会, 高齢者に対する鍼灸治療－フレイルや認知症に対する鍼灸治療－, 講演講師, 静岡市・静岡政労会館, 2024.8.4.
3. 新潟市豊栄地区ご近所だんぎプラス, 東洋医学で健康寿命をのばしましょう－足腰を鍛える温灸を用いたつば療法のススメー, 講演講師, 新潟市・豊栄地区公民館, 2024.10.10.
4. チーム医療体験会, 職業理解のための体験会「鍼灸治療と鍼灸師の仕事について」, 講演講師, 新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.8.6.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. NHK, NHK World, Medical Frontiers 日本の医療－アトピー性皮膚炎に対する鍼灸治療－ Acupuncture Treatment for Atopic Dermatitis, 2024.6.
2. 新潟市北区区役所だより, 「心も体も健幸プロジェクト」実施報告, 2025.3.16.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟市北区公民館まつり, 健康づくりのツボ刺激体験, 実演講師, 新潟市北区・公民館, 2024.11.24.
2. とよさか中高年教養大学「健康長寿学」, 健康長寿に活かす東洋・鍼灸医学の知恵－鍼灸治療の効果やつばセルフケアについて－, 実演講師, 新潟市北区・葛塚コミュニティーセンター, 2024.10.24.
3. 新潟市北区大学連携「体も心も健幸プロジェクト」, ミニ講座「鍼灸(しんきゅう)治療を知りましょう－新潟医療福祉大学附属鍼灸センターの紹介－」体験講座「チェックシートで『わたしの身体』を知りましょう」, 講師・実演指導, 新潟市北区ラグーナスクエア, 2024.7.22.
4. 新潟市北区大学連携「体も心も健幸プロジェクト」, ミニ講座「鍼灸の歴史と鍼灸治療具」体験講座「鍼灸治療は心地いいよ体験－あなたの気になる症状は?－」, 講師・実演指導, 新潟市北区ラグーナスクエア, 2024.8.26.
5. 新潟市北区大学連携「体も心も健幸プロジェクト」, ミニ講座「健康のため筋力・柔軟性をUpしましょう」体験講座「つば刺激による筋力と柔軟性の変化」, 講師・実演指導, 新潟市北区ラグーナスクエア, 2024.9.9.
6. 新潟市北区大学連携「体も心も健幸プロジェクト」, ミニ講義「健康のため飲み込み機能を維持しましょう」体験講座「つば刺激による口腔機能の変化」, 講師・実演指導, 新潟市北区ラグーナスクエア, 2024.10.7.
7. 新潟市北区大学連携「体も心も健幸プロジェクト」, ミニ講義「健康のためストレスを緩和しましょう」体験講座「つば刺激によるストレス状態の変化」, 講師・実演指導, 新潟市北区ラグーナスクエア, 2024.11.11.
8. 新潟市北区大学連携「体も心も健幸プロジェクト」, 3回の機能評価の総括～鍼灸治療の効果体験「鍼灸治療は心地いいよ体験－あなたの気になる症状は?－」体調チェックアンケート調査, 講師・実演指導, 新潟市北区ラグーナスクエア, 2024.12.9.

4) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員

大学設置・学校法人審議会 大学設置分科会 専門委員会(委員)

5) 職能団体(協会, 士会等)の委員

鍼灸学系大学協議会(代議員)

7 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新津高校, 探求学習, アトピー性皮膚炎に対するセルフツボ刺激の効果検証, 2024.7-2025.2.
2. 加茂暁星高校, 模擬講義 鍼灸師の仕事－医療・介護・スポーツ・美容の分野で発展する鍼灸医療－,

2024.7.3.

3. 新潟医療福祉大学, 夏の学校 鍼灸(しんきゅう)のヒミツ?ースポーツ・医療・美容で活躍する仕事ー, 2024.7.20.
- 8 学内委員会活動 広報委員会 オープンキャンパス部会(部会長), 個人情報保護委員会, 高等教育推進センター運営委員会 初年度教育部会, 新潟連携教育研究センター運営委員会

氏名: 津田 篤太郎

1 研究題目 難治性疾患(特に自己免疫疾患)の補完・統合医療

2 論文

1. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第4回)「老い」による症状への漢方の使い分け 地黄を含む漢方処方の活用法と注意点. 薬局 2024; 75巻5号 Page784-787 (査読無し)
2. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第5回) めまい・冷えに対する処方の使い分け 「実証」・「虚証」を生薬ベースで理解する 薬局 2024; 75巻6号 Page932-935 (査読無し)
3. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方 快訣ビフォーアフター(第6回) 漢方治療中に出現した検査値異常 基本的な考え方と実用的アプローチ 薬局 2024; 75巻7号 Page1117-1120 (査読無し)
4. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第7回) 妊娠出産を考えている人への漢方処方 駆血剤の使い方・切り替え方 薬局 2024; 75巻8号 Page1284-1287 (査読無し)
5. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第8回) 漢方歳時記 季節が変われば処方も変わる 薬局 2024; 75巻9号 Page1446-1449 (査読無し)
6. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第9回) "漫然処方"に陥りやすい漢方薬 ポリファーマシー処方の思わぬ落とし穴 薬局 2024; 75巻10号 Page1582-1585 (査読無し)
7. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第10回) 頑固な多汗・火照り症状に悩まされる高齢女性 複雑な病態をどう読み解くか? 薬局 2024; 75巻12号 Page2030-2033 (査読無し)
8. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第11回) かぜに葛根湯ばかりでいいの? 本来の使い方に沿った漢方薬の選び方 薬局 2024; 75巻13号 Page2214-2217 (査読無し)
9. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第12回) 「何にでも効く薬」は難しい焦点を絞った漢方薬の使い方 薬局 2024; 75巻14号 Page2380-2383 (査読無し)
10. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター(第13回) 難治性の痒みに対する漢方治療 「温める」と「冷ます」の綱引きで考える 薬局 2025; 76巻1号 Page143-146 (査読無し)
11. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方 快訣ビフォーアフター(第14回) 「かぜの予防」+「胃もたれ治療」=「リウマチの薬」??患者の「不定愁訴」にきめ細かく対応する漢方治療 薬局 2025; 76巻2号 Page291-294 (査読無し)
12. 津田篤太郎. ぐっとよくなる! 漢方処方 快訣ビフォーアフター(第15回) お血のタイプを考えた漢方処方 マイナーな漢方処方も使ってみよう 薬局 2025; 76巻3号 Page467-470 (査読無し)

3 学会等研究発表

1. 津田篤太郎. リウマチ関連疾患をどう診療するか 漢方がもたらす次のブレイクスルー T2Tを越えて 日本東洋医学会第74回学術総会(大阪) 2024.6.1. 【シンポジウム】
2. 津田篤太郎. ICD-11が拓く漢方医学の未来像 日本東洋医学会第74回学術総会(大阪) 2024.6.1. 【シンポジウム】

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会(評議員) 日本内科学会(総合内科専門医) 日本リウマチ学会(リウマチ専門医・指導医・評議員) 日本東洋医学会(漢方専門医 用語及び病名分類委員会 委員長) 日本骨粗鬆学会(認定医)・日本臨床免疫学会(免疫療法認定医)・日本アレルギー学会(アレルギー専門医) 日本医史学会 American college of physician (米国内科学会正会員)

2) 学会等でのその他の活動

1. 新潟医療福祉学会和文誌（編集委員）

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. SERLA 市民公開ウェビナー「膠原病と漢方～漢方にできること、できないこと～」演者、主催：特定非営利活動法人 免疫・膠原病の支援・教育・研究のためのネットワーク（SERLA）、一般市民向け講演、オンライン開催、2024.10.27.
2. 聖路加漢方倶楽部特別セミナー 基調講演「漢方医学の基本となる理論について」演者、主催：聖路加漢方倶楽部、対面100名・オンライン100名、聖路加国際大学大村進・美枝子記念臨床学術センター、2025.3.8.
3. 漢方がわかる看護師養成レッスン「基礎知識編①」演者、主催：株式会社ツムラ、看護師向け講演、オンライン開催、2025.3.29.

2) TV出演、ラジオ出演、新聞掲載、一般雑誌掲載等

1. 日本銀行広報誌「にちぎん」（日本銀行情報サービス局）、対談／守・破・創 西洋と東洋、最先端と伝統 異なる視点で難題解決に挑む、2024.6.25. 発刊

3) 社会活動への参加協力

1. 医療鍼灸協会：年10回の鍼灸師向けセミナー 役割：理事・演者 開催都市：東京 会場：東京医療福祉専門学校 2024.5-2025.3.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年～24年度 基盤研究（C）、漢方医学を取り入れた看護教育の評価、研究代表者：山田雅子 聖路加国際大学大学院看護学研究科教授・研究分担者：吉田千文 常磐大学看護学部教授・西村恵理奈 聖路加国際大学大学院看護学研究科助教・江口優子 国立看護大学校非常勤講師・津田篤太郎
2. 2024年度～2025年度 AMED「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業 統合医療分野における臨床研究人材育成プログラムの開発およびデータベース基盤整備のための研究 研究代表者：山本洋介 京都大学教授 研究分担者：板谷崇央 京都大学助教・鈴木雅雄 福島県立医科大学会津医療センター教授・津田篤太郎

7 学内委員会活動 学術委員会、新潟医療学会（評議員）、新潟医療学会雑誌編集委員会、同窓会・生涯学習連携推進委員会、国際交流センター運営委員会

氏名：久保 亜抄子

- 1 研究題目 侵害受容器の投射経路に関する研究、筋の感覚受容に関する研究、神経節細胞と衛星細胞との機能連関に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 久保亜抄子、神経節細胞とサテライトグリアの機能連関の電気生理学的解析、第46回日本疼痛学会（東京）、2024.11.16-11.17.
 2. Kubo A: Characterization of trigeminal ganglion neurons innervating the masseter muscle and projecting directly to the parabrachial nucleus. APPW2025 (Makuhari), 2025.3.17-3.19. 【国際学会（英語発表）】
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 国際疼痛学会、日本生理学会（評議員）、全日本鍼灸学会（編集委員）、日本疼痛学会（代議員）、日本神経科学学会、日本運動器疼痛学会、新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 全日本鍼灸学会、編集委員、学会誌掲載論文のテクニカルチェック・査読、2024.4.1-2025.3.31.
- 4 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，科研費基盤研究C，神経障害後の細胞環境依存的な衛星細胞の機能変化と三叉神経の興奮性変調機構の解明，研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究B，筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 埼玉医科大学医学部，東洋医学と西洋医学の比較文化論，2024.12.9.

5 学内委員会活動 人権委員会，動物実験委員会（副委員長），遺伝子組換え実験安全委員会（副委員長），化学物質管理委員会，運動機能医科学研究所，生物医科学分析研究センター

氏名：金子 聡一郎

1 研究題目 市中施術所および医療機関における COVID-19 後遺症の特徴の抽出と鍼灸治療の効果の検討，生殖医療に関する訓練を受けた鍼灸院を受診した児希望患者に関する調査，鍼灸師の席シャルマイノリティに関する認識の実態

2 論文

1. Kaneko S, et al. Observer-Blind Randomized Crossover Trial of Yamamoto New Scalp Acupuncture in Diagnosis and Treatment Points for Neck Pain and Shoulder Stiffness in Healthy Participants. Medical Acupuncture. <https://doi.org/10.1089/acu.2024.0003>. Published Online: 23 December 2024
2. 金子聡一郎 ら. 顔面神経麻痺の診療専門医を対象とした鍼灸に関する認識調査. Facial N Res Jpn 44 : 1-3, 2024
3. 有田龍太郎, 金子聡一郎（3 番目）ら. ー漢方医学の卒前教育に活用できる気血津液体質チェックアンケートの開発と妥当性の検討ー日本東洋医学雑誌, 75(2); 152-67, 2024
4. Ishizawa K, Kaneko S, et al. Sequential Sampling of the Gastrointestinal Tract to Characterize the Entire Digestive Microbiome in Japanese Subjects. Microorganisms 2024, 12(7), 1324. <https://doi.org/10.3390/microorganisms12071324>

3 報告書

1. 石井正, 石井祐三, 金子聡一郎. 東北大学大学院医学系研究科地域総合診療医育成寄附講座第3期中間報告書（2023.10-2025.3）

4 学会等研究発表

1. Kaneko S, et al. Literature review on acupuncture treatment for long COVID-19. 第73回全日本鍼灸学会（仙台）. 2024.5.24-5.26.
2. 金子聡一郎 ら. 顔面神経麻痺の診療専門医を対象とした鍼灸に関する意識調査. 第47回日本顔面神経学会（東京）. 2024.7.5-7.6.
3. 金子聡一郎. 【シンポジウム】緑内障に対する鍼灸治療. 2024年度現代医療鍼灸臨床研究会総会（オンライン）, 2024.4.28.
4. Kaneko S. 【シンポジウム】Clinical Acupuncture in University Hospital of Japan and Clinical Studies of Acupuncture in School of Meidicine. 第73回全日本鍼灸学会（仙台）. 2024.5.24-5.26.
5. 石井祐三, 金子聡一郎（2 番目）ら. 登米市民病院で行っている鍼灸外来と医療連携の取り組み. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（浜松）. 2024.6.7-6.9.
6. 菊地章子, 金子聡一郎（2 番目）ら. 大学病院漢方内科患者におけるうつ・不安スコアの追加解析. 第74回日本東洋医学学会（大阪）. 2024.5.31-6.2.
7. 有田龍太郎, 金子聡一郎（2 番目）ら. 男性の下痢型過敏性腸症候群患者に対する半夏瀉心湯と六君子湯の処方選択. 第74回日本東洋医学学会（大阪）. 2024.5.31-6.2.
8. 石井祐三, 金子聡一郎（2 番目）ら. 漢方薬と鍼灸治療の併用により原因不明の筋肉のこわばりが改善した1症例. 第74回日本東洋医学学会（大阪）. 2024.5.31-6.2.

9. 村上慶泰, 金子聡一郎 (3 番目) ら. 漢方医学系統講義に対し医学生はどんな着眼点や印象持つのか?. 第74回日本東洋医学学会 (大阪). 2024.5.31-6.2.
10. 石井祐三, 金子聡一郎 (2 番目) ら. 安全性を配慮し電気ていしんコードで横隔神経刺激を行った1症例. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
11. 村上慶泰, 金子聡一郎 (2 番目) ら. 統合医療講義を受けて医学生は何に對し興味や関心を示したか? テキストマイニングによる解析. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
12. 田中竜一, 金子聡一郎 (2 番目) ら. 児希望患者が有していた睡眠障害に対する鍼通電療法の効果 睡眠障害の改善に対する治療の展望. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
13. 外松恵三子, 金子聡一郎 (2 番目) ら. パニック症患者に対する治療に重要と感じたこと 鍼灸治療と目標設定を用いた1症例. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
14. 足立恵子, 金子聡一郎 (4 番目) ら. 看護介護職員が有する自覚症状に対する自己対処法アンケート調査. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
15. 米倉まな, 金子聡一郎 (4 番目) ら. 鍼灸院におけるうつと不安症状を有する患者の実態調査 (第3報) 電子システムを用いた集積. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
16. 加藤久仁明, 金子聡一郎 (4 番目) ら. オンラインを活用した開業鍼灸師による共同研究の実施 (第2報) 多施設での症例集積研究を題材として. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
17. 屋由美, 金子聡一郎 (2 番目) ら. 鍼灸治療と傾聴で関節リウマチの症状改善をサポートした一症例 若年性リウマチ患者に対して鍼灸が出来る事. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.
18. 飯田通容, 金子聡一郎 (2 番目) ら. 知的障害者家族の心身変化にあはき師が継続的に関わった一症例 コロナ渦における介護負担増によるうつ症状. 第73回全日本鍼灸学会 (仙台). 2024.5.24-5.26.

5 学会活動

- 1) 所属学会 全日本鍼灸学会 (編集部 (副部長), 関東甲信越支部学術委員), 日本東洋医学学会, 日本プライマリケア連合学会 (東北ブロック支部評議員), 日本顔面神経学会, 日本うつ病学会, 現代医療鍼灸臨床研究会 (評議員), 病鍼連携連絡協議会 (世話人)
- 2) 学術集会の主催
 1. 全日本鍼灸学会, 第73回学術大会, 実行委員プログラム委員, 仙台, 2024.5.24-5.26.
 2. 全日本鍼灸学会, 2024年度関東甲信越支部学術大会, 実行委員, 東京, 2024.11.24.

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 日本生殖鍼灸標準化機関 (JISRAM), 公開講座, 共同研究中間報告と症例報告の大切さについて, 講師, オンライン, 2024.9.29.
 2. 明治国際医療大学 には会東海支部, 学術集会, コロナ後遺症について, 講師, 名古屋, 2024.7.28.
 3. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第0回「論文から学ぶー日頃の臨床の裏付けやヒントとなる医学論文の活用ー」, 講師, オンライン, 2024.6.25.
 4. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第1回「論文から学ぶ Neurochemical mechanism of muscular pain Insight from the study on delayed onset muscle soreness」, 講師, オンライン, 2024.7.23.
 5. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第2回「論文から学ぶ Efficacy and safety of electroacupuncture for insomnia A systematic review and meta-analysis」, 講師, オンライン, 2024.8.27.
 6. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第3回「論文から学ぶ Acupuncture and counselling for depression in primary care a randomised controlled trial」, 講師, オンライン, 2024.9.24.
 7. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第4回「論文から学ぶ Components of placebo effect: randomised controlled trial in patients with irritable bowel syndrome」, 講師, オンライン, 2024.10.29.
 8. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第5回「論文から学ぶ Chronic inflammation, neutrophil activity, and autoreactivity splits long COVID」, 講師, オンライン, 2024.11.26.
 9. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第6回「論文から学ぶ Cephalic version by moxibustion for breech

- presentation」, 講師, オンライン, 2024.12.17.
10. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第7回「論文から学ぶ Use of Alternative Medicine for Cancer and Its Impact on Survival」, 講師, オンライン, 2025.1.28.
 11. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第8回「論文から学ぶ Different brain responses to electroacupuncture and moxibustion treatment in patients with Crohn's disease」, 講師, オンライン, 2025.2.25.
 12. 鍼灸師の学校, オンライン講座, 第9回「論文から学ぶ A Randomized Clinical Trial on Acupuncture Versus Best Medical Therapy in Episodic Migraine Prophylaxis The ACUMIGRAN Study」, 講師, オンライン, 2025.3.25.
 13. オンラインサロンこおちめいど, 4月臨床研究勉強会, 「テキストマイニング」, 講師, オンライン, 2024.4.18.
 14. オンラインサロンこおちめいど, 6月臨床研究勉強会, 「研究の型」, 講師, オンライン, 2024.6.20.
 15. オンラインサロンこおちめいど, 7月臨床研究勉強会, 「研究紹介」, 講師, オンライン, 2024.7.18.
 16. オンラインサロンこおちめいど, 8月臨床研究勉強会, 「測定について」, 講師, オンライン, 2024.8.15.
 17. オンラインサロンこおちめいど, 9月臨床研究勉強会, 「症例報告」, 講師, オンライン, 2024.9.19.
 18. オンラインサロンこおちめいど, 10月臨床研究勉強会, 「症例報告会」, 講師, オンライン, 2024.10.17.
 19. オンラインサロンこおちめいど, 11月臨床研究勉強会, 「論理的な文章」, 講師, オンライン, 2024.11.23.
 20. オンラインサロンこおちめいど, 1月臨床研究勉強会, 「平均について」, 講師, オンライン, 2025.1.16.
 21. オンラインサロンこおちめいど, 2月臨床研究勉強会, 「評価表」, 講師, オンライン, 2025.2.20.
 22. オンラインサロンこおちめいど, 3月臨床研究勉強会, 「相関関係と因果関係」, 講師, オンライン, 2025.3.20.
 23. 鍼灸論文抄読会, 第54回, 「Electroacupuncture improves swallowing function in a post-stroke dysphagia mouse model by activating the motor cortex inputs to the nucleus tractus solitarii through the parabrachial nuclei」, 講師/司会, オンライン, 2024.4.3.
 24. 鍼灸論文抄読会, 第55回, 「Involvement of taurine in cerebral ischemia and electroacupuncture anti-ischemia」, 講師/司会, オンライン, 2024.4.24.
 25. 鍼灸論文抄読会, 第56回, 「Needling Point Location Used in Sham Acupuncture for Chronic Nonspecific Low Back Pain: A Systematic Review and Network Meta-Analysis」, 講師/司会, オンライン, 2024.5.8.
 26. 鍼灸論文抄読会, 第57回, 「全日本鍼灸学会企画推しの抄録」, 講師/司会, オンライン, 2024.5.22.
 27. 鍼灸論文抄読会, 第58回, 「More consideration is needed for retracted non-Cochrane systematic reviews in medicine: a systematic review」, 講師/司会, オンライン, 2024.6.5.
 28. 鍼灸論文抄読会, 第59回, 「Effect of Electroacupuncture at Zusanli (ST36) on Intestinal Microbiota in Rats With Chronic Atrophic Gastritis」, 講師/司会, オンライン, 2024.6.19.
 29. 鍼灸論文抄読会, 第60回, 「Acupuncture points can be identified as cutaneous neurogenic inflammatory spots」, 講師/司会, オンライン, 2024.7.3.
 30. 鍼灸論文抄読会, 第61回, 「Electroacupuncture for ulcerative colitis patients: A meta-analysis and acupoints selection study」, 講師/司会, オンライン, 2024.7.17.
 31. 鍼灸論文抄読会, 第62回, 「Acupuncture for Chronic Radiation-Induced Xerostomia in Head and Neck Cancer: A Multicenter Randomized Clinical Trial」, 講師/司会, オンライン, 2024.8.21.
 32. 鍼灸論文抄読会, 第63回, 「Open-Label Placebo Treatment for Experimental Pain: A Randomized-

- Controlled Trial with Placebo Acupuncture and Placebo Pills」, 講師/司会, オンライン, 2024.9.4.
33. 鍼灸論文抄読会, 第64回, 「Effectiveness of electroacupuncture for skeletal muscle pain in Parkinson's disease: a Clinical randomized controlled trial」, 講師/司会, オンライン, 2024.10.16.
34. 鍼灸論文抄読会, 第65回, 「Immediate effects and duration of a short and single application of transcutaneous auricular vagus nerve stimulation on P300 event related potential」, 講師/司会, オンライン, 2024.10.30.
35. 鍼灸論文抄読会, 第66回, 「Global trends in acupuncture research: A scientometric analysis from 1980 to 2023」, 講師/司会, オンライン, 2024.11.27.
36. 鍼灸論文抄読会, 第67回, 「Effect of acupuncture on ischaemic stroke in patients with rheumatoid arthritis: a nationwide propensity score-matched study」, 講師/司会, オンライン, 2025.1.8.

2) 社会活動への参加協力

1. 北区心も身体も健幸プロジェクト「学びましょう感じましょう楽しくこちよく鍼灸治療体験講座」, 講師, 北区ラグーナスクエア, 2024.7.22.
2. 北区心も身体も健幸プロジェクト「学びましょう感じましょう楽しくこちよく鍼灸治療体験講座」, 講師, 北区ラグーナスクエア, 2024.8.26.
3. 北区心も身体も健幸プロジェクト「学びましょう感じましょう楽しくこちよく鍼灸治療体験講座」, 講師, 北区ラグーナスクエア, 2024.9.9.
4. 北区心も身体も健幸プロジェクト「学びましょう感じましょう楽しくこちよく鍼灸治療体験講座」, 講師, 北区ラグーナスクエア, 2024.10.7.
5. 北区心も身体も健幸プロジェクト「学びましょう感じましょう楽しくこちよく鍼灸治療体験講座」, 講師, 北区ラグーナスクエア, 2024.12.9.

7 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 東北大学, 学術研究員, 2024.4.1-9.30.

氏名: 木村 啓作

- 1 研究題目 スポーツ鍼灸における介入刺激方法の構築, アスリートの口腔機能と姿勢
- 2 著書
 1. 木村啓作, 村越祐介, 粕谷大智. アスリートを支えるセラピスト・トレーナーたち. 臨床スポーツ医学文光堂; 2024 41 (11): 1152-1155
- 3 論文
 1. 木村啓作, 村越祐介, 有馬義貴, 石丸圭壯, 粕谷大智. LLLT照射が痛みを有する各種アスリートの疼痛閾値に及ぼす影響. 日本レーザー治療学会誌. 2024; 22 (2): 54-59 【査読有】
- 4 学会等研究発表
 1. 木村啓作, 村越祐介, 有馬義貴, 石丸圭壯. LLLTが痛みを有する各種スポーツ選手の疼痛閾値に及ぼす影響. 日本レーザー治療学会. 2024.6.22-6.23. 【シンポジウム】
 2. 木村啓作, 村越祐介, 江玉睦明, 大森豪. アスリートに対する鍼灸治療効果の前向き調査研究-3か月間の縦断的研究-. 日本臨床スポーツ医学会. 2024.11.16-11.17.
 3. 村越祐介, 木村啓作, 石井輝, 藤本英樹, 粕谷大智. 女子陸上長距離選手における大腿骨疲労骨折の1症例-鍼灸治療初診時に疲労骨折が疑われた事例-. 全日本鍼灸学会. 2024.5.24-5.26.
 4. 村越祐介, 木村啓作, 江玉睦明, 大森豪. 大学強化指定クラブ選手に対する鍼灸治療サポート-開始から3か月間の外傷・障害特性に着目して-. 日本臨床スポーツ医学会. 2024.11.16-11.17.
 5. 村越祐介, 江川雅人, 高野道代, 金子聡一郎, 福田晋平, 木村啓作, 久保亜抄子, 津田篤太郎, 粕谷大智. 鍼灸健康学科に所属する学生の学術大会に関する意識調査-全日本鍼灸学会宮城大会に参加して-新潟医療福祉学会. 2024.10.26.

5 学会活動

- 1) 所属学会 全日本鍼灸学会, 日本臨床スポーツ医学会, 新潟医療福祉学会, ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会, 日本体力医学会, 日本磁気共鳴医学会, NSCA
- 2) 学会等でのその他の活動

1. 全日本鍼灸学会, 学術誌編集委員

6 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県鍼灸師会, 燕さくらマラソンでのランナーに対するトレーナー活動, ランナー80名対象, 燕市, 2024.4.6.
2. 新潟県鍼灸マッサージ師会, 新潟シティマラソンでのランナーに対するトレーナー活動, ランナー200名対象, 新潟市, 2024.10.13.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度, 本学研究奨励金, スポーツ傷害のスクリーニングに向けた口腔筋機能と姿勢・バランス能力の新たな総合的解析, 研究代表者

8 学内委員会活動 教務委員会, 科研費対策委員会, 図書館・学修支援委員会, アスリートサポート研究センター

氏名：高野 道代

1 研究題目 健美鍼灸についての研究

2 著書

1. 坂本歩 監修／形井秀一・全日本鍼灸学会臨床情報部安全性委員会 編／上原明仁・菊池勇哉・木村友昭・坂部昌明・新原寿志・菅原正秋・田口太郎・高野道代・恒松美香子・富田賢一・仲村正子・福田晋平・福世泰史・古瀬暢達・宮脇太郎・森田智・山崎寿也, 鍼灸安全対策マニュアル；顔面部施術の安全対策, 医歯薬出版, 2024年7月, p206-p208

3 学会等研究発表

1. 高野道代, 粕谷大智, 強化指定クラブ女性アスリートに対する健康状態や鍼灸に関する調査；全日本鍼灸学会学術大会（宮城大会）, 2024.5.26.
2. 高野道代, 金子総一郎, 粕谷大智, 粒鍼の耳介刺激による顔面部の自覚的変化と定量的変化について；新潟医療福祉学会, 2024.10.26.

4 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 公益社団法人 全日本鍼灸学会, 抗加齢学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 公益社団法人 全日本鍼灸学会 安全性委員会, 鍼灸安全性マニュアル一部作成, 2023.4-現在
2. 公益社団法人 全日本鍼灸学会 安全性委員会, 美容鍼灸安全性マニュアル検討・作成, 2023.4-現在

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. SVMオープン記念イベント, 美容鍼灸のニーズと効果それに伴うリスクマネジメント, Shinkyu Very Match, はーとふるあたご, 鍼灸師・学生, オWEB開催, 2024.3.11.
2. 鍼灸技術セミナーsetuna, 更年期障害 トークイベント, 講師, 刹那塾, 鍼灸師, オンラインWEB開催, 2024.9.18.
3. 東洋療法セミナー 美容鍼灸のニーズと効果 それに伴う主観的・客観的評価方法, 講師, 静岡県鍼灸マッサージ師会, 鍼灸師, オンラインWEB開催, 2024.9.22.
4. 第1回女性アスリート・指導者育成研修合宿, 『女性の気になる美・体・心のセルフケアを学ぼう』, 講師, 陸上連盟/新潟医療福祉大学, 陸上連盟所属アスリート・指導者・新潟医療福祉大学強化指定ク

ラブ, 新潟医療福祉大学, 2024.11.10.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー, 講座, 健美教室, 講師, 市民, 新潟市 (オンライン), 2022-2025.3.31.
2. 豊栄中高年教養大学, ツボで元気に美しく, 健康と美容セミナー, 講師, 葛塚コミュニティセンター, 2024.7.25.
3. 新潟医療福祉大学, スポーツフェスタ, スポーツ体験に来た方にツボ刺激体験, 新潟医療福祉大学, 2024.10.20.

3) 職能団体(協会, 士会等)の委員

公益社団法人 全日本鍼灸学会 安全性委員会(委員), 鍼灸系大学協議会 コアカリキュラム(委員), 疏通経絡健美学会(代表)

6 その他の教育研究活動

1) 受賞, 学位取得, 資格取得

新潟医療福祉学会 奨励賞(2024年), 粒鍼の耳介刺激による顔面部の自覚的变化と定量的変化について

2) 学外兼務講師等

1. ICM国際メディカル専門学校, 美容業界特論, 健康と美容を考える, 美容鍼灸について～美容鍼灸の基礎そして臨床へ～ 2024.9.24.

7 学内委員会活動 教務委員会, 就職センター運営委員会, 新潟連携教育研究センター運営委員会, 学内授業推進部会, 連携科目対応部会, シラバスワーキンググループ

氏名: 福田 晋平

1 研究題目 パーキンソン病に対する鍼灸治療の研究, 嚥下機能に対する鍼灸治療の研究, 鍼灸の安全性に関する研究

2 著書

1. 福田晋平; 矢野忠(編集), 坂井友実(編集), 北小路博司(編集), 安野富美子(編集). 図解鍼灸療法技術ガイドII 第2版 臨床の場で役立つ実践のすべて 2024. 初版. 東京: 文光堂; 2024年: 782-790
2. 福田晋平. パーキンソン病における鍼灸の考え方～紹介から施術まで. 東京. 日本医時新報社; 2024年: 電子コンテンツ

3 学会等研究発表

1. 福田晋平. 実技セミナー パーキンソン病に対する鍼治療. 全日本鍼灸学会総会・神戸, 2023.6.10.

4 学会活動

- 1) 所属学会 全日本鍼灸学会 正会員・安全性委員会 委員, 日本抗加齢医学会 正会員, 日本自律神経学会 正会員

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. とよさか中高年教養大学, 講師, ・鍼灸とは(11.8), 天気痛とツボ押し(11.15), 豊栄市・豊栄公民館, 11.8・11.15. (全2回)

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2019年度, 基盤研究C, パーキンソン病の嚥下障害に対する経穴刺激によるセルフケア支援モデルの開発と効果, 研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 新津高校, 探求学習. 2024.7-2025.2.

7 学内委員会活動 入試委員会, 国家試験委員会, 学生委員会, 交通安全委員会

氏名：村越 祐介

- 1 研究題目 スポーツ選手に対する鍼灸治療の有効性と安全性に関する研究，女性アスリートの月経に関連するコンディショニングに対する灸治療の可能性，学生の学会参加が教育に及ぼす影響

2 論文

1. Murakoshi Y, Fujimoto H. Survey on adverse events associated with acupuncture among American football players. Japanese acupuncture and moxibustion. 2024; Vol.18: 1-7 (査読あり)
2. 村越祐介. 新潟医療福祉大学鍼灸健康学科の取り組み～スポーツ鍼灸ケアサポートから感じた課題と問題点～. 全日本鍼灸学会雑誌. 2025年2月；75巻（1号）：25-27（査読あり）
3. 木村啓作, 村越祐介, 粕谷大智. 【アスリートを支えるセラピスト・トレーナーたち】はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師・柔道整復師 スポーツ鍼灸の取り組み，臨床スポーツ医学，2024年11月，41巻（11号）Page1152-1155（査読あり）
4. 木村啓作, 村越祐介, 有馬義貴, 石丸圭荘, 粕谷大智. 低反応レベルレーザー療法（LLLT）が痛みを有する各種アスリートの疼痛閾値に及ぼす影響. 日本レーザー治療学会雑誌. 2024年12月，22巻（2号）：54-59.（査読あり）

3 学会等研究発表

1. 村越祐介, 木村啓作, 石井輝, 藤本英樹, 粕谷大智. 女子陸上長距離選手における大腿骨疲労骨折の1症例 鍼灸治療初診時に疲労骨折が疑われた事例. 全日本鍼灸学会仙台大会. 2024.5.24-5.26.
2. 村越祐介. 若手アスレティックトレーナー・鍼灸師の現状と問題点～臨床・研究の狭間で～ 新潟医療福祉大学鍼灸健康学科の取り組み スポーツ鍼灸ケアサポートから感じた課題と問題点. 全日本鍼灸学会仙台大会. 2024.5.24-5.26.
3. 村越祐介, 江川雅人, 高野道代, 金子聡一郎, 福田晋平, 木村啓作, 久保亜抄子, 津田篤太郎, 粕谷大智. 鍼灸健康学科に所属する学生の学術大会参加に関する意識調査-全日本鍼灸学会宮城大会に参加して-. 新潟医療福祉学会. 2024.10.26.
4. 村越祐介, 木村啓作, 江玉睦明, 大森豪. 大学強化指定クラブ所属選手に対する鍼灸治療サポートー開始から3か月間の外傷・障害特性に着目してー. 日本臨床スポーツ医学会新潟大会. 11.16-11.17.

4 学会活動

- 1) 所属学会 現代医療鍼灸臨床研究会（評議委員）

2) 学会等でのその他の活動

1. 全日本鍼灸学会雑誌 査読

5 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県鍼灸師会，新潟県鍼灸マッサージ師会，燕さくらマラソン鍼灸ケアブース，運営施術担当，燕市大津川分水，2024.4.6.
2. 新潟市北区大学連携「未来のまちづくり」事業. 灸治療体験. 指導，相談，施灸，ラグーナスクエア，2024.11.11.
3. 千葉県私立昭和学院中学校女子バスケットボール部，トレーニング指導及び試合帯同，チームサポート 2024.4-2025.3.

6 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

女性アスリート検定2級（2025.3）

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校，スポーツ業界特論，2024.9.18.

7 学内委員会活動 国家試験資格試験対策委員会，社会連携推進センター運営委員会，アスリートサポート研究センター

3) 医療技術学部

(1) 臨床技術学科

氏名：渡邊 博昭

1 研究題目 若年者（大学生）の心電図検診の有用性について

2 論文

1. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. フラッシュグルコースモニタリングシステムを用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 医学検査. 2024, 74(1), 88-93. (査読あり)
2. 尾崎昌宣, 長友孝文, 前田武彦, 渡邊博昭, 高橋良光. -「医療技術薬理学」の実践的基礎教育・学習事項も構築-. 応用薬理. 2025, 108 (1/2), 7-14. (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 阿部拓也, 藤井豊, 埴晴雄, 渡邊博昭. 糖尿病病態における Sonazoid 投与の弊害. 第73回日本医学検査学会 (石川). 2024.5.
2. 阿部拓也, 藤井豊, 埴晴雄, 渡邊博昭. 超音波造影剤が主要臓器に及ぼす影響・組織学的視点からの評価-. 第49回日本超音波検査学会学術集会 (宮城). 2024.7.
3. 中野優衣, 石田優衣, 田澤颯麻, 田中鈴乃, 芳賀千紗, 渡邊博昭, 阿部拓也. 若年者における ATI および SWE の体組成との関連性の検討. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
4. 三浦涼, 武内華乃子, 牧野葵, 埴晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 渡邊博昭. 炎症性貧血ラットモデルにおける赤血球造血因子と鉄代謝の検討. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
5. 安達大輔, 清野秀, 帆苅野乃, 埴晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 江玉睦明, 渡邊博昭. 女子アスリートの鉄欠乏・貧血に関する血中および尿中ヘプシジンの検討. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
6. 阿部拓也, 渡邊博昭. 災害時における若手臨床検査技師の役割と成長 -能登半島沖地震の事例-. 第12回北日本支部医学検査学会 (宮城). 2024.12.
7. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. Freestyle Libre Pro® を用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 第12回北日本支部医学検査学会 (宮城). 2024.12.
8. 武内華乃子, 芳賀千紗, 渡邊博昭, 阿部拓也. 青年期における ATI 測定値と脂肪肝評価の課題. 第12回北日本支部医学検査学会 (宮城). 2024.12.

4 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本超音波医学会, 日本超音波検査学会, 日本不整脈心電学会, 医療の質・安全学会, 日本臨床検査教育学会 (世話人)

2) 学術集会の主催

1. 第97回新潟県臨床検査学会, 実行委員, 新潟市, 9.29.

3) 学会等でのその他の活動

1. にいがた乳腺エコー研究会第21回講習会, 統括責任者, 新潟県 (Web), 6.16.
2. にいがた乳腺エコー研究会第22回講習会, 統括責任者, 新潟県 (Web), 12.1.
3. 施設運営管理者協議会研修会, 統括責任者, 新潟市, 8.24.
4. 臨床生理部門研修会 生理検査基礎セミナー2024～心電図・呼吸機能・脳波編～, 統括責任者, 新潟市, 6.23.
5. 臨床生理部門研修会 超音波実技セミナー2024, 統括責任者, 三条市, 6.23.
6. 臨床生理部門研修会 神経生理検査セミナー2024, 統括責任者, 新潟県 (Web), 11.10.
7. 臨床生理部門研修会 循環呼吸生理セミナー, 統括責任者, 新潟県 (Web), 3.2.
8. 第17回超音波セミナー in 新潟, 実行委員, 新潟市, 3.22.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和5年度施設運営管理者協議会研修会, 新潟県臨床検査技師会の活動方針, 講師, 新潟県臨床検査技師会, 臨床検査技師, 新潟市, 2024.8.24.

2) 社会活動への参加協力

1. 公益財団法人新潟県健康づくり財団，評議委員，2024.4.1-2025.3.31.
2. 新潟県検診精度管理調査委員会，副委員長，2024.4.1-2025.3.31.
3. 新潟乳腺エコー研究会，代表責任者，2024.4.1-2025.3.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器等検診部会委員，新潟県民医療推進協議会委員

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県臨床検査技師会（会長），新潟県臨床検査技師会（表彰委員長），新潟県臨床検査技師会（災害対策委員長），新潟県臨床検査技師会（精度保証施設認定委員長），新潟県臨床検査技師会（公益委員長），新潟県臨床検査技師会（施設運営管理者協議会長）

氏名：横山 貴

- 1 研究題目 尿中剥離細胞における免疫組織学的手法を用いた各種腎・尿路疾患の病態解明，腹膜透析排液中細胞を用いた早期腹膜炎および被嚢性腹膜硬化症の検出，ファブリー病におけるポドサイト由来マルベリー細胞の効率的分取法の開発と臨床的価値，光波動場三次元顕微鏡を用いた尿沈渣検体の観察及び解析の研究，LVSEMを用いた尿沈渣成分の新たな検査アプローチの研究，若年層の潜在性鉄欠乏症の気づきチェック検査の有用性評価ならびにサロゲートマーカーの探索研究

2 著書

1. 横山貴：編集 宿谷賢一．見て学ぶ一般検査学アトラス外観検査から顕微鏡検査まで．3 穿刺液検査 CAPD 排液 CAPD 排液の外観検査．第 1 版第 1 刷．東京都：株式会社医学書院；2024 年 7 月：138-139.
2. 横山貴：編集 宿谷賢一．見て学ぶ一般検査学アトラス外観検査から顕微鏡検査まで．3 穿刺液検査 CAPD 排液 CAPD 排液の顕微鏡検査．第 1 版第 1 刷．東京都：株式会社医学書院；2024 年 7 月：140-152.
3. 横山貴：編集 宿谷賢一，編集協力 下澤達雄．疾患・病態を理解する尿沈渣レファレンスブック．非上皮性悪性細胞類．第 1 版第 1 刷．東京都：株式会社医学書院；2025 年 1 月：（印刷中）.
4. 横山貴：金井正光監，奥村伸生，戸塚実，本田孝行，矢富裕編．臨床検査法提要．第 3 章 穿刺液（I）．改訂第 3 版．東京都：金原出版株式会社；2025 年 1 月：（印刷中）.

3 論文

1. 横山貴，塚原祐介，星野純一．尿沈渣．臨床検査．2024 年；68（4）：1156-1160.
2. Ushio Y, Yokoyama T, Manabe S, Seki M, Kawaguchi Y, Kobayashi S, Makabe S, Seino H, Ito N, Nakayama H, Horita S, Kataoka H, Taneda S, Honda K, Hoshino J. Urinary casts containing crystals in light chain proximal tubulopathy. Kidney International. 2024 年；106：999. <https://doi.org/10.1016/j.kint.2024.05.014>
3. 横山貴，服部元史．尿所見からわかること．小児科診療．2024 年；87（6）：623-628.
4. 横山貴．尿沈渣検査と尿細胞診の合わせ技－高異型度尿路上皮癌を見逃さないための検査．Medical Technology．2024 年；52（11）：1169-1175.
5. 横山貴．臨床検査技師のための資格ガイド 日本臨床一般検査学会編 第 1 回認定尿沈渣検査技師．Medical Technology．2025 年；53（1）：101-103.
6. 横山貴．糸球体上皮細胞傷害の可視化技術．腎と透析．2025 年；98（3）：307-312.

4 学会等研究発表

1. 横山貴．スイーツセミナー 2 マルベリー細胞・小体検出の実際．日本医学検査学会・第 73 回日本医学検査学会（金沢市），2024.5.11.
2. 横山貴．[臨床一般部門 シンポジウム 4] AI 時代に生き残る臨床一般検査のスーパースペシャリストをどう育成するか 尿沈渣．日本医学検査学会・第 73 回日本医学検査学会（金沢市），2024.5.12.

3. 横山貴, ランチョンセミナー11 臨床検査技師だからこそできる透析回避メッセージ. 日本医学検査学会・第73回日本医学検査学会(金沢市), 2024.5.12.
4. 兵頭彩乃, 本多叶奈, 横山貴, 松田和樹. 尿中深・中層系扁平上皮細胞のデジタルイメージングソフトウェアを用いた細胞解析. 第97回新潟県臨床検査学会(新潟市), 2024.9.29.
5. 市川和, 木立真夢, 小日向花香, 横山貴, 桐生あずさ, 齋藤直子. 尿中丸細胞型尿細管上皮細胞のデジタルイメージングソフトウェアを用いた細胞解析. 第97回新潟県臨床検査学会(新潟市), 2024.9.29.
6. 阿部倫果, 一久紋花, 横山貴, 村田直之. 尿中深・中層系扁平上皮細胞のデジタルイメージングソフトウェアを用いた細胞解析. 第97回新潟県臨床検査学会(新潟市), 2024.9.29.
7. 深谷響己, 横山貴, 齋藤温, 星山良樹. 尿中深・重症心不全・腎虚血に伴う高度尿細管障害にて洋梨・紡錘型尿細管上皮細胞を認めた一例. 令和6年度日臨技北日本支部医学検査学会(第12回)(仙台市), 2024.12.14.
8. 横山貴. デジタルイメージングソフトウェアを用いた尿中に剥離した上皮細胞の輝度解析. 第97回新潟県臨床検査学会(新潟市), 2024.9.29.

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本臨床衛生検査技師会(査読員), 日本臨床細胞学会, 日本医療検査科学会(評議員), 日本臨床腎移植学会, 日本臨床一般検査学会(理事・認定尿沈渣検査技師認定委員会 委員長), 日本臨床検査学教育学会, 日本臨床化学会, 生物試料分析科学会

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. ハンズオンセミナー ファブリー病における学び, マルベリー小体・細胞を観察する, 百聞は一見に如かず! カメラ付き顕微鏡を用いたマルベリー細胞・小体検出の技術指導, 講師, サノフィ株式会社, 日本臨床衛生検査技師会会員, TKP金沢駅新幹線口会議室, 2024.5.10.
2. 第2回EIKEN一般検査セミナーin新潟, ドキドキ! 初心者から指導者による力量共有スライドカンファレンス, 講師, 栄研化学株式会社, 日本臨床衛生検査技師会会員, 新潟ユニゾンプラザ(大研修室), 2024.6.22.
3. 第2回EIKEN一般検査セミナーin新潟, 特別講演 社大連携! 身近な尿沈渣症例におけるエビデンスの構築, 講師, 栄研化学株式会社, 日本臨床衛生検査技師会会員, 新潟ユニゾンプラザ(大研修室), 2024.6.22.
4. (一社)広島県臨床検査技師会2024年度第1回一般部門研修会, 上皮細胞を見極める～細胞鑑別について再認識しよう～, 講師, 一般社団法人広島県臨床検査技師会臨床一般部門, 一般社団法人広島県臨床検査技師会会員, JR広島病院, 2024.7.6.
5. (一社)新潟県臨床検査技師会臨床一般部門研修会, 尿沈渣実技講習, 実務委員, (一社)新潟県臨床検査技師会臨床一般部門, (一社)新潟県臨床検査技師会会員, 新潟薬科大学新津キャンパスD301実習室, 2024.8.25.
6. 第123回(一社)新潟県臨床検査技師会上越支部秋季研修会, 血尿・白血球尿を担当医に正しく伝えるために・尿沈渣実技講習, 講師・実務委員, (一社)新潟県臨床検査技師会上越支部, (一社)新潟県臨床検査技師会会員, 新潟県立中央病院2階講堂, 2024.8.31.
7. シスメックスユリナリシスセミナー2024 vol.1, 夜間・休日帯における救急領域で見るべき, 鑑別すべき, 報告すべき尿沈渣はこれだ!, シスメックス株式会社 日本・東アジアマーケティング部, 日本臨床衛生検査技師会会員, 大阪府, WEBセミナー(Live配信), 2024.9.7.
8. 腎・泌尿器検査研究会WEBセミナー2024, 糖尿病と尿検査, 講師, 腎・泌尿器検査研究会, 腎・泌尿器検査研究会会員, 栄研化学株式会社本社, 2024.10.24.
9. 令和6年度第1回下越支部研修会, 日常業務や当直時に注意すべきポイント, 講師, 新潟県臨床検査技師会下越支部, 新潟県臨床検査技師会会員, 新潟医療福祉大学第6研究・実習棟4階N401・N402, 2024.11.16.

10. 第34回首都圏支部・関甲信支部合同一般検査研修会，もうこれで迷わない！赤血球形態の鑑別のコツ，講師，東京都臨床検査技師会一般検査研究班，首都圏支部・関甲信支部臨床検査技師会会員，文教学院大学本郷キャンパス，2024.11.23.
11. 一般検査セミナーEIKEN 2024, Educational Lecture 産学連携で拓く尿沈渣を用いた新たなアプローチ検査法，講師，栄研化学株式会社，日本臨床衛生検査技師会会員，丸ビル7Fコンファレンススクエア，2023.12.2.
12. 日本臨床一般検査学会尿沈渣プログラム，ハイレベル尿沈渣鏡検術 異型細胞類，講師，日本臨床一般検査学会，日本臨床一般検査学会会員，藤田医科大学，2025.1.18.
13. 日本臨床一般検査学会尿沈渣プログラム，スライドカンファレンス，講師，日本臨床一般検査学会，日本臨床一般検査学会会員，藤田医科大学，2025.1.18.
14. モンゴル国における尿沈渣フォトサーベイ研修会，上皮細胞・異型細胞，シスメックス株式会社 日本・東アジアマーケティング部，モンゴル国外部精度管理活動委員会会員，シスメックス株式会社新潟営業所 WEBセミナー（Live配信），2025.1.30.
15. 腎・泌尿器検査研究会第20回学術集会，シンポジウム 尿沈渣検査から薬剤性腎障害を捉えるⅠ（薬物結晶以外），講師，腎・泌尿器検査研究会会員，慶應義塾大学医学部 北里行動，2025.2.2.
16. 令和6年度山形県臨床検査技師会臨床一般部門研修会，これだけは知ってほしい！実臨床における病態把握アシスト成分と報告所見，講師，山形県臨床検査技師会会員，山形大学医学部 第一講義室，2025.2.15.
17. 疾患研修会，透析回避！尿検査から新たなアプローチ，講師，アミカス・セラピューティクス株式会社社員，アミカス・セラピューティクス株式会社 本社会議室，2025.3.17.
18. モンゴル国における尿沈渣フォトサーベイ報告会，異型細胞の鑑別，シスメックス株式会社 日本・東アジアマーケティング部，モンゴル国外部精度管理活動委員会会員，ホテルメッツ新潟 WEBセミナー（Live配信），2025.3.21.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟清陵高校，出張講義，講師，新潟市，新潟清陵高校，2024.10.9.
2. 富山県臨床検査技師会，検査と健康展 in TOYAMA，新潟医療福祉大学医療技術学部臨床技術学科紹介，富山市，グランドプラザ（富山大和前），2024.11.4.
3. 新潟大学医歯学総合病院検査部一般検査技術指導，2回/月.
4. 済生会新潟病院検査部一般検査技術指導，1回/月.
5. 新潟聖籠病院検査部一般検査技術指導，1回/月.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

都立学校校検診検討会腎臓・糖尿病検診検討部会（委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人全国労働衛生団体連合会臨床検査専門委員会尿検査分野委員，公益社団法人日本臨床検査標準協議会・尿検査標準化委員会委員

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，共同研究，大塚電子株式会社，光波動場三次元顕微鏡を用いた尿沈渣検体の観察及び解析の研究，横山貴
2. 2024年度，共同研究，栄研化学株式会社，若年層の潜在性鉄欠乏症の気づきチェック検査の有用性評価ならびに鉄代謝マーカーの探索研究，横山貴

2) 学外兼務講師等

1. 桐蔭横浜大学医用工学部，一般検査学実験，2024.11.2，11.9，12.21.（全3回，6コマ）
2. 東京女子医科大学医学部，セグメント4腎尿路系1・尿沈渣実習，2025.1.7，1.10，1.14，1.16.（全4回，8コマ）

8 学内委員会活動 社会連携推進委員会, 国家試験事務処理委員

氏名：川村 宏樹

- 1 研究題目 マクロファージにおけるNF- κ B抑制因子による炎症反応の制御機構, 悪性腫瘍治療患者における輸血検査偽陽性に対する新規回避法の確立
- 2 論文
 1. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. フラッシュグルコースモニタリングシステムを用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 医学検査. 2024, 74(1), 88-93.
 2. 川村宏樹. 基盤C, 多発性骨髄腫患者にて分子標的薬ダラツムマブによる輸血検査偽陽性の新規回避法の確立, 研究成果報告書, 2021-2024年度, 研究代表者)
- 3 学会等研究発表
 1. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. Freestyle Libre Pro®を用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 第12回北日本支部医学検査学会 (宮城). 2024.12.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本免疫学会, 日本寄生虫学会, 日本生体防御学会
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 臨床検査技体験授業, 臨床検査技師ってなに?, 講演, 福島県臨床検査技師会, 中学生, 会場: 会津若松市立第六中学校, 2025.2.18.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 令和6年輸血検査技術講習会, 新潟県臨床検査技師会, 会場運営, 会場: 新潟医療福祉大学, 2025.7.21.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2021年度, 科研費基盤研究 (C), 多発性骨髄腫患者にて分子標的薬ダラツムマブによる輸血検査偽陽性の新規回避法の確立 (研究代表者)
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟大学大学院医歯学総合研究科ウイルス学分野, 客員研究員, 2023.4.1-2024.3.31.
- 7 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会, PCRセンター運営委員会 (副委員長), 入試委員会

氏名：齋藤 憲

- 1 研究題目 がん浸潤転移メカニズムの研究, ペプチド創薬の開発研究
- 2 論文
 1. Mitsui A, Iioka H, Yiwei Ling, Okuda S, Kurose A, Michael Schopperle, Kondo T, Sakaguchi M, Saito K, Kondo E. Pathological and Biological Significance of the Specific Glycan, TRA-1-60, on Aggressive Gastric Adenocarcinoma. Laboratory Investigation 2024 104(7) 102073
- 3 学会等研究発表
 1. 齋藤憲, 近藤英作. PLOD2標的ペプチドによる骨肉腫の浸潤抑制, 第83回 日本癌学会学術総会 (福岡), 2024.9.19-9.21.
 2. 齋藤憲, 水酸化酵素PLOD2を標的とするがん浸潤転移抑ペプチドの開発, 第97回 日本生化学会大会 (横浜), 2024.11.6-11.8.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本生化学会, 日本癌学会, 日本がん分子標的治療学会
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2024年度, 基盤 (C), 骨肉腫透過ペプチドによる新しい骨肉腫細胞機能の解明と創薬開発, 研究代表
- 表
- 6 学内委員会活動 遺伝子組換え実験安全委員会 (委員長), 学術委員会

氏名: 深澤 友雄

- 1 研究題目 リアルタイム生体計測データ分析による健康指標特徴抽出
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 電子情報通信学会, 情報処理学会
- 3 学内委員会活動 FD・SD推進委員会

氏名: 埜 晴雄

- 1 研究題目 アスリートの貧血・鉄欠乏の研究 (医学), 慢性炎症による貧血のメカニズムに関する研究 (医学)
- 2 学会等研究発表
 1. 埜晴雄, 稲葉洋美, 星野美美, 江玉睦明, 関根千恵, 菊元孝則, 石垣智恒, 松浦由生子, 大森豪. 女子アスリートの貧血・鉄欠乏の実態とヘプシジンの意義. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟). 2024.11.16. 【シンポジウム】
 2. 三浦涼, 武内華乃子, 牧野葵, 埜晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 渡邊博昭. 炎症性貧血ラットモデルにおける赤血球造血因子と鉄代謝の検討. 第97回新潟県臨床検査学会. 2024.9.29.
 3. 清野秀, 安達大輔, 帆刈野乃, 埜晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 江玉睦明, 渡邊博昭. 女子アスリートの鉄欠乏・貧血に関する血中および尿中ヘプシジンの検討. 第97回新潟県臨床検査学会. 2024.9.29.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本内科学会, 日本循環器学会, 日本心不全学会 (代議員), 日本心臓病学会 (FJCC), 国際心臓研究会, 日本遺伝子診療学会, 新潟医学会, 新潟医療福祉学会, 日本臨床スポーツ医学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, シンポジウム, 座長, 新潟市, 2024.11.16.
 2. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 一般演題, 座長, 新潟市, 2024.11.16.
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー 新潟市中体連部活動指導者エキスパート養成講座, 新潟市中学校体育連盟, 新潟市中学校保健体育, 部活動指導者, 新潟市, 2023.5.31.
 2. 第1回新潟スポーツケアナース認定講座, 新潟県スポーツ医・科学コンソーシアム/新潟医療福祉大学/新潟リハビリテーション病院, 新潟市, 2024.10.5.
 3. 令和6年度スポーツ指導者研修会, 公益財団法人新潟市スポーツ協会・新潟市, 新潟市, 2025.1.28.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 競技会の救護支援, 医科学部長, 新潟, 2024.4・2025.3.
 2. 第108回日本陸上競技選手権大会, 救護, 新潟市, 2024.6.30.
 3. 第40回新潟シティマラソン2024, 救護, 新潟市, 2024.10.13.
 4. スポーツフェスタ, 救護, 新潟市, 2024.10.20.
 5. 新潟ハーフマラソン2023, 救護支援, 総務員 救護, 新潟市, 2025.3.16.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 基盤研究◎, 女子アスリートの鉄欠乏, 貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明, 研究代表者
 2. 2024年度, 基盤研究◎, MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用, 研究分担者

3. 2024年度, 基盤研究©, 共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発, 研究分担者
4. 2024年度, 基盤研究©, NASHの革新的な予防法・治療法の確立に関する研究: 脂肪を摂って脂肪を取る, 研究分担者
- 6 学内委員会活動 健康管理センター運営委員会(委員長), 安全衛生委員会, アスリートサポート研究センター

氏名: 丸野 透

報告事項なし

氏名: 高野 操

報告事項なし

氏名: 高橋 良光

- 1 研究題目 血液浄化用バスキュラーアクセスの開発(医用工学), 超音波診断装置を用いた穿刺成功率の評価(医用工学), 透析用穿刺針の形状解析と定量的評価(医用工学), 国際緊急援助活動に用いる医療機器に必要な点検および管理方法の検討(災害医療), 携帯電話の電波が医療機器の動作に与える影響(医用工学)
- 2 著書
 1. 高橋良光ほか. クエスチョン・バンク 臨床検査技師2024. 1. 東京: メディックメディア; 2024: 28-38
 2. 高橋良光ほか. 臨床工学技士国家試験第1回模試 1. 東京: 日本臨床工学技士教育施設協議会; 2024: 1-10
 3. 高橋良光ほか. 臨床工学技士国家試験第2回模試 1. 東京: 日本臨床工学技士教育施設協議会; 2024: 1-10
 4. 高橋良光ほか. 臨床工学技士国家試験第3回模試 1. 東京: 日本臨床工学技士教育施設協議会; 2024: 1-10
- 3 論文
 1. 尾崎昌宜, 長友孝文, 前田武彦, 渡邊博昭, 高橋良光. 医療技術領域における薬理学教育・「医療技術薬理学」の実践的基礎教育・学習事項の構築-. 応用薬理. 2025; 108: 7-14.
- 4 報告書
 1. 高橋良光. 基盤研究(C), 透析用カテーテルの機能不全を誘発する予測因子の解明, 科学研究費助成事業実施状況報告書, 2024-2027・研究代表者
- 5 学会等研究発表
 1. 増子弘明, 高橋良光, 森田邦恵, 阿部拓也, 伊藤中堯, 前田順子, 江ヶ嵯梓, 金子京平, 藤井豊. 内視鏡自動洗浄消毒装置の「送気の単独工程機能」の有用性について～内視鏡スコープ内部管路内の清浄度調査の観点から～. 第63回日本生体医工学会大会(鹿児島), 2024.5.23-5.25.
 2. 高橋良光, 石黒蒼衣, 災害時に在宅人工呼吸器回路の仕様が発電機の稼働時間に与える影響, 第46回日本呼吸療法医学会, 天童市市民プラザ 山形, 2024.6.23-6.24.
 3. Takahashi Y, Yanagisawa M, Momose N, Yamamoto S, Narita I. Reduced dysfunction of hemodialysis catheters via a blood flow control system ~an ex vivo evaluation~. The 69th Annual meeting of the Japanese society for dialysis therapy (Yokohama・JAPAN). 2024.6.7-6.9.
 4. Tran Quang Huu, Fujii Y, Takahashi Y. Investigation of bacterial contamination of priming drainage lines in dialysis machines. The 69th Annual meeting of the Japanese society for dialysis therapy (Yokohama・JAPAN). 2024.6.7-6.9.
 5. Takahashi Y, Yamamoto S, Watanabe H. Suction towards a vessel wall by hemodialysis catheters.

-The evaluation of four kindof hemodialysis catheters. -. 19th TOINInternational Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama, Japan), 2024.10.26.

6. Takahashi Y, Yamamoto S, Watanabe H. Suction towards a vessel wall by hemodialysis catheters. -The evaluation of hemodialysis catheters with different tip structures. -. AKI & CRRT (San Diego · USA), 2025.3.3-3.6.

6 学会活動

- 1) 所属学会 日本生体医工学会 (CEワーキンググループ世話人), 日本臨床工学技士会, 日本急性血液浄化学会, 日本呼吸療法医学会, 日本透析医学会, 日本アクセス学会, 新潟医学会, 新潟県臨床工学技士会 (理事), 日本集中治療医学会, Niigata Blood Purification Conference (世話人), 新潟医療福祉学会
- 2) 学術集会の主催
 1. Niigata Blood Purification Conference, Niigata Blood Purification Conference2024, 運営・企画・会場設営, 南魚沼市, 2024.12.1.
 2. 第12回新潟県臨床工学学会, 運営・企画・会場設営, 新潟市, 2024.8.25.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. 第69回日本透析医学会, 座長, 横浜, 2024.6.7-6.9.
 2. 第64回日本生体医工学会大会, CEセッション, 審査員, 福井, 2024.6.5-6.7.
 3. 第5回関東甲信越臨床工学学会, 座長, 蒲田市, 2024.9.28-9.29.

7 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟県ニーズ説明会, 医工連携セッション, 企画・準備・運営, 新潟県, 一般企業, 新潟市, 2024.11.28.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 信越地域の医療機関における電波利用推進協議会, 15回会合, 有識者, WEB, 2024.7.23.
 2. 信越地域の医療機関における電波利用推進協議会, 電波管理のセミナー開催について, 有識者, 書面決議, 2024.3.18.
 3. 信越地域の医療機関における電波利用推進協議会, 説明会, 有識者, WEB, 2024.3.25.
 4. JAEFCE, 選挙管理委員会 選挙管理委員長, 2024.4.1-2025.3.31.
 5. 新潟県臨床工学技士会, 編集委員会会議, 編集委員, 長岡市・WEB, 2024.4.1-2025.3.31.
 6. 新潟県臨床工学技士会, 広報委員会会議, 広報委員, 新潟市・WEB, 2024.4.1-2025.3.31.
 7. 新潟県臨床工学技士会, 医工連携委員会会議, 医工連携委員, 新潟市・WEB, 2024.4.1-2025.3.31.
 8. 日本臨床工学技士連盟, 会議, 会計, WEB, 2024.4.1-2025.3.31.
 9. 日本臨床工学技士会, 認定医療機器管理臨床工学検定試験作問, 作問者, 東京, 2024.4.1-2025.3.31.
- 3) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員
独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム隊員, 独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム講師, 総務省信越総合通信局信越地域の医療機関における電波利用推進協議会構成員, ASEAN災害保健医療管理に係る地域能力強化プロジェクト技術支援班
- 4) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
新潟県臨床工学技士会 (呼吸療法委員), 新潟県臨床工学技士会 (医工連携委員長), 新潟県臨床工学技士会 (連盟委員長), 日本臨床工学技士教育施設協議会 (試験委員会副委員長), 日本臨床工学技士教育施設協議会 (教科書委員), 日本臨床工学技士教育施設協議会 (問題作成委員長), 関東甲信越臨床工学会 (実行委員), 関東甲信越臨床工学会 (広報委員長), 日本臨床工学技士連盟 (理事), 日本臨床工学技士連盟 (会計), Niigata Blood Purification Conference (監事)

8 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023年度から継続中, 科研費助成事業 基盤研究C, 透析用カテーテルの機能不全を誘発する予測因

子の解明, 高橋良光【継続】

2) 学内部活動の実績

1. 剣道部, 第66回北信越学生剣道大会出場, 新潟市, 2024.5.12. (コーチ)

3) 学外兼務講師等

1. 桐蔭横浜大学, 大学院卒業論文審査, 2023.4.1-2024.3.31.
2. 桐蔭横浜大学, 大学院中間発表審査, 2023.4.1-2024.3.31.

9 学内委員会活動 教務委員会, IR委員会, 科研費対策委員会

氏名: 藤井 豊

1 研究題目 体外循環中の生体反応評価, 体外循環デバイスの研究開発

2 論文

1. Takamizawa R, Hotta K, Fujii Y, Ikegami R, Hitosugi N, Inoue T, Tamiya H, Tsubaki A. Transcapillary PO2 Gradients in Contracting Muscles of Type I Diabetic Rats. Microcirculation (JCR). 2024; e12870. (査読あり)
2. Tamaki Y, Hatayama N, Fujii Y, Naito M. A compact machine perfusion device for whole blood perfusion in isolated rat liver. Journal of Artificial Organs(JCR). 2024 Oct 4. doi: 10.1007/s10047-024-01474-8. Online ahead of print. (査読あり)
3. Mori S, Ohtsuka T, Hashimoto K, Fujii Y, Harada E, Shigemori R, Kato D, Shibazaki T, Shimoda M. Gene expression profiles in respiratory settings in rats under extracorporeal membrane oxygenation. J Thorac Dis (JCR). 2025; 17(1): 31-41. (査読あり)
4. Miki K, Fujieda H, Ueno Y, Arakane T, Fujii Y. Investigation of inflammatory reduction during extracorporeal membrane oxygenation using a novel cytokine adsorption column: A rat model study. J Clin Med (JCR). 2025; 14(5): 1686. (査読あり)
5. 伊藤さゆり, 伊藤嘉高, 松井由美子, 村田憲章, 藤井豊. 対面／オンラインによる連携総合ゼミの学習効果測定とその課題. 新潟医療福祉会誌. 2024; 24(2): 1-9. (査読あり)
6. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. 『フラッシュグルコースモニタリングシステムを用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 医学検査. 2025; 74(1): 88-93. (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 藤井豊. 新世代が考える臨床工学技士. 第14回長野県臨床工学会 (佐久市), 2024.8.25. 【シンポジウム】
2. 藤井豊. 大学院における学位認定プロセスの一例. 第49回日本体外循環医学会大会 (旭川市), 2024.10.13. 【シンポジウム】

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本臨床工学技士会 (学術機構運営委員会委員・査読委員), 日本体外循環技術医学会 (学術委員会 研究推進部会 副部会長), 日本人工臓器学会 (評議員, 情報・広報委員会委員), 日本生理学会, 日本集中治療学会, 日本心不全学会, 米国人工臓器学会, IEEE, 新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床工学技士会 学術機構運営委員会 査読員
2. Journal of Clinical Medicine Guest Editor
3. J Artif Organs 論文No.JOAO-D-24-000XX 査読
4. International Journal of Molecular Sciences 論文ijms-3058XXX 査読
5. Journal of Clinical Medicine 論文No.J. Clin. Med. 2024, 13(11), XXXX 査読
6. Journal of Clinical Medicine 論文No.J. Clin. Med. 2024, 13(13), XXXX 査読
7. Journal of Clinical Medicine 論文No.J. Clin. Med. 2024, 14(5), XXXX 査読
8. J Artif Organs 論文No.JOAO-D-25-000XX 査読

5 社会活動

- 1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. UX, スーパーJにいがた, 高大連携プログラム「チーム医療体験会」, 2024.8.6.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 基盤研究C, 酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出, 研究代表者
 2. 2024年度, 基盤研究C, NASHの革新的な予防法・治療法の確立に関する研究：脂肪を摂って脂肪を取る, 研究分担者
 3. 2023年度, 基盤研究C, 女子アスリートの鉄欠乏, 貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明, 研究分担者
 4. 2023年度, 基盤研究B, 乳児に行う新たな胸骨圧迫－その効果と実践性の解明－, 研究分担者
- 7 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員会（委員長）, URA推進室（委員）

氏名：中山 憲司

- 1 研究題目 新しい質量分析法と解析法の開発とヒト疾患関連バイオマーカーの探索とその臨床応用に関する研究, qShot MALDI解析法の解析プラットフォームの構築, MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用
- 2 学会等研究発表
 1. 杉野友亮, 保欣, 関戸翔, 景山拓海, 佐々木豪, 舩井覚, 西川晃平, 田中利男, 島田康人, 臧黎清, 村川泰裕, 高野敬志, 中山憲司, 井上貴博. Development of a zebrafish xenograft model to predict the efficacy of platinum-based neoadjuvant chemotherapy for muscle-invasive bladder cancer. 第111回日本泌尿器科学会総会（横浜市）, 2024.4.25.
 2. 杉野友亮, 保欣, 宮地志穂里, 関戸翔, 景山拓海, 佐々木豪, 田中利男, 高野敬志, 中山憲司, 孫楽, 村川泰裕, 井上貴博. 筋層浸潤性膀胱癌に対するシスプラチンの薬効評価を目的としたゼブラフィッシュ異種移植モデルの基盤の開発. 日本患者由来癌モデル学会・日本ヒト細胞学会合同学術集会 2024（東京都）, 2024.8.22.
 3. 中山憲司. qShot MALDI質量分析法の臨床応用について. 関西学院大学大学院 理工学研究科 外部講師招聘セミナー（三田市）, 2024.9.11.
 4. 杉野友亮, 宮地志穂里, 保欣, 関戸翔, 景山拓海, 佐々木豪, 舩井覚, 西川晃平, 田中利男, 島田康人, 加藤学, 高野敬志, 中山憲司, 孫楽, 村川泰裕, 井上貴博. Zebrafish avatars towards personalized medicine for muscle-invasive bladder cancer. 第83回日本癌学会学術総会（福岡市）, 2024.9.20.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本医用マススペクトル学会（JSBMS：評議員, 学会活性化及び国際化委員会委員）, 京都生体質量分析研究会（世話人）, 北海道実験動物研究会（幹事）, Mass Spectrometry and Advances in the Clinical Lab（MSACL：アジア広報委員）, International Lipidomics Society, 日本生化学会, 日本癌学会, 日本微量元素学会, 日本ヒトプロテオーム学会, 日本質量分析学会, 新潟医療福祉学会, ウイルソン病研究会, 教育研究機関化学物質管理ネットワーク.
 - 2) 学術集会の主催
 1. 第49回日本医用マススペクトル学会年会, 実行委員, 京都市, 2024.9.13-9.14, 2024.4.1-2025.3.31.
 2. The 3rd International Joint Symposium of Japanese Society for Biomedical Mass Spectrometry (JSBMS) and Mass Spectrometry and Advances in the Clinical Lab (MSACL), Organizer, Kyoto, 2024.9.13・2024.4.1-2025.3.31. 【二学会合同 国際シンポジウム・発起人】
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 第37回 私立大学環境保全協議会 夏期研修研究会, 化学物質管理者, 野々市・金沢工業大学, 2024.9.5-9.6.

2. 第12回 医用質量分析認定士 資格試験, 試験監督・採点, 京都, 2024.9.14.
 3. Sports&Health 先端科学研究プロジェクト・第4回ミーティング, 主催・司会進行, Zoom ミーティング, 2024.6.27.
 4. 産学間共同D⇒Hプロジェクト・第4回ミーティング, 主催・司会進行, Zoom ミーティング, 2024.4.15.
 5. 産学間共同D⇒Hプロジェクト・第5回ミーティング, 主催・司会進行, Zoom ミーティング, 2024.8.22.
 6. 国際共同研究事業, 司会進行, 中山医学大学病院, 2024.10.21.
 7. 国際共同研究事業, 司会進行, 中山医学大学病院, 2025.3.14.
 8. Mass Spectrometry & Advances in the Clinical Lab (MSACL), Arash Zarrine-Afsar 先生 (トロント大学医学物理学学科) のアテンド, 東京都・浜松市・名古屋市・京都市, 2024.9.10-9.15.
 9. Medical Mass Spectrometry, プロテオーム解析を用いた病態診断法に関する研究 (2024-XXXXX), 査読, 2024.8.
 10. Talanta, MALDI-TOF/MSを用いた分子診断法に関する研究 (TAL-D-25-XXXXX), 論文査読, 2024.2.
- 4 その他の教育研究活動
- 1) 学外兼務講師等
 1. 京都大学大学院医学研究科 泌尿器科教室 客員研究員, プロジェクト研究「qShot MALDI解析法の解析プラットフォームの構築」, 2024.4.1-2025.3.31.
 - 5 学内委員会活動 化学物質管理者, 化学物質管理委員会 (委員長), 保護具着用管理責任者, 安全衛生委員会 (化学物質管理者), 健康管理センター運営委員会 (化学物質管理者), 生物医科学分析研究センター (センター長), 運動機能医科学研究所 (研究員)

氏名：大山 富三

- 1 研究題目 腎臓 (糸球体) のポドサイトとPEC細胞の培養細胞の樹立, 胆嚢がん患者の術後生存期間を予測する各種モデルの予測能力評価
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本臨床衛生検査技師会, 日本臨床工学技士会, 新潟県臨床検査技師会, 新潟県臨床工学技士会, 日本血液学会, 日本検査血液学会, 日本プロテオーム学会, 新潟医療福祉学会
- 3 学内委員会活動 図書館・学修支援委員会

氏名：森田 邦恵

- 1 研究題目 ストレスマーカーの解析による採血実習の改善, エクソソーム RNA の抽出条件の検討
- 2 学会等研究発表
 1. 森田邦恵, 金子京平, 江ヶ嵯梓, エクソソーム RNA 抽出試薬の検討 エクソソームマーカーCD9・CD63・CD81のRT-qPCRにて 第73回医学検査学会 (金沢市) 2024.5.11-5.12.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本臨床衛生検査技師会, 日本再生医療学会, 日本臨床検査教育協議会, 新潟医療福祉学会, 細胞外小胞学会
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 学外兼務講師等
 1. 新潟大学動物資源研究開発分野, 非常勤研究員, 2024.4.1-2025.3.31.
- 5 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員会, 健康管理センター運営委員会, 安全衛生委員会, メンタルヘルス支援委員会

氏名：仙波 妙子

- 1 研究題目 高濃度粒子分散ペーストのレオロジー特性予測のための粒子－分散媒親和性の影響の調査
- 2 学会等研究発表
 1. 仙波妙子, 山田和義, 松岡俊樹, 高橋勉. 直鎖アルキル基を有する表面処理シリカ粒子のレオロジー特性. 化学工学会第89回年会 (札幌・日本), 2024.9.11-9.13.
 2. 仙波妙子, 山田和義, 松岡俊樹, 佐藤靖徳, 高橋勉. 粒子分散系ペーストにおける表面処理剤のアルキル鎖長とレオロジーの関係. 第72回レオロジー討論会 (山形・日本), 2024.10.17-10.18.
 3. Semba T, Yamada K, Matsuoka T, Takahashi T. Surface Treatments with Linear Alkyl Silane Coupling Agents and Their Effect on Rheological Properties. 9th Asian Particle Technology Symposium 2024 (Sydney・AUS), 2024.12.1-12.4.
 4. 仙波妙子, 高橋萌花, 山田和義. 水/エタノール法による表面処理シリカ粒子の疎水化度測定. 化学工学会第90回年会 (東京・日本), 2025.3.12-3.14.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 応用物理学会, 化学工学会, 日本レオロジー学会
- 4 社会活動
 - 1) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 (教科書委員), 一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 (試験委員会 コアメンバー)
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023年度, 科研費C, 高濃度粒子分散ペーストのレオロジー特性予測のための粒子－分散媒親和性の影響の調査, 研究代表
- 6 学内委員会活動 入試委員会, 高等教育推進センター委員会

氏名：佐々木 一真

- 1 研究題目 透析患者のバスキュラーアクセスに関する研究
- 2 論文
 1. 佐々木一真, 2023年度科研費実施状況報告書. 2024.
 2. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. フラッシュグルコースモニタリングシステムを用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 医学検査. 2024, 74(1), 88-93.
- 3 学会等研究発表
 1. Sasaki K, Nakane N, Oku T, Motohashi Y, Yamauchi S, Sato T. Research on the relationship between fluid parameters representing the flow state of a constriction model simulating an AVF and vascular access sounds. The 50th Annual Meeting of Japanese Society for Technology of Blood purification. (川越プリンスホテル, 埼玉県川越市). 2024.4.12-4.14. 国際学会
 2. 佐々木一真. JSTB国際委員会の国際学会発表支援事業における学会参加報告. 第50回日本血液浄化技術学会学術大会・総会. (川越プリンスホテル, 埼玉県川越市). 2024.4.12-4.14.
 3. 佐々木一真, 藤井豊. 臨床工学技士養成校における多職種連携教育の取り組み. 第34回日本臨床工学会. (フェニックスプラザ, 福井県福井市). 2024.5.18-5.19.
 4. 佐々木一真, 細川柚乃, 中根紀章, 奥知子, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫. 自己血管内シャントの狭窄率変化に応じた血流速度波形とシャント音変化を模擬できるAVFモデルの検討. 第63回日本生体医工学会大会. (カクイックス交流センター, 鹿児島県鹿児島市). 2024.5.23-5.25.
 5. 細川柚乃, 佐々木一真, 中根紀章, 奥知子, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫. 血流速度波形で観察される逆流や切痕を忠実に再現できる自己血管内シャントモデルの検討. 第63回日本生体医工学会大会. (カクイックス交流センター, 鹿児島県鹿児島市). 2024.5.23-5.25.

6. 佐々木一真, 奥知子, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫. VAエコーによるVA機能評価の習熟度向上を目的とした自己血管内シャントモデルの作製. 第69回日本透析医学会学術集会・総会. (パシフィコ横浜, 神奈川県横浜市). 2024.6.7-6.9.
 7. Sasaki K, Nakane N, Oku T, Motohashi Y, Yamauchi S, Sato T. Quantitative analysis of the vorticity of the flow and vascular access sounds in a pseudo-vessel stenosis model. 22rd Asian Pacific Congress of Nephrology. (COEX, Seoul, Korea). 2024.6.13-6.16. 国際学会
 8. 佐々木一真. 大学教員として働く私のキャリアパス. 第4回関東甲信越臨床工学会および第31回東京都臨床工学会. (大田区産業プラザPiO). 2024.9.28-9.29. 招待講演
 9. 細川柚乃, 佐々木一真, 中根紀章, 奥知子, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫. 狭窄径に応じた血流速度波形の再現を目的としたVAエコーシミュレータの検討. 第28回日本透析アクセス医学会学術集会・総会. (京都市勧業館みやこめっせ, 京都府京都市). 2024.10.5-10.6.
 10. Sasaki K, Hosokawa Y, Nakane N, Oku T, Motohashi Y, Yamauchi S, Sato T. Quantification of flow downstream of stenosis in an arteriovenous fistula model of maintenance hemodialysis patients. ISBME2024 (桐蔭横浜大学, 神奈川県横浜市). 2024.10.26. 国際学会
 11. Hosokawa Y, Oku T, Motohashi Y, Yamauchi S, Sato T, Nakane N, Sasaki K. A method to reproduce the blood flow velocity waveform with vascular access ultrasound. ISBME2024 (桐蔭横浜大学, 神奈川県横浜市). 2024.10.26. 国際学会
 12. 細川柚乃, 佐々木一真, 本橋由香, 奥知子, 山内忍, 佐藤敏夫. 自己血管内シャントモデルを用いた血流速度波形の模擬方法に関する検討. 第7回神奈川県臨床工学会. (パシフィコ横浜, 神奈川県横浜市). 2024.11.10.
 13. 細川柚乃, 佐々木一真, 中根紀章, 奥知子, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫. バスキュラーアクセスエコーにおける狭窄径に応じた血流速度波形の再現を目的とした自己血管内シャントモデル. 第62回日本人工臓器学会大会. (ライトキューブ宇都宮, 栃木県宇都宮市). 2024.11.14-11.16.
 14. 佐々木一真, 細川柚乃, 中根紀章, 奥知子, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫. 擬似血管モデルを用いた狭窄部下流の流れの状態とシャント音の音響特性との関係についての基礎的研究. 第4回日本腎・血液浄化AI学会学術集会・総会. (ホテルアウリーナ大阪, 大阪府大阪市). 2024.11.24.
 15. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. Freestyle Libre Pro®を用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 第12回北日本支部医学検査学会 (仙台国際センター, 宮城県仙台市). 2024.12.14-12.15.
 16. 佐々木一真, 細川柚乃, 奥知子, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫. 狭窄率に応じた血流速度波形の再現と上腕動脈血流量の精度評価が可能なバスキュラーアクセスエコーシミュレータの開発. 第17回VascularAccess超音波研究会. (WEB開催). 2025.1.25-1.26.
- 4 学会活動
- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 新潟県臨床工学技士会, 日本臨床工学技士会, 日本透析医学会, 日本生体医工学会, 日本人工臓器学会, 日本音響学会, 日本血液浄化技術学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 一般演題 (ポスター), 座長, 神奈川県横浜市, 2024.6.8.
- 5 社会活動
- 1) 社会活動への参加協力
 1. 富山県臨床検査技師会, 「検査と健康展」 & 臨床検査技師学校紹介, 担当講師, 富山県富山市・グランドプラザ, 2024.11.4.
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2021年度, 若手研究, 透析患者のシャント音を用いたバスキュラーアクセス機能評価に関する研究, 研究代表者

2. 2024年度, 若手研究, バスキュラーアクセスの非侵襲機能診断を目的とした生体音分析方法に関する研究, 研究代表者
- 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
 - 第50回日本血液浄化技術学会学術大会・総会 グラント賞 (2024.4.12), Nominees for APSN Young Nephrologist Awards (2024.6.13), APCN&KSN2024 Travel Grant Award (2024.6.13)
- 3) 学外兼務講師等
 1. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校, 病態学Ⅴ, 2024.12-2025.2.
- 7 学内委員会活動 広報委員会, 学生委員会, 交通安全委員会

氏名：阿部 拓也

- 1 研究題目 超音波診断用造影剤の弊害, 共役リノール酸内服時の生体反応
- 2 著書
 1. 阿部拓也, ほか. 令和4年度第1回臨床工学技士国家試験模擬試験問題・解答解説集. 1版. 東京都：メジカルビュー社；2024：1-3, 34-36
 2. 阿部拓也, ほか. 令和4年度第2回臨床工学技士国家試験模擬試験問題・解答解説集. 1版. 東京都：メジカルビュー社；2024：1-3, 34-36
 3. 阿部拓也, ほか. 令和4年度第3回臨床工学技士国家試験模擬試験問題・解答解説集. 1版. 東京都：メジカルビュー社；2024：1-3, 34-36
- 3 論文
 1. Abe T, Watanabe Y, Kitamura K, Kabasawa K, Saito T, Takahashi A, Takachi R, Kobayashi R, Oshiki R, Tsugane S, Watanabe K, Nakamura K. Association between Low Blood 25-hydroxyvitamin D and High C-Reactive Protein Levels in Community-Dwelling Japanese People Aged 40-74 Years. Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2025, 265, 193-200. (Accept 2024.9)
 2. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. フラッシュグルコースモニタリングシステムを用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 医学検査. 2024, 74(1), 88-93.
- 4 学会等研究発表
 1. 阿部拓也, 藤井豊, 塙晴雄, 渡邊博昭. 糖尿病病態におけるSonazoid投与の弊害. 第73回日本医学検査学会 (石川). 2024.5.
 2. 増子弘明, 高橋良光, 森田邦恵, 阿部拓也, 伊藤中堯, 前田順子, 江ヶ嵩梓, 金子京平, 藤井豊. 内視鏡自動洗浄消毒装置の「送気の単独工程機能」の有用性について～内視鏡スコープ内部管路内の清浄度調査の観点から～. 第63回日本生体医工学会大会 (鹿児島). 2024.5.
 3. 阿部拓也, 藤井豊, 塙晴雄, 渡邊博昭. 超音波造影剤が主要臓器に及ぼす影響-組織学的視点からの評価-. 第49回日本超音波検査学会学術集会 (宮城). 2024.7.
 4. 中野優衣, 石田優衣, 田澤颯麻, 田中鈴乃, 芳賀千紗, 渡邊博昭, 阿部拓也. 若年者におけるATIおよびSWEの体組成との関連性の検討. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
 5. 遠藤結子, 斉藤心海, 藤井豊, 阿部拓也. 食物アレルギーモデルラットの作製およびアレルギーによる酸化ストレスへの影響. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
 6. 三浦涼, 武内華乃子, 牧野葵, 塙晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 渡邊博昭. 炎症性貧血ラットモデルにおける赤血球造血因子と鉄代謝の検討. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
 7. 安達大輔, 清野秀, 帆刈野乃, 塙晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 江玉睦明, 渡邊博昭. 女子アスリートの鉄欠乏・貧血に関する血中および尿中ヘプシジンの検討. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
 8. 増子弘明, 高橋良光, 森田邦恵, 阿部拓也, 藤井豊. 内視鏡スコープ洗浄時の追加送気が微生物学的評価に与える影響. 第97回新潟県臨床検査技師会 (新潟). 2024.9.
 9. 阿部拓也, 渡邊博昭. 災害時における若手臨床検査技師の役割と成長 - 能登半島沖地震の事例 -. 第12回北日本支部医学検査学会 (宮城). 2024.12.

10. 阿部拓也, 佐々木一真, 川村宏樹, 渡邊博昭, 藤井豊. Freestyle Libre Pro®を用いた間質液グルコース濃度計測時における上腕の左右差. 第12回北日本支部医学検査学会(宮城). 2024.12.
11. 中野優衣, 芳賀千紗, 渡邊博昭, 阿部拓也. 青年期の脂肪肝評価におけるATIとSWEの比較検討 - 体組成指標との相関 -. 第12回北日本支部医学検査学会(宮城). 2024.12.
12. 武内華乃子, 芳賀千紗, 渡邊博昭, 阿部拓也. 青年期におけるATI測定値と脂肪肝評価の課題. 第12回北日本支部医学検査学会(宮城). 2024.12.
13. 増子弘明, 高橋良光, 阿部拓也, 藤井豊. 消化器内視鏡スコープ管路内の清浄度評価に洗浄時の追加送気を与える影響. 第12回北日本支部医学検査学会(宮城). 2024.12.
14. 阿部拓也, 中村純子, 竹内瑞希, 藤井豊. 共役リノール酸摂取はNASH病変を抑制させる - NASH発症小動物モデルを用いた検討 -. 第28回日本病態栄養学会(京都). 2024.1.

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟県臨床検査技師会(執行理事, 事務局次長), 日本臨床衛生検査学会, 日本超音波医学会, 日本超音波検査学会, 日本生理学会, 日本臨床化学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 第97回新潟県臨床検査技師会, 新潟県臨床検査技師会, 実務委員, 新潟市, 2024.9.29.

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 教えて先輩, 座長・講演, 新潟市・朱鷺メッセ, 2024.9.29.
 2. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー, 講座9, あなたが受けてる健康診断!“ここ”を見ています!, 講師, 市民, 新潟市(オンライン), 2024.11.25-2025.3.31.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 穴水総合病院, 能登半島沖地震による医療支援①, 日当直, 2024.4.26.
 2. 穴水総合病院, 能登半島沖地震による医療支援②, 日当直, 2024.4.27.
 3. 穴水総合病院, 能登半島沖地震による医療支援③, 日当直, 2024.4.28.
 4. 穴水総合病院, 能登半島沖地震による医療支援④, 日勤, 2024.4.29.
 5. 穴水総合病院, 能登半島沖地震による医療支援⑤, 日当直, 2024.5.10.
 6. 穴水総合病院, 能登半島沖地震による医療支援⑥, 日勤, 2024.5.11.
 7. 日本臨床検査技師会 タスクシフト・シェア①, 実務委員, 新潟大学保健学科, 2024.6.16.
 8. 令和6年度新潟県臨床検査技師会施設運営管理者協議会, 実務委員, 新潟市・新潟アートホテル, 2024.8.24.
 9. 第1回NUHW臨床技術学科同窓会集会, 実務委員・実行委員長, 新潟市・ホテルイタリア軒, 2024.9.7.
 10. 日本臨床検査技師会 タスクシフト・シェア②, 実務委員, 新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.9.21.
 11. 新潟県臨床検査学会, 実務委員, 新潟市・朱鷺メッセ, 2024.9.29.
 12. 日本臨床検査技師会 タスクシフト・シェア③, 実務委員, 新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.10.11.
 13. QOLサポーターと学生の集い, 実務委員, 新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.10.12.
 14. 伍桃祭学科体験プログラム①, 実務委員・責任者, 新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.10.12.
 15. 伍桃祭学科体験プログラム②, 実務委員・責任者, 新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.10.13.
 16. 日本臨床検査技師会 糖尿病予防キャンペーン「糖尿病を知るつどい」, 実務委員, 新潟市・NEXT21, 2024.11.9.
 17. 日本臨床検査技師会 タスクシフト・シェア④, 実務委員, 新潟市・新潟医療人育成センター, 2024.11.17.
 18. 検査と健康展2024, 実務委員, 新潟市・新潟南イオン, 2024.11.24.
 19. 日本衛生臨床検査技師会 北日本支部学会(第12回)視察, 第13回実務委員, 宮城県仙台市, 仙台国際センター, 2024.12.14-12.15.

20. 日本臨床検査技師会 タスクシフト・シェア⑤, 実務委員, 新潟市・新潟医療人育成センター, 2025.3.9.
21. クリニック医療支援, 超音波検査業務, 新潟市・関屋田町クリニック, 2024.4-2025.3.
22. 健診医療支援, 超音波検査業務, 新潟市・新潟健診プラザ, 2024.6-2025.3.
23. 健診医療支援, 超音波検査業務, 新潟市・西新潟健診プラザ, 2024.6-2025.3.
24. こども園保護者代表, 代表, 新潟市・新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園, 2023.4-2024.3.
- 3) 職能団体(協会, 士会等)の委員
日本臨床検査技師連盟(施設会計責任者代理), 日本臨床衛生検査技師会(施設担当連絡員), 新潟県臨床検査技師会(施設担当連絡員), 新潟県臨床検査技師会(広報部・ニュース委員, 災害対策委員, 公益委員)
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 受賞, 学位取得, 資格取得
第72回新潟県臨床検査学会学術賞, 第73回新潟県臨床検査学会テーマ賞, 博士(医学・新潟大学)
 - 2) 学外兼務講師等
1. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校, 非常勤講師(病態生理学), 2024.10-2025.3.
- 8 学内委員会活動 学生委員会, 交通安全委員会, 教務委員会, 同窓会・生涯学習推進委員会, 動物実験委員会

氏名：涌井 杏奈

- 1 研究題目 使用済不織布マスク・スマートフォンに付着する微生物のプロファイリング, ペットボトル飲料物の保管に関する微生物学的研究, 母乳を含めた乳児用飲料と口腔細菌叢との関連
- 2 著書
 1. 涌井杏奈, 佐藤拓一. 「つながる研究紹介」. 2024年版. 新潟. 新潟大学社会連携推進機構; 2024年4月: p.47-48
- 3 論文
 1. Takahashi N*, Wakui A*(Co-first authors), Sekizawa Y*, Kawachi M, Sekiguchi M, Abe T, Sato A, Miyazawa M, Imai M, Kaku N, Maruyama S, Sano H, Kakihara N, Washio J, Abiko Y, Tanaka K, Takahashi N, Sato T: Profiling of the microbes on the surface of smartphone touchscreens. Journal of Oral Biosciences (JCR) 2025 March; 67(1): Article 100607 (4 pages). (review)
 2. Kaku N*, Kawachi M*, Wakui A*(Co-first authors), Miyazawa M*, Imai M, Takahashi N, Sato A, Abe T, Sato H, Kato Y, Okabe R, Naruse Y, Sato N, Asano N, Morohashi M, Sano H, Washio J, Abiko Y, Tanaka K, Takahashi N, Sato T: Molecular microbiological profiling of bottled unsweetened tea beverages: a screening experiment. Journal of Oral Biosciences (JCR) 2024 September; 66(3): 628-632. (review)
 3. 涌井杏奈. 母乳を含めた新生児用の飲料と口腔細菌叢との関連(網羅的・分子生物学的解析). (公益財団法人) ロッテ財団研究助成事業概要2024 研究報告書「奨励研究助成(B)」。2024: 112-113.
- 4 学会等研究発表
 1. Wakui A, Kawachi M, Sano H, Imai M, Nishikata M, Abiko Y, Washio J, Sakashita R, Sato T: Microbiota of breast milk and liquid baby-formula after artificial-nipple feeding. The 54th Annual Meeting & Exhibition of the AADOCR (New York, NY, USA) 2025.3.13.
 2. 涌井杏奈: 大学院を修了する事で得られるもの: 大学院のススメ. 第18回日本臨床検査学教育学会学術大会(新潟)教育シンポジウム1「魅力的な大学院教育ならびに院修了後教育」. 2024.8.23. 【シンポジウム】
 3. 涌井杏奈: 母乳を含めた新生児用の飲料と口腔細菌叢との関連(網羅的・分子生物学的解析). ロッテ財団研究助成事業「第9回若手研究者の集い」(東京) 2024.7.27.

4. 涌井杏奈, 河内美帆, 佐藤拓一: 不織布マスクやスマホ画面, エレベータ開閉/昇降ボタンを介した微生物伝播. 3つの質問に答えるだけの研究ポスター発表大会(全国キャラバン 3 Questions 北信越地区編)(富山) 2024.12.7-12.8.
5. 涌井杏奈, 河内美帆, 佐藤拓一: 日用品の細菌に見える化!. BioJapan (横浜) 2024.10.9-10.11.
6. Kawachi M, Wakui A, Miyazawa M, Imai M, Sato H, Kato Y, Okabe R, Naruse Y, Asano N, Morohashi M, Sano H, Abiko Y, Washio J, Sato T: Microbiota profiling of the remaining bottled black tea beverages. The 54th Annual Meeting & Exhibition of the AADOCR (New York, NY, USA) 2025.3.13.
7. 今井真奈美, 宮沢美里, 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤遥菜, 加藤優希, 岡部璃佳, 成瀬悠香, 諸橋もも子, 浅野七海, 佐藤彩, 阿部峰士, 佐野拓人, 佐藤拓一: 濃い茶ペットボトル飲料内の微生物プロファイリング: スクリーニング実験, 新潟大学院生会 第4回(2024年度)研究発表会 2024.12.21.
8. 今井真奈美, 宮沢美里, 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤遥菜, 加藤優希, 岡部璃佳, 成瀬悠香, 諸橋もも子, 浅野七海, 佐藤彩, 阿部峰士, 佐野拓人, 安彦友希, 鷺尾純平, 高橋信博, 佐藤拓一: 各種メーカーの濃い茶ペットボトル飲料内の微生物プロファイリング, 第14回口腔保健用機能性食品研究会(大阪) 2024.12.14.
9. 阿部峰士, 涌井杏奈, 関口未来, 丸山伸吾, 加藤優希, 河内美帆, 佐藤彩, 宮沢美里, 今井真奈美, 佐藤遥菜, 岡部璃佳, 成瀬悠香, 大川愛佳, 長谷川優美, 佐野拓人, 佐藤拓一: 不織布マスクに付着する細菌について: マスク用スプレーの噴霧効果の再検証. 第107回日本細菌学会関東支部総会(東京) 2024.12.14.
10. 佐藤彩, 佐野拓人, 阿部峰士, 宮沢美里, 今井真奈美, 関口未来, 加藤優希, 佐藤遥菜, 岡部璃佳, 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤拓一: 舌磨き前後の舌苔を構成する細菌叢について: 舌専用クリーニングジェルの影響. 第107回日本細菌学会関東支部総会(東京) 2024.12.14.
11. 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤拓一: ペットボトル飲料の飲み残し: 削減に向けて. 3つの質問に答えるだけの研究ポスター発表大会(全国キャラバン 3 Questions 北信越地区編)(富山) 2024.12.7-12.8.
12. Miyazawa M, Kawachi M, Wakui A, Imai M, Sano H, Abiko Y, Washio J, Takahashi N, Sato T: Profiling of microbiota in the remaining bottled unsweetened tea and coffee beverages. The Update Symposium in the 66th Annual Meeting of the JAQB (Nagasaki) 2024.11.3.
13. 今井真奈美, 宮沢美里, 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤遥菜, 加藤優希, 岡部璃佳, 佐藤彩, 阿部峰士, 安彦友希, 鷺尾純平, 高橋信博, 佐藤拓一: 緑茶ペットボトル飲料内の微生物プロファイリング, 『革新的食学拠点』令和6年度第3回合同ミーティング(オンライン) 2024.10.10.
14. 佐藤遥菜, 河内美帆, 涌井杏奈, 宮沢美里, 今井真奈美, 加藤優希, 岡部璃佳, 成瀬悠香, 佐藤奈緒, 浅野七海, 諸橋もも子, 佐藤彩, 阿部峰士, 佐野拓人, 佐藤拓一: 各種メーカーのお茶ペットボトル飲料内の微生物プロファイリング, 日本医療検査科学会第56回大会(横浜) 2024.10.6.
15. 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤拓一: 飲み残しのペットボトルは大丈夫?. BioJapan (横浜) 2024.10.9-10.11.
16. Kawachi M, Wakui A, Miyazawa M, Imai M, Sekiguchi M, Abe T, Sato A, Sano H, Washio J, Sato T: Microbiota in remaining beverages in plastic bottles after direct drinking. The 63rd Annual Scientific Meeting of the IADR ANZ (Australia and New Zealand) Division (Cairns, Queensland, Australia). 2024.9.25.
17. Imai M, Miyazawa M, Kawachi M, Wakui A, Sekiguchi M, Abe T, Sato A, Sano H, Washio J, Sato T: Microbial profiling in catechin-enriched green tea bottled beverages. The 63rd Annual Scientific Meeting of the IADR ANZ (Australia and New Zealand) Division (Cairns, Queensland, Australia). 2024.9.26.
18. Sekiguchi M, Abe T, Wakui A, Maruyama S, Kawachi M, Miyazawa M, Sato A, Imai M, Sano H, Sato T: Microbiota profiles on the surface of multifunctional non-woven fabric masks. The 63rd Annual Scientific Meeting of the IADR ANZ (Australia and New Zealand) Division (Cairns, Queensland,

Australia). 2024.9.26.

19. 加藤優希, 宮沢美里, 河内美帆, 涌井杏奈, 今井真奈美, 佐藤遥菜, 岡部璃佳, 成瀬悠香, 佐藤奈緒, 浅野七海, 諸橋もも子, 佐藤彩, 阿部峰士, 佐野拓人, 佐藤拓一:市販の緑茶内の微生物プロファイリング: ペットボトル飲料を口を付けて飲んだ場合を想定したモデル実験, 第77回伝統食品に関する講演会: 県内大学生によるポスター発表(新潟) 2024.9.2.
20. 宮沢美里, 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤拓一:ペットボトル飲料(中性pH・無糖)における微生物叢の解析, 第64回日本臨床化学会年次学術集会(宇都宮) 2024.8.31.
21. 今井真奈美, 宮沢美里, 河内美帆, 涌井杏奈, 佐藤遥菜, 加藤優希, 岡部璃佳, 成瀬悠香, 佐藤奈緒, 佐藤拓一: カテキン増量の緑茶ペットボトル飲料内の微生物プロファイリング:スクリーニング実験. 第18回日本臨床検査学教育学会学術大会(新潟). 2024.8.23.
22. 関口未来, 阿部峰士, 涌井杏奈, 丸山伸吾, 河内美帆, 宮沢美里, 佐藤彩, 今井真奈美, 佐野拓人, 佐藤拓一: 機能性不織布マスクに付着・生息する微生物バイオフィルム解析. 第18回日本臨床検査学教育学会学術大会(新潟). 2024.8.23.
23. 阿部峰士, 涌井杏奈, 関口未来, 宮沢美里, 佐藤彩, 河内美帆, 今井真奈美, 丸山伸吾, 佐野拓人, 佐藤拓一: 不織布マスク用スプレーの噴霧効果の細菌学的再検証. 第97回日本細菌学会総会(札幌). 2024.8.7-8.9.
24. 加藤優希, 涌井杏奈, 宮沢美里, 河内美帆, 阿部峰士, 佐藤彩, 今井真奈美, 佐藤遥菜, 岡部璃佳, 佐藤拓一: 緑茶ペットボトル飲料内の細菌プロファイリング:スクリーニング実験. 第97回日本細菌学会総会(札幌). 2024.8.7-8.9.
25. 小田直太郎, 阿部峰士, 丸山伸吾, 涌井杏奈, 佐藤拓一: 使用済みマスクに付着・生息する細菌の分析: 細菌の量および構成から不織布マスクの再利用を考える, 第97回日本細菌学会総会(札幌)「中・高校生研究発表セッション」2024.8.8.
26. Abe T, Wakui A, Sekiguchi M, Miyazawa M, Sato A, Kawachi M, Imai M, Maruyama, S, Sano H, Sato T: Microbiological profiling of the surfaces of used-masks: Effects of non-woven fabric mask sprays. The 16th Japan-Korea International Symposium on Microbiology (Sapporo) 2024.8.9.
27. Kato Y, Wakui A, Miyazawa M, Kawachi M, Abe T, Sato A, Imai M, Sato H, Okabe R, Sato T: Molecular microbiological profiling of green tea bottled beverages. The 16th Japan-Korea International Symposium on Microbiology (Sapporo) 2024.8.9.
28. Miyazawa M, Kawachi M, Wakui A, Imai M, Sato H, Kato Y, Okabe R, Naruse Y, Sato N, Asano N, Morohashi M, Abe T, Sato A, Sano H, Abiko Y, Washio J, Takahashi N, Sato T: Profiling of microbiota in the remaining unsweetened tea and coffee drinks in plastic bottles. The 19th International Workshop on Biomaterials in Interface Science (Interface Summer Seminar 2024)(Sendai) 2024.8.6.
29. 宮沢美里, 河内美帆, 涌井杏奈, 今井真奈美, 佐藤拓一: ペットボトル飲料(中性pH・無糖)における微生物叢の動向解析: お茶および珈琲について, 第42回日本臨床化学会甲信越支部総会(新潟) 2024.7.6.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本臨床化学会, 歯科基礎医学会, 大学女性協会
- 2) 学会等でのその他の活動

1. 第18回日本臨床検査学教育学会学術大会, 一般演題セッション20, 座長, 新潟市, 2024.8.24.

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2023-2024年度 科研費 若手研究, 使用済みマスクおよびスマートフォン画面に付着・生息する微生物のプロファイリング, 涌井杏奈

- 2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部保健学科, 医学検査機器概論, 2024.10.4.

2. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校看護学科，病態学Ⅳ，2024.10.3-12.5.（全15コマ）

7 学内委員会活動 広報委員会，国際交流センター運営委員会

氏名：増子 弘明

1 研究題目 消化器内視鏡の清浄度評価に関する研究

2 学会等研究発表

1. 増子弘明，高橋良光. 内視鏡自動洗浄消毒装置の「送気の単独工程機能」の有用性について～内視鏡スコープ内部管路内の清浄度調査の観点から～. 第63回日本生体医工学会大会（鹿児島市），2024.5.23-5.25.
2. 飛田望里，飯塚佳旭，高山葵，増子弘明. 内視鏡トレーニング用キット「EndoGel」を用いた，アングル角度の違いによる検体採取の基礎検討. 第38回福島県消化器内視鏡技師研究会（福島市），2024.8.24.
3. 増子弘明，高橋良光. 内視鏡スコープ洗浄時の追加送気が微生物学的評価に与える影響. 第97回新潟県臨床検査技師会（新潟市），2024.9.29.
4. 増子弘明，高橋良光. 消化器内視鏡チャンネル内の清浄度評価に洗浄時の送気追加が与える影響. 令和6年度日臨技北日本支部医学検査学会（第12回）（仙台市），2024.12.14-12.15.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本生体医工学会，日本臨床工学技士会，日本臨床衛生検査技師会，日本消化器内視鏡技師会，福島県臨床工学技士会，新潟県臨床検査技師会

4 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. ICM国際メディカル専門学校臨床工学技士科，臨床医学総論Ⅱ，2024.6.13-7.18，8.22-8.29.

5 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会

氏名：戸澤 祐貴

報告事項なし

氏名：古川 久美子

1 研究題目 バングラデシュへの日本式検査法の導入・技術協力，抗酸菌検査法の開発

2 学会等研究発表

1. 古川久美子，渡邊樹里. 臨床検査分野における海外への技術協力と日本式検査工程の導入について，日本医学検査学会学術集会（金沢市），2024.5.11-5.12.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本臨床衛生検査技師会，新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 外国をルーツとする子どもの言語発達と学習支援，シンポジスト，新潟医療福祉大学 多様性学習支援研究会・CLDSIG，新潟医療福祉大学，新潟医療福祉大学教員と学生，2025.12.16.

2) 社会活動への参加協力

1. 株式会社miup，バングラデシュ臨床検査室への技術協力，アドバイザー，ダッカ，2024.4.1-2025.3.31.

氏名：齋藤 幸

1 研究題目 脳波と認知症

2 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本臨床衛生検査技師会

3 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県臨床検査技師会，事務作業（理事会，学会，総会に関わる作業及び会員対応），一年中

氏名：村木 理絵子

1 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 一般社団法人新潟県臨床検査技師会 事務局業務 2024.4.1・2025.3.31.

氏名：芳賀 千紗

報告事項なし

(2) 視機能科学科

氏名：前田 史篤

- 1 研究題目 瞳孔視野計による他覚的視野測定法の開発, メラノプシン含有網膜神経節細胞の機能評価, 眼精疲労の他覚評価, スポーツビジョンの実践的研究
- 2 著書
 1. 前田史篤, 澤村裕正, 相原一 (編): 瞳孔の機能解剖. 眼科診療エクレール5 最新 神経眼科エッセンスマスター. 初版. 中山書店; 2024: 25-28.
 2. 前田史篤. 瞳孔視野. 松本長太 (編): 新篇眼科プラクティス13 これさえ学べば死角なし! 視野フロンティア. 初版. 文光堂; 2024: 117-120.
- 3 論文
 1. 多々良俊哉, 前田史篤, 山下力. Hessチャート (自覚式・他覚式). 神経眼科. 2024; 41: 238-243. (総説)
 2. 前田史篤, 山下力. 複像検査. 神経眼科. 2024; 41: 351-354. (総説)
 3. 生方北斗, 前田史篤. 眼鏡学の原典から学ぶ眼鏡処方に向けた自覚的視力・屈折検査. 視覚の科学. 2024; 45: 67-72. (総説)
 4. 山下力, 前田史篤. 後天眼球運動障害に対する視能訓練前後の視能評価. 神経眼科. 2025; 42: 80-85. (総説)
- 4 学会等研究発表
 1. 多々良俊哉, 戸田春男, 村田憲章, 生方北斗, 真柄邑菜, 佐々木陶子, 前田史篤. 融像除去眼位測定時における眼球偏位の軌跡と動特性の検討. 第80回日本弱視斜視学会総会・第49回日本小児眼科学会総会合同学会 (浜松), 2024.6.14-6.15.
 2. 前田史篤. 高齢者に対する斜視検査. 第80回日本弱視斜視学会総会・第49回日本小児眼科学会総会合同学会 合同講習会 (浜松), 2024.6.14-6.15. 【シンポジウム】
 3. 辻拓海, 多々良俊哉, 生方北斗, 志賀木綿子, 八百枝潔, 前田史篤. 調節麻痺剤点眼前後における調節反応量と調節微動高周波成分出現頻度の変化. 第62回日本神経眼科学会総会 (金沢), 2024.11.29-11.30.
 4. 多々良俊哉, 戸田春男, 真柄邑菜, 佐々木陶子, 板垣和弘, 前田史篤, 半田知也. 外斜位における融像除去眼位時の眼球偏位動態の解析. 第62回日本神経眼科学会総会 (金沢), 2024.11.29-11.30.
 5. 前田史篤. 視野計と視野. 第3回愛媛県COの会 (松山), 2025.1.25. 【特別講演】
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本神経眼科学会 (評議員) (編集委員), 日本眼光学学会 (編集委員), 日本眼鏡学会 (評議員), 日本眼科学会, 日本視野画像学会, 日本視能訓練士協会, 日本弱視斜視学会, 日本小児眼科学会, 日本ロービジョン学会, 日本糖尿病眼学会, 日本近視学会, 日本眼科AI学会, 日本老視学会, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本神経眼科学会学術賞予備審査員
 2. 第13回日本視野画像学会学術集会, JIPSコーチングセミナー オーガナイザー, 新潟市, 2024.6.2.
- 6 社会活動
 - 1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. Webニュース, Yahoo!ニュース, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.21.
 2. TV, 新潟ニュースNST, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.21.
 3. Webニュース, gooニュース, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.21.
 4. Webニュース, dニュース, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.21.
 5. TV, FNNプライムオンライン, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.21.
 6. Webニュース, livedoorニュース, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.21.
 7. TV, UX新潟テレビ21, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.22.
 8. Webニュース, dニュース, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.22.
 9. Webニュース, Yahoo!ニュース, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.22.

10. Webニュース, gooニュース, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.22.

11. Webニュース, ノアドット, 大学生が優しくサポート夏休みの自由研究, 2024.8.22.

2) 社会活動への参加協力

1. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学, レンズ付き手作りカメラを作ってみよう, 運営責任者・主担当, 視機能科学科, 新潟県内の幼・小学生, 新潟医療福祉大学, 2024.8.21.
2. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学, 立体写真を撮ってみよう, 運営責任者, 視機能科学科, 新潟県内の幼・小学生, 新潟医療福祉大学, 2024.8.22.
3. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学, ポテトチップスの筒で望遠鏡を作ってみよう, 運営責任者, 視機能科学科, 新潟県内の幼・小学生, 新潟医療福祉大学, 2024.8.23.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度, 受託研究費, オートレフとイリスコーダーによる瞳孔径測定値の相関について, 研究代表者
2. 2024年度, 科研費基盤研究(C), 視線解析法を用いた客観的眼位検査の開発および小児を対象とした健康診査への応用, 研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科, 眼疾病学II, 2024年度前期
2. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科, 神経眼科学, 2024年度後期
3. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科, 視能矯正学各論II, 2024年度後期
4. 札幌看護医療専門学校視能訓練士学科, 視覚生理学I, 2024年度後期

8 学内委員会活動 総務会, 将来計画機構, 自己点検・自己評価委員会, 教員選考・評価委員会, 大学院入試広報委員会(委員長), 大学院の質保証委員会

氏名：小林 昭子

1 研究題目 Goldmann 視野計の実技教育指導

2 著書

1. 小林昭子, 村瀬めぐみ; 松本長太編. Goldmann 視野計. 新篇眼科プラクティス13 これさえ学べば死角なし! 視野フロンティア. 1版. 東京: 文光堂; 2024: 69-72.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本視野画像学会, 日本弱視斜視学会, 日本眼光学学会, 公益社団法人日本視能訓練士協会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 生涯教育 新人教育講義日程, 視能検査学各論I 感覚系検査法 - 視野検査の理論と実際 -, 講師, 公益社団法人日本視能訓練士協会, 視能訓練士, Webによるオンデマンド配信, 2024.9.18-10.23.
2. 山梨県視能訓練士の会 第19回勉強会, 不安をなくそう視野検査, 講師, 山梨県視能訓練士の会, 視能訓練士, 山梨県立中央病院, 2024.9.8.
3. 富山県眼科医会 令和6年度「眼科スタッフ講習会」, 困らない視野検査のために, 講師, 富山県眼科医会, 医師・視能訓練士・看護師・眼科メディカルスタッフ等, 富山県民会館, 2024.10.13.

5 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員会, 就職センター運営委員会, 図書館・学修支援委員会

氏名：戸田 春男

1 研究題目 教育に伴うストレス, ICTを用いた教育の改善, 視線解析装置を用いた視力の評価, 視線解析装置を用いた運動視力の評価

2 論文

1. Sonoda M, Aimi H, Kawasaki K, Toda H, Hirai S, Horie M, Meguro R, Asano E, Okado H, Kameyama S, Yamamoto T, Hasegawa I. Optogenetically-induced sustained hypothalamic hyperexcitability impairs memory via thalamic spread. *Epilepsia*. 2025; 00: 1-16. 査読あり
2. Murata N, Toda H, Ubukata H, Takagi M, Tanaka C, Machinaga A, Miyajima M, Tatara S. Development of Automated Visual Acuity Measurement Using a Calibration-Free Eye-Tracking System. *Cureus*; 2024; 16(7): e64401. 査読あり
3. Tatara S, Toda H, Maeda F, Ito A, Handa T. Comparison of the Saccadic Eye Movement Ability of Female Professional Basketball Players and Non-Athletes. *Applied Sciences*; 2024; 14(3): 1108-1108. 査読あり

3 学会等研究発表

1. 生方北斗, 戸田春男, 西村裕樹, 横岩良太, 中山慎太郎, 清水英輔. Smart Eye Camera を用いて撮影した視神経乳頭の画像精度の検討 第35回日本緑内障学会 (神戸), 2024.9.21.
2. 村田憲章, 戸田春男, 生方北斗, 多々良俊哉, 町永亜衣, 高木万生, 田中千絵, 宮嶋美南. キャリブレーション・フリー視線解析装置による他覚的視力検査における注視解析領域の検討. 第65回日本視能矯正学会 (宇都宮), 2024.11.3.
3. 多々良俊哉, 戸田春男, 村田憲章, 生方北斗, 真柄邑菜, 佐々木陶子, 前田史篤. 融像除去眼位測定時における眼球偏位の軌跡と動特性の検討. 第81回日本弱視斜視学会 (京都), 2024.6.6.
4. 多々良俊哉, 戸田春男, 真柄邑菜, 佐々木陶子, 板垣和弘, 前田史篤, 半田知也. 視線解析技術を用いた cover test 時の遮閉眼の眼球偏位速度の検討. 第62回日本神経眼科学会 (金沢), 2024.11.29.
5. 高木万生, 村田憲章, 戸田春男, 生方北斗, 多々良俊哉, 田中千絵, 町永亜衣, 宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による視力自動測定におけるカットオフ値の差異による測定視力分布. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟), 2024.10.26.
6. 戸田春男, 森田邦恵, 生方北斗, 木下直彦. 検査実習に対する「大変さ」「自信」の複数学科をまたいだ分析. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟), 2024.10.26.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本生理学会 (評議員), 日本神経科学会, 日本自律神経学会, 日本神経眼科学会, Society for Neuroscience, 新潟医療福祉学会

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2023-2026, 挑戦的研究 (萌芽) 我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築: パイロットスタディ, 分担 (代表: 村田憲章)
2. 2024-2028, 基盤研究 B 医療リソース効率化を目指す研究: 視線解析装置による乳幼児視力の自動精密測定 (代表: 村田憲章)
3. 2024-2029, 基盤研究 B 視覚障害を未然に防ぐ眼の健康リテラシーの向上ー幼小中高大接続による眼育教育ー (代表: 石井雅子)

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部医学科, 生理学・生理学実習, 2024.4.1-2025.3.31.
2. 悠久山栄養調理専門学校, 運動生理学, 2024.4.1-2025.3.31.

- 6 学内委員会活動 入試委員会, 入試問題検討部会, FD・SD推進委員会, 高等教育推進センター運営委員会, 健康管理センター運営委員会, 安全衛生委員会

氏名: 増田 修

- 1 研究題目 偽造防止技術, 質感知覚, 色覚に関する研究 (視覚心理物理学)
- 2 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本視覚学会, 映像情報メディア学会, 日本色彩学会, 日本眼光学学会, 日本照明委員会, 視覚科学技術コンソーシアム, Optica
- 3 社会活動
 - 1) 職能団体（協会, 士会等）の委員
 - 一般社団法人 日本照明工業会 国際照明委員会（CIE）第1部会「視覚と色」国内小委員会 委員
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2020年度, 科研費基盤研究（C）, 変角光学的要因に基づく「本物らしさ」の質感知覚における脳神経メカニズムの解明, 研究代表者
 2. 2023年度, 科研費基盤研究（C）, 変角光学的要因に基づく「本物らしさ」の質感知覚への能動性の寄与の脳神経機序の解明, 研究代表者
 3. 2024年度, 科研費基盤研究（C）, スマートフォンと深層学習を用いた目と口のセルフメディケーション検査技術の検討, 研究分担者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校 視能訓練士科, 生理光学, 2024年度後期
- 5 学内委員会活動 教務委員会（副委員長）, 国際交流センター運営委員会（副委員長）, 大学院委員会, 大学院教務委員会

氏名：村田 憲章

- 1 研究題目 視線解析装置の眼科的検査への応用に関する研究（視覚科学）, 緑内障患者の視覚的QOL維持のための形態・機能解析（眼科学）
- 2 著書
 1. 村田憲章. 特集 スゴ腕が伝授！眼科検査のお悩み解決 日々の「困った！」に34の名回答！ 4章 眼圧検査の「困った」を解決. 眼科ケア. 26. 大阪：メディカ出版；2024：1217-1225.
- 3 論文
 1. Murata N, Toda H, Ubukata H, Takagi M, Tanaka C, Machinaga A, Miyajima M, Tatara S. Development of Automated Visual Acuity Measurement Using a Calibration-Free Eye-Tracking System. Cureus Journal of Medical Science. 2024; 16（7）：e64401-e64401. (review)
 2. 伊藤さゆり, 伊藤嘉高, 松井由美子, 村田憲章, 藤井豊. 対面／オンラインによる連携総合ゼミの学習効果測定とその課題. 新潟医療福祉学会誌. 2024；24（2）：1-8. (review)
- 4 学会等研究発表
 1. 多々良俊哉, 戸田春男, 村田憲章, 生方北斗, 真柄邑菜, 佐々木陶子, 前田史篤. 融像除去眼位における眼球偏位安定までの時間とその軌跡. 第80回日本弱視斜視学会総会（浜松市）, 2024.6.14-6.15.
 2. 村田憲章, 町永亜衣, 戸田春男, 生方北斗, 多々良俊哉, 高木万生, 田中千絵, 宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による他覚的視力検査における注視領域解析に関する検討. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.
 3. 高木万生, 村田憲章, 戸田春男, 生方北斗, 多々良俊哉, 田中千絵, 町永亜衣, 宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による視力自動測定におけるカットオフ値の差異による測定視力分布. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.
 4. 村田憲章, 戸田春男, 生方北斗, 多々良俊哉, 町永亜衣, 高木万生, 田中千絵, 宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による他覚的視力検査における注視領域解析に関する検討. 第65回日本視能矯正学会（宇都宮市）, 2024.11.2-11.3.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本視能訓練士協会, 日本眼科学会, 日本緑内障学会, 日本斜視弱視学会, 日本ロービジョン学会, The Association for Research in Vision and Ophthalmology, 新潟医療福祉学会

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. シニアカレッジ新潟, 目の健康維持の秘訣～輝く視界をいつまでも～, 講師, 新潟県社会福祉協議会, 中高年者, 新潟市, 2024.8.1.
2. シニアカレッジ新潟, 目の健康維持の秘訣～輝く視界をいつまでも～, 講師, 新潟県社会福祉協議会, 中高年者, 上越市, 2024.8.20.
3. シニアカレッジ新潟, 目の健康維持の秘訣～輝く視界をいつまでも～, 講師, 新潟県社会福祉協議会, 中高年者, 長岡市, 2024.8.21.
4. シニアカレッジ新潟, 目の健康維持の秘訣～輝く視界をいつまでも～, 講師, 新潟県社会福祉協議会, 中高年者, 新潟市, 2024.8.23.
5. 診療放射線技師基礎講習基礎技術コース「眼底カメラ」, 講師, 公益社団法人日本診療放射線技師会, 診療放射線技師, eラーニングコンテンツ, 2024.
6. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学, レンズ付き手作りカメラを作ってみよう, 運営者, 視機能科学科, 新潟県内の幼・小・中・高校生, 新潟医療福祉大学, 2024.8.21.

2) 職能団体(協会、士会等)の委員

公益社団法人日本視能訓練士協会 生涯教育制度新人教育プログラム(両眼視)実技日程(指導者), 全国視能訓練士学校協会 国家試験不適切問題検討ワーキンググループ(グループリーダー)

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2023年度, 挑戦的研究(萌芽), 我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築:パイロットスタディ(研究代表者)
2. 2024年度, 基盤研究(B), 医療リソース効率化を目指す研究:視線解析装置による乳幼児視力の自動精密測定(研究代表者)

2) 学外兼務講師等

1. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科, 視能検査学各論, 2024.4.9-7.29.
2. 新潟薬科大学附属医療技術専門学校視能訓練士科, 基礎視能矯正学, 2024.4.9-7.29.

8 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員会(副委員長), 国家試験・資格試験対策委員会(副委員長), 科研費対策委員会, IR戦略委員会, 高大医連携プロジェクトチーム

氏名: 多々良 俊哉

1 研究題目 小児の弱視予防に関する研究(予防医学)

2 論文

1. Murata N, Toda H, Ubukata H, Takagi M, Tanaka C, Machinaga A, Miyajima M, Tatara S. Development of Automated Visual Acuity Measurement Using a Calibration-Free Eye-Tracking System. Cureus. 2024; 16(7). DOI: 10.7759/cureus.64401. (査読あり)
2. 多々良俊哉. 最先端医療の今 視線解析技術を応用した眼位および眼球運動検査. Medical Science Digest. 2024; 50(10). 561-563. (総説)
3. 多々良俊哉, 前田史篤, 山下力. 眼球運動の見方 1 Hessチャート(自覚式・他覚式). 神経眼科. 2024; 41(3). 238-243. (総説)

3 学会等研究発表

1. 多々良俊哉. Spot Vision Screenerの有用性と独特な“クセ”を知る. 第7回日本両眼視矯正研究会(オンライン), 2025.2.8. 【講演】
2. 多々良俊哉, 戸田春男, 真柄邑菜, 佐々木陶子, 板垣和弘, 前田史篤, 半田知也. 外斜位における融像除去眼位時の眼球偏位動態の解析. 第62回日本神経眼科学会総会(金沢), 2024.11.29-11.30.
3. 辻拓海, 多々良俊哉, 生方北斗, 志賀木綿子, 八百枝潔, 前田史篤. 調節麻痺剤点眼前後における調節反

応量と調節微動高周波成分出現頻度の変化. 第62回日本神経眼科学会総会（金沢），2024.11.29-11.30.

4. 村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，町永亜衣，高木万生，田中千絵，宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による他覚的視力検査における注視領域の検討. 第65回日本視能矯正学会（宇都宮）. 2024.11.2-11.3.
5. 高木万生，村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，田中千絵，町永亜衣，宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による視力自動測定におけるカットオフ値の差異による測定視力分布. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟）. 2024.10.26.
6. 村田憲章，町永亜衣，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，町永亜衣，高木万生，田中千絵，宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による他覚的視力検査における注視領域解析に関する検討. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟）. 2024.10.26.
7. 多々良俊哉，戸田春男，村田憲章，生方北斗，真柄邑菜，佐々木陶子，前田史篤. 融像除去眼位測定時における眼球偏位の軌跡と動特性の検討. 第80回日本弱視斜視学会総会 第49回日本小児眼科学会総会 合同学会（浜松），2024.6.14-6.15.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会（会員），日本能訓練士協会（会員），日本眼科学会（会員），日本弱視斜視学会（会員），日本小児眼科学会（会員），日本眼光学会（会員），JSCRS（会員），日本近視学会（会員），日本神経眼科学会（会員），日本両眼視研究会（理事）
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. BMC Ophthalmology 査読，2025.1.7.
 2. Cureus 査読，2024.12.10.
 3. BMC Ophthalmology 査読，2024.10.23.
 4. BioMedical Engineering OnLine 査読，2024.9.28.
 5. BMC Ophthalmology 査読，2024.8.22.
 6. International Journal of Retina and Vitreous 査読，2024.6.25.
 7. BMC Ophthalmology 査読，2024.6.11.
 8. BMC Ophthalmology 査読，2024.4.9.
 9. 公益財団法人日本視能訓練士協会，依頼原稿執筆，Web公開，2024.5.1.

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 燕市3歳児健康診査，健診，燕市保健センター（燕市），2024.5.21，8.27，11.19，2025.2.25.
- 2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
日本両眼視矯正研究会倫理審査委員会〔厚生労働省登録番号：24000072〕（委員）

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2022年度，科研費 基盤研究C，視線解析法を用いた客観的眼位検査の開発および小児を対象とした健康診査への応用，研究代表者
 2. 2024年度，国際共同研究加速基金（海外連携研究），科研費汎用ゲームを用いた新しい視能訓練法の国際共同研究，研究分担者
 3. 2024年度，一般財団法人 永井知覚科学振興財団：研究助成，研究代表者
- 2) 受賞，学位取得，資格取得
第36回日本神経眼科学会学術賞（欧文誌部門）（2024.11.30），第62回日本神経眼科学会総会 座長賞（2024.11.30）

- 7 学内委員会活動 人権委員会，個人情報保護委員会，国家試験・資格試験対策委員会，メンタルヘルス支援委員

氏名：生方 北斗

- 1 研究題目 眼科検査技能の定量評価，新たな眼科検査デバイスに関する教育の効果検証，眼鏡作製に関する調査
- 2 論文
 1. Murata N, Toda H, Ubukata H, Takagi M, Tanaka C, Machinaga A, Miyajima M, Tatara S. Development of Automated Visual Acuity Measurement Using a Calibration-Free Eye-Tracking System. *Cureus (JCR)*. 2024; 16 (7): e64401. (review)
 2. 生方北斗，西村裕樹，中山慎太郎，浅井一樹，富田晃生，清水映輔. Smart Eye Cameraを用いた細隙灯顕微鏡検査のコーチング法の効果検証. *日本遠隔医療学会雑誌*. 2024; 20 (2): 64-68. (査読あり)
 3. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤. 調節麻痺剤点眼前後における調節機能と瞳孔径の変化. *神経眼科 (協力学術研究団体)*. (印刷中) (査読あり)
 4. 生方北斗，前田史篤. 総説 眼鏡学の原典から学ぶ眼鏡処方に向けた自覚的視力・屈折検査の道のり. *視覚の科学 (協力学術研究団体)*. 2025; 45 (4): 67-72.
- 3 学会等研究発表
 1. 生方北斗. GPの測定技能を評価する. 第13回日本視野画像学会学術集会 (新潟市), 2024.6.2. 【シンポジウム】
 2. 生方北斗. 最新の眼鏡レンズ事情. 2024年度日本眼光学学会眼鏡講習会 (神戸市), 2024.8.30. 【教育講演】
 3. 生方北斗，戸田春男，西村裕樹，横岩良太，中山慎太郎，清水映輔. Smart Eye Cameraを用いて撮影した視神経乳頭の画像精度の検討. 第35回日本緑内障学会 (姫路市), 2024.9.21. 研究代表者
 4. 村田憲章，町永亜衣，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，町永亜衣，高木万生，田中千絵，宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による他覚的視力検査における注視領域解析に関する検討. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26. 研究分担者
 5. 高木万生，村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，田中千絵，町永亜衣，宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による視力自動測定におけるカットオフ値の差異による測定視力分布. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26. 研究分担者
 6. 戸田春男，森田邦恵，生方北斗，木下直彦. 検査実習に対する「大変さ」「自信」の複数学科をまたいだ分析. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26. 研究分担者
 7. 村田憲章，戸田春男，生方北斗，多々良俊哉，町永亜衣，高木万生，田中千絵，宮嶋美南. キャリブレーションフリー・視線解析装置による他覚的視力検査における注視領域の検討. 第65回日本視能矯正学会 (宇都宮市), 2024.11.2. 研究分担者
 8. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤. 調節麻痺剤点眼前後における調節反応量と調節微動高周波成分出現頻度の変化. 第62回日本神経眼科学会総会 (宇都宮市), 2024.11.29. 研究分担者
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本視能訓練士協会 (会員)，日本眼光学学会 (会員)，日本視野画像学会 (会員)，日本神経眼科学会 (会員)，日本緑内障学会 (会員)，日本眼鏡学会 (会員)，日本メガネ協会 (会員)，日本眼鏡技術者協会 (会員)，新潟医療福祉学会 (会員)，新潟県視能訓練士会 (会員)
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 夏休みの自由研究イベント，ポテトチップスの筒を使って望遠鏡を作ってみよう，講師，新潟医療福祉大学視機能科学科，幼児～中高生，新潟医療福祉大学，2024.8.23.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2021年度，科研費基盤研究 (B)，弱視発見率の向上に関する研究：視線解析による小児視力の迅速

自動測定システムの創生，研究分担者

2. 2023年度，科研費萌芽的研究，我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築：パイロットスタ
ディ，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校看護学科，病態学Ⅶ，2024.10.1-2025.3.31.

7 学内委員会活動 広報委員会，学生委員会，交通安全委員会

氏名：辻 拓海

1 研究題目 調節麻痺剤における調節機能の変化に関する研究

2 論文

1. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤．調節麻痺剤点眼前後における調節機
能と瞳孔径の変化．神経眼科．（印刷中）（査読有）

3 学会等研究発表

1. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤．調節麻痺剤点眼前後における調節反
応量と調節微動高周波成分出現頻度の変化．第62回日本神経眼科学会総会（金沢・日本），2024.11.29-
11.30.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本視能矯正学会，日本神経眼科学会，新潟医療福祉学会

5 その他の教育研究活動

- 1) 受賞，学位取得，資格取得
修士（保健学）（2025.3.19）

6 学内委員会活動 社会連携推進センター運営委員会，図書館・学修支援センター運営委員会，同窓会・生涯学
修連携推進委員会

氏名：志賀 木綿子

1 研究題目 日常視力に関する研究（眼光学），視能訓練士学生への教育に関する研究（視覚科学）

2 論文

1. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤．調節麻痺剤点眼前後における調節機
能と瞳孔径の変化．神経眼科．（印刷中）（査読あり）

3 学会等研究発表

1. 辻拓海，多々良俊哉，生方北斗，志賀木綿子，八百枝潔，前田史篤．調節麻痺剤点眼前後における調節反
応量と調節微動高周波成分出現頻度の変化．第62回日本神経眼科学会総会（金沢市），2024.11.29-11.30.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本視能訓練士協会，日本眼光学学会，新潟医療福祉学会

5 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，レンズ付き手作りカメラを作ってみよう，運営者，視機能科
学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2024.8.21.
2. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，立体写真を撮ってみよう，運営者，視機能科学科，新潟県内
の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2024.8.22.
3. 夏休みの自由研究 in 新潟医療福祉大学，ポテトチップスの筒で望遠鏡を作ってみよう，運営者，視機
能科学科，新潟県内の幼・小学生，新潟医療福祉大学，2024.8.23.

6 学内委員会活動 教務委員会，入試委員会

(3) 救急救命学科

氏名：竹井 豊

1 研究題目 救急隊員の身体負担軽減策の検討，効果的な救急医療システムに関する研究

2 著書

1. 竹井豊，川上一岳，江部克也，大松健太郎，安達哲浩，高橋司，外山元，尾崎あかね，「症例で学ぶ救急隊員のための病院連絡テクニック」第1版，東京：ぱーそん書房；2024年12月：p1-150.（編集・分担筆頭）
2. 安田康晴，竹井豊，「必携救急資器材マニュアル改訂第3版」東京：ぱーそん書房；2024年11月：p1-153.

3 論文

1. Takei Y, Toyama G, Adachi T, Nishi T, Yasuda Y, Ninomiya S, Ozaki A. Comparison of Patient Comfort and Acceleration Exposure During Lifting and Loading Operations Using Manual and Powered Stretchers. Prehospital Emergency Care 2025 17: 1-9.（査読あり）
2. 竹井豊. 令和6年度 一般財団法人救急振興財団調査研究事業助成報告書「電動ストレッチャー等の導入が救急隊員と傷病者の医療安全に与える影響の評価」
3. 竹井豊. 令和6年度 JA 共済交通事故医療研究助成報告書「交通事故による心停止患者の地域間生存予後の比較と予後関連因子の解明」
4. 坂本哲也，田邊晴山，竹井豊. 「特区制度を活用した救急救命処置の先行的な実証に向けた調査・検討業務報告書」一般財団法人日本救急医療財団
5. 高田康平，西大樹，竹井豊. 現場出発前アドレナリン投与が除細動非適応院外心停止傷病者の病院前自己心拍再開に与える影響. 日本臨床救急医学会雑誌. 2024年12月；27巻（6）：738-745.（査読あり）

4 学会等研究発表

1. 竹井豊，外山元. Enhancing Patient Comfort and Safety in Emergency Medical Transportation. ERC Congress2024（バルセロナ・スペイン），2024.11.1-11.2.
2. 竹井豊，田邊晴山，畑中哲生，安田康晴. Assessing the proficiency of ELSTs in anaphylaxis diagnosis and adrenaline administration. ERC Congress2024（バルセロナ・スペイン），2024.11.1-11.2.
3. 外山元，竹井豊. Time-Dependent Variations in Survival Rates of Out-of-Hospital Cardiac Arrest at Care Facilities. ERC Congress2024（バルセロナ・スペイン），2024.11.1-11.2.

5 学会活動

1) 所属学会 日本臨床救急医学会（評議員），新潟医療福祉学会（理事長，評議員，和文誌編集委員長，英文誌編集委員長）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本臨床救急医学会，救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会，委員，2021年10月から現在まで
2. 日本臨床救急医学会，第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会，公募演題査読委員

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 石川県消防学校，救急救命士生涯教育課程講義，講義担当，石川県金沢市・石川県消防学校，2024.12.18.
2. 石川県消防学校，救急課程講義，講義担当，石川県金沢市・石川県消防学校，2025.2.21.
3. 石川県消防学校，指導救命士課程講義，講義担当，石川県金沢市・石川県消防学校，2024.10.2.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

一般財団法人日本救急医療財団・厚生労働省（救急救命士国家試験試験委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024・2027年度，基盤研究C，看護と救急医療の連携強化に向けた救急隊員病院連絡教育の開発と評価，研究代表者：竹井豊
2. 2024年度，令和6年度 一般財団法人救急振興財団調査研究事業助成，電動ストレッチャー等の導入が救急隊員と傷病者の医療安全に与える影響の評価，研究代表者：竹井豊
3. 2024年度，令和6年度 JA 共済交通事故医療研究助成，交通事故による心停止患者の地域間生存予後の比較と予後関連因子の解明，研究代表者：竹井豊

2) 学外兼務講師等

1. 広島国際大学，救急統計学，2024.4.1-2025.3.31.

8 学内委員会活動 学術委員会（委員長），図書館・学修支援委員会（委員長）

氏名：川上 一岳

報告事項なし

氏名：江部 克也

報告事項なし

氏名：麻田 外作

報告事項なし

氏名：大松 健太郎

- 1 研究題目 AR（拡張現実）技術を用いた教育プログラムに関する研究（医学教育学），バイスタンダーによるAED使用に関する疫学的研究（蘇生科学）
- 2 著書
 1. 安田康晴，竹井豊，佐々木広一，大松健太郎，西大樹；安田康晴編．必携 救急資器材マニュアル．改訂第3版．東京：ぱーそん書房；2024：50-51，80-81，86.
 2. 竹井豊，川上一岳，江部克也，麻田外作，大松健太郎，安達哲浩，外山元，尾崎あかね；竹井豊編．症例で学ぶ救急隊員のための病院連絡テクニック．東京：ぱーそん書房；2024：8-11，38-56.
- 3 論文
 1. Omatsu K, Yamashita A, Inaba H. Impact of pandemic-related movement restriction on public access defibrillation in Japan: a retrospective cohort study. BMJ Open (JCR). 2024; 14(4): e083692. (review)
 2. Miyashita Y, Takei Y, Toyama G, Takahashi T, Adachi T, Omatsu K, Ozaki A. Neurological outcomes in traffic accidents: A propensity score matching analysis of medical and non-medical origin cases of out-of-hospital cardiac arrest. Am J Emerg Med (JCR). 2024; 78: 176-181. (review)
 3. Takei Y, Toyama G, Takahashi T, Omatsu K. Optimal duration and timing of basic-life-support-only intervention for patients with out-of-hospital cardiac arrest. Sci Rep(JCR). 2024; 14(1): 6071. (review)
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本臨床救急医学会（評議員），日本救急医学会，日本蘇生学会，日本バーチャルリアリティ学会，新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本臨床救急医学会，第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会，座長，鹿児島市，2024.7.20.
 2. 日本臨床救急医学会雑誌，査読
 3. 新潟医療福祉学会誌，査読
 4. Niigata Journal of Health and welfare，査読
- 5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. アメリカ心臓協会BLSインストラクターコース, ファカルティ, IEMA-ITC, 韓国・ソウル市, 2024.11.2-11.3.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. Webニュース, @DIME (小学館), 一般市民のAED使用が減少している危機的な理由, 2024.5.23.
 2. Webニュース, CareNet (ケアネット), コロナ禍の行動制限により市民のAED使用が減少, 2024.5.31.
- 3) 職能団体(協会, 士会等)の委員

一般社団法人国際救命救急協会(副理事長)
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2023年度, 科研費基盤研究(C), AR技術による子どもの心停止への対応のための緊急通報・救急対応訓練プログラムの開発, 代表研究者
- 7 学内委員会活動 入試委員会, 国家試験・資格試験対策委員会, 人権委員会, 個人情報保護委員会, 科研費対策委員会

氏名: 安達 哲浩

- 1 研究題目 多数傷病者発生時の研究(災害医療), 心肺蘇生法教育の普及効果に関する研究(救急医療)
- 2 著書
 1. 『症例で学ぶ救急隊員のための病院連絡テクニック』竹井豊, 川上一岳, 江部克也, 麻田外作, 大松健太郎, 安達哲浩, 高橋司, 外山元, 尾崎あかね. ぱーそん書房, 2024年12月 (ISBN: 9784907095956)
- 3 論文
 1. Takei Y, Toyama G, Adachi T, Nishi T, Yasuda Y, Ninomiya S, Ozaki A. Comparison of Patient Comfort and Acceleration Exposure During Lifting and Loading Operations Using Manual and Powered Stretchers. Prehosp Emerg Care. 2025 Jan 17: 1-9. review
 2. Miyashita Y, Takei Y, Toyama G, Takahashi T, Adachi T, Omatsu K, Ozaki A. Neurological outcomes in traffic accidents: A propensity score matching analysis of medical and non-medical origin cases of out-of-hospital cardiac arrest. Am J Emerg Med 2024 Apr; 78: 176-181. review
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本災害医学会(MCLS管理世話人), 日本臨床救急医学会, 東北救急医学会, 新潟医療福祉学会
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟市立葛塚中学校PUSHコース, インストラクター, 新潟PUSH, 中学生, 新潟市立葛塚中学校, 2025.2.18.
 2. MCLS標準コース, 管理世話人, 新潟県メディカルコントロール協議会, 災害医療従事者, 長岡赤十字看護専門学校, 2024.9.8.
 3. MCLSインストラクターコース, 管理世話人, 新潟大学災害医療教育センター, 災害医療従事者, 新潟大学災害医療教育センター, 2025.3.21.
 4. MCLS標準コース, 管理世話人, 新潟大学災害医療教育センター, 災害医療従事者, 新潟大学災害医療教育センター, 2025.3.22.
 5. 新潟PUSH指導者養成コース, インストラクター, 新潟PUSH, 一般市民, 新潟大学災害医療教育センター, 2024.9.21.
 6. 新潟PUSH指導者養成コース, インストラクター, 新潟PUSH, 一般市民, 新潟大学災害医療教育センター, 2024.9.22.

7. エマルゴ学生コース, インストラクター, 新潟エマルゴ協会, 本学学生, 新潟医療福祉大学, 2024.11.9.
8. エマルゴ標準コース, インストラクター, 新潟エマルゴ協会, 災害医療従事者, 新潟医療福祉大学, 2024.11.10.
9. ICLS長岡赤十字コース, インストラクター, 長岡赤十字病院, 医療従事者, 長岡赤十字病院, 2025.3.2.
10. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー, 講座5, ケガをした時や具合が悪い時の初期対応, 講師, 市民, 新潟市(オンライン), 2024.4.1-2025.3.31.
11. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.4.17.
12. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.4.23.
13. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.5.10.
14. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.5.27.
15. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.5.29.
16. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.5.30.
17. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.6.3.
18. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.6.17.
19. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.6.18.
20. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.6.25.
21. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.7.2.
22. 新潟県立新発田病院安全運転講習会, 講師, 新潟県立新発田病院, 救急救命士, 新潟県立新発田病院, 2024.7.11.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 新潟県原子力防災訓練, 評価者, 新潟県, 地域住民, 魚沼市, 2025.1.25.
 2. 新潟ハーフマラソン, 救護ボランティア, 救護主任, 新潟市, デンカビッグスワンスタジアム, 2025.3.16.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024-2025年, 救急振興財団, 「電動ストレッチャー等の導入が救急隊員と傷病者の医療安全に与える影響の評価」竹井豊, 外山元, 安達哲浩
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟公務員専門学校 警察消防学科, 体育, 2024.4.1-8.31.
 2. 新潟公務員専門学校 警察消防学科, 防災法, 2024.9.1-2025.3.31.
- 7 学内委員会活動 広報委員会(委員), 同高大医連携推進部会(部会長), 同窓会・生涯学習連携推進委員会(委員), 就職センター運営委員会(委員)

氏名：外山 元

- 1 研究題目 介護施設における心停止例に関する研究，救急隊員の身体負担に関する研究
- 2 著書
 1. 竹井豊，川上一岳，江部克也，麻田外作，大松健太郎，安達哲弘，高橋司，外山元，尾崎あかね．症例で学ぶ救急隊員のための病院連絡テクニック．1版．東京：ぱーそん書房；2024：1-150.
- 3 論文
 1. Takei Y, Toyama G, Nishi T, Adachi T, Yasuda Y, Ninomiya S, Ozaki A. Comparison of Patient Comfort and Acceleration Exposure During Lifting and Loading Operations Using Manual and Powered Stretchers. Prehosp Emerg Care. (JCR) 2025 Jan 17: 1-9. (review)
 2. Miyashita Y, Takei Y, Toyama G, Takahashi T, Adachi T, Omatsu K, Ozaki A. Neurological outcomes in traffic accidents: A propensity score matching analysis of medical and non-medical origin cases of out-of-hospital cardiac arrest. Am J Emerg Med.(JCR) 2024 Apr; 78: 176-181. (review)
- 4 学会等研究発表
 1. Toyama G, Watanabe Y, Ozaki A, Takei Y. Time-Dependent Variations in Survival Rates of Out-of-Hospital Cardiac Arrest at Care Facilities. ERC Congress-Resuscitation2024 (Athens・Greece), 2024.10.31-11.2.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本臨床救急医学会（会員）
- 6 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 第81回新潟JPTECプロバイダーコース，外傷対応の指導，指導者，十日町市，2024.7.14.
 2. 第83回新潟JPTECプロバイダーコース，外傷対応の指導，指導者，新潟市，2024.11.10.
 3. 新潟ITLS小児コース，外傷対応の指導，指導者，仙台市，2024.10.12.
 4. 第1回東京ITLSアドバンスコース，外傷対応の指導，指導者，東京都，2024.6.22-6.23.
 5. JPTECインストラクター養成コース指導，指導技法の指導，指導者，村上市，2025.2.16.
 6. 第22回新潟MCLS標準コース，多数傷病者対応の指導，指導者，長岡市，2024.9.8.
 - 2) 職能団体（協会，士会等）の委員
一般社団法人JPTEC協議会（世話人），Internatioonal Trauma Life Support 日本支部（AF）
- 7 学内委員会活動 FD・SD推進委員会，高等教育推進センター運営委員会，国家試験・資格試験対策委員会

氏名：高橋 司

- 1 研究題目 教育工学を用いた医療者教育に関する研究，救急医学・災害医学に関する研究
- 2 著書
 1. 竹井豊，川上一岳，江部克也，麻田外作，大松健太郎，安達哲浩，高橋司，外山元，尾崎あかね（担当：編者（編著者））．症例で学ぶ救急隊員のための病院連絡テクニック．第1版．東京：ぱーそん書房；8章.
- 3 論文
 1. 守岡大吾，高橋司，村上龍，皆藤竜弥，上久保敦，平出敦．学習動機づけの変化が救急救命士養成課程の学生に与える影響＝グループ学習導入による国家試験対策の効果＝．明治国際医療大学誌．2025；32：47-57.
- 4 学会等研究発表
 1. 武藤好美，高橋司，村上龍，守岡大吾，皆藤竜弥，上久保敦．救急救命士養成課程の学生におけるパーソナリティ特性の傾向．第27回日本臨床救急医学会学術集会（鹿児島・日本），2024.7.20.
 2. 守岡大吾，村上龍，高橋司，皆藤竜弥，上久保敦．救急救命士養成課程の学生における国家試験に向けた学習動機づけの変化．第27回日本臨床救急医学会学術集会（鹿児島・日本），2024.7.19.
- 5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本教育工学会, 日本医療教授システム学会 (総務委員会), 日本臨床救急医学会, 日本医療シミュレーション教育学会

6 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 日本医療教授システム学会, 医療ID・実践事例報告会, 運営担当, 東京スクエアガーデン, 2024.4.21.
2. 新潟市北区大学連携事業「未来のまちづくり」, 市民向け防災講座, 講座責任者, ラグーナスクエア, 2025.5.21.
3. 新潟市北区大学連携事業「未来のまちづくり」, 市民向け防災講座, 講座責任者, ラグーナスクエア, 2025.6.18.
4. ITLS日本支部, 病院前外傷対応セミナー, インストラクター, 東京都千代田区, 2024.7.6.
5. 新潟市北区大学連携事業「未来のまちづくり」, 市民向け防災講座, 講座責任者, ラグーナスクエア, 2025.7.16.
6. 日本医療教授システム学会, シミュレーション教授法セミナー, 運営担当, 越谷市中央市民会館, 2024.7.20.
7. 日本臨床救急医学会, 病院前救護急病対応セミナー, 運営責任者, 新潟医療福祉大学, 2024.7.27.
8. 日本臨床救急医学会, 病院前救護急病対応セミナー, インストラクター, 新潟県消防学校, 2024.8.5.
9. 新潟市北区大学連携事業「未来のまちづくり」, 市民向け防災講座, 講座責任者, ラグーナスクエア, 2025.8.6.
10. 日本医療教授システム学会, 医療ID・実践事例報告会, 運営担当, 東京スクエアガーデン, 2024.8.31.
11. 日本国際救急救助技術支援会, 途上国の消防体制整備計画・技術支援, 救急担当指導者, マニラ (フィリピン), 2024.9.9-9.13.
12. 日本医療教授システム学会, 医療者向け教授法セミナー, 指導者, 京都光華女子大学, 2024.9.22.
13. 日本医療教授システム学会, シミュレーション教授法セミナー, 運営担当, 京都新町病院, 2024.10.19.
14. 新潟エマルゴ協会, 災害訓練の机上シミュレーションセミナー, 運営責任者, 新潟医療福祉大学, 2024.11.8.
15. 新潟エマルゴ協会, 災害訓練の机上シミュレーションセミナー, 運営責任者, 新潟医療福祉大学, 2024.11.9.
16. 日本医療教授システム学会, 医療者向け教授法セミナー, 指導者, 広島中電病院, 2024.11.24.
17. 新潟県救急救命士会, 総会・研修会, 会場運営責任者, 新潟医療福祉大学, 2024.12.1.
18. 日本救急医学会, 病院内心肺停止対応セミナー, インストラクター, 長岡中央病院, 2024.12.8.
19. 日本医療教授システム学会, 医療ID・実践事例報告会, 運営担当, 東京スクエアガーデン, 2024.12.15.
20. NSGあたご交流会, 2024年度第3回あたご交流会, 実行委員, ホテルイタリア軒, 2025.1.20.
21. 日本救急医学会, 病院内心肺停止対応セミナー指導者養成コース, インストラクター, 長岡中央病院, 2025.1.26.
22. 新潟医療福祉大学救急救命学科, 新潟県養護教諭向け救急対応講習, 運営責任者, 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター, 2025.2.8. (大雪による当日に開催中止)
23. 日本医療教授システム学会, 医療者向け教授法セミナー, 指導者, 岩手医科大学, 2025.2.16.
24. 日本救急医学会, 病院内心肺停止対応セミナー, インストラクター, 長岡赤十字病院, 2025.3.1.
25. 日本臨床救急医学会, 病院前救護急病対応セミナー, 運営責任者, 魚沼市消防本部, 2025.3.2. (災害発生により前日に開催中止)

26. NSG あたご交流会, 2024年度第4回あたご交流会, 実行委員, ホテルイタリア軒, 2025.3.21.

2) 職能団体（協会、士会等）の委員

全国救急救命士教育施設協議会（理事）、全国救急救命士教育施設協議会（学生選手権委員長）、全国救急救命士教育施設協議会（教員研修交流委員）、全国救急救命士教育施設協議会（卒後再教育委員）、救急隊員のための研究を学ぶ会（世話人）、日本救急救命会（発起人）

7 その他の教育研究活動

1) 受賞, 学位取得, 資格取得

ITLS ACCESS provider (2024.6.22)

2) 学外兼務講師等

1. 明治国際医療大学大学院, 健康危機管理学特論, 2024.9.1-2025.2.28.

2. 国際医療看護福祉大学校, シミュレーションⅡ, 2024.9.1-2025.2.28.

8 学内委員会活動 教務委員会, 高等教育推進センター運営委員会, 国際交流センター運営委員会, 大学院教務委員会

氏名：尾崎 あかね

1 研究題目 大学バスケットボール傷害調査からみた救護体制の検討

2 著書

1. 竹井豊, 川上一岳, 江部克也, 麻田外作, 大松健太郎, 安達哲浩, 高橋司, 外山元, 尾崎あかね, 症例で学ぶ救急隊員のための病院連絡テクニック. 日本：ばーそん書房；2024

3 論文

1. Takei Y, Toyama G, Adachi T, Nishi T, Yasuda Y, Ninomiya S, Ozaki A. Comparison of Patient Comfort and Acceleration Exposure During Lifting and Loading Operations Using Manual and Powered Stretchers. Prehospital Emergency Care. 2025 (査読あり)

4 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 幼児期家庭教育学級, 子どもを守るために私たちができること, 講師, 新潟市中地区公民館, 幼児期の子どもをもつ保護者, 新潟市, 2024.6.18.

2) 職能団体（協会、士会等）の委員

新潟県病院救命士協議会（委員）

6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新潟法律大学校, 体育, 2024.4.1-8.31.

2. 新潟医療センター, 救急外来での実勤務等, 2024.4.1-2025.3.31.

7 学内委員会活動 教務委員会, 広報委員会

氏名：五十嵐 淳一

1 研究題目 有効的なシミュレーション実習の検討

2 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 応急手当講習, 講師, 市立松浜小, 学校長, 教諭, 市立松浜小, 2024.6.3.

2. 応急手当講習, 講師, 市立南浜中, 学校長, 教諭・生徒・地域住民, 市立南浜中, 2024.11.14.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟シティマラソン救護, ボランティア協力学生統括, 新潟市・新潟市陸上競技場, 2024.10.13.

2. 新潟ハーフマラソン救護, ボランティア協力学生統括, 新潟市・ビッグスワン, 2025.3.16.
- 3 学内委員会活動 学生委員会, 交通安全委員会

氏名：岩崎 隆

- 1 研究題目 Apple Watch用胸骨圧迫フィードバックアプリの開発とその効果の検証
- 2 学会等研究発表
 1. 岩崎隆, 稲葉英夫, 神藏貴久, 「Apple Watch用胸骨圧迫フィードバックアプリの開発とその効果の検証」, 日本蘇生学会第43回学会 (大宮市, 2024.12.6-7)
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本災害医学会, 日本農村医学会, 東北救急医学会, 日本蘇生学会, 新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 新潟県教育センター, 令和6年度新採用養護教諭研修, 学校での救急対応, 講師, 新潟市, 新潟県教育センター, 2024.6.7.
 2. 松野尾小学校, 防災教室, 地域の防災について, 講師, 新潟市, 松野尾小学校, 2024.10.21.
 3. JA農協かがやき婦人部, 防災公演, 地域の防災について, 講師, 新潟市, JA巻支所, 2024.12.0.
 4. 松野尾小学校, 防災教室, 避難所の運営, 講師, 新潟市, 松野尾小学校, 2025.1.20.
 - 2) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
JPTEC東北 (世話人), ITLSアドバンス (AF), ITLS小児 (AF)
- 5 学内委員会活動 メンタルヘルス委員

(4) 診療放射線学科

氏名：笠原 敏文

1 研究題目 放射線治療技術の精度に関する研究

2 学会活動

1) 所属学会 日本放射線技術学会, 日本放射線腫瘍学会, 日本放射線技師教育学会, 新潟医療福祉学会, 日本診療放射線技師会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第24回新潟医療福祉学科学術集会, 座長, 新潟市, 2024.10.26.

3 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県診療放射線技師会, すこやかともしびまつり, 協賛, 長岡市・アオーレ長岡, 2024.9.14, 9.15.

2. 新潟県診療放射線技師会, ピンクリボンホリデー2024, 協賛, 新潟市・メディアシップ, 2024.10.20.

2) 職能団体(協会, 士会等)の委員

新潟県診療放射線技師会(監事), 新潟放射線治療技術懇話会(世話人), 新潟県核医学懇話会(世話人), 新潟放射線治療研究会(世話人)

氏名：児玉 直樹

1 研究題目 認知症の早期発見と予防に関する研究, 軽度認知障害から認知症への進行予測に関する研究, 在宅で利用可能な軽度認知障害スクリーニングシステムの開発

2 著書

1. 浦上克哉, 児玉直樹編. 認知症予防専門テキスト上巻. 東京: メディア・ケアプラス; 2024: 210-216

2. 浦上克哉, 児玉直樹編. 認知症予防専門テキスト下巻. 東京: メディア・ケアプラス; 2024: 25-28, 228-245

3 論文

1. Takahashi S, Takahashi D, Kuroiwa Y, Sakurai N, Kodama N. Construction and evaluation of a neurofeedback system using finger tapping and near-infrared spectroscopy. Front Neuroimaging (JCR). 2024; 25: 1361513. (査読あり)

2. 瀧澤知世, 関本道治, 児玉直樹. 乳房用X線装置の品質管理における平均乳腺線量評価の不確かさに関する研究. 日本放射線技術学会雑誌(協力学術研究団体). 2024; 80(7): 721-730. (査読あり)

3. Kai C, Kondo S, Otsuka T, Yoshida A, Sato I, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Development of a Subtraction Processing Technology for Assistance in the Comparative Interpretation of Mammograms. Diagnostics (JCR). 2024; 14(11): 1131. (査読あり)

4. Kai C, Morita T, Sato I, Yoshida A, Kodama N, Kasai S. The Usefulness of the Breast Density Assessment Application Used by Breast Radiologists. Cureus (JCR). 2024; 16(6): e62560. (査読あり)

5. Hirono Y, Kai C, Yoshida A, Sato I, Kodama N, Uchida F, Kasai S. Extracting fetal heart signals from Doppler using semi-supervised convolutional neural networks. Front Physiol (JCR). 2024; 15: 1293328. (査読あり)

6. Hirono Y, Sato I, Kai C, Yoshida A, Kodama N, Uchida F, Kasai S. The Approach to Sensing the True Fetal Heart Rate for CTG Monitoring: An Evaluation of Effectiveness of Deep Learning with Doppler Ultrasound Signals. Bioengineering (JCR). 2024; 11(7): 658. (査読あり)

7. Oishi M, Sakurai N, Kawasaki Y, Sasaki K, Kasai S, Kodama N. Investigation of functional connectivity differences based on anxiety tendencies. Front Behav Neurosci (JCR). 2024; 18: 1498612. (査読あり)

8. Kai C, Tamori H, Ohtsuka T, Nara M, Yoshida A, Sato I, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Classifying the molecular subtype of breast cancer using vision transformer and convolutional neural

network features. Breast Cancer Res Treat (JCR). 2025; 210(3): 771-782. (査読あり)

9. Sato I, Hirono Y, Shima E, Yamamoto H, Yoshihara K, Kai C, Yoshida A, Uchida F, Kodama N, Kasai S. Comparison and verification of detection accuracy for late deceleration with and without uterine contractions signals using convolutional neural networks. Front Physiol (JCR). 2025; 16: 1525266. (査読あり)
10. Takahashi S, Sakurai N, Kuroiwa Y, Takahashi D, Kodama N. Construction and evaluation of a finger motor feedback system to improve finger dexterity. Front Neuroergon (JCR). 2025; 6: 1502492. (査読あり)
11. Sasaki K, Sakurai N, Yoshida N, Oishi M, Kasai S, Kodama N. Identification of Brain Activation Areas in Response to Active Tactile Stimulation by Gripping a Stress Ball. Brain Sci (JCR). 2025; 15(3): 264. (査読あり)
12. Ishizuka S, Kai C, Ohtsuka T, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Artificial Intelligence System for Automatic Mammary Region Extraction Using Semi-subjective Corrected Region for Breast Composition Evaluation. Cureus (JCR). 2025; 17(3): e80545. (査読あり)
13. 高橋大志, 高橋真悟, 児玉直樹, 松尾仁司. 入浴時ヒートショックの体質的危険性を判定するための温冷熱刺激時における末梢血管運動性評価システムの構築. 医療機器学 (協力学術研究団体). 2024; 94(3): 285-296. (査読あり)
14. 児玉直樹. 医用画像表示用ディスプレイにおける医療機器化の概要. INNERVISION. 2025; 40(1): 46-47.

4 報告書

1. 児玉直樹, 笠井聡, 内山良一, 吉田皓文. 国際共同研究強化 (B), 感染性呼吸器疾患の予後予測を可能にするトリアージ型診断支援システムの開発と評価, 研究成果報告書, 2021-2024, 研究代表者

5 学会等研究発表

1. 児玉直樹. 研究倫理について～JARTの取り組み～. 宮城県診療放射線技師会学術講演会 (仙台市), 2024.5.24. 【特別講演】
2. Kodama N. Current AI research of Radiological Technologists. The 12th National Conference of Vietnam Association of Radiological Technologist (Hue City), 2024.6.26. 【教育講演】
3. 児玉直樹. 認知機能セルフチェッカーによる軽度認知障害および軽度認知症の早期発見. 第39回日本老年精神医学会学術集会 (札幌市), 2024.7.12. 【シンポジウム】
4. 児玉直樹. 認知症の早期発見と予防. 第13回日本認知症予防学会学術集会 (横浜市), 2024.9.27. 【講演】
5. Kodama N. License system and continuing education system for radiological technologists in Japan. Journées Francophones de Radiologie 2024 (Paris), 2024.10.6. 【シンポジウム】
6. 児玉直樹. 認知症予防のための産官学連携. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26. 【シンポジウム】
7. 児玉直樹. JARTにおける倫理審査方針と倫理規定ガイダンス. 第40回日本診療放射線技師学術大会 (宜野湾市), 2024.10.31. 【シンポジウム】
8. 児玉直樹. JARTの考える診療放射線技師のための教育事業の取り組み. 第40回日本診療放射線技師学術大会 (宜野湾市), 2024.10.31. 【シンポジウム】
9. 児玉直樹. JARTの国際戦略と国際委員会の取り組み. 第40回日本診療放射線技師学術大会 (宜野湾市), 2024.11.2. 【シンポジウム】
10. 児玉直樹. JARTの研究倫理審査方針と倫理規定ガイダンスの作成. 第19回九州放射線医療技術学術大会 (宮崎市), 2024.12.22. 【シンポジウム】
11. 児玉直樹. 医用画像表示用ディスプレイ医療機器化の経緯. 第10回ディスプレイ精度管理セミナー (東京都港区). 2025.1.18. 【講演】

6 学会活動

- 1) 所属学会 日本放射線技師教育学会（会長），日本認知症予防学会（理事，認知症予防専門士制度委員会委員長，認定試験委員会委員長），日本老年精神医学会，日本認知症学会，日本遠隔医療学会（運営委員），日本診療放射線学教育学会（理事），電子情報通信学会，電気学会，日本放射線技術学会，日本データベース学会，ITヘルスケア学会，日本老年社会学会，新潟医療福祉学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本診療放射線技師会，第1回日本放射線医療技術学術大会（第40回日本診療放射線技師学術大会），実行委員，宜野湾市，2024.10.31-11.3.
 2. チーム医療推進協議会，第6回チーム医療推進学会，実行委員，東京都港区，2025.2.23.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. 日本認知症予防学会，日本認知症予防学会誌，編集委員長
 2. 日本認知症予防学会，日本認知症予防学会誌，査読委員
 3. 日本診療放射線技師会，日本診療放射線技師会誌，査読委員
 4. The European Federation of Radiographer Societies (EFRS), Radiography, International Editorial Board
 5. 電気学会，電気学会共通英文論文誌，査読委員
 6. Frontiers Media, Frontiers in Neuroscience, 査読委員
 7. 日本認知症予防学会，第13回日本認知症予防学会学術集会，横浜市，座長
 8. 日本遠隔医療学会，第28回日本遠隔医療学会学術大会，岡山市，座長
 9. チーム医療推進協議会，第6回チーム医療推進学会，東京都港区，座長
 10. 世界放射線技師会（ISRRT），ISRRT World congress 2024，香港，座長
 11. 日本臨床衛生検査技師会，認定認知症領域検査技師制度試験WG，試験委員
- 7 社会活動
 - 1) 職能団体（協会，士会等）の委員
日本診療放射線技師会（副会長，国際委員会委員，診療放射線技師国家試験問題評価委員会委員，倫理委員会委員，学術教育委員会委員，臨床実習指導教育委員会委員，告示研修実施運営委員会委員，認定資格委員会委員，国際認定資格委員会委員，教育委員会委員），新潟県診療放射線技師会（副会長），世界放射線技師会（理事），国際専門放射線技師認定機構（理事）
- 8 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021-2024年度，国際共同研究強化（B），感染性呼吸器疾患の予後予測を可能にするトリアージ型診断支援システムの開発と評価，研究代表者
 2. 2024-2027年度，基盤研究（B），軽度認知障害の進行および回復に伴う脳内メカニズムの解明と認知症予防への展開，研究代表者
 - 2) 受賞，学位取得，資格取得
TSRT Honorary Member・Thai Society of Radiological Technologist（2024.4.25）
- 9 学内委員会活動 研究・産官学連携推進機構（研究支援部長），知的財産委員会（委員長），利益相反マネージメント委員会（委員長），運動機能医科学研究所（所員）

氏名：石風呂 実

- 1 研究題目 3次元画像による骨格筋定量評価，膝靱帯損傷におけるCTによる術前術後の3次元画像解析による評価，機械学習を用いた胸部X線撮影画像から冠動脈の石灰化スコアの予測，人工知能を用いた胸部X線画像から胸部大動脈および冠動脈石灰化検出と冠動脈疾患予防
- 2 著書
 1. 石風呂実，他：超実践マニュアルCT. 超改訂版，株式会社 医療科学社，2024.4.1：p65-84，291-332
 2. 石風呂実，前島偉，橋本薫，鷺見和幸，吉田宜清. これならできる医療安全管理学，株式会社 医療科学

社（印刷中）2025年内完成予定

3 論文

1. Ishifuro M, Yoshida N, Yokomachi K, Fujioka C, Adachi N. Development of an Original Three-Dimensional Computed Tomography Scan Method and Imaging Process for Surgical Support of Anterior Cruciate Ligament; Cureus. 2024 Apr 29; 16(4)（査読あり）

4 報告書

1. 田村恵美, 基盤研究C, 個人線量計装着位置を予測する機械学習モデルを使用した誤装着防止に有効な要因の解明, 2024年-2028年, 石風呂実（研究分担者）

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本放射線技術学会 代議員

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等

1. 鳥取県診療放射線技師会研修会, 夢と目標は無限Loop, 特別講演, 診療放射線技師, 鳥取県倉吉市, 2024.5.18.
2. 広島国際フォーラム, 発想は世界へ! Part2, 特別講演, 診療放射線技師, 広島市, 2024.8.3.

- 2) 職能団体（協会, 士会等）の委員

日本X線CT専門技師認定機構（委員）

7 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度, 基盤研究C, 個人線量計装着位置を予測する機械学習モデルを使用した誤装着防止に有効な要因の解明, 田村恵美・石風呂実

- 8 学内委員会活動 社会連携推進センター運営委員, 北区との大学連携「未来のまちづくり」（部会長）, 就職支援センター委員（RT主担当）

氏名：花村 健次

- 1 研究題目 放射線の生体への影響に関する細胞生物学的研究

2 学会等研究発表

1. Hanamura K, Yoshino M, Hosoi C, Matsui K, Matsui T, Yoshida N. X-ray irradiation in developing mice leads to weight loss, transient alopecia, and pelvic and femoral bone alterations. 第14回 国際放射線神経生物学会大会（千葉市）2025.2.8.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本生理学会（評議員）, 日本神経科学学会, 日本薬理学会, 日本神経化学会, 国際放射線神経生物学会

- 2) 学術集会の主催

1. APPW2025 第130回 日本解剖学会・第102回 日本生理学会・第98回 日本薬理学会合同大会, プログラム委員, 千葉市, 2023.8.29-2025.3.19.

4 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度, 科研費基盤研究（C）, 成体海馬の神経新生の傷害を介した放射線による鎮痛作用を担うメカニズムの解明, 研究代表者

- 2) 学外兼務講師等

1. 群馬大学大学院医学系研究科, 生体イメージング実習, 2024.4-2025.3.
2. 群馬大学医学部, 薬理学・神経科学, 2024.4-2025.3.

- 5 学内委員会活動 化学物質管理委員会/毒物・劇物管理委員会（副委員長）, 動物実験委員会, 安全衛生委員会, 健康管理センター運営委員会, 生物医科学分析研究センター

氏名：関本 道治

- 1 研究題目 医療放射線線量評価に関する研究（放射線計測学），環境放射線の研究（放射線計測学），放射線機器管理に関する研究（放射線機器学，放射線管理学），多職種連携医療専門職教育の研究（医学教育）
- 2 著書
 1. 松村明，阿武泉，磯辺智範，関本道治，他．若葉マークの画像解剖学．第4版．東京：メジカルビュー；2025.3.30：p25-30, 67
- 3 論文
 1. Maruyama S, Saitou H, Negishi T, Sekimoto M. Evaluation of the measurement accuracy and uncertainty of a solid-state detector under diagnostic x-ray beam conditions. Journal of applied clinical medical physics (JCR). 2024.7; e14476
 2. 瀧澤知世，関本道治，児玉直樹．乳房用X線装置の品質管理における平均乳腺線量評価の不確かさに関する研究．日本放射線技術学会誌（協力学術研究団体）．2024.7; 80(7): 721-730.
- 4 学会等研究発表
 1. 関本道治．漏洩X線量測定について．第1回日本放射線医療技術学会大会（沖縄市），2024.11.2. 【教育講演】
 2. 鈴木陽大，関本道治，児玉直樹．体格差を考慮したSUL値によるPET画像再構成の最適化．第1回日本放射線医療技術学会大会（沖縄市），2024.11.1.
 3. 関本道治．線量計の校正．日本放射線技術学会東京支部第291回東京支部技術フォーラム【東京】，2025.1.28. 【シンポジウム】
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会（専門部会委員，標準化委員会防護部門委員長，診断領域線量標準センター委員，プログラム委員），日本核医学技術学会（HP管理委員会 委員長），The Asian Society of Nuclear Medicine Technology（HP management），日本核医学専門技師認定機構（教育委員），日本診療放射線学教育学会（出版委員），新潟県診療放射線技師会，日本放射線技術学会東北支部，日本放射線技術学会東京支部（専門委員会委員），新潟医療福祉学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 日本放射線技術学会東京支部，第78回春期学術大会，実行委員，東京，2024.4.1-5.19.
 2. 日本放射線技術学会，第4回診断X線領域の線量測定基礎セミナー，プログラム運営，WEB，2024.6.15.
 3. 日本放射線技術学会，第5回サーバイメータ活用セミナー，プログラム運営，京都，2024.9.22.
 4. 日本核医学技術学会，第44回日本核医学技術学会総会学術大会，実行委員（広報委員長），横浜市，2024.4.1-12.1.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 日本放射線技術学会，第80回総会学術大会，座長，横浜市，2024.4.13.
 2. 日本放射線技術学会，第4回診断X線領域の線量測定基礎セミナー，司会，WEB，2024.6.15.
 3. 日本放射線技術学会，第1回日本放射線医療技術学会大会，一般演題（計測部門）審査委員長，沖縄市，2024.6.22-7.20.
 4. 日本放射線技術学会，第1回日本放射線医療技術学会大会，座長，沖縄市，2024.11.2.
 5. 日本核医学技術学会，第44回日本核医学技術学会総会学術大会，座長，横浜市，2024.11.9.
 6. 日本放射線技術学会，第81回総会学術大会，一般演題（計測部門）審査委員長，横浜市，2024.11.9-12.15.
 7. 日本ラジオロジー協会 JRC2025，International session，審査委員，横浜市，2024.11.5-11.30.
- 6 社会活動
 - 1) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
厚生労働省・診療放射線技師国家試験作成委員会（一般委員）

2) 職能団体（協会、士会等）の委員

日本工業標準調査委員会（原案作成分科会委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，科研費基盤研究（C），SPRing-8を利用したアキレス腱付着部の3次元構造変化とその力学的特性の解明，研究分担者
2. 2024年度，科研費基盤研究（C），マンモグラフィ検査におけるターゲット材質と体型を考慮した平均乳腺線量評価法の革新，研究代表者

2) 学外兼務講師等

1. 筑波大学，原子力規制人材育成事業：放射線リスクをマルチスケールで判断できる人材養成プログラム
ム 放射線計測学，2025.2.8.

8 学内委員会活動 教務委員会，高等教育推進センター委員会

氏名：前島 偉

1 研究題目 陽子線照射における神経培養細胞への影響の研究，陽子線治療の食道がんにおける放射線治療計画，BNCTに関する研究

2 著書

1. 前島偉，日本診療放射線技師会誌，第72巻第3号，日本，日本診療放射線技師会，2024: P59-66
2. 前島偉，医療安全学を学ぼう！，第4章，医療科学社，現在校正中
3. 前島偉，強度変調粒子線治療ガイドライン，第7章，日本史放射線腫瘍学会誌，現在校正中

3 学会等研究発表

1. 前島偉，業務拡大の現状及び教育機関を含めた今後の展開，第1回日本放射線医療技術学術大会（沖縄県），2024.11.1.
2. 西方快騎，前島偉，フェンス試験によるMLC位置精度の評価，新潟医療福祉学会学術集会，2024.10.26.
3. 山田綾香，前島偉，重粒子線治療におけるIDD測定のBragg PeakおよびSOBPに関する検討，新潟医療福祉学会学術集会，2024.10.26.
4. 前島偉，放射線治療計画支援装置におけるサンプルデータ数による自動輪郭抽出の精度検証（前立腺編），長野県放射線治療技術研究会，2024.12.14.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本診療放射線技師会，日本放射線技術学会，長野県診療放射線技師会（副会長），日本放射線腫瘍学会，日本医学物理学会，日本粒子線臨床研究会，長野県放射線治療技術研究会，日本粒子線治療技術研究会，ESTRO（European Society for Radiotherapy and Oncology），ASTRO（American Society for Radiotherapy and Oncology），PTCOG（Particle Therapy Co-Operative Group）

2) 学術集会の主催

1. 第6回日本粒子線治療技術研究会，研究会，代表世話人，web研究会，2024.6.8.
2. 信州放射線治療勉強会2024，勉強会，世話人代表，web研究会，2024.7.27.
3. 令和6年度 長野県放射線治療技術研究会，研究会，代表世話人，研究会，2024.12.14.
4. 第7回日本粒子線治療技術研究会，研究会，代表世話人，web研究会，2025.1.28.

3) 学会等でのその他の活動

1. 2024関東甲信越診療放射線技師学術大会，南関東実行委員，宇都宮市，2024.6.29-6.30.
2. 第1回日本放射線医療技術学術大会，シンポジスト，一般演題座長，沖縄県那覇市，2024.10.31-11.3.
3. 令和6年度 長野県診療放射線技師学術大会，実行委員，教育講演座長，長野県松本市，2024.11.16.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 長野県診療放射線技師会，フレッシュャーズセミナー，医療安全管理につて，講師，長野県松本市，城

西病院, 2024.7.20.

2) 社会活動への参加協力

1. 長野県診療放射線技師会, 医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会, 責任者, 松本市, 2024.5.12.
2. 長野県診療放射線技師会, 医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会, 責任者, 松本市, 2024.7.21.
3. 長野県診療放射線技師会, 医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会, 責任者, 松本市, 2024.10.13.
4. 長野県診療放射線技師会, 医師の働き方改革に伴う診療放射線技師の業務拡大と告示研修会, 責任者, 松本市, 2025.2.16.

3) 職能団体（協会、士会等）の委員

一般社団法人 長野県診療放射線技師会（副会長）、公益社団法人 日本診療放射線技師会（学術委員）、公益社団法人 日本診療放射線技師会（総会運営委員）

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024, 共同研究, 培養細胞を用いた陽子線のFLASH効果についての研究, 前島偉, 花村健次教授
2. 2024, 共同研究, ハイブリッド治療計画による2段階照射法の研究, 前島偉, 五十嵐爽

7 学内委員会活動 広報委員, 大学院広報委員

氏名：橋本 薫

1 研究題目 根拠に基づいた認知症ケアのための医療と介護の連携手法に関する研究

2 学会活動

- 1) 所属学会 新潟県診療放射線技師会, 日本診療放射線技師会, 日本医療情報学会, 日本遠隔医療学会, 日本認知症ケア学会, 日本認知症予防学会, 日本医用画像管理学会, 新潟医療福祉学会

3 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. すこやか・ともしびまつり2024,, 骨密度検査, 担当責任者, 長岡市・アオーレ長岡, 2024.9.14-9.15・2日間
2. ピンクリボンホリデー2024, 骨密度検査, 担当責任者, 新潟市・新潟日報メディアシップ, 2024.10.20・1日間

氏名：鷺見 和幸

1 研究題目 脳機能画像解析を用いたゲーム障害の特異的な病態解明

2 学会活動

- 1) 所属学会 日本診療放射線技師会, 日本放射線技術学会, 日本超音波検査学会

3 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 公益社団法人 全国労働衛生団体連合会 胃X線精度管理評価委員会委員
2. 医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）DRLワーキンググループ 透視診断部門委員

2) 職能団体（協会、士会等）の委員

日本診療放射線技師会, 告示研修実施運営委員会委員

4 学内委員会活動 臨床実習WG委員

氏名：吉田 宜清

1 研究題目 体動アーチファクトのある認知症診断用MRI画像から海馬の体積を正確に測定する試み

2 論文

1. Ishifuro M, Yoshida N, Yokomachi K, Fujioka C, Adachi N. Development of an Original Three-Dimensional Computed Tomography Scan Method and Imaging Process for Surgical Support of the Anterior Cruciate Ligament. Cureus Journal of Medical Science, April 2024 (review)
2. Yamamoto S, Yoshida N, Sakurai N, Ichikawa A, Takeshita K, Okada Y. Differentiation Between Ulcerative Colitis and Crohn's Disease Using Abdominal Computed Tomography in Patients With First-Time Inflammatory Bowel Disease. Cureus Journal of Medical Science, May 2024 (review)
3. Kageyama H, Yoshida N, Kondo K, Akai H. Dataset augmentation with multiple contrasts images in super-resolution processing of T1-weighted brain magnetic resonance images. Radiological Physics and Technology, December 2024 (review)
4. Sasaki K, Sakurai N, Yoshida N, Oishi M, Kasai S, Kodama N. Identification of brain activation areas in response to active tactile stimulation by gripping a stress ball. Brain Sciences, February 2025 15(3): 264 (review)

3 学会等研究発表

1. 吉田宜清, 影山肇, 赤井宏行, 櫻井典子, 山本進治, 笠井聡, 児玉直樹. 超解像敵対の生成ネットワークのハイパーパラメータの違いが脳MRI画像に与える影響 第80回日本放射線技術学会総会学術大会 4.11-14, 2024

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本診療放射線技師会, 日本放射線技術学会, 日本磁気共鳴医学会, 日本認知症予防学会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第79回新潟県診療放射線技師会総会学術大会, 座長, 新潟, 2024.5.
 2. 新潟医療福祉学会 評議員
 3. Niigata Society of Health and Welfare 編集を担当 1件

5 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024年度 若手研究 体動アーチファクトのある認知症診断用MRI画像から海馬の体積を正確に測定する試み, 研究代表者
- 2) 学外兼務講師等
 1. 東京大学医科学研究所 客員研究員 2024.4.1-2025.3.31.
 2. 福井大学医学部附属病院 診療修練員 2024.4.1-2025.3.31.

6 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会, 学会誌編集委員会・学術委員会

氏名: 大野 健

1 研究題目 磁気共鳴医学, 核医学, 神経科学

2 論文

1. Ochi G, Ohno K, Kuwamizu R, Yamashiro K, Fujimoto T, Ikarashi K, Kodama N, Onishi H, Sato D. Exercising with virtual reality is potentially better for the working memory and positive mood than cycling alone. Mental Health and Physical Activity. 2024; doi: 10.1016/j.mhpa.2024.100641. (co-first author). (review)

3 学会等研究発表

1. 熊澤将大, 大野健, 藤本知臣, 下山好充, 松浦由生子. クロール泳におけるMR拡散強調画像を用いた筋活動評価～体幹筋活動量が競技力および腰痛の有無に及ぼす影響～. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会, 2024.10.5.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本医学物理学会, 日本放射線技術学会, 日本診療放射線技師会, 新潟県診療放射線技師会, 日本磁気共鳴医学会, 日本脳循環代謝学会, 新潟医療福祉学会, 日本認知症予防学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 第37回 新潟県核医学技術研究会, 実行委員, 県央基幹病院, 2024.7.13.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2023年, 若手研究, 病理遺伝子診断時代の神経膠腫のためのMR画像バイオマーカーの開発と検証, 研究代表者
 2. 2023年, 基盤研究（B）, 月経随伴症状としての腰痛の発生メカニズム解明と対処法の開発, 研究分担者
 3. 2024年, 基盤研究（B）, 軽度認知障害の進行および回復に伴う脳内メカニズムの解明と認知症予防への展開, 研究分担者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター（非常勤研究員）
- 6 学内委員会活動 科研費対策委員, 国際交流委員, 運動機能医科学研究所（研究員）

氏名：郡 倫一

報告事項なし

氏名：吉田 皓文

- 1 研究題目 胸部X線画像から呼吸機能を推定する人工知能手法の研究, 医療画像から健康指標値を推定する人工知能手法の研究
- 2 論文
 1. Yoshida A, Sato Y, Kai C, Hirono Y, Sato I, Kasai S. Utility of osteoporosis screening based on estimation of bone mineral density using bidirectional chest radiographs with deep learning models. Front Med (Lausanne). 2025; 12: 1499670. (review)
 2. Kai C, Kondo S, Otsuka T, Yoshida A, Sato I, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Development of a Subtraction Processing Technology for Assistance in the Comparative Interpretation of Mammograms. Diagnostics. 2024; 14(11): 1131. (review)
 3. Sato I, Hirono Y, Shima E, Yamamoto H, Yoshihara K, Kai C, Yoshida A, Uchida F, Kodama N, Kasai S. Comparison and verification of detection accuracy for late deceleration with and without uterine contractions signals using convolutional neural networks. Front Physiol. 2025; 16: 1525266. (review)
 4. Kai C, Irie T, Kobayashi Y, Tamori H, Kondo S, Yoshida A, Hirono Y, Sato I, Oochi K, Kasai S. Estimating the Amount of Air Inside the Stomach for Detecting Cancers on Gastric Radiographs Using Artificial Intelligence: an Observational, Cross-sectional Study. J Imaging Inform Med. 2025. (review)
 5. Hirono Y, Sato I, Kai C, Yoshida A, Kodama N, Uchida F, Kasai S. The Approach to Sensing the True Fetal Heart Rate for CTG Monitoring: An Evaluation of Effectiveness of Deep Learning with Doppler Ultrasound Signals. Bioengineering (Basel). 2024; 11(7): 658. (review)
 6. Kai C, Tamori H, Ohtsuka T, Nara M, Yoshida A, Sato I, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Classifying the molecular subtype of breast cancer using vision transformer and convolutional neural network features. Breast Cancer Res Treat. 2025; 210(3): 771-782. (review)
 7. Kai C, Morita T, Sato I, Yoshida A, Kodama N, Kasai S. The Usefulness of the Breast Density Assessment Application Used by Breast Radiologists. Cureus. 2024; 16(6): e62560. (review)
 8. Kai C, Kondo S, Otsuka T, Yoshida A, Sato I, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Development of a

Subtraction Processing Technology for Assistance in the Comparative Interpretation of Mammograms. *Diagnostics (Basel)*. 2024; 14(11): 1131. (review)

9. Hirono Y, Kai C, Yoshida A, Sato I, Kodama N, Uchida F, Kasai S. Extracting fetal heart signals from Doppler using semi-supervised convolutional neural networks. *Front Physiol*. 2024; 15: 1293328. (review)

3 学会等研究発表

1. 吉田皓文, 渡邊大斗, 安達登志樹, 甲斐千遥, 二村仁, 笠井聡. 胸部X線写真の画質がAI-CADeの性能に与える影響. 第80回日本放射線技術学会総会学術大会 (横浜市), 2024.4.11-4.14.
2. 吉田皓文, 高橋龍生, 甲斐千遥, 二村仁, 大地邦彦, 笠井聡. 胸部X線写真の検像支援を目的とする呼吸位相推定AIの評価. 第80回日本放射線技術学会総会学術大会 (横浜市), 2024.4.11-4.14.
3. 吉田皓文, 永田光, 近藤敏志, 二村仁, 大地邦彦, 甲斐千遥, 笠井聡. 胸部X線画像から呼吸機能を推定するAIに対し画像所見が与える影響. 第17回ITヘルスケア学会年次学術集会 (名護市・オンライン), 2024.8.29-8.31.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本放射線技術学会, 日本医学物理学会, 日本医用画像工学会, 医用画像情報学会, 日本診療放射線技師会, 新潟県診療放射線技師会, 新潟医療福祉学会

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和3年厚生労働省告示第273号研修 (告示研修), 実技研修ファシリテータ, 日本診療放射線技師会, 診療放射線技師, 新潟医療福祉大学, 2024.6.1.
2. 令和3年厚生労働省告示第273号研修 (告示研修), 実技研修ファシリテータ, 日本診療放射線技師会, 診療放射線技師, 新潟医療福祉大学, 2024.6.2.
3. 令和3年厚生労働省告示第273号研修 (告示研修), 実技研修ファシリテータ, 日本診療放射線技師会, 診療放射線技師, 長岡中央総合病院, 2024.11.23.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2025年度, 科研費若手研究, 胸部X線画像の構造的・機能的異常を言語化する特化型基盤モデルの開発, 研究代表者

7 学内委員会活動 教務委員会, FD・SD推進委員会

氏名: 佐々木 啓

1 研究題目 能動的触覚刺激時の脳活動に関する研究, ASMR視聴時の脳活動に関する研究

2 論文

1. Sasaki K, Sakurai N, Yoshida N, Oishi M, Kasai S, Kodama N. Identification of Brain Activation Areas in Response to Active Tactile Stimulation by Gripping a Stress Ball. *Brain Sci*. 2025 Feb 28; 15(3): 264. (査読あり)
2. Oishi M, Sakurai N, Kawasaki Y, Sasaki K, Kasai S, Kodama N. Investigation of functional connectivity differences based on anxiety tendencies. *Front Behav Neurosci*. 2024 Dec 10; 18: 1498612.

3 学会等研究発表

1. 佐々木啓, 櫻井典子, 児玉直樹. スライドパズルによる脳血流量の変化および認知症予防の可能性. 第13回日本認知症予防学会 (横浜), 2024.9.27.
2. 佐々木啓, 櫻井典子, 吉田宜清, 大石美鈴, 児玉直樹. ストレスボール把持時の脳賦活部位の特定. 第1回日本放射線医療技術学術大会 (沖縄), 2024.

4 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本診療放射線技師会, 新潟県診療放射線技師会, 日本認知症予防学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本診療放射線技師会, 告示研修, 進行, 新潟, 2024.6.1.

2. 日本診療放射線技師会, 告示研修, 進行, 新潟, 2024.6.2.

5 学内委員会活動 運動機能医科学研究所

4) 健康科学部

(1) 健康栄養学科

氏名：永井 徹

- 1 研究題目 地域高齢者のサルコペニア予防と栄養支援に関する研究，回復期リハビリテーション患者の栄養治療に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 永井徹，井上達朗，岩森大，齋藤泰晴，坂井邦彦．地域高齢者に対するサルコペニアの摂食嚥下障害予防実践活動．第71回日本栄養改善学会学術集会（大阪），2024.9.7-9.8.
 2. 永井徹，石月公美子，堂井真里，齋藤泰晴．回復期リハビリテーション患者における血清亜鉛値とCNRC-Jとの関連．第40回日本栄養治療学会学術集会（横浜市），2025.2.14-2.15.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本栄養治療学会（学術評議員），日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本栄養改善学会，新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. むらかみ長寿大学9月特別講座，サルコペニア予防で健康長寿，講師，村上市教育委員会長寿大学，高齢者，村上市，2024.9.5.
 2. そのきコミット，新潟市公民館事業，栄養と身体活動によりフレイル予防，講師，新潟市曾野木地区公民館，高齢者，新潟市，2024.10.11.
 3. むらかみ長寿大学3月特別講座，サルコペニア予防，講師，村上市教育委員会長寿大学，高齢者，村上市，2025.3.10.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 新潟高齢者の栄養と摂食を支える会，事務局長，新潟市，2024.4.1-2025.3.31.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021年度，科研費基盤研究（C），サルコペニア嚥下機能低下高齢者口腔栄養双方向プログラムの実証研究，研究代表者
- 6 学内委員会活動 就職センター運営委員会（委員長），栄養科学研究センター，ロコモティブ症候群予防研究センター（栄養業務）

氏名：稲葉 洋美

- 1 研究題目 共食に関する研究，高校生の食と健康に関する研究，スポーツ栄養
- 2 論文
 1. 岩森大，石井穂乃果，永井徹，澁谷顕一，稲葉洋美．摂食機能維持に向けたとろみ調整食の活用について．地域ケアリング．26 (6)，53-58，2024.（査読あり）
- 3 学会等研究発表
 1. Inaba H，Hoshino F. Body perception and eating habits among Japanese adolescents, 19th International Congress of Nutrition and Dietetics, Canada, 2024.6.12-6.14.
 2. 埴晴雄，稲葉洋美，星野美美，江玉睦明，関根千恵，菊元孝則，石垣智恒，松浦由生子，大森豪．女子アスリートの貧血・鉄欠乏の実態とヘプシジンの意義．第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟市），2024.11.16-11.17.
 3. 曾根美奈子，星野力，星野美美，稲葉洋美．大学男子柔道選手における減量を行う選手の実態調査．第22回新潟医療福祉学会（新潟市），2024.10.26.
 4. 稲葉洋美，星野美美，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートのサプリメント利用状況と食習慣・食意識．第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟市），2025.11.16-11.17.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本栄養改善学会, 日本スポーツ栄養学会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本家政学会, 日本食生活学会, 日本栄養士会, 新潟県栄養士会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第35回日本臨床スポーツ医学会 シンポジウム座長, 新潟市, 2024.11.16.

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. (一財)新潟県水泳連盟水泳コーチ更新研修会, スポーツをしている方々の食と栄養, 講師, (一財)新潟県水泳連盟, アクシー中央, 2024.8.18.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定, 栄養セミナー, 講師, アルビレックス新潟U14, 聖籠町, 2024.5.6.
 2. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定, 栄養セミナー, 講師, アルビレックス新潟ユース, 聖籠町, 2024.10.25.
 3. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定, 栄養セミナー, 講師, アルビレックス新潟U15, オンライン, 2024.12.22.
 4. 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム, 理事, 通年
- 3) 職能団体(協会, 士会等)の委員
新潟バイオリサーチパーク(食品ヒト試験審査委員), 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム(理事)

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 科研費基盤研究(C), 共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発, 研究代表者
 2. 2022年度, 科研費基盤研究(C), 小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築, 研究分担者
 3. 2022年度, 科研費基盤研究(C), 女子アスリートの鉄欠乏, 貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明, 研究分担者
- 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
 1. Univas Awards 2024-25 MS&AD 賞「安全確保に関する優秀取り組み賞」アスリートサポート研究センター, 2024.3.3.
- 7 学内委員会活動 広報委員会(委員長), 大学院入試広報委員会, プロジェクト研究センター運営委員, アスリートサポート研究センター, 栄養科学研究センター(センター長)

氏名: 鈴木 一恵

- 1 研究題目 地域の減塩活動に関する研究, 災害食に関する研究, 地域高齢者の低栄養予防に関する研究(公衆栄養学)
- 2 著書
 1. 阿部絹子, 新井裕介, 今井具子, 今枝奈穂美, 焰硝岩政樹, 草間かおる, 串田修, 後藤千穂, 齊藤朋子, 鈴木一恵, 須藤紀子, 高橋佳子, 田中久子, 中谷弥栄子, 中本晶子, 中本真理子, 福村智恵, 諸岡歩, 吉澤和子. 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第10巻 公衆栄養学. 2025年版. 東京都. 医歯薬出版株式会社; 2025年: 199-213.
- 3 学会等研究発表
 1. 鈴木一恵, 渡辺優奈, 斎藤トシ子, 石上和男. 自立高齢者を対象にした低栄養と食行動・食意識に関するインタビューの質的分析. 日本栄養改善学会(大阪府), 2024.9.8.
 2. Takeuchi M, Hemmi S, Suzuki K. Na/K Ratio by Composition and Relationship to Dietary Intake

Status. 19th International Congress of Nutrition and Dietetics (ICND2024), Toronto, June 12 to 14, 2024.

3. 寺島琢馬, 竹内瑞希, 鈴木一恵. 中米グアテマラにおける慢性栄養不良児に対する標準的プログラムの実態. 日本栄養改善学会 (大阪府), 2024.9.7.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本栄養改善学会 (評議員), 日本循環器病予防学会, 日本公衆衛生学会, 日本災害食学会, 新潟医療福祉学会, 新潟栄養・食生活学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 第71回日本栄養改善学会学術総会, 一般演題 (口頭) 公衆栄養, 座長, 大阪府, 2024.9.8.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度阿賀野市食生活改善推進委員協議会記念講演, 食生活改善推進委員の役割と期待すること, 阿賀野市食推協議会 (阿賀野市健康推進課), 会員, 阿賀野市, 2024.4.30.
2. 五泉市食育推進検討委員会, 尿中Na/K比率と食品摂取の関連について, 講師, 五泉市学校教育課, 検討委員, 五泉市, 2024.6.24.
3. 五泉市食育推進委員会, 尿中Na/K比率と食品摂取の関連について, 講師, 五泉市学校教育課, 推進委員, 五泉市, 2024.7.11.
4. 五泉市食育研修会, 五泉市の食育課題と学校での食育について, 講師, 五泉市学校教育課, 小中高等学校の学校職員・学校教育課職員, 五泉市, 2024.8.1.
5. 令和6年度地域食育充実事業 働く世代への食育検討会, プリシード・プロシードモデルを活用した健康課題に対する要因, 講話・アドバイザー, 三条地域振興局健康福祉環境部, 市町村栄養士, 三条市, 2024.8.7.
6. 新潟市公民館事業とやの長寿学級, 健康長寿を延ばす食事, 講師, 新潟市鳥屋野地区公民館, 2024.9.2.
7. 食生活改善推進委員協議会長岡地区連絡会, 食育活動の背景と地域活動として食推さんに期待すること, 講師, 食推長岡地区連絡会 (長岡地域振興局健康福祉環境部), 会員, 出雲崎町, 2024.10.24.
8. 高校生に対するヘルシーガイドブックを活用した朝食講座, 朝食の必要性, 学生指導, 五泉市健康福祉課, 五泉高校の学生, 2024.11.11.
9. 高校生に対するヘルシーガイドブックを活用した朝食講座, 朝食の必要性, 学生指導, 五泉市健康福祉課, 村松高校の学生, 2024.11.25.
10. 五泉市食育推進検討委員会, 親子を対象とした学童肥満に関する実態調査の結果, 講師, 五泉市学校教育課, 食育検討委員, 五泉市, 2025.2.13.
11. 五泉市養護教諭・保健師打合せ会, 親子を対象とした学童肥満に関する実態調査の結果, 講師, 五泉市学校教育課, 五泉市内の小中学校養護教諭・市保健師, 五泉市, 2025.3.6.
12. 五泉市食育推進委員会, 親子を対象とした学童肥満に関する実態調査の結果, 講師, 五泉市学校教育課, 委員, 五泉市, 2025.3.13.

2) 社会活動への参加協力

1. 食の新潟国際賞財団, 「にいがた食と農の未来学生」ビジョンコンテスト, 学生指導 (ビジョン作成等), 2024.6.1-11.18.
2. 新潟市食と花の推進課, 食と農のわくわくSDGs, 指導者, 新潟市北区, 2024.4.1-7.31.
3. 五泉市学校教育課, 親子を対象とした学童肥満に関する実態調査～生活習慣・体格意識・学校給食との関連に着目して～, 研究報告, 本学・五泉市, 2024.5.11-2025.3.31.
4. 新潟県栄養士会, 在宅医療 (栄養) 推進事業, 事業コーディネート・事業分析業務, 新潟市, 2024.12.1-2025.3.31.
5. 新潟県庁・新潟県赤十字血液センター・NPO法人Lily&Marry'S, 子ども食堂と連携した献血啓発メ

ニューの開発と提供, 学生によるメニュー開発と子ども食堂での食事提供&ミニ健康講話,
2024.11.28-2025.3.31.

3) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員

五泉市食育推進委員会(食育推進事業アドバイザー), 五泉市食育推進検討委員会(食育推進事業アドバイザー), 柏崎市地産地消推進会議(副議長), 柏崎市食育推進会議(副議長)

4) 職能団体(協会, 士会等)の委員

日本栄養改善学会(評議員), 日本栄養改善学会関東・甲信越支部(幹事), 健康ビジネス協議会(おもいやり災害食認定制度事業審査委員会・委員)

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2022年度, 科研費基盤研究(c), 地域在住の自立高齢者の低栄養の実態と関連要因～食意識・食行動に着目して～, 研究代表者

7 学内委員会活動 個人情報保護委員会(委員長), 高等教育推進センター運営委員会

氏名: 田村 典子

1 研究題目 血小板血栓のメカニズムの研究, ポリフェノールが血小板血栓形成におよぼす効果, 高血糖が血小板血栓形成におよぼす影響

2 著書

1. 田村典子 他 共著. 栄養管理と生命科学シリーズ 生化学 初版. 東京:理工図書;2024年:p67-77

3 学会等研究発表

1. 山澤大輔, 後藤信一, 田村典子, 後藤信哉. 血流下の血小板・フィブリン血栓の成長に寄与する各種パラメーターの定量評価. 第47回日本バイオレオロジー学会学術集会(東京) 2024.6.8-6.9.
2. 田村典子, 王月栗. 健常人の高血糖が血小板血栓の形成におよぼす影響. 第47回日本バイオレオロジー学会学術集会(東京) 2024.6.8-6.9.
3. 田村典子, 猪俣七海, 石川敬奈, 内田杏菜. ポリフェノールが血小板血栓形成におよぼす影響. 第22回日本機能性食品医用学会総会(大宮市), 2024.12.7-12.8.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本血栓止血学会(代議員), 日本バイオレオロジー学会, 日本機能性食品医用学会, 新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Journal of Orthopaedic Surgery and Research, 査読

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー「食中毒のお話」 動画作成 講師 新潟医療福祉大学 新潟市民 新潟市

6 その他の教育研究活動

1) 受賞, 学位取得, 資格取得

第22回日本機能性食品医用学会年会 最優演題賞受賞(2024.12.8)

7 学内委員会活動 図書館学習支援委員会(副委員長), 遺伝子組換え実験安全委員会, メンタルヘルス支援委員, 栄養化学研究センター

氏名: 馬場 広子

報告事項なし

氏名：岩森 大

1 研究題目 高齢者の食事形態と食品のテクスチャに関する研究

2 論文

1. 岩森大, 石井穂乃果, 永井徹, 澁谷顕一, 稲葉洋美. 摂食機能維持に向けたとろみ調整食の活用について. 地域ケアリング. 26 (6), 53-58, 2024. (査読あり)
2. Iwamori H, Magara J, Onuki W, Ita R, Sasa A, Tsujimura T, Inoue M. Effect of carbonation and thickening on voluntary swallow in healthy humans. Journal of oral rehabilitation. 2024; Vol.51 (10), 2043-2051. (査読あり)

3 学会等研究発表

1. Iwamori H, Terao S, Nagai T, Inaba H, Shibuya K. Utilization of thickening food to maintain eating function. International Congress of Nutrition and Dietetics. (Toronto), 2024.6.
2. 平山景子, 岩森大, 井上誠. 介護老人福祉施設において自立支援を考慮しながら食事支援を行った1例. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会 (神戸市), 2024.8.29-8.31.
3. 永井徹, 井上達朗, 岩森大, 齋藤泰晴, 坂井邦彦. 地域高齢者に対するサルコペニアの摂食嚥下障害予防実践活動. 第71回日本栄養改善学会学術集会 (大阪), 2024.9.7-9.8.
4. Magara J, Iwamori H, Onuki W, Ita R, Sasa A, Tsujimura T, Inoue M. The European Society for Swallowing Disorders. International Congress of Nutrition and Dietetics. (Münster), 2024.9.
5. 平山景子, 岩森大. 摂食嚥下障害のある要介護高齢者に対する自立支援の取り組み. 新潟栄養士学会 (新潟市). 2024.12.
6. 岩森大, 石井穂乃果, 真柄仁, 井上誠. 炭酸飲料摂取時の味覚刺激および味覚感受性が嚥下筋活動へ及ぼす影響. 日本嚥下学会 (神戸市), 2025.2.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本調理科学会 (総務), 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 日本官能評価学会, 日本口腔リハビリテーション学会, 日本嚥下学会, 日本食生活学会, 新潟歯学会, 新潟栄養食生活学会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本調理科学会誌, 査読
 2. 東亜大学紀要, 査読
 3. An Interdisciplinary Journal, 査読

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟県栄養士会新発田村上支部合同研修会, 嚥下調整食の調理実習, 講師, 新潟県栄養士会, 職能団体会員, 新潟医療福祉大学, 2024.11.16.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 新潟市立南浜中学校, 文化祭 (お菓子販売), コラボ開発, 調理指導・サポート, 2024.8-11.
 2. にいがた摂食嚥下サポート研修会, 地域高齢者向け講演会, 運営委員, 新潟 (通年)
 3. 新潟高齢者の栄養と摂食を支える会, 運営委員 (通年)
- 3) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
新潟県栄養士会 (広報委員)

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023, 科研基盤研究 (C), レオロジーの異なる炭酸飲料による嚥下機能への刺激効果の解明, 研究代表者
 2. 科研基盤研究 (C), サルコペニア嚥下機能低下高齢者口腔栄養双方向プログラムの実証研究, 研究分担者

- 7 学内委員会活動 学生委員会（副委員長）、交通安全委員会（副委員長）、国家試験対策委員会、栄養科学研究センター（副センター長）

氏名：山崎 貴子

- 1 研究題目 調理加工・保存等における食品成分およびテクスチャーの変化
- 2 学会等研究発表
 1. 山崎貴子，星野美美，竹内瑞希，寺尾幸子，石澤幸江．小規模調理，大量調理を行った和え物のリン量について．日本調理科学会 2024 年度大会（鎌倉市），2024.9.6-9.7.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本調理科学会，日本栄養改善学会，日本食生活学会，新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 南浜小学校，総合学習，ケチャップづくり，学生指導，新潟市，2024.4.26-9.20.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021 年度，科研費基盤研究（C），給食施設での栄養評価のためのデータ構築：調理による成分変化と成分表計算値との比較，研究代表者
 - 2) 受賞，学位取得，資格取得
保護具着用管理責任者（2025.2.17）
- 6 学内委員会活動 教務委員会（委員長），化学物質管理委員会

氏名：川上 心也

- 1 研究題目 個体の栄養状態が卵子に与える影響についての研究，卵子の成熟機序の研究
- 2 学会等研究発表
 1. 川上心也，菊地都妙，鈴木可菜，丸山恭花．個体のエネルギー摂取不足が卵母細胞の脂質含量や初期発生に与える影響．日本卵子学会学術集会（神戸市），2024.5.18-5.19.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本卵子学会，新潟医療福祉学会，北信越畜産学会
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2022 年度，基盤研究（C），個体のエネルギー摂取不足は卵子の発育に影響するのか？，研究代表者
 2. 2023 年度，基盤研究（C），小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築，研究分担者
- 5 学内委員会活動 人権委員会，個人情報保護委員会，教務委員会

氏名：星野 美美

- 1 研究題目 アスリートの食習慣・睡眠の実態とそれらがコンディションやパフォーマンスに与える影響について，児童のやせ願望とその実態について，高校生の睡眠時間と健康について
- 2 学会等研究発表
 1. 曾根美奈子，星野力，星野美美，稲葉洋美．大学男子柔道選手における減量を行う選手の実態調査．新潟医療福祉学会・第 24 回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.
 2. 稲葉洋美，星野美美，江玉睦明，大森豪．大学女性アスリートのサプリメント利用状況と食習慣・食意識．日本臨床スポーツ医学会・第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会（朱鷺メッセ 新潟市），2024.11.16-11.17.
 3. 塙晴雄，稲葉洋美，星野美美，江玉睦明，関根千恵，菊元孝則，石垣智恒，松浦由生子，大森豪．女子ア

スリートの貧血・鉄欠乏の実態とヘプシジンの意義. 日本臨床スポーツ医学会・第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会（朱鷺メッセ 新潟市），2024.11.16-11.17.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本体力医学会，日本栄養食糧学会，日本栄養改善学会，日本スポーツ栄養学会，日本給食経営管理学会，日本臨床スポーツ医学会

4 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 公益社団法人新潟県栄養士会・研究教育事業部・役員会議，役員，新潟市，2024.4-2025.3.
2. 公益社団法人新潟県栄養士会・新潟市支部・役員会議，副支部長，新潟市，2024.4-2025.3.
3. 日本栄養士連盟・新潟支部役員会議，幹事長，新潟市，2024.4-2025.3.
4. 新潟骨を守る会・役員会議，幹事，新潟市，2024.4-2025.3.
5. アルビレックス新潟・栄養関連会議，役員，新潟市，2024.4-2025.3.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人新潟県栄養士会・研究教育事業部（幹事），公益社団法人新潟県栄養士会・新潟市支部（副支部長），新潟骨を守る会（幹事），日本栄養士連盟新潟支部（幹事長）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，基盤研究（C），給食施設での栄養評価のためのデータ構築：調理による成分変化と成分表計算値との比較，山崎貴子・寺尾幸子・竹内瑞希・星野美美.
2. 2023年度，基盤研究（C），小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築，星野美美・稲葉洋美・川上心也・寺尾幸子.

6 学内委員会活動 同窓会・生涯学習連携推進委員会（委員），入試委員会（委員），広報委員（委員），アスリートサポート研究センター（研究員）

氏名：中村 純子

1 研究題目 中学生におけるCKD普及啓発，部活動引退後の変化

2 論文

1. Nakamura J, Kaseda R, Takeuchi M, Kitabayashi K, Narita I. Adolescents and parents' knowledge of chronic kidney disease: the potential of school-based education. Clin Exp Nephrol. 2025 Jan 23. doi: 10.1007/s10157-025-02627-6. (review)

3 学会等研究発表

1. Nakamura J, Takeuchi M, Kaseda R. Nudge Theory for Adolescent Athletes: Improving Nutrition Behavior Effectively. 19th International Congress of Nutrition and Dietetics (Toronto, Canada), June 12. 2024
2. Nakamura J, Kaseda R, Takeuchi M, Narita I. Association of CKD Knowledge Among Parents and junior high school Students - New avenues for CKD education to increase awareness among youth -. 第67回日本腎臓学会学術集会（横浜・日本），2022.6.28-6.30.
3. 中村純子，悴田亮平．CKD教育の新たな道筋～中学生親子の知識の関連を明らかにする～．第12回日本腎栄養代謝研究会学術集会・総会（大阪・日本），2024.8.3-8.4.
4. 中村純子，悴田亮平．高校生アスリートの現役中の身体はどの程度維持されるのか．日本スポーツ栄養学会第10回大会（埼玉・日本），2024.9.21-9.22.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本病態栄養学会（評議員），新潟医療福祉学会，日本腎臓学会，日本スポーツ栄養学会

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等

1. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー，講座13，成長期に必要な栄養，講師，市民，新潟市（オンライン），2024.4.1-2025.3.31.
2. 世界高血圧の日市民公開講座in新潟，かけて減らす～100円でお得に減塩～，講師，特定非営利法人日本高血圧協会，市民，新潟市，2024.5.12.
3. 佐渡市医師会学術講演会，若い世代のCKDヘルスリテラシー向上に向けての取り組み，講師，佐渡市医師会，佐渡市医療職，佐渡市，2024.6.20.
4. 減塩と高血圧を考える～合併症予防に向けて～，塩分と共存！継続できる減塩工夫について，講師，ノバルティスファーマ株式会社，新潟市医療職，新潟市，2024.10.25.
5. 村上市食生活推進委員研修会，骨と筋肉の話，講師，村上市，市民，2024.11.19.
6. 燕市特定保健指導従事者研修会，検査データの見方，講師，燕市保健センター，職員・市民，2024.11.12.
7. 燕市特定保健指導従事者研修会，効果的な減塩方法，講師，燕市保健センター，職員・市民，2024.11.22.
8. からだづくり講座，持続可能なげんきな体！～12歳からのSDGs～，講師，秋葉区，市民，2024.11.24.
9. 糖尿病センター勉強会，かけて減塩・おいしく減塩～減塩の選択肢を増やす～，講師，木戸病院，病院従事者，2024.12.4.
10. 食塩感受性×食塩過剰摂取から考える高血圧治療～減塩とARNIの果たす役割～，塩分と共存！継続できる減塩工夫について，講師，ノバルティスファーマ株式会社，医療従事者，新潟市，2025.1.31.
11. 市民公開セミナーin新潟CKD，腎臓にいい食事～知る・考える・変えていく～，講師，小野薬品工業株式会社，市民，新潟市，2025.3.8.
12. 早通地区脳いきいき教室，つかむぞ！減塩のコツ～やみつきになる減塩術～，講師，早通地区公民館，市民，新潟市，2025.3.15.
13. 市民公開講座 脳出血・心臓病を防ぐ！～超ためになる高血圧と減塩のお話～，つかむぞ！減塩のコツ～やみつきになる減塩術～，新潟市，市民，新潟市，2025.3.22.
14. 文理高校栄養セミナー，高校野球選手に必要な栄養，講師，日本文理高校野球部，文理高校野球部員，日本文理高等学校，2024.4.2.
15. 文理高校栄養セミナー，バテない体を作る，講師，日本文理高校野球部，文理高校野球部員，日本文理高等学校，2024.7.3.
16. 文理高校栄養セミナー，身体をつくる，講師，日本文理高校野球部，文理高校野球部員，日本文理高等学校，2024.11.14.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 日本文理高校野球部，栄養サポート，日本文理高校，通年
 2. こばんはうすさくら新潟中央店，食育，講師，新潟市，2024.10.20.
- 3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市学校運営協議会・梨の花部会（新潟市学校運営協議委員）
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度，科研費基盤研究（C），健康教育が行動に繋がらない謎を解明：ナッジで中学生の行動変容を促す，研究代表者
 - 2) 受賞，学位取得，資格取得
優秀演題賞（日本腎臓学会，2024.6.30）
 - 3) 学外兼務講師等
 1. 木崎小学校，総合学習（弁当の日），2024年度計3回
- 7 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員会（委員），社会連携推進センター委員会（委員）

氏名：竹内 瑞希

1 研究題目 血液透析患者の栄養管理, 栄養教育に関する研究, 栄養に関する知識Databaseの活用について

2 論文

1. Nakamura J, Kaseda R, Takeuchi M, Kitabayashi K, Narita I. Adolescents and parents' knowledge of chronic kidney disease: the potential of school-based education. Clin Exp Nephrol. 2025 Jan 23. doi: 10.1007/s10157-025-02627-6. (査読あり)
2. Horikawa C, Takahara M, Katakami N, Takeda Y, Takeuchi M, Fujihara K, Suzuki H, Yoshioka N, Shimano H, Satoh J, Hayashino Y, Tajima N, Nishimura R, Yamasaki Y, Sone H. Dietary potassium intake and its interaction with sodium intake on risk of developing cardiovascular disease in persons with type 2 diabetes: The Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective study (JDCCP study 12). Diabetes Obes Metab. 2025 Jan; 27(1): 394-406. doi: 10.1111/dom.16035. Epub 2024 Oct 28. (査読あり)
3. Ferreira ED, Hatta M, Laymon K, Ikeda I, Takeuchi M, Takeda Y, Morikawa SY, Horikawa C, Kato N, Maegawa H, Fujihara K, Sone H; Japan Diabetes Clinical Data Management Study Group (JDDM study group). Demographic and dietary determinants of the association between dietary fibre intake and obesity in Japanese adults with type 2 diabetes: a cross-sectional study (JDDM 78). Public Health Nutr. 2025 Feb 4; 28(1): e49. doi: 10.1017/S136898002500014X. (査読あり)
4. 高橋洋平, 竹内瑞希, 合志聡. 胃腸からの完全経腸栄養管理における血清Na値と患者特性及び食塩補給量と水分補給量との関連. Journal of JSPEN. 2024.3.12. (アクセプト) (査読あり)
5. 竹内瑞希. 2024年度未来研究プロジェクト海外学会参加費助成受賞者学会参加記. Journal of JSPEN. Vol.7 No.1: 43-44 doi:10.11244/ejspen.7.1_43 (査読あり)
6. 堀川千嘉, 高原充佳, 片上直人, 武田安永, 竹内瑞希, 藤原和哉, 鈴木浩明, 津田謹輔, 吉岡成人, 島野仁, 佐藤譲, 林野泰明, 田嶋尚子, 西村理明, 山崎義光, 曾根博仁. 日本人2型糖尿病患者における, 飽和脂肪酸エネルギー比率と心血管疾患発症との関係 JDCCP studyの解析から. 糖尿病. 2024 04; 67巻 Suppl.1 Page S-169 (査読あり)

3 学会等研究発表

1. Takeuchi M, Hemmi S, Suzuki K. Na/K Ratio By Composition and Relationship to Dietary Intake Status. The19th International Congress of Nutrition and Dietetics (カナダ・オンタリオ州トロント・Westin HarbourCentre Hotel), 2024.6.12.
2. 阿部拓也, 中村純子, 竹内瑞希, 藤井豊. 共役リノール酸摂取はNASH病変を抑制させる NASH発症小動物モデルを用いた検討. 日本病態栄養学会誌 (京都府), 2025.1.19.
3. 中村純子, 俣田亮平, 竹内瑞希, 成田一衛. 中学生親子のCKD認知度の関連 若年層の認知度向上のためのCKD教育の新たな道筋. 日本腎臓学会 (神奈川), 2024.6.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本病態栄養学会, 日本静脈経腸栄養学会, 日本栄養改善学会, 新潟栄養・食生活学会, 新潟医療福祉学会

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度 在宅医療(栄養)推進事業, 事業コーディネイト・事業分析業務, 新潟市・オンライン, 2024.10-2025.3.
2. 香友会新潟支部研究会, 「塩」研究からみる塩と健康, かしこい節塩術, 講師, 新潟市民, 2024.7.13.

2) 職能団体(協会, 士会等)の委員

新潟県栄養士会(新潟市理事)

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2021年度, 科研費基盤研究C, 給食施設での栄養評価のためのデータ構築: 調理による成分変化と成分表計算値との比較, 研究分担者
- 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
2024年度未来研究プロジェクト海外学会参加費助成受賞
- 7 学内委員会活動 教務委員

氏名: 片山 直幸

- 1 研究題目 栄養教諭の専門性に関する研究
- 2 論文
 1. 片山直幸, 久保晃, 佐藤裕紀, 丸山幸恵. 教職課程アンケート集計結果. 新潟医療福祉大学教職支援センター年報. 2023年: 41-44
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本学校保健学会, 新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 南浜中学校サツマイモプロジェクト (総合的な学習の時間), さつまいもの栄養価について, 講師, 新潟市立南浜中学校, 1年生, 南浜中学校, 2024.6.5.
 2. 南浜中学校サツマイモプロジェクト (総合的な学習の時間), 販売する商品についての検討, 講師, 新潟市立南浜中学校, 1年生, 南浜中学校, 2024.6.26.
 3. 「サタデイキッズ～夏休み特別編～」in 新潟医療福祉大学, 管理栄養士のお仕事体験～北区名産 野菜・果物のおいしさについて知ろう!～, 講師, 豊栄地区公民館, 小学生, 新潟医療福祉大学, 2024.8.9.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 中学生・企業 (Sunny Days) との商品開発, 指導・コーディネート, 南浜中学校 松風祭 (文化祭) にて販売, 2024.11.2.
- 5 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会, 教職支援センター運営委員会

氏名: 塩沢 浩太

- 1 研究題目 ビオチンの新規機能性の探索, 食事摂取基準に資する研究レビュー
- 2 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 新潟県保健福祉部・日本赤十字社新潟支部・子ども食堂 (Lily&Marry's), 献血推進事業, 補助, 新潟市東区プラザ, 3.17.

(2) 健康スポーツ学科

氏名：西原 康行

1 研究題目 Embodied Knowledge, Human Resource Management

2 論文

1. 中澤謙, 久田泰広, 渡部琢也, 西原康行. ウェアラブルアイトラッカーの映像と対話による熟練保育者の「みえ」の共有. 日本教育工学会論文誌 (協力学術研究団体). 2025; 49 (1): 65-77.

3 学会等研究発表

1. 西原康行. 部活動の地域展開における医科学の役割・日本臨床スポーツ医学会. (新潟：朱鷺メッセ), 2024.11.17. 【シンポジウム】
2. 西原康行. スポーツを通じた地域活性化・日本臨床スポーツ医学会. (新潟：朱鷺メッセ), 2024.11.17. 【シンポジウム】
3. 西原康行. 認知症を支える産官学連携と地域連携. 新潟医療福祉学会学術集会 (新潟：新潟医療福祉大学), 2024.10.26. 【シンポジウム】
4. 西原康行. 部活動の地域展開とネットワークのあり方. スポーツ庁委託事業報告研究集会 (新潟：朱鷺メッセ), 2025.2.10. 【シンポジウム】

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会 (代議員), 日本体育・スポーツ経営学会, 日本スポーツ教育学会, 新潟医療福祉学会, 日本教育工学会, 日本教育実践学会, 日本スポーツ産業学会, Federation International d Education Physique (FIEP), North American Society for Sport Management (NASSM), European College of Sports Science (ECSS), International Association for Development of the Information Society (IADIA)

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本体育・スポーツ・健康学会 代議員
2. 体育学研究 査読委員
3. 日本教育工学会論文誌 査読委員
4. 大学体育スポーツ教育学研究 査読委員
5. スポーツ産業学研究 査読委員
6. Educational Technology Research, Peer Reviewer
7. ECNSI Journal of Education, Editorial Board

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 長岡市, 2024.6.3.
2. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 燕市, 2024.6.11.
3. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 上越市, 2024.7.24.
4. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 湯沢町, 2024.9.10.
5. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 五泉市, 2024.9.22.
6. 日本スポーツ協会, 上級コーチ養成研修会, 講師, 日本スポーツ協会 (スポーツ庁), 札幌市, 2024.9.5.
7. 日本スポーツ協会, 共通Ⅲコーチ研修会, 講師, 日本スポーツ協会 (スポーツ庁), 新潟市, 2024.10.5.
8. 新潟県村上市教育委員会, コーチの資質, 講師, 村上市 (新潟県教育庁), 2024.5.21.
9. 新潟県燕市教育委員会, コーチの資質, 講師, 燕市 (新潟県教育庁), 2024.6.22.
10. 新潟県見附市教育委員会, コーチの資質, 講師, 見附市 (新潟県教育庁), 2025.2.8.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 新聞, 新潟日報, 部活動の地域移行に向けて, 2024.5.16. 【囲み記事】

2. 新聞, 新潟日報, 部活動の地域移行 新潟県の進捗, 2024.6.25.
 3. 新聞, 新潟日報, 新潟市スポーツ未来構想会議, 2024.4.1. 【囲み記事】
 4. 新聞, 新潟日報, 部活動の地域移行 新潟県の進捗, 2024.6.25.
 5. TV, UX: スーパーJにいがた, 部活動の地域移行の取り組み (新潟県部活動改革委員会), 2024.5.16. 【座長取材】
 6. TV, NHK: ニュース 610, 部活動の地域移行の取り組み (新潟県部活動改革委員会), 2024.5.16. 【座長取材】
 7. TV, BSN: ゆうナビ, 部活動の地域移行の取り組み (新潟県部活動改革委員会), 2024.5.16. 【座長取材】
 8. TV, NST: Newsタッチ, 部活動の地域移行の取り組み (新潟県部活動改革委員会), 2024.5.16. 【座長取材】
- 3) 社会活動への参加協力
1. 新潟県広域スポーツセンター, 指導助言, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
 2. 長野県広域スポーツセンター, 指導助言, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
 3. 富山県広域スポーツセンター, 指導助言, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
 4. 石川県広域スポーツセンター, 指導助言, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
 5. 総合型地域スポーツクラブ「NPO法人希楽々」, 地域と学校の融合, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
- 4) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員
- スポーツ庁全国高等学校総合体育大会【インターハイ】実行委員会 (監査役), 新潟県スポーツ推進審議会 (会長), 新潟県スポーツ推進プラン実行会議 (委員長), 新潟県部活動改革委員会 (委員長), 新潟県オリンピックアスリート支援検討委員会 (委員), 新潟県スポーツ医科学センターあり方委員会 (委員長), 新潟県スポーツ協会 (理事), 新潟文化・スポーツコミッション (委員長), 新潟市スポーツ推進審議会 (会長), 新潟市スポーツ推進計画策定会議 (委員長), 新潟シティマラソン事業者選定委員会 (委員長), 新潟市公共体育施設指定管理者選定委員会 (委員長), 新潟市スポーツ施設あり方委員会 (委員長), 新潟市総合計画策定会議 (部会長), 燕市部活動のあり方委員会 (委員長), 村上市部活動のあり方委員会 (委員長), 見附市部活動のあり方検討委員会 (委員長), 弥彦村部活動あり方検討委員会 (委員長), 長野県部活動改革委員会 (部会長), 三条市部活動あり方委員会 (委員長)
- 5) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
- 日本スポーツ協会 (コーチデベロッパー), 新潟県スポーツ協会 (理事), 全国体育系大学連絡会 (研究幹事)
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
1. 2023, 基盤研究 (C), 保育者としての成長過程に沿ったVR-Learning教材の開発, 研究分担者
 2. 2023, 基盤研究 (C), VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化, 研究分担者
 3. 2021, 基盤研究 (C), 幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発, 研究分担者
 4. 2023, 基盤研究 (C), 体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発, 研究代表者
- 2) 学内部活動の実績
1. 女子バスケットボール部, 部長, 2024.4.1-2025.3.31.
 2. 剣道部部長, 2024.4.1-2025.3.31.
- 3) 学外兼務講師等
1. 新潟大学, スポーツ経営学, 2024.4.1-2025.3.31.
 2. 事業創造大学院大学, スポーツビジネス特論, 2024.10.1-2025.3.31.
 3. 日本スポーツ協会, 上級指導者・上級コーチ養成講師 (スポーツマネジメント), 2024.4.1-2025.3.31.

4. 日本体育施設協会, 体育施設管理士養成講師 (スポーツ施設のマネジメント), 2024.4.1-2025.3.31.
5. 日本スポーツ協会, 上級指導者・上級コーチ養成講師 (コーチング), 2024.4.1-2025.3.31.
- 7 学内委員会活動 総務会, 社会連携・同窓会・生涯学習推進機構 (機構長), アスレティックデパートメント推進機構 (機構長), 同窓会・生涯学習推進委員会 (委員長), 強化指定クラブ運営委員会 (委員長), 将来計画機構, 自己点検・評価委員会, 教員選考・評価委員会, シチズンシップ教育研究センター (センター長), 身体教育研究センター (センター長)

氏名：佐藤 敏郎

- 1 研究題目 中高年者の運動による健康づくり, 大学生の体力水準と学業成績と生活状況との関係, 高齢者における転倒予防, 習慣的運動実施による健康状態・体力水準の変化, 足裏形態 (浮き趾・偏平足)
- 2 論文
 1. 青木宏樹, 出村慎一, 山次俊介, 長澤吉則, 石原一成, 佐藤敏郎, アルコール摂取による重心動揺変化, 福井工業高等専門学校教育研究論文集, 2025年3月; 第58巻64-71. (査読あり)
 2. 浮田咲子, 出村慎一, 佐藤敏郎, 新規浮き趾測定器具に基づく児童の自然立位時の浮き趾判定と浮き趾高計測値の信頼性, 教育医学, 2024年6月; 第69巻 (第4号) 287-295. (査読あり)
- 3 報告書
 1. 佐藤敏郎, 基盤研究 (C), 運動競技選手の浮き趾を含む足裏形態, 履物, 関節痛との関係, 2020-2023, 研究成果報告書, 研究代表者
- 4 学会等研究発表
 1. 佐藤敏郎, 出村慎一, 長澤吉則, 浮田咲子, 青木宏樹, 大学野球選手における浮き趾及び土踏まずの有無と足裏形態値との関係, 日本体育・スポーツ・健康学会・第74回大会 (福岡市), 2024.8.29-8.31.
 2. 浮田咲子, 出村慎一, 佐藤敏郎, 小学校児童の自然立位姿勢と背中付立位姿勢における第5趾の浮き趾数と浮き趾高比較, 日本体育・スポーツ・健康学会・第74回大会 (福岡市), 2024.8.29-8.31.
 3. 佐藤敏郎, 出村慎一, 青木宏樹, 高橋憲司, 浮田咲子, 大学運動選手における浮き趾有無群の片脚静止立位姿勢時の重心動揺比較, 日本体育測定評価学会・第24回大会 (武蔵野市), 2025.3.21.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本体育測定評価学会 (監事), 日本教育医学会 (理事), 新潟医療福祉学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本体力医学会, 日本生理人類学会, 日本臨床運動療法学会, 日本運動・スポーツ科学学会
- 6 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 健康体操講座, 運動による健康づくり, 講師, 濁川コミュニティ協議会, 一般市民, 新潟市, 2024.5.22.
 2. 筋力トレーニング推進事業, ちょこちょこ筋トレ講習会, 講師, 三条市福祉保健部, 三条市信用金庫職員, 三条市, 2024.7.6.
 3. 筋力トレーニング推進事業, ちょこちょこ筋トレ講習会, 講師, 三条市福祉保健部, 三条市信用金庫職員, 三条市, 2024.10.23.
 4. 筋力トレーニング推進事業, ちょこちょこ筋トレ講習会, 講師, 三条市福祉保健部, 三条市社会福祉協議会職員, 三条市, 2024.9.26.
 5. 筋力トレーニング推進事業, ちょこちょこ筋トレ講習会, 講師, 三条市福祉保健部, 三条市社会福祉協議会職員, 三条市, 2024.10.3.
 6. 生活習慣病予防講演会, 体力を維持するための正しい運動のしかた, 講師, 新潟県健康づくり財団, 健康推進員, 南魚沼市, 2024.6.28.
 7. 生活習慣病予防講演会, 体力を維持するための正しい運動のしかた, 講師, 新潟県健康づくり財団, 健康推進員, 柏崎市, 2024.9.19.

8. 従業員体力測定, 転倒災害がない職場づくりに向けての体力測定, 講師, 日本精機株式会社 (高見事業所), 従業員, 長岡市, 2024.5.30.
 9. 従業員体力測定, 転倒災害がない職場づくりに向けての体力測定, 講師, 日本精機株式会社 (本社), 従業員, 長岡市, 2024.6.4.
 10. 筋力トレーニング推進事業, ちょこちょこ筋トレ講習会, 講師, 三条市福祉保健部, 三条市民, 三条市, 2024.10.11.
 11. 筋力トレーニング推進事業, ちょこちょこ筋トレ講習会, 講師, 三条市福祉保健部, 三条市民, 三条市, 2024.12.13.
 12. 令和6年度指導者育成プログラム研修会, 発育発達に合わせた指導, 中高年・女性とスポーツ, 講師, NPO法人希楽々, 認定指導者, 村上市, 2024.10.17.
 13. にいがたケンジュプロジェクト, ウォーキングチャレンジin信濃川やすらぎ提, 講師, BSNラジオ, 一般県民, 新潟市, 2024.6.15.
 14. にいがたケンジュプロジェクト, ウォーキングチャレンジin信濃川やすらぎ提, 講師, BSNラジオ, 一般県民, 新潟市, 2024.11.24.
 15. 県央スポーツネットワークスポーツ指導者講習会, 発育発達に合わせた指導「子ども・中高年・女性」, 講師, 県央スポーツネットワーク, 認定指導者, 三条市, 2024.11.24.
 16. にいがた健活アワード2024, 表彰式・健活トーク, 審査委員長, 新潟日報社, 一般県民, 新潟市, 2025.3.9.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
1. BSNラジオ, にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ, 夏場の運動, 2024.8.2.
 2. BSNラジオ, にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ, 夏場の運動, 2024.8.9.
 3. BSNラジオ, にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ, 健康経営と冬の運動, 2025.1.10.
 4. BSNラジオ, にいがたケンジュプロジェクト・ケンジュがダイジ, 健康経営と冬の運動, 2025.1.17.
 5. BSNラジオ, サロン de かおり, 歩くことの効果, 2024.6.15.
 6. 新潟日報, にいがた健活アワード2024・募集のご案内, 2024.12.15.
 7. 新潟日報, にいがた健活アワード2024・募集のご案内, 2024.12.18.
 8. 新潟日報, にいがた健活アワード審査会・健康増進挑戦熱く, 2025.2.9.
 9. 新潟日報, にいがた健活アワード2024・表彰式・健活トーク募集, 2025.2.19.
 10. 新潟日報, 健活アワード受賞者トーク・健康寿命延伸へ優れた活動紹介, 2025.3.16.
- 3) 社会活動への参加協力
1. 公益財団法人新潟県健康づくり財団, 定期評議員会, 評議員, 新潟市・新潟県医師会館, 2024.6.26.
 2. 健康立県ヘルスプロモーションプロジェクト推進会議, 健康立県プロモーション事業, 委員, 新潟市・新潟県自治会館, 2024.8.26.
 3. 日本健康運動指導士会新潟県支部, 2024年度第1回研修会, 企画運営, 新潟市・新潟日報社メディアシップ, 2024.9.29.
 4. 日本健康運動指導士会新潟県支部, 2023年度第2回研修会, 企画運営, 新潟市・新潟日報社メディアシップ, 2024.11.17.
 5. 「健康にいがた21」評価・進行管理部会, 健康にいがた21 (第3次) 評価 (第4次) 骨子案, 委員, 新潟市・新潟県庁, 2024.9.13.
 6. 「健康にいがた21」評価・進行管理部会, 健康にいがた21 (第4次) 策定, 委員, 新潟市・新潟県庁, 2024.11.21.
- 4) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員
新潟県ヘルスプロモーションプロジェクト推進会議 (委員)
- 5) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
日本健康運動指導士会新潟県支部 (支部長), 新潟県フライングディスク協会 (会長), 公益財団法人新潟

県健康づくり財団（評議員），新潟骨を守る会（監事），関甲新学生野球連盟（理事）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（C），「浮き趾」は静的・動的立位姿勢の安定性や歩行動作および跳躍動作に影響するのか

8 学内委員会活動 総務会，アスレチックデパートメント推進機構，教員選考・評価委員会

氏名：下山 好充

1 研究題目 水泳競技におけるパフォーマンス向上に関する研究

2 著書

1. 下山好充，奈良梨央；田島朗 編. THE SWIMMING BOOK さあ泳ごう！. 東京. マガジンハウス；2024：6-23. 32-37.

3 学会等研究発表

1. 三瀬貴生，下門洋文，山城昌一朗，馬場康博，奈良梨央，下山好充，若年競泳選手の発育・発達過程における水中ドルフィンキック泳のキネマティクスおよび体力・運動能力の変化とキック泳速度との関係. 日本水泳・水中運動学科（徳島県），2024.10.4-10.6.
2. 熊澤将，大野健，藤本知臣，下山好充，松浦由生子. クロール泳におけるMR拡散強調画像を用いた筋活動評価～体幹筋活動量が競技力および腰痛の有無に及ぼす影響～. 日本水泳・水中運動学科（徳島県），2024.10.4-10.6.
3. 三瀬貴生，下門洋文，下山好充，成長期女子競泳選手における全国大会出場者の体力・運動能力の経時的変化. 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会（福岡県），2024.8.29-8.31.
4. Sato A, Nara R, Shimoyama Y. The factors influencing on individual nutritional counseling for collegiate swimmers. The 19th International Congress of Nutrition and Dietetics 2024 (Toronto, CANADA), 2024.6.12-6.14.
5. 松浦由生子，熊澤将大，藤本知臣，奈良梨央，馬場康博，下山好充，江玉睦明. ウェアラブルデバイスを用いた睡眠管理により女子水泳選手の自己評価による睡眠の質と月経随伴症状が改善する. 第13回日本アスレティックトレーナー学会学術大会（愛知県），2024.9.14-9.15.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会，日本体力医学会，日本バイオメカニクス学会，日本スプリント学会，トレーニング科学会，日本水泳水中運動学会，日本コーチング学会，新潟医療福祉学会

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 一般社団法人日本パラ水泳連盟研修会，個別強化とチーム強化の使い分け，パラリンピック水泳日本代表選手とコーチ，味の素ナショナルトレーニングセンター，2024.4.29.
2. 日本スイミングコーチ学校スイミングコーチ研修会，『競技水泳』～ストローク編～，講師，日本スイミングコーチ学校，水泳指導者，千葉市，2024.10.3.
3. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 市民公開講座，地方から世界への挑戦，講師，日本臨床スポーツ医学会，一般市民，朱鷺メッセ，2024.11.17.
4. 公益財団法人日本水泳連盟水泳コーチ4養成講習会，ナショナルコーチによる指導技術，講師，日本水泳連盟，日本水泳連盟コーチ4資格取得申請者，オンライン，2024.11.24.
5. 2024年度競泳コーチクリニック～みんなの競泳コーチ研修会～，コーチングで意識していること，講師，福岡県水泳連盟，全国の水泳指導者，福岡県立スポーツ科学情報センター，2024.11.24.
6. 新潟水泳協会講習会，強いチームの構築についてのプロセス，講師，新潟水泳協会，一般市民，万代シルバーホテル，2024.12.22.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 雑誌, Tarzan883号: 14-37. (マガジンハウス), 水泳 再入門, 20024.7.4.
2. 雑誌, 下野教育 778号: 14. (栃木県連合教育会), パリ 2024オリンピックでの本県選手の活躍 夢を支えた人, 2025.3.3.
3. 雑誌, 月刊スイミングマガジン. 2024年6月号: 59. (ベースボールマガジン社) 松井浩亮 二兎を追うを見事成し遂げました. 2025.6.1.
4. 雑誌, 月刊スイミングライフ. 2024年4月号 (Vol.30): 28-31. (株式会社インターナショナルスイミング)「選手コーチに役立つスポーツ科学」トレーニング計画の立案とサポートシステムの構築. 2024.4.1.
5. 雑誌, 月刊スイミングライフ. 2024年5月号 (Vol.31): 28-31. (株式会社インターナショナルスイミング)「選手コーチに役立つスポーツ科学」パリオリンピック選考会までの取り組み. 2024.5.1.
6. 雑誌, 月刊スイミングライフ. 2024年12月号 (Vol.38): 18-21. (株式会社インターナショナルスイミング)「選手コーチに役立つスポーツ科学」トレーニングの原則を学ぼう. 2024.11.1.
7. 雑誌, 月刊スイミングライフ. 2025年1月号 (Vol.39): 16-20. (株式会社インターナショナルスイミング)「選手コーチに役立つスポーツ科学」回復とトレーニング負荷について学ぼう. 2024.12.1.
8. 雑誌, 月刊スイミングライフ. 2025年1月号 (Vol.40): 24-27. (株式会社インターナショナルスイミング)「選手コーチに役立つスポーツ科学」観客席から見たパリオリンピック. 2025.1.1.
9. 雑誌, 月刊スイミングライフ. 2025年2月号 (Vol.41): 22-25. (株式会社インターナショナルスイミング)「選手コーチに役立つスポーツ科学」科学的根拠に基づいたスタート指導. 2025.2.1.
10. 雑誌, 月刊スイミングライフ. 2025年3月号 (Vol.42): 24-27. (株式会社インターナショナルスイミング)「選手コーチに役立つスポーツ科学」野村武男先生のご逝去によせて. 2025.3.1.
11. 新聞, 朝日新聞 (朝刊), 下山好充の目 持久力とラストスパート 萩野の再来, 2024.7.30. (囲み記事)
12. 新聞, 朝日新聞 (朝刊), 下山好充の目 予算縮小の中, 持続可能な強化策を, 2024.8.6. (囲み記事)
13. 新聞, 下野新聞, 下山コーチ (栃木出身) と二人三脚 10年, 2024.8.5. (囲み記事)
14. 新聞, 下野新聞, 水沼苦しみ光明 下山コーチも検討祝福, 2024.8. (囲み記事)
15. WEB, 3社 (yahoo ニュース, dmenu ニュース, 中日ニュース), 本学職員の水沼選手がパリ五輪で主将を務める事が紹介された. 2024.4.1.
16. 新聞, 新潟日報, 新潟日報オンライン, 本学水泳部卒業生の松井浩亮選手が日本医科大学医学部に合格したことが紹介された. 2024.4.17.
17. 新聞, 7社 (新潟日報, 東京新聞, 山陽新聞, 熊本日日新聞, 岩手日報, にいがた経済新聞, 日刊スポーツ) 本学職員の水沼尚輝選手のパリオリンピック壮行会の様子が掲載された. 2024.4.18.
18. WEB, 12社 (yahoo ニュース, dmenu ニュース, goo ニュース, livedoor, infoseek, デイリースポーツ, 読売新聞オンライン, 日テレNEWS NNN, エキサイトニュース, FNN プライム, TBS NEWS, スポブル), 本学職員の水沼尚輝選手のパリオリンピック壮行会の様子が掲載された. 2024.4.18.
19. TV, 5社 (NHK新潟, TeNYテレビ新潟, BSN新潟放送, NST新潟総合テレビ, UX新潟テレビ21) 本学職員の水沼尚輝選手のパリオリンピック壮行会の様子が掲載された. 2024.4.18.
20. TV, UX新潟テレビ21, 本学職員の水沼尚輝選手が中原八一新潟市長の元を訪問したことが掲載された. 2024.4.19.
21. WEB, yahoo ニュース, 本学職員の水沼尚輝選手が中原八一新潟市長の元を訪問したことが掲載された. 2024.4.19.
22. 新聞, 新潟日報, 本学職員の水沼尚輝選手が中原八一新潟市長の元を訪問したことが掲載された. 2024.4.20.
23. WEB, 4社 (yahoo ニュース, 日テレNEWS NNN, dmenu ニュース, goo ニュース), 新潟水泳協会主催の本学職員水沼尚輝選手のパリオリンピック激励会の様子が掲載された. 2024.4.22.
24. WEB, 5社 (yahoo ニュース, ノアドット, livedoor ニュース, goo ニュース (NTT レゾナント), 日テレNEWS NNN), 本学職員の水沼尚輝選手が練習公開の様子が紹介された. 2024.5.8.

25. WEB, 3社 (yahooニュース, ノアドット, UX), 日本チーム・水沼尚輝選手主将としての意気込みが掲載された。2024.5.10.
26. 新聞, 新潟日報, 競泳の県選手権が6月1日に行われ, 五輪前最終レースとなる本学職員の水沼尚輝選手が優勝したことが掲載された。2024.6.3.
27. WEB, 7社 (yahooニュース, gooニュース, livedoorニュース, 新潟ニュース NST, FNN プライムオンライン, 47NEWS, 新潟日報デジタルプラス), 競泳の県選手権が6月1日に行われ, 五輪前最終レースとなる本学職員の水沼尚輝選手が優勝したことが掲載された。2024.6.3.
28. WEB, 12社 (yahooニュース, gooニュース, livedoorニュース, dニュース, infoseekニュース, 日本経済新聞, 日刊スポーツ, 産経ニュース, BIGLOBEニュース, 読売新聞オンライン, 産経ニュース, 朝日新聞デジタル), 水沼尚輝選手が21~23日にローマで開催されるセッテコリ国際に出場することが掲載された。2024.6.22.
29. WEB, 5社 (yahooニュース, dニュース, gooニュース, livedoorニュース, 朝日新聞デジタル), パリオリンピック競泳代表が練習公開したことが掲載され, 水沼尚輝選手が池江選手と練習を行っていることが紹介された。2024.6.25.
30. WEB, 15社 (yahooニュース, 時事ドットコム, dニュース, gooニュース, nifty, livedoorニュース, infoseekニュース, TBS NEWS DIG, Cubeニュース, 朝日新聞デジタル, E STARTニュース, BIGLOBEニュース, StartHome, ノアドット, soon (下野新聞)), 本学職員の水沼尚輝選手が, パリオリンピックで8月2日に登場することが紹介された。2024.8.2.
31. WEB, 新聞42社 (yahooニュース, 毎日新聞, スポニチ, 徳島新聞, 北國新聞, ノアドット, Net Nihonakai, Web 東奥, 沖縄タイムプラス, 富山新聞, 中国新聞デジタル, カナロコ, 373news, dニュース, gooニュース, nifty, livedoorニュース, infoseekニュース, あなたの静岡新聞, SHIKOKU NEWS, 新潟日報デジタルプラス, 日刊スポーツ, スポーツ報知, エキサイトニュース, BIGLOBE ニュース, SPORTS BULL, 日本経済新聞, 朝日新聞デジタル, soon (下野新聞)), 本学職員の水沼尚輝選手が, パリオリンピック100mバタフライで準決勝に進出したことが紹介された。2024.8.2.
32. TV, WEB, 新聞88社 (省略) 本学職員の水沼尚輝選手が, パリオリンピック100mバタフライで決勝に進出したことが紹介された。2024.8.3.
33. TV, WEB, 新聞78社 (省略) 本学職員の水沼尚輝選手が, パリオリンピック100mバタフライ決勝で8位入賞したことが紹介された。2024.8.4.
34. TV, WEB, 新聞23社 (省略) 本学職員の水沼尚輝選手のパリオリンピック報告会が本学で開催され, 次回のロサンゼルスオリンピックに向けた意気込みが掲載された。2024.8.23.
35. TV, 5社 (NHK新潟, TeNYテレビ新潟, BSN新潟放送, NST新潟総合テレビ, UX新潟テレビ21, 日テレ.), 本学職員の水沼尚輝選手が新潟市民体育祭で, 小・中学生と50mバタフライの特別レースに出場し, オリンピック選手のスピードに会場は盛り上がりを見せたことが紹介された。2024.8.26.
36. WEB, 7社 (yahooニュース, dニュース, infoseekニュース, TBS NEWS DIG, 新潟日報デジタル), 本学職員の水沼尚輝選手が新潟市民体育祭で, 小・中学生と50mバタフライの特別レースに出場し, オリンピック選手のスピードに会場は盛り上がりを見せたことが紹介された。2024.8.26.
37. WEB, 5社 (yahooニュース, dニュース, infoseekニュース, 日テレ, livedoorニュース), 新潟県内ニュースで夏の出来事特集が取り上げられ, 本学職員の水沼尚輝選手が, パリオリンピックで100mバタフライ決勝に進出したことが紹介された。2024.8.30.
38. WEB, 朝日新聞デジタル, 水泳部の津田萌咲選手が日本選手権女子50mバタフライで優勝したことが掲載された。2024.10.20.
39. WEB, 5社 (yahooニュース, dニュース, ノアドット, gooニュース, エキサイトニュース), 本学職員の水沼尚輝選手が, 本学の学生に対して講演を行ったことが掲載された。2024.10.29.
40. WEB, 5社 (yahooニュース, dニュース, ノアドット, TBS NEWS DIG, Infoseekニュース), 新

潟県を沸かせたスポーツシーン紹介において、本学職員の水沼尚輝選手が、パリオリンピックで男子100mバタフライ決勝に進出したことが掲載された。2024.12.27.

41. WEB, 日刊スポーツ, 競泳の北島康介杯で、50メートル種目を勝ち抜き方式で争う「スキンレース」が行われ、本学職員の水沼尚輝選手が参加したことが掲載された。2024.2.4.
42. WEB, 5社 (yahooニュース, dニュース, 時事ドットコム, gooニュース, nifty), 競泳のコナミオープンの男子100メートルバタフライで、本学職員の水沼尚輝選手が優勝したことが掲載された。2024.2.16.
43. WEB, 2社 (47NEWS (全国新聞ネット), 新潟日報デジタルプラス), マイドリームカップで本学職員の水沼尚輝選手が、男子100mバタフライを51秒75で制したことが掲載された。2024.3.2.
44. WEB, 新潟日報デジタルプラス, 競泳の日本選手権は世界選手権の代表選考会を兼ねて行われることが掲載され、女子50mバタフライで秋山葉名選手 (HS3年) が5位だったことが掲載された。2024.3.22.
45. WEB, 14社 (新潟日報デジタルプラス, イザ!, 産経ニュース, UX新潟テレビ21, livedoorニュース, Yahoo!ニュース, dニュース, gooニュース, 新潟ニュースNST, FNNプライムオンライン, 日本経済新聞, 下野新聞, SHIKOKU NEWS, ノアドット), 競泳の日本選手権に本学職員の水沼尚輝選手が出場したことが掲載され、男子100mバタフライで2位で世界選手権代表が内定したことが紹介された。2024.3.24.
46. TV, 2社 (UX新潟テレビ21新潟ニュースNST), 競泳の日本選手権に本学職員の水沼尚輝選手が出場したことが掲載され、男子100mバタフライで2位で世界選手権代表が内定したことが紹介された。2024.3.24.
47. TV, 5社 (NHK新潟, TeNYテレビ新潟, BSN新潟放送, NST新潟総合テレビ, UX新潟テレビ21) 本学職員の水沼尚輝選手が日本選手権男子100mバタフライで2位で世界選手権代表が内定したことが紹介され、記者会見で意気込みを語ったことが掲載された。2024.3.28.
48. WEB, 15社 (ノアドット, Yahoo!ニュース, 新潟ニュースNST, FNNプライムオンライン, livedoorニュース, エキサイトニュース, UX新潟テレビ21, dニュース, livedoorニュース, gooニュース, 日テレNEWS NNN, Infoseekニュース, 新潟日報デジタルプラス, NHK NEWS WEB, 47NEWS (全国新聞ネット)), 本学職員の水沼尚輝選手が日本選手権男子100mバタフライで2位で世界選手権代表が内定したことが紹介され、記者会見で意気込みを語ったことが掲載された。2024.3.29.
49. 新聞, 新潟日報, 本学職員の水沼尚輝選手が日本選手権男子100mバタフライで2位で世界選手権代表が内定したことが紹介され、記者会見で意気込みを語ったことが掲載された。2024.3.29.
50. 上記を含め、水泳部関連のメディア記載が合計468件

3) 社会活動への参加協力

1. 第33回オリンピック競技大会 (パリ) 日本代表サポート合宿のコーチ, HPSC, 2024.4.23-5.8.
2. 第33回オリンピック競技大会 (パリ) 日本代表サポート合宿のコーチ, HPSC, 2024.5.10-5.17.
3. 第33回オリンピック競技大会 (パリ) 日本代表海外遠征のコーチ, イタリア, フランス, 2024.6.15-7.13.
4. 2024年度日本水泳連盟インターナショナル強化合宿のコーチ, HPSC, 2024.11.5-11.11.
5. 2024年度日本水泳連盟インターナショナル強化合宿のコーチ, HPSC, 2025.2.6-2.14.
6. 日本水泳連盟, 第1回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.4.15.
7. 日本水泳連盟, 第2回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.5.13.
8. 日本水泳連盟, 第3回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.6.10.
9. 日本水泳連盟, 第4回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.7.8.
10. 日本水泳連盟, 第5回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.8.12.
11. 日本水泳連盟, 第6回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.9.2.

12. 日本水泳連盟, 第33回オリンピック競技大会コーチミーティング, 強化コーチ, 2024.9.11.
 13. 日本水泳連盟, 臨時競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.9.18.
 14. 日本水泳連盟, 第1回マスタープラン会議, 委員, 2024.9.28.
 15. 日本水泳連盟, 第7回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.10.7.
 16. 日本水泳連盟, 第2回マスタープラン会議, 委員, 2024.10.7.
 17. 日本水泳連盟, 強化コーチ会議, 強化コーチ, 2024.10.13-10.14.
 18. 日本オリンピック委員会, 令和6年度JOCコーチ会議及び情報・医・科学合同ミーティング, 強化コーチ, 2024.11.11.
 19. 日本水泳連盟, 第8回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.11.18.
 20. 日本水泳連盟, 第3回マスタープラン会議, 委員, 2024.11.12.
 21. 日本水泳連盟, 第9回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2024.12.9.
 22. 日本水泳連盟, 第10回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2025.1.13.
 23. 日本水泳連盟, 第11回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2025.2.3.
 24. 日本水泳連盟, 第12回競泳委員会 会議, 競泳委員, 2025.3.3.
 25. 日本水泳連盟, プロジェクトLA2028, プロジェクト委員, 2025.3.10.
- 4) 公的機関（官公庁等）の審議会, 委員会等の委員
- 公益財団法人 日本水泳連盟 競泳委員会（委員）, 公益財団法人 日本水泳連盟 マスタープラン会議（委員）,
公益財団法人 日本水泳連盟 プロジェクトLA2028（プロジェクト委員）
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 科研基盤研究（C）, 競泳スタートにおける個別特性に応じたトレーニング法の開発, 研究代表者
 - 2) 受賞, 学位取得, 資格取得

令和6年度 文部科学省 国際競技大会優秀者賞（2024.10.8）, 日本水泳連盟 創立100周年功労賞（2024.10.31）, 新潟県水泳連盟 最優秀指導者賞（2024.5.25）
 - 3) 学内部活動の実績
 1. 水泳部, 第33回オリンピック競技大会, 男子100mバタフライ 8位, Paris, 2024.7.27-8.4.（コーチ）
 2. 水泳部, 第100回 日本学生選手権水泳競技大会, 女子50m自由形 6位, 東京都, 2024.9.5-9.8.（監督）
 3. 水泳部, 第100回 日本学生選手権水泳競技大会, 女子4*100mリレー 8位, 東京都, 2024.9.5-9.8.（監督）
 4. 水泳部, 第66回 日本選手権（25m）水泳競技大会, 女子50mバタフライ 優勝, 東京都, 2024.10.19-10.20.（監督）
 5. 水泳部, 第66回 日本選手権（25m）水泳競技大会, 男子50mバタフライ 4位, 東京都, 2024.10.19-10.20.（監督）
 6. 水泳部, 第66回 日本選手権（25m）水泳競技大会, 女子50m自由形 6位, 東京都, 2024.10.19-10.20.（監督）
 7. 水泳部, ジャパンオープン2024（50m）, 女子50m背泳ぎ 7位, 東京都, 2024.11.29-12.1.（監督）
 8. 水泳部, ジャパンオープン2024（50m）, 女子50mバタフライ 6位, 東京都, 2024.11.29-12.1.（監督）
 9. 水泳部, 第100回 日本選手権水泳競技大会, 男子100mバタフライ 2位, 東京都, 2025.3.20-3.23.（監督）
 10. 水泳部, 第100回 日本選手権水泳競技大会, 女子50mバタフライ 5位, 東京都, 2025.3.20-3.23.（監督）

氏名：山崎 史恵

- 1 研究題目 アスリートの心理サポートおよび競技パフォーマンス向上に関する研究（臨床スポーツ心理学,

スポーツカウンセリング, メンタルトレーニング)

2 学会等研究発表

1. 余村花梨・山崎史恵, 大学運動部員におけるソーシャル・サポート互恵状態の可視化—尺度開発および信頼性・妥当性の検討—, 日本スポーツ心理学会第51回大会 (広島大学), 2024.9.29.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本スポーツ心理学会, 日本スポーツ精神医学会, 日本臨床心理身体運動学会, 日本保健医療福祉連携教育学会, 新潟県体育学会 (監事)

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度 佐渡市地域クラブ活動指導者研修会, 子どもを育てる地域クラブ活動の指導～スポーツカウンセリングの視点から～, 講師, 佐渡市社会教育課, スポーツ指導者, アミューズメント佐渡, 2024.5.11-5.12.
2. 令和6年度指導者養成プログラム研修会, スポーツ心理学IIIメンタルトレーニング, 講師, NPO法人希楽々, スポーツ指導者, 2024.10.10.
3. ジュニアスポーツ指導者研修会, スポーツ・コンプライアンスとインテグリティとは?, 講師, 燕市スポーツ少年団, スポーツ指導者, 燕市分水公民館, 2024.11.16.
4. 令和6年度新潟県高等学校体育連盟研究大会, 選手が最高のパフォーマンスを発揮するための心理サポート, 講師, 新潟県高等学校体育連盟, 高校教員・部活動指導者, 新潟県健康づくりスポーツ医科学センター, 2025.12.13.
5. 令和6年度十日町市地域クラブ指導者講習会, スポーツ心理学Iスポーツにおける動機づけ, 講師, 十日町市教育委員会, スポーツ指導者, 十日町市中央公民館, 2024.12.16.
6. つばめジュニア卓球クラブ講習会, メンタル強化とサポート, 講師, つばめジュニア卓球クラブ, 選手・指導者・保護者, フードバンクつばめTSUBAME-BASE, 2024.12.28.
7. 見附市地域スポーツクラブ活動指導者養成プログラム, スポーツ心理学Iスポーツにおける動機づけ, 講師, 見附市まちづくり課, ネーブルみつけ, 2025.2.22.
8. 県央スポーツネットワークスポーツ指導者講習会, スポーツ心理学IIIメンタルトレーニング, 講師, 県央スポーツネットワーク, スポーツ指導者・保護者・登録者, 三条市体育文化会館, 2025.2.23.
9. 新発田市スポーツ協会活性化事業指導者講習会, 信頼関係を深めるコミュニケーション, 講師, 新発田市スポーツ協会, スポーツ指導者, 新発田市カルチャーセンター, 2025.3.15. (2025.2.8.の開催予定から延期)

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県体育協会, スポーツ選手のためのメンタル支援事業, 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター, 相談員, 新潟市, 2024.4.1-2025.3.31. 来談者7名, 延べ97回面接.

5 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 東京成徳大学応用心理学部, スポーツカウンセリング特論, スポーツ心理学演習, 2024.4.1-2025.3.31.
2. 国際メディカル専門学校鍼灸学科, スタディ・スキルズ, 2024.6.1-7.31.

6 学内委員会活動 倫理審査委員会 (委員長), スポーツカウンセリング研究センター (センター長)

氏名: 吉田 重和

- 1 研究題目 オランダの公教育制度に関する質的研究 (比較・国際教育学), オルタナティブ教育に関する国際比較研究 (比較・国際教育学), シティズンシップ教育に関する国際比較研究 (比較・国際教育学), 教員養成・教員研修に関する質的研究 (教師教育), 健康スポーツ学分野における初年次教育の在り方に関する実践的研究 (初年次教育)

2 著書

1. 吉田重和；二宮皓監修. 見たい, 知りたい世界の学校. 初版. 東京：学事出版；2025：18-19.

3 論文

1. 吉田重和. ISCED-F 2013の活用可能性の検討：健康スポーツ学を事例として. 新潟医療福祉大学教職支援センター年報. 2024；8：1-6.
2. 吉田重和. 若手教員に対する社会的関心の推移に関する一考察. 新潟医療福祉学会誌, 2024；24(1)：96.
3. 井関泰聖, 吉田重和. 外国籍学習者の日本語学習環境の検討：学習ニーズと課題に焦点を当てて. 新潟医療福祉学会誌, 2024；24(1)：102.

4 報告書

1. 吉田重和. 科学研究費補助金基盤研究（C）, 比較教育研究におけるISCED活用の可能性—日蘭の職業教育プログラムを事例として, 研究成果報告書, 2021-2024, 研究代表者

5 学会等研究発表

1. 吉田重和. 若手教員に対する社会的関心の推移に関する一考察. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.
2. 井関泰聖, 吉田重和. 外国籍学習者の日本語学習環境の検討：学習ニーズと課題に焦点を当てて. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.

6 学会活動

- 1) 所属学会 日本比較教育学会, 日本国際教育学会, 新潟医療福祉学会, 世界比較教育学会, アジア比較教育学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 新潟医療福祉学会, 査読

7 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度介護教員講習会, 教育学, 講師, 一般社団法人新潟地域福祉協会, 新潟市, 2024.7.13-7.28. (全2回)
 2. 令和6年度介護教員講習会, 教育方法, 講師, 一般社団法人新潟地域福祉協会, 新潟市, 2024.9.15.
 3. 令和6年度介護教員講習会, 教育評価, 講師, 一般社団法人新潟地域福祉協会, 新潟市, 2024.9.28.

8 その他の教育研究活動

- 1) 学内部活動の実績
 1. 強化女子バレーボール部, 令和6年度 第55回春季北信越大学バレーボール選手権大会, バレーボール, 準優勝, 長野県, 2024.5.24-5.26. (部長)
 2. 強化女子バレーボール部, 令和6年度 第72回秋季北信越大学バレーボール選手権大会, バレーボール, 準優勝, 富山県, 2024.11.2-11.3. (部長)
 3. 強化女子バレーボール部, 令和6年度 第71回秩父宮妃賜杯全日本大学女子選手権大会（全日本インカレ）, バレーボール, 出場（2回戦敗退）, 埼玉県・東京都, 2024.11.26-12.1. (部長)
- 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟薬科大学応用生命科学部（教育制度・行政）, 2024.9.1-2025.3.31.
 2. 新潟工科大学工学部（教育の理念・思想）, 2024.8.1-2025.3.31.
 3. 新潟県立吉田病院附属看護専門学校（教育学）, 2024.8.1-2025.3.31.
- 9 学内委員会活動 教育・学生支援機構（委員）, 教育開発推進部（部長）, 高等教育推進センター運営委員会（委員長・教育システム改革部会長）, 自己点検・評価委員会（委員）, 中央教育センター運営委員会（副委員長）, シティズンシップ教育実践研究センター（研究員）

氏名：杉崎 弘周

- 1 研究題目 学校保健, 保健科教育

2 著書

1. 森昭三, 佐伯年詩雄, 石坂友司, 植田誠治, 大橋美勝, 岡崎勝博, 尾縣貢, 菊幸一, 木塚朝博, 黒川修行, 黒木俊秀, 近藤真庸, 佐見由紀子, 新宮領毅, 杉崎弘周, 助友裕子, 高田彬成, 高本恵美, 照屋博行, 戸野塚厚子, 中村和彦, 西岡伸紀, 能瀬さやか, 藤田紀昭, 松田恵示, 松本格之祐, 三木四郎, 武藤芳照, 物部博文, 吉原昌子. 文部科学省検定済教科書 新中学保健体育. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表
2. 石井里佳, 石坂友司, 稲葉佳奈子, 入谷仁士, 植田誠治, 上田裕司, 上野佳代, 岡崎勝博, 岡山睦美, 欠ノ下郁子, 木越清信, 黒川修行, 小浜明, 坂野百合恵, 佐見由紀子, 杉崎弘周, 助友裕子, 高本恵美, 田中誠二, 千葉久美子, 戸野塚厚子, 長島健二郎, 西岡伸紀, 眞鍋芳明, 物部博文, 森祐樹, 米山拓希. 新中学保健体育の研究 研究編. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表
3. 石井里佳, 石坂友司, 稲葉佳奈子, 入谷仁士, 植田誠治, 上田裕司, 上野佳代, 岡崎勝博, 岡山睦美, 欠ノ下郁子, 木越清信, 黒川修行, 小浜明, 坂野百合恵, 佐見由紀子, 杉崎弘周, 助友裕子, 高本恵美, 田中誠二, 千葉久美子, 戸野塚厚子, 長島健二郎, 西岡伸紀, 眞鍋芳明, 物部博文, 森祐樹, 米山拓希. 新中学保健体育の研究 教授ノート. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表
4. 石井里佳, 石坂友司, 稲葉佳奈子, 入谷仁士, 植田誠治, 上田裕司, 上野佳代, 岡崎勝博, 岡山睦美, 欠ノ下郁子, 木越清信, 黒川修行, 小浜明, 坂野百合恵, 佐見由紀子, 杉崎弘周, 助友裕子, 高本恵美, 田中誠二, 千葉久美子, 戸野塚厚子, 長島健二郎, 西岡伸紀, 眞鍋芳明, 物部博文, 森祐樹, 米山拓希. 新中学保健体育の研究 朱書き編. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表

3 論文

1. Yokoshima T, Sugisaki K. Cancer Awareness, Cause Recognition, and Sources of Information Among Japanese Students: A Repeated Cross-Sectional Nationwide Survey. Cancer Control (JCR). 2024 Jan-Dec;31:10732748241272477. doi: 10.1177/10732748241272477. PMID: 39138604; PMCID: PMC11325464. (review)
2. 片岡千恵, 杉崎弘周, 物部博文, 佐藤賢佑, 和田真理絵, 左右田瑤子. 中学校保健体育科保健分野におけるストレスへの対処の「技能」の習得を目指した授業実践. 日本健康教育学会誌 (協力学術団体), 2024; 32巻 (4): 292-302. (査読あり)
3. 助友裕子, 市瀬雄一, 細川佳能, 大浦麻絵, 嶋根卓也, 杉崎弘周, 中川明日香, 東尚弘. 高等学校2年生のがんリスク認知の関連要因: がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルに基づく全国調査データの解析. 日本公衆衛生雑誌, 2025; 72巻 (3): 185-198. (査読あり)

4 学会等研究発表

1. 土田千歳, 山口典子, 杉崎弘周. ドミニカ共和国農村部の思春期妊娠の予防におけるポジティブ・デビアンズ・アプローチの実効性. グローバルヘルス合同大会2024 (糸満市). 2024.11.16.

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本学校保健学会 (代議員), 日本保健科教育学会 (副会長), 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本教育保健学会, 新潟県体育学会 (理事), 日本小児科学会, 新潟医学会, 日本スポーツ心理学会, American School Health Association
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本保健科教育学会, 第9回研究大会, 実行委員, 横浜市, 2024.12.22.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. BMC Health Services Research, 査読
 2. Journal of Gastrointestinal Cancer, 査読
 3. Health Education Research, 査読
 4. Scientific Reports, 査読
 5. BMC Public Health, 査読

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 保健教育実践講座，学習指導要領を踏まえた保健の授業づくり，研修会講師，新潟県立教育センター，受講者，新潟県立教育センター，2024.6.27.
2. 十日町市拡大中学校区講演会，子どものメンタルヘルスと健康教育，研修会講師，十日町拡大中学校区，受講者，越後妻有文化ホール，2024.8.1.
3. 保健教育実践講座，保健教育における主体的・対話的で深い学び，研修会講師，新潟県立教育センター，受講者，新潟県立教育センター，2024.9.27.
4. がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の研究と実践，研修会講師，福岡県教育委員会，受講者，福岡リーセントホテル，2024.10.24.
5. 北海道がん教育指導者研修会，学校におけるがん教育の実践事例，研修会講師，北海道教育委員会，受講者，本別高等学校，2024.11.7.
6. 新潟県がん教育指導者研修会，がん教育における効果的な外部講師の活用，研修会講師，新潟県教育委員会，受講者，新潟県立教育センター，2024.12.18.
7. がん教育シンポジウム，ファシリテーター，文部科学省，受講者，文部科学省，文部科学省，2025.2.14.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新発田市立第一中学校学校評議員会（学校評議員），胎内市立乙中学校学校運営協議会（委員），聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会（委員長）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，科研費基盤研究（C），意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンズを用いた教育プログラムの開発，研究分担者
2. 2022年度，科研費基盤研究（B），がん教育の発展に関する実証的研究，研究代表者
3. 2021年度，科研費挑戦的研究（萌芽），ストレス対処の技能に関する教育プログラムの開発と評価，研究代表者
4. 2021年度，科研費基盤研究（C），学校医の資源ネットワークマップによる地域・学校保健連携促進モデルの開発，研究分担者
5. 2021年度，科研費基盤研究（C），教員の保健・安全の資質・能力育成に関するデジタル学習教材の開発，研究分担者
6. 2021年度，科研費基盤研究（C），子どもの高齢者理解を深める福祉教育プログラムの開発と学校教育現場への応用，研究分担者
7. 2021年度，科研費基盤研究（C），幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発，研究分担者
8. 2021年度，科研費基盤研究（C），「心の支えイメージマップ」の自殺予防に対する有効性と学校教育導入の検討，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟大学医学部，公衆衛生学（学校保健），2024年度前期
2. 新潟大学教育学部，体育科教育法（保健），2024年度前期・後期
3. 豊岡短期大学通信教育部，こどもの指導法「健康」，2024年度集中講義

8 学内委員会活動 FD・SD推進委員会（委員長）

氏名：佐藤 和也

1 研究題目 野球のコーチング

2 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育学会，新潟医療福祉学会

3 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度日本体育大学新潟県同窓会講演会，講師，日本体育大学新潟県同窓会，日本体育大学新潟県同窓会員，新潟東映ホテル，2024.7.7.
2. 講演会，講師，新潟県警察学校，初任科第394期生，新潟警察学校，2024.7.17.
3. 長岡野球教室，講演会，講師，長岡野球協議会，長岡市内野球未経験者・学童チーム選手・指導者，長岡市ニュータウン運動公園，2024.10.26.
4. 南魚沼市指導者講習会，令和の小中学生指導法について，講師，株式会社ベースボールマガジン社，南魚沼市小中学校野球指導者，大原運動公園ベーマガSTADIUM，2024.11.2.
5. 越後妻有中学野球教室，十日町市野球連盟，十日町市・津南町中学野球チーム選手・指導者，十日町市総合公園野球場，2024.11.16.
6. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会市民公開講座，講師，第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会，朱鷺メッセ，2024.11.17.
7. 小中学校野球指導者及び保護者向け講習，講師，見附ロータリークラブ，見附市，小中学校野球指導者及び保護者，2024.11.23.
8. 日本スポーツ協会公認コーチⅠ（軟式野球）養成講習会，講師，一般社団新潟県野球連盟，公認コーチⅠ養成講習会受講者，HARD OFF ECOスタジアム新潟，2024.12.1.
9. 令和6年度長岡地域定住自立圏『スポーツ振興事業』野球教室・野球指導者講習会，講師，長岡地域定住自立圏スポーツ振興部会，小千谷市，2024.12.7.
10. 指導者研修会，講師，長野スポーツマガジン株式会社，長野県内高校野球若手指導者，長野市，2024.12.21.
11. 令和6年度長野県U-15指導者講習会，講師，長野県野球協会，中学生選手の指導者，松本市，2024.12.22.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. Webサイト，TURNING POINT「甲子園予備校」，2024.4.2.
2. 新聞，スポーツニッポン，「子供に正しい投げ方指導」のススメ 野球界も資格の時代，2024.4.24.
3. 新聞，日刊スポーツ，「低反発バット」初導入 道具への理解を，2024.4.26.
4. 新聞，読売新聞，「新バットで作戦変化半数」，2024.7.4.
5. 新聞，日刊スポーツ，医福大野球部でリズムトレ指導 古山夏帆さん関連記事，2024.7.5.
6. ラジオ，FM新潟，Jin's Redioショー 野球アラカルト，2024.7.10.
7. 新聞，スポーツニッポン，医福大総監督が大一番の行方占う，2024.7.25.
8. 新聞，日刊スポーツ，明訓野球部元監督 佐藤和也氏の「まなざし」，2024.7.26.
9. 新聞，スポーツニッポン，「和也スコープ」，2024.7.27-8.15.
10. ラジオ，FM新潟，Jin's Redioショー 野球アラカルト，2024.8.28.
11. 新聞，新潟日報，にいがた人の本棚 挑戦する気構えに共感「砂地の種をまいて，花が咲く」，2024.11.24.
12. 雑誌，Baseball Clinic，魚沼広神野球 大学・社会人交流試合＆野球教室・第12回指導者講習会，2024.12.17.
13. 新聞，信濃毎日新聞，「肘の故障を防いで野球上手に」，2024.12.24.
14. 新聞，スポーツニッポン，リーグ初Vへ 医福大 再進化の一步，2025.1.9.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

UX新潟テレビ21スポーツコメンテーター，スポーツコーチーズネット長岡アドバイザー，新潟県野球連盟副会長，新潟県女子野球連盟副会長

4 その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. 硬式野球部, 第20回関東地区大学野球選手権大会, 横浜スタジアム, 2024.11.4.

氏名：脇野 哲郎

- 1 研究題目 教員養成段階学生における実践的指導力の育成（体育科教育学），体づくり運動の授業改善（体育科教育学），現代の課題に応える学校体育経営（体育経営学）
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本体育学会，日本体育科教育学会，日本保健科教育学会，新潟医療福祉学会，新潟県体育学会
- 3 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟大学教育学部附属新潟小学校初等教育研究会，指導者，新潟大学，教職員，新潟市，2024.11.2-11.3.
 2. 新潟市立濁川小学校研修会，指導者，新潟市立濁川小学校，教職員，新潟市，2024.11.12.
 3. 新潟市立沼垂小学校研修会，指導者，新潟市立沼垂小学校，教職員，新潟市，2024.11.22.
 - 2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市放課後子どもプラン推進委員会委員長，胎内市いじめ問題対策委員会委員，聖籠町幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上教科事業有識者会議委員長，聖籠町放課後子ども教室の在り方検討委員会委員長，教育公益財団法人新潟教育会理事，新潟市立葛塚小学校・浜浦小学校・濁川小学校・濁川中学校・南浜小学校・太夫浜小学校・下山中学校・光晴中学校 学校運営委員、聖籠町立聖籠中学校 学校運営委員
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 学内部活動の実績
 1. ダンス部，第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸），大学創作コンクール部門，特別賞，神戸市，2024.8.6-8.9.（部長）
 2. ダンス部，第43回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール，群舞部門，最優秀群舞賞，秋田市，2024.12.7-12.8.（部長）
 3. ダンス部，第43回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール，群舞部門，入賞位，秋田市，2023.12.7-12.8.（部長）
 4. ダンス部，新潟市北区スポーツ協会，令和6年度 最優秀競技者賞，優秀競技者賞，新潟市，2025.2.22.（部長）
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟大学教育学部，保健体育教育法Ⅳ，2024.12.14-12.26.
 2. アップルスポーツカレッジ，スポーツ経営学，2024.4.12-5.24.
- 5 学内委員会活動 教職支援センター運営委員会委員長，教職課程長

氏名：佐熊 裕和

報告事項なし

氏名：大森 豪

- 1 研究題目 変形性膝関節症の病態解明に関する疫学研究（予防医学），変形性膝関節症に対する筋力訓練の効果に関する研究（臨床医学），膝関節の3次元歩行運動解析（生体工学），成長期骨折発生に関する疫学研究（公衆衛生学，予防医学），膝前十字靭帯発生メカニズムに関する運動学的研究（生体工学，臨床医学），スポーツにおける疲労骨折発生予防の調査研究（予防医学，臨床医学），健康スポーツ用装具の開発（臨床医学，スポーツ医学）
- 2 著書

1. 大森豪, アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト 3 スポーツ医学概論, 第1版, 東京: 文光堂; 2024年: 267-270.

3 論文

1. Tanifuji O, Mochizuki T, Sato T, Watanabe S, Omori G, Kawashima H. Mobile medial pivot (lateral slide)-type total knee arthroplasty exhibited different motion patterns between under anaesthesia and weight-bearing condition. *Knee Surgery Sports Traumatology Arthroscopy*. 19 March 2024 <https://doi.org/10.1002/ksa.12147>.
2. Kikumoto T, Kobayashi M, Omori G, Kubo M. Single-legged landing behavior of high school basketball players with chronic ankle instability. *Journal of Bodywork & Movement Therapies*, 2024, doi: <https://doi.org/10.1016/j.jbmt.2024.03.054>.
3. Ishigaki T, Yokata H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score for Japanese overhead athletes and its adaptation from visual analog scale to 10-point scale format. *Orthopaedic J Sports Med*, 2024 Nov 18; 12(11): 23259671241291861. doi: 10.1177/23259671241291861. eCollection 2024 Nov. PMID: 39564395.
4. Fangzhou Chi, Mochizuki T, Koga H, Omori G, Nishino K, Takagi S, Koga Y, Kawashima H. Association between three-dimensional gait kinematics and joint-line inclination in osteoarthritic knees compared with normal knees: An epidemiological study. *J Exp Orthop* 2024, 4; 11: e12040. <https://doi.org/10.1002/jeo2.12040>.
5. Nawata A, Koga H, Sasaki R, Watanabe H, Omori G, Koga Y, Kawashima H. Accuracy of a portable lower-limb muscle strength measuring device with a training function. *J Phys Ther Sci* 2024 Jun; 36(6): 343-351.
6. Uchio Y, Ishijima M, Ikeuchi M, Ikegawa S, Ishibashi Y, Omori G, Shiba N, Takeuchi R, Tanaka S, Tsumura H, Deie M, Tohyama H, Yoshimura N, Nakashima Y. Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of Osteoarthritis of the knee - Secondary publication. *J Orthop Sci* 2024 Aug 9: S0949-2658(24)00139-8. doi: 10.1016/j.jos.2024.06.013. Online ahead of print.
7. Lyman S, Omori G, Nakamura N, Takahashi T, Tohyama H, Fukui N, Ikeda H, Sasho T, Saito T, Hayashi Y, Deie M. Improved responsiveness for JKOOS+ compared to KOOS in Japanese patients undergoing total knee arthroplasty. *J Orthop Sci*. 2024 Sep; 29(5): 1255-1258. doi: 10.1016/j.jos.2023.08.021. PMID: 37852901.
8. Inaba H, Hoshino F, Edama M, Omori G, Snack and Nutrient Intake Status of Top-level Female University Athletes: A Cross-Sectional Study. *Healthcare (Basel)*. 2024 Feb 13; 12(4): 468. doi: 10.3390/healthcare12040468. PMID: 38391843.

4 報告書

1. 大森豪, 古賀寛, 田邊裕治, 小林公一, 坂本信, 基盤研究 (C) (一般), 変形性膝関節症の病態解明－長期疫学及び新しい運動学的アプローチ, 研究実績報告書, 令和1年～6年度, 研究代表者

5 学会等研究発表

1. 望月友晴, 谷藤理, 大森豪, 前田圭祐. 膝離断性骨軟骨炎～治療戦略と課題～. 日本スポーツ整形外科学会2024 (東京都), 2024.9.12-9.13.
2. 前田圭祐, 望月友晴, 山本智章, 大森豪, 川島寛之. 体外衝撃波による骨組織に対する作用メカニズムの解明, 日本スポーツ整形外科学会2024 (東京都), 2024.9.12-9.13.
3. 大森豪, 変形性膝関節症の画像診断と病態評価－現状と今後の課題－, 第97回日本整形外科学会学術総会シンポジウム (福岡市), 2024.5.23-5.26. 【シンポジウム】

4. 染谷圭一郎, 望月友晴, 藤田裕, 高木繁, 大森豪. 膝OA患者の歩行立脚期膝, 股関節モーメントと下肢機能軸, アライメントとの関係. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会 (大阪市), 2024.11.1-11.2.
 5. 田中正栄, 渡邊博史, 遠藤和男, 望月友晴, 古賀寛, 森清友亮, 坂上勇太, 大森豪, 古賀良生. 変形性膝関節症におけるX線進行度評価の経時的角度変化～脛骨関節面の水平化指標について～. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会 (大阪市), 2024.11.1-11.2.
 6. 渡邊博史, 田中正栄, 遠藤和男, 望月友晴, 古賀寛, 森清友亮, 坂上勇太, 大森豪, 古賀良生. 立位膝前後X線所見定量解析による変形性膝関節症進行予測. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会 (大阪市), 2024.11.1-11.2.
 7. 斉藤大寛, 林智彦, 渡邊聡, 林豊彦, 斉藤将, 佐藤卓, 大森豪, 小林公一, 森清友亮, 坂本信. 成長期における跳躍型疲労骨折に関係する脛骨の捻じれと曲がりの3次元評価. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会 (大阪市), 2024.11.1-11.2.
 8. 大森豪. スポーツ医学の地方創生, 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会会長講演 (新潟市), 2024.11.16-11.17. 【特別講演】
 9. 江玉睦明, 大森豪. 新潟県におけるスポーツ医・科学支援体制構築の取り組み. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会シンポジウム (新潟市), 2024.11.16-11.17. 【シンポジウム】
 10. 小宮諒, 江玉睦明, 菊元孝則, 稲葉洋美, 大森豪. 片側慢性足関節不安定症者のCAI側と非CAI側での足部, 足関節周囲形態と弾性の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟市), 2024.11.16-11.17.
 11. 前田圭祐, 望月友晴, 山本智章, 大森豪, 川島寛之. Jones骨折術後の体外衝撃波併用は骨癒合を促進する. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟市), 2024.11.16-11.17.
 12. 山本智章, 前田圭祐, 望月友晴, 大森豪. 高校野球球児における熱中症に関するアンケート調査からの現状と課題. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟市), 2024.11.16-11.17.
 13. 山際浩史, 大森豪, 渡邊聡, 望月友晴, 谷藤理, 高木繁, 前田圭祐. 新潟県サッカー協会医学委員会活動30年の歩み. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟市), 2024.11.16-11.17.
 14. 望月友晴, 谷藤理, 大森豪, 前田圭祐, 川島寛之. 膝離断性骨軟骨炎の保存療法の適応と限界. 第2回日本膝関節学会 (那覇市) シンポジウム, 2024.12.6-12.7. 【シンポジウム】
 15. 前田圭祐, 望月友晴, 谷藤理, 高木繁, 藤田裕, 大森豪, 山本智章, 川島寛之. イメージレスrTKAでは骨基準のjoint lineが遠位化し中間屈曲位における安定性が向上する. 第2回日本膝関節学会 (那覇市), 2024.12.6-12.7.
 16. Tomiyama Y, Mochizuki T, Koga H, Omori G, Koga Y, Nishino K, Endo K, Kawashima H. Changes with bone remodeling in the cortical bone thickness, coronal alignment, and joint inclination of the femur and tibia observed during 23 to 28 year of follow-up. Osteoarthritis Research Society International (OARSI) 2024, Vienna, Austria. 2024.4.18-4.21.
 17. Nishino K, Omori G, Koga H, Mochizuki T, Takagi S, Maeda K, Anawata, Tanaka M, Watanabe H, Koga Y. Do physical tests and gait analysis predict the onset or progression of knee osteoarthritis in elderly females? - Longitudinal analysis from Matsudai Knee Osteoarthritis Survey-. Osteoarthritis Research Society International (OARSI) 2024, Vienna, Austria. 2024.4.18-4.21.
- 6 学会活動
- 1) 所属学会 日本臨床スポーツ医学会 (理事), 日本臨床バイオメカニクス学会 (副理事長), 日本膝関節学会 (特別会員), 日本スポーツ整形外科学会 (功労会員), 日本運動器科学会 (評議員), 日本人工関節学会 (評議員), 日本体外衝撃波医学会 (世話人), 日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会 (監事), 新潟スポーツ傷害フォーラム (代表世話人), 膝OAと運動・装具療法研究会 (代表世話人), 新潟医療福祉学会, 日本整形外科学会, 東北整形災害外科学会, 新潟整形外科研究会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 日本臨床スポーツ医学会, 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 会長, 新潟市, 2024.11.16-

11.17.

- 新潟スポーツ傷害フォーラム，第12回新潟スポーツ傷害フォーラム，代表，新潟市，2024.10.12.
- 膝OAと運動・装具療法研究会，第19回膝OAと運動・装具療法セミナー，代表世話人，東京都，2025.2.7.

3) 学会等でのその他の活動

- 日本臨床スポーツ医学会，教育研修委員会，委員長
- 日本臨床バイオメカニクス学会，将来構想委員会，委員
- 日本人工関節学会，人工関節認定医制度検討委員会，委員
- 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会，特別講演，座長，新潟市，2024.11.16-11.17.
- 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会，シンポジウム1，座長，新潟市，2024.11.16-11.17.
- 日本スポーツ整形外科学会2025，シンポジウム12座長，東京都，2024.9.12-9.13.
- 第51回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会，市民公開講座，座長，大阪府，2024.11.1-11.2.
- 第30回日本最小侵襲整形外科学会，パネルディスカッション，座長，あわら市，福井県，2024.11.8-11.9.
- 第2回日本膝関節学会，TKAフォーラム，座長，宜野湾市，沖縄県，2024.12.6-12.7.
- 日本整形外科学会英文誌（J. Orthop. Science），査読委員
- 日本臨床スポーツ医学会，学会誌査読員
- 新潟県医師会スポーツ医学再研修会，特別講演，座長，新潟市，2025.3.15.

7 社会活動

1) 公開講座・講演会等

- 令和6年度新潟市中体連部活指導者研修会，成長期のスポーツ傷害：腰椎分離症，講師，新潟市中体連，体育教員，新潟市，2024.5.31.
- 令和6年度中堅教諭等資質向上研修（養護教諭），成長期のスポーツ傷害，講師，新潟県教育委員会，養護教員，新潟市，2024.6.28.
- 第4回アスリートケアセミナー，変形性膝関節症の診断，治療，進行予防への戦略～新潟からの挑戦～，講師，アスリートケア研究会，理学療法士，アスレティックトレーナー，鍼灸師，大阪府，2024.8.8.（オンライン講演）
- 第4回ゴラッソセミナー，地方発プロサッカーチームのJ1への軌跡，講師，スポーツドクター，トレーナー，Arthrex，東京都，2024.9.12.
- 令和6年度日本スポーツ協会公認スポーツドクター養成講習会，中高年者と運動（整形外科系），講師，日本スポーツ協会，講習会受講者（医師，歯科医師），東京都，2024.10.5.

2) 社会活動への参加協力

- 新潟県サッカー協会，医科学委員，2024.4.1-2025.3.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県スポーツ推進審議会（委員），新潟県県骨つくりスポーツ医科学センターあり方検討会（委員）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟スポーツ医・科学コンソーシアム（会長），新潟県スポーツドクター協会（会長），新潟市スポーツ協会（副会長），新潟県医師会（健康スポーツ委員会委員），新潟県スポーツ協会AT部会（顧問）

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

- 2019年度，基盤研究（C），変形性膝関節症の病態解明－長期疫学及び新しい運動学的アプローチ，研究代表者
- 2023年度，基盤研究（B），アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発，研究分担者
- 2023年度，基盤研究（B），月経随伴症状としての腰痛の発生メカニズム解明と対処法の開発，研究

分担者

4. 2023年度, 国際共同研究加速基金(海外連携研究), 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究分担者
 5. 2023年度, 女子アスリートの鉄欠乏, 貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明, 研究分担者
 6. 2023年度, プロアスリートの解析から見たPRP療法への応答性を決定する品質の探索: 予知性向上へ, 研究分担者
- 9 学内委員会活動 アスリートサポート研究センター(センター長)

氏名: 越中 敬一

- 1 研究題目 身体のエネルギー代謝調節機構の解明
- 2 学会等研究発表
 1. 川田裕樹, 大浦拓徳, 古越祐介, 佐藤晶子, 小池晃彦, 越中敬一. 妊娠期における母体への温熱刺激が子の出生後の体組成および血糖値に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会(佐賀市), 2024.9.2.
 2. 川田裕樹, 大浦拓徳, 古越祐介, 佐藤晶子, 小池晃彦, 越中敬一. 妊娠ラットに対する温熱刺激が仔の将来の体組成および糖代謝に及ぼす影響. 國學院大學人間開発学会第16回大会(横浜市), 2024.9.28.
 3. 佐藤晶子, 石垣智恒, 越中敬一, 西海幸頼. 大学生硬式テニス選手の夏季試合期間におけるコンディション維持を目的とした栄養サポート. 日本スポーツ栄養学会 第10回大会(坂戸市), 2024.9.21.
 4. 古越祐介, 大浦拓徳, 佐藤晶子, 川田裕樹, 越中敬一. 骨格筋細胞における水分量の増加が骨格筋のエネルギー代謝に与える影響. 第78回日本体力医学会大会(佐賀市), 2024.9.2.
 5. 佐藤晶子, 越中敬一. 短期的な体内チアミン(ビタミンB1)量の低下時の糖質の大量摂取が食欲とグリコーゲン蓄積量に及ぼす影響. 第71回日本栄養改善学会学術総会(大阪市), 2024.9.6.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 運動生理学会, 日本体力医学会(評議員)
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 特定非営利活動法人日本健康運動指導士会, 2024年度新潟県支部研修会, 健康歳しhのための身体運動時におけるエネルギー代謝と運動強度・運動時間の関連性について, 講師, 新潟市メディアシップ, 2024.11.17.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2022年度, 研究基盤(C), 一過性の身体運動による骨格筋インスリン作用の亢進における水分子動態の関与, 越中敬一(研究代表)
- 6 学内委員会活動 化学物質管理委員会, 科研費対策委員会, 強化指定クラブ運営委員会, 人権委員会, 学術委員会

氏名: 山代 幸哉

- 1 研究題目 脳内情報を基にした慢性疼痛アスリートの評価法と対処法の創出
- 2 論文
 1. Ikarashi K, Sato D, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Yamashiro K. Fluctuation of fine motor skills throughout the menstrual cycle in women Scientific Reports 14 15079
 2. Dat LC, Sato D, Ikarashi K, Ochi G, Fujimoto T, Yamashiro K. No effect of whole-hand water flow stimulation on skill acquisition and retention during sensorimotor adaptation Frontiers in Human Neuroscience vol 1
 3. Ochi G, Ohno K, Kuwamizu R, Yamashiro K, Fujimoto T, Ikarashi K, Kodama N, Onishi H, Sato D.

Exercising with virtual reality is potentially better for the working memory and positive mood than cycling alone Mental Health and Physical Activity

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本生体磁気学会（評議員）、日本体力医学会（評議員）、日本運動生理学会、日本体育スポーツ学会、日本臨床神経生理学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. British journal of pain, 査読
 2. 体力科学, 査読

4 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 第54回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.4.13.
 2. 第55回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.5.4-5.5.
 3. 第56回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.6.5.
 4. 第57回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.6.22.
 5. 第58回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.7.20-7.21.
 6. 第59回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.9.7.
 7. 第60回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.10.12-10.13.
 8. 第61回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.11.2-11.3.
 9. スポーツ遊びの日, 新潟医療福祉大学スポーツ振興室, 運営, 新潟市, 10.20.

5 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2022年度, 科研費基盤研究（B）, 脳内情報を基にした慢性疼痛アスリートの評価法と対処法の創出, 研究代表者
 2. 2024年度, 科研費基盤研究（B）, 運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イノベーション－, 研究分担者
 3. 2023年度, 科研費基盤研究（C）, 長距離走者のパフォーマンスに及ぼすスプリントトレーニングの効果の解明, 分担研究者
 4. 2023年度, 科研費基盤研究（C）, 内受容感覚を効果的に高める浸水条件の確立とメカニズムの解明, 分担研究者
- 2) 学内部活動の実績
 1. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子十種競技優勝 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.22.（短距離コーチ）
 2. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子総合8位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.23.（短距離コーチ）
 3. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子混成競技2位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.24.（短距離コーチ）

6 学内委員会活動 大学院教育研究環境委員会（委員長）、大学院の質保証委員会、URA推進委員会

氏名：佐藤 晶子

- 1 研究題目 短期的なチアミン（ビタミンB1）の摂取制限がエネルギー代謝に及ぼす影響
- 2 論文
 1. Kagawa M, Nagashima Y, Ohshima S, Sato A, Ishizu T, Ishikawa-Takata K, Taguchi M. An academic cooperation between the Japan Sports Nutrition Association (JSNA) and the Korean Society for Exercise Nutrition (KSEN). Physical Activity and Nutrition. 2024; 28: 20-22.
- 3 学会等研究発表

1. 古越祐介, 大浦拓徳, 佐藤晶子, 川田裕樹, 越中敬一. 骨格筋細胞における水分量の増加が骨格筋のエネルギー代謝に与える影響. 第78回日本体力医学会大会(佐賀市), 2024.9.2-9.4.
 2. 川田裕樹, 大浦拓徳, 古越祐介, 佐藤晶子, 小池晃彦, 越中敬一. 妊娠期における母体への温熱刺激が子の出生後の体組成および血糖値に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会(佐賀市), 2024.9.2-9.4.
 3. 佐藤晶子, 石垣智恒, 越中敬一, 西海幸頼. 大学生硬式テニス選手の夏季試合期間におけるコンディション維持を目的とした栄養サポート. 日本スポーツ栄養学会第10回大会(坂戸市), 2024.9.21-9.22.
 4. 佐藤晶子, Gareth Jones, 片岡沙織. ゴルフ選手に対するスポーツ栄養士の存在. 日本スポーツ栄養学会第10回大会(坂戸市), 2024.9.21-9.22. 【国際交流セッション】
 5. 佐藤晶子, 越中敬一. 短期的な体内チアミン(ビタミンB1)量の低下時の糖質の大量摂取が, 食欲とグリコーゲン蓄積量に及ぼす影響. 第71回日本栄養改善学会学術総会(大阪市), 2024.9.6-9.8.
 6. 佐藤晶子. ビタミンB1と糖質代謝. 第71回日本栄養改善学会学術総会(大阪市), 2024.9.6-9.8. 【研究自由集会】
 7. Sato A, Nara R, Shimoyama Y. The factors influencing on individual nutritional counseling for collegiate swimmers. The 19th International Congress of Nutrition and Dietetics 2024 (Tronto), 2024.6.12-6.14.
- 4 学会活動
- 1) 所属学会 日本栄養改善学会, 日本スポーツ栄養学会(評議員), 日本体力医学会, 新潟医療福祉学会
- 5 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
 1. PINES Member Present & Connect Session, Considering Communication in Sports Nutrition, 講師, PINES (Professionals in Nutrition for Exercise and Sport), PINES会員(国内外のスポーツ栄養士, 研究者等), オンライン, 2025.2.20.
 2. 新潟県栄養士大会 2024, 特別講演 アスリートの栄養管理の理論と実践, 講師, 公益社団法人新潟県栄養士会, 新潟県民, 新潟県栄養士会会員・非会員, 管理栄養士・栄養士養成校学生, 新潟市, 2024.12.21.
 3. 第57回スポーツ栄養を学ぼう! セミナー, ビタミンB1(チアミン)と糖質代謝~競技者は一般の人よりも多く摂取すべきか?~, 講師, 株式会社KAGO食スポーツ, スポーツに携わる管理栄養士, 栄養士及びトレーナー等, オンライン, 2024.7.10, 7.14. (全2回)
 - 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 一般雑誌, スイミングライフ(株式会社インターナショナルスイミング), 選手・コーチに役立つスポーツ科学~科学を学んで速く泳げるようになろう!~「競技選手と個別栄養相談」, 2024.10.5.
 - 3) 職能団体(協会, 士会等)の委員

公益社団法人全日本アーチェリー連盟強化部科学委員, 日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ), 新潟県陸上協会専門部(医科学部)
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2022年度, 基盤研究(C), 体内チアミン量の短期的な減少がグリコーゲンローディングに及ぼす影響, 研究代表者
- 7 学内委員会活動 国際交流センター運営委員会, 国家試験・資格試験対策委員会, SHAINプロジェクト

氏名: 堀 里也

報告事項なし

氏名: 鵜瀬 亮一

- 1 研究題目 野球競技のコーチング, 熟達指導者研究

2 学会等研究発表

1. 大室康平, 鶴瀬亮一. 少年期の野球選手の入団および卒団時の意識(第2報) 経年のアンケート調査結果の比較. 東北体育スポーツ学会・令和6年度 東北体育スポーツ学会(宮城県仙台市). 2024.12.7.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育学会, 日本教育工学会, 日本野球科学研究会, 新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟医療福祉大学野球教室, 小学生111名指導, 講師, 南魚沼市, 2024.7.6.
2. 新潟医療福祉大学野球教室, 中学生91名指導, 講師, 南魚沼市, 2024.7.27.
3. 新潟医療福祉大学野球教室, 中学生32名指導, 講師, 魚沼市, 2024.8.18.
4. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ, 幼児・小学生約200名, 講師, 新潟市, 2024.10.20.
5. 長岡市野球教室(未経験者), 小学生51名, 講師, 長岡市, 2024.10.26.
6. 長岡市野球教室(経験者), 小学生40名, 講師, 長岡市, 2024.10.26.
7. 十日町市野球教室, 中学生98名, 指導者21名, 講師, 十日町市, 2024.11.16.
8. 2024年度 日本スポーツ協会公認コーチ1養成講習会, 指導者56名, 講師, 新潟市, 2024.12.1.
9. 長岡地域定住自立圏「スポーツ振興事業」未経験者野球教室, 小学生・幼稚園生76名, 2024.12.7.
10. 長岡地域定住自立圏「スポーツ振興事業」中学生野球教室, 中学生48名, 2024.12.7.
11. Christmas Party with 新潟医療福祉大学, 小学生30名, 大学生13名, 新潟市北区 ラグーナスクエア, 2024.12.24.
12. 新潟医療福祉大学野球教室, 中学生20名 指導者3名, 講師, 本学室内練習場, 2025.1.12.
13. 新潟医療福祉大学野球教室, 高校生10名指導, 講師, 新潟市, 2025.1.19.
14. 新発田市指導者講習会, 指導者41名, 講師, 新潟市, 2025.1.25.
15. 新潟医療福祉大学野球教室, 高校生17名, 講師, 新潟市, 2025.2.15.
16. 新潟医療福祉大学野球教室, 中学生35名, 講師, 新潟市, 2025.2.16.
17. 新潟医療福祉大学野球教室, 中高生27名, 講師, 新潟市, 2025.2.23.
18. 新潟医療福祉大学野球教室, 小学生17名 指導者6名, 講師, 新潟市, 2025.3.15.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 新聞&Web, 日刊スポーツ, 新潟医療福祉大・佐藤圭, 最後の春の目標は初の個人タイトル獲得 関甲新学生野球6日開幕. 2024.4.3.
2. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 復活の春 飯濱. 2024.4.5.
3. 新聞, 新潟日報, 関甲新学生野球L 明日開幕. 2024.4.5.
4. 新聞, 新潟日報, 新医大 初戦快勝. 2024.4.7.
5. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 5回猛攻7得点で逆転 医福大が県勢対決制す. 2024.4.29.
6. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大, 新大破る. 2024.4.29.
7. 新聞, スポーツニッポン新潟版, バイタルネット南 凱旋登板. 2024.5.5.
8. 新聞, 日刊スポーツ新潟版, バイタルネット南 JABA新潟大会登板記事. 2024.5.5.
9. 新聞, 新潟日報, 新大が最下位入れ替え戦へ 新潟医福大4位. 2024.5.12.
10. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大飯濱 最優秀防御率&ベストナイン. 2024.6.6.
11. 新聞, 日刊スポーツ新潟版, 関甲新野球 医福大からベストナイン過去最多3名選出. 2024.6.13.
12. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大4年熊倉社会人で野球続行へ秋も奮闘. 2024.6.18.
13. 新聞, 日刊スポーツ新潟版, 医福大の安打製造機 熊倉連続3冠王だ. 2024.6.20.
14. Web, 朝日新聞×ABC放送, バーチャル高校野球 新潟県高等学校野球選手権大会 準々決勝解説. 2023.7.20.
15. Web, 朝日新聞×ABC放送, バーチャル高校野球 新潟県高等学校野球選手権大会 準々決勝解説. 2023.7.21.

16. テレビ, UX, 熱闘LIVE2023 新潟県高等学校野球選手権大会 準決勝解説. 2023.7.23.
 17. 雑誌, 文藝春秋社, Number, 少数を精鋭に鍛える. 2024.8.8.
 18. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大 外山新主将関東大会へけん引. 2024.9.3.
 19. 新聞, 新潟日報, 関甲新学生野球あすから秋季L1部 戦力充実 新潟医福大. 2024.9.6.
 20. 新聞, 日刊スポーツ新潟版, 医福大川瀬急成長143キロ右腕. 2024.9.7.
 21. 新聞, 新潟日報, 関甲新学生野球L 開幕戦. 2024.9.8.
 22. Web&新聞, 日刊スポーツ, 新潟医療福祉大学がミラクル逆転劇で開幕から無傷の3連勝. 2024.9.16.
 23. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大逆転勝ち首位キープ. 2024.9.17.
 24. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大開幕3連勝. 2024.9.17.
 25. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大17季ぶり開幕4連勝. 2024.9.18.
 26. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大 新大を下す. 2024.9.18.
 27. Web&新聞, 日刊スポーツ, 新潟医療福祉大「新潟対決」制し開幕4連勝. 2024.9.18.
 28. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大連勝止まる. 2024.9.23.
 29. Web&新聞, 日刊スポーツ, 新潟医療福祉大が28連敗中上武大から白星. 2024.9.29.
 30. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大 上武大撃破. 2024.9.30.
 31. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大 上武大下す. 2024.9.30.
 32. Web, 日刊スポーツ, 新潟医療福祉大学・外山俊がリーグ初制覇へ気合. 2024.10.5.
 33. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大大一番. 2024.10.5.
 34. Web, 日刊スポーツ, 創部12年目の新潟医療福祉大学, リーグ初V逃す. 2024.10.6.
 35. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大初V逃すも 創部12年初関東. 2024.10.7.
 36. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大 3位以上 県勢初関東地区選手権へ. 2024.10.7.
 37. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大敗れて3位. 2024.10.8.
 38. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大敗戦6勝3敗. 2024.10.8.
 39. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大初戦11.4VS中央学院大学. 2024.10.24.
 40. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大初戦 中央学院大と. 2024.10.24.
 41. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大・安藤打点王の自信胸に「一戦必勝」. 2024.10.29.
 42. 新聞, 日刊スポーツ新潟版, 医福大 後藤「次は自分たちが」. 2024.10.31.
 43. 新聞, 新潟日報, 大学野球・関東地区選手権 新潟医福大「臆せず挑む」. 2024.11.1.
 44. 新聞, 神奈川新聞, 第20回横浜市長杯争奪関東地区大学野球選手権 熱戦開幕. 2024.11.4.
 45. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大 安藤 大会1号も初戦敗退. 2024.11.5.
 46. 新聞, 新潟日報, 新潟医福大 初陣飾れず. 2024.11.5.
 47. 新聞, スポーツニッポン新潟版, リーグ初Vへ 医福大 再進化の一步. 2025.1.9.
 48. 新聞, 日刊スポーツ新潟版, 小林佑リーグVそしてプロへ. 2025.1.10.
 49. 新聞, スポーツニッポン新潟版, 医福大野球部新入生講習会 小林 4年後プロ. 2025.2.9.
 50. 新聞, 日刊スポーツ新潟版, 医福大野球部入部予定者オリエンテーション. 2025.2.9.
- 3) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員
関甲新学生野球連盟(理事), 新潟県野球協議会(理事)
- 5 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
1. 2023年度, 基盤研究(C), VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化, 研究代表者

氏名: 下門 洋文

- 1 研究題目 水中環境におけるヒトの動作解析とそれによって起きる泳者周りの流れの可視化, 大学生の体力

に関する疫学研究, 運動中のヒトが抱く身体感覚

2 論文

1. Nakazono Y, Shimojo H, Sakakibara J, Sengoku Y, Takagi H, Tsunokawa T. Variations in vortex structure with changes in swimming velocity during human underwater undulatory swimming. Exp Fluids (JCR). 2025; 66, 23 (review).
2. Yamakawa K, Homoto K, Nakashima M, Shimojo H, Nakazono Y, Sengoku Y, Takagi H. Differences in kinematics, kinetics, and muscle activity between underwater dolphin kicking and flutter kicking: multiple approaches using three-dimensional motion analysis, electromyography, and hydrodynamic simulation. Sports Biomechanics (JCR). 2025; 1-16. (review)

3 報告書

1. 市川浩, 下門洋文, 下山好充. 基盤研究 (C), クロール泳の上肢ストロークと下肢キックの相乗効果, 2023年度実施報告書, 2022.4-2025.3, 研究分担者

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本体力医学会, 日本水泳・水中運動学会 (総務), 日本運動疫学会, European College of Sport Science, 可視化情報学会

2) 学術集会の主催

1. 日本水泳・水中運動学会, 2024年度日本水泳・水中運動学会年次大会, 学会事務局, 2024.10.4-10.6.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本水泳・水中運動学会, 会計, 総務, 新潟市, 2024.5.16.
2. 日本水泳・水中運動学会, 第1回運営委員会, 総務, オンライン, 2024.7.3.
3. 日本水泳・水中運動学会, 第2回運営委員会, 総務, オンライン, 2024.8.26.
4. 日本水泳・水中運動学会, 会計監査, 総務, 東京, 2024.8.23.
5. 2024年度日本水泳・水中運動学会, 総会, 総務, 徳島県, 2024.10.6.
6. 日本水泳・水中運動学会, 第3回運営委員会, 総務, 東京, 2025.2.28.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県水泳連盟・水泳指導者更新講習会, 水泳・水中運動のバイオメカニクス, 講師, 新潟県水泳連盟水泳指導者委員会, 水泳指導者, 新潟市, 2024.8.18.
2. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室, フレイル予防運動教室, 運動指導, 健康スポーツ学科, 中高年者, 新潟医療福祉大学, 2024.5.13-7.8. (全9回)
3. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室, イキイキ運動教室, 運動指導, 健康スポーツ学科, 中高年者, 新潟医療福祉大学, 2024.5.14-7.9. (全9回)
4. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室, スッキリ運動教室, 運動指導, 健康スポーツ学科, 中高年者, 新潟医療福祉大学, 2024.5.14-7.9. (全9回)
5. 日本健康運動指導士会新潟県支部研修会, 運動指導における体力と運動の測定評価の基本, 講師, NPO法人日本健康運動指導士会, 健康運動指導士・健康運動実践指導者, 新潟市, 2024.6.29.
6. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室, フレイル予防運動教室, 運動指導, 健康スポーツ学科, 中高年者, 新潟医療福祉大学, 2024.9.30-12.9. (全9回)
7. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室, イキイキ運動教室, 運動指導, 健康スポーツ学科, 中高年者, 新潟医療福祉大学, 2024.10.1-11.26. (全9回)
8. 新潟医療福祉大学健康づくり運動教室, スッキリ運動教室, 運動指導, 健康スポーツ学科, 中高年者, 新潟医療福祉大学, 2024.10.1-11.26. (全9回)

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. web記事, TsukubaJournal (筑波大学), キック泳では泳ぐスピードの違いで足部周りの渦の構造が変化する, 2025.2.5.

2. web記事, 明治大学プレスリリース, キック泳では泳ぐスピードの違いで足部周りの渦の構造が変化する, 2025.2.5.
3. web記事, 官庁通信デジタル・文教速報デジタル版(株式会社官庁通信社), ドルフィンキック, スピードが上がるほど水流が上昇 効果的な練習の考案などに貢献 筑波大と新潟福祉大の研究G, 2025.2.7.
4. web記事, アンドラ (Willing), キック泳では泳ぐスピードの違いで足部周りの渦の構造が変化する | 筑波大学, 2025.2.13.
5. web記事, VOIX edu (株式会社VOIX), 筑波大学と新潟医療福祉大学, 明治大学の共同研究が水中ドルフィンキックにおける渦構造の変化を解明した成果, 2025.2.5.
6. web記事, サードニュース (株式会社サードイノベーション), 新たな発見! 水中ドルフィンキックの渦構造と泳速の関係, 2025.2.5.
7. web記事, スポーツマニア (スポーツマニア編集部), キック泳では泳ぐスピードの違いで足部周りの渦の構造が変化する, 2025.2.5.
8. web記事, ARIHHPセンター (筑波大学ヒューマン・ハイパフォーマンス先端研究センター), 【プレスリリース】角川助教, 中園院生らの研究成果が国際誌へ掲載されました, 2025.1.16.
- 3) 社会活動への参加協力
 1. 新潟県水泳連盟・指導者委員会, 第1回水泳指導者養成会議, 委員, 長岡市, 2025.5.11.
 2. 新潟県水泳連盟・指導者委員会, 第2回水泳指導者養成会議, 委員, 長岡市, 2025.10.27.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 科学研究費 基盤研究 (C), スイマーが水を捉える瞬間の解明, 研究代表者
 2. 2022年度, 科学研究費 基盤研究 (C), クロール泳の上肢ストロークと下肢キックの相乗効果, 研究分担者
 - 2) 学内部活動の実績
 1. 水泳部, 科学サポートスタッフ
- 7 学内委員会活動 入試委員会(委員), 大学院教務委員(委員), 運動機能医科学研究所(研究員)

氏名: 熊崎 昌

- 1 研究題目 スポーツ関連脳振盪の発生状況や機能評価に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 熊崎昌, 鈴木啓太. 大学女子サッカー競技における試合時の頭部外傷リスクの特徴. 第13回日本アスレティックトレーニング学会学術大会(愛知県豊田市・日本), 2024.9.14-9.15.
 2. 熊崎昌, 巻渕泰輝, 高澤祐治, 大杉一平, 大森豪. 東医体ラグビー競技におけるドクター&アスレティックトレーナー連携のメディカルサポート報告. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会(新潟県新潟市・日本), 2024.11.16-11.17.
 3. 熊崎昌. 各専門職の連携によるより良い競技復帰に向けた脳振盪後の現場サポートを考える『スポーツ現場におけるファーストタッチ』, 初期対応. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会(新潟県新潟市・日本), 2024.11.16-11.17. 【シンポジウム】
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本体力医学会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本アスレティックトレーニング学会(代議員, 編集委員)
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本アスレティックトレーニング学会誌, 編集委員, 2024年度
 2. 日本臨床スポーツ医学会 Young members' meeting, 運営委員(コアメンバー), 2024年度
- 4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー，部活動指導者に知ってもらいたいアタマの怪我とその対応，講師，新潟市中学校校体育連盟，新潟市中学校保健体育・部活動指導者，新潟県・スポーツ医科学センター，2024.5.31.
2. 新潟県アスレチックトレーナー部会令和6年度総会，日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナーの新カリキュラムとは，講師，新潟県アスレチックトレーナー部会，アスレチックトレーナー資格保有者，新潟県新潟市，2024.6.30.
3. 新潟市スポーツ協会スポーツ指導者研修会，頭部外傷の対応について，講師，新潟市スポーツ協会，一般市民およびスポーツ指導者，新潟県新潟市，2025.1.28.
4. 第1回新潟スポーツケアナース認定講習会，頭部外傷（脳振盪），講師，新潟スポーツコンソーシアム，看護師，新潟医療福祉大学，2024.10.5.

2) 社会活動への参加協力

1. 北信越ラグビー専門部，ラグビーU19北信越ブロック選抜帯同，トレーナー，愛知県・中京大学，2024.4.13-4.14.
2. 北信越ラグビー専門部，ラグビーU17北信越ブロックトライアウト帯同，トレーナー，長野県・菅平高原グラウンド，2024.6.21-6.23.
3. 日本ラグビーフットボール協会，ラグビーU17コベルコカップ北信越代表チーム帯同，トレーナー，長野県・菅平高原グラウンド，2024.8.1-8.3.
4. 日本ラグビーフットボール協会，ラグビーU19代表候補合宿帯同（TIDユースキャンプ），トレーナー，東京都・辰巳の森グラウンド，2024.9.6-9.8.
5. 新潟県スポーツ協会，北信越国体（少年ラグビー）の試合帯同，トレーナー，石川県・県ラグビー場，2024.8.23-8.25.
6. 東京サンゴリアス，リーグワン公式戦における試合救護，救護担当ボランティア，東京都・秩父宮ラグビー場，2024.5.4.
7. 新潟県ラグビー協会，関東大学ラグビー公式戦における試合救護，救護担当ボランティア，新潟県・デンカビッグスワン，2024.6.2.
8. 新潟県高等学校体育連盟，ラグビー県総体での選手サポート，トレーナー，新潟県・長岡ニュータウン運動公園，2024.5.25および5.31.
9. 新潟県高等学校体育連盟，県総体決勝戦における試合救護，救護ボランティア，新潟県・長岡ニュータウン運動公園，2024.10.26.
10. 新潟工業高校ラグビー部，北信越大会における大会帯同，トレーナー，石川県・県ラグビー場，2024.6.15-6.16.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県スポーツ協会アスレチックトレーナー部会（幹事）

- 5 学内委員会活動 社会連携推進センター運営委員会，FD・SD推進委員会，アスリートサポート研究センター，運動機能医科学研究所

氏名：伊藤 篤司

- 1 研究題目 バスケットボール競技指導者の試合中のストレス反応分析の研究，義足歩行による切断足と健全足の大腿動脈血流機能の検査研究
- 2 学会等研究発表
 1. 清水芳行，藤井義也，簗川圭太，伊藤篤司，西川祐策，最明裕介，小嶋和恵，中井浩司．心拍変動解析からみたスポーツ指導者の自律神経活動動態－臨床工学とスポーツ心理学の接合に関する－考察－．第34回日本臨床工学会．2024.5.19.
- 3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会（正会員），日本バスケットボール学会（正会員），日本スポーツ心理学会（正会員）

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. NUHW Athlete seminar!, 『人材育成セミナー』, 講師, AD委員会, 強化指定クラブ1年生対象, 2024.8.2.
2. 令和6年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会, 講師, 公益財団法人新潟県スポーツ協会, 地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動における指導者や運営者またはあたろうとする者, 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター大研修室, 2024.8.10.
3. 日本スポーツ協会, 共通科目Ⅲ指導者育成講習会, コーチデベロッパー, コーチ3・教師・アスレティックトレーナー・スポーツ栄養士, オンライン開催, 2024.9.6-9.8.
4. 日本スポーツ協会, 共通科目Ⅲ指導者育成講習会, コーチデベロッパー, コーチ3・教師・アスレティックトレーナー・スポーツ栄養士, オンライン開催, 2024.10.4-10.6.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 新潟日報デジタルプラス, [Wリーグ・新潟BBラビッツ] 来季B3降格のアルビBB強化本部長, 東英樹氏がラビッツ新監督就任へ, 伊藤篤司監督は退任, 2024.4.29.
2. シャンソン化粧品HP, 新体制のお知らせ, シャンソンVマジック [アソシエイトヘッドコーチ] (新規), 2024.11.21.
3. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs トヨタ紡織, 2024.11.23, 11.24.
4. LIVE配信, バスケットLIVE, 第91回皇后杯2次ラウンド, シャンソンVマジック vs アランマーレ秋田, 2024.12.1.
5. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs デンソー, 2024.12.7, 12.8.
6. LIVE配信, バスケットLIVE, 第91回皇后杯FINALラウンド, シャンソンVマジック vs アイシン, 2024.12.12.
7. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs ENEOS, 2025.1.11, 1.12.
8. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs 日立ハイテク, 2025.1.18, 1.19.
9. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs アイシン, 2025.1.25, 1.26.
10. LIVE配信, バスケットLIVE, ユナイテッドカップファイナルステージ, シャンソンVマジック vs ENEOS, 2025.2.7.
11. LIVE配信, バスケットLIVE, ユナイテッドカップファイナル, シャンソンVマジック vs デンソー, 2025.2.9.
12. LIVE配信, バスケットLIVE, ユナイテッドカップセミファイナル, シャンソンVマジック vs 富士通, 2025.2.8.
13. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs トヨタ自動車, 2025.2.23, 2.24.
14. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs 富士通, 2025.3.1, 3.2.
15. LIVE配信, バスケットLIVE, シャンソンVマジック vs トヨタ紡織, 2025.3.8, 3.9.
16. LIVE配信, バスケットLIVE, セミファイナル第1戦, シャンソンVマジック vs デンソー, 2025.3.29.
17. LIVE配信, バスケットLIVE, セミファイナル第2戦, シャンソンVマジック vs デンソー, 2025.3.30.
18. LIVE配信, バスケットLIVE, セミファイナル第3戦, シャンソンVマジック vs デンソー, 2025.3.31.

3) 社会活動への参加協力

1. 日本赤十字社, 献血400ml, 新潟県赤十字血液センター, 2024.9.23.

4) 職能団体（協会, 士会等）の委員

日本スポーツ協会（コーチデベロッパー）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年4月，共同研究・競争的資金等の研究課題，毛髪を用いた女性アスリートのオーバートレーニングを予防するコンディション評価法の開発，越智元太・伊藤篤司，小林真里奈
2. 2024年，令和6年度スポーツ庁委託事業 感動する大学スポーツ総合支援事業（UNIVAS），大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業【タイプB】，アスレチックデパートメント推進委員会

2) 学内部活動の実績

1. 女子バスケットボール部（ディレクター）2024.4.1-2025.3.31.

3) 学外兼務講師等

1. 新潟大学教育学部，球技C，2024.4.1-2025.3.31.
2. 開志創造高等学校，アスリート専攻，マネジメント&ビジネス『セカンドキャリア』2回，2024.7.1-2025.3.31.

6 学内委員会活動 アスレチックデパートメント推進部（部長），アスレチックデパートメント推進委員会（委員長）

氏名：秋山 隆之

1 研究題目 サッカーにおける各種制約が状況判断能力に及ぼす影響に関する研究，プロフェッショナルフットボールコーチ イビチャオシムのリーダーシップ行動における定性的事例研究，変革型リーダーシップスタイルのプロフェッショナルサッカーコーチがコーチングで用いる計画的混乱の利用と意図に関する研究

2 学会活動

1) 所属学会 日本体育学会，日本フットボール学会，新潟医療福祉学会

3 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 全日本大学女子サッカー連盟，2024全日本大学女子サッカー連盟評議員会，東京都他，2024.6.17.
2. 新潟県サッカー協会，新潟県社会人サッカー連盟，2024新潟日報杯・共同通信杯 第29回新潟県サッカー選手権大会，新発田市他，2024.3.24-5.5.
3. 新潟県サッカー協会，新潟県成年女子選抜主務，第45回北信越国民スポーツ大会，金沢市他，2024.8.9-8.11.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県三条市スポーツ推進審議会（委員）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

一般社団法人全日本大学女子サッカー連盟（評議員），一般社団法人新潟県サッカー協会社会人サッカー連盟（理事），一般社団法人新潟県サッカー協会 規律・資格・フェアプレー委員会（委員），一般社団法人新潟県サッカー協会女子委員会（委員）

4 その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. 男子サッカー部，第48回総理大臣杯全日本サッカートーナメント，盛岡市他，準優勝，2024.9.4-9.15.（部長）
2. 男子サッカー部，第73回全日本大学サッカー選手権大会，宇都宮市他，準優勝，2024.12.7-12.28.（部長）
3. 女子サッカー部，皇后杯 JFA 第46回全日本女子サッカー選手権大会，藤枝市他，2024.11.17-2025.1.25.（部長）
4. 女子サッカー部，第33回全日本大学女子サッカー選手権大会，ひたちなか市他，2回戦敗退，

2024.12.24-2025.1.6. (部長)

2) 学外兼務講師等

1. 三条看護・医療・歯科衛生専門学校（看護学科，歯科衛生士学科），健康と運動，保健体育，2024.10.1-2025.3.15.

5 学内委員会活動 国際交流委員会（海外研修および留学支援部会），アスレティックデパートメント推進委員会

氏名：後藤 桂太

報告事項なし

氏名：久保 晃

1 研究題目 中学校運動部活動の地域移行に伴う，運動部活動が盛んでない中学校における対応について

2 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 北信越大学バレーボール連盟日本バレーボール協会，C級審判員資格審査，運営，新潟医療福祉大学，2024.9.14-9.15.
2. 新潟医療福祉大学バレーボール部，バレーボール教室，運営・指導，新潟医療福祉大学，2024.9.16, 2025.2.24.
3. 早通バレーボールクラブ，バレーボール体験会，運営・指導，新潟市立早通中学校，2024.5.8, 5.15.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター倫理審査委員会（委員）

氏名：小林 志郎

1 研究題目 陸上競技投擲種目のトレーニング，指導法

2 論文

1. 小林志郎. U20男子砲丸投トップレベル競技者における投法変更による短期間での成功事例について，陸上競技学会誌（協力学術研究団体），2025: Vol23: 55-64（査読あり）
2. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports, Journal of Athletic Training, March 10 2025

3 学会活動

1) 所属学会 陸上競技研究，日本コーチング学会，新潟医療福祉学会，日本陸上競技学会

2) 学術集会の主催

1. 北信越学生陸上競技連盟，北信越学生陸上競技対校選手権大会，主管校運営，総務，新潟市，デンカビッグスワンスタジアム，2024.10.26-10.27.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 2024年度日本陸上競技連盟U19強化研修合宿（近畿・東海地区），円盤投担当コーチ，鴻池陸上競技場，2024.12.24-12.27.
2. 第1回U20オリンピック育成競技者研修合宿，円盤投担当コーチ，味の素ナショナルトレーニングセンター，2024.11.28-12.1.
3. 第54回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟医療福祉大学陸上競技場，2024.4.13.
4. 第55回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2024.5.4-5.5.
5. 第56回新潟医療福祉大学記録会，主催者，新潟市，新潟医療福祉大学陸上競技場，2024.6.5.

6. 第57回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.6.22.
 7. 第58回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.7.20-7.21.
 8. 第59回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.9.7.
 9. 第60回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.10.12-10.13.
 10. 第61回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟市, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.11.2-11.3.
 11. 2024日本実業団連合T & F投擲大隅合宿, 参加選手への指導, 砲丸投・円盤投担当コーチ, ジャパンアスリートセンター大隅, 2025.2.23-2.25.
 12. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ, 主催者, 新潟医療福祉大学, 2024.10.20.
 13. NUHWアカデミー(陸上競技編), 主催者, 新潟医療福祉大学競技場, 2024.11.16.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
1. ux新潟テレビ21, スーパーJにいがた, 3選手がインカレ優勝!新潟医療福祉大の陸上競技部・強さの秘密, 2024.11.25.
 2. 雑誌, 陸上競技マガジン, 大学生アスリートの日々 北原博企, 2024.7.12.発行
 3. 雑誌, 月刊陸上競技, my privacy 北原博企, 2024.9.1.発行
 4. 雑誌, 陸上競技マガジン, 新潟医療福祉大学男子3種目を制覇, 2024.10.11.発行
 5. 雑誌, 月刊陸上競技, 新潟医療福祉大学が男子総合8位 砲丸投, 円盤投, 十種の3種目制覇, 2024.11.1.発行
- 3) 社会活動への参加協力
1. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県中学校投てき強化練習会兼新潟医療福祉大学合同練習会, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2025.3.16.
 2. 新潟中央陸上競技協会, 第3回新潟市中学校合同練習会, 開催協力, 講師担当学生への指導, 参加者への指導, 新潟医療福祉大学, 2025.2.15.
 3. 新潟中央陸上競技協会, 第3回新潟市中学校合同練習会, 開催協力, 講師担当学生への指導, 新潟医療福祉大学, 2025.2.22.
 4. 新潟中央陸上競技協会, 第3回新潟市中学校合同練習会, 開催協力, 講師担当学生への指導, 参加者への指導, 新潟医療福祉大学, 2025.3.8.
 5. 新潟中央陸上競技協会, 第3回新潟市中学校合同練習会, 開催協力, 講師担当学生への指導, 参加者への指導, 新潟医療福祉大学, 2025.3.15.
 6. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県中学校投てき強化練習会兼新潟医療福祉大学合同練習会, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2025.2.7.
 7. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県競技水準向上対策事業令和6年度投てき強化練習会, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2025.2.2.
 8. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県競技水準向上対策事業令和6年度投てき強化練習会, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2025.3.2.
 9. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県競技水準向上対策事業令和6年度投てき強化練習会, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2025.3.16.
 10. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県競技水準向上対策事業第78回国スポ強化事業二次強化合宿実施計画書, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.8.31-9.1.
 11. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県競技水準向上対策事業第78回国スポ強化事業三次強化合宿実施計画書, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.9.14-9.15.
 12. 一般財団法人新潟陸上競技協会, 新潟県競技水準向上対策事業第78回国スポ強化事業四次強化合宿実施計画書, 開催協力, 参加者への技術指導, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.10.5-10.6.
- 4) 職能団体(協会, 士会等)の委員
- 一般財団法人新潟陸上競技協会(理事), 北信越学生陸上競技連盟(評議員), 新潟実業団陸上競技連盟(理事), 公益財団法人日本陸上競技連盟強化育成部(投擲スタッフ), 公益財団法人日本陸上競技協会強化委

員会（投擲スタッフ）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究C，投擲事故を未然に防ぐ新たなトレーニング用具の開発と普及

2) 学内部活動の実績

1. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投優勝 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.22.（監督）
2. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子砲丸投優勝 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.22.（監督）
3. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子十種競技優勝 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.22.（監督）
4. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投5位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.22.（監督）
5. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子走高跳5位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.22.（監督）
6. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子ハンマー投5位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.22.（監督）
7. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子総合8位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.23.（監督）
8. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子フィールド4位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.23.（監督）
9. 陸上競技部 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子混成競技2位 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム 2024.9.19-9.24.（監督）

6 学内委員会活動 キャリアセンター運営委員会，強化クラブ運営委員会

氏名：重藤 誠市郎

- 1 研究題目 発達障がい児者のスポーツ参加における障壁と対応，退学リスクに対してレジリエンスとグリットの与える影響，初任者研修のあり方
- 2 論文
 1. 佐近慎平，重藤誠市郎，大橋祐介，本多理紗，中曽根裕，金子勝司，小池和幸．高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究．自由時間研究．2024；50：30-33
- 3 学会等研究発表
 1. Yoshioka N, Shigeto S, Uchida K. Barriers and countermeasures to sports participation among people with developmental disabilities: A qualitative case study of the process of a satisfactory choice to not play sports. The 18th International Symposium of Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise ASAPE2024（北海道札幌市・日本）2024.8.2-8.4.
 2. 重藤誠市郎・吉岡尚美．発達障害児・者のスポーツ参加における障壁と対応—「学校での運動」に着目した知的・発達障害を持つ姉妹のケース—．日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会（福岡市・日本），2024.8.29-8.31.
 3. 吉岡尚美・重藤誠市郎・内田匡輔．発達障害児・者におけるスポーツ参加の選択プロセス—障壁と対応の関連現象から—．日本アダプテッド体育・スポーツ学会第29回研究大会（千葉県印西市・日本），2024.12.7・12.8.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会，新潟医療福祉学会，日本アダプテッド体育・スポーツ学会，日本スポーツ科学学会，Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise.

2) 学術集会の主催

1. 関東大学テニス授業研究会, 秋季研究集会・総会, 幹事, 東京都世田谷区, 2024.11.10.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. サタデイキッズ～夏休み特別編～, 未知のスポーツに挑戦!－ニュースポーツ・アダプテッドスポーツの考え方－, 講師, 豊栄地区公民館, 新潟市内小学生, 新潟県新潟市・新潟医療福祉大学, 2024.8.9.
2. パラスポーツ出前講座, パラスポーツ出前講座, 講師, 新発田市, 新発田市小学校, 新発田市小学校(4校) 2024.9.10-9.13. (全5回)
3. 新潟県スポーツ体験キャラバン, 新潟県スポーツ体験キャラバン, 講師, 新潟県スポーツ振興課, 小学生, 新潟県新潟市・デンカビッグスワン, 2024.6.29.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県ボッチャ協会・新潟県ンボッチャ協会設立準備理事会, ボッチャの普及・選手育成, 理事, 新潟市, 2024.4.4, 5.20, 7.22 (全3回)
2. スポーツ庁障害者スポーツ推進プロジェクト, 障害者スポーツの指導・普及等のためのマニュアル等の作成, 知財管理WG座長・教材コンテンツWG委員, オンライン, 2024.7.23, 9.30, 12.12, 2025.1.7, 1.24, 3.7, 3.3. (全7回)

3) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員

スポーツ庁障害者スポーツ推進プロジェクト・知財管理WG(座長)及び教材コンテンツWG(委員)

4) 職能団体(協会, 士会等)の委員

新潟県ボッチャ協会(理事)

6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 桜美林大学, 障害者レクリエーション・障害学, 2024.4.1-2025.3.31.

氏名: 三瀬 貴生

1 研究題目 成長期アスリートの運動器障害およびパフォーマンス向上に関する研究

2 論文

1. 栗田剛寧, 鎌苅翔平, 三瀬貴生, 南谷哲司. 発育期野球選手におけるポジション別の腰椎分離症と身体特性の関連, 日本臨床スポーツ医学会誌(協力学術研究団体). 2024; 32(3): 446-453. (査読あり)
2. 三瀬貴生, 松浦由生子. 成長期女子競泳選手における競技パフォーマンスと体力・運動能力の変化に関する一考察, 日本アスレティックトレーニング学会誌(協力学術研究団体). 2024; 10(1): 25-32. (査読あり)
3. 三瀬貴生. 科研費若手研究, 「成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明」, 2023年度研究実績報告書

3 学会等研究発表

1. 三瀬貴生, 松浦由生子. 成長期女子競泳選手における競技パフォーマンス停滞と一般的体力の変化に関する一考察. 第26回水と健康医学研究会(京都市), 2024.6.8.
2. 三瀬貴生, 下門洋文, 下山好充. 成長期女子競泳選手における全国大会出場者の体力・運動能力の経時的変化. 第74回日本体育・スポーツ・健康学会, 第74回日本体育・スポーツ・健康学会(福岡市), 2024.8.27-8.29.
3. 三瀬貴生, 下門洋文, 山城昌一郎, 馬場康博, 奈良梨央, 下山好充. 若年競泳選手の発育・発達過程における水中ドルフィンキック泳のキネマティクスおよび体力・運動能力の変化とキック泳速度との関係. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会(鳴門市), 2024.10.5-10.6.
4. 三瀬貴生, 栗田剛寧, 鎌苅翔平, 松浦由生子, 熊崎昌, 江玉睦明, 大森豪. Scapular Dyskinesisを有する成長期競泳選手の肩関節障害発生状況. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術大会(新潟市),

2024.11.10-11.11.

5. 伊藤南風, 三瀬貴生, 成長期男子バスケットボール選手におけるバランス能力と足関節捻挫の関係. 第13回日本アスレティックトレーニング学会学術大会(豊田市), 2024.9.14-9.15.
6. 毛利早希, 三瀬貴生, 山口基, 大森豪. 大学生アルティメット競技者における外傷・障害発生要因の検討サーフェスの実態について. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術大会(新潟市), 2024.11.10-11.11.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本臨床スポーツ医学会, 日本アスレティックトレーニング学会, 日本柔道整復接骨医学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本水泳・水中運動学会(事務局), 新潟医療福祉学会, 日本陸上競技学会, スポーツ運動学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本水泳・水中運動学会, 事務局, 会計
 2. 日本人類生理学会誌, 査読

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 公認アスレティックトレーナー養成講習会専門科目3期講習会, 体幹のリコンディショニング, 講師, 日本スポーツ協会, 養成講習会受講生, 日本福祉大学東海キャンパス, 2024.6.9.
2. 子どもの体力向上プログラム①, 身体のやわらかさを知ろう, 講師, 新潟市北区, 北区住民, ラグーナ・スクエア, 2024.6.23.
3. 子どもの体力向上プログラム②, ねばり強さ, 講師, 新潟市北区, 北区住民, ラグーナ・スクエア, 2024.7.28.
4. 燕市未来いきいき地域クラブ指導者研修会, 成長期のスポーツ指導におけるケガの予防, 講師, 燕市教育委員会, 燕市役所, 2024.8.24.
5. 子どもの体力向上プログラム③, すばやさ, 講師, 新潟市北区, 北区住民, ラグーナ・スクエア, 2024.10.27.
6. 認定理学療法士(スポーツ理学療法)臨床認定カリキュラム講義, スポーツ外傷・障害への理学療法・上肢, 講師, 水戸協同病院, 理学療法士, オンライン, 2024.12.6.
7. 子どもの体力向上プログラム④, バランス, 講師, 新潟市北区, 北区住民, ラグーナ・スクエア, 2024.12.15.
8. 新潟市スポーツ協会R6年度スポーツ指導者研修会, ジュニア期のトレーニング, 講師, 新潟市スポーツ協会, スポーツ指導者, 新潟市陸上競技場会議室, 2025.2.25.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 一般雑誌, 月刊スイミングライフ(インターナショナルスイミング), 選手・コーチに役立つスポーツ科学, 2024.11月号
2. 行政の広報誌, 新潟市北区役所だより, 「心も体も健幸プロジェクト」実施報告, 2025年3月16日号

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟県水泳連盟, 県中学選抜練習会におけるフィットネスチェック, 講師, 長岡市・ダイエープロビスフェニックスプール, 2024.4.14.
2. 佐渡市スポーツ協会, 佐渡ロングライド210・エイドステーションにおけるストレッチブース, トレーナー, 佐渡市, 2024.5.18-5.19.
3. 京都水泳協会, 競泳・京都代表チームの国体合宿帯同, アスレティックトレーナー, 京都アクアリーナ, 2024.9.8-9.12.
4. SAGA2024国民スポーツ大会, 京都府競泳代表選手団のトレーナー帯同, アスレティックトレーナー, 佐賀市, 2024.9.14-9.16.
5. 新潟県フライングディスク協会, 第6回新潟オープンアルティメット大会における救護活動, 救護スタッフ, 新潟市・太夫浜運動公園, 2024.11.4.

6. 京都文教中学・高等学校，コンディショニング指導，講師，オンライン，2024.10-12.
7. アクシー東スイミングスクール，トレーニング指導，講師，新潟市・アクシー東スイミングスクール，2024.4-2025.3.
8. 同志社大学水泳部，競泳選手のトレーニング指導，指導者，オンライン，2024.4-9.
9. 京都踏水会，競泳選手のコンディショニング・アドバイザー，指導者，オンライン，2024.9-2025.3.
10. 東京電気通信大学水泳部，スポーツ障害後のリコンディショニング指導，講師，オンライン，2024.5.9.
11. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ2024，救護活動，救護スタッフ，新潟医療福祉大学スポーツビレッジ，2024.10.20.
12. 森ノ宮医療学園校友会，代議員，大阪市，2024.4.1-2025.3.31.
- 4) 職能団体（協会，士会等）の委員
一般社団法人 新潟陸上競技協会 専門部委員会（医科学部部員），日本水泳トレーナー会議（学術部員）
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2023年度-2024年度，科学研究費助成事業 若手研究，「成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明」，三瀬貴生
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 国際メディカル専門学校 臨床工学技士科，体育実習，2024.10.1-2025.1.31.
- 7 学内委員会活動 図書館・学習支援委員会，教務委員会，アスリートサポート研究センター，運動機能医科学研究所

氏名：佐藤 裕紀

- 1 研究題目 デンマークの生涯学習政策に関する研究（比較・国際教育学），社会的包摂と社会教育，生涯学習に関する研究（生涯学習），地域づくりにおける子どもと若者の参画に関する研究
- 2 著書
 1. 佐藤裕紀. 概説グルントヴィー近代デンマークの礎を築いた「国父」，その思想と生涯. 初版. 東京：花伝社；2024：103-116，167-180.
 2. 佐藤裕紀. 増補改訂版ノンフォーマル教育の可能性—リアルな生活に根ざす教育へ. 増補改訂版. 東京：新評論；2024：108-113，113-117，197-201.
 3. 佐藤裕紀. 生涯学習支援実践講座 生涯学習コーディネーター研修テキストⅣ事業の設計とマネジメントにおけるコーディネート. 第9版. 東京：一般財団法人社会教育通信協会；2025：9-27.
- 3 論文
 1. 佐藤裕紀. フォルケホイスコーレの国際的な広がりと協働に関する近年の動向—フォルケホイスコーレ協会の戦略に焦点を当てて. 日本生涯教育学会年報（協力学術研究団体），2024；45：197-214.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本生涯教育学会（理事，事務局長），日本比較教育学会，日本国際教育学会，日本教育政策学会，日本学習社会学会，アジア比較教育学会，日本教育学会，新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本生涯教育学会総務委員
 2. 北欧教育研究会事務局
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度公民館職員専門講座（シンポジウム），ウェルビーイングの実現に向けた公民館の在り方～取組，はじめの一步～，講師（コーディネーター），文部科学省 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター，公民館職員，東京，2024.10.4.

2. 第38期社会教育委員会会議第1回会議，生涯学習，社会教育の動向，講師，新潟県生涯学習推進課，社会教育委員，新潟県庁，2024.12.19.
3. 令和6年度新潟市生涯学習センター事業 生涯学習ボランティア講座，ボランティアと生涯学習が支える個人と地域のウェルビーイング，講師，新潟市生涯学習センター，一般市民，新潟市，2025.3.21.
- 2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
 1. 新聞，教育新聞，北欧の教育最前線「デンマークらしさ」をつくる野外博物館，2024.4.12. (囲み記事)
 2. 新聞，教育新聞，北欧の教育最前線 住民自治による「民衆の公園」デンマーク，2024.6.7. (囲み記事)
 3. 新聞，教育新聞，北欧の教育最前線 オンライン教育の規制へ不登校対策の試行錯誤，2024.9.13. (囲み記事)
 4. 協会広報紙．にいがた生涯学習通信，特集：社会教育人材のネットワークの実態把握の必要性，2024.9.
- 3) 社会活動への参加協力
 1. こころほかほかあたたかい町 ミニミュンヘン 新潟，子どもが運営するまちのサポートスタッフ，実行委員，新潟市西堀ローサ，2024.10.5-10.6.
 2. 白根大風合戦実行委員会，大風を地域の方々と作成，サポート（引率を含む），新潟市白根小学校，2024.5.12.
 3. 白根大風合戦実行委員会，大風を地域の方々とあげる，サポート（引率を含む），新潟市白根地区，2024.6.9.
- 4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市社会教育委員会（議長），新潟市教育ビジョン推進委員会委員
- 5) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県生涯学習協会未来創造委員会（委員），ときわ会生涯学習を進めるグループ新しい風（スーパーバイザー）
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2023年度，科研費基盤研究（C），フォルケホイスコーレの受容と生涯学習政策の実証的考察：日韓比較を通じて，研究代表者
 2. 2023年度，科研費基盤研究（C），教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較－指導者（メンター）に着目して，研究分担者
 3. 2021年度，科研費基盤研究（B），北欧諸国における教科書の中の多様性（ダイバーシティ）の実相に関する研究，研究分担者
 - 2) 受賞，学位取得，資格取得
社会教育士（2025.3.31）
 - 3) 学外兼務講師等
 1. 新潟県立大学，特別活動の指導法，2023.10.5-11.30.
 2. 新潟県立大学，総合的な学習の時間の指導法，2023.4.13-5.11.
 3. 新潟県立吉田病院付属看護専門学校，教育学，2023.9.1-9.12.
 4. 金沢大学，総合的な学習の時間教育論，2024.6.22-6.23.
- 7 学内委員会活動 教職支援センター運営委員会（委員），高等教育推進センター運営委員会（委員），シティズンシップ教育実践研究センター（研究員）

氏名：馬場 康博

- 1 研究題目 水中での内受容感覚に関する研究，オープンウォータースイミングに関する研究（コーチング学）
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会，日本体力医学会，日本コーチング学会，日本水泳・水中運動

学会

3 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県水泳連盟，常務理事会，理事会・評議委員会，理事，長岡市，計6回，2024.4-2025.3.
2. コーチ養成講習会，OWSバイオメカニクス・各種目の力学，講師，日本水泳連盟，オープンウォータースイミングコーチ，オンライン，2024.10.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県水泳連盟・オープンウォータースイミング，2024年度新潟県水泳連盟OWS委員会，委員長，Web開催，2025.2.24.
2. 新潟県スポーツ協会，SAGA国民スポーツ大会 オープンウォータースイミング競技，新潟県監督，伊万里，2024.9.11.
3. 佐渡オープンウォータースイミング実行委員会，運営・審判長，佐渡市，2024.7.20-7.21.
4. 新潟県水泳連盟・第5回 オープンウォータースイミング特別練習会，監督，柏崎市 2024.6.8-6.9.
5. 新潟県水泳連盟・第6回 オープンウォータースイミング特別練習会，監督，阿賀町 2024.7.27.
6. 新潟県水泳連盟・第7回 オープンウォータースイミング特別練習会，監督，島見浜 2024.9.21.

4 その他の教育研究活動

1) 学内部活動の実績

1. 水泳部，競泳 第100回日本学生選手権水泳競技大会，男子 1500m自由形 本山空（3位）2024.9.6.（コーチ）
2. 水泳部，OWS 第100回日本学生選手権水泳競技大会，女子10km 永尾美友（3位）2024.10.13.（コーチ）
3. 水泳部，OWS 第100回日本学生選手権水泳競技大会，女子5km 永尾美友（4位）2024.10.14.（コーチ）
4. 水泳部，OWS 第100回日本学生選手権水泳競技大会，女子10km 八木紀香（7位）2024.10.13.（コーチ）
5. 水泳部，OWS 第100回日本学生選手権水泳競技大会，男子10km 本山空（8位）2024.10.13.（コーチ）
6. 水泳部，OWS 第100回日本学生選手権水泳競技大会，男子5km 本山空（7位）2024.10.14.（コーチ）
7. 水泳部，OWS 第100回日本学生選手権水泳競技大会，男子リレー 貫和・大畠・木下・本山（4位）2024.10.14.（コーチ）

2) 学外兼務講師等

1. 日本水泳連盟 公認コーチ養成講習会，OWSバイオメカニクス・各種目の力学，講師，2024.11.16.

5 学内委員会活動 入試委員会

氏名：池田 恵子

- 1 研究題目 親子ダンスが母親のメンタルヘルスに与える影響，ダンス作品における注視点について—熟練者と非熟練者との比較—

2 学会等研究発表

1. 池田恵子，村山敏夫. 親子ダンスの実施による脳血流量の変化—0歳児を持つ母親に焦点を当てて—，新潟県体育学会令和6年度大会（新潟市），2024.11.30.
2. 池田恵子. 親子ダンスで母親のメンタルヘルスを改善できるのか？，全国キャラバン3Questions「北信越地区編」（富山市），2024.12.7-12.10.
3. 池田恵子，村山敏夫，鯉渕翔. ダンスの熟練度によるダンス作品鑑賞時の視点の違い，第24回日本体育測定評価学会（武蔵野市），2025.3.20-3.21.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会，日本体育科教育学会，日本発育発達学会，日本体育測定評価

学会，地域デザイン学会，新潟県体育学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. MamaPapa カフェ，母親のメンタルヘルス，講師，新潟大学村山研究室，新潟市西区在住の父母，新潟市，2025.2.6.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. ラジオ，FM HEADLINE（エフエムラジオ新潟FM-NIIGATA77.5），忘れるな拉致県民集会ダンス作品創作，2024.12.13.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟医療福祉大学ダンス部，体験会，監督，新潟市・新潟医療福祉大学，2024.4.19.
2. 安野こども園，ダンス指導，指導，阿賀野市・安野こども園，2024.4.23-2025.3.14.
3. 敬和学園高校体育祭，応援団ダンス，審査員，新潟市，敬和学園高校，2024.6.8.
4. 南浜中学校，体育祭ダンス指導，監修，新潟市・南浜中学校，2024.6.14-9.11.
5. 一般社団法人にいがた北青年会議所 40周年式典，ダンス披露，指導，新潟市・菱風荘，2024.7.7.
6. 明和義人祭，蟹の手振り参加，監督，新潟市・古町5番町，2024.8.24.
7. 山倉小学校，ミュージカルダンス指導，監修，聖籠町・山倉小学校，2024.9.13-11.6.
8. 北新潟にじいろコンサート，ダンス披露，指導，新潟市・敬和学園高校チャペル，2024.9.28.
9. 下山中学校・体育祭ダンス，ダンス指導，監修，新潟市・下山中学校，2024.10.1.
10. 新潟医療福祉大学ダンス部，体験会，監督，新潟市・新潟医療福祉大学，2024.10.12.
11. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，ダンスブース，監修，新潟市・新潟医療福祉大学，2024.10.20.
12. 新潟県女子体育連盟，研修会，事務局，新潟市・新潟青陵高校，2024.10.20.
13. 山の下中学校・文化講演会，ダンス披露，監修，新潟市・新潟市民芸術文化会館，2024.10.29.
14. 村上特別支援学校・音楽鑑賞会，ダンスワークショップ，監修，村上市・村上特別支援学校，2024.11.6.
15. 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園，ダンス指導，指導，新潟市・新潟医療福祉大学，2024.11.15-12.5.
16. 忘れるな拉致県民集会，ダンス披露，指導，新潟市・新潟市民芸術文化会館，2024.11.16.
17. NUHW スキルアップキャンプ，指導・監修，新潟市・新潟医療福祉大学，2024.12.14.
18. 関川小学校・人権教育（拉致問題），ダンス披露，指導，岩船郡・関川小学校，2024.12.17.
19. 関川中学校・人権教育（拉致問題），ダンス披露，指導，岩船郡・関川中学校，2024.12.17.
20. 新発田市総合型地域スポーツクラブとらい夢，ダンス指導，監修，新発田市・カルチャーセンター，2025.1.11-2.22.
21. 新潟県女子体育連盟・第20回劇場で踊ろう！ダンスキッズ大集合！！，ダンス披露，指導，新潟市・新潟市民芸術文化会館，2025.1.12.
22. 新潟県女子体育連盟，講演会，事務局，新潟市・新潟清心高校，2025.2.23.
23. 第12回新潟医療福祉大学ダンス部公演，企画・指導，新潟市・新潟県民会館大ホール，2025.3.1.
24. カルチャーMIX フェスタ，ダンス披露，指導，新潟市・万代市民会館，2025.3.15.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟県女子体育連盟（理事長）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究（C），母子で行うペアダンスが母親の育児ストレスおよび脳血流量に与える影響，研究代表者
2. 2025年度，基盤研究（C），妊娠糖尿病妊婦の生活活動量に着眼した運動アプリの開発，研究分担者

2) 学内部活動の実績

1. ダンス部, 第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸), 大学創作コンクール部門, 特別賞(クロスカルチャーへの新しい挑戦に対して), 神戸市, 2024.8.6-8.9. (監督)
 2. ダンス部, 東京なかの国際ダンスコンペティション2024, シニア部門, 入賞5位, 東京都, 2024.8.29. (監督)
 3. ダンス部, 第43回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール, 群舞部門, 最優秀群舞賞(第1位), 秋田市, 2024.12.7-12.8. (監督)
 4. ダンス部, 第42回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール, 群舞部門, 入賞(第7位), 秋田市, 2024.12.7-12.8. (監督)
 5. ダンス部, 新潟市北区スポーツ協会, 令和6年度最優秀競技者賞(大塚, 古山), 新潟市, 2025.2.22. (監督)
 6. ダンス部, 新潟市北区スポーツ協会, 令和6年度優秀競技者賞(団体), 新潟市, 2025.2.22. (監督)
 7. ダンス部, 新潟医療福祉大学, 2024年度課外活動優秀賞(個人:大塚駿平), 新潟市, 2025.3.19. (監督)
 8. ダンス部, 新潟医療福祉大学, 2024年度課外活動優秀賞(団体), 新潟市, 2025.3.19. (監督)
- 3) 学外兼務講師等
1. 新潟大学教育学部, 体育科教材論演習A, 2024.10.2-2025.1.29.
 2. 新潟大学教育学部, 体づくり運動・ダンス, 2024.7.4-7.11.
 3. ひまわり幼児教育専門学校, 健康科学, 2024.9.1-2025.3.31.

氏名: 山本 悦史

- 1 研究題目 経済価値と社会価値の同時実現に向けたプロスポーツクラブ経営に関する研究(スポーツ経営学), ソーシャルガバナンスの形成過程におけるスポーツ組織の役割に関する研究(スポーツ社会学)
- 2 著書
 1. 中西純司・山本悦史・西原康行・川崎登志喜・田代祐子・永田秀隆・古谷武範・齊藤隆志・長谷川健司・馬場宏輝・行實鉄平. はじめて学ぶスポーツマネジメントの理論と実践. 初版. 岐阜: みらい; 2024: 28-43, 176-191.
 2. 中村祐司・行實鉄平・山本理人・山本悦史. みんなのスポーツ. 東京: 日本体育社; 2025: 21-23.
- 3 論文
 1. 本間崇教・山本悦史・島田達人. プロ野球ファーム公式戦の観戦者特性: 新規参加球団の事例から. 松本大学研究紀要. 2025: 23: 73-81. (査読あり)
 2. 山本悦史・中西純司. プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析: オフィシャルパートナー企業の意味決定プロセスに注目して. スポーツ産業学研究(協力学術研究団体). 2024: 34 (2): 81-103. (査読あり)
- 4 学会等研究発表
 1. 山本悦史. プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析: オフィシャルパートナー企業の意味決定プロセスに注目して. 全日本能率連盟・全能連マネジメント・アワード2024(東京), 2025.1.24.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本体育・スポーツ経営学会(理事), 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本スポーツ産業学会, 日本スポーツマネジメント学会, 日本経営診断学会, 組織学会, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 日本体育・スポーツ経営学会, 第1回研究報告会, 実行委員, オンライン, 2024.10.21-12.2.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. スポーツマネジメント研究, 査読委員
 2. 体育学研究, 査読委員

3. 体育・スポーツ経営学研究, 査読委員
4. 日本経営診断学会論集, 査読委員
5. 日本体育・スポーツ経営学会, 編集委員
6. 日本体育・スポーツ経営学会, 研究・国際委員
7. 日本体育・スポーツ経営学会, 第1回研究報告会, コーディネーター, オンライン, 2024.12.2.
8. 日本体育・スポーツ経営学会第48回大会, 一般発表, 座長, 神戸市, 2025.3.16.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度指導者育成プログラム研修会, スポーツと法: スポーツ事故における指導者の法的責任, 講師, NPO法人希楽々, 融合型部活動指導者・スポ少指導者・体協会員・総合型クラブ職員・教員等, 村上市生涯学習推進センター, 2024.10.29.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. WEB, Sports Business Online, プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析: オフィシャルパートナー企業の意思決定プロセスに注目して, 2024.5.9.
2. WEB, PR TIMES, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞 (FORUM8 デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
3. WEB, 日経COMPASS, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞 (FORUM8 デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
4. WEB, excite, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞 (FORUM8 デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
5. WEB, BIGLOBE ニュース, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞 (FORUM8 デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
6. WEB, PR TIMES, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.
7. WEB, 日経COMPASS, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.
8. WEB, Rakuten Infoseek News, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.
9. WEB, BIGLOBE ニュース, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.

3) 社会活動への参加協力

1. 新潟アルビレックスBC, 観戦者調査, 調査員 (代表), HARDOFF ECO スタジアム新潟, 2024.7.30.
2. 胎内DEERS, ホームゲーム運営協力, 学生ボランティア派遣・統括, 胎内市総合グラウンド陸上競技場, 2024.5.11.
3. 五泉市アーバンスポーツ施設等整備検討委員会, 委員, 五泉市, 2024.4.1-2025.3.31.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2022年度, 基盤研究 (C), プロスポーツにおけるCSV経営の普及に向けた包括的研究, 研究代表者

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

スポーツ産業学会 2024年度学会賞 (2025.2.17), 全能連マネジメント・アワード2024 アカデミック・フェロー・オブ・ザ・イヤー (2025.1.24), スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024 優秀賞 (2024.11.6), スポーツ政策学生会議2024 協賛社特別賞 (2024.10.20)

3) 学内部活動の実績

1. フットサル部, LUXPERIOR CUP 地域大学フットサルチャンピオンズリーグ2024, 7位, 日環アリーナ栃木 (宇都宮市), 2024.12.27-12.28. (顧問)
- 8 学内委員会活動 アスレティックデパートメント推進委員会 (マーケティング部長), 就職センター運営委員会 (委員), シティズンシップ教育実践研究センター (研究員)

氏名 : 西 博史

- 1 研究題目 バレーボールにおけるセッターのトス技術に関する研究, バレーボールにおけるセッターの視覚探索
- 2 論文
 1. 氏原隆・箕輪憲吾・北田豊治・長久保健太郎・西博史. バレーボール競技におけるアンフォーストエラーと心理的競技能力の関係. バレーボール研究 (日本バレーボール学会). 2024; 26巻(1): 14-22. 査読あり
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本バレーボール学会 (会員), 日本コーチング学会 (会員), 日本体育学会 (会員), 日本バイオメカニクス学会 (会員), 新潟医療福祉学会 (会員), 日本スポーツパフォーマンス学会 (会員), 日本教科教育学会 (会員), 新潟県体育学会 (会員)
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本スポーツパフォーマンス学会, スポーツパフォーマンス研究, 査読, 8.29.
- 4 社会活動
 - 1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 新聞掲載 (Web), 新潟日報, 女子・新潟医療福祉大, 磨いた組織力で狙うは3年ぶり16強 11月26日四国大と初戦, 2024.11.24.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 日本スポーツ協会, 北信越国民スポーツ, 新潟県代表コーチ, 能美市根上勤労者体育センター, 8.24.
 2. 新潟医療福祉大学バレーボール教室, 下越地区中学生へのバレーボール教室, 指導, 新潟医療福祉大学, 6.4.
 3. 新潟医療福祉大学バレーボール教室, 下越地区中学生へのバレーボール教室, 指導, 新潟医療福祉大学, 6.8.
 4. 新潟医療福祉大学バレーボール教室, 下越地区中学生へのバレーボール教室, 指導, 新潟医療福祉大学, 6.26.
 5. 北信越大学バレーボール連盟, 日本バレーボール協会C級審判員資格審査会, 審判講習会の運営およびモデルチームのコーディネート, 9.14-9.15.
 6. 新潟医療福祉大学バレーボール教室, 新潟県の小学生へバレーボール教室の開催, 運営および指導, 新潟医療福祉大学, 9.16.
 7. 新潟県小学生バレーボール連盟 ジュニアバレーボール教室, 指導者保護者対象講習会, 講師, 新潟市西川総合体育館, 11.9.
 8. 新潟医療福祉大学スポーツ振興室NUHWアカデミー, 北区中学生を対象としたバレーボール教室, 指導, 12.7.
 9. 新潟医療福祉大学バレーボール教室, 新潟県の小学生へバレーボール教室の開催, 運営および指導, 新潟医療福祉大学, 2.24.
 - 3) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
北信越大学バレーボール連盟 (副会長), 新潟県大学バレーボール連盟 (理事長), 信越大学バレーボール連盟 (理事)
- 5 学内委員会活動 国家試験資格対策委員会 (委員), 強化指定クラブ運営委員会 (委員)

氏名：越智 元太

- 1 研究題目 パフォーマンスを高めるコンディショニング法の開発，運動が認知機能に与える影響とその神経基盤，運動による脳疲労の機構と対処法の解明
- 2 論文
 1. Dat Le Cong, Sato D, Ikarashi K, Ochi G, Fujimoto T, Yamashiro K. No effect of whole-hand water flow stimulation on skill acquisition and retention during sensorimotor adaptation. *Frontiers in human neuroscience*. 2024; 18: 1398164.
 2. Ikarashi K, Sato K, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Yamashiro K. Fluctuation of fine motor skills throughout the menstrual cycle in women. *Scientific reports*. 2024; 14(1): 15079
 3. Sato M, Sasaki M, Shima T, Ikegami R, Sato D, Ochi G. Hair cortisol is a physiological indicator of training stress for female footballers. *European Journal of Applied Physiology*. 2024; 124: 3719-3728.
 4. Ochi G, Ohno K, Kuwamizu R, Yamashiro K, Fujimoto T, Ikarashi K, Kodama N, Onishi H, Sato D. Exercising with virtual reality is potentially better for the working memory and positive mood than cycling alone. *Mental Health and Physical Activity*. 2024; 27: 100641.
 5. Kasahara K, Oneyama K, Ito T, Nakamura M, Ochi G. Foam Rolling Intervention Improves Lactate Clearance After High-Intensity Exercise. *Sports*. 2024; 12(11): 303.
 6. 越智元太. 毛髪を用いた慢性ストレス評価法. *Medical Science Digest*. 2024; 12月号 50(14): 30-31.
- 3 学会等研究発表
 1. Masuto R, Nuruki A, Nobe T, Tsukada T, Ikarashi K, Nuruki H, Yamashiro K, Ochi G, Fujimoto T, Sato D. Retrieval inhibition during sensorimotor consolidation modulates memory retention. *FENS Forum 2024 (ウィーン・オーストリア)*, 2024.6.29.
 2. Ikarashi K, Sato D, Anazawa S, Fujimoto T, Ochi G, Yamashiro K. Inhibitory control for food throughout the menstrual cycle. *FENS Forum 2024 (ウィーン・オーストリア)*, 2024.6.29.
 3. Nuruki A, Sato D, Nobe T, Tsukada T, Nuruki H, Ikarashi K, Ochi G, Fujimoto T, Yamashiro K. Enhancing Motor Skill Consolidation through Retrieval Suppression: Development of an Overlearning System in Motor Learning. *The SICE Festival 2024 with Annual Conference (高知・日本)*, 2024.8.30.
 4. 須崎友馬, 土橋康平, 鏡味卓也, 佐藤大輔, 山代幸哉, 越智元太, 五十嵐小雪, 藤本知臣. 低酸素かつ高二酸化炭素に対する換気応答と最大息止め時間の関係. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀・日本), 2024.9.4.
 5. 福山夏未, 卷瀧泰輝, 五十嵐小雪, 越智元太, 山代幸哉, 佐藤大輔, 藤本知臣. 皮膚へのカプサイシン塗布が局所寒冷刺激に伴う循環応答と痛み感覚に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀・日本), 2024.9.4.
 6. 卷瀧泰輝, 山代幸哉, 穴澤沙也可, 萩野由大, 藤本知臣, 越智元太, 五十嵐小雪, 佐藤大輔. 随意運動がSEPsおよびAEPsの後期活動に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀・日本), 2024.9.4.
 7. 穴澤沙也可, 山代幸哉, 卷瀧泰輝, 萩野由大, 江玉睦明, 五十嵐小雪, 藤本知臣, 越智元太, 佐藤大輔. 月経周期を考慮した性差が後期活動および反応時間に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀・日本), 2024.9.4.
 8. 五十嵐小雪, 佐藤大輔, 江玉睦明, 越智元太, 藤本知臣, 山代幸哉. 月経周期における微細運動技能の変化と月経関連症状との関連性. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀・日本), 2024.9.4.
 9. Le Cong Da, 佐藤大輔, 五十嵐小雪, 藤本知臣, 越智元太, 山代幸哉. 事前の水流刺激は感覚運動適応に影響しない. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀・日本), 2024.9.4.
 10. 藤本知臣, 高城菜々子, 五十嵐小雪, 越智元太, 山代幸哉, 佐藤大輔. 若年成人における局所温度感受性の季節変動および部位差に関する研究. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀・日本), 2024.9.4.
 11. 越智元太. 運動による認知疲労の生理機構. 第78回日本体力医学会大会 シンポジウム14 疲労脳の理解

と克服に向けた神経体力医学（佐賀・日本），2024.9.3.

12. 越智元太，永尾美友，馬場康博，藤本知臣，五十嵐小雪，山代幸哉，佐藤大輔．アスリートの脳疲労を毛髪コルチゾールが予測できるか：大学生アスリートの事例研究．第78回日本体力医学会大会（佐賀・日本），2024.9.4.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本体力医学会，日本体育・スポーツ・健康学会，新潟県体育学会，北米神経科学会，欧州スポーツ科学会，日本ウマ科学会，日本感情心理学会

5 学会等でのその他の活動

1. BMS Psychology, 査読
2. Open Access Journal of Sports Medicine, 査読
3. Scientific Reports, 査読
4. Mental Health and Physical Activity, 査読
5. European Journal of Applied Physiology, 査読
6. Games for Health Journal, 査読

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 指導者育成プログラム研修会，体力トレーニングⅡ トレーニングの種類と進め方 コンディショニング，講師，NPO法人希楽々・村上市教育委員会，地域スポーツ指導者，村上市，2024.5.14.
2. 地域クラブ指導者育成プログラム研修会，体力トレーニングⅠ 体力とは？，講師，十日町市教育委員会・NPO法人ネージュスポーツクラブ，地域スポーツ指導者，十日町市，2025.1.23.

2) 社会活動への参加協力

1. 第36回全国高等学校選抜ローイング大会実行委員会，審判・記録，運営委員，浜松市天竜ボート場，2025.3.20-3.22.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022，若手研究，運動による認知疲労の発生機序：キヌレニン代謝仮説の検証，研究代表者
2. 2022，基盤研究（B），脳内情報を基にした慢性疼痛アスリートの評価法と対処法の創出，研究分担者
3. 2023，明治安田厚生事業団体力医学研究所 若手研究者のための健康科学研究助成，運動による実行機能低下の神経機構の解明・脳内乳酸濃度の役割，研究代表者
4. 2023，基盤研究（C），MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用，研究分担者
5. 2023，基盤研究（C），体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発，研究分担者
6. 2024，公益財団法人JKA 2024年度公益事業振興補助事業 研究助成，毛髪を用いた女性アスリートのオーバートレーニングを予防するコンディション評価法の開発，研究代表者
7. 2024，カシオ科学振興財団 第42回研究助成，運動による実行機能低下の生理機構：末梢血乳酸がバイオマーカーとなりうるか，研究代表者

- 8 学内委員会活動 運動機能医科学研究所（研究員），学術委員会（委員），利益相反マネジメント委員会（委員），知的財産委員会（委員），動物実験委員会（委員）

氏名：針谷 美智子

- 1 研究題目 小学校体育授業における鉄棒運動の縦断的研究，小学校体育授業における運動技能水準下位児童に関する事例的研究，体育授業におけるICT機器活用による学習成果の検討

2 著書

1. 大森智子，黒須真希，阿部恵子，大川由美子，木村幸代，白川千尋，高橋洋子，栗原香菜，針谷美智子．採点規則 体操競技 女子 2025年版．日本体操協会：東京：2024：1-210.

3 論文

1. 針谷美智子, 全日本ジュニア体操競技選手権大会, 高橋秀美編, 機関紙ジュニア体操, 2024; 80・81合併号: 64-65, 47-48.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本体育・スポーツ・健康学会若手の会 (若手研究者委員会委員), 日本体育科教育学会 (編集委員), 日本スポーツ教育学会, 体育授業研究会 (編集委員), 新潟医療福祉学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本体育・スポーツ・健康学会若手の会, 第4回日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー, 実行委員会, 2024.10.1-2025.3.31.
 2. 日本体育・スポーツ・健康学会若手の会, 第5回日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー, コーディネーター, 奈良女子大学, 2025.3.14.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. 体育授業研究会, 第28回体育授業研究会岩手大会一般発表, 座長, 岩手県, 2024.8.7.

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 2024年度体操競技女子1種公認審判員伝達研修会 (義務研修会), 講師, 日本体操協会, オンデマンド, 12.28-1.31.
 2. 2024年度体操競技女子1種公認審判員カテゴリ試験, 講師, 日本体操協会, 国士舘大学, 2.22.
 3. 2024年度体操競技女子全国代表審判員研修会, 講師, 日本体操協会, 国士舘大学, 2.23.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 長岡市スポーツ協会, 第2回長岡市スポーツ推進審議会, 委員, 長岡市さいわいプラザ, 3.21.
 2. 体操天皇杯第78回全日本体操個人総合選手権, 審判員, 群馬県高崎市, 高崎アリーナ, 4.11-4.14.
 3. 第63回NHK杯, 審判員, 群馬県高崎市, 高崎アリーナ, 5.16-5.19.
 4. 第57回東日本学生体操競技選手権, 審判員, 埼玉県熊谷市, くまがやドーム, 5.25-5.26.
 5. 東京都インターハイ予選, 審判員, 東京都立川市, 東京女子体育大学, 6.16.
 6. ナショナル強化合宿 (パリオリンピック大会に向けた試技会), 審判員, 東京都北区, ナショナルトレーニングセンター, 6.26.
 7. 第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会体操競技, 審判員, 山梨県甲府市, 緑ヶ丘体育館, 7.13-7.14.
 8. 東日本ジュニア体操競技選手権大会, 審判員, 岩手県花巻市, 花巻市総合体育館, 7.23-7.26.
 9. 全日本ジュニア体操競技選手権大会, 審判員, 群馬県高崎市, 高崎アリーナ, 8.12-8.14.
 10. 第78回全日本学生体操競技選手権大会, 審判員, 鹿児島県鹿児島市, 西原商会アリーナ, 8.23-8.26.
 11. 第78回国民スポーツ大会体操競技, 審判員, 佐賀県佐賀市, SAGAアリーナ, 9.5-9.8.
 12. 第57回全日本シニア体操競技選手権大会, 審判員, 東京都立川市, アリーナ立川立飛, 9.15.
 13. 第57回全日本マスターズ体操競技選手権大会, 審判員, 東京都立川市, アリーナ立川立飛, 9.21-9.22.
 14. 関東学生新人・交流体操競技選手権大会, 審判員, 栃木県宇都宮市, 日環アリーナ, 11.2-11.3.
 15. フューチャースターズ, 審判員, 群馬県高崎市, 高崎アリーナ, 3.28-3.30.
 16. 第79回全日本体操個人総合選手権女子トライアウト (映像審査), 審判員, オンライン, 2.7.
- 3) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員
長岡市スポーツ審議会 (委員)
- 4) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
公益財団法人日本体操協会審判委員会 (体操競技女子審判部員), 東京都体操協会 (役員)
- 6) その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2022年度, 若手研究, ICT機器を活用した鉄棒運動の学習指導プログラムの構築: 逆上がりに着目して, 研究代表者
- 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟大学教育学部, 小学校体育, 2024.4.1-7.31.
- 7 学内委員会活動 教職支援センター運営委員会, 教務委員会

氏名: 佐藤 皓也

- 1 研究題目 近代日本の学生スポーツに関する研究, デジタル技術を用いた武道史研究, 武道ツーリズムに関する研究
- 2 論文
 1. 本多壮太郎, 佐藤皓也, 山田弥香, 「アダプテーションマッチ」を取り入れた剣道授業に関する研究: 中学校第3学年を対象とした実践を通して, 武道学研究. 2024; 56巻2号: 133-148. (査読あり)
 2. Sato K, Kobayashi K, Kawai R, Chang Liu. Studying Budo Student History Using Digital Technology: A Textual Comparison of the Former First High School and Third High School, Journal of Sport History. 2025; 52巻2号: 78-88. (査読あり), 印刷中
 3. 小林勝法, 佐藤皓也. 武道歌の計量テキスト分析における形態素解析辞書の選択とテキストデータ分析, 言語と文化. 2025; 37巻: 95-110. (査読あり)
 4. 佐藤皓也. 科研費実施状況報告書. 2025
- 3 学会等研究発表
 1. 小林勝法, 佐藤皓也. 武道歌の計量テキスト分析における形態素解析 辞書の選択とテキストデータの加工. 日本武道学会・日本武道学会第57回大会. 2024.9.21-9.22.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本武道学会, 日本スポーツ人類学会, 北アメリカスポーツ史学会, 日本スポーツ教育学会, 日本アプライドスポーツ科学会, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本アプライドスポーツ科学会, 編集委員, 2024.4-2025.3.
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 全国教育系大学ゼミナール (研修会・4時間), 学生剣道の日本史: 学生剣道と剣道理念の関係, 講師, 全国教育系大学剣道連盟, 教育系大学, オリンピック記念青少年総合センター, 2025.3.19.
 - 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 読売新聞, 朝日新聞, PRTIMES, 【新潟医療福祉大学】剣道部: 創部初! 高橋陸斗が個人インカレ出場決定!, 2024.5.20.
 2. 読売新聞, 朝日新聞, PRTIMES, 【新潟医療福祉大学】北信越学生剣道新人大会で個人2名が入賞, 団体3位!, 2024.12.3.
 - 3) 社会活動への参加協力
 1. 全国教育系大学剣道大会, 運営・審判, 全国教育系大学剣道連盟, 教育系大学, オリンピック記念青少年総合センター, 2025.3.20.
 - 4) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員
 全国教育系大学剣道連盟 (理事)
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023-2025年度, 若手研究, 近代日本における学生武道の実相: 質的および量的解析手法を用いた武道史研究, 佐藤皓也
 2. 2020年度, スポーツ庁 令和2年度武道等指導充実・資質向上支援事業, 中村充・廣瀬伸良, 竹澤稔裕,

中村恭子, 荻原朋子, 佐藤皓也

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

博士 (スポーツ科学, 2020.3)

3) 学内部活動の実績

1. 剣道部, 全日本学生剣道選手権大会出場 (男子1名出場), 東京, 6.29-6.30.
2. 剣道部, 北信越学生剣道新人大会: 女子個人2位・3位, 女子団体3位, 新潟, 11.24.

7 学内委員会活動 広報委員会

氏名: 奈良 梨央

1 研究題目 背泳ぎスタートに関する研究

2 著書

1. 下山好充, 奈良梨央; 田島朗 編. THE SWIMMING BOOK さあ泳ごう!. 東京. マガジンハウス; 2024: 6-23. 32-37.

3 学会等研究発表

1. 三瀬貴生, 下門洋文, 山城昌一郎, 馬場康博, 奈良梨央, 下山好充. 若年競泳選手の発育・発達過程における水中ドルフィンキック泳のキネマティクスおよび体力・運動能力の変化とキック泳速度との関係. 日本水泳・水中運動学科 (徳島県), 2024.10.4-10.6.
2. 松浦由生子, 熊澤将大, 藤本知臣, 奈良梨央, 馬場康博, 下山好充, 江玉睦明. ウェアラブルデバイスを用いた睡眠管理により女子水泳選手の自己評価による睡眠の質と月経随伴症状が改善する. 第13回日本アスレティックトレーナー学会学術大会 (愛知県), 2024.9.14-9.15.
3. Sato A, Nara R, Shimoyama S. The factors influencing on individual nutritional counseling for collegiate swimmers. The 19th International Congress of Nutrition and Dietetics 2024 (トロント・カナダ), 2024.6.12-6.14.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本水泳水中運動学会, 日本コーチング学会, 新潟医療福祉学会, NPO法人ジュース

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. モルック体験会, 運動指導, 奈良ゼミ, 小学生, 新潟医療福祉大学, 2024.6.22.
2. モルック体験会, 講師, 大形スポーツ振興会, 小学生・中学生, 大形小学校, 2024.8.6.
3. 令和6年度公認スポーツコーチングリーダー養成講習会, 講師, 公益財団法人新潟県スポーツ協会, 地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等における指導者や運営者, 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター大研修室, 2024.8.10.
4. ダイバーズ・スポーツデーさんじょう2024, スポーツ指導におけるハラスメント防止・啓発セミナー, 講師, 保護者やジュニアスポーツ指導者, 日本スポーツ協会, 三条市下田体育館, 2024.10.14.
5. モルック体験会, 運動指導, 奈良ゼミ, 小学生, 新潟医療福祉大学, 2024.10.26.
6. 令和6年度日本スポーツ協会公認コーチ等養成講習会, 共通科目III講習会, 講師, 公益財団法人日本スポーツ協会, 指導者, 両国KFC Hall & Rooms, 2024.11.2-11.4.
7. スポーツ・ハラスメント研修会, 「子どもをたちが安全・安心にスポーツを楽しめる社会をつくるために, 指導者・保護者ができることってなんだろう?」, 講師 砺波市教育委員会・公益財団法人砺波市スポーツ協会, スポーツ指導者, 砺波体育センター, 2025.2.23.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. Tarzan883号: 14-37. (マガジンハウス), 水泳 再入門, 2024.7.4.

6 その他の教育研究活動

1) 受賞, 学位取得, 資格取得

UNIVAS AWARDS, デュアルキャリア形成支援優秀取組賞 (2025.2.12)

2) 学内部活動の実績

1. 水泳部, 第100回 日本学生選手権水泳競技大会, 女子50m自由形 6位, 東京都, 2024.9.5-9.8. (コーチ)
2. 水泳部, 第100回 日本学生選手権水泳競技大会, 女子4*100mリレー 8位, 東京都, 2024.9.5-9.8. (コーチ)
3. 水泳部, 第66回 日本選手権(25m)水泳競技大会, 女子50mバタフライ 優勝, 東京都, 2024.10.19-10.20. (コーチ)
4. 水泳部, 第66回 日本選手権(25m)水泳競技大会, 男子50mバタフライ 4位, 東京都, 2024.10.19-10.20. (コーチ)
5. 水泳部, 第66回 日本選手権(25m)水泳競技大会, 女子50m自由形 6位, 東京都, 2024.10.19-10.20. (コーチ)
6. 水泳部, ジャパンオープン2024(50m), 女子50m背泳ぎ 7位, 東京都, 2024.11.29-12.1. (コーチ)
7. 水泳部, ジャパンオープン2024(50m), 女子50mバタフライ 6位, 東京都, 2024.11.29-12.1. (コーチ)
8. 水泳部, 第100回 日本選手権水泳競技大会, 男子100mバタフライ 2位, 東京都, 2025.3.20-3.23. (コーチ)
9. 水泳部, 第100回 日本選手権水泳競技大会, 女子50mバタフライ 5位, 東京都, 2025.3.20-3.23. (コーチ)

7 学内委員会活動 教務委員会, AD推進委員会, 同窓会 (ピアサポーター)

氏名: 松浦 由生子

- 1 研究題目 アスリートの外傷・障害予防に関する研究, 女性アスリートのコンディショニングに関する研究

2 論文

1. 松浦由生子, 熊澤将大, 筒井大介, 下山好充. 1回あたりの水中練習が肩関節の関節可動域・等尺性筋力・回旋筋腱板の筋厚に及ぼす影響. 水と健康医学研究会(協力学術研究団体) 26(1). (in press) (査読あり)
2. 小泉圭介, 森正一郎, 松浦由生子, 脇本茉耶. 第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)競泳日本代表チーム帯同報告. 水と健康医学研究会誌(協力学術研究団体) 26(1). (in press) (査読あり)
3. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. Journal of Athletic Training(JCR). (in press) (査読あり)
4. 藤本知臣, 原怜来, 馬場康博, 松浦由生子. オープンウォータースイマーの皮膚温度感覚特性とウェットスーツ普及のための基礎的研究. デサントスポーツ科学. 46: 2025. 193-200. (査読あり)
5. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. Orthopaedic journal of sports medicine(JCR). 2024. 12(11). (査読あり)
6. 三瀬貴生, 松浦由生子. 成長期女子競泳選手における競技パフォーマンスと体力・運動能力の変化に関する一考察. 日本アスレティックトレーニング学会誌(協力学術研究団体). 2024; 10(1) 25-32. (査読あり)
7. Matsuura Y. Reply to the Letter to the Editor concerning "Posterior deltoid shoulder tightness and greater contralateral lower limb muscle strength are associated with swimmers' shoulder pain". Journal of science and medicine in sport(JCR). 2024. 27(6) 395 (査読あり)

8. 栗木明裕, 小泉圭介, 松浦由生子, 森正一郎, 杉本啓, 糸井凜. 第20回世界水泳選手権2023福岡大会競泳競技トレーナー帯同報告. 水と健康医学研究会(協力学術研究団体), 2024; 25(1). 49-55 (査読あり)
- 3 報告書
 1. 松浦由生子. 若手研究, 競泳選手の肩関節障害の発生要因の解明, 2020-2023, 研究成果報告書, 研究代表者
- 4 学会等研究発表
 1. 松浦由生子. 理学療法士からみた女性アスリートに対する障害予防・コンディショニング. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25. 【シンポジウム】
 2. 松浦由生子. 「Youg member's meeting」. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会(新潟・日本), 2024.11.16. 【シンポジウム】
 3. 松浦由生子. 日本スポーツ理学療法学会合同シンポジウム「アスリートの腰痛予防を考える」体幹―隣接関節とのシナジーから考える腰痛予防. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会(新潟・日本), 2024.11.17. 【シンポジウム】
 4. 松浦由生子. パリオリンピック特別企画「選手はいかに戦い, メディカルはどう支えたか～水泳編～」パリ五輪で戦うための医科学連携. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会(新潟・日本), 2024.11.17. 【特別講演】
 5. 松浦由生子. 女性アスリートのコンディショニングとスポーツ傷害. 日本スポーツ整形外科学会2024, 2024.9.13. 【教育講演】
 6. 松浦由生子, 熊澤将大, 藤本知臣, 奈良梨央, 馬場康博, 下山好充, 江玉睦明. ウェアラブルデバイスを用いた睡眠管理により女子水泳選手の睡眠の質と月経随伴症状が改善する. 第13回日本アスレティックトレーニング学会学術大会(愛知・日本), 2024.9.15.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本整形外科スポーツ医学会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本理学療法士協会, 日本スポーツ理学療法学会(代議員, 研究推進委員会 委員), 日本水泳・水中運動学会, 日本アスレティックトレーニング学会(編集委員), 新潟県体育学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 日本スポーツ理学療法学会, 第11回日本スポーツ理学療法学会, 演題登録部門, 横浜, 活動期間 2024.1.1-2025.4.
 2. 日本スポーツ理学療法学会, 第12回日本スポーツ理学療法学会, 総務部, 副部門長, 北海道, 活動期間 2024.12-現在
 3. 日本スポーツ理学療法学会, 第13回日本スポーツ理学療法学会, 総務部, 部門長, 広島, 活動期間 2025.3-現在
- 6 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 埼玉県水泳連盟, 水泳指導員資格更新研修, Women's Health Project, 講師, 競泳コーチ, 埼玉県上尾市, 2024.9.29.
 2. 新潟県水泳連盟, 水泳指導員資格更新研修, Women's Health Project, 講師, 競泳コーチ, 新潟県長岡市, 2024.11.3.
 3. 2024年度水泳コーチ4 必修研修会, メディカルコンディショニング, 講師, 日本水泳連盟競技力向上コーチ委員会, 水泳コーチ, 講師, オンデマンド, 2024.10.1-11.30.
 4. 日本スポーツ協会/日本水泳連盟 公認水泳コーチ4 競泳 必修研修会, 日本水泳連盟, 競泳 トレーナーの知識, 講師, オンライン, 2024.11.24.
 5. 2024年度水泳競技メディカルサポートミーティング, パリオリンピック帯同報告, 日本水泳トレーナー会議, 講師, ナショナルトレーニングセンター, 東京都北区, 2024.11.9.
 6. 日本スポーツ理学療法学会 第4回臨床研究支援セミナー, 肘関節の理学療法, 実行委員, 理学療法士,

オンデマンド, 2024.6.23.

7. 日本スポーツ理学療法学会 第5回臨床研究支援セミナー, 股関節の理学療法, 実行委員, 理学療法士, オンデマンド, 2025.2.16.
8. 新発田市総合型地域スポーツクラブとらい夢職員研修会, 支えるスポーツ, 新発田市総合型地域スポーツクラブ, 講師, 新発田市五十公野公園陸上競技場本部室, 新発田市, 2025.2.28.
9. 2024年度日本水泳トレーナー会議基礎研修会, 水泳選手の肩関節障害, (公財)日本水泳連盟医事委員会連携組織 日本水泳トレーナー会議, 講師, スポーツ健康医療専門学校, 東京都, 2025.3.8.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 新聞オンライン, 新潟日報, バリ五輪水泳・縁の下の新潟県人 新潟医療福祉大学講師・競泳支援スタッフの松浦由生子さん, 2024.7.14. (囲み記事)
2. 新聞, 新潟日報, バリ五輪競泳支援スタッフの松浦由生子さん, 2024.7.4. (囲み記事)

3) 社会活動への参加協力

1. パリオリンピック日本代表強化合宿, コンディショニング, アスレティックトレーナー, 東京都北区, 2025.5.8-5.10.
2. フランス カネ ヨーロッパグランプリサーキット, コンディショニング, 競泳日本代表トレーナー, フランス, 2025.5.17-5.24.
3. スペイン バルセロナ ヨーロッパグランプリサーキット, コンディショニング, 競泳日本代表トレーナー, スペイン, 2025.5.26-5.29.
4. モナコ ヨーロッパグランプリサーキット, コンディショニング, 競泳日本代表トレーナー, モナコ, 2025.6.2-6.5.
5. 日本水泳連盟, パリオリンピック日本代表合宿, トレーニング指導, 競泳日本代表トレーナー, フランス 7.11-7.19.
6. 日本水泳連盟, パリオリンピック競泳日本代表選手団, フランス パリ 7.19-8.6.
7. 日本水泳連盟, インターナショナル選手強化合宿, 競泳日本代表トレーナー, 長野, 東御市, 2024.12.19-12.23.

4) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員

日本水泳連盟 医事委員, 日本水泳トレーナー会議(副代表), 日本水泳連盟 Women's Health Project for Japanese Swimmers 委員

5) 職能団体(協会, 士会等)の委員

日本スポーツ理学療法学会 研究推進委員会 委員, 日本アスレティックトレーニング学会 編集委員会 委員, 日本スポーツ理学療法学会 代議員

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2023年度, 基盤研究(B), 月経随伴症状としての腰痛の発生メカニズム解明と対処法の開発, 研究代表者

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

専門理学療法士(スポーツ), (2025.2.26)

3) 学外兼務講師等

1. 早稲田大学 スポーツ科学部, スポーツ英語「水泳」, 2024.10.1-2025.3.31.

8 学内委員会活動 学生委員会, 交通安全委員会, アスリートサポート研究センター, SPRIN-NQSAP プロジェクトメンバー

氏名: 藤本 知臣

- 1 研究題目 寒冷環境下での体温調節反応とその調節メカニズムに関する研究, オープンウォータースイミング競技の安全性およびパフォーマンス向上のための生理学的研究, 暑熱環境下における体温上昇時のヒトの

2 論文

1. Le Cong D, Sato D, Ikarashi K, Ochi G, Fujimoto T, Yamashiro K. No effect of whole-hand water flow stimulation on skill acquisition and retention during sensorimotor adaptation. *Front Hum Neurosci*. 18:1398164, 2024. doi: 10.3389/fnhum.2024.1398164
2. Ikarashi K, Sato D, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Yamashiro K. Fluctuation of fine motor skills throughout the menstrual cycle in women. *Sci Rep*. 14(1): 15079, 2024. doi: 10.1038/s41598-024-65823-6
3. Sato D, Ikarashi K, Nakajima F, Fujimoto T. Novel Methodology for Identifying the Occurrence of Ovulation by Estimating Core Body Temperature During Sleeping: Validity and Effectiveness Study. *JMIR Form Res*. 8: e55834, 2024. doi: 10.2196/55834
4. Fujii N, Igarashi Y, Ishii Y, Ito E, Lai YF, Tanabe Y, Fujimoto T, Ogawa K, Nabekura Y, Hiroshima T, Nishiyasu T. Menthol alleviates post-race elevations in muscle soreness and metabolic and respiratory stress during running. *Eur J Appl Physiol*. 124(8): 2473-2487, 2024. doi: 10.1007/s00421-024-05463-w
5. Ochi G, Ohno K, Kuwamizu R, Yamashiro K, Fujimoto T, Ikarashi K, Kodama N, Onishi H, Sato D. Exercising with virtual reality is potentially better for the working memory and positive mood than cycling alone. *Mental Health and Physical Activity*, 27: 100641. <https://doi.org/10.1016/j.mhpa.2024.100641>
6. Hattori R, Kajiki M, Fujimoto T, Amano T, Kenny GP, Watanabe K, Nishiyasu T, Fujii N. TRPA1 channels modulate cutaneous vasodilation during exercise in the heat in young adults when NOS is inhibited. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*. 328(3): R319-R328, 2025. doi: 10.1152/ajpregu.00269.2024
7. Lei TH, Wei X, Wang F, Chen J, Goulding R, Cotter J, Lee JKW, Tan B, Amano T, Fujimoto T, Fujii N, Kondo N, Mündel T. The effect of hypohydration before and different rehydration strategies after severe intensity exercise on post-exercise hypotension in men. *Eur J Appl Physiol*. 2025(Online ahead of Print). doi: 10.1007/s00421-025-05728-y
8. Matsutake R, Fujimoto T, Ichinose M, Watanabe K, Fujii N, Nishiyasu T. The blood flow and vascular responses in dynamically exercising skeletal muscles evoked by combination of cold stimulation and voluntary apnea in humans. *Eur J Appl Physiol*. 125(4): 1179-1190, 2025. doi: 10.1007/s00421-024-05643-8

3 報告書

1. 藤本知臣. 科研費 若手研究, 運動時低体温症の解決を目指した体温調節メカニズムの解明-皮膚血管収縮に着目して-, 終了報告書, 2023-2024, 研究代表者

4 学会等研究発表

1. Fujimoto T, Takagi N, Ikarashi K, Ochi G, Yamashiro K, Sato D. Sex Differences in Seasonal Variations in Local Skin Thermal Sensitivity and its Relationship to Body Composition in Young Adults. The 20th International Conference on Environmental Ergonomics (Jeju Island, South Korea). 2024.6.3-6.7. (ポスター)
2. Fujimoto T, Hattori R, Watanabe K, Fujii N. Effect of ANO1 inhibition on cutaneous vasoconstrictor response to local cooling, cold pressor test, and venous occlusion. ARIHHP Human High Performance Forum 2025 (Ibaraki, Japan). 2025.2.28-3.1. (ポスター)
3. 藤本知臣, 高城菜々子, 五十嵐小雪, 越智元太, 山代幸哉, 佐藤大輔. 若年成人における局所温度感受性の季節変動および部位差に関する研究. 第78回日本体力医学学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4. (ポスター)
4. 藤本知臣, 後藤小太郎, 北野侑, 須崎友馬, 松浦由生子. 息止めを伴う Warm-up が 200m 泳を模した 2

分間の高強度運動パフォーマンスに及ぼす影響. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会（徳島）.
2024.10.5-10.6.

5 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本体力医学会, 日本コーチング学会, 日本水泳・水中運動学会, 米国生理学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本水泳水中運動学会, 総務, 2022.10-現在に至る
 2. 日本水泳水中運動学会, 学会運営委員会, 2023.2-現在に至る
 3. 日本コーチング学会, 編集委員, 2025.2-現在に至る

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 島根トップコーチ育成事業, ハイパフォーマンスのための生理学～基礎と応用に関する話題提供～, 講師, 島根県環境生活部スポーツ振興課, 島根県庁・市役所職員および島根県教員など, Zoom開催, 2024.6.20.
 2. 2024年度日本健康運動指導士会 新潟県支部研修会, 体温調節の基礎と運動時における熱中症の予防・対策, 講師, 日本健康運動指導士会, メディアシップ新潟, 2024.6.29.
 3. 熊谷高校 スポーツ文化講演会, ハイパフォーマンスを支える身体の仕組み～運動生理学の重要性を知ろう～, 講師, 埼玉県立熊谷高等学校, 生徒および教職員, 2024.7.16.
 4. 自衛隊体育学校 第22回体育セミナー, 運動・訓練中の熱中症を防ぐためには?～体温生理学の基礎と予防法の提案～, 講師, 自衛隊体育学校, 自衛隊員, 2025.3.11.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 一般雑誌, スイミングマガジン2024年5月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第2回 W-upにおける筋温/ラストスパートの極意」, 2024.4.
 2. 一般雑誌, スイミングマガジン2024年6月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第3回 練習中の身体の冷え/ラスト50mで潜って勝つ!」, 2024.5.
 3. 一般雑誌, スイミングマガジン2024年7月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第4回 OBLAってなに? 生理学の指標を練習で活かす!」, 2024.6.
 4. 一般雑誌, スイミングマガジン2024年8月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第5回 女子選手の『生理』の基礎知識とパフォーマンス」, 2024.7.
 5. 一般雑誌, スイミングマガジン2024年9月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第6回 デイトレーニングによる損失は知識と工夫しだい!」, 2024.8.
 6. 一般雑誌, スイミングマガジン2024年12月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第7回 クロストレーニングを活用して持久力アップ!」, 2024.11.
 7. 一般雑誌, スイミングマガジン2025年2月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第8回 ウワサの『呼吸筋トレーニング』を科学する!」, 2025.1.
 8. 一般雑誌, スイミングマガジン2025年3月号 (ベースボールマガジン社), 「学んで生かす運動生理学 Season 2 第9回 必要不可欠な『有酸素トレーニング』を深掘り!」, 2025.2.
 9. 一般雑誌, スイミングライフ8月号 (インターナショナルスイミングスクール), 「選手・コーチに役立つスポーツ科学～息止めの生理学～」, 2024.8.
- 3) 社会活動への参加協力
 1. オーシャンズカップ2024, OWS日本代表の生理データ測定およびフィードバック, 千葉県館山市, 2024.6.15-6.16.
 2. 2024年OWS日本選手権, OWS日本代表の生理データ測定およびフィードバック, 千葉県館山市, 2024.10.28-10.29.
- 4) 公的機関（官公庁等）の審議会, 委員会等の委員

公益財団法人 日本水泳連盟 オープンウォータースイミング委員会（委員），公益財団法人 日本水泳連盟 科学委員会（委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023-2025年度，科学研究費 若手研究，運動時低体温症の解決を目指した体温調節メカニズムの解明 -皮膚血管収縮に着目して-，研究代表者
2. 2024年度，筑波大学 ARIHHP 共同利用・共同研究公募事業，寒冷負荷時の末梢血管収縮に対する温度感受性TRPチャネルの役割の解明，研究代表者

8 学内委員会活動 広報委員会（情報発信部会長），運動機能医科学研究所（所員・広報担当），NQSAP企画・運営メンバー（融合研究演習グループ長）

氏名：柿原 豪

報告事項なし

氏名：小林 真里奈

1 研究題目 バスケットボール競技の競技動作に関する研究，バスケットボール競技のコーチングについての研究

2 論文

1. Kikumoto T, Kobayashi M, Omori G, Kubo M. Single-legged landing behavior of high school basketball players with chronic ankle instability. Journal of Bodywork and Movement Therapies. 2024; 39: 454-462 (review)

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本バスケットボール学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー新潟市中体連指導者セミナー，スポーツ障害の防止と成長期スポーツ選手のセルフチェック等，講師，新潟市中体連，中学校部活動指導者，地域スポーツ団体指導者，新潟市，2024.5.31.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，バスケットボール新潟選手権・新潟医療福祉大が男女とも優勝，男子は10年ぶり・女子は2年ぶり 全日本選手権の出場権獲得，2024.7.21.（WEB掲載有）
2. 新聞，新潟日報，新潟医療福祉大，男女とも初戦で敗退，2024.9.14.（WEB掲載有）
3. 新聞，スポニチ，29日開幕インカレバスケ，医福大グループステージ初突破だ，2024.11.23.（WEB掲載有）
4. 新聞，新潟日報，男子の新潟経営大，女子は新潟医療福祉大，新潟青陵大が全国に挑戦！フィジカルを強化 女子・新潟医福大，2024.11.26.（WEB掲載有）
5. 新聞，日刊スポーツ，新潟医療福祉大スーパーサブの奥谷真央バスケ生活集大成をインカレで飾る，2024.11.28.（WEB掲載有）
6. 新聞，新潟日報，女子グループステージ初戦 新潟医療福祉大は勝利，2024.11.29.（囲み記事）
7. 新聞，新潟日報，新潟医療福祉大がトーナメント進出決定，2024.12.2.（囲み記事）

3) 社会活動への参加協力

1. しなの薬局・新潟中央ヤクルト販売（株）小学生ミニバスケットボールクリニック，バスケットボール指導と栄養指導，講師，新潟医療福祉大学第3体育館，2025.2.1.
2. 学生たちが運営・指導するバスケットボール教室，学生補助，豊栄バスケットボール協会共催，小・中学生，新潟医療福祉大学第3体育館，毎月2回開催.

3. TEAM KITAバスケットボールクラブ, 学生補助, 新潟医療福祉大学第3体育館, 2025.1.15-3.12. (毎週水曜日) 継続中
- 4) 職能団体(協会, 士会等)の委員
北信越大学バスケットボール連盟(理事), 新潟県バスケットボール協会(成年女子監督)
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 学外兼務講師等
 1. 女子バスケットボール部, 第2回全日本大学バスケットボール新人戦(新人インカレ)出場, 北海道, 2024.7.7-7.10. (監督)
 2. 女子バスケットボール部, 第91回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会出場, 三重県, 2024.9.13-9.15 (監督)
 3. 女子バスケットボール部, 第76全日本大学選手権(インカレ)グループリーグ突破, 東京, 2024.11.28-12.4. (監督)
- 6 学内委員会活動 アスレティックデパートメント推進 修学・支援部会

氏名：柴田 篤志

- 1 研究題目 助走を用いた片脚跳躍における踏切に関する研究, 跳躍競技者の競技発達に関する研究
- 2 論文
 1. 杉浦澄美・柴田篤志・景行崇文・小山宏之. 日本一流男子走高跳競技者における踏切動作のキネマティクスの特徴. 陸上競技研究紀要. 2025; 20: 127-133.
 2. 柴田篤志・杉浦澄美・景行崇文・小山宏之. 2024年日本陸上競技選手権大会における男子三段跳上位入賞者のキネマティクスの特徴. 陸上競技研究紀要. 2025; 20: 134-140.
 3. 杉浦澄美・柴田篤志・景行崇文・小山宏之. 日本一流女子走高跳競技者における踏切動作のキネマティクスの特徴. 陸上競技研究紀要. 2025; 20: 141-146.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本陸上競技学会, 日本コーチング学会, International Society of Biomechanics in Sports, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 体育学研究, 査読
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度陸上競技種目別技術講習会, 講師, 新潟県陸上競技協会, デンカビッグスワンスタジアム, 2024.8.20.
 2. 令和6年度新潟県冬季選抜合宿(高校生対象), 指導者, 新潟陸上競技協会, デンカビッグスワンスタジアム, 2024.12.26-12.28.
 3. 令和6年度指導者育成プログラム研修会, 講師, NPO法人希楽々・村上市教育委員会, 村上市生涯学習推進センター, 2024.10.22.
 - 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 新聞掲載, 中日新聞, 学業と両立, 大学陸上・十種競技で日本一 高山出身の田中さん, 2024.10.2.
 2. 雑誌掲載, 陸上競技マガジン11月号, 男子投てき・十種競技 新潟医療福祉大が男子3種目を制覇, 2024.10.11.
 3. 雑誌掲載, 月刊陸上競技, 新潟医療福祉大が男子総合8位 砲丸投, 円盤投, 十種競技の3種目制覇, 2024.10.11.
 4. 雑誌掲載, Standard新潟, 新潟から未来を創れ Standard Eye 陸上・十種競技 田中廉治郎, 2025.2.8.
 - 3) 社会活動への参加協力

1. 日本陸上競技連盟科学委員会, セイコーゴールデングラプリ陸上2024科学サポート, 協力スタッフ, 国立競技場, 2024.5.19.
 2. 日本陸上競技連盟科学委員会, 第107回日本選手権における科学サポート, 協力スタッフ, デンカビックスワンスタジアム, 2024.6.27-6.30.
 3. 新潟県陸上競技協会, 北信越高等学校陸上競技選手権大会における科学データの測定とフィードバック, 科学委員, デンカビックスワンスタジアム, 2024.6.13-6.16.
 4. 第54回新潟医療福祉大学記録会, 主催者・大会運営, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.4.13.
 5. 第55回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.5.4-5.5.
 6. 第56回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.6.5.
 7. 第58回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.7.20-7.21.
 8. 第59回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.9.7.
 9. 第60回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.10.12-10.13.
 10. 第61回新潟医療福祉大学記録会, 主催者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.11.2-11.3.
 11. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ, 指導者, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.10.20.
 12. NUHWアカデミーSkil up camp, 主催者・運営, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.11.16.
 13. 新潟県競技水準向上対策事業第78回国スポ強化事業三次強化練習会, 指導補助, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.9.14-9.15.
 14. 新潟県競技水準向上対策事業第78回国スポ強化事業四次強化練習会, 指導補助, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.10.5-10.6.
 15. 第3回新潟市中学校合同練習会, 共催・指導サポート, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.2.15.
 16. 第4回新潟市中学校合同練習会, 共催・指導学生の補助, 新潟医療福祉大学陸上競技場, 2024.2.22.
- 5 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2022年度, 科研費基盤研究（C）, 児童期での助走を用いた片脚跳躍における踏切能力の発達過程の解明, 研究代表者
 2. 2024年度, 科研費基盤研究（C）, 投擲事故を未然に防ぐ新たなトレーニング用具の開発と普及, 研究分担者
 3. 2024年度, 日本コーチング学会 コーチング学に関する研究助成（一般）, 跳躍競技者を対象とした片脚での下肢力発揮能力のモニタリングによるコーチング実践, 研究代表者
 - 2) 学内部活動の実績
 1. 陸上競技部, 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会, 男子十種競技, 優勝, 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム, 2024.9.20-9.21.（コーチ）
 2. 陸上競技部, 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会, 男子走高跳, 5位, 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム, 2024.9.22.（コーチ）
 3. 陸上競技部, 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会, 男子総合の部, 8位, 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム, 2023.9.19-9.22.（コーチ）
 4. 陸上競技部, 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会, 男子フィールドの部, 4位, 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム, 2023.9.19-9.22.（コーチ）
 5. 陸上競技部, 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会, 男子混成競技の部, 2位, 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム, 2023.9.19-9.22.（コーチ）
 6. 陸上競技部, 天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会, 男子多種目優勝, 2位, 神奈川・Uvanceとどろきスタジアム, 2023.9.19-9.22.（コーチ）
- 6 学内委員会活動 教務委員会

氏名：森清 友亮

- 1 研究題目 変形性膝関節症病態解明に関する研究，乳児股関節形成不全の画像評価に関する研究，跳躍型疲労骨折の破壊と骨形態に関する研究

2 論文

1. 古賀寛，大森豪，村上玲子，森清友亮，川島寛之．新型コロナウイルスパンデミックが小学生の骨折発生に与えた影響 2020．日本小児整形外科学会雑誌（協力学術団体）．2024; 33(3): S122.（査読あり）
2. 古賀寛，村上玲子，森清友亮，川島寛之．地域医療 新潟県の乳児股関節検診．新潟県医師会報．2024; 893: 14-17.（査読あり）
3. 青木一磨，林智彦，渡邊聡，林豊彦，齋藤大寛，齊藤将，森清友亮，古賀良生，大森豪，小林公一．成長期における跳躍型疲労骨折に係る脛骨の彎曲と皮質骨厚の3次元評価．臨床バイオメカニクス（協力学術団体）．2024; 45, 60-66.（査読あり）
4. 田中正栄，古賀寛，渡邊博史，森清友亮，西野勝敏，望月友晴，大森豪，古賀良生．変形性膝関節症X線進行度の経時的大腿骨・脛骨関節面線角度変化に関する疫学要因の検討 進行期における膝伸展筋力の重要性．臨床バイオメカニクス（協力学術団体）．2024; 45, 54-59.（査読あり）
5. 渡邊博史，田中正栄，森隆裕，古賀寛，望月友晴，大森豪，森清友亮，古賀良生．変形性膝関節症におけるX線進行度評価の経時的角度変化 内反変化の初期に脛骨骨軸傾斜角，後期に関節開き角が寄与．臨床バイオメカニクス（協力学術団体）．2024; 45, 1-8.（査読あり）

3 学会等研究発表

1. 石井義人，長江恒樹，坂信，亀田剛，坂上勇太，森清友亮，小林公一，坂井幸子，遠藤英昭，平元和彦．コーンビームCTとモーションキャプチャを併用した個別口腔内座標系による顎運動計測システムの開発．第51回日本臨床バイオメカニクス学会（箕面市）2024.11.1-11.2.
2. 齋藤大寛，林智彦，渡邊聡，林豊彦，齊藤将，佐藤卓，大森豪，小林公一，森清友亮，坂本信．成長期における跳躍型疲労骨折に係る脛骨のねじれと曲がりの3次元評価．第51回日本臨床バイオメカニクス学会（箕面市）2024.11.1-11.2.
3. 田中正栄，渡邊博史，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，坂上勇太，大森豪，古賀良生．変形性膝関節症におけるX線進行度評価の経時的角度変化～脛骨関節面の水平化指標ついて～．第51回日本臨床バイオメカニクス学会（箕面市）2024.11.1-11.2.
4. 渡邊博史，田中正栄，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，坂上勇太，大森豪，古賀良生．立位膝前後X線所見定量解析による変形性膝関節症進行予測～長期疫学調査の分析～．第51回日本臨床バイオメカニクス学会（箕面市）2024.11.1-11.2.
5. 長江恒樹，石井義人，坂本信，亀田剛，坂上勇太，森清友亮，小林公一，平元和彦．個別の口腔内座標系におけるモーションキャプチャを用いた新たな三次元顎運動トラッキング方法．日本実験力学会 2024年度年次講演会（米沢市），2024.9.17-9.19.
6. 古賀寛，大森豪，村上玲子，森清友亮，川島寛之．新型コロナウイルスパンデミックが小学生の骨折発生に与えた影響 2020．第35回日本小児整形外科学会学術集会（福岡市），2024.12.13-12.14.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本機械学会，日本臨床スポーツ学会，日本実験力学会，日本生体医工学会，日本臨床バイオメカニクス学会

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 北信越学生アーチェリー連盟審判講習会，審判の役割と心得，審判員講習および実務指導，北信越学生アーチェリー連盟，大学生，黒部市ふれあい交流館 あこやへの，黒部市健康スポーツプラザ，2024.3.19-3.20.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県アーチェリー協会，理事，競技部長，競技会運営，審判，普及活動等，新潟県，2024.4.1-

2025.3.31.

2. 新潟市アーチェリー協会, 理事長, 競技会運営, 審判, 普及活動等, 新潟市, 2024.4.1-2025.3.31.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度, 科研費基盤研究（C）, 発育性股関節形成不全のエコー診断を補助する三次元画像解析技術の開発, 研究分担者
2. 2023年度, 科研費基盤研究（B）, 月経随伴症状としての腰痛の発生メカニズム解明と対処法の開発, 研究分担者
3. 2024年度, 若手研究, 超音波断層画像再構成による発育性股関節形成不全3Dモデル作成法開発と検証, 研究代表者

2) 受賞, 学位取得, 資格取得

全日本アーチェリー連盟公認1級審判員（2024.6）

3) 学内部活動の実績

1. アーチェリー部 インカレ出場（2名）第22回全日本学生室内アーチェリー個人選手権大会
2. アーチェリー部 インカレ出場（2名）第62回全日本学生アーチェリー個人選手権大会

7 学内委員会活動 IR戦略委員会

氏名：並木 伸賢

1 研究題目 アスリートのキャリア支援方略の検討, ネットワークアプローチを用いたアスリートのコンディショニング方法の検討

2 論文

1. 八斗啓悟, 清水登大, 上田寛, 並木伸賢. ネットワークアプローチを用いたアスリートに愛する個別最適なコンディショニングサポートの可能性. スポーツ心理学研究（JCR・協力学術研究団体）.（査読あり）.（印刷中）.

3 学会等研究発表

1. 並木伸賢. 元アスリートが就業時に発揮する強み・弱みのイメージについての予備的検討. 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会（福岡・オンライン）. 2024.8.30.
2. 並木伸賢. 大学生アスリートに対する価値の明確化を用いたキャリア支援の有効性を探る. 日本認知・行動療法学会第50回大会（横浜）. 2024.9.23.【シンポジウム】
3. 並木伸賢. 横断データに対する相関・回帰分析とネットワーク分析ーキャリア探索とキャリアレディネスの関連からー. 日本スポーツ心理学会第51回大会（広島）. 2024.9.29.【シンポジウム】

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本スポーツ心理学会, 日本スポーツパフォーマンス学会, 日本運動・スポーツ科学学会, 日本認知・行動療法学会, 日本ストレス学会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本スポーツ心理学会, 査読

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 介護教員講習会, 教育心理学, 講師, 一般社団法人新潟地域福祉協会, 介護職, 新潟市, 2024.8.24-8.25.
2. 日本健康運動指導士会研修会, 運動行動増加に活かす心理学, 講師, 日本健康運動指導士会研修会新潟県支部, 健康運動指導士等, 新潟市, 2024.11.17.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター, 競技力向上相談・メンタルサポート講師・スポーツ選手のメンタルサポート, 心理相談員, 新潟市, 2024.4.1-2025.3.31.

- 6 学内委員会活動 図書館・学習支援委員会, スポーツカウンセリング研究センター, メンタルヘルス支援室

氏名：菅原 大志

- 1 研究題目 農山村における地域生活とスポーツ活動に関する社会学的研究
- 2 学会等研究発表
 1. 菅原大志, 混住化社会におけるローカルスポーツの創出と農地管理, 日本体育・スポーツ・健康学会 (福岡市), 2024.8.29-8.31.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本スポーツ社会学会, 東北社会学会, 日本体育社会学会, 新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. とよさか中高年教養大学「健康長寿学」, 「スポーツによるまちづくり」を考える, 講師, 新潟医療福祉大学社会連携推進センター, 新潟市北区住民, 葛塚コミュニティセンター, 2024.4.25.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023年度, 科研費研究活動スタート支援, 農山村におけるスポーツ受容の機制に関する社会学的研究, 研究代表者.
- 6 学内委員会活動 安全衛生委員会, 健康管理センター運営委員会, アスレティックデパートメント推進委員会

氏名：亀岡 雅紀

- 1 研究題目 脱子どもロコモプログラムの開発, 地域資源を活用したヘルスツーリズムプログラムの開発, 子どものレジリエンスを高める野外教育プログラムの開発
- 2 学会等研究発表
 1. 亀岡雅紀, 山崎幸歩, 樺澤茉宝, 村山敏夫, 高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発する「ハンドルぐるぐる体操」の実践報告, 日本体力測定評価学会, 2025.3.21.
 2. 大澤まみ, 中島伸子, 亀岡雅紀, 大島みなみ, 大畠明佳, 小林真依, 小児の学校トイレにおける手指衛生状況の調査—学校トイレ後の手洗いに影響する心理的因子の探索およびA3法による手指衛生評価—, 日本小児保険協会学術大会, 2024.6.22.
 3. 山崎幸歩, 村山敏夫, 樺澤茉宝, 亀岡雅紀, 国際交流は幼児の記憶に残るのか—質問紙調査に基づくエピソード記憶の影響—, 日本体力測定評価学会, 2025.3.21.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本測定評価学会, 新潟県体育学会 (理事), 地域デザイン学会, 日本教育医学会, 日本保育保健学会, 日本幼少児健康教育学会 (学会誌編集委員会幹事), 日本発育発達学会, 日本体育・スポーツ・健康学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 新潟県体育学会, 新潟県体育学会令和6年度大会, 企画運営, 2024.11.30.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 新潟県体育学会理事・査読委員
 2. 日本幼少児健康教育学会学会誌編集委員会幹事
 3. 日本発育発達学会評議員
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 子どもの運動あそび出前教室, 講師, 柏崎市教育委員会スポーツ振興課, 一般市民, はらまち保育園,

2024.6.20.

2. 子どもの運動あそび出前教室，講師，柏崎市教育委員会スポーツ振興課，一般市民，とうぶ保育園，2024.7.10.
 3. 子どもの運動あそび出前教室，講師，柏崎市教育委員会スポーツ振興課，一般市民，柏崎保育園，2024.7.11.
 4. 親子で運動遊び教室，講師，柏崎市教育委員会スポーツ振興課，一般市民，柏崎市総合体育館，2024.7.27.
 5. 子どもの運動あそび出前教室，講師，柏崎市教育委員会スポーツ振興課，一般市民，にしやま保育園，2024.9.3.
 6. 指導者スキルアップ講座，子どもの発育発達，講師，三条市体育文化会館，一般市民，三条市文化会館，2024.9.7.
 7. 子どもの運動あそび出前教室，講師，柏崎市教育委員会スポーツ振興課，一般市民，北鯖石保育園，2024.10.8.
 8. 子どもの運動あそび出前教室，講師，柏崎市教育委員会スポーツ振興課，一般市民，こみの保育園，2024.10.22.
 9. ハンドルぐるぐる体操研修会，講師，栄村役場，一般市民，栄村公民館，2025.1.29.
- 2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. 朝日新聞（2024.11.17），新潟と南アフリカの園児がオンラインで交流，読み聞かせや体操楽しむ，<https://www.asahi.com/articles/ASSCJ4JHLSCJUOHB007M.html>
 2. 佐渡テレビ（2024.12.13）
 3. 新潟日報デジタルプラス（2024.12.13），暗いなあとと思う前に！早めのライト点灯を！ 新潟県佐渡市の畑野小児童らがドライバーに呼びかけ，https://www.niigata-nippo.co.jp/articles/-/525309?fbclid=IwY2xjawK4PH9leHRuA2FlbQIxMQBicmlkETFXdXFwMkx0UldoNHBXYmE2AR54SIoJSUELw1molzgxnZD8chDTXe7XuqrzjXrIcrqoSpVmN62uc_qsFWtRTw_aem_djk7w4o8oJ7JaJvwYqdwSQ#:~:text=%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%88%E7%82%B9%E7%81%AF%E3%82%92%EF%BC%81-,%E6%96%B0%E6%BD%9F%E7%9C%8C%E4%BD%90%E6%B8%A1%E5%B8%82,-%E3%81%AE%E7%95%91%E9%87%8E%E5%B0%8F%E5%85%90%E7%AB%A5%E3%82%89%E3%81%8C
- 3) 社会活動への参加協力
1. イキイキ運動教室，高齢者運動教室，運営サポート，新潟医療福祉大学，2024.5.21.
 2. スッキリ運動教室，高齢者運動教室，運営サポート，新潟医療福祉大学，2024.5.28.
 3. イキイキ運動教室，高齢者運動教室，運営サポート，新潟医療福祉大学，2024.6.4.
 4. スッキリ運動教室，高齢者運動教室，運営サポート，新潟医療福祉大学，2024.6.11.
 5. イキイキ運動教室，高齢者運動教室，運営サポート，新潟医療福祉大学，2024.6.18.
 6. スッキリ運動教室，高齢者運動教室，運営サポート，新潟医療福祉大学，2024.6.25.
 7. 荻川小学校ふれあいスクール，運営サポート，荻川小学校，2024.6.5.
 8. 小中学生スキースクール，スキースクールの企画等，ニューグリーンピア津南，運営サポート，2024.12.26-12.28.
 9. 親子キャンプスクール，親子のキャンプスクールの運営，スタッフ，海辺の森キャンプ場，2024.10.12-10.13.
 10. 長野県栄村小滝集落の普請，村内清掃ボランティア，2024.11.17.
 11. 思いやりライト運動2024年秋の交通安全運動，講師，2024.11.3.
 12. 新潟海さくら，ビーチクリーン，海岸清掃ボランティア，2024.6.8.
 13. 柏崎市運動能力測定会，講師，2024.9.28.
 14. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，運営サポート，2024.11.20.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員

関西学院大学人間福祉学部研究会（外部査読委員）、海辺の森ボランティア制度運営委員会（委員）、海辺の森評価委員会（委員）、新潟県野外教育研究会（理事）、新潟県キャンプ協会（理事）、海辺の森交流拡大委員会（委員）

5) 職能団体（協会、士会等）の委員

子どものからだと心・研究会議In新潟事務局（事務局長）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度、科研費若手研究、幼児の運動器の機能を向上させ異変を防ぐ運動プログラムの開発、研究代表者

2) 受賞、学位取得、資格取得

受賞・第13回厚生労働省健康寿命を延ばそうアワード生活習慣予防分野、スポーツ庁長官賞、楽しく運動で交通安全！「ハンドルぐるぐる体操」で創るゼロフェイタリティな社会、2024.11.29.

3) 学内部活動の実績

1. アルティメット部scarlet副顧問
2. アウトドア部顧問

4) 学外兼務講師等

1. 新潟産業大学、日本語Ⅱ（発表・討論）；日本語Ⅳ（企画・立案）；日本語Ⅴ（プレゼンテーション）、2024.4-2025.3.
2. 新潟大学、健康スポーツ科学実習Ⅱ（トレーニング）、2024.10-2025.2.

6 学内委員会活動 中央教育センター運営委員会、高等教育推進センター運営委員会

氏名：岡本 優美

1 研究題目 女性の熱放散反応特性に関する研究

2 論文

1. Oshima S, Okamoto Y, Otsuka J, Yokoyama S, Hashimoto Y, Ishihara T, Togo H, Amano T. The index of maximum sweat ion reabsorption rates of sweat glands does not correlate to whole-body sweat sodium concentration in exercising young healthy men. American journal of physiology. Regulatory, integrative and comparative physiology. 2025; 328(1): 102-108. (review)
2. Okamoto Y, Otsuka J, Amano T. Partial involvement of nitric oxide synthase in increased pilocarpine-induced sweating in exercise-trained men. Applied Physiology, Nutrition, and Metabolism. 2025; 50: 1-4. (review)
3. Yokoyama S, Arita K, Oshima S, Otsuka J, Okamoto Y, Kato H, Tazawa S, Hirai S, Kajiwarra Y, Kunimasa Y, Amano T. Running economy with shoes that elicit an involuntary forefoot strike in the habitual rear and non-rear foot strike runners. Footwear Science. 2025; 17(1): 1-9. (review)
4. Amano T, Sato K, Otsuka J, Okamoto Y, Takada S, Kato H, Yokoyama S, Oshima S, Hosokawa Y, Fujii N, Toby Mündel, Glen P. Kenny, Hiwa T, Inoue Y. Seasonal changes in hydration in free-living Japanese children and adolescents. Applied Physiology, Nutrition, and Metabolism 2024; 49(10): 1387-1393. (review)
5. Kato H, Okamoto Y, Otsuka J, Tajima K, Shiraishi A, Shiramoto A, Amano T. Wearing a breathable T-shirt does not affect thermoregulatory responses during exercise under hot conditions. Human Factors and Ergonomics in Manufacturing & Service Industries 2024; 34(6): 471-480. (review)
6. Otsuka J, Okamoto Y, Enoki Y, Maejima D, Fujii N, Glen P. Kenny, Toby Mündel, James D. Cotter, Amano T. Effects of ingesting beverages containing glycerol and sodium with isomaltulose or sucrose on fluid retention in young adults: a single-blind, randomized crossover trial. Applied Physiology,

Nutrition, and Metabolism 2024; 49(5): 667-679. (review)

3 学会等研究発表

1. Okamoto Y, Otsuka J, Inoue Y, Amano T. Does the menstrual cycle affect nitric oxide-dependent and -independent cutaneous vasodilation in young females?: Preliminary observations. 20th International Conference on Environmental Ergonomics (Jeju, Korea), 2024.6.2-6.7.
2. Okamoto Y, Otsuka J, Inoue Y, Amano T. Does the menstrual cycle affect nitric oxide-dependent and -independent cutaneous vasodilation in young females?: Preliminary observations. Asia Pacific Seminar of Environmental and Applied Human Sciences 2024 (Kobe, Japan), 2024.5.31-6.1.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本体力医学会（会員）

5 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，研究活動スタート支援，習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明，岡本優美

- 2) 受賞，学位取得，資格取得

博士（学術）（2025.3.24）

6 学内委員会活動 運動機能医科学研究所（所員）

5) 看護学部

(1) 看護学科

氏名：宇田 優子

- 1 研究題目 難病患者の災害への備え行動促進に関する要因，患者会活動，地域包括ケアシステム構築に関する地域看護活動の課題と検討
- 2 論文
 1. 宇田優子，石塚敏子，室岡真樹，木下直彦．診療所看護師の患者に対する災害備え指導の実施状況 脳神経内科（神経内科）を標榜する診療所看護師への郵送調査結果．日本難病看護学会誌．2024；29(3)：63-70（査読有り）
- 3 報告書
 1. 宇田優子，木下直彦，石塚敏子，桶谷涼子，土田千歳．日本学術振興会科学研究助成事業－外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発－．研究実施状況報告書．2024；1-5．（代表）
- 4 学会等研究発表
 1. Uda Y, Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Kinoshita N. Disaster Preparedness Information for Members of Associations of Patients with Intractable Diseases - The Case of Japan. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe), 2024.11.30-12.1.
 2. Tsuchida C, Oketani R, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Draft Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet" for Parkinson's Disease Patients (1).
 3. Oketani R, Tsuchida C, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: The items of non-protective reactions" for Parkinson's Disease Patients (2). The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe), 2024.11.30-12.1.
 4. Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Draft Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet" for Parkinson's Disease Patients (3). The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe), 2024.11.30-12.1.
 5. 石綿啓子，宇田優子．難病看護のやりがいに関する文献検討．第29回日本難病看護学会（静岡市），2024.8.24-8.25.
 6. 宇田優子，石塚敏子，木下直彦，桶谷涼子，土田千歳．難病患者会の組織ライフサイクル成熟状態モデリング研究の予備調査．第24回新潟医療福祉学会（新潟市），2024.10.26.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本難病看護学会（理事，編集委員会委員，難病看護師認定実行委員兼任），日本地域看護学会，日本公衆衛生看護学会，日本看護科学学会，新潟医療福祉学会，日本災害看護学会，世界災害看護学会（理事）
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第24回新潟医療福祉学会シンポジウム演者，2024.10.26.
 2. 日本難病看護学会教育推進委員会 オンラインセミナー講師 2024.12.14.
- 6 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 2024年度日本パーキンソン病友の会新潟県支部総会にて災害の備えミニ講演，新潟市，2024.5.24.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 日本難病看護学会難病看護師認定研修会，「事例検討」，グループファシリテーター・事例の評価，日本難病看護学会，看護師，オンライン開催，2025.1.19.
 - 3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟県国民保護協議会委員，新潟市亀田市民会館及び新潟市老人福祉センター福寿荘指定管理者申請者評価会議委員
 - 4) 職能団体（協会，士会等）の委員

日本私立看護系大学協議会の正会員，日本看護系大学協議会正会員（災害連携教員），新潟県大学災害支援
連携協議会メンバー，全国パーキンソン病友の会新潟県支部会員，日本ALS協会新潟県支部会員

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科学研究費（基盤C），難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング，研究代表者

8 学内委員会活動 看護実践研究センター（代表），総務会

氏名：杉田 洋子

1 研究題目 急性期領域の看護実践に関する研究，高度看護実践者の育成に関する研究

2 学会等研究発表

1. 井藤愛梨，杉田洋子，志田佑佳子．外来化学療法を受けるがん患者のQOL維持・向上を目的とした看護支援と課題・対策に関する文献研究．新潟医療福祉学会．2024.10.26.
2. 長谷川美奈，杉田洋子，志田佑佳子．自死による死別経験に対するグリーフケアの効果と必要性についての文献研究．新潟医療福祉学会．2024.10.26.
3. 水倉碩子，杉田洋子，志田佑佳子．遷延性意識障害患者の五感刺激の効果と看護ケア，介護者でも行えるケアに関する文献検討．新潟医療福祉学会．2024.10.26.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本看護管理学会，新潟看護ケア研究学会（企画運営委員），日本クリティカルケア学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 新潟県看護協会，第31回看護学会，教育委員，新潟市，2024.11.5.
 2. 新潟看護ケア研究学会，第15回学術集会，企画運営委員，新潟市，2024.10.26.

4 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 看護研究相談会，新潟県看護協会，協会員対象，新潟市，2025.3.11.
- 2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
 1. 新潟日報，2024.4.29.
- 3) 社会活動への参加協力
 1. 新潟県看護協会常任委員会，新潟市，2024.6.15.
 2. 新潟県看護協会教育委員会，看護学会の企画・準備，新潟市，新潟県看護研修センター，1回/月の定例会議
- 4) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県看護協会・学会委員

氏名：下山 博子

1 研究題目 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスケアに関する研究，がんサバイバーのヘルスリテラシーに関する研究，がんサバイバーの妊孕性への看護に関する研究，看護基礎教育におけるシミュレーション教育に関する研究

2 学会等研究発表

1. 金橋いこい，真保加奈子，下山博子．妊娠期から産後までの産後うつ病予防における看護職の役割．第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.
2. 佐野愛実，真保加奈子，下山博子．男子大学生の親性準備性と親になることへの認識に関する研究．第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.
3. 竹内優希，真保加奈子，下山博子．共働きの母親が乳幼児期に夫や家族に求める育児支援．第24回新潟

医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.

4. 新野桜子，真保加奈子，下山博子．看護系女子大学生のHPVワクチンに対する認識と意思決定に関わる要因．第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.
5. 桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第1報 新・旧カリキュラムの比較．第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会（愛媛県東温市）．2024.11.2.
6. 志田佑佳子，井村紀代子，桶谷涼子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第2報 Step1とStep2の比較．第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会（愛媛県東温市）．2024.11.2.
7. 下山博子．セッション「みんなでつくろう！働きやすい職場」令和5年度看護職員労働環境調査結果報告，令和6年度新潟県看護協会看護学会（新潟市），2024.11.5.【シンポジウム】
8. 岩野千尋，下山博子，桶谷涼子，若月亜希子，塚本康子．地域で生活する高齢者のヘルスリテラシーの実態．第44回日本看護科学学会学術集会（熊本市）．2024.12.7-12.8.
9. 桶谷涼子，下山博子，若月亜希子，岩野千尋，塚本康子．地域で生活する高齢者がんサバイバーのヘルスリテラシーの実態．第39回日本がん看護学会学術集会（札幌市）．2025.2.22-2.23.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，日本看護学教育学会，日本母性看護学会，日本家族看護学会，日本健康教育学会，日本小児保健学会，新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 新潟医療福祉学会誌，査読.

4 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 公益社団法人新潟県看護協会，WLB推進事業研修会「就労継続が可能な看護職の働き方の提案」，実行委員，新潟市・新潟看護研修センター．2024.8.23.
2. 公益社団法人新潟県看護協会，WLB推進事業研修会「看護業務の効率化，生産性を高める看護提供方式の検討」，実行委員，新潟市・新潟看護研修センター．2024.8.23.

2) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益社団法人新潟県看護協会（労働環境改善推進委員）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，科研費基盤研究（C），がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成，研究分担者.

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校看護学科，母性看護学概論，2024.4.1-9.30.

6 学内委員会活動 安全衛生委員会（委員長），入試委員会

氏名：渡邊 千春

- 1 研究題目 外来薬物療法を受ける患者からの電話相談に関する研究，がんサバイバー支援に関する研究，終末期・エンド・オブ・ライフケアに関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 渡邊千春，内山渉，小栗妙子，西原康行．外来薬物療法を受けるがん患者の電話相談に対する熟練看護師の対応プロセス．日本教育工学会2024秋季全国大会（第45回大会）（仙台市），2024.9.7-9.8.
 2. 小栗妙子，渡邊千春，内山渉，西原康行．慢性閉塞性肺疾患の急性増悪場面における熟練看護師の臨床判断．日本教育工学会2024秋季全国大会（第45回大会）（仙台市），2024.9.7-9.8.
 3. 桶谷涼子，小栗妙子，渡邊千春．シミュレーション演習を取り入れた高度急性期看護学実習における学修

効果の検証. 第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会(愛媛県), 2024.11.2.

4. 佐藤汐夏, 若月亜希子, 花矢鮎美, 志田佑佳子, 渡邊千春. 就労と介護による精神的負担を抱える終末期がん患者家族へ行う訪問看護師の支援. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.
5. 堀琴音, 花矢鮎美, 志田佑佳子, 渡邊千春. コロナ禍における看護師の就業継続に伴う困難と継続できた要因. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.
6. サバンジュ美智子, 桶谷涼子, 小栗妙子, 渡邊千春. 原発不明がん患者のサポーターケアに関する現状と課題. 第39回日本がん看護学会学術集会(札幌市), 2025.2.22-2.23.
7. 渡邊千春. 外来薬物療法を受けるがん患者の電話相談に対する熟練看護師の対応プロセス. 中部M-GTA研究会第8回(通算第20回研究会)研究会(金沢市), 2024.4.20.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本がん看護学会(編集委員), 日本緩和医療学会, 日本看護研究学会, 日本死の臨床研究会, 中部M-GTA研究会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第33回日本死の臨床研究会関東甲信越支部大会, プログラムの企画検討, 実行委員長, 新潟市, 2026.6.6-6.7. (開催予定)
 2. 日本がん看護学会, 査読等編集作業, 編集委員, 2023.4-2025.3.
 3. 日本がん看護学会, 第39回日本がん看護学会学術集会編集委員会主催研修会 担当, 2025.2.22.

4 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度地域看護連携強化事業 地域別研修 北区看看連携研修会, ACPについて理解を深めよう～寄り添い・つなぎ・地域住民の生活を支えるために～, ACPについて, 講師, 新潟市在宅医療・介護連携ステーション北, 看護師, 豊栄病院, 2024.7.30.
 2. 令和6年度地域看護連携強化事業 看護職研修会, 看護職だからできる意思決定支援, 講師・ファシリテーター, 新潟市在宅医療介護連携ステーション東・在宅医療・介護連携ステーション東第二, 看護師, 東区プラザ, 2024.11.29.
 3. 新潟医療福祉大学看護学科臨地実習指導者研修会, 臨地実習指導者の役割, 講師, 新潟医療福祉大学看護学科, 臨地実習指導者, 新潟医療福祉大学, 2024.8.8.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. リレーフォーライフジャパン2024新潟, 救護班の担当調整, 新潟市・新潟県スポーツ公園カナル広場, 2024.9.15-9.16.

5 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2022年度, 科研費基盤研究(C), 外来薬物療法を受けるがん患者のニーズに即した電話相談アルゴリズムの開発, 研究代表者
 2. 2024年度, 科研費基盤研究(C), がんサバイバーの妊娠・出産, 育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成, 研究分担者
 3. 2024年度, 新潟医療福祉大学学内奨励金 スタート支援研究費, 慢性心不全の急性増悪時に必要な熟練看護師の臨床判断能力(経験知)の顕在化, 研究分担者

6 学内委員会活動 教務委員, 看護実践研究センター, 身体知教育研究センター

氏名: 杉本 洋

1 研究題目 地域保健, 当事者活動, 精神保健社会学

2 論文

1. Sato M, Syahrul, Susanto T, Fithria, Hokama N, Saito R, Andi Muhammad Fiqri Muslih Djaya, Sugimoto H. Evaluation of Hand Hygiene Practices and Educational Interventions Among Indonesian

- Nursing Students: An Analysis Using ATP Wipe Tests and Hand Hygiene Checkers. *Journal of Rural Community Nursing Practice*. 2025; 3(1): 60-82. (review)
2. 和田直子, 佐々木沙織, 杉本洋. 子育てと仕事を両立する上で必要となる女性の力ー KH Coderを用いたテキストマイニングの分析. *日本健康医学雑誌*. 2024; 33(2): 208-214. (査読あり)
 3. Retnaningsih L N, Fadlilah S, Suharto A, Widaryanti R, Sugimoto H, Arifin H. Survival analysis of pregnant vs non-pregnant women patients with COVID-19: a secondary data analysis, *Pedimaternat Nursing Journal*, 2025; 11(1): 20-29. (review)
 4. Hokama N, Sato M, Seto K, Andi Muhammad Fiqri Muslih Djaya, Tamura Y, Imura K, Sugimoto H. Health Promotion in Okinawa (Japan) and Indonesia from the Perspective of Blue Zones and Healthy Longevity. *Indonesian Contemporary Nursing Journal*. 2025; 9(2): 94-96.
 5. 杉本洋. メンタルヘルス関連当事者活動を行うAさんへの支援, *臨床死生学会臨床活動報告 (オンライン・会員専用ページ掲載)*
- 3 学会等研究発表
1. Sugimoto H. Peer Activity and Community Development among Mental Health Field, 3rd Internatinal Student Conference in Conjunction with the 1st International Agronursing Seminar(Jember, online), 2024.9.25. **【Keynote speech】**
 2. Sugimoto H. Process oriented and co-creation as perspectives in public health policy, Halu Oleo International Conference on Public Health (HOICPH) (kendari, online), 2024.9.26. **【Keynote speech】**
 3. Sugimoto H. Mental Health and Health Promotion: The Role of Process in Recovery and Community Integration. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (Swoul), 2025.2.13-2.14.
 4. Djaya A, Sugimoto H. Causes, Impacts, and Management Models of Adolescents' Mental Health in South-East Asia: A Scoping Review. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (Swoul), 2025.2.13-2.14.
 5. Djaya A, Sugimoto H. The Effectiveness of Physical Exercise to improve The Quality of Life of Individual with Diabetes Mellitus: A Systematic Review. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (Swoul), 2025.2.13-2.14.
 6. Ernawaty F, Djaya A, Sugimoto H. The health status of Japanese women who are working raising preschool-aged children. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (Swoul), 2025.2.13-2.14.
 7. 杉本洋. 地域精神保健施策におけるプロセス志向と共同創造：保健施策の動向と当事者活動からの検討. 第30回日本精神保健社会学会学術大会 (オンライン), 2024.11.23.
 8. 外間直樹, 早川貴紀, 佐藤真由美, 杉本洋. 6つの就労支援継続B型事業所のピアサポート活動従事者に対して支援を行っている専門職の認識. 第30回日本精神保健社会学会学術大会 (オンライン), 2024.11.23.
 9. Kurebayashi Y, Sugimoto H. Is self-kindness associated with sleep mediated by basic need atisfaction?. 20th congress of the WPA(Bangkok), 2024.10.9-10.11.
 10. Sugimoto H. Resuming Peer Activities: Understanding the Continuity Process of Performance Activities by People with Illnesses. The 8th World Academy of Nursing Science Congress (the 8th WANS) in conjunction with The 5th International Conference of the Indonesian National Nurses Association (the 5th ICINNA) (Lombok), 2024.8.21-8.22.
 11. Sugimoto H, Murakami S. Enhancing Community: The Role of Clinics in Community Development and Psychiatric Care. The 8th World Academy of Nursing Science Congress (the 8th WANS) in conjunction with The 5th International Conference of the Indonesian National Nurses Association (the 5th ICINNA) (Lombok), 2024.8.21-8.22.

12. Sato M, Saito R, Susanto T, Syahrul, Djaya A, Fithria, Sugimoto H. Adenosine Triphosphate Wipe Tests and Handwash Checks among Nursing Students in Indonesia. The 8th World Academy of Nursing Science Congress (the 8th WANS) in conjunction with The 5th International Conference of the Indonesian National Nurses Association (the 5th ICINNA) (Lombok), 2024.8.21-8.22.
13. 村上成文, 杉本洋. 地域における医療はいかにして実践されるのか：精神科医A氏のライフストーリーから. 日本仏教看護・ビハラー学会第20回年次大会（京都），2024.6.23.
14. 杉本洋, 村上成文. 精神科クリニックが開催する祭りの効用. 日本保健医療社会学会第50回大会（船橋），2024.6.23.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本精神保健社会学会（理事），日本保健医療行動科学会，日本仏教看護・ビハラー学会，日本産業看護学会，共創学会，日本文化人類学会，日本保健医療社会学会，日本健康教育学会，文化看護学会，日本ヘルスプロモーション学会，アートミーツケア学会，日本臨床死生学会，日本ウーマンズヘルス学会，日本公衆衛生学会，日本健康医学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 新潟医療福祉学会誌査読
 2. 日本健康教育学会誌査読
 3. メンタルヘルスの社会学査読
 4. 日本産業看護学会第14回学術集会企画運営委員（事務局長），2024.10.1-
 5. 第56回（2025年度）日本看護学会学術集会抄録選考委員
 6. 第8回まるはち人類学研究会（中部人類学談話会第270回例会），コメンテーター，金沢，2025.3.9.
 7. 第30回日本精神保健社会学会学術大会・総会 研究発表司会 2024.11.23.

5 社会活動

- 1) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
 1. 日本精神保健社会学会ニュースレター，当事者活動と表現と精神保健社会学（理事の現場から）（執筆），81号，6-7. 2014.7.15.
- 2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
新潟市介護保険事業等運営委員会（委員長）

6 学内委員会活動 大学院教育研究環境委員会，シティズンシップ教育実践研究センター

氏名：天賀谷 隆

報告事項なし

氏名：山口 久美子

- 1 研究題目 職場環境，離職，人材育成，病床管理，組織運営
- 2 論文
 1. 山口久美子，田中芳幸，上田理恵，草刈由美子. スタッフ看護師と管理者（看護師長，主任）の病棟運営の認識と職場環境の関係. 日本医療経営学会誌. 2024; 18(1): 67-77.（査読あり）
 2. 鈴木佳世子，田中芳幸，山口久美子. レベル0インシデントにおける看護師の報告行動 属性と医療安全風土との関係. 日本医療経営学会誌. 2024; 18(1): 79-90.（査読あり）
- 3 学会活動
 - 1) 学会等でのその他の活動
 1. 第24回栃木看護学会学術集会，基調講演，座長，宇都宮市，2024.11.30.
- 4 社会活動
 - 1) 職能団体（協会，士会等）の委員
公益社団法人 栃木県看護協会 副会長，公益社団法人 栃木県看護協会 看護研究倫理審査委員

5 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 獨協医科大学看護学部, 看護管理 (看護管理と経営), 2024.4.25.
2. イムス医療従事者生涯教育センター, 2024年度認定看護管理者教育過程ファーストレベル 組織管理論 I 組織マネジメント概論, 2024.6.23.
3. 獨協医科大学大学院看護学研究科, 感染看護学特論Ⅲ (感染症専門看護師の基盤), 2024.11.19.

氏名: 石塚 敏子

1 研究題目 災害看護, 看護学実習, 反省的实践

2 論文

1. 宇田優子, 石塚敏子, 室岡真樹, 木下直彦. 診療所看護師の患者に対する災害備え指導の実施状況 脳神経内科 (神経内科) を標榜する診療所看護師への郵送調査結果. 日本難病看護学会誌. 2024; 29(3): 63-70 (査読有り)

3 報告書

1. 宇田優子, 石塚敏子, 桶谷涼子, 土田千歳, 木下直彦. 外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発 - 神経難病患者対象日本学術振興会研究成果報告書, 2019-2023, 研究分担者

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会, 日本看護技術学会, 日本災害看護学会, 日本看護シミュレーション学会, 日本難病看護学会, 新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. Uda Y, Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Kinoshita N. Disaster Preparedness Information for Members of Associations of Patients with Intractable Diseases - The Case of Japan. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe), 2024.11.30-12.1.
2. Tsuchida C, Oketani R, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Draft Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet" for Parkinson's Disease Patients (1).
3. Oketani R, Tsuchida C, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: The items of non-protective reactions" for Parkinson's Disease Patients (2). The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe), 2024.11.30-12.1.
4. Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Draft Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet" for Parkinson's Disease Patients (3). The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (Kobe), 2024.11.30-12.1.
5. 石綿啓子, 宇田優子. 難病看護のやりがいに関する文献検討. 第29回日本難病看護学会 (静岡市), 2024.8.24-8.25.
6. 宇田優子, 石塚敏子, 木下直彦, 桶谷涼子, 土田千歳. 難病患者会の組織ライフサイクル成熟状態モデリング研究の予備調査. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟市), 2024.10.26.

5 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県看護系大学等災害支援連携協議会委員, オンライン, 2024.6.18, 2025.3.
2. 日本看護系大学協議会災害支援対策委員会委員 2024.11.1, 2025.3.4.
3. 全国パーキン病友の会新潟県支部集会, バザー運営補助, 新潟市, 2024.9.1.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2019年度, 科研費基盤 (C) 看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発 - 神経難病患者対象, 研究分担者

7 学内委員会活動 高等教育推進センター委員会

氏名：小林 房代

- 1 研究題目 ミクロネシア連邦ポンペイ州における生活習慣病対策に関する研究, ミクロネシア連邦ポンペイ州における包括的学校保健に関する研究, ミクロネシア連邦における看護教育に関する研究

2 論文

1. Luong Thi Hai Yen, Kinoshita N, Namizuka A, Minagawa R, Takano K, Kobayashi F, Fukai K, Ishigami K, Takiguchi T. Comparison of environment and attitudes toward childbirth and childcare of women living in the lowest- and highest-TFR (total fertility rate) areas in Japan: synergy analyses of quantitative and qualitative data. Niigata Journal of Health and welfare. 2024; 23(2): 45-64. (review)
2. Mizumoto K, Kobayashi F. Project Report: Introduction of a Weight Control Program for Obesity Prevention in Pohnpei, Federated State of Micronesia. People and Culture in Oceania, 2023, 39; 43-60. (review)
3. Takano K, Kinoshita N, Osabe C, Minagawa R, Kudo Y, Ihara T, Zhenghao Yan, Abe H, Thi Ha Le, Kobayashi F, Watarai Y, Ishiwata K, Fukai K, Takiguchi T. Analysis of Time-Series Variation Patterns of Total Fertility Rate for the Last 20 Years (2000-2020) in 335 Secondary Medical Areas in Japan and its Association with Social Status of Women. Niigata Journal of Health and welfare. 2024; 23(2): 45-64. (review)

3 学会等研究発表

1. 伊藤陽菜, 小林房代. 看護学生のコミュニケーション・スキルに関する研究－ENDCOREを用いて－. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
2. 丸山晃矢, 小林房代. 在宅酸素療養者に対して, 歩行補助用品による姿勢の変化でもたらされる効果を看護の視点で評価する. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
3. 佐藤日向葵, 小林房代. レスパイトケア利用を促進する要因に関する研究. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
4. 山賀友代, 小林房代. 十日町市松代地域の高齢男性を対象とした地域コミュニティ活動への参加の現状－フォーカスグループディスカッションを用いて－. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
5. 星野葵衣, 小林房代. 外国人看護師の定着率を上げるための要因に関する文献. 検討第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
6. 大武久美子, 小林房代. ミクロネシア連邦の看護教育カリキュラムに関する研究－日本と米国との比較－. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
7. 村山潤, 青木麻莉亜, 久保雅義, 小林房代, 瀧口徹. ボリビア多民族国における HIV/AIDS 患者増加の要因分析と対策について. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
8. 青木麻莉亜, 村山潤, 木下直彦, 小林房代, 瀧口徹. アフリカ・ジブチ共和国の地域格差の現状と課題. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.28.
9. 小林房代, 大武久美子. ミクロネシア連邦における看護教育の実践. 第39回日本国際保健医療学会学術大会・グローバルヘルス合同大会2024（沖縄県糸満市）, 2024.11.16-11.17.
10. Otake K, Kobayashi F. A Study of Nursing Education in the Federated States of Micronesia: A Comparison with Japan and the United States. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars 2025 (Korea, Seoul), 2025.2.13-2.14.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本国際保健医療学会, 日本公衆衛生学会, 太平洋諸島学会, 国際地域看護研究会, 学校保健コンソーシアム, 日本ウーマンズヘルス学会, 新潟医療福祉学会
- 2) 学術集会の主催

1. 第11回太平洋諸島学会研究大会, 司会・コメンテーター, 東京都, 2024.7.6.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 夢ナビライブ2024「夢ナビ講義 研究室訪問」, 太っている方が幸せ? 大洋州の生活習慣病対策, 講師, FROMPAGE, 2024.10.20.
2. 令和6年度北区妊娠・子育てはっとステーション研修会および事例検討会, 母子の災害の備えや発災時の行動, 支援について, アドバイザー, 新潟市北区役所健康福祉課, 北区母子保健関係従事者, 豊栄地区公民館, 2024.11.12.
3. とよさか中高年教養大学 健康長寿学, ミクロネシアの生活習慣病対策, 講師, 新潟医療福祉大学, 北区在住の中高年者, 新潟市, 葛塚コミュニティセンター, 2024.11.28.
4. Inbound Students and Lecturers Niigata University of Health and Welfare 2025, General Lecture, Lifestyle-related Diseases in Japan -Specific Health Examination and Specific Health Guidance-, Hasanuddin University, Makassar, South Sulawesi, Republic of Indonesia, 2025.2.26.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県青年海外協力協会, JICA海外協力隊OB/OG会でJICAボランティア事業の紹介等, 会計, 新潟市, 4.12, 7.23, 10.12-10.13, 11.21.
2. 夏休みこどもまつり「親子であそぼうさい」, 防災教育, 体験ブース, 新潟市・こども創造センター, 2024.7.28.
3. 2024 SDGs World in NIIGATA ～新潟から世界へ発信! 平和と持続可能な社会のための祭典～ウクライナ応援企画, 主催非特定営利活動法人にいがたNGOネットワーク, JICA活動紹介, 新潟市DEKKY401, 2024.11.4.
4. 〈あそび×防災〉親子であそぼうさい, 防災教育, 体験ブース, 新潟市・こども創造センター, 2025.3.16.

6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 北里大学保健衛生専門学院保健看護科, 公衆衛生看護学方法論Ⅸ国際保健, 4.11, 4.25.
2. 北里大学保健衛生専門学院保健看護科, 国際看護学総論, 1.7, 1.14, 1.23, 2.4.

7 学内委員会活動 教職支援センター運営委員会, 国際交流センター運営委員会

氏名: 山口 典子

- 1 研究題目 ART (生殖補助医療) における諸問題に関する研究, 男女の妊孕性に関する研究, プレコンセプションケアに関する研究, 女性のライフステージ各期における諸問題に対する予防行動に関する研究
- 2 著書
 1. 山口典子, 助産師基礎教育テキスト2025年版第2巻ウィメンズヘルスケア. 1版. 東京: 日本看護協会出版会; 136-154.
- 3 学会等研究発表
 1. 山口典子, 陳曦, 産褥早期までの経過が産後5から7か月の母親の産後うつに及ぼす影響. 第65回日本母性衛生学会学術集会 (宮崎市), 2024.10.18-10.19.
 2. 陳曦, 山口典子, 生後5か月から7か月の子どもを育てる母親の疲労感と産後うつとの関連. 第26回日本母性看護学会学術集会 (明石市), 2024.6.16.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本生殖医学会, 日本メンズヘルス医学会, 日本女性医学学会, 日本看護科学学会, 日本母性衛生学会, 日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本生殖心理学会, 日本がん・生殖医療学会, 日本不妊カウンセリング学会, 日本生殖看護学会, 日本遺伝看護学会, 北日本看護学会, 新潟母性衛生学会, 日本スポーツ救護看護学会, 新潟医療福祉学会, 新潟母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会

2) 学術集会の主催

1. 新潟スポーツ医科学コンソーシアム事業「スポーツ救護ナース（NSMSC）認定制度」企画運営委員（2024.10.5-10.6）

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本助産学会誌，査読委員，2024.4.1-2025.3.31.
2. 日本母性看護学会誌，査読委員，2024.4.1-2025.3.31.
3. 新潟医療福祉学会誌，査読委員，2024.4.1-2025.3.31.
4. 第27回日本母性看護学会学術集会，査読委員，2024.12.1-2025.3.31.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度看護学生公衆衛生・在宅・母性看護学実習指導者研修会，実習指導の実際（母性看護学・助産学），講師，新潟県保健福祉部主催，新潟県内産婦人科勤務の助産師・看護師，Zoomでのオンライン開催，2023.11.12.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県助産師会（教育委員）・妊産婦・新生児・乳幼児等支援者研修会，研修会，ハイブリット（新潟医療人育成センター&zoom），2024.4.20.
2. 新潟県助産師会（教育委員）・母乳育児支援学習会，研修会，ハイブリット（新潟医療人育成センター&zoom），2024.7.6.
3. 新潟県看護協会（助産師職能委員）・生と死に寄り添う時～助産事故の当事者の信頼関係に焦点を当てた研究から今，思うこと～，助産師職能集会，新潟県看護協会，2024.6.12.
4. 新潟県看護協会（助産師職能委員）・支部代表者会議（情報交換会・地域包括ケアシステム導入状況），研修会，2024.8.27.
5. 新潟県看護協会（助産師職能委員）・帝王切開を受ける女性に寄り添うということ，研修会（CLoCMiP申請更新対応研修），新潟県看護協会，2024.10.2.
6. 新潟県看護協会（助産師職能委員）・周産期のグリーフケア，研修会，ハイブリット，2024.11.28.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県助産師会（教育委員）2024.4-2025.3，新潟県看護協会（助産師職能理事）2024.4-2025.3.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2020年度，科研費基盤研究（C），男性の妊孕性に関するリテラシーと血中ホルモン測定による妊孕力の実態（研究代表者）
2. 2023年度，科研費基盤研究（C），意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンスをを用いた教育プログラムの開発（研究分担者）

2) 受賞，学位取得，資格取得

日本不妊カウンセリング学会認定不妊カウンセラー認定更新（2024.7.1），新潟スポーツ医・科学コンソーシアム認定スポーツケアナース（2024.10.6）

3) 学内部活動の実績

1. ピアエデュケーション部，プレコンセプションケアをテーマとしたピアエデュケーション開催，敬和学園高等学校のぞみ寮，2024.9.17.

4) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校看護学科，母性看護学概論，2024.4.1-9.30.

7 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会（委員長），大学院入試広報委員会

氏名：山田 真衣

- 1 研究題目 てんかんをもつ子どもの保護者の服薬管理尺度の開発，てんかん児の保護者のマネジメント力定

量化を応用した自立支援プログラムの開発，障害をもつ子どもの家族支援

2 論文

1. 山田真衣，住吉智子，関奈緒，齋藤あや，坪川麻樹子．日本語版炎患児の服薬底管理質問票保護者用（The Pediatric Epilepsy Medication Self-management Questionnaire (PEMSQ) Caregiver Version）尺度の信頼性と妥当性の検討．日本衛生学雑誌．2024; 79: 1-10.（査読あり）
2. 山田真衣，住吉智子．日本語版てんかん児の服薬自己管理質問票・保護者用の信頼性と妥当性の検証．博士学位論文．2025: 1-56.（査読あり）

3 報告書

1. 山田真衣，住吉智子，基盤研究C，てんかん児の服薬アドヒアランス支援ツールの開発，研究成果報告書，2019-2023，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 山田真衣，山田恵子，坪川麻樹子，住吉智子．日本語版PEMSQ（てんかん児の服薬自己管理質問票保護者用）尺度の信頼性と妥当性の検討．第71回日本小児保健協会学術集会（札幌），2024.6.21-6.23.
2. 山田恵子，山田真衣，住吉智子．保育所保育士の小児一次救命処置の知識と自信への関連要因に関する横断研究．第71回日本小児保健協会学術集会（札幌），2024.6.21-6.23.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本小児看護学会，日本看護科学学会，日本家族看護学会，日本小児保健協会，日本看護教育学会，新潟医療福祉学会，日本衛生学会

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度，基盤研究C，てんかん児の保護者のマネジメント力定量化を応用した自立支援プログラムの開発，研究代表者
2. 2025年度，基盤研究C，バイオマーカーを用いた癇癇の客観的評価－ケアプロセスの標準化をめざして－，研究分担者

2) 受賞，学位取得，資格取得

第71回日本小児保健協会学術集会 一般演題 若手奨励賞 優秀賞（2024.6.23），保健学博士（2025.3.24）

7 学内委員会活動 新潟連携教育研究センター運営委員会（委員），高等教育推進センター委員会（委員）

氏名：和田 直子

1 研究題目 子育て期の女性の健康に関する研究

2 論文

1. 和田直子．日本産業看護学会誌編集後記．2024; 11(2): 55-55.
2. 三木明子，後藤由紀，森田理江，石塚真美，猪股久美，金子仁子，久保善子，櫻井しのぶ，廣田幸子，和田直子．日本産業看護学会研究編集委員会活動報告．
3. 和田直子，佐々木沙織，杉本洋．子育てと仕事を両立する上で必要となる女性の力-KH Coderを用いたテキストマイニング分析－．日本健康医学会誌．2024; 33(2): 208-214.

3 報告書

1. 和田直子．研究活動スタート支援，子育てと仕事の両立で母親が発揮する調整力の解明-新たな支援モデル提唱に向けて，研究実績報告書，2020-2023，研究代表者

4 学会等研究発表

1. 和田直子．子育て中の女性労働者の健康状態-定期健康診断の結果から－．第97回日本産業衛生学会学術集会，広島市，2024.5.22-5.25.
2. 辻川史恵，和田直子．虐待に関する文献のなかで父親がどのようにとりあげられているか-テキストマイニング分析－．第31回日本家族看護学会学術集会，鎌倉市，2024.9.14-9.15.
3. 後藤千恵，和田直子．妊娠糖尿病妊婦の運動に関する文献検討－テキストマイニング分析を用いて－．第

40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会，さいたま市，2024.11.22-11.23.

4. Wada N, Goto C, Sugimoto H. THE HEALTH STATUS OF JAPANESE WOMEN WHO ARE WORKING RAISING PRESCHOOL-AGED CHILDREN. INC2025EAFONS, Korea. 2025.2.13-2.14.
5. Wada N. Relationship between health checkup results and intention to retire among Japanese women who are working while raising preschool children, INC2025EAFONS, Korea, 2025.2.13-2.14.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本産業看護学会（研究編集委員），日本産業衛生学会，日本産業衛生学会産業保健看護部会，日本ウーマンズヘルス学会，日本子育て学会，日本健康医学会，新潟医療福祉学会

6 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟市北区太夫浜，介護の心構え健康教育，保健師，太夫浜地区住民，太夫浜自治会館，2025.2.21.
2. 新潟市北区太郎代，認知症予防健康教育，保健師，太郎代地区住民，太郎代自治会館，2025.2.28.
3. 新潟市北区，阿賀浜荘，介護の心構え健康教育，保健師，阿賀浜荘，2025.3.25.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

新潟市北区妊娠・子育てほっとステーション連携強化研修会（講師），新潟市江南区指定管理者評価会議（評価委員）

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟地域産業保健センター（登録保健師），日本産業看護学会（産業看護体系化WGメンバー），新潟県産業看護部会会計監査

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2022年度，基盤研究（C），子育て期の女性の就業意欲低下を防ぐ支援方策の開発－子育てと仕事の両立実現のために，和田直子

2) 学外兼務講師等

1. 新潟地域産業保健センター，産業保健指導，2024.4.1-2025.3.31.

8 学内委員会活動 科研費対策委員，FD・SD推進委員会

氏名：野中 共子

1 研究題目 高齢者施設におけるインスリン療法患者の受け入れについて

2 学会活動

- 1) 所属学会 日本慢性看護学会（評議員），日本糖尿病学会，日本糖尿病・教育看護，日本認知症予防学会

3 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

日本看護協会認定 慢性疾患看護専門看護師更新（2024年12月3回目更新，初回認定2009年12月）

氏名：栗原 弥生

1 研究題目 開学20周年を迎えた看護系大学卒業生の動向調査～ディプロマポリシーに焦点をあてて～，中規模病院の看護師のキャリア形成

2 著書

1. 栗原弥生，井上智子，窪田哲郎. 病期・病態・重症度から見た疾患別看護過程＋病態関連図. 第5版. 東京 医学書院. 2025.3 第10章 神経・筋疾患 58 脳出血・クモ膜下出血P1092～1103 脳腫瘍P1134～1145
2. 栗原弥生，井上智子，窪田哲郎. 病期・病態・重症度から見た疾患別看護過程＋病態関連図. 第5版. 東京 医学書院. 2025.3 第10章 神経・筋疾患 58 脳梗塞P1113～1124
3. 栗原弥生，井上智子，窪田哲郎. 病期・病態・重症度から見た疾患別看護過程＋病態関連図. 第5版. 東

3 学会活動

1) 所属学会 新潟医療福祉学会

氏名：外間 直樹

1 研究題目 精神障害者のピアサポート活動の現状と課題，障害児を受けいる園長の認識

2 論文

1. Sato, Tantut Susanto, Saito R, Hokama N, Andi Muhammad Fiqri Muslih D.,jaya, Sugimoto H. Evaluation of Hand Hygiene Practices and Educational Interventions Among Indonesian Nursing Students: An Analysis Using ATP Wipe Tests and Hand Hygiene Checkers. Journal of Rural Community Nursing Practice (JRCNP). 2025; 3(1): 60-82. (査読あり)
2. Hokama N, Satou M, Seto S, Antut Susanto, Andi Muhammad Fiqri Muslih Djaya, Tamura Y, Sugimoto H. Health Promotion in Okinawa (Japan) and Indonesia from the Perspective of Blue Zones and Healthy Longevity. New notification from Indonesian Contemporary Nursing Journal (ICON Journal). 2025; 9(2): 94-96.
3. 外間直樹, 天賀谷隆. 複数の分野のピアサポート活動に関する文献研究. 日本健康医学会雑誌. 2024; 33(2): 273-278. (査読あり)
4. 外間直樹, 天賀谷隆. 共起ネットワークを用いた神経難病看護に関する文献研究. 日本健康医学会雑誌. 2024; 30(4): 28-31. (査読あり)

3 学会等研究発表

1. 外間直樹, 早川貴紀, 井村紀代子. 6つの地域生活支援事業所のピアサポーターに対して支援を行っている専門職の認識. 第30回 日本精神保健社会学会学術大会・総会, 2024.11.23.
2. 井村紀代子, 早川貴紀, 外間直樹. 初めて実習を受け入れる精神科病院看護職の実態と関連要因. 第31回 日本精神科看護専門学術集会 in 山口, 2024.10.27.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本健康医学会, 日本保健医療福祉連携教育学会, 日本ヒューマンケア心理学会, 日本交流分析学会, 新潟医療福祉学会, 日本看護協会, 日本精神看護協会, 沖縄県精神看護研究会

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー「こころの健康について(動画)」, (2023-)
2. 日本精神看護協会 新潟県支部研修(三条市) テーマ「臨床で起きていることを研究につなげる」 2024.9.
3. 新潟県亀田商工会主催 経営者向け健康講座 テーマ「経営者の高齢化に伴う健康維持管理について ～心の健康を保つには～」 2024.9.
4. 東京都中野区主催 介護サービス事業所研修 テーマ「対人援助職としてのストレスマネジメント」 2024.10.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 琉球新報(地方紙), 論壇, ブルーゾーンから沖縄県の健康と長寿を考える, 2024.8.22.
2. 琉球新報(地方紙), 論壇, 会社経営者に対する心の健康対策の重要性, 2025.1.21.

3) 社会活動への参加協力

1. 日本健康医学会, 評議員 (2023.4-)
2. 日本精神看護協会, 新潟県支部, 看護研究好評係 (2024.9-)
3. 末広橋病院(精神科) 看護研究指導 (2024.4-2025.3)

6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校, 精神看護学方法論 I, 2024.5-7.

2. 国際メディカル専門学校, 精神看護学概論, 2024.9-2025.0.
 3. 国際メディカル専門学校, 看護師国家試験対策講座, 2024.11.
 4. 三条看護・医療・歯科衛生士専門学校 看護師国家試験対策講座, 2025.1.
- 7 学内委員会活動 個人情報保護委員会 (委員), 人権委員会 (委員), メンタルヘルス委員

氏名：小栗 妙子

- 1 研究題目 看護基礎教育と卒後教育の繋がりに関する研究, 熟練看護師における臨床判断能力に関する研究, 多職種連携教育に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 小栗妙子, 渡邊千春, 内山渉, 西原康行. 慢性閉塞性肺疾患の急性増悪場面における熟練看護師の臨床判断, 2024年日本教育工学会秋季大会 (仙台市), 2024.9.7-9.8.
 2. 渡邊千春, 内山渉, 小栗妙子, 西原康行. 外来薬物療法を受けるがん患者の電話相談に対する熟練看護師の対応プロセス, 2024年日本教育工学会秋季大会 (仙台市), 2024.9.7-9.8.
 3. 小栗妙子. 国内の熟練看護師における臨床判断の経験知に関する文献レビュー, 第44回日本看護科学学会学術集会 (熊本市), 2024.12.7-12.8.
 4. 寺田由紀子, 高田恵理, 小栗妙子, 黒田史彦, 元田貴子, 茅野久美. 地域包括ケア時代に看護学教育と地域をつなぎ, 仲間とつながる社会貢献活動, 日本看護学教育学会第34回学術集会 (東京都), 2024.8.19.
 5. サバンジュ美智子, 桶谷涼子, 小栗妙子, 渡邊千春. 原発不明がん患者のサポータティブケアに関する現状と課題, 日本がん看護学会学術集会 (札幌市), 2025.2.22-2.23.
 6. 後藤千恵, 池田恵子, 小栗妙子. 健康スポーツ学科教員と看護学科教員との共同による連携教育の取り組み, 第35回日本医学看護教育学会学術集会 (岡山市), 2025.3.8.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本医学看護教育学会, 日本医療シミュレーション教育学会, 日本教育工学会, 看護教育研究学会, 日本死の臨床研究会, 新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 体験型出張講座, 看護の仕事, 体験型講義, 新潟産業大学附属高校, 柏崎市, 新潟産業大学附属高校, 2024.4.15.
 2. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024にいがた, サバイバー支援啓発, 救護, 新潟市・新潟県スポーツ公園, 2024.9.15.
 3. 帝京けんこうひろばプロジェクト・親のがんを知らされた子どもの心に寄り添うコアラカフェ, サポーター, オンライン, 2025.3.16.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 新潟医療福祉大学学内奨励金 スタート支援研究費, 慢性心不全の急性増悪に必要な熟練看護師の臨床判断能力 (経験知) の顕在化, 研究代表者
- 6 学内委員会活動 新潟連携教育センター委員, 看護実践研究センター研究員, 身体知教育研究センター研究員

氏名：中澤 紀代子

- 1 研究題目 母性看護学・助産学に関する研究, 助産師教育に関する研究, シミュレーション教育に関する研究
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本母性看護学会, 日本看護科学学会, 日本シミュレーション医療教育学会, 日本看護シミュレーションラーニング学会 (代議員), 日本遺伝看護学会, 新潟医療福祉

学会，新潟母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会，新潟母乳育児をすすめる会（幹事）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本看護シミュレーションラーニング学会 代議員
2. 2024年度新潟県看護協会看護学会 査読
3. 新潟母乳育児をすすめる会（幹事）

3 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2017年度，科学研究費助成金事業 基盤C，助産師基礎教育から臨床への連動を意識した分娩後出血に関する教育プログラムの開発，研究代表者

4 学内委員会活動 図書館・学修支援委員

氏名：桶谷 涼子

1 研究題目 がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援，終末期看護学実習における学習環境，高齢がんサバイバーのヘルスリテラシー，神経難病患者の災害支援

2 報告書

1. 宇田優子，石塚敏子，桶谷涼子，土田千歳，木下直彦．外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発・神経難病患者対象日本学術振興会研究成果報告書，2019-2023，研究分担者

3 学会等研究発表

1. 宇田優子，石塚敏子，木下直彦，桶谷涼子，土田千歳．難病患者会の組織ライフサイクル成熟状態モデリング研究の予備調査．第24回新潟医療福祉学会，新潟市，2024.10.26.
2. 桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第1報 新・旧カリキュラムの比較．第12回シミュレーション医療教育学会学術大会，愛媛，2024.11.2.
3. 志田佑佳子，井村紀代子，桶谷涼子，下山博子．看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第2報 Step1とStep2の比較．第12回シミュレーション医療教育学会学術大会，愛媛，2024.11.3.
4. Tsuchida C, Oketani R, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: Threat appraisal items" for Parkinson's Disease Patients. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Kobe, 2024.11.29-12.1.
5. Oketani R, Tsuchida C, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: The items of non-protective reactions" for Parkinson's Disease Patients. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Kobe, 2024.11.29-12.1.
6. Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Uda Y, Kinoshita N. Internalizing Disaster Experiences: A Qualitative Study of Elementary School Students Affected by the Great East Japan Earthquake and the Fukushima Nuclear Accident. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Kobe, 2024.11.29-12.1.
7. 岩野千尋，下山博子，桶谷涼子，若月亜希子，塚本康子．地域で生活する高齢者のヘルスリテラシーの実態．第44回日本看護科学学会学術集会，熊本，2024.12.7-12.8.
8. 桶谷涼子，下山博子，若月亜希子，岩野千尋，塚本康子，塚本康子．地域で生活する高齢がんサバイバーのヘルスリテラシーの実態．第39回日本がん看護学会学術集会，札幌，2025.2.22-2.23.
9. サバンジュ美智子，桶谷涼子，小栗妙子，渡邊千春．原発不明がん患者のサポータティブケアに関する現状と課題．第39回日本がん看護学会学術集会，札幌，2025.2.22-2.23.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本がん看護学会，日本看護科学学会，日本災害看護学会，日本難病看護学会，日本保健医療福祉連携教育学会，日本シミュレーション医療教育学会，新潟医療福祉学会

5 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 新潟県看護系大学等災害支援連携協議会委員，定例会議，会長校，2024.6.18，2025.3.
2. 日本看護系大学協議会災害支援対策委員会，中部ブロック会議，代表校，2024.11.1，2025.3.4.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2019年度，科学研究費基盤（C），看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発・神経難病患者対象，研究分担者
2. 2024年度，科学研究費基盤（C），がんサバイバーの妊娠・出産，育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成，研究代表者
3. 2024年度，科学研究費基盤（C），難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング，研究分担者

7 学内委員会活動 広報委員

氏名：丸山 幸恵

- 1 研究題目 保健室における健康支援活動，ストレス軽減への支援，養護教諭が行う危機管理に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 金子花乃，丸山幸恵，日本における Kiva プログラム導入の有効性に関する文献検討，新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）・第24回学術集会，2024.10.26.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本学校保健学会，日本養護教諭教育学会，日本教育保健学会
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 新採用養護教諭研修，「養護教諭の職務Ⅱ」，講師，新潟県教育委員会，新採用養護教諭，新潟市新潟県立教育センター，2024.6.6.
 2. 柏崎市・刈羽支部 養護教諭研修会，「養護教諭の職務と保健室機能～校内外連携のあり方～」，講師，柏崎市・刈羽支部，養護教諭，ワークプラザ柏崎，2024.7.19.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 養護教諭の輪「ほけんしつ」，養護教諭研修，参加協力，上越市，2024.4.1-2025.3.31.
- 5 学内委員会活動 入試委員会，教職支援センター運営委員会（副委員長）

氏名：荒木 恵子

- 1 研究題目 小児看護に関する研究，小児シミュレーション教育に関する研究，看護基礎教育に関する研究
- 2 論文
 1. 荒木恵子，松井由美子，山田真衣，看護職員臨地実習指導者養成講習会受講後の指導困難感の変化について—ロールプレイを活用した体験型学習の効果に着目して—，新潟医療福祉学会誌，2025年；第24巻（3）（印刷中）（査読あり）
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，看護科学学会，日本小児看護学会，日本医学看護学教育学会，新潟小児看護研究会
- 4 学内委員会活動 同窓会・生涯学習連携推進委員会，同窓会サポーター

氏名：井村 紀代子

- 1 研究題目 精神科看護職の倫理的行動，精神科デイケアの就労支援，実習受け入れに関する研究
- 2 論文

1. Hokama N, Sato M, Kiyoka S, Andi Muhammad Fiqri Muslih Djaya, Tamura Y, Imura K, Sugimoto H. Health Promotion in Okinawa (Japan) and Indonesia from the Perspective of Blue Zones and Healthy Longevity. Indonesian Contemporary Nursing Journal. 2025; 9(2): 94-96.
- 3 学会等研究発表
 1. 井村紀代子, 早川貴紀, 外間直樹. 初めて実習を受け入れる精神科病院看護職の実態と関連要因 実習指導行動と意識・行動の変化の視点から. 第31回日本精神科看護専門学術集会. (山口県下関市・日本), 2024.10.26-10.27.
 2. 桶谷涼子, 井村紀代子, 志田佑佳子, 下山博子. 看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第1報 新・旧カリキュラムの比較. 第12回シミュレーション医療教育学会 (愛媛県東温市・日本), 2024.11.2.
 3. 志田佑佳子, 井村紀代子, 桶谷涼子, 下山博子. 看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第2報 Step1とStep3の比較. 第12回シミュレーション医療教育学会 (愛媛県東温市・日本), 2024.11.2.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本看護協会, 日本精神科看護協会, 日本看護管理学会, 日本健康医学会, 日本医療経営学会, 日本難病看護学会, 日本臨床栄養協会
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度新潟県介護施設看護職員等研修, 認知症の方への虐待・身体拘束防止について, 講師, 新潟県, 介護施設等に勤務する看護職員及び他職種職員, 新潟市 (オンライン), 2025.3.21・1日間
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 全国パーキンソン病友の会大運動会新潟県支部, 進行補助 (ボランティア), 新潟市・新潟ふれ愛プラザ, 2025.3.23.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 受賞, 学位取得, 資格取得

新潟県看護協会永年勤続表彰 (2024.6.12)
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 国際メディカル専門学校, 精神看護学方法論Ⅰ, 2024.5.20 2コマ
 2. 国際メディカル専門学校, 精神看護学概論, 2024.10.10・10.31 計4コマ, 2025.2.6・2.13 計4コマ

氏名：朝妻 美己

- 1 研究題目 看護学生を対象としたVRによる成人周手術期学習システムの開発, 終末期看護学実習における学習環境 (空間) からの学びの特徴
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本看護科学学会, 新潟看護ケア研究学会
- 3 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024にいがた, 救護班, 救護ブースでの応急処置, 新潟県新潟市, 2025.9.15.

氏名：真保 加奈子

- 1 研究題目 Current Sexual and Reproductive Health Status and Educational Needs among the Preconception Generation in Indonesia
- 2 学会等研究発表

1. 真保加奈子, 関島香代子: 20代女性がつもつ将来の「妊娠希望」と月経セルフマネジメントの関連. 第65回日本母性衛生学会発表(宮崎). 2024.
2. 新野桜子, 真保加奈子, 下山博子: 看護系女子大学生のHPVワクチンに対する認識と意思決定に関わる要因. 新潟医療福祉学会発表. 2024
3. 佐野愛実, 下山博子, 真保加奈子: 大学生の親性準備性と親になることの認識. 新潟医療福祉学会発表. 2024
4. 竹内優希, 真保加奈子, 下山博子: 共働きの母親が乳幼児期に夫や家族に求める育児支援. 新潟医療福祉学会発表. 2024
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本母性衛生学会, 日本助産学会, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 第2回新潟母性看護学・助産学・遺伝学研究会, 役員, 新潟市, 2024.11.24.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 新潟母性看護学・助産学・遺伝学研究会, 役員 2023.3-継続
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 学外兼務講師等
 1. 国際メディカル専門学校, 母性看護学概論, 2024.4.1-9.30.

氏名: 土田 千歳

- 1 研究題目 ドミニカ共和国の母子保健について
- 2 報告書
 1. 宇田優子, 石塚敏子, 桶谷涼子, 土田千歳, 木下直彦. 外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発-神経難病患者対象日本学術振興会研究成果報告書, 2019-2023, 研究分担者
- 3 学会等研究発表
 1. 土田千歳, 山口典子, 杉崎弘周. ドミニカ共和国農村部の思春期妊娠の予防におけるポジティブ・デビアンス・アプローチの実効性, Joint Congress on Global Health 2024, 糸満市, 2024.11.15-11.18.
 2. Tsuchida C, Oketani R, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: Threat appraisal items" for Parkinson's Disease Patients, The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 神戸市, 2024.11.29-12.1.
 3. Oketani R, Tsuchida C, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: The items of non-protective reactions" for Parkinson's Disease Patient, The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 神戸市, 2024.11.29-12.1.
 4. Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: Coping appraisal items" for Parkinson's Disease Patients, The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 神戸市, 2024.11.29-12.1.
 5. 宇田優子, 石塚敏子, 木下直彦, 桶谷涼子, 土田千歳. 難病患者会の組織ライフサイクル成熟状態モデリング研究の予備調査. 第24回新潟医療福祉学会(新潟市), 2024.10.26.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本国際保健医療学会, 日本看護科学学会, 新潟医療福祉学会, 日本難病看護学会
- 5 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 新潟スポーツ医科学コンソーシアム教育委員会, 新潟スポーツ救ケアナース認定講座, 企画運営・司会, 2024.10.5-10.6.
 2. <あそび×防災>親子であそぼうさい, 防災教育, 体験ブース, 新潟市・こども創造センター, 2025.3.16.

- 2) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員
スポーツ庁委託事業 新潟スポーツ医科学コンソーシアム教育委員会（委員）
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2023年度，科研費基盤研究（C），意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンスをを用いた教育プログラムの開発，研究代表者
 2. 2019年度，科研費基盤（C），看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発・神経難病患者対象，研究分担者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 北里大学保健衛生専門学院保健看護学科，国際看護学総論，1.21，1.26.

氏名：佐々木 沙織

- 1 研究題目 定年前の行政保健師が看護専門職として思い描く定年後活動とその背景
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本子ども虐待防止学会，日本公衆衛生看護学会，日本健康医学会，日本ウーマンズヘルス学会
- 3 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 新潟市北区太夫浜自治会，健康教育と健康相談，太夫浜自治会館，2025.2.20.
 2. 新潟市北区松浜老人クラブ，健康教育と健康相談，阿賀浜荘，2025.3.25.
 - 2) 職能団体（協会，士会等）の委員
新潟県看護協会新潟東支部（幹事）

氏名：サバンジュ 美智子

- 1 研究題目 原発不明がん患者に対する看護師主導型のシームレスな支援体制の構築
- 2 学会等研究発表
 1. サバンジュ美智子，桶谷涼子，小栗妙子，渡邊千春．原発不明がん患者のサポーターティブケアに関する現状と課題．第39回日本がん看護学会学術集会（札幌），2025.2.22-2.23.
 2. Murakami I, Sabancı M. Japonya' da Sağlık Sistemi ve Birinci Basamak Sağlık Hizmetleri. International primary healthcare symposium (Manisa・Turkey), 2024.5.30-6.1. 【シンポジウム】
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本緩和医療学会，日本がんサポーターティブケア学会，日本在宅医療連合学会，日本がん看護学会，新潟医療福祉学会
- 4 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 日本対がん協会，リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2024 にいがた，救護，新潟市，2024.9.14-9.15.

氏名：高橋 佳子

- 1 研究題目 Barriers and facilitators for preventing mother-to-child transmission of Trypanosoma cruzi and hepatitis B in the Gran Chaco region: a qualitative analysis using the consolidated framework for implementation research (CFIR)
- 2 論文
 1. Takahashi Y, Avila S, Correa S, et al (2024). Barriers and facilitators for preventing mother-to-child transmission of Trypanosoma cruzi and hepatitis B in the Gran Chaco region: a qualitative analysis

using the consolidated framework for implementation research (CFIR). BMC Prim. Care 25, 430 (2024).

3 学会活動

- 1) 所属学会 ICHORDS, 国際保健医療学会, 新潟医療福祉学会, 新潟小児看護研究会

氏名：辻川 史恵

- 1 研究題目 虐待に関する文献のなかで父親がどのように取り上げられているのか－テキストマイニング分析－, 地域包括支援センターの看護職が行う介護予防活動の課題に関する質的分析
- 2 学会等研究発表
 1. 辻川史恵, 和田直子. 虐待に関する文献のなかで父親がどのように取り上げられているのか－テキストマイニング分析－. 日本家族看護学会 第31回学術集会 (鎌倉市・日本), 2024.9.14-9.15.
 2. 辻川史恵, 井上智代, 成田太一. 地域包括支援センターの看護職が行う介護予防活動の課題に関する質的分析. 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会 (名古屋市・日本), 2024.1.4-1.5.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本家族看護学会
- 4 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 太郎代自治会, 健康教育, 講師, 新潟市北区太郎代・太郎代自治会館, 2025.2.28.

氏名：早川 貴紀

- 1 研究題目 精神保健におけるピアサポート活動に関する研究, 児童思春期精神科看護に関する研究, アディクションに関する研究
- 2 論文
 1. 早川貴紀, 天賀谷隆. マトリックス分析を用いた精神障害のピアサポート活動に関する文献研究. 日本健康医学会雑誌 (協力学術研究団体). 2024; 34 (3) : 70-77.
- 3 学会等研究発表
 1. 外間直樹, 早川貴紀, 佐藤真由美, 杉本洋. 6つの就労支援継続B型事業所のピアサポート活動従事者に対して支援を行っている専門職の認識. 第30回日本精神保健社会学会学術集会 (オンライン), 2024.11.23.
 2. 井村紀代子, 早川貴紀, 外間直樹. 初めて実習を受け入れる精神科病院看護職の実態と関連要因－実習指導行動と意識・行動の変化の視点から－ 第31回日本精神科看護専門学術集会 (下関市), 2024.10.27.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本精神保健看護学会, 日本アディクション看護学会, 日本こころの安全とケア学会, 日本健康医学会, 日本ヒューマンケア研究学会, 日本精神保健社会学会, 日本高度実践看護学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 日本アディクション看護学会, 日本アディクション看護学会第23回学術集会, 企画委員, 新潟市, 2024.9.18-2025.3.31.
 2. 日本アディクション看護学会, 日本アディクション看護学会第22回学術集会, 実行委員, 狭山市, 2024.6.1-12.15.
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 薬物乱用防止講演会, 薬物乱用「ダメ.ゼッタイ.」のその先は?, 講師, 新潟県立出雲崎高校, 高校生, 出雲崎町, 2024.9.30.
 2. 訪問看護従事者研修 (スキルアップ編), 虐待に関する制度と訪問看護, 講師, 新潟県看護協会, 看護

師，新潟市，2024.11.30.

6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校看護学科，精神看護方法論，2024.4.1-9.30.
2. 国際メディカル専門学校看護学科，精神看護学概論，2024.10.1-2025.3.31.

7 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会

氏名：岩野 千尋

1 研究題目 在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシー

2 学会等研究発表

1. 岩野千尋，下山博子，桶谷涼子，若月亜希子，塚本康子. 地域で生活する高齢者のヘルスリテラシーの実態，日本看護科学学会学術集会（熊本），2024.12.7-12.8.
2. 桶谷涼子，下山博子，若月亜希子，岩野千尋，塚本康子. 地域で生活する高齢がんサバイバーのヘルスリテラシーの実態，日本がん看護学会学術集会（札幌），2025.2.22-2.23.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本看護科学学会，日本在宅看護学会，日本難病看護学会，新潟医療福祉学会

4 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2023年度，研究活動スタート支援，在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシーの解明，研究代表者岩野千尋
2. 2022年度，基盤研究（C），高齢がんサバイバーがより安全に安心して生活するためのリソースモデルの開発，研究代表者塚本康子・研究分担者岩野千尋

氏名：佐藤 郁美

1 研究題目 周産期メンタルヘルス，父親のうつ，乳児応急手当，AIを用いた胎児心拍推定

2 論文

1. Sato I, Hirono Y, Shima E, Yamamoto H, Yoshihara K, Kai C, Yoshida A, Uchida F, Kodama N, Kasai S. Comparison and verification of detection accuracy for late deceleration with and without uterine contractions signals using convolutional neural networks. *Front. Physiol(JCR)*. 2025; 16: 1525266. doi: 10.3389/fphys.2025.1525266 (review)
2. Yoshida A, Sato Y, Kai C, Hirono Y, Sato I, Kasai S. Utility of osteoporosis screening based on estimation of bone mineral density using bidirectional chest radiographs with deep learning models. *Front. Med(JCR)*. 2025; 12: 1499670. doi: 10.3389/fmed.2025.1499670 (review)
3. Kai C, Irie T, Kobayashi Y, Tamori H, Kondo S, Yoshida A, Hirono Y, Sato I, Oochi K, Kasai S. Estimating the Amount of Air Inside the Stomach for Detecting Cancers on Gastric Radiographs Using Artificial Intelligence: an Observational, Cross-sectional Study. *Journal of Imaging Informatics in Medicine(JCR)*. February 14, 2025. <https://doi.org/10.1007/s10278-025-01441-6>(review)
4. Kai C, Tamori H, Ohtsuka T, Nara M, Yoshida A, Sato I, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Classifying the molecular subtype of breast cancer using vision transformer and convolutional neural network features. *Breast Cancer Res Treat(JCR)*. Published online January 22, 2025. doi:10.1007/s10549-025-07614-9(review)
5. Hirono Y, Kai C, Yoshida A, Sato I, Kodama N, Uchida F, Kasai S. Extracting fetal heart signals from Doppler using semi-supervised convolutional neural networks. *Front. Physiol(JCR)*. 2024; 15: 1293328. doi: 10.3389/fphys.2024.1293328 (review)
6. Hirono Y, Sato I, Kai C, Yoshida A, Kodama N, Uchida F, Kasai S. The Approach to Sensing the True

Fetal Heart Rate for CTG Monitoring: An Evaluation of Effectiveness of Deep Learning with Doppler Ultrasound Signals. Bioengineering(JCR). 2024; 11(7): 658. <https://doi.org/10.3390/bioengineering11070658> (review)

7. Kai C, Kondo S, Otsuka T, Yoshida A, Sato I, Futamura H, Kodama N, Kasai S. Development of a Subtraction Processing Technology for Assistance in the Comparative Interpretation of Mammograms. Diagnostics(JCR). 2024; 14(11): 1131. <https://doi.org/10.3390/diagnostics14111131> (review)
8. Kai C, Morita T, Sato I, Yoshida A, Kodama N, Kasai S. The Usefulness of the Breast Density Assessment Application Used by Breast Radiologists. Cureus(JCR). 2024; 16(6): e62560. 10.7759/cureus.62560 (review)

3 報告書

1. 佐藤郁美, 神藏貴久, 谷健太郎. 研究基盤 (C) 出産準備教室における乳児応急手当教育システムの開発と有効性の検証, 研究成果報告書, 2022-2023, 研究代表者

4 学会等研究発表

1. 廣野悠太, 清野夏汀, 佐藤郁美, 甲斐千遥, 吉田皓文, 笠井聡. 分娩監視システムへのAI実装可能性評価. 医用画像情報学会令和6年度春季(201回)大会 2025.2.15.
2. 廣野悠太, 佐藤郁美, 清野夏汀, 甲斐千遥, 吉田皓文, 笠井聡. 胎児心拍数モニタリングにおける品質判定検討-AIを用いた判定手法の評価-. 第17回ITヘルスケア学会年次学術大会 2024.8.31.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本助産学会, 日本周産期メンタルヘルス学会, 日本母性衛生学会, 日本看護科学学会, 新潟医療福祉学会

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 「令和3年厚生労働省告示第273号研修」, 講師, 公益社団法人日本診療放射線技師会, 診療放射線技師, 新潟医療福祉大学, 2024.6.1.
2. 「令和3年厚生労働省告示第273号研修」, 講師, 公益社団法人日本診療放射線技師会, 診療放射線技師, 新潟医療福祉大学, 2024.6.2.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. Podcast, The Medica AI Times, 【ゲスト: 新潟医療福祉大学 笠井研究室】シカゴからRSNA2024の熱をお届け! #8, 2024.12.10.

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2021年度, 基盤研究C, 出産準備教室における乳児応急手当教育システムの開発と有効性の検証, 研究代表者
2. 2022年度, 基盤研究C, Apple Watch用胸骨圧迫フィードバックアプリの開発とその効果の検証, 研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 国際メディカル専門学校, 母性看護学概論, 2024.7.2, 7.9.

8 学内委員会活動 広報委員会(委員), URA推進委員会(委員)

氏名: 久嶋 美和

1 研究題目 地域包括ケアシステムに関する研究

2 学会活動

- 1) 所属学会 日本看護科学学会, 新潟医療福祉学会

氏名：太田 真美

報告事項なし

氏名：花矢 鮎美

- 1 研究題目 認知症祖父母を含む家庭生活で思春期・青年期の孫が受ける影響
- 2 報告書
 1. 花矢鮎美, 宇田優子. 認知症祖父母を含む家庭生活で思春期・青年期の孫が受ける影響, 2024年度研究奨励金報告書, 2023-2025, 研究代表者
- 3 学会等研究発表
 1. 花矢鮎美, 宇田優子. 認知症祖父母と同居する思春期・青年期の孫が家庭生活上で抱える思い－1 事例のSCATによる分析－ 新潟医療福祉学会 2024.10.26.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本老年看護学会 日本臨床死生学会, 日本難病看護学会, 日本認知症ケア学会
- 5 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. まんマルシェ～はじめての一步～不登校, 投稿渋り親の会, 親子の会主催 五泉市 2024.6.30.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2024年度 研究奨励金（スタート支援研究費）, 認知症祖父母を含む家庭生活で思春期・青年期の孫が受ける影響, 花矢鮎美・宇田優子
 - 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
2025.3月 修士号（看護学）取得

氏名：田村 優喜

- 1 研究題目 看護師の終末期ケアに対する困難感とコミュニケーションスキルとの関連
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本健康医学会
- 3 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. パーキンソン病友の会 新潟県支部 学生と共にフリーマーケット補助, 寺尾公園, 2024.9.1.
 2. パーキンソン病友の会 新潟県支部 学生と共に大運動会補助, 新潟県障害者交流センター, 2025.3.23.

氏名：志田 佑佳子

- 1 研究題目 ウィメンズヘルスに関する研究, シミュレーション教育に関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 水倉碩子, 杉田洋子, 志田佑佳子. 遷延性意識障害患者の五感刺激の効果と看護ケア, 介護者でも行えるケアに関する文献調査. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.
 2. 長谷川美奈, 杉田洋子, 志田佑佳子. 自死による死別経験に対するグリーフケアの効果と必要性についての文献研究. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.
 3. 井藤愛梨, 杉田洋子, 志田佑佳子. 外来化学療法を受けるがん患者のQOL維持・向上を目的とした看護支援と課題・対策に関する文献研究. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.
 4. 佐藤汐夏, 若月亜希子, 花矢鮎美, 志田佑佳子, 渡邊千春. 就労と介護による精神的負担を抱える終末期がん患者家族へ行う訪問看護師の支援. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市）, 2024.10.26.
 5. 堀琴音, 花矢鮎美, 志田佑佳子, 渡邊千春. コロナ禍における看護師の就業継続に伴う困難と継続できた

要因. 第24回新潟医療福祉学会学術集会（新潟市），2024.10.26.

6. 桶谷涼子，井村紀代子，志田佑佳子，下山博子. 看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第1報 新・旧カリキュラムの比較. 第12回日本シミュレーション医療教育学会学術集会（東温市），2024.11.2.

7. 志田佑佳子，井村紀代子，桶谷涼子，下山博子. 看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第2報 Step1とStep2の比較. 日第12回日本シミュレーション医療教育学会学術集会（東温市），2024.11.2.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本ウーマンズヘルス学会，日本シミュレーション医療教育学会，日本母性衛生学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム「第1回新潟スポーツ救護ナース認定講座」，開催運営スタッフ，新潟スポーツ医・科学コンソーシアム，看護師・准看護師，新潟市，2024.10.5-10.6.

2) 社会活動への参加協力

1. 日本対がん協会，リレー・フォー・ライフ・ジャパン，救護班，新潟市・新潟県スポーツ公園，2024.9.15.

5 その他の教育研究活動

1) 受賞，学位取得，資格取得

SPORTS CARE NURSE（2024.10.6）

6) 心理・福祉学部

(1) 社会福祉学科

氏名：佐藤 洋

- 1 研究題目 市町村保健師が行う子ども虐待支援に関する研究, 子どもの貧困に関する研究
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本子ども虐待防止学会, 中部M-GTA研究会
- 3 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟市東地区公民館人権講座, 講師, 2024.9.21.
 - 2) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員
新潟県子どもの貧困対策推進計画検討委員会(委員), 新潟市いきいき西区ささえあいプラン推進委員会(委員長), 上越市いじめ問題再調査委員会(委員), 新潟県コロニーにいがた白岩の里第三者委員会(委員), 柏崎市民生委員推薦委員会(委員), 五泉市障がい者総合支援協議会アドバイザー

氏名：河野 聖夫

- 1 研究題目 医療ソーシャルワーカーのキャリア形成, 医療ソーシャルワーク教育(課程)における演習科目プログラムの標準化, 対人援助スーパービジョンと人材育成, スーパービジョン実践者(指導者)の育成・訓練プログラム
- 2 著書
 1. 編著・河野聖夫, 新潟県医療ソーシャルワーカー協会会員(次世代人材育成ワーキングチームほか)著, 保健医療ソーシャルワーク演習～学習テキスト&ワークシート～TRIAL版. 新潟:新潟県医療ソーシャルワーカー協会・新潟医療福祉大学;2025:3頁, 177頁(全241頁, 編集・校正を担当)
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本ケアマネジメント学会, 日本医療社会事業学会(日本医療ソーシャルワーカー協会), 大正大学社会福祉学会, 山梨社会福祉実践学会
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. GSV未来(スーパービジョンの会), 定例学習会, 講師, 未来(自主グループ), 介護支援専門員・社会福祉士ほか, 上田市, 2024.4, 21, 6.22, 8.18, 10.20, 12.15, 2025.2.16.
 2. 指導力UP学習会, 人材育成の理論と方法, 講義, 講師, 新潟県医療ソーシャルワーカー協会会員役員有志, 医療ソーシャルワーカー, 新潟市, 2024.4.19, 5.17, 6.20, 7.25, 8.21, 9.10, 9.27.
 3. 対人援助技術勉強会, スーパービジョン・スーパーバイザー養成研修, 講師, 新潟県医療ソーシャルワーカー協会, 協会員受講修了者, 新潟市, 2024.5.18, 7.20, 9.21, 11.16, 2025.1.18, 3.16.
 4. グループスーパービジョン学習会, スーパービジョンと臨床像, 講師, いいらの会, 介護支援専門員, 静岡(オンライン), 2024.6.30, 8.25, 10.13.
 5. 「えひめKUMAの会」定例会, OGSV実践・臨床像を描く, 事例検討, 講師, えひめKUMAの会, 介護支援専門員・社会福祉士等(会員), 久万高原町, 2024.8.31-9.1.
 6. 介護支援専門員研修会, スーパービジョン研修, 講義・事例演習, 講師, 須坂市地域包括支援センター地域支援係・小布施町地域包括支援センター共催, 地域包括支援センター職員, 介護支援専門員, 小布施町, 2024.8.26.
 7. (株)はあとふるあたご職場研修, スーパービジョン・事例演習, スーパーバイザー, はあとふるあたご人事部, 新潟市(オンライン), 2024.9.6, 11.25, 2025.2.18.
 8. 令和6年度相談援助技術研修, フォローアップ研修会, 講師, 岡山県地域包括・在宅介護支援センター協議会, 介護支援専門員・社会福祉士・保健師等, 岡山市, 2024.9.8.
 9. スーパービジョン研究会, season5GSV, 助言者・スーパーバイザー, 自主グループ(新潟県医療ソー

シャルワーカー協会会員有志), 医療ソーシャルワーカー・社会福祉士, 新潟市, 2024.10.19, 2025.2.15.

10. 安曇野市社会福祉協議会(居宅介護支援事業所)職員研修, スーパービジョン, 安曇野市社会福祉協議会(居宅介護支援事業所), 介護支援専門員, 安曇野市, 2024.10.21, 2025.1.20.
 11. 対人援助事例研究, 臨床像を描く会, 指導者, 海明技塾, 対人援助職者(社会福祉士, 介護支援専門員, 医療ソーシャルワーカーほか), 新潟市, 2024.11.16.
 12. 相談援助職者養成一般研修, 地域貢献事業・講師, 企画・指導, 小布施町地域包括支援センター, 役場職員, 介護支援専門員, 地域包括支援センター職員, 町内福祉専門職等, 小布施町, 2024.11.18.
 13. 新潟市地域包括支援センター阿賀北(新潟市北区)困難事例検討会, 何かひっかかりのある事例検討, 事例検討, 講師・助言者, 地域包括支援センター職員, 介護支援専門員, 新潟市, 2024.11.22.
 14. 医療ソーシャルワーカー新人研修/スーパービジョン研修, 講義・グループスーパービジョン, 講師・スーパーバイザー, 新潟県医療ソーシャルワーカー協会, 医療ソーシャルワーカー, 新潟市, 2024.12.7-12.8.
 15. 介護支援専門員等スキルアップ研修, スーパービジョンのすすめ, 講義・演習講師, 久万高原町地域包括支援センター, 管内の介護支援専門員及び相談援助職者・地域包括支援センターの職員・介護支援専門員・えひめKUMAの会の会員・その他スーパービジョンに関心のある対人援助職者, 愛媛県久万高原町, 2025.3.21-3.22.
 16. 「えひめKUMAの会」定例会, OGSV実践・臨床像を描く, 事例検討, 講師, えひめKUMAの会, 介護支援専門員・社会福祉士等(会員), 久万高原町, 2025.3.22-3.23.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
1. 月刊ケアマネジャー「ケアマネジャーの25年の歩みを振り返る Chapter3 創刊300号に寄せて」『プロフェッショナルに求められるもの』. 月刊誌3月号. 東京. 中央法規出版: 2025: p17
- 3) 社会活動への参加協力
1. スーパービジョン実践研究会, スーパーバイザー養成講座・伝承, 指導者, 新潟市, 2024.4-12, 2025.2.
 2. 新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会, 司会者/意見交換会進行, 2024.4-2025.3. (司会4, 全体進行・打ち合わせ1)
 3. 新潟県医療ソーシャルワーカー協会研修アドバイザー, 新潟市, 2024.4-2025.3.
 4. 小布施町地域包括支援センター, スーパービジョン, スーパーバイザー, 小布施町, 2024.4-2025.3.
- 4) 職能団体(協会, 士会等)の委員
- 新潟県医療ソーシャルワーカー協会(運営委員・研修アドバイザー)
- 5 学内委員会活動 人権委員会(委員長), 入試委員会

氏名: 青木 茂

- 1 研究題目 地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定プロセスに関する研究, 社会福祉協議会の組織, 運営に関する研究, 民生委員児童委員活動に関する研究, 福祉教育・ボランティア学習に関する研究, コミュニティソーシャルワーク機能に関する研究
- 2 論文
 1. 青木茂, 新潟市における地区社会福祉協議会と地域コミュニティ協議会との関係性の類型化に関する考察, 新潟大学大学院現代社会文化研究科「現代社会文化研究」. 2024年11月; No.79: 113-124.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本地域政策学会(理事, 甲信越・北陸支部事務局長), 日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 日本福祉教育・ボランティア学習学会, 日本福祉文化学会, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本地域政策学会, 第23回全国研究【京都】大会, 地域福祉計画部会, コメンテーター, 龍谷大学(京

都市), 2024.7.7.

2. 日本地域政策学会, 甲信越・北陸支部研究会, 「令和6年能登半島地震における穴水町の復旧・復興状況について」, 総合司会, 石川県穴水町, 2024.9.20.

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 湯沢町ボランティア連絡会研修会, 「みんなでつくろうあったかいまちゆざわ」の実現に向けて, 講師, 湯沢町ボランティア連絡会, 湯沢町民, 南魚沼郡湯沢町, 2024.5.17.
2. 新潟県民生委員児童委員協議会会長研修, 活動強化方策の振り返りから新たな地域共生社会づくりへの展開講師, 新潟県民生委員児童委員協議会, 民生委員児童委員, 新潟県長岡市2024.7.5. 新潟市中央区2024.7.9.
3. 新潟市地域包括支援センター上土地亀サービス開発事例検討会, アドバイザー, 地域包括支援センター上土地亀, 新潟市北区内ケアマネージャー, 新潟市北区, 2024.7.26.
4. 新潟市秋葉区地域福祉推進会議, アドバイザー, 新潟市秋葉区社会福祉協議会, 秋葉区民, 新潟市秋葉区, 2024.8.1, 8.2, 8.5.
5. 新潟県地域福祉推進セミナー, 「福祉教育と連携」, 講師・助言者, 新潟県社会福祉協議会, 新潟県内社会福祉協議会職員, 新潟県五泉市, 2024.8.29, 12.20.
6. 佐渡市ボランティア交流会, 「いきいきサロンの意義と期待される機能」, 講師, 佐渡市社会福祉協議会, 佐渡市民, 新潟県佐渡市, 2024.9.6.
7. 新潟県社会福祉士会基礎研修Ⅲ, 講師, 新潟県社会福祉士会, 社会福祉士, 新潟市中央区, 2024.9.14, 10.26.
8. 新潟県理学療法学会大会セミナー, 「超高齢社会とソーシャルワーク」, 講師, 新潟県理学療法士会, 理学療法士, 新潟県長岡市, 2024.10.27.
9. 燕市ボランティア研修会, 「ボランティアの第一歩～始めたばかりでも大丈夫講座～」, 講師, 燕市社会福祉協議会, 燕市民, 新潟県燕市, 2024.12.8.
10. 新潟市秋葉区地域福祉推進フォーラム, シンポジウムコーディネーター, 新潟市秋葉区社会福祉協議会, 新潟市秋葉区民, 新潟市秋葉区, 2024.12.15.
11. 新潟市中央区地域福祉実践研修会, シンポジウムコーディネーター, 新潟市中央区社会福祉協議会, 新潟市中央区民, 新潟市中央区, 2025.3.1.
12. 聖籠町支え合いマップづくり, アドバイザー, 聖籠町長寿支援課・聖籠町社会福祉協議会, 聖籠町民, 北蒲原郡聖籠町, 2025.3.9, 3.23.

2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 新聞, 東京新聞, 担い手不足の「民生委員」は転換期か, 身近な見守り役をどう確保?, 2024.9.22.
2. NHK総合, おはよう日本, 民生委員の担い手確保, 2024.11.27.
3. 新聞, 東京新聞, 誰がなってくれる? 「民生委員」の担い手不足 なれる条件を緩和しようと話し合った結果は, 2025.1.12.
4. 新聞, 新潟日報, 生活困窮, 介護, ひきこもり…垣根越え支援体制構築へ市がキックオフフォーラム, 2025.2.11.

3) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員

村上市地域福祉計画審議会(委員長), 村上市障がい者計画等審議会(委員長), 新潟市南区地域福祉アクションプラン検討委員会(委員長), 新潟市南区高齢者ケア会議(議長), 新潟市西区いきいき西区支え合いプラン推進委員会(委員長), 柏崎市福祉有償運送運営協議会(会長), 新潟県社会福祉協議会福祉教育推進会議(アドバイザー), 新潟市社会福祉協議会重層の支援体制整備事業運営会議(アドバイザー), 新潟市北区社会福祉協議会企画運営委員会(アドバイザー), 新潟市東区社会福祉協議会(副会長・理事), 湯沢町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会(委員長), 聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会(委員長), 聖籠町社会福祉協議会評議員選任・解任委員会(委員長), 聖籠町社会福祉協議会ボ

ランティアセンター運営委員会（委員長）、阿賀町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会（委員長）、社会福祉法人新潟太陽福祉会（評議員）、社会福祉法人新潟県身体障害者団体連合会（評議員）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2019年度、新潟市多職種合同による介護予防ケアプラン検討会、渡邊敏文、青木茂ほか
2. 2019年度、新潟県民生委員児童委員協議会アドバイザー派遣事業、渡邊敏文、青木茂ほか

6 学内委員会活動 交通安全委員会（委員長）、学生委員会、就職センター運営委員会

氏名：渡邊 敏文

1 研究題目 地域保健福祉における住民参加，介護福祉士養成教育における倫理教育

2 論文

1. 中井良育，渡邊敏文，青木茂，丸田秋男．地域ケア会議における専門職の助言及びソーシャルワーカーによるコーディネーションがケアマネジメントの質に与える影響—新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会に着目した調査結果から—．『日本地域政策研究』第34号（日本地域政策学会），2025.3.25: 100-109
2. 渡邊敏文，河野聖夫，青木茂，渡辺恵，渡邊恵司，福田敏秀，丸田秋男．2024年度新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会業務実績報告書．2024.4-2025.3.研究代表
3. 渡邊敏文，渡辺洋子，渡邊恵司，福田敏秀，松元圭，荒川大靖，山崎美夏．2024年度新潟水俣病関連情報発信事業報告書（DVD）．2024.4-2025.3.研究代表
4. 渡邊敏文，河野聖夫，青木茂，渡辺恵，渡邊恵司，福田敏秀，丸田秋男．新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会モニタリング事例集．2025.3.31.研究代表

3 報告書

1. 丸田秋男，渡邊敏文，青木茂．基盤研究（C）（一般），地域福祉計画は福祉分野の上位計画として機能するか—政令指定都市の検証から— 科学研究費助成事業 研究成果報告書，令和3年—令和5年，丸田秋男・渡邊敏文・青木茂

4 学会等研究発表

1. 白井幸久，福田明，長山圭子，福田智久．介護福祉士養成教育にまつわる緒課題への取り組み～その実践報告～．介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック教員研修会（宇都宮市），2024.9.24.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本社会福祉学会，日本地域福祉学会（新潟地方委員），日本地域政策学会（常任理事，研究推進委員長，学術専攻委員会副委員長，甲信越・北陸支部副支部長），日本介護福祉教育学会，日本介護福祉学会，日本在宅ケア学会，日本精神保健福祉学会，日本保健医療社会学会，日本保健福祉学会，日本保健医療福祉連携教育学会，日本ケアマネジメント学会，日本福祉教育・ボランティア学習学会（特任理事），日本社会福祉士会，日本介護福祉士会，日本精神保健福祉士協会，日本介護支援専門員協会，新潟医療福祉学会，北新潟地域づくり学会会長，新潟地域福祉実践研究会（会長）

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本地域政策学会，分科会開催（地域福祉計画部会，テーマ：地域共生社会における地域福祉計画の果たすべく役割），総括（研究代表者），京都市，2024.7.7.
2. 日本地域政策学会，甲信越・北陸支部総会及び研究会開催（研究会テーマ：能登半島地震における穴水町の復旧・復興状況について），副支部長），石川県穴水町，2024.9.20.
3. 北新潟地域づくり学会，市民健康講座開催，主催者代表，新潟市，2025.3.2.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟水俣病ケアガイド研修（Web開催，オンデマンド型），新潟水俣病患者の支援について—介護予防の多面的視点から—，講師，新潟県福祉保健部生活衛生課・新潟市保健衛生総務課，社会福祉専門職，2024.10.4.

2. 新潟市地域包括支援センター上土地亀, 岡方圏域ケア会議「認知症を地域で支えよう! ~地域で安心・安全に暮らすために~」, アドバイザー, 新潟市岡方コミュニティセンター, 2024.10.11.
 3. 介護教員講習会, 介護福祉学, 講師, 一般社団法人新潟地域福祉協会, 介護福祉士養成施設教員他, 新潟市東区プラザ, 2024.10.12-10.27.
 4. 新潟市地域包括支援センター上土地亀, 岡方圏域ケア会議「認知症を地域で支えよう! ~地域で安心・安全に暮らすために~」, アドバイザー, 新潟市長浦コミュニティセンター, 2024.11.15.
 5. 新潟市地域包括支援センター上土地亀, 事例研究会・学習会, 多問題家族の対応について, アドバイザー, 新潟市岡方コミュニティセンター, 2024.11.22.
 6. 五泉市高齢者虐待防止ネットワーク関係職員研修会, 高齢者虐待防止と身体拘束廃止に向けてー制度・運営と利用者支援の側面からー, 講師, 五泉市, 五泉市地域包括支援センター職員などの五泉市高齢者虐待防止ネットワーク関係職員, 五泉市福祉会館, 2024.12.16.
 7. 新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会・研修会, モニタリング評価の考え方と方法について, 講師, 新潟市福祉部地域包括ケア推進課, 新潟市地域包括支援センター職員, 新潟市・新潟勤労者総合福祉センター, 2025.2.7.
 8. 長岡100歳大学大学院, 日本の社会保障の現状と課題ーそして未来に向けてー, 講師, 長岡100歳大学大学院, 大学院学生(一般県民登録受講者), 長岡市・長岡三古老人福祉会法人本部, 2025.3.22.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
1. テレビ(BSN新潟放送), BSNニュース ゆうなび, 介護職員の処遇改善ー今年度の介護報酬の見直し, 2024.11.28.
- 3) 社会活動への参加協力
1. 関東甲信越ブロック都県運営適正化委員会委員長及び相談員連絡会, 新潟県における運営適正化委員会活動報告, 報告者, 東京都社会福祉協議会, 2024.10.18.
 2. 新潟日報社, 福祉・介護・健康フェア in NIIGATA 出店(こども職業体験コーナー・介護士体験), 企画・運営, 新潟市産業振興センター, 2024.11.9.
 3. 新潟市立松浜中学校, ゲストティーチャー「高齢者について知ろう」, 主催者, 新潟市, 2024.11.14.
 4. 松浜小学校・松浜中学校, コミュニティスクール, グループワーク「地域と共に歩む」, 討議者, 新潟市, 2024.11.25.
 5. 介護福祉士養成大学協議会, 全国の介護福祉士養成大学で学ぶ学生対象「学生交流会」開催(テーマ: 合格体験記), 主催者, 新潟市(オンライン開催), 2024.12.18.
 6. 介護福祉士養成大学協議会, 全国の介護福祉士養成大学で学ぶ学生対象「学生交流会」開催(テーマ: あなたの夢応援します), 主催者, 新潟市(オンライン開催), 2025.3.27.
- 4) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員
- 新潟市在宅医療・介護連携推進協議会会長, 日本年金機構・新潟県地域年金事業運営調整会議座長, 五泉市高齢者保健福祉市民会議委員, 新潟県介護人材確保対策会議委員, 新潟市介護人材確保対策協議会委員, 新潟市北区南浜地区青少年育成協議会理事, 新潟市障がい支援区分認定等審査会審査委員, 新潟市指定管理者第三者評価会議委員, 新潟市北区支え合いのしくみづくり会議委員(協議体構成員), 新潟市北区高齢者ケア会議構成委員, 新潟市北区社会福祉協議会監事, 日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック新潟県委員・新潟県社会福祉現場実習等養成校連絡会会員, 日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック協議会運営委員, 日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック協議会教学マネジメント・介護福祉士教育新潟県代表, 日本介護福祉士養成施設協会関東信越ブロック協議会新潟県部会国家試験対策部会(分科会)・調査研究部会(分科会)委員, 新潟市共同募金委員会北区分会監査人, 新潟市共同募金委員会北区分会推進委員会委員, 新潟県農福連携推進連絡会議委員・幹事, 新潟県優良農業経営体等表彰事業選考委員会委員農福連携の部審査委員, 新潟県福祉サービス運営適正化委員会副委員長(利用援助調査委員会委員, 苦情解決小委員会委員), 新潟市立松浜小学校学校運営協議会会長, 新潟市コミュニティ・スクール学校運営協議会会長, 新潟県老人福祉施設協議会理事, 新潟県福祉人材センター運営委員会委員,

新潟県社会福祉協議会社会福祉研修事業運営委員会委員長，社会福祉法人皆幸希福祉会理事，児童厚員養成課程連絡協議会会長，介護福祉士養成大学連絡協議会理事，介護福祉士養成大学連絡協議会国家試験対策委員会委員長，新潟市老人憩の家指定管理者申請者評価会議会長

5) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県社会福祉士会人材育成・スーパービジョン支援班運営委員会委員，新潟県社会福祉士会地域密着型サービス外部評価審査委員会委員

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2024年度，新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会業務（共同研究），研究代表者：渡邊敏文，研究分担者：河野聖夫・青木茂・渡辺恵・渡邊恵司・福田敏秀・丸田秋男
2. 2024年度，新潟水俣病患者の健康教室（共同研究），研究代表者：渡辺洋子，研究分担者：渡邊敏文，松元圭
3. 2024年度，新潟水俣病関連情報発信事業（共同研究），研究代表者：渡邊敏文，研究分担者：渡辺洋子・渡邊恵司・福田敏秀・松元圭・荒川大靖・山崎美夏

2) 受賞，学位取得，資格取得

新潟市北区社会福祉協議会会長表彰（受賞・2024.11.30）

3) 学外兼務講師等

1. 開志専門職大学事業創造学部事業創造学科（地域産業研究Ⅱ（医療福祉）），非常勤講師，2024.4-9.
2. 新潟県立大学人間生活学部こども学科（社会福祉のニーズと政策），非常勤講師，2024.4-9.

氏名：岡部 卓

1 研究題目 貧困と社会的排除に関する社会保障・社会福祉制度研究

2 著書

1. 増田雅暢/島田美喜/平野通子編集，執筆：島田美香・平野かよ子・岩崎晋也・増田雅暢・渡辺裕美・村井祐一・秋山智久・佐藤信人・内田宏明・大塚晃・内藤佳津雄・岡部卓・原田啓一郎・石田道彦・土屋葉・田中美恵子，ナース・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障，第7版第1刷，大阪：メディカ出版；2025年：pp.194～210，第6章生活保護（岡部担当）。
2. 大森孝一/永井知代子/深浦順一/渡邊修編集，執筆：岡島康友・小林康・小杉伊三夫・上月正博・今高城治・加納優治・三村将・芳賀信彦・折館信彦・永井知代子・上田晃一・中原賢・松原智宣・板口典弘・今井庄司・常田秀子・柴田寛・松井理直・小松雅彦・荒井隆行・世木秀明・瀬戸淳子・岡部卓・深浦順一・中川良尚・阿部晶子・藤野博・遠藤俊介・石川浩太郎・大島猛史・鈴木大介・新田清一・山本典生・藤田浩美・小淵千絵・城本修・佐藤亜紀子・椎名秀貴・原由紀・倉智雅子・黒羽真美・種村純，言語聴覚士テキスト，第4版，東京：医歯薬出版；2025年：pp.236-257，Ⅳ社会保障・教育とリハビリテーション（岡部担当）
3. 福田素生・稲沢公一・岡部卓・尾形裕也・駒村康平・高山由美子・小林理・伊藤正子・野口由紀子，系統看護学講座専門基礎分野健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉，第26版第1刷，東京：医学書院；2025年：pp.140-158，第6章公的扶助（岡部担当）
4. 岡部卓/新保美香担当編集委員，執筆：岡部卓・志村久仁子・新保美香・前島弘・土屋博紀・高橋亮・安藤豊・後藤浩二，社会福祉学習双書2025 貧困に対する支援，改訂第4版第1刷，東京：全国社会福祉協議会；2025年：pp.2-122，pp.170-182，pp.206-216，pp.228-243，pp.252-282，第1章現代社会と公的扶助，第2章生活保護制度の概要と実務 第1節～5節，第4章生活困窮者自立支援制度 第1・2節，第5章生活福祉資金貸付制度 第1節，第6章ホームレス状態にある人々への支援 第1・2節，第3節1～3『資料編（監修）』（岡部担当）

3 論文

1. 岡部卓，救護施設における個別支援計画の意義，生活と福祉，東京：全国社会福祉協議会；2024年：7月

号：pp.3-6.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本社会福祉学会（監事），社会政策学会，日本社会保障法学会，日本地域福祉学会，社会事業史学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 社会事業史学会，「社会事業史研究」査読委員

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第2回生活・就労支援連絡協議会，生活困窮者自立支援事業の相談支援員の待遇改善と委託契約のあり方について，講師，労働者福祉中央協議会，東京都千代田区，2024.5.9.
2. 救護施設経営者・施設長会議，救護施設における個別支援計画を制度化する意義，講師，全国社会福祉協議会，東京都千代田区，2024.5.23.
3. 特人厚厚生関係施設職員，初任者研修，貧困低所得者にどう向き合うかー動向と今後求められること，講師，特別区人事・厚生事務組合，東京都千代田区，2024.6.3.
4. よこはま子ども・わかものインクルージョンセミナー第2回子どもの貧困対策，生活困窮者自立支援制度を中心として，講師，よこはま子ども・若者が孤立しない地域づくり研究会，神奈川県横浜市，2024.6.15.
5. 生活保護と自立支援対策①，生活保護実務のポイント，講師，市町村職員研修所，千葉県千葉市，2024.6.19.
6. 福祉職員向けテーマ別研修，生活困窮者自立支援制度と生活保護制度の最新動向を学ぶ，講師，川崎市社会福祉協議会総合福祉センター，川崎市川崎区，2024.7.19.
7. 生活保護と自立支援対策②，生活保護実務のポイント，講師，市町村職員研修所，千葉県千葉市，2024.11.20.
8. 【シンポジウム】地域において厚生事業関係施設が発揮できる役割，コーディネーター，全国厚生事業団体連絡協議会，東京都千代田区，2025.1.23.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. TV出演，NHK視点・論点，身寄りのない高齢者に公的支援を～その実効性と課題～，2024.5.28.
2. WEB，Yahooニュース公式コメンテーター（エキスパート），コメント日～現在（WEB掲載中）

3) 社会活動への参加協力

1. (株)日本能率協会総合研究所，令和6年度厚生労働省社会福祉推進事業「こどもの学習・生活支援事業における学習支援と生活支援の一体的実施等のあり方に関する調査研究事業」，検討委員会委員長，2024.7.1-2025.3.31.
2. (株)日本総合研究所，令和6年度厚生労働省社会福祉推進事業「生活保護ケースワーカー等の研修のあり方に関する調査研究事業」，検討委員会委員長，2024.9.12-2025.3.31.
3. みずほリサーチ&テクノロジーズ(株)，令和6年度生活保護基準の検証に資する調査一式ヒアリング，有識者委員，2024.12.13-2025.3.31.

4) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

社会保障審議会（委員），社会保障審議会・生活保護基準部会（部会委員），社会保障審議会・生活困窮者及び生活保護部会（委員），神奈川県子ども・若者施策審議会（委員），神奈川県生活困窮世帯の子どもの健全育成推進会議（委員長），特別区人事・厚生組合個人情報保護審議会（委員）・路上生活者対策事業運営委託事業者選定委員会（委員），（公財）鉄道弘済会福祉事業に関するアドバイザー・奨学生選考委員会（委員長），東京都社会福祉協議会（理事）・生活福祉資金貸付審査運営委員会（委員），新宿区第IV期ホームレスの自立支援等に関する推進計画策定委員会（委員長），足立区生活保護適正実施協議会（会長）

6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. ルーテル学院大学, 社会保障論Ⅱ, 2024.12.19-2025.2.3.
2. 品川社会福祉協議会, 社会保障, 2024.4.1-2025.3.31. (通信課程)
3. 中央福祉学院, 公的扶助論, 動画 (通信課程)
4. NHK学園, 社会保障, 2024.4.1-2025.3.31. (通信課程)

氏名：原口 彩子

- 1 研究題目 「心の支えイメージマップ」の自殺予防に対する有効性と学校教育導入の検討, 大学生の自殺予防, 食農福教育プログラムの開発
- 2 著書
 1. 原口彩子. 心の支えイメージマップガイドブック. 初版. 新潟市：2025：1-39. (小冊子)
- 3 論文
 1. Tanaka K, Haraguchi A, Inaba H. Responses to and outcomes of out-of-hospital cardiac arrest in farmlands compared with other out-of-office workplaces: an observational study using an extended nationwide database. Journal of Public Health. 2024; (in press)
 2. Tanaka K, Haraguchi A, Inaba H. Higher Incidences of Severe Medical Emergencies and Poorer Out-of-Hospital Cardiac Arrest Outcomes in Farmlands Compared to Other Outdoor Workplaces. Cureus Article. 2025; 17(1).
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度「初任者研修【メンタルヘルス】」講座, 講師, 新潟市総合教育センター, 小中学校新任教員, 新潟市, 2024.7.30.
 2. 令和6年度「にこっと」研修会 命を守るコミュニケーション「愛とそれに似たものを考える」, 講師, 傾聴サロン「にこっと」, 一般市民, 豊栄地区公民館, 2025.1.18.
 - 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 雑誌, 一般社団法人第一生命財団, Green Story, 第34回緑の環境プラン大賞受賞作品集, 8-9. 2025.3.19.
 - 3) 社会活動への参加協力
 1. 聖籠町こども家庭センタースーパーバイザー事業, 子どもソーシャルワーカーのSV, 講師, 聖籠町役場, 2024.5.1-2025.3.31.
 2. 令和6年度聖籠町あそび教室発達相談会事業, 子育て相談・保健師コンサル, 相談員, 聖籠町保健福祉センター, 2024.7.17-2025.1.15.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021, 基盤研究（C）, 「心の支えイメージマップ」の自殺予防に対する有効性と学校教育導入の検討, 研究代表者
 2. 2025, 基盤研究（C）, 共生型農園活動の引きこもり解消への効果とその要因, 研究代表者
 3. 2024, 古泉財団助成, 共生型アウトドアリビング機能を備えた”すき間農地”活用の実践的研究
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 発達クリニック ばすてる 心理士 月2回
 2. 聖籠町子ども家庭相談センター スーパーバイザー 2024.4-2025.3. 年6回
 3. 聖籠町あそび教室発達相談会 スーパーバイザー 2024.4-2025.3. 年3回
- 6 学内委員会活動 メンタルヘルス支援室, 国家試験・資格試験対策委員会, 健康管理センター運営委員会, 安全衛生委員会, シティズンシップ教育実践研究センター (Citizenship education practical research center)

氏名：寺田 貴美代

- 1 研究題目 外国人DV被害者とその子どもへの支援における国際連携プラットフォームの構築
- 2 論文
 1. Morita H, Terada K, Arakawa H, Watanabe K. Facilitating and hindering factors in introducing and utilizing no-lifting care in social welfare facilities. Niigata Journal of Health and Welfare. 2024年；24(1)：1-11 (review)
 2. 荒川大靖, 寺田貴美代, 渡邊恵司, 森田裕之. 地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の可能性. 新潟医療福祉学会誌. 2024年(印刷中・掲載決定)(査読あり)
- 3 学会等研究発表
 1. 寺田貴美代・高野和良・亀山俊朗・上村泰裕・桜井政成・染谷莉奈子・馬場智也. 20周年記念『福祉社会学文献ガイド』出版記念企画 シンポジウム, 福祉社会学会第22回大会(東京), 2024.6.28.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 福祉社会学会(理事), 福祉社会学会(副事務局長), 福祉社会学会(財務委員), 福祉社会学会(20周年記念事業委員), 日本社会福祉学会(査読委員), 日本社会福祉学会(関東部会 運営委員), 日本社会福祉学会(関東部会 編集委員長), 日本社会学会(会員), 日本地域福祉学会(会員)
 - 2) 学術集会の主催
 1. 福祉社会学会, 福祉社会学会第23回大会, 学術大会運営, 渋谷区, 2024.6.28-6.29.
 2. 日本社会福祉学会関東部会, 2024年度研究大会, 運営委員, オンライン, 2024.3.16.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 福祉社会学会, 20周年企画テーマセッション, 司会, 渋谷区, 2024.6.29.
 2. 日本社会福祉学会関東部会, 関東地域ブロックシンポジウム, 実施運営, オンライン, 2024.3.16.
 3. 新潟県, 新潟水保病関連情報発信事業, 報告学生の発表指導, 新潟市, 2024.3.25.
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 第1回外国につながる子どもたちへの支援を考える研修会, 新潟県内の支援状況報告会, コメンテーター, 新潟県国際交流協会, 新潟県民, 新潟市, 2024.12.16.
 2. 多様な環境における子どもたちへの理解に向けて, 新潟・外国につながる子どもたち支援シンポジウム, 企画・準備・運営, 新潟医療福祉大学多様性学習支援研究会・CLDC-SIG, 新潟県民, 新潟市, 2024.12.16.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 基盤C, 外国人DV被害者とその子どもへの支援における国際連携プラットフォームの構築, 研究代表者
- 7 学内委員会活動 大学院委員会, 内部質保証推進委員会, 自己点検・評価委員会, 大学院の質保証委員会, 大学院教育研究環境推進委員会

氏名：渡辺 洋子

- 1 研究題目 特別養護老人ホームで最期を迎えた入居者へのEOLケア理論生成に関する研究
- 2 報告書
 1. 渡辺洋子. 若手研究, 特別養護老人ホームで最期を迎えた入居者へのEOLケア理論生成に関する研究, 令和6年度科学研究費助成事業報告書, 令和6年度, 研究代表者
- 3 学会等研究発表
 1. Toyama G, Watanabe Y, Ozaki A, Takei Y. Time-Dependent Variations in Survival Rates of Out-of-Hospital Cardiac Arrest at Care facilities. European Resuscitation Council・2024 Resuscitation / Athens 31 October-2 November

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会（理事・評議員）、新潟医療福祉学会誌（編集者・査読者）、日本認知症予防学会員、日本社会福祉学会員、日本老年社会科学員、日本介護福祉学会員、日本応用社会科学員、日本女子大学社会福祉学会員
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 新潟医療福祉学会誌における編集者及び査読、2024.4-2025.3.
 2. 新潟医療福祉学会における理事及び評議員、2024.4-2025.3.

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. ござれやネット（北区の医療と介護のささえあいネット）令和6年度総会・講演会「特別養護老人ホームで最期を迎えた高齢者へのケア - 介護職員のかかわりを手がかりに」、講演、医療や介護等にかかわる専門職、豊栄公民館 大講堂、2024.9.7.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. 新潟市保健衛生総務課「健康教室」下山コミュニティセンター、2024.10.22.
 2. 新潟県阿賀野川流域健康教室受託事業「健康教室」安田交流センター風とぴあ、2025.2.24.
 3. 新潟県水俣病関連情報発信事業「令和6年新潟水俣病患者聴き取り調査事前学習会」本学Q棟203教室、2025.1.22.
- 3) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員
新潟市社会福祉協議会評議員、新潟県国民保健団体連合会介護サービス苦情処理委員
- 4) 職能団体（協会、士会等）の委員
日本介護福祉士養成協会関東甲信越ブロック協議会委員、日本介護福祉士養成大学協会正会員

6 学内委員会活動 学生委員会（構内巡視・美化部会長）、交通安全委員会、学術委員会、研究倫理審査委員会

氏名：楠山 大暁

報告事項なし

氏名：福田 敏秀

- 1 研究題目 認知症のある高齢者の家族介護負担感に関する研究、介護サービス事業運営サポートに関する研究
- 2 論文
 1. Yokoi T, Oguma E, Inagaki K, Fukuda T. Suicide in Stroke Survivors and Social Work. Health & Social Work. 2024; Volume 49: 279-281
- 3 学会等研究発表
 1. 藤井しのぶ、竹村貴深、大熊絵理菜、福田敏秀、当院における「事例報告会」の経験～MSW部門運営体制とスーパービジョン機能の考察～、第72回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会 第44回日本医療社会事業学会（大分大会）、6.15-6.16.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本認知症ケア学会（代議員）、日本認知症予防学会（代議員）
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 第13回日本認知症予防学会学術集会、評価委員、横浜、9.27-9.29.
- 5 社会活動
 - 1) 社会活動への参加協力
 1. 新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会、ケアプラン検討会、司会等、新潟市、2024年度
 2. 財団法人介護労働安定センター徳島支部、ケアサポート講習、講師、Web、2024.8.1.
 3. 鳥取県社会福祉協議会、介護支援専門員実務研修、講師、鳥取市、2025.1.11.

4. 鳥取県介護支援専門員連絡協議会，西部支部研修，講師，米子市，2025.1.18.
- 2) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
 - 公益財団法人 介護労働安定センター高知支部（ヘルスカウンセラー，介護人材育成コンサルタント）
- 3) 職能団体（協会，士会等）の委員
 - 鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021年度，科研費基盤研究（C），高齢者の在宅介護推進の障壁「介護者の阻害要因」への適切なアセスメント方法の開発，研究代表者
- 7 学内委員会活動 教務委員会，新潟連携教育推進センター運営委員会

氏名：大屋 未輝

- 1 研究題目 医療観察法における保護者である家族の研究
- 2 論文
 1. 大屋未輝，医療的ケア児の保護者にメリーケアテープがもたらす負担の変化，地域ケアリング（北隆館），2025年；2月号：P89-92（査読あり）
 2. 大屋未輝，医療的ケア児の保護者にメリーケアテープ®がもたらす負担の変化—アンケートの自由記載を基にして—，地域ケアリング（北隆館），2025年；3月号：p90-93.（査読あり）
- 3 学会等研究発表
 1. 大屋未輝，医療観察法の保護者の法的立場，心神喪失者等医療観察法関係研究協議会，研究協議委員，新潟市，2024.6.24.
 2. 大屋未輝，医療観察法の被害を受けた家族が保護者である3例の報告，日本更生保護学会第13回2024.10.12-10.13.
 3. 大屋未輝，医療的ケア児の保護者の研究-専門ゼミ活動で行った装飾サージカルテープ配布後の負担の変化-，新潟医療福祉学会・第24回新潟医療福祉学会学術集会，新潟市，2024.10.26.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 公益社団日本精神保健福祉士協会（会員），日本更生保護学会（会員），日本家族看護学会（会員）
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 福祉従事者向けメンタルヘルス講習会，研修講師，社会福祉法人新潟みずほ福祉会，新潟市，2024.9.18.
 2. 合理的配慮についての講演会，研修講師，新潟調理師専門学校，新潟市，2024.12.14.
 3. 不登校支援に関する講演会，研修講師，新潟調理師専門学校，新潟市，2025.2.15.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 医療的ケア児保護者の会コクア新潟，親子交流会学生「音楽体験」学生ボランティア派遣，ゆぽーと，2024.6.29.
 2. 医療的ケア児保護者の会コクア新潟，親子交流会学生「クリスマス会」学生ボランティア派遣，ゆぽーと，2024.12.7.
 3. 法務省新潟保護観察，「更生保護施設クリスマス会」学生ボランティア派遣，川岸寮，2024.12.22.
- 3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
 - 厚生労働省関東信越厚生局（令和6年度精神保健参与員），新潟保護観察所（被害者担当保護司）
- 4) 職能団体（協会，士会等）の委員
 - 新潟中央区保護司会（保護司），公益社団法人日本精神保健福祉士協会（会員），新潟県精神保健福祉士協会（会員）
- 6 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 新潟県立新津高校，探求授業科目，2024.7-2025.2.
2. 学校法人悠久崇徳学園，公衆衛生学，2025.3.

7 学内委員会活動 精神保健福祉士コース（コース長）

氏名：渡邊 恵司

1 研究題目 精神科病院からの地域移行支援・地域定着支援に関する研究，ピアサポーターとの協働に関する研究

2 論文

1. 荒川大靖，寺田貴美代，渡邊恵司，森田裕之．地域における児童健全育成の環境づくりに対する移動児童館の効果について．新潟医療福祉学会誌（査読あり）（印刷中）
2. Morita H, Terada K, Arakawa H, Watanabe K. Facilitating and hindering factors in introducing and utilizing no-lifting care in social welfare facilities. Niigata Journal of Health and welfare. 2024; Volume 24(1): Pages 1-11 (review)

3 報告書

1. 渡邊敏文，渡辺洋子，渡邊恵司，福田敏秀，松元圭，荒川大靖，山崎美夏．2024年度新潟水俣病関連情報発信事業報告書（DVD），2024.4.1-2025.3.31.
2. 渡邊恵司．2024年度真柄福祉財団受託研究報告書，2024.4.1-2025.3.31.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本地域政策学会，日本病院・地域精神医学会，日本精神障害者リハビリテーション学会，日本精神保健福祉士協会，新潟県精神保健福祉士協会，日本福祉教育・ボランティア学習学会
- 2) 学術集会の主催
 1. 日本地域政策学会第23回全国研究大会，地域福祉計画分科会「地域共生社会における地域福祉計画の果たすべく役割～市区町村の包括的な支援体制の構築に向けて～」，分科会企画・討論者，龍谷大学，2024.7.7.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本地域政策学会，2024年度甲信越・北陸支部総会及び研究会，事務局，石川県，2024.9.20.

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度地域包括支援センター職員研修，「地域包括支援センターの存在意義・求められる役割」について，講師，新潟市福祉部地域包括ケア推進課，新潟市，2024.5.10.
2. 心に寄り添う傾聴セミナー，「悩む心を受けとめる傾聴力とは？」，講師，傾聴ボランティア にこっと，新潟市，2024.9.21.
3. 2024年度真柄福祉財団セミナー，「精神科病院と協働した地域移行支援・地域定着支援の実践 ～京都市の相談支援事業所における「ピアサポート」と「アウトリーチ」～」，講師，真柄福祉財団，新潟市メディアシップ，2024.9.23.
4. 2024年度新潟県精神障害者社会福祉施設協議会研修会，「地域の中で自分らしく豊かに生きることの再考～「環境」と「かかわり」がもたらすもの～」，講師，新潟県精神障害者社会福祉施設協議会研修会，燕三条地場産業振興センター，2024.10.31.
5. 湯沢町傾聴ボランティア研修，「悩みを受けとめる傾聴力とは？」，講師，湯沢町社会福祉協議会傾聴ボランティア，湯沢町，2024.11.25.
6. 五泉市民生委員児童委員研修会，「支援を要する方とのコミュニケーションの取り方について」，講師，五泉市民生委員児童委員協議会，五泉市，2024.12.2.
7. 基幹研修Ⅰ，「精神保健福祉士の専門性Ⅰ」，講師，新潟県精神保健福祉士協会，柏崎市，2024.12.7.

8. 令和6年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築研修会,「障害特性の理解と精神保健福祉相談の実際(演習)」,講師,新潟県,2025.2.26.
 9. 令和6年度新潟市中央研修会,「障害障がいのある方へのかかわりについて」,講師,新潟市,2025.3.10.
 10. 株式会社リリックオリーブの樹研修会,「インシデントプロセス法による事例検討」,講師,村上市,2025.3.21.
- 2) 社会活動への参加協力
1. 五泉市子どもワークショップ,コーディネーター,五泉市さくらんど会館 イベントホール,2024.7.21.
 2. 福祉・介護・健康フェア,ブース出店,新潟市産業振興センター,2024.11.9.
 3. 新潟県水俣病情報発信事業,3大学フォーラム,新潟県生涯学習推進センター,2025.3.16.
 4. 新潟県水俣病情報発信事業,報告会,新潟東映ホテル,2025.3.23.
 5. 新潟市北区自治協議会,委員,新潟市北区,2024.4.1-2025.3.31.
 6. 新潟市北区コミュニティセンター指定管理者申請者評価会議,委員,新潟市北区,2024.9.6-10.10.
 7. 新潟市北区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会,委員,新潟市北区,2024.4.1-2025.3.31.
 8. 包括阿賀北圏域意見交換会,アドバイザー,新潟市北区,2025.3.13.
 9. 株式会社リリック,スーパーバイザー,村上市,2023.11.1-2025.3.31.
- 3) 公的機関(官公庁等)の審議会,委員会等の委員
公益財団法人真柄福祉財団(理事),全国健康保険協会新潟支部(評議委員・委員長)
- 4) 職能団体(協会,士会等)の委員
新潟県精神保健福祉士協会(代議員)
- 6 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
1. 2024年度,新潟水俣病関連情報発信事業(共同研究),研究代表者:渡邊敏文,研究分担者:渡辺洋子,渡邊恵司,福田敏秀,松元圭,荒川大靖,山崎美夏
 2. 科研費:基盤C 分担研究「地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の効果に関する研究」荒川大靖・渡邊恵司
 3. 2024年度,公益財団法人真柄福祉財団受託研究「新潟県におけるピアサポートに関する実態調査」,渡邊恵司
- 2) 学外兼務講師等
1. 事業創造大学院大学,福祉ビジネス特論,2024.4.1-2025.3.31.
- 7 学内委員会活動 社会連携推進センター運営委員会

氏名:小堀 晶子

- 1 研究題目 学生支援における終末糖化産物(AGEs)の活用
- 2 学会等研究発表
 1. 小堀晶子,松元圭.大学生のメンタルヘルスを把握するのに終末糖化産物(AGEs)は有用か?—UPIとの関連から新規マーカーとしてのAGEsの可能性を考える—.日本臨床教育学会第14回研究大会(東京都),2025.10.26.
 2. 松元圭,小堀晶子.大学生の精神衛生問題に関する多角的データの検討—UPI,AGEs,自由記述の混合分析から—.日本臨床教育学会第14回研究大会(東京都),2025.10.26.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本学生相談学会,関東地区学生相談研究会
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度新潟水俣病患者との交流プログラム（健康教室）、「心の健康について」、講師、主催者：新潟医療福祉大学、対象者：新潟水俣病患者、会場：安田交流センター・風とぴあ、開催年月日：2025.3.28.
- 2) 社会活動への参加協力
 1. ノーモア・ミナマタ第二次新潟訴訟控訴審第二回口頭弁論行動、環境省前アピール行動や入廷行進及び弁論と報告集会、研究者、東京高裁、2025.2.25.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 学外兼務講師等
 1. 聖泉大学、健康・医療心理学、2024.10-2025.3.
 2. 立教大学、認知・行動・身体、2024.10-2025.3.

氏名：松元 圭

- 1 研究題目 双極症患者および縁者に対する社会学的研究、Hospital Play Specialistによる医療的ケア児への支援に関する研究、AGEsに着目した学生相談研究、家族実践研究
- 2 論文
 1. 三品拓人、松元圭、幼少期の記憶と家族経験—双極性障害当事者の自由記述から—、関西大学人権問題研究室紀要、2025；89：181-202.（査読なし）
 2. 松元圭、双極症患者との離婚を経験した元配偶者の困難—婚姻中そして婚姻関係解消後の物語—、ソシオロゴス、2025；49（印刷中）.（査読あり）
 3. 松元圭、マージナル・マンとしてのHospital Play Specialistから見た日本の小児医療の問題、HPS事例集、2025；15：3-14.（査読あり）
- 3 報告書
 1. 松元圭、新潟医療福祉大学学内研究奨励（基盤形成）、双極症患者と縁者の間に生じたコンフリクトの内実を問う医療社会学的研究：患者との関係が破綻した縁者に対する質的調査から、研究成果報告書、2024-2025、研究代表者
- 4 学会等研究発表
 1. 松元圭、小堀晶子、大学生の精神衛生問題に関する多角的データの検討－UPI、AGEs、自由記述の混合分析から－、日本臨床教育学会第14回研究大会（東京都）、2025.10.26.
 2. 小堀晶子、松元圭、大学生のメンタルヘルスを把握するのに終末糖化産物（AGEs）は有用か？－UPIとの関連から新規マーカーとしてのAGEsの可能性を考える－、日本臨床教育学会第14回研究大会（東京都）、2025.10.26.
 3. 松元圭、松平千佳、Hospital Play Specialistの経験に見る小児臨床現場における医学、看護学教育の課題－「Hospital Play Specialist 基本調査」の混合分析から－、日本臨床教育学会第14回研究大会（東京都）、2025.10.26.
 4. 松元圭、三科拓人、双極症患者の「遊びの記憶」から見る家族経験－自由記述の分析から、日本質的心理学会第21回大会（東京都）、2025.10.20.
 5. 松元圭、双極症縁者の経験した困難－2名の縁者の語りから、日本社会学会第97回大会（京都市）、2025.11.10.
 6. 松元圭、マージナル・マンとしてのHospital Play Specialistから見た日本の小児医療の問題、HPS第17回国際シンポジウム（静岡市）、2025.2.8.「招待」
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本社会学会、関西社会学会、日本保健医療社会学会、日本臨床教育学会、障害学会、日本学生相談学会、新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. HPS事例集編集委員

2. 2025年度関西社会学会 若手シンポジウム企画「家族実践の社会学」の企画、運営、2024.8-2025.5.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 2025年度関西社会学会 若手シンポジウム企画「家族実践の社会学」第2回公開研究会、「標準家族へのあこがれ——ホスピタル・プレイ・スペシャリストの支援事例からみる家族実践」, 報告者, 三科拓人他, 関西社会学会会員他一般, 大阪大学, 2024.11.3.

2) 職能団体（協会、士会等）の委員

NPO法人ホスピタルプレイ協会（特任研究員・HPS事例集編集委員）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2025年度, 科研費若手, 双極症患者と縁者の関係破綻に影響を与える要素の特定に関する社会学的研究, 研究代表者
2. 2025年度, 関西社会学会若手シンポジウム企画, 家族実践の社会学——行為に着目する家族研究の意義と方法論の検討, 研究分担者

8 学内委員会活動 FD・SD委員会

氏名：神田 紀子

報告事項なし

氏名：金子 毅司

1 研究題目 司法福祉, ソーシャルワーク, 障害者福祉, 就労支援

2 著書

1. 金子毅司, 菅原直美, 渡邊洋次郎, 毛利真弓, 加藤公一; 木下大生, 丸山泰弘編. だからワタシは「罪に問われた人たち」と生きる. 現代人文社; 2024: 14-30

3 論文

1. 金子毅司, 掛川直之, 湯原悦子, 藤原正範. 入口支援におけるソーシャルワーカーと刑事弁護人との連携はいかにあるべきか?: 「刑事裁判の弁護活動への社会福祉士の関与に関する調査」から. 立教大学コミュニティ福祉研究所紀要12; 2024: 19-31

4 学会等研究発表

1. 水藤昌彦, 木下大生, 金子毅司, 中田雅久, 山田恵太. 第7分科会 被疑者・被告人段階での更生支援における倫理とジレンマ-改めて, 専門職連携の視点から考える. 日本司法福祉学会第24回全国大会（東京都西東京市）, 2024.9.7-9.8.
2. 藤原正範, 湯原悦子, 掛川直之, 金子毅司. 福祉ニーズのある被告人はどの程度存在するか-名古屋地方裁判所本庁における刑事裁判傍聴調査の結果-. 日本司法福祉学会第24回全国大会（東京都西東京市）, 2024.9.7-9.8.
3. 藤原正範, 湯原悦子, 掛川直之, 金子毅司. 裁判傍聴を経験した市民の刑事裁判イメージの変容. 日本司法福祉学会第24回全国大会（東京都西東京市）, 2024.9.7-9.8.
4. 木下大生, 金子毅司, 山本雅章, 坪田明子, 南口英美. 第4分科会「地域でいきいき生活する」. 第6回日本ダウン症学会学術集会（東京都）, 2024.10.27.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本司法福祉学会（事務局次長）, 日本社会福祉学会（関東地域ブロック委員会委員）, 日本発達障害学会, 日本精神保健福祉学会, 日本ダウン症学会（理事）, 日本犯罪社会学会

2) 学術集会の主催

1. 日本司法福祉学会第24回全国大会, 事務局長, 東京都（武蔵野大学武蔵野キャンパス）, 2024.9.7-9.8.

3) 学会等でのその他の活動

1. 日本司法福祉学会, 司法福祉研究集会イン岡山「多職種で取り組む更生支援－更生支援とは何だろう－」, コーディネーター, 岡山県, 2024.5.18.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟TSネット拡大勉強会, 東京TSネットの活動と更生支援コーディネート, 講師, 新潟ユニゾンプラザ, 新潟市, 2024.6.15.
2. 新潟TSネット拡大勉強会, 更生支援コーディネーター養成講座, 講師, 新潟TSネット, 新潟ユニゾンプラザ, 2024.10.26, 11.23.
3. 鳥根県更生支援コーディネーターフォローアップ研修, 講師, 鳥根県健康福祉部, 鳥根県民会館, 2025.2.7.
4. 新潟TSネット拡大勉強会, 更生支援コーディネートフォローアップ研修, 講師, 新潟TSネット, 新潟市中央図書館, 2025.3.15.

氏名：荒川 大靖

1 研究題目 地域における児童健全育成の環境づくりに対する移動児童館の効果について

2 論文

1. 荒川大靖, 寺田貴美代, 渡邊恵司, 森田裕之. 地域における児童健全育成の環境づくりに対する移動児童館の効果について. 新潟医療福祉学会誌 (査読あり) (印刷中)
2. Morita H, Terada K. Arakawa H, Watanabe K. Facilitating and hindering factors in introducing and utilizing no-lifting care in social welfare facilities. Niigata Journal of Health and welfare. 2024; Volume 24(1): Pages 1-11 (review)

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会 (会員), 日本地域政策学会 (会員), 日本こども学会 (会員), 日本ソーシャルワーク学会 (会員), 日本社会福祉教育学会 (会員)

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 児童厚生員等基礎研修会, 個別援助技術, 講師, 特定非営利活動法人あきた子どもネット, 放課後児童支援員, 秋田県児童会館, 2024.9.5.

2) 社会活動への参加協力

1. 第15回にいがた秋葉っ子ふゆまつり, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 新潟市秋葉区・秋葉区総合体育館, 2025.1.26.
2. 西区ふれあい・あきまつり2024, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 新潟市西区・みどりと森の運動公園, 2024.11.9.
3. 平島公園夏祭り, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 新潟市西区・平島公園, 2024.9.28.
4. 新潟県立こども自然王国「ソトアソビソトゴハン」, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 柏崎市高柳・子ども自然王国, 2024.9.21-9.22.
5. 新潟県立こども自然王国「じどうかんまつり」, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 柏崎市高柳・子ども自然王国, 2024.11.2-11.3.
6. 新潟県立こども自然王国「狐の夜祭り」, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 柏崎市高柳・子ども自然王国, 2024.10.13-10.14.
7. 新潟県立こども自然王国「高柳雪祭り」, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 柏崎市高柳・子ども自然王国, 2025.2.22-2.23.
8. 早通児童センターまつり, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 新潟市北区・早通児童センター, 2025.10.5.

9. ケアステーションルビナス, バルーンアート出店, 学生指導, 新潟市中央区・斎藤内科クリニック, 2025.9.14.
 10. 太夫浜夏祭り・太夫浜青年部, こども向け遊びブースの提供, 学生指導, 新潟市北区太夫浜, 2025.8.31.
 11. 社会福祉法人豊栄福祉会, クローバーまつりへ遊びの体験ブース提供, 学生指導, 新潟市北区・福祉交流センタークローバー, 2024.7.6.
 12. 東区こどもまつり, こども向け遊びブースの設置及び運営, 学生指導, 新潟市東区・東区プラザ, 2025.2.24.
 13. 第5回ふくふくマルシェ～地域・福祉・アート～, こども向け遊びブースの設置, ボランティア, 新潟市北区・福祉交流センタークローバー, 2024.9.29.
 14. 岩室地域児童館まつり, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 新潟市西蒲区・岩室地域児童館, 2024.7.21.
 15. 社会福祉法人愛宕福祉会, 敬老会, バルーンアート披露, ボランティア, 新潟市北区・愛宕の園, 2024.9.23.
 16. 第17回北区ふゆっこまつり, こども向け遊びブース設置及び運営, 学生指導, 豊栄総合体育館, 2025.2.9.
- 5 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021年度（2024年度継続）, 基盤研究（C）, 地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の効果に関する研究, 荒川大靖・渡邊恵司
 - 2) 受賞, 学位取得, 資格取得
博士（保健学）（2025.3.19）
 - 3) 学内部活動の実績
 1. レクア.コム部顧問
- 6 学内委員会活動 広報委員会, 同窓会・生涯学習推進委員会, 高等教育推進センター運営委員会

氏名：渡邊 悠都

報告事項なし

氏名：小出 直

- 1 研究題目 過疎地域における生活課題解消, 生活保護法における地域格差の解明, 多職種連携の視点から考察するリスクマネジメント
- 2 学会等研究発表
 1. 「生活保護基準における級地制度の変遷」－救護法時代から旧生活保護時代の記述をもとに－ 第17回貧困研究大会 2025.1.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本社会福祉学会, 日本ソーシャルワーク学会, 日本医療ソーシャルワーカー協会, 貧困研究会
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 2024年度 フォーラム かかりつけ医へ通院し続けられる体制づくりを考える 通院困難患者支援フォーラム ～外来受診支援から考える在宅医療～ コーディネーター 主催：北海道医療ソーシャルワーカー協会 通院困難患者支援専門部会 医療・介護・福祉関係者・団体, 学生等 札幌学院大学 2024.9.7.
 2. 2024年度 第34回北信越ソーシャルワーク研究会「ソーシャルワーカーに花束を」～つむぐ, つなぐ, 描く, ○○の想いをデザインする～ 研究分科会座長 新潟県医療ソーシャルワーカー協会 医療・介

護・福祉関係者・団体、学生等 朱鷺メッセ 2024.10.6.

3. 2024年度 新潟市女性つながりサポート事業 令和6年度第2回相談員向け研修会「相談支援業務における関係機関の連携について」講師 新潟市 様々な困難や不安を抱える女性に対し相談支援を行う民間支援団体や 関係機関の相談員 新潟市役所 2025.2.18.

2) 社会活動への参加協力

1. 日本医療ソーシャルワーカー協会（査読員）

5 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2年間 11,700千円 特別推進研究 生活保護受給者における効果的な健康支援方法の立案に向けた実証研究（分担研究者）

氏名：山崎 美夏

1 研究題目 女性介護職の労働環境に関する研究，介護福祉士養成教育，介護福祉教育学

2 学会等研究発表

1. 山崎美夏，青木茂，鈴木昭. ソーシャルワーク実習はソーシャルワークの価値・技能・態度尺度の習得に寄与する. 新潟医療福祉学会 2024.10.26.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会，日本介護福祉学会，日本生活支援学会，日本介護福祉教育学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 介護労働安定センター 介護職員実務者研修 講師 介護労働安定センター新潟県支部 2024.9.3, 9.7. (全2回)
2. 新潟県社会福祉協議会 県民介護 講師 新潟ユニゾンプラザ 2024.11.8. (全1回)

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県介護福祉士会運営委員会・新潟ユニゾンプラザ, 2024.5.18, 7.13, 9.7, 11.2, 2025.1.18, 3.15. (全6回)
2. 新潟県介護福祉士会, 介護の日イベント（介護技術コンテスト）・新潟産業振興センター, 2024.11.9.

3) 職能団体（協会，士会等）の委員

新潟県介護福祉士会（運営委員）

(2) 心理健康学科

氏名：山本 裕二

1 研究題目 対人運動技能ダイナミクスの解明

2 論文

1. Yamamoto Y, Yokoyama K, Kijima A, Okumura M, Shima H. Interpersonal strategy for controlling unpredictable opponents in soft tennis, Scientific Reports, 2024; 14: 20546, doi: 10.1038/s41598-024-71538-5 (査読あり)

3 学会等研究発表

1. Kano T, Yamaji S, Fukuhara A, Kobayashi R, Kijima A, Yamamoto Y, Ishiguro A. Learning mechanism of interpersonal motor skills in a simple sumo-wrestling-like task, Society of Instrument and Control Engineers (SICE) 2024 (Kochi, Japan), 2024.8.27-8.30.
2. 山本裕二. 「切磋琢磨」を科学する, 運動学習研究会 (名古屋), 2024.7.27-7.28.

4 学会活動

- 1) 所属学会 日本心理学会, 日本認知科学会, 日本スポーツ心理学会, 日本体育・スポーツ・健康学会

5 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 市民向け公開講座 アゴラ・さいころじい「やる気が出ないときは」, 演者, 心理健康学科, 一般市民, 朱鷺メッセ, 2024.5.16.
2. 市民向け公開講座 アゴラ・さいころじい 企画・運営, 心理健康学科, 一般市民, 朱鷺メッセ, 2024.10.12.
3. 講演会, 「こころの健康」, 演者, 市町村国保運営協議会委員・市町村国保主管課職員等, 朱鷺メッセ, 2024.8.6.
4. 講演会, パラスポーツ協会, 「コミュニケーションスキルの基礎」, パラスポーツ指導者, 新潟ふれ愛プラザ, 2025.1.25.

6 その他の教育研究活動

1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容

1. 2022, 挑戦的研究 (萌芽), 「行動解析と数理モデルによる城門防御機能の定量的評価: スポーツ科学からの挑戦」, 研究代表者

7 学内委員会活動 総務会, 学科長会議, 入試委員会, 広報委員会

氏名：坂田 省吾

1 研究題目 動物の時間認知の比較心理学的研究

2 学会活動

- 1) 所属学会 日本行動科学学会 (監事), 日本生理心理学会 (理事), 日本動物心理学会, 日本心理学会, 日本時間生物学会 (評議員), 日本神経科学学会, International Society for Comparative Psychology, American Psychological Society, Society for Neuroscience

3 社会活動

1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 日本心理学会機関紙「心理学ワールド」, 比較心理学と時間の研究 (巻頭言), 2024.10.15.発行

2) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員

- 日本学術会議第一部心理学・教育学委員会 (委員長)

4 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 広島修道大学, 最新心理学講義 (比較認知科学), 2024.8.20-8.23の4日間 (集中講義)
2. 関西学院大学, 博士学位申請論文審査委員, 2024.1.21-3.10の中の半日

5 学内委員会活動 高等教育推進センター運営委員会, 中央教育センター運営委員会, 発達科学センター

氏名：廣瀬 清人

- 1 研究題目 昔話の語りの心理機能と意味世界の伝承, 仁川・日本人居留地で勤める韓国人の職業的社会化過程を媒介とした社会的アイデンティティの形成
- 2 著書
 1. 廣瀬清人. 人物で読む心理学事典. 2版. 東京: 朝倉書店. 2025: 169-174.
- 3 学会等研究発表
 1. 廣瀬清人. 仁川・日本人街 国際研究: 学際研究のあり方を探って. 地域科学研究集会 (長崎市・日本), 2024.12.14.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本口承文芸学会 (会員), 日本心理劇学会 (会員), 日本ヒューマン・ケア心理学会 (会員), 日本社会心理学会 (会員), 日本発達心理学会 (会員), 日本心理学会 (会員), 日本応用心理学会 (会員), 地域科学研究会 (会員)

氏名：山崎 由美子

- 1 研究題目 認知機能の行動的解析, 脳腸相関の解明と関連疾患の治療法開発を目指した生理学的・微生物学的・行動学的研究
- 2 論文
 1. 山崎由美子. 科学研究費補助金基盤研究 (B). 腸内細菌叢を介した社会行動調整技術の開発. 研究成果報告書, 2022-2026, 研究代表者.
 2. Kawai S, Sakai Y, Iriki A, Yamazaki Y. (2024). Gastric emphysema and pneumatosis intestinalis in two common marmosets with duodenal dilation syndrome. BMC Veterinary Research, 20, 223. DOI: <https://doi.org/10.1186/s12917-024-04087-8> (査読あり)
 3. Seki F, Yurimoto T, Kamioka M, Inoue T, Komaki Y, Iriki A, Sasaki E, Yamazaki Y. (2025). Development of a non-invasive novel individual marmoset holder for evaluation by awake functional magnetic resonance brain imaging. Journal of Neuroscience Methods, 417, 110390. <https://doi.org/10.1016/J.JNEUMETH.2025.110390> (査読あり)
- 3 報告書
 1. 山崎由美子. 科学研究費補助金基盤研究 (A). 遺伝子改変疾患モデルマーモセット評価に向けた自動行動解析システムの開発. 研究成果報告書, 2021-2023, 研究分担者.
- 4 学会等研究発表
 1. 山崎由美子・川原井晋平・酒井康弘・入来篤史 (2025). 胃気腫症および腸管気腫症を呈したマーモセット十二指腸拡張症の2事例. 第14回日本マーモセット研究会大会 (東京, 1.28-1.29)
 2. 小林敦・池田和仁・山口誠貴・木村公鴻・入来篤史・山崎由美子 (2025). 自閉症スペクトラム症様症状を呈するマーモセットにおける腸内細菌叢. 第14回日本マーモセット研究会大会 (東京, 1.28-1.29).
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本動物心理学会, 日本神経科学学会, 日本マーモセット研究会 (世話人), 日本実験動物学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. Animal cognition, reviewer
- 6 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 市民向け公開講座 アゴラ・さいころじい, 日頃の困りごとを『心理学』で解決, 判断に迷ったらー意思決定の心理学, 新潟医療福祉大学 心理・福祉学部 心理健康学科主催, 朱鷺メッセ, 5.19.
 - 2) 公的機関 (官公庁等) の審議会, 委員会等の委員

1. 日本学術会議・連携会員, 日本学術会議・ICLAS分科会 (幹事), 日本学術会議・ワイルドライフサイエンス分科会
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2022, 科学研究費補助金基盤研究 (B), 腸内細菌叢を介した社会行動調整技術の開発, 研究代表者
 2. 2024, 公益財団法人山田科学振興財団, 霊長類の行動-環境-脳-消化管の長期的相互関係の解明, 研究代表者
 3. 2024, 一般社団法人予防衛生協会, 野生生態を参考にしたコモンマーモセットの食餌管理法, 研究代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 国立研究開発法人理化学研究所, 客員主管研究員, 2024.4-2025.3.
- 8 学内委員会活動 動物実験委員会, 化学物質管理委員会, 発達科学センター あたま×こころ×からだ 発達ラボ (センター長)

氏名: 野村 照幸

- 1 研究題目 精神科医療におけるクライシス・プランのエビデンス構築に関する研究, 更生保護分野におけるクライシス・プランの研究, 医療観察法病棟の機能改善に関する研究, 医療観察法通院処遇におけるPPI (Patient and Public Involvement) 研究
- 2 著書
 1. 狩野俊介, 野村照幸 (編著). 危機がチャンスに変わる クライシス・プラン入門. 東京: 中央法規; 2024: 1-244頁.
- 3 論文
 1. 野村照幸. 医療観察法における対象者中心の多職種チーム支援を目指して: スキル, 姿勢, そして当事者視点の探求 - シンポジストの発表を受けての指定発言 -. 司法精神医学会; 2024; 19(1): 38-44.
 2. 大越拓郎, 阿部義隆, 樋掛尚文, 村山裕子, 阿部かおり, 野村照幸, 佐久間寛之. 性嗜好障害を対象としたグループプログラムの報告: 開始から1年9ヶ月を振り返って. 日本アルコール関連問題学会雑誌; 2024年; 26(1): 142-145. (査読あり)
- 4 報告書
 1. 竹田康二, 河野稔明, 小池純子, 本村啓介, 野村照幸, 久保彩子, 八木深, 仲谷佳高, 橘高一, 安田新, 村田昌彦, 津久江亮太郎, 東健太郎, 蕪木雅士, 近藤忠之, 新田斉久, 久保田涼太郎, 小居秀紀, 津野良子, 保谷岳彦. 通院処遇モニタリングシステムの構築に関する研究. 令和6年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)) 医療観察法における退院後支援に資する研究 分担研究報告書. 2025年3月; 11-23. (分担)
 2. 村杉謙次, 平林直次, 柏木宏子, 竹田康二, 鈴木敬生, 島田明裕, 津田哲也, 塚田浩行, 山元直道, 壁屋康洋, 高野真弘, 中辻望来, 浅野琴美, 本村啓介, 藤崎直人, 久保彩子, 前田佑樹, 前上里泰史, 山城琢也, 賀古勇輝, 高張陽子, 國田幸治, 鈴木未央, 小川太郎, 若林可織, 矢島秀晃, 岩井邦寿, 藤野健一, 宮沢泰裕, 堀内泉辞, 野村照幸, 松浦佳代, 坂田正史, 根岸達也, 小澤光俊. 入院対象者の類型化に基づくクリティカルパスの開発と退院促進. 令和6年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)) 医療観察法における退院後支援に資する研究 分担研究報告書. 2025年3月; 66-81. (分担)
 3. 賀古勇輝, 平林直次, 竹田康二, 塚田浩行, 島田明裕, 津田哲也, 鈴木敬生, 宮崎真理子, 山本輝之, 来住由樹, 田上昭子, 村杉謙次, 立山和久, 三澤孝夫, 熊地美枝, 壁屋康洋, 砥上恭子, 平山泰照, 豊巻敦人, 石川修平, 野村照幸, 佐久間寛之, 菊池安希子, 國田幸治, 下里誠二, 望月和代, 前上里泰史, 吉岡眞吾, 河合孝司, 関口暁雄. 医療観察法に必要な人材育成に関する研究. 令和6年度厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)) 医療観察法における退院後支援に資する研究 分担研

究報告書. 2025年3月;97-107. (分担)

4. 竹田康二, 柏木宏子, 宮崎真理子, 和田舞美, 島田明裕, 島田隆生, 平林直次, 小池純子, 中西清晃, 阿部真貴子, 岡野茉莉子, 久保彩子, 野村照幸, 高尾碧, 松田太郎. PPI (Patient and Public Involvement) の視点を取り入れた地域司法精神医療制度の開発. 包括的精神保健サービスを実現するための協働のあり方と人材育成に関する研究: 令和6年度国立精神・神経医療研究センター精神・神経疾患研究開発費, 分担研究報告書. 2025年3月;10-11. (分担)

5 学会等研究発表

1. 本村啓介, 坂野裕和, 野村照幸, 藤崎直人, 山田亮太, 笹川夏美, 村上優. 薬物療法をめぐる対立のために長期化した医療観察法入院処遇の一例. 第20回日本司法精神医学会 (日本・東京), 2024.5.24.
2. 野村照幸, 小池純子, 宮崎真理子, 和田舞美, 島田隆生, 竹田康二. 医療観察法通院処遇における指定通院医療機関・管理者の抱える困難感とニーズに関するアンケート調査. 第20回日本司法精神医学会 (日本・東京), 2024.5.24.
3. 本村啓介, 坂野裕和, 野村照幸, 藤崎直人, 山田亮太, 笹川夏美, 村上優. 薬物療法をめぐる対立のために長期化した医療観察法入院処遇の一例. 第19回医療観察法関連職種研修会 (日本・栃木), 2024.7.19.

6 学会活動

- 1) 所属学会 新潟県臨床心理士会, 新潟県公認心理師会, 日本社会精神医学会, 日本司法精神医学会, 日本臨床心理士会 (司法矯正領域委員会・委員), 日本心理臨床学会, 日本社会福祉学会, 日本犯罪学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本心理臨床学会, 日本心理臨床学会第43回大会, 司会 (事例検討), 東京, 2024.8.23.
 2. 医療観察法関連職種会, 第19回医療観察法関連職種研修会, 座長, 宇都宮, 2024.7.19.

7 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 人付き合いに困ったら・対人関係の心理学-, 講師, 新潟医療福祉大学 心理・福祉学部 心理健康学科 主催 (後援: 新潟市教育委員会・新潟県教育委員会), アゴラ・さいころじい, 市民向け公開講座, 朱鷺メッセ, 2024.5.19.
 2. クライシス・プランWEBセミナー〜臨床から学ぶプラン作り〜, クライシス・プラン (CP-J) を作ってみよう! 使ってみよう! -臨床編-, 講師, 住友ファーマ株式会社, 医療関係者, オンライン, 2024.5.27.
 3. 精神WEBセミナー「クライシス・プラン」, クライシス・プランを実践して, コメンテーター, 住友ファーマ株式会社, 医療関係者, オンライン, 2024.5.29.
 4. 第120回 肥前セミナー, 危機がチャンスに変わる! サクッと学ぶクライシス・プランの基礎から実践まで, 講師, 肥前精神医療センター, 医療関係者, 肥前精神医療センター, 2024.6.10.
 5. 信頼関係を築くコミュニケーション〜クラス運営にも活かせる心理学〜, 講師, 南魚沼市役所保健部 保健課, 令和6年度南魚沼自殺予防対策事業「相談対応スタッフ研修会」, 南魚沼市中央公民館, 市内小中学校の児童生徒の相談支援に関わる教職員および関係機関職員対象, 2024.7.30.
 6. 株式会社サンブリッジ 社員研修会, クライシス・プラン研修①, 講師, 株式会社サンブリッジ, 社員, オンライン, 2024.8.26.
 7. 司法精神医療等人材養成研修, クライシス・プラン, 講師, 肥前精神医療センター, 医療関係者, オンライン, 2024.8.28.
 8. ケース支援の見立て・考え方について〜ケース・フォーミュレーションを学ぶ〜, 講師, 燕市社会福祉課, 令和6年度 地域生活支援拠点等整備授業に関する研修, 燕市役所, 地域生活支援拠点等登録事業者の職員, 2024.9.3.
 9. 株式会社サンブリッジ 社員研修会, クライシス・プラン研修②, 講師, 株式会社サンブリッジ, 社員, オンライン, 2024.9.30.
 10. 指定入院医療機関従事者研修会, クライシス・プラン, 講師, 肥前精神医療センター, 医療関係者,

オンライン, 2024.10.10.

11. 第11回社会復帰調整官専修科研修, クライシスプランの作成, 講師, 法務総合研究所, 社会復帰調整官, 法務省, 2024.10.18.
12. 令和6年度 第5回支部研修会, クライシス・プランの基礎・活用方法, 講師, 日本精神科看護協会福島県支部, 看護師, オンライン, 2024.10.26.
13. クライシス・プランについて, 講師, 日本精神科看護協会 和歌山県支部, 日本精神科看護協会 和歌山支部 研修会, 和歌山市内, 精神科看護師対象, 2024.11.9.
14. 新潟県心神喪失者等医療観察制度運営連絡協議会, 医療観察法医療における内省について, 講師, 新潟保護観察所, 関係職員, 新潟保護観察所, 2024.11.25.
15. 令和6年度処遇困難事例・自殺対策研修, 医療観察法処遇における命をつなぐ支援: 自殺のリスクアセスメントと対応実践, 講師, 法務省, 医療・矯正関係者, 法務省, 2024.12.17.
16. 指定通院医療機関従事者研修会, クライシス・プラン, 講師, 肥前精神医療センター, 医療関係者, オンライン, 2024.12.18.
17. 板橋区精神科医療機関間情報交換会, 支援に役立つクライシスプランの活用を学ぶ, 講師, 板橋区役所 健康推進課, 医療関係者, 板橋区, 2024.12.20.
18. 令和6年度第2回地域援助推進協議会, 医療観察法と心理社会的支援について-クライシス・プランを中心に-, 講師, 新潟少年鑑別所, 援助関係者, 新潟少年鑑別所, 2025.1.21.
19. 地域援助活動・事例検討会, 事例検討会, 助言・指導, 新潟少年鑑別所, 援助関係者, 新潟少年鑑別所, 2025.1.23.
20. 依存症に関する調査研究事業, 更生保護施設を退所した後の当事者を支援する・マイライフプランに基づいた回復支援の提案-, 講師, 筑波大学医学医療系 森田展彰, 医療・福祉関係者, オンライン, 2025.1.24.
21. 令和6年度 院内研修会, クライシス・プラン-基礎から実践まで-, 講師, 群馬県立精神医療センター, 院内スタッフ, 群馬県立精神医療センター, 2025.2.2.
22. こころのゲートキーパー養成研修会, 自殺予防を念頭においたアセスメントと支援方法〜生きることを支えるための視点について〜, 講師, 三条市福祉保険部健康づくり課, 専門職, 三条市, 2025.3.11.
23. 第4回くまもとチーム医療セミナー, 誰でも実践できる! クライシス・プランを作ってみよう, 使ってみよう 基礎編, 講師, 住友ファーマ株式会社, 医療関係者, 熊本, 2025.3.12.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター, 重度精神疾患標準的治療法確立事業運営委員会ワーキンググループ（委員）

3) 職能団体（協会、士会等）の委員

日本臨床心理士会（司法矯正領域会委員・委員）

8 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2019年度, 基盤研究 (C), 精神障害者の地域生活支援におけるクライシス・プランの実践と研修プログラムの開発, 日本学術振興会 科学研究費助成事業, 研究分担者
2. 2023年度, 基盤研究 (C), 精神医療における非自発的入院の防止に向けたクライシス・プランの効果に関する研究, 日本学術振興会 科学研究費助成事業, 研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 新潟産業大学, 他者理解と信頼関係, 2021.10-現在.
2. 新潟産業大学, 人間の理解（心理と行動）, 2021.4-現在.
3. さいがた医療センター非常勤講師・客員研究員, 2024.4-現在.

9 学内委員会活動 広報委員会, 国際交流委員会

氏名：橋本 照男

- 1 研究題目 子どもの学習と記憶の発達とその神経基盤の解明
- 2 著書
 1. Hashimoto T. Dyslexia in Many Languages. 1st Edition. Abingdon: Routledge; 2024: 100-111.
- 3 論文
 1. Ryoke R, Hashimoto T, Kawashima R. Multiple stressors induce amygdalohippocampal volume reduction in adult male rats as detected by longitudinal structural magnetic resonance imaging. Biological Psychiatry Global Open Science. 2024; 4(5): 100334. (査読あり)
 2. Yamaya N, Hashimoto T, Ikeda S, Denilson Brilliant, Tsujimoto M, Nakagawa S, Kawashima R. Preventive effect of one-session brief focused attention meditation on state fatigue: Resting state functional magnetic resonance imaging study. NeuroImage, 297: 120709. (査読あり)
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本心理学会
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. アボラ・さいころじい 日頃の困りごとを「心理学」で解決!、「あっ、忘れてた」を防ぐには 日常的な記憶の心理学, 講師, 心理健康学科, 一般市民, 朱鷺メッセ, 2024.10.12.
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 基盤研究C, 発達期の記憶に脳由来神経栄養因子の遺伝子多型が与える影響とその脳内基盤の解明, 研究代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 東北大学加齢医学研究所, 応用脳科学, 2024.7.19-7.20.
- 7 学内委員会活動 教務委員会, 図書館・学習支援委員会, 同窓会・生涯学習推進連携委員会, 発達研究センター

氏名：松本 京介

- 1 研究題目 精神分析学, 力動的的心理療法, 夢の心理学的研究, 臨床心理的地域援助(精神科デイケア, スクールカウンセリング), 喪の仕事
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本心理臨床学会, 日本心理劇学会, 日本精神衛生学会, 日本質的心理学会, 新潟医療福祉学会
- 3 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. にいがた母の会子育て講座, 子どもを抱える環境のために大人ができること, 講師, にいがた母の会, 村上市・新発田市・新潟市・長岡市の保健師・保育士・特別支援学校職員(15名), イクネスしばた, 2024.7.30.
 2. 子育て学習出前講座, 家庭教育の大切さ, 講師, 新潟市教育委員会, 保護者(58名), 新潟市立小須戸小学校, 2024.10.31.
 3. 新潟県児童厚生員等基礎研修会, 児童の発達理論, 講師, 新潟県児童館・児童クラブ連絡協議会, 児童厚生員および放課後児童支援員現任者(62名), 新潟県庁, 2024.11.29.
 4. 本興寺こども園職員研修, 子どもを抱える環境のために大人ができること, 講師, 社会福祉法人大湊福祉会本興寺こども園, 職員と関係者(11名), 本興寺こども園, 2024.12.3.
 5. ストレスマネジメント研修, ストレス及びメンタルヘルスの理解, 講師, 新潟県社会福祉協議会, 社会福祉施設・事業所に勤務する福祉関係職員(101名), 新潟ユニゾンプラザ, 2024.12.13.

2) 社会活動への参加協力

1. 市ヶ谷ひろぎクリニック、音楽プログラムに関する業務、音楽プログラム担当者、東京都・市ヶ谷ひろぎクリニック精神科デイケア、2024.11.9.
2. にいがた母の会、心理カウンセリング業務、心理カウンセラー、新潟市・にいがた母の会、2024.4.1-2025.3.31.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員

新潟市精神保健福祉審議会（委員）

- 4 学内委員会活動 大学院委員会、教務委員会、社会連携推進センター運営委員会、学術委員会、学会誌編集委員会、発達科学センターあたま×こころ×からだ 発達ラボ（研究員）

氏名：小林 なぎさ

- 1 研究題目 ブリーフセラピーに関する研究、慢性疼痛に関する研究

2 著書

1. 小林なぎさ；安藤千晶編，第2章3節「痛みを主症状とする身体症状症」，第2章4節「患者の家族支援に役立つブリーフセラピー」，事例から学ぶはじめての慢性疼痛ケア：長引く痛みのケアはいつもの看護でできる，1版，東京：シービーアール；2025：83-87, 88-95.

3 論文

1. 齊藤勇紀，小林智，小林大介，三道なぎさ，有川宏幸．保育カリキュラムに即した個別の指導計画が特別な配慮を必要とする子どもの遊びに与えた効果．学校メンタルヘルス（協力学術団体）．2024；27(1)：78-88．（査読あり）
2. 李在櫨，小林智，齊藤勇紀，浅田剛正，藤瀬竜子，小林大介，小林なぎさ．児童養護施設のアフターケアの支援における専門職が抱く課題と背景に関する一考察．新潟青陵学会誌．2024；17(2)：20-26．
3. 鈴木皐平，大友篤，米沢瑞穂，大澤幸一，佐藤亜莉奈，藤原航太，小林なぎさ，内山彩香，伊達久．慢性疼痛診療における心理師との連携の重要性について 理学療法士の立場から．慢性疼痛．2024；43(1)，19-23．

4 報告書

1. 三道なぎさ．若手研究，うつ病者を抱える家族を対象とした支援プログラムの開発と効果の検討，研究成果報告書，2018-2023，研究代表者

5 学会等研究発表

1. 小林なぎさ，飯澤和恵，大友篤．東北ブロック痛みセンターとの連携により，慢性疼痛患者のアドヒアランスが向上した一例．第17回日本運動器疼痛学会（協力学術団体）（東京都千代田区），2024.11.30-12.1.
2. 小林なぎさ，田中荘，大友篤，大澤幸一，鈴木皐平，内山彩香，藤原航太，伊達久．両足裏の慢性疼痛に対してブリーフセラピーが有効であった一症例．第54回日本慢性疼痛学会（仙台市），2025.2.22-2.23.
3. 小林なぎさ．慢性疼痛診療における公認心理師の役割．第54回日本慢性疼痛学会（仙台市），2025.2.22-2.23．【シンポジウム】

6 学会活動

- 1) 所属学会 日本心理臨床学会，日本家族心理学会，日本ブリーフセラピー協会，日本慢性疼痛学会，日本カウンセリング学会，日本運動器疼痛学会，日本ペインクリニック学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本ブリーフセラピー協会，第16回学術会議口頭発表，座長，新潟市，2024.8.31-9.1.

7 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 厚生労働省R6年度 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北ブロック，慢性疼痛の心理的アセスメント，講師，仙台ペインクリニック，リハビリテーション職種，仙台市，2024.9.8.
2. アゴラ・さいころじい，日頃の困りごとを「心理学」で解決！，講師，新潟医療福祉大学心理・福祉

学部心理健康学科，一般市民，新潟市，2024.10.12.

3. 厚生労働省R6年度 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北ブロック，山形県WEB勉強会 ケースカンファレンスから学ぶ慢性疼痛－心理師の立場から－，講師，山形大学医学部整形外科学講座，慢性疼痛に関わる医療従事者，山形市，2024.10.31.
 4. 厚生労働省R6年度 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北ブロック，山形県WEB勉強会 ケースカンファレンスから学ぶ慢性疼痛－30代前半の慢性疼痛の症例－，講師，山形大学医学部整形外科学講座，慢性疼痛に関わる医療従事者，山形市，2024.11.28.
 5. 厚生労働省R6年度 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北ブロック，慢性疼痛患者の心理的アプローチ，講師，八戸市立市民病院，慢性疼痛に関わる医療従事者，オンライン，2025.3.2.
- 8 学内委員会活動 個人情報保護委員会，健康管理センター運営委員会，メンタルヘルス支援室委員

氏名：千葉 陽子

- 1 研究題目 アスリートの攻撃性に関する研究，スポーツカウンセリングに関する研究
- 2 学会等研究発表
 1. 千葉陽子，スポーツにおける攻撃性研究の動向と今後の課題，東北心理学会・第77回大会（仙台市），2024.8.30.
 2. 山田快・豊田隼・千葉陽子・大久保隆，若手・新参スポーツ心理学者のネットワークを拡充させる，日本スポーツ心理学会，第51回大会（広島市），2024.9.27.
 3. 千葉陽子，競技引退をテーマとした女性トップアスリートとの面接過程，日本臨床心理身体運動学会・第26回大会（宮崎市），2024.12.14.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 東北心理学会，日本スポーツ心理学会，臨床心理身体運動学会，新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本スポーツ心理学会，資格委員会部門員（社会連携部門に関わる業務）
 2. スポーツ心理学研究，査読
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度新潟県スポーツ指導者研修会，選手を理解し，支える－スポーツ心理学から学ぶ選手との関わり方，講師，新潟県競技スポーツ課，スポーツ指導者，新潟ユニゾンプラザ，2025.2.24.
 2. にいがたスポーツタレント発掘・育成事業・専門的な講師による小学生高学年のためのメンタル講習，新潟県，小学4－6年生及びその保護者，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.3.15.
 - 2) 社会活動への参加協力
 1. 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，サポート事業講師（スポーツカウンセリング），2024.8.6-2025.3.31.13回実施.
 2. 日本卓球協会・2024年スポーツ振興くじタレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業（U-10，U-15）東海・北信越，メンタル指導（講義）と個別相談，柏崎総合体育館，2024.10.18.
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2020年度，若手研究，アスリートの攻撃性を競技発揮に変換するMTプログラムの開発，研究代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 宮城学院女子大学，卒業研究Ⅰ・Ⅱ，2024.4.1-2025.3.31.
- 6 学内委員会活動 スポーツカウンセリング研究センター（研究員），FD/SD委員会，就職センター運営委員会，安全衛生委員会

氏名：領家 梨恵

- 1 研究題目 強いストレスが後のストレス反応増大を引き起こす生物学的メカニズムの解明，老齢マウスを用いた加齢がもたらす行動と脳形態変化の相関解明
- 2 論文
 1. Hiramoto T, Sumiyoshi A, Kato R, Yamauchi T, Takano T, Kang, G., Esparza, M., Matsumura B, Stevens, L.J., Hiroi, Y.J., Tanifuji T, Ryoke R, Nonaka H, Machida A, Nomoto K, Mogi K, Kikusui T, Kawashima R, Hiroi N. Highly demarcated structural alterations in the brain and impaired social incentive learning in Tbx1 heterozygous mice. Mol Psychiatry. 2024 Oct 27; 1-11. (review)
 2. Ryoke R, Hashimoto T, Kawashima R. Multiple Stressors Induce Amygdalohippocampal Volume Reduction in Adult Male Rats as Detected by Longitudinal Structural Magnetic Resonance Imaging. Biological Psychiatry Global Open Science. 2024 Sep 1;4(5): 100334. (review)
 3. Otani M, Kushida Y, Kuroda Y, Wakao S, Oguma Y, Sasaki K, Katahira S, Terai R, Ryoke R, Nonaka H, Kawashima R, Saiki Y, Dezawa, M. New rat model of spinal cord infarction with long-lasting functional disabilities generated by intraspinal injection of endothelin-1. Stroke Vasc Neurol [Internet]. 2024 Jun 21 (review)
 4. 領家梨恵. 子育て関連ストレスとそれから得られた研究方略. 動物心理学研究, 2024, 74(1), 65-66. (review)
- 3 報告書
 1. 領家梨恵. 若手研究, 長期的ストレス障害を示す神経基盤解明: 免疫内分泌に注目して, 科学研究費助成事業研究成果報告書, 2019-2023, 研究代表者
- 4 学会等研究発表
 1. 領家梨恵・川島隆太. ラットのストレス誘発性恐怖反応増強の薬理的阻害が脳形態変化に及ぼす影響. 日本生理心理学会・第42回日本生理心理学会大会 (横浜・日本), 2024.5.25.
 2. Ryoke R, Kawashima R. The relationships between pro-inflammatory cytokines and enhanced fear response following multiple stress in male rats. 日本動物心理学会・The 84th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology (愛知・日本), 2024.10.26.
 3. Ryoke R. Multiple Stressors Induced Amygdalohippocampal Volume Reduction and Long-Lasting Fear Responses in Adult Male Rats. 5th International Conference on Future of Preventive Medicine and Public Health, virtual, 2025.3.20. 【特別講演】
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本動物心理学会 (編集委員, 渉外幹事), 日本生理心理学会, 日本神経精神薬理学会, 日本神経科学学会, Society for Neuroscience, 日本行動神経内分泌研究会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. 日本動物心理学会, 動物心理学研究特集号「子育てする動物と動物心理学研究者たち」, ゲストエディター・査読, 第73巻第2号 (2023) - 第74巻第1号 (2024)
- 6 社会活動
 - 1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 小冊子, 東北大学新聞 (学友会報道部), 10月号8面, 2024.10.1.
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2023年度, 科研費基盤 (B), 認知症におけるオートファジー障害の病態解明とPADREによる超早期画像診断法の開発, 研究分担者
 2. 2024年度, 科研費基盤 (C), 新生仔期グルタミン酸NMDA受容体遮断が脳内ネットワーク形成に及ぼす影響の解明, 研究分担者
 - 2) 学外兼務講師等

1. 東北大学加齢医学研究所, 2024.4.1-2025.3.31.
- 8 学内委員会活動 科研費対策委員会, 国家資格・資格試験対策委員会

氏名：溝江 唯

- 1 研究題目 自閉スペクトラム症児の言語表現の特徴, 言語・コミュニケーション発達支援法に関する研究
- 2 論文
 1. 溝江唯・大伴潔. 機会利用型指導法を用いた貸し借りのスキル獲得の促進: 知的発達に遅れない自閉スペクトラム症児を対象として. 発達障害支援システム学研究, 2024, 23(1): 13-21. (査読あり)
- 3 学会等研究発表
 1. 溝江唯・大伴潔. 幼児はどのようにして登場人物の視点を明確にして語るか: 定型発達児と自閉スペクトラム症児を比較した検討. 第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 (東京・日本), 2024.6.2.
 2. 溝江唯・大伴潔. 自閉スペクトラム症児の自他の関係性を表す言語表現の特徴動詞と中間形態素に着目した検討. 日本発達心理学会第36回大会 (東京・日本), 2025.3.4.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本発達心理学会, 日本コミュニケーション障害学会, 日本特殊教育学会, 日本音声言語医学会, 日本発達障害支援システム学会, 新潟医療福祉学会
- 5 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟県長岡中央児童相談所 要保護児童対策地域協議会地区別会議研修, CAREプログラムによる保護者支援について, 講師, 長岡県児童相談所, 地域の相談窓口担当・児童相談所職員等, 新潟県長岡市, 2024.11.27.
 2. 第1回CAREワークショップin Niigata, CAREワークショップ, 講師, 発達科学センター, 地域の支援者, 新潟医療福祉大学, 2025.3.8.
 - 2) 職能団体(協会, 士会等)の委員
臨床発達心理士会新潟支部立ち上げ準備会, 役員(研修担当)
- 6 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2024年, 科研費研究活動スタート支援, 自閉スペクトラム症児の自他の関係性を表す言語表現に関する検討, 研究代表者
- 7 学内委員会活動 入試委員, 高等教育推進委員, 発達科学センター(プロジェクト研究センター)

氏名：木村 能成

- 1 研究題目 子どもの感情調整の発達に関する研究, 愛着とメンタライゼーションに基づくグループセラピーの研究, 里親に対する心理支援に関する研究
- 2 著書
 1. 木村能成, 那須里絵; 相田信男, 梶本浩史, 大橋良枝編. 第9章 教育相談機関におけるグループの機能. 学校でグループ・アプローチを活用する手引き—スクールカウンセラー・教職員のためのメソッド(ブックレット: 子どもの心と学校臨床10). 1版. 東京: 遠見書房; 2025年: 126-136.
- 3 論文
 1. 西村馨, 木村能成. 不登校の女子中学生のスクールカウンセリング—メンタライジングを目指して—. 精神療法. 2024: 50(6): 104-115.
- 4 学会等研究発表
 1. 加本有希, 那須里絵, 木村能成, 塚瀬将之. グループの視点で子どもの支援を考える—子どもの支援に関わる支援者のグループ力動の視点から—. 日本心理臨床学会第43回大会(横浜市), 2024.9.29.
 2. 梶本浩史, 相田信男, 大橋良枝, 加藤隆弘, 鎌田明日香, 木村能成, 高富栄, 菅武史, 那須里絵, 野村学,

廣瀬真理, 松尾真規子. 学校〇グループ―グループが生まれるとき―. 日本集団精神療法学会 第42回学術大会 (高崎市), 2025.3.22.

5 学会活動

1) 所属学会 日本心理臨床学会, 日本集団精神療法学会, 新潟医療福祉学会

2) 学会等でのその他の活動

1. 日本子ども家庭福祉学会第25回大会, 高校生・大学生プログラム, 演題査読及び当日のコメンテーター, 東京都, 2024.6.30.

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度 専門里親研修, 養育演習, 研修講師, 早稲田大学&西日本子ども研修センターあかし, 専門里親, 明石市, 2024.11.2.
2. 自分ってなんだろう? アートセラピーで自分を知ろう!, 講師, ながおか・若者・しごと機構, 一般市民, ミライエ長岡, 2024.12.15.
3. 新潟少年鑑別所事例検討会, 児童虐待への対応について, 研修講師, 新潟少年鑑別所, 鑑別所及び児相職員, 新潟市, 2025.1.23.
4. 新潟少年鑑別所勉強会, 児童虐待への対応について, 研修講師, 新潟少年鑑別所, 少年鑑別所職員・児童相談所職員・区役所職員・警察官, 新潟市, 2025.3.19.

7 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 早稲田大学 人間科学学術院 人間総合研究センター, 2024.5から

8 学内委員会活動 学生委員会, 交通安全委員会, 新潟連携教育推進センター運営委員会, 発達科学センター あたま×こころ×からだ 発達ラボ

氏名: 石割 桂

報告事項なし

7) 医療経営管理学部

(1) 医療情報管理学科

氏名：木下 直彦

1 研究題目 機械学習によるシミュレーション研究, 教育工学, ITスキルに関連する研究

2 論文

1. 木下直彦, 渡辺夏樹, 金田稜生, 筒井里帆, 青木翔太, 藤間遼, 波田野瑠菜, 本多勇翔, 岩田歩実, 小海千奏音, 野崎勇凜矢, 小畑拓也, 工藤由紀子, 高野晃輔, Ha Le Thi, Zhenghao Yan, 阿部宏史, 伊原利枝, 長部千寿, 瀧口徹. 関東甲信越10都県450市区町村の各種生活利便性関連施設の地理疫学的分布および限界自治体との関連性. health science health care. 2023; 23(?): ??-??. (査読あり)
2. Luong Thi Hai Yen, Kinoshita N, Namizuka A, Minagawa R, Takano K, Kobayashi F, Fukai K, Ishigami K, Takiguchi T. Niigata Journal of Health and Welfare. 2024; 23(2): 45-64. (review)

3 学会等研究発表

1. 青木麻莉亜, 村山潤, 木下直彦, 小林房代, 瀧口徹. アフリカ・ジブチ共和国の地域格差の現状と課題. 新潟医療福祉学会. 2024.11.
2. 大平朋幸, 木下直彦. 小・中学校における児童・生徒のICTに関する意識と教員のICT活用状況の関連. 新潟医療福祉学会. 2024.11.
3. 劉錫琛, 木下直彦. 都道府県における高齢者の孤立死とその防止対策について. 新潟医療福祉学会. 2024.11.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本公衆衛生学会 (会員), 日本口腔衛生学会 (名誉会員), 日本診療情報管理学会 (一般), 日本老年医学会 (一般), 日本老年歯科学会 (一般), 日本国際医療保健学会 (一般), 日本公衆衛生看護学会 (一般), 日本災害看護学会 (一般), 日本精神看護学会 (一般), 日本健康教育学会 (一般)

5 社会活動

- 1) 職能団体 (協会, 士会等) の委員
新潟市医師会SWANネット運営部会, オブザーバー

6 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2022年度 基盤研究 (C) 2022-2024 3種類の国際的疾患に対する特異的予防法に関する国際意識調査. 研究分担者
- 2) 学内部活動の実績
 1. 軽音学部顧問

氏名：鎌田 剛

1 研究題目 医療連携・多職種連携・医療と地域社会との連携 (社会連携), 地域社会の持続可能性

2 学会等研究発表

1. 鎌田剛. 医療が地域社会に価値を生み出すために— 多数事例ケーススタディから得られた共通点. 第26回日本医療マネジメント学会学術総会 (福岡市), 2024.6.21-6.22.
2. 鎌田剛. 連携へのコミットメントをどう高めるか?— ある自治体病院医師の活動履歴から. 第62回全国自治体病院学会 (新潟市) 2024.10.31-11.1.

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本医療マネジメント学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本保健医療福祉連携教育学会, 農村計画学会

4 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等

1. 日本海総合病院看護部クリニカルラダー研修3, リーダーシップ, 講師, 日本海総合病院看護部, 看護師, Web開催, 2025.2.3.
 2. 日本海総合病院看護部クリニカルラダー研修マネジメントラダー, 連携, 講師, 日本海総合病院看護部, 看護師, 日本海総合病院, 2025.2.7.
 3. 第13回WEBセミナー, 新しい連携の時代～医療連携・多職種連携から社会連携へ, 講師, 医療貢献研究会, 医療従事者・MR等, Web開催, 2025.2.18.
- 2) 社会活動への参加協力
1. 鶴岡市小堅地区自治振興会, 福祉祭り, 企画運営, 山形県鶴岡市小堅コミセン, 2024.11.2.
 2. 松浜こども食堂, 学生ボランティアの同行, 学生指導・自らもボランティア, 北区松浜の「しかい食堂」, 2024.12.2.
 3. 鶴岡市小堅地区自治振興会, 親子遊び場こがたランドDIY, 企画・実施, 山形県鶴岡市小堅コミセン, 2025.1.30.
 4. 鶴岡市小堅地区自治振興会, 親子遊び場こがたランド大掃除, 実施, 山形県鶴岡市小堅コミセン, 2025.2.21.
 5. 松浜こども食堂, 学生ボランティアの同行, 学生指導・自らもボランティア, 北区松浜「しかい食堂」, 2025.3.3.
 6. 鶴岡市小堅地区自治振興会, 移住体験型シェアハウス管理運営, 管理運営の実施, シェアハウス&キッチンこがたん, 2024.4.1-2025.3.31.
- 3) 公的機関（官公庁等）の審議会, 委員会等の委員
南庄内緩和ケア推進協議会「庄内プロジェクト」（オブザーバー）
- 5 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, ヘルスケア領域における次世代連携モデルの探索—医療連携・多職種連携から社会連携へ, 研究代表者
 2. 2024年度, 令和7年度新潟市医師会地域医療研究助成, 新潟市在宅医療ネットワーク20団体の活動評価—ドナベディアン・モデルによる連携の構造・過程・結果の分析—, 研究代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 東北公益文科大学大学院, 地域共創研究3（ソーシャルワーク論）, 2024.10.1-2025.3.31.
 2. 開志創造高等学校アントレプレナー専攻, オンデマンド教材作成「医療アントレの世界」, 90分×2コマ分（2024.12.10-12.28）
- 6 学内委員会活動 社会連携推進センター運営委員会

氏名：塚本 徹雄

- 1 研究題目 造血メカニズムの研究, 合計特殊出生率の研究, 医療職の偏在に関する研究, うつ病罹患と関わる性格特性の研究
- 2 論文
 1. Tsukamoto T. The Perceiving Personality Trait and the Risk for Anxiety and Depression. The Journal of Behavioral Health Services & Research, 2025 Apr; 52(2): 367-369. doi: 10.1007/s11414-024-09927-x. (査読あり)
 2. Tsukamoto T. The expression of Galectin-9 correlates with mTOR and AMPK in murine colony-forming erythroid progenitors. European Journal of Haematology, 2024 Oct; 113(4): 416-425. doi: 10.1111/ejh.14249. (査読あり)
 3. 坂井さなえ, 石上和男, 塚本徹雄. 新潟県市町村の合計特殊出生率追跡による高リスク自治体の検出. 新潟医療福祉学会誌, 24巻（2号）, p9-18, 2024年. (査読あり)
- 3 学会等研究発表

1. 塚本徹雄. MBTIのP(知覚)型と抑うつ・不安との関係について—最近の論文データ分析による考察—. 日本パーソナリティ心理学会第33回大会. 2024.10.6, 筑波.
2. 塚本徹雄. ウィキペディア「診療情報管理士」の状況. 第24回新潟医療福祉学会学術集会. 2024.10.26, 新潟.
3. 塚本徹雄. 病院に勤務する医療職種ごとの人口10万人当たり採用比率の東西比較. 第83回日本公衆衛生学会. 2024.10.30, 札幌.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 日本公衆衛生学会, 日本パーソナリティ心理学会, 日本分子生物学会, 日本診療情報管理学会, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学会等でのその他の活動
 1. AIDS (国際誌), 編集活動, 編集委員, 2024.4-2025.3. (継続中)
 2. Frontiers in Cellular and Infection Microbiology (国際誌), 編集活動, 編集委員, 2024.4-2025.3. (継続中)
 3. Vaccines (国際誌), 査読活動, 査読委員, 2024.4-2025.3. (継続中)
 4. Biology (国際誌), 編集活動, 編集委員, 2024.4-2025.3. (継続中)
 5. Cardiovascular Diagnosis & Therapy (国際誌), 査読委員, 2024.5.
 6. Health Science Reports (国際誌), 査読委員, 2024.7.
 7. Pathogens (国際誌), 査読委員, 2024.9.
 8. Journal of Immunology (国際誌), 査読委員, 2024.10.
 9. COVID (国際誌), 査読委員, 2024.10.
 10. Current HIV Research (国際誌), 査読委員, 2024.10.
 11. International Journal of Molecular Sciences (国際誌), 査読委員, 2024.10.
 12. Cureus (国際誌), 査読委員, 2024.10.
 13. Cells (国際誌), 査読委員, 2024.10.
 14. Pharmaceuticals (国際誌), 査読委員, 2024.11.
 15. Current Cardiology Reviews (国際誌), 査読委員, 2024.11.
 16. Life (国際誌), 査読委員, 2024.12.
 17. Infection and Drug Resistance (国際誌), 査読委員, 2024.12.
 18. Viruses (国際誌), 査読委員, 2025.1.
 19. Journal of Inflammation Research (国際誌), 査読委員, 2025.1.
 20. Lymphatics (国際誌), 査読委員, 2025.1.
 21. Community Acquired Infection (国際誌), 査読委員, 2025.2.
 22. Clinical Interventions in Aging (国際誌), 査読委員, 2025.3.
- 5 学内委員会活動 FD・SD推進委員会, 国家試験・資格試験対策委員会

氏名：稲葉 晋

報告事項なし

氏名：柴山 純一

- 1 研究題目 病院の経営診断・改善手法の研究, 早期治癒体制を目指した病院の部門別業務体制と経済性の評価, 病院部門効率化方策の研究
- 2 学会等研究発表
 1. 柴山純一, 工藤陽菜, 内山美優, 北澤桃果, 海津圭太, 宮澤俊斗, 長谷川蓮, 医師の勤務実態, 労働時間に関する分析, 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.
- 3 学会活動

- 1) 所属学会 日本手術医学会（評議員）、日本診療情報管理学会、日本医療・病院管理学会、日本医療情報学会、日本医療マネジメント学会、病院経営管理士会、新潟医療福祉学会
- 2) 学会等でのその他の活動
 1. 新潟医療福祉学会誌査読, 2025.2.
- 4 社会活動
 - 1) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員
新潟県立病院診療材料調達業務委託業者選定委員会委員
- 5 学内委員会活動 入試委員会

氏名：瀧口 徹

- 1 研究題目 1 公衆衛生対策（各種ワクチン、フッ化物利用によるう蝕予防）の受け入れ状況の国際比較, 2 地域集積性（regional clustering）に関する研究：1）全国二次医療圏単位でみたTFR（特殊出生率）の20年間の時系列変動パターンの類型化と地域特性（女性の社会的地位および住民のヘルスリテラシー）にかんする研究 2）全国1,700余の自治体の所謂「限界自治体」地理学的分布と社会経済的現状と近未来の課題に関する研究, 3 自殺企図回避に関する諸効果（パパゲーノ効果等）に関する研究, 4 所謂「健康食品8トクホ、機能性表示食品」の選択, 継続にかんする判断理由に関する研究 5. 児童虐待に関する看護師等のビネット調査（行動変容の潜在因子調査）
- 2 論文
 1. 木下直彦, 渡辺夏樹, 金田稜生, 筒井里帆, 青木翔太, 藤間遼, 波田野瑠菜, 本多勇翔, 岩田歩実, 小海千奏音, 野崎勇凜矢, 小畑拓也, 工藤由紀子, 高野晃輔, Ha Le Thi, Zhenghao Yan, 阿部宏史, 伊原利枝, 長部千寿, 瀧口徹, 関東甲信越10都県450市区町村の各種生活利便性関連施設の地理疫学的分布および限界自治体との関連性. health science health care. 2023; 23(?): ??-??. (査読あり)
 2. Luong Thi Hai Yen, Kinoshita N, Namizuka A, Minagawa R, Takano K, Kobayashi F, Fukai K, Ishigami K, Takiguchi T. Niigata Journal of Health and Welfare. 2024; 23(2): 45-64. (review)
 3. 坂井さなえ, 瀧口徹, 木下直彦. 全国の病院に勤務する診療情報管理士（診療記録管理者）の学術活動に関する現状および課題に関する研究. 日本診療情報管理学会. (印刷中)
- 3 学会等研究発表
 1. ボリビア多民族国におけるHIV/AIDS患者増加の要因分析と対策について, 村山潤, 青木麻莉亜, 久保雅義, 小林房代, 瀧口徹, 新潟医療福祉学会誌, 24(1): 69, 2024.
 2. アフリカ・ジブチ共和国の地域格差の現状と課題, 青木麻莉亜, 村山潤, 木下直彦, 小林房代, 瀧口徹, 新潟医療福祉学会誌, 24(1): 70, 2024.
- 4 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会（理事）、日本公衆衛生学会（会員）、日本口腔衛生学会（名誉会員）、日本診療情報管理学会（一般）、日本老年医学会（一般）、日本老年歯科学会（一般）、日本国際医療保健学会（一般）、日本公衆衛生看護学会（一般）、日本災害看護学会（一般）、日本精神看護学会（一般）、日本健康教育学会（一般）
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2022年度 基盤研究（C）2022-2024 3種類の国際的疾患に対する特異的予防法に関する国際意識調査. 研究 代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 神奈川歯科大学（客員教授）、疫学統計, 2024.4-2025.3.
 2. 新潟看護大学大学院博士課程（非常勤講師）、公衆衛生政策論, 2024.5-7.
- 6 学内委員会活動 学術委員会（委員）

氏名：鈴木 健司

1 研究題目 炎症性腸疾患の新規治療法開発

2 論文

1. Suzuki K, Sameshima Y, Yokoyama J, Terai S, Yoneyama H, Atreya R, Neurath MF, Hibi T and Asakura H. Add-on multiple submucosal injections of the RNA oligonucleotide GUT-1 to anti-TNF antibody treatment in patients with moderate-to-severe ulcerative colitis: an open-label, proof-of concept study. *Inflammation and Regeneration* (2024) 44: 22<https://doi.org/10.1186/s41232-024-00332-7>

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本内科学会, 日本消化器病学会 (評議員), 日本消化器内視鏡学会, 日本消化器免疫学会 (評議員), アメリカ消化器病学会 (フェロー), アメリカ内科学会

氏名：石浦 章一

1 研究題目 アルツハイマー病の治療

2 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 盛岡第一高校 探究から大学への学びへ, 高校2年生 2024.6.5.
2. 金城学院大学 アルツハイマー病, 大学1年生 2024.7.11.
3. 三鷹市西むらさき学苑 長寿のための栄養摂取, 2024.9.24.
4. 逗子開成高校 高校の探究活動がなぜ大学で役立つのか, 2024.10.2.
5. 福岡大学大濠中学校 探究を始めよう, 2024.10.5.
6. 黒沢尻北高校 高校の探究活動がなぜ大学で役立つのか, 2024.11.6.
7. 大妻女子高校 探究活動を大学での学問につなげるために, 2024.11.19.
8. 佐倉市国際文化大学 老化を科学的にチェックする, 2024.11.30.
9. 加藤学園高校 探究活動を始めよう, 2024.12.10.

3 その他の教育研究活動

1) 学外兼務講師等

1. 東京大学, 生命科学, 2024.4-7.
2. 京都先端科学大学, 未来展望ゼミ, 2024.4-2025.1. (リモート)
3. 京都先端科学大学, 科学技術の革新, 2024.4-2025.1. (リモート)
4. 同志社大学, サイエンスナウ7, 2024.12.

氏名：井上 弘樹

1 研究題目 医療の判断と意思決定に関する研究 (医学統計学・計算数学・保健経済学), 健康影響ならびに医療の質の評価と仮説探索ならびに仮説検証に関する研究 (疫学), 薬剤有害事象のシグナル検出に関する研究 (薬剤疫学), 医療情報のデータマネージメントに関する研究 (医療情報学), ベイズ推測のためのモデリング作成支援ツールの開発, ベイズ統計学的手法を視覚化した医学判断ツールの開発 (医学統計学・医学判断学)

2 著書

1. 井上弘樹. 結局ベイズって何ができるの? ベイズ流医療統計. 初版. 東京: 診断と治療社; 2024: 1-165.

3 論文

1. Uchiyama H, Uchiumi C, Inoue H. Subjective Happiness among Adults in Japan during the COVID-19 Pandemic: Socioeconomic Status, Psychosocial Variables, and Loneliness as Predictors. *CSRDA Discussion Paper Series*. 2024; 94:1-15.

4 学会等研究発表

1. Uchiyama H, Inoue H. Bootstrapping: Its concepts and applications in statistical analysis. The 13th Annual Meeting of the Japan Association of International Liberal Arts (held at Tokyo City University, Setagaya Campus), 2025.3.15.
2. 井上弘樹, 内山八郎. 自作ベイズ推測視覚化ツール「B I T」を.NETに移行させる試みについて. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本医療情報学会, 日本国際教養学会, 日本ソフトウェア科学会, 新潟医療福祉学会, 日本社会薬学会, 日本薬剤疫学会, 日本公衆衛生学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本消化器病学会, 日本内科学会, 信州公衆衛生学会
- 6 学内委員会活動 入試委員会, 健康管理センター運営委員会, 安全衛生委員会, メンタルヘルス支援室委員

氏名：寺島 和浩

- 1 研究題目 3次元運動解析のための解析システムの開発, 情報リテラシー教育に関する研究, データサイエンスリテラシーレベルに関する研究
- 2 学会活動
 - 1) 所属学会 日本機械学会, バイオメカニズム学会, 日本臨床バイオメカニクス学会, 日本生体医工学会, 日本ロボット学会, 電子情報通信学会, 日本生活支援工学会, 新潟医療福祉学会
- 3 学内委員会活動 人権委員会, 個人情報保護委員会, 高等教育推進センター運営委員会

氏名：平井 克之

- 1 研究題目 参考文献文字列の書誌同定に関する新規技術の開発
- 2 学会等研究発表
 1. 平井克之, 金沢輝一, 林貴宏. 日本語論文の引用文献の書誌同定に用いるデータベースの検討. リサーチ・アドミニストレーション協議会 第10回年次大会 2024.10.
 2. 稲嶺達夫, 平井克之. 科研費課題における異分野共同研究の成果分析. リサーチ・アドミニストレーション協議会 第10回年次大会 2024.10.
 3. 長谷川佐知子, 稲嶺達夫, 平井克之, 永島伸多郎. 科研費区分からみた学際的研究と学内グラントの役割－U-go グラントと科研費の比較考察－. リサーチ・アドミニストレーション協議会 第10回年次大会 2024.10.
 4. 北地翔哉, 林貴宏, 金沢輝一, 平井克之. 書誌同定における書籍DBと論文DBの統合モデルの提案と評価. 情報処理学会 第87回全国大会 2025.3.
 5. 吉本葵, 林貴宏, 金沢輝一, 平井克之. 書誌同定における同一著作問題の解決へ向けたグラフデータベースの活用. 情報処理学会 第87回全国大会 2025.3.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 情報科学技術協会 (シンポジウム実行委員), リサーチ・アドミニストレーション協議会 (ジャーナル編集委員, 年次大会セッション実行委員), 情報処理学会, 人工知能学会, 新潟医療福祉学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 情報科学技術協会, 情報プロフェッショナルシンポジウムINFOPRO2024, シンポジウム実行委員, 東京, 2023.7.4-7.5.
 2. リサーチ・アドミニストレーション協議会, 第10回年次大会, 年次大会セッション実行委員, 沖縄県国頭郡恩納村, 2024.10.16-10.17.
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2024年度, 科学研究費補助金基盤研究 (C), 新規書誌同定技術による和文の引用データベースの構築, 研究代表者

2. 2024年度、国立情報学研究所公募型共同研究自由提案公募型、和文の大規模引用文献データベース構築に向けた論文と書籍の同時同定技術の開発、研究代表者
- 2) 受賞、学位取得、資格取得
データサイエンティスト検定リテラシーレベル（2024.4.15）
- 3) 学外兼務講師等
 1. 事業創造大学院大学、IT基礎技術、2024.4.1-9.30.
 2. 文部科学省科学技術・学術政策研究所 客員研究員、2024.4.1-2025.3.31.
 3. 新潟大学 研究統括機構 客員研究員、2024.4.1-2025.3.31.
- 5 学内委員会活動 科研費対策委員会、URA推進委員会（副委員長）、IR戦略委員会、大学院教育研究環境委員会、動物実験委員会

氏名：坂井 さなえ

- 1 研究題目 診療情報（録）管理士の関連学術活動に関する現状および課題に関する研究
- 2 論文
 1. 坂井さなえ、石上和男、塚本徹雄、新潟県市町村の合計特殊出生率追跡による高リスク自治体の検出、新潟医療福祉学会誌、2024；24（2）9-18、（査読あり）
 2. 坂井さなえ、瀧口徹、木下直彦、全国の病院に勤務する診療情報管理士（診療記録管理者）の学術活動に関する現状および課題に関する研究、日本診療情報管理学会、（印刷中）（査読あり）
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会、日本診療情報管理学会、日本診療情報管理士学会、日本医療秘書学会、日本公衆衛生学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 坂井さなえ、野本瑞帆、石黒椎奈、高野ななか、山田紗愛、吉村さくら、五味ふたば、診療情報管理士認定試験の効果的な学習方法に関する研究、第50回日本診療情報管理学会大会、福岡市、8.22-8.23.
- 4 学内委員会活動 国家試験・資格試験対策委員会

氏名：谷 賢太郎

- 1 研究題目 視覚障がい者向けの救急救命支援アプリケーションの開発、災害避難シミュレーション、視覚障がい者向け入力デバイスの開発
- 2 学会等研究発表
 1. 清野開、谷賢太郎、6点入力方式を用いた携帯端末向け新型デバイスの開発と評価、2025.
 2. 清野開、谷賢太郎、6点入力を用いた新型デバイスのボタンの同時押し数についての考察、2025年電子情報通信学会総合大会、2025.
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 新潟医療福祉学会、電子情報通信学会、日本生活支援工学会、日本ベンチャー学会
- 4 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容
 1. 2021年度、科研費若手研究、六点入力方式を利用したモバイル端末向け新型入力装置の開発、研究代表者
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 新潟国際情報大学（情報処理演習1）、2023.4.1-9.31.
 2. 新潟国際情報大学（情報処理演習2）、2023.10.1-3.31.
- 5 学内委員会活動 教務委員会、新潟連携教育研究センター運営委員会

氏名：市川 明弘

1 研究題目 中小企業の経営に関する研究

2 学会等研究発表

1. 市川明弘, 柳澤亮満, 結城遥菜, 綿貫桃, 我妻唯, 山田莉穂, 渡邊花. 診療所における電子カルテ導入の経済効果, 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市) 2024.10.26.

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本経営診断学会, 日本介護福祉学会, 日本地方自治研究学会, 新潟医療福祉学会

4 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 群馬県中小企業診断士受験講座, 中小企業経営・政策, 講師, 社会人・学生, 高崎商科大学, 2024.4.6, 5.11, 6.15, 2025.3.8.
2. 新潟県中小企業青年中央会知事懇談会, 管工事組合でのSDGs取組推進, 成果発表者, 知事・新潟県中小企業青年中央会会員, ホテルイタリア軒, 2024.7.18.
3. 群馬県中小企業診断士受験講座, 財務・会計(簿記), 講師, 社会人・学生, Zoom開催, 2024.11.23, 11.30.
4. 群馬県中小企業診断士協会医療福祉研究会, 知症対応型共同生活介護の経営支援について, 講師, 群馬県中小企業診断士協会会員, 群馬県公社総合ビル, 2025.3.1.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県中小企業診断士協会広報委員会, 協会広報誌の作成・中小企業診断士を目指す人の情報交換サロンの企画・協会ホームページの運営, 委員, 新潟市・万代市民会等, 2024.4.25, 7.30, 9.26, 11.18, 2025.1.29, 3.6.
2. 新潟県中小企業診断士協会理事会, 組織の運営方針・事業計画の策定・承認・予算・決算の審議と承認・協会行事の企画・運営・関係機関との連携・調整, 理事, 新潟市・新潟グランドホテル等, 2024.5.25, 7.10, 9.11, 12.17, 2025.2.12, 3.19.
3. 中小企業診断士を目指す人のサロン, 診断士を目指す人向けの情報交換・交流会の開催, 企画・運営・司会, 新潟市・万代市民会等, 2024.6.1, 2025.2.1.
4. 新潟市管工事業協同組合, 管工事SDGs推進事業, 指導, 生涯学習センター(クロスパルにいがた)等, 2023.7.24, 8.25, 9.4, 9.19, 10.27, 11.7, 11.15, 12.15, 12.19, 2024.1.29.

3) 職能団体(協会, 士会等)の委員

新潟県中小企業診断士協会(理事, 広報委員)

5 学内委員会活動 就職センター運営委員会

氏名：高野 晃輔

1 研究題目 テキストデータの解析による研究動向分析, 通いの場の介護予防効果・コミュニティ構造分析

2 論文

1. Luong Thi Hai Yen, Kinoshita N, Namizuka A, Minagawa R, Takano K, Kobayashi F, Fukai K, Ishigami K, Takiguchi T. Comparison of environment and attitudes toward childbirth and childcare of women living in the lowest- and highest-TFR (total fertility rate) areas in Japan: synergy analyses of quantitative and qualitative data. Niigata Journal of Health and Welfare. 2024; 23(2): 45-64. (review)
2. Sato N, Takano K, Konishi I, Kobayashi R, Ishigami K, Kinoshita N, Nomura T, Nagai T, Masuda H, Sato D, Uchiyama W, Kanda M. Classification and comparison of the physical characteristics and functions of various age groups of community-dwelling elderly individuals participating in the Kayoi-no-ba program. Journal of physical therapy science. 2024; 36(5): 313-318. (review)

3 学会活動

- 1) 所属学会 日本公衆衛生学会, 日本遠隔医療学会, 言語処理学会, 情報処理学会, 日本診療情報管理学会,

4 社会活動

1) 社会活動への参加協力

1. 有限会社 里の和 放課後等デイサービス ピンポン, 訪問演奏・楽器体験会, 和太鼓部顧問, 葛塚コミュニティセンター, 2024.4.27.
2. 新潟商工会議所, 新潟まつり水上みこし渡御 (依頼演奏), 和太鼓部顧問, みなとぴあ上流付近, 2024.8.10.
3. 新潟商工会議所, 新潟まつり (依頼演奏), 和太鼓部顧問, 古町 本町, 2024.8.11.
4. 豊栄大民謡ながし実行委員会, 豊栄大民謡ながし (依頼演奏), 和太鼓部顧問, 新潟市北区役所前道路, 2024.9.5.
5. 萬代橋誕生祭実行委員会, 萬代橋誕生祭 (依頼演奏), 和太鼓部顧問, 萬代橋, 2024.9.7.
6. 特定非営利活動法人 森の会, 海辺の森フェスティバル (依頼演奏), 和太鼓部顧問, 新潟市北区 海辺の森, 2024.9.28.
7. メディカルケアサービス株式会社, 依頼演奏, 和太鼓部顧問, 愛の家グループホーム新潟坂井, 2024.10.19.
8. 新潟オーガニック連絡協議会, 依頼演奏, 和太鼓部顧問, 新潟ふるさと村, 2024.10.26.
9. 新潟オーガニック連絡協議会, 依頼演奏, 和太鼓部顧問, ヨリネス札の辻広場, 2024.11.10.
10. 新潟万代太鼓振興会, 万代太鼓フェスティバル (依頼演奏), 和太鼓部顧問, 新潟市民芸術文芸会館 りゅうとぴあ, 2024.11.23.
11. 北新潟にじいろコンサート実行委員会, 北新潟にじいろコンサート, 吹奏楽部顧問, 敬和学園高校チャペル, 2024.9.28.
12. 吹奏楽と歌声コラボ実行委員会, クリスマスコンサート, 吹奏楽部顧問, 三条東公民館, 2024.12.15.
13. 三条市中央公民館, 「年末は楽しく歌おう！はじめての大合唱体験講座」における合奏体験者のための伴奏 (依頼演奏), 吹奏楽部顧問, 三条市中央公民館, 2024.12.21.
14. 優の森こども園, 依頼演奏, 吹奏楽部顧問, 優の森こども園, 2025.2.20.

2) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員

新潟市北区・海辺の森交流拡大委員会（アドバイザー）

5 その他の教育研究活動

1) 受賞、学位取得、資格取得

博士（保健学）（2025.3.31）

6 学内委員会活動 教務委員会、国際交流センター運営委員会、同窓会・生涯学習連携推進委員会

氏名：熊倉 真穂

1 研究題目 医師事務作業補助者と医師の協働関係の構築プロセス

2 論文

1. 皆川璃子, 眞田悠希, 熊倉真穂, 高野晃輔, 相馬涼加, 白井菜々, 井上彩花, 佐藤真琴, 高橋柚葉, 渡辺奈央, 石上和男. COVID-19感染者数とワクチン接種率に関する生態学的研究－新潟県内30市町村と全国47都道府県の状況－. 新潟医療福祉学会誌. 2025; 24(3). (査読あり) (印刷中)

3 学内委員会活動 学生委員会、交通安全委員会

氏名：皆川 璃子

1 研究題目 公的統計を用いた地域医療に関する研究

2 論文

1. 皆川璃子, 眞田悠希, 熊倉真穂, 高野晃輔, 相馬涼加, 白井菜々, 井上彩花, 佐藤真琴, 高橋柚葉, 渡辺奈央, 石上和男. COVID-19感染者数とワクチン接種率に関する生態学的研究－新潟県内30市町村と全

国47都道府県の実況－. 新潟医療福祉学会誌. 2025; 24(3). (査読あり) (印刷中)

2. Takano K, Kinoshita N, Osabe C, Minagawa R, Kudo Y, Ihara T, Yan Z, Abe H, Le TH, Kobayashi F, Watarai Y, Ishiwata K, Fukai K, Takiguchi T. Analysis of Time-Series Variation Patterns of Total Fertility Rate for the Last 20 Years (2000-2020) in 335 Secondary Medical Areas in Japan and its Association with Social Status of Women. Niigata Journal of Health and Welfare. 2025; 24(2): 21-36. (review)

3 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会, 日本口腔衛生学会

4 その他の教育研究活動

- 1) 受賞, 学位取得, 資格取得
新潟医療福祉学会賞奨励賞 (2024.6.13)

5 学内委員会活動 図書館・学修支援委員会

氏名: 眞田 悠希

- 1 研究題目 大学生のグループディスカッションに関する実験的研究, 地域サロン・通いの場のコミュニティ構造分析

2 論文

1. 皆川璃子, 眞田悠希, 熊倉真穂, 高野晃輔, 相馬涼加, 白井菜々, 井上彩花, 佐藤真琴, 高橋柚葉, 渡辺奈央, 石上和男. COVID-19感染者数とワクチン接種率に関する生態学的研究-新潟県内30市町村と全国47・都道府県の実況-. 新潟医療福祉学会誌. 2024; 24 (3) 1-9. (査読あり) (印刷中)

3 学会等研究発表

1. 金澤理生, 木田蒼, 桑原達也, 畑山若菜, 那須野恭人, 松本まみ, 眞田悠希, 石上和男. 「通いの場」に参加する人々の意識について. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26.

4 学会活動

- 1) 所属学会 新潟医療福祉学会

5 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. お茶の間サロン交流会, 集いの場の意識調査報告, 地域共生社会の発展, 胎内市社会福祉協議会, 集いの場参加者, 新潟県胎内市, 2024.10.31.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 新聞, 新潟日報, 「お茶の間サロン」に集う高齢者 自己実現の機会求め, 2025.2.7. (囲み記事) (地方紙)

6 その他の教育研究活動

- 1) 受賞, 学位取得, 資格取得
一般財団法人日本医療教育財団 医師事務作業補助技能認定試験 (2024.8.27)

7 学内委員会活動 広報委員会

8) 教育・学生支援機構

氏名：五十嵐 紀子

- 1 研究題目 ヘルスコミュニケーション、死生学、がん患者支援活動のマネジメント、ペット飼育支援に関する人と動物の福祉
- 2 学会等研究発表
 1. 五十嵐紀子、社会的孤立問題への挑戦―猫の多頭飼育崩壊問題への官民連携事業に見る波及性と今後の課題―、日本保健医療行動科学会第38回学術集会（京都市・日本）、2024.10.26-10.27.
 2. 五十嵐紀子、医療福祉とウェルビーイング：ペット飼育問題から考える支援者たちの苦悩とつながり日本コミュニケーション学会第53回年次大会（仙台市・日本）、2024.6.2.
 3. 宮曾根美香・小林葉子・安部はるか・関久美子・五十嵐紀子、ムスリムとの共生、日本コミュニケーション学会2024年度東北支部定例研究会（オンライン）、2025.3.30.【シンポジウム】
- 3 学会活動
 - 1) 所属学会 日本コミュニケーション学会（事務局長）、日本ヘルスコミュニケーション関連学会機構（評議員）
 - 2) 学術集会の主催
 1. 日本コミュニケーション学会、第53回年次大会、実行委員・学会事務局、仙台市、2024.6.2-6.3.
- 4 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 招聘授業（講演）「がんになったコミュニケーション研究者にとっての”がん患者ギフト”とは」、講師、青森中央学院大学、看護学部学生、オンライン、2024.6.14.
 2. 介護福祉教員講習会、コミュニケーション技術、講師、一般社団法人新潟地域福祉協会、介護従事者、新潟市東区プラザ、2025.1.25-1.26.
 - 2) TV出演、ラジオ出演、新聞掲載、一般雑誌掲載等
 1. 新聞、新潟日報朝刊、「がんになっても大丈夫な社会に」リレー・フォー・ライフ10年目 患者や家族励まし続け、2024.9.6.
 2. 雑誌、新潟の介護の仕事がよくわかる総合ガイド、介護専門科コラム・介護事業所レポート、2024.9.30.
 - 3) 社会活動への参加協力
 1. 新潟市動物愛護協会ねこ委員会、猫の殺処分ゼロに向けた活動、委員、2024.4.1-2025.3.31.
 2. 新潟はっぴー乳ライフ、乳がん検診受診率向上のための活動、委員、2024.4.1-2025.3.31.
 3. リレー・フォー・ライフ・ジャパン・にいがた実行委員会、がん征圧・がん患者支援のための活動、副実行委員長、2024.4.1-2025.3.31.
 - 4) 公的機関（官公庁等）の審議会、委員会等の委員
新潟市環境審議会（委員）、新潟市国民健康保険運営協議会（委員）、新潟県乳がん検討委員会（企画委員）
- 5 その他の教育研究活動
 - 1) 学内部活動の実績
 1. 茶道部、裏千家茶道の稽古と学生・留学生・園児の茶道体験を通じた国際交流や多世代交流、2024.4.1-2025.3.31.
 2. 学生ねこ部、地域の保護猫活動への協力・高齢者のペット飼育支援・連携総合ゼミへの協力など、2024.4.1-2025.3.31.
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 長岡崇徳大学、コミュニケーション論、2024.10.1-2025.3.31.
 2. 新潟食料農業大学、コミュニケーション論、2024.9.1-2025.3.31.
- 6 学内委員会活動 中央教育センター運営委員会（委員長）、シティズンシップ教育実践研究センター（研究員）

氏名：豊田 典子

1 研究題目 第二言語習得理論, 医療コミュニケーション, コンピュータプログラミング CLIL

2 著書

1. 佐藤誠悦著 (英訳豊田典子). Gone with the Tsunami: A Love Letter to My Wife(English Edition) Vol 1&2, Japan: Amazon; 2025: 1-125

3 論文

1. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, PT, PhD, Akiho-Toyoda N, MA, Ushiro K, MS, Ebihara Y, MS, Tanaka S, PhD, Wada T, PhD, Jigami H, PT, PhD, JSPO-AT, Matsumoto H, PT, Ito Y, PT, MS, JSPO-AT, Kikumoto T, PT, PhD, JSPO-AT, Matsuura Y, PT, PhD, JSPO-AT, Hirabayashi R, PT, PhD, Sekine C, PT, PhD, JSPO-AT, Yamamoto N, MD, PhD, Omori G, MD, PhD, Edama M, PT, PhD, JSPO-AT. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. Orthopaedic Journal of Sports Medicine. 2024; 12(11). doi:10.1177/23259671241291861

4 学会等研究発表

1. Akiho-Toyoda N. Integrating Animation into Medical Education: Enhancing Understanding through Collaboration, 22nd AsiaTEFL - International Conference, Thailand, 2024.11.14-11.18.
2. Akiho-Toyoda N. Animation & Medicine, Graphic Medicine International Collective 2024 Annual Conference, Ireland, 2024.7.16-7.18.
3. Akiho-Toyoda N. Integrating Robot Programming CLIL in Healthcare EFL: Enhancing English Communication via Technology, Mobilizing Language Learners & Teachers joint CU mil and MOBILLE conference for language teachers 2025, Belgium, 2025.1.29-1.31.
4. 能村, 圓, 豊田, 本間, 医療とアニメーションの世界, 新潟国際アニメーション映画祭学術フォーラム (新潟日報ホール), 2025.3.8.

5 学会活動

- 1) 所属学会 日本情報科教育学会, MOBILLE (日本支部責任者), Graphic Medicine国際学会 (会員), Graphic Medicine Japan (会員, SIG 責任者), Asia TEFL (会員), 多様性学習支援研究会 (発足責任者), 新潟医療福祉学会 (会員), 小学校プログラミング教育研究会 (顧問)
- 2) 学術集会の主催
 1. 多様な環境における子供たちへの理解に向けて: 新潟・外国につながる子供たち支援シンポジウム, NUHW多様性学習支援研究会, 主催責任者, 新潟市 (およびオンライン全国), 2024.12.16.
 2. 医療とアニメーションの世界, 本学OT学科及びGraphic Medicine (Japan), 主催・企画・運営・登壇, 新潟市, 2025.3.8.
- 3) 学会等でのその他の活動
 1. NUHW多様性学習支援研究会, 発足 2024.11.
 2. Graphic Medicine Japan協会内 アニメーションSIG 発足企画
 3. 幼児ロボットプログラミング教材開発開始 2024.6-2026.3.
 4. AI英語能力測定ツール試験運用と研究の開始
 5. 第3回MOBILLE日本大会準備委員会発足 (学会実施2027年1月末予定)

6 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. とよさか中高年教養大学, 脳トレ英会話, 講演, 葛塚コミュニティセンター, 5.23.
 2. QQ English オンライン英会話学習のコツ, 講演者, QQ English主催, 一般学習者, フィリピン, 2024.11.
 3. メガネの町鯖江市目育プロジェクト英語講座, 講師, 福井県鯖江市, 2025.3. (石井雅子先生企画)
- 2) 社会活動への参加協力

1. 国際医療交流協議会 Power of Elegance, 企画・運営・翻訳・通訳, Quality of Life Foundation, 医療外交関連者, 東京, 12.5.
 2. 医療におけるやさしい日本語推進活動: 新潟市北区社会福祉協議会, 中央区社会福祉協議会, 学内, 新潟県国際交流協会などへ
 3. 中国残留帰国者支援「大海の会」日本語教室運営 (顧問)
- 7 その他の教育研究活動
- 1) 外部資金 (科学研究費等) の受入研究費の内容
 1. 2024年度, ICT教育, ICTを活用した教育開発, 豊田典子
 2. 2024年度, カランメソッドのオンライン実施における効果測定, 豊田典子
 3. 2024年度, 幼児英語教育におけるロボットプログラミング CLIL の実践, マーティン・セダガット・豊田典子
 - 2) 学外兼務講師等
 1. 開志専門職大学, コンテンツ英語 I, コンテンツ英語 II, 卒業研究製作 (副査), 2024.4-2025.3.
- 8 学内委員会活動

氏名: 今井 理恵

- 1 研究題目 ジャンル準拠指導と評価に基づくパフォーマンス課題の開発 (英語教育学), 応用言語学の新しい成果を活かす学校英語教育の研究 (英語教育学および応用言語学), 内外の応用言語学研究で新しく提案される概念や枠組みを, 日本語を母語とする学習者に対する学校英語教育においてどのように活用できるかを探る研究 (英語教育学および第二言語習得理論), 日本人学習者のための批判的思考力測定テストの開発 (外国語教育)
- 2 著書
 1. 伊佐地恒久, 稲葉英彦, 今井理恵, 大脇裕也, 加賀田哲也, 亀山弘二郎, 桑村テレサ, 北野梓, 五十嵐光緒, 柴田直哉, 椎原美幸, 清水真弓, 関静乃, 竹内愛子, 永倉由里, 中田未来, 中村義実, 峯島道夫, 三浦孝, 水野邦太郎, 溝口夏歩, 牧野尚史, 森田琢也, 柳田綾, 山本孝次, 鈴木章能, 鈴木成美, 『心を育てる英語授業, はじめました——英語教師たちの挑戦と実践』東京: 研究社; 2025: 1-269.
 2. 飯野厚, 田嶋美砂子, 稲垣善律, 今井理恵, 大畑甲太, 加藤淳, 将司敬子, 外山徹, 藤井彰子, 藤吉大介, 和田俊彦, Brian Wistner, 文部科学省検定済教科書 高等学校外国語科用 MY WAY English Communication I New Edition. 東京: 三省堂; 2024: 1-174.
 3. 飯野厚, 田嶋美砂子, 稲垣善律, 今井理恵, 大畑甲太, 加藤淳, 将司敬子, 外山徹, 藤井彰子, 藤吉大介, 和田俊彦, Brian Wistner. 文部科学省検定済教科書 高等学校外国語科用 MY WAY English Communication III. Teacher's Book. 東京: 三省堂; 2024: 1-158.
 4. 飯野厚, 田嶋美砂子, 稲垣善律, 今井理恵, 大畑甲太, 加藤淳, 将司敬子, 外山徹, 藤井彰子, 藤吉大介, 和田俊彦, Brian Wistner, 文部科学省検定済教科書 高等学校外国語科用 MY WAY English Communication III. Teacher's Manual 解説と指導書編. 東京: 三省堂; 2024: 1-285.
- 3 論文
 1. 峯島道夫, 今井理恵, 「学習内容の三層構造についての一考察—「学びに向かう力・人間性等」の伸長に繋げるために—」国際地域研究論集 (JISRD, 国際地域研究学会), 2025, 16: 89-102. (原著論文) [査読あり]
 2. 今井理恵, 峯島道夫, 「大学入学共通テストの英語 (リーディング) は何をどのように問うているか—ジャンル準拠リーディング評価の観点からの考察—」, 中部英語教育学会紀要 (全国英語教育学会), 2025; 1: 307-314. (原著論文) [査読あり]
- 4 学会等研究発表
 1. 今井理恵, 松沢伸二, 峯島道夫, 「大学入学共通テストの英語 (リーディング) は何をどのように問うているか—ジャンル準拠リーディング評価の観点からの考察—」 全国英語教育学会 第49回 福岡研究大会,

2024.8.25.

5 学会活動

- 1) 所属学会 中部英語教育学会, 関東甲信越英語学会, 全国英語教育学会, 日本教科教育学会, The Japan Association for Language Teaching (JALT), 国際地域研究学会 (JISRD), 新潟大学教育学部英語教育学会, Association of International Studies and Regional Development (AISRD), Humanistic English Education Study Group (HEESG), 新潟医療福祉学会

6 社会活動

- 1) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等

1. 新聞掲載, (日刊)新潟日報(新潟日報社),「英語で日報抄」, 2024.5.19. (囲み記事)
2. 新聞掲載, (日刊)新潟日報(新潟日報社),「英語で日報抄」, 2024.8.18. (囲み記事)
3. 新聞掲載, (日刊)新潟日報(新潟日報社),「英語で日報抄」, 2024.11.17. (囲み記事)
4. 新聞掲載, (日刊)新潟日報(新潟日報社),「英語で日報抄」, 2025.2.16. (囲み記事)

- 2) 社会活動への参加協力

1. 「2024年度新潟県統一模試英語リスニング」英語によるナレーション収録 中3 第7回 NST新潟総合テレビ本社 2024.11.
2. 「2024年度新潟県統一模試英語リスニング」英語によるナレーション収録 中3 第8回 NST新潟総合テレビ本社 2024.11.
3. 「2024年度新潟県統一模試英語リスニング」英語によるナレーション収録 中3 第9回 NST新潟総合テレビ本社 2024.11.
4. 「2024年度新潟県統一模試英語リスニング」英語によるナレーション収録 中2 第3回 NST新潟総合テレビ本社 2024.11.
5. 「2025年度用 新潟県統一模試英語リスニング」英語によるナレーション収録 中3 第1回 NST新潟総合テレビ本社 2025.1.
6. 「2025年度用 新潟県統一模試英語リスニング」英語によるナレーション収録 中2 第1回 NST新潟総合テレビ本社 2025.2.
7. 「2025年度用 新潟県統一模試英語リスニング」英語によるナレーション収録 中3 第2回 NST新潟総合テレビ本社 2025.3.

7 その他の教育研究活動

- 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容

1. 2020年度, 科学研究費補助金基盤研究(C), 英語コミュニケーション能力と人間性を高める英語授業の活動・タスク・授業モデル開発, 研究分担者(継続)
2. 2022年度, 科学研究費補助金基盤研究(C), 英語授業を改善する4技能5領域でのジャンル正対課題と教授・学習サイクルの開発, 研究代表者(継続)

- 2) 学外兼務講師等

1. 新潟県立大学, 教職実践演習特別講義, 11月
2. 新潟大学 アカデミック英語入門R 10月~3月

- 8 学内委員会活動 入試問題作問部会, 入試検討英語部会, 国際交流センター運営委員会, 中央教育センター運営委員会

9) 社会連携・同窓会推進機構

氏名：石井 雅子

- 1 研究題目 視覚障害者のQOL向上に関する研究（ロービジョン医学）、視覚障害児の学習支援（特別支援教育）、視的環境と視覚機能に関する研究（眼科学）、小児の視覚発達（小児眼科学）
- 2 著書
 1. 石井雅子：成人の視力検査および眼鏡処方に関する手引き 5）遮光眼鏡，日本眼科学会，2025，188-193
- 3 論文
 1. 石井雅子：めがねのまちさばえ『眼育』推進業務受託令和6年度成果報告，2025，1-26
- 4 学会等研究発表
 1. 佐藤怜太，前田義信，石井雅子，塚田章：スマートフォン注視時における輻輳運動の分析，日本電子情報通信学会総合大会，2025.3.24-3.25.
 2. 佐藤怜太，前田義信，石井雅子：スマートフォン小画面注視時の輻湊運動の検討，第24回新潟医療福祉学会，2024.10.26.
 3. 土田来夢，佐藤怜太，前田義信，石井雅子：スマートフォンでの動画視聴時の瞬きの計測—動画の種類による検討—，第24回新潟医療福祉学会，2024.10.26.
 4. 関口凜，石井雅子：3歳児視覚健診 一家庭一次健診と屈折検査の検討—，第24回新潟医療福祉学会，2024.10.26.
 5. 星野葵，石井雅子：子どもの近視化の検証 —就学時健診と5年生の学校健診の比較—，第24回新潟医療福祉学会，2024.10.26.
 6. 落合竣，石井雅子，福地健郎：緑内障患者における遮光眼鏡の処方例と非処方例の視機能視標の違い，第65回日本視能矯正学会，2024.11.2.
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本眼科学会，日本ロービジョン学会（理事），日本視能訓練士協会，日本緑内障学会，日本小児眼科学会，日本弱視斜視学会，日本学校保健学会，視覚障害リハビリテーション協会，新潟県視能訓練士会（会長），中途視覚障害者の復職を考える会（タートルの会），JRPS網膜色素変性症協会，日本保育保健協議会，日本教育工学会，新潟医療福祉学会
 - 2) 学術集会の主催
 1. 2024年度新潟県視能訓練士会研修会，実行委員長，新潟，2024.10.27.
 - 3) 学会等でのその他の活動
 1. 日本ロービジョン学会誌編集委員
 2. 日本ロービジョン学会財務担当
 3. 第25回日本ロービジョン学会学術総会プログラム委員
 4. 公益社団法人日本視能訓練士協会専門視能訓練士審議員
 5. 2024年度新潟県視能訓練士会研修会，教育講演，養成校視点での臨地実習の実際と課題，座長，新潟県視能訓練士会，新潟市，2024.10.27.
- 6 社会活動
 - 1) 公開講座・講演会等
 1. 令和6年度同行援護養成研修，疾病・障害の理解，講師，新潟市社会福祉協議会，市民，新潟市，2024.6.18.
 2. Be My Eyes講習会，講師，市民，新潟市，2024.5.12，7.14.
 3. 鳥羽小学校，眼の健康（眼育）講座，講師，児童・教職員，鯖江市，2024.6.24，7.1.
 4. 岡方第一小学校，眼の愛護デー「眼の健康授業」，講師，児童・教職員，新潟市，2024.10.7.
 5. 成城中学校，眼の健康（眼育）講座，講師，生徒・教職員，世田谷区，2025.3.7.
 6. 南浜小学校，眼の愛護デー「眼の健康授業」，講師，児童・教職員，新潟市，2024.10.10.

7. 太夫浜小学校, 眼の愛護デー「眼の健康授業」, 講師, 児童・教職員, 新潟市, 2024.10.11.
8. 公開講座, 同行援護「障害と疾病」, 講師, 市民, 新潟市, 2024.9.4.
9. 専門視能訓練士育成コース講習, 講師, 視能訓練士, 東京都(オンライン), 2024.9.6.
10. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー, 講座6, 見えにくい方への支援～ロービジョンを考える～, 講師, 市民, 新潟市(オンライン), 2024.4.1-2025.3.31.
11. 新潟医療福祉大学社会連携・地域貢献オンラインセミナー, 講座19, 子どもの眼の健康－眼育(めいく)－, 講師, 市民, 新潟市(オンライン), 2024.4.1-2025.3.31.
12. さばえ眼育「英語でめいく」, 講師, 園児・保育士, 鯖江市, 2025.3.12.
13. とよさか中高年教養大学(健康長寿学), 眼が元気だと人生が楽しい, 講師, 市民, 新潟市, 2025.3.6.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 福井新聞, 目の健康意識英語で通じ高め, 2024.3.13.
 2. BSN, ニュースゆうなび, 岡方第一小学校「目の愛護週間」, 2024.10.9.
 3. 南海新聞, 子どもの視力知るきっかけに, 2024.11.14.
- 3) 社会活動への参加協力
 1. 五泉市こども課, 3歳児健診, 視覚健診担当およびサポート, 五泉市, 2024.4.1-2025.3.31. (全12回)
 2. 燕市保健センター, 3歳児健診, 視覚健診サポート, 燕市, 2024.4.1-2025.3.31. (全24回)
 3. 鯖江市教育委員会, 就学前視覚健診, 視覚健診担当, 鯖江市, 2023.8.26-8.27.
 4. 新潟県ブラインドサッカー協会, 練習会, サポート, 新潟市, 2024.6.7, 6.21.
 5. 白根カトリックこども園, 視覚健診, 健診担当, 新潟市, 2024.6.10, 10.4.
 6. 聖ラファエルこども園, 視覚健診, 健診担当, 新潟市, 2024.6.10, 6.26.
 7. あたごまとこども園, 視覚健診, 健診担当, 新潟市, 2024.5.27, 6.17.
 8. 光華こども園, 視覚健診, 健診担当, 新潟市, 2024.6.3.
 9. 新潟えきなかこども園, 視覚健診, 健診担当, 新潟市, 2024.8.19.
 10. 亀田カトリックこども園, 視覚健診, 健診担当, 新潟市, 2024.10.23, 10.24, 10.28.
 11. 沖永良部島和泊町幼児視覚健診, 健診指導, 和泊町, 2024.11.11-11.13.
 12. 二葉幼稚園, 視覚健診, 健診担当, 新潟市, 2024.11.15, 2025.2.10.
 13. 清心保育園, 視覚健診, 健診担当, 魚沼市, 2024.12.13, 2025.1.23.
 14. 2024年度視覚障害学習支援セミナー―夏の会―, 実行委員, 新潟市, 2024.8.25.
 15. こどもの眼育講習in白根カトリックこども園, 講習会学生指導, 新潟市, 2024.11.21.
 16. めがねのまちさばえSDGsフェス, 眼育活動, 学生指導, 鯖江市, 2024.9.21-9.22.
 17. 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園, 健診担当, 新潟市, 2024.12.5.
- 4) 公的機関(官公庁等)の審議会, 委員会等の委員

日本視能訓練士協会(専門視能訓練士審議員), 新潟県アフターコロナを見据えたイノベーション創出支援事業視覚障害者情報支援アプリの開発(コンソーシアムメンバー), 新潟県視覚障害リハビリテーションネットワーク(委員), 新潟県教育庁(こどもの目の相談員)
- 5) 職能団体(協会, 士会等)の委員

新潟県視能訓練士会(会長), 日本視能訓練士協会生涯教育制度基礎教育プログラムⅡ指導者, 日本視能訓練士協会生涯教育制度基礎教育プログラムⅢ指導者, 視覚障害リハビリテーション協会高齢リハビリテーション分科会委員
- 7 その他の教育研究活動
 - 1) 外部資金(科学研究費等)の受入研究費の内容
 1. 2021年度, 科学研究助成(基盤研究(C)): 21K02392 子どもの視力低下のメカニズムを解明―近視抑制法の探索―, 研究代表者
 2. 2022年度, 科学研究助成(基盤研究(C)): 22K030092 幼稚園から大学まで一貫したデータサイエンスを活用した健康リテラシー教育手法の開発, 研究分担者

3. 2024年度, めがねのまちさばえ「眼育」推進事業受託, 代表者
4. 2024年度, 五泉市3歳児視覚健診事業受託, 代表者
5. 2024年度, 科学研究助成(基盤研究(B)): 24K00401 視覚障害を未然に防ぐ眼の健康リテラシーの向上ー幼小中高大接続による眼育教育ー, 研究代表者
6. 2024年度, 科学研究助成(基盤研究(C)): 24K13968 視覚障害をもつ女性が安心して子どもを産み育てるための支援ーハンドブックの開発ー, 研究分担者
- 2) 学内部活動の実績
 1. NUHWビジョンサポート研究会, 視覚QOLに関する活動, 2024.4.1-2025.3.31.
 2. ネコピンチプロジェクト, 盲導犬応援, こども園に絵本を贈る活動, 2024.4.1-2025.3.31.
- 3) 学外兼務講師等
 1. 新潟大学医学部, 眼科臨床実習, 2024.4-2025.3.
- 8 学内委員会活動 社会連携推進センター運営委員会(委員長), 教務委員会(オブザーバー)

氏名: 佐近 慎平

- 1 研究題目 こども学, 発育発達学, 身体教育学
- 2 論文
 1. 大橋祐介, 佐近慎平, 金子勝司. 幼児における短期的な投動作運動プログラムの比較: 保育者が実践できる運動プログラムの開発を目指して. 東筑紫短期大学研究紀要. 2024; 55: 31-34
 2. 佐近慎平, 重藤誠一郎, 大橋祐介, 本多理紗, 中曽根裕, 金子勝司, 小池和幸. 高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究. 自由時間研究. 2024; 50: 30-33
 3. 本多理紗, 金子勝司, 中曽根裕, 高山昌子, 佐近慎平. 健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究. 自由時間研究. 2024; 50: 34-37
 4. 高山昌子, 佐近慎平, 本多理紗, 金子勝司. 高齢者がやや高いと感じる運動強度の健康教室に参加する高齢者の楽しさの検証. 自由時間研究. 2024; 50: 38-41
 5. 佐近慎平. 幼児の高這い走行のリズム. 体育の科学. 2024; 74 (6): 357-362
 6. 佐近慎平. 2024年度新潟県弥彦村幼児の体力向上事業報告書.
 7. 佐近慎平. 2024年度新潟県新発田市パラスポーツ出前講座事業報告書.
 8. 佐近慎平. 2024年度ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び事業報告書.
 9. 佐近慎平. 2024年度新潟市幼児の運動遊び促進事業報告書.
- 3 報告書
 1. 佐近慎平, 西原康行, 杉崎弘周, 市川浩. 研究基盤(C), 幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発, 研究成果報告書, 2021-2024, 研究代表者
- 4 学会等研究発表
 1. 佐近慎平, 中曽根裕, 本多理紗, 金子勝司. 保育者の幼児の四肢運動と保育に関するみとりの熟達による差 令和6年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議 9.7.
 2. 本多理紗, 金子勝司, 中曽根裕, 佐近慎平. 健康体操教室に参加する男性高齢者を行うレクリエーション活動の研究 令和6年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議(栃木), 2024.9.7.
 3. 佐近慎平, 中井聖, 岡山千賀子, 仲野隆士. 第78回全国レクリエーション大会(栃木), 2024.9.7. 【シンポジウム】
- 5 学会活動
 - 1) 所属学会 日本発育発達学会(評議員), 日本保育学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, 新潟医療福祉学会ほか
 - 2) 学術集会の主催
 1. 公益財団法人日本レクリエーション協会, 令和6年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程

認定校研究連絡会議，特任幹事，栃木，2024.9.7.

2. 現代レクリエーションと教育を考える会，研究会・調査，座長，オンライン・仙台，2024.12.6-12.8，2025.1.24-1.25，月1回（全15回）

3) 学会等でのその他の活動

1. 自由時間研究，査読
2. 日本発育発達学会，評議員

6 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 福祉事業型専攻科キンゴールカレッジ，フィットネス，講師・監修，キンゴールカレッジ利用者，キンゴールカレッジ，2024.4.8-2025.3.26.（全45回）
2. スペシャルオリンピックス日本・新潟サッカープログラム，サッカープログラム，講師，スペシャルオリンピックス日本・新潟，知的障害者，新潟市，2024.7.24-2025.3.15.（全8回）
3. 社会福祉法人どれみ会 どれみ保育園体育，体育指導，講師，保育園園児及び保育士，川通りどれみ保育園，2024.5.30-2025.3.30.（全11回）
4. 新潟県村上市幼児の体力向上事業，幼児の体力向上事業報告会，講師，村上市，村上市保育園保育士・総合型スポーツクラブコーチ，村上市生涯学習推進センター，2024.4.11.
5. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村，幼児及び保育士，弥彦保育園，2024.6.5，8.6.（全2回）
6. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村，幼児及び保育士，二松保育園，2024.6.12，8.1.（全2回）
7. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村，幼児及び保育士，ひかり保育園，2024.6.19，8.2.（全2回）
8. 新潟県長岡市ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び，体育指導，講師，幼児及び保育士，白山保育園，2024.6.27，9.25，9.26，2025.1.28，2.20.（全5回）
9. 新潟県新潟市新潟市幼児の運動遊び促進事業，体育指導，講師，新潟市，幼児及び保育士，かやま保育園，すみれ保育園，早通南保育園，早通北保育園，2024.8.7-12.17.（全9回）
10. 新潟県新発田市パラスポーツ出前講座，パラスポーツ・福祉教育，講師，新発田市小学校児童及び教員，新発田市小学校，2024.9.10，9.12，9.13.（全5回）
11. 新潟子どものスポーツ応援プロジェクト，スポーツ体験キャラバン，運営委員，市民，デンカビッグスワンスタジアムほか，2024.6.29，7.21.
12. 2024年度とよさか中高年教養大学 科目「健康長寿学」，脳の活性化を促す楽しさが先導する運動（マルチ・タスク・アクティビティ）講師，新潟市，市民，葛塚コミュニティーセンター，2025.1.24.
13. グランセナフットボールクラブスキー体験会，スキー体験会，講師，グランセナフットボールクラブ，グランセナフットボールクラブ選手，新発田市，2025.1.22-1.23.（全2回）
14. 五泉市と新潟医療福祉大学の包括連携事業，親子運動あそび体験会，五泉市，市民，五泉市総合会館中ホール，2025.3.23.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，新潟日報，新発田市パラスポーツ出前講座，2025.10.1.

3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員

にいがたスポーツタレント発掘・育成事業検討委員会（委員），村上市幼児の体力向上事業（アドバイザー），新潟市幼児の体力向上事業（アドバイザー），弥彦村幼児の体力向上事業（アドバイザー），ながおか元気キッズわくわく運動遊び事業（アドバイザー）

4) 職能団体（協会，士会等）の委員

公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（特任幹事）

7 その他の教育研究活動

1) 外部資金（科学研究費等）の受入研究費の内容

1. 2021年度，科研費基盤研究（C），幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発，研究代表者
2. 2024年度，公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成，高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究，研究代表者
3. 2024年度，公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成，健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究，研究分担者
4. 2024年度，公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成，高齢者がやや高いと感じる運動強度の健康教室に参加する高齢者の楽しさの検証，研究分担者

2) 学外兼務講師等

1. 国際こども・福祉カレッジこども福祉教育学科・児童教育学科，こどもと体育，2024.4.1-2025.3.31.

8 学内委員会活動 身体教育研究センター（副センター長），ボランティアセンター長，ボランティアセンター運営委員会委員長

10) 新設学科（健康データサイエンス）

氏名：隅田 好美

報告事項なし

氏名：松岡 弘樹

報告事項なし

11) プロジェクト研究センター

(1) 言語発達支援センター (Langage Development Center)

①研究テーマ

- 1 言語発達障害児における語彙の誤りに関する研究
- 2 機能性構音障害児における語彙力に関する研究
- 3 発達障害児の言語聴覚療法における後方視的研究
- 4 口唇口蓋裂児の言語管理に関する研究

②センター名簿

吉岡 豊, 言語聴覚学科, 教授
石本 豪, 言語聴覚学科, 准教授
大湊 麗, 言語聴覚学科, 講師
谷 麻美, 言語聴覚学科, 助手

③主な活動内容

1. 著書

1. 石井雅子, 大湊麗, めいくさばえカードかるた&めあわせ. 新潟医療福祉大学とめがねのまちさばえ. 2024年

2. 報告書

1. 大湊麗, 若手研究, 二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討－長期言語成績による分析－, 研究成果報告書, 2019-2023年, 研究代表者

3. 学会等研究発表

1. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語発達遅滞児の就学前支援. 第25回日本言語聴覚学会 (神戸), 2024.6.21.
2. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語障害児の症状鑑別・確認手段としてのアセスメントの利用報告. 第131回日本小児精神神経学会 (つくば), 2024.6.22.
3. 谷麻美, 大湊麗, 吉岡豊. 言語発達支援のための有効な初回スクリーニング検査の検討. 第24回新潟医療福祉学会 (新潟), 2024.10.26.
4. 大湊麗, 宮田昌幸, 若槻華子, 児玉泰光, 市川佳弥, 佐藤真由美, 濃野要, 齋藤功, 小野和宏. 鼻内手術の評価: ナゾメーターによる分析. 第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会 (名古屋市), 2024.5.
5. 市川佳弥, 丹原惇, 寺田愛希, 井村真美, 宮田昌幸, 若槻華子, 大湊麗, 児玉泰光, 小林亮太, 新美奏恵, 小林正治, 齋藤功. 片側口唇口蓋裂患者の顎顔面形態に対する術前顎矯正治療の影響－5歳時における乳歯列形態－. 第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会 (名古屋市), 2024.5.30-5.31.
6. Ominato R, Nakano H, Kodama Y, Kobayashi R, Sato M, Tani A, Ishimoto G, Kuwahara K, Yoshioka Y, Tomihara K, Ono K. Questionnaire surveys of resource room teachers at elementary school on cooperation with the external speech therapist in cleft speech. The 16th world congress of the international cleft lip and palate foundation (Tokyo), 2024.7.17-7.19.

4. 学会活動

1. 日本口蓋裂学会, 口唇裂・口蓋裂認定師 (音声言語分野) 認定委員会, 認定師認定委員, 2024.4-2025.3.

5. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度子育て支援・発達支援従事者等研修会, 「子どもの言葉発達の理解と支援について」, 講師, 主催: 阿賀町こども・健康推進課, 対象: 保育士, 教諭, 保健師, 会場: 阿賀町やまぶきの里, 開催日: 2025.3.10.
2. 新潟市通級指導教室担当者スキルアップ研修 (言語), 口蓋化構音のある児童への構音指導, 講師,

新潟市教育委員会，新潟市立学校教諭，新潟市教育相談センター，2024.7.1.

3. 新潟市通級初任者研修，粘膜下口蓋裂の指導，講師，新潟市特別支援教育サポートセンター，新潟市立学校教諭，新潟大学，2024.8.9.
4. 新潟県下越言難第2回研修会，未手術の口蓋裂児の指導，講師，新潟県下越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，新潟県下越地区学校教諭，新潟市立鏡淵小学校，2024.8.20.
5. 新潟県中越言難夏季研修会，音声言語の評価と指導，講師，新潟県中越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，新潟県中越地区学校教諭，アトリウム長岡，2024.8.22.
6. 新潟県中越地区通級初任者研修，構音障害の指導，講師，新潟県中越地区公立学校言語・難聴教育研究協議会，魚沼市立学校教諭，新潟県立精神医療センター，2024.9.20.

2) 社会活動への参加協力

1. 阿賀町役場，言葉の相談会，言語指導者，阿賀町津川 やまぶきの里，2024.4.1-2025.3.31. (年6回開催)
 2. 胎内市こころとことばの相談室，言語発達支援，胎内市健康づくり課ほっとHot・中条，2024.4.1-2025.3.31.
 3. 言語通級指導検討会，言語発達支援講師，各小学校，2024.4.1-2025.3.31.
 4. 新潟市こども未来部こども家庭課，新潟市こども支援体制検討，新潟医療福祉大学，2025.3.4.
6. 外部資金（科学研究費等）の獲得状況
1. 2023年度，科研費基盤研究C，二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討：鼻腔共鳴の定量評価の確立，大湊麗，研究代表者.
 2. 2024年度，日本口蓋裂学会次世代育成事業，2024年度若手研究者海外発表奨励金，Questionnaire surveys of resource room teachers at elementary school on cooperation with the external speech therapist in cleft speech. 大湊麗，研究代表者

(2) 医療経済・QOL研究センター (Center for Health Economics & QOL Research)

①研究テーマ

- 1 国内の薬剤，医療技術に関する費用対効果の研究
- 2 費用効用分析に用いるモデリングの研究
- 3 種々の疾患や健康状態に対する健康関連QOL，とくに効用値の測定
- 4 国内における費用効果比や効用値に関するデータベースの構築

②センター名簿

センター長：能登真一，作業療法学科

研究員：谷川奈々，義肢装具自立支援学科

客員研究員：森脇健介，立命館大学 総合科学技術研究機構 医療経済評価・意思決定支援ユニット (CHEERS) 教授

客員研究員：泉 良太，聖隷クリストファー大学 作業療法学科 教授

③主な活動内容

1. 著書

1. 能登真一. 高齢やリハビリテーションのQOL. 下妻晃二郎，鈴鴨よしみ編. QOL・PRO評価指南. ライフサイエンス出版. 88-95, 2024.

2. 論文

1. Noto S, Sekiyama Y, Nagata R, Yamamoto G, Tamura T. Analysis of Speech Features in Alzheimer's Disease with Machine Learning: A Case-Control Study. Healthcare. 2024; 12(21): 2194. (review)
2. Murota H, Nakahara T, Noto S, Matsukawa M, Takeda H, Toda R. Quality of Life in Adults with Atopic Dermatitis in Relation to Disease Severity: Nationwide Data in Japan. Dermatol Ther.

2025; 15(2): 291-305. (review)

3. Nakahara T, Noto S, Matsukawa M, Takeda H, Zhang Y, Kondo T. Cost-Effectiveness Study of Difamilast 1% for the Treatment of Atopic Dermatitis in Adult Japanese Patients. *Dermatol Ther*. 2024; 14(11): 3113-3132. (review)
 4. Hide M, Kishimoto M, Kotera I, Oh A, Inoue Y, Yamamoto BA, Noto S. Analysis of disease burden in patients with hereditary angioedema from Japan by patient-reported outcomes. *J Dermatol*. 2025; 52(2): 256-269. (review)
 5. Watanabe T, Noto S, Natsumeda M, Kimura S, Ikarashi F, Tabata S, Takano M, Tsukamoto Y, Oishi M. Improvements in activities of daily living among patients with brain tumors are associated with age, baseline physical function, duration of rehabilitation, and tumor recurrence but not type. *Int J Rehabil Res*. 2024; 47(4): 231-237. (review)
 6. Kanejima Y, Izawa P. K, Kitamura M, Ishihara K, Ogura A, Kubo I, Noto S, Nagashima H, Tawa H, Matsumoto D, Shimizu I. Correlation between health literacy and utility-based health-related quality of life scores in patients undergoing cardiac rehabilitation: a multicenter clinical study. *Discover Public Health*. 2024; 21, article number 67. (review)
 7. Noto S, Kieffer A, Arashiro T, Tadera C, Eymere S, Lemański T, Wang X. Cost-effectiveness and public health impact of universal prophylaxis with nirsevimab against respiratory syncytial virus (RSV) infections in all infants in Japan. *Infectious Diseases and Therapy* (in press) (review)
 8. Imagawa N, Izumi S, Shimazaki T, Yamauchi T, Ikeda S, Noto S, Kojima H, Suka M. Evaluating the cost-effectiveness of unilateral cochlear implants versus hearing aids in older adults in Japan. *Otology & Neurotology* (in press) (review)
 9. Watanabe T, Noto S, Natsumeda M, Kimura S, Ikarashi F, Tabata S, Takano M, Tsukamoto Y, Oishi M. Improved health-related quality of life after rehabilitation in patients with brain tumors is not affected by tumor type. *Eur J Phys Rehabil Med*. (in press) (review)
 10. Maeda T, Moriwaki K, Morimoto K, Mo X, Yoshioka T, Goto R, Shimozuma K. Cost-Effectiveness Analysis of Nivolumab Plus Ipilimumab Combination Therapy as First-line Treatment for Advanced Renal Cell Carcinoma in Japan. *Value Health Reg Issues*. 2024; 40: 118-126.
 11. Amaki M, Moriwaki K, Nakai M, Yamano T, Okada A, Kanzaki H, Izumo M, Usuku H, Onishi T, Nagai T, Miyamoto Y, Fujita T, Kawai H, Akashi Y, Tsujita K, Matoba S, Kobayashi J, Izumi C, Anzai T. Cost-effective analysis of transcatheter aortic valve replacement in patients with severe symptomatic aortic stenosis: A prospective multicenter study. *J Cardiol*. 2024; 83: 169-176.
3. 学会等研究発表
1. Noto S, Shimozuma K, Iwatani T, Suzukamo Y, Sakai M, Moriwaki K. Health state utility values in COVID-19: A vignette utility values in COVID-19. *ISPOR 2024. Atlanta*. 2024.5.7.
 2. Noto S, Onuki K, Kondo T, Yamato K. Effective Outcome Measures for Family Caregivers of Patients With Alzheimer's Disease in Japan: Conducting Factor Analysis Using ASCOT-Carer, ZBI, and EQ-5D-5L. *ISPOR Europe 2024, Barcelona, Spain*. 2024.11.
 3. Noto S, Takumoto Y, Ono F. Health-Related Quality-of-Life (HRQoL) Assessment for Japanese Cognitive Impairment Associated With Schizophrenia (CIAS). *ISPOR Europe 2024, Barcelona, Spain*. 2024.11.
 4. Taniguchi S, Moriwaki K, Morimoto K, Shimozuma K. Cost-Effectiveness Analysis of Pembrolizumab for Advanced Colorectal Cancer with MSI-High or dMMR in Japan. *ISPOR 2024. Atlanta*. 2024.5.7.
 5. Sakai R, Moriwaki K, Morimoto K, Shimozuma K. Cost-Effectiveness Analysis of Tremelimumab As First-Line Therapy for Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer in Japan. *ISPOR 2024*.

Atlanta. 2024.5.7.

6. Shimizu K, Moriwaki K, Morimoto K, Shimoizuma K. Economic Evaluation of Duvelisib Versus Ofatumumab in Relapsed/Refractory CLL/SLL in Japan. ISPOR 2024. Atlanta. 2024.5.7.
7. Ozeki S, Moriwaki K, Morimoto K, Shimoizuma K. Cost-Effectiveness Analysis of Blinatumomab for Advanced Acute Lymphoblastic Leukemia in Japan. ISPOR 2024. Atlanta. 2024.5.7.

4. 外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2021年度，科研費挑戦的研究（萌芽），AIソフトを用いた認知症予防のための遠隔リハビリテーション技術の開発，能登真一・研究代表者
2. 2024年度，科研費基盤研究（B），EQ-HWBのスコアリングアルゴリズムの開発と費用対効果評価への応用の検討，研究代表者
3. 2022年度，科研費基盤研究（C），リハビリテーション医療分野におけるナッジの解明：使用状況と健康関連QOLについて，泉良太・研究代表者
4. 2023年度，科研費基盤研究（C）効率性フロンティアに基づく医療技術の価格調整法の開発と医療経済的便益の評価，森脇健介・研究代表者
5. 2024年度，厚生労働行政推進調査事業費補助金 政策科学総合研究事業 分析ガイドラインの改定に向けた費用対効果評価における方法論およびツール等の開発に関する研究，能登真一，森脇健介・研究分担者
6. 2024年度，クレコンメディカルアセスメント株式会社 研究寄付金，能登真一，・研究代表者

（3）ロコモティブ症候群予防研究センター（Research Center for Locomotive Syndrome Prevention）

①研究テーマ

- 1 県内市町村，新潟市北区住民へのロコモ予防に貢献するために支援システムの研究，実践を行う。
- 2 運動器慢性疼痛における諸因子の調査研究を行う。
- 3 産業保健における運動器慢性疼痛予防についての支援システムの研究・実践を行う。

②センター名簿

センター長	：佐藤成登志	義肢装具自立支援学科 学科長・教授
副センター長	：山本智章	新潟リハビリテーション病院 院長
研究員	：神田 賢	義肢装具自立支援学科 准教授
研究員	：立石 学	吉田病院 リハビリテーション部 部長
研究員	：高野義隆	新潟リハビリテーション病院 リハビリテーション部 部長
客員研究員	：北村拓也	新潟リハビリテーション大学 准教授

③主な活動内容

1. 論文

1. Sato N, Konish I, Kanda M, et al. Classification and comparison of the Physical Characteristics and Functions of various age groups of Community-dwelling elderly individuals participating in the Kayoi-no-ba program. J Phy. Ther. Sci. 2024 ; 36 : 313-318 (review)
2. Kanda M, Suda H, Marda Y, Sato M, Sato N. Effects of remote classes on the physical health of university students during the COVID-19 pandemic. J Phy. Ther. Sci. 2024 ; 36 : 151-154 (review)
3. 王景玉, 北村拓也. 医療系大学における大学生の腰痛実態調査・オンライン授業経験による影響の検討-. 新潟リハビリテーション大学紀要. 2025 ; 13(1) : 15-22.
4. Terai H, Takahashi S, Hoshino M, Taniwaki H, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T. "Koshimagari Exercise"

for Adult spinal deformity in older adults: Assessment of home based exercise outcomes in a multicenter study. Spine Surgery and Related Reserch. 2025 ; 19(3) : 10.22603/ssrr.2024-0273

5. 北村拓也, 佐藤成登志. 腰部脊柱管狭窄症患者の理学療法におけるフィジカルアセスメントのポイント. 理学療法. 2025 ; 42(1) : 22-31
6. Taniwaki H, Takahashi S, Hoshino M, Tamai K, Ohmine T, Nakatuchi T, Shinbashi G, Teraguchi M, Minetama M, Watanabe K, Sato N, Kitamura T, Kanda M, Tsujio T, Takeuchi Y, Mizouchi T, Ishizu K, Ebina T, Muraoka Y, Sodeyama T, Mikami H, Kasukawa Y, Hyakumachi T, Ishida K, Miyagishima K, Oishi Y, Yo K, Kimura R, Sato H, Nagata K, Yamato Y, Matsudaira K, Miyakoshi N, Matsuyama Y, Haro H, Hashizume H, Yamada H, Kaito T, Terai H. Who benefits from home-based exercise for adult spinal deformity? A prospective multicenter study on clinical and radiographic predictors. European Spine Journal. 2025 ; <https://doi.org/10.1007/s00586-025-08853-6>

2. 報告書

1. 佐藤成登志, 神田賢, 北村拓也. 基盤研究 (C), 看護・介護従事者の職業性腰痛に対する包括的腰痛予防プログラムの効果検証, 研究成果報告書, 2024, 研究代表者
2. 佐藤成登志, 神田賢, 北村拓也. 基盤研究 (C), 高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築, 研究成果報告書, 2024, 研究代表者
3. 神田賢, 佐藤成登志, 北村拓也. 基盤研究 (C), 看護・介護従事者の腰痛, 頸部痛, メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証, 研究成果報告書, 2024, 研究分担者

3. 学会等研究発表

1. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 成人脊柱変形患者に対する運動療法の考え方と展開・適応と限界を知る-. 第21回整形外科痛みを語る会 (新潟市), 2024.7.6. (シンポジウム)
2. 木村慎二, 細井昌子, 田村友典, 岩崎円, 大鶴直史, 北村拓也. 慢性疼痛に対する認知行動療法を取り入れたいきいきリハビリノート活用法-スマホ版開発とテレナーシングの試み-. 第21回整形外科痛みを語る会 (新潟市), 2024.7.6. (シンポジウム)
3. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 成人変形患者に対する運動療法は変形タイプによって異なる-後弯症と後側弯症の比較-. 第32回日本腰痛学会 (千葉県), 2024.10.25. (主題)
4. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 脊柱変形患者に対する理学療法の展開と適応. 第32回日本腰痛学会 (千葉県), 2024.10.26. (シンポジウム)
5. 北村拓也, 岡田果歩, 河本空, 高橋南海, 渡邊舞. 月経周期中の疼痛閾値変化と睡眠の関係. 第30回新潟県理学療法学会 (長岡市), 2024.10.27.
6. 北村拓也, 神田賢, 佐藤成登志, 山本智章, 渡邊慶. 高齢慢性腰痛患者に対する運動療法効果は性別により異なるか. 第16回日本運動器疼痛学会 (東京都), 2024.12.1.
7. 近藤悦子, 木村慎二, 安藤千晶, 北村拓也. 維持期の慢性疼痛2事例に対するスマートフォン版いきいきリハビリノートを用いたテレナーシングの経験. 第16回日本運動器疼痛学会 (東京都), 2024.11.30.
8. 北村拓也, 金子巧, 知名規人, 若菜翔哉, 長島裕子. 非認知能力である表情変化の乏しさは臨床実習の遂行に影響する. 第13回日本理学療法教育学会学術大会 (福岡県), 2024.12.14.

4. 学会活動

1. 第13回日本理学療法教育学会, 演題査読 (2件), 福岡, 2024.12.14-12.15.
2. 第10回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会, 演題査読 (3件), 神奈川+WEB, 2024.10.19-10.20.
3. 第7回日本産業理学療法研究会学術大会, 演題査読 (1件), WEB, 2024.10.27.
4. 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 座長, 千葉, 2024.10.6.
5. 新潟県理学療法士会, 第30回新潟県理学療法士学会, 士会会長, 長岡市, 2024.10.26-10.27.

6. 日本理学療法士協会 関東甲信越協議会, 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 協議会長, 千葉市, 2024.10.5-10.6.

5. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 厚生労働省慢性疼痛事業第2回新潟県慢性疼痛研修会, ファシリテーター, 新潟大学医歯学総合病院+オンライン, 2025.1.19.
2. 新潟県理学療法士会 2024年度 領域別講習会(運動器)応用編 「非特異的腰痛に対する理学療法の理論と実際」, 講師, 新潟市北区, 2024.10.12-10.13.
3. 新潟県理学療法士会 2024年度 下越ブロック研修会 「慢性腰痛に対する理学療法の考え方・病態に基づく理論展開」, 講師, オンライン, 2024.7.25.
4. 医療法人鎮誠会講演, 「慢性腰痛に対する理学療法の考え方・病態に基づく理論展開」, 講師, Zoom, 2024.7.29.
5. 三重県理学療法士会研修会, 職業性腰痛の特徴と教育・管理, 講師, 三重県理学療法士会, 理学療法士, 鈴鹿市, 2024.7.28.
6. 十日町シルバー人材センター 運動機能測定会, 測定者・講師, 十日町シルバー人材センター 会員, 十日町市, 2024.10.18.
7. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう! 身体測定会, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア(北区), 2024.7.20.
8. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう! 転倒予防, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア(北区), 2024.8.20.
9. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう! 肩痛予防, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア(北区), 2024.9.17.
10. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう! 腰痛予防, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア(北区), 2024.10.15.
11. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう! 膝痛予防, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア(北区), 2024.11.9.
12. 北区大学連携 未来のまちづくり事業, 自身の体を知り, 健康増進・転倒予防・関節予防を行ってみましょう! 全体会, 講師, 新潟市北区・新潟医療福祉大学, 北区住民, ラグーナスクエア(北区), 2024.12.17.
13. 健康長寿学, 転ばぬ先のコツコツ運動, 講師, 豊栄中高年教養大学, 新潟医療福祉大学, 2024.9.12.
14. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, (株)F社, 社員, 聖籠町, 2024.7.31.
15. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, (株)S社, 社員, 上越市, 2024.10.7.
16. 労働災害(転倒・関節痛)について, 講師, 医師会, 産業医, 長岡市, 2024.11.16.
17. 労働災害(転倒・腰痛)について, 講師, 医師会, 産業医, 新発田市, 2024.12.14.
18. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, (株)M社, 社員, 上越市, 2024.12.16.
19. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と

- 実践, 講師, J福祉施設, 社員, 新発田市, 2024.12.23.
20. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, M工場, 社員, 胎内市, 2024.2.7.
21. 就労支援事業: 労働災害予防のための相談・指導, I運輸, 社員, 新潟市, 2024.2.7.
22. コミュニティ木崎村福祉部会健康体操講座「転倒予防に向けて」, 新潟市北区木崎, 2024.7.6.
23. コミュニティ木崎村福祉部会健康体操講座「腰痛解消に向けて」, 新潟市北区木崎, 2024.9.6.
24. 標準徒手医学会アドバンスコース講演, 「徒手療法による頸椎病態へのアプローチ」, 講師, 東京, 立川市, 2025.3.1.
25. 聖籠町山大夫コミュニティセンター講話会「知って得する今日からできる腰痛・肩痛・膝痛予防」, 聖籠町山大夫, 2025.2.26.
26. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, (株)I社, 社員, 新発田市, 2024.12.6.
27. 「今後の臨床実習指導のあり方について」, 講師, (株)P社, 社員, 岩手県花巻市, 2025.1.25.
28. 就労支援事業: 労働災害予防のためのセミナー, 安心・安全に働くための転倒・腰痛予防の方法と実践, 講師, (株)I社, 社員, 新潟市北区, 2024.10.17.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
1. 新聞記事掲載, 村上新聞, 「価値観の多様化と変わらぬ共感性」, 2024.5.
2. 新聞掲載, 新潟日報, 北区健康・防災講座関連, 2024.8.7.
3. 新聞掲載, 新潟日報, 就労支援関連, 2024.9.5.
4. 新聞掲載, 新潟日報, 災害関連, 2024.2.19.
- 3) 社会活動への参加協力
1. (公社)新潟県理学療法士会 理事(広報部)
2. (公社)新潟県理学療法士会 部員(学術誌部)
3. (一社)日本運動器疼痛学会 代議員
4. 厚生労働省慢性疼痛診療体制構築モデル事業ワーキンググループ委員
5. (公社)新潟県理学療法士会・総会, 理事, 新潟, 2024.6.9.
6. (公社)新潟県理学療法士会・理事会, 理事, 新潟, 2024.4-2025.3. (6回)
7. (公社)新潟県理学療法士会 広報部会議, 理事, Zoom, 2024.4-2025.3. (4回)
8. 慢性疼痛多施設共同研究, 「慢性疼痛患者に対する認知行動療法に基づくいきいきリハビリノートによる運動促進法の効果判定」, 臨床データ収集, 研究員, 新潟大学医歯学総合病院, 2024.4-2025.3. (24回)
9. 慢性疼痛多施設共同研究, 「慢性疼痛患者に対する認知行動療法に基づくいきいきリハビリノートによる運動促進法の効果判定」, 会議, 研究員, Zoom, 2024.4-2025.3. (2回)
10. 日本運動器理学療法学会, 多施設共同研究, 「脊柱後弯姿勢に対する外来理学療法の効果」, データ収集, 副代表, 新潟リハビリテーション病院, 2024.4-2025.3. (48回)
11. 日本運動器理学療法学会, 多施設共同研究, 「脊柱後弯姿勢に対する外来理学療法の効果」, 会議, 副代表, 千葉県, 2024.10.25.
12. (公社)日本理学療法士協会・組織運営委員会, 組織運営, 県代表, web, 2024.4-2025.3. (2回)
13. (公社)新潟県理学療法士会・総会, 会長, 新潟, 2024.6.9.
14. (公社)新潟県理学療法士会・理事会, 会長, 新潟, 2024.4-2025.3. (6回)
15. (公社)新潟県理学療法士会・関連会議, 会長, 新潟, 2024.4-2025.3. (25回)
16. (公社)新潟県介護福祉士会・理事会, 外部理事, web, 2024-2025.3. (2回)
17. 関東甲信越ブロック協議会・士会長会議, 県代表, web, 2024.10-2025.2. (2回)
18. 新潟県リハビリテーション専門職協議会・代表者会議, 会長, 新潟, 2024.4-2025.3. (6回)
19. 新潟県地域包括ケア支援専門職協議会・関連会議, 会長, 新潟, 2024.4-2025.3. (6回)

6. 外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2020年度（継続），基盤研究（C），看護・介護従事者の職業性腰痛に対する包括的腰痛予防プログラムの効果検証，佐藤成登志・神田賢，北村拓也
2. 2024年度（新規），基盤研究（C），高年齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築，佐藤成登志・神田賢，北村拓也
3. 2024年度（新規），基盤研究（C），看護・介護従事者の腰痛，頸部痛，メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証，神田賢・佐藤成登志，北村拓也
4. 2024年度（新規），受託研究，腰痛対策ベルトの装着における効果・性能の実証研究，佐藤成登志・神田賢

7. その他の活動

（公社）新潟県理学療法士会（会長・理事），新潟県リハビリテーション専門職協議会（副会長），新潟県地域包括ケア支援専門職協議会（会長），新潟県介護福祉士会（外部理事），新潟県健康づくり財団（評議員），新潟県高齢者保健福祉推進協議会（委員），Reviewer for international journal "INQUIRY"，新潟県理学療法士会産保訪問支援事業（相談員）

（4）シティズンシップ教育実践研究センター（Citizenship Education Practical Research Center）

①研究テーマ

- 1 QOLサポーター育成に必要なシティズンシップ教育プログラムの開発，実践
- 2 地域資源を活用したシティズンシップ教育プログラムの開発，実践
- 3 上記教育プログラムの開発，実践に伴う調査
- 4 Embodied Knowledge, Human Resource Management

②センター名簿

センター長：西原康行，健康スポーツ学科，教授
研究員：吉田重和，健康スポーツ学科，教授
研究員：佐藤裕紀，健康スポーツ学科，講師
研究員：山本悦史，健康スポーツ学科，講師
研究員：五十嵐紀子，教育・学生支援機構，教授
研究員：原口彩子，社会福祉学科，教授
研究員：杉本 洋，看護学科，教授

③主な活動内容

1. 著書

1. 中西純司・山本悦史・西原康行・川崎登志喜・田代祐子・永田秀隆・古谷武範・齊藤隆志・長谷川健司・馬場宏輝・行實鉄平. はじめて学ぶスポーツマネジメントの理論と実践. 初版. 岐阜：みらい；2024：28-43, 176-191.
2. 吉田重和；二宮皓監修. 見たい，知りたい世界の学校. 初版. 東京：学事出版；2025：18-19.
3. 荒川大靖・原口彩子・渡邊恵司・大屋未輝・丸田秋男・渡邊敏文・青木茂. にいがたの未来を担うソーシャルワーク専門職の研究・教育・実践. 初版. 新潟：新潟医療福祉大学社会福祉学部；2024：16-29.
4. 原口彩子. 心の支えイメージマップガイドブック. 初版. 新潟市：2025：1-39.
5. 佐藤裕紀. 概説グルントヴィー近代デンマークの礎を築いた「国父」，その思想と生涯. 初版. 東京：花伝社；2024：103-116, 167-180.
6. 佐藤裕紀. 増補改訂版ノンフォーマル教育の可能性—リアルな生活に根ざす教育へ. 増補改訂版. 東京：新評論；2024：108-113, 113-117, 197-201.
7. 佐藤裕紀. 生涯学習支援実践講座 生涯学習コーディネーター研修テキストⅣ事業の設計とマネジメントにおけるコーディネート. 第9版. 東京：一般財団法人社会教育通信協会；2025：9-27.

2. 論文

1. 中澤謙, 久田泰広, 渡部琢也, 西原康行. ウェアラブルアイトラッカーの映像と対話による熟練保育者の「みえ」の共有. 日本教育工学会論文誌 (協力学術研究団体). 2025; 49(1): 65-77.
2. 山本悦史・中西純司. プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析: オフィシャルパートナー企業の意思決定プロセスに注目して. スポーツ産業学研究 (協力学術研究団体), 2024; 34(2): 81-103.
3. 本間崇教・山本悦史・島田達人. プロ野球ファーム公式戦の観戦者特性: 新規参加球団の事例から. 松本大学研究紀要. 2025; 23: 73-81.
4. 吉田重和. ISCED-F 2013の活用可能性の検討: 健康スポーツ学を事例として. 新潟医療福祉大学教職支援センター年報. 2024; 8: 1-6.
5. Tanaka K, Haraguchi A, Inaba H. Responses to and outcomes of out-of-hospital cardiac arrest in farmlands compared with other out-of-office workplaces: an observational study using an extended nationwide database. Journal of Public Health. 2024; (in press)
6. Tanaka K, Haraguchi A, Inaba H. Higher Incidences of Severe Medical Emergencies and Poorer Out-of-Hospital Cardiac Arrest Outcomes in Farmlands Compared to Other Outdoor Workplaces. Cureus Article. 2025; 17(1).
7. 佐藤裕紀. フォルケホイスコーレの国際的な広がりとは協働に関する近年の動向—フォルケホイスコーレ協会の戦略に焦点を当てて. 日本生涯教育学会年報 (協力学術研究団体), 2024; 45: 197-214.

3. 学会等研究発表

1. Nishihara Y. Coaching ability using wearable cameras. 23th International Conference "Education, Research and development". (Bulgaria < Webinar >). 2024.8.17-8.18.
2. Nishihara Y. Research on the development of physical education teachers' abilities: Extraction of elements using VR images. European Physical Education Congress in Zagreb (Zagreb < Webiner >), 2024.9.1. 【教育講演】
3. Nishihara Y. Perception Disparities among Basketball Referees: Analyzing Referee Utterances Reviewing Games Recorded with Fixed Video Cameras vs 360-Degree Omnidirectional Cameras. European College of Sport Science 2024 (Glasgow), 2024.7.4.
4. 山本悦史. プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析: オフィシャルパートナー企業の意思決定プロセスに注目して. 全日本能率連盟・全能連マネジメント・アワード2024 (東京), 2025.1.24.
5. 五十嵐紀子. 社会的孤立問題への挑戦—猫の多頭飼育崩壊問題への官民連携事業に見る波及性と今後の課題—. 日本保健医療行動科学会第38回学術集会 (京都市・日本), 2024.10.26-10.27.
6. 五十嵐紀子. 医療福祉とウェルビーイング: ペット飼育問題から考える支援者たちの苦悩とつながり. 日本コミュニケーション学会第53回年次大会 (仙台市・日本), 2024.6.2.
7. 宮曾根美香・小林葉子・安部はるか・関久美子・五十嵐紀子. ムスリムとの共生. 日本コミュニケーション学会2024年度東北支部定例研究会 (オンライン), 2025.3.30. 【シンポジウム】
8. 吉田重和. 若手教員に対する社会的関心の推移に関する一考察. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26.
9. 井関泰聖, 吉田重和. 外国籍学習者の日本語学習環境の検討: 学習ニーズと課題に焦点を当てて. 第24回新潟医療福祉学会学術集会 (新潟市), 2024.10.26.
10. Sugimoto H. Peer Activity and Community Development among Mental Health Field, 3rd International Student Conference in Conjunction with the 1st International Agronursing Seminar (Jember, online), 2024, 9.25. 【Keynote speech】
11. Sugimoto H. Process oriented and co-creation as perspectives in public health policy, Halu Oleo International Conference on Public Health (HOICPH) (kendari, online), 2024, 9.26. 【Keynote

speech]

12. Sugimoto H. Mental Health and Health Promotion: The Role of Process in Recovery and Community Integration. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (Swoul), 2025.2.13-2.14.
13. 外間直樹, 早川貴紀, 佐藤真由美, 杉本洋. 6つの就労支援継続B型事業所のピアサポート活動従事者に対して支援を行っている専門職の認識. 第30回日本精神保健社会学会学術大会 (オンライン), 2024.11.23.
14. Sugimoto H. Resuming Peer Activities: Understanding the Continuity Process of Performance Activities by People with Illnesses. The 8th World Academy of Nursing Science Congress (the 8th WANS) in conjunction with The 5th International Conference of the Indonesian National Nurses Association (the 5th ICINNA) (Lombok), 2024.8.21-8.22.

4. 学会活動

1. 日本体育・スポーツ・健康学会 代議員
2. 体育学研究 査読委員
3. 日本教育工学会論文誌 査読委員
4. 大学体育スポーツ教育学研究 査読委員
5. スポーツマネジメント研究, 査読委員
6. 体育学研究, 査読委員
7. 体育・スポーツ経営学研究, 査読委員
8. 日本経営診断学会論集, 査読委員
9. 日本体育・スポーツ経営学会, 編集委員
10. 日本体育・スポーツ経営学会, 研究・国際委員
11. 日本体育・スポーツ経営学会, 第1回研究報告会, コーディネーター, オンライン, 2024.12.2.
12. 日本体育・スポーツ経営学会第48回大会, 一般発表, 座長, 神戸市, 2025.3.16.
13. 日本コミュニケーション学会, 事務局長
14. 日本ヘルスコミュニケーション関連学会機構, 評議員
15. 新潟医療福祉学会, 査読
16. 第8回まるはち人類学研究会 (中部人類学談話会第270回例会), コメンテーター, 金沢, 2025.3.9.
17. 第30回日本精神保健社会学会学術大会・総会 研究発表司会 2024.11.23.
18. 日本生涯教育学会総務委員長 (事務局長)
19. 北欧教育研究会事務局

5. 社会活動

- 1) 公開講座・講演会等
 1. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 長岡市, 2024.6.3.
 2. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 燕市, 2024.6.11.
 3. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 上越市, 2024.7.24.
 4. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 湯沢町, 2024.9.10.
 5. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 五泉市, 2024.9.22.
 6. 日本スポーツ協会, 上級コーチ養成研修会, 講師, 日本スポーツ協会 (スポーツ庁), 札幌市, 2024.9.5.
 7. 日本スポーツ協会, 共通Ⅲコーチ研修会, 講師, 日本スポーツ協会 (スポーツ庁), 新潟市, 2024.10.5.
 8. 新潟県村上市教育委員会, コーチの資質, 講師, 村上市 (新潟県教育庁), 2024.5.21.
 9. 新潟県燕市教育委員会, コーチの資質, 講師, 燕市 (新潟県教育庁), 2024.6.22.
 10. 新潟県見附市教育委員会, コーチの資質, 講師, 見附市 (新潟県教育庁), 2025.2.8.

11. 令和6年度指導者育成プログラム研修会, スポーツと法:スポーツ事故における指導者の法的責任, 講師, NPO法人希楽々, 融合型部活動指導者・スポ少指導者・体協会員・総合型クラブ職員・教員等, 村上市生涯学習推進センター, 2024.10.29.
 12. 招聘授業(講演), キャンサーギフトという生き方:乳がんになったコミュニケーション研究者にとっての"キャンサーギフト"とは, 講師, 青森中央学院大学, 看護学部学生, オンライン, 2024.6.14.
 13. 介護福祉教員講習会, コミュニケーション技術, 講師, 一般社団法人新潟地域福祉協会, 介護従事者, 新潟市東区プラザ, 2025.1.25-1.26.
 14. 聖籠町こども家庭センタースーパーバイザー事業, 講師, 聖籠町教育委員会, 子どもソーシャルワーカー, 聖籠町, 2024.5.1-2025.3.31.
 15. 令和6年度聖籠町あそび教室発達相談会事業, スーパーヴァイザー, 聖籠町保健福祉課, 保健師, 聖籠町, 2024.7.17-2025.1.15.
 16. 令和6年度「初任者研修【メンタルヘルス】」講座, 講師, 新潟市総合教育センター, 小中学校新任教員, 新潟市, 2024.7.30.
 17. 令和6年度「にこっと」研修会 命を守るコミュニケーション 「愛とそれに似たものを考える」, 講師, 傾聴サロン「にこっと」, 一般市民, 豊栄地区公民館, 2025.1.18.
 18. 令和6年度公民館職員専門講座(シンポジウム), ウェルビーイングの実現に向けた公民館の在り方～取組, はじめの一步～, 講師(コーディネーター), 文部科学省 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター, 公民館職員, オンライン, 2024.10.4.
 19. 第38期社会教育委員会第1回会議, 生涯学習, 社会教育の動向, 講師, 新潟県生涯学習推進課, 社会教育委員, 新潟県庁, 2024.12.19.
 20. 令和6年度新潟市生涯学習センター事業 生涯学習ボランティア講座, ボランティアと生涯学習が支える個人と地域のウェルビーイング, 講師, 新潟市生涯学習センター, 一般市民, 新潟市, 2025.3.21.
- 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
1. 新聞, 新潟日報, 部活動の地域移行に向けて, 2024.5.16.【囲み記事】
 2. 新聞, 新潟日報, 部活動の地域移行 新潟県の進捗, 2024.6.25.
 3. 新聞, 新潟日報, 新潟市スポーツ未来構想会議, 2024.4.1.【囲み記事】
 4. 新聞, 新潟日報, 部活動の地域移行 新潟県の進捗, 2024.6.25.
 5. WEB, Sports Business Online, プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析:オフィシャルパートナー企業的意思決定プロセスに注目して, 2024.5.9.
 6. WEB, PR TIMES, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞(FORUM8デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
 7. WEB, 日経COMPASS, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞(FORUM8デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
 8. WEB, excite, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞(FORUM8デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
 9. WEB, BIGLOBE ニュース, 【新潟医療福祉大学】スポーツ政策学生会議にて健康スポーツ学科のゼミが「協賛社特別賞(FORUM8デジタル賞)」を受賞!, 2024.11.6.
 10. WEB, PR TIMES, 「スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション2024」受賞作品の決定, 2024.11.13.
 11. WEB, 日経COMPASS, 「スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション2024」受賞作品の決定 [スポーツ庁], 2024.11.13.
 12. WEB, スポーツマニア, 「スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション2023」受賞作品の決定, 2024.11.13.

13. WEB, スポーツ庁WEBマガジンDEPORTARE, まち全体まるごとスポーツに親しむことができる場へ!「スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション2024」, 2024.11.22.
 14. WEB, PR TIMES, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.
 15. WEB, 日経COMPASS, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.
 16. WEB, Rakuten Infoseek News, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.
 17. WEB, BIGLOBE ニュース, 【新潟医療福祉大学】スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」健康スポーツ学科のゼミが「優秀賞」を2年連続受賞!, 2024.11.27.
 18. 新聞, 新潟日報朝刊, 「がんになっても大丈夫な社会に」 リレー・フォー・ライフ10年目 患者や家族励まし続け, 2024.9.6.
 19. 雑誌, 新潟の介護の仕事がよくわかる総合ガイド, 介護専門科コラム・介護事業所レポート, 2024.9.30.
 20. 日本精神保健社会学会ニュースレター, 当事者活動と表現と精神保健社会学(理事の現場から)(執筆), 81号, 6・7. 2014.7.15.
 21. 雑誌, 一般社団法人第一生命財団, Green Story, 第34回緑の環境プラン大賞受賞作品集, 8-9. 2025.3.19.
 22. 新聞, 教育新聞, 北欧の教育最前線「デンマークらしさ」をつくる野外博物館, 2024.4.12. (参考URL <https://www.kyobun.co.jp/article/2024041206-4d908>)
 23. 新聞, 教育新聞, 北欧の教育最前線 住民自治による「民衆の公園」デンマーク, 2024.6.7. (参考URL <https://www.kyobun.co.jp/article/2024060706>)
 24. 新聞, 教育新聞, 北欧の教育最前線 オンライン教育の規制へ不登校対策の試行錯誤, 2024.9.13. (参考URL <https://www.kyobun.co.jp/article/2024091306>)
 25. 雑誌, にいがた生涯学習通信, 特集: 社会教育人材のネットワークの実態把握の必要性, 2024.9.
- 3) 社会活動への参加協力
1. 新潟県広域スポーツセンター, 指導助言, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
 2. 長野県広域スポーツセンター, 指導助言, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
 3. 総合型地域スポーツクラブ「NPO 法人希楽々」, 地域と学校の融合, アドバイザー, 2024.4.1-2025.3.31.
 4. 新潟アルビレックスBC, 観戦者調査, 調査員(代表), HARDOFF ECO スタジアム新潟, 2024.7.30.
 5. 胎内DEERS, ホームゲーム運営協力, 学生ボランティア派遣・統括, 胎内市総合グラウンド陸上競技場, 2024.5.11.
 6. 五泉市アーバンスポーツ施設等整備検討委員会, 委員, 五泉市, 2024.4.1-2025.3.31.
 7. 新潟市動物愛護協会ねこ委員会, 猫の殺処分ゼロに向けた活動, 委員, 2024.4.1-2025.3.31.
 8. 新潟はっぴー乳ライフ, 乳がん検診受診率向上のための活動, 委員, 2024.4.1-2025.3.31.
 9. リレー・フォー・ライフ・ジャパン・にいがた実行委員会, がん征圧・がん患者支援のための活動, 副実行委員長, 2024.4.1-2025.3.31.
 10. こころほかほかあたたかい町 ミニミュンヘン 新潟, 子どもが運営するまちのサポートスタッフ, 実行委員, 新潟市西堀ローサ, 2024.10.5-10.6.
 11. 白根大風合戦実行委員会, 大風を地域の方々と作成, サポート(引率を含む), 新潟市白根小学校,

2024.5.12.

12. 白根大風合戦実行委員会, 大風を地域の方々とあげる, サポート (引率を含む), 新潟市白根地区, 2024.6.9.

6. 外部資金 (科学研究費等) の獲得状況

1. 2023, 基盤研究 (C), 保育者としての成長過程に沿ったVR・Learning教材の開発, 研究分担者
2. 2023, 基盤研究 (C), VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化, 研究分担者
3. 2021, 基盤研究 (C), 幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発, 研究分担者
4. 2023, 基盤研究 (C), 体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発, 研究代表者
5. 2022, 基盤研究 (C), プロスポーツにおけるCSV経営の普及に向けた包括的研究, 研究代表者
6. 2023, 基盤研究 (C), 教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較－指導者 (メンター) に着目して, 研究代表者
7. 2021, 基盤研究 (C), 「心の支えイメージマップ」の自殺予防に対する有効性と学校教育導入の検討, 研究代表者
8. 2025, 基盤研究 (C), 共生型農園活動の引きこもり解消への効果とその要因, 研究代表者
9. 2023, 基盤研究 (C), フォルケホイスコーレの受容と生涯学習政策の実証的考察: 日韓比較を通じて, 研究代表者
10. 2023, 基盤研究 (C), 教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較－指導者 (メンター) に着目して, 研究分担者
11. 2021, 基盤研究 (B), 北欧諸国における教科書の中の多様性 (ダイバーシティ) の実相に関する研究, 研究分担者

(5) スポーツカウンセリング研究センター (Sports Counseling Research Center)

①研究テーマ

1. 競技力向上につながる心理的サポートの実践および研究
2. 専門家養成としての大学院生の実践的教育システムの構築
3. スポーツカウンセリングにおける来談ニーズおよび来談傾向の調査
4. 大学院生の資格取得に向けた支援

②センター名簿

センター長 : 山崎史恵, 健康スポーツ学科, 教授
研究員 : 千葉陽子, 心理健康学科, 助教
研究員 : 並木伸賢, 健康スポーツ学科, 助教
補助研究員 : 余村花梨, 博士課程医療福祉学研究科
アドバイザー : 山本裕二, 心理健康学科, 学科長・教授

③主な活動内容

1. 論文

1. 八斗啓悟, 清水登大, 上田寛, 並木伸賢. ネットワークアプローチを用いたアスリートに愛する個別最適なコンディショニングサポートの可能性. スポーツ心理学研究. (査読あり). (印刷中).

2. 学会等研究発表

1. 並木伸賢. 元アスリートが就業時に発揮する強み・弱みのイメージについての予備的検討. 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会 (福岡・オンライン), 2024.8.30.
2. 千葉陽子. スポーツにおける攻撃性研究の動向と今後の課題. 東北心理学会・第77回大会 (仙台市), 2024.8.30.
3. 余村花梨・山崎史恵. 大学運動部員におけるソーシャル・サポート互惠状態の可視化－尺度開発およ

び信頼性・妥当性の検討一、日本スポーツ心理学会第51回大会（広島市），2024.9.29.

4. 千葉陽子、競技引退をテーマとした女性トップアスリートとの面接過程、日本臨床心理身体運動学会・第26回大会（宮崎市），2024.12.14.

3. 学会活動

1. 日本認知・行動療学会第50回大会，自主企画シンポジウム，話題提供者，横浜市，2024.9.23.
2. 日本スポーツ心理学会第51回大会，会員企画自主シンポジウム，話題提供者，広島市，2024.9.27.
3. 日本スポーツ心理学会第51回大会，ラウンドテーブルディスカッション，話題提供者，広島市，2024.9.29.

4. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 令和6年度 佐渡市地域クラブ活動指導者研修会，子どもを育てる地域クラブ活動の指導～スポーツカウンセリングの視点から～，講師，佐渡市社会教育課，スポーツ指導者，アミューズメント佐渡，2024.5.11-5.12.（全2回）
2. 介護教員講習会，教育心理学，講師，一般社団法人新潟地域福祉協会，介護職，新潟市，2024.8.24-8.25.
3. 令和6年度指導者養成プログラム研修会，スポーツ心理学IIIメンタルトレーニング，講師，NPO法人希楽々，スポーツ指導者，2024.10.10.
4. ジュニアスポーツ指導者研修会，スポーツ・コンプライアンスとインテグリティとは？，講師，燕市スポーツ少年団，スポーツ指導者，燕市分水公民館，2024.11.16.
5. 日本健康運動指導士会研修会，運動行動増加に活かす心理学，講師，日本健康運動指導士会研修会新潟県支部，健康運動指導士等，新潟市，2024.11.17.
6. 令和6年度新潟県高等学校体育連盟研究大会，選手が最高のパフォーマンスを発揮するための心理サポート，講師，新潟県高等学校体育連盟，高校教員・部活動指導者，新潟県健康づくりスポーツ医科学センター，2025.12.13.
7. 令和6年度十日町市地域クラブ指導者講習会，スポーツ心理学Iスポーツにおける動機づけ，講師，十日町市教育委員会，スポーツ指導者，十日町市中央公民館，2024.12.16.
8. つばめジュニア卓球クラブ講習会，メンタル強化とサポート，講師，つばめジュニア卓球クラブ，選手・指導者・保護者，フードバンクつばめTSUBAME・BASE，2024.12.28.
9. 見附市地域スポーツクラブ活動指導者養成プログラム，スポーツ心理学Iスポーツにおける動機づけ，講師，見附市まちづくり課，ネーブルみつけ，2025.2.22.
10. 県央スポーツネットワークスポーツ指導者講習会，スポーツ心理学IIIメンタルトレーニング，講師，県央スポーツネットワーク，スポーツ指導者・保護者・登録者，三条市体育文化会館，2025.2.23.
11. 令和6年度新潟県スポーツ指導者研修会，選手を理解し，支えるースポーツ心理学から学ぶ選手との関わり方，講師，新潟県競技スポーツ課，スポーツ指導者，新潟ユニゾンプラザ，2025.2.24.
12. にいがたスポーツタレント発掘・育成事業・専門的な講師による小学生高学年のためのメンタル講習，新潟県，小学4-6年生及びその保護者，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，2025.3.15.
13. 新発田市スポーツ協会活性化事業指導者講習会，信頼関係を深めるコミュニケーション，講師，新発田市スポーツ協会，スポーツ指導者，新発田市カルチャーセンター，2025.3.15.

2) 社会活動への参加協力

1. 新潟県体育協会，スポーツ選手のためのメンタル支援事業，新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター，心理相談，新潟市，2023.4.1-2024.3.31.
2. 日本卓球協会・2024年スポーツ振興くじタレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業（U-10，U-15）東海・北信越，メンタル指導（講義）と個別相談，柏崎総合体育館，2024.10.18.

5. 外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2020年度、若手研究、アスリートの攻撃性を競技発揮に変換するMTプログラムの開発、研究代
表者

6. その他の活動

1) 競技関係者を対象としたスポーツカウンセリング活動

本学アスリート、外部（実業団等）アスリートを対象に相談活動を実施した。

2024年度の来談者数7名のうち、本学強化クラブ選手6名（前年度継続3名、新規3名）、学外者1
名（前年継続、有料面接）であり、年間のべ面接数として、93回の相談面接（1回60分）を実施した。

（6）アスリートサポート研究センター（Athlete Support Research Center）

①研究テーマ

- 1 本学強化クラブにおける外傷・障害状況調査とデータベース構築
- 2 本学女子強化クラブ選手の障害、栄養、睡眠状況、貧血調査とサポート体制の構築
- 3 第5中足骨骨折予防のための超音波検診
- 4 脳震盪の病態解明と発症予防に関する研究
- 5 前十字靭帯発症予防の積極的介入研究
- 6 新潟医療福祉大学、新潟リハビリテーション病院、NSGの3者連携プロジェクト（栄養サポート）
- 7 スポーツ庁研究事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」
- 8 スポーツ庁委託事業「女性アスリートの課題解決実践型プログラム」構築
- 9 新潟スポーツ医・科学コンソーシアムとの共同によるアスリート支援事業

②センター名簿

センター長：大森 豪，健康スポーツ学科，教授
副センター長：江玉睦明，理学療法学科，教授
研究員：稲葉洋美，健康栄養学科，教授
研究員：塙 晴雄，臨床技術学科，教授
研究員：熊崎 昌，健康スポーツ学科，准教授
研究員：木村啓作，鍼灸健康学科，准教授
研究員：菊元孝則，理学療法学科，講師
研究員：三瀬貴生，健康スポーツ学科，講師
研究員：松浦由生子，健康スポーツ学科，講師
研究員：平林 怜，理学療法学科，講師
研究員：星野美美，健康栄養学科，講師
研究員：横田裕丈，理学療法学科，講師
研究員：石垣智恒，理学療法学科，講師
研究員：小宮 諒，理学療法学科，助教
研究員：関根千恵，理学療法学科，助教
研究員：村越裕介，鍼灸健康学科，助教
研究員：曾根美奈子，健康栄養学科，助手
研究員：石井穂乃香，健康栄養学科，助手

③主な活動内容

1. 著書

1. 江玉睦明（分担）。「理学療法技術ガイド第5版」文光堂「アキレス腱断裂」760-764. 2024.
2. 大森豪. アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト 3 スポーツ医学概論，第1版，東京：文
光堂；2024年：267-270.
3. 浦辺幸夫，小宮諒；武藤芳照，内尾祐司，稲垣克記，高橋敏明，吉井智晴，大工谷新一 編. 理学療

法士のための学校における運動器疾患・障害予防教育マニュアル・認定スクールトレーナーの活動の手引き・ 南江堂；2024；208-212.

2. 論文

1. 松浦由生子, 熊澤将大, 筒井大介, 下山好充. 1回あたりの水中練習が肩関節の関節可動域・等尺性筋力・回旋筋腱板の筋厚に及ぼす影響. 水と健康医学研究会（協力学術研究団体）26(1). (in press) (査読あり)
2. 小泉圭介, 森正一郎, 松浦由生子, 脇本茉耶. 第33回オリンピック競技大会（2024/パリ）競泳日本代表チーム帯同報告. 水と健康医学研究会誌（協力学術研究団体）26(1). (in press) (査読あり)
3. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. Journal of Athletic Training (JCR). (in press) (査読あり)
4. 藤本知臣, 原怜来, 馬場康博, 松浦由生子. オープンウォータースイマーの皮膚温度感覚特性とウェットスーツ普及のための基礎的研究. デサントスポーツ科学. 46: 2025. 193-200. (査読あり)
5. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. Orthopaedic journal of sports medicine (JCR). 2024.12(11). (査読あり)
6. 三瀬貴生, 松浦由生子. 成長期女子競泳選手における競技パフォーマンスと体力・運動能力の変化に関する一考察. 日本アスレティックトレーニング学会誌（協力学術研究団体）. 2024; 10(1) 25-32. (査読あり)
7. Matsuura Y. Reply to the Letter to the Editor concerning "Posterior deltoid shoulder tightness and greater contralateral lower limb muscle strength are associated with swimmers' shoulder pain". Journal of science and medicine in sport(JCR). 2024. 27(6) 395 (査読あり)
8. 栗木明裕, 小泉圭介, 松浦由生子, 森正一郎, 杉本啓, 糸井凜. 第20回世界水泳選手権2023福岡大会競泳競技トレーナー帯同報告. 水と健康医学研究会（協力学術研究団体）, 2024; 25(1). 49-55 (査読あり)
9. Nawata A, Koga H, Sasaki R, Watanabe H, Omori G, Koga Y, Kawashima H. Accuracy of a portable lower-limb muscle strength measuring device with a training function. J Phys Ther Sci 2024 Jun; 36(6): 343-351.
10. Uchio Y, Ishijima M, Ikeuchi M, Ikegawa S, Ishibashi Y, Omori G, Shiba N, Takeuchi R, Tanaka S, Tsumura H, Deie M, Tohyama H, Yoshimura N, Nakashima Y. Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of Osteoarthritis of the knee - Secondary publication. J Orthop Sci 2024 Aug 9: S0949-2658(24)00139-8. doi: 10.1016/j.jos.2024.06.013. Online ahead of print.
11. Lyman S, Omori G, Nakamura N, Takahashi T, Tohyama H, Fukui N, Ikeda H, Sasho T, Saito T, Hayashi Y, Deie M. Improved responsiveness for JKOOS+ compared to KOOS in Japanese patients undergoing total knee arthroplasty. J Orthop Sci. 2024 Sep; 29(5): 1255-1258. doi: 10.1016/j.jos.2023.08.021. PMID: 37852901.
12. Inaba H, Hoshino F, Edama M, Omori G. Snack and Nutrient Intake Status of Top-level Female University Athletes: A Cross-Sectional Study. Healthcare(Basel). 2024 Feb 13; 12(4): 468. doi: 10.3390/healthcare12040468.PMID: 38391843.
13. Edama M, Tanaka Y, Shirai T, Takano Y, Sakamoto k, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Ishigaki H, Akuzawa H, Sekine C, Sato N. Dynamics of the suprapatellar bursa during knee joint

- extension movement. *Surg Radiol Anat(JCR)*. 2024 Sep; 46(9): 1387-1392. doi: 10.1007/s00276-024-03390-1.
14. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between first tarsometatarsal ligament morphology and its continuity with the fibularis longus and first tarsometatarsal joint degeneration. *Clin Anat(JCR)*. 2024 Nov; 37(8): 930-937. doi: 10.1002/ca.24167.
 15. Sakamoto K, Edama M, Osanami H, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between joint structure of the first tarsometatarsal joint and its degeneration. *Sci Rep(JCR)*. 2024 Jun 12; 14(1): 13547. doi: 10.1038/s41598-024-64064-x.
 16. Sakamoto K, Edama M (責任著者), Hirai T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Ishigaki T, Komiya M, Toriumi T, Kageyama I. Relationship between insertions of the tibialis anterior and peroneus longus and first tarsometatarsal joint degeneration. *BMC Musculoskelet Disord(JCR)*. 2025 23; 26(1): 82. doi: 10.1186/s12891-025-08319-2.
 17. Ishigaki T, Furuto I, Sato R, Kurisuga Y, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Yokota H, Hirabayashi R, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Examining the changes in strength and mechanical property of dynamic stabilizers of the medial elbow joint through repetitive pitching. *J Shoulder Elbow Surg(JCR)*. 2025 Mar; 34(3): 672-679. doi: 10.1016/j.jse.2024.07.005. Epub 2024 Aug 21.
 18. Ikarashi K, Sato D, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Yamashiro K. Fluctuation of fine motor skills throughout the menstrual cycle in women. *Sci Rep(JCR)*. 2024 Jul 2; 14(1): 15079. doi: 10.1038/s41598-024-65823-6.
 19. Okouchi T, Hirabayashi R, Nakashima S, Abe A, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H, Edama M. Visual kinesthetic illusion alters spinal excitability. *Healthcare(JCR)* 2024, 12(17), 1696; <https://doi.org/10.3390/healthcare12171696>
 20. Kono K, Yamaguchi S, Kimura S, Mikami Y, Kitsukawa K, Matsumoto K, Edama M, Shiko Y, Horii M, Sasho T, Ohtori S. Anterior talofibular ligament footprint dimension measured using three-dimensional magnetic resonance imaging. *Skeletal Radiol(JCR)*. 2024 Sep 7. doi: 10.1007/s00256-024-04778-1. Online ahead of print.PMID: 39243297
 21. Okouchi T, Hirabayashi R, Sugai N, Yokota H, Komiya M, Sakamoto K, Edama M. Impact of Visual Kinesthetic Illusions on Reciprocal Inhibition and Motor Function. *Appl. Sci(JCR)*. 2024, 14(24), 11725; <https://doi.org/10.3390/app142411725>
 22. Ishigaki T, Kurisuga Y, Sato R, Furuto I, Kimura R, Akuzawa H, Sekine C, Hirabayashi R, Yokota H, Okouchi T, Sakamoto K, Edama M. Changes in glenohumeral range of motion by repetitive pitching and their relationship with arm speed during pitching. *Sports Biomech(JCR)*. 2025 19: 1-13. doi: 10.1080/14763141.2025.2452329.
 23. Nishino A, Yamamoto N, Okamura N, Sekine H, Tanaka Y, Nishizawa T, Tanaka M, Edama E, Omori G. Pitching Kinematics and Kinetics Related to Elbow Joint Load in Young Female Baseball Players: Comparison Study with Young Male Baseball Players. *OJSM(JCR)*. 2025. (in press)
 24. Kuroda S, Maeda N, Komiya M, Tashiro T, Yoshimi M, Mizuta R, Ishida A, Urabe Y. Acute effects of running 10km on the medial longitudinal arch height: dynamic evaluation using a three-dimensional motion capture system during gait. *Eur J Hum Mov*. 2024; 52. (査読あり)
 25. Ishihara H, Maeda N, Komiya M, Tashiro T, Tsutsumi S, Arima S, Kawai M, Tamura Y, Ikuta Y, Urabe Y. The vertical mobility of the first tarsometatarsal joint during demi-plié with forced turnout in ballet dancers. *Sci Rep*. 2024; 14: 15321. (査読あり)

26. Kawai M, Maeda N, Gao F, Kobayashi T, Tsutsumi S, Ishihara H, Watanabe T, Komiya M, Tashiro T, Urabe Y. Effect of ball positions on trunk, hip, knee, and ankle joint kinematics and kinetics during a spike jump in volleyball. *Gait and Posture*. 2024; 113: 419-426. (査読あり)
27. Tsutsumi S, Maeda N, Engebretsen, A. H., Kamatsuki Y, Nagano Y, Kuroda S, Ishida A, Tamura Y, Tashiro T, Kaneda K, Arima S, Yoshimi M, Komiya M, Urabe Y. The validity and reliability of a Japanese version of the web-based hamstring outcome score. *Sci Rep*. 2024; 14: 24001. (査読あり)
28. Tamura Y, Maeda N, Komiya M, Iwamoto Y, Tashiro T, Arima S, Tsutsumi S, Mizuta R, Urabe Y. Muscle synergy of the periarticularis shoulder muscles during a wheelchair propulsion motion for wheelchair basketball. *Appl Sci*. 2024; 14(20): 9292. (査読あり)
29. Onoue S, Maeda N, Ikuta Y, Tashiro T, Arima S, Ishihara H, Ishida A, Brand A, Nakasa T, Adachi N, Tsutsumi S, Komiya M, Urabe Y. Comparison of the distance between the talus and lateral malleolus during the stance phase with and without chronic ankle instability. *Sci Rep*. 2024; 14: 27055. (査読あり)
30. Komiya M, Maeda N, Ishihara H, Ishida A, Esaki H, Arima S, Nishikawa Y, Urabe Y. Association between changes in intrinsic foot muscle swelling and improvements in navicular drop height after toe flexor exercises. *Isokinetics and Exercise Science*. 2025. (査読あり)
31. Abekura T, Maeda N, Arima S, Yoshimi M, Tsutsumi S, Tamura Y, Kaizuka R, Komiya M, Tashiro T, Urabe Y. Investigation of archery experience on shoulder girdle motion and acromiohumeral distance at full draw: A pilot study. *The Journal of Back and Musculoskeletal Rehabilitation*. (in press) (査読あり)
32. 水田良実, 前田慶明, 田城翼, 河井美樹, 小田さくら, 石田礼乃, 小宮諒, 浦辺幸夫. 月経周期ごとの遠位脛腓間距離と動的バランスの変動について：縦断的観察研究. *スポーツ理学療法*. 2025; 3(1): 41-47. (査読あり)
33. 栗田剛寧, 鎌苅翔平, 三瀬貴生, 南谷哲司. 発育期野球選手におけるポジション別の腰椎分離症と身体特性の関連, *日本臨床スポーツ医学会誌 (協力学術研究団体)*. 2024; 32(3): 446-453. (査読あり)
34. 三瀬貴生, 松浦由生子. 成長期女子競泳選手における競技パフォーマンスと体力・運動能力の変化に関する一考察, *日本アスレティックトレーニング学会誌 (協力学術研究団体)*. 2024; 10(1): 25-32. (査読あり)
35. 木村啓作, 村越祐介, 粕谷大智 【アスリートを支えるセラピスト・トレーナーたち】はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師・柔道整復師 スポーツ鍼灸の取り組み (解説). *臨床スポーツ医学* 41巻11号 p1152-1155 (2024.11). (査読あり)
36. Ishigaki T, Ishida T, Ino T, Okunuki T, Yokoyama H, Edama M. Relationship between compressive stiffness and tensile stiffness in the human Achilles tendon in vivo. *Journal of Bodywork and Movement Therapies*. 2025; 42: 1073-1078
37. Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, Matsuura Y, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Takahashi Y, Matsumoto H, Ito Y, Kobayashi S, Yokota H, Edama M. Comparison of KJOC Scores in College Athletes With and Without Arm Trouble Across Overhead Sports. *Journal of Athletic Training*. in press
38. Ishigaki T, Yokota H, Akuzawa H, Akiho-Toyoda N, Ushiro K, Ebihara Y, Tanaka S, Wada T, Jigami H, Matsumoto H, Ito Y, Kikumoto T, Matsuura Y, Hirabayashi R, Sekine C, Yamamoto N, Omori G, Edama M. Translation and Cross-cultural Adaptation of the Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic Shoulder and Elbow Score Into Japanese and Comparison of Visual Analog Scale and 10-Point Scale Formats. *Orthopaedic Journal of Sports Medicine*. 2024; 12(11)
39. Okouchi T, Hirabayashi R, Nakashima S, Abe A, Yokota H, Sekine C, Ishigaki T, Akuzawa H,

Edama M. Supraspinal Activation Induced by Visual Kinesthetic Illusion Modulates Spinal Excitability. Healthcare. 2024; 12(17)

40. Sakamoto K, Edama M., Osanami H, Yokota H., Hirabayashi R., Sekine C., Ishigaki T., Akuzawa H., Toriumi T, Kageyama I. Relationship between joint structure of the first tarsometatarsal joint and its degeneration. Scientific Reports. 2024; 14(1)
41. 吉田結梨子, 山口久穂, 西野領, 平林愔, 岡田芳幸. 胸腔内圧の強度の違いがヒラメ筋H反射の遠隔促進に与える影響: 予備的検討. スポーツ歯学 28 (2), 35-40, 2025. (査読あり)
42. 横田裕丈. Close-up 物理療法と運動療法の併用 経皮的迷走神経刺激と運動療法の併用. 理学療法ジャーナル. 58 (7), 798-802, 2024.7.15.

3. 報告書

1. 江玉睦明. 挑戦的研究 (萌芽), 筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確立と新たな運動療法の開発, 研究成果報告書, 2023-2024, 研究代表者.
2. 江玉睦明. 基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 研究成果報告書, 2023-2024, 研究代表者.
3. 江玉睦明. 国際共同研究加速基金 (海外連携研究), 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究成果報告書, 2023-2024, 研究代表者.
4. 久保雅義, 高林知也, 須田裕紀, 江玉睦明. 基盤研究C, 扁平足のタイプ別に基づく足部ランニング障害の発生機序と治療法の解明, 研究成果報告書, 2022-2023, 研究分担者.
5. 三瀬貴生. 若手研究, 「泳動作中の肩峰下空間距離を推定する手法の開発と肩障害の発生要因解明への応用」, 研究成果報告書, 2020年度-2022年度, 研究代表者 三瀬貴生
6. 松浦由生子. 若手研究, 競泳選手の肩関節障害の発生要因の解明, 2020-2023, 研究成果報告書, 研究代表者
7. 太森豪, 古賀寛, 田邊裕治, 小林公一, 坂本信. 基盤研究 (C) (一般), 変形性膝関節症の病態解明ー長期疫学及び新しい運動学的アプローチ, 研究実績報告書, 令和1年~6年度, 研究代表者
8. 三瀬貴生. 科研費若手研究, 「成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明」, 2023年度研究実績報告書, 研究代表者
9. 平林愔. 基盤研究 (C), 脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発, 研究成果報告書, 2022-2024, 研究代表者

4. 学会等研究発表

1. 稲葉洋美, 星野芙美, 江玉睦明, 太森豪. 大学女性アスリートのサプリメント利用状況と食習慣・食意識. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟市), 2024.11.16-11.17.
2. 松浦由生子. 理学療法士からみた女性アスリートに対する障害予防・コンディショニング. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会. 2025.1.25. 【シンポジウム】
3. 松浦由生子. 「Youg member's meeting」. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟・日本). 2024.11.16. 【シンポジウム】
4. 松浦由生子. 日本スポーツ理学療法学会合同シンポジウム「アスリートの腰痛予防を考える」体幹ー隣接関節とのシナジーから考える腰痛予防. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟・日本). 2024.11.17. 【シンポジウム】
5. 松浦由生子. パリオリンピック特別企画「選手はいかに戦い, メディカルはどう支えたか ~水泳編~」パリ五輪で戦うための医科学連携. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (新潟・日本). 2024.11.17. 【特別講演】
6. 松浦由生子. 女性アスリートのコンディショニングとスポーツ傷害. 日本スポーツ整形外科学会 2024. 2024.9.13. 【教育講演】
7. 松浦由生子, 熊澤将大, 藤本知臣, 奈良梨央, 馬場康博, 下山好充, 江玉睦明. ウェアラブルデバイスを用いた睡眠管理により女子水泳選手の睡眠の質と月経随伴症状が改善する. 第13回日本アスレ

- ティックトレーニング学会学術大会（愛知・日本），2024.9.15.
8. 望月友晴，谷藤理，大森豪，前田圭祐. 膝離断性骨軟骨炎～治療戦略と課題～. 日本スポーツ整形外科学会2024（東京都），2024.9.12-9.13.
 9. 前田圭祐，望月友晴，山本智章，大森豪，川島寛之. 体外衝撃波による骨組織に対する作用メカニズムの解明. 日本スポーツ整形外科学会2024（東京都），2024.9.12-9.13.
 10. 大森豪. 変形性膝関節症の画像診断と病態評価－現状と今後の課題－. 第97回日本整形外科学会学術総会シンポジウム（福岡市），2024.5.23-5.26. 【シンポジウム】
 11. 染谷圭一郎，望月友晴，藤田裕，高木繁，大森豪. 膝OA患者の歩行立脚期膝，股関節モーメントと下肢機能軸，アライメントとの関係. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会（大阪市），2024.11.1-11.2.
 12. 田中正栄，渡邊博史，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，坂上勇太，大森豪，古賀良生. 変形性膝関節症におけるX線進行度評価の経時的角度変化～脛骨関節面の水平化指標について～. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会（大阪市），2024.11.1-11.2.
 13. 渡邊博史，田中正栄，遠藤和男，望月友晴，古賀寛，森清友亮，坂上勇太，大森豪，古賀良生. 立位膝前後X線所見定量解析による変形性膝関節症進行予測. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会（大阪市），2024.11.1-11.2.
 14. 斉藤大寛，林智彦，渡邊聡，林豊彦，斉藤将，佐藤卓，大森豪，小林公一，森清友亮，坂本信. 成長期における跳躍型疲労骨折に関係する脛骨の捻じれと曲がりの3次元評価. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会（大阪市），2024.11.1-11.2.
 15. 大森豪. スポーツ医学の地方創生. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会会長講演（新潟市），2024.11.16-11.17. 【特別講演】
 16. Tomiyama Y, Mochizuki T, Koga H, Omori G, Koga Y, Nishino K, Endo K, Kawashima H. Changes with bone remodeling in the cortical bone thickness, coronal alignment, and joint inclination of the femur and tibia observed during 23 to 28 year of follow-up. Osteoarthritis Research Society International(OARSI) 2024, Vienna, Austria. 2024.4.18-4.21.
 17. Nishino K, Omori G, Koga H, Mochizuki T, Takagi S, Maeda K, Anawata, Tanaka M, Watanabe H, Koga Y. Do physical tests and gait analysis predict the onset or progression of knee osteoarthritis in elderly females? - Longitudinal analysis from Matsudai Knee Osteoarthritis Survey-. Osteoarthritis Research Society International(OARSI) 2024, Vienna, Austria. 2024.4.18-4.21.
 18. 江玉睦明. アキレス腱の不思議～形態学的・力学的特性～. 第2回日本スポーツ整形外科学会. 【教育研修講演】. 2024.11.15-11.16.
 19. 江玉睦明，大森豪，山本智章，成田一衛，西原康行. . 日本臨床スポーツ医学会合同シンポジウム「地域における多職種連携」. 新潟県のスポーツ医・科学支援における他職種連携. 日本スポーツ栄養学会第10回大会. 【シンポジウム】. 2024.9.21-9.22.
 20. 江玉睦明. 理学療法士の超音波画像診断装置使用に関する取り組みについて（第2報）. 第35回日本整形外科超音波学会. 【シンポジウム】. 2024.10.19-10.20.
 21. 江玉睦明，高林知也，坂本航大. 女性アスリートの足の諸問題. 第49回日本足の外科学会. 【パネルディスカッション】. 2024.11.7-11.8.
 22. 江玉睦明，大森豪，山本智章，成田一衛，西原康行. 新潟県におけるスポーツ医・科学支援体制構築の取り組み. 第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）. 【シンポジウム】. 2024.11.15-11.16.
 23. 江玉睦明，大森豪，山本智章，成田一衛，西原康行. 新潟県におけるスポーツ医・科学支援体制構築の取り組み～新潟スポーツ医・科学コンソーシアムの形成～. 第11回日本スポーツ理学療法学会. 【パネルディスカッション】. 2025.1.25-1.26.
 24. 江玉睦明. 肉眼解剖・機能解剖学からひも解く運動器疾患の評価と治療. 第38回鹿児島県理学療法

士学会。【特別講演】。2025.2.9.

25. 江玉睦明, 関井優叶, 坂本航大, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林愴, 関根千恵, 小宮諒, 佐藤昇. 前距腓靱帯上部線維束と下部線維束の足関節制動機能の違い～解剖学的研究～. 第35回日本整形外科超音波学会. 2024.10.19-10.20.
26. 江玉睦明, 高野倖, 坂本航大, 横田裕丈, 平林愴, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 大河内偉琉, 大森豪. 月経周期における主観的な浮腫と体水分量との関係. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
27. 江玉睦明, 高林知也, 坂本航大. 前距腓靱帯上部線維束と下部線維束の足関節制動機能の違い～解剖学的研究～. 第49回日本足の外科学会. 2024.11.7-11.8.
28. 穴澤沙也可, 山代幸哉, 卷渕泰輝, 萩野由大, 江玉睦明, 五十嵐小雪, 藤本知臣, 越智元太, 佐藤大輔. 月経周期を考慮した性差が後期活動および反応時間に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
29. 五十嵐小雪, 佐藤大輔, 江玉睦明, 越智元太, 藤本知臣, 山代幸哉. 月経周期における微細運動技能の変化と月経関連症状との関連性. 第78回日本体力医学会大会 (佐賀). 2024.9.2-9.4.
30. 小宮諒, 江玉睦明, 前田慶明, 田村佑樹, 石田礼乃, 平林愴, 横田裕丈, 石垣智恒, 阿久澤弘, 浦辺幸夫, 大森豪. 片側慢性足関節不安定症 (CAI) 者のCAI側と非CAI側での足部・足関節周囲筋形態と弾性の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
31. 高林知也, 江玉睦明, 大森豪, 久保雅義. 性別と内側広筋の筋出力低下がランニング時の膝蓋大腿関節ストレスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
32. 関根千恵, 江玉睦明, 中野祐太, 松永直人, 平林愴, 横田裕丈, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 大森豪. 腰痛既往の有無によるバッティング動作継続時の筋シナジーの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
33. 三瀬貴生, 栗田剛寧, 鎌荻翔平, 松浦由生子, 熊崎昌, 江玉睦明, 大森豪. Scapular Dyskinesisを有する成長期競泳選手の肩関節障害発生状況. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
34. 木村啓作, 村越祐介, 江玉睦明, 大森豪. アスリートに対する鍼灸治療効果の前向き調査研究—3か月間の縦断的研究—. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
35. 村越祐介, 木村啓作, 江玉睦明, 大森豪. 大学強化指定クラブ所属選手に対する鍼灸治療サポート—開始から3か月間の外傷・障害特性に着目して—. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
36. 佐藤亜美, 横田裕丈, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林愴, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 大学陸上競技選手における足部形態評価とその特徴の検討. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
37. 横田裕丈, 小川ほのか, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 坂本航大, 平林愴, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 江玉睦明, 大森豪. アスリートとノンアスリートにおける音楽ビデオゲーム中の集中状態と自律神経活動との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
38. 佐藤亜美, 横田裕丈, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林愴, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激 (taVNS) が上肢リーチ動作の反応時間に及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
39. 平林愴, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 坂本航大, 大河内偉琉, 須貝菜央, 江玉睦明. 咬合が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
40. 大河内偉琉, 平林愴, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 異なる収縮強度での等尺性収縮がIb抑制に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟). 2024.11.15-11.16.
41. 須貝菜央, 平林愴, 大河内偉琉, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智信, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 咬

- 合力が左右均衡なほど咬合による全身反応が向上した。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
42. 坂本航大, 江玉睦明, 石垣智恒, 横田裕丈, 平林愔, 関根千恵, 小宮諒, 大河内偉流, 須貝菜央, 鳥海拓, 影山幾男. Kager's fat pad長母趾屈筋パートの形態学的特徴。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
43. 渡邊貴博, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 主観的な足関節不安定感とランニング時の母趾外転筋活動の関連性。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
44. 森岡未紗, 高林知也, 西口ほのか, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 扁平足者に対するインソールの使用の有無がランニング中の足底腱膜張力に与える影響。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
45. 西口ほのか, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンの違いは膝蓋腱張力の累積負荷に影響を与える。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
46. 角田彪瑠, 高林知也, 平塚栞, 西口ほのか, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 小半径の曲線路ランニングにおける左右下肢関節モーメントの違い。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
47. 緒方嵩人, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 水面および陸上ストリームライン姿勢時における脊柱角度の違い。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
48. 木村玲奈, 石垣智恒, 高橋由弥, 伊藤雄, 松本尚, 菊元孝則, 松浦由生子, 横田裕丈, 江玉睦明. 様々なオーバーヘッド競技における無症状選手と有症状選手間でのKJOCスコアの比較。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
49. 星野美美, 稲葉洋美, 江玉睦明, 大森豪. 高校生女子サッカー選手における睡眠状況と食生活状況の実態調査。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
50. 丸山拓也, 渡部莉那, 佐藤俊光, 江玉睦明, 山本智章, 大森豪, 前田圭祐. スポーツ選手におけるACL再建術後のACL-RSIと膝関節機能との関連。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
51. 西沢岳之, 岡邨直人, 田中康雄, 関根裕之, 西野勝敏, 江玉睦明, 大森豪, 山本智章. ストライドと胸部・骨盤動作に着目した成長期女子野球選手における投球動作。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
52. 小林凜, 山本智章, 西野勝敏, 江玉睦明, 岡邨直人, 関根裕之, 田中康雄, 西沢岳之, 大野健太, 足立航洋, 檜出侑弥, 瀧野一太. 三次元動作解析装置とウェアラブルセンサーで測定した肘関節最大外反トルクの比較。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
53. 田中康雄, 岡邨直人, 関根裕之, 西沢岳之, 西野勝敏, 山本智章, 大森豪, 江玉睦明. 女子野球選手における肘関節モーメントの年代別特徴。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
54. 足立航洋, 岡邨直人, 関根裕之, 田中康雄, 西沢岳之, 小林凜, 江玉睦明, 大森豪, 山本智章. 新潟県高校野球選手における投球数と登板数, 投球障害の実態調査-1・2年生に着目して-第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
55. 関根裕之, 岡邨直人, 田中康雄, 西沢岳之, 足立航洋, 山本智章, 大森豪, 江玉睦明. 女子野球選手における股関節および肩関節筋力の検討。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
56. 島谷美海花, 菊元孝則, 高林知也, 江玉睦明, 久保雅義. 膝前十字靱帯再建術後における膝伸展最大筋力と中間広筋の筋輝度との関係。第35回日本臨床スポーツ医学会（新潟）。2024.11.15-11.16.
57. 平林愔, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 大河内偉琉, 須貝菜央, 阿部花映, 日向芽吹, 吉村太一, 江玉睦明. 咬合不均衡は青斑核と脊髄機能の活性を不均衡にさせた。日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会（大阪）。2024.10.12-10.13.

58. 須貝菜央, 平林 愴, 大河内偉琉, 日向芽吹, 阿部花映, 吉村太一, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合の不均衡が単純反応時間と選択反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
59. 阿部花映, 平林 愴, 須貝菜央, 大河内偉琉, 吉村太一, 日向芽吹, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合は軌道予測能力を向上させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
60. 日向芽吹, 平林 愴, 吉村太一, 阿部花映, 大河内偉琉, 須貝菜央, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 左右の咬合不均衡が反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回総会・学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
61. 小宮諒, 前田慶明, 石原萌香, 石田礼乃, 江玉睦明, 横田裕文, 浦辺幸夫. 足部形態の違いと足趾把持運動後に生じる足部内在筋の筋腫脹の関係. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会(横浜), 2025.1.25-1.26.
62. 三瀬貴生, 松浦由生子. 成長期女子競泳選手における競技パフォーマンス停滞と一般的体力の変化に関する一考察. 第26回水と健康医学研究会(京都市), 2024.6.8.
63. 三瀬貴生, 下門洋文, 下山好充. 成長期女子競泳選手における全国大会出場者の体力・運動能力の経時的変化. 第74回日本体育・スポーツ・健康学会, 第74回日本体育・スポーツ・健康学会(福岡市), 2024.8.27-8.29.
64. 三瀬貴生, 下門洋文, 山城昌一郎, 馬場康博, 奈良梨央, 下山好充. 若年競泳選手の発育・発達過程における水中ドルフィンキック泳のキネマティクスおよび体力・運動能力の変化とキック泳速度との関係. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会(鳴門市), 2024.10.5-10.6.
65. 石垣智恒, 石田知也, 井野拓実, 奥貫拓実, 横山寛子, 江玉睦明. アキレス腱のcompressive stiffnessの部位差とそのtensile stiffnessとの関係. 第5回足の構造と機能研究会学術集会(北海道・日本), 2024.6.1-6.2.
66. 石垣智恒, 石田知也, 井野拓実, 奥貫拓実, 横山寛子, 江玉睦明. 異なる筋間での筋発揮率の関連性および腱力学的特性が筋発揮率におよぼす影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会(東京都・日本), 2024.10.12-10.13.
67. 須貝菜央, 平林 愴, 大河内偉琉, 日向芽吹, 阿部花映, 吉村太一, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合の不均衡が単純反応時間と選択反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
68. 阿部花映, 平林 愴, 須貝菜央, 大河内偉琉, 吉村太一, 日向芽吹, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合は軌道予測能力を向上させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
69. 吉村太一, 平林 愴, 日向芽吹, 阿部花映, 須貝菜央, 大河内偉琉, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合バランスの補正は反応時間を短縮させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
70. 日向芽吹, 平林 愴, 吉村太一, 阿部花映, 大河内偉琉, 須貝菜央, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 左右の咬合不均衡が反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
71. 平林 愴, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 大河内偉琉, 須貝菜央, 阿部花映, 日向芽吹, 吉村太一, 江玉睦明. 咬合不均衡は青斑核と脊髄機能の活性を不均衡にさせた. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会(大阪). 2024.10.12-10.13.
72. 横田裕文, 杉本柚華, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 平林 愴, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 江玉睦明. 経皮的耳介迷走神経刺激(taVNS)が月経周期に伴う自律神経活動変化に及ぼす影響と心理状態との関連. 第10回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会(川崎). 2024.10.20.

73. 横田裕丈, 望月信吾, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 平林怜, 関根千恵, 阿久澤弘, 石垣智恒, 江玉睦明. 心肺運動負荷試験中の経皮的耳介迷走神経刺激 (taVNS) が全身持久力と自律神経活動に及ぼす影響. 第77回日本自律神経学会総会 (京都). 2024.10.25-10.26.
74. 横田裕丈, 阿久澤弘, 山波克彰, 木村玲奈, 小林弘人, 平林怜, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 佐藤来夢, 須貝菜央, 大河内偉琉, 坂本航大, 江玉睦明. 胸鎖乳突筋に対する軟部組織モビライゼーションが自律神経活動に及ぼす影響. 第12回日本筋骨格系徒手理学療法学会. 2024.11.23-11.24.
75. 熊崎昌, 鈴木啓太. 大学女子サッカー競技における試合時の頭部外傷リスクの特徴. 第13回日本アスレティックトレーニング学会学術大会 (愛知県豊田市・日本), 2024.9.14-9.15.

5. 学会活動

1. 第35回日本臨床スポーツ医学会 シンポジウム座長, 新潟市, 2024.11.16. (稲葉洋美)
2. 日本臨床スポーツ医学会, 教育研修委員会, 委員長 (大森豪)
3. 日本臨床バイオメカニクス学会, 将来構想委員会, 委員 (大森豪)
4. 日本人工関節学会, 人工関節認定医制度検討委員会, 委員 (大森豪)
5. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 特別講演, 座長, 新潟市, 2024.11.16-11.17. (大森豪)
6. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, シンポジウム1, 座長, 新潟市, 2024.11.16-11.17. (大森豪)
7. 日本スポーツ整形外科学会2025, シンポジウム12座長, 東京都, 2024.9.12-9.13. (大森豪)
8. 第51回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会, 市民公開講座, 座長, 大阪府, 2024.11.1-11.2. (大森豪)
9. 第30回日本最小侵襲整形外科学会, パネルディスカッション, 座長, あわら市, 福井県, 2024.11.8-11.9. (大森豪)
10. 第2回日本膝関節学会, TKAフォーラム, 座長, 宜野湾市, 沖縄県, 2024.12.6-12.7. (大森豪)
11. 日本整形外科学会英文誌 (J. Orthop, Science), 査読委員 (大森豪)
12. 日本臨床スポーツ医学会, 学会誌査読員 (大森豪)
13. 新潟県医師会スポーツ医学再研修会, 特別講演, 座長, 新潟市, 2025.3.15. (大森豪)
14. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 運営・プログラム委員会 委員長, 新潟市, 2024.11.16-11.17. (江玉睦明)
15. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会, 学術委員, 札幌市, 2024.6.1-6.2. (江玉睦明)
16. 「令和6年度 Sports in Life推進プロジェクト総合事業における調査研究事業」連携協力団体 (担当) (江玉睦明)
17. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会 (札幌), 特別講演Ⅰ 座長, 札幌市, 2024.6.1-6.2. (江玉睦明)
18. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会 (札幌), 特別講演Ⅱ 座長, 札幌市, 2024.6.1-6.2. (江玉睦明)
19. 第5回足の構造と機能研究会 学術集会 (札幌), 一般演題 座長, 札幌市, 2024.6.1-6.2. (江玉睦明)
20. 第29回日本基礎理理学療法学会 シンポジウム4「運動器エコーの新時代～SAVE THE MENISCUS～」, 座長, 東京, 2024.10.12-10.13. (江玉睦明)
21. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術大会, シンポジウム16「足部・足関節の不安定性に迫る」, 座長, 新潟市, 2024.11.16-11.17. (江玉睦明)
22. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術大会, 「スポーツ医学に興味のある学生・研修医・医療従事者向け特別企画」, 座長, 新潟市, 2024.11.16-11.17. (江玉睦明)
23. PTR-journal E10295-A 【査読】 (江玉睦明)
24. ANSI-D-24-00126 【査読】 (江玉睦明)
25. Clinical Anatomy CA-24-0300 【査読】 (江玉睦明)
26. ANSI-D-24-00242 【査読】 (江玉睦明)
27. ANSI-D-24-00294 【査読】 (江玉睦明)

28. ANSI-D-25-00061 【査読】（江玉睦明）
 29. Journal of clinical medicine Topic Editor（江玉睦明）
 30. 日本スポーツ理学療法学会「スポーツ理学療法学」査読委員（小宮諒）
 31. 日本スポーツ理学療法学会 総務委員（小宮諒）
 32. 日本スポーツ理学療法学会 情報戦略・IR委員（小宮諒）
 33. 日本水泳・水中運動学会，事務局，会計（三瀬貴生）
 34. 日本人類生理学会誌，査読（三瀬貴生）
 35. Journal of Athletic Training，査読（石垣智恒）
 36. Journal of Bodywork and Movement Therapies，査読（石垣智恒）
 37. Scandinavian Journal of Medicine and Science in Sports，査読（石垣智恒）
 38. Qeios，査読（石垣智恒）
 39. Sports Science for Health，査読（石垣智恒）
 40. BMC Musculoskeletal Disorder，査読（石垣智恒）
 41. BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation，査読
 42. PM&R，査読（石垣智恒）
 43. スポーツ理学療法学，査読（石垣智恒）
 44. 日本スポーツ歯科医学会，編集委員（平林怜）
 45. Frontiers in Physiology，論文査読（平林怜）
 46. Experimental Physiology，論文査読（平林怜）
 47. Sports Biomechanics，論文査読（平林怜）
 48. Physiology International，論文査読（平林怜）
 49. Experimental Physiology，論文査読（平林怜）
 50. Motor Control，論文査読（平林怜）
 51. 第35回日本臨床スポーツ医学会，座長（平林怜）
 52. 日本物理療法合同学会大会2025，座長（平林怜）
 53. Physiological Reports，Reviewer，January 27, 2025（横田裕丈）
6. 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
 1. （一財）新潟県水泳連盟水泳コーチ更新研修会，スポーツをしている方々の食と栄養，講師，（一財）新潟県水泳連盟，アクシー中央，2024.8.18.（稲葉洋美）
 2. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定，栄養セミナー，講師，アルビレックス新潟U14，聖籠町，2024.5.6.（稲葉洋美）
 3. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定，栄養セミナー，講師，アルビレックス新潟ユース，聖籠町，2024.10.25.（稲葉洋美）
 4. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定，栄養セミナー，講師，アルビレックス新潟U15，オンライン，2024.12.22.（稲葉洋美）
 5. 埼玉県水泳連盟，水泳指導員資格更新研修，Women's Health Project，講師，競泳コーチ，埼玉県上尾市，2024.9.29.（松浦由生子）
 6. 新潟県水泳連盟，水泳指導員資格更新研修，Women's Health Project，講師，競泳コーチ，新潟県長岡市，2024.11.3.（松浦由生子）
 7. 2024年度水泳コーチ4 必修研修会，メディカルコンディショニング，講師，日本水泳連盟競技力向上コーチ委員会，水泳コーチ，講師，オンデマンド，2024.10.1-11.30.（松浦由生子）
 8. 日本スポーツ協会/日本水泳連盟 公認 水泳コーチ4 競泳 必修研修会，日本水泳連盟，競泳 トレーナーの知識，講師，オンライン，2024.11.24.（松浦由生子）
 9. 2024年度水泳競技メディカルサポートミーティング，パリオリンピック帯同報告，日本水泳トレー

- ナー会議，講師，ナショナルトレーニングセンター，東京都北区，2024.11.9.（松浦由生子）
10. 日本スポーツ理学療法学会 第4回臨床研究支援セミナー，肘関節の理学療法，実行委員，理学療法士，オンデマンド，2024.6.23.（松浦由生子）
 11. 日本スポーツ理学療法学会 第5回臨床研究支援セミナー，股関節の理学療法，実行委員，理学療法士，オンデマンド，2025.2.16.（松浦由生子）
 12. 新発田市総合型地域スポーツクラブとらい夢職員研修会，支えるスポーツ，新発田市総合型地域スポーツクラブ，講師，新発田市五十公野公園陸上競技場本部室，新発田市，2025.2.28.（松浦由生子）
 13. 2024年度日本水泳トレーナー会議基礎研修会，水泳選手の肩関節障害，（公財）日本水泳連盟医事委員会連携組織 日本水泳トレーナー会議，講師，スポーツ健康医療専門学校，東京都，2025.3.8.（松浦由生子）
 14. 令和6年度新潟市中体連部活指導者研修会，成長期のスポーツ傷害：腰椎分離症，講師，新潟市中体連，体育教員，新潟市，2024.5.31.（大森豪）
 15. 令和6年度中堅教諭等資質向上研修（養護教諭），成長期のスポーツ傷害，講師，新潟県教育委員会，養護教員，新潟市，2024.6.28.（大森豪）
 16. 第4回アスリートケアセミナー，変形性膝関節症の診断，治療，進行予防への戦略～新潟からの挑戦～，講師，アスリートケア研究会，理学療法士，アスレティックトレーナー，鍼灸師，大阪府，2024.8.8.（オンライン講演）（大森豪）
 17. 第4回ゴラッソセミナー，地方発プロサッカーチームのJ1への軌跡，講師，スポーツドクター，トレーナー，Arthrex，東京都，2024.9.12.（大森豪）
 18. 令和6年度日本スポーツ協会公認スポーツドクター養成講習会，中高年者と運動（整形外科系），講師，日本スポーツ協会，講習会受講者（医師，歯科医師），東京都，2024.10.5.（大森豪）
 19. 運動と医学の出版社研修会「臨床に生かす機能解剖学～肉眼解剖から足部・足関節の可動性と安定性を紐解く～」，講師，理学療法士，WEB開催，2024.4.14.（江玉睦明）
 20. セラピストフォーライフ研修会「膝関節の屈曲制限に対する機能解剖学①」，講師，理学療法士，WEB開催，2024.4.21.（江玉睦明）
 21. セラピストフォーライフ研修会「膝関節の屈曲制限に対する機能解剖学②」，講師，理学療法士，WEB開催，2024.4.28.（江玉睦明）
 22. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー新潟市中体連部活動指導者研修会，新潟市中学校保健体育・部活動指導者，新潟市，2024.5.31.（江玉睦明）
 23. Essence of sports medicine「下肢」，講師，医師，理学療法士，新潟県，2024.6.22.（江玉睦明）
 24. 副島整形外科・副島整形外科クリニック 病院勉強会「足関節背屈可動域制限」，講師，理学療法士，WEB開催，2024.8.21.（江玉睦明）
 25. アスリート×企業交流イベント，学生，企業，企画・運営，新潟医療福祉大学，2024.9.9.（江玉睦明）
 26. セラピストフォーライフ研修会「肘関節の可動域制限に対する機能解剖学」，講師，理学療法士，WEB開催，2024.9.15.（江玉睦明）
 27. 第1回スポーツケアナース認定講習会，看護師，企画・開催，新潟医療福祉大学，2024.10.5-10.6.（江玉睦明）
 28. 第12回新潟スポーツ傷害フォーラム－新潟県スポーツドクター協会研修会－，医師，理学療法士，企画・開催，新潟市，2024.10.12.（江玉睦明）
 29. 高千・外海府地区青少年全育成協議会 教育講演会「親子で学ぶ けがをしない体づくり」，講師，小学生，中学生，保護者，地域住民，佐渡島，2024.10.16.（江玉睦明）
 30. 第35回日本臨床スポーツ医学会市民公開講座「新潟のスポーツを輝かせる指導者からのメッセージ」，一般市民，企画・運営，朱鷺メッセ，2024.11.17.（江玉睦明）
 31. 第35回日本臨床スポーツ医学会共催シンポジウム「だからスポーツ医学は面白い」，学生，研修医，

- 医療従事者，企画・運営，朱鷺メッセ，2024.11.17.（江玉睦明）
32. 第12回青少年野球フェスタ2024，野球選手，マネージャー，指導者，ハードオフエコスタジアム，企画・運営，2024.12.15.（江玉睦明）
33. 公益社団法人日本プロサッカーリーグ Jリーグトレーナー研修会「下肢機能解剖学から考える評価と治療法 ～股関節から膝関節まで～」，Jリーグトレーナー，JFAハウス，2024.12.15.（江玉睦明）
34. スポーツ指導者研修会（新潟市スポーツ協会主催），新潟市在住，在学，在勤の方，企画・運営，新潟市陸上競技場，2024.1.14，1.28，2.25，3.5，3.19.（江玉睦明）
35. 令和6年度アスレティックトレーナー連絡会議北 信越ブロック研修会「講演IV「肉眼解剖・機能解剖学的視点から紐解く足関節可動域制限の評価と運動療法～拘縮要因の理解を中心に～」」，講師，アスレティックトレーナー，WEB開催，2025.2.24.（江玉睦明）
36. セラピストのためのセミナー企画部主催セミナー「足関節背屈制限に迫る：～教科書で学んできた事を“再考”する～」」，講師，理学療法士，WEB開催，2025.3.5.（江玉睦明）
37. 公認アスレティックトレーナー養成講習会専門科目3期講習会，体幹のリコンディショニング，講師，日本スポーツ協会，養成講習会受講生，日本福祉大学東海キャンパス，2024.6.9.
38. 子どもの体力向上プログラム①，身体のやわらかさを知ろう，講師，新潟市北区，北区住民，ラグーナ・スクエア，2024.6.23.（三瀬貴生）
39. 子どもの体力向上プログラム②，ねばり強さ，講師，新潟市北区，北区住民，ラグーナ・スクエア，2024.7.28.（三瀬貴生）
40. 燕市未来いきいき地域クラブ指導者研修会，成長期のスポーツ指導におけるケガの予防，講師，燕市教育委員会，燕市役所，2024.8.24.（三瀬貴生）
41. 子どもの体力向上プログラム③，すばやさ，講師，新潟市北区，北区住民，ラグーナ・スクエア，2024.10.27.
42. 認定理学療法士（スポーツ理学療法）臨床認定カリキュラム講義，スポーツ外傷・障害への理学療法・上肢，講師，水戸協同病院，理学療法士，オンライン，2024.12.6.（三瀬貴生）
43. 子どもの体力向上プログラム④，バランス，講師，新潟市北区，北区住民，ラグーナ・スクエア，2024.12.15.（三瀬貴生）
44. 新潟市スポーツ協会R6年度スポーツ指導者研修会，ジュニア期のトレーニング，講師，新潟市スポーツ協会，スポーツ指導者，新潟市陸上競技場会議室，2025.2.25.（三瀬貴生）
45. 教育講習会，痙縮改善の介入法，講師，相澤病院，リハビリ職，相澤病院，2024.7.26.（平林怜）
46. Functional Manual Therapyを用いた徒手評価と臨床実践－理論編－，講師，日本アレルギーリハビリテーション協会，理学療法士，オンライン，2025.2.6.（横田裕丈）
47. Functional Manual Therapyを用いた徒手評価と臨床実践－理論編－，講師，日本アレルギーリハビリテーション協会，理学療法士，東京，2025.2.16.（横田裕丈）
48. 新潟スポーツ傷害フォーラム指導者セミナー，部活動指導者に知ってもらいたいアタマの怪我とその対応，講師，新潟市中学校体育連盟，新潟市中学校保健体育・部活動指導者，新潟県・スポーツ医科学センター，2024.5.31.（熊崎昌）
49. 新潟県アスレティックトレーナー部会令和6年度総会，日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの新カリキュラムとは，講師，新潟県アスレティックトレーナー部会，アスレティックトレーナー資格保有者，新潟県新潟市，2024.6.30.（熊崎昌）
50. 新潟市スポーツ協会スポーツ指導者研修会，頭部外傷の対応について，講師，新潟市スポーツ協会，一般市民およびスポーツ指導者，新潟県新潟市，2025.1.28.（熊崎昌）
51. 第1回新潟スポーツケアナース認定講習会，頭部外傷（脳振盪），講師，新潟スポーツコンソーシアム，看護師，新潟医療福祉大学，2024.10.5.（熊崎昌）
- 2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞オンライン, 新潟日報, パリ五輪水泳・縁の下の新潟県人 新潟医療福祉大学講師・競泳支援スタッフの松浦由生子さん, 2024.7.14. (囲み記事) (松浦由生子)
 2. 新聞, 新潟日報, パリ五輪競泳支援スタッフの松浦由生子さん, 2024.7.4. (囲み記事) (松浦由生子)
 3. 日本経済新聞 (WEBサイト), 【新潟医療福祉大学】UNIVAS AWARDS 2024-25 アスリートサポート研究センターが「安全安心環境構築優秀取組賞」2年連続の最優秀賞受賞! [NSGグループ], 2025.3.5. (江玉睦明)
 4. 一般雑誌, 月刊スイミングライフ (インターナショナルスイミング), 選手・コーチに役立つスポーツ科学, 2024.11月号 (三瀬貴生)
 5. 行政の広報誌, 新潟市北区役所だより, 「心も体も健幸プロジェクト」実施報告, 2025年3月16日号 (三瀬貴生)
- 3) 社会活動への参加協力
1. パリオリンピック日本代表強化合宿, コンディショニング, アスレティックトレーナー, 東京都北区, 2025.5.8-5.10. (松浦由生子)
 2. フランス カネ ヨーロッパグランプリサーキット, コンディショニング, 競泳日本代表トレーナー, フランス, 2025.5.17-5.24. (松浦由生子)
 3. スペイン バルセロナ ヨーロッパグランプリサーキット, コンディショニング, 競泳日本代表トレーナー, スペイン, 2025.5.26-5.29. (松浦由生子)
 4. モナコ ヨーロッパグランプリサーキット, コンディショニング, 競泳日本代表トレーナー, モナコ, 2025.6.2-6.5. (松浦由生子)
 5. 日本水泳連盟, パリオリンピック日本代表合宿, トレーニング指導, 競泳日本代表トレーナー, フランス, 7.11-7.19. (松浦由生子)
 6. 日本水泳連盟, パリオリンピック競泳日本代表選手団, フランス パリ, 7.19-8.6. (松浦由生子)
 7. 日本水泳連盟, インターナショナル選手強化合宿, 競泳日本代表トレーナー, 長野, 東御市, 2024.12.19-12.23. (松浦由生子)
 8. 新潟県サッカー協会, 医科学委員, 2024.4.1-2025.3.31. (大森豪)
 9. 令和6年度第55回春季北信越大学女子バレーボール選手権大会. メディカルサポート 2024.5.18-5.19. (江玉睦明)
 10. 令和6年度第55回春季北信越大学男子バレーボール選手権大会. メディカルサポート 2024.5.18-5.19. (江玉睦明)
 11. 令和6年度第55回秋季北信越大学女子バレーボール選手権大会. メディカルサポート 2024.11.2-11.3. (江玉睦明)
 12. 令和6年度第55回秋季北信越大学男子バレーボール選手権大会. メディカルサポート 2024.11.2-11.3. (江玉睦明)
 13. 日本パラ陸上競技連盟 クラス分け委員会, 2024年度 クラス分け委員 スキルアップセミナー, 運営委員・事務局, web, 2025.3.29. (小宮諒)
 14. 女子サッカー部, 2024年度北信越女子サッカーリーグ, メディカルサポート, 2024.10.5-10.6. (小宮諒)
 15. 新潟県水泳連盟, 県中学選抜練習会におけるフィットネスチェック, 講師, 長岡市・ダイエープロビスフェニックスプール, 2024.4.14. (三瀬貴生)
 16. 佐渡市スポーツ協会, 佐渡ロングライド210・エイドステーションにおけるストレッチブース, トレーナー, 佐渡市, 2024.5.18-5.19. (三瀬貴生)
 17. 京都水泳協会, 競泳・京都代表チームの国体合宿帯同, アスレティックトレーナー, 京都アクアリーナ, 2024.9.8-9.12. (三瀬貴生)
 18. SAGA2024国民スポーツ大会, 京都府競泳代表選手団のトレーナー帯同, アスレティックトレーナー, 佐賀市, 2024.9.14-9.16. (三瀬貴生)

19. 新潟県フライングディスク協会, 第6回新潟オープンアルティメット大会における救護活動, 救護スタッフ, 新潟市・太夫浜運動公園, 2024.11.4. (三瀬貴生)
20. 京都文教中学・高等学校, コンディショニング指導, 講師, オンライン, 2024.10-12. (三瀬貴生)
21. アクシー東スイミングスクール, トレーニング指導, 講師, 新潟市・アクシー東スイミングスクール, 2024.4-2025.3. (三瀬貴生)
22. 同志社大学水泳部, 競泳選手のトレーニング指導, 指導者, オンライン, 2024.4-9. (三瀬貴生)
23. 京都踏水会, 競泳選手のコンディショニング・アドバイザー, 指導者, オンライン, 2024.9-2025.3. (三瀬貴生)
24. 東京電気通信大学水泳部, スポーツ障害後のリコンディショニング指導, 講師, オンライン, 2024.5.9. (三瀬貴生)
25. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ2024, 救護活動, 救護スタッフ, 新潟医療福祉大学スポーツビレッジ, 2024.10.20. (三瀬貴生)
26. 森ノ宮医療学園校友会, 代議員, 大阪市, 2024.4.1-2025.3.31. (三瀬貴生)
27. 北信越大学サッカー連盟, メディカルサポート, 北信越大学サッカーリーグ1部, 新潟市, 2024.9.15. (平林怜)
28. 公益財団法人日本サッカー協会, メディカルサポート, 総理大臣杯全日本サッカートーナメント北信越大会, 新潟市, 2024.7.7. (平林怜)
7. 外部資金(科学研究費等)の獲得状況
 1. 2020年度, 共同研究(YONEX), スポーツ用具機能の健康増進と競技パフォーマンス向上への有効性の研究, 研究代表者, 延長継続(大森豪)
 2. 2024年度, スポーツ庁委託事業「地域のスポーツ医科学支援体制構築事業」, 研究代表者. (江玉睦明)
 3. 2024年度, 科学研究費 挑戦的研究(萌芽), 筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確立と新たな運動療法の開発, 研究代表者. (江玉睦明)
 4. 2024年度, 科学研究費, 基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 研究代表者. (江玉睦明)
 5. 2024年度, 科学研究費, 国際共同研究加速基金(海外連携研究), 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究代表者. (江玉睦明)
 6. 2024年度, 共同研究, 株式会社ワコール, 研究代表者. (江玉睦明)
 7. 2023年度, 科研費若手研究, 仙腸関節障害の発生に関わる仙腸関節の挙動と形態の解明, 関根千恵, 研究代表者
 8. 2023年度-2024年度, 科学研究費助成事業 若手研究, 「成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明」, 三瀬貴生
 9. 2022年度, 武田科学振興財団 医学系研究助成, 「経頭蓋直流電流刺激(tDCS)と経皮的迷走神経刺激(tVNS)の同時適用による革新的な慢性疼痛治療法の開発」, 横田裕丈.
 10. 2023年度, 科研費若手研究, 「脳刺激と迷走神経刺激の融合による効果的な筋発揮効率の改善手法の開発」, 横田裕丈.
 11. 2023年度, 基盤研究(B), 月経随伴症状としての腰痛の発生メカニズム解明と対処法の開発, 研究代表者
 12. 2023年, 若手研究, 腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響, 研究代表者
 13. 2024年度, 石本記念デサントスポーツ科学振興財団, Deep Learningを用いた画像解析による足部セルフチェックシステムの開発, 研究代表者(小宮諒)
 14. 2023年度-2024年度, 科学研究費助成事業 若手研究, 「成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明」, 三瀬貴生, 研究代表者

15. 2023年, 若手研究, 腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響, 研究代表者(石垣智恒)
16. 2023年, 国際共同研究加速基金, 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 研究分担者(石垣智恒)
17. 2023年, 基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 研究分担者(石垣智恒)
18. 2022-2024年度, 基盤研究(C), 脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発, 研究代表者(平林怜)
19. 2023-2024年度, デサントスポーツ助成, 運動パフォーマンス向上となる最適な咬合の解明: 脳機能と脊髄機能に着目, 研究代表者(平林怜)
20. 2024-2025年度, 日本物理療学会研究助成, 緊張性振動反射介入による筋疲労改善効果の検証, 研究代表者(平林怜)
21. 2024-2025年度, 公益財団法人上原記念生命科学財団, 視覚的運動錯覚がもたらすニューロモデレーション, 研究代表者(平林怜)
22. 2022年度, 武田科学振興財団 医学系研究助成, 「経頭蓋直流電流刺激(tDCS)と経皮的迷走神経刺激(tVNS)の同時適用による革新的な慢性疼痛治療法の開発」, 研究代表者, 横田裕丈.
23. 2023年度, 科研費若手研究, 「脳刺激と迷走神経刺激の融合による効果的な筋発揮効率の改善手法の開発」, 研究代表者, 横田裕丈.

(7) 身体教育研究センター (Physical Education Research Center)

①研究テーマ

- 1 ヒトを対象とした運動発達・身体能力向上, 身体教育に関する研究

②センター名簿

センター長 : 西原康行, 健康スポーツ学科, 教授
 副センター長: 佐近慎平, 社会連携・同窓会推進機構, 准教授
 研究員 : 杉崎弘周, 健康スポーツ学科, 教授
 研究員 : 鵜瀬亮一, 健康スポーツ学科, 講師

③主な活動内容

1. 著書

1. 森昭三, 佐伯年詩雄, 石坂友司, 植田誠治, 大橋美勝, 岡崎勝博, 尾縣貢, 菊幸一, 木塚朝博, 黒川修行, 黒木俊秀, 近藤真庸, 佐見由紀子, 新宮領毅, 杉崎弘周, 助友裕子, 高田彬成, 高本恵美, 照屋博行, 戸野塚厚子, 中村和彦, 西岡伸紀, 能瀬さやか, 藤田紀昭, 松田恵示, 松本格之祐, 三木四郎, 武藤芳照, 物部博文, 吉原昌子. 文部科学省検定済教科書 新中学保健体育. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表
2. 石井里佳, 石坂友司, 稲葉佳奈子, 入谷仁士, 植田誠治, 上田裕司, 上野佳代, 岡崎勝博, 岡山睦美, 欠ノ下郁子, 木越清信, 黒川修行, 小浜明, 坂野百合恵, 佐見由紀子, 杉崎弘周, 助友裕子, 高本恵美, 田中誠二, 千葉久美子, 戸野塚厚子, 長島健二郎, 西岡伸紀, 眞鍋芳明, 物部博文, 森祐樹, 米山拓希. 新中学保健体育の研究 研究編. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表
3. 石井里佳, 石坂友司, 稲葉佳奈子, 入谷仁士, 植田誠治, 上田裕司, 上野佳代, 岡崎勝博, 岡山睦美, 欠ノ下郁子, 木越清信, 黒川修行, 小浜明, 坂野百合恵, 佐見由紀子, 杉崎弘周, 助友裕子, 高本恵美, 田中誠二, 千葉久美子, 戸野塚厚子, 長島健二郎, 西岡伸紀, 眞鍋芳明, 物部博文, 森祐樹, 米山拓希. 新中学保健体育の研究 教授ノート. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表
4. 石井里佳, 石坂友司, 稲葉佳奈子, 入谷仁士, 植田誠治, 上田裕司, 上野佳代, 岡崎勝博, 岡山睦美, 欠ノ下郁子, 木越清信, 黒川修行, 小浜明, 坂野百合恵, 佐見由紀子, 杉崎弘周, 助友裕子, 高本恵美, 田中誠二, 千葉久美子, 戸野塚厚子, 長島健二郎, 西岡伸紀, 眞鍋芳明, 物部博文, 森祐樹, 米

山拓希. 新中学保健体育の研究 朱書き編. 東京: Gakken; 2025: 執筆箇所非公表

2. 論文

1. 中澤謙, 久田泰広, 渡部琢也, 西原康行. ウェアラブルアイトラッカーの映像と対話による熟練保育者の「みえ」の共有. 日本教育工学会論文誌 (協力学術研究団体). 2025; 49 (1): 65-77.
2. Yokoshima T, Sugisaki K. Cancer Awareness, Cause Recognition, and Sources of Information Among Japanese Students: A Repeated Cross-Sectional Nationwide Survey. Cancer Control (JCR). 2024 Jan-Dec;31:10732748241272477. doi: 10.1177/10732748241272477. PMID: 39138604; PMCID: PMC11325464.(review)
3. 片岡千恵, 杉崎弘周, 物部博文, 佐藤賢佑, 和田真理絵, 左右田瑤子. 中学校保健体育科保健分野におけるストレスへの対処の「技能」の習得を目指した授業実践. 日本健康教育学会誌 (協力学術団体), 2024; 32 巻 (4): 292-302. (査読あり)
4. 助友裕子, 市瀬雄一, 細川佳能, 大浦麻絵, 嶋根卓也, 杉崎弘周, 中川明日香, 東尚弘. 高等学校2年生のがんリスク認知の関連要因: がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルに基づく全国調査データの解析. 日本公衆衛生雑誌 (協力学術団体), 2025; 72 巻 (3): 185-198. (査読あり)
5. 大橋祐介, 佐近慎平, 金子勝司. 幼児における短期的な投動作運動プログラムの比較: 保育者が実践できる運動プログラムの開発を目指して. 東筑紫短期大学研究紀要. 2024; 55: 31-34
6. 佐近慎平, 重藤誠一郎, 大橋祐介, 本多理紗, 中曽根裕, 金子勝司, 小池和幸. 高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究. 自由時間研究. 2024; 50: 30-33
7. 本多理紗, 金子勝司, 中曽根裕, 高山昌子, 佐近慎平. 健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究. 自由時間研究. 2024; 50: 34-37
8. 高山昌子, 佐近慎平, 本多理紗, 金子勝司. 高齢者がやや高いと感じる運動強度の健康教室に参加する高齢者の楽しさの検証. 自由時間研究. 2024; 50: 38-41
9. 佐近慎平. 幼児の高這い走行のリズム. 体育の科学. 2024; 74 (6): 357-362
10. 佐近慎平. 2024年度新潟県弥彦村幼児の体力向上事業報告書.
11. 佐近慎平. 2024年度新潟県新発田市パラスポーツ出前講座事業報告書.
12. 佐近慎平. 2024年度ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び事業報告書.
13. 佐近慎平. 2024年度新潟市幼児の運動遊び促進事業報告書.

3. 報告書

1. 佐近慎平, 西原康行, 杉崎弘周, 市川浩. 研究基盤 (C), 幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発, 研究成果報告書, 2021-2024, 研究代表者

4. 学会等研究発表

1. 大室康平, 鵜瀬亮一. 少年期の野球選手の入団および卒団時の意識 (第2報) 経年のアンケート調査結果の比較. 東北体育スポーツ学会・令和6年度 東北体育スポーツ学会 (宮城県仙台市). 2024.12.7.
2. 佐近慎平, 中曽根裕, 本多理紗, 金子勝司. 保育者の幼児の四肢運動と保育に関するみとりの熟達による差 令和6年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議 9.7.
3. 本多理紗, 金子勝司, 中曽根裕, 佐近慎平. 健康体操教室に参加する男性高齢者を行うレクリエーション活動の研究 令和6年度日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議 (栃木), 2024.9.7.
4. 佐近慎平, 中井聖, 岡山千賀子, 仲野隆士. 第78回全国レクリエーション大会 (栃木), 2024.9.7. 【シンポジウム】
5. 土田千歳, 山口典子, 杉崎弘周. ドミニカ共和国農村部の思春期妊娠の予防におけるポジティブ・デビアンス・アプローチの実効性. グローバルヘルス合同大会2024 (糸満市). 2024.11.16.

5. 学会活動

1. Nishihara Y. Perception Disparities among Basketball Referees: Analyzing Referee Utterances

Reviewing Games Recorded with Fixed Video Cameras vs 360-Degree Omnidirectional Cameras.
European College of Sport Science 2024 (Glasgow), 2024.7.4.

2. Nishihara Y. Coaching ability using wearable cameras. 23th International Conference "Education, Research and development". (Bulgaria < Webinar >). 2024.8.17-8.18.
3. 西原康行. 部活動の地域展開における医科学の役割・日本臨床スポーツ医学会. (新潟:朱鷺メッセ), 2024.11.17. 【シンポジウム】
4. 日本保健科教育学会, 第9回研究大会, 実行委員, 横浜市, 2024.12.22.
5. BMC Health Services Research, 査読
6. Journal of Gastrointestinal Cancer, 査読
7. Health Education Research, 査読
8. Scientific Reports, 査読
9. BMC Public Health, 査読
10. 自由時間研究, 査読

6. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 長岡市, 2024.6.3.
2. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 燕市, 2024.6.11.
3. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 上越市, 2024.7.24.
4. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 湯沢町, 2024.9.10.
5. 新潟県教育庁, 部活動の地域展開, 講師, 新潟県教育庁 (スポーツ庁事業), 五泉市, 2024.9.22.
6. 保健教育実践講座, 学習指導要領を踏まえた保健の授業づくり, 研修会講師, 新潟県立教育センター, 受講者, 新潟県立教育センター, 2024.6.27.
7. 十日町市拡大中学校区講演会, 子どものメンタルヘルスと健康教育, 研修会講師, 十日町拡大中学校区, 受講者, 越後妻有文化ホール, 2024.8.1.
8. 保健教育実践講座, 保健教育における主体的・対話的で深い学び, 研修会講師, 新潟県立教育センター, 受講者, 新潟県立教育センター, 2024.9.27.
9. がん教育指導者研修会, 学校におけるがん教育の研究と実践, 研修会講師, 福岡県教育委員会, 受講者, 福岡リーセントホテル, 2024.10.24.
10. 北海道がん教育指導者研修会, 学校におけるがん教育の実践事例, 研修会講師, 北海道教育委員会, 受講者, 本別高等学校, 2024.11.7.
11. 新潟県がん教育指導者研修会, がん教育における効果的な外部講師の活用, 研修会講師, 新潟県教育委員会, 受講者, 新潟県立教育センター, 2024.12.18.
12. がん教育シンポジウム, ファシリテーター, 文部科学省, 受講者, 文部科学省, 2025.2.14.
13. 福祉事業型専攻科キンゴカレッジ, フィットネス, 講師・監修, キンゴカレッジ利用者, キンゴカレッジ, 2024.4.8-2025.3.26. (全45回)
14. スペシャルオリンピックス日本・新潟サッカープログラム, サッカープログラム, 講師, スペシャルオリンピックス日本・新潟, 知的障害者, 新潟市, 2024.7.24-2025.3.15. (全8回)
15. 社会福祉法人どれみ会 どれみ保育園体育, 体育指導, 講師, 保育園園児及び保育士, 川通りどれみ保育園, 2024.5.30-2025.3.30. (全11回)
16. 新潟県村上市幼児の体力向上事業, 幼児の体力向上事業報告会, 講師, 村上市, 村上市保育園保育士・総合型スポーツクラブコーチ, 村上市生涯学習推進センター, 2024.4.11.
17. 新潟県弥彦村体力向上事業, 体育指導, 講師, 弥彦村, 幼児及び保育士, 弥彦保育園, 2024.6.5, 8.6. (全2回)
18. 新潟県弥彦村体力向上事業, 体育指導, 講師, 弥彦村, 幼児及び保育士, 二松保育園, 2024.6.12, 8.1. (全2回)

19. 新潟県弥彦村体力向上事業，体育指導，講師，弥彦村，幼児及び保育士，ひかり保育園，2024.6.19，8.2.（全2回）
 20. 新潟県長岡市ながおか元気キッズわくわくサポート運動遊び，体育指導，講師，幼児及び保育士，白山保育園，2024.6.27，9.25，9.26，2025.1.28，2.20.（全5回）
 21. 新潟県新潟市新潟市幼児の運動遊び促進事業，体育指導，講師，新潟市，幼児及び保育士，かやま保育園，すみれ保育園，早通南保育園，早通北保育園，2024.8.7-12.17.（全9回）
 22. 新潟県新発田市パラスポーツ出前講座，パラスポーツ・福祉教育，講師，新発田市小学校児童及び教員，新発田市小学校，2024.9.10，9.12，9.13.（全5回）
 23. 新潟子どものスポーツ応援プロジェクト，スポーツ体験キャラバン，運営委員，市民，デンカビッグスワンスタジアムほか，2024.6.29，7.21.
 24. 2024年度とよさか中高年教養大学 科目「健康長寿学」，脳の活性化を促す楽しさが先導する運動（マルチ・タスク・アクティビティ）講師，新潟市，市民，葛塚コミュニティーセンター，2025.1.24.
 25. グランセナフットボールクラブスキー体験会，スキー体験会，講師，グランセナフットボールクラブ，グランセナフットボールクラブ選手，新発田市，2025.1.22-1.23（全2回）
 26. 五泉市と新潟医療福祉大学の包括連携事業，親子運動あそび体験会，五泉市，市民，五泉市総合会館 中ホール，2025.3.23.
 27. 新潟医療福祉大学野球教室，小学生111名指導，講師，南魚沼市，2024.7.6.
 28. 新潟医療福祉大学野球教室，中学生91名指導，講師，南魚沼市，2024.7.27.
 29. 新潟医療福祉大学野球教室，中学生32名指導，講師，魚沼市，2024.8.18.
 30. 新潟医療福祉大学スポーツフェスタ，幼児・小学生約200名，講師，新潟市，2024.10.20.
 31. 長岡市野球教室（未経験者），小学生51名，講師，長岡市，2024.10.26.
 32. 長岡市野球教室（経験者），小学生40名，講師，長岡市，2024.10.26.
 33. 十日町市野球教室，中学生98名，指導者21名，講師，十日町市，2024.11.16.
 34. 2024年度 日本スポーツ協会公認コーチ1養成講習会，指導者56名，講師，新潟市，2024.12.1.
 35. 長岡地域定住自立圏「スポーツ振興事業」未経験者野球教室，小学生・幼稚園生76名，2024.12.7.
 36. 長岡地域定住自立圏「スポーツ振興事業」中学生野球教室，中学生48名，2024.12.7.
 37. Christmas Party with 新潟医療福祉大学，小学生30名，大学生13名，新潟市北区 ラグーナスクエア，2024.12.24.
 38. 新潟医療福祉大学野球教室，中学生20名 指導者3名，講師，本学室内練習場，2025.1.12.
 39. 新潟医療福祉大学野球教室，高校生10名指導，講師，新潟市，2025.1.19.
 40. 新発田市指導者講習会，指導者41名，講師，新潟市，2025.1.25.
 41. 新潟医療福祉大学野球教室，高校生17名，講師，新潟市，2025.2.15.
 42. 新潟医療福祉大学野球教室，中学生35名，講師，新潟市，2025.2.16.
 43. 新潟医療福祉大学野球教室，中高生27名，講師，新潟市，2025.2.23.
 44. 新潟医療福祉大学野球教室，小学生17名 指導者6名，講師，新潟市，2025.3.15.
- 2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等
1. 新聞，新潟日報，部活動の地域移行に向けて，2024.5.16.【囲み記事】
 2. 新聞，新潟日報，部活動の地域移行 新潟県の進捗，2024.6.25.
 3. 新聞，新潟日報，新潟市スポーツ未来構想会議，2024.4.1.【囲み記事】
 4. 新聞，新潟日報，新発田市パラスポーツ出前講座，2025.10.1.
- 3) 公的機関（官公庁等）の審議会，委員会等の委員
1. スポーツ庁全国高等学校総合体育大会【インターハイ】実行委員会（監査役）
 2. 新潟県スポーツ推進審議会（会長）
 3. 新潟県部活動改革委員会（委員長）

4. 新潟県スポーツ医科学センターあり方委員会（委員長）
5. 新潟市公共体育施設指定管理者選定委員会（委員長）
6. 新発田市立第一中学校学校評議員会（学校評議員）
7. 胎内市立乙中学校学校運営協議会（委員）
8. 聖籠中学校の部活動の在り方検討委員会（委員長）
9. にいがたスポーツタレント発掘・育成事業検討委員会（委員）
10. 村上市幼児の体力向上事業（アドバイザー）
11. 新潟市幼児の体力向上事業（アドバイザー）
12. 弥彦村幼児の体力向上事業（アドバイザー）
13. 関甲新学生野球連盟（理事）
14. 新潟県野球協議会（理事）
- 4) 職能団体（協会、士会等）の委員
 1. 新潟県スポーツ協会（理事）
 2. 公益財団法人日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議（特任幹事）
7. 外部資金（科学研究費等）の獲得状況
 1. 2023, 基盤研究（C）, 体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発, 研究代表者
 2. 2023, 基盤研究（C）, VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化, 研究分担者
 3. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, 幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発, 研究代表者
 4. 2023年度, 基盤研究（C）, VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化, 研究代表者
 5. 2023年度, 科研費基盤研究（C）, 意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンスをを用いた教育プログラムの開発, 研究分担者
 6. 2022年度, 科研費基盤研究（B）, がん教育の発展に関する実証的研究, 研究代表者
 7. 2021年度, 科研費挑戦的研究（萌芽）, ストレス対処の技能に関する教育プログラムの開発と評価, 研究代表者
 8. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, 学校医の資源ネットワークマップによる地域・学校保健連携促進モデルの開発, 研究分担者
 9. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, 教員の保健・安全の資質・能力育成に関するデジタル学習教材の開発, 研究分担者
 10. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, 子どもの高齢者理解を深める福祉教育プログラムの開発と学校教育現場への応用, 研究分担者
 11. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, 幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ這い位運動指導法開発, 研究分担者
 12. 2021年度, 科研費基盤研究（C）, 「心の支えイメージマップ」の自殺予防に対する有効性と学校教育導入の検討, 研究分担者
 13. 2024年度, 公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成, 高等教育機関における初任者研修のあり方に関する研究, 研究代表者
 14. 2024年度, 公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成, 健康体操教室の参加者と大学生が共に考え実践するレクリエーション活動の研究, 研究分担者
 15. 2024年度, 公益財団法人日本レクリエーション協会研究助成, 高齢者がやや高いと感じる運動強度の健康教室に参加する高齢者の楽しさの検証, 研究分担者

(8) 栄養科学研究センター

①研究テーマ

- 1 全世代を対象とした栄養ケア・サポートに関する研究

②センター名簿

センター長 : 稲葉洋美, 健康栄養学科, 教授
副センター長: 岩森 大, 健康栄養学科, 准教授
研究員 : 永井 徹, 健康栄養学科, 教授
研究員 : 田村典子, 健康栄養学科, 教授
研究員 : 増田紘之, 健康栄養学科, 助教
客員研究員 : 海和美咲, 相模女子大学, 助手

③主な活動内容

1. 著書

1. 田村典子他. 栄養管理と生命科学シリーズ 生化学 初版. 東京: 理工図書; 2024年: p67-77
2. 増田紘之 他15名; 八田秀雄編. 6章 LTを主体にミトコンドリアトレーニングを考える～長距離走のトレーニング～. ミトコンドリアトレーニング～筋肉中心で考えるトレーニングサイエンス. 1版. 東京: 市村出版; 2024: 61-70.

2. 論文

1. 岩森大, 石井穂乃果, 永井徹, 澁谷顕一, 稲葉洋美. 摂食機能維持に向けたとろみ調整食の活用について. 地域ケアリング. 26 (6), 53-58, 2024. (査読あり)
2. Iwamori H, Magara J, Onuki W, Ita R, Sasa A, Tsujimura T, Inoue M. Effect of carbonation and thickening on voluntary swallow in healthy humans. Journal of oral rehabilitation. 2024; Vol.51 (10), 2043-2051. (査読あり)
3. 増田紘之. チアミン (ビタミンB1) の補酵素としての機能と酸化ストレス, 運動. Bio Clinica, 40: 87-92, 2025.

3. 報告書

1. 増田紘之. 科研費基盤研究 (C), 代謝物質としての乳酸から見えてきた, 活動筋—交感神経フィードバック神経回路, 科学研究費助成事業実施報告書, 2024, 研究代表者

4. 学会等研究発表

1. 山澤大輔, 後藤信一, 田村典子, 後藤信哉. 血流下の血小板・フィブリン血栓の成長に寄与する各種パラメーターの定量評価. 第47回日本バイオレオロジー学会学術集会 (東京) 2024.6.8-6.9.
2. 田村典子, 王月栗. 健常人の高血糖が血小板血栓の形成におよぼす影響. 第47回日本バイオレオロジー学会学術集会 (東京) 2024.6.8-6.9.
3. 田村典子, 猪俣七海, 石川敬奈, 内田杏菜. ポリフェノールが血小板血栓形成におよぼす影響. 第22回日本機能性食品医学会総会 (大宮市), 2024.12.7-12.8.
4. 永井徹, 井上達朗, 岩森大, 齋藤泰晴, 坂井邦彦. 地域高齢者に対するサルコペニアの摂食嚥下障害予防実践活動. 第71回日本栄養改善学会学術集会 (大阪), 2024.9.7-9.8.
5. 永井徹, 石月公美子, 堂井真里, 齋藤泰晴. 回復期リハビリテーション患者における血清亜鉛値とCNRC-Jとの関連. 第40回日本栄養治療学会学術集会 (横浜市), 2025.2.14-2.15.
6. Iwamori H, Terao S, Nagai T, Inaba H, Shibuya K. Utilization of thickening food to maintain eating function. International Congress of Nutrition and Dietetics. (Toronto), 2024.6.
7. 平山景子, 岩森大, 井上誠. 介護老人福祉施設において自立支援を考慮しながら食事支援を行った1例. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会 (神戸市), 2024.8.29-8.31.
8. Magara J, Iwamori H, Onuki W, Ita R, Sasa A, Tsujimura T, Inoue M. The European Society for Swallowing Disorders. International Congress of Nutrition and Dietetics. (Münster), 2024.9.
9. 平山景子, 岩森大. 摂食嚥下障害のある要介護高齢者に対する自立支援の取り組み. 新潟栄養士学会

(新潟市), 2024.12.

10. 岩森大, 石井穂乃果, 真柄仁, 井上誠. 炭酸飲料摂取時の味覚刺激および味覚感受性が嚥下筋活動へ及ぼす影響. 日本嚥下歯学会 (神戸市), 2025.2.
 11. Masuda H. Identifying thiamin (vitamin B1) characteristics of PDH with AMPK and anabolic signaling in rat skeletal muscle and liver under thiamin sufficient state. 19th International Conference Biochemistry of Exercise (Ireland). 2024.7.9-7.11.
 12. 稲葉洋美, 星野美美, 江玉睦明, 大森豪. 大学女性アスリートのサプリメント利用状況と食習慣・食意識. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟市), 2025.11.16-11.17.
 13. 埴晴雄, 稲葉洋美, 星野美美, 江玉睦明, 関根千恵, 菊元孝則, 石垣智恒, 松浦由生子, 大森豪. 女子アスリートの貧血・鉄欠乏の実態とヘプシジンの意義. 第35回日本臨床スポーツ医学会 (新潟市), 2024.11.16-11.17.
 14. 曾根美奈子, 星野力, 星野美美, 稲葉洋美. 大学男子柔道選手における減量を行う選手の実態調査. 第22回新潟医療福祉学会 (新潟市), 2024.10.26.
 15. Inaba H, Hoshino F. Body perception and eating habits among Japanese adolescents, 19th International Congress of Nutrition and Dietetics, Canada, 2024.6.12-6.14.
5. 学会活動
1. Journal of Orthopaedic Surgery and Research, 査読
 2. 第35回日本臨床スポーツ医学会 シンポジウム座長, 新潟市, 2024.11.16.
6. 社会活動
- 1) 公開講座・講演会等
 1. むらかみ長寿大学9月特別講座, サルコペニア予防で健康長寿, 講師, 村上市教育委員会長寿大学, 高齢者, 村上市, 2024.9.5.
 2. そのきコミット, 新潟市公民館事業, 栄養と身体活動によりフレイル予防, 講師, 新潟市曾野木地区公民館, 高齢者, 新潟市, 2024.10.11.
 3. むらかみ長寿大学3月特別講座, サルコペニア予防, 講師, 村上市教育委員会長寿大学, 高齢者, 村上市, 2025.3.10.
 4. (一財)新潟県水泳連盟水泳コーチ更新研修会, スポーツをしている方々の食と栄養, 講師, (一財)新潟県水泳連盟, アクシー中央, 2024.8.18.
 - 2) TV出演, ラジオ出演, 新聞掲載, 一般雑誌掲載等
 1. 雑誌, 生活協同組合研究 (公益財団法人生協総合研究所), COVID-19がもたらした食事とデジタルの共生社会, 2024年4月号 Vol.579
 - 3) 社会活動への参加協力
 1. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定, 栄養セミナー, 講師, アルビレックス新潟U14, 聖籠町, 2024.5.6.
 2. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定, 栄養セミナー, 講師, アルビレックス新潟ユース, 聖籠町, 2024.10.25.
 3. 新潟医療福祉大学・アルビレックス新潟・リハビリテーション病院三者連携協定, 栄養セミナー, 講師, アルビレックス新潟U15, オンライン, 2024.12.22.
7. 外部資金 (科学研究費等) の獲得状況
1. 2021年度, 科研費基盤研究 (C), サルコペニア嚥下機能低下高齢者口腔栄養双方向プログラムの実証研究, 永井徹, 研究代表者
 2. 2024年度, 科研費基盤研究 (C), 骨格筋オートファジーを誘導する栄養・運動処方に関する基礎研究-ビタミンB1への着目-, 増田紘之, 研究代表者
 3. 2024年度, 科研費基盤研究 (C), 共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発, 稲葉洋美, 研究代表者

(9) 脳卒中リハビリテーション研究センター (Stroke Rehabilitation Research Center)

①研究テーマ

- 1 脳卒中患者の歩行障害に関わる因子の解明と有効な理学療法プログラムの開発

②センター名簿

センター長 : 犬飼康人, 理学療法学科, 准教授
副センター長: 小股 整, 新潟リハビリテーション病院, 医師
研究員 : 大西秀明, 理学療法学科, 教授
研究員 : 椿 淳裕, 理学療法学科, 教授
研究員 : 芝田純也, 理学療法学科, 教授
研究員 : 齊藤 慧, 理学療法学科, 講師
研究員 : 小島 翔, 理学療法学科, 講師
研究員 : 渡邊慎平, 新潟リハビリテーション病院, 理学療法学科
研究員 : 諏佐貴大, 新潟リハビリテーション病院, 理学療法学科
客員研究員 : 川上紗輝, 新潟医療福祉大学大学院 博士後期課程

③主な活動内容

1. 著書

1. 犬飼康人: 市橋則明編. 図解 理学療法技術ガイド. 第5版. 東京: 文光堂; 2024: 197-203

2. 論文

1. Yamamoto S, Miyaguchi S, Ogawa T, Inukai Y, Otsuru N, Onishi H. Effects of transcranial alternating current stimulation to the supplementary motor area on motor learning. Front Behav Neurosci. 2024; 18: 1378059.
2. Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, Kamii Y, Takahashi H, Miyaguchi S, Otsuru N, Onishi H. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. Behav Brain Res. 2024 Oct 18; 475: 115209.
3. Sasaki R, Kojima S, Saito K, Otsuru N, Shirozu H, Onishi H. Resting-state functional connectivity involved in tactile orientation processing. Neuroimage. 2024; 299: 120834.
4. Yokota H, Edama M, Kawanabe Y, Hirabayashi R, Sekikne C, Akuzawa H, Ishigaki T, Otsuru N, Saito K, Kojima S, Miyaguchi S, Onishi H. Effects of transcutaneous auricular vagus nerve stimulation at left cymba concha on experimental pain as assessed with the nociceptive withdrawal reflex, and correlation with parasympathetic activity. Eur J Neurosci. 2024 May; 59(10): 2826-2835.
5. Maruyama Y, Kojima S, Onishi H. Discrimination of the moving direction is improved depending on the pattern of the mechanical tactile stimulation intervention. BMC Neurosci. 2024; 25(1): 1 5.

3. 学会等研究発表

1. 犬飼康人. 運動を発現する神経メカニズム. 第21回日本神経理学療法学会学術大会 (横浜). 2024.9.28. 【教育講演】

4. 学会活動

1. 第60回日本理学療法学術研修大会, 準備委員会 (財務部長), 東京, 2025.5.31-6.1・2024.7-
2. 第29回新潟県理学療法学術大会, 学術局, 新潟, 2024.10.26-10.27.

5. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会, 脳卒中患者のバランス障害に対する理学療法, 講師, 医療従事者, 新潟・立川メディカルセンター, 2024.12.14.
2. 脳卒中リハビリテーション研究センター研修会, 脳卒中患者の足部の治療, 講師, 医療従事者, 新

潟・新発田リハビリテーション病院, 2025.3.12.

6. 外部資金（科学研究費等）の獲得状況

1. 2023年度, 基盤研究 (C), 動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発, 犬飼康人, 研究代表者
2. 2024年度, 基盤研究 (B), 低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明, 椿淳裕, 研究代表者
3. 2021年度, 基盤研究 (B), 触圧覚刺激に対する皮質応答および個人差の解明と脳卒中リハビリテーションへの展開, 小島翔, 研究代表者
4. 2023年度, 基盤研究 (C), 知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出, 齊藤慧, 研究代表者
5. 2024年度, 基盤研究 (B), 非侵襲ヒト静磁場刺激の創生, 研究課題, 芝田純也, 研究代表者

(10) 次世代デジタルリハビリテーション研究センター (Frontier Research Center for Digital Rehabilitation)

①研究テーマ

- 1 VR・AR・MR技術を駆使した心身機能に関する研究
- 2 非侵襲的脳刺激手法およびシミュレーション技術を用いた脳機能に関する研究
- 3 慢性疼痛患者に対する遠隔サポートに関する効果判定

②センター名簿

センター長 : 大鶴直史, 理学療法学科, 教授
副センター長: 芝田純也, 理学療法学科, 教授
研究員 : 大西秀明, 理学療法学科, 教授
研究員 : 山代幸哉, 健康スポーツ学科, 教授
研究員 : 宮口翔太, 理学療法学科, 講師
客員研究員 : 栗田雄一, 広島大学, 教授
客員研究員 : 原 正之, 埼玉大学, 教授
客員研究員 : 金山範明, 産業技術総合研究所, 主任研究員

③主な活動内容

1. 論文

1. Ikarashi H, Otsuru N, Takahashi S, Nagasaka K, Hara M, Onishi H. Influence of alexithymia severity in the healthy population on the susceptibility to false interoceptive feedback. Front Psychol(JCR). 2024; 15: 1442138. (査読あり)
2. Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, Kamii Y, Takahashi H, Miyaguchi S, Otsuru N, Onishi H. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. Behav Brain Res(JCR). 2024; (115209): 115209. (査読あり)
3. Yoshino A, Maekawa T, Kato M, Chan HL, Otsuru N, Yamawaki S. Changes in resting-state brain activity after cognitive behavioral therapy for chronic pain: A magnetoencephalography study. J Pain(JCR). 2024; 25(8): 104523. (査読あり)
4. Hirata A, Akazawa Y, Kodera S, Otsuru N, Laakso I. Electric field envelope focality in superficial brain areas with linear alignment montage in temporal interference stimulation. Comput Biol Med(JCR). 2024; 178(108697): 108697. (査読あり)
5. Kitatani R, Furuyama T, Otsuru N, Onishi H. Region-specific effects of transcranial direct current stimulation over posterior parietal cortex and cerebellum on standing postural displacement after prism adaptation. Neuroscience(JCR). 2024; 551: 229-236. (査読あり)
6. Yoshino A, Maekawa T, Kato M, Chan HL, Otsuru N, Yamawaki S. Changes in Resting-State

Brain Activity after Cognitive Behavioral Therapy for Chronic Pain: A Magnetoencephalography Study. J Pain(JCR). Published online April 4, 2024: 104523. (査読あり)

7. Yamamoto S, Miyaguchi S, Ogawa T, Inukai Y, Otsuru N, Onishi H. Effects of transcranial alternating current stimulation to the supplementary motor area on motor learning. Front Behav Neurosci(JCR). 2024; 18. doi:10.3389/fnbeh.2024.1378059 (査読あり)
8. Takeo Y, Hara M, Otsuru N, Taihei T, Kawasoe R, Sugata H. Modulation of thermal perception by VR-based visual stimulation to the embodied virtual body. Behav Brain Res. Published online December 11, 2024: 115395. (査読あり)

2. 学会等研究発表

1. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関与する皮質律動活動の検討. 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム (奈良), 2024.8.24-8.25.
2. 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期ストレスと成人期における安静時脳活動の関連. 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム (奈良), 2024.8.24-8.25.
3. 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化. 第8回若手研究者ネットワークシンポジウム (奈良), 2024.8.24-8.25.
4. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関与する心理特性. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会 (東京), 2024.10.12-10.13.
5. 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖条件付けによる皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
6. 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期のストレスと成人期における安静時皮質活動の関連. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
7. 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会 (札幌), 2024.10.24-10.26.
8. Otsuru N, Kojima S, Ikarashi H, Inoue S, Nagasaka K, Shirozu H, Onishi H. Excitatory-Inhibitory Balance Assessed by Aperiodic Component and Its Correlation with Paired-Pulse Inhibition in the Primary Somatosensory Cortex: An MEG study. The Federation of European Neuroscience Societies 2024(Vienna), 2024.6.25-6.29.
9. Ikarashi H, Otsuru N, Nagasaka K, Inoue S, Iimuro K, Onishi H. Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Left DLPFC Does Not Affect Conditioned Pain Modulation. 6th International Brain Stimulation Conference(Kobe), 2025.2.23-2.26.
10. Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Nagasaka K, Iimuro K, Onishi H. Modulation of pain perception variability through tDCS stimulation of the left DLPFC. 6th International Brain Stimulation Conference(Kobe), 2025.2.23-2.26.
11. Iimuro K, Otsuru N, Hirata A, Ikarashi H, Inoue S, Kakuta S, Nagasaka K, Shirozu H, Iimuro K, Onishi H. Modulation of cortical oscillations by transcranial temporal interference stimulation (tTIS) targeting the primary somatosensory cortex. 6th International Brain Stimulation Conference(Kobe), 2025.2.23-2.26.

3. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 第28回ペインリハビリテーション学会プレ kongress セミナー, 定性的に捉える痛みの情動・認知的側面 -質問紙だけではみえない問題を探る-, 講師, 日本ペインリハビリテーション学会,

- PT, web, 2024.4.18.
2. 城東整形外科セミナー, 新たな知覚理論から難治性の痛みを考える, 講師, 城東整形外科, PT・医師, 秋田市, 2024.7.12.
 3. 第16回日本運動器疼痛学会, いきいきリハビリノートスマホ版の活用法, 講師・司会, 日本運動器疼痛学会, 医師, PT, OT, NSなど, 東京, 2024.11.30.
 4. 藤田医科大学 第97回保健学セミナー, 脳と痛みの関係を考える, 講師, 藤田医科大学, 医師, PT, OT, 大学院生など, 愛知, 2024.12.6.
 5. 新潟県慢性疼痛診療システム均てん化等事業, 新潟県慢性疼痛診療研修会, 企画およびファシリテーター, 医師, PT, OT, 大学院生など, オンライン, 2025.1.19.
 6. 新潟県慢性疼痛診療システム均てん化等事業, こころと痛みのカンファレンス, 企画, 医師, PT, OT, 大学院生など, オンライン, 2025.1.19.
4. 外部資金(科学研究費等)の獲得状況
1. 2022年度, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 慢性疼痛における治療非反応性の神経基盤解明による治療効果向上戦略, 研究代表者
 2. 2022年度, 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽), 不安定状態の脳内ネットワーク操作による恐怖記憶消去への挑戦, 研究代表者
 3. 2022年度, 科学研究費補助金 基盤研究(A), 内受容感覚を利用した身体感覚の自然な“脱着”, 研究分担者
 4. 2022年度, 科学研究費補助金 挑戦的研究(開拓), 運動感覚変化による着身体・脱身体現象の誘発とリハビリ応用, 研究分担者
 5. 2022年度, 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽), 慢性疼痛に対する簡易型オンライン集団CBTの開発ならびに治療同盟に関する検証, 研究分担者
 6. 2021年度, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 情動触に影響する生理・神経科学的個人差の検討, 研究分担者
 7. 2021年度, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 脳内ネットワークモジュールの相互作用を標的とした新たな神経リハビリテーション戦略, 研究分担者
 8. 2023年度, 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽), 内受容感覚の操作により知覚力は高まるのか, 研究分担者

(11) 3D技術研究開発センター(3D Technology Prosthetics and Orthotics Research and Development Center)

①研究テーマ

3D スキャナー・3D プリンターを活用した最先端義肢装具製作適合技術の実用化研究

②センター名簿

センター長 : 東江由起夫, 義肢装具自立支援学科, 教授
 副センター長 : 須田裕紀, 義肢装具自立支援学科, 講師
 研究員 : 前田 雄, 義肢装具自立支援学科, 講師
 研究員 : 村山 稔, 義肢装具自立支援学科, 講師
 研究員 : 郷 貴博, 義肢装具自立支援学科, 講師
 研究員 : 佐藤未希, 義肢装具自立支援学科, 講師
 研究員 : 神田 賢, 義肢装具自立支援学科, 准教授
 研究員 : 田中惣治, 義肢装具自立支援学科, 講師

③主な活動内容

1. 論文

1. 須田裕紀, 丸山貴之, 中村隆. 厚生労働行政推進調査事業費補助金(障害者政策総合研究事業), 技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究, 3D技術の運用に関する機器精度の

検証, 令和6年度 総括・分担研究報告書, 研究分担者

2. 学会等研究発表

1. 佐藤未希, 東江由起夫, 前田雄, 郷貴博, 井上捷太, 児玉義弘. OrtenSystem TrueDepth スキャンを用いた複製ソケットの有用性, 第30回日本義肢装具士協会学術大会(さいたま市), 2024.7.13.
2. 田鍋希妃, 東江由起夫. SHB後方足継手部の規格化, 第24回新潟医療福祉学会, 2024.10.26.
3. 古舘海人, 五十嵐優輝, 東江由起夫. バウンス膝継手における断端への衝撃分析ー坐骨結節部及びソケット末部の比較ー, 第40回日本義肢装具学会学術大会SRS3-2, 2024.11.9-11.10.
4. 須田裕紀, 丸山貴之, 中村隆, 浅見豊子. 技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究ー3D技術の導入と運用に関する実態調査ー, 第40回日本義肢装具学会学術大会(福岡), 2024.11.9-11.10.
5. 丸山貴之, 須田裕紀, 中村隆, 浅見豊子. 技術革新を視野に入れた補装具費支給 制度のあり方のための研究ー基本工作法の運用に関する実態調査ー, 第40回日本義肢装具学会学術大会(福岡), 2024.11.9-11.10.
6. 田鍋希妃, 東江由起夫. シューホーン型短下肢装具の足継手後方部の規格化, 第40回日本義肢装具学会学術大会SRS2-4, 2024.11.9-11.10.
7. 佐山良太, 東江由起夫, 大塚博, 大西謙吾, 今信一郎, 花房昭彦, 高木基樹, 山本紳一郎. 機械学習による大腿切断端の内部組織抽出の自動化と断端モデルの検討, 第40回日本義肢装具学会学術大会(福岡市), 2024.11.9-11.10.
8. 岩村祥平, 東江由起夫, 大塚博, 大西謙吾, 今信一郎, 花房昭彦, 高木基樹, 山本紳一郎. 有限要素解析を用いた大腿義足ソケット装着シミュレーション, 第40回日本義肢装具学会学術大会(福岡市), 2024.11.9-11.10.
9. 師井聡一郎, 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀. トポロジー最適化を施した短下肢装具モデルの開発と評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.
10. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田進, 須田裕紀. 短下肢装具設計支援システムの開発ー3Dプリンタを用いる短下肢装具の半自動製作システムの開発と評価, 第40回日本義肢装具学会学術大会, 2024.11.9-11.10.
11. 日下結莉乃, 高木基樹, 花房昭彦, 山本紳一郎, 大西謙吾, 大塚博, 東江由起夫, 前田雄, 須田裕紀. 短下肢装具製作のデジタル化を目指した設計支援システムの開発と試作3Dプリンタ製装具の評価, ライフサポート学会第34回フロンティア講演会, 2025.3.10-3.11.
12. 大塚真緒, 東江由起夫, 大塚博, 大西謙吾, 今信一郎, 花房昭彦, 高木基樹, 山本紳一郎. 3Dプリンタ製体幹装具の製作に向けた有限要素解析. ライフサポート学会第34回フロンティア講演会(東京電機大学), 2025.3.10-3.11.

3. 外部資金(科学研究費等)の獲得状況

1. 2023年度, 科研費基盤研究(C), 3D・3Dプリンタを導入した脳卒中片麻痺者の短下肢装具の実用化研究, 東江由起夫, 研究代表者
2. 2024年度, ニッポー株式会社共同研究費, 3Dスキャナー・3Dプリンターを活用した義肢装具の実用化に向けた研究, 東江由起夫, 研究代表者
3. 2024年度, 厚生労働行政推進調査事業(障害者政策総合研究事業), 技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究, 須田裕紀, 研究分担者
4. 2024年度, 科研費基盤研究(C), 3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究, 前田雄, 研究代表者
5. 2023年度, 科研費基盤研究(C), 下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立, 郷貴博, 研究代表者
6. 2023年度, 科研費基盤研究(C), 女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因

分析, 佐藤未希, 研究代表者

(12) 生物医科学分析研究センター (Research Center for BioMedical Analysis: RCBMA)

①研究テーマ

- 1 質量分析学の医療への貢献
- 2 質量分析法や、それに伴うデータ解析技術を駆使しながら、生物試料やヒト検体中に含まれる生体分子に関する、高感度・高精度な分析法を確立し、医療への貢献を目指しています
- 3 化学物質の適切な取扱法や管理技術について教育・指導を実施しており、リスクアセスメント能力を備えた人材育成に力を入れています

②センター名簿

センター長 : 中山憲司, 臨床技術学科, 准教授
副センター長 : 藤井 豊, 臨床技術学科, 教授
研究員 : 木下直彦, 医療情報管理学科, 教授
研究員 : 田口 徹, 理学療法学科, 教授
研究員 : 花村健次, 診療放射線学科, 教授
研究員 : 久保亜抄子, 鍼灸健康学科, 教授
顧問 : 塙 晴雄, 臨床技術学科, 教授
顧問 : 石浦章一, 医療情報管理学科, 特任教授
客員研究員 : 佐藤根妃奈, 新潟食料農業大学, 講師
客員研究員 : 中西豊文, 修文大学, 教授
客員研究員 : 田中 聡, Trans-IT Co., Ltd., CEO
客員研究員 : 五十嵐一雄, 医薬分析協会, 代表
外国人客員研究員 : Kan-Jen TSAI, 中山医学大学, 教授
外国人客員研究員 : Yan-Zin CHANG, 中山医学大学病院, 教授
外国人客員研究員 : Xin LI, 北京大学医学部第3病院, 助教

③主な活動内容

1. 学会等研究発表

1. 杉野友亮, 保欣, 関戸翔, 景山拓海, 佐々木豪, 舩井覚, 西川晃平, 田中利男, 島田康人, 臧黎清, 村川泰裕, 高野敬志, 中山憲司, 井上貴博. Development of a zebrafish xenograft model to predict the efficacy of platinum-based neoadjuvant chemotherapy for muscle-invasive bladder cancer. 第111回日本泌尿器科学会総会 (横浜市), 2024.4.25.
2. 杉野友亮, 保欣, 宮地志穂里, 関戸翔, 景山拓海, 佐々木豪, 田中利男, 高野敬志, 中山憲司, 孫楽, 村川泰裕, 井上貴博. 筋層浸潤性膀胱癌に対するシスプラチンの薬効評価を目的としたゼブラフィッシュ異種移植モデルの基盤的開発. 日本患者由来癌モデル学会・日本ヒト細胞学会合同学術集会 2024 (東京都), 2024.8.22.
3. 中山憲司. qShot MALDI 質量分析法の臨床応用について. 関西学院大学大学院理工学研究科 外部講師招聘セミナー (三田市), 2024.9.11.
4. 杉野友亮, 宮地志穂里, 保欣, 関戸翔, 景山拓海, 佐々木豪, 舩井覚, 西川晃平, 田中利男, 島田康人, 加藤学, 高野敬志, 中山憲司, 孫楽, 村川泰裕, 井上貴博. Zebrafish avatars towards personalized medicine for muscle-invasive bladder cancer. 第83回日本癌学会学術総会 (福岡市), 2024.9.20.

2. 学会活動

1. 第49回日本医用マススペクトル学会年会, 実行委員, 京都市, 2024.9.13-9.14, 2024.4.1-2025.3.31.
2. The 3rd International Joint Symposium of Japanese Society for Biomedical Mass Spectrometry (JSBMS) and Mass Spectrometry and Advances in the Clinical Lab (MSACL), Organizer, Kyoto,

2024.9.13-9.14, 2024.4.1-2025.3.31.

3. Medical Mass Spectrometry, 2024.8, プロテオーム解析を用いた病態診断法に関する研究, 査読

4. Talanta, 2025.2, MALDI-TOF/MSを用いた分子診断法に関する研究, 査読

3. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 浜松医科大学特別講演 Translational Research in Optical Medical Engineering and Social Implementation, 企画, 瀬藤光利センター長 (浜松医科大学 光医学総合研究所 国際マスメージングセンター), 医師・研究者・大学院生, 浜松市, 2024.9.10.

2) 社会活動への参加協力

1. 第37回 私立大学環境保全協議会 夏期研修研究会, 化学物質管理者, 討論参加者, 野々市・金沢工業大学, 2024.9.5-9.6.
2. 第12回 医用質量分析認定士 資格試験, 試験監督・採点, 京都市・島津製作所, 2024.9.14.

4. 外部資金 (科学研究費等) の獲得状況

1. 2022年度, 科研費・基盤研究 (C), MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用, 中山憲司, 研究代表者
2. 2022年度, 科研費・基盤研究 (B), ストレス誘発性疼痛の中枢機構解明と理学療法効果の実証, 田口徹, 研究代表者
3. 2023年度, 科研費・基盤研究 (C), 酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出, 藤井豊, 研究代表者
4. 2023年度, 科研費・基盤研究 (C), 成体海馬の神経新生の傷害を介した放射線による鎮痛作用を担うメカニズムの解明, 花村健次, 研究代表者
5. 2023年度, 科研費・基盤研究 (B), 筋/筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明, 久保重抄子, 研究代表者

5. その他の活動

1. 大学間共同研究 Sports & Health (S&H) 先端科学研究プロジェクト

- 1) 第4回 Zoom ミーティング: 新潟医療福祉大学RCBMA・同志社大学・修文大学, 2024.6.27.

2. 産学間共同研究 D⇒H プロジェクト

- 1) 第4回 Zoom ミーティング: 新潟医療福祉大学RCBMA・新潟食料農業大学・修文大学 (研究協力: 島津製作所・大塚製薬), 2024.4.15.
- 2) 第5回 Zoom ミーティング: 新潟医療福祉大学RCBMA・新潟食料農業大学・修文大学 (研究協力: 島津製作所・大塚製薬), 2024.8.22.

3. 国際共同研究 (2025年度継続中)

- 1) 中山医学大学病院 毒薬物質分析室, 研究打ち合わせ, 2024.10.21.
- 2) 中山医学大学病院 毒薬物質分析室, 研究打ち合わせ, 2025.3.14.

4. 共同研究依頼

- 1) 東京都医学総合研究所: AMED「慢性の痛み解明研究事業」公募ヒアリング, 2024.4.15.

5. 学会活動

- 1) 第49回日本医用マスペクトル学会 実行委員会, 関西学院大学・新潟医療福祉大学RCBMA・京都大学・同志社大学・修文大学・中部大学, 2024.4.5, 5.20, 9.12.
- 2) 米国 Mass Spectrometry & Advances in the Clinical Lab (MSACL) 学会からの要請を受けて, トロント大学医学物理学学科のArash Zarrine-Afsar 先生のアテンドを担当した. 東京都・浜松市・名古屋市・京都市, 2024.9.10-9.15.

6. 特許出願

- 1) 特願2024-143891 (京都大学・ジーエルサイエンス株式会社)

(13) 看護実践研究センター (Research Center for Nursing Education)

①研究テーマ

- 1 少子高齢、チーム医療の推進等の変化の著しい保健医療福祉分野に主体的に活躍できる看護人材の育成及び看護実践に関する研究

②センター名簿

センター長	宇田優子	看護学科 教授
副センター長	下山博子	看護学科 教授
研究員	渡邊千春	看護学科 教授
研究員	小栗妙子	看護学科 講師
研究員	桶谷涼子	看護学科 講師
研究員	吉田由美	新潟リハビリテーション病院
顧問	西原康行	健康スポーツ学科 教授

③主な活動内容

1. 論文

1. 宇田優子, 石塚敏子, 室岡真樹, 木下直彦. 診療所看護師の患者に対する災害備え指導の実施状況 脳神経内科(神経内科)を標榜する診療所看護師への郵送調査結果. 日本難病看護学会誌. 2024; 29(3): 63-70 (査読有り)

2. 報告書

1. 宇田優子, 木下直彦, 石塚敏子, 桶谷涼子, 土田千歳. 日本学術振興会科学研究助成事業－外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発－. 研究実施状況報告書. 2024; 1-5. (代表)

3. 学会等研究発表

1. Uda Y, Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Kinoshita N. Disaster Preparedness Information for Members of Associations of Patients with Intractable Diseases - The Case of Japan. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing(Kobe), 2024.11.30-12.1.
2. Tsuchida C, Oketani R, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Draft Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet" for Parkinson's Disease Patients(1).
3. Oketani R, Tsuchida C, Ishizuka T, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet: The items of non-protective reactions" for Parkinson's Disease Patients(2). The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing(Kobe), 2024.11.30-12.1.
4. Ishizuka T, Oketani R, Tsuchida C, Uda Y, Kinoshita N. Study of "Draft Disaster Preparedness Self-Assessment Sheet" for Parkinson's Disease Patients(3). The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing(Kobe), 2024.11.30-12.1.
5. 石綿啓子, 宇田優子. 難病看護のやりがいに関する文献検討. 第29回日本難病看護学会(静岡市), 2024.8.24-8.25.
6. 宇田優子, 石塚敏子, 木下直彦, 桶谷涼子, 土田千歳. 難病患者会の組織ライフサイクル成熟状態モデリング研究の予備調査. 第24回新潟医療福祉学会(新潟市), 2024.10.26.
7. 渡邊千春, 内山渉, 小栗妙子, 西原康行. 外来薬物療法を受けるがん患者の電話相談に対する熟練看護師の対応プロセス. 日本教育工学会2024秋季全国大会(第45回大会)(仙台市), 2024.9.7-9.8.
8. 小栗妙子, 渡邊千春, 内山渉, 西原康行. 慢性閉塞性肺疾患の急性増悪場面における熟練看護師の臨床判断. 日本教育工学会2024秋季全国大会(第45回大会)(仙台市), 2024.9.7-9.8.
9. 佐藤汐夏, 若月亜希子, 花矢鮎美, 志田佑佳子, 渡邊千春. 就労と介護による精神的負担を抱える終末期がん患者家族へ行う訪問看護師の支援. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.
10. 堀琴音, 花矢鮎美, 志田佑佳子, 渡邊千春. コロナ禍における看護師の就業継続に伴う困難と継続で

きた要因. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.

11. サバンジュ美智子, 桶谷涼子, 小栗妙子, 渡邊千春. 原発不明がん患者のサポーターケアに関する現状と課題. 第39回日本がん看護学会学術集会(札幌市), 2025.2.22-2.23.
12. 渡邊千春. 外来薬物療法を受けるがん患者の電話相談に対する熟練看護師の対応プロセス. 中部M-GTA研究会第8回(通算第20回研究会)研究会(金沢市), 2024.4.20.
13. 桶谷涼子, 井村紀代子, 志田佑佳子, 下山博子. 看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第1報 新・旧カリキュラムの比較. 第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会(愛媛県東温市), 2024.11.2.
14. 志田佑佳子, 井村紀代子, 桶谷涼子, 下山博子. 看護基礎教育における段階的シミュレーション教育の学習意欲への影響 第2報 Step1とStep2の比較. 第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会(愛媛県東温市), 2024.11.2.
15. 岩野千尋, 下山博子, 桶谷涼子, 若月亜希子, 塚本康子. 地域で生活する高齢者のヘルスリテラシーの実態. 第44回日本看護科学学会学術集会(熊本市), 2024.12.7-12.8.
16. 桶谷涼子, 下山博子, 若月亜希子, 岩野千尋, 塚本康子. 地域で生活する高齢者がんサバイバーのヘルスリテラシーの実態. 第39回日本がん看護学会学術集会(札幌市), 2025.2.22-2.23.
17. 渡邊千春, 内山渉, 小栗妙子, 西原康行. 外来薬物療法を受けるがん患者の電話相談に対する熟練看護師の対応プロセス, 2024年日本教育工学会秋季大会(仙台市), 2024.9.7-9.8.
18. 小栗妙子. 国内の熟練看護師における臨床判断の経験知に関する文献レビュー. 第44回日本看護科学学会学術集会(熊本市), 2024.12.7-12.8.
19. 寺田由紀子, 高田恵理, 小栗妙子, 黒田史彦, 元田貴子, 茅野久美. 地域包括ケア時代に看護学教育と地域をつなぎ, 仲間とつながる社会貢献活動, 日本看護学教育学会第34回学術集会(東京都), 2024.8.19.
20. 後藤千恵, 池田恵子, 小栗妙子. 健康スポーツ学科教員と看護学科教員との共同による連携教育の取り組み, 第35回日本医学看護教育学会学術集会(岡山市), 2025.3.8.
21. 金橋いこい, 真保加奈子, 下山博子. 妊娠期から産後までの産後うつ病予防における看護職の役割. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.
22. 佐野愛実, 真保加奈子, 下山博子. 男子大学生の親性準備性と親になることへの認識に関する研究. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.
23. 竹内優希, 真保加奈子, 下山博子. 共働きの母親が乳幼児期に夫や家族に求める育児支援. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.
24. 新野桜子, 真保加奈子, 下山博子. 看護系女子大学生のHPVワクチンに対する認識と意思決定に関わる要因. 第24回新潟医療福祉学会学術集会(新潟市), 2024.10.26.

4. 学会活動

1. 第24回新潟医療福祉学会シンポジウム「認知症を支える産官学連携と地域連携」, 演者, 新潟市, 2024.10.26.
2. 日本難病看護学会教育推進委員会 オンラインセミナー講師 2024.12.14.
3. 第33回日本死の臨床研究会関東甲信越支部大会, プログラムの企画検討, 実行委員長, 新潟市, 2026.6.6-6.7. (開催予定)
4. 日本がん看護学会, 査読等編集作業, 編集委員, 2023.4-2025.3.
5. 日本がん看護学会, 第39回日本がん看護学会学術集会編集委員会主催研修会 担当, 2025.2.22.

5. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 2024年度日本パーキンソン病友の会新潟県支部総会にて災害の備えミニ講演, 新潟市, 2024.5.24.
2. 新潟日報社主催シンポジウム “新潟の女性の教育と文化”の演者「看護大学教育の歴史, 発展と課題」, 一般, 新潟市メディアシップ, 2025.3.15.

3. 2024年度新潟県看護協会看護学会セッション,「みんなでつくろう！働きやすい職場」令和5年度看護職員労働環境調査結果報告,シンポジスト,新潟市,2024.11.5.
 4. 令和6年度地域看護連携強化事業 地域別研修 北区看護連携研修会,ACPについて理解を深めよう～寄り添い・つなぎ・地域住民の生活を支えるために～,ACPについて,講師,新潟市在宅医療・介護連携ステーション北,看護師,豊栄病院,2024.7.30.
 5. 令和6年度地域看護連携強化事業 看護職研修会,看護職だからできる意思決定支援,講師・ファシリテーター,新潟市在宅医療介護連携ステーション東・在宅医療・介護連携ステーション東第二,看護師,東区プラザ,2024.11.29.
 6. 新潟医療福祉大学看護学科臨地実習指導者研修会,臨地実習指導者の役割,講師,新潟医療福祉大学看護学科,臨地実習指導者,新潟医療福祉大学,2024.8.8.
- 2) 社会活動への参加協力
1. 体験型出張講座,看護の仕事,体験型講義,新潟産業大学附属高校,柏崎市,新潟産業大学附属高校,2024.4.15.
 2. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024にいがた,サバイバー支援啓発,救護,新潟市・新潟県スポーツ公園,2024.9.15.
 3. 帝京けんこうひろばプロジェクト・親のがんを知らされた子どもの心に寄り添うコアラカフェ,サポーター,オンライン,2025.3.16.
 4. 新潟県看護系大学等災害支援連携協議会委員,定例会議,会長校,2024.6.18,2025.3.
 5. 日本看護系大学協議会災害支援対策委員会,中部ブロック会議,代表校,2024.11.1,2025.3.4.
6. 外部資金(科学研究費等)の獲得状況
1. 2024年度,科研費基盤研究(C),難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング,宇田優子,研究代表者,桶谷涼子,研究分担者
 2. 2024年度,科研費基盤研究(C),外来薬物療法を受けるがん患者のニーズに即した電話相談アルゴリズムの開発,渡邊千春,研究代表者
 3. 2024年度,科研費基盤研究(C),がんサバイバーの妊娠・出産,育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成,桶谷涼子,研究代表者,下山博子,渡邊千春研究分担者
 4. 2023年度,科研費基盤研究(C),体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発,西原康行,研究代表者
 5. 2022年度,科研費基盤研究(C),高齢がんサバイバーがより安全に安心して生活するためのリソース・モデルの開発,下山博子,桶谷涼子,研究分担者
 6. 2024年度,新潟医療福祉大学学内奨励金 スタート支援研究費,慢性心不全の急性増悪に必要な熟練看護師の臨床判断能力(経験知)の顕在化,小栗妙子,研究代表者
7. その他の活動
1. 看護実践研究センターの紹介として①②を実施した.
 ①NSG全体職員会で説明,2025.4.21,イタリア軒 ②NMO看護部会議にて説明,2025.12.6,オンライン

12) 運動機能医科学研究所

①研究テーマ

- 1 感覚運動機能連関の神経基盤の解明
- 2 運動制御および感覚運動学習過程に関する研究
- 3 膜性疼痛の生理・病態・心理・治療に関する研究
- 4 運動刺激による神経－筋－骨格系の機能的変化に関する研究
- 5 運動と呼吸循環応答および脳循環応答に関する研究
- 6 運動機能障害に対するリハビリテーションに関する研究と開発
- 7 身体運動分析及び行動分析に関する研究
- 8 アスリート脳に関する研究
- 9 健康増進のための運動プログラムの開発
- 10 サルコペニアやフレイルに対する栄養リハビリテーションに関する研究

②研究員

所長	：佐藤大輔	健康スポーツ学科／教授（運営委員・研究員）
副所長	：大鶴直史	理学療法学科／教授（運営委員・研究員）
所員	：大西秀明	理学療法学科／副学長（運営委員・研究員）
所員	：久保雅義	理学療法学科／教授（運営委員・研究員）
所員	：椿 淳裕	理学療法学科／教授（運営委員・研究員）
所員	：田口 徹	理学療法学科／教授（研究員）
所員	：相馬俊雄	理学療法学科／教授（研究員）
所員	：江玉睦明	理学療法学科／教授（研究員）
所員	：児玉直樹	診療放射線学科／教授（研究員）
所員	：能村友紀	作業療法学科／教授（研究員）
所員	：芝田純也	理学療法学科／教授（研究員）
所員	：八坂敏一	健康栄養学科／教授（研究員）
所員	：齋藤 憲	臨床技術学科／教授（研究員）
所員	：犬飼康人	理学療法学科／教授（研究員）
所員	：山本裕二	心理健康学科／教授（研究員）
所員	：久保亜抄子	鍼灸健康学科／教授（研究員）
所員	：山代幸哉	健康スポーツ学科／教授（研究員）
所員	：圓純一郎	作業療法学科／准教授（研究員）
所員	：中山憲司	臨床技術学科／准教授（研究員）
所員	：井上達朗	理学療法学科／准教授（研究員）
所員	：熊崎 昌	健康スポーツ学科／准教授（研究員）
所員	：下門洋文	健康スポーツ学科／准教授（研究員）
所員	：藤井 豊	臨床技術学科／准教授（研究員）
所員	：金子聡一郎	鍼灸健康学科／准教授（研究員）
所員	：菊元孝則	理学療法学科／講師（研究員）
所員	：高橋英明	理学療法学科／講師（研究員）
所員	：齊藤 慧	理学療法学科／講師（研究員）
所員	：玉越敬悟	理学療法学科／講師（研究員）
所員	：小島翔	理学療法学科／講師（研究員）
所員	：須田裕紀	義肢装具自立支援学科／講師（研究員）
所員	：三瀬貴生	健康スポーツ学科／講師（研究員）
所員	：藤本知臣	健康スポーツ学科／講師（研究員）

所員 : 越智元太 健康スポーツ学科／講師 (研究員)
 所員 : 宮口翔太 理学療法学科／講師 (研究員)
 所員 : 高林知也 理学療法学科／講師 (研究員)
 所員 : 越智元太 健康スポーツ学科／講師 (研究員)
 所員 : 横田裕丈 理学療法学科／講師 (研究員)
 所員 : 平林 怜 理学療法学科／講師 (研究員)
 所員 : 長坂和明 理学療法学科／講師 (研究員)
 所員 : 大野 健 診療放射線学科／講師 (研究員)
 所員 : 櫻井典子 診療放射線学科／講師 (研究員)
 所員 : 北谷亮輔 理学療法学科／講師 (研究員)
 所員 : 太田大樹 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 関根千恵 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 田宮 創 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 石垣智恒 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 小曾根海知 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 小林壮太 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 早尾啓志 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 小宮 諒 理学療法学科／助教 (研究員)
 所員 : 五十嵐小雪 健康スポーツ学科／助教 (研究員)
 所員 : 岡本優美 健康スポーツ学科／助教 (研究員)
 所員 : 星 春輝 理学療法学科／助手／D2 (大西秀明)
 所員 : 五十嵐眸実 理学療法学科／助手／D3 (大鶴直史)
 所員 : 佐々木啓 放射線情報学分野／助手／D1 (児玉直樹)
 大学院生 : 川上沙輝 医療福祉学専攻／D3 (大西秀明)
 大学院生 : レ コン ダット 医療福祉学専攻／D3 (佐藤大輔)
 大学院生 : 坂本航大 医療福祉学専攻／D2 (江玉睦明)
 大学院生 : 井上創太 医療福祉学専攻／D2 (大鶴直史)
 大学院生 : 余村花梨 医療福祉学専攻／D1 (佐藤大輔)
 大学院生 : 高橋ひろな 医療福祉学専攻／D1 (犬飼康人)
 大学院生 : 田邊かこ 医療福祉学専攻／D1 (大西秀明)
 大学院生 : 巻渕泰輝 医療福祉学専攻／D1 (山代幸哉)
 大学院生 : 近藤優樹 理学療法学分野／M2 (小島翔)
 大学院生 : 小野優翔 理学療法学分野／M2 (犬飼康人)
 大学院生 : 山本峻平 理学療法学分野／M2 (宮口翔太)
 大学院生 : 平賀大河 理学療法学分野／M2 (齊藤慧)
 大学院生 : 飯室幸士 理学療法学分野／M2 (大鶴直史)
 大学院生 : 遠間悠貴 理学療法学分野／M2 (高林知也)
 大学院生 : 緒方嵩人 理学療法学分野／M2 (高林知也)
 大学院生 : 大河内偉琉 理学療法学分野／M2 (平林怜)
 大学院生 : 小川有生人 理学療法学分野／M2 (長坂和明)
 大学院生 : 長尾彩音 理学療法学分野／M2 (長坂和明)
 大学院生 : 大石美鈴 放射線情報学分野／M2 (児玉直樹)
 大学院生 : 高橋 壮 放射線情報学分野／M2 (児玉直樹)
 大学院生 : 川崎裕樹 放射線情報学分野／M2 (児玉直樹)
 大学院生 : 安達航希 理学療法学分野／M1 (長坂和明)

大学院生：渡辺佳音 理学療法学分野／M1（長坂和明）
 大学院生：黒崎純暉 理学療法学分野／M1（芝田純也）
 大学院生：齋藤大河 理学療法学分野／M1（小島翔）
 大学院生：Chamoda Jayasinghe 理学療法学分野／M1（芝田純也）
 大学院生：西口ほのか 理学療法学分野／M1（高林知也）
 大学院生：佐藤慎之助 理学療法学分野／M1（高林知也）
 大学院生：島谷美海花 理学療法学分野／M1（高林知也）
 大学院生：須貝菜央 理学療法学分野／M1（平林怜）
 大学院生：木村玲奈 理学療法学分野／M1（横田裕丈）
 大学院生：山波克彰 理学療法学分野／M1（横田裕丈）
 大学院生：武田真桜 理学療法学分野／M1（犬飼康人）
 大学院生：廣瀬貴喜 理学療法学分野／M1（犬飼康人）
 大学院生：佐藤来夢 理学療法学分野／M1（石垣智恒）
 大学院生：加藤雄樹 理学療法学分野／M1（石垣智恒）
 大学院生：関根悠介 理学療法学分野／M1（齊藤慧）
 大学院生：益戸亮輔 健康スポーツ分野／M1（佐藤大輔）
 大学院生：萩野由大 健康スポーツ分野／M1（山代幸哉）
 大学院生：北野 侑 健康スポーツ分野／M1（藤本知臣）
 大学院生：福山夏未 健康スポーツ分野／M1（藤本知臣）
 大学院生：川村 暁 放射線情報学分野／M1（児玉直樹）
 大学院生：上田有紀音 放射線情報学分野／M1（児玉直樹）
 大学院生：大野里奈 放射線情報学分野／M1（児玉直樹）
 大学院生：清水俊之介 放射線情報学分野／M1（児玉直樹）

③主な活動内容

1. 著書

1. 井上達朗. 骨折（整形外科）. リハビリテーション栄養. 8巻1号：医歯薬出版株式会社；2024：21-26
2. 井上達朗. 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドライン. 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドライン.：医学書院；2024
3. 井上達朗. 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケア実践マニュアル. 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケア実践マニュアル.：医学書院；2024
4. 椿淳裕, 田宮創, 森下慎一郎, 小島将. 循環器疾患および運動による脳の変化と計測デバイスとしての近赤外線分光法. 心臓リハビリテーション. 30巻2号：；2024：233-236
5. 井上達朗. 要介護高齢者の活動と運動のケア. 自立と生活機能を支える高齢者ケア超実践ガイド.：照林社；2024：249-254
6. 越智元太. 毛髪を用いた慢性ストレス評価法. Medical Science Digest. 2024年12月号：ニューサイエンス社；2024：30-31
7. 井上達朗. フレイル. 図解理学療法技術ガイド第5版.：文光堂；2024
8. 田宮創. 長時間の座位がもたらす大血管及び微小血管への悪影響. Medical Science Digest. 第50巻13号：ニューサイエンス社；2024：38-39
9. 児玉直樹. 第4章 認知症診断のための検査・評価尺度. 認知症予防専門テキスト 上巻.：メディア・ケアプラス；2024：
10. 児玉直樹. 第6章 認知症および高齢者にする施策, 第12章 介護保制度. 認知症予防専門テキス

ト 下巻. : メディア・ケアプラス ; 2024

11. 井上達朗. 栄養による予防. 予防学. : 医歯薬出版株式会社 ; 2024 : 35-48
12. 横田裕丈. 経皮的迷走神経刺激と運動療法の併用. 理学療法ジャーナル. Vol.58, nO.7 : 医学書院 ; 2024 : 798-802
13. 田宮創. 糖尿病性腎臓病の透析予防に必要な外来運動指導に関する知識. 日本腎臓リハビリテーション学会誌. 2025
14. 井上達朗. こどものサルコペニアをどう評価するか. 医療的ケア児の栄養療法サポートブック 食と栄養ですべてのこどもと家族に“喜び”を. : 診断と治療社 ; 2025
15. 井上達朗. 自立支援・重度化予防に向けた対応. 理学療法ジャーナル. Vol.59 No.3 : 医学書院 ; 2025
16. 井上達朗. サルコペニア・フレイルと転倒. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 62 巻 1 号 ; 2025 : 17-22
17. 井上達朗. 理学療法士は「GLIM基準」と「リハビリテーション・栄養・口腔管理の三位一体」にどう関わるか—骨格筋量評価の考え方—. 日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌. 第2巻 ; 2025
18. 小島翔. 体性感覚情報処理に基づく脳活動を利用した理学療法の可能性. 理学療法学. 51 巻 (2024) 4 号 ; 2024 : 140-144
19. 田口徹. 遅発性筋痛 (いわゆる運動後の筋肉痛) はどこまでわかったか. 医学のあゆみ. 289 (10) : 医歯薬出版株式会社 ; 2024 : 740-745
20. 椿淳裕, 小島将. 近赤外線分光法のリハビリテーションへの応用 —脳機能計測のツールとして. 腎と透析. 98 巻 2 号 : 東京医学社 ; 2025 : 215-219

2. 論文

1) 国際誌

- (1) Iwamura T, Iwamoto H, Saito S, et al. Development of a clinical prediction rule to determine walking independence in older adults with hip fractures. Cureus. 2024; 16(10): e72329.
- (2) Ozawa T, Inoue T, Naruke T, et al. Coexistence of non-lower body mass index and exercise habits reduce readmission in older patients with heart failure. Ann Rehabil Med. 2024; 48(5): 344-351.
- (3) Kikuchi Y, Takabayashi T, Kikumoto T, et al. Role of hip internal rotation range and foot progression angle for preventing Jones fracture during crossover cutting. J Appl Biomech. 2025; 41(1): 56-62.
- (4) Mori S, Ohtsuka T, Hashimoto K, et al. Gene expression profiles in respiratory settings in rats under extracorporeal membrane oxygenation. J Thorac Dis. 2025; 17(1): 31-41.
- (5) Hattori R, Kajiki M, Fujimoto T, et al. TRPA1 channels modulate cutaneous vasodilation during exercise in the heat in young adults when NOS is inhibited. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2025; 328(3): R319-R328.
- (6) Oshima S, Okamoto Y, Otsuka J, et al. The index of maximum sweat ion reabsorption rates of sweat glands does not correlate to whole body sweat sodium concentration in exercising young healthy men. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2025; 328(1): R102-R108.
- (7) Oda S, Maeda N, Tashiro T, et al. Effect of sleep quality on the severity of perimenstrual symptoms in Japanese female students: a cross-sectional, online survey. BMJ Open. 2025; 15(2): e093197.
- (8) Yamakawa KK, Homoto K, Nakashima M, et al. Differences in kinematics, kinetics, and muscle activity between underwater dolphin kicking and flutter kicking: multiple approaches using three-dimensional motion analysis, electromyography, and hydrodynamic simulation. Sports Biomech. Published online January 30, 2025: 1-16.

- (9) Takada Y, Hashimoto N, Kubota M, Tsubaki A. Cerebral hemodynamics measured by wearable near-infrared spectroscopy during bedside mobilization in a patient with chronic heart failure hospitalized for acute exacerbation. *Cureus*. 2025; 17(2): e78489.
- (10) Miki K, Fujieda H, Ueno Y, Arakane T, Fujii Y. Investigation of inflammatory reduction during extracorporeal membrane oxygenation using a novel cytokine adsorption column: A rat model study. *J Clin Med*. 2025; 14(5).
- (11) Kojima S, Usui N, Uehata A, et al. Acute effect of moderate-intensity interval intradialytic exercise on cerebral oxygenation in hemodialysis patients: A randomized crossover trial. *J Am Soc Nephrol*. Published online March 12, 2025.
- (12) Ogawa M, Okamura M, Yagi T, et al. Oral health and cardiovascular disease - A scoping review of assessment methods, risk factors, and prognosis. *Circ Rep*. 2025; 7(4): 223-230.
- (13) Kaneda K, Maeda N, Nagao T, et al. Health-related outcomes of different levels of physical activity among individuals with spinal cord injuries: An exploratory cross-sectional study. *J Spinal Cord Med*. Published online April 1, 2025: 1-7.
- (14) Onoue S, Maeda N, Ikuta Y, et al. Comparison of the distance between the talus and lateral malleolus during the stance phase with and without chronic ankle instability. *Sci Rep*. 2024; 14(1): 27055.
- (15) Tsutsumi S, Maeda N, Engebretsen AH, et al. The validity and reliability of a Japanese version of the web-based hamstring outcome score. *Sci Rep*. 2024; 14(1): 24001.
- (16) Shimizu A, Maeda K, Ueshima J, et al. Association of GLIM-defined malnutrition with depressive mood in older adults undergoing rehabilitation. *Eur J Clin Nutr*. Published online February 20, 2025.
- (17) Ishihara H, Ikuta Y, Maeda N, et al. Abnormal lateral malleolus morphology and its association with physical function in Japanese adolescent competitive athletes; Cross-sectional study. *Gait Posture*. 2025; 120: 81-87.
- (18) Tamura S, Kamo T, Kobayashi S, et al. Impact of post-hospitalization dysphagia on dependence in activities of daily living at discharge in older adults with hip fracture: A nationwide inpatient database study. *Clin Nutr ESPEN*. 2025; 67: 355-361.
- (19) Makizako H, Shiratsuchi D, Akaida S, et al. Effects of digital-based interventions on the outcomes of the eligibility criteria for sarcopenia in healthy older adults: A systematic review and meta-analysis. *Ageing Res Rev*. 2025; 104(102663): 102663.
- (20) Yoshimura Y, Matsumoto A, Inoue T, Okamura M, Kuzuya M. Protein supplementation alone or combined with exercise for sarcopenia and physical frailty: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. *Arch Gerontol Geriatr*. 2025; 131(105783): 105783.
- (21) Suzuki M, Saino Y, Nagami S, et al. Dysphagia development in heart failure patients: A scoping review. *Arch Gerontol Geriatr*. 2025; 130(105728): 105728.
- (22) Kubo H, Miyata K, Tamura S, et al. External validation and update of minimal important change in the 6-minute walk test in hospitalized patients with subacute stroke. *Arch Phys Med Rehabil*. Published online January 13, 2025.
- (23) Tamaki Y, Hatayama N, Fujii Y, Naito M. A compact machine perfusion device for whole blood perfusion in isolated rat liver. *J Artif Organs*. 2025; 28(2): 244-251.
- (24) Lei TH, Wei X, Wang F, et al. The effect of hypohydration before and different rehydration strategies after severe intensity exercise on post-exercise hypotension in men. *Eur J Appl Physiol*. Published online March 4, 2025.
- (25) Matsutake R, Fujimoto T, Ichinose M, Watanabe K, Fujii N, Nishiyasu T. The blood flow and

- vascular responses in dynamically exercising skeletal muscles evoked by combination of cold stimulation and voluntary apnea in humans. *Eur J Appl Physiol.* 2025; 125(4): 1179-1190.
- (26) Nakazono Y, Shimojo H, Sakakibara J, Sengoku Y, Takagi H, Tsunokawa T. Variations in vortex structure with changes in swimming velocity during human underwater undulatory swimming. *Exp Fluids.* 2025; 66(2).
 - (27) Ishida Y, Maeda K, Shimizu A, et al. SARC-F questionnaire and its predictive value for mortality risk in hospitalized younger adults: A retrospective study. *Nutr Clin Pract.* Published online March 5, 2025.
 - (28) Furuya T, Kitahama S, Yamashiro D, et al. Differences between brachial-ankle pulse wave velocity and lower leg circumference ratio in patients with and without type 2 diabetes mellitus. *Cureus.* 2024; 16(8): e66902.
 - (29) Watanabe T, Takabayashi T, Kikumoto T, Kikuchi Y, Kubo M. Intra-foot coordination and its variability during walking in males with and without chronic ankle instability. *J Am Podiatr Med Assoc.* Published online January 29, 2025: 1-31.
 - (30) Shimizu A, Maeda K, Ueshima J, et al. Effects of sarcopenia on changes in the prevalence of patients with depressive mood during inpatient geriatric rehabilitation. *Ann Geriatr Med Res.* 2024; 28(4): 469-475.
 - (31) Hirono Y, Kai C, Yoshida A, et al. Extracting fetal heart signals from Doppler using semi-supervised convolutional neural networks. *Front Physiol.* 2024; 15: 1293328.
 - (32) Amano T, Sato K, Otsuka J, et al. Seasonal changes in hydration in free-living Japanese children and adolescents. *Appl Physiol Nutr Metab.* 2024; 49(10): 1387-1393.
 - (33) Kojima S, Usui N, Uehata A, Inatsu A, Tsubaki A. Associations between bioelectrical impedance analysis-derived phase angle, protein-energy wasting and all-cause mortality in older patients undergoing haemodialysis. *Nephrology (Carlton).* 2024; 29(10): 655-662.
 - (34) Takamizawa R, Hotta K, Fujii Y, et al. Transcapillary PO₂ gradients in contracting muscles of Type I diabetic rats. *Microcirculation.* 2024; 31(6): e12870.
 - (35) Nozoe M, Inoue T, Yamamoto M, Ikeji R, Seike H, Ogawa M. Association between energy intake and activities of daily living in patients with acute stroke at hospital discharge: a retrospective cohort study. *Top Stroke Rehabil.* 2025; 32(3): 229-237.
 - (36) Minegishi Y, Ozone K, Oka Y, Kano T, Murata K, Kanemura N. Effect of repeated sciatic nerve crush on the conditioning lesion response: Generating an experimental animal model to prolong the denervation period while maintaining peripheral nerve continuity. *Neurosci Lett.* 2024; 836(137879): 137879.
 - (37) Kawai M, Maeda N, Kobayashi T, et al. Effect of ball positions on trunk, hip, knee, and ankle joint kinematics and kinetics during a spike jump in volleyball. *Gait Posture.* 2024; 113: 419-426.
 - (38) Kono K, Yamaguchi S, Kimura S, et al. Anterior talofibular ligament footprint dimension measured using three-dimensional magnetic resonance imaging. *Skeletal Radiol.* 2025; 54(5): 937-945.
 - (39) Kaizu Y, Tamura S, Iwamura T, et al. Development and validation of a clinical prediction rule for walking independence in hospitalized older adults with a vertebral compression fracture. *Physiother Res Int.* 2024; 29(4): e2117.
 - (40) Kato H, Okamoto Y, Otsuka J, et al. Wearing a breathable T-shirt does not affect thermoregulatory responses during exercise under hot conditions. *Hum Factors Ergon Manuf.* Published online May 26, 2024.

- (41) Otsuka J, Okamoto Y, Enoki Y, et al. Effects of ingesting beverages containing glycerol and sodium with isomaltulose or sucrose on fluid retention in young adults: a single-blind, randomized crossover trial. *Appl Physiol Nutr Metab*. 2024; 49(5): 667-679.
- (42) Hashimoto N, Takada Y, Kubota M, Tsubaki A. Cerebral oxygen dynamics in a patient after subdural haematoma removal surgery: A case report. *Adv Exp Med Biol*. 2024; 1463: 45-49.
- (43) Qin W, Kojima S, Morishita S, Qu D, Huang L, Tsubaki A. Relationship of cognitive function with oxygenated haemoglobin concentration difference between the left and right prefrontal cortex during 40-min moderate-intensity exercise. *Adv Exp Med Biol*. 2024; 1463: 119-125.
- (44) Kubota M, Konnai T, Takami Y, Matsuo H, Tsubaki A, Nagamune K. Differences in brain activity during real and virtual reality motor tasks in normal healthy individuals. *Adv Exp Med Biol*. 2024; 1463: 73-77.
- (45) Ishigaki T, Kimura R, Kikumoto T, et al. Comparison of KJOC scores in college athletes with and without arm trouble across overhead sports. *J Athl Train*. Published online March 10, 2025.
- (46) Hirata M, Oyama Y, Shimoda N, et al. Preoperative posterior pelvic tilt angle is associated with decreased gait speed and hip function in older patients with hip osteoarthritis. *Prog Rehabil Med*. 2025; 10(0): 20250004.
- (47) Yamamoto R, Wakatsuki K, Yasui M, Ota H, Mizumura K, Taguchi T. Spinal nociceptive hypersensitivity induced by intramuscular capsaicin in rats subjected to multiple continuous stress. *Neurosci Res*. 2025; 213: 51-59.
- (48) Ishigaki T, Ishida T, Ino T, Okunuki T, Yokoyama H, Edama M. Relationship between compressive stiffness and tensile stiffness in the human Achilles tendon in vivo. *J Bodyw Mov Ther*. 2025; 42: 1073-1078.
- (49) Hiratsuka S, Takabayashi T, Watanabe T, Kikumoto T, Kubo M. Classification of kinematic coupling patterns between lower limb joints during running. *J Orthop Res*. Published online March 18, 2025.
- (50) Ozone K, Kumagai T, Arakawa K, et al. Effectiveness of low-intensity exercise in mitigating active arthritis exacerbation in a mouse rheumatoid-arthritis model. *J Orthop Res*. Published online February 22, 2025.
- (51) Hori M, Kojima S, Onishi H. Cross-modal transfer effects of the go/no-go training with visual stimuli. *Brain Behav*. 2025; 15(2): e70309.
- (52) Imai R, Abe T, Iwata K, Yamaguchi S, Kitai T, Tsubaki A. Regional cerebral oxygen saturation during initial mobilization of critically ill patients is associated with clinical outcomes: a prospective observational study. *Intensive Care Med Exp*. 2025; 13(1): 13.
- (53) Sakamoto K, Edama M, Hirai T, et al. Relationship between insertions of the tibialis anterior and peroneus longus and first tarsometatarsal joint degeneration. *BMC Musculoskelet Disord*. 2025; 26(1): 82.
- (54) Komiya M, Maeda N, Ishihara H, et al. Association between changes in intrinsic foot muscle swelling and improvements in navicular drop height after toe flexor exercises. *Isokinet Exerc Sci*. Published online February 3, 2025. doi:10.1177/09593020251316417
- (55) Hoheisel U, Treede RD, Mense S, Taguchi T. Central projections of nociceptive input originating from the low back and limb muscle in rats. *Sci Rep*. 2025; 15(1): 2552.
- (56) Okouchi T, Hirabayashi R, Sugai N, et al. Impact of visual kinesthetic illusions on reciprocal inhibition and motor function. *Appl Sci (Basel)*. 2024; 14(24): 11725.
- (57) Oishi M, Sakurai N, Kawasaki Y, Sasaki K, Kasai S, Kodama N. Investigation of functional

- connectivity differences based on anxiety tendencies. *Front Behav Neurosci.* 2024; 18: 1498612.
- (58) Ishigaki T, Kurisuga Y, Sato R, et al. Changes in glenohumeral range of motion by repetitive pitching and their relationship with arm speed during pitching. *Sports Biomech.* Published online January 19, 2025: 1-13.
 - (59) Kasahara K, Oneyama K, Ito T, Nakamura M, Ochi G. Foam rolling intervention improves lactate clearance after high-intensity exercise. *Sports.* 2024; 12(11). doi:10.3390/sports12110303
 - (60) Nagashima M, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Relationship among upper, middle, and lower thoracic vertebrae and upper and lower lumbar vertebrae in dancers during arabesque. *J Dance Med Sci.* Published online December 4, 2024: 1089313X241301262.
 - (61) Okamoto Y, Otsuka J, Amano T. Partial involvement of nitric oxide synthase in increased pilocarpine-induced sweating in exercise-trained men. *Appl Physiol Nutr Metab.* 2025; 50: 1-4.
 - (62) Hashimoto A, Yasaka T, Suematsu R, et al. Serum IL-27 as a potential biomarker for pain in late-stage hip osteoarthritis. *Pain Res.* 2024; 39(1): 76-80.
 - (63) Taketa Y, Tamakoshi K, Hotta K, Maki S, Taguchi T, Takahashi H. Lymphatic capillarization in different fiber types of rat skeletal muscles with growth and age. *Microcirculation.* 2024; 31(7): e12879.
 - (64) Yamamoto Y, Yokoyama K, Kijima A, Okumura M, Shima H. Interpersonal strategy for controlling unpredictable opponents in soft tennis. *Sci Rep.* 2024; 14(1): 20546.
 - (65) Nagasaka K, Higo N. Brain activity changes after high/low frequency stimulation in a nonhuman primate model of central post-stroke pain. *Sci Rep.* 2024; 14(1): 16527.
 - (66) Ikarashi K, Sato D, Edama M, Fujimoto T, Ochi G, Yamashiro K. Fluctuation of fine motor skills throughout the menstrual cycle in women. *Sci Rep.* 2024; 14(1): 15079.
 - (67) Ochi G, Ohno K, Kuwamizu R, et al. Exercising with virtual reality is potentially better for the working memory and positive mood than cycling alone. *Ment Health Phys Act.* 2024; 27(100641): 100641.
 - (68) Ishigaki T, Furuto I, Sato R, et al. Examining the changes in strength and mechanical property of dynamic stabilizers of the medial elbow joint through repetitive pitching. *J Shoulder Elbow Surg.* 2025; 34(3): 672-679.
 - (69) Uta D, Tsuboshima K, Mizumura K, Nishijo H, Taguchi T. Amitriptyline and duloxetine attenuate activities of superficial dorsal horn neurons in a rat reserpine-induced fibromyalgia model. *J Pharmacol Sci.* 2024; 156(3): 180-187.
 - (70) Tamiya H, Hotta K, Hoshiai M, Kurosawa Y, Hamaoka T, Tsubaki A. Leg fidgeting alleviates reduced oxygen extraction in the gastrocnemius muscle caused by prolonged sitting: a randomized crossover trial. *Eur J Appl Physiol.* 2025; 125(2): 469-481.
 - (71) Sato M, Sasaki M, Shima T, Ikegami R, Sato D, Ochi G. Hair cortisol is a physiological indicator of training stress for female footballers. *Eur J Appl Physiol.* 2024; 124(12): 3719-3728.
 - (72) Tamiya H, Kawashiri H, Miyamoto T, Tsubaki A. Acute effects of skeletal muscle electrical stimulation on central and lower extremity hemodynamics. *Cureus.* 2024; 16(6): e62988.
 - (73) Sato D, Ikarashi K, Nakajima F, Fujimoto T. Novel methodology for identifying the occurrence of ovulation by estimating core body temperature during sleeping: Validity and effectiveness study. *JMIR Form Res.* 2024; 8: e55834.
 - (74) Sakamoto K, Edama M, Osanami H, et al. Relationship between joint structure of the first

- tarsometatarsal joint and its degeneration. *Sci Rep.* 2024; 14(1): 13547.
- (75) Inoue T, Wakabayashi H, Kawase F, et al. Diagnostic criteria, prevalence, and clinical outcomes of pediatric sarcopenia: A scoping review. *Clin Nutr.* 2024; 43(8): 1825-1843.
 - (76) Le Cong D, Sato D, Ikarashi K, Ochi G, Fujimoto T, Yamashiro K. No effect of whole-hand water flow stimulation on skill acquisition and retention during sensorimotor adaptation. *Front Hum Neurosci.* 2024; 18: 1398164.
 - (77) Le VT, Kikuchi Y, Takabayashi T, Kikumoto T, Kubo M. Kinematics and activation of hamstring muscles during the initial acceleration phase of sprinting in soccer players: A biomechanical investigation. *J Sci Sport Exerc.* Published online June 26, 2024. doi:10.1007/s42978-024-00292-x
 - (78) Edama M, Tanaka Y, Shirai T, et al. Dynamics of the suprapatellar bursa during knee joint extension. *Surg Radiol Anat.* 2024; 46(9): 1387-1392.
 - (79) Imai R, Abe T, Yamaguchi S, Kimura S, Tsubaki A. Relationship between regional cerebral oxygen saturation and percutaneous oxygen saturation at initial mobilisation in patients with acute heart failure. *Adv Exp Med Biol.* 2024; 1463: 185-189.
 - (80) Takahashi T, Iwata K, Yamada K, et al. Prefrontal cortex oxygenation during walking in an acute ischaemic stroke patient with severe internal carotid artery stenosis: A case report. *Adv Exp Med Biol.* 2024; 1463: 179-184.
 - (81) Maekawa Y, Iwata K, Inagaki Y, et al. Effects of head elevation on cerebral oxygenation in acute cerebral infarction. *Adv Exp Med Biol.* 2024; 1463: 79-83.
 - (82) Washizawa L, Iwata K, Takimoto R, et al. Changes in cerebral oxygenation in the prefrontal cortex during cardiopulmonary exercise testing in patients after cardiovascular surgery. *Adv Exp Med Biol.* 2024; 1463: 323-327.
 - (83) Sakamoto K, Edama M, Osanami H, et al. Relationship between first tarsometatarsal ligament morphology and its continuity with the fibularis longus and first tarsometatarsal joint degeneration. *Clin Anat.* 2024; 37(8): 930-937.
 - (84) Ikarashi H, Otsuru N, Takahashi S, Nagasaka K, Hara M, Onishi H. Influence of alexithymia severity in the healthy population on the susceptibility to false interoceptive feedback. *Front Psychol.* 2024; 15: 1442138.
 - (85) Suzuki T, Nagasaka K, Otsuki T, Otsuru N, Onishi H. Tonic electrical stimulation of the locus coeruleus enhances cortical sensory-evoked responses via noradrenaline $\alpha 1$ and β receptors. *Eur J Neurosci.* 2025; 61(3): e70020.
 - (86) Sasaki R, Kojima S, Saito K, Otsuru N, Shirozu H, Onishi H. Resting-state functional connectivity involved in tactile orientation processing. *Neuroimage.* 2024; 299(120834): 120834.
 - (87) Yamamoto S, Miyaguchi S, Ogawa T, Inukai Y, Otsuru N, Onishi H. Effects of transcranial alternating current stimulation to the supplementary motor area on motor learning. *Front Behav Neurosci.* 2024; 18: 1378059.
 - (88) Kawakami S, Inukai Y, Ikarashi H, et al. No effects of cerebellar transcranial random noise stimulation on cerebellar brain inhibition, visuomotor learning, and pupil diameter. *Behav Brain Res.* 2024; (115209): 115209.
 - (89) Kitatani R, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Influence of postural control difficulty on changes in spatial orienting of attention after leftward prism adaptation. *Exp Brain Res.* 2024; 242(7): 1533-1541.
 - (90) Kitatani R, Furuyama T, Otsuru N, Onishi H. Region-specific effects of transcranial direct

current stimulation over posterior parietal cortex and cerebellum on standing postural displacement after prism adaptation. *Neuroscience*. 2024; 551: 229-236.

- (91) Yoshino A, Maekawa T, Kato M, Chan HL, Otsuru N, Yamawaki S. Changes in Resting-State Brain Activity after Cognitive Behavioral Therapy for Chronic Pain: A Magnetoencephalography Study. *J Pain*. 2024: 104523.

2) 国内誌

- (1) 平塚葉, 高林知也, 鈴木駿佑, 菊元孝則, 久保雅義. 扁平足のタイプと膝関節屈曲角度が静止立位時の下肢アライメントに与える影響. *スポーツ理学療法学*. 2024
- (2) 平田萌々花, 小澤祐治, 新山祐貴, 小澤哲也, 佐藤隆一, 井上達朗, 霜田直史, 鈴木良介. 延髄外側病変における長下肢装具を用いた歩行練習が^slateropulsionに及ぼす影響: 症例報告. *Journal of Rehabilitation Neurosciences*. 2024; 2
- (3) 大館隼, 小林壮太, 甘粕康太, 前川健一郎, 鎌田夏未, 齋藤新貴, 井上達朗. 高齢者の食後低血圧ー見逃される低血圧ー. *日本老年療法学会誌*. 2024; 3: 45300
- (4) 大館隼, 小林壮太, 甘粕康太, 前川健一郎, 鎌田夏未, 齋藤新貴, 井上達朗. 高齢者の食後低血圧ー見逃される低血圧ー. *日本老年療法学会誌*. 2024; 3: 45300
- (5) 水田良実, 前田慶明, 田城翼, 河井美樹, 小田さくら, 石田礼乃, 小宮諒, 浦辺幸夫. 月経周期ごとの遠位脛腓間距離と動的バランスの変動について: 縦断的観察研究. *スポーツ理学療法学*. 2025; 3: 41-47
- (6) 高上凌弥, 前田慶明, 小宮諒, 田城翼, 有馬知志, 小田さくら, 長尾拓海, 吉荒瑠莉奈, 浦辺幸夫. 国内electronic sports選手の傷害に関する調査. *スポーツ理学療法学*. 2025; 3: 59-65
- (7) 齋藤新貴, 井上達朗, 吉田英毅. 嚥下障害患者に対するエネルギー量を増加させた嚥下調整食(つるん食)の導入は経口摂取への移行を促進させる. *学会誌JSPEN*. 2024
- (8) 渡部智也, 前田慶明, 田城翼, 小宮諒, 有馬知志, 安部倉健, 小田さくら, 寺尾唯, 浦辺幸夫. Virtual Realityを用いた傾く映像の視聴が身体重心へ与える影響ー若年者と高齢者での比較研究一. *運動器リハビリテーション*. 2025; 35
- (9) 笠井紅里, 井上達朗, 小林壮太, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 甘粕康太, 齋藤新貴, 鎌田夏未, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数に影響する. *日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌*. 2024
- (10) 笠井紅里, 井上達朗, 小林壮太, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 甘粕康太, 齋藤新貴, 鎌田夏未, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数に影響する. *日本栄養・嚥下理学療法学会雑誌*. 2024
- (11) 竹内陸雄, 木村鷹介, 金居督之, 清水夏生, 久保宏紀, 小林壮太, 吉田啓志, 甲斐匠, 鈴木佳樹, 諸永浩平, 山本晟矢, 久住治彦. 回復期脳卒中者における移動形態と強度別身体活動時間の関連: 多施設共同研究. *運動疫学研究*. 2025

3. 学会等研究発表

1) 国際学会・筆頭

- (1) Fukuyama N, Taiki M, Ikarashi K, Ochi G, Yamashiro K, Sato D, Fujimoto T. Effects of Transient Receptor Potential Channels Activation on Cardiovascular Response and Pain Sensation in Response to Cold Pressor Test. *International Conference on Environmental Ergonomics (Jeju)*, 2024.6.3-6.7.
- (2) Kitatani R, Hoshi H, Sorimachi R, Numata R, Hirano S, Otsuru N, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation targeting corticoreticular pathway increases common neural drives to thigh muscles during gait. *XXIV Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology*, 2024.6.26-6.29.
- (3) Shibata S, Onishi H, Mima T. Evaluation of the neuromodulatory effects of transcranial static

- magnetic field stimulation (tSMS) using TMS-evoked potentials (TEPs). The Federation of European Neuroscience Societies 2024 (Vienna), 2024.6.25-6.29.
- (4) Nagasaka K, Higo N. Different somatosensory brain activity after high and low frequency rTMS in non-human primate model of central post-stroke pain. The Federation of European Neuroscience Societies 2024 (Vienna), 2024.6.25-6.29.
 - (5) Tsubaki A, Kojima H, Tamiya H, Saito S, Shioya T, Morishita S. Thigh Cuff Release-Induced Repeated Acute Hypotension and Cerebral Oxygenation Recovery. Asia PRevent 2024, 2024.7.13-7.14.
 - (6) Inoue T, Wakabayashi H, Kawase F, Kokura Y, Takamasu T, Fujiwara D, Maeda K. Diagnostic Criteria, Prevalence, and Clinical Outcomes of Pediatric Sarcopenia: A Scoping Review. European Society for Clinical Nutrition and Metabolism 2024, 2024.9.11-9.14.
 - (7) Inoue T, Hotta K, Kodama N, Sakurai N, Izumi T, Kamiya K, Tsubaki A, Fujita T, Miyata H. Potential of Skeletal Muscle Mass Indicator Focused on the Thenar Muscle: Validation Using 3T High-Resolution MRI, Aiming Practical Application in Dwelling Community. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2024.10.10-10.11.
 - (8) Amakasu K, Inoue T, Maekawa K, Kamada N, Saito A, Watanabe Y. Phase Angle-Defined Sarcopenia Predicts Functional Status and Discharge Outcomes in Acute Stroke Patients. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2024.10.10-10.11.
 - (9) Maekawa K, Amakasu K, Kamada N, Saito A, Okiyama T, Inoue T. Association between physical activity and swallowing function in patients with hip fracture. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, 2024.10.10-10.11.
 - (10) Takabayashi T. Biomechanical topics for CAI. 9th International Ankle Symposium, 2022.10.29-11.27.
 - (11) Edama M. Anatomical topics for CAI. 9th International Ankle Symposium, 2022.10.29-11.27.
 - (12) Watanabe T, Takabayashi T, Kikumoto T, Anthony L, Watabe T, Kikuchi Y, Kubo M. Coordination among rearfoot, midfoot, and forefoot in individuals with chronic ankle instability and copers during running. 9th International Ankle Symposium, 2022.10.29-11.27.
 - (13) Fujimoto T, Takagi N, Ikarashi K, Ochi G, Yamashiro K, Sato D. Sex Differences in Seasonal Variations in Local Skin Thermal Sensitivity and its Relationship to Body Composition in Young Adults. 20th International Conference on Environmental Ergonomics, 2024.6.3-6.7.
 - (14) Tsubaki A, Kojima S, Tamiya H, Morishita S, Samejima S, Iwata K. Unexpected orthostatic hypotension and multi-channel cerebral hemodynamic changes in young male participant: a case report. ISOTT 2024 (Socorro), 2024.6.8-6.13.
 - (15) Tsubaki A, Kojima H, Tamiya H, Hayao K, Sato T, Imai R, Samejima S, Iwata K, Morishita S. Thigh cuff release-induced repeated acute hypotension and cerebral oxygenation recovery. SPIE West 2025 (San Francisco), 2025.1.25-1.31.
 - (16) Inoue T, Shimizu A, Satake S, Matsui Y, Ueshima J, Murotani K, Arai H, Maeda K. Osteosarcopenia increases the likelihood of cognitive frailty compared to osteoporosis and sarcopenia in older outpatients visiting a frailty clinic. The 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics, 44713
 - (17) Inoue T, Shimizu A, Ueshima J, Murotani K, Nagano A, Ishida Y, Kinoshita K, Iizuka Y, Satake S, Matsui Y, Arai H, Maeda K. Diet-induced inflammation increases the likelihood of sarcopenia in older adults. The 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics, 44714
 - (18) Kitatani R, Hirano S, Sorimachi R, Numata R, Hoshi H, Otsuru N, Shibata S, Onishi H. Oscillatory transcranial direct current stimulation over primary and secondary motor cortex

selectively increases common neural drives to distal and proximal lower limb muscles during gait. 6th International Brain Stimulation Conference, 2025.2.23-2.26.

- (19) Ota H, Katanosaka K, Taguchi T. Differentially expressed genes detected in the rat crural fascia after lengthening contractions using RNA-sequence analysis. 第22回アジアオセアニア筋学センター学術集会・第10回日本筋学会大会 合同学術大会 (AOMC-JMS 2024), 2024.9.12-9.15.
- (20) Taguchi T, Ota H. Neuromuscular blockade attenuates cramp-like muscle contraction induced by an infusion of hypertonic saline in rats. 第22回アジアオセアニア筋学センター学術集会・第10回日本筋学会大会 合同学術大会 (AOMC-JMS 2024), 2024.9.12-9.15.
- (21) Okamoto Y, Otsuka J, Inoue Y, Amano T. Does the menstrual cycle affect nitric oxide-dependent and -independent cutaneous vasodilation in young females?: Preliminary observations. 20th International Conference on Environmental Ergonomics, 2024.6.7.
- (22) Ikarashi H, Otsuru N, Nagasaka K, Inoue S, Iimuro K, Onishi H. Transcranial Alternating Current Stimulation Over the Left DLPFC Does Not Affect Conditioned Pain Modulation. 6th International Brain Stimulation Conference, 2025.2.23-2.26.
- (23) Inoue S, Otsuru N, Ikarashi H, Nagasaka K, Iimuro K, Onishi H. Modulation of pain perception variability through tDCS stimulation of the left DLPFC. 6th International Brain Stimulation Conference, 2025.2.23-2.26.
- (24) Iimuro K, Otsuru N, Hirata A, Ikarashi H, Inoue S, Kakuta S, Nagasaka K, Shirozu H, Iimuro K, Onishi H. Modulation of cortical oscillations by transcranial temporal interference stimulation (tTIS) targeting the primary somatosensory cortex. 6th International Brain Stimulation Conference, 2025.2.23-2.26.

2) 国際学会・共同

- (1) Hattori R, Kajiki M, Fujimoto T, Amano T, Kenny GP, Watanabe K, Nishiyasu T, Fujii N. TRPA1 Channels Do not Modulate Cutaneous Vasodilation during Exercise in the Heat. 20th International Conference on Environmental Ergonomics, 2024.6.3-6.8.
- (2) Ogawa M, Okamura M, Yagi T, Maekawa K, Amakasu K, Inoue T, Satomi-Kobayashi S, Katayama M, Muraki Y, Akashi M. Oral frailty in cardiovascular disease : A scoping review to inform future approaches. The 16th International Conference of the Asian Academy of Preventive Dentistry, 2024.11.17-11.20.
- (3) Uchiyama S, Sumikura H, Fujii Y, Homma A. Development of extraliminal flow oxygenator for a rat CPB model. 50th ESAO conference (Aachen, Germany), 2024.9.8-9.11.

3) 国内学会・筆頭

- (1) 武田賢和, 玉越敬悟, 堀田一樹, 真木柊太郎, 田口徹, 高橋英明. 成長と加齢に伴うラット骨格筋内の毛細リンパ管形成の特徴的変化. 第12回日本運動器理学療法学会, 2024.9.14-9.15.
- (2) 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 恐怖条件付けによる皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (3) 井上創太, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 飯室幸士, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 人生初期のストレスと成人期における安静時皮質活動の関連. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (4) 飯室幸士, 大鶴直史, 平田晃正, 五十嵐眸実, 井上創太, 角田志桜里, 長坂和明, 白水洋史, 大西秀明. 一次体性感覚野をターゲットとした時間干渉刺激による皮質活動の変化. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (5) 杵淵佑花, 大鶴直史, 原正之, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. バーチャルリアリティにおける手の色が痛み閾値に及ぼす影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.

- (6) 佐久美貴江, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛み知覚の揺らぎと痛みに対する心理特性の関係. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (7) 谷黒栞菜, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. Interoceptive sensibilityと関連する皮質活動の検討. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (8) 竹内さくら, 大鶴直史, 五十嵐眸実, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 痛みに対する破局的思考と関連する皮質活動の検討. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (9) 平賀大河, 齊藤慧, 小島翔, 大西秀明. 末梢電気刺激が触覚方位弁別能力と α 帯域の安静時脳律動にもたらす効果. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (10) 五十嵐眸実, 大鶴直史, 井上創太, 飯室幸士, 長坂和明, 大西秀明. 恐怖記憶の形成に関与する心理特性. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (11) 反町瑠菜, 北谷亮輔, 沼田莉奈, 平野志織, 星春輝, 芝田純也, 大西秀明. 歩行難易度と二重課題が歩行中の下肢筋への神経入力に与える影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (12) 齊藤慧, 大鶴直史, 平賀大河, 関根悠介, 小島翔, 大西秀明. 触覚の知覚学習にトレーニング課題施行回数がもたらす影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (13) 時田優菜, 齊藤慧, 平賀大河, 関根悠介, 高橋琴美, 小島翔, 大西秀明. 右LOCへの経頭蓋ランダムノイズ刺激が右手指の触覚方位弁別能力にもたらす効果. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (14) 高橋琴美, 齊藤慧, 平賀大河, 関根悠介, 時田優菜, 小島翔, 大西秀明. 左LOCへの経頭蓋ランダムノイズ刺激が触覚方位弁別能力にもたらす効果. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (15) 平林怜, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 大河内偉琉, 須貝菜央, 阿部花映, 日向芽吹, 吉村太一, 江玉睦明. 咬合不均衡は青斑核と脊髄機能の活性を不均衡にさせた. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (16) 須貝菜央, 平林怜, 大河内偉琉, 日向芽吹, 阿部花映, 吉村太一, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合の不均衡が単純反応時間と選択反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (17) 阿部花映, 平林怜, 須貝菜央, 大河内偉琉, 吉村太一, 日向芽吹, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合は軌道予測能力を向上させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (18) 吉村太一, 平林怜, 日向芽吹, 阿部花映, 須貝菜央, 大河内偉琉, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 咬合バランスの補正は反応時間を短縮させる. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (19) 日向芽吹, 平林怜, 吉村太一, 阿部花映, 大河内偉琉, 須貝菜央, 岡田芳幸, 吉田結梨子, 江玉睦明. 左右の咬合不均衡が反応時間に及ぼす影響. 日本スポーツ歯科医学会第35回学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (20) 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 反復他動運動の視覚的運動錯覚は脊髄相反性抑制と運動機能を向上させた. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (21) 芝田純也. リハビリテーションへの臨床応用が期待される経頭蓋静磁場刺激 (tSMS). 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24.
- (22) 徳永亮太. 慢性疼痛における扁桃体神経可塑的变化. 第77回日本自律神経学会, 2024.10.25-10.26.

- (23) 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 脳構造画像解析に基づく脳領域への経頭蓋直流電流刺激が閉眼片脚立位バランスに与える影響. 第24回新潟医療福祉学会学術集会, 2024.10.26.
- (24) 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 広視野脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症メカニズムの解明. 第24回新潟医療福祉学会学術集会, 2024.10.26.
- (25) 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質とラット後肢刺激によって生じる前頭葉活動の解明—膜電位感受性色素を用いたイメージング—. 第24回新潟医療福祉学会学術集会, 2024.10.26.
- (26) 藤本知臣, 後藤小太郎, 北野侑, 須崎友馬, 松浦由生子. 息止めを伴う Warm-up が 200 m 泳を模した 2 分間の高強度運動パフォーマンスに及ぼす影響. 日本水泳・水中運動学会 2024 年次大会, 2024.10.4-10.6.
- (27) 鏡味卓也, 須崎友馬, 藤本知臣. 息止め中の苦しさに関連する生理学的要因の探求. 日本水泳・水中運動学会 2024 年次大会, 2024.10.4-10.6.
- (28) 高林知也, 江玉睦明. シミュレーション解析による足関節角度と足関節モーメントの変化がランニング中のアキレス腱張力に及ぼす影響. 第49回日本足の外科学会, 2024.11.7-11.8.
- (29) 小曾根海知, 熊谷竜徳, 島田直宜, 菅澤威仁, Wenchao Gu, 高橋花奈, 米野萌恵, 荒川航平, 高畠啓, 佐藤路晃, 川端空, 峯岸雄基, 岡優一郎, 金村尚彦. 活動期関節リウマチモデルマウスに対する低強度運動介入は関節炎の増悪抑制効果を有する. 第11回JCR ベーシックリサーチカンファレンス, 2024.11.15-11.16.
- (30) 高林知也, 江玉睦明, 大森豪, 久保雅義. 性別と内側広筋の筋出力低下がランニング時の膝蓋大腿関節ストレスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (31) 緒方嵩人, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. 水面および陸上ストリームライン姿勢時における脊柱角度の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (32) 島谷美海花, 菊元孝則, 高林知也, 江玉睦明, 久保雅義. 膝前十字靭帯再建術後における膝伸展最大筋力と中間広筋の筋輝度との関係. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (33) 西口はのか, 高林知也, 菊元孝則, 江玉睦明, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンの違いは膝蓋腱張力の累積負荷に影響を与える. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (34) 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性信号イメージングによる脳卒中後疼痛モデル動物の脳活動変化. 第46回日本疼痛学会, 2024.11.16-11.17.
- (35) 小宮諒, 前田慶明, 田村佑樹, 石田礼乃, 江玉睦明, 平林怜, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 阿久澤弘, 浦辺幸夫, 大森豪. 片側慢性足関節不安定症 (CAI) 者の CAI 側と非 CAI 側での足部・足関節周囲筋形態と弾性の違い. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (36) 久保亜抄子. 神経節細胞とサテライトグリアの機能連関の電気生理学的解析. 第46回日本疼痛学会, 2024.11.16-11.17.
- (37) 平林怜, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 大河内偉琉, 須貝菜央, 江玉睦明. 咬合が跳躍パフォーマンスに及ぼす影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (38) 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 異なる収縮強度での等尺性収縮が Ib 抑制に与える影響. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (39) 須貝菜央, 平林怜, 大河内偉琉, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 坂本航大, 江玉睦明. 咬合力が左右均衡なほど咬合による全身反応が向上した. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (40) 関根千恵, 江玉睦明, 中野祐太, 松永直人, 平林怜, 横田裕丈, 石垣智恒, 小宮諒, 阿久澤弘, 大森豪. 腰痛既往の有無によるバッチング動作継続時の筋シナジーの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.

- (41) 木村玲奈, 石垣智恒, 高橋由弥, 伊藤雄, 松本尚, 菊元孝則, 松浦由生子, 横田裕丈, 江玉睦明. 様々なオーバーヘッド競技における無症状選手と有症状選手間でのKJOCスコアの比較. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.18.
- (42) 田宮創. 骨格筋微小循環の特性と理学療法への応用～ヒトを対象とする基礎研究からの知見～. 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 2024.11.23-11.24.
- (43) 川尻陽菜, 田宮創, 吉野琢朗, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 椿淳裕. ベルト型骨格筋電気刺激が全身及び下肢導管動脈の血行動態に与える即時効果. 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 2024.11.23-11.24.
- (44) 椿淳裕. マクロ, ミクロの循環から考える循環器理学療法学. 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 2024.11.23-11.24.
- (45) 長坂和明, 吉田佳笑, 小川有生人, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への皮質内微小電気刺激による内因性神経応答の空間的特徴. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (46) 長尾彩音, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 膜電位イメージングによる脳梁膨大後部皮質と前頭前野領域の機能的結合の解明. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (47) 渡辺佳音, 長坂和明, 安達航希, 長尾彩音, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 扁桃体の事前損傷が視床出血後の疼痛行動に与える影響. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (48) 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 内因性イメージングによる脳卒中後疼痛発症後の脳活動変化の解明. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (49) 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 小川有生人, 鈴木孝昇, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の賦活化が体性感覚刺激誘発性の一次体性感覚野応答に及ぼす影響. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (50) 石山寛大, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 視床出血による体性感覚障害モデルラットの確立. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (51) 中島雄太, 長坂和明, 小川有生人, 五十嵐眸実, 大鶴直史, 大西秀明. 脳卒中後疼痛ラットにおける島皮質のフラビン蛍光イメージング. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (52) 黒崎純暉, 芝田純也, 大西秀明, 星春輝, 美馬達哉. 嚥下・発声に関連する動作語理解と発声反応時間の変化. 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2024.11.30.
- (53) 船山結衣, 井上達朗, 堀田一樹, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 窪田杏奈, 宮田裕章. 高齢者の視力低下は歩行速度低下と関連する. 第11回日本予防理学療法学会学術大会, 2024.11.9-11.10.
- (54) 古澤芽依, 井上達朗, 堀田一樹, 児玉直樹, 櫻井典子, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 宮田裕章. 母指球筋に着目した骨格筋量ガイド指標の実装～MRIによる基礎的事項の検討と地域在住中高齢者での検証～. 第11回日本予防理学療法学会学術大会, 2024.11.9-11.10.
- (55) Shibata S, Onishi H, Mima T. Exploring the effects of transcranial static magnetic field stimulation on the brain oscillatory dynamics in human: A TMS-EEG study. NEURO2024, 2024.7.24.
- (56) 永井千啓, 下門洋文, 中町真澄. 男性円盤投競技者における手指キネマティクスとリリースパラメータの関係. 第74回日本体育・スポーツ・健康学会, 2024.8.29-8.31.
- (57) 中町真澄, 下門洋文, 永井千啓. 国内および大学生トップ円盤投選手間のリリースパラメータ比較. 第74回日本体育・スポーツ・健康学会, 2024.8.29-8.31.

- (58) 平林怜, 山田勇輝, 大河内偉琉, 須貝菜央, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 跳躍パフォーマンスは左右の咬合力に影響する. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (59) 大河内偉琉, 平林怜, 須貝菜央, 山本峻平, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 関節運動の視覚的運動錯覚が脊髄相反性抑制に及ぼす影響. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (60) 落合優花, 平林怜, 大河内偉琉, 須貝菜央, 宗村李実, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 末梢性疲労後の局所振動刺激介入が疲労回復を促進させた. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (61) 宗村李実, 平林怜, 大河内偉琉, 須貝菜央, 落合優花, 横田裕丈, 関根千恵, 石垣智恒, 小宮諒, 江玉睦明. 振動錯覚と運動イメージが脊髄機能に及ぼす影響. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (62) 北野侑, 池上諒, 椿淳裕, 中村雅俊, 藤本知臣. レジスタンストレーニング後の温熱またはアイシング処置が筋力・筋厚に及ぼす影響. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (63) 藤本知臣, 高城菜々子, 五十嵐小雪, 越智元太, 山代幸哉, 佐藤大輔. 若年成人における局所温度感受性の季節変動および部位差に関する研究. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (64) 福山夏未, 卷渕泰輝, 五十嵐小雪, 越智元太, 山代幸哉, 佐藤大輔, 藤本知臣. 皮膚へのカプサイシン塗布が局所寒冷刺激に伴う循環応答と痛み感覚に及ぼす影響. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (65) 北野侑, 池上諒, 中村雅俊, 椿淳裕, 藤本知臣. レジスタンストレーニング後の温熱またはアイシング処置が筋力・筋厚に及ぼす影響. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (66) 須崎友馬, 土橋康平, 鏡味卓也, 佐藤大輔, 山代幸哉, 越智元太, 五十嵐小雪, 藤本知臣. 低酸素かつ高二酸化炭素に対する換気応答と最大息止め時間の関係. 第78回 日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (67) 余村花梨, 山崎史恵. 大学運動部員におけるソーシャル・サポート互惠状態の可視化 – 尺度開発および信頼性・妥当性の検討 –. 第51回日本スポーツ心理学会大会, 2024.9.27-9.30.
- (68) 小林壮太, 田村俊太郎, 長谷川智, 宮田一弘, 塩浦宏祐, 白田滋. 亜急性期脳卒中者における Activities-specific Balance Confidence scale の尺度特性. 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2024.10.5-10.6.
- (69) 北谷亮輔, 平野志織, 反町瑠菜, 沼田莉奈, 星春輝, 大鶴直史, 芝田純也, 大西秀明. 歩行中の一次運動野に対する律動経頭蓋直流電気刺激による筋内・筋間コヒーレンスの変化. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (70) 山本峻平, 宮口翔太, 横田裕丈, 犬飼康人, 大鶴直史, 大西秀明. 経皮的迷走神経刺激が唾液 α アミラーゼと反応抑制機能に与える影響. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (71) 長尾彩音, 長坂和明, 五十嵐眸美, 大鶴直史, 大西秀明. 脳梁膨大後部皮質と前頭葉における機能解剖の解明 – 膜電位感受性色素を用いた光イメージングによる検証 –. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (72) 小川有生人, 長坂和明, 長尾彩音, 五十嵐眸美, 大鶴直史, 大西秀明. 脳活動イメージングを用いた脳卒中後疼痛発症のメカニズム解明. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (73) 安達航希, 長坂和明, 長尾彩音, 鈴木孝昇, 大鶴直史, 大西秀明. 中脳腹側被蓋野の一過性の興奮によって生じる一次体性感覚野神経活動の光イメージング. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (74) 近藤優樹, 小島翔, 田邊かこ, 齊藤慧, 大西秀明. 一般大学生とアスリートにおける手指運動機能と触覚感度の関連. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.

- (75) 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における片脚立位バランスの左右差と小脳の灰白質容積との関連-Voxel-based morphometry (VBM) を用いた全脳解析による検討-. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (76) 太田大樹, 片野坂公明, 田口徹. 伸張性収縮後の筋膜で新たに検出された遺伝子とその機能. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (77) 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. 複合持続ストレス誘発性疼痛モデルラットにおける筋痛覚過敏の脊髄機構. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (78) 田口徹, 歌大介, 坪島功幸, 西条寿夫. 線維筋痛症モデルラットにおける感作された脊髄後角ニューロンに対するセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬の抑制効果. 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 2024.10.12-10.13.
- (79) 高橋ひろな, 犬飼康人, 長坂和明, 宮口翔太, 櫻井典子, 児玉直樹, 大鶴直史, 大西秀明. 若年健常者における閉眼片脚立位時間と灰白質容積の関連 Voxel-based morphometry (VBM) を用いた全脳解析による検討. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (80) 武田真桜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 齊藤慧, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 足底への連続的反復電気刺激が片脚立位時のバランス制御に与える効果. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (81) 小野優翔, 犬飼康人, 高橋ひろな, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野および小脳に対する経頭蓋ランダムノイズ刺激がバランス機能に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (82) 石井瞳, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 小趾球部への高頻度反復感覚刺激が片脚立位バランスに与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (83) 小杉航大, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一次運動野への陽極経頭蓋直流電流刺激がバランストレーニング効果に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (84) 菊地太陽, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 廣瀬貴喜, 武田真桜, 齊藤慧, 大鶴直史, 大西秀明. 足趾への高頻度反復感覚刺激が姿勢制御に与える影響. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.10.24-10.26.
- (85) 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 齊藤慧, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. スラックラインを用いたバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証. 第24回新潟医療福祉学会学術集会, 2024.10.26.
- (86) 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. 複合持続ストレス誘発性筋痛覚過敏: 免疫組織化学を用いた実証. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (87) 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. しかめっ面スケールを用いたストレス誘発性疼痛モデルラットにおける筋痛覚過敏の定量化. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (88) 田口徹, 太田大樹. 高張食塩水投与により惹起される局所誘発筋電図の容量依存性. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (89) 田口徹, 太田大樹. 局所痙攣様筋収縮に対するニコチン性アセチルコリン受容体拮抗薬の抑制効果. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (90) 田口徹, 太田大樹. カプサイシン投与による誘発筋電図の電気生理学的記録. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (91) 二神真紘, 太田大樹, 田口徹. 遅発性筋痛モデルラットの下腿筋膜における神経成長因子の発現定量. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (92) 太田大樹, 田口徹. 伸張性収縮を負荷したラットの下腿筋膜ではAnkrd1 mRNAの発現が増大す

- る. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (93) 太田大樹, 田口徹. 筋および筋膜で発現する遺伝子の違い: 網羅的遺伝子解析による比較. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (94) 太田大樹, 田口徹. 伸張性収縮後の筋内における遺伝子発現パターンの部位差. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (95) 田口徹, 歌大介, 坪島功幸, 西条寿夫. 線維筋痛症モデルにおける脊髄後角ニューロンの感受性増大に対するSNRIの抑制効果. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (96) 田口徹, 歌大介, 坪島功幸, 西条寿夫. 線維筋痛症モデルラットの脊髄後角表層ニューロンに対するプレガバリンの作用. 第24回新潟医療福祉学会学術大会, 2024.10.26.
- (97) 廣瀬貴喜, 犬飼康人, 高橋ひろな, 小野優翔, 武田真桜, 齊藤慧, 宮口翔太, 大鶴直史, 大西秀明. 一側下肢のバランストレーニング後に生じるクロスエデュケーション効果の検証. 第30回新潟県理学療法学術大会, 2024.10.26-10.27.
- (98) 遠間悠貴, 菊元孝則, 緒方嵩人, 高林知也, 久保雅義. 競泳スタートにおけるブロック段階の上下部体幹・骨盤角度とパフォーマンスとの関連. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会, 2024.10.5-10.6.
- (99) 緒方嵩人, 高林知也, 遠間悠貴, 菊元孝則, 久保雅義. クロール泳時における脊柱回旋角度の評価. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会, 2024.10.5-10.6.
- (100) 太田大樹, 植田愛美, 赤木淳二, 田口徹. 高張食塩水の筋内投与による筋痙攣モデルラット作製の試み. 第46回日本疼痛学会, 2024.11.16-11.17.
- (101) 山本陸央, 太田大樹, 田口徹. ストレス誘発性疼痛モデルにおける筋侵害刺激による脊髄後角ニューロンの興奮性増大. 第46回日本疼痛学会, 2024.11.16-11.17.
- (102) 田口徹, 明博瑛, 野原菜々子, 野村成美, 太田大樹. ヒト鼓膜への定量的圧刺激により生じる感覚の特徴とその性差. 第46回日本疼痛学会, 2024.11.16-11.17.
- (103) 高林知也, 江玉睦明, 渡部貴也, 渡邊貴博, 稲井卓真, 久保雅義. 慢性足関節不安定症者とcoperにおける動作時の下肢・体幹キネマティクスの評価. 第5回足の構造と機能研究会学術大会, 2024.6.1-6.2.
- (104) Ota H, Katanosaka K, Taguchi T. Transcriptional profiling in muscle and crural fascia of delayed onset muscle soreness. 第47回日本神経科学学会大会, 2024.7.24-7.27.
- (105) Taguchi T, Uta D, Tsuboshima K, Nishijo H. Suppressive effects of antidepressants on sensitized spinal dorsal horn neurons in a rat model of fibromyalgia. 第47回日本神経科学学会大会, 2024.7.24-7.27.
- (106) 藤井豊. 新世代が考える臨床工学技士. 第14回長野県臨床工学会, 2024.8.25.
- (107) 西野光貴, 井上達朗, 堀田一樹, 和泉徹, 神谷健太郎, 椿淳裕, 藤田卓仙, 窪田杏奈, 宮田裕章. 超音波画像診断装置を用いて測定した大腿前面筋厚をBMIで補正した指標は転倒と関連する. 第3回日本老年療法学会学術集会, 2024.8.3-8.4.
- (108) 笠井紅里, 井上達朗, 前川健一郎, 八木拓磨, 西野光貴, 船山結衣, 古澤芽依, 田宮創, 椿淳裕. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者の入院時の低栄養は退院時の歩数を低下させる. 第3回日本老年療法学会学術集会, 2024.8.3-8.4.
- (109) 甘粕康太, 井上達朗, 前川健一郎, 鎌田夏未, 齋藤新貴, 丸山麻樹, 佐藤卓也, 土田望, 熊倉ひとみ, 渡部裕美子. 急性期高齢脳卒中患者におけるLow Phase Angleと嚥下障害の組み合わせが退院時の重度機能障害を予測する. 第3回日本老年療法学会学術集会, 2024.8.3-8.4.
- (110) 増田隆之介, 大山由廉, 小澤哲也, 平田萌々花, 小川拓真, 霜田直史, 井上達朗, 椿淳裕, 平田康英, 野寄浩司. 急性期病院に入院した大腿骨近位部骨折患者の大腿前面の筋厚が退院時ADLへ与える影響. 第3回日本老年療法学会学術集会, 2024.8.3-8.4.
- (111) 齋藤新貴, 井上達朗, 吉田英毅, 齊田葉子. 学会分類コード2-1以下の食種(つるん食)導入に

- よる経口移行への影響. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2024.8.30-8.31.
- (112) 井上達朗. PT, OT, STで協働する嚥下リハビリテーション-PTの立場から-. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2024.8.30-8.31.
- (113) 小林壮太, 木村鷹介, 久保宏紀, 吉田啓志, 鈴木佳樹, 石垣智也, 清水夏生, 金居督之. 亜急性期脳卒中者の加速度計の測定時間の差異が身体活動量に与える影響. 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 2024.9.28-9.29.
- (114) 高林知也, 江玉睦明, 稲井卓真, 久保雅義. ランニングにおける足部内バイオメカニクス. 第12回日本運動器理学療法学会, 2024.9.14-9.15.
- (115) 武田賢和, 玉越敬悟, 堀田一樹, 真木柊太郎, 田口徹, 高橋英明. 成長と加齢に伴うラット骨格筋内の毛細リンパ管形成の特徴的变化. 第12回日本運動器理学療法学会, 2024.9.14-9.15.
- (116) 小曾根海知, 熊谷竜徳, 島田直宜, 高橋花奈, 米野萌恵, 荒川航平, 高畠啓, 佐藤路晃, 川端空, 峯岸雄基, 岡優一郎, 金村尚彦. 活動期関節リウマチモデルマウスに対する低負荷運動療法の効果検証—巨視的变化に着目して—. 第12回日本運動器理学療法学会, 2024.9.14-9.15.
- (117) 越智元太. 運動による認知疲労の生理機構. 第78回日本体力医学会, 2024.9.2-9.5.
- (118) 越智元太, 永尾美友, 馬場康博, 藤本知臣, 五十嵐小雪, 山代幸哉, 佐藤大輔. アスリートの脳疲労を毛髪コルチゾールが予測できるか: 大学生アスリートの事例研究. 第78回日本体力医学会, 2024.9.2-9.5.
- (119) 芝田純也. 経頭蓋静磁場刺激 (tSMS) が拓くシン・リハビリテーション. 日本物理療法合同学術大会 2025, 2025.2.2.
- (120) 徳永亮太, 柴田秀史, 黒澤美枝子. Altered serotonin release response in the central nucleus of the amygdala to cutaneous stimulation in an animal model of spinal nerve ligation. 第102回日本生理学, 2025.3.17-3.19.
- (121) 緒方嵩人, 高林知也, 遠間悠貴, 菊元孝則, 久保雅義. 上肢挙上運動に伴う上部・中部・下部胸椎伸展角度の変化. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25-1.26.
- (122) 西口ほのか, 高林知也, 菊元孝則, 久保雅義. ランニング時の足部接地パターンが膝蓋大腿関節ストレスに与える影響. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25-1.26.
- (123) 佐藤慎之助, 高林知也, 菊元孝則, 久保雅義. 捕手における捕球前のステップ動作の有無が捕球からボールリリースまでの動作時間に与える影響. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25-1.26.
- (124) 小宮諒, 前田慶明, 石原萌香, 石田礼乃, 江玉睦明, 横田裕丈, 浦辺幸夫. 足部形態の違いと足趾把持運動後に生じる足部内在筋の筋腫脹の関係. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25-1.26.
- (125) 遠間悠貴, 菊元孝則, 緒方嵩人, 高林知也, 久保雅義. 競泳スタートにおける上下部体幹・骨盤角度と入水角度の関連. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25-1.27.
- (126) 齊藤慧, 大鶴直史, 小島翔, 平賀大河, 関根悠介, 大西秀明. 示指と中指への同時末梢電気刺激が右示指の触覚方位弁別能力にもたらす影響. 日本物理療法合同学術大会 2025, 2025.2.1-2.2.
- (127) 平賀大河, 齊藤慧, 小島翔, 大西秀明. 手指への末梢電気刺激によって生じる触覚機能変化に関係する皮質領域間の機能的結合の検討. 日本物理療法合同学術大会 2025, 2025.2.1-2.2.
- (128) 関根悠介, 齊藤慧, 平賀大河, 小島翔, 大西秀明. 低頻度末梢電気刺激が触覚方位弁別能力にもたらす効果. 日本物理療法合同学術大会 2025, 2025.2.14-2.15.
- (129) 井上達朗. リアルワールドデータを活用した入院関連機能障害予防のための多面的栄養療プログラムの開発と効果検証に関する研究. 第40回日本栄養治療学会, 2025.2.14-2.15.
- (130) 井上達朗. リハビリテーション中の高齢者における筋肉量の評価. 第40回日本栄養治療学会, 2025.2.14-2.15.
- (131) 齋藤新貴, 井上達朗, 前川健一郎. 椎体骨折患者の入院時の低栄養は入院医療費を増加させる.

第40回日本栄養治療学会, 2025.2.14-2.15.

- (132) 前川健一郎, 齋藤新貴, 井上達朗. 回復期リハビリテーション病棟に入院した大腿骨近位部骨折患者におけるサルコペニア嚥下障害は退院時の日常生活動作を低下させる. 第40回日本栄養治療学会, 2025.2.14-2.15.
- (133) 大森恵利華, 高橋朋弥, 高原夏葵, 小林壮太, 岩田健太郎, 田宮創, 早尾啓志, 椿淳裕. 健康高齢者を対象とした, 歩行課題, 認知課題, 二重課題中の前頭前野の脳酸素化動態の比較. 第26日本光脳機能イメージング学会学術集会, 2025.3.1.
- (134) 橋本明日翔, 塩谷拓馬, 斎藤真太郎, 今野溪, 椿淳裕, 田宮創, 早尾啓志. 急性の血圧低下に対する左右前頭前野の酸素化ヘモグロビン変動に中強度サイクリング運動が与える影響. 第26日本光脳機能イメージング学会学術集会, 2025.3.1.
- (135) 今野溪, 斎藤真太郎, 塩谷拓馬, 橋本明日翔, 大森恵利華, 田宮創, 早尾啓志, 椿淳裕. 中強度サイクリング運動が急性の血圧低下に対する酸素化ヘモグロビン変動に与える影響. 第26日本光脳機能イメージング学会学術集会, 2025.3.1.
- (136) Fujimoto T, Hattori R, Watanabe K, Fujii N. Effect of ANO1 inhibition on cutaneous vasoconstrictor response to local cooling, cold pressor test, and venous occlusion. ARIHHP Forum 2024, 2025.3.1.
- (137) 久保亜抄子. Characterization of trigeminal ganglion neurons innervating the masseter muscle and projecting directly to the parabrachial nucleus. 第102回日本生理学会大会, 2025.3.17-3.19.
- (138) 太田大樹, 田口徹. Hypertonic saline-induced cramp-like muscle contractions are mediated via acetylcholine receptors at the neuromuscular junction in rats. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会 合同大会 (APPW2025), 2025.3.17-3.19.
- (139) Taguchi T, Yamamoto R, Ota H. Muscular hyperalgesia in rats exposed to multiple continuous stress. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会 合同大会 (APPW2025), 2025.3.17-3.19.
- (140) Sakamoto K, Edama M, Taguchi T, Ota H, Ishigaki T, Yokota H, Hirabayashi R, Sekine C, Komiya R, Sato N. Innervation of the human crural fascia in Thiel embalmed cadavers. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会 合同大会 (APPW2025), 2025.3.17-3.19.

4) 国内学会・共同

- (1) 熊澤将大, 大野健, 藤本知臣, 下山好充, 松浦由生子. クロール泳におけるMR拡散強調画像を用いた筋活動評価～体幹筋活動量が競技力および腰痛の有無に及ぼす影響～. 日本水泳・水中運動学会2024年次大会, 2024.10.4-10.6.
- (2) 笹代純平, 清水怜有, 深見和矢, 小宮諒, 篠原博, 前田慶明, 浦辺幸夫, 中嶋耕平. 車いすバスケットボール選手に対するVRを用いた眼球運動評価. 第35回日本臨床スポーツ医学会, 2024.11.16-11.17.
- (3) 福家健宗, 藤本知臣, 井上恒志郎, 山口朋彦. 3分間の温冷交代足浴が心理・生理的リラクゼーションにもたらす効果: 温浴と冷浴の順序に着目して. 第63回北海道体育学会, 2024.11.30-12.1.
- (4) 松浦由生子, 熊澤将大, 藤本知臣, 奈良梨央, 馬場康博, 下山好充, 江玉睦明. ウェアラブルデバイスをを用いた睡眠管理により女子水泳選手の自己評価による睡眠の質と月経随伴症状が改善する. 第13回日本アスレティックトレーナー学会学術大会, 2024.9.14-9.15.
- (5) 服部嶺, 加治木政伸, 藤本知臣, 天野達郎, 渡部厚一, 西保岳, 藤井直人. TRPA1が暑熱下運動時の皮膚血管拡張反応に及ぼす影響. 第78回日本体力医学会大会, 2024.9.2-9.4.
- (6) 五十嵐達也, 加茂智彦, 宮田一弘, 田村俊太郎, 小林壮太, 海津陽一, 齋藤拓之, 久保宏紀, 百崎良. フレイルリスクは高齢水頭症患者の術後の日常生活活動に影響する: DPCデータベースを

- 用いた傾向スコア解析. 第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2024.10.5-10.6.
- (7) 長澤朋枝, 齋藤優花, 田宮創, 椿淳裕. スタティックスストレッチにおける伸張時間と反復回数の違いが膝窩動脈の血行動態に与える即時効果. 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 2024.11.23-11.24.
- (8) 垣内優芳, 井上達朗, 小林光, 海老名葵, 中野元, 寛哲也, 田中利明, 西原賢在. 肺結核患者における入院時の全身炎症は嚥下機能を低下させる. 第8回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会, 2024.11.30.
- (9) 阿部拓也, 藤井豊, 埴晴雄, 渡邊博昭. 糖尿病病態における Sonazoid 投与の弊害. 第73回日本医学検査学会(金沢市), 2024.5.11-5.12.
- (10) 佐々木一真, 藤井豊. 臨床工学技士養成校における多職種連携教育の取り組み. 第34回日本臨床工学会(福井市), 2024.5.18-5.19.
- (11) 内山駿佑, 住倉博仁, 藤井豊, 本間章彦. シリコン素材を用いたラット用外部灌流型人工肺の試作. 第63回日本生体医工学会大会(鹿児島市), 2024.5.23-5.25.
- (12) 増子弘明, 高橋良光, 森田邦恵, 阿部拓也, 伊藤中亮, 前田順子, 江ヶ寄梓, 金子京平, 藤井豊. 内視鏡自動洗浄消毒装置の「送気の単独工程機能」の有用性について～内視鏡スコープ内部管路内の清浄度調査の観点から～. 第63回日本生体医工学会大会(鹿児島市), 2024.5.23-5.25.
- (13) 佐藤雄己, 元石恵理奈, 角場里菜, 花田実夢, 永塚由佳, 阿部拓也, 藤井豊. Midazolam の薬物動態に及ぼす体外式膜型人工肺の影響. 日本集中治療医学会 第8回中国・四国支部学術集会(広島市), 2024.6.15.
- (14) 野添匡史, 井上達朗, 荻野智之, 奥田和希, 山本健太. 急性期脳卒中における病前状態評価としての Frailty 追加の影響は重症度によって異なる. 第3回日本老年療学会学術集会, 2024.8.3-8.4.
- (15) 田村俊太郎, 齋藤拓之, 小林壮太, 岩本紘樹, 長谷川智, 臼田滋. 亜急性期脳卒中患者における平地歩行獲得時期を予測するノモグラムモデル. 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 2024.9.28-9.29.
- (16) 竹内陸雄, 木村鷹介, 金居督之, 久保宏紀, 小林壮太, 清水夏生, 吉田啓志, 鈴木佳樹, 山本晟也, 諸永浩平. 回復期脳卒中者における移動形態の違いと身体活動時間および強度の関連: 多施設共同研究. 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 2024.9.28-9.29.
- (17) 河原佑実, 小林康陽, 高橋英明. Female Athlete Triad による成長期骨粗鬆症モデル動物の開発に向けたパイロット・スタディ. 第12回日本運動器理学療法学会, 2024.9.14-9.15.
- (18) 三浦涼, 武内華乃子, 牧野葵, 埴晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 渡邊博昭. 炎症性貧血ラットモデルにおける赤血球造血因子と鉄代謝の検討. 第97回新潟県臨床検査学会(新潟市), 2024.9.29.
- (19) 安達大輔, 清野秀, 帆苅野乃, 埴晴雄, 阿部拓也, 藤井豊, 江玉睦明, 渡邊博昭. 女子アスリーットの鉄欠乏・貧血に関する血中および尿中ヘプシジンの検討. 第97回新潟県臨床検査学会(新潟市), 2024.9.29.
- (20) 遠藤結子, 斉藤心海, 藤井豊, 阿部拓也. 食物アレルギーモデルラットの作製およびアレルギーによる酸化ストレスへの影響. 第97回新潟県臨床検査学会(新潟市), 2024.9.29.
- (21) 松浦由生子, 藤本知臣, 大野健, 下山好充. MR 画像診断装置を用いた競泳選手の多裂筋筋断面積解析～腰痛の有無による比較～. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.16-1.17.
- (22) 竹下康文, 小宮諒, 松田翔太, 中井雄貴. 深層学習を用いた前足部内外転の判別における有用性の検討. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25-1.26.
- (23) 石田礼乃, 前田慶明, 尾上仁志, 田城翼, 有馬知志, 小宮諒, 水田良実, 石原萌香, 浦辺幸夫. 前方片脚ドロップジャンプ着地動作時の距骨・外果間距離の動的評価. 第11回日本スポーツ理学療法学会学術大会, 2025.1.25-1.26.
- (24) 岩田健太郎, 前川侑宏, 高橋朋弥, 今井遼太, 北井豪, 幸原伸夫, 椿淳裕. ICU リハビリを変革

するNIRS：脳循環の“見える化”が拓く新たな早期離床戦略. 第52回日本集中治療医学会学術集会, 2025.3.14-3.16.

(25) 今井遼太, 椿淳裕, 岩田健太郎, 山口征吾. ICUにおける急性心不全の離床におけるNIRSの利用. 第52回日本集中治療医学会学術集会, 2025.3.14-3.16.

(26) 前川侑宏, 岩田健太郎, 山田莞爾, 稲垣優太, 高橋朋弥, 幸原伸夫, 椿淳裕. 脳梗塞患者の早期リハビリテーションにおける近赤外線分光法の利用. 第52回日本集中治療医学会学術集会, 2025.3.14-3.16.

(27) 藤戸靖則, 藤本知臣, 原怜来, 吉田龍平, 船渡和男. クリティカルスピードによる10kmオープンウォータースイミング競技のレース分析ー世界トップレベルの選手を対象にー. 東京体育学会第16回学会大会, 2025.3.17.

4. 学会活動

- (1) 日本スポーツ理学療法学会, 機関誌調整委員会
- (2) 日本スポーツ理学療法学会, スポーツ理学療法学編集部会
- (3) 日本スポーツ理学療法学会, 学術庶務
- (4) 日本基礎理学療法学会, 超音波画像診断装置使用に関する検討委員
- (5) 足の構造と機能研究会, 理事
- (6) 新潟県理学療法士協会, 東ブロック事務局
- (7) Journal of Biomechanics, 査読
- (8) Knee, 査読
- (9) European Journal of Applied Physiology, 査読
- (10) 日本基礎理学療法学会, 評議員
- (11) 日本循環器理学療法学会, 評議員
- (12) 日本循環器理学療法学会, 機関誌編集委員
- (13) 日本循環器理学療法学会, 教育委員
- (14) 日本呼吸理学療法学会, 評議員
- (15) 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 代議員
- (16) 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会, 準備委員長
- (17) 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 準備委員 (企画部)
- (18) 第52回日本集中治療医学会学術集会, プログラム委員
- (19) 医用近赤外線分光法研究会, 世話人
- (20) 日本光脳機能イメージング学会, 評議員
- (21) 理学療法学, 査読委員
- (22) Physical Therapy Research, 査読委員
- (23) PLoS One, 査読
- (24) スポーツ理学療法学, 査読
- (25) 第5回足の構造と機能研究会学術大会, 学術
- (26) Journal of Biomechanics, 査読
- (27) 日本生体磁気学会, 評議員
- (28) 日本運動器疼痛学会, 代議員
- (29) 日本ペインリハビリテーション学会, 代議員
- (30) Frontiers in human neuroscience, review editor
- (31) Frontiers in physiology, review editor
- (32) Frontiers in pain research, review editor
- (33) Journal of Affected Disorders, 査読
- (34) Brain stimulation, 査読

- (35) サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービスのためのガイドライン, ガイドライン作成委員, 事務局
- (36) 生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドラインおよびマニュアルの整備に資する研究, ガイドライン作成委員, 事務局
- (37) サルコペニア・フレイル栄養管理ガイドライン, ガイドライン作成委員
- (38) リハビリテーション栄養ガイドライン, ガイドライン作成委員
- (39) 日本栄養・嚥下理学療法学会, 副理事長
- (40) 日本老年療学会, 理事
- (41) 日本リハビリテーション栄養学会, 理事
- (42) 日本転倒予防学会, 学術委員
- (43) 日本骨粗鬆症学会, 骨粗鬆症リハビリテーション委員会 委員
- (44) 日本臨床栄養代謝学会, 学術評議員
- (45) 新潟県フレイル克服プロジェクト, 委員
- (46) 魚沼市におけるデータを活用したフレイル予防モデル事業, ワーキンググループ委員
- (47) 新潟高齢者の栄養と摂食を支える会, 世話人
- (48) 新潟市健康づくり推進委員会, 委員
- (49) 第12回日本サルコペニアフレイル学会, 準備委員
- (50) 日本神経理学療法学会, 学術誌編集委員会総務
- (51) 日本神経理学療法学会, 戦略的課題解決委員会・脳卒中歩行障害班 班員
- (52) 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 演題査読
- (53) *Journal of Biomechanics*, 査読
- (54) *Journal of Biomechanics*, 査読
- (55) 日本スポーツ理学療法学会, 情報戦略・IR 委員
- (56) 第28回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
- (57) 日本スポーツ歯科医学会, 編集委員
- (58) スポーツ歯学, 編集委員
- (59) 第10回日本呼吸理学療法学会学術大会, 準備委員 (抄録部)
- (60) 日本老年療学会, 評議員
- (61) 日本糖尿病理学療法学会, 評議員
- (62) 新潟県心臓リハビリテーション研究会, 世話人
- (63) 腎臓病運動療法・身体活動ネットワーク研究会, 研修会企画委員
- (64) 日本糖尿病理学療法学会, 研究推進委員会
- (65) 日本糖尿病理学療法学会, 渉外部会 (足病変・腎臓病対策推進担当)
- (66) 日本老年療学会, 広報委員会
- (67) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
- (68) *Scientific Reports*, 査読
- (69) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
- (70) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, プログラム編成委員
- (71) 日本運動器疼痛学会誌, 査読
- (72) *Physical Therapy in Sports*, 査読
- (73) *European Journal of Pain*, 査読
- (74) 日本老年療学会, 広報委員会
- (75) *Advance Biomedical Engineering*, 査読
- (76) *Clinical Interventions in Aging*, 査読
- (77) *Physical Therapy Research*, 査読

- (78) 第30回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 実行委員長
- (79) 脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 理事
- (80) Neuroscience, 査読
- (81) 理学療法学, 査読
- (82) Journal of Affected Disorders, 査読
- (83) BMC Musculoskeletal Disorders, 査読
- (84) Journal of Biomechanics, 査読
- (85) 日本臨床工学技士会, 学術機構運営委員会 査読員
- (86) Journal of Clinical Medicine, Guest Editor
- (87) J Artif Organs, 査読
- (88) International Journal of Molecular Sciences, 査読
- (89) Journal of Clinical Medicine 論文No. J. Clin. Med. 2024, 13(11), XXXX, 査読
- (90) Journal of Clinical Medicine 論文No. J. Clin. Med. 2024, 13(6), XXXX, 査読
- (91) Journal of Clinical Medicine 論文No. J. Clin. Med. 2024, jcm-3117XXX, 査読
- (92) 第22回日本神経理学療法学会学術大会, 座長
- (93) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 座長
- (94) 岡田整形外科倫理審査委員会, 委員
- (95) Journal of Biomechanics, 査読
- (96) 第35回日本臨床スポーツ医学会, 座長
- (97) 第35回日本臨床スポーツ医学会, 実行委員
- (98) 地域理学療法学, 査読
- (99) BMC geriatrics, 査読
- (100) BMS Psychology, 査読
- (101) Scientific Reports, 査読
- (102) Open Access Journal of Sports Medicine
- (103) Cerebral cortex, 査読
- (104) Sensor, 査読
- (105) Physiotherapy Theory and Practice, 査読
- (106) Gait & Posture, 査読
- (107) Communications Biology, 査読
- (108) Nature Communications medicine, 査読
- (109) Scientific Reports, 査読
- (110) European Journal of Applied Physiology, 査読
- (111) Mental Health and Physical Activity, 査読
- (112) 地域理学療法学, 査読
- (113) 一般社団法人全国大学理学療法学会, 選挙管理委員長
- (114) Games for Health Journal, 査読
- (115) Topics in Stroke Rehabilitation, 査読
- (116) Foot, 査読
- (117) Brain Injury, 査読
- (118) スポーツ理学療法学, 査読
- (119) 日本老年療学会誌, 査読
- (120) 日本老年療学会誌, 査読
- (121) International Journal of Sports Medicine, 査読
- (122) 理学療法学, 査読

- (123) 理学療法学, 査読
- (124) 理学療法学, 査読
- (125) Physical Therapy Research, 査読
- (126) 運動器理学療法学, 査読
- (127) 運動器理学療法学, 査読
- (128) Sport Health, 査読
- (129) 日本スポーツ理学療法学会, 情報戦略・IR委員
- (130) 日本スポーツ理学療法学会, 総務委員
- (131) 日本老年療法学会, 学術大会委員
- (132) 日本義肢装具学会, 認定制度委員
- (133) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
- (134) Eur J Pharmacol, 査読
- (135) Biomolecules, 査読
- (136) The Open Pain Journal, 査読
- (137) Journal of Pain Research, 査読
- (138) Physiology International, 査読
- (139) Pain, 査読
- (140) Healthcare, 査読
- (141) Eur J Pharmacol, 査読
- (142) J Pain Res, 査読
- (143) J Pain Res, 査読
- (144) Pain Research, 査読
- (145) J Pain Res, 査読
- (146) Applied Sciences, 査読
- (147) IBRO Neuroscience Reports, 査読
- (148) Journal of Inflammation Research, 査読
- (149) Neuroscience Letters, 査読
- (150) Nature Cell and Science, 査読
- (151) PeerJ, 査読
- (152) Journal of Pain Research, 査読
- (153) Neurology International, 査読
- (154) Neuroscience, 査読
- (155) Healthcare, 査読
- (156) Neuroscience Letters, 査読
- (157) Pain Research, 査読
- (158) Brain Research, 査読
- (159) Journal of Inflammation Research, 査読
- (160) Brain Research, 査読
- (161) Brain Research, 査読
- (162) Neurochemical Research, 査読
- (163) Frontiers in Pain Research, Review Editor
- (164) JSPS KAKENHI, 審査委員
- (165) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
- (166) 第46回日本疼痛学会, 座長
- (167) 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会 (APPW2025),

座長

- (168) 日本基礎理学療法学会, 評議員
- (169) 日本生理学会, 評議員
- (170) 日本疼痛学会, 代議員
- (171) Journal of Thermal Biology, 査読
- (172) International Journal of Sports Physiology and Performance, 査読
- (173) BMC Anesthesiology, 査読
- (174) European Journal of Applied Physiology, 査読
- (175) Temperature, 査読
- (176) BMC Public Health, 査読
- (177) European Journal of Applied Physiology, 査読
- (178) 第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読
- (179) 第10回 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会, 演題査読
- (180) 第12回 日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会, 演題査読
- (181) Physiological Reports, 査読

5. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

- (1) リハテックリンクスWebセミナー：病態理解に基づく脳卒中者の歩行障害とリハビリテーション戦略, 脳卒中患者における歩行の神経生理学的障害, 講師, リハテックリンクス, PT, OT, オンライン, 2023.4.6.
- (2) リハテックリンクスWebセミナー：病態理解に基づく脳卒中者の歩行障害とリハビリテーション戦略, 脳卒中患者の歩行障害と評価戦略, 司会, リハテックリンクス, PT, OT, オンライン, 2023.4.25.
- (3) 運動器リハ部 第27回ナイトセミナー, 伸張性収縮運動が腱特性に与える影響, 講師, Shin's lab 運動器リハ部, PT, 柔道整復師, オンライン, 2023.4.1.
- (4) 2022年度 新潟県心リハクラウドファンディング事業 第9回オンライン講義, 心臓リハビリテーション各論2, 講師, 新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学, 医療従事者, オンライン, 2023.6.12.
- (5) 第44回脳機能とリハビリテーション研究会 Web勉強会, 空間性注意機能と姿勢制御ープリズム適応を用いた基礎的検討ー, 講師, 脳機能とリハビリテーション研究会, PT, OT, オンライン, 2023.6.14.
- (6) 新潟県理学療法士会 第114回研修会, 「理学療法に必要な栄養問題の知識とリハビリテーション栄養の基礎」, 講師, 新潟県理学療法士会, PT, ハイブリッド, 2023.6.25.
- (7) 第1回 新潟県理学療法士協会 新潟市東ブロック研修会, 新潟県での理学療法士の学び方～理学療法士協会と生涯学習の話～, 事務局, 新潟県理学療法士会, PT, 新潟医療福祉大学, 2023.6.1-7.15.
- (8) 第1回 新潟県理学療法士協会 新潟市東ブロック研修会, 新潟県での理学療法士の学び方～理学療法士協会と生涯学習の話～, ファシリテーター, 新潟県理学療法士会, PT, 新潟医療福祉大学, 2023.7.15.
- (9) 第24回足の病気の専門家webセミナー, 足部構造・機能の性差～リハビリテーションへの応用～, 講師, 日本足の外科学会, 医師・PT, オンライン, 2023.7.19.
- (10) 腎臓・運動療法研究会：+a ウェビナー, 座りすぎがもたらす身体への悪影響, 講師, 腎臓・運動療法研究会, PT, OT, ST, オンライン, 2023.7.25.
- (11) 八千代コースター, 3次元動作解析装置Viconとは, 講師, NST新潟総合テレビ, 一般の方, オンライン, 2023.7.15.

- (12) 同窓会第10回オンラインミーティング, 足部評価方法と足部バイオメカニクス, 講師, 新潟医療福祉大学理学療法学科同窓会, PT, オンライン, 2023.8.4.
- (13) 新潟脳外科病院院内セミナー, 脳卒中後の感覚機能障がい, 講師, 新潟脳外科病院リハビリテーション科, PT, OT, 新潟市, 2023.9.19.
- (14) 第2回 新潟県理学療法士協会 新潟市東ブロック研修会, 『はじめてみよう!「症例・事例共有」座談会』, 事務局, 新潟県理学療法士会, PT, 新潟医療福祉大学, 2023.9.10-11.19.
- (15) VRスポーツ体験会, VRスポーツ体験会, 講師, 静岡県立新居高等学校, 小学生, 中学生, 浜松市, 2023.11.4.
- (16) 同窓会第11回オンラインミーティング, 座りすぎが与える悪影響と臨床で身体活動量を上げるポイント, 講師, 新潟医療福祉大学理学療法学科同窓会, PT, オンライン, 2023.11.24.
- (17) 県央スポーツネットワーク・スポーツ指導者講習会兼県央スポーツサポーターバンク認定講習会, 体力トレーニング1 体力とは?, 講師, 新潟県県央スポーツネットワーク, 地域スポーツ指導者, 燕市, 2023.11.26.
- (18) 日本糖尿病理学療法学会第4回サテライトカンファレンス, 腎症の評価から糖尿病を捉える, 講師, 日本糖尿病理学療法学会, PT, オンライン, 2024.1.7.
- (19) 日本理学療法士教員協議会, 日本理学療法士教員協議会, 事務局, 一般社団法人 全国大学理学療法学会, PT, オンライン, 2024.1.27.
- (20) VICON User Conference Webinar, モーションキャプチャによる野球のバッティング動作の計測とその評価, 講師, インターリハ株式会社, 研究者, 学生, 医療従事者, オンライン, 2024.1.20.
- (21) 日本糖尿病理学療法学会 イブニングセミナー 研究支援セミナー「基礎編」, 概念枠組み(仮説, 新規性, 独創性, 研究意義), 講師, 日本糖尿病理学療法学会, PT, オンライン, 2024.2.5.
- (22) 栄養からみた循環器理学療法, 新潟県理学療法士会 第7回領域別研修会(心血管理学療法), 講師, 新潟県理学療法士会, PT, 対面(新潟市)+オンライン, 2024.2.18.
- (23) 第7回領域別 研修会(心血管理学療法), 循環器理学療法の意義, 講師, 新潟県理学療法士会, PT, 対面(新潟市)+オンライン, 2024.2.18.
- (24) 第7回領域別 研修会(心血管理学療法), 運動処方の基本, 講師, 新潟県理学療法士会, PT, 対面(新潟市)+オンライン, 2024.2.18.
- (25) 第25回日本光脳機能イメージング学会学術集会, リハビリテーションにおける脳循環モニタリングとしての利用に向けた取り組み, 講師, 日本光脳機能イメージング学会, 研究者, 医療従事者, 東京都千代田区, 2024.3.2.
- (26) 第33回新潟呼吸ケアセミナー, 呼吸ケアを学びたくなるきっかけの作り方, 講師, 新潟呼吸ケアフォーラム, 医療従事者, 対面(新潟市)+オンライン, 2024.3.2.
- (27) 神戸市立医療センター中央市民病院地域医療連携講演会, リハビリテーション領域での光技術の応用, 講師, 神戸市立医療センター中央市民病院リハビリテーション技術部, cc, 対面(神戸市)+オンライン, 2024.3.11.
- (28) 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 近赤外線分光法(NIRS)のリハビリテーション分野における研究および臨床応用の可能性, 講師, 日本腎臓リハビリテーション学会, 研究者, 医療従事者, 新潟市, 2024.3.17.
- (29) 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 血液透析中の脳循環に対する透析中運動療法の影響, 講師, 日本腎臓リハビリテーション学会, 研究者, 医療従事者, 新潟市, 2024.3.17.
- (30) 第53回日本臨床神経生理学会学術大会, 慢性疼痛患者に対する認知行動療法, 講師, 日本臨床神経生理学会, 医療従事者, 福岡, 2023.11.30-12.2.
- (31) 第11回日本運動器理学療法学会学術大会, 痛みと脳と情動と考え, 講師, 日本運動器理学療法学会, PT, 福岡, 2023.10.13-10.15.
- (32) 第28回日本基礎理学療法学会学術大会, 痛みと心の変容(慢性疼痛に対する認知行動療法), 講師,

- 日本基礎理学療法学会, PT, 広島, 2023.12.2-12.3.
- (33) Dynamics and Design Conference 2023, VRによる身体認知変容, 講師, 日本機械学会, 研究者, 愛知, 2023.8.27-8.29.
- (34) セラピストフォーライフ研修会, 膝関節の屈曲制限に対する機能解剖学①, 講師, 一般社団法人セラピストフォーライフ, 研究者, 医療従事者, オンライン, 2023.5.17.
- (35) アレックスメディカルグループ研修会, 新潟における女性アスリート支援, 講師, AR・Ex Medical Group, PT, アスレティックトレーナー, オンライン, 2023.5.21.
- (36) セラピストフォーライフ研修会, 膝関節の屈曲制限に対する機能解剖学②, 講師, 一般社団法人セラピストフォーライフ, 研究者, 医療従事者, オンライン, 2023.6.17.
- (37) 山梨県士会学術研修会, 足部・足関節の機能解剖と理学療法, 講師, 山梨県理学療法士協会, PT, オンライン, 2023.6.18.
- (38) 第34回神丹栗研究会オンライン, 足部・足関節・下腿の機能解剖学的視点からひも解く関節可動域制限と筋力低下の原因とアプローチ方法について, 講師, 神丹栗研究会, 医師, PT, オンライン, 2023.6.24.
- (39) セラピストフォーライフ研修会, 肘関節の屈曲制限に対する機能解剖学, 講師, 一般社団法人セラピストフォーライフ, 研究者, 医療従事者, オンライン, 2023.7.22.
- (40) The 4th NeuroMusculoskeletal Ultrasound Online Meeting of SMAP, 膝外側部痛の治療戦略(解剖), 講師, 先進整形外科エコー研究会, 医師, PT, オンライン, 2023.8.11.
- (41) セラピストフォーライフ研修会, 肉眼解剖・機能解剖学的視点から紐解く足関節可動域制限の評価と運動療法～拘縮要因の理解を中心に～, 講師, 一般社団法人セラピストフォーライフ, 研究者, 医療従事者, オンライン, 2023.8.19.
- (42) 広島国際大学大学院授業, アキレス腱障害について, 講師, 広島大学, 研究者, 医療従事者, オンライン, 2023.9.3.
- (43) スポラボ, 肉眼解剖学的視点から紐解く足関節可動域制限, 講師, CYBER BASEBALL, 研究者, 医療従事者, オンライン, 2023.9.8.
- (44) PHI Pilates Japan FESTA 2023, 機能解剖学的視点からひも解く膝関節可動域制限, 講師, PHI Pilates Japan, ピラティス講師, 医療従事者, オンライン, 2023.10.1.
- (45) 第13回中之島運動器セミナー, 筋損傷と解剖一下肢, 講師, 中之島運動器研究会, 医師, PT, オンライン, 2023.10.8.
- (46) 第3回 CLAI研究会, 足部・足関節の不安定を探索～解剖学的視点から～, 講師, CLAI研究会, 医師, PT, オンライン, 2023.11.12.
- (47) JA相模原協同病院 院内勉強会, アキレス腱障害のシン解剖学, 肘内側側副靱帯のシン解剖学, 講師, JA相模原協同病院, 医師, PT, 千葉県, 2023.11.22.
- (48) スポーツ医・科学サポート研究会 第2回研究会, 地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業の取り組み及び事例紹介, 講師, スポーツ医・科学サポート研究会, 医師, 医療関係者, 行政, オンライン, 2023.12.9.
- (49) 第11回青少年野球フェスタ2023, 第11回青少年野球フェスタ2023, 事務局, 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム, 選手, 保護者, 監督, エコスタ, 2023.12.10.
- (50) 新潟スポーツ医・科学コンソーシアムキックオフシンポジウム, 新潟県のスポーツ医科学支援を考える, 事務局, 新潟スポーツ医・科学コンソーシアム, 医師, 医療関係者, 選手, 行政, 保護者, 学生, 朱鷺メッセ, 2023.12.23.
- (51) スポラボ, アキレス腱障害の発生メカニズムについて～解剖学的・生体力学的知見から～, 講師, CYBER BASEBALL, 研究者, 医療従事者, オンライン, 2024.1.19.
- (52) スポーツ庁委託事業 女性アスリートの育成・支援プロジェクト「女性アスリートの課題解決型実践プログラム」受託3団体によるシンポジウム, すべての女性アスリートに・先端的支援の取り組

- み・, 講師, 立命館大学, 医師, 理学療法士, スポーツ関係者, 選手, 監督, オンライン, 2024.3.1.
- (53) にいがた健活フェス, 親子で学ぶケガをしない体づくり, 講師, 新潟日報社, 親子, 新潟日報メディアシップ, 2024.3.24.
- (54) 東京都藤村女子高等学校出張講義, 痛みに打ち克つ!, 講師, 東京都藤村女子高等学校, 高校生, オンライン, 2024.1.24.
- (55) 島根トップコーチ育成事業, ハイパフォーマンスのための暑熱対策～体温調節の基礎と対策法～, 講師, 島根県競技力向上委員会 (スポーツ振興課), 島根県教員, スポーツチームコーチ, オンライン, 2023.6.29.
- (56) 2023年度公認水泳コーチ3 更新研修, 生理学 (U15&U17), 講師, 日本水泳連盟, 日本水泳連盟所属水泳コーチ, オンライン, 2023.9.30.
- (57) 世界水泳2023OWS日本代表合宿, 暑熱対策合宿のメニュー作成と実施, フィードバック, 科学スタッフ, 日本水泳連盟OWS委員会, OWS日本代表, 日本代表コーチ, 東京都, 2023.6.1-7.8.
- (58) 世界水泳2023, レースの科学分析, 暑熱対策, 科学スタッフ, 日本水泳連盟OWS委員会, OWS日本代表, 日本代表コーチ, 福岡県, 2023.7.13-7.19.
- (59) 第99回OWS日本選手権, レースの科学分析, 科学スタッフ, 日本水泳連盟OWS委員会, OWS日本代表, 日本代表コーチ, 千葉県, 2023.11.3-11.5.
- (60) 指導者スキルアップ講座, 膝痛改善に向けた介入方法, 講師, 三条市体育文化会館, 健康運動実践指導者, 健康運動指導, 三条市, 2024.2.3.
6. 外部資金 (科学研究費等) の獲得状況
- (1) 2023年度, 科研費基盤研究C, MRI情報を用いた筋骨格有限要素モデルによる扁平足のタイプ別での骨・軟部組織負荷, 高林知也, 研究代表者
- (2) 2024年度, 科研費基盤研究B, 運動記憶を忘却する神経基盤の解明-忘却が誘う運動学習イノベーション, 佐藤大輔, 研究代表者
- (3) 2024年度, 科研費基盤研究C, 補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトー脱却戦略, 宮口翔太, 研究代表者
- (4) 2022年度, 科研費基盤研究B, 慢性疼痛における治療非反応性の神経基盤解明による治療効果向上戦略, 大鶴直史, 研究代表者
- (5) 2022年度, 科研費挑戦的研究 (萌芽), 不安定状態の脳内ネットワーク操作による恐怖記憶消去への挑戦, 大鶴直史, 研究代表者
- (6) 2023年度, 科研費基盤研究B, 脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活動バイオマーカーの確立と新たな治療戦略の創出, 長坂和明, 研究代表者
- (7) 2024年度, 科研費基盤研究C, 皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証, 北谷亮輔, 研究代表者
- (8) 2024年度, 科研費基盤研究B, 低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明, 椿淳裕, 研究代表者
- (9) 2023年度, 科研費若手研究, 運動時低体温症の解決を目指した体温調節メカニズムの解明-皮膚血管収縮に着目して-, 藤本知臣, 研究代表者
- (10) 2023年度, 科研費若手研究, 仙腸関節障害の発生に関わる仙腸関節の挙動と形態の解明, 関根千恵, 研究代表者
- (11) 2022年度, 科研費若手研究, 母指球筋を用いた新たな筋量指標の開発と疾患予後を予測する指標への応用, 井上達朗, 研究代表者
- (12) 2024年度, 科研費若手研究, ベルト式骨格筋電気刺激を用いた革新的な毛細血管保護戦略の開発, 田宮創, 研究代表者
- (13) 2022年度, 科研費基盤研究C, 脳刺激と末梢刺激の融合による相反性抑制増強法の開発, 平林怜,

研究代表者

- (14) 2022年度, 科研費挑戦的研究(萌芽), 筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確立と新たな運動療法の開発, 江玉睦明, 研究代表者
- (15) 2023年度, 科研費国際共同研究加速基金(海外連携研究), 腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立, 江玉睦明, 研究代表者
- (16) 2023年度, 科研費基盤研究B, アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法確立と腱の構造と特性に着目した障害予防法開発, 江玉睦明, 研究代表者
- (17) 2022年度, 科研費基盤研究B, 脳内情報を基にした慢性疼痛アスリートの評価法と対処法の創出, 山代幸哉, 研究代表者
- (18) 2024年度, 科研費挑戦的研究(萌芽), 異所性神経回路の理解と制御による脳卒中後疼痛メカニズム解明への挑戦, 長坂和明, 研究代表者
- (19) 2024年度, 科研費研究活動スタート支援, 習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明, 岡本優美, 研究代表者
- (20) 2024年度, 科研費研究活動スタート支援, 入院患者に対する臨床評価尺度を用いた新たな身体活動量評価と介入指針の開発, 小林壮太, 研究代表者
- (21) 2024年度, 科研費基盤研究B, 軽度認知障害の進行および回復に伴う脳内メカニズムの解明と認知症予防への展開, 児玉直樹, 研究代表者
- (22) 2021年度, 科研費国際共同研究加速基金(海外連携研究), 感染性呼吸器疾患の予後予測を可能にするトリアージ型診断支援システムの開発と評価, 児玉直樹, 研究代表者
- (23) 2024年度, 科研費基盤研究C, 酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出, 藤井豊, 研究代表者
- (24) 2023年度, 科研費若手研究, 関節リウマチに対する適切な運動療法の確立に向けた基礎研究, 小曾根海知, 研究代表者
- (25) 2023年度, 科研費基盤研究C, 慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果, 徳永亮太, 研究代表者
- (26) 2021年度, 科研費基盤研究B, 触圧覚刺激に対する皮質応答および個人差の解明と脳卒中リハビリテーションへの展開, 小島翔, 研究代表者
- (27) 2022年度, 科研費若手研究, 足関節捻挫の治療に足部内在筋のトレーニングは役立つか, 小宮諒, 研究代表者
- (28) 2023年度, 科研費若手研究, 腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響, 石垣智恒, 研究代表者
- (29) 2024年度, 科研費基盤研究C, スイマーが水を捉える瞬間の解明, 下門洋文, 研究代表者
- (30) 2024年度, 科研費基盤研究B, 筋/筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明, 久保重抄子, 研究代表者
- (31) 2023年度, 科研費基盤研究C, 遅発性筋痛の筋膜における発現変動因子の同定と機械痛覚過敏への関与解明, 太田大樹, 研究代表者
- (32) 2024年度, 科研費研究活動スタート支援, 骨格筋血流動態は伸張性収縮誘発性筋損傷の保護効果程度を示すバイオマーカーとなるか, 早尾啓志, 研究代表者
- (33) 2024年度, 科研費挑戦的研究(萌芽), 筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用, 田口徹, 研究代表者
- (34) 2022年度, 科研費基盤研究B, ストレス誘発性疼痛の中枢機構解明と理学療法効果の実証, 田口徹, 研究代表者
- (35) 2023年度, 科研費基盤研究C, 義足ソケットの力学的・解剖学的特徴の解明, 須田裕紀, 研究代表者
- (36) 2023年度, 科研費基盤研究C, 経頭蓋交流電気刺激による大脳皮質活動の変調が宣言的記憶学習

- の促進に及ぼす影響，能村友紀，研究代表者
- (37) 2024年度，科研費基盤研究B，非侵襲ヒト静磁場刺激の創生，芝田純也，研究代表者
- (38) 2024年度，科研費基盤研究C，骨肉腫透過ペプチドによる新しい骨肉腫細胞機能の解明と創薬開発，齋藤憲，研究代表者
- (39) 2023年度，科研費基盤研究C，動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発，犬飼康人，研究代表者
- (40) 2023年度，科研費基盤研究C，ハンセン病末梢神経障害の診断と神経筋再生治療法の開発に関する研究，圓純一郎，研究代表者
- (41) 2023年度，科研費基盤研究C，MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の高感度一斉解析法と長期精神疲労評価法への応用，中山憲司，研究代表者
- (42) 2023年度，科研費基盤研究C，市中施術所および医療機関におけるCOVID-19後遺症の特徴の抽出と鍼灸治療の効果の検討，金子聡一郎，研究代表者
- (43) 2022年度，科研費基盤研究C，大規模調査による慢性足関節不安定症のタイプ分類と再発リスク因子の解明，菊元孝則，研究代表者
- (44) 2023年度，科研費基盤研究C，知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出，齊藤慧，研究代表者
- (45) 2023年度，科研費基盤研究C，脳卒中超早期リハビリテーションの運動開始時点を決める生理学的パラメータの開発，玉越敬悟，研究代表者
- (46) 2023年度，科研費若手研究，脳刺激と迷走神経刺激の融合による効果的な筋発揮効率の改善手法の開発，横田裕丈，研究代表者
- (47) 2023年度，科研費若手研究，成長期競泳選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明，三瀬貴生，研究代表者
- (48) 2023年度，科研費若手研究，病理遺伝子診断時代の神経膠腫のためのMR画像バイオマーカーの開発と検証，大野健，研究代表者
- (49) 2024年度，科研費若手研究，ASMRの不安およびうつへの効果とそれを説明する脳内ネットワークの検証，櫻井典子，研究代表者
- (50) 2024年度，科研費若手研究，行動抑制機能の個人差を生むメカニズムの解明－感覚情報の「記憶」に着目して－，五十嵐小雪，研究代表者
- (51) 2023年度，科研費研究活動スタート支援，脳磁場計測を用いたtACSによる鎮痛効果の事前予測技術の開発，五十嵐眸実，研究代表者

13) 自然人類学研究所 (Institute for Physical Anthropology)

①研究テーマ

- 1 ネアンデルタール人類の消滅と Homo sapiens 誕生と拡散の解明
- 2 日本列島の人類史の解明
- 3 遺跡から出土する人骨や動物骨の研究法の向上
- 4 骨組織形態学的方法を用いた人獣鑑別と種同定
- 5 人骨や動物骨の古病理学的研究

②センター名簿

所長 : 奈良貴史, リハビリテーション学部理学療法学科, 教授
副所長 : 澤田純明, リハビリテーション学部理学療法学科, 教授
所員 : 萩原康雄, リハビリテーション学部理学療法学科, 講師
所員 : 佐宗亜衣子, リハビリテーション学部理学療法学科, 助教
所員 : 佐伯史子, リハビリテーション学部理学療法学科, 助教
大学院生 : 辰巳晃司
大学院生 : 古澤妥史
大学院生 : 田口哲也
大学院生 : 平 慶子
大学院生 : 金谷心紀
研究生 : 中村吉信

③主な活動内容

1. 著書

1. 辰巳晃司, 佐伯史子, 奈良貴史. 群馬県東吾妻町厚田橋詰遺跡から出土した人骨の人類学的報告. 厚田橋詰遺跡. 群馬県埋蔵文化財調査事業団; 2024: 47-50.
2. 佐伯史子, 辰巳晃司, 吉田皓文, 奈良貴史. 群馬県西上之宮遺跡出土人骨の人類学的報告. 西上之宮遺跡 (1) - 中世墓編 -. 群馬県埋蔵文化財調査事業団; 2025: 164-187.
3. 奈良貴史, 佐伯史子, 辰巳晃司, 解良美雪. 宮城県仙台市羽黒前遺跡出土人骨の人類学的報告. 羽黒前遺跡第1次発掘調査 - 土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 - 仙台市文化財調査報告書第519集. 仙台市教育委員会; 2025: 184-189.
4. 佐伯史子, 奈良貴史. 天竜遺跡出土人骨について. 天竜遺跡 上信自動車道吾妻バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書. 群馬県上信自動車道建設事務所・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団; 2025: 316-317.
5. 永野汐音, 萩原康雄, 波多野悠夏, 佐伯史子, 佐宗亜衣子, 澤田純明, 辰巳晃司, 平慶子, 奈良貴史. 長谷小路周辺遺跡から出土した古代幼小児人骨. 長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書 - 由比ガ浜三丁目199番地37, 42地点 -. 齋藤建設; 2024: 35-47.
6. 佐宗亜衣子, 久保大輔, 水嶋崇一郎, 諏訪元; 設楽博己編. 大洞貝塚人骨の収集史と同定および記載の方法, 標本内容. 岩手県大船渡市大洞貝塚出土遺物の研究. 東京大学総合研究博物館研究報告 第50号; 2025: pp.201-211.
7. 佐宗亜衣子; 設楽博己編. 人骨のまとめ, 抜歯について, 甕棺葬の人骨について. 岩手県大船渡市大洞貝塚出土遺物の研究. 東京大学総合研究博物館研究報告 第50号; 2025: 262-263.
8. 米田穰, 尾崎大真, 大森貴之, 佐宗亜衣子; 設楽博己編. 人骨の炭素・窒素安定同位体比と放射線炭素年代. 岩手県大船渡市大洞貝塚出土遺物の研究. 東京大学総合研究博物館研究報告 第50号; 2025: 263-268.

2. 論文

1. Kaifu Y, Kurniawan I, Mizushima S, Sawada J, Lague M, Setiawan R, Sutisna I, Wibowo UP, Suwa G, Kono RT, Sasaki T, Brumm A, van den Bergh GD. Early evolution of small body size in

Homo floresiensis. Nature Communications. 2024; 15: 6381.

2. Hagihara Y, Murayama T, Nara T. 2025. Severe kyphoscoliosis observed in a human skeleton from the Edo period, Anthropological Science (in press)
 3. 諏訪元, 佐宗亜衣子, 佐々木智彦, 中村凱, 遠藤秀紀, 松浦秀治. 「牛川人骨」の部位・動物種別の特定と学史略考. Anthropological Science (Japanese Series). 2024 ; 132(2) : 71-85. <https://doi.org/10.1537/asj.240917>
 4. 萩原康雄. 形質人類学的研究 2. 考古学研究会 70 周年記念誌「考古学の輪郭」. 2025.
3. 学会等研究発表
1. 福井淳一・澤田純明・宮田佳樹・小畑弘己. 遺跡調査における動物資源利用評価の実践. 日本動物考古学会第11回大会（山形市）, 2024.7.6-7.7.
 2. 納屋内高史・澤田純明・米田穰・渋谷孝雄. 山形県高畠町日向洞穴出土動物遺存体の帰属時期の再検討（予報）. 日本動物考古学会第11回大会（山形市）, 2024.7.6-7.7.
 3. 澤田純明. 河姆渡・田螺山遺跡人骨群の古病理学. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 4. 澤田純明・萩原康雄. 良渚古城から出土した人骨加工品の形態学的・古病理学的特徴. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 5. 海部陽介・Iwan Kurniawan・水嶋崇一郎・澤田純明・Michael Lague・Ruly Setiawan・Indra Sutisna・Unggul P. Wibowo・諏訪元・河野礼子・佐々木智彦・Adam Brumm・Gerrit D. van den Bergh. ソア盆地マタメンゲにて発見されたフローレス原人の化石について. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 6. 逢坂暖・米田穰・奈良貴史・澤田純明・植月学・高塚尚和. 遺跡出土骨の微細構造における侵食に関する組織学的研究. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 7. 萩原康雄. 縄文時代人四肢骨形態の時期差と地理的環境の影響. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 8. 佐宗亜衣子. 三浦半島の毘沙門C・D洞穴人骨の埋葬状況. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 9. 佐宗亜衣子, 水嶋崇一郎, 水野文月. 廃屋墓の多個体埋葬例から考える縄文時代の“家族”. 一般シンポジウム S1「親族構造論の最前線－生物考古学的検討より－」. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 10. 栗山佑基, 水野文月, 中伊津美, 澤浦亮平, 坂上和弘, 金澤英作, 米元史織, 舟橋京子, 瀬口典子, 片桐千亜紀, 佐宗亜衣子, 奈良貴史, 松下真実, 松下孝幸, 山田孝, 林美千子, 黒崎久仁彦, 植田信太郎, 大橋順. 歯石を用いた古代日本における歯周病関連菌の系統解析. 日本DNA多型学会 第33回学術集会（横浜市）, 2024.11.28-11.29.
 11. 栗山佑基, 水野文月, 中伊津美, 澤浦亮平, 坂上和弘, 金澤英作, 米元史織, 舟橋京子, 瀬口典子, 片桐千亜紀, 佐宗亜衣子, 奈良貴史, 松下真実, 松下孝幸, 山田孝, 林美千子, 黒崎久仁彦, 植田信太郎, 大橋順. 古代日本におけるヒト口腔内細菌叢の解析. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 12. 加藤雅彦, 水野文月, 中伊津美, 谷口康浩, 近藤修, 松下真実, 松下孝幸, 佐宗亜衣子, 林美千子, 王瀝, 石谷孔司, 黒崎久仁彦, 植田信太郎, 大橋順. 縄文人の遺伝的多様性の検討. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 13. 佐伯史子. 解剖学的方法と数学的方法で推定した縄文時代人の身長. 第78回日本人類学会大会（大阪市）, 2024.10.12-10.14.
 14. Saso A, Yoshida A, Nara T. Social class differences in the estimated stature and proportions of people in the Edo period. APPW2025 (Anatomy-Physiology-Pharmacology Week in 2025) (Chiba), 2025.3.17-3.19.

4. 社会活動

1) 公開講座・講演会等

1. 上野遺跡一般公開，新潟県教育委員会・自然人類学研究所主催，対象者：一般市民・考古学関係者，新潟医療福祉大学，2024.6.2.
2. 第10回新潟医療福祉大学夏期骨学セミナー，主催者：奈良貴史，事務局：澤田純明 萩原康雄 佐伯史子 佐宗亜衣子，対象：医療関係者・考古学関係者・警察関係者・他，新潟市，2024.8.19-8.23.
3. 特別陳列「東南アジアの洞窟遺跡」研究講座，ベトナムにおける更新世人類の洞窟利用について，澤田純明，奈良県立橿原考古学研究所，対象者：一般市民，奈良県橿原市，2025.3.1.
4. 第8回Miuraサイエンスカフェ「三浦で暮らした先史・古代のヒトはどんな人？」，三浦の海食洞穴に埋葬された人々－人骨から何がわかるのか？－，佐宗亜衣子，白石洞穴遺跡調査団・横須賀考古学会主催，対象者：一般市民，うらり（三浦市），2025.3.8.
5. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」①人類誕生の謎に迫る，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.9.20.
6. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」②どうしてヒトは難産なのか，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.9.27.
7. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」③ネアンデルタール人類の消滅と現生人類の拡散，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.10.4.
8. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」④日本列島の人類史奈良貴史，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.10.11.
9. まちなかキャンパス長岡 [まちなか大学]「自然人類学へのいざない」⑤長岡藩牧野家の貴族的形質，奈良貴史，まちなかキャンパス長岡 対象者：一般市民，2024.10.11.
10. 自然人類学研究所 一般公開，自然人類学研究所主催，対象者：一般市民，新潟医療福祉大学，2024.11.2.

2) TV出演，ラジオ出演，新聞掲載，一般雑誌掲載等

1. 新聞，日本経済新聞，最小の原人化石，東京大学など発見 推定身長100センチ，2024.8.7.（澤田純明）
2. 新聞，新潟日報，人類化石で最小！「フロレス原人」の上腕骨と確認 インドネシアの70万年前の地層から発見，新潟医療福祉大参加のチームが発表，2024.8.7.（澤田純明）
3. 雑誌（オンライン広報），Nature Japan，Nature関連誌注目のハイライト，進化：ホミニンの小さな体の初期の進化，2024.8.7.（澤田純明）
4. ポータルサイト，時事通信，70万年前の上腕骨化石人類最小，フローレス原人 インドネシアで発見・国際チーム，2024.8.7.（澤田純明）
5. ポータルサイト，マイナビニュース，東大など，成人で1mほどの人類史上最小の「フローレス原人」の新化石を発見，2024.8.8.（澤田純明）
6. 新聞，新潟日報，長岡・和島の市文化財「人頭骨」再鑑定 「風間信昭説」に追い風，2024.5.29.（奈良貴史）
7. 新聞，新潟日報，村上と阿賀野で発掘「焼人骨」 きょう新潟医福大で公開，2024.11.2.（奈良貴史）
8. ポータルサイト，毎日新聞，日本列島の更新世の「牛川人」は人類化石ではないと結論，2024.12.1.（佐宗亜衣子）
9. ポータルサイト，Forbes JAPAN，日本最古の「牛川人」はヒトではなかった可能性，2024.12.3.（佐宗亜衣子）
10. ポータルサイト，大学ジャーナルオンライン，更新世化石の牛川人骨はクマの骨 新潟医療福祉大学など特定，2024.12.4.（佐宗亜衣子）
11. 新聞，朝日新聞全国版，日本最古の「牛川人」，実はクマの骨だった 東大などの研究グループ，2024.12.7.（佐宗亜衣子）

12. ポータルサイト, BuzzFeed Japan, 【牛川人】日本最古の「人骨」は人類ではなかった, その正体とは?, 2024.12.9. (佐宗亜衣子)
13. 新聞, 朝日新聞全国版, 幻の骨ひょっこり, 旧石器人探究に光? 研究室の段ボールから「夜見ヶ浜人骨」鑑定へ, 2025.2.17. (佐宗亜衣子)
14. 雑誌, 朝日新聞出版ジュニアエラ, 日本最古の「牛川人」, 実はクマの骨だった, 2月号 (佐宗亜衣子)
15. 住田テレビ, すみたホットライン, 小松洞穴遺跡発掘調査・説明会, 2024年5月 (奈良貴氏・萩原康雄)

3) 社会活動への参加協力

1. 奈良県立橿原考古学研究所, 特別陳列「東南アジアの洞窟遺跡」の展示協力, 橿原市・奈良県立橿原考古学研究所, 2024.12.14-2025.3.16. (澤田純明)
2. 上越警察署, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.5.9. (奈良貴史)
3. 長岡警察署, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.5.17. (奈良貴史)
4. 長岡警察署, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.5.19. (奈良貴史)
5. 大阪府警, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.10.17・10.24. (奈良貴史)
6. 佐渡警察署, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.11.18. (奈良貴史)
7. 大阪府警, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.12.12. (奈良貴史・澤田純明)
8. 津川警察署, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.12.24. (奈良貴史)
9. 上越警察署, 捜査協力 (鑑定業務), 2024.12.24. (奈良貴史)
10. 大阪府警, 捜査協力 (鑑定業務), 2025.1.29. (奈良貴史・澤田純明)
11. 新潟県村上市上野遺跡出土人骨の整理作業, 2024.4- (継続中)
12. 新潟県蓮花寺立場遺跡出土人骨の整理作業, 2024.7-2025.3.
13. 群馬県東上之宮遺跡出土人骨・動物骨の整理作業, 2024.5- (継続中)
14. 群馬県天竜遺跡出土人骨の整理作業, 2024.5-2025.3.
15. 神奈川県長谷小路周辺遺跡出土人骨の整理作業, 2024.10-2025.3.
16. 神奈川県由比ヶ浜中世集団墓地遺跡出土人骨の整理作業, 2025.2- (継続中)
17. 宮城県羽黒前遺跡出土人骨の整理作業, 2023.8-2025.3.

5. 外部資金 (科学研究費等) の獲得状況

1. 2024-2027年度, 基盤研究 (B), 山形県日向洞窟から出土した後期更新世-完新世初頭人骨群の考古学的研究, 澤田純明, 研究代表者.
2. 2023-2025年度, 挑戦的研究 (萌芽), 縄文時代人は何歳まで生きたのか? 高分解能CTを用いた骨組織学的年齢推定法の開拓, 澤田純明, 研究代表者.
3. 2020-2024年度, 国際共同研究加速基金, 東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明, 澤田純明, 研究代表者.
4. 2024-2027年度, 基盤研究 (B), 薄層ローム堆積における旧石器編年研究の精緻化, 澤田純明, 研究分担者.
5. 2022-2025年度, 基盤研究 (B), 受傷人骨の骨科学分析による縄文終末期の埋葬原理と社会変容の解明, 澤田純明, 研究分担者.
6. 2021-2024年度, 費基盤研究 (B), 日本列島に棲息したオオヤマネコに関する学際的調査・研究, 澤田純明, 研究分担者.
7. 2020-2024年度, 学術変革領域研究 (A), 同位体比分析から見たヒトとモノの動態復元, 澤田純明, 研究分担者.
8. 2022-2025年度, 若手研究, 骨形態から読み解く狩猟採集から農耕への生業転換に伴う日本列島集団の行動様式の変化, 萩原康雄, 研究代表者.
9. 2023-2026年度, 基盤研究 (C), 相同モデルを活用した欠損部人骨復元への挑戦, 萩原康雄, 研

究分担者.

10. 2024-2028年度, 基盤研究 (A), 骨考古学とDNA分析から読み解く「縄文村1000年間のファミリーツリー」, 佐宗亜衣子, 研究代表者.
11. 2024-2026年度, 挑戦的研究 (萌芽), 実証的研究で明らかにする江戸の歯科学, 佐宗亜衣子, 研究代表者.
12. 2024-2025年度, 学術変革領域研究 (A) 公募研究, 三浦半島海食洞穴出土人骨の骨考古学的研究から明らかにする関東弥生時代の社会構造, 佐宗亜衣子, 研究代表者.
13. 2022-2025年度, 基盤研究 (C), 解剖学的方法に基づく日本列島の各時代人類集団の正確な身長推定, 佐伯史子, 研究代表者.
14. 2020-2024年度, 学術変革領域研究 (A), 同位体比分析から見たヒトとモノの動態復元, 萩原康雄, 研究分担者.

14) 学内における研究助成金の採択状況

(1) 研究奨励金 採択一覧表

①スタート支援研究費

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	岡本優美	健康スポーツ	習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明：性差および月経周期が及ぼす影響に着目	¥400,000
2	高橋 司	救急救命	救急救命士特定行為の完全習得学習の実現：インタラクショナルデザインを活用して	¥400,000
3	溝江 唯	心理健康	自閉スペクトラム症児に自他の関係性を表す言語表現の混乱が生じるメカニズムの解明：視線の固執性と同一性保持に着目した検討	¥400,000
4	小林壮太	理学療法	微小血管機能を用いた骨格筋の質の定量化と身体活動評価への応用	¥400,000
4	早尾啓志	理学療法	内部障害患者に対する呼吸循環負担の少ない有酸素運動プログラム開発のための基礎研究	¥400,000
6	小栗妙子	看護	慢性心不全の急性増悪時に必要な熟練看護師の臨床判断能力（経験知）の顕在化	¥400,000
7	増子弘明	臨床技術	内視鏡スコープの清浄度評価にAIE蛍光染色技術を用いた新たな清浄度評価方法の確立	¥400,000
8	伊関浩克	作業療法	知覚再教育訓練における可塑性の解明と知覚学習を強化する発展的手法の開発	¥400,000
8	重藤誠市郎	健康スポーツ	大学不適応感とGPA低下による退学リスクに対してレジリエンスとグリットの与える影響	¥400,000
10	谷 麻美	言語聴覚	ストレス感受性に着目した幼児の痼癢評価法の構築	¥400,000
11	佐々木啓	診療放射線	ストレスボール把持中における脳賦活部位の特定とストレス軽減効果の検討	¥400,000
12	木村能成	心理健康	身体感覚への気づきが児童期・思春期の子どもの情動制御に与える影響：グループセラピーを用いた検討	¥400,000
13	落合勇人	言語聴覚	高齢者におけるパンの誤嚥・窒息事故関連因子の探索及び事故防止に向けた食品科学的アプローチの検討	¥400,000
13	花矢鮎美	看護	認知症祖父母を含む家庭生活で思春期・青年期の孫が受ける影響	¥400,000
13	市川明弘	医療情報管理	地方独立行政法人化による公立病院の経営改善の成功要因に関する研究	¥400,000

②基盤形成研究費

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	星 春輝	理学療法	運動開始に伴う脳活動と随意運動との因果関係を活用したリハビリテーション戦略の創出	¥800,000
2	吉田皓文	診療放射線	医療画像ビッグデータの統合的活用による新しい呼吸機能スクリーニングAIの開発	¥800,000
3	大森 豪	健康スポーツ	育成年代の女性アスリート特有の月経問題に関する縦断的調査	¥800,000
4	竹内瑞希	健康栄養	便秘治療に向けた腸内細菌叢を標的とした食事療法の検討	¥800,000
5	田村典子	健康栄養	フラボノイドによる血小板血栓形成の抑制効果に関する研究	¥720,000
5	生方北斗	視機能科学	スマホアタッチメント型眼底カメラによる眼底検査の教育法の開発	¥697,500
7	横山 貴	臨床技術	ファブリー病におけるポドサイト由来マルベリー細胞の効率的分取法の開発と臨床的価値	¥640,000
7	熊崎 昌	健康スポーツ	頭部外傷評価におけるVRアプリケーションを用いた前庭・眼球運動機能の実践的有用性の検討	¥640,000

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
9	松元 圭	社会福祉	双極症患者と縁者の間に生じたコンフリクトの内実を問う医療社会学的研究：患者との関係が破綻した縁者に対する質的調査から	¥553,700
10	木村啓作	鍼灸健康	スポーツ傷害のスクリーニングに向けた口腔筋機能と姿勢・バランス能力の新たな総合的解析	¥560,000
11	前島 偉	診療放射線	がん治療のための新たな放射線・陽子線治療計画とAI放射線治療計画支援装置の検討・開発	¥560,000
12	森田邦恵	臨床技術	エクソソームRNAによる新規臨床検査技術の開発	¥560,000

③ステップアップ研究費

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	山本裕二	心理健康	自己成長を生む「切磋琢磨」ダイナミクスの解明	¥997,000
2	越智元太	健康スポーツ	運動による実行機能低下に乳酸上昇による運動中脳活性低下が関わるか	¥1,000,000
3	江玉睦明	理学療法	Kager's fat padの形態学的・組織学的基盤確立～アキレス腱障害の病態解明と予防法の確立に向けて～	¥1,000,000
4	大鶴直史	理学療法	脳の興奮抑制バランスを評価する新たな解析手法を用いた慢性疼痛に特有の脳活動バイオマーカーの探索	¥1,000,000
5	大西秀明	理学療法	マルチモーダルMRIイメージングによる体性感覚機能の可視化	¥1,000,000
6	椿 淳裕	理学療法	運動は脳皮質の微小血管機能をいかに変化させるか？	¥1,000,000
7	澤田純明	理学療法	DNA遺伝学と解剖学的調査に基づく、縄文時代の合葬人骨の母子関係の解明	¥1,000,000
8	太田大樹	理学療法	「遅発性筋痛」の筋超微細形態解析と「糖鎖ヒアルロン酸」による鎮痛機構の解明	¥1,000,000
8	佐藤大輔	健康スポーツ	睡眠中および起床時の生体情報から月経随伴症状を予測する	¥1,000,000
8	藤本知臣	健康スポーツ	寒冷暴露時のヒトの皮膚血管収縮反応における新規メカニズム解明・塩素イオンチャネルAnoctamin 1とTRPM8の相互作用に着目して・	¥1,000,000
11	齊藤 慧	理学療法	末梢電気刺激を用いた新しい触覚機能向上戦略の創出	¥1,000,000
12	阿部拓也	臨床技術	共役リノール酸を用いた非アルコール性脂肪肝炎の新たな予防・治療法の創出に関する発展的研究 - 画像診断学と組織形態学の融合 -	¥1,000,000
12	藤井 豊	臨床技術	白血球除去フィルターを用いた体外循環中の革新的炎症抑制方法の創出	¥950,000
12	児玉直樹	診療放射線	機能的MRIによる脳内ネットワークと機能的結合を特徴とした認知症と軽度認知障害の客観的診断	¥1,000,000
15	田口 徹	理学療法	筋線維タイプ選択的活動操作を実現する基盤技術の開発と筋生理学への応用	¥1,000,000
15	横田裕丈	理学療法	有酸素運動と経皮的耳介迷走神経刺激の同時適用による運動誘発性鎮痛に対する相乗効果の解明	¥1,000,000
17	長坂和明	理学療法	中脳腹側被蓋野ドーパミン神経が織り成す体性感覚野の興奮・抑制反応が運動学習に与える影響の解明	¥1,000,000
18	五十嵐眸実	理学療法	生体内鎮痛機構を強化する治療標的の探索	¥900,000
18	玉越敬悟	理学療法	脳梗塞後の運動開始時点を決める生理的指標の開発	¥900,000
18	松浦由生子	健康スポーツ	アスリートの睡眠の質がスポーツ傷害・疾病の発生や月経随伴症状に及ぼす影響	¥900,000
21	北谷亮輔	理学療法	牽引歩行練習の神経メカニズム解明による治療反応性の個人差軽減への展開	¥900,000
21	萩原康雄	理学療法	人類学的・考古学的分析で解き明かす東北地方弥生時代人の実像：小松洞穴遺跡出土人骨の総合的研究	¥900,000
21	相馬俊雄	理学療法	歩行支援ロボットを使用した脳卒中片麻痺者歩行における麻痺側下肢の筋緊張抑制効果	¥900,000

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
21	宮口翔太	理学療法	運動記憶を向上させる超低周波脳刺激法の考案・皮質海馬ネットワークとの関連・	¥900,000
25	高林知也	理学療法	足部の軟部組織形態に基づくランニング障害のリスク因子の同定	¥900,000
26	多々良俊哉	視機能科	視線解析を応用した眼球運動速度評価システムの眼球可動域計測機への組み込み	¥900,000
27	小曽根海知	理学療法	Transcriptome解析を駆使して挑む関節リウマチモデルマウスに対する低負荷運動療法の効果検証	¥800,000
27	田宮 創	理学療法	ベルト型骨格筋電気刺激を用いた座位行動中の糖代謝異常と微小血管機能低下を防ぐ新たな保護戦略の開発	¥800,000
27	田中惣治	義肢装具自立支援	生活期脳卒中者に対する装具歩行の計測システムの構築	¥800,000
27	笠井 聡	診療放射線	画像解析AIによる脳腫瘍の治療・手術方針決定支援	¥800,000
31	犬飼康人	理学療法	小脳への経頭蓋直流電流刺激が片脚立位トレーニングで生じるクロスエデュケーションに与える影響	¥800,000
31	小島 翔	理学療法	脳構造と脳領域間のネットワーク解析による「脳卒中後アパシー」の神経基盤の解明	¥800,000
31	芝田純也	理学療法	大脳における嚥下ネットワークの解明	¥800,000
31	村山 稔	義肢装具自立支援	歩行中に膝過伸展を呈する脳卒中患者を対象とした膝過伸展治療システムの開発	¥800,000

③復帰支援研究費

申請無し

(2) 学長裁量研究費 採択一覧表

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	越智元太	健康スポーツ	高校生運動部活動のバーアウトを予防する生理指標：毛髪オキシトシン/コルチゾール比の提案	¥1,000,000

(3) 研究科長裁量研究費 採択一覧表

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
1	大西秀明 (川上紗輝)	理学療法	運動学習過程における後頭頂葉の役割の解明	¥200,000
1	大鶴直史 (飯室幸士)	理学療法	時間干渉刺激による島皮質をターゲットとした新たな自律神経の制御技術の創成	¥200,000
1	江玉睦明 (坂本航大)	理学療法	第一リスフラン関節の不安定性の要因解明と効果的な運動療法の開発～外反母趾の予防に向けて～	¥200,000
1	犬飼康人 (高橋ひろな)	理学療法	地域在住高齢者に対する小脳への経頭蓋直流電流刺激が片脚立位バランスに与える効果	¥200,000
5	大鶴直史 (五十嵐眸実)	理学療法	前頭前野のドーパミンに影響を及ぼす遺伝子多型が恐怖記憶の形成に及ぼす影響	¥200,000
6	笠井 聡 (甲斐千遥)	診療放射線	マンモグラムを用いた複数のAIを組み合わせた乳がんリスクを予測するシステムの開発と評価	¥200,000
7	椿 淳裕 (高橋朋弥)	理学療法	軽症脳卒中患者における歩行中の前頭前野の酸素化動態の解明―健常者との比較―	¥200,000
8	大西秀明 (田邊かこ)	理学療法	感覚機能を向上させる経皮的耳介迷走神経刺激の最適刺激パラメーターと神経基盤の解明	¥200,000
8	大鶴直史 (井上創太)	理学療法	幼少期のストレスが成人期の脳構造および痛み感受性に及ぼす影響とその相互関係の解明	¥200,000
8	長坂和明 (小川有生人)	理学療法	神経回路変性の理解による脳卒中後疼痛メカニズム解明	¥200,000
8	高林知也 (緒方嵩人)	理学療法	防水慣性センサーを用いた水中ストリームライン姿勢の新たな脊柱評価の確立	¥200,000

	研究者	所属学科	研究課題	配分金額
12	児玉直樹 (高橋 壮)	診療放射線	視線追跡技術による認知機能の評価と軽度認知障害の診断	¥200,000

(4) 外部資金獲得奨励金 採択一覧表

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
1	阿部 薫	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
2	阿部拓也	臨床技術	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
3	荒川大靖	社会福祉	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
4	安中裕紀	作業療法	科研費若手研究	日本学術振興会
5	五十嵐眸実	理学療法	科研費研究活動スタート支援	日本学術振興会
6	石垣智恒	理学療法	科研費若手研究	日本学術振興会
7	稲葉洋美	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
8	犬飼康人	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
9	岩森 大	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
10	鶴瀬亮一	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
11	宇田優子	看護	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
12	圓純一郎	作業療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
13	大石如香	言語聴覚	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
14	太田大樹	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
15	大西秀明	理学療法	厚生科研費分担	厚生労働省
16	大野 健	診療放射線	科研費若手研究	日本学術振興会
17	大松健太郎	救急救命	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
18	大湊 麗	言語聴覚	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
19	大山峰生	作業療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
20	桶谷涼子	看護	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
21	小曽根海知	理学療法	科研費若手研究	日本学術振興会
22	越智元太	健康す	科研費若手研究	日本学術振興会
23	甲斐千遥	診療放射線	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
24	金子聡一郎	鍼灸健康	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
25	川上心也	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
26	神田 賢	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
27	菊元孝則	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
28	北谷亮輔	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
29	久保亜抄子	鍼灸健康	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
30	郷 貴博	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
31	小島 翔	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
32	小林志郎	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
33	齊藤 慧	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
34	齋藤 憲	臨床技術	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
35	佐伯史子	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
36	佐々木一真	臨床技術	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
37	佐藤晶子	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
38	佐藤皓也	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
39	佐藤敏郎	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
40	佐藤未希	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
41	柴田篤志	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
42	澁谷顕一	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
43	下門洋文	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
44	下山好充	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
45	菅原大志	健康スポーツ	科研費研究活動スタート支援	日本学術振興会
46	鈴木一恵	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
47	関根千恵	理学療法	科研費若手研究	日本学術振興会
48	高橋英明	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
49	高橋良光	臨床技術	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
50	高林知也	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
51	田口 徹	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
52	竹井 豊	救急救命	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
53	多々良俊哉	視機能科学	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
54	田中惣治	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
55	玉越敬悟	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
56	田宮 創	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
57	田村俊暁	言語聴覚	科研費若手研究	日本学術振興会
58	土田千歳	看護	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
59	寺田貴美代	社会福祉	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
60	徳永亮太	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
61	永井 徹	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
62	長坂和明	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
63	中村純子	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
64	中山憲司	臨床技術	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
65	西原康行	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
66	野村照幸	心理健康	科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
67	能村友紀	作業療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
68	橋本照男	心理健康	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
69	花村健次	診療放射線	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
70	塙 晴雄	臨床技術	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
71	原口彩子	社会福祉	民間研究助成金	日本学術振興会
72	針谷美智子	健康スポーツ	科研費若手研究	日本学術振興会
73	平井克之	医療情報管理	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
74	平林 怜	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
75	藤本知臣	健康スポーツ	科研費若手研究	日本学術振興会
76	星野美美	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
77	前田 雄	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
78	増田紘之	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
79	松浦由生子	健康スポーツ	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
80	三瀬貴生	健康スポーツ	科研費若手研究	日本学術振興会
81	宮口翔太	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
82	宮本真菜	健康栄養	科研費若手研究	日本学術振興会
83	村山 稔	義肢装具自立支援	科研費若手研究	日本学術振興会
84	山崎貴子	健康栄養	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
85	山崎由美子	心理健康	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
86	山代幸哉	健康スポーツ	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
87	山本悦史	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
88	横田裕丈	理学療法	科研費若手研究	日本学術振興会
89	涌井杏奈	臨床技術	科研費若手研究	日本学術振興会
90	渡邊千春	看護	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
91	東江由起夫	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表 共同研究契約	日本学術振興会 ニッポー株式会社
92	五十嵐小雪	健康スポーツ	科研費研究活動スタート支援 科研費若手研究	日本学術振興会 日本学術振興会
93	石井雅子	社会連携機構	科研費基盤研究 (B) 代表 科研費基盤研究 (C) 分担 科研費基盤研究 (C) 分担 受託事業契約 受託事業契約	日本学術振興会 日本学術振興会 日本学術振興会 新潟県五泉市 福井県鯖江市
94	井上達朗	理学療法	科研費若手研究 受託研究契約 寄附金	日本学術振興会 AMED 個人

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
95	江玉睦明	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研挑戦的研究 (萌芽) 代表	日本学術振興会
			国際共同研究加速基金代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C)	日本学術振興会
			女性アスリートの育成・支援プロジェクト受託事業	スポーツ庁
			共同研究契約	(株)ワコール
96	大鶴直史	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究 (萌芽) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (A) 分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究 (開拓) 分担	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究 (萌芽) 分担	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究 (萌芽) 分担	日本学術振興会
97	笠井 聡	診療放射線	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			共同研究契約	コニカミノルタ(株)
			共同研究契約	トーイツ(株)
98	亀岡雅紀	健康スポーツ	科研費若手研究	日本学術振興会
			受託事業契約	一般財団法人柏崎市スポーツ協会
99	越中敬一	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
100	児玉直樹	診療放射線	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			国際共同研究加速基金代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
101	佐近慎平	健康スポーツ	受託事業契約	長岡市
			受託事業契約	弥彦村
102	佐宗亜衣子	理学療法	科研費基盤研究 (A) 代表	日本学術振興会
			学術変革領域研究 (A) 代表	日本学術振興会
103	佐藤郁美	看護	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
104	佐藤大輔	健康スポーツ	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究 (萌芽)	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
			共同研究契約	TOPPAN エッジ(株)
105	佐藤成登志	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			受託研究契約	(株)オンコネ
106	佐藤裕紀	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
107	澤田純明	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究 (萌芽) 代表	日本学術振興会
			科研費国際共同研究加速基金代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
			科研費学術変革領域研究 (A) 分担	日本学術振興会
108	芝田純也	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (A) 分担	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
109	杉崎弘周	健康スポーツ	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
110	須田裕紀	義肢装具自立支援	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			厚労科研費分担	厚生労働省

	研究者	所属学科	対象外部資金	資金獲得先
111	相馬俊雄	理学療法	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
112	高田大輔	健康スポーツ	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
113	田口 徹	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			共同研究契約	小林製薬(株)
114	椿 淳裕	理学療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
			共同研究契約	アステム(株)
115	奈良貴史	理学療法	受託研究契約	新潟県埋蔵文化財調査団
			受託研究契約	群馬県埋蔵文化財調査事業団
			受託研究契約	群馬県埋蔵文化財調査事業団
			受託研究契約	群馬県埋蔵文化財調査事業団
			受託研究契約	三協技術(株)
			受託研究契約	(株)帆苺組
116	能登真一	作業療法	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
			寄附金	クレコンメディカルアセスメント(株)
117	萩原康雄	理学療法	科研費若手研究	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
			科研費学術変革領域研究 (A) 分担	日本学術振興会
118	藤井 豊	臨床技術	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
119	増田 修	視機能科学	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
120	村田憲章	視機能科学	科研費基盤研究 (B) 代表	日本学術振興会
			科研費挑戦的研究 (萌芽) 代表	日本学術振興会
121	森清友亮	健康スポーツ	科研費若手研究	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (C) 分担	日本学術振興会
122	山本裕二	心理健康	科研費挑戦的研究 (萌芽) 代表	日本学術振興会
			科研費基盤研究 (B) 分担	日本学術振興会
123	和田直子	看護	科研費基盤研究 (C) 代表	日本学術振興会
			民間助成金	公益財団法人 古泉財団
124	渡邊敏文	社会福祉	受託事業契約	新潟市
			受託事業契約	新潟市
			受託事業契約	新潟県
			受託事業契約	新潟県

15) 外部資金の獲得状況

(1) 文部科学省及び日本学術振興会科学研究費助成事業 採択一覧表

(円)

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
1	2020	2024	国際共同 研究加速 基金（国 際共同研 究強化 （B））	澤田純明	東南アジア大陸部における後期更新世 人類の環境適応の解明	18,850,000
2	2021	2024	基盤研究 （B）	能登真一	健康状態の選好形成に影響を与える心 理的概念の研究	16,640,000
3	2021	2024	基盤研究 （B）	小島 翔	触圧覚刺激に対する皮質応答および個 人差の解明と脳卒中リハビリテーショ ンへの展開	17,030,000
4	2021	2024	基盤研究 （B）	佐藤大輔	皮質－基底核ループの抑制機能を高め、 技能定着を促進する運動学習パラダイ ムの開発	17,680,000
5	2021	2025	基盤研究 （C）	山崎貴子	給食施設での栄養評価のためのデータ 構築：調理による成分変化と成分表計 算値との比較	4,290,000
6	2021	2025	基盤研究 （C）	荒川大靖	地域における健全育成の環境づくりに 対する移動児童館活動の効果に関する 研究	3,900,000
7	2021	2024	基盤研究 （C）	大石如香	認知症早期診断のための質感認知障害 と物体認知障害の関係性および神経基 盤の解明	4,160,000
8	2021	2024	基盤研究 （C）	永井 徹	サルコペニア嚥下機能低下高齢者口腔 栄養双方向プログラムの実証研究	4,160,000
9	2021	2024	基盤研究 （C）	前田 雄	3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者 の評価用短下肢装具に関する研究	4,030,000
10	2021	2024	基盤研究 （C）	郷 貴博	下腿義足ソケットの快適性向上を目指 した3D-CADによるソケット設計手法 の確立	3,640,000
11	2021	2024	国際共同 研究加速 基金（国 際共同研 究強化 （B））	児玉直樹	感染性呼吸器疾患の予後予測を可能に するトリアージ型診断支援システムの 開発と評価	19,110,000
12	2021	2024	若手研究	谷賢太郎	六点入力方式を利用したモバイル端末 向け新型入力装置の開発	4,550,000
13	2021	2024	若手研究	渡邊洋子	特別養護老人ホームで最期を迎えた入 居者へのEOLケア理論生成に関する研 究	2,730,000
14	2021	2024	若手研究	芝田純也	シン磁場刺激を実装したマルチモーダ ルアプローチによるヒト脳可塑性の解 明と応用	4,680,000
15	2021	2024	国際共同 研究加速 基金（国 際共同研 究強化 （B））	児玉直樹	感染性呼吸器疾患の予後予測を可能に するトリアージ型診断支援システムの 開発と評価	19,110,000
16	2022	2024	基盤研究 （B）	杉崎弘周	がん教育の発展に関する実証的研究	16,510,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
17	2022	2024	基盤研究 (B)	田口 徹	ストレス誘発性疼痛の中枢機構解明と 理学療法効果の実証	17,420,000
18	2022	2025	基盤研究 (B)	大鶴直史	慢性疼痛における治療非反応性の神経 基盤解明による治療効果向上戦略	17,160,000
19	2022	2025	基盤研究 (B)	山代幸哉	脳内情報を基にした慢性疼痛アスリ ートの評価法と対処法の創出	15,600,000
20	2022	2026	基盤研究 (B)	山崎由美子	腸内細菌叢を介した社会行動調整技術 の開発	16,770,000
21	2022	2024	基盤研究 (C)	今井理恵	英語授業を改善する4技能5領域での ジャンル正対課題と教授・学習サイク ルの開発	4,160,000
22	2022	2025	基盤研究 (C)	佐伯史子	解剖学的方法に基づく日本列島の各時 代人類集団の正確な身長推定	3,770,000
23	2022	2024	基盤研究 (C)	寺田貴美代	外国人DV被害者とその子どもへの支 援における国際連携プラットフォーム の構築	4,290,000
24	2022	2024	基盤研究 (C)	鈴木一恵	地域在住の自立高齢者の低栄養の実態 と関連要因～食意識・食行動に着目し て～	4,160,000
25	2022	2025	基盤研究 (C)	多々良俊哉	視線解析法を用いた客観的眼位検査の 開発および小児を対象とした健康診査 への応用	4,160,000
26	2022	2025	基盤研究 (C)	高田大輔	体育科における子供の問題発見・解決 能力、言語能力を育む指導方法の検討	4,160,000
27	2022	2024	基盤研究 (C)	石本 豪	自閉スペクトラム症の大学生に対する 就労支援に関する仮説理論モデルの生 成	1,040,000
28	2022	2024	基盤研究 (C)	栞原 桂	両側人工内耳装用乳幼児の言語発達を 伸ばす取り組み—LENAシステムの活 用	3,900,000
29	2022	2024	基盤研究 (C)	塚本康子	高齢がんサバイバーがより安全に安心 して生活するためのリソース・モデル の開発	2,080,000
30	2022	2024	基盤研究 (C)	瀧口 徹	公衆衛生施策（ワクチン、水道水フッ 素化等）に関するヘルスリテラシーの 国家間の違い	4,160,000
31	2022	2024	基盤研究 (C)	岩崎 隆	Apple Watch用胸骨圧迫フィードバッ クアプリの開発とその効果の検証	3,900,000
32	2022	2024	基盤研究 (C)	渡邊千春	外来薬物療法を受けるがん患者のニー ズに即した電話相談アルゴリズムの開 発	2,860,000
33	2022	2024	基盤研究 (C)	和田直子	子育て期の女性の就業意欲低下を防ぐ 支援方策の開発—子育てと仕事の両立 実現のために	1,950,000
34	2022	2024	基盤研究 (C)	高橋英明	SPring-8を利用したアキレス腱付着部 の3次元構造変化とその力学的特性の 解明	4,160,000
35	2022	2024	基盤研究 (C)	平林 怜	脳刺激と末梢刺激の融合による相反性 抑制増強法の開発	4,290,000
36	2022	2024	基盤研究 (C)	菊元孝則	大規模調査による慢性足関節不安定症 のタイプ分類と再発リスク因子の解明	4,160,000
37	2022	2024	基盤研究 (C)	山本智章	触圧覚刺激による一次運動野興奮性変 動の神経基盤の解明	4,160,000
38	2022	2024	基盤研究 (C)	佐藤晶子	体内チアミン量の短期的な減少がグリ コーゲンローディングに及ぼす影響	2,470,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
39	2022	2025	基盤研究 (C)	山本悦史	プロスポーツにおけるCSV経営の普及 に向けた包括的研究	4,160,000
40	2022	2024	基盤研究 (C)	越中敬一	一過性の身体運動による骨格筋インス リン作用の亢進における水分子動態の 関与	3,900,000
41	2022	2024	基盤研究 (C)	森下義隆	子どもの打撃動作の定量化と運動発達 を考慮した質的評価テストの開発	3,900,000
42	2022	2024	基盤研究 (C)	柴田篤志	児童期での助走を用いた片脚跳躍にお ける踏切能力の発達過程の解明	4,160,000
43	2022	2026	基盤研究 (C)	川上心也	個体のエネルギー摂取不足は卵子の発 育に影響するのか？	4,030,000
44	2022	2024	基盤研究 (C)	東江由起夫	3Dスキャナ・3Dプリンタを導入した 脳卒中片麻痺者の短下肢装具の実用化 研究	4,160,000
45	2022	2024	挑戦的 研究 (萌芽)	大鶴直史	不安定状態の脳内ネットワーク操作に よる恐怖記憶消去への挑戦	6,240,000
46	2022	2024	挑戦的 研究 (萌芽)	江玉睦明	筋膜構造の形態学的・組織学的基盤確 立と新たな運動療法の開発	6,370,000
47	2022	2024	挑戦的 研究 (萌芽)	山本裕二	行動解析と数理モデルによる城門防御 機能の定量的評価：スポーツ科学から の挑戦	6,370,000
48	2022	2025	若手研究	萩原康雄	骨形態から読み解く狩猟採集から農耕 への生業転換に伴う日本列島集団の行 動様式の変化	4,550,000
49	2022	2025	若手研究	井上達朗	母指球筋を用いた新たな筋量指標の開 発と疾患予後を予測する指標への応用	4,680,000
50	2022	2024	若手研究	池上 諒	温熱刺激が骨格筋の糖取り込みを促進 する新規機構の解明と高血糖治療への 応用	4,680,000
51	2022	2024	若手研究	越智元太	運動による認知疲労の発生機序：キヌ レニン代謝仮説の検証	4,680,000
52	2022	2024	若手研究	針谷美智子	ICT機器を活用した鉄棒運動の学習指 導プログラムの構築：逆上がりに着目 して	4,680,000
53	2023	2026	基盤研究 (B)	松浦由生子	月経随伴症状としての腰痛の発生メカ ニズム解明と対処法の開発	18,590,000
54	2023	2026	基盤研究 (B)	江玉睦明	アキレス腱捻れ構造の非侵襲的評価法 確立と腱の構造と特性に着目した障害 予防法開発	18,980,000
55	2023	2026	基盤研究 (B)	長坂和明	脳卒中後疼痛の発症を予測する神経活 動バイオマーカーの確立と新たな治療 戦略の創出	18,720,000
56	2023	2025	基盤研究 (C)	仙波妙子	高濃度粒子分散ペーストのレオロジー 特性予測のための粒子一分散媒親和性 の影響の調査	4,680,000
57	2023	2025	基盤研究 (C)	中山憲司	MALDI-TOF/MSを用いた毛髪脂質の 高感度一斉解析法と長期精神疲労評価 法への応用	4,680,000
58	2023	2025	基盤研究 (C)	大松健太郎	AR技術による子どもの心停止への対応 のための緊急通報・救急対応訓練プロ グラムの開発	4,550,000
59	2023	2025	基盤研究 (C)	鷺見和幸	脳機能画像解析を用いたゲーム障害の 特異的な病態解明	4,420,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
60	2023	2025	基盤研究 (C)	増田 修	変角光学的要因に基づく「本物らしさ」の質感知覚への能動性の寄与の脳神経機序の解明	4,680,000
61	2023	2025	基盤研究 (C)	甲斐千遥	繰り返し受診マンモグラムを用いたがんの予兆予測AIの開発	4,680,000
62	2023	2025	基盤研究 (C)	鵜瀬亮一	VR技術とアイトラッキングシステムを用いた熟達野球投手コーチの「わざ」の顕在化	4,810,000
63	2023	2026	基盤研究 (C)	吉田重和	教員の職能成長を支えるメンタリングの国際比較－指導者（メンター）に着目して	4,680,000
64	2023	2026	基盤研究 (C)	中島郁子	競技特性によるアスリートの行動抑制機能の違いと育成過程の変化	4,810,000
65	2023	2025	基盤研究 (C)	塙 晴雄	女子アスリートの鉄欠乏、貧血に対する新たな診断法の検証とメカニズムの究明	4,420,000
66	2023	2025	基盤研究 (C)	西原康行	体育教師の自覚的な課題解決方略を高めるシステムの開発	4,680,000
67	2023	2027	基盤研究 (C)	星野美美	小学生のやせ願望・やせ行動の要因解明と教育プログラムの構築	4,550,000
68	2023	2025	基盤研究 (C)	馬場康博	内受容感覚を効果的に高める浸水条件の確立とメカニズムの解明	4,550,000
69	2023	2026	基盤研究 (C)	佐藤裕紀	フォルケホイスコーレの受容と生涯学習政策の実証的考察：日韓比較を通じて	4,680,000
70	2023	2026	基盤研究 (C)	岩森 大	レオロジーの異なる炭酸飲料による嚥下機能への刺激効果の解明	4,810,000
71	2023	2025	基盤研究 (C)	高林知也	MRI 情報を用いた筋骨格有限要素モデルによる扁平足のタイプ別での骨・軟部組織負荷	4,680,000
72	2023	2025	基盤研究 (C)	太田大樹	遅発性筋痛の筋膜における発現変動因子の同定と機械痛覚過敏への関与解明	4,810,000
73	2023	2026	基盤研究 (C)	阿部 薫	足のねじれ変形の法則性を考慮したハイヒール靴の基本設計に関する生活支援技術の確立	4,550,000
74	2023	2025	基盤研究 (C)	須田裕紀	義足ソケットの力学的・解剖学的特徴の解明	4,810,000
75	2023	2025	基盤研究 (C)	犬飼康人	動的バランス機能を向上させるニューロモデュレーション技術の開発	4,810,000
76	2023	2025	基盤研究 (C)	園純一郎	ハンセン病末梢神経障害の診断と神経筋再生治療法の開発に関する研究	4,680,000
77	2023	2025	基盤研究 (C)	玉越敬悟	脳卒中超早期リハビリテーションの運動開始時点を決める生理学的パラメータの開発	4,680,000
78	2023	2026	基盤研究 (C)	相馬俊雄	脳卒中片麻痺者における歩行支援ロボットの立脚支持と遊脚誘導機構の解明	4,680,000
79	2023	2025	基盤研究 (C)	能村友紀	経頭蓋交流電気刺激による大脳皮質活動の変調が宣言的記憶学習の促進に及ぼす影響	4,680,000
80	2023	2025	基盤研究 (C)	佐藤未希	女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化量の解明と要因分析	4,550,000
81	2023	2025	基盤研究 (C)	齊藤 慧	知覚学習効果を向上させる新たな介入戦略の創出	4,810,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
82	2023	2025	基盤研究 (C)	徳永亮太	慢性腰痛による下行性疼痛制御系の変調機構と運動療法の効果	4,680,000
83	2023	2027	基盤研究 (C)	大湊 麗	二段階口蓋形成手術法における硬口蓋閉鎖時期の検討：鼻腔共鳴の定量評価の確立	4,550,000
84	2023	2026	基盤研究 (C)	土田千歳	意図しない妊娠を避けるためのポジティブ・デビアンズを用いた教育プログラムの開発	4,810,000
85	2023	2026	基盤研究 (C)	金子聡一郎	市中施術所および医療機関におけるCOVID-19後遺症の特徴の抽出と鍼灸治療の効果の検討	3,640,000
86	2023	2025	挑戦的 研究 (萌芽)	澤田純明	縄文時代人は何歳まで生きたのか？高分解能CTを用いた骨組織学的年齢推定法の開拓	6,240,000
87	2023	2025	挑戦的 研究 (萌芽)	村田憲章	我が国における乳幼児保有視力分布の現代的再構築：パイロットスタディ	6,240,000
88	2023	2024	若手研究	涌井杏奈	使用済みマスクおよびスマートフォン画面に付着・生息する微生物のプロファイリング	4,680,000
89	2023	2026	若手研究	大野 健	病理遺伝子診断時代の神経膠腫のためのMR画像バイオマーカーの開発と検証	4,550,000
90	2023	2024	若手研究	三瀬貴生	成長期競技選手における肩甲骨周囲筋群の機能不全が発生する要因の解明	4,680,000
91	2023	2026	若手研究	藤本知臣	運動時低体温症の解決を目指した体温調節メカニズムの解明・皮膚血管収縮に着目して・	4,680,000
92	2023	2024	若手研究	関根千恵	仙腸関節障害の発生に関わる仙腸関節の挙動と形態の解明	4,680,000
93	2023	2025	若手研究	村山 稔	脳卒中片麻痺患者の歩行練習に使用する膝関節伸展補助具の効果・多施設研究・	4,680,000
94	2023	2024	若手研究	横田裕丈	脳刺激と迷走神経刺激の融合による効果的な筋発揮効率の改善手法の開発	4,680,000
95	2023	2024	若手研究	石垣智恒	腱の温度上昇に起因した腱エネルギー代謝機構の変化とその腱恒常性への影響	4,680,000
96	2023	2025	若手研究	小曾根海知	関節リウマチに対する適切な運動療法の確立に向けた基礎研究	4,550,000
97	2023	2024	研究活動 スタート 支援	菅原大志	農山村におけるスポーツ受容の機制に関する社会学的研究	2,860,000
98	2023	2024	研究活動 スタート 支援	岩野千尋	在宅移行支援における訪問看護師のコンピテンシーの解明	1,170,000
99	2023	2024	研究活動 スタート 支援	五十嵐小雪	月経周期による摂食行動異常の原因解明と記憶の想起抑制を用いた新たな対処法の開発	2,860,000
100	2023	2024	研究活動 スタート 支援	五十嵐眸実	脳磁場計測を用いたtACSによる鎮痛効果の事前予測技術の開発	2,860,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
101	2023	2026	国際共同研究加速基金（海外連携研究）	江玉睦明	腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立	21,060,000
102	2023	2026	国際共同研究加速基金（海外連携研究）	江玉睦明	腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立	21,060,000
103	2024	2028	基盤研究（A）	佐宗亜衣子	骨考古学とDNA分析から読み解く「縄文村1000年間のファミリーツリー」	47,060,000
104	2024	2027	基盤研究（B）	澤田純明	山形県日向洞窟から出土した後期更新世・完新世初頭人骨群の考古科学的研究	18,590,000
105	2024	2028	基盤研究（B）	石井雅子	視覚障害を未然に防ぐ眼の健康リテラシーの向上－幼小中高大接続による眼育教育－	17,680,000
106	2024	2027	基盤研究（B）	村田憲章	医療リソース効率化を目指す研究：視線解析装置による乳幼児視力の自動精密測定	18,460,000
107	2024	2027	基盤研究（B）	能登真一	EQ-HWBのスコアリングアルゴリズムの開発と費用対効果評価への応用の検討	18,070,000
108	2024	2027	基盤研究（B）	児玉直樹	軽度認知障害の進行および回復に伴う脳内メカニズムの解明と認知症予防への展開	18,330,000
109	2024	2027	基盤研究（B）	芝田純也	非侵襲ヒト静磁場刺激の創生	18,590,000
110	2024	2027	基盤研究（B）	椿 淳裕	低酸素に対する大脳皮質微小血管機能の脆弱性イメージングと細胞組織学的な基盤の解明	18,460,000
111	2024	2027	基盤研究（B）	久保亜抄子	筋／筋膜の温受容をトリガーとする中枢性鎮痛機構の解明	18,460,000
112	2024	2027	基盤研究（B）	佐藤大輔	運動記憶を忘却する神経基盤の解明－忘却が誘う運動学習イノベーション－	18,460,000
113	2024	2026	基盤研究（C）	阿部拓也	NASHの革新的な予防法・治療法の確立に関する研究：脂肪を摂って脂肪を取る	4,680,000
114	2024	2027	基盤研究（C）	橋本照男	発達期の記憶に脳由来神経栄養因子の遺伝子多型が与える影響とその脳内基盤の解明	4,550,000
115	2024	2026	基盤研究（C）	齋藤 憲	骨肉腫透過ペプチドによる新しい骨肉腫細胞機能の解明と創薬開発	4,550,000
116	2024	2027	基盤研究（C）	桶谷涼子	がんサバイバーの妊娠・出産、育児支援に携わる看護師の責任分担マトリクス作成	2,990,000
117	2024	2027	基盤研究（C）	竹井 豊	看護と救急医療の連携強化に向けた救急隊員病院連絡教育の開発と評価	4,550,000
118	2024	2026	基盤研究（C）	佐藤郁美	胎児低酸素血症のサイン「遅発一過性徐脈」先行予測AIの開発	4,550,000
119	2024	2027	基盤研究（C）	佐藤成登志	高齢労働者における労働災害の実態把握と包括的就労支援プログラムの構築	4,550,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
120	2024	2026	基盤研究 (C)	神田 賢	看護・介護従事者の腰痛、頸部痛、メンタル症状への包括的ケアプログラムの効果検証	4,680,000
121	2024	2026	基盤研究 (C)	宇田優子	難病患者会の組織ライフサイクルにおける「成熟状態の継続」モデリング	2,730,000
122	2024	2026	基盤研究 (C)	宮口翔太	補足運動野を核とした神経ネットワーク強化による運動学習のプラトール脱却戦略	4,550,000
123	2024	2026	基盤研究 (C)	大山峰生	関節支持筋の効果的な筋再教育法の開発	3,770,000
124	2024	2026	基盤研究 (C)	北谷亮輔	皮質脊髄路と皮質網様体路の選択的刺激による歩行併用型脳刺激法の開発と検証	4,680,000
125	2024	2026	基盤研究 (C)	増田紘之	骨格筋オートファジーを誘導する栄養・運動処方に関する基礎研究・ビタミンB1への着目・	4,680,000
126	2024	2026	基盤研究 (C)	下門洋文	スイマーが水を捉える瞬間の解明	3,900,000
127	2024	2026	基盤研究 (C)	下山好充	競泳スタートにおける個別特性に応じたトレーニング法の開発	4,550,000
128	2024	2026	基盤研究 (C)	小林志郎	投擲事故を未然に防ぐ新たなトレーニング用具の開発と普及	4,680,000
129	2024	2027	基盤研究 (C)	稲葉洋美	共食頻度に着目した過剰なやせ願望予防・改善プログラムの開発	4,550,000
130	2024	2027	基盤研究 (C)	佐藤敏郎	「浮き趾」は静的・動的立位姿勢の安定性や歩行動作および跳躍動作に影響するのか	4,680,000
131	2024	2026	基盤研究 (C)	中村純子	健康教育が行動に繋がらない謎を解明：ナッジで中学生の行動変容を促す	1,820,000
132	2024	2026	基盤研究 (C)	笠井 聡	構造的な異常所見を有さない胸部単純X線画像を用いた統合的な疾患予測指標の開発	4,680,000
133	2024	2027	基盤研究 (C)	花村健次	成体海馬の神経新生の傷害を介した放射線による鎮痛作用を担うメカニズムの解明	4,550,000
134	2024	2026	基盤研究 (C)	平井克之	新規書誌同定技術による和文の引用データベースの構築	4,550,000
135	2024	2026	基盤研究 (C)	藤井 豊	酸素ウルトラファインバブル溶液による腹膜を介した革新的呼吸補助法の創出	4,680,000
136	2024	2026	基盤研究 (C)	高橋良光	透析用カテーテルの機能不全を誘発する予測因子の解明	4,550,000
137	2024	2026	基盤研究 (C)	田中惣治	脳卒中者に対する短下肢装具足継手の選定指針の構築	4,550,000
138	2024	2026	若手研究	亀岡雅紀	幼児の運動器の機能を向上させ異変を防ぐ運動プログラムの開発	4,680,000
139	2024	2026	若手研究	田宮 創	ベルト式骨格筋電気刺激を用いた革新的な毛細血管保護戦略の開発	4,810,000
140	2024	2028	若手研究	田村俊暁	筋萎縮性側索硬化症に伴う球麻痺症候の音響音声学的バイオマーカーと類型システム	4,290,000
141	2024	2027	若手研究	安中裕紀	てんかん患者に対するスマートフォンによる遠隔認知リハビリテーションの有効性の検証	4,680,000

	採択年度	終了年度	研究種目	研究者名	研究課題名	金額 (直接費+間接費)
142	2024	2026	若手研究	阿久澤弘	第5中足骨疲労骨折の予防方法確立につながる構造的、機能的リスク因子の解明	4,420,000
143	2024	2026	若手研究	宮本真菜	女性アスリートの月経不順発生リスク要因の検討および食事療法の開発	3,770,000
144	2024	2025	若手研究	吉田宜清	体動アーチファクトのある認知症診断用MRI画像から海馬の体積を正確に測定する試み	4,680,000
145	2024	2025	若手研究	櫻井典子	ASMRの不安およびうつへの効果とそれを説明する脳内ネットワークの検証	4,680,000
146	2024	2026	若手研究	佐々木一真	バスキュラーアクセスの非侵襲機能診断を目的とした生体音分析方法に関する研究	4,810,000
147	2024	2026	若手研究	森清友亮	超音波断層画像再構成による發育性股関節形成不全3Dモデル作成法開発と検証	4,810,000
148	2024	2026	若手研究	五十嵐小雪	行動抑制機能の個人差を生むメカニズムの解明－感覚情報の「記憶」に着目して－	4,550,000
149	2024	2026	挑戦的研究 (萌芽)	佐宗亜衣子	実証的研究で明らかにする江戸の歯科学	6,500,000
150	2024	2026	挑戦的研究 (萌芽)	長坂和明	異所性神経回路の理解と制御による脳卒中後疼痛メカニズム解明への挑戦	6,240,000
151	2024	2025	挑戦的研究 (萌芽)	田口 徹	筋線維タイプ特異的活動操作を実現する基盤技術の構築と筋機能解明への応用	6,500,000
152	2024	2025	研究活動 スタート 支援	溝江 唯	自閉スペクトラム症児の自他の関係性を表す言語表現に関する検討	2,730,000
153	2024	2025	研究活動 スタート 支援	小林壮太	入院患者に対する臨床評価尺度を用いた新たな身体活動量評価と介入指針の開発	2,730,000
154	2024	2025	研究活動 スタート 支援	岡本優美	習慣的な運動に伴う女性の皮膚血管および汗腺機能の適応メカニズム解明	2,730,000
155	2024	2025	研究活動 スタート 支援	早尾啓志	骨格筋血流動態は伸張性収縮誘発性筋損傷の保護効果程度を示すバイオマーカーとなるか	2,730,000
156	2024	2025	学術変革 領域研究 (A)	佐宗亜衣子	三浦半島海食洞穴出土人骨の骨考古学的研究から明らかにする関東弥生時代の社会構造	4,940,000
157	2023	2026	国際共同 研究加速 基金（海 外連携研 究）	江玉睦明	腱障害の病態解明と病態別治療プログラムの確立	21,060,000

(2) 厚生労働省科学研究費補助金 採択一覧表
該当なし

(3) 新潟県内国公立大学の科学研究費配分額一覧

令和6年度

(金額単位：千円)

	大 学 名	件数	直接費	間接費	合計
1	新潟大学	735	1,353,412	406,024	1,759,436
2	新潟医療福祉大学	156	236,500	70,950	307,450
3	長岡技術科学大学	126	324,300	97,290	421,590
4	上越教育大学	44	49,700	14,910	64,610
5	新潟県立看護大学	19	16,600	4,980	21,580
6	新潟薬科大学	18	26,700	8,010	34,710
7	新潟県立大学	18	15,200	4,560	19,760
8	新潟工科大学	16	28,300	8,490	36,790
9	国際大学	12	12,700	3,810	16,510
10	新潟青陵大学	10	7,900	2,370	10,270
11	新潟国際情報大学	8	8,800	2,640	11,440
12	新潟食料農業大学	7	14,700	4,410	19,110
13	開志専門職大学	5	4,500	1,350	5,850
14	長岡崇徳大学	5	4,200	1,260	5,460
15	新潟リハビリテーション大学	4	5,100	1,530	6,630
16	日本歯科大学新潟短期大学	4	5,100	1,530	6,630
17	敬和学園大学	4	2,700	810	3,510
18	長岡造形大学	3	2,800	840	3,640
19	新潟産業大学	2	3,600	1,080	4,680
20	中央短大学	1	1,200	360	1,560
21	長岡大学	1	900	270	1,170
22	新潟経営大学	1	700	210	910
23	明倫短期大学	1	300	90	390
24	事業創造大学院大学	1	200	60	260

16) 新潟医療福祉学会

・会員数と構成（2025年3月31日現在）

会員数 362名

・学会誌の発行（和文誌・英文誌）

2024年10月 新潟医療福祉学会誌・和文誌第24巻第1号（第23回新潟医療福祉学会学術集会特集）

2024年11月 新潟医療福祉学会誌（和文誌）第24巻第2号

Niigata Journal of Health and Welfare（英文誌）第24巻第1号

2025年5月 新潟医療福祉学会誌（和文誌）第24巻第3号,

Niigata Journal of Health and Welfare（英文誌）第24巻第2号

・学術集会の開催

第24回新潟医療福祉学会学術集会

開催日：2024年10月26日（土）

開催方式：対面

大会長：新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科・学科長 大石如香 授

概要：主要テーマ「認知症を支える産学連携と地域連携」として、特別講演およびシンポジウム等の研究発表が行われた。

・評議委員会、総会の開催

評議委員会 開催日：2024年7月24日（水）

会場：Teamsによるオンライン会議

総会 開催日：2024年10月26日（土）

会場：Q棟201講義室にて対面開催

8. 図書館

- 1) 蔵書数※1 148,553点
 2) 年間受入数※1 4,378点
 3) 利用状況
 (1) 開館日数 305日
 (2) 開館時間 3,332時間
 (3) 入館者数 114,635人
 (4) 貸出冊数 15,100冊

4) データ推移

(1) 蔵書データ

	図書			電子 ブック ※2	視聴覚 資料	雑誌			電子 ジャーナル※3	
	蔵書数	和 書	洋 書			種 数	和雑誌	洋雑誌	種数	うち 国外
2018年度	121,749	111,132	10,617	—	2,593	1,435	1,168	267	8,518	7,068
2019年度	129,137	118,292	10,845	—	2,753	1,448	1,181	267	8,536	7,086
2020年度	131,610	120,557	11,053	127	2,879	1,459	1,192	267	8,732	7,163
2021年度	136,802	125,622	11,180	345	2,972	1,472	1,205	267	7,397	6,122
2022年度	141,234	129,509	11,725	554	3,295	1,499	1,231	268	7,759	6,138
2023年度	145,209	133,254	11,955	738	3,344	1,520	1,250	270	7,578	5,869
2024年度	147,495	135,503	11,992	836	3,806	1,528	1,287	241	7,498	5,749

(2) 利用データ

	開館日数	入館者数	貸出冊数	複写依頼	複写受付	学外者 ※4
	日	人	冊	件	件	人
2018年度	306	268,078	42,879	1,088	1,207	1,124
2019年度	305	247,326	41,330	922	974	1,054
2020年度	234	47,357	13,950	671	613	60
2021年度	295	81,302	19,344	764	841	132
2022年度	299	90,422	19,949	609	658	359
2023年度	304	108,603	17,115	460	557	527
2024年度	305	114,635	15,100	383	487	858

※1 視聴覚資料数含む

※2 法人契約買い切り電子ブック点数
 (2020年度より集計)

※3 購読契約電子ジャーナル種数

※4 一般学外者の入館者数

9. 学生関係

1) 収容定員

(1) 学部

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
リハビリテーション学部	理学療法学科	120名	—	480名
	作業療法学科	50名	—	200名
	言語聴覚学科	40名	—	160名
	義肢装具自立支援学科	40名	—	160名
	鍼灸健康学科	40名	—	80名
医療技術学部	臨床技術学科	100名	—	400名
	視機能科学科	50名	—	200名
	救急救命学科	55名	—	220名
	診療放射線学科	90名	—	360名
健康科学部	健康栄養学科	40名	—	160名
	健康スポーツ学科	250名	5名	1,010名
看護学部	看護学科	107名	3名	434名
心理・福祉学部	社会福祉学科	120名	5名	490名
	心理健康学科	80名	—	80名
医療経営管理学部	医療情報管理学科	80名	5名	330名
合 計		1,262名	18名	4,764名

(2) 大学院

研究科	課程	専攻	分野	入学定員	収容定員
医療福祉学研究科	修士課程	保健学専攻	理学療法学分野	30名	60名
			作業療法学分野		
			言語聴覚学分野		
			義肢装具自立支援学分野		
			医療技術安全管理学分野		
			視覚科学分野		
			救急救命学分野		
			放射線情報学分野		
			自然人類学分野		
		健康科学専攻	健康栄養学分野	16名	32名
			健康スポーツ学分野		
			看護学分野		
		社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	5名	10名
			保健医療福祉マネジメント学分野		
		医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	4名	8名
	博士後期課程	医療福祉学専攻	—	20名	50名
合 計				75名	160名

2024年度収容定員

2) 入試広報活動

(1) 学部

オープンキャンパスの開催

期日	内容	
5月16日(金)	高校教諭対象来場型説明会	高等学校教諭 23校24名参加
5月17日(金)～6月14日(金)	高校教諭対象WEB説明会	高等学校教諭 33校39名参加
5月26日(日)	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生 492名参加
6月16日(日)	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生 426名参加
7月1日(月)～7月31日(水)	高校教諭対象WEB説明会	高等学校教諭 32校36名参加
7月19日(金)	高校教諭対象来場型説明会	高等学校教諭 6校6名参加
7月20日(日)	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生 731名参加
8月3日(土)・4日(日)	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生 1,954名参加
10月6日(日)	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生 501名参加
3月30日(日)	来場型オープンキャンパス	高校生・受験生 691名参加

(2) 大学院

①大学院説明会等の開催

期日	内容	
5月28日(火)	大学院説明会「教えて！大学院①」	学部生，大学院生 28名参加
6月25日(火)	大学院説明会「教えて！大学院②」	学部生，大学院生 39名参加
7月28日(日)	大学院夏のオープン・キャンパス	在学生，社会人等 43名参加
8月23日(金)	大学院説明会特別企画「教えて！大学院」	学部生，大学院生 15名参加
8月30日(金)	大学院説明会「教えて！大学院③」	学部生，大学院生 8名参加
9月24日(火)	大学院説明会「教えて！大学院④」	学部生，大学院生 6名参加
10月8日(火)	大学院説明会「教えて！大学院⑤」	学部生，大学院生 12名参加
11月16日(土)	大学院秋のオープン・キャンパス	在学生，社会人等 15名参加
12月24日(火)	大学院説明会「教えて！大学院⑥」	学部生，大学院生 11名参加
1月25日(土)	大学院冬のオープン・キャンパス	在学生，社会人等 10名参加
3月30日(日)	大学院春のオープン・キャンパス	在学生，社会人等 14名参加

②大学院説明会 在学生向け大学院説明（教えて！大学院）や一般向け大学院説明会（オープン・キャンパス）をオンラインで開催（3月30日のみ対面）し，大学院進学の魅力や修士課程学費減免特待生制度等について紹介を行った。その他，学科からの要望に応じ，随時個別に大学院概要の説明等を行った。

③学会誌等への広告掲載，ホームページ・SNS等の活用，各種学会誌，各種団体等の会報誌・ホームページへの大学院広告ならびにバナー広告の掲載を行った。また，新潟医療福祉大学大学院ホームページ，X（Twitter）で，大学院イベント情報，入試情報等の周知を行った。

3) 入学者選抜方法

(1) 学部

学部	学科	入学定員	選抜区分別募集人員													
			総合型選抜							学校推薦型選抜		社会人等特別選抜	大学入学共通テスト利用選抜		一般選抜	
			A方式 〔主体性重視型〕	B方式 〔基礎教養重視型〕	C方式 〔スポーツ重視型〕		D方式 〔基礎学力重視型〕	E方式 〔キャリアビジョン重視型〕	公募制	指定校制	前期日程		後期日程	前期日程	後期日程	
					前期日程	後期日程										
リハビリテーション学部	理学療法学科	120名	25名	17名	若干名	—	15名	若干名	10名	12名	若干名	9名	2名	25名	2名	
	作業療法学科	50名	10名	3名	若干名	若干名	6名	若干名	6名	7名	若干名	2名	2名	8名	2名	
	言語聴覚学科	40名	9名	2名	若干名	若干名	2名	若干名	2名	7名	若干名	2名	2名	8名	2名	
	義肢装具自立支援学科	40名	10名	2名	若干名	若干名	2名	若干名	4名	4名	若干名	3名	2名	8名	2名	
	鍼灸健康学科	40名	8名	2名	若干名	若干名	2名	若干名	3名	7名	若干名	2名	2名	8名	2名	
医療技術学部	臨床技術学科	100名	13名	4名	若干名	—	9名	若干名	6名	11名	若干名	8名	2名	40名	4名	
	視機能科学科	50名	12名	2名	若干名	若干名	4名	若干名	5名	9名	若干名	2名	2名	8名	2名	
	救急救命学科	55名	9名	2名	若干名	—	7名	若干名	5名	8名	若干名	3名	2名	14名	2名	
	診療放射線学科	90名	11名	2名	若干名	—	11名	若干名	7名	5名	若干名	6名	2名	41名	2名	
健康科学部	健康栄養学科	80名	10名	5名	若干名	—	9名	若干名	11名	12名	若干名	8名	2名	18名	2名	
	健康スポーツ学科	250名	40名	16名	75名	10名	5名	若干名	10名	25名	若干名	20名	2名	40名	5名	
看護学部	看護学科	107名	17名	8名	若干名	—	8名	若干名	10名	12名	若干名	4名	2名	40名	3名	
心理・福祉学部	社会福祉学科	120名	23名	7名	若干名	若干名	3名	若干名	8名	30名	若干名	7名	2名	33名	3名	
	心理健康学科	80名	13名	4名	若干名	若干名	4名	若干名	8名	15名	若干名	8名	2名	20名	2名	
医療経営管理学部	医療情報管理学科	80名	13名	4名	若干名	若干名	2名	若干名	5名	20名	若干名	8名	2名	20名	2名	
合 計		1,302名	223名	80名	75名	10名	89名	若干名	100名	184名	若干名	91名	30名	331名	37名	

健康スポーツ学科・看護学科・社会福祉学科・医療情報管理学科では、上記に加え3年次編入学選抜を実施。

3年次編入学定員／健康スポーツ学科；5名 看護学科；3名 社会福祉学科；5名 医療情報管理学科；5名

(2) 大学院

研究科	課程	専攻	分野	入学定員	試験区分別募集人員			
					一般	国際貢献活動経験者等	外国人留学生	学内推薦*
医療福祉学研究科	修士課程	保健学専攻	理学療法学分野	30名	30名			
			作業療法学分野					
			言語聴覚学分野					
			義肢装具自立支援学分野					
			医療技術安全管理学分野					
			視覚科学分野					
			救急救命学分野					
			放射線情報学分野					
			自然人類学分野					
		健康科学専攻	健康栄養学分野	16名	16名			
			健康スポーツ学分野					
			看護学分野					
		社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	5名	5名			
			保健医療福祉マネジメント学分野					
		医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	4名	4名			
	博士後期課程	医療福祉学専攻	—	20名	20名			
合 計				75名	75名			

*学内推薦は修士課程のみ

4) 入学者選抜試験結果

(1) 学部

① 1年次入学者選抜試験結果

学部	学科	入学 定員	志願 者数	志願 倍率	受験 者数	合格者数 (第1志願)	合格者数 (第2志願)	実質 倍率	入学 者数
リハビリテーション学部	理学療法学科	120	562	4.7	511	230	—	2.2	143
	作業療法学科	50	126	2.5	114	107	24	1.1	61
	言語聴覚学科	40	89	2.2	75	73	2	1.0	46
	義肢装具 自立支援学科	40	69	1.7	66	65	5	1.0	35
	鍼灸健康学科	40	78	2.0	64	64	4	1.0	42
医療技術学部	臨床技術学科	100	311	3.1	266	264	—	1.0	101
	視機能科学科	50	39	0.8	34	34	0	1.0	25
	救急救命学科	55	289	5.3	264	86	1	3.1	63
	診療放射線学科	90	482	5.4	434	216	—	2.0	97
健康科学部	健康栄養学科	80	185	2.3	158	157	7	1.0	71
	健康スポーツ学科	250	417	1.7	401	352	3	1.1	262
看護学部	看護学科	107	516	4.8	451	330	—	1.4	124
心理・福祉学部	社会福祉学科	120	165	1.4	157	157	5	1.0	79
	心理健康学科	80	177	2.2	159	152	3	1.0	74
医療経営管理学部	医療情報管理学科	80	136	1.7	119	118	4	1.0	67
合 計		1,302	3,641	2.8	3,273	2,405	58	1.4	1,290

(注1) 合格者数は、正規合格者数を表記(繰上合格者は含まない)。

(注2) 実質倍率は、受験者数÷合格者数(第1志願)で算出。

② 3年次編入学者選抜試験結果

学部	学科	入学 定員	志願 者数	志願 倍率	受験 者数	合格 者数	実質 倍率	入学 者数
健康科学部	健康スポーツ学科	5	4	0.8	4	2	2.0	1
看護学部	看護学科	3	1	0.3	1	1	1.0	1
心理・福祉学部	社会福祉学科	5	1	0.2	1	1	1.0	1
医療経営管理学部	医療情報管理学科	5	0	0.0	0	0	0.0	0
合 計		18	6	0.3	6	4	1.5	3

(2) 大学院

研究科	課程	専攻	分野	入学 定員	志願 者数	受験 者数	合格 者数	入学 者数
医療福祉学研究科	修士課程	保健学専攻	理学療法学分野	30	23	23	23	23
			作業療法学分野		3	3	3	2
			言語聴覚学分野		0	0	0	0
			義肢装具自立支援学分野		5	5	5	5
			医療技術安全管理学分野		4	4	4	3
			視覚科学分野		3	3	3	3
			救急救命学分野		1	1	1	1
			放射線情報学分野		6	6	6	6
			自然人類学分野		1	1	1	1
		健康科学専攻	健康栄養学分野	16	1	1	1	1
			健康スポーツ学分野		15	15	15	13
			看護学分野		4	4	4	4
		社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	5	3	3	3	3
			保健医療福祉マネジメント学分野		3	3	3	2
		医療情報・ 経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	4	1	1	1	1
		修士課程小計		55	73	73	73	68
	博士後期 課程	医療福祉学専攻	—	20	21	21	21	21
合 計				75	94	94	94	89

5) 在籍学生数 (2025年3月31日現在)

(1) 学部

(人)

学部	学科	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
リハビリテーション学部	理学療法学科	137	141	128	133	539
	作業療法学科	29	43	49	50	171
	言語聴覚学科	43	26	38	41	148
	義肢装具自立支援学科	27	33	43	43	146
	鍼灸健康学科	45	22			67
医療技術学部	臨床技術学科	94	105	100	107	406
	視機能科学科	39	34	49	50	172
	救急救命学科	63	59	58	55	235
	診療放射線学科	100	100	87	96	383
健康科学部	健康栄養学科	44	43	42	39	168
	健康スポーツ学科	266	286	252	264	1,068
看護学部	看護学科	125	98	125	108	456
心理・福祉学部	社会福祉学科	71	88	127	112	398
	心理健康学科	80				80
医療経営管理学部	医療情報管理学科	73	92	102	94	361
合計		1,236	1,170	1,200	1,192	4,798

(2) 大学院

①修士課程

(人)

専攻	分野	1 年生	2 年生	合計
保健学専攻	理学療法学分野	25	22	47
	作業療法学分野	3	1	4
	言語聴覚学分野	2	1	3
	義肢装具自立支援学分野	0	5	5
	医療技術安全管理学分野	1	2	3
	視覚科学分野	1	1	2
	救急救命学分野	0	0	0
	放射線情報学分野	7	8	15
	自然人類学分野	1	1	2
健康科学専攻	健康栄養学分野	2	5	7
	健康スポーツ学分野	14	7	21
	看護学分野	2	4	6
社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	2	2	4
	保健医療福祉マネジメント学分野	1	1	2
医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	3	5	8
合計		64	65	129

②博士後期課程

専攻	1 年生	2 年生	3 年生	合計
医療福祉学専攻	22	29	22	73

6) 異動学生数 (2025年3月31日現在)

(1) 学部

(人)

学部	学科	学年	休学者	退学者	転学科 (転入)	転学科 (転出)	除籍者	復学者
リハビリテー ション学部	理学療法学科	1年生	1	4				
		2年生	5	7		3		4
		3年生	7	4		1		6
		4年生	1	1		2		1
	作業療法学科	1年生		3				
		2年生	1	2		1		1
		3年生						
		4年生		1				
	言語聴覚学科	1年生		2				
		2年生		1				
		3年生						
		4年生						
	義肢装具自立支援 学科	1年生						
		2年生				1		
		3年生					1	
		4年生	9	5				7
	鍼灸健康学科	1年生		1				
		2年生					1	
		3年生						
		4年生						
医療技術学部	臨床技術学科	1年生		3				
		2年生	1	3				1
		3年生	7	5			1	5
		4年生	7	3				6
	視機能科学科	1年生						
		2年生		1		1		
		3年生		2				
		4年生	2	1				1
	救急救命学科	1年生						
		2年生				1		
		3年生						
		4年生	3	1				3
	診療放射線学科	1年生						
		2年生		1		1		
		3年生				1		
		4年生		1				
健康科学部	健康栄養学科	1年生		1				
		2年生		1				
		3年生						
		4年生		1				
	健康スポーツ学科	1年生		2				
		2年生		4				
		3年生	1	6	4		1	1
		4年生	2	6			1	
看護学部	看護学科	1年生		1				
		2年生	1	1				
		3年生						
		4年生						
心理・福祉学部	社会福祉学科	1年生		1				
		2年生		4				
		3年生		2	2			
		4年生						
	心理健康学科	1年生		1				
		2年生						
		3年生						
		4年生		1				
医療経営管理 学部	医療情報管理学科	1年生						
		2年生	1					1
		3年生		1	6		1	
		4年生		1				
合計			49	86	12	12	6	36

(2) 大学院

①修士課程

(人)

専攻	分野	学年	休学者	退学者	除籍者	復学者
保健学専攻	理学療法学分野	1年生				
		2年生	1			
	作業療法学分野	1年生				
		2年生				
	言語聴覚学分野	1年生				
		2年生				
	義肢装具自立支援学分野	1年生				
		2年生	1			1
	医療技術安全管理分野	1年生				
		2年生				
	視覚科学分野	1年生				
		2年生				
	救急救命学分野	1年生				
		2年生				
放射線情報学分野	1年生					
	2年生					
	自然人類学分野	1年生		1		
		2年生				
健康科学専攻	健康栄養学分野	1年生				
		2年生				
	健康スポーツ学分野	1年生				
		2年生	1			1
	看護学分野	1年生				
		2年生				1
社会福祉学専攻	保健医療福祉政策・計画・運営分野	1年生				
		2年生				
	保健医療福祉マネジメント学分野	1年生				
		2年生	1			
医療情報・経営管理学専攻	医療情報・経営管理学分野	1年生				
		2年生		1		
合計			4	2	0	3

②博士後期課程

(人)

専攻	学年	休学者	退学者	満期退学者	除籍者	復学者
医療福祉学専攻	1年生					
	2年生					
	3年生	1		1		
合計		1	0	1	0	0

7) 学生生活

(1) 学生生活に関する指導

学生委員会、交通安全委員会を中心に学内および居住地域での生活マナー・駐車マナー、学内挨拶向上を目的とした標語の募集と表彰、学生の被害防止、危険薬物使用防止等、長期休暇の過ごし方に関する注意喚起を実施。

- ① 駐車場使用指導・・・学内駐車場の安全管理、違反者に対するマナー指導。
- ② 生活指導・・・・・・学内外におけるマナー・生活指導、アパート居住者に対し騒音等に関する注意喚起等。
- ③ 犯罪被害防止・・・・学内個人ロッカー施錠管理指導、警察へ近隣パトロールの依頼、不審者情報の発信。
- ④ 危険薬物使用防止・・・警察との連携による薬物乱用防止講演会の開催。
- ⑤ 長期休暇の過ごし方・ゴールデンウィーク、夏季休暇、冬季休暇における過ごし方の注意喚起。

(2) オリエンテーション

各学年に対し就職活動や履修手続等について、WEB形式による全体オリエンテーション、対面による学科別オリエンテーションを実施した。また、新入生に対しては対面にて学生生活の注意事項や奨学金に関する説明を行った。

(3) 健康診断

学部生全員と大学院生・研究生の希望者を対象として健康診断を実施した。

(4) 心理相談

精神科医師（男性）と臨床心理士（男性、女性）による心理相談をWEB形式および管理棟1階の応接室を相談室として週5回行った。

- ① 相談日：月曜日・木曜日・金曜日 午前11時10分～午後3時40分
火曜日 午後0時10分～午後2時10分
水曜日 午後0時10分～午後3時10分／第1、第3水曜日 午後4時00分～午後5時00分
- ② 相談員：精神科医師／臨床心理士
- ③ 相談件数：315件（前期149件、後期166件）

(5) 奨学金制度（2025年3月31日現在）

① 本学独自の奨学金制度（給付型）

名 称	新潟医療福祉大学奨学金	新潟医療福祉大学学資融資奨学金
内 容	対象者に奨学金を給付	対象者に教育ローンの利子相当額を給付
出願資格	経済的理由により修学が困難であり、且つ成績が優秀な学生	経済的な理由により修学が困難である学生
給付金額	25万円（年額）	融資元本300万円を上限とする 教育ローンの当該年度の利子相当額
採用人数	30名（2年～4年次）	50名を上限
選考方法	書類審査および面接	書類審査および面接
募集時期	10月	10月
採用者数実績	30名	12名

② 日本学生支援機構奨学金

貸与型

学年	第一種奨学金（無利子）	第二種奨学金（有利子※）	合計
1年生	321件	410件	731件
2年生	256件	405件	661件
3年生	258件	385件	643件
4年生	223件	339件	562件
合 計	1,058件	1,539件	2,597件

※年利率3%を上限とする変動制

給付型

学年	給付奨学金
1年生	142件
2年生	134件
3年生	150件
4年生	125件
合 計	551件

(6) 学生寮

学生寮「N・Village 伍桃」は、2024年4月に7期生203名が入寮し、全体で606名が生活をしている。今年度開寮したアパートタイプの学生寮「N・Village 伍桃NEXT・I」には1期生83名が入寮し生活をしている。

本寮では、寮生活の満足度向上を達成するため、寮生による学生寮組織「寮友会」が「催事・広報委員会」「衛生委員会」の2つの委員会を運営しながら、寮生自らがイベントを企画・運営している。

寮生は寮内の生活およびイベントを通して、QOLサポーターとして働くための基礎を養っている。

① 顧問

相馬俊雄 理学療法学科 教授
馬場誠也 事務局学務部 学生課
中山あかね 事務局学務部 学生課
竹石莉奈 事務局学務部 学生課

② 役員

会長 木幡真理子 義肢装具自立支援学科
副会長 渡邊侑里 診療放射線学科, 田邊祐登 救急救命学科, 小池悠太 健康スポーツ学科, 近江寿帆 診療放射線学科
全体会計 田野遼冬羽 義肢装具自立支援学科, 石田優衣 臨床技術学科, 高橋由奈 義肢装具自立支援学科
催事・広報委員長 武前愛美 健康スポーツ学科
催事・広報副委員長 横岡和也 義肢装具自立支援学科, 小笠原茉莉 作業療法学科, 福田彩実 社会福祉学科
衛生委員長 田中実和 視機能科学科
衛生副委員長 長崎麻友 社会福祉学科, 押見日愛 社会福祉学科, 竹内綾音 社会福祉学科

2024年度 学生寮の主なイベント

4月	入寮オリエンテーション（オンライン）／新入寮生歓迎会
6月	島見浜ごみ拾い／前期定期テスト攻略会
7月	七夕イベント
9月	ポテト祭り
10月	寮周辺清掃活動／ハロウィンイベント
11月	防災訓練
12月	クリスマス&卒寮イベント／年末大掃除キャンペーン
3月	第6期生卒寮式（オンライン）

(7) 学友会

文化活動およびスポーツ活動ならびに地域活動を通じ、会員相互の親睦、資質の向上および健康の増進を図り、大学生生活の充実に貢献することを目的として組織している。定期総会を開催し、予算、決算、その他重要事項を審議した。大学側とともに定例協議会を実施し、学友会のあり方や活動方針などを確認した。学友会が中心となり、桃迎会（クラブ・サークル勧誘会）や伍桃祭（大学祭）の企画・運営、学生生活の充実度を向上させるための定期イベントを行った。

① 顧問

阿部拓也 臨床技術学科 助教

伊関浩克	作業療法学科	助教
木村能成	心理健康学科	助教
熊倉真穂	医療情報管理学科	助教
竹石莉奈	事務局学務部	学生課

② 役員

会長	橋本滉聖	医療情報管理学科
副会長	岡村心結	看護学科
会計	河野友希	鍼灸健康学科
会計	富永隆之介	理学療法学科

(8) 大学祭

第24回大学祭「伍桃祭」を10月12日（土）・13日（日）で開催した。昨年より学生出店やステージ団体発表の数を増やした。一般の方や地域の方を招致し、クラブ・サークル団体発表や学科の催しなど創意工夫したイベントを行い、学生生活の充実や学生満足度向上に貢献した。

(9) クラブ活動

強化指定クラブ13団体

	強化指定クラブ名	代表学生名	GM・部長・監督名
1	男子バスケットボール部	川原史也	山崎史恵（部長）・若月弘久（監督）
2	女子バスケットボール部	中島里菜	西原康行（部長）・小林真里奈（監督）
3	水泳部	坂本 樹 船本愛子	佐藤大輔（部長）・下山好充（監督）
4	陸上競技部	北原博企 表田遥菜	杉崎弘周（部長）・小林志郎（監督）
5	男子サッカー部	秋元琉星	秋山隆之（部長）・佐熊裕和（監督）
6	女子サッカー部	大原和夏	秋山隆之（部長）・小池紳介（監督）
7	ダンス部	中條加奈子	脇野哲郎（部長）・池田恵子（監督）
8	女子バレーボール部	大久保愛葉	吉田重和（部長）・西 博史（監督）
9	硬式野球部	熊倉健太	佐藤敏郎（部長）・佐藤和也・ 鵜瀬亮一（監督）
10	卓球部	高橋佑弥	杵渕洋美（部長）・中野和茂（監督）
11	男子バレーボール部	宗航太郎	相馬俊雄（部長）・久保 晃（監督）
12	テニス部	近藤敦斗 阿部紗加	越中敬一（部長）・西海幸頼（監督）
13	女子硬式野球部	小川 舞	佐藤敏郎（部長）・佐藤和也・ 後藤桂太（監督）

体育系クラブ16団体、文化系クラブ22団体

	クラブ名	代表学生名	顧問名
14	ソフトボール部	笠原翔希	山崎史恵
15	軟式野球部	井村虎太郎	高田大輔
16	アルティメット Scarlet 部	大和田勇斗	佐藤敏郎
17	学友会卓球部	小泉涼子	—
18	バトミントン部	管井隆志	佐藤裕紀
19	剣道部	高橋陸斗	佐藤皓也
20	フットサル部	御所窪陸大	山本悦史
21	ハンドボール部	笠井明良	岩森 大
22	ダンスサークル RIZE	野島ひなた	平林 怜
23	NEXUS	大久保陸	渡邊恵司

	クラブ名	代表学生名	顧問名
24	よさこい部 舞桃会	三浦綾華	田中耕一
25	園芸部	市橋麗乃	阿部 薫
26	茶道部	近江寿帆	五十嵐紀子
27	和太鼓部 彩龍会	小林 央	高野晃輔
28	吹奏楽部	小野沢愛美	高野晃輔
29	手話部	仲川知里	千葉寛之
30	写真部	酒井健太	山崎貴子
31	レクア. コム部	梅澤寛人	荒川大靖
32	軽音楽部	田中悠太	木下直彦
33	VICON 部	菊池晋之祐	
34	栄養サポート部	大地希佳	澁谷顕一
35	Spring Board	芦原きずな	久保雅義
36	ピアエデュケーション部	横島 怜	山口典子
37	音楽サークル Music Studio	坂井 杏	石本 豪
38	剣道部	杉山優二郎	相馬俊雄
39	NUHW ビジョンサポート研究会	嵯峨谷貫太	石井雅子
40	メディカルサポート部	中山侑也	江玉睦明
41	学生ねこ部	太田菜々美	五十嵐紀子
42	アスレティックトレーナー部	豊田湖白	熊崎 昌
43	ものづくりサークル	齋藤ひより	圓純一郎
44	アウトドア部	藤澤 凌	亀岡雅紀
45	アーチェリー部	坪井風花	森清友亮
46	男女混合バレーボールサークル LEAP	花岡健太郎	－
47	METサークル	高橋隼人	江部克也 桶谷涼子
48	ウィンタースポーツサークル	宮地優多	－
49	空飛ぶ車いすサークル	豊田雅文	－
50	NUHW 徒歩の旅	佐藤七海	－
51	nuhw 陸上サークル	中川敬太	－

合計 51 団体

(10) 学生表彰

① 2024年度卒業式において、下記の表彰が行われた

学部：117名 9団体 大学院：6名

賞	所属	氏名	受賞理由
学長賞 (学業成績優秀)	理学療法学科	谷黒栞菜	各学科で最も優秀な成績を修めた
	作業療法学科	墨岡理子	
	言語聴覚学科	渡部 結	
	義肢装具自立支援学科	丸山紗世	
	臨床技術学科	米山莉央	
	視機能科学科	遠山結莉花	
	救急救命学科	田邊慧祐	
	診療放射線学科	本間彩花	
	健康栄養学科	宮田陽菜子	
	健康スポーツ学科	須崎友馬	
	看護学科	金子花乃	
	社会福祉学科	銀林彩花	
	医療情報管理学科	阿部翔琉	
学長賞 (学業成績優秀)	医療福祉学専攻	甲斐千遥	博士後期課程で最も優秀な成績を修めた
	保健学専攻	大河内偉琉	修士課程で最も優秀な成績を修めた
学長賞 (課外活動個人)	理学療法学科	武田賢和	国際専門誌Microcirculationへの研究論文ほか、特筆する研究活動
	陸上競技部	北原博企	第93回日本学生陸上競技選手権 男子円盤投優勝ほか、多くの大会実績
	新潟アルビレックスBBラビッツ	中村華祈	「Wリーグ オールスター2023-2024」選出ほか、多数の活動実績
学長賞 (課外活動団体)	男子サッカー部	代表 秋元琉星	第73回全日本大学サッカー選手権大会 準優勝ほか、多数の大会実績
学長賞 (社会活動団体)	男子サッカー部	代表 秋元琉星	能登半島地震ボランティア活動、献血活動
優秀賞 (学業成績優秀)	理学療法学科	武田賢和	学業成績が特に優秀で人物に優れていた
	理学療法学科	落合優花	
	理学療法学科	石井 瞳	
	理学療法学科	吉村太一	
	理学療法学科	竹内さくら	
	理学療法学科	大塚駿平	
	理学療法学科	奥谷真央	
	理学療法学科	佐藤亜美	
	作業療法学科	西潟玲音	
	作業療法学科	齋藤ひより	
	作業療法学科	齋藤杏莉	

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 (学業成績 優秀)	言語聴覚学科	垣内七香	学業成績が特に優秀で人物に優れていた
	言語聴覚学科	米澤綾菜	
	義肢装具自立支援学科	齊藤麻衣	
	義肢装具自立支援学科	岩田侑莉	
	臨床技術学科	石田優衣	
	臨床技術学科	細川 上	
	臨床技術学科	土生光子	
	臨床技術学科	兵藤彩乃	
	臨床技術学科	吉田稜太	
	臨床技術学科	丸山奨太	
	臨床技術学科	松波笑梨	
	視機能科学科	坂井美咲	
	視機能科学科	高木万生	
	視機能科学科	田中千絵	
	救急救命学科	尾居翔真	
	救急救命学科	桑山勇翔	
	救急救命学科	相馬希咲	
	診療放射線学科	西方快騎	
	診療放射線学科	高橋香穂	
	診療放射線学科	小林昌典	
	診療放射線学科	沖島佳秀	
	診療放射線学科	村上佑香	
	診療放射線学科	山田綾香	
	健康栄養学科	嶋谷美姫	
	健康栄養学科	寺西沙莉奈	
	健康スポーツ学科	片野帆乃佳	
	健康スポーツ学科	石山天馬	
	健康スポーツ学科	杉本駿太郎	
	健康スポーツ学科	伊藤南風	
	健康スポーツ学科	大籠楓夏	
	健康スポーツ学科	丸山恭佳	
	健康スポーツ学科	大竹優穂	
	健康スポーツ学科	水島奈々	
	健康スポーツ学科	川原 央	
	健康スポーツ学科	粟津一輝	
	健康スポーツ学科	田中千穂美	
	健康スポーツ学科	大津平嗣	

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 (学業成績 優秀)	健康スポーツ学科	藤澤 凌	学業成績が特に優秀で人物に優れていた
	健康スポーツ学科	長島 大	
	健康スポーツ学科	中村理子	
	健康スポーツ学科	戸田圭郁	
	健康スポーツ学科	岡部こころ	
	健康スポーツ学科	梅原翔琉	
	看護学科	長谷川愛梨	
	看護学科	関根楓音	
	看護学科	横島 怜	
	看護学科	齋藤 晃	
	看護学科	井藤愛梨	
	看護学科	星 友喜	
	看護学科	市川 夢	
	社会福祉学科	柿村季樹	
	社会福祉学科	末武遥香	
	社会福祉学科	佐藤美空	
	社会福祉学科	齋藤未羽	
	社会福祉学科	大瀧真央	
	社会福祉学科	前澤璃歩	
	社会福祉学科	加藤里菜	
	社会福祉学科	小野沢理彩	
	医療情報管理学科	田中笑璃	
	医療情報管理学科	松本菜々香	
	医療情報管理学科	本間萌亜	
	医療情報管理学科	河村拓実	
	医療情報管理学科	成田早織	
	医療福祉学専攻	五十嵐眸実	
	医療福祉学専攻	LE CONG DAT	
	健康科学専攻	甘粕康太	
	健康科学専攻	エパサカテレサ	
優秀賞 (課外活動 個人)	女子バスケットボール部	奥谷真央	第76回全日本大学バスケットボール選手権大会 副主将としてグループリーグ突破) 第12回 日本運動器理学療法学会 学術集会 口述発表 (筆頭演者) 2024年度 新潟医療福祉大学 理学療法学科 卒業研究発表会 優秀賞 受賞 ほか、多数の活動実績

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 (課外活動 個人)	ダンス部	大塚駿平	第43回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール群舞部門 最優秀群舞賞(1位) 第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 審査員賞 ほか、多数の大会実績
	水泳部	本山 空	第99回 日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技 男子10km・5km 優勝
	水泳部	永尾美友	第99回 日本選手権水泳競技大会 OWS競技 女子5km 第2位
	水泳部	船本愛子	第97回日本学生選手権水泳競技大会 4×100mフリーリレー・7位入賞
	水泳部	田宮風香	第98回日本学生選手権水泳競技大会 4×100mメドレーリレー・7位入賞
	水泳部	坂本 樹	第99回日本学生選手権水泳競技大会 4×100mフリーリレー・8位入賞
	硬式野球部	熊倉健太	関甲新学生野球連盟度秋季リーグ戦／関東地区大学野球選手権 第3位
	女子バレーボール部	小川真央	SVリーグ アランマーレ山形 入団
	女子バレーボール部	坂本悠綺	Vリーグ カノアラウレアーズ福岡入団
	男子サッカー部	松本天夢	J2 V・ファーレン長崎 入団
	男子サッカー部	秋元琉星	J3 ザスパ群馬 入団
	男子サッカー部	桃井 玲	JFL・飛鳥FC 入団
	女子サッカー部	木村華恋	なでしこリーグ バニーズ群馬FCホワイトスター 入団
	女子サッカー部	森口莉子	なでしこリーグ 朝日インテック・ラブ リッジ名古屋 入団
	女子サッカー部	大原和夏	なでしこリーグ ASハリマ・アルビオン 入団
	女子サッカー部	木崎あみ	Weリーグ ジェフユナイテッド千葉・市 原レディース入団
	軟式野球部	佐藤 稜	全日本大学軟式野球連盟より2年連続日本 代表に選出され国際親善試合出場
	軟式野球部	杉山蒼空	全日本大学軟式野球連盟より2年連続日本 代表に選出され国際親善試合出場
優秀賞 (課外活動 団体)	硬式野球部	代表 熊倉健太	関甲新学生野球連盟 令和6年度秋季リ ーグ戦／関東地区大学野球選手権 第3位 ※新潟県勢初の関東地区大学野球 選手権出場
	ダンス部	守隨琴乃	第36回全日本高校・大学ダンスフェスティ バル(神戸) 特別賞
優秀賞 (社会活動 個人)	社会福祉学科	加藤徹大	「新潟医療福祉大学ボランティアセン ター」創設時より、ボランティアセンター 発展のために尽力し、本学の発展に寄与し た。 大学委託事業ほか多数の活動
	社会福祉学科	丸山 沙	
	社会福祉学科	船浪帆夏	

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 (社会活動 個人)	社会福祉学科	柿村季樹	2023年度から2024年度の2年間、新潟市北区社会福祉協議会北区ボランティアセンター・市民活動センター運営委員会の委員として活動し地域に貢献した。
	社会福祉学科	銀林彩花	2023年度から2024年度の2年間、新潟市北区社会福祉協議会北区ボランティアセンター・市民活動センター運営委員会の委員として活動し地域に貢献した。
	社会福祉学科	竹島阿美	2023年度から2024年度の2年間、新潟市北区自治協議会委員（福祉部会）として活動を行った。この間、毎月1回開催される会議に出席し、大学の学生代表として地域課題の議論に貢献した。
優秀賞 (社会活動 団体)	福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ		2024年5月より「福祉事業型専攻科 KINGO カレッジ」において、障害のある学生を対象に運動指導をボランティアで行った。
	北区観光レポーター事業		2023年10月「北区包括連携事業新潟市北区観光レポーター事業（新潟市北区産業振興課）」に参加して、新潟市北区の魅力を取材し記事を作成し、北区の観光及び商業の活性化に貢献した。
	災害復旧ボランティア活動	代表 吉原柊斗	2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震後の1月6日、7日に新潟市の液状化現象による被害を受けた地域において、復旧作業を行った。地域の皆様の生活基盤の復旧に貢献した。
	さばえ眼育活動		2023年度および2024年度における「さばえ眼育活動」の一環として行われた就学前視覚健診において、事前準備および補助業務に積極的に携わり、多大な貢献を果たした。
	新潟ハーフマラソン救済活動		新潟ハーフマラソン救済活動 救急救命学科の社会貢献活動として、新潟ハーフマラソン救済ボランティアに参加した際、倒れたランナーの人命救助を行った。 【消防協力者表彰】 2024年12月10日 新潟市江南消防署
優秀賞 (学術研究 活動 個人)	理学療法学科	川尻陽菜	第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 優秀演題賞を受賞
	理学療法学科	笠井紅里	第3回日本老年療学会学術集会 若手優秀演題賞を受賞

②学部在学生表彰：34名 5団体

賞	所属	氏名	受賞理由
年間優秀賞 (課外活動個人)	陸上競技部	渡辺豹河	天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権 男子砲丸投 優勝
年間優秀賞 (課外活動団体)	軟式野球部	代表 田中琉久	第4回全日本大学軟式野球選抜大会 SUMMER CUP 2024 in Nagano 準優勝 (初)
年間優秀賞 (社会活動個人)	義肢装具自立支援学科	渋谷悠斗	小学生等に対するパラスポーツの普及および県内下肢切断者に対するスポーツ義足での陸上教室におけるサポートに尽力し、パラスポーツの普及に寄与した。 障がい者陸上教室ほか多数の活動
年間優秀賞 (学術研究活動個人)	義肢装具自立支援学科	中尾優希	第19回日本整形靴技術協会学術大会 最優秀発表賞 第38回日本靴医学会学術集会 最優秀発表賞 第40回日本義肢装具学会学術大会 優秀学生演題賞
優秀賞 (課外活動個人)	水泳部	篠塚聖妃	第100回日本学生選手権水泳競技大会 50m自由形・5位入賞
	水泳部	八木紀香	第100回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技 女子 10km 第7位入賞
	水泳部	秋山栞名	ジャパンオープン2024 (50m) 50mバタフライ・6位入賞
	水泳部	貫和一志	第100回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技 男子リレー 第4位入賞
	水泳部	木下寿優	第100回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技 男子リレー 第4位入賞
	水泳部	大島雄太郎	第100回日本学生選手権水泳競技大会 OWS競技 男子リレー 第4位入賞
優秀賞 (課外活動個人)	水泳部	上垣こころ	第100回日本学生選手権水泳競技大会 4×100mフリーリレー・8位入賞
	水泳部	松岡汐里	第100回日本学生選手権水泳競技大会 4×100mフリーリレー・8位入賞
	水泳部	原田光羽	第100回日本学生選手権水泳競技大会 4×100mフリーリレー・8位入賞
	陸上競技部	元平優仁	天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権 男子走高跳 5位入賞
	陸上競技部	松尾菜那	天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権 女子ハンマー投 5位入賞
	硬式野球部	安藤 廉	令和6年度春季リーグ戦において、指名打者部門でベストナインに輝いた。秋季リーグ戦は最多打点打者賞のタイトルを獲得し、本学初の関東地区大学野球選手権大会出場へも大きく貢献した。
	硬式野球部	飯濱友翔	令和6年度春季リーグ戦において、最優秀防御率賞とベストナインに輝き、本学初の関東地区大学野球選手権大会出場へも大きく貢献した。

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 (課外活動 個人)	硬式野球部	千田大凱	令和6年度春季リーグ戦において、最多盗塁賞を獲得し、本学初の関東地区大学野球選手権大会出場へも大きく貢献した。最多盗塁を受賞
	軟式野球部	田中琉久	軟全日本大学軟式野球連盟の中から2年連続で日本代表に選出された。 第27回全日本大学軟式野球国際親善大会出場
	軟式野球部	永井太陽	軟全日本大学軟式野球連盟の中から日本代表に選出された。 第27回全日本大学軟式野球国際親善大会出場
優秀賞 (社会活動 個人)	看護学科	山吉桜子	2024年4月～10月「新潟市立南浜中学校」において、保健室のボランティアを行った。その活動が「新潟市立南浜中学校」に評価された。
	健康スポーツ学科	佐藤陽太	2024年4月より障害者へのバレーボール指導やスペシャルオリンピックス日本等、継続的に多様なボランティアを行い地域に貢献した。
	健康スポーツ学科	中原大智	2024年4月より「新潟市立南浜中学校」において、部活動指導のボランティアを行ったその活動が「新潟市立南浜中学校」に評価された。
	診療放射線学科	和田彩愛	2024年4月より継続的に多様なボランティアを行ってきた。新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課出店ブースボランティア、新潟いのちの電話チャリティーバサーに参加等、ボランティアセンターの運営上、核となる学生として活躍した。
	診療放射線学科	福田結月	2024年4月より本学ボランティアセ新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課出店ブースボランティア、新潟いのちの電話チャリティーバサーに参加等継続的に多様なボランティアを行った。
	看護学科	野口仁実	2024年5月より「新潟市松浜中学校」において、卓球部の指導をボランティアで行った。その活動が「新潟市松浜中学校」に社会的に評価された。
	社会福祉学科	山崎夢空	2024年4月より継続的に多様なボランティアを行った。北区観光レポーター、新潟日報トヨタソーシャルフェス（福島潟）に参加。ボランティアセンターの運営上核となる学生として活躍した。
	社会福祉学科	福田彩実	2024年4月より継続的に多様なボランティアを行った。北区観光レポーター、新潟日報トヨタソーシャルフェス（福島潟）に参加。ボランティアセンターの運営上、核となる学生として活躍した。
	理学療法学科	加藤帆乃夏	2024年4月より継続的に多様なボランティアを行ってきた。障害者へのスポーツ指導に熱心に取り組み、知的障害者のバレーボールチームに社会的に評価された。

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 (社会活動 個人)	医療情報管理学科	風間柊耶	2023年度より、知的障害、片麻痺、視覚障害を有する方々への陸上指導に継続的に取り組んだ。 第23回全国障害者スポーツ大会 新潟県選手団役員：陸上競技、コーチとして尽力した。
	社会福祉学科	阿久津琉菜	2023年度から2024年度の2年間、新潟市北区学習習慣支援プログラムに学生を派遣するため、本学登録学生と新潟市北区社会福祉協議会などの関係機関との調整役を担い、運営の中心的な役割を担った。
	臨床技術学科	村川多恵	2024年8月20日、JR五泉駅構内で、16歳女性が意識を失い倒れたところ、現場に居合わせた村川多恵氏他の5名が協力、連携し応急手当を実施、人命を救助した。五泉市役所市長室において感謝状が授与された。
	社会福祉学科	鈴木菜生	2024年秋頃、白新線の駅で人命救助に貢献した。後日、その方からゼミ担当教員へ感謝の手紙が届いた。このことは、本学が重視する「優れたQOLサポーター」の育成を象徴する一つの成果である。
	社会福祉学科	北村 楓	2024年秋頃、白新線の駅で人命救助に貢献した。後日、その方からゼミ担当教員へ感謝の手紙が届いた。このことは、本学が重視する「優れたQOLサポーター」の育成を象徴する一つの成果である。
	救急救命学科	中山結菜	新潟ハーフマラソン救護活動 救急救命学科の社会貢献活動として、新潟ハーフマラソン救護ボランティアに参加した際、倒れたランナーの人命救助を行った。 消防協力者表彰 2024年12月10日 新潟市江南消防署
優秀賞 (社会活動 団体)	災害復旧ボランティア活動	代表 吉原柊斗	2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震後の1月6日、7日に新潟市の液状化現象による被害を受けた地域において、復旧作業を行った。地域の皆様の生活基盤の復旧に貢献した。
	佐賀県障害者スポーツ大会	代表 八木紀香	2024年10月26日（土）から10月28日（月）に佐賀県で開催された全国障害者スポーツ大会において、新潟市選手団（卓球介助）役員として、選手のサポート役を務めた。障害者スポーツ協会の担当者からも高く評価され、大会全体の運営において大きく貢献した。
優秀賞 (学術活動 団体)	健康スポーツ学科 山本ゼミ	代表 西川虎徹	Sport Policy for Japan 2024（主催：日本スポーツ産業学会他）2024年10月20日「協賛社特別賞（FORUM8デジタル賞）」受賞 スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024（主催：スポーツ庁）2024年11月6日「優秀賞」受賞

賞	所属	氏名	受賞理由
優秀賞 (学術活動 団体)	義肢装具自立支援学科 村山研究室	代表 菊池晋之祐	第3回 燕三条医工連携デザインコンペティション」開志専門職大学 情報学部の小野山研究室が共同開発を行う研究「膝関節に不安定性を呈する脳卒中患者を対象とした治療デバイスの開発」がグランプリを受賞

(11) 海外研修

①義肢装具自立支援学科 台湾研修

研修先 台北栄民総医院
研修目的 施設見学と臨床実習
引率者 佐藤成登志（義肢装具自立支援学科教授）、神田 賢（義肢装具自立支援学科准教授）
参加者 1名
3年 佐藤 葵
研修日程 2024年8月16日（金）～9月14日（土）

8月	16日	金	新潟空港→台北空港着
	19日	月	現地にて実習
	～		
9月	13日	金	
	14日	土	台北空港→新潟空港着

研修概要 i) 台北栄民総医院の施設見学
ii) 台北栄民総医院での臨床実習
iii) 異文化体験・交流

②義肢装具自立支援学科 オーストラリア研修

研修先 Shoe Tech Pty LTD
研修目的 施設見学と臨床実習
引率者 神田 賢（義肢装具自立支援学科准教授）
参加者 1名
3年 森 亮太
研修日程 2024年8月16日（金）～9月16日（月）

8月	16日	金	羽田空港発
	17日	土	シドニー着
	19日	月	現地にて実習
	～		
9月	13日	金	
	16日	月	シドニー→羽田空港着

研修概要 i) 各種施設の見学
ii) Shoe Tech Pty LTDでの臨床実習
iii) 異文化体験・観光

③全学共通 マレーシア研修

研修先 国立脳卒中協会（NASAM）
研修目的 海外で実践的な英語を使用することで、語学力の向上を目指す。また、臨床現場を見学し、海外の理学療法を学ぶ。
引率者 久保雅義（理学療法学科教授）
参加者 1名
1年 坂爪 晴（理学療法学科）
研修日程 2024年8月17日（土）～8月31日（土）

8月	17日	土	成田空港発
	18日	日	クアラルンプール着、オリエンテーション
	19日	月	現地での研修
	～		
	30日	金	

	31日	土	クアラルンプール→羽田空港
研修概要	i) 脳卒中患者に対する個別理学療法の見学 ii) 脳卒中患者に対する集団エクササイズの補助 iii) 異文化体験・観光		
④理学療法学科	フィリピン研修		
研修先	サント・トーマス大学		
研修目的	医療英語を用いた臨床現場体験と理学療法を通じた国際交流		
引率者	菊元孝則（理学療法学科講師）、横田裕丈（理学療法学科講師）		
参加者	2名		
	2年 阿部 暁、菅野桃子		
研修日程	2024年8月19日（月）～9月2日（月）		
	8月	19日	月 成田空港→マニラ着
		20日	火
		～	現地にて研修
	9月	1日	日
		2日	月 マニラ発→成田空港着
研修概要	i) サント・トーマス大学の授業聴講による医療英語の修得 ii) PCPIでの臨床体験 iii) 異文化体験		
⑤義肢装具自立支援学科	台湾研修		
研修先	弘光科技大学		
研修目的	空飛ぶ車いすサークルの活動		
引率者	前田 雄（義肢装具自立支援学科講師）		
参加者	3名		
	2年 大槻優奈、市川蒼大、菊池晋之祐		
研修日程	2024年8月24日（土）～8月30日（金）		
	8月	24日	土 新潟→台北市
		25日	日 台北市→台中市
		26日	月
		～	現地にてボランティア活動
		29日	木
		30日	金 台中市→台北市→新潟
研修概要	i) 車いすの点検・修理 ii) その他のボランティア活動 iii) 異文化体験		
⑥臨床技術学科	アメリカ研修		
研修先	ハワイ大学マノア校		
研修目的	ハワイ大学との国際交流および英語研修		
引率者	川村宏樹（臨床技術学科教授）、高橋良光（臨床技術学科准教授）		
参加者	2名		
	3年 今井謙慎、波座武琉		
研修日程	2024年9月8日（日）～9月20日（金）		
	9月	8日	日 成田空港→ホノルル

9日	月	現地にて研修
～		
18日	水	ホノルル発 成田空港
19日	木	
20日	金	

- 研修概要
- i) ハワイ大学での現地学生との交流，臨床検査分野の実習体験
 - ii) 現地の医療施設や大学の見学
 - iii) 異文化体験

⑦全学共通 インドネシア研修

- 研修先 ジェンバー大学
- 研修目的 医療英語を用いた臨床現場体験と国際交流
- 引率者 久保雅義（理学療法学科教授），佐藤真由美（看護学科講師）
- 参加者 1名
4年 小柳未来（看護学科）

研修日程 2024年9月15日（日）～9月28日（土）

9月	15日	日	新潟駅→成田空港
	16日	月	成田空港→香港空港→ジェンバー
	17日	火	現地にて研修
	～		
	27日	金	
	28日	土	ジェンバー→香港空港→成田空港

- 研修概要
- i) ジェンバー大学との国際交流
 - ii) 現地の視察と社会奉仕活動
 - iii) 異文化体験

⑧全学科 韓国研修

- 研修先 仁済大学校
- 研修目的 協定校が開催する韓国語と韓国文化のプログラムに参加する
- 引率者 今井理恵（教育・学生支援機構講師）
- 参加者 5名
1年 高橋心音（鍼灸健康学科），佐藤 涼（鍼灸健康学科）
2年 石井玲香（医療情報管理学科），寺澤あゆみ（医療情報管理学科）
3年 高橋菜々美（社会福祉学科）

研修日程 2025年2月8日（土）～2月22日（土）

2月	8日	土	成田空港→釜山
	9日	日	仁済大学校スプリングプログラム
	～		
	21日	金	
	22日	土	釜山→成田空港

- 研修概要
- i) 韓国語研修
 - ii) 韓国文化体験
 - iii) 現地の大学生との交流

⑨作業療法学科 フィリピン研修

- 研修先 セブ医科大学
- 研修目的 作業療法学分野における国際交流活動
- 引率者 能村友紀（作業療法学科教授），圓 純一郎（作業療法学科准教授）

参加者 6名
 1年 加藤帆乃夏
 2年 山本莉子
 3年 岡崎真心, 小笠原茉里, 橋本優菜, 山本妃麻里

研修日程 2025年2月22日(土)～3月9日(日)

2月	22日	土	成田空港→セブ
	23日	日	現地にて研修
	～		
3月	8日	土	
	9日	日	セブ→成田空港

研修概要 i) セブ医科大学での研修
 ii) 現地の医療機関や福祉施設の見学
 iii) 異文化体験

⑩全学科 フィリピン研修

研修先 セブ医科大学, QQ English School
 研修目的 英語力の向上と現地事情の理解
 引率者 豊田典子(教育・学生支援機構准教授)
 参加者 1名
 2年 成田悠聖(救急救命学科)

研修日程 2025年2月15日(土)～3月9日(日)

2月	15日	土	成田空港→セブ
	16日	日	現地にて研修
	～		
3月	8日	土	
	9日	日	セブ→成田空港

研修概要 i) マンツーマン指導での英語力向上
 ii) セブ医科大学の学生との学生間交流
 iii) 異文化体験

⑪理学療法学科 イギリス研修

研修先 イースト・アングリア大学
 研修目的 イギリス式リハビリテーション教育の体験
 引率者 久保雅義(理学療法学科教授)
 参加者 1名
 3年 瀬尾 歩

研修日程 2025年3月1日(土)～3月10日(月)

3月	1日	土	成田空港→香港空港
	2日	日	ヒースロー空港着→ノリッジへ移動
	3日	月	現地にて研修
	～		
	7日	金	
	8日	土	ノーウィッチ→ロンドン
	9日	日	ヒースロー空港→香港空港
	10日	月	成田空港着

研修概要 i) イースト・アングリア大学で授業に出席
 ii) ロンドン観光・文化体験

iii) 異文化交流

⑫健康栄養学科 台湾研修

研修先 中山医学大学
 研修目的 授業や交流を通じて国際感覚を身につけ、海外の栄養士制度等を学ぶ。
 引率者 田村典子（健康栄養学科教授）、塩沢浩太（健康栄養学科助教）
 参加者 5名
 3年 青木菜々、藤井楓恋、山本梓紗、貝沢穂香、吉澤夏美
 研修日程 2025年2月17日（月）～2月21日（金）

2月	17日	月	新潟空港→桃園空港
	18日	火	現地にて研修
	～		
	20日	木	
	21日	金	桃園空港→新潟空港

研修概要 i) 栄養学系の学科で授業に出席する
 ii) 大学病院等の施設を見学する
 iii) 学生間交流を通じて国際性を涵養する

⑬全学科 マレーシア研修

研修先 国立脳卒中協会（NASAM）
 研修目的 脳卒中サバイバーのための施設での、リハビリテーションのボランティア研修
 引率者 久保雅義（理学療法学科教授）
 参加者 4名
 1年 宮腰拓人（理学療法学科）、城石楓果（理学療法学科）、代田 弦（理学療法学科）
 3年 天野明音（理学療法学科）
 研修日程 2025年2月22日（土）～3月15日（土）

2月	22日	土	羽田空港発
	23日	日	クアラルンプール着
	24日	月	現地にて研修
	～		
3月	14日	金	
	15日	土	クアラルンプール→羽田空港

研修概要 i) リハビリテーションのボランティア活動
 ii) スタッフ・介護者との英語によるコミュニケーション
 iii) ムスリム文化を含む異文化交流

⑭看護学科 インドネシア研修

研修先 ハサヌディン大学
 研修目的 国際看護論演習
 引率者 小林房代（看護学科准教授）、真保加奈子（看護学科助教）
 参加者 8名
 2年 白鳥綾子、横川陽夏羽、亀井麻比奈、市村真緒、宮澤愛澄、横田貴大
 3年 山本萌乃、佐藤日葉多
 研修日程 2025年2月25日（日）～3月5日（火）

2月	25日	日	羽田空港発
	26日	月	シンガポール→マカッサル

27日	火	現地にて研修
～		
3月 1日	金	
2日	土	現地観光・異文化体験
3日	日	
4日	月	マカッサル→シンガポール
5日	火	羽田空港着

研修概要
 i) ハサヌディン大学看護学科の授業参加，学生との交流
 ii) ハサヌディン大学および医療施設の見学
 iii) 文化体験および観光

⑮診療放射線学科 タイ研修

研修先 マヒドン大学

研修目的 タイの診療放射線学科の教育を経験し，国際交流を図る．

引率者 大野 健（診療放射線学科講師）

参加者 2名

2年 下村心乃助，高橋京佑

研修日程 2025年2月26日（水）～3月13日（木）

2月 26日	水	新潟→羽田空港
27日	木	羽田空港→バンコク
28日	金	現地にて研修
～		
3月 12日	水	
13日	木	バンコク→羽田空港

研修概要
 i) マヒドン大学における講義出席
 ii) シリラート病院見学
 iii) 異文化体験

⑯看護学科 イギリス研修

研修先 イースト・アングリア大学

研修目的 国際看護論演習

引率者 サバンジュ美智子（看護学科助教）

参加者 2名

2年 浅井琴葉，渡邊真衣

研修日程 2025年2月28日（金）～3月11日（火）

2月 28日	金	成田空港発
3月 1日	土	ヒースロー空港着，ノリッジ移動
2日	日	現地学生との交流，ノリッジ観光
3日	月	現地にて研修
～		
7日	金	
8日	土	ロンドン観光
9日	日	
10日	月	ヒースロー空港発
11日	火	成田空港着

研修概要
 i) イースト・アングリア大学での講義出席
 ii) 高齢者施設等の見学

iii) 異文化体験

⑰臨床技術学科 台湾研修

研修先 中山医学大学
 研修目的 国際感覚を磨き、他国の医療システムを見学することで、自国の医療に対する洞察を得る
 引率者 中山憲司（臨床技術学科准教授）、高橋良光（臨床技術学科准教授）
 参加者 4名

1年 秋山瑚子
 2年 加来薫子、高島未帆、笹川茉央

研修日程 2025年3月7日（金）～3月16日（日）

3月	7日	金	羽田空港→台北
	8日	土	台北見学
	9日	日	台中市へ移動
	10日	月	現地にて研修
	～		
	15日	土	
	16日	日	台北→成田空港

研修概要 i) 中山医学大学での講義や実習を通して、他国の医療教育を学ぶ
 ii) 現地の病院施設の見学を通して、他国の医療現場を学ぶ
 iii) 異文化体験を通して、他国の歴史を学ぶ

⑱全学科 東チモール研修

研修先 東チモール大学等
 研修目的 JICA 青年海外協力隊の現地訪問
 引率者 久保雅義（理学療法学科教授）
 参加者 5名
 1年 照光 暁（救急救命学科）
 2年 寺澤実里（理学療法学科）
 3年 岡 夏輝（臨床技術学科）、堀井佑亮（健康スポーツ学科）、
 牛越祥太（健康スポーツ学科）

研修日程 2025年3月6日（火）～3月17日（月）

3月	6日	木	成田空港→香港→マレーシア
	9日	日	バリ島
	10日	月	東チモール到着
	11日	火	現地にて研修
	～		
	13日	木	
	14日	金	バリ島へ移動
	16日	土	バリ島→マレーシア→香港
	17日	日	成田空港着

研修概要 i) 青年海外協力隊の現地訪問
 ii) 大学・リハビリテーションセンター等の施設訪問
 iii) 異文化交流

⑲作業療法学科 韓国研修

研修先 仁済大学校等
 研修目的 作業療学分野における国際交流活動を通して、学生の国際交流活動の推進を目指す。
 引率者 圓 純一郎（作業療法学科准教授）、伊関浩克（作業療法学科助教）

参加者 6名
3年 田幸舞桜, 藤井望杏
4年 川崎姫菜乃, 小林春香, 西潟玲音, 野中拓翔

研修日程 2025年3月9日(日)～3月15日(土)

3月	9日	日	新潟空港→福岡着
	10日	月	福岡空港→釜山→仁済大学校到着
	11日	火	現地にて研修
	～		
	14日	金	
	15日	土	釜山→福岡→新潟空港着

研修概要 i) 提携校である仁済大学校での研修プログラム及び現地学生との交流
ii) 慶南大学校及び東明大学校での研修プログラム及び現地学生との交流
iii) 異文化体験および観光

②0義肢装具自立支援学科 タイ研修

研修先 マヒドン大学
研修目的 交流協定に基づく学生交換プログラムへの参加
引率者 神田 賢(義肢装具自立支援学科准教授)
参加者 3名
3年 佐藤 葵, 小澤 望, 伏見沙弥

研修日程 2025年3月14日(金)～3月22日(土)

3月	14日	土	成田空港→バンコク
	15日	日	自由行動
	16日	月	現地にて研修
	～		
	21日	金	
	22日	土	バンコク→成田空港

研修概要 i) マヒドン大学SSPO見学
ii) マヒドン大学での研修プログラムに参加
iii) 異文化体験

②1理学療法学科 アメリカ研修

研修先 カリフォルニア州立大学フレズノ校, 南カリフォルニア大学
研修目的 アメリカにおける理学療法教育, 及び臨床実践を学ぶ
引率者 横田裕文(理学療法学科講師), 小曾根海知(理学療法学科助教)
参加者 3名
2年 栗原いかる, 吉川泰蔵, 鶴谷すず

研修日程 2025年3月9日(日)～3月18日(火)

3月	9日	日	羽田空港→ロサンゼルス
	10日	月	現地にて研修
	～		
	15日	土	
	16日	日	ロサンゼルス観光
	17日	月	ロサンゼルス発
	18日	火	羽田空港着

研修概要 i) アメリカの大学での講義の聴講
ii) アメリカの医療機関の見学

iii) 異文化体験

②看護学科 アメリカ研修

研修先 ロサンゼルス医療機関等

研修目的 国際看護論演習

引率者 辻川史恵（看護学科助教）

参加者 2名

2年 坂本詩桜，早瀬りりか

研修日程 2025年3月22日（土）～4月1日（火）

3月	22日	土	羽田空港→ロサンゼルス
	23日	日	観光（ユニバーサルスタジオ，ハリウッド）
	24日	月	現地にて研修
	～		
	27日	木	
	28日	金	観光（ディズニーランド，アドベンチャーランド，サンタモニカビーチ，ドジャースタジアム野球観戦）
	29日	土	
	30日	日	ロサンゼルス発
4月	1日	火	羽田空港着

研修概要 i) 米国医療・保健制度等に関する講義聴講
ii) アメリカの医療機関の見学，ボランティア活動
iii) 異文化体験および観光

③救急救命学科 韓国研修

研修先 嘉泉大学校等

研修目的 嘉泉大学校応急救助学科との国際交流および消防機関の視察

引率者 竹井 豊（救急救命学科教授），大松健太郎（救急救命学科准教授）

参加者 2名

2年 高松和希

3年 田邊祐登

研修日程 2025年3月25日（火）～3月28日（金）

3月	25日	火	新潟空港→仁川空港着
	26日	水	嘉泉大学校応急救助学科訪問等
	27日	木	京畿道北部消防災難本部視察等
	28日	金	仁川空港→新潟着

研修概要 i) 嘉泉大学校応急救助学科との国際交流のスタートアップ
ii) 韓国の消防・救急医療システムと応急救助士制度の理解
iii) 異文化体験

④社会福祉学科 韓国研修

研修先 京畿大学校，光云大学校等

研修目的 京畿大学校における共同授業をメインとした海外研修

引率者 青木 茂（社会福祉学科教授），板垣直子（社会福祉学科助教）

参加者 4名

2年 金澤和泉，高田涼帆，高橋和久，森田愛叶

研修日程 2025年3月25日（火）～3月29日（土）

3月	25日	火	新潟空港→仁川空港着
	26日	水	城北障害者福祉館見学，光云大学校訪問
	27日	木	京畿大学校訪問および共同授業

28日	金	フィールドワーク（世界遺産見学等）
29日	土	仁川空港→新潟空港着

研修概要

- i) 韓国の障害者福祉施設見学を通して障害者支援の現状を学ぶ
- ii) 同世代の学生同士の交流を深める
- iii) 韓国の文化に触れることで、異文化理解を図りグローバルな視野を持つ

(12) 学修支援センター

数学、解剖学・生理学、物理、化学、英語、日本語表現を指導する講師に加え、専属の事務兼コーディネーターを配置し、学修支援業務を実施している。

2025年度入学者全員を対象とした「スタートダッシュセミナー」では、Remedial Coursesによる学修動画の公開や、学修支援ピアサポーターによるオンライン相談会に加え、「大学での学びと学び方」をテーマとする対面セミナーを実施した。本セミナーは、高校から大学への学びの転換を円滑に進め、主体的な学修姿勢を育成することを目的としており、大学での学びの特徴や学修時間の確保方法、ディスカッションによる意見交換、大学院生による体験談の紹介などを通じて、学生の学修意識の向上を図った。

2023年度に3名の留学生講師により開始された英会話支援は2024年度に講師を8名に増員し、英語・スペイン語に加えて、中国語・ベトナム語による支援も新たに開始した。また、中央教育センターと連携して実施している「Chit Chat Club」は内容を拡充し「Healing Seminar」や「Snow Mini Concert」などのイベントを開催し、多文化交流の場として発展した。

個別指導は、年間を通じて449名の学生が利用した。春休み期間には国家試験や就職試験対策を目的とした春期講習を開講し、全学科から93名が参加した。指導にあたる講師は、個別指導の質の向上やセンター運営の改善を目的とした定期的な勉強会に参加し、指導力の向上に努めている。

また、従来の外部講師および大学院生による支援に加え、14学科から82名の学部生を「学修支援ピアサポーター」として任命し、定期試験対策を中心とした学修支援活動を展開した。ピアサポーターが主体となって実施する勉強会は5学科で11件開催した。

履修登録サポートデスクには、在学生83名がボランティアとして参加し、新入生362名が利用した。

- ① 個別指導のべ利用件数・・・2,739件
- ② セミナー受講者数・・・1,867名
- ③ オープン教育リソース公開動画数・・・34本
- ④ 動画配信による入学前セミナー総視聴回数・・・2,587回

8) 強化指定クラブ成績

【水泳部】

- ・パリ 2024 オリンピック競技大会

※水沼尚輝（職員）が日本代表として出場。

男子 100m バタフライ 8 位

- ・第 100 回日本学生選手権水泳競技大会 OWS 競技

男子 5km 7 位（本山 空 HS4）

男子 10km 8 位（本山 空 HS4）

女子 10km 3 位（永尾美友 HS4）

女子 10km 7 位（八木紀香 SW3）

- ・第 100 回日本学生選手権水泳競技大会 競泳競技

男子 1500m 自由形 3 位（本山 空 HS4）

女子 50m 自由形 5 位（篠塚聖妃 HS3）

女子 400m フリーリレー 8 位

- ・第 66 回日本選手権（25m）水泳競技大会

女子 50m バタフライ 優勝（津田萌咲 医福大 SC）

男子 50m バタフライ 4 位（水沼尚輝 職員）

女子 50m 自由形 6 位（篠塚聖妃 HS3）

- ・第 100 回日本選手権水泳競技大会

男子 100m バタフライ 2 位（水沼尚輝 職員）

※派遣標準を突破し世界水泳選手権日本代表に内定

【陸上競技部】

- ・第 98 回北信越学生陸上競技対校選手権大会

男子総合優勝 14 連覇 / 女子総合 13 連覇

- ・2024 日本学生個人陸上競技選手権大会

男子 円盤投 優勝（北原博企 HS4）

男子 砲丸投 3 位（渡辺豹牙 HS2）

女子 ハンマー投 2 位（エパサカテレサ M2）

- ・第 93 回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子 十種競技 優勝（田中廉治郎 M1）

男子 円盤投 優勝（北原博企 HS4）

男子 円盤投 5 位（中町真澄 M1）

男子 砲丸投 優勝（渡辺豹牙 HS2）

男子 走高跳 5 位（元平優仁 HS2）

女子 ハンマー投 5 位（松尾菜那 HS1）

- ・第 108 回日本陸上競技選手権大会

男子 円盤投 4 位（北原博企 HS4）

男子 砲丸投 8 位（渡辺豹牙 HS2）

女子 ハンマー投 5 位（エパサカテレサ M1）

- ・第 42 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 23 位（佐藤，羽入田，風呂，福原，清水，二村）

【男子サッカー部】

- ・新潟日報杯・共同通信杯 第 29 回新潟県サッカー選手権大会

準優勝

- ・第 52 回北信越大学サッカーリーグ（1 部）

優勝

- ・第 48 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会

準優勝

- ・第 73 回全日本大学サッカー選手権大会

準優勝

【女子サッカー部】

- ・第33回全日本大学女子サッカー選手権大会北信越大会 優勝
- ・第33回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場
- ・2024北信越女子サッカーリーグ（1部） 優勝

【男子バスケットボール部】

- ・笹本杯争奪北信越大学バスケットボール 春季リーグ戦 準優勝
- ・第58回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 4位
- ・第100回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会新潟県代表決定戦 優勝
- ・第100回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会 出場

【女子バスケットボール部】

- ・笹本杯争奪北信越大学バスケットボール 春季リーグ戦 4位
- ・第2回全日本大学バスケットボール新人戦 出場
- ・第57回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 準優勝
- ・第76回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場

【男子バレーボール部】

- ・第54回春季北信越大学バレーボール選手権大会 優勝（3部）
- ・第72回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 決勝トーナメント進出

【女子バレーボール部】

- ・第54回春季北信越大学バレーボール選手権大会 準優勝
- ・第71回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 準優勝
- ・第71回全日本バレーボール大学女子選手権大会 出場

【硬式野球部】

- ・関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ 4位
- ・関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ 3位

【女子硬式野球部】

- ・第10回全日本大学女子硬式野球選手権大会高知大会 出場
- ・第14回全日本大学女子硬式野球選手権大会 出場
- ・報知新聞社杯争奪ヴィーナスリーグ 3位

【ダンス部】

- ・第36回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 特別賞
- ・東京なかの国際ダンスコンペティション2024 5位（古山夏帆 M1）
- ・第43回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクール 最優秀群舞賞

【卓球部】

- ・第71回春季北信越学生卓球選手権大会（女子団体） 3位
- ・第93回全日本大学総合卓球選手権大会（女子団体） 出場
- ・第72回秋季北信越学生卓球選手権大会（男子団体） 3位
- ・第72回秋季北信越学生卓球選手権大会（女子団体） 3位

【テニス部】

- ・北信越学生テニストーナメント大会（男子シングルス，男子ダブルス） 優勝
- ・全日本学生テニス選手権大会（男女シングルス，男女ダブルス） 出場
- ・北信越大学テニス王座決定試合（団体戦） 男子1部 優勝
女子1部 優勝
- ・全日本大学対抗テニス王座決定試合（男子・女子） 出場
- ・第61回全日本学生室内テニス選手権大会 出場

【スノーボード部】

・ Takasu Pipe Classic

4位（山崎 月 PS1）

・ X-Festa 2025 シリーズ 2nd in LIZA

2位（室 竜矢 HS1）

9) 国家試験・資格試験結果（2025年6月11日現在）

国家試験等	本 学				全 国
	受験者数	合格者数	合格率	前年実績	合格率
理 学 療 法 士	115	115	100%	100%	89.6%
作 業 療 法 士	45	41	91.1%	97.7%	85.8%
言 語 聴 覚 士	34	33	97.1%	64.7%	72.9%
義 肢 装 具 士	24	20	83.3%	89.5%	71.5%
臨床工学技士	95	89	93.7%	78.6%	78.9%
臨床検査技師	88	87	98.9%	74.3%	84.6%
視 能 訓 練 士	41	41	100%	100%	96.8%
救 急 救 命 士	52	51	98.1%	100%	94.4%
診療放射線技師	84	82	97.6%	76.4%	84.7%
管 理 栄 養 士	37	34	91.9%	87.5%	48.1%
健康運動指導士	17	6	35.3%	87.5%	—
アスレティックトレーナー（実技）※	3	3	100%	100%	—
看 護 師	104	101	97.1%	93.2%	90.1%
保 健 師	31	31	100%	97.0%	94.0%
助 産 師	3	3	100%	100%	98.9%
社 会 福 祉 士	103	74	71.8%	78.9%	56.3%
精神保健福祉士	11	11	100%	100%	69.8%
介 護 福 祉 士	15	15	100%	100%	91.9%
診療情報管理士	23	21	91.3%	89.7%	62.9%
情報セキュリティマネジメント	7	5	71.4%	91.7%	—

10) 就職状況

（1）就職相談室等の利用状況

名称	スタッフ数	開室日数		開室時間	年間相談件数
		週当たり	年間		
就職センター	7	5	248	8：45～17：00	6,173

（2）求人状況

学科	件数	人数
理学療法学科	1,104	3,441
作業療法学科	1,093	3,213
言語聴覚学科	1,011	2,160
義肢装具自立支援学科	201	344
臨床技術学科	779	1,645
視機能科学科	209	298
救急救命学科	66	128
診療放射線学科	328	526

学科	件数	人数
健康栄養学科	327	936
健康スポーツ学科	66	233
看護学科	978	4,811
社会福祉学科	1,653	5,043
医療情報管理学科	514	1,521
その他	1,512	6,006
計	9,841	30,305

(3) 学科別就職状況

学科	卒業者数	就職希望者数	進学者数	就職者数	内定率 (%)
理学療法学科	115	96	19	96	100.0%
作業療法学科	48	42	0	42	100.0%
言語聴覚学科	35	31	1	31	100.0%
義肢装具自立支援学科	32	22	4	21	95.5%
臨床技術学科	100	94	0	92	97.9%
視機能科学科	41	40	0	40	100.0%
救急救命学科	53	46	1	46	100.0%
診療放射線学科	84	75	7	73	97.3%
健康栄養学科	38	37	1	37	100.0%
健康スポーツ学科	248	220	12	218	99.1%
看護学科	104	102	0	102	100.0%
社会福祉学科	108	99	3	98	99.0%
医療情報管理学科	93	86	2	84	97.7%
計	1,099	990	50	980	99.0%

※進学者の進学先は大学院，大学，専門学校を含む。

(4) 都道府県別就職状況

都道府県	就職者数	都道府県	就職者数
北海道	10	山梨県	7
青森県	1	長野県	39
岩手県	8	岐阜県	4
宮城県	23	静岡県	6
秋田県	11	愛知県	6
山形県	34	三重県	3
福島県	42	滋賀県	3
茨城県	6	京都府	5
栃木県	8	大阪府	5
群馬県	23	兵庫県	3
埼玉県	70	奈良県	2
千葉県	25	岡山県	2
東京都	147	福岡県	1
神奈川県	42	長崎県	1
新潟県	395	熊本県	1
富山県	26		
石川県	19		
福井県	2		

10. その他

1) 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園

(1) 定員

19名（0歳児0名 1歳児2名 2歳児4名 3歳児5名 4歳児3名 5歳児5名）

(2) 園児数

2024年度園児数：19名（従業員・共同利用枠 12名 地域枠7名）

内訳：0歳児0名（地域枠0名） 1歳児2名（地域枠0名） 2歳児4名（地域枠1名）

3歳児5名（地域枠1名） 4歳児3名（地域枠1名） 5歳児5名（地域枠4名）

(3) 2024年度の主な行事

4月 イースター

7月 七夕、水遊び開き 親子で英語レッスン

8月 水族館ごっこ

9月 敬老の日（お手紙を届けよう）

10月 芋ほり、ハロウィンパレード、ハロウィン運動会

11月 サンクスギビング

12月 クリスマス会

2月 まめまき集会

3月 ひなまつり 卒園式

(4) 大学との連携事業

- ・救急救命学科 小児コミュニケーション論演習実習，園児向け救急救命講習
- ・看護学科 小児看護学実習，小児ボランティア体験
- ・健康栄養学科 調理実習，こども園おやつ部によるおやつ提供
- ・健康スポーツ学科 ダンス指導法実習 キッズクッキング
- ・社会福祉学科 社会連携ゼミ，ボランティア体験活動
- ・視機能科学科 視力検査，目の健康増進劇鑑賞
- ・作業療法学科 連携基礎ゼミ
- ・ダンス部 幼児キッズダンス教室
- ・茶道部 茶道体験

2) 新潟医療福祉大学附属PCR検査センター

(1) 2024年度検査実績

検査数	陰性数	陽性数
32名	31名	1名

3) 新潟医療福祉大学附属鍼灸センター

(1) 診療時間

月曜日～金曜日（祝日は除く，月・水・金は午前中のみ）

午前 9:30～12:00 午後 13:30～16:00

(2) 受診人数

① 2024年4月1日から2025年3月31日

学生	488名
教職員	254名
NSG関係	163名
一般	717名
計	1,622名

学校法人 新潟総合学園
新潟医療福祉大学年報

2024（令和 6）年度

発行日 2025 年 9 月 30 日

編集・発行 新潟医療福祉大学
〒950-3198 新潟市北区島見町1398 番地
TEL : 025-257-4455
FAX : 025-257-4456
URL : <https://www.nuhw.ac.jp/>

印刷 株式会社ウィザップ